

目 次

学長のことば

平成27年度授業科目および担当者

日本文化学科

科目・担当者一覧	3
講義内容	10

国際コミュニケーション学科

科目・担当者一覧	177
講義内容	187

英語コミュニケーション学科

科目・担当者一覧	399
講義内容	405

共通科目 (外国語を除く)

科目・担当者一覧	491
講義内容	496

共通科目 (外国語)

科目・担当者一覧	665
講義内容	670

司書課程

科目・担当者一覧	845
講義内容	846

学芸員課程

科目・担当者一覧	869
講義内容	870

日本語教員養成講座

科目・担当者一覧	883
講義内容	884

学長 石澤 靖治

大学とはどのようなところかと尋ねられた場合に、私は「知的好奇心を満たし、学ぶことの楽しさを知るところである」と答える。いわば、大学は「知のエンターテインメント」を提供し、学生はそれを追求するところということである。

このシラバスは、そんな知のエンターテインメントに導く役割を担っている。ただこのシラバスを最初に見た際に、科目の多さに圧倒されるかもしれない。本学では学生数に比べて開講科目が多いのが特色だから、それは自然な感想だろう。だが選択肢が多いということ自体、知的な贅沢の提供である。学生時代がもはや過去になった大人がこのシラバスを手を取ったら、現役の学生よりも強い興味をもって見るだろうと思う。そして「もう一度学んでみたい」と考えるはずだ。大学とはそんな場所なのである。

大学は「知のエンターテインメント」の場であるのだから、当然のことながら、学生は自分の興味と関心を大切にしながら科目を選ぶ。もちろん卒業するために最低限取得しなければならない科目や単位数という形で、科目選択に一定の制限はある。しかしそれはそれほど厳しいものではなく、科目選択の自由度は高い。したがって当初は手当たり次第に、多種多様な科目を選ぶことになるかもしれない。

しかしながら仮に最初はそれでいいとしても、ずっとそのままの行動をとることは好ましいことではない。なぜなら、そうした学び方では最終的に「全てを学んだが、結局何も学ばなかった」ということになってしまうからである。残念ながらそんな学生を少なからず見かける。何の脈絡もなく、単なる興味と関心や感覚だけで科目を選んで多くのことを学んだつもりになっても、結局のところ、それは学問的な蓄積にはなりにくいのである。

本学は国際化への対応を意識した上でのリベラル・アーツの大学である。その上で、自分が興味を集中すべきところはどこなのか、そのためにどのような科目を選択して、その興味を学問的にどのように発展させていくべきなのか、そうした理解を前提にして、このシラバスで自分のアカデミック・ストーリーを作り上げていかなければならない。

もう一つ付け加えることがある。近年大学に求められているのは、学生に十分な教育を行うことである。大学は学問をするところだから、それは当然のことなのであるが、長い間、大学は「入るのが難しく出るのは簡単」とされ、ともすれば大学での教育が軽視されてきたところがあった。しかし現在は、大学で学生をいかに勉強させて、実力のある人間に育て上げるかということが社会から求められている。したがってこのシラバスの中身も、学んだ上で何をどこまで獲得すべきかということが明記されている。そしてそのためには、学生は授業のみならず、それ以外に多くの時間を自らの学習に充てることが前提とされている。それをはっきりと認識して欲しい。

ではそのようにして学んだ上で、あなたがたはこの大学で最終的に何を身につけるべきか。それは単なる知識の吸収ではなく、前述した自分なりの学問的な核を深めていく中で、究極的には、物事を理解した上で自分の頭で本質的なことを深く考え、その考えを自分の言葉で論理的に説明し表現できる能力を養うことにある。また自分で問題を見つけ、自分でその問題への解答を見つけられる力を養成することでもある。要するに深い思考と説得力のある言葉を身につけることが、大学で達成すべき最終的な目標である。そしてそこで得た知的産物は、あなたがたの今後の人生をより豊かなものにし、仕事においては強い足腰になる。

大学は「知のエンターテインメント」であると述べてきた。ただ、知的な楽しみを得るといっては、遊びのエンターテインメントと同じではない。そこには知的な格闘が必要であり、ある程度の苦しさに伴う。そうした後に初めて知的なエンターテインメントの喜びが得られるのである。それを最後に一言付け加えておく。

日本文化学科

平成 27 年度授業科目および担当者

講 義 内 容 (シラバス)

日本文化学科 平成27年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁	
日本文化基礎演習科目群	日本文化基礎演習ⅠA	アートマネジメント入門	1	春	2	尼ヶ崎 彬	10	
	日本文化基礎演習ⅠB	絵画史研究の基礎	1	春	2	今橋 理子	11	
	日本文化基礎演習ⅠC	古事記を読む	1	春	2	神田 典城	12	
	日本文化基礎演習ⅠD	近代を生きた女性たち	1	春	2	木村 直恵	13	
	日本文化基礎演習ⅠE	枕草子を読む	1	春	2	伊藤 守幸	14	
	日本文化基礎演習ⅠF	現代日本語の談話分析	1	春	2	福島 直恭	15	
	日本文化基礎演習ⅠG		1	春	2	木村絵里子	16	
	日本文化基礎演習ⅠH	日本の昔話と伝説	1	春	2	徳田 和夫	17	
	日本文化基礎演習ⅠI	日本の染織と服飾文化（1）	1	春	2	福島 雅子	18	
	日本文化基礎演習ⅠJ	日本近世史研究の基礎	1	春	2	岩淵 令治	19	
	日本文化基礎演習ⅠK	食品研究の基礎（1）	1	春	2	阿部 誠	20	
	日本文化基礎演習ⅠL	スポーツ文化の系譜	1	春	2	荒井 啓子	21	
	日本文化基礎演習ⅠM	これからの情報社会	1	春	2	清水 将吾	22	
	日本文化基礎演習ⅠN	体験学習と人間関係コミュニケーション	1	春	2	品川 明	23	
	日本文化基礎演習ⅠO	日常の日本語の意味世界	1	春	2	佐藤 琢三	24	
	日本文化基礎演習ⅠP	近代日本美術（明治時代）	1	春	2	清水 敏男	25	
	日本文化基礎演習ⅡA	アートマネジメント入門	1		秋	2	尼ヶ崎 彬	26
	日本文化基礎演習ⅡB	絵画の「読解」と「記述」法	1		秋	2	今橋 理子	27
	日本文化基礎演習ⅡC	万葉集を読む	1		秋	2	神田 典城	28
	日本文化基礎演習ⅡD	近代を生きた女性たち	1		秋	2	木村 直恵	29
	日本文化基礎演習ⅡE	枕草子を読む	1		秋	2	伊藤 守幸	30
	日本文化基礎演習ⅡF	過去の日本語の研究	1		秋	2	福島 直恭	31
	日本文化基礎演習ⅡG		1		秋	2	木村絵里子	32
	日本文化基礎演習ⅡH	うわさばなしの世界	1		秋	2	徳田 和夫	33
	日本文化基礎演習ⅡI	日本の染織と服飾文化（2）	1		秋	2	福島 雅子	34
	日本文化基礎演習ⅡJ	日本近世史研究の基礎	1		秋	2	岩淵 令治	35
	日本文化基礎演習ⅡK	食品研究の基礎（2）	1		秋	2	阿部 誠	36
	日本文化基礎演習ⅡL	スポーツ文化の系譜	1		秋	2	荒井 啓子	37
	日本文化基礎演習ⅡM	これからの情報社会	1		秋	2	清水 将吾	38
	日本文化基礎演習ⅡN	体験学習と人間関係コミュニケーション	1		秋	2	品川 明	39
	日本文化基礎演習ⅡO	言葉と文化	1		秋	2	佐藤 琢三	40
	日本文化基礎演習ⅡP	20世紀後半の日本美術	1		秋	2	清水 敏男	41
	日本文化基礎演習ⅢA	アートマネジメント入門	2	春	2	尼ヶ崎 彬	10	
日本文化基礎演習ⅢB	絵画史研究の基礎	2	春	2	今橋 理子	11		
日本文化基礎演習ⅢC	古事記を読む	2	春	2	神田 典城	12		
日本文化基礎演習ⅢD	近代を生きた女性たち	2	春	2	木村 直恵	13		
日本文化基礎演習ⅢE	枕草子を読む	2	春	2	伊藤 守幸	14		

日本文化学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副 題	配当年次	学期	単位	担 当 者	頁	
日本文化基礎演習科目群	日本文化基礎演習Ⅲ F	現代日本語の談話分析	2	春	2	福島 直恭	15	
	日本文化基礎演習Ⅲ G		2	春	2	木村絵里子	16	
	日本文化基礎演習Ⅲ H	日本の昔話と伝説	2	春	2	徳田 和夫	17	
	日本文化基礎演習Ⅲ I	日本の染織と服飾文化 (1)	2	春	2	福島 雅子	18	
	日本文化基礎演習Ⅲ J	日本近世史研究の基礎	2	春	2	岩淵 令治	19	
	日本文化基礎演習Ⅲ K	食品研究の基礎 (1)	2	春	2	阿部 誠	20	
	日本文化基礎演習Ⅲ L	スポーツ文化の系譜	2	春	2	荒井 啓子	21	
	日本文化基礎演習Ⅲ M	これからの情報社会	2	春	2	清水 将吾	22	
	日本文化基礎演習Ⅲ N	体験学習と人間関係コミュニケーション	2	春	2	品川 明	23	
	日本文化基礎演習Ⅲ O	日常の日本語の意味世界	2	春	2	佐藤 琢三	24	
	日本文化基礎演習Ⅲ P	近代日本美術 (明治時代)	2	春	2	清水 敏男	25	
	日本文化基礎演習Ⅳ A	アートマネジメント入門	2		秋	2	尼ヶ崎 彬	26
	日本文化基礎演習Ⅳ B	絵画の「読解」と「記述」法	2		秋	2	今橋 理子	27
	日本文化基礎演習Ⅳ C	万葉集を読む	2		秋	2	神田 典城	28
	日本文化基礎演習Ⅳ D	近代を生きた女性たち	2		秋	2	木村 直恵	29
	日本文化基礎演習Ⅳ E	枕草子を読む	2		秋	2	伊藤 守幸	30
	日本文化基礎演習Ⅳ F	過去の日本語の研究	2		秋	2	福島 直恭	31
	日本文化基礎演習Ⅳ G		2		秋	2	木村絵里子	32
	日本文化基礎演習Ⅳ H	うわさばなしの世界	2		秋	2	徳田 和夫	33
	日本文化基礎演習Ⅳ I	日本の染織と服飾文化 (2)	2		秋	2	福島 雅子	34
	日本文化基礎演習Ⅳ J	日本近世史研究の基礎	2		秋	2	岩淵 令治	35
	日本文化基礎演習Ⅳ K	食品研究の基礎 (2)	2		秋	2	阿部 誠	36
	日本文化基礎演習Ⅳ L	スポーツ文化の系譜	2		秋	2	荒井 啓子	37
	日本文化基礎演習Ⅳ M	これからの情報社会	2		秋	2	清水 将吾	38
日本文化基礎演習Ⅳ N	体験学習と人間関係コミュニケーション	2		秋	2	品川 明	39	
日本文化基礎演習Ⅳ O	言葉と文化	2		秋	2	佐藤 琢三	40	
日本文化基礎演習Ⅳ P	20世紀後半の日本美術	2		秋	2	清水 敏男	41	
日本文化基礎科目群	日本文化政策論Ⅰ	文化政策の基本構造	1~	春	2	阿曾村智子	42	
	日本文化政策論Ⅱ	日本文化政策の現状	1~	秋	2	阿曾村智子	43	
	日本人論Ⅰ	日本人と神々	1~	春	2	小平 美香	44	
	日本人論Ⅱ	近代日本の家、家族・家庭	1~	秋	2	木村 直恵	45	
	日本語学Ⅰ	現代日本語の諸相	1~	春	2	福島 直恭	46	
	日本語学Ⅱ	日本語の歴史	1~	秋	2	福島 直恭	47	
	日本思想史Ⅰ	神道のなりたち	1~	春	2	小平 美香	48	
	日本思想史Ⅱ	日本の近代化を考える	1~	秋	2	小平 美香	49	
	日本思想史Ⅲ	古事記天皇代を読む	1~	春	2	神田 典城	50	
	日本思想史Ⅳ	風土記を読む	1~	秋	2	神田 典城	51	

日本文化学科 平成27年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁
日本文化 基礎科目群	日本文学史Ⅰ	平安時代の物語を読む（前半）	1～	春	2	伊藤 禎子	52
	日本文学史Ⅱ	平安時代の物語を読む（後半）	1～	秋	2	伊藤 禎子	53
	民俗学Ⅰ	衣食住の民俗	1～	春	2	山崎 祐子	54
	民俗学Ⅱ	女性と子どもの民俗	1～	秋	2	山崎 祐子	55
	日本政治経済史	都市江戸を舞台に	1～	春	2	岩淵 令治	56
	日本社会制度史	近代以前の法と慣習	1～	春	2	菅原 正子	57
	☆伝統文化論Ⅰ（花）	桜をめぐる現代日本と伝統文化	1～	春	2	今橋 理子	58
	伝統文化論Ⅱ（茶）	茶の湯文化	1～	春	2	谷村 玲子	59
	伝統文化論Ⅲ（香）		1～	-	-	-	-
	伝統文化論Ⅳ（書）		1～	秋	2	齊藤 登	60
	伝統文化論Ⅴ（舞踊）	日本の伝統芸能を知る・学ぶ	1～	秋	2	森田 ゆい	61
	伝統文化論Ⅵ（演劇）	『風姿花伝』を読む	1～	秋	2	岩崎 雅彦	62
	伝統文化論Ⅶ（邦楽）	雅楽と平安時代の宮廷文化	1～	春	2	遠藤 徹	63
	伝統文化論Ⅷ（染織）	日本の伝統染織	1～	秋	2	福島 雅子	64
	日本生活文化史Ⅰ（衣文化）	日本の服飾史	1～	春	2	福島 雅子	65
	日本生活文化史Ⅱ（衣文化）	江戸の「きもの」と衣文化	1～	秋	2	福島 雅子	66
	日本生活文化史Ⅲ（食文化）	食文化の成り立ち	1～	春	2	宇都宮由佳	67
	日本生活文化史Ⅳ（食文化）	食文化の成り立ち	1～	秋	2	宇都宮由佳	68
	日本生活文化史Ⅴ（住文化）	構成要素からみた住宅デザイン	1～	春	2	乾 尚彦	69
	日本生活文化史Ⅵ（住文化）	地域と住まい	1～	秋	2	乾 尚彦	70
日本文化論	日本神話と諸文化	1～	春	2	神田 典城	71	
近代文化論Ⅰ	労働と変革と芸術の近代	1～	春	2	木村 直恵	72	
近代文化論Ⅱ	「社会」とは何か——歴史から考える	1～	秋	2	木村 直恵	73	
民俗・ 歴史 系科目群	民俗文化論Ⅰ（民俗信仰）	異界をのぞく	2～	春	2	山崎 祐子	74
	民俗文化論Ⅱ（民俗行事・祭礼）	年中行事と祭礼	2～	秋	2	山崎 祐子	75
	民俗文化論Ⅲ（都市民俗学）	蘇生・転生とオニ化	2～	春	2	伊藤 慎吾	76
	民俗文化論Ⅳ（都市民俗学）	もの言う動物をめぐる文化	2～	秋	2	伊藤 慎吾	77
	比較民俗文化論Ⅰ（民間伝承）	日本の昔話と伝説	2～	春	2	徳田 和夫	78
	比較民俗文化論Ⅱ（民間伝承）	外国の昔話と伝説	2～	秋	2	徳田 和夫	79
	比較生活文化論Ⅰ（地域食文化論）	食文化へのアプローチ	2～	春	2	磯部 泰子	80
	※☆比較生活文化論Ⅱ（染織文化論）		2～	-	-	-	-
	日本生活文化論Ⅰ（ものの文化史）	装身具にみる日本の服飾文化	2～	秋	2	梅谷 知世	81
	日本生活文化論Ⅱ（通過儀礼）	慶弔の装い	2～	春	2	福島 雅子	82
	日本生活文化論Ⅲ（住文化論）	祭祀空間の構造	2～	秋	2	乾 尚彦	83
	日本生活文化論Ⅳ（都市生活論）	都市の「遊び空間」をめぐる文化史	2～	春	2	高久 聡司	84
	日本史論Ⅰ（古代）	受領からみた平安時代	2～	春	2	中込 律子	85
日本史論Ⅱ（中世）		2～	春	2	関 幸彦	86	

日本文化学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁
民俗・歴史系科目群	日本史論Ⅲ（近世）	江戸の都市社会	2～	春	2	岩淵 令治	87
	日本史論Ⅳ（近現代）		2～	春	2	加藤 厚子	88
	☆日本文化交流史Ⅰ	中世・近世の日朝関係	2～	春	2	米谷 均	89
	☆日本文化交流史Ⅱ		2～	-	-	-	-
	☆歴史資料論Ⅰ（考古）		2～	春	2	工藤雄一郎	90
	☆歴史資料論Ⅱ（考古）		2～	-	-	-	-
	歴史資料論Ⅲ（古文書）	江戸時代の古文書の解説	2～	秋	2	岩淵 令治	91
	歴史資料論Ⅳ（古文書）	江戸時代の古文書を読みとく	2～	春	2	工藤 航平	92
芸術・思想系科目群	形象文化論Ⅰ（絵画）	日本絵画史の諸様相	2～	春	2	石田 佳也	93
	形象文化論Ⅱ（絵画）	花鳥風月をめぐる絵画と意匠	2～	秋	2	今橋 理子	94
	形象文化論Ⅲ（生活芸術）	アール・ヌーヴォー、アール・デコ、ジャポニスム、欧米と日本の諸芸術	2～	春	2	岡部 昌幸	95
	形象文化論Ⅳ（空間造形）	江戸の大名庭園と絵画芸術	2～	春	2	今橋 理子	96
	形象文化論Ⅴ（近現代美術）	現代美術はどのように形成されてきたか	2～	秋	2	清水 敏男	97
	形象文化論Ⅵ（芸術交流論）	近代日本の音楽文化の諸相	2～	春	2	高久 暁	98
	身体文化論Ⅰ（現代舞踊）		2～	春	2	尼ヶ崎 彬	99
	身体文化論Ⅱ（現代演劇）		2～	秋	2	尼ヶ崎 彬	100
	日本思想研究Ⅰ（神話）	日本神話の成り立ち	2～	秋	2	神田 典城	101
	日本思想研究Ⅱ（仏教）	日本的仏教の特色	2～	秋	2	加藤みち子	102
	日本思想研究Ⅲ（神道）	神道思想の特色	2～	春	2	加藤みち子	103
	☆日本思想研究Ⅳ（歌学）		2～	春	2	尼ヶ崎 彬	104
	☆日本思想研究Ⅴ（芸道）		2～	-	-	-	-
	日本思想研究Ⅵ（近世思想）	恋とは何か、愛とは何か	2～	秋	2	吉田 麻子	105
	日本文学論Ⅰ（上代）	万葉集・初期の歌人から人麻呂へ	2～	春	2	神田 典城	106
	日本文学論Ⅱ（上代）	万葉集・旅人憶良から家持へ	2～	秋	2	神田 典城	107
	日本文学論Ⅲ（中古）	物語に見る舶来の文物	2～	春	2	伊藤 守幸	108
	※日本文学論Ⅳ（中古）	英語圏の日本古典文学研究について	2～	秋	2	伊藤 守幸	109
	日本文学論Ⅴ（中世）	説話絵巻、お伽草子絵巻、妖怪絵巻の世界	2～	春	2	徳田 和夫	110
	日本文学論Ⅵ（中世）	お伽草子にみる異郷・異界	2～	秋	2	恋田 知子	111
	日本文学論Ⅶ（近世）	仮名草子の世界	2～	春	2	恋田 知子	112
	☆日本文学論Ⅷ（近現代）	近代日本文学入門	2～	春	2	木村 直恵	113
☆中国文学論Ⅰ	中国古典詩を読む	2～	秋	2	和田 浩平	114	
☆中国文学論Ⅱ		2～	-	-	-	-	
科現目代社会系	☆現代文化論Ⅰ（都市論）	現代都市から考える	2～	秋	2	若林 幹夫	115
	☆現代文化論Ⅱ（郊外論）		2～	-	-	-	-
	現代文化論Ⅲ（児童文化）	現代日本の児童文学が描いてきたもの	2～	秋	2	藤田のぼる	116
	☆現代文化論Ⅳ（ファッション）		2～	秋	2	徳井 淑子	117
	現代文化論Ⅴ（イメージとメディア）	メディアの中の社会／イメージの中の社会	2～	春	2	若林 幹夫	118

日本文化学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁
現代社会系科目群	※現代文化論Ⅵ (カルチュラル・スタディーズ)	<文化>の力学を考える	2～	秋中	2	本橋 哲也	119
	現代文化論Ⅶ (スポーツ文化論)	スポーツという文化	2～	春	2	荒井 啓子	120
	メディア論	情報通信技術	2～	春	2	岩城 宏明	121
	現代生活論Ⅰ (現代食品情報)	現代食品情報	2～	秋	2	阿部 誠	122
	現代生活論Ⅱ (現代の食生活)	ライフステージ別の食生活および問題点	2～	春	2	濱谷 亮子	123
	現代生活論Ⅲ (自己と他者)		2～	-	-	-	-
	現代生活論Ⅳ (個人と集団)	貧困と社会的排除	2～	秋	2	時安 邦治	124
	☆日本政治論		2～	-	-	-	-
	☆日本経済論		2～	秋	2	山口 綾子	125
	日本社会論		2～	秋	2	奥山 敏雄	126
比較文化研究科目群	☆比較文化論Ⅰ (比較日本文化)		3～	-	-	-	-
	☆比較文化論Ⅱ (文学)		3～	-	-	-	-
	※比較文化論Ⅲ (芸術)	展覧会カタログ研究	3～	秋	2	今橋 理子	127
	※比較文化論Ⅳ (民俗)	儀礼・信仰・物語・ビジュアルカルチャー	3～	秋	2	徳田 和夫	128
	比較文化論Ⅴ (社会)	「江戸」の発見	3～	秋	2	岩淵 令治	129
	比較文化論Ⅵ (嗜好)		3～	春	2	中野 美季	130
	比較文化論Ⅶ (生活)	装飾文化の交流	3～	秋	2	福島 雅子	131
	比較文化論Ⅷ (Japanese Culture I)	Japanese Film History: The Studios and the New Wave	3～	春	2	J. P. チャン	132
	比較文化論Ⅸ (Japanese Culture II)	Global Travels	3～	秋	2	J. P. チャン	133
	比較文化論Ⅹ (工芸)	海を渡った工芸品	3～	-	-	-	-
日本文化専門演習科目群	日本文化演習ⅠA	日本芸術の諸相	3	春	2	尼ヶ崎 彬	134
	日本文化演習ⅠB	比較日本文化論 (I)	3	春	2	今橋 理子	135
	日本文化演習ⅠC	日本の神話	3	春	2	神田 典城	136
	日本文化演習ⅠD	近代日本の歴史と思想	3	春	2	木村 直恵	137
	日本文化演習ⅠE	平安時代の文学 (1)	3	春	2	伊藤 守幸	138
	日本文化演習ⅠF	日本語研究の方法	3	春	2	福島 直恭	139
	日本文化演習ⅠG	現代社会研究 (1)	3	春	2	時安 邦治	140
	日本文化演習ⅠH	中世文化・民俗文化 (1) 一民間説話・古典説話・芸能など一	3	春	2	徳田 和夫	141
	日本文化演習ⅠI	日本の染織と服飾文化の諸相 (1)	3	春	2	福島 雅子	142
	日本文化演習ⅠJ	日本近世の政治・社会・文化 (1)	3	春	2	岩淵 令治	143
	日本文化演習ⅠK	食品研究 1	3	春	2	阿部 誠	144
	日本文化演習ⅠL	スポーツ文化の諸相	3	春	2	荒井 啓子	145
	日本文化演習ⅠM	インターネットコミュニケーション	3	春	2	清水 将吾	146
	日本文化演習ⅠN	1. 食物教育と味覚教育 2. 環境教育 3. 科学教育	3	春	2	品川 明	147
	日本文化演習ⅠO	言語学・日本語教育Ⅰ	3	春	2	佐藤 琢三	148
	日本文化演習ⅠP	アートによる地域活性化の調査、研究	3	春	2	清水 敏男	149
	日本文化演習ⅠQ	電子メディア	3	春	2	岩城 宏明	150

日本文化学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁
日本文化 専門演習 科目群	日本文化演習ⅠR		3	-	2	-	-
	日本文化演習ⅠS	日常生活におけるメディア利用	3	春	2	越塚 美加	151
	日本文化演習ⅡA	日本芸術の諸相	3	秋	2	尼ヶ崎 彬	152
	日本文化演習ⅡB	比較日本文化論(Ⅱ)	3	秋	2	今橋 理子	153
	日本文化演習ⅡC	日本の神話	3	秋	2	神田 典城	154
	日本文化演習ⅡD	近代日本の歴史と思想	3	秋	2	木村 直恵	155
	日本文化演習ⅡE	平安時代の文学(2)	3	秋	2	伊藤 守幸	156
	日本文化演習ⅡF	言語研究の可能性	3	秋	2	福島 直恭	157
	日本文化演習ⅡG	現代社会研究(2)	3	秋	2	時安 邦治	158
	日本文化演習ⅡH	中世文化・民俗文化(2) -お伽草子・民間説話・芸能など-	3	秋	2	徳田 和夫	159
	日本文化演習ⅡI	日本の染織と服飾文化の諸相(2)	3	秋	2	福島 雅子	160
	日本文化演習ⅡJ	日本近世の政治・社会・文化(2)	3	秋	2	岩淵 令治	161
	日本文化演習ⅡK	食品研究2	3	秋	2	阿部 誠	162
	日本文化演習ⅡL	スポーツ文化の諸相	3	秋	2	荒井 啓子	163
	日本文化演習ⅡM	インターネットコミュニケーション	3	秋	2	清水 将吾	164
	日本文化演習ⅡN	1. 食物教育と味覚教育 2. 環境教育 3. 科学教育	3	秋	2	品川 明	165
	日本文化演習ⅡO	言語学・日本語教育Ⅰ	3	秋	2	佐藤 琢三	166
	日本文化演習ⅡP	アートによる地域活性化の調査、研究	3	秋	2	清水 敏男	167
	日本文化演習ⅡQ	コンピュータによる作品制作	3	秋	2	岩城 宏明	168
	日本文化演習ⅡR		3	-	2	-	-
	日本文化演習ⅡS	接触した情報が日常生活に与える影響	3	秋	2	越塚 美加	169
	日本文化演習ⅢA	日本芸術の諸相	4	春	2	尼ヶ崎 彬	134
	日本文化演習ⅢB	比較日本文化論(Ⅰ)	4	春	2	今橋 理子	135
	日本文化演習ⅢC	日本の神話	4	春	2	神田 典城	136
	日本文化演習ⅢD	近代日本の歴史と思想	4	春	2	木村 直恵	137
	日本文化演習ⅢE	平安時代の文学(1)	4	春	2	伊藤 守幸	138
	日本文化演習ⅢF	日本語研究の方法	4	春	2	福島 直恭	139
	日本文化演習ⅢG	現代社会研究(1)	4	春	2	時安 邦治	140
	日本文化演習ⅢH	中世文化・民俗文化(1) -民間説話・古典説話・芸能など-	4	春	2	徳田 和夫	141
	日本文化演習ⅢI	日本の染織と服飾文化の諸相(1)	4	春	2	福島 雅子	142
	日本文化演習ⅢJ	日本近世の政治・社会・文化(1)	4	春	2	岩淵 令治	143
	日本文化演習ⅢK	食品研究1	4	春	2	阿部 誠	144
	日本文化演習ⅢL	スポーツ文化の諸相	4	春	2	荒井 啓子	145
	日本文化演習ⅢM	インターネットコミュニケーション	4	春	2	清水 将吾	146
日本文化演習ⅢN	1. 食物教育と味覚教育 2. 環境教育 3. 科学教育	4	春	2	品川 明	147	
日本文化演習ⅢO	言語学・日本語教育Ⅰ	4	春	2	佐藤 琢三	148	
日本文化演習ⅢP	アートによる地域活性化の調査、研究	4	春	2	清水 敏男	149	

日本文化学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁
日本文化専門演習科目群	日本文化演習ⅢQ	電子メディア	4	春	2	岩城 宏明	150
	日本文化演習ⅢR		4	-	2	-	-
	日本文化演習ⅢS	日常生活におけるメディア利用	4	春	2	越塚 美加	151
	日本文化演習ⅣA	日本芸術の諸相	4	秋	2	尾ヶ崎 彬	152
	日本文化演習ⅣB	比較日本文化論 (II)	4	秋	2	今橋 理子	153
	日本文化演習ⅣC	日本の神話	4	秋	2	神田 典城	154
	日本文化演習ⅣD	近代日本の歴史と思想	4	秋	2	木村 直恵	155
	日本文化演習ⅣE	平安時代の文学 (2)	4	秋	2	伊藤 守幸	156
	日本文化演習ⅣF	言語研究の可能性	4	秋	2	福島 直恭	157
	日本文化演習ⅣG	現代社会研究 (2)	4	秋	2	時安 邦治	158
	日本文化演習ⅣH	中世文化・民俗文化 [2] - お伽草子・民間説話・芸能など-	4	秋	2	徳田 和夫	159
	日本文化演習ⅣI	日本の染織と服飾文化の諸相 (2)	4	秋	2	福島 雅子	160
	日本文化演習ⅣJ	日本近世の政治・社会・文化 (2)	4	秋	2	岩淵 令治	161
	日本文化演習ⅣK	食品研究 2	4	秋	2	阿部 誠	162
	日本文化演習ⅣL	スポーツ文化の諸相	4	秋	2	荒井 啓子	163
	日本文化演習ⅣM	インターネットコミュニケーション	4	秋	2	清水 将吾	164
	日本文化演習ⅣN	1. 食物教育と味覚教育 2. 環境教育 3. 科学教育	4	秋	2	品川 明	165
	日本文化演習ⅣO	言語学・日本語教育 I	4	秋	2	佐藤 琢三	166
	日本文化演習ⅣP	アートによる地域活性化の調査、研究	4	秋	2	清水 敏男	167
	日本文化演習ⅣQ	コンピュータによる作品制作	4	秋	2	岩城 宏明	168
日本文化演習ⅣR		4	-	2	-	-	
日本文化演習ⅣS	接触した情報が日常生活に与える影響	4	秋	2	越塚 美加	169	
卒業論文研究	卒業研究 (春)	(日本文化学科)	4	春集中	8	今橋 理子	170
	卒業研究 (秋)	(日本文化学科)	4	秋集中	8	今橋 理子	171
	卒業論文 (春)	(日本文化学科)	4	春集中	8	今橋 理子	172
	卒業論文 (秋)	(日本文化学科)	4	秋集中	8	今橋 理子	173
他指定科目	言語学Ⅰ	言語における文法の構造	1~	春	2	佐藤 琢三	234
	言語学Ⅱ	言語における音声と意味	1~	秋	2	佐藤 琢三	235
	社会言語学Ⅰ	社会の中の言語	1~	春	2	福島 直恭	236
	社会言語学Ⅱ	「日本語」という虚構	1~	秋	2	福島 直恭	237
	文化人類学Ⅰ	文化人類学の基礎概念	1~	春	2	齋藤 亜子	238
	文化人類学Ⅱ	現代社会における民族 文化人類学とフィールドワーク	1~	秋	2	齋藤 亜子	239

日本文化基礎演習ⅠA・ⅢA

3610010100100

副 題	アートマネジメント入門			担 当 者	尼ヶ崎 彬 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	火	時 限	5

〔授業の到達目標〕

芸術文化プロジェクト立案の初歩的な知識と能力を習得する。

〔授業の内容〕

芸術は一人の天才がいるだけでは成り立たない。クリエイターと社会の間に立って、作品の制作を支援し多くの観客に届けるためのシステムを企画運営する仕事、つまりアートマネジメントを担当する者が必要である。概説ではいくつかの事例をもとに企画の方法を学び、その後演習参加者は各自演劇・舞踊公演、美術展などの芸術イベントの企画とそのマネジメントを仮想的に行い、その成果を発表する。

〔教材〕

参考書は授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2回の発表のための予習（企画立案・プレゼン準備）は通算50時間。復習（発表内容の見直し）は10時間

〔成績評価の方法〕

授業中の発表および提出物（企画書等）による評価（70%）を基にし、出席（30%）を加味する。

〔備考〕

質問がある場合、簡単なことはメールでakira.amagasaki@gakushuin.ac.jpまで問い合わせること。面談したほうがよい場合は、上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水の3限または木曜2限に研究室で行う。

〔授 業 計 画〕

第1週	アートマネジメントおよび授業の進め方についてのガイダンス
第2週	アートマネジメント概説
第3週	〃
第4週	学生による発表
第5週	同上
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題	絵画史研究の基礎			担当者	今橋 理子 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

本演習では、＜絵画史＞研究を専門に行うための基礎知識の吸収を目指し、とくに絵画史研究上必要とされる、古美術の鑑賞方法や用語知識、また文献探索について講義するほか、美術館の利用法、展覧会での情報収集を実践する。

〔授業の内容〕

授業では江戸および明治時代の絵画を例として取り扱うが、最終的には受講者各自の興味ある時代の絵画研究に対応できるように指導する。また、美術研究上ではフィールド・ワークと呼ばれる「作品調査」が不可欠である。この作業では、直に作品に触れることになるが、その際には伝統的に守られるべきマナーがあり、調査の上ではその手順が重要な意味をもつ。

さらに本演習では、絵画芸術に描かれた内容をできるだけ正確に「読み解き」、さらにそれを受講者自身の「ことば」をもっていかに「記述」するかということをめざす。将来的に絵画研究で卒業論文を書く学生を想定し、絵画史研究のレポートの書き方も指導する予定である。

〔教材〕

授業時に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

1. 途中一回のレポートと学期末に筆記試験を課す。
2. 上記のレポートとは別に、週一回の割合で基礎研究に関する簡単なレポート提出を課す。

〔備考〕

1. 年に数回授業時間外に見学会を実施する。その参加度を重視する。
2. 専門的に美術史に意欲のある学生の受講を望む。西洋美術に関心のある学生も歓迎する。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1週 | 概論1——絵画史研究の歩み |
| 第2週 | 概論2——絵画史研究の現在 |
| 第3週 | 絵画史研究の方法（1） |
| 第4週 | 絵画史研究の方法（2） |
| 第5週 | 絵画史研究の方法（3） |
| 第6週 | 図書館での情報収集 |
| 第7週 | 美術館での情報収集 |
| 第8週 | 美術館・博物館での実地研修1 |
| 第9週 | 美術館・博物館での実地研修2 |
| 第10週 | 「実物」を見ることの意味について——フィールド・ワークの理論 |
| 第11週 | ＜フィールド・ワーク＞の現場1——調査先の選定 |
| 第12週 | ＜フィールド・ワーク＞の現場2——マナーと心得 |
| 第13週 | ＜フィールド・ワーク＞の現場3——調査の方法と手順 |
| 第14週 | 調査から研究へ——資料活用と言語化 |
| 第15週 | 絵画＜記述＞の方法 |

副題	古事記を読む			担当者	神田 典城 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5

〔授業の到達目標〕

古事記を通じて、日本の言語と文字の関係性、および説話の仕組みが理解できるようになる。

〔授業の内容〕

文学は、文献を通じて享受するのが基本とする。そこでこの授業では、古典の文献を読みこなすための基礎的な力をつけることを目指す。同時に教材の内容を通じて、日本古代の文学状況に関する基本的な知識の習得をはかる。教材はわが国最古の文献資料である古事記を取り上げる。同書は和銅五年の選と伝えられており、独自の文体でこの世の始まりから説き起こし、推古天皇に至る歴代について記している。内容的には説話の宝庫であると同時に、文字による和文表記の工夫の様がよくあらわれている。この古事記について、訓読の現状を調査しつつ、文献を厳密に読むための方法の習得を目指す。そしてその読解作業を通じて古代の文学的状況の理解をはかる。授業は受講生一人ずつの分担範囲を決め、各自の調査したところを報告し、それについて全員で討論するかたちで進める。ただし、人数によっては分担を決めずに進めることがある。

〔教材〕

教科書：西宮一民編『古事記 新訂版』おうふう

参考書：大島正二『漢字伝来』岩波新書

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当該授業時に扱う個所については、発表担当者以外の受講生もテキストを読んで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

授業時の発表(20%)及び学期末のレポート(80%)による。

〔備考〕

受講生の自主的な発言を授業運営の基本とする。自ら発言しようとしなない学生には受講資格を認めないことがある。授業中、古語辞典の使用を必須とする。

授業時間外に質問が必要となった場合の対処の仕方は、授業時に指示する。

〔授 業 計 画〕

第1週 概要説明および講読箇所決定

第2週 概要説明及び分担決定

第3週 順次発表及び討論

第4週 〃

第5週 〃

第6週 〃

第7週 〃

第8週 〃

第9週 〃

第10週 〃

第11週 〃

第12週 〃

第13週 〃

第14週 〃

第15週 〃

今期に扱う個所は、受講生の希望による。

副題	近代を生きた女性たち			担当者	木村 直恵 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

近代日本についての歴史的なアプローチの方法を学び、基礎的な資料の調査収集・分析・報告ができるようになる。

〔授業の内容〕

近代という時代を、女性たちはどのように生きてきたのだろうか。今なお、ほとんどの近代史は男性たちがおもな登場人物であるような物語として書き継がれている。しかし、表舞台への登場こそ少なかったかもしれないが、女性たちもまた近代という時代のなかで重要な役割を演じ、ときには翻弄される存在であった。わたしたちの曾祖母・祖母・母、そして私たち自身へと至る歴史的な道のりとはどのようなものであったか。この基礎演習では、女性たちの生活・人生・仕事・価値観・思想・運動を通して、明治から現在に至る近代史の流れを改めて検証することとしたい。具体的な作業としては、鹿野政直・堀場清子著『祖母・母・娘の時代』をテキストとし、みなさんにはそこで挙げられている資料を用いて、さらに発展的な調査発表を担当してもらおう。また、皆さん自身にも、曾祖母・祖母・母といった身近な女性たちに聞き取り調査をしてもらい、彼女たちが生きてきた人生と歴史的な時間との交錯について学んでもらう。

〔教材〕

参考書：鹿野政直・堀場清子『祖母・母・娘の時代』（岩波ジュニア新書）岩波書店、1985年
教科書はすでに絶版のため、全文を複写して配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回、事前にテキスト資料の該当回の箇所を読んで予習する(60分以上)とともに、自分の報告担当の回のために50時間以上かけて準備すること。

〔成績評価の方法〕

出席・授業参加（報告や質問など）・期末レポートにより、総合的に評価する。

〔備考〕

〔授業計画〕

- | | |
|------|----------------------|
| 第1週 | オリエンテーション・作業内容と方法の説明 |
| 第2週 | 作業内容と方法の説明 |
| 第3週 | 資料収集方法の説明 |
| 第4週 | 報告者による報告 |
| 第5週 | (以下同じ) |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | まとめ |

副 題	枕草子を読む			担 当 者	伊藤 守幸 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	水	時 限	5

〔授業の到達目標〕

枕草子を精読することによって、当時の文化や王朝貴族の心性に対する理解を深めることを目指す。また、注釈作業を通じて、辞書・研究書・学術論文等の資料を入手し、活用する方法に習熟する。

〔授業の内容〕

枕草子は、大変ポピュラーな作品である。しかし、その成立と流布の過程について、謎の多い作品でもある。この授業では、そうした書誌の問題にも目配りしながら、受講生による発表を中心に、幾つかの代表的章段を読み進める。古典作品を深く理解するための注釈作業について手ほどきする。そうした作業を通じて、図書館の利用法や各種データベースの利用法にも慣れてもらう。

〔教材〕

教科書：松尾聰、永井和子編『枕草子 日本の古典を読む』小学館，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『枕草子』の講読の準備と事後の補足的調査。3時間。

〔成績評価の方法〕

出席および発表，レポート等によって総合的に評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1週 | 導入部 一仮名の成立と仮名遣い— |
| 第2週 | 枕草子の特質について |
| 第3週 | 枕草子と日記文学
発表担当者と担当箇所確定 |
| 第4週 | 担当者による発表と質疑応答 一枕草子の精読— |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | 〃 |

副題	現代日本語の談話分析			担当者	福島 直恭 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

学術的な研究発表の基礎を習得する

〔授業の内容〕

談話分析という立場から「現代日本語」に関する研究の実践を体験する。発表担当の学生は、テレビのトーク番組などの日常的な口頭言語による談話資料を対象として、一文を言語の最大の単位とする研究方法（いわゆる「文－文法」）ではアプローチできないようなテーマを設定して、調査・分析・発表を行う。その発表に対して参加者全員による討論を通して考察を進めていく。発表者については、発表の内容のほかに、発表（プレゼンテーション）のやり方についても、重要な評価の対象となる。高校までの学校教育で習った「文法」に関する知識は必要ないが、毎時間積極的に討論に参加するという意識が受講学生にはなによりも要求される。

〔教材〕

購入を義務づける書籍はない。授業内容に関連の深い参考図書は、授業内でそのつど紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表のために必要な作業はA. 談話資料作成, B. テーマを設定した研究発表で, Aは5時間～10時間程度（ただし日本語を母語話者でない学生はそれ以上必要）、Bは20時間程度。

〔成績評価の方法〕

演習発表担当時の発表内容やプレゼンテーションの方法の良し悪しを同程度に重視して評価する。

また、討論への参加の積極性、出席状況も評価対象とする。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1週 | 「文－文法」と「談話文法」についての概説 |
| 第2週 | 談話分析についての概説（研究方法としての長所と短所） |
| 第3週 | 担当学生による研究発表および討論 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | まとめ |

副題				担当者	木村 絵里子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

- (1) 社会学の基礎的な文献を読み、社会学の概念や考え方を理解する。
- (2) 文献の内容を的確にまとめ、レポートする方法を学ぶ。
- (3) 現代社会を捉えるための実践的な思考力を身につける。

〔授業の内容〕

現代社会を生きるということは、どのようなことなのだろうか。「社会」とは、私たちが普段触れることのできる一側面だけでなく、諸問題が複雑に絡み合った上で成立している。このような社会の輪郭は、社会学的な見方や思考を身につけることによってある程度浮かび上げることが可能となるのである。この基礎演習では、指定した文献のレポート発表を各受講生に担当してもらおう。それをもとにディスカッションを行いながら、現代社会に対する理解を深めていく。

〔教材〕

教科書：友枝敏雄・山田真茂留『Do! ソシオロジー——現代日本を社会学で診る』（有斐閣アルマ）改訂版，有斐閣，2013年

教科書の購入の際には、「初版」ではなく「改訂版」であることに注意。なお追加文献については、授業内でいくつかの候補を挙げ、話し合いの上、決定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、指定した文献をあらかじめ読んで出席すること。その際、自分自身の意見や疑問点などをまとめておく。この準備学習には、おおよそ4時間程度を要する。ただし、文献購読の各レポート担当者は、それ以上の準備時間が必要となる。

〔成績評価の方法〕

学期末のレポート（40%）、出席（20%）、授業での発表内容と授業への参加姿勢など（40%）から総合的に評価する。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 インTRODクシヨン—現代日本と社会学—
- 第2週 『Do! ソシオロジー』購読（1）：序章
- 第3週 『Do! ソシオロジー』購読（2）：第1章
- 第4週 『Do! ソシオロジー』購読（3）：第2章，第3章
- 第5週 『Do! ソシオロジー』購読（4）：第4章，第5章
- 第6週 『Do! ソシオロジー』購読（5）：第6章，第7章
- 第7週 『Do! ソシオロジー』購読（6）：第8章，第9章
- 第8週 『Do! ソシオロジー』購読（7）：第10章，第11章
- 第9週 追加文献購読（1）
- 第10週 追加文献購読（2）
- 第11週 追加文献購読（3）
- 第12週 追加文献購読（4）
- 第13週 追加文献購読（5）
- 第14週 追加文献購読（6）
- 第15週 まとめ（理解度の確認）

授業計画は、受講生の人数などに応じて変更することがある。

副題	日本の昔話と伝説			担当者	徳田 和夫 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2

〔授業の到達目標〕

- ①日本に伝わる民間説話（口承文芸、民間文芸）のうちの「昔話」「伝説」について知識を深めます。
- ②その文化史的な意義を把握します。
- ③諸外国の民間説話と比較して、世界的な普遍性と地域（日本、東アジア、ヨーロッパ）の独自性を考えます。

〔授業の内容〕

民間説話について概説し、「昔話」と「伝説」を具体的に取りあげて、それぞれの特徴と意義を講義します。そのつど、比較文化の観点から外国の類話や対応話を紹介して、普遍性と独自性を考えていきます。

〔教材〕

教科書：徳田和夫『図説：絵とあらすじでわかる！日本の昔話』（青春新書インテリジェンス）青春出版社，2014年

上記の教科書は日本文化学科事務室にて販売する予定です。また、折々プリント資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献は、あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

レポートによる。なお、当然のことながら出席をきわめて重視します。

〔備考〕

- (1) 当科目は秋学期の「比較民俗文化論Ⅱ（民間伝承）〔外国編〕」と連動しています。
- (2) 授業時における、私語、および正当な理由なき途中退出を厳禁とします。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 民間説話とは？
- 第2週 昔話と伝説について
- 第3週 外国の昔話について①—アジア圏—
- 第4週 外国の昔話について②—ヨーロッパ圏—
- 第5週 本格昔話①
- 第6週 本格昔話②
- 第7週 本格昔話③
- 第8週 本格昔話④
- 第9週 本格昔話⑤
- 第10週 動物昔話①
- 第11週 動物昔話②
- 第12週 動物昔話③
- 第13週 笑い話①
- 第14週 笑い話②
- 第15週 まとめ

日本文化基礎演習Ⅰ・ⅢⅠ

3610010100900

副題	日本の染織と服飾文化 (1)			担当者	福島 雅子 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

日本の服飾史・染織史に関する基礎的な知識を修得し、また、各自が選んだテーマについて研究し報告することを通じて、文献の収集や現存作例の検討方法、プレゼンテーションの方法などを身につける。

〔授業の内容〕

人は古来、美しく装い、身の回りのものを装飾するために、染や織の技法によるさまざまな工夫を重ねてきた。また衣服には、各時代や個人の階級なども反映されている。きものを装う習慣は現代まで継承され、日本の染織・服飾文化の歴史は私たちの身近に生き続けているといえるだろう。

本演習では、江戸時代以前の日本の服飾類と染織品を主な対象として、歴史的な位置付けなどを考えていく。まず、研究方法に関する講義を行った後、服飾類および染織品に関する基礎的なテーマを各自選んで研究し、報告を行う。対象となるテーマに関する文献の収集、作例の検討方法、プレゼンテーションの方法などについては適宜解説を行う。報告までの流れを通じて、学術的な研究の基礎的な方法論を理解することを目指す。

〔教材〕

授業の中で指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表課題に関する文献等を各自で集め、また指定した文献を読み、発表の準備を進めること。

〔成績評価の方法〕

発表（70%）と討論への参加（30%）から総合的に評価する。

〔備考〕

授業に関する質問の受付方法などについては、授業中に指示する。

〔授業計画〕

- | | |
|------|----------------|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | 日本服飾史・染織史研究の概要 |
| 第3週 | テーマに関する研究の進め方 |
| 第4週 | 学生による発表 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | まとめ |

副題	日本近世史研究の基礎			担当者	岩淵 令治 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4

〔授業の到達目標〕

日本近世史研究の方法を理解することを目的とする。

〔授業の内容〕

日本近世史研究（文献史学）の研究は、近世史料と、先行研究論文の読解にもとづいている。本演習では、活字史料・研究論文について各自報告をする。活字史料については、紀州田辺藩の江戸勤番武士が江戸について記した「江戸自慢」ほかを予定している。また、将来的に日本近世史で卒業論文を書くことを想定し、研究書の感想レポートを提出してもらおう。

〔教材〕

テキストはコピーを配布する。また、授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自分の発表を担当する部分以外についても、活字史料の読み・意味を予習、復習することが望ましい。

〔成績評価の方法〕

報告(40%)、レポート(30%)、出席状況(30%)により評価する。ただし、2/3以上の出席がない場合は、受講を放棄したものとみなし、評価しない。また、報告者ではない回でも、積極的に議論に参加することを期待する。

〔備考〕

初回の授業には必ず出席すること。研究に関する質問・相談は金曜日の13:30~14:30に受け付ける。

〔授業計画〕

- 第1週 授業のガイダンス
- 第2週 江戸時代の概説
- 第3週 活字史料の輪読
- 第4週 ♪
- 第5週 ♪
- 第6週 ♪
- 第7週 ♪
- 第8週 ♪
- 第9週 論文・書籍の輪読
- 第10週 ♪
- 第11週 ♪
- 第12週 ♪
- 第13週 ♪
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

履修人数によって、計画が変更になることがあります。

日本文化基礎演習IK・IIIK

3610010101100

副 題	食品研究の基礎（1）			担 当 者	阿部 誠 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	月	時 限	5

〔授業の到達目標〕

食品研究に必要な手法・基礎技術を習得し、使用できるようになる。

〔授業の内容〕

日本の食文化に関する研究を進めるうえで基礎となる「食品」を対象とした各種研究手法を、具体的な食品素材を対象に体験して習得していく。各種の小麦加工品からテーマ食品を選択し、各種手法により多方面から調査・分析し、最終的にレポートにまとめる。

〔教材〕

プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、前回の授業での疑問点を調査し不明な個所について質問できるようにして臨むこと。

〔成績評価の方法〕

最終的にまとめたレポート（約90%）および授業への参加状況（約10%）で成績を評価する。ただし、授業回数の3分の1を越えて欠席した場合は評価の対象としない。

〔備考〕

授業内容について質問がある場合には、月曜日（13：00～15：00）、火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業の進め方
- 第2週 テーマ食品の解説
- 第3週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（1）
- 第4週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（2）
- 第5週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（3）
- 第6週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（4）
- 第7週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（5）
- 第8週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（6）
- 第9週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（7）
- 第10週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（8）
- 第11週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（9）
- 第12週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（10）
- 第13週 結果の表示
- 第14週 レポートまとめ方指導
- 第15週 〃

授業計画は変更することがある。

副題	スポーツ文化の系譜			担当者	荒井 啓子 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

「スポーツを文化として捉える」という観点を学び、スポーツ文化研究の基礎的な知識と研究方法を習得する。また、資料の読解力や問題発見能力を養う。

〔授業の内容〕

スポーツは、これまで、各国の風土、時代による価値観、社会通念・制度、宗教、政治、教育、性差等から多くの影響を受けて成熟してきた。本演習では、それらの社会的・文化的・歴史的背景とともに、日本及び諸外国の、過去及び現在の様々な「スポーツ事象」を取り上げ、考察を進める。「スポーツとはどのような文化なのか」「他の文化とどのような関わりがあるのか」ということを常に考えながら、スポーツ文化研究の第一歩を踏み出していきたい。アプローチにあたっては、スポーツ人類学及びスポーツ文化論に関する文献を用いて考察・発表・意見交換等を行うが、はじめの数回は、スポーツと周縁文化との関わりを理解するために講義を行う。さらに、スポーツ文化関連の博物館等への見学を学外授業として予定している。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

提示された資料を熟読した上で、疑問点等の解決や理解度をより深めるための参考文献や資料にあたる。その内容をレジュメとして用意し、授業時における発表の準備とする。

〔成績評価の方法〕

出席状況（40%）発表（2回・計40%）、レポート（20%）によって総合的に評価する。
（上記の目安は、進度や課題内容等により多少変更する場合がある）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1週 | ガイダンス：「人はなぜスポーツをするのか？」を考える |
| 第2週 | スポーツの読み解き（1）～「スポーツ文化複合」について |
| 第3週 | スポーツの読み解き（2）～現代社会とスポーツ |
| 第4週 | スポーツの読み解き（3）～近代スポーツと民族スポーツ |
| 第5週 | 学生の発表ならびに討議 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | まとめ |

副題	これからの情報社会			担当者	清水 将吾 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5

〔授業の到達目標〕

- (1) 与えられた問題に対して、必要な情報を収集し、活用する能力を身に付ける。
 (2) 情報社会において現在議論されている問題について、どのような立場があるか客観的に説明できる。

〔授業の内容〕

情報社会は私たちの生活に大きな利便性をもたらした。一方で、情報技術の急速な発展・普及に伴い、これまでの枠組みでは判断が難しい新たな問題も生じている。本授業では、情報社会の諸問題について考え、主体的な判断を行うための考え方を身に付けることを目的とする。本授業の前半では例題を通じて情報リテラシーの基礎を学び、後半で情報社会で起こっている具体的な問題（SNS、プライバシー、著作権など）について考える。

〔教材〕

特定の教科書・参考書は授業では使用しない。各回において講義資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

インターネットを使用した情報検索や発表資料等の作成は準備学習の時間に割り当てる。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加状況60%と演習成果物（レポートと発表）40%の計100%によって評価する。演習成果物では、調査や論理的な考察の妥当性について問う。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス、情報社会の特徴について概説する。
 第2週 問題分析の進め方について概説する。
 第3週 例題（1）：問題の構造化
 第4週 例題（2）：論理展開
 第5週 例題（3）：情報の収集と活用
 第6週 例題（4）：発表と文書作成の方法
 第7週 学生発表とまとめ
 第8週 現在の情報社会で問題となっているテーマについていくつか取り上げ、概説する。
 第9週 応用（1）：問題の背景を知る
 第10週 応用（2）：対策案の検討
 第11週 応用（3）：対策案の効果と副作用
 第12週 応用（4）：根拠の提示
 第13週 応用（5）：発表と文書作成
 第14週 学生発表とまとめ
 第15週 授業全体のまとめ
- 授業の後半は3～4人程度でのグループ演習を計画しているが、履修人数・学習状況によっては変更することがある。

副題	体験学習と人間関係コミュニケーション			担当者	品川 明 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

1. 人間関係を構築するために必要なコミュニケーション能力、ファシリテーション能力、プレゼンテーション能力の基礎を習得する。
2. 他者とコミュニケーションをするときに重要な事項や問題点について認識できる。
3. 授業中に行われるファシリテーションについて、批判的な視点でフィードバックすることができる。
4. 授業中に体験し、発見したコミュニケーションの重要点とその活用について、文章で適切に表現することができる。

〔授業の内容〕

1. 体験学習と問いかけ
いろいろな体験学習法に基づいたアクティビティやコミュニケーションの活動を体験し、体験学習法の基礎を学ぶ。
2. 体験学習と人間関係コミュニケーション
学びかた・教えかたハンドブックなどを用いて、セルフ・エスティームを育てるための活動、コミュニケーション能力を高める活動、協力できる力を育てる活動などを体験する。
3. 体験学習と振り返り
上記1と2の体験から、どのようなことが認識されたのか？どのような活動が有効か？実践したい活動はどれかなどを議論した後、グループごとに人間関係コミュニケーションプログラムを実践し、ファシリテーターとして指導体験する。その後、振り返りなどから改善プログラムを提案する。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布し、参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

図書館での文献検索方法を習得し、コミュニケーションに関する雑誌記事や図書を収集し、コミュニケーションの重要性をいろいろな角度で認識する必要がある。ファシリテーションの前後には、文献による予習と復習が必須である。そのために4時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

1. 出席状況および授業への貢献度（積極的な授業参加）25%
2. 授業におけるファシリテーションとプレゼンテーション20%
3. 授業中のアクティビティやコミュニケーション活動から得た概念を文章表現する振り返りレポートと授業中のファシリテーションに対して、批判的な視点からの評価レポート25%
4. 担当課題に対する総合レポート（参考文献を必ず入れること）30%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス コミュニケーションとは！ 体験学習とは！
- 第2週 活動体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーション アイスブレイキング他
- 第3週 活動体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーション リーダーとは
- 第4週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践1
- 第5週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践2
- 第6週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践3
- 第7週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践4
- 第8週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践5
- 第9週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践6
- 第10週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践7
- 第11週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践8
- 第12週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践9
- 第13週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践10
- 第14週 プログラムの振り返りおよび改善プログラムの作成とその実践
- 第15週 まとめ

できるだけ早期に文献を検索し、問題意識を持つこと。授業計画で実施される内容は個々のコミュニケーション能力を鍛えるための実習形式のものです。

日本文化基礎演習Ⅰ〇・Ⅲ〇

3610010101500

副 題	日常の日本語の意味世界			担 当 者	佐藤 琢三 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	金	時 限	3

〔授業の到達目標〕

日本語の類義語の分析を通して、自分の目でものをみて、自分の頭で考えて、それを自分の言葉で表現するという態度を身につける。また、受講者の言葉をとらえるセンスを養いたい。

〔授業の内容〕

現代日本語の類義語の分析をテーマとする。例えば、われわれが日頃何気なく使っている、「あがる」と「のぼる」はどのように違うのだろうか。「山にのぼった」とは言えても「山にあがった」とは言えないのはなぜなのだろうか。われわれにとって身近であるがゆえに客観的に捉えることの難しい日常の言葉を分析すると、われわれ日本人が世界をどのように捉えて体系化しているのかがみえてくる。日本語を考えるということは、日本人・日本文化を考えるということにはほかならない。受講者には日本語を分析することの面白さを存分に味わってほしい。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2時間程度。ただし、発表前は相当な時間の準備が必要となるであろう。

〔成績評価の方法〕

基本的には発表のできばえにより評価する。また、自分自身の発表のできに不満のある者、より研究を向上させたいと考える者にはレポートの提出も認め、レポートのできばえにより評点を加点する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|---------------------|
| 第1週 | 導入 |
| 第2週 | 着眼と方法論の研究 |
| 第3週 | 〃 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 受講者による発表と討論（類義語の分析） |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | 〃 |

副題	近代日本美術（明治時代）			担当者	清水 敏男 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

日本の近代美術史について基礎的な知識を修得することを目標とする。また近代美術について調べる課程で、受講生が調査研究する能力をたかめること、パワーポイントを作成し説得力のある発表をする能力を身につけることも目標である。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」日本の近代美術は19世紀後半、江戸末期から明治にかけて大きな変貌を遂げ、その後の日本美術のありかたに決定的な影響をおよぼした。この演習では、幕末から明治にかけて活躍した芸術家、思想家、美術運動、美術機関などについて調べ、日本の近代美術の成立について考える。

「授業概要」明治の美術が西欧との出会いによって変化していく過程を、油彩画の探求に向かった画家たちと、伝統的絵画技法を変革し「日本画」という新しい絵画を創成した画家たちとの2グループを中心に調べ発表する。

〔教材〕

参考書：岡倉天心『茶の本』（講談社学術文庫）第21版、講談社、2005年
 木下長宏『岡倉天心』（ミネルヴァ日本評伝選）ミネルヴァ書房、2005年
 北澤憲昭『眼の神殿』美術出版社、1989年
 土方定一『日本の近代美術』（岩波文庫 青 574-1）岩波文庫、2012年
 高階秀爾『日本近代美術史論』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、2006年
 『茶の本』は受講前に全員が読むこと

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書（参考書）を熟読すること。東京国立博物館、東京国立近代美術館の展示、その他明治時代の展示や特別展を調査すること。

〔成績評価の方法〕

出席日数、展覧会調査レポート（1000字×10本）、発表内容のレポート（2000字×1本）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1週 | 幕末明治の美術概要 |
| 第2週 | 『高橋由一履歴』を読む |
| 第3週 | 〃 |
| 第4週 | 学生発表（創成期の画家：川上冬崖、高橋由一等） |
| 第5週 | 学生発表（初期油彩画家：渡欧米した画家、近代美術論争） |
| 第6週 | 学生発表（初期油彩画家：工部美術学校とフォンタネージ） |
| 第7週 | 学生発表（初期油彩画家：工部美術学校で学んだ画家） |
| 第8週 | 学生発表（黒田清輝とその仲間） |
| 第9週 | 岡倉天心『茶の本』を読む |
| 第10週 | 学生発表（日本画の蠢動：フェノロサ、岡倉天心） |
| 第11週 | 学生発表（日本画創成期の画家：狩野芳崖、橋本雅邦） |
| 第12週 | 学生発表（東京美術学校） |
| 第13週 | 学生発表（日本美術院の画家：横山大観、菱田春草等） |
| 第14週 | 学生発表（日本美術院の画家：下村観山、寺崎広業等） |
| 第15週 | まとめ：日本の近代美術とはなにか |

日本文化基礎演習IIA・IVA

3610010200100

副題	アートマネジメント入門			担当者	尼ヶ崎 彬 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

芸術文化プロジェクト立案の初歩的な知識と能力を習得する。

〔授業の内容〕

芸術は一人の天才がいるだけでは成り立たない。クリエイターと社会の間に立って、作品の制作を支援し多くの観客に届けるためのシステムを企画運営する仕事、つまりアートマネジメントを担当する者が必要である。概説ではいくつかの事例をもとに企画の方法を学び、その後演習参加者は各自演劇・舞踊公演、美術展などの芸術イベントの企画とそのマネジメントを仮想的に行い、その成果を発表する。

〔教材〕

参考書は授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2回の発表のための予習（企画立案・プレゼン準備）は通算50時間。復習（発表内容の見直し）は10時間

〔成績評価の方法〕

授業中の発表および提出物（企画書等）による評価（70%）を基にし、出席（30%）を加味する。

〔備考〕

質問がある場合、簡単なことはメールでakira.amagasaki@gakushuin.ac.jpまで問い合わせること。面談したほうがよい場合は、上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水の3限または木曜2限に研究室で行う。

〔授業計画〕

第1週	アートマネジメントおよび授業の進め方についてのガイダンス
第2週	アートマネジメント概説
第3週	〃
第4週	学生による発表
第5週	同上
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題	絵画の「読解」と「記述」法			担当者	今橋 理子 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

本演習では、＜絵画史＞研究を専門に行うための基礎知識の吸収を目指し、とくに絵画史研究上必要とされる、古美術の鑑賞方法や用語知識、また文献探索について講義するほか、美術館の利用法、展覧会での情報収集を実践する。

〔授業の内容〕

授業では江戸および明治時代の絵画を例として取り扱うが、最終的には受講者各自の興味ある時代の絵画研究に対応できるように指導する。また、美術研究上ではフィールド・ワークと呼ばれる「作品調査」が不可欠である。この作業では、直に作品に触れることになるが、その際には伝統的に守られるべきマナーがあり、調査の上ではその手順が重要な意味をもつ。

さらに本演習では、絵画芸術に描かれた内容をできるだけ正確に「読み解き」、さらにそれを受講者自身の「ことば」をもっていかに「記述」するかということをめざす。将来的に絵画研究で卒業論文を書く学生を想定し、絵画史研究のレポートの書き方も指導する予定である。

〔教材〕

授業時に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

1. 各自興味をもった絵画作品をテーマにして発表を求める。
2. 途中一回のレポート提出と学期末に筆記試験を課す。
3. 学期末に提出のレポートとは別に、数週間に一度の割合で絵画「読解」に関する簡単なレポートも課す。

〔備考〕

1. 年に数回、授業時間外に見学会を実施する。その参加度を重視する。
2. 専門的に美術史に意欲のある学生を望む。西洋美術に関心のある学生も歓迎する。

〔授 業 計 画〕

- | | | |
|------|---------------------------|--------------------|
| 第1週 | 概論 1 | 絵画を「読む」とは何か |
| 第2週 | 概論 2 | 絵画を「読解する」意味と機能 |
| 第3週 | 序論 1 | ——西洋絵画における「イコノロジー」 |
| 第4週 | 序論 2 | ——東洋の「花鳥画」と隠喩（1） |
| 第5週 | 序論 3 | ——東洋の「花鳥画」と隠喩（2） |
| 第6週 | 絵画「読解」の手法・浮世絵を例に | |
| 第7週 | 見立てと古典文学 | |
| 第8週 | 俳諧と浮世絵 | |
| 第9週 | 民俗学からのアプローチ | |
| 第10週 | 鑑賞記録の方法 | |
| 第11週 | 図書館・美術系史料館の利用と研究論文の探索と扱い方 | |
| 第12週 | 絵画を「記述」する（1） | ——視覚芸術の「言語」とは |
| 第13週 | 絵画を「記述」する（2） | ——記述の実践 |
| 第14週 | プレゼンテーションの方法 | |
| 第15週 | 美術館での見学会 | |

副題	万葉集を読む			担当者	神田 典城 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5

〔授業の到達目標〕

万葉集の歌を学ぶことを通じ、日本における言語と文字との関係性、および歌の凝縮した表現を理解できるようになる。

〔授業の内容〕

文学は、文献を通じて享受するのが基本とする。そこでこの授業では、古典の文献を読みこなすための基礎的な力をつけることを目指す。同時に教材の内容を通じて、日本古代の文学状況に関する基本的な知識の習得をはかる。教材はわが国最古の歌集にして和文の宝庫である万葉集を取り上げる。本年度は、その初期の歌々を扱う。その一語一句について、訓み・語彙を厳密に検討しながら、定型詩という制限の中で実現された、凝縮した語のあり方を吟味する。そしてこの作業を通じて、わが国における文学意識の芽生え、また文字使用の始原的状況にふれる。授業は受講生が一人ずつ歌・もしくは歌人を分担して各自の調査したところを報告し、それについて全員で討論するかたちで進める。

〔教材〕

教科書：小野寛編『新選 万葉集抄』笠間書院

参考書：大島正二『漢字伝来』岩波新書

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当該授業時に扱う歌については、発表担当者以外の受講生も単語の意味を調べて授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

授業時の発表(20%)及び学期末のレポート(80%)による。

〔備考〕

受講生の自主的な発言を授業運営の基本とする。自ら発言しようとしなない学生には受講資格を認めないことがある。授業中、古語辞典の使用を必須とする。

授業時間外に質問の必要が生じた場合の対処の仕方は、授業時に指示する。

〔授 業 計 画〕

第1週 概要説明及び講読歌(歌人)の決定

第2週 概要説明及び分担決定

第3週 順次発表及び討論

第4週 〃

第5週 〃

第6週 〃

第7週 〃

第8週 〃

第9週 〃

第10週 〃

第11週 〃

第12週 〃

第13週 〃

第14週 〃

第15週 〃

今期は初期の歌を扱う予定だが、受講生が希望する歌人・歌を優先する。

副題	近代を生きた女性たち			担当者	木村 直恵 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

近代日本についての歴史的なアプローチの方法を学び、基礎的な資料の調査収集・分析・報告ができるようになる。

〔授業の内容〕

近代という時代を、女性たちはどのように生きてきたのだろうか。今なお、ほとんどの近代史は男性たちがおもな登場人物であるような物語として書き継がれている。しかし、表舞台への登場こそ少なかったかもしれないが、女性たちもまた近代という時代のなかで重要な役割を演じ、ときには翻弄される存在であった。わたしたちの曾祖母・祖母・母、そして私たち自身へと至る歴史的な道のりとはどのようなものであったか。この基礎演習では、女性たちの生活・人生・仕事・価値観・思想・運動を通して、明治から現在に至る近代史の流れを改めて検証することとしたい。具体的な作業としては、鹿野政直・堀場清子著『祖母・母・娘の時代』をテキストとし、みなさんにはそこで挙げられている資料を用いて、さらに発展的な調査発表を担当してもらおう。また、皆さん自身にも、曾祖母・祖母・母といった身近な女性たちに聞き取り調査をしてもらい、彼女たちが生きてきた人生と歴史的時間との交錯について学んでもらう。

〔教材〕

参考書：鹿野政直・堀場清子『祖母・母・娘の時代』（岩波ジュニア新書）岩波書店、1985年
教科書はすでに絶版のため、全文を複写して配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回、事前にテキスト資料の該当回の箇所を読んで予習する(60分以上)とともに、自分の報告担当の回のために50時間以上かけて準備すること。

〔成績評価の方法〕

出席・授業参加（報告や質問など）・期末レポートにより、総合的に評価する。

〔備考〕

〔授業計画〕

- | | |
|------|----------------------|
| 第1週 | オリエンテーション・作業内容と方法の説明 |
| 第2週 | 作業内容と方法の説明 |
| 第3週 | 資料収集方法の説明 |
| 第4週 | 報告者による報告 |
| 第5週 | (以下同じ) |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | まとめ |

副題	枕草子を読む			担当者	伊藤 守幸 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5

〔授業の到達目標〕

枕草子を精読することによって、当時の文化や王朝貴族の心性に対する理解を深めることを目指す。また、注釈作業を通じて、辞書・研究書・学術論文等の資料を入手し、活用する方法に習熟する。

〔授業の内容〕

枕草子は、大変ポピュラーな作品である。しかし、その成立と流布の過程について、謎の多い作品でもある。この授業では、そうした書誌の問題にも目配りしながら、受講生による発表を中心に、幾つかの代表的章段を読み進める。古典作品を深く理解するための注釈作業について手ほどきする。そうした作業を通じて、図書館の利用法や各種データベースの利用法にも慣れてもらう。

〔教材〕

教科書：松尾聰、永井和子編『枕草子 日本の古典を読む』小学館、2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『枕草子』の講読の準備と事後の補足的調査。3時間。

〔成績評価の方法〕

出席および発表、レポート等によって総合的に評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1週 | 導入部 一仮名の成立と仮名遣い— |
| 第2週 | 枕草子の特質について |
| 第3週 | 枕草子と日記文学
発表担当者と担当箇所確定 |
| 第4週 | 担当者による発表と質疑応答 —枕草子の精読— |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | 〃 |

副題	過去の日本語の研究			担当者	福島 直恭 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

文献を使用した過去の言語の研究，および研究発表の基礎を習得する

〔授業の内容〕

文献を手がかりとして，過去の言語を研究する方法を習得することを目的とする。使用する文献は，中世日本語の口頭言語を反映しているといわれる狂言台本のひとつである『版本狂言記』である。毎回，発表担当の学生が担当部分について注釈をほどこし，さらに各自で設定したテーマについて調査・分析・発表をおこなう形式で授業を進めていく。発表者については，発表の内容のほかに，発表（プレゼンテーション）のやり方も重要な評価の対象となる。発表者以外の学生も，毎時間積極的に討論に参加するという意識がなによりも要求される。

〔教材〕

特になし。テキストはプリント配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表時に必要な作業はA. 担当箇所注釈，B. テーマを設定した研究発表で，Aのためには5～10時間，Bのためには10～20時間程度

〔成績評価の方法〕

演習発表担当時の発表内容とプレゼンテーションの方法の善し悪しを同程度に評価対象とする（80%）。その他，討論への参加の積極性（20%），出席状況（最低でも開講時数の2／3以上が必要）によって総合的に評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 中世日本語と資料概説
- 第2週 『版本狂言記』およびその他の狂言台本や関連資料について
- 第3週 「発表」に関する説明
- 第4週 担当学生による研究発表および討論
- 第5週 〃
- 第6週 〃
- 第7週 〃
- 第8週 〃
- 第9週 〃
- 第10週 〃
- 第11週 〃
- 第12週 〃
- 第13週 〃
- 第14週 〃
- 第15週 まとめ

副題				担当者	木村 絵里子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

- (1) 社会学の基礎的な文献を読み、社会学の概念や考え方を理解する。
- (2) 文献の内容を的確にまとめ、レポートする方法を学ぶ。
- (3) 現代社会を捉えるための実践的な思考力を身につける。

〔授業の内容〕

現代社会を生きるということは、どのようなことなのだろうか。「社会」とは、私たちが普段触れることのできる一側面だけでなく、諸問題が複雑に絡み合った上で成立している。このような社会の輪郭は、社会学的な見方や思考を身につけることによってある程度浮かび上げることが可能となるのである。この基礎演習では、指定した文献のレポート発表を各受講生に担当してもらおう。それをもとにディスカッションを行いながら、現代社会に対する理解を深めていく。

〔教材〕

教科書：友枝敏雄・山田真茂留『Do! ソシオロジー——現代日本を社会学で診る』（有斐閣アルマ）改訂版，有斐閣，2013年

教科書の購入の際には、「初版」ではなく「改訂版」であることに注意。なお追加文献については、授業内でいくつかの候補を挙げ、話し合いの上、決定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、指定した文献をあらかじめ読んで出席すること。その際、自分自身の意見や疑問点などをまとめておく。この準備学習には、おおよそ4時間程度を要する。ただし、文献購読の各レポート担当者は、それ以上の準備時間が必要となる。

〔成績評価の方法〕

学期末のレポート（40%）、出席（20%）、授業での発表内容と授業への参加姿勢など（40%）から総合的に評価する。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 インTRODクシヨン—現代日本と社会学—
- 第2週 『Do! ソシオロジー』購読（1）：序章
- 第3週 『Do! ソシオロジー』購読（2）：第1章
- 第4週 『Do! ソシオロジー』購読（3）：第2章，第3章
- 第5週 『Do! ソシオロジー』購読（4）：第4章，第5章
- 第6週 『Do! ソシオロジー』購読（5）：第6章，第7章
- 第7週 『Do! ソシオロジー』購読（6）：第8章，第9章
- 第8週 『Do! ソシオロジー』購読（7）：第10章，第11章
- 第9週 追加文献購読（1）
- 第10週 追加文献購読（2）
- 第11週 追加文献購読（3）
- 第12週 追加文献購読（4）
- 第13週 追加文献購読（5）
- 第14週 追加文献購読（6）
- 第15週 まとめ（理解度の確認）

授業計画は、受講生の人数などに応じて変更することがある。

副題	うわさばなしの世界			担当者	徳田 和夫 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

- 1.民間で語られてきた物語（口承文芸：昔話・伝説・うわさ話）の精神文化としての意義を理解する。
- 2.現代社会のとくに若者や児童たちが、新たに伝承説話を形成していることを認知する。
- 3.「都市伝説」「現代民話」のフィールドワークと解析を行い、民俗学に親しむ。

〔授業の内容〕

民俗学の分野である口承文芸（民間伝承、民間説話）の一つに「うわさばなし（世間話）」があります。古典の説話文学につながる世界であり、現代社会でのそれは「現代民話」「都市伝説」と呼ばれています。

とくに児童や若者の社会で語られ広まってきた「うわさばなし」を中心に取りあげて、その形成と流布の様相を考えます。その際、「昔話」「伝説」との照らしあわせや、近代以前の事例との比較もおこないます。

参考：「もの言う動物」「口さけ女」「狐と狸の世間話」「<学校の怪談>トイレの花子さん、赤い紙・青い紙」「七不思議」「俗信・まじない・ジンクス」「紫の鏡」「こんな晩・親子の因縁」「笑う首」「追いかけてくる上半身」「ピアスの白い糸」「深夜の怪（百鬼夜行・二宮金次郎など）」「不幸な手紙・Eメール」「消えた新妻」「小さいオジサン」「動物の恩返し」「魔女・山姥」「妖怪（天狗・河童など）・お化け」,他。

〔教材〕

参考書：池田・大島・近藤・高津・渡辺『ピアスの白い糸』『魔女の伝言板』『走るお婆さん』『幸福のEメール』（日本の現代伝説）白水社、1994～96年。常光 徹『学校の怪談—口承文芸の展開と諸相』ミネルヴァ書房、1993年。野村純一『日本の世間話』（東書選書）東京書籍、1995年。松谷みよ子『現代の民話—あなたも語り手、わたしも語り手』（中公新書、2000年、中央公論社）。『現代民話考〔1〕—河童・天狗・神隠し』『現代民話考〔7〕—学校・笑いと怪談・学童疎開』『現代民話考〔10〕—狼・山犬・猫』『現代民話考〔11〕—狸・むじな』（ちくま文庫）。宮田登『都市空間の怪異』（2001年、角川選書）。

徳田和夫「オニの中世（史書編・物語編）」（『<歴史読本・辞典シリーズ>日本の鬼総覧』、1995年、新人物往来社）。「狸の腹鼓が聞こえる—踊り舞う妖怪たちの中世」（『日経アート』11・9<通巻119号>、1998年）。「鳥獣草木譚の中世—<もの言う動物説話>とお伽草子『横座房物語』（講座日本の伝承文学10『口頭伝承<ヨミ・カタリ・ハナシ>の世界』、2004年、三弥井書店）。「伝承文芸と図像—中世説話、お伽草子、近世絵画」（『伝承文化の展望』2003年、三弥井書店）。「[対談]室町の妖怪—付喪神・鬼・天狗・狐と狸」（『国文学』50巻10号、2005年、学燈社）。「中世の『七不思議』と巷説」（『国文学解釈と鑑賞』75巻12号、2010年、ぎょうせい）。「妖怪の形象—お伽草子絵巻の達成」（『アメリカに渡った物語絵』2013年、ベリかん社）。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献を、あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

総合評価（演習発表：35%、質問・発言15%、レポート：50%）によっておこないます。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週 うわさばなし（世間話）とは何か。（概説①）

第2週 うわさばなしの研究手法（概説②）

第3週 中世、近世のうわさばなし（概説③）

第4週 昔話、伝説との関連（概説④）

第5週 演習発表と討議

第6週 〃

第7週 〃

第8週 〃

第9週 〃

第10週 〃

第11週 〃

第12週 〃

第13週 〃

第14週 〃

第15週 まとめ

日本文化基礎演習ⅡⅠ・ⅣⅠ

3610010200900

副 題	日本の染織と服飾文化（2）			担 当 者	福島 雅子 准教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	金	時 限	3

〔授業の到達目標〕

日本の服飾史・染織史に関する基礎的な知識を修得し、また、各自が選んだテーマについて研究し報告することを通じて、文献の収集や現存作例の検討方法、プレゼンテーションの方法などを身につける。

〔授業の内容〕

日本の染織史・服飾史の研究では、主に博物館や美術館などに所蔵される現存する染織・服飾品と、関連する史料や文献などが検討の対象となる。

本演習では、日本の染織技法や服飾様式に関連する文献を読み、基本的な理解を進め、各自報告を行う。また、授業では、染織品や服飾品の考察方法や扱い方、文献の検討方法などについても実践的な指導を行う。

〔教材〕

授業の中で指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表課題に関する文献等を各自で集め、また指定した文献を読み、発表の準備を進めること。

〔成績評価の方法〕

発表（70%）と授業への参加（30%）から総合的に評価する。

〔備考〕

授業に関する質問の受付方法などについては、授業中に指示する。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	服飾史・染織史研究の方法
第3週	テーマに関する研究の進め方
第4週	学生による発表
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

副題	日本近世史研究の基礎			担当者	岩淵 令治 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4

〔授業の到達目標〕

日本近世史研究の方法を理解することを目的とする。

〔授業の内容〕

日本近世史研究（文献史学）の研究は、近世史料と、先行研究論文の読解にもとづいている。本演習では、活字史料・研究論文について各自報告をする。活字史料については、徳川幕府に「ほめられた」庶民の記録『孝義録』等の史料を予定している。また、将来的に日本近世史で卒業論文を書くことを想定し、研究書の感想レポートを提出してもらおう。

〔教材〕

テキストはコピーを配布する。また、授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自身が発表を担当する部分以外についても、活字史料の読み・意味を予習・復習することが望ましい。

〔成績評価の方法〕

報告(40%)、レポート(30%)、出席状況(30%)により評価する。ただし、2/3以上の出席がない場合は、受講を放棄したものとみなし、評価しない。また、報告者ではない回でも、積極的に議論に参加することを期待する。

〔備考〕

初回の授業には必ず出席すること。研究に関する質問・相談は金曜日の13:30~14:30に受け付ける。

〔授業計画〕

- 第1週 授業のガイダンス
- 第2週 江戸時代の概説
- 第3週 活字史料の輪読
- 第4週 ヶ
- 第5週 ヶ
- 第6週 ヶ
- 第7週 ヶ
- 第8週 ヶ
- 第9週 論文・書籍の輪読
- 第10週 ヶ
- 第11週 ヶ
- 第12週 ヶ
- 第13週 ヶ
- 第14週 ヶ
- 第15週 ヶ

履習人数によって計画が変更になることがあります。

副 題	食品研究の基礎（2）			担 当 者	阿部 誠 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	月	時 限	5
<p>〔授業の到達目標〕 食品研究に必要な手法・基礎技術を習得し、使用できるようになる。</p> <p>〔授業の内容〕 日本の食文化に関する研究を進めるうえで基礎となる「食品」を対象とした各種研究手法を、具体的な食品素材を対象に体験して習得していく。各種の大豆加工品からテーマ食品を選択し、各種手法により多方面から調査・分析し、最終的にレポートにまとめる。</p> <p>〔教材〕 プリントを配付する。</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 毎回の授業には、前回の授業での疑問点を調査し不明な個所について質問できるようにして臨むこと。</p> <p>〔成績評価の方法〕 最終的にまとめたレポート（約90%）および授業への参加状況（約10%）で成績を評価する。ただし、授業回数の3分の1を越えて欠席した場合は評価の対象としない。</p> <p>〔備考〕 授業内容について質問がある場合には、月曜日（13：00～15：00）、火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来ること。</p>							

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業の進め方
- 第2週 テーマ食品の解説
- 第3週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（1）
- 第4週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（2）
- 第5週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（3）
- 第6週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（4）
- 第7週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（5）
- 第8週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（6）
- 第9週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（7）
- 第10週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（8）
- 第11週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（9）
- 第12週 テーマ食品に関する調査・分析とその指導（10）
- 第13週 結果の表示
- 第14週 レポートまとめ方指導
- 第15週 〃

授業計画は変更することがある。

副題	スポーツ文化の系譜			担当者	荒井 啓子 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

「スポーツを文化として捉える」という観点を学び、スポーツ文化研究の基礎的な知識と研究方法を習得する。また、資料の読解力や問題発見能力を養う。

〔授業の内容〕

スポーツは、これまで、各国の風土、時代による価値観、社会通念・制度、宗教、政治、教育、性差等から多くの影響を受けて成熟してきた。本演習では、それらの社会的・文化的・歴史的背景とともに、日本及び諸外国の、過去及び現在の様々な「スポーツ事象」を取り上げ、考察を進める。「スポーツとはどのような文化なのか」「他の文化とどのような関わりがあるのか」ということを常に考えながら、スポーツ文化研究の第一歩を踏み出していきたい。アプローチにあたっては、スポーツ人類学及びスポーツ文化論に関する文献を用いて考察・発表・意見交換等を行うが、はじめの数回は、スポーツと周縁文化との関わりを理解するために講義を行う。さらに、伝統スポーツやスポーツ文化関連の博物館への見学を学外授業として予定している。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

提示された資料を熟読した上で、疑問点等の解決や理解度をより深めるための参考文献や資料にあたる。その内容をレジュメとして用意し、授業時における発表の準備とする。

〔成績評価の方法〕

出席状況（40％）発表（2回・計40％）、レポート（20％）によって総合的に評価する。（上記の目安は、進度や課題内容等により多少変更する場合がある）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1週 | ガイダンス：「人はなぜスポーツをするのか？」を考える |
| 第2週 | スポーツの読み解き（1）～「スポーツ文化複合」について |
| 第3週 | スポーツの読み解き（2）～現代社会とスポーツ |
| 第4週 | スポーツの読み解き（3）～近代スポーツと民族スポーツ |
| 第5週 | 学外授業（伝統スポーツまたは博物館見学等）＜未定＞ |
| 第6週 | 学生の発表ならびに討議 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | まとめ |

副題	これからの情報社会			担当者	清水 将吾 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5

〔授業の到達目標〕

- (1) 与えられた問題に対して、必要な情報を収集し、活用する能力を身に付ける。
 (2) 情報社会において現在議論されている問題について、どのような立場があるか客観的に説明できる。

〔授業の内容〕

情報社会は私たちの生活に大きな利便性をもたらした。一方で、情報技術の急速な発展・普及に伴い、これまでの枠組みでは判断が難しい新たな問題も生じている。本授業では、情報社会の諸問題について考え、主体的な判断を行うための考え方を身に付けることを目的とする。本授業の前半では例題を通じて情報リテラシーの基礎を学び、後半で情報社会で起こっている具体的な問題（SNS、プライバシー、著作権など）について考える。

〔教材〕

特定の教科書・参考書は授業では使用しない。各回において講義資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

インターネットを使用した情報検索や発表資料等の作成は準備学習の時間に割り当てる。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加状況60%と演習成果物（レポートと発表）40%の計100%によって評価する。演習成果物では、調査や論理的な考察の妥当性について問う。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス、情報社会の特徴について概説する。
 第2週 問題分析の進め方について概説する。
 第3週 例題（1）：問題の構造化
 第4週 例題（2）：論理展開
 第5週 例題（3）：情報の収集と活用
 第6週 例題（4）：発表と文書作成の方法
 第7週 学生発表とまとめ
 第8週 現在の情報社会で問題となっているテーマについていくつか取り上げ、概説する。
 第9週 応用（1）：問題の背景を知る
 第10週 応用（2）：対策案の検討
 第11週 応用（3）：対策案の効果と副作用
 第12週 応用（4）：根拠の提示
 第13週 応用（5）：発表と文書作成
 第14週 学生発表とまとめ
 第15週 授業全体のまとめ
- 授業の後半は3～4人程度でのグループ演習を計画しているが、履修人数・学習状況によっては変更することがある。

副題	体験学習と人間関係コミュニケーション			担当者	品川 明 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

1. 人間関係を構築するために必要なコミュニケーション能力、ファシリテーション能力、プレゼンテーション能力の基礎を習得する。
2. 他者とコミュニケーションをするときに重要な事項や問題点について認識できる。
3. 授業中に行われるファシリテーションについて、批判的な視点でフィードバックすることができる。
4. 授業中に体験し、発見したコミュニケーションの重要点とその活用について、文章で適切に表現することができる。

〔授業の内容〕

1. 体験学習と問いかけ
いろいろな体験学習法に基づいたアクティビティやコミュニケーションの活動を体験し、体験学習法の基礎を学ぶ。
2. 体験学習と人間関係コミュニケーション
学びかた・教えかたハンドブックなどを用いて、セルフ・エスティームを育てるための活動、コミュニケーション能力を高める活動、協力できる力を育てる活動などを体験する。
3. 体験学習と振り返り
上記1と2の体験から、どのようなことが認識されたのか？どのような活動が有効か？実践したい活動はどれかなどを議論した後、グループごとに人間関係コミュニケーションプログラムを実践し、ファシリテーターとして指導体験する。その後、振り返りなどから改善プログラムを提案する。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布し、参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

図書館での文献検索方法を習得し、コミュニケーションに関する雑誌記事や図書を収集し、コミュニケーションの重要性をいろいろな角度で認識する必要がある。ファシリテーションの前後には、文献による予習と復習が必須である。そのために4時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

1. 出席状況および授業への貢献度（積極的な授業参加）25%
2. 授業におけるファシリテーションとプレゼンテーション20%
3. 授業中のアクティビティやコミュニケーション活動から得た概念を文章表現する振り返りレポートと授業中のファシリテーションに対して、批判的な視点からの評価レポート25%
4. 担当課題に対する総合レポート（参考文献を必ず入れること）30%

〔備考〕

〔授業計画〕

- | | | | |
|------|------------------------------|----------------------------|------------|
| 第1週 | ガイダンス | コミュニケーションとは！ | 体験学習とは！ |
| 第2週 | 活動体験 | 人間関係コミュニケーションとファシリテーション | アイスブレイキング他 |
| 第3週 | 活動体験 | 人間関係コミュニケーションとファシリテーション | リーダーとは |
| 第4週 | 指導体験 | 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践 | 1 |
| 第5週 | 指導体験 | 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践 | 2 |
| 第6週 | 指導体験 | 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践 | 3 |
| 第7週 | 指導体験 | 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践 | 4 |
| 第8週 | 指導体験 | 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践 | 5 |
| 第9週 | 指導体験 | 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践 | 6 |
| 第10週 | 指導体験 | 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践 | 7 |
| 第11週 | 指導体験 | 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践 | 8 |
| 第12週 | 指導体験 | 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践 | 9 |
| 第13週 | 指導体験 | 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践 | 10 |
| 第14週 | プログラムの振り返りおよび改善プログラムの作成とその実践 | | |
| 第15週 | まとめ | | |

できるだけ早期に文献を検索し、問題意識を持つこと。授業計画で実施される内容は個々のコミュニケーション能力を鍛えるための実習形式のものです。

副題	言葉と文化			担当者	佐藤 琢三 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

文化を言語の観点から理解し、言語を文化の観点から理解すること。言葉と文化の諸問題に関して有意義に着眼し、分析する手法を身につけること。

〔授業の内容〕

この授業では日本の言語と文化の関係を（どちらかと言えば）言語学的な視点から論じた文献を講読する。「ごめん遊ばせ、よろしくってよ」、「まあ、きれいなこと」。日本で生まれ育った者であればこれらは「お嬢様」の言葉であるとすぐにわかる。しかし、実際にこんな言葉遣いをする「お嬢様」はまず存在しない。このような言葉は役割語と呼ばれ、〈お嬢様言葉〉の他にも、〈博士語〉、〈上司語〉などの役割語がある。この役割語の不思議を読み解いていくと見えてくるものは、物語世界の構造論であり、江戸語や標準語の成立過程の諸問題であり、近現代文化の変遷史であり、社会心理学で言うところのステレオタイプ概念である。ちなみに〈お嬢様言葉〉とは、女子学習院の前身たる華族女学校などの女子学生らの流行語が起源であるとの見方があり、本学としては非常に縁が深い。

この他に、俳句、和歌、ポップソングの歌詞の語彙を論じた文献や日本文化研究の基本的文献（『菊と刀』を予定）もとりあげるつもりである。

〔教材〕

教科書：金水 敏『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店、2003年
教科書は必ず購入しておくこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2時間程度。ただし、発表とレポートの準備には相当な時間を必要とするであろう。

〔成績評価の方法〕

レポートを基本とする。ただし、遅刻と欠席は減点の対象となる。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 導入
- 第2週 言語表現と発想
- 第3週 <役割語>導入
- 第4週 <役割語>ステレオタイプ
- 第5週 <役割語>標準語と非標準語
- 第6週 <役割語>男ことば
- 第7週 <役割語>女ことば・お嬢様ことば
- 第8週 <役割語>異人たちのことば
- 第9週 <語彙の固有性と心理>歌詞・和歌・俳句の語彙分析
- 第10週 <語彙の固有性と心理>日本語の特徴と言語普遍性
- 第11週 <言語文化の日英比較>語彙にみる文化
- 第12週 <言語文化の日英比較>表現に潜むものとのとらえ方
- 第13週 <言語文化の日英比較>一元論と二元論
- 第14週 <菊と刀>戦争中の日本人
- 第15週 <菊と刀>過去と世間に負い目を負う者

副題	20世紀後半の日本美術			担当者	清水 敏男 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

第二次世界大戦後の日本の美術動向の基礎的な知識を習得することを目標とする。また調査研究の能力を高め、パワーポイントの作成、説得力のある発表を行う能力をたかめることも目標とする。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」20世紀後半の日本は第二次世界大戦で中断された近代美術の探求を再開した。日本は明治以降、西欧に対して受身だったが日本の芸術家たちはようやく世界と同じスピードで新しい芸術表現を展開し始めた。この授業では1950年代60年代の美術の状況を調べ、日本の近代美術、現代美術への理解を深めることを目的とする。

「授業の概要」この時代の美術状況は、関西の具体美術運動、東京の実験工房を二つの核としてスタートした。また読売アンデパンダン展、ネオダダ、ハイレッドセンター、もの派等の新しい運動が次々と生まれ、美術の最前線を切り開いた。この時代の芸術運動と芸術家について調査し、この時代をさまざまな角度から検証する。

〔教材〕

参考書：岡本太郎『今日の芸術』（知恵の森文庫）光文社、1999年
赤瀬川原平『反芸術アンパン』（ちくま文庫）筑摩書房、1994年
赤瀬川原平『東京ミキサ計画』（ちくま文庫）筑摩書房、1994年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書（参考書）を熟読すること。関連の展覧会を調査すること。

〔成績評価の方法〕

1）出席、2）展覧会レポート（現代美術展覧会1000字×10本）、3）期末レポート（発表内容を記述する2000字×1本）

〔備考〕

〔授業計画〕

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1週 | 1920年代以降1960年代までの日本の前衛美術概観 |
| 第2週 | 『具体美術宣言』を読む |
| 第3週 | 学生発表（具体美術：吉原治良、田中敦子） |
| 第4週 | ビデオ：田中敦子 |
| 第5週 | 学生発表（具体美術のアーティスト） |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 実験工房関係の文献を読む |
| 第8週 | 学生発表（実験工房の理論：瀧口修造） |
| 第9週 | 学生発表（実験工房のアーティスト） |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 学生発表（ネオダダのアーティスト） |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 学生発表（ハイレッドセンターのアーティスト） |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | もの派、総括 |

副題	文化政策の基本構造			担当者	阿曾村 智子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

- (1)現代の文化政策に関する基本的な概念や理論について具体例に基づき理解を深めること。
 (2)国際的な比較等を通じて日本の文化的特性や文化的多様性についてより広い視野から考察できるようになること。

〔授業の内容〕

日本の文化政策に関する基本的な概念や理論について、具体的な政策例の紹介や諸外国の法制・行政組織との比較を通じて理解を深めつつ、その歴史的展開を概観する。理論的・歴史的な考察と共に、視聴覚教材等を用いて日本文化の諸側面に触れる機会も設ける。春学期は特に日本の工芸に関して、柳宗悦の著作の精読も行う。以上により、本講がより広い国際的な視野から日本の文化を再考する手がかりとなるようにしたい。

〔教材〕

参考書：平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年
 後藤和子編『文化政策学』（有斐閣コンパクト）有斐閣、2001年
 池上惇・植木浩・福原義春編『文化経済学』有斐閣、1998年
 柳宗悦『工藝の道』（講談社学術文庫）講談社、2005年
 柳宗悦『手仕事の日本』（岩波文庫）岩波書店、1997年
 W. ボウモル・W.ボウエン/池上惇・渡辺守章監訳『舞台芸術—芸術と経済のジレンマ』芸団協出版部、1994年
 佐々木高明『日本文化の多重構造—アジア的視野から日本文化を再考する』小学館、1998年
 佐々木高明『多文化時代を生きる—日本文化の可能性』小学館、2000年
 柳宗悦『工藝の美』（上記『工藝の道』所収）および『手仕事の日本』は授業中にテキストとしても使用する。個別テーマについてのより詳しい文献目録は授業時に提示する。
 原則的に講義は配布プリントに基づいて行う。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

進度に応じて適宜与えられた課題テーマについてあらかじめ調べてくること。美術館訪問、舞台芸術鑑賞などの実践と報告レポートの作成。

〔成績評価の方法〕

中間・期末レポート（50%）、および平常の出席状況（リアクション・ペーパーの内容等50%）を総合的に判断する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 序論：文化政策とは？
 第2週 文化政策の基本概念（1）文化の諸定義
 第3週 文化政策の基本概念（2）文化と文明
 第4週 文化政策の基本概念（3）文化的アイデンティティ
 第5週 公的支援の理論的根拠（1）文化政策の歴史的背景
 第6週 公的支援の理論的根拠（2）文化経済学の先駆者たち（A.スミス、J.ラスキン、W.モリス）
 第7週 柳宗悦の思想と運動—日本文化政策論の視点から— その1.
 第8週 柳宗悦の思想と運動—日本文化政策論の視点から— その2.
 第9週 公的支援の理論的根拠（3）芸術と経済のジレンマ(W.ボウモル&W.ボウエン)
 第10週 公的支援の理論的根拠（4）文化の民主化（A.トフラー、P.ブルデュー）
 第11週 日本文化政策の歩みと特質（1）文化財の保護と活用
 第12週 日本文化政策の歩みと特質（2）文化芸術振興基本法
 第13週 日本文化政策の歩みと特質（3）地域の文化振興政策
 第14週 国際交流基金の活動と文化政策の評価方法
 第15週 レポート返却と講評・まとめ
 学期中一回、学外学習（日本民芸館、国立近代美術館工芸館等訪問等）を課題とする。

副題	日本文化政策の現状			担当者	阿曾村 智子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

国家の枠組みを超えたグローバルな視点と地元と根差したローカルな視点をとともに取り入れつつ現代日本文化政策の課題について理解を深める。それに基づき、自分にとって身近なテーマについて政策提言レポートを作成する。

〔授業の内容〕

春学期の講義内容をふまえて、秋学期には理論的考察とともに日本各地の具体的な事例研究を行う。また、ユネスコの文化政策の歴史的展開の検討を通じて、近年の国際社会における文化政策の動向と日本の国際文化協力の実際や今後の課題についても考察する。

〔教材〕

参考書：ジョセフ・L・サックス/都留重人監訳『「レンブラント」でダーツ遊びとは—文化的遺産と公の権利』岩波書店、2001年
 林容子『進化するアートマネジメント』レイライン、2004年
 高階秀爾『芸術のパトロンたち』（岩波新書）岩波書店、1997年
 M.K.スミス・M.ロビンソン/阿曾村邦昭・阿曾村智子訳『文化観光論—理論と事例研究 上・下』古今書院、2009年
 野口 昇『ユネスコ—50年の歩みと展望』シングルカット社、1996年
 佐々木正幸・川崎賢一・河島伸子編著『グローバル化する文化政策』勁草書房、2009年

基本的に配布資料に基づき講義を行う。個別テーマについてのより詳しい文献目録は授業時に提示する。副教材として、適宜視聴覚教材を使用する予定である。文化を政策の対象とすることの意義と課題について学ぶとともに文化の仕事にかかわる楽しさを理解してもらいたい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

進度に応じて与えられた課題テーマについてあらかじめ調べてくること。身近な文化遺産など文化政策の対象となる案件について主体的な調査を行うこと。

〔成績評価の方法〕

学期末には各自が地域の「文化政策提言」を作成・提出することを課題とする。課題の成果（60%）と、授業参加時の積極性（リアクション・ペーパーの内容等40%）を総合して評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--|
| 第1週 | 序論：文化多様性の時代—世界の構造的変化と日本文化政策の展開 |
| 第2週 | 文化と公共性（1）文化遺産と公的権利の諸問題 |
| 第3週 | 文化と公共性（2）文化的景観保全の現代的課題 その1—倉敷と鞆の浦の事例— |
| 第4週 | 文化と公共性（3）文化的景観保存の現代的課題 その2—白川郷・五箇山の事例— |
| 第5週 | 文化と経済（1）現代における文化の創造と消費のメカニズム |
| 第6週 | 文化と経済（2）メセナの歴史的系譜と企業メセナ、フィルアンソロピー&CSR |
| 第7週 | 文化と経済（3）舞台芸術としての日本の伝統芸能 |
| 第8週 | 国際文化交流政策（1）ユネスコ「文化遺産保護六条約体制」の形成と展開 |
| 第9週 | 国際文化交流政策（2）無形文化遺産条約と「文化的アイデンティティ」の諸問題 |
| 第10週 | 国際文化交流政策（3）文化多様性宣言の意義と文化多様性条約の課題 |
| 第11週 | 日本文化の多様性（1）世界の先住民問題とアイヌ文化振興政策 |
| 第12週 | 日本文化の多様性（2）沖縄の文化・歴史と文化観光振興政策 |
| 第13週 | 日本文化の多様性（3）海外における日本文化・日本語教育の歴史的展開 |
| 第14週 | まとめ 世界の中の日本—日本文化紹介・日本語教育の実情と課題 |
| 第15週 | レポート返却と講評・まとめ |

日本人論

3612001100100

副題	日本人と神々			担当者	小平 美香 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

日本の神々に関する基本的な知識をもてるようになること。神々と人々との関係から、さらに「日本人」や「日本の文化」についての関心を広げられるようになること。

〔授業の内容〕

日本人はどのようなものに神々を見出し、神々にどのように接してきたのだろうか。それは日本人が「自然」や「人」あるいは「生きること」をどのように捉え、考えてきたのかを問うことであり、現代のわたしたちの生活様式や考え方もつながりをもっている。神々について記された文献をはじめ、年中行事における祭りのありかた、あるいは神仏習合した図像等さまざまな観点から、当該時代の「神観」を読み解く作業をとおして「日本人」について考えたい。

〔教材〕

プリントを配布する。参考書は授業の中で適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に出されるキーワードについての予習

〔成績評価の方法〕

平常点と試験で評価する。出席を重視する。

〔備考〕

出席確認をかねて「コメントペーパー」の提出を求めることがある。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-----------------|
| 第1週 | はじめに一神々のイメージ |
| 第2週 | 崇る神々 |
| 第3週 | 神々へのことば①祝詞とは |
| 第4週 | 神々へのことば②罪と穢 |
| 第5週 | 神々への供えもの—幣帛と神饌 |
| 第6週 | 神々の住まい—社殿建築と儀礼 |
| 第7週 | 神まつる人々①巫女と神職 |
| 第8週 | 神まつる人々②巫女と神職 |
| 第9週 | 神まつる女神たち |
| 第10週 | 神々のすがた①象られる神々 |
| 第11週 | 神々のすがた②描かれる神々 |
| 第12週 | 習合する神と童子神 |
| 第13週 | 神をまつるかたち—造形と儀礼① |
| 第14週 | 神をまつるかたち—造形と儀礼② |
| 第15週 | まとめ |

副題	近代日本の家、家族・家庭			担当者	木村 直恵 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

近代日本における家族生活をめぐる思想・イデオロギーや、現実の家族形態のあり方の変遷を多角的に学び、近代家族論の分野の基礎知識を身につける。

〔授業の内容〕

結婚は家と家との結びつきだという考え方、結婚したら女性は「家」に入るものだという意見、女兒の誕生よりも男児の誕生を喜ぶ傾向、「長男の嫁」という立場に課せられる重い役割…、私たちは現在でもときどきこのような考え方や感覚が、日本人のあいだに浸透しているのを感じることもあるだろう。このような感覚は、はたして伝統的なものなのだろうか、それとも意外にこうした感覚が多くの人に共有されるようになったのは、近い時代のことなのだろうか。

人間にとって、自分がそのなかで生まれ育ち、生活を営んでいく家・家族・家庭といった単位は、多様でありながらもほぼ普遍的に経験されてきたものである。とりわけ近代の日本においては、「家・家族・家庭」はたんに慣習的・伝統的に人々の人生に関わる単位としてではなく、法的・政治的・思想的にさまざまなかたちで「日本人」を把握し構成する概念やイデオロギーとして、大きな役割を果たしてきた。またそのみならず、個々人の実人生に対しても強い影響力や拘束力を及ぼすものでもあった。

今期の授業では、近代日本で編成されていった「家・家族・家庭」をめぐる言説や実践を取り上げつつ、近代「日本人」の生活と人生に対する感覚を概観してみたい。それを通じて、各々が現代家族や家庭をめぐる近年の新たな問題や傾向について考える糧としてもらえれば幸いである。

〔教材〕

参考書：『21世紀家族へ』（ゆうひかく叢書）第3版，落合恵美子，2004年
鹿野政直『戦前・「家」の思想』第2版，創文社，1992年
海野福寿・大島美津子『家と村』（近代日本思想大系）岩波書店，1989年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後、その授業で扱った内容について復習し、理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

授業出席と期末試験で評価する。試験期間中に試験を実施する。出席が全回数の7割に満たない場合は評価の対象としない。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 近世的「家」の成立と動揺
- 第2週 近世的「家」の崩壊から近代へ
- 第3週 戸籍法と「家」の再編
- 第4週 西洋的家族観・男女関係間の紹介と「家」批判
- 第5週 「ホーム」と恋愛
- 第6週 民法編纂事業と民法典論争
- 第7週 家族国家観と「家」の擬制化
- 第8週 「家庭」家族の誕生
- 第9週 良妻賢母思想と家族生活の改造
- 第10週 「家」への抵抗と反逆
- 第11週 総動員下の「家」と「家庭」
- 第12週 戦後改革と民法改正
- 第13週 高度成長期の家族と郊外
- 第14週 変容する家庭・家族と親密圏
- 第15週 まとめ

日本語学I

3612010100100

副 題	現代日本語の諸相			担 当 者	福島 直恭 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	木	時 限	2
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>日本語学に関する基礎知識を習得する。</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>はじめに、日本語を含めたすべての言語に共通する一般的特徴について概説する。つぎに現代日本語に関して音的側面、語彙的側面、文法的側面から概説する。日本語を科学的に考察することは、具体的にはどういうことであり、どういうことではないのかということを理解することが一番の目標となる。</p> <p>〔教材〕</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>予習・復習に必要な時間は各1～2時間程度</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>学期末に行われる試験かレポート（80%）および出席状況（20%）による。単位取得のためには開講回数の3分の2以上の出席も必須。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

- 第1週 「日本語を話す」ことと「日本語について話すこと」の違い
- 第2週 日本語研究ではない日本語に関する言説の具体例とその非論理性
- 第3週 言語の一般的特徴①－言語の音的単位－
- 第4週 言語の一般的特徴②－言語の意味的単位－
- 第5週 言語の一般的特徴③－文法とは何か－
- 第6週 世界の言語と日本語
- 第7週 日本語の音的単位①－日本語の母音と子音－
- 第8週 日本語の音的単位②－音節と拍－
- 第9週 日本語の音的特徴－清音と濁音－
- 第10週 日本語の音的特徴－現代日本語のアクセント－
- 第11週 日本語の語彙的特徴－和語と借用語－
- 第12週 日本語の文法的単位－単語と文節と文－
- 第13週 日本語の文法的特徴①－「は」と「が」－
- 第14週 日本語の文法的特徴②－日本語構文－
- 第15週 まとめ

副題	日本語の歴史			担当者	福島 直恭 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1

〔授業の到達目標〕

過去の言語変化に関する記述を通して、「歴史として認識する」ということはどういうことであって、どういうことではないかということを理解する。

〔授業の内容〕

過去の日本語の変化のうち、上代～中古～中世に起こったもののいくつかに焦点をあてて、それらの変化前と変化後では何がどう変わったのか、また、それらはどういう意味をもつ変化だったのかを考えていく。日本語に起こったいろいろな変化を単に羅列するのではなく、一見、相互に直接的な関係がないようにみえる諸変化間に、因果関係や相関関係を見出し、言語変化や、言語の歴史的研究についての理解を深めることを目的とする。

〔教材〕

参考書：亀井孝他『日本語の歴史2. 3』平凡社ライブラリー，2007年
特になし。毎回プリント配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習，復習のための必要な時間は毎回各1～2時間程度

〔成績評価の方法〕

最低でも開講時数の2／3以上の出席が必須で、それをクリアした者だけが学期末におこなうレポートか試験を受けることができる。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|----------------------|
| 第1週 | 人間の歴史，言語の歴史，日本語の歴史 |
| 第2週 | 古代日本語の姿1 古代日本語の音的特徴 |
| 第3週 | 古代日本語の姿2 八母音から五母音へ1 |
| 第4週 | 古代日本語の姿3 八母音から五母音へ2 |
| 第5週 | 古代日本語の姿4 音的側面の変化と借用語 |
| 第6週 | ハ行音の変遷1 |
| 第7週 | ハ行音の変遷2 |
| 第8週 | 音便形の成立 |
| 第9週 | アクセントの体系的変化 |
| 第10週 | 助動詞の数の減少1 |
| 第11週 | 助動詞の数の減少2 |
| 第12週 | 終止形と連体形の合流 |
| 第13週 | 二段活用的一段化1 |
| 第14週 | 二段活用的一段化2 |
| 第15週 | まとめ |

副 題	神道のなりたち			担 当 者	小平 美香 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	水	時 限	3

〔授業の到達目標〕

- ①古代から中世の神道，仏教，儒教の歴史的な関係について，文献から読み取ることができるようになること。
- ②神道のなりたちを通じて，神道のみならず，日本の思想に興味や関心がもてるようになること。

〔授業の内容〕

日本の神々への信仰「神祇信仰」は，古代から中世に大きく変容し「神道」として形成されていく。本講義では，神と人との関係に主軸をおきながら，古代から中世にかけての文献を中心に「信仰」，「行政」，「儀礼」という三つの側面から神道のなりたちを考える。儒教との比較や仏教との習合思想のみならず，女性と神道との関係も視野に入れたい。

〔教材〕

参考書：佐藤弘夫『概説日本思想史』ミネルヴァ書房，2005年
伊藤聡、遠藤潤、松尾恒一、森瑞枝『日本史小百科 神道』東京堂出版，2002年
教科書は用いず，プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に紹介する文献資料の予習・復習

〔成績評価の方法〕

平常点と試験による。出席を重視する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 はじめに—日本の神々と「神道」について
- 第2週 古代の神信仰1—祭祀儀礼から日本の神々を考える
- 第3週 古代の神信仰2—古典から神仏関係を考える
- 第4週 古代の神祇行政1—神祇官
- 第5週 古代の神祇行政2「神祇令」と唐の「祠令」
- 第6週 古代の神祇儀礼1—神祇官祭祀
- 第7週 古代の神祇儀礼2—神宮祭祀
- 第8週 古代から中世へ—本地垂迹と神仏習合
- 第9週 中世の神道説1—中世神道書（1）
- 第10週 中世の神道説2—中世神道書（2）
- 第11週 中世の神信仰1—寺社縁起と神社参詣（1）
- 第12週 中世の神信仰2—寺社縁起と神社参詣（2）
- 第13週 中世の神道儀礼1
- 第14週 中世の神道儀礼2
- 第15週 まとめ

副題	日本の近代化を考える			担当者	小平 美香 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

- (1) 近代の様々な資料（公文書、新聞・雑誌記事、日記、絵画、歌等）を使って、主体的に事象を調べ、論じることができるようになること。
 (2) 近代史のなかから自分自身の関心を発見できるようになること。

〔授業の内容〕

明治維新を迎えた日本は、どのような思想のもとに近代化をすすめていったのだろうか。この講義では四つのテーマ「教育」「産業」「福祉」「宗教」をとりあげ、これらについて当時の様々な資料（公文書、新聞、雑誌記事、日記、絵画など）から具体的に事象を検討する。近代史の問題として女性の活動も考察していきたい。

〔教材〕

参考書：佐藤弘夫『概説日本思想史』ミネルヴァ書房，2005年
 小平美香『昭憲皇太后からたどる近代』ペリカン社，2014年
 鳥海靖『もういちど読む山川日本近代史』山川出版社，2013年
 教科書は使わず、プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として次回のテーマに関する課題を出すことがある。

〔成績評価の方法〕

平常点とレポートで評価する。

〔備考〕

出席確認をかねて「コメントペーパー」の提出を求めることがある。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
 第2週 近代の教育（1）近代教育の発祥-文部省設立まで
 第3週 近代の教育（2）教育制度
 第4週 近代の教育（3）女子教育
 第5週 宮中養蚕と渋沢栄一
 第6週 近代の産業（1）官営富岡製糸場
 第7週 近代の産業（2）洋装の奨励
 第8週 近代の産業（3）博覧会
 第9週 近代の福祉（1）博愛社と赤十字社
 第10週 近代の福祉（2）婦人慈善会
 第11週 近代の福祉（3）皇室と福祉
 第12週 近代の宗教（1）神仏分離
 第13週 近代の宗教（2）国民教化
 第14週 近代の宗教（3）宗教の近代化
 第15週 まとめ

日本思想史Ⅲ

3612011300100

副題	古事記天皇代を読む			担当者	神田 典城 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

奈良時代の人々の構築しようとした歴史の意味が理解できるようになる。

〔授業の内容〕

古事記は全三巻からなっており、そのうちの中巻と下巻が、初代神武天皇以下歴代天皇の治世を描く。しかしそれは歴史的事実そのものではない。本講義では、古事記中・下巻をテキストとして順次読み進めながら、奈良時代の人々がいかに自分たちの過去を構築しようとしたのかを考察してゆく。

〔教材〕

教科書：西宮一民編『『古事記』修訂版』おうふう

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを読んで理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

期末試験による(100%)

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 古代の文献に関する基礎知識
- 第2週 古事記とは何か
- 第3週 神武記
- 第4週 〃
- 第5週 崇神記垂仁記
- 第6週 景行記
- 第7週 成務記仲哀記
- 第8週 応神記
- 第9週 仁徳記
- 第10週 〃
- 第11週 履中記反正記
- 第12週 允恭記安康記
- 第13週 雄略記
- 第14週 〃
- 第15週 清寧記顕宗記

副 題	風土記を読む			担 当 者	神田 典城 教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	水	時 限	3
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>古代の人々が、自分たちを取り巻く世界について、どのように認識していたかが理解できるようになる。</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>風土記は奈良時代に編まれた地誌であり、そこには当時の人々が自分たちを取り巻く世界に対し、様々に格闘し、認識しようとした努力の跡が記し留められている。この風土記の記述を通して、彼らの思考のありようを探ってみたい。</p> <p>〔教材〕</p> <p>教科書：大久間喜一郎編『古代説話 風土記篇』おうふう</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>テキストを読んで理解したうえで授業に臨むこと。</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>学期末試験による(100%)</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

- 第1週 古代の文献に関する基礎知識。
- 第2週 風土記とは何か。
- 第3週 出雲国風土記
- 第4週 〃
- 第5週 〃
- 第6週 〃
- 第7週 常陸国風土記
- 第8週 〃
- 第9週 〃
- 第10週 播磨国風土記
- 第11週 〃
- 第12週 〃
- 第13週 〃
- 第14週 九州風土記
- 第15週 逸文

日本文学史I

3612012100100

副 題	平安時代の物語を読む（前半）			担 当 者	伊藤 禎子 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	金	時 限	5
<p>〔授業の到達目標〕 各自なりの平安文学観を持てるようにする。</p> <p>〔授業の内容〕 かな物語成立の初めである『竹取物語』から『源氏物語』までの作品を読みながら、文学史の流れを解説する。</p> <p>〔教材〕 プリントを配布する。</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 各作品についての基礎的事項（作者，年代，あらすじ等）を事前に確認しておく。</p> <p>〔成績評価の方法〕 出席点と学期末試験（100%）で成績を評価する。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 竹取物語 1
- 第3週 竹取物語 2
- 第4週 落窪物語 1
- 第5週 落窪物語 2
- 第6週 落窪物語 3
- 第7週 うつほ物語 1
- 第8週 うつほ物語 2
- 第9週 うつほ物語 3
- 第10週 うつほ物語 4
- 第11週 源氏物語 1
- 第12週 源氏物語 2
- 第13週 源氏物語 3
- 第14週 授業のまとめ 1
- 第15週 授業のまとめ 2

副題	平安時代の物語を読む（後半）			担当者	伊藤 禎子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	5

〔授業の到達目標〕

各自なりの平安文学観を持てるようにする。

〔授業の内容〕

『源氏物語』とそれ以後の物語を読んでいくことで、平安文学がどのように展開しているかについて解説する。

〔教材〕

プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各作品についての基礎的事項（作者，年代，あらすじ等）を事前に確認しておく。

〔成績評価の方法〕

出席点と試験（100％）で成績を評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 平安時代物語（前半）の概略
- 第3週 源氏物語 1
- 第4週 源氏物語 2
- 第5週 源氏物語 3
- 第6週 狭衣物語 1
- 第7週 狭衣物語 2
- 第8週 狭衣物語 3
- 第9週 夜の寝覚 1
- 第10週 夜の寝覚 2
- 第11週 浜松中納言物語
- 第12週 松浦宮物語
- 第13週 とりかへばや，その他
- 第14週 授業のまとめ 1
- 第15週 授業のまとめ 2

民俗学I

3612014100100

副題	衣食住の民俗			担当者	山崎 祐子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

衣食住の民俗を通して、日常生活の変遷を学び、日本民俗学の基本的な考え方や学術語彙を説明できるようにする。

〔授業の内容〕

私たちの生活は、ハレ（非日常）とケ（日常）に分けることができるが、この授業では、ケの部分を取り上げる。衣食住という当たり前の日常生活を民俗学の視点でテーマを設定し、解説をする。

〔教材〕

教科書は使用せず、毎回、資料のプリントを配布する。参考文献は配布するプリントに記載し、授業時に適宜指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は特に必要ない。講義中に指示された重要な語句について復習すること。

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパーなどの平常点（30パーセント）と期末試験（70パーセント）

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 身体尺と尺貫法
- 第3週 民家の見方
- 第4週 イロリ
- 第5週 自給自足の暮らし
- 第6週 木綿以前の衣料
- 第7週 仕事着の工夫
- 第8週 履物と被り物
- 第9週 日常の食事
- 第10週 雑穀の食べ方
- 第11週 発酵食品
- 第12週 涼しく暮らす知恵
- 第13週 生活の道具
- 第14週 フィールドワークの方法
- 第15週 まとめ

授業計画は変更することがある。

副題	女性と子どもの民俗			担当者	山崎 祐子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

女性と子どもにかかわる民俗を通して、通過儀礼の意義を学ぶ。日本人の生死観の概念図を用いて、通過儀礼の意義を説明できるようにする。

〔授業の内容〕

私たちの生活は、ハレ（非日常）とケ（日常）に分けることができるが、この授業では、ハレの部分を取り上げる。出産、子育て、結婚などの儀礼や、生活改善の諸活動などについて解説する。

〔教材〕

教科書は使用せず、毎回、資料のプリントを配布する。参考文献は配布するプリントに記載し、授業時に適宜指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は特に必要ない。講義中に指示された重要な語句について復習すること。

〔成績評価の方法〕

期末試験（70パーセント）、リアクションペーパーなどの平常点（30パーセント）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週 ガイダンス
 第2週 通過儀礼概論
 第3週 出産
 第4週 ♪
 第5週 子どもから大人へ
 第6週 ♪
 第7週 成人の儀礼
 第8週 口承文芸と教育
 第9週 結婚の儀礼
 第10週 五月五日
 第11週 手記を読む
 第12週 生活改善の諸活動
 第13週 「遠野物語」を読む
 第14週 まとめ
 第15週 ♪
 授業計画は変更することがある。

日本政治経済史

3612015400100

副題	都市江戸を舞台に			担当者	岩淵 令治 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	1

〔授業の到達目標〕

江戸時代の政治・経済の実態を理解する

〔授業の内容〕

都市江戸を素材として、江戸時代の政治と経済のしくみを検討する。都市政策の決定過程と伝達、治安維持、「平和な世」における幕府権威の発現の場や方法、奉公人、酒の流通、入札など、都市生活とかかわる側面をとりあげる。単なる制度や概説ではなく、その実態を描くことに留意したい。

〔教材〕

参考書：岩淵令治編『江戸・大坂・京の三都物語』（週刊朝日百科日本の歴史30）朝日新聞社、2014年

杉森哲也・岩淵令治ほか『日本近世史』放送大学教育振興会、2013年
講義中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習はとくに必要ない。プリント類を再確認するなど、復習すれば、講義の内容について理解は深まるだろう。

〔成績評価の方法〕

出席・授業態度（30%）、期末試験（60%）、博物館見学のレポート（10% ただし、実施できなかった時は期末試験を70%とする）。期末試験は記述式で、ノートと講義中に配布したプリント持ち込みを可とする。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 江戸時代の概説
- 第2週 政治1 政策の決定
- 第3週 政治2 法の伝達
- 第4週 政治3 裁判制度と実態
- 第5週 政治4 治安維持
- 第6週 政治5 権威（1） 江戸城門番
- 第7週 政治6 権威（2） 行列
- 第8週 政治7 権威（3） 大名の葬送儀礼
- 第9週 経済1 概説
- 第10週 経済2 商家奉公人の世界
- 第11週 経済3 都市の地価
- 第12週 経済4 仲間・組合
- 第13週 経済5 江戸住商人の成長と酒の流通
- 第14週 経済6 入札
- 第15週 まとめ

進捗によって、計画を変更することがある。また、可能であれば、博物館見学を一回実施したい。

副題	近代以前の法と慣習			担当者	菅原 正子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

日本の近代以前の法律や社会の慣習・風俗に関する知識を身につけ、外国とは異なった日本独自の法・社会のあり方について理解を深める。

〔授業の内容〕

日本が西洋の影響を強く受けた近代より以前の、さまざまな法典・法律や慣習・風俗について、具体的に中世を中心に古代や近世にも言及して取り上げ、西洋や中国とも比較しながら日本独自の特徴を探る。

〔教材〕

授業では毎回プリントを配付する。参考文献はその都度指摘する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

日本史の時代区分など、歴史の基本的な知識は確認しておいてほしい。

〔成績評価の方法〕

期末試験の成績で評価する。毎回授業の最後に提出してもらいうりアクションペーパーは、点数にはしないが一応参考にする。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 オリエンテーション（授業の概要と目的）
- 第2週 日本の法と慣習の歴史
- 第3週 朝廷(1)―律令
- 第4週 朝廷(2)―天皇と皇后・女官
- 第5週 朝廷(3)―有職故実
- 第6週 鎌倉幕府の法典『御成敗式目』と追加法
- 第7週 家族(1)―財産の相続と所有
- 第8週 家族(2)―夫婦の氏姓
- 第9週 家族(3)―結婚・離婚・再婚
- 第10週 家族(4)―子どもの人生儀礼
- 第11週 読み書きと教育
- 第12週 家訓・教訓書
- 第13週 戦国大名の分国法
- 第14週 村落の法と自治
- 第15週 おわりに

☆伝統文化論I (花)

3612051100100

副題	桜をめぐる現代日本と伝統文化			担当者	今橋 理子 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

日本語で「花」と言えば「桜」を指すほど、桜花は日本文化において重要な植物である。なぜこの植物に格別な＜意味＞を日本人は見い出してきたのかについて理解を深める。

〔授業の内容〕

「桜」は古来日本において特別な意味を担って浸透してきた花であるが、とりわけ江戸時代ほど「桜」が愛され、園芸・芸術・文学の分野のみならず、殖産興業や政治の手立てまでに活用された時代はなかった。しかし現代にまで続く「桜＝日本の花（国花）」というイメージは、実は江戸時代に誤って広まった言説に基づくものである。だがそうした誤った認識こそが、江戸時代以来の「桜」に関わる日本文化を、驚くほど豊かにしてきたとも言える。本授業では、現代日本における「桜」の文化的意味を、江戸時代における現象と対比しつつ、なぜに現代の日本においても、この花が文化的に不可欠の要素で有り続けているのかについて考える。

〔教材〕

今橋理子『江戸絵画と文学』（東京大学出版会，第4版，2006年）

今橋理子「環境保護から創造する伝統芸術（1）～（3）」（東京大学出版会広報誌『UP』2006年6月～8月号（連載））

山田孝雄『桜史』（講談社学術文庫，1990年）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の出席状況と学期末のレポート（予定）によって評価する

〔備考〕

授業時間外に、美術館への見学会などを予定している。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1週 | 概論：桜をめぐる日本文化研究の現状（1） |
| 第2週 | 概論：桜をめぐる日本文化研究の現状（2） |
| 第3週 | 桜と日本人（1） 古代の思想 |
| 第4週 | 桜と日本人（2） 和歌の詩学 |
| 第5週 | 桜と日本人（3） 皇国思想と象徴 |
| 第6週 | 桜と日本人（4） 戦時下の桜 |
| 第7週 | 桜と江戸文化（1） 園芸の広まりと博物学 |
| 第8週 | 桜と江戸文化（2） 「桜画」の成立 |
| 第9週 | 桜と江戸文化（3） 琳派と桜 |
| 第10週 | 桜と江戸文化（4） 桜と祭礼 |
| 第11週 | 現代における桜（1） 浮世絵の場合 |
| 第12週 | 現代における桜（2） 桜木と工芸 |
| 第13週 | 現代における桜（3） 桜と環境保護 |
| 第14週 | 現代における桜（4） 桜をめぐる報道と流行現象 |
| 第15週 | まとめ——東日本大地震後の日本と桜 |

副題	茶の湯文化			担当者	谷村 玲子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

茶の湯文化を広く学際的方法で理解し、また喫茶がどのように伝統文化になっていくかを歴史から学ぶ。その上で茶の湯という文化を、どうやって世界の人々に伝えていくかを学生に考えさせたい。

〔授業の内容〕

講義の導入として日本の茶の湯と西洋紅茶文化の違いを明らかにした上で、本講義においては、茶の湯は基本的に三つの要素－1；作法・点前という身体技法と、2；数々の茶道具、3；そして茶室・茶庭からなる特殊空間－から成ると規定する。この三要素をそれぞれに、現在おこなわれている茶の湯を通じて紹介する。

その上で、茶の湯の通史を思想史・建築・陶器・文学等の様々な参考資料を用いながら、説明する。従来の日本文化史の領域にとどまらず、文化人類学・教育学、社会学といった学際的視点から分析を加えることで、学生一人一人の興味を刺激し、新しい茶の湯研究の可能性を指摘したい。

〔教材〕

参考書：村井康彦『千利休』（NHK ブックス281）日本放送出版協会

熊倉功夫『茶の湯の歴史』（朝日選書 404）朝日出版社

Varley & Kumakura, *Tea in Japan*, University of Hawaii Press, 1989

毎回の講義ごとにその日の講義内容と史資料を各自に配布する。日本文化の講義ではあるが、広く比較文化や思想史関係、さらに英文参考書も講義の中で紹介の予定。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

翌週の内容を予告するので、特に歴史に関することは常識的な概史を読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

学期末試験：配布資料と自筆ノートのみ持ち込み可

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 茶の湯研究とは何か。シラバスの確認と茶の湯文化に関する意見調査。
 - 第2週 茶とは：植物としてのチャ。そして西洋の茶文化
 - 第3週 茶道具：茶道具、日本と中国の工芸品の違い。道具から見た日本人の美意識の変化
 - 第4週 茶の湯に見られる自然：茶庭の自然・身体技法における自然・茶道具にみる自然
 - 第5週 茶事：四時間にわたる正式の茶会
 - 第6週 茶の湯の歴史：茶に関する中国と日本の最古の文献
遣唐使・平安時代・鎌倉時代の茶の湯
 - 第7週 室町時代の茶の湯：会所の茶の湯とやつしの美意識の出現
 - 第8週 戦国時代：南蛮文化と自由都市堺
 - 第9週 下克上と茶の湯：信長・明智光秀・秀吉の茶会
 - 第10週 利休の茶会：天文13年（1544）～天正18年（1590）の会
 - 第11週 利休の茶室：空間から見た利休の茶
 - 第12週 利休の最後と利休後の茶の湯
 - 第13週 江戸時代の茶の湯：家元制度とは
 - 第14週 武家の茶の湯：石州流茶の湯と武家茶人
 - 第15週 女性と茶の湯：江戸時代から現代へ
- 出来るだけシラバスに沿って講義を進める所存である。しかし講義は“生き物”であり、受講学生の人数、興味 知識によって、時に内容に変化を持たせる可能性もある。

伝統文化論Ⅳ（書）

3612051400100

副題					担当者	齊藤 登 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	

〔授業の到達目標〕

文字を通しての、和・漢文化・時代を解説する。

〔授業の内容〕

文字の歴史は、大陸日本を問わず正史であることは言うまでもありません。従って本講座では、文字より見た和・漢の歴史を中心に進めていきます。また、現在使用（含む作品）しうる文字は甲骨、金文、古文、篆書、隸書、草書、行書、楷書、草仮名、平仮名、片仮名などがあり、その使用目的、時代背景、エピソードなどを混え乍ら解説していきます。

〔教材〕

教科書：全国大学書道学会『書の古典と理論』光村図書出版（株）

参考書：柳 碧蘇『書の古典攻略ハンドブック』初版，（株）可成屋，2004年

悠久の歴史の中で輝きを失わず現代に伝わる名品を時代背景を混え乍ら解説してあります。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習最低30分。悠久の歴史故え，時代背景把握。

復習最低30分。文字と時代の流れを確認。

〔成績評価の方法〕

レポート又は試験，人数による。出席重視。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週 上記各体（10体）の説明。

第2週 「甲骨」殷代で使用された意義（政＝祭）を考える。

第3週 「金文」殷代の神器より黄金期の周代（西周）を解説。

第4週 「篆書の成立」春秋・戦国時代より秦の統一までを見る。

第5週 「隸書」漢帝国の文字と文化。

第6週 「隸書」より「草書」への経緯を解説。

第7週 草書の名品と日本へ渡来し草仮名への変革を解説。

第8週 「王羲之」を中心に行書の名品解説。我国への流入を見る。

第9週 「楷書」二大黄金期中，唐代の名品と北魏の雄渾な書を解説。

第10週 「漢倭奴国王印」の発見，漢字流入期を考える。

第11週 日本各地に残る文字の資料を解説する。

第12週 聖徳太子・法華義疏よりその他の金石文を考察。

第13週 奈良朝より平安初期までの書文化解説。

第14週 三筆と三跡の別，唐様より和風へ。仮名美の完成。

第15週 和・漢文字文化の相異点。

永い歴史を僅か15週で解説する為，欠席すると追いてこれなくなります。文字を通しての古代史解説です。

副題	日本の伝統芸能を知る・学ぶ			担当者	森田 ゆい 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

日本の伝統芸能の概要について人に説明出来る程度に理解する。

〔授業の内容〕

日本の伝統芸能には様々なジャンルがありますが、それぞれが固有の表現様式を持っています。

本授業では能楽，文楽，歌舞伎，日本舞踊，地唄舞，琉球舞踊等の映像を比較しながらそれぞれの表現様式の特徴を学びます。

最後にスポーツ科学の手法を用いた舞手の身体の分析結果などについて紹介します。

〔教材〕

授業中に紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に紹介する関連書籍を読むとより理解が深まります。

〔成績評価の方法〕

授業で学んだことを手がかりに興味を持った内容について題材を決め、レポートを作成する（30点）。

舞台鑑賞後にレポート作成（10点）。伝承について考えるレポート作成（10点）。

出席点（50点）。

〔備考〕

授業期間内に1回以上舞台公演を鑑賞して頂きます。

お勧めの舞台については授業中に紹介します。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 日本の伝統芸能概論
- 第3週 「道成寺」能楽と歌舞伎
- 第4週 「曾根崎心中」文楽と歌舞伎
- 第5週 舞と踊 日本舞踊と地歌舞
- 第6週 能 代表的な作品
- 第7週 狂言 代表的な作品
- 第8週 歌舞伎 代表的な作品
- 第9週 文楽 代表的な作品
- 第10週 伝承について考える
- 第11週 「道成寺」民俗芸能，琉球組踊，様々な道成寺
- 第12週 「三番叟」民俗芸能，能楽，歌舞伎舞踊
- 第13週 舞手の身体
- 第14週 舞楽，琉球舞踊，韓国舞踊
- 第15週 総括

伝統文化論VI（演劇）

3612051600100

副題	『風姿花伝』を読む			担当者	岩崎 雅彦 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

古典芸能に対する理解を深める。

〔授業の内容〕

世阿弥の能楽論を読む。能は室町時代に生まれた舞台芸能であり、完成された劇形態の芸能としては日本最古のものである。能を大成したのが観阿弥とその子の世阿弥である。特に世阿弥は能の芸術性を高めた最大の功労者であった。世阿弥は能役者・能作者であると同時に理論家でもあり、多くの能楽論を書き残している。その中から代表的なものである『風姿花伝』を取り上げ、講読する。

〔教材〕

教科書：野上豊一郎・西尾実『風姿花伝』（岩波文庫）岩波書店

参考書：表章『世阿弥・禅竹』（日本思想大系）岩波書店

田中裕『世阿弥芸術論集』（新潮日本古典集成）新潮社

竹本幹夫『風姿花伝・三道』（角川ソフィア文庫）角川学芸出版

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにあらかじめ目を通し、正しく音読できるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕

学期末にレポート提出

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 能について 1
- 第2週 〃 2
- 第3週 観阿弥の生涯について
- 第4週 世阿弥の生涯について 1
- 第5週 〃 2
- 第6週 『風姿花伝』を順次読み進めてゆく。
- 第7週 〃
- 第8週 〃
- 第9週 〃
- 第10週 〃
- 第11週 〃
- 第12週 〃
- 第13週 〃
- 第14週 〃
- 第15週 〃

副 題	雅楽と平安時代の宮廷文化			担 当 者	遠藤 徹 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	月	時 限	5

〔授業の到達目標〕

日本の雅楽の概要と特質，および日本文化における位置を理解する。

〔授業の内容〕

日本の伝統音楽は多彩な種目がありますが、そのなかで最古層を形成しているのが雅楽です。雅楽は、5世紀から9世紀にかけて大陸から渡来した楽舞や日本列島に古来伝わる歌舞を源流として、平安時代の宮廷社会で大成しました。平安時代以降も、日本の伝統音楽の形成にさまざまな影響を与えつつ、また日本の歴史と密接に関わりながら今日まで傳承されています。本授業では雅楽を様々な角度から読み解き、雅楽を生み出した平安時代の宮廷文化の特質、雅楽とそれ以後に発達した日本の伝統音楽の関係などを考えていきます。

〔教材〕

参考書：遠藤徹他『別冊太陽 雅楽』平凡社，2004年
 遠藤徹『雅楽を知る事典』東京堂出版，2013年
 柘植元一、遠藤徹他『シルクロードの響き』山川出版社，2002年
 芝祐靖、遠藤徹他『雅楽入門事典』柏書房，2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

理解が不十分な点は参考文献等で確認すること。

〔成績評価の方法〕

試験

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 総論
- 第2週 雅楽の源流と東アジアの古代文化（1）
- 第3週 雅楽の源流と東アジアの古代文化（2）
- 第4週 楽舞の伝来と左舞・右舞
- 第5週 御遊の成立と詩歌管絃
- 第6週 平安時代の宮廷儀礼と雅楽
- 第7週 古典文学に描かれた雅楽（1）枕草子など
- 第8週 古典文学に描かれた雅楽（2）平家物語など
- 第9週 宮廷歌謡の展開，催馬楽・朗詠・風俗歌・今様など
- 第10週 神事の歌舞，御神楽・東遊など
- 第11週 仏教儀礼と雅楽
- 第12週 楽家と楽書
- 第13週 中世以降の雅楽と伝統音楽の諸相（1）
- 第14週 中世以降の雅楽と伝統音楽の諸相（2）
- 第15週 総括

伝統文化論VIII (染織)

3612051800100

副 題	日本の伝統染織			担 当 者	福島 雅子 准教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月	時 限	3

〔授業の到達目標〕

日本の伝統的な染と織の文化についての基礎的な知識を修得する。現代に継承される伝統的な染織技法や作品に触れ、日本の伝統文化についての理解を深める。

〔授業の内容〕

現代まで継承される「きもの」とともに、日本の伝統的な染と織の文化は今日まで受け継がれてきた。近年では、国が主導するクール・ジャパン戦略において、日本の伝統工芸に着目した文化輸出が図られるなど、国際社会へ日本をアピールするための重要なツールとして、日本の染織を含む伝統工芸が注目されている。一方で、生活スタイルの変化により、日本各地に発展してきた多様で独創的な染織文化のうち、存続が危ぶまれるような深刻な状況に直面している地域も少なくない。

本講義では、世界に誇ることのできる日本の伝統的な染織文化について、代表的な産地に着目して学んでいく。講義の中では、現在に継承される伝統的な染織技法や実際の染織品などに触れる機会も設け、現代まで生き続ける伝統文化をより深く理解することを目指す。

〔教材〕

参考書：丸山伸彦『すぐわかる染め・織りの見わけ方』東京美術、2002年
授業時に、適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には、配布資料と指定した参考文献等を確認し、授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

期末試験またはレポート（70%）、出席状況と授業態度（30%）により評価する。期末試験またはレポートについては、履修者数により決定する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	日本の伝統染織
第3週	日本の染と織（1） 南部絞
第4週	日本の染と織（2） 結城紬
第5週	日本の染と織（3） 江戸小紋
第6週	日本の染と織（4） 小千谷縮・越後上布
第7週	日本の染と織（5） 有松・鳴海絞
第8週	日本の染と織（6） 京友禅
第9週	日本の染と織（7） 京鹿の子
第10週	日本の染と織（8） 西陣織
第11週	日本の染と織（9） 博多織
第12週	日本の染と織（10） 久留米紜
第13週	日本の染と織（11） 芭蕉布
第14週	日本の染と織（12） 紅型
第15週	まとめ 一染と織にみる日本の美意識—

授業計画は変更することがある。

副題	日本の服飾史			担当者	福島 雅子 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

日本の服飾の歴史に関する基礎的な知識を学び、日本の服飾文化への理解を深める。

〔授業の内容〕

日本における服飾の歴史を考える時、一般的には現代まで継承される「きもの」や、女房装束である「十二単」などが注目される傾向が強い。高校までの歴史教科書では、服飾の歴史に関する記述は極めて限られており、私たちにとって最も身近な服飾文化に関して、その歴史に触れる機会は十分ではないと言えるだろう。

そこで本講義では、日本の古代から現代に至る服飾の歴史を通観することで、我が国の服飾文化の展開をより深く理解してもらいたい。日本の服飾文化は、古代より中国などの諸外国から強い影響を受けつつ、摂取した外来の文化を咀嚼し、多様な独自の展開を遂げてきた。諸外国との影響関係も視野に入れながら、現代社会にも受け継がれる日本の服飾の歴史について考えたい。

〔教材〕

授業時に、適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には、配布資料と指定した参考文献等を確認し、授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

期末試験またはレポート（70%）、出席状況と授業態度（30%）により評価する。期末試験またはレポートについては、履修者数により決定する。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 服飾の起源
- 第3週 飛鳥時代の服飾
- 第4週 奈良時代の服飾
- 第5週 平安時代の服飾（1）
- 第6週 平安時代の服飾（2）
- 第7週 鎌倉時代の服飾
- 第8週 室町時代の服飾（1）
- 第9週 室町時代の服飾（2）
- 第10週 戦国時代の服飾
- 第11週 安土桃山時代の服飾
- 第12週 江戸時代の服飾（1）
- 第13週 江戸時代の服飾（2）
- 第14週 近代から現代へ
- 第15週 まとめ

授業計画は変更することがある。

日本生活文化史Ⅱ（衣文化）

3612061200100

副題	江戸の「きもの」と衣文化			担当者	福島 雅子 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

江戸時代の「きもの」を中心とした多様な衣文化の展開について学び、現代まで引き継がれる日本の民族衣装としての「きもの」と伝統的な衣文化が持つ独自性の源について理解を深める。

〔授業の内容〕

現在、私たちが「きもの」と呼ぶ衣服は、江戸時代以前は「小袖」と呼ばれた。小袖とは、平安時代から続く袖口の大きく開いた大袖形式の衣服に対して、袖口が小さく詰まった衣服を指している。古来、小袖は貴族階級の下着として、また庶民には動きやすい表着として着用されたが、中世から近世への移行期には小袖が身分の上下を問わず中心的衣服となり、江戸時代には小袖を中心とした衣文化が発展した。

本講義では、現代の日本社会にも引き継がれている日本の民族衣装としての「きもの」に視座を据え、その源としての江戸時代の多様な衣文化について学ぶ。また、講義の中では、江戸時代の小袖の復元作品や、小袖の制作に用いる道具類・素材などを実際に展示し、実見する。江戸時代の衣文化に間近で触れることで、理解を深めることにつなげたい。

〔教材〕

参考書：丸山伸彦『江戸のきものと衣生活』小学館、2007年

授業時に、適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には、配布資料と指定した参考文献等を確認し、授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

期末試験またはレポート（70%）、出席状況と授業態度（30%）により評価する。期末試験またはレポートについては、履修者数により決定する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 江戸のきもの ―小袖―
- 第3週 流行の変遷（1） 辻が花
- 第4週 流行の変遷（2） 慶長小袖
- 第5週 流行の変遷（3） 寛文小袖
- 第6週 流行の変遷（4） 小紋染
- 第7週 流行の変遷（5） 友禅染
- 第8週 流行の変遷（6） 御所解と茶屋辻
- 第9週 流行の変遷（7） 裾模様
- 第10週 衣服の諸相（1） 能装束の世界
- 第11週 衣服の諸相（2） 歌舞伎の衣装
- 第12週 生産と流通（1） 雛形本と紺屋
- 第13週 生産と流通（2） 呉服屋と古着屋
- 第14週 生産と流通（3） 衣替え
- 第15週 まとめ

授業計画は変更することがある。

副題	食文化の成り立ち			担当者	宇都宮 由佳 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

日本の食文化を歴史の変遷から理解する。日本の食の成り立ち、すなわち過去の食スタイルが現在に至るまでの過程を学ぶことで、現時点から将来の食を考える力を身につける。

〔授業の内容〕

日本の食生活を中心として、各時代の自然環境、政治、経済、宗教、文化など社会情勢を背景に、どのようなモノをどのように調理して食してきたのか、その時代の特徴と食の変遷を解説する。

また、日本の食文化は、様々な国・地域の文化の影響を受けながら形成してきた。そこで、外来の食文化の受容、従来の食スタイルの変容、発展あるいは衰退について事例をあげながら、日本の食文化の成り立ちを紐解いていく。

〔教材〕

毎回、教員が用意したプリント（2-3枚）で授業を進める。参考書は適宜紹介する。学生はA4サイズのファイルブックを用意しておくこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習は、授業内容にあわせて適宜指示する。A4サイズで1ページ以上の課題である。

〔成績評価の方法〕

小レポート（20%）、理解度の確認（50%）、授業への取り組み（30%）で評価をする。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業の進め方の説明、食文化の成り立ち
 第2週 旧石器時代・縄文・弥生時代—厳しい自然環境下での食物、稲の伝播
 第3週 古墳時代から飛鳥時代—米と律令国家（政治）
 第4週 奈良時代から平安時代—貴族食の発達、大饗料理、中国文化の影響
 第5週 鎌倉時代—武士の食事、携帯・保存食、市の発達
 第6週 精進料理—禅風食の普及、仏教の一般大衆化
 第7週 室町時代から戦国時代—本膳料理、庖丁流派の成立
 第8週 懷石料理と会席料理
 第9週 安土・桃山時代—南蛮文化の流入、南蛮菓子、卵料理の登場
 第10週 江戸時代—発達した庶民の料理
 第11週 卓袱料理と普茶料理
 第12週 行事食と郷土食
 第13週 明治・大正・昭和（戦前）—西洋化と肉食、和洋折衷
 第14週 昭和から現代—家電製品の普及、技術の発展
 第15週 将来の食を考える—国際化と伝統食
 授業は、教員が用意したプリント、パワーポイント、DVDなど活用して実施する。

日本生活文化史Ⅳ（食文化）

3612061400100

副題	食文化の成り立ち			担当者	宇都宮 由佳 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

日本の食文化を歴史の変遷から理解する。日本の食の成り立ち、すなわち過去の食スタイルが現在に至るまでの過程を学ぶことで、現時点から将来の食を考える力を身につける。

〔授業の内容〕

日本の食生活を中心として、各時代の自然環境、政治、経済、宗教、文化など社会情勢を背景に、どのようなモノをどのように調理して食してきたのか、その時代の特徴と食の変遷を解説する。

また、日本の食文化は、様々な国・地域の文化の影響を受けながら形成してきた。そこで、外来の食文化の受容、従来の食スタイルの変容、発展あるいは衰退について事例をあげながら、日本の食文化の成り立ちを紐解いていく。

〔教材〕

毎回、教員が用意したプリント（2-3枚）で授業を進める。参考書は適宜紹介する。学生はA4サイズのファイルブックを用意しておくこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習は、授業内容にあわせて適宜指示する。A4サイズで1ページ以上の課題である。

〔成績評価の方法〕

小レポート（20%）、理解度の確認（50%）、授業への取り組み（30%）で評価をする。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 授業の進め方の説明，食文化の成り立ち
 第2週 旧石器時代・縄文・弥生時代—厳しい自然環境下での食物，稲の伝播
 第3週 古墳時代から飛鳥時代—米と律令国家（政治）
 第4週 奈良時代から平安時代—貴族食の発達，大饗料理，中国文化の影響
 第5週 鎌倉時代—武士の食事，携帯・保存食，市の発達
 第6週 精進料理—禅風食の普及，仏教の一般大衆化
 第7週 室町時代から戦国時代—本膳料理，庖丁流派の成立
 第8週 懐石料理と会席料理
 第9週 安土・桃山時代—南蛮文化の流入，南蛮菓子，卵料理の登場
 第10週 江戸時代—発達した庶民の料理
 第11週 卓袱料理と普茶料理
 第12週 行事食と郷土食
 第13週 明治・大正・昭和（戦前）—西洋化と肉食，和洋折衷
 第14週 昭和から現代—家電製品の普及，技術の発展
 第15週 将来の食を考える—国際化と伝統食
 授業は，教員が用意したプリント，パワーポイント，DVDなど活用して実施する。

副題	構成要素からみた住宅デザイン			担当者	乾 尚彦 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

日本の住まいのデザインの特徴と変遷を把握する。

〔授業の内容〕

日本の住まいには、長い伝統を持つデザインが継承されている。その具体的なかたち、変遷をみながら、それを成立させてきた要因を考察することで、日本の住まいの伝統について理解を深めることを目的としている。また、建築の各部構法に関する基礎的用語についても解説していくので、建築入門の講義としても位置付けることができる。

〔教材〕

参考書：安藤・乾・山下『住まいの伝統技術』建築資料研究社、1995年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

課題提出（講義の前日まで）

〔成績評価の方法〕

毎回のレポート、出席、最終レポートの内容による。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 開口部 1
- 第2週 開口部 2
- 第3週 屋根 1
- 第4週 屋根 2
- 第5週 屋根 3
- 第6週 継手仕口
- 第7週 架構 1
- 第8週 架構 2
- 第9週 壁・床
- 第10週 階段
- 第11週 空間構成 1
- 第12週 空間構成 2
- 第13週 モジュール 京間と田舎間
- 第14週 総括 1
- 第15週 総括 2

日本生活文化史VI (住文化)

3612061600100

副題	地域と住まい			担当者	乾 尚彦 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>日本各地の集落、街並み、住まいにどのようなものがあるか、それを成り立たせてきたものはなにかの理解を得ることができる。</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>日本の各地には、その地域の伝統や風土、気候、自然にはぐくまれた住まい、集落、町並が作られてきた。現存する（あるいは、近年まで現存した）住文化の諸相、それらを継承した現代の住まいをとりあげ、そうした住文化を成立させてきた要因について考えていく。</p> <p>〔教材〕</p> <p>参考書：安藤・乾・山下『住まいの伝統技術』建築資料研究社、1995年</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>課題提出（講義の前日まで）</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>毎回のレポート、出席、最終レポートの内容による。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授業計画〕

- 第1週 雪囲いの建築術／東北、北陸
- 第2週 自律する住まい／沖縄
- 第3週 多層民家の出現 合掌造／岐阜・富山、高はっぼう造り／山形
- 第4週 コーガ石～火山の贈り物／東京都新島
- 第5週 雨除け板～住まいのレインコート／紀伊半島、四国・九州南部
- 第6週 アイヌの住まい／北海道
- 第7週 日本住宅亜種の誕生／北海道
- 第8週 ベンガラの集落／岡山県吹屋
- 第9週 風の形／鳥根県斐川平野、高知県室戸岬、和歌山県潮岬
- 第10週 街道と水路に沿った集落／福島県大内宿、長野県奈良井・妻籠・馬籠
- 第11週 住まいの祭祀空間／椎葉
- 第12週 都市祭礼／京都、岐阜県高山、川越
- 第13週 民家の再生
- 第14週 総括1
- 第15週 総括2

副題	日本神話と諸文化			担当者	神田 典城 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

神話と文化の関係を理解し、古代日本人の世界観が分かるようになる。

〔授業の内容〕

古事記と日本書紀はこの世の始まりから書き起こされており、そこには創造の時、そして神々の世界が展開している。そのストーリーを様々な神話群が構成しているわけだが、それら多くの神話の基層を探っていくと、それぞれさまざまな文化と密接にかかわっていることが明らかになってくる。そこに析出される文化の相には実に多様なものがあり、大きく見れば日本文化形成の跡を留めているといえることができる。本講義では、個々の神話ごとにその基盤となっている文化の相を明らかにし、また諸外国のそれとの比較も交えながら、日本文化の諸相を探っていく。

〔教材〕

教科書：神田典城『対照神代記紀』笠間書院

授業時に適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを読んで理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末試験(100%)による

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1週 | 古代の文献を読むために。 |
| 第2週 | 日本神話とは何か。 |
| 第3週 | 創世神話に盛られたもの（1） |
| 第4週 | 創世神話に盛られたもの（2） |
| 第5週 | 創世神話に盛られたもの（3） |
| 第6週 | イザナキとイザナミの結婚と洪水神話 |
| 第7週 | 黄泉の国の神話とギリシア神話 |
| 第8週 | コノハナノサクヤビメの神話と死の起源 |
| 第9週 | 日本神話と農耕文化①
オホゲツヒメ（1） |
| 第10週 | 日本神話と農耕文化②
オホゲツヒメ（2） |
| 第11週 | 日本神話と農耕文化③
オホナムチ（1） |
| 第12週 | 日本神話と農耕文化④
オホナムチ（2） |
| 第13週 | 日本神話と農耕文化⑤
オホナムチ（3） |
| 第14週 | 日本神話と農耕文化⑥
オホナムチ（4） |
| 第15週 | 日本神話と農耕文化⑦
オホナムチ（5） |

近代文化論I

3613001100100

副 題	労働と変革と芸術の近代			担 当 者	木村 直恵 准教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	火	時 限	2

〔授業の到達目標〕

近代文化は、労働と芸術の関係をどのように捉えたかを西洋と日本の事例について考える。

〔授業の内容〕

19世紀から20世紀の初頭にかけて、西洋においても日本においても物質文明の発展の裏で格差が拡大し、社会的矛盾が広がっていた。そうしたなかで芸術の制作と再定義に携わりつつ社会の変革についても思索したウィリアム・モリスという人物がいる。モリスは工芸家・デザイナーとして現在でも世界中で愛されるデザインの生みの親であっただけではなく、詩人であり社会改革家でもあった。この授業ではマルクス、ラスキン、ラファエル前派、そしてガンジーなど、モリスに連なる芸術と思想の系譜を紹介することとしたい。またモリスの仕事は日本においても早くから紹介され、柳宗悦や宮沢賢治にもインスピレーションを与えることになった。彼らによって考えられた働くこと、ものづくり、社会の変革と革命、エコロジー、そして生活と芸術の関係と役割といった様々なテーマは、今なお重要な問題提起でありつづけるだろう。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業内容を配布資料などを通じて復習することと、関連する文献を自習すること。

〔成績評価の方法〕

出席と期末の試験によって評価する。全授業回数数の3分の2以上出席していることが、期末試験を受験する条件となる。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 はじめに
- 第2週 ウィリアム・モリスの生涯と作品・1
- 第3週 ウィリアム・モリスの生涯と作品・2
- 第4週 アーツ・アンド・クラフツ運動・1
- 第5週 アーツ・アンド・クラフツ運動・2
- 第6週 ユートピア社会主義の系譜
- 第7週 ラスキンの思想
- 第8週 社会民主主義と厚生経済学
- 第9週 社会改良の試み・1
- 第10週 社会改良の試み・2
- 第11週 日本におけるモリスの系譜・初期社会主義
- 第12週 日本におけるモリスの系譜・柳宗悦と民芸運動
- 第13週 日本におけるモリスの系譜・宮沢賢治
- 第14週 日本におけるモリスの系譜・田園都市
- 第15週 まとめ

副題	「社会」とは何か——歴史から考える			担当者	木村 直恵 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

「社会」をめぐる近代思想の基礎的な枠組みを学び、日本語と翻訳の問題および「社会」という言葉をめぐって展開された近代日本の歴史と思想について理解する。

〔授業の内容〕

「社会」という言葉は、日頃、さまざまなシーンで耳にする機会の多い言葉である。だが、この言葉がどんな意味をもっているのかを正面から問うことは難しい。たとえば、「社会人」という言葉がある。これはいったいどのような「社会」に生きる、どのような「人」のことを意味しているのだろうか。よく気を付けてみると、「社会」という言葉の意味は一つではなく、文脈に応じていろいろな意味やニュアンス、価値づけが与えられていることが感じられるだろう。それとともに、皆さん自身もあまり自覚しないままに、「社会」という言葉をいろいろな意味で使い分けているのではないだろうか。

この言葉は、日本語にとってはもともとsocietyという言葉の翻訳語として定着したものである。societyは近代の重要概念のひとつであり、ヨーロッパ近代社会の展開とともに、この概念についての思考も深まっていった。この授業では、「社会・society」という言葉に焦点をあてつつ、この言葉をめぐる歴史と多様な意味をたどることをつうじて、私たちが今、この言葉とどのように向き合えばよいのかを考えてみたい。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回、授業後には授業内容を復習して理解を深めるとともに、授業で紹介した文献を自習すること。

〔成績評価の方法〕

出席と試験によって評価する。出席が授業回数の7割以上であることが、試験を受ける条件となる。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1週 | はじめに——「社会」のイメージ探訪 |
| 第2週 | ヨーロッパ近代の始まりと「社会」 |
| 第3週 | 「ユートピア」の構想 |
| 第4週 | 社会契約論という考えかた① |
| 第5週 | 社会契約論という考えかた② |
| 第6週 | 社会契約論という考えかた③ |
| 第7週 | 社会の自律——商業社会 |
| 第8週 | 公共圏とアソシエーション |
| 第9週 | 「社会」という問題——社会学と社会主義 |
| 第10週 | 幕末から明治へ——「社会」概念との出会いと初めての西洋「社会」体験 |
| 第11週 | 西周「相生養之道」と福沢諭吉「人間交際」 |
| 第12週 | 明治期日本のアソシエーション——明六社について |
| 第13週 | 明治10年代の「社会」 |
| 第14週 | 「社会」は変えられるものか拘束するものか |
| 第15週 | おわりに |

民俗文化論I (民俗信仰)

3615021100100

副 題	異界をのぞく			担 当 者	山崎 祐子 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	木	時 限	1

〔授業の到達目標〕

民俗学の心意伝承の基本事項を学び、異界という概念を説明できるようにする。それぞれの身のまわりの事象を民俗学の視点で分析する方法を身につける。

〔授業の内容〕

古い伝統的な行事や伝承ばかりではなく、今、自分たちの目の前で起きていることも民俗学の扱う対象である。この授業では、民間信仰の基礎知識をふまえながら、身近な問題を異界という概念を用いて解説する。

〔教材〕

教科書は使用せず、毎回、資料のプリントを配布する。参考文献は配布するプリントに記載し、授業時に適宜指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は特に必要ない。講義中に指示された重要な語句について復習すること。

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパーなどの平常点（30パーセント）、期末試験（70パーセント）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 境界の民俗
- 第3週 死後供養
- 第4週 祈願の形―守り札
- 第5週 祈願の形―呪いと占い
- 第6週 江戸の願掛け
- 第7週 民俗の諸相
- 第8週 幽霊と妖怪
- 第9週 多摩ニュータウンの狐話
- 第10週 異界への通路を探る―学校の怪談
- 第11週 異界への通路を探る―夢をめぐって
- 第12週 異界への通路を探る―番町皿屋敷ほか
- 第13週 異界をのぞく
- 第14週 まとめ
- 第15週 〃

授業内容は変更することもある。

副題	年中行事と祭礼			担当者	山崎 祐子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1

〔授業の到達目標〕

年中行事、祭礼の基本事項を学び、一年をどのようなリズムで暮らしてきたのかを学ぶ。基本的な太陰太陽暦の構造を理解し、伝統的な年中行事の意味を説明できるようにする。

〔授業の内容〕

主な年中行事を季節別に取り上げ、続いて祭礼と民俗芸能を取り上げる。祭礼と民俗芸能では、主に秋から冬にかけて行われる祭礼を取り上げ、神楽と田楽について映像を見ながら解説する。

〔教材〕

教科書は使用せず、毎回、資料のプリントを配布する。参考文献は配布するプリントに記載し、授業時に適宜指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は特に必要ない。講義中に指示された重要な語句について復習すること。

〔成績評価の方法〕

ビデオの視聴によるワークシート（25パーセント）、期末試験（60パーセント）、リアクションペーパーなどの平常点（15パーセント）

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 祭を見る
- 第3週 暦の基礎知識
- 第4週 正月と小正月
- 第5週 七夕と盆
- 第6週 年中行事の構造
- 第7週 年中行事の諸相
- 第8週 荒神神楽
- 第9週 民俗芸能の基礎知識
- 第10週 三河の花祭
- 第11週 西浦の田楽
- 第12週 競技の民俗
- 第13週 江戸の正月
- 第14週 東日本大震災の復興と民俗芸能
- 第15週 まとめ

授業で上映するビデオを借用する関係上、授業の順序が変わることがある。

副題	蘇生・転生とオニ化			担当者	伊藤 慎吾 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5

〔授業の到達目標〕

死体に対する今日のイメージはどのような民俗的背景を持っているのかを理解する。

〔授業の内容〕

〈生と死〉は人間が誰しも抱く大きな問題である。民俗学的には人生儀礼、特に誕生や葬制・墓制の問題として扱われる。現代においてもそれは重要であるが、視点を換えて、死を即物的に死体として捉えてみると、そこにはまた別に文芸の領域にも繋がるイメージが広がっていることが分かる。

死者が骸骨となって酒宴を開く情景は古くから見える。また蘇生・転生することで新たな人生を迎えることがあり、さらに死後、鬼と化して人間に害をなす存在となることもあるとも信じられてきた。そうした考えは近代社会において科学的に否定されながら、その一方で根強く息づいている。現代社会においてそれらはどのような形で継承されているだろうか。

本講義ではこうした死体をめぐる民俗的想像力の現在を見ていくつもりである。

〔教材〕

毎時、必要に応じてプリント資料を配布。

参考文献は随時紹介。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

内容が広範にわたります。前の週に指示した資料は読んでおいてください。

〔成績評価の方法〕

平常点（50%）

レポート（50%）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 本講義の概要。講義のアウトライン。授業の進め方や成績評価の方法の説明。
- 第2週 死体をめぐる民俗の諸相。猫や山犬をめぐる俗信など。また、儀礼としての死と再生。
- 第3週 輪廻転生と蘇生譚。仏教的世界観に基づく転生と蘇生。またそれ以外の転生と蘇生。
- 第4週 入れ替わり。身体と魂が他人と入れ替わること。
- 第5週 昔話の転生譚。民間説話における転生譚は世界的に見られる。また日本での特色。
- 第6週 事実譚としての転生（1）現実的に転生が事実として語られることは古くから見られた。近代の事例を中心に取り上げる。
- 第7週 事実譚としての転生（2）承前。現代の事例を中心に取り上げる。
- 第8週 中二病の設定。近年一般化してきた中二病とは何か。その設定の在り方を分析する。
- 第9週 霊鬼と元興寺（ガゴジ）。日本におけるいわゆるゾンビ化の古い例を取り上げる。
- 第10週 死者の踊り。中世の「一休骸骨」とその背景。またその後の戯画について。西洋のそれとの比較。
- 第11週 ゾンビとは何か。概説。
- 第12週 ゾンビ・ブームとその影響。ブームは日本の文化に何をもたらしたか。
- 第13週 サブカルチャーにおけるゾンビ化傾向（1）近年、ゾンビをヒロインにしたサブカル作品が散見されるようになった。その概要を押さえる。
- 第14週 サブカルチャーにおけるゾンビ化傾向（2）承前。背景を考察する。
- 第15週 まとめ。以上の講義の整理。

副題	もの言う動物をめぐる文化			担当者	伊藤 慎吾 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5

〔授業の到達目標〕

日本の精神文化においてどのように動物が表現されてきたかを理解する。

〔授業の内容〕

現代の日本において、人間と動物との関わり方は多様である。その捉え方はいろいろあるが、中でも都市民俗学分野から見れば、キャラクター（ゆるキャラや広告キャラクター、物語の登場キャラクター）として日常的に関わっている点が最も注目されるだろう。また人間と自然との対立を示すために動物を象徴的に扱うことも文芸創作ではしばしば見られるようになった。一方、現実の動物については、ペットから家族の一員へと存在意義が拡大し、その反面、高度成長期以来消滅しつつあった狩猟文化が農作物や観光地への被害の拡大によって見直されてきている。

とくに人間によって表現された動物は、神仏そのもの、あるいは神仏の使いとしての動物との交渉、また怪異をもたらすものとしての動物との交渉、文芸世界の中の動物との交渉などに主だった特徴が見られる。こうした動物たちは、多く、人語を用いて人間に接触してくる。そしてその言動は人間的である場合もある。

本講義では、そうした動物をめぐる日本文化を考えていくものである。その際、妖怪・憑き物・擬人化の3つの分けて取り上げていく。

〔教材〕

毎時、プリント資料を配布。

また、随時、参考書を紹介。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前の週に指示した資料を読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

平常点（50%）

レポート（50%）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 総論。全体の概要。また授業の進め方、成績評価の説明。
- 第2週 動物妖怪について。妖怪とは何か。神の使い・精霊・怪獣との違い。
- 第3週 伝統的な動物妖怪。妖狐・玉藻の前・九尾の狐。歴史的展開と現在。
- 第4週 ご当地キャラクターとしての妖怪。キャラクターとしての特色。
- 第5週 サブカルチャーに見られる妖怪（1）マンガ・アニメ・ゲーム・ライトノベルなどに見られる妖怪の特色。
- 第6週 サブカルチャーに見られる妖怪（2）承前。
- 第7週 憑き物について。狐憑き・犬神憑き・狸憑き・猫憑きなど。狐憑きの諸相。また歴史的展開と現状。
- 第8週 中世の事例。狂言「梟山伏」と馬の神の告文。また『小栗判官』の馬。
- 第9週 動物の夢告について。『猫の草紙』の猫など。
- 第10週 動物の口寄せについて。またペットリーディング、アニマルコミュニケーション。
- 第11週 擬人化とは何か。概説。日本での歴史的展開。妖怪との違い。
- 第12週 児童文化における擬人化キャラクターについて。近世の赤本・近代の子ども絵本・現代の子ども絵本を中心に。またマンガ・アニメ・ゲーム・玩具なども取り上げる。
- 第13週 現代のサブカルチャーにおける擬人化キャラクターの特色。同人誌や一般のサブカル作品を取り上げる。
- 第14週 擬人化コスについて。コスプレの概要と擬人化表現の傾向。
- 第15週 まとめ。本講義の整理。

比較民俗文化論Ⅰ（民間伝承）

3615022100100

副 題	日本の昔話と伝説			担 当 者	徳田 和夫 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	水	時 限	2

〔授業の到達目標〕

- ①日本に伝わる民間説話（口承文芸、民間文芸）のうちの「昔話」「伝説」について知識を深めます。
- ②その文化史的な意義を把握します。
- ③諸外国の民間説話と比較して、世界的な普遍性と地域（日本、東アジア）の独自性を考えます。

〔授業の内容〕

民間説話について概説し、「昔話」と「伝説」を具体的に取りあげて、それぞれの特徴と意義を講義します。そのつど、比較文化の観点から外国の類話や対応話を紹介して、普遍性と独自性を考えていきます。

〔教材〕

教科書：徳田和夫『図説：絵とあらすじでわかる！日本の昔話』（青春新書インテリジェンス）青春出版社，2014年

上記の教科書は日本文化学科事務室にて販売する予定です。また、折々プリント資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献を、あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

レポートによる。なお、当然のことながら出席をきわめて重視します。

〔備考〕

- （1）当科目は秋学期の「比較民俗文化論Ⅱ（民間伝承）〔外国編〕」と連動しています。
- （2）授業時における、私語、および正当な理由なき途中退出を厳禁とします。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 民間説話とは？
- 第2週 昔話と伝説について
- 第3週 外国の昔話について①—アジア圏—
- 第4週 外国の昔話について②—ヨーロッパ圏—
- 第5週 本格昔話①
- 第6週 本格昔話②
- 第7週 本格昔話③
- 第8週 本格昔話④
- 第9週 本格昔話⑤
- 第10週 動物昔話①
- 第11週 動物昔話②
- 第12週 動物昔話③
- 第13週 笑い話①
- 第14週 笑い話②
- 第15週 まとめ

副題	外国の昔話と伝説			担当者	徳田 和夫 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

- 1.民間説話（口承文芸、伝承文芸）の文化的な意義を把握します。
- 2.民俗学、物語学（ナラトロジー）・説話学などの専門学術の目的と方法を理解します。
- 3.民間説話をフィールドにして、日本と外国との文化比較を実践的に修得します。

〔授業の内容〕

およそ人間の共同社会が営まれるところには、はやくから口承文芸や民間の物語が生まれ、今なお様ざまなかたちで伝えられています。このグローバルな普遍性のもとに、特定域（国、民族、言語）の昔話と伝説が存在しています。つまり私たちの物語文化は孤立したものではありません。世界中のそれと同じように歩み、そのうえで個別の歴史を創ってきました。

この授業は、秋学期の「比較民俗文化論Ⅰ：（民間伝承）〔日本編〕」と連動しています。なるべく両者を履修するようにして下さい。日本の昔話を諸外国、諸民族のそれと比較対照することによって、その共通面と各々の独自面を考えながら、伝承文芸の文化史的意義を講義します。

〔教材〕

教科書：徳田和夫『図説：絵とあらすじでわかる！日本の昔話』（青春新書インテリジェンス）青春出版社、2014年

教材として複写資料を用意します。また、必要に応じて参考書、研究論文を授業時に紹介していきます。

参考論文：徳田和夫「民間説話と古文書」（『民間説話の研究 - 日本と世界』1987年、同朋社）、「浄蔵法師と恩愛の妻子」（イメージ・リーディング叢書『絵語りと物語り』1990年、平凡社）、「『長谷雄草紙』絵巻と昔話『鼻高扇』」（昔話 - 研究と資料19『視る昔話』1991年、三弥井書店）、「『欲の熊鷹』の分布圏 - お伽草子・異類物世界への通路」（『伝承文学研究』46号、1997年）、「中世の民間説話と『蛙の草紙絵巻』」（『学習院女子大学紀要』3、2001年）、「いつの世とても狐の話 - 近世における中世」（『国文学』49・5号、2004年、学燈社）、「鳥獣草木譚の中世 - 『もの言う動物』説話とお伽草子『横座房物語』」（講座日本の伝承文学10『ヨミ・カタリ・ハナシの世界』2004年、三弥井書店）、「古典説話と昔話」（シリーズことばの世界2『かたる』2008年、同）、「『怪怪草紙絵巻』、その綾なす妖かし」（『妖怪文化の伝統と創造』2010年、せりか書房）。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献を、あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況、学期末のレポートによっておこないます。

〔備考〕

- (1) 下記の授業計画の内容、順序には変更があります。
 - (2) 当科目は春学期の「比較民俗文化論Ⅰ（民間伝承）〔日本編〕」と連動しています。
- ※授業内容とは無関係な私語、携帯電話の使用、正当な理由なき中途退出を厳禁とする。

〔授 業 計 画〕

第1週 同話・類話，比較説話学，物語学（ナラトロジー）

第2週 動物の物語

第3週 人間と動物の物語

第4週 グリム童話（1）

第5週 グリム童話（2）

第6週 文化英雄

第7週 世界のシンデレラ

第8週 ドラゴン退治の物語

第9週 トリック・スターと巨人伝説

第10週 精霊と妖怪

第11週 アイヌ民族の昔話（1）

第12週 アイヌ民族の昔話（2）

第13週 東アジアの昔話（1）

第14週 東アジアの昔話（2）

第15週 まとめ

比較生活文化論I (地域食文化論)

3615031100100

副題	食文化へのアプローチ			担当者	磯部 泰子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

日本の食文化を広く世界に発信できるように、食文化の基礎知識を学び、日本の食文化をきめ細かく伝える方法を取得できるようにする。

〔授業の内容〕

自然環境とそこで生活する人々の工夫によって、世界各地域に独特の食文化が形成されている。

日本の食文化の地域性と日本人の味覚特性を理解して、海外の食教育の方法論や味覚を比較することにより、多角的な視点で日本の食文化を観られるようにする。

〔教材〕

参考書：石毛直道『石毛直道 食の文化を語る』第1版，ドメス出版，2009年

原田信男『日本料理の社会史 和食と日本文化』第1版，小学館，2005年
必要に応じてプリントを配布し，参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

「発酵」か「旨み」に関して，自分で本を調べ，レポートで提出。20時間

食文化に関して自分のテーマをみつけて，調べて，レポートで提出する。30時間

授業で出す課題に関する感想レポート作成。10時間

〔成績評価の方法〕

レポート（25%），発表（25%），出席状況（50%）により評価する。

〔備考〕

味覚の実施授業などを行うために，受講者を制限する。

受講者は日本文化学科掲示板を確認すること。

シラバスの内容や日程は，変更される可能性がある。

授業内容に質問がある場合には，isobe@gol.com までメールで問い合わせして下さい。

〔授業計画〕

第1週	ガイダンス
第2週	食文化とは「風土と食文化」
第3週	食から見た日本史「米を選んだ日本の歴史」
第4週	味覚授業1「醤油」 醤油の国際化「如何に海外に広まったか」
第5週	「発酵」
第6週	味覚授業2 嗜好「台湾茶」
第7週	「旨み」
第8週	日本の食文化からの考察1 「世界無形文化遺産 和食」
第9週	日本の食文化からの考察2
第10週	食文化へのアプローチ・視点を学ぶ1 「食文化の物語性と町おこし」海外の事例
第11週	食文化へのアプローチ・視点を学ぶ2 「食における価値創造」
第12週	食文化へのアプローチ・視点を学ぶ3 「地域の食と歴史を考証」国内の事例
第13週	食文化へのアプローチ 国際比較
第14週	発表
第15週	まとめ

副題	装身具にみる日本の服飾文化			担当者	梅谷 知世 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

装身具の歴史を通して日本の服飾文化の特質について理解する。

〔授業の内容〕

装身具は装いの一部をしめるにすぎないが、装飾性をはじめ服飾に求められる役割が凝縮されていることが多い。わが国では、縄文・弥生・古墳時代の装身具は呪術性や社会的な立場の表示という機能をもち、平安時代にはコミュニケーションの道具という側面をもつ扇が発展した。近世に入ると、桃山時代には異装を好む風潮を背景に変わり兜が流行する。江戸時代には高度な工芸技術を駆使した印籠・袋物・髪飾りなどが発展し、市民層にまで装身具文化が広がる。これらの装身具には身につける人の趣味や感性、教養を反映した多彩な趣向が凝らされ、装身具と装い全体との調和を重視する洗練された服飾文化が形成された。明治時代以降は、和装に洋傘や指輪や懐中時計などの西洋式装身具を組み合わせる和洋折衷の装いが新しい形の日本風として広く好まれるようになる。

本授業では、以上のような古代から近代までの日本の装身具の変遷をたどり、各時代の装身具に託された人びとの生活感情や美意識について考察する。

〔教材〕

教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

参考文献は授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に紹介する参考文献を読み、授業内容についての理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

出席状況、学期末の試験によって評価する。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 はじめに一装身具研究の意味
- 第2週 縄文・弥生時代の装身具
- 第3週 古墳時代の装身具
- 第4週 奈良時代の装身具
- 第5週 平安時代の装身具（扇）
- 第6週 桃山時代の装身具（変わり兜）
- 第7週 江戸時代の装身具1（印籠と根付）
- 第8週 江戸時代の装身具2（櫛・簪・笄）
- 第9週 江戸時代の装身具3（装身具の意匠と絵師）
- 第10週 江戸時代の装身具4（袋物1）
- 第11週 江戸時代の装身具5（袋物2）
- 第12週 近代の装身具1（和装用装身具にみる明治の新風）
- 第13週 近代の装身具2（西洋式装身具の受容と展開1）
- 第14週 近代の装身具3（西洋式装身具の受容と展開2）
- 第15週 まとめ

日本生活文化論II (通過儀礼)

3615032200100

副題	慶弔の装い			担当者	福島 雅子 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

通過儀礼の装いの歴史について学び、日本の伝統文化への理解を深める。

〔授業の内容〕

七五三や成人の祝事などの通過儀礼は、現代の日本社会においても息づいており、私たちにとって最も身近な伝統的儀礼といえる。本講義では、日本における通過儀礼の装いに焦点を当て、その起源と展開をたどる。

〔教材〕

授業時に、適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には、配布資料と指定した参考文献等を確認し、授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

期末試験またはレポート（70%）、出席状況と授業態度（30%）により評価する。期末試験またはレポートについては、履修者数により決定する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
 - 第2週 慶弔の装い
 - 第3週 出産の装束
 - 第4週 誕生に関する儀礼
 - 第5週 七五三の歴史（1）
 - 第6週 七五三の歴史（2）
 - 第7週 成人の祝事（1）
 - 第8週 成人の祝事（2）
 - 第9週 振袖の今昔
 - 第10週 婚礼衣装（1）
 - 第11週 婚礼衣装（2）
 - 第12週 留袖の今昔
 - 第13週 長寿の祝事
 - 第14週 葬送の儀
 - 第15週 まとめ
- 授業計画は変更することがある。

副題	祭祀空間の構造			担当者	乾 尚彦 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4

〔授業の到達目標〕

様々な祭祀が都市，集落，住まいのなかでどのようにおこなわれてきたかを理解する。

〔授業の内容〕

居住空間を正しく理解するためには，日常生活だけでなく，祭祀，儀礼がどのようにおこなわれるかを理解する必要がある。日本各地の様々な祭祀を映像で紹介しながら，それが都市，集落，住まいの空間とどのように関わるのかを考察し，日本の祭祀空間の構造の特質を述べていく。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

課題提出（講義の前日まで）

〔成績評価の方法〕

毎回のレポート，出席，最終レポートの内容による。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	住まいで祀る神々		
第2週	冬祭りのコスモロジー 1	奥三河花祭り，高千穂神楽，椎葉神楽，備中神楽	
第3週	冬祭りのコスモロジー 2	新野の雪祭り，西浦田楽	
第4週	冬祭りのコスモロジー 3	遠山の霜月祭り，坂部の冬祭り	
第5週	冬祭りのコスモロジー 4	大日堂舞楽	
第6週	祖霊を迎える空間 1	三遠南信の盆踊り，念仏踊り	
第7週	祖霊を迎える空間 2	小浜島のソーラ，悪石島のボジェ	
第8週	豊饒を迎える空間 1	藤守と板橋の田遊び，伊雑宮と会津の御田植祭り	
第9週	豊饒を迎える空間 2	龍郷のショッチョガマと平瀬マンカイ，竹富島のタナドゥイ	
第10週	豊饒を迎える空間 3	久高島の八月行事	
第11週	祓いと再生 1	蛇と獅子～蛇も蚊も祭り，間々田の蛇祭り，三朝のジンショ，沼田の湯立て神楽	
第12週	祓いと再生 2	渡名喜島のシマノーシ，弥美神社大祭	
第13週	祓いと再生 3	室根大祭，相模国府祭（こうのまち），大国魂神社暗闇祭り，春日若宮おん祭	
第14週	まとめ 1		
第15週	まとめ 2		

日本生活文化論Ⅳ（都市生活論）

3615032400100

副題	都市の「遊び空間」をめぐる文化史			担当者	高久 聡司 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

都市における公園や学校校庭など「遊び空間」が日常生活に浸透していく過程と諸問題を歴史的に辿り、現代の都市生活における「子どものため」という論理の問題について理解する。

〔授業の内容〕

都市生活を営む上で、家族や諸制度のあり方など「子ども」という存在は議論の中心に置かれることが多い。しかし、その議論を掘り下げてみると、「子どものため」という論理の奇妙さが浮かび上がってくる。この授業では、近年、「子ども」「都市」「環境」という現代社会のキーワードと関連して、徐々に広がりつつある、学校の「校庭芝生化」という取り組みを中心に、都市の「遊び空間」が日常生活に浸透していく歴史と「子どものため」という論理の問題点を考える。具体的には、多くの人にとっては「土」が当たり前の校庭をめぐる取り組みがなぜ現代社会で生じたのか、校庭など「遊び空間」が都市生活に位置づけられてきた歴史など身近な例をあげながら、われわれが都市生活を営む上での課題を社会的に理解する。

この授業の射程は地域社会学、都市社会学、教育社会学、環境社会学へも広がっている。受講者各自の問題関心に照らして事例を読み解くことを期待する。

〔教材〕

教科書：高久 聡司『子どものいない校庭：都市戦略にゆらぐ学校空間』勁草書房，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には教科書（指定範囲）をあらかじめ読んだ上で出席すること。

〔成績評価の方法〕

学期末のレポート（70%）および講義中に行うコメントペーパー（30%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
 - 第2週 都市の「遊び空間」をめぐる諸問題（1）：子どもの声は騒音か？
 - 第3週 都市の「遊び空間」をめぐる諸問題（2）：「自由」な空間／「不自由」な空間？
 - 第4週 都市の「遊び空間」をめぐる諸問題（3）：「当たり前」の空間と都市生活
 - 第5週 都市生活に浸透していく空間（1）：1900年代前後の学校校庭をめぐる
 - 第6週 都市生活に浸透していく空間（2）：1900年代前後の近代的公園と原っぱをめぐる
 - 第7週 都市生活の問題下に置かれる空間（1）：1970年代前後の学校校庭の舗装問題
 - 第8週 都市生活の問題下に置かれる空間（2）：1970年代前後の原っぱへの郷愁
 - 第9週 都市生活の問題下に置かれる空間（3）：1970年代前後の公害問題と「遊び空間」
 - 第10週 都市戦略の変容と都市生活
 - 第11週 都市生活の問題を照らす空間（1）：2000年代以降のボランティア・NPOの高まり
 - 第12週 都市生活の問題を照らす空間（2）：2000年代以降の地球環境問題
 - 第13週 都市生活の問題を照らす空間（3）：2000年代以降の「子ども」の居場所をめぐる
 - 第14週 「子どものため」の空間をめぐる課題
 - 第15週 まとめ
- 授業計画は変更することがある。

副題	受領からみた平安時代			担当者	中込 律子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

(1) 平安貴族の一員でもある受領(国司)が平安中期の地方および京都において果たした役割を学び、転換期の様相を理解する。(2) 平安時代に関する基礎知識を修得する。(3) 平安時代に関する誤った通念を改め、同時に歴史は後世の人間により歪曲されやすいことを理解する。(4) 歴史的思考を身につけ、政治・社会・経済・文化などの面から多角的に考えることを学ぶ。

〔授業の内容〕

平安時代と聞いて、多くの人が最初に思い浮かべるのは貴族であろう。貴族は優雅な生活をおくるばかりで、地方には無関心なため、地方社会は治安が乱れるなど混乱した、というイメージで語られている。しかし、実際の貴族は意外にバイタリテイをもっている。平安時代一特に中期一は古代から中世へと社会全体が大きく変化する時代で、本年度取り上げる受領は、変化する社会のなかで地方支配を担う存在であった。一方で、受領は貴族社会の一員として京都でも活躍し、貴族社会を経済的に支えるだけでなく、文化面でも重要な役割を果たした。紫式部など女流文学の作者の多くは、受領の娘・妻として地方で生活した経験をもっている。受領やその周辺の人々の活動を多方面からみることで、平安時代の社会を多角的、かつイメージ豊かにとらえ直す。文学や絵画史料なども使用して、具体的に講義する。

〔教材〕

授業時にプリントを配布。参考書は、随時プリントで紹介する。

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

大学を日本史以外の科目で受験した者は、耳慣れない日本史の基礎的用語に慣れておくために、少なくとも高校教科書の平安時代の部分に目を通しておくこと。
各回、プリント・ノートで復習し、疑問点をみつけて質問用紙に記載できるようにする。次回プリントが配布されている場合は、目をとおして考えておくこと。

〔成績評価の方法〕

随時のペーパーによる質問への解答による出席確認：5～10%
学期末試験(論述形式)による評価：90～95%

〔備考〕

講義において随時質問用紙を配布し、学生の基礎知識や講義の理解度を確かめる。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 はじめに ―平安時代のイメージ―
- 第2週 平安時代の概観
- 第3週 受領とは? ―都と地方を結ぶ者
- 第4週 文学にみられる受領像(1)―京の受領, 任国の受領
- 第5週 文学にみられる受領像(2)―任国での職務
- 第6週 文学にみられる受領像(3)―受領と受領従者・郡司
- 第7週 地方支配と受領(1)―尾張国郡司百姓解から何を讀み取るか
- 第8週 地方支配と受領(2)―税制の変化と流通1―
- 第9週 地方支配と受領(3)―税制の変化と流通2―
- 第10週 地方支配と受領(4)―考古学からみた9～10世紀の地方情勢
- 第11週 貴族社会と受領(1)―平安貴族の生活と受領
- 第12週 貴族社会と受領(2)―朝廷の政治と受領
- 第13週 貴族社会と受領(3)―藤原道長と受領たち
- 第14週 平安時代の文化と受領―主に文学の面から
- 第15週 理解度の確認

必要に応じて講義順を変更する場合がある。

日本史論II (中世)

3615041200100

副題				担当者	関 幸彦 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5

〔授業の到達目標〕

文学と史学の接点を考え、日本の中世、特に平安・鎌倉時代の歴史を「百人一首」から読み解きます。

〔授業の内容〕

今年度も新しく『百人一首』を材料に、王朝時代の作者たちの来歴を考えます。代表的歌人たちを取り上げ、古代から中世への大きな歴史の流れで、敗れし者たちも視野に入れて、史実と伝説の広がりについて論じます。文学としてではなく、史学としての立場で議論をすすめます。伝承や伝説に彩られている人物たち－蟬丸、小野篁、在原業平、西行法師、藤原定家、後鳥羽院、紫式部、清少納言、小野小町等々－の来歴などを歴史学の立場から掘り下げる。

〔教材〕

教科書：関幸彦著『百人一首の歴史学』NHK出版

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキスト相当項目について、若干の予習が希ましい。

〔成績評価の方法〕

試験 70% 出席 30%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 王朝時代の敗者たち 古代から中世へ
- 第2週 〃
- 第3週 百人一首の時代（王朝時代の諸相）
- 第4週 〃
- 第5週 天皇たちの歌—三条院と摂関政治
- 第6週 天皇たちの歌—崇徳院と院政
- 第7週 天皇たちの歌—怨霊論
- 第8週 天皇たちの歌—後鳥羽院と承久の乱①
- 第9週 天皇たちの歌—後鳥羽院と承久の乱②
- 第10週 天皇たちの歌—順徳院と承久の乱
- 第11週 伝説の歌人たち 女房歌人（紫式部と清少納言）
- 第12週 〃
- 第13週 伝説の歌人たち 僧侶歌人（西行）
- 第14週 伝説の歌人たち 僧侶歌人（蟬丸）
- 第15週 「百人一首」と歴史学

「百人一首」の作者たちを介して、平安～鎌倉時代（中世前期）の王朝の歴史を読み解きます。敗者の目線から天皇、女流歌人、公卿がかかわった歴史的事件に話を広げようと思います。

副題	江戸の都市社会			担当者	岩淵 令治 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

江戸の都市社会を通して、江戸時代の社会のしくみを理解する。

〔授業の内容〕

近世は、前近代の日本の中で最も都市が発達した「都市の時代」であった。領主が政治・経済の集中を図って計画的に作った城下町、商品流通の発展の中で成長していった在方町は、共通するしくみや文化を持ち、その多くが現代日本の都市の母体となっている。講義では、世界でも有数の人口・規模をほこり、最大の城下町であった江戸をとりあげる。とくに、武家地と町人地を中心に、都市社会のありようを紹介する。

〔教材〕

参考書：岩淵令治編『江戸・大坂・京の三都物語』（週刊朝日百科日本の歴史30）朝日新聞社、2014年

杉森哲也・岩淵令治ほか『日本近世史』放送大学教育振興会、2013年

岩淵令治『江戸武家地の研究』塙書房、2004年

テキストはコピーを配布する。また、授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習はとくに必要ない。プリント類を再確認するなど、復習すれば、講義の内容について理解は深まるだろう。

〔成績評価の方法〕

出席状況・授業態度（30%）、期末試験（70%）で判断する。期末試験は記述式で、ノートと講義中に配布したプリント持ち込みを可とする。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 近世の概説
- 第2週 近世社会のしくみ 役と身分
- 第3週 日本都市史の概説・近世の都市
- 第4週 三都論
- 第5週 町人地（1）町と町人
- 第6週 町人地（2）町の変容
- 第7週 町人地（3）江戸の商人
- 第8週 武家地（1）武家地の成立と展開
- 第9週 武家地（2）大名家と江戸の菩提寺
- 第10週 武家地（3）武家地と出入商人
- 第11週 寺社地
- 第12週 江戸の消防制度
- 第13週 都市の文化－園芸－
- 第14週 近世考古学
- 第15週 補足とまとめ

進捗状況によって計画の変更がありうる。

副題				担当者	加藤 厚子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

幕末から高度経済成長期までのマス・メディアの発達過程を概観し、その特性を検討するとともに、時代背景をふまえ関連政策の制定過程を検討することによって、国家と社会、マス・メディアの関係を多面的に理解し分析するための基礎能力を養うことを目標とする。

〔授業の内容〕

一般家庭におけるインターネット環境の普及以降、マス・メディアに対する人々の認識やマス・メディア産業そのものが大きく変化しており、インターネット普及以前のマス・メディアの歴史についても様々な見解が登場している。また、報道・広告・娯楽など社会的機能について日本と諸外国とを比較した場合、国によってメディアの複合過程に特徴がみられる。これはメディアの社会的位置づけや産業としての発達程度、政府によるメディア政策などの差異に起因するものであり、この歴史的経緯をふまえなければ、日本における特徴や現況の正確な把握は困難である。本講義では歴史学の観点から、幕末から高度経済成長期までのマス・メディア産業の発達過程を概観し、その特性を検討することで、現在のマス・メディアを考察するための基礎能力を養う。

〔教材〕

参考書：佐藤卓己『現代メディア史』（岩波テキストブックス）岩波書店、1998年
佐藤卓己・渡辺靖・柴内康文編『ソフトパワーのメディア文化政策』新曜社、2012年
その他参考文献は講義中で紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回配布する、次回講義に関するプリント（資料）を読んでくこと

〔成績評価の方法〕

小レポート1回（20%）、学期末試験（80%）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 マス・メディア発達過程の通史的整理
- 第2週 マス・メディア概念の変化
- 第3週 活字メディア（1）新聞の企業化
- 第4週 活字メディア（2）戦時下の統合と戦後の事業再編
- 第5週 活字メディア（3）出版業の興隆
- 第6週 音声メディア（1）ラジオ放送の開始
- 第7週 音声メディア（2）占領政策に伴うラジオ放送改革
- 第8週 音声メディア（3）レコードとコンテンツ販売
- 第9週 映像メディア（1）企業化と寡占市場の形成
- 第10週 映像メディア（2）戦時統制と市場の拡張・再編
- 第11週 映像メディア（3）日本映画黄金期の到来
- 第12週 映像メディア（4）テレビの普及と既存メディア
- 第13週 メディアの構成要素（1）通信社
- 第14週 メディアの構成要素（2）広告
- 第15週 メディアの構成要素（3）輿論と世論

授業内容は進行状況により変更する場合がある。

副題	中世・近世の日朝関係			担当者	米谷 均 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4

〔授業の到達目標〕

中世～近世日朝関係史を、対馬を軸に概説して理解を深める。また本講義では、ヒトの往来やモノの交流などによって得られる「相互理解」はもとより、情報の一方通行などによって生じる「相互不理解」についても積極的に検討する。

〔授業の内容〕

本年は日韓両国の国交が成立して50年目にあたるが、歴史問題や領土問題などをめぐる両国の対立は、残念ながら激化することが予想されている。それは両国が「似て非なるもの」であるにもかかわらず、「我をもって彼を察する」悪循環が、大きく関係しているのである。本講義では、前近代の日本と朝鮮半島との因縁の関係を、ヒト・モノ・情報の交流という視点から検討する。その際には、東アジア海域という開かれた海の世界のなかで、両国の関係を多角的に考察するよう心がけたい。なお視聴覚面からの理解を深めるため、機会があればDVDやビデオなども利用したい。

〔教材〕

参考書：橋本雄『偽りの外交使節―室町時代の日朝関係―』（歴史文化ライブラリー351）吉川弘文館，2012年
 田代和生『新・倭館―鎖国時代の日本町―』新装版，ゆまに書房，2011年
 佐伯弘次『対馬と海峡の中世史』（日本史リブレット77）山川出版社，2008年
 鶴田啓『対馬からみた日朝関係』（日本史リブレット41）山川出版社，2006年
 田代和生 校注『交隣提醒』（東洋文庫852）平凡社，2014年
 授業で配布するプリントを中心に講義を行います。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配付されたプリントは予め目を通しておいて下さい。

〔成績評価の方法〕

論述試験ないしはレポート（どちらかを選ぶかは未定）のほか、出欠状況を加味して評価を出します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 第1週 | ガイダンス（日朝関係と対馬の歴史） |
| 第2週 | 東シナ海地域における前期倭寇―「倭寇」は全て日本人の海賊なのか？― |
| 第3週 | 同 上 |
| 第4週 | 対馬宗氏と応永の外寇（1419年）―「対馬は韓国領」なる言説の源泉― |
| 第5週 | 同 上 |
| 第6週 | 中世日朝通交体制の成立―ハンコによる通交統制― |
| 第7週 | 同 上 |
| 第8週 | 朝鮮仏教文物の日本渡来―「倭寇」による掠奪品？ 外交使節による招来品？― |
| 第9週 | 同 上 |
| 第10週 | 朝鮮通信使の来日と室町幕府―中世日本と外国使節― |
| 第11週 | 同 上 |
| 第12週 | 書き替えられる国書―偽造と改竄（かいざん）― |
| 第13週 | 同 上 |
| 第14週 | 文禄・慶長の役と戦後処理―戦争捕虜の送還― |
| 第15週 | 同 上 |

講義の進捗状況により、授業計画を変更することもあります。

☆歴史資料論I (考古)

3615061100100

副題					担当者	工藤 雄一郎 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	

〔授業の到達目標〕

考古学の基礎を学び、その研究目的と研究手法を学ぶ。
遺跡研究の中で特に研究の進展の著しい年代学や環境考古学、植物考古学について理解する。
旧石器時代から弥生時代までの人々の生活の変化を理解する。

〔授業の内容〕

考古学とはどういった学問なのか。まずはその方法と研究対象の基礎を学ぶ。そのうえで、近年の考古学では、自然科学分析などを取り入れた学際研究が特にその重要性増しつつあることから、遺跡研究の中で特に研究の進展の著しい環境考古学、植物考古学について、旧石器時代から弥生時代までの研究事例を取り上げながら、最新の研究動向について理解する。

〔教材〕

教科書：工藤雄一郎・国立歴史民俗博物館『ここまでわかった！縄文人の植物利用』第3版，新泉社，2012年
参考書：小林謙一・工藤雄一郎・国立歴史民俗博物館『縄文はいつから？地球環境の変化と縄文文化』増補版，新泉社，2012年
教材として、毎回プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書，参考書に目を通し，疑問点を授業中に質問できるようにすること。

〔成績評価の方法〕

出席，学期末試験による。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 第1週 | ガイダンス（講義の概要と予定） |
| 第2週 | 考古学とは？考古学の方法と研究対象 |
| 第3週 | 遺跡の時期や年代を知るには？ 層位学的方法と型式学的方法，理化学的方法 |
| 第4週 | 旧石器時代はいつから？ 人類の進化－約600万年の歴史－ |
| 第5週 | 遊動する旧石器時代の狩猟採集民とその生活－石器からわかること－ |
| 第6週 | 日本列島の最古の土器土器の出現と縄文時代の始まりを考える |
| 第7週 | 人と植物の関わり方の文化史－低湿地遺跡の考古学 |
| 第8週 | 縄文人は森をどのように利用したのか |
| 第9週 | マメを育てた縄文人－圧痕レプリカ法を学ぶ－ |
| 第10週 | ウルシと漆の文化史 |
| 第11週 | 下宅部遺跡と縄文人の植物利用 |
| 第12週 | 花粉や種実の分析からわかること |
| 第13週 | 縄文時代の土偶を知ろう |
| 第14週 | 縄文時代から弥生時代へ |
| 第15週 | まとめと解説 |

副題	江戸時代の古文書の解説			担当者	岩淵 令治 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

江戸時代のくずし字を、辞書を用いて解説できる能力を養うことを目標とする。

〔授業の内容〕

日本文化を研究する上で、先行研究のサーベイとともに基礎となるのは、資・史料の分析である。本講義では、江戸時代の古文書読解の独習能力を身につけることを目標とする。具体的には、テキストを配布し、履修者に予習してきてもらい、外国語と同様に毎回輪読する形ですすめていく。テキストは原文書の写真版を用いる。

〔教材〕

教科書：林英夫ほか『近世古文書解説辞典』柏書房

古文書を解説するために、辞書は不可欠なので、履修者は購入してください。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

外国語の学習と同様であるため、辞書を用いての解説の予習・復習は必須である。

〔成績評価の方法〕

通常の受講態度（50%）と学期末試験（50%）で判断する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス（近世古文書の概要）
- 第2週 辞書の使い方等の説明
- 第3週 テキストについての解説
- 第4週 テキスト（古文書の写真版）の輪読
- 第5週 ヶ
- 第6週 ヶ
- 第7週 ヶ
- 第8週 ヶ
- 第9週 ヶ
- 第10週 ヶ
- 第11週 ヶ
- 第12週 ヶ
- 第13週 ヶ
- 第14週 ヶ
- 第15週 補足とまとめ

進捗によって、計画を変更することがある。また、可能であれば、博物館見学を1回実施したい。

歴史資料論Ⅳ（古文書）

3615061400100

副 題	江戸時代の古文書を読みとく			担 当 者	工藤 航平 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	金	時 限	2

〔授業の到達目標〕

江戸時代のくずし字を、辞書類を用いて解説・理解する能力を身に付けることを目標とする。

〔授業の内容〕

日本文化を研究する上での第一歩となるのは、記録史料（古文書、古記録、金石文など）を読み解くことである。本講義では、古文書の写真版をテキストとし、履修者に予習してきてもらい、毎回輪読する形で進めていく。くずし字の解説方法、辞書類の使い方、古文書に記された意味や時代背景などについて、適宜解説を加える。

〔教材〕

教科書：林秀夫ほか『近世古文書解説辞典』柏書房

古文書の解説に必要な不可欠なので、履修者は購入の上、講義に必ず持参してください。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

外国語の学習と同様であるため、辞書を用いての解説の予習・復習は必須である。

〔成績評価の方法〕

通常を受講態度（50%）と学期末試験（50%）で判断する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週 ガイダンス（授業方針、江戸時代の古文書の概要）

第2週 辞書類の使い方等の説明

第3週 テキストの輪読

第4週 〃

第5週 〃

第6週 〃

第7週 〃

第8週 〃

第9週 〃

第10週 〃

第11週 〃

第12週 〃

第13週 〃

第14週 〃

第15週 補足とまとめ

第1週では、授業計画と江戸時代の古文書の全体像を解説し、本講義の意義について理解してもらおう。／第2週では、実際に短い古文書を用いてくずし字の見方、辞書類の利用方法などを解説し、基本的な読解するための技術を身に付けてもらう。／第3週から第14週では、実際にテキストを用いて、履修者に輪読を行ってもらい、それをもとに適宜解説を加える。／第15週では、講義全体のまとめと補足を行うことで、身に付けた能力・技術の再確認をしてもらう。

副題	日本絵画史の諸様相			担当者	石田 佳也 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

様々なテーマを通して、各時代の画家や主要な作品を確認することにより、日本絵画史の概要を理解する。

〔授業の内容〕

絵巻や屏風などの日本絵画には、花鳥や山水、人物、動物などさまざまな画題が描かれている。この講義では、日本絵画史の基礎事項を確認しながら、とくに個々の主要作品の画題に着目して、その画家や流派、技法、文化史的意義や時代背景を詳しく考察する。

〔教材〕

参考文献に関しては授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回は配布したレジユメの内容を、15分程度の時間で再確認する。可能であれば、授業中に指定した参考文献を参照し(1時間以上)、また授業中に推薦する授業に関連した展覧会を鑑賞する(1時間以上)。

〔成績評価の方法〕

出席状況（40%）と期末のレポート（60%）によって評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業内容のガイダンス
- 第2週 日本絵画史の基礎事項 画家や流派、技法を中心に
- 第3週 〃
- 第4週 〃
- 第5週 日本絵画の画題について
- 第6週 日本絵画史の諸様相 主要作品を通して文化史的意義や時代背景を考察する
- 第7週 〃
- 第8週 〃
- 第9週 〃
- 第10週 〃
- 第11週 〃
- 第12週 〃
- 第13週 〃
- 第14週 〃
- 第15週 総括

毎回、スクリーンに関連する画像を相当数映写する。
講義で取り上げる項目の順番は、適宜変更する場合もある。

形象文化論II (絵画)

3613051200100

副題	花鳥風月をめぐる絵画と意匠			担当者	今橋 理子 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

日本人の生活文化に古来より根ざしてきた伝統的形象の存在を確認し、それらが現代日本人の日常にいかにかかされているかを考える。

〔授業の内容〕

古来日本人は自然と共に遊び、四季の移ろいとその景観を愛でる意識を〈花鳥風月〉ということばで表してきた。そして「花鳥画」をはじめとして多くの造形作品が〈花鳥風月〉をモチーフとして創造され、そして現代に至るまで広く受容され続けている。本授業では「桜」を筆頭とする花鳥風月モチーフが、現代においてはどのような造形物として流布しているかについて洗い直し、時代が移り変わっても、なお人々が「花鳥風月」に憧れを抱き続ける理由を考えてみたい。

〔教材〕

今橋理子『江戸絵画と文学』（東京大学出版会、第4版、2006年）

今橋理子『兎とかたちの日本文化』（東京大学出版会、2013年）など

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の出席状況と学期末のレポート（予定）によって評価する。

〔備考〕

授業時間外に、美術館への見学会などを予定している。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 概論：花鳥風月とは何か（1）
- 第2週 概論：花鳥風月とは何か（2）
- 第3週 「十二ヶ月花鳥」の文学と絵画（1）
- 第4週 「十二ヶ月花鳥」の文学と絵画（2）
- 第5週 「十二ヶ月花鳥」の文学と絵画（3）
- 第6週 「花月」の宇宙（1）
- 第7週 「花月」の宇宙（2）
- 第8週 雪月花と造形（1）
- 第9週 雪月花と造形（2）
- 第10週 四季と和菓子（1）
- 第11週 四季と和菓子（2）
- 第12週 四季と和菓子（3）
- 第13週 伝統意匠と歳時（1）
- 第14週 伝統意匠と歳時（2）
- 第15週 現代に生きる花鳥風月

副題	アール・ヌーヴォー、アール・デコ、ジャポニスム、欧米と日本の諸芸術			担当者	岡部 昌幸 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1

〔授業の到達目標〕

アール・ヌーヴォー、アール・デコ、ジャポニスム、そのほか19世紀末から20世紀前半の欧米と日本の諸芸術について、知識を得、体験的な学びをする。

〔授業の内容〕

アール・ヌーヴォー、アール・デコとジャポニスム（日本美術心酔）を中心に、生活美術・装飾美術における東西美術文化交渉と日本文化の果たした国際貢献を論じます。現在、国際化や企業・行政の文化的・地域的貢献、さらには環境問題の必要が叫ばれています。しかし、それらのコンセプトと実現は、すでに19世紀～20世紀前半の日本と、日本の影響を基に起きた欧米の美意識・造形の革命に見直すことができます。過去の歴史と、今なお生きる作品に、豊かな美と心、生き方を学びましょう。型どおりの通史やジャンルでなく、作家の内面や実作品との対話を通じて、未知の新しい価値を見出す眼を養いましょう。

〔教材〕

教科書：岡部昌幸『すぐわかる作家別アール・ヌーヴォーの美術（改訂版）』改訂版，東京美術，2011年

購入は必須です。参考書は，講義中で随時，指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習および復習として，学期中に美術館見学3館（都内，各4時間），教科書・参考書通読6時間を最低，必要とします。

〔成績評価の方法〕

（1）出席の確認は毎回行いますが，意味ある出席を求め，積極的な関わりを求めます。また（2）学期中に小レポートを1，2回，そして（3）学期末に400字×10枚程度のレポートの提出，（4）指定された美術館・歴史的・文化的文化財の見学を課し，およそ（1）を30%（2）を15%（3）を40%（4）を15%の割合で総合評価を行います。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 美術と人生（1）
- 第2週 美術と人生（2）
- 第3週 アール・ヌーヴォーとジャポニスムの世界観（1）
- 第4週 アール・ヌーヴォーとジャポニスムの世界観（2）
- 第5週 シャノワールと総合芸術化
- 第6週 ロシア・バレエ
- 第7週 建築と庭園の芸術化
- 第8週 アール・デコの美少女・美青年
- 第9週 「いき」の構造と日本のアール・デコ
- 第10週 竹久夢二と大正ロマン
- 第11週 クリスチャン・ディオールと20世紀芸術
- 第12週 フランク・ロイド・ライトとイームズ・デザイン
- 第13週 イサム・ノグチ，環境芸術へ
- 第14週 見直しとまとめ（1）
- 第15週 見直しとまとめ（2）

受講者もこの講義の流れに沿い，それぞれ自分自身，受講の目標の設定，学習の計画，将来の展望をもって，この講義の受講を有意義なものとする意欲と心構えを求めたいと思います。受動的ではなく自主的に関わる受講態度を求めます。

形象文化論Ⅳ（空間造形）

3613051400100

副 題	江戸の大名庭園と絵画芸術			担 当 者	今橋 理子 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	水	時 限	3

〔授業の到達目標〕

現代に「公園」として残る江戸の大名庭園を絵画と空間造形の両面から探り、自然に親しむ時空を近世期以来日本人がいかにかに形成してきたかを考える。

〔授業の内容〕

かつて江戸という都市は「三百諸侯」と言われるほど、多くの大名・旗本が居住していた。彼らのほとんどが上（かみ）・中（なか）・下（しも）屋敷そして抱屋敷というように複数の屋敷を持っていたため、単純に計算しても江戸の街中には千数百の大名屋敷があり、そのほとんどの屋敷内には〈庭園〉が設えられていたのである。今日こうした江戸の庭を文化史上では〈大名庭園〉と呼んでいるが、〈大名庭園〉は当時、それ自体が造形として鑑賞されるにとどまらず、大名や旗本らの政治的交際上重要な役割を果たした。そしてその一方で〈庭〉は創造力の源ともなり、多くの絵画や文学といった芸術作品を生み出した。これら〈大名庭園〉と〈庭園画〉の実例をあげ、その文化の厚みを体感したい。

〔教材〕

教科書：今橋理子『江戸絵画と文学——〈描写〉と〈ことば〉の江戸文化史』第4版，東京大学出版会，2006年

上記教科書を中心に話をすすめますので，必携して下さい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の出席状況と学期末レポート（予定）によって評価する。

〔備考〕

授業時間外に現在の東京に残るいくつかの大名庭園を実地見学の予定。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 概説1—江戸の都市設備と大名屋敷
- 第2週 概説2—大名庭園と庭園画をめぐる言説
- 第3週 和歌の庭—柳沢吉保「六義園」（1）
- 第4週 和歌の庭—柳沢吉保「六義園」（2）
- 第5週 和歌の庭—柳沢吉保「六義園」（3）
- 第6週 現存する「大名庭園」への実地見学（1）
- 第7週 見立てと旅—尾張徳川家「戸山荘」（1）
- 第8週 見立てと旅—尾張徳川家「戸山荘」（2）
- 第9週 見立てと旅—尾張徳川家「戸山荘」（3）
- 第10週 養生の思想と庭—松平定信「沿恩園」（1）
- 第11週 養生の思想と庭—松平定信「沿恩園」（2）
- 第12週 養生の思想と庭—松平定信「沿恩園」（3）
- 第13週 現実と虚構のあいだ—仮想の旅と「庭園紀行」（1）
- 第14週 現実と虚構のあいだ—仮想の旅と「庭園紀行」（2）
- 第15週 現存する「大名庭園」への実地見学（2）

副題	現代美術はどのように形成されてきたか			担当者	清水 敏男 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

19世紀後半から20世紀にいたるまでの近現代美術の動向について基礎的な知識を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」20世紀後半までの美術は欧米の一部を中心に展開されてきた。しかし20世紀後半になると徐々に領域をひろげ、1989年の冷戦の終了以降は地球規模での美術活動の展開が顕著になった。本講義では20世紀はじめから現代にいたるまでの世界の美術の動きに関する知識をつけ、現代美術の意味と動向を理解することを目的とする。

「授業の概要」19世紀後半以降のフランス近代美術の歴史に始まり、欧米における20世紀前半の美術の諸潮流を概観することで、近代美術の基礎的知識を得る。ついで20世紀後半の美術の展開を主な美術運動を通じて理解し、さらに1989年以降世界各地での美術の展開を学ぶ。そして21世紀にはいった世界の最新の美術状況を学び、現代美術の意味を深層から理解する。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連する展覧会を調査しレポートをまとめること。

〔成績評価の方法〕

出席日数、展覧会調査レポート（1000字×10本）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 印象派 1
- 第2週 印象派 2
- 第3週 19世紀末から20世紀はじめの美術 1
- 第4週 19世紀末から20世紀はじめの美術 2
- 第5週 日本の近代美術（明治） 1
- 第6週 日本の近代美術（大正） 2
- 第7週 藤田嗣治（明治以降の日本美術と世界の関係）
- 第8週 20世紀前半のアメリカにおける美術近代化とデザインの誕生
- 第9週 イブ・クラインとヌーボー・レアリスト
- 第10週 日本の現代美術（具体）
- 第11週 日本の現代美術（ネオタダ以降）
- 第12週 日本の現代美術（現代）
- 第13週 新しい世界の美術の台頭（中国）
- 第14週 新しい世界の美術の台頭（アジア、アフリカ）
- 第15週 国際展、まとめ

副題	近代日本の音楽文化の諸相			担当者	高久 暁 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

- ・現代日本の音楽文化の基層をなしている近代日本（江戸時代末期から昭和初期）の音楽文化の諸相とその豊かさを知り、音楽をより深く多角的な側面からアプローチするための方法を知る。
- ・近代日本の音楽ジャンルを代表する曲種とその作曲者・演奏者らについて、録音資料や映像資料を介して体感的に知る。

〔授業の内容〕

江戸時代末期から昭和初期にかけての時代は、日本の音楽文化がダイナミックな変容を遂げた時期として特筆されます。今年度の授業では、この時期に発生・発展・消滅あるいは発展的解消を見たさまざまな音楽をジャンル横断的に紹介してその音楽の実態を知り、社会的背景や影響関係についても考察を行います。授業では録音資料や映像資料を積極的に活用します。

〔教材〕

教科書は特に使用しません。講師の作成したプリントを配布します。参考図書は授業で指示あるいは紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習として調べるべき項目（人名や作品名や用語など）や聞くべき音楽（動画サイトを活用します）を授業で指示することがあります。その場合、一回の授業について30分から1時間程度の時間が必要となります。詳細は初回の授業で指示します。

〔成績評価の方法〕

出席の回数とレポートを総合的に評価します。今年度は短いレポート(授業の内容に関連する首都圏の音楽博物館の見学報告)と、授業の内容に基づいたレポート1通(学期末のレポート、2400字程度)の提出を課します。レポートを作成するために授業で指示された参考図書を読む必要があります。詳細は初回の授業で説明します。また、7月初旬の授業でも詳しく指示を行います。

〔備考〕

音楽の専門的知識や経験は必要ありませんが、義務教育修了程度までの音楽全般にわたる知識は前提とします。社会情勢の変化に応じて、授業内容を変更する場合があります。日本と隣接地域（朝鮮半島、中国大陸、台湾など）の地理や近代史の基礎知識が必要となる場合もありますが、最低限の必須項目は授業でも触れるようにします。授業に出席して、どのようなタイプの音楽にも積極的に聞き取ってゆく態度が一番大切です。

〔授業計画〕

- 第1週 授業ガイダンス、音楽をめぐる学問とその広がり、音楽の調べ方、首都圏の代表的な音楽資料館とその利用法、成績評価の課題（レポート）の説明ほか
- 第2週 日本の音楽文化の特質（1）歴史的・地理的概観
- 第3週 日本の音楽文化の特質（2）社会史的概観
- 第4週 日本の音楽文化の特質（3）近代日本の音楽文化の特質
- 第5週 失われた近代日本の外来音楽（1）明楽・琉球宮廷音楽：日本の音楽文化のなかの中国音楽
- 第6週 失われた近代日本の外来音楽（2）清楽・清楽から演歌・歌謡曲へ
- 第7週 唱歌の諸相（1）複数の「唱歌」・学習院でも歌われた保育唱歌
- 第8週 唱歌の諸相（2）唱歌の東アジア世界への伝播
- 第9週 唱歌の諸相（3）唱歌の細分化・唱歌から芸術歌曲へ
- 第10週 西洋音楽の大衆化の諸相
- 第11週 伝統と作られた伝統～「民謡」と新民謡
- 第12週 邦楽の近代・新日本音楽とその後
- 第13週 戦前期の西洋音楽（1）作曲家とその作品
- 第14週 戦前期の西洋音楽（2）演奏家とその演奏
- 第15週 まとめ
- 授業計画の詳細は授業開始時にも説明します。

副題				担当者	尼ヶ崎 彬 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

近代芸術としての舞踊についての基本的知識を習得し、個々の業績の芸術的意義について説明できるようになる。

〔授業の内容〕

20世紀に日・米・欧で創造された現代舞踊を順次とりあげ、その活動をビデオで紹介し、その思想や活動の意義を同時代の現代芸術との関係の中で考察する。

〔教材〕

参考書：尼ヶ崎 彬『芸術としての身体』勁草書房、1988年
 尼ヶ崎 彬『ダンス・クリティーク』勁草書房、2004年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習(授業でとりあげる予定の舞踊家についての学習)2時間。復習(予定以外に授業でとりあげた舞踊家についての補充的学習)4時間。

〔成績評価の方法〕

原則として試験により評価するが、場合によってはレポートに代替することもある。

〔備考〕

質問がある場合、簡単なことはメールでakira.amagasaki@gakushuin.ac.jpまで問い合わせること。面談したほうがよい場合は、上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水の3限または木曜2限に研究室で行う。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ディアギレフとバレエ・リュス
- 第2週 ニジンスキーと『春の祭典』
- 第3週 マーサ・グラハムとモダンダンス
- 第4週 石井漠と日本の新舞踊
- 第5週 カニングハムとバランシン
- 第6週 ポスト・モダンダンスの実験
- 第7週 土方巽と暗黒舞踏の登場
- 第8週 暗黒舞踏の展開
- 第9週 アルヴィン・エイリー
- 第10週 フランスのヌーヴェル・ダンス
- 第11週 ピナ・バウシュとフォーサイス
- 第12週 新しい潮流
- 第13週 日本のコンテンポラリー・ダンス
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

身体文化論II (現代演劇)

3613053200100

副題				担当者	尼ヶ崎 彬 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

明治維新にともなう日本近代化への努力の一部としての「近代的演劇」への模索、1960年代の反近代を標榜する文化革命の一部としての「反近代演劇」の実験、そして現代の多様な演劇実践について、基本的知識を獲得し、自分自身の視点をもって説明できるようになる。

〔授業の内容〕

明治の新しい演劇への出航と、1960年代以降の創造的な演劇に焦点を当て、現代の「ポストドラマ演劇」までをビデオを利用しつつ概観する。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習(シラバスに示した演劇人についての学習)2時間。復習(予定以外に授業でとりあげた演劇人についての補充的学習)4時間。

〔成績評価の方法〕

原則として試験によって評価するが、場合によってはレポートによって代替する。

〔備考〕

質問がある場合、簡単なことはメールでakira.amagasaki@gakushuin.ac.jpまで問い合わせること。面談したほうがよい場合は、上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水の3限または木曜2限に研究室で行う。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 歌舞伎改良
- 第2週 壮士芝居と女優
- 第3週 新派
- 第4週 新劇
- 第5週 60年代演劇1 (鈴木忠志)
- 第6週 60年代演劇2 (唐十郎)
- 第7週 60年代演劇3 (寺山修司)
- 第8週 つかこうへい
- 第9週 80年代演劇1 (野田秀樹)
- 第10週 80年代演劇2 (鴻上尚史)
- 第11週 80年代演劇3 (さまざまな試み)
- 第12週 現代演劇1 (平田オリザ)
- 第13週 現代演劇2 (宮城聡と安田雅弘)
- 第14週 現代演劇3 (ケラリーノ・サンドロビッチと松尾スズキ)
- 第15週 現代演劇4 (岡田利規他)

歌舞伎改良運動、新派・新劇、アンダーグラウンド演劇、小劇場演劇、そしてパフォーマンスを含む現代の演劇までを映像資料を見つつ、紹介する。

副題	日本神話の成り立ち			担当者	神田 典城 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

古代王権の目指した神話構築の方向性およびその意義が理解できるようになる。

〔授業の内容〕

古事記上巻と日本書紀巻一卷二はさまざまな神話群によって構成されている。そのストーリーは過去から現在へと流れる時間軸に沿うかたちで展開している。しかしそれは初めから今見るかたちのものがあつたわけで無く、個々の神話を様々に改変し、組み立て直すことでできあがつて来たものと思われる。本講義では、それぞれの神話のもとのかたちを探り、各神話が本来的に表していたと思われる意味を推測し、古代の日本人がこの世のありかたをどのように把握していたのかを考察する。同時に、古事記・日本書紀として示されている神話全体の構造の示している表現意図をも探ってみたい。

〔教材〕

教科書：神田典城『対照神代記紀』笠間書院

テキストを中心に講義を進めるが、必要に応じて適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを読んで理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末試験(100%)による

〔備考〕

今年度は、出雲神話を取り上げる

〔授 業 計 画〕

- 第1週 古代の文献を読むために。
- 第2週 日本神話とは何か。
- 第3週 スサノヲの神性
- 第4週 ヲロチ退治
- 第5週 ヌ
- 第6週 ヌ
- 第7週 ヌ
- 第8週 オホクニヌシの神性
- 第9週 イナバの白兔
- 第10週 ヌ
- 第11週 ヌ
- 第12週 オホクニヌシの試練
- 第13週 ヌ
- 第14週 ヌ
- 第15週 ヌ

日本思想研究II (仏教)

3613061200100

副題	日本の仏教の特色			担当者	加藤 みち子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

- ・世界宗教の一つである仏教の基本的な考え方を理解すること。
- ・インド、中国等とは異なる「日本仏教」の特色について理解を深めること。
- ・現代にまで通じる仏教思想の日本文化への定着の諸相について知識を得ること。

〔授業の内容〕

本講義では、日本思想との出会いによって変容し日本化した仏教の特色について理解することを目指します。

具体的には、中国で成立し、日本独自の展開をした、禅、浄土、密教、天台などの思想を、中国と日本を比較しながら説明していきます。また、各宗派が説法に用いた絵画資料なども手掛かりに、日本仏教独自の仏教信仰、現代にまで通じる仏教行事の意味などについても解説していきます。

〔教材〕

教科書：加藤みち子『絵から読み解く日本仏教－日本仏教概論』山喜房佛書林，2012年
参考文献，補助的参考文献については，講義の中で随時，紹介していきます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書，配布プリントの指定箇所をあらかじめ読んでから出席すること。（約30分）
授業後は，教科書・配布プリントを再読し，紹介された参考文献を読んで理解を深めること。（約90分）

〔成績評価の方法〕

学期末試験（70%），授業内ミニレポート等（30%）の総合点で評価します。

〔備考〕

第一回授業に必ず出席してください。成績評価，授業の進め方等について重要な説明をします。

〔授業計画〕

- 第1週 授業内容のガイダンスとイントロダクションー世界宗教としての仏教
第2週 東アジア仏教の特色ー漢文經典の成立と，宗派仏教
第3週 禅と禅宗ーその思想と特色
第4週 「十牛図」からみる禅の思想と禅の日本化
第5週 阿弥陀仏の浄土と念仏ー浄土宗とその教え
第6週 「来迎図」からみる浄土思想と日本的浄土思想
第7週 薬師如来と温泉信仰
第8週 神仏習合とはー「女体権現」とは？
第9週 閻魔王と地獄，そして法華経信仰
第10週 六道輪廻と地藏信仰
第11週 施餓鬼供養と観音信仰
第12週 霊山曼荼羅と修験の思想
第13週 「観心十法界図」と天台の思想
第14週 「曼荼羅」と密教の思想
第15週 エピローグー日本思想と「日本的」仏教の特色
授業計画は進み具合によって，若干変更することもある。

副題	神道思想の特色			担当者	加藤 みち子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

- ・ 仏教の仏や、キリスト教の神とは異なる、神道・神祇信仰の「かみ」と「かみまつり」の意味を理解すること。
- ・ 日本思想史上における神道理論の成立・発展とその意義を理解すること。

〔授業の内容〕

本講義は、古代以来、日本の生活思想文化の形成に多大な影響を与えた「神祇信仰」と「神道思想」の特色を、12世紀から17世紀を中心にみていきます。この作業を通して、現代日本人の生活にも深くかかわる「神道思想」とその意義を考察することを目指します。

〔教材〕

教科書：加藤みち子『「かみ」は出会って発展する－神道ではない日本の「かみ」史・古代中世編』北樹出版、2011年

教科書は必携です。必ず入手し、毎時間持参してください。学習を深めるための参考書は、授業内で、随時紹介していきます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

- 教科書・配布プリントの指定箇所を読んで質問が出来るようにして来てください。（約30分）
教科書・配布資料を再読し、参考文献を読んで理解を深めてください。（約90分）

〔成績評価の方法〕

学期末試験（70%）、授業内ミニレポート等（30%）の総合評価です。

〔備考〕

第1回授業に必ず出席してください。単位取得等に関する重要事項を説明します。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業の進め方についてのガイダンス、イントロダクション
第2週 「かみ」に関する基礎知識（1）
第3週 「かみまつり」に関する基礎知識（2）
第4週 変容発展する「かみ」
第5週 仏教と出会って発展する「かみ」－八幡神
第6週 本地垂迹と山王神道
第7週 伊勢神宮の祭神
第8週 神道五部書と「皇」字をほしがる神
第9週 度会家行と伊勢の神道説
第10週 日本は「神国」か？
第11週 御霊信仰一人の「たま」を神としてまつること
第12週 「心」と出会った神－吉田神道説
第13週 三社託宣と「かみのことば」
第14週 「神もうで」のいろいろ－遠隔地の神社への参拝の意味
第15週 エピローグ－日本思想と神道
ただし、進み具合、受講生の理解度によって多少変更することもある。

☆日本思想研究Ⅳ（歌学）

3613061400100

副題					担当者	尼ヶ崎 彬 教授	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

日本の近代以前の和歌思想を通じて日本人の伝統的な芸術や自然についての考え方を知る。また明治期の「芸術」思想の輸入により、現代日本の詩歌観や芸術観がいかに形成されていたかを知る。

〔授業の内容〕

日本人の感性と思惟方法は芸術理論によくあらわれている。日本の伝統的芸術理論を代表するものは、質的にも量的にも歌論（和歌の理論）である。本講義では、古代から近世までの歌論及び明治初期の詩論をとりあげ、それらが何を問題とし、いかに解決をさぐったかを追う。それは単に和歌についての理論史であるだけでなく、文学について、芸術について、美や自然について、そして日本文化についての思索の歴史となるはずである。

〔教材〕

教科書：尼ヶ崎 彬『花鳥の使——歌の道の詩学1』勁草書房、1983年

尼ヶ崎 彬『縁の美学——歌の道の詩学2』勁草書房、1995年

参考書：尼ヶ崎 彬『近代詩の誕生』大修館、2011年

上記2点の教科書はすでに書店では販売されていないが、入手方法を授業中に告知する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習(教科書の熟読)は各週2時間。復習(授業内容の咀嚼)は各週2時間。

〔成績評価の方法〕

試験による

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|---------------|
| 第1週 | 藤原浜成「歌経標式」 |
| 第2週 | 〃 |
| 第3週 | 紀貫之「古今和歌集仮名序」 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 藤原定家 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 本居宣長 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 富士谷御杖 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 近代詩論 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | 〃 |

副題	恋とは何か、愛とは何か			担当者	吉田 麻子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

江戸時代の文学・思想にふれ、「恋」や「愛」がどのように捉えられ、考えられてきたのかを理解し、それについて自分の意見を述べられるようになること。

〔授業の内容〕

人なら誰しもが、他人に対して好意をもった経験があります。

一生のうち、恋を一度もしない、あるいは誰一人愛したことがない、と断言できる人はむしろ少ないのではないのでしょうか。しかしよく考えてみると、私たちが「恋をした」あるいは「愛している」と感じた、その気持ちは本当に「恋」あるいは「愛」だったのでしょうか。そもそも「愛」や「恋」とは、一体何のことなのでしょう。

この授業では、特に前近代である江戸時代を中心とした日本の文学や思想を鑑賞し、そこに描かれている「愛」や「恋」についてふれ理解し、現代の価値観を相対化し、自分なりの答えを出すための一助とすることを目指します。

そもそも、愛や恋が何なのかについては、明確に定まった答えはありません。人によってその真実は異なり、自分で考えて答えを出すべきことなのです。そのために、歴史や文学や思想を学ぶのは大切なことではないでしょうか。

特に、西洋のキリスト教的な「愛」の概念が普及する前の、江戸時代の日本人の意識を概観することは必要不可欠なことだと考えます。

〔教材〕

教科書は使用せず、適宜プリントを配布します。参考文献は授業中に指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

現代のものでよいので、とにかく小説をたくさん読むこと。活字を、小説を、よまなければ授業だけ受けていてもダメです。

〔成績評価の方法〕

評価の割合としては学期中に提出するレポートが80パーセント、そのほか、授業中の提出物が20パーセントです。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 言語史における愛と恋
- 第3週 江戸文学にみる恋①～「好色一代男」～
- 第4週 江戸時代の結婚とイエ制度
- 第5週 江戸の性①
- 第6週 江戸の性②遊郭について
- 第7週 江戸文学にみる愛①『雨月物語』『青頭巾』
- 第8週 江戸文学にみる愛②『雨月物語』『青頭巾』つづき
- 第9週 江戸文学にみる愛③『雨月物語』『吉備津の釜』
- 第10週 江戸文学にみる愛④『雨月物語』『吉備津の釜』つづき
- 第11週 朱子学と愛（仁）
- 第12週 伊藤仁斎の「愛」
- 第13週 本居宣長～文学における恋の肯定
- 第14週 明治の恋～与謝野晶子
- 第15週 まとめ

授業計画は、進行および受講者の理解の状況によって変更する可能性があります。

副 題	万葉集・初期の歌人から人麻呂へ			担 当 者	神田 典城 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	火	時 限	3

〔授業の到達目標〕

万葉集の歌を学ぶことを通じ、日本における言語と文字との関係性、および歌の凝縮した表現を理解できるようになる。

〔授業の内容〕

万葉集は、わが国最古にして最大の歌集です。そこに収載された数多くの歌につき、その一語一句について、訓み・語彙を厳密に検討しながら、定型詩という制限の中で実現された、凝縮した語のあり方に触れていきます。今期は万葉前期の歌、即ち初期の歌人達の歌及び柿本人麻呂の歌を取り上げます。

〔教材〕

教科書：小野寛編『新選 万葉集抄』笠間書院

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを読んで理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末のペーパーテスト(100%)による。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 導入として、古代の歌の状況の把握。
- 第2週 初期の歌人たち（1）
- 第3週 初期の歌人たち（2）
- 第4週 初期の歌人たち（3）
- 第5週 初期の歌人たち（4）
- 第6週 初期の歌人たち（5）
- 第7週 人麻呂の歌（1）
- 第8週 人麻呂の歌（2）
- 第9週 人麻呂の歌（3）
- 第10週 人麻呂の歌（4）
- 第11週 人麻呂の歌（5）
- 第12週 人麻呂の歌（6）
- 第13週 人麻呂の歌（7）
- 第14週 人麻呂の歌（8）
- 第15週 人麻呂の歌（9）

副題	万葉集・旅人憶良から家持へ			担当者	神田 典城 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

万葉集の歌を学ぶことを通じ、日本における言語と文字との関係性、および歌の凝縮した表現を理解できるようになる。

〔授業の内容〕

万葉集は、わが国最古にして最大の歌集です。そこに収載された数多くの歌につき、その一語一句について、訓み・語彙を厳密に検討しながら、定型詩という制限の中で実現された、凝縮した語のあり方に触れていきます。今期は万葉後期の歌、即ち大伴旅人・山上憶良、そして大伴家持の歌を取り上げます。

〔教材〕

教科書：小野寛編『新選 万葉集抄』笠間書院

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを読んで理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末のペーパーテスト(100%)による。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 導入として、古代の歌の状況の把握。
- 第2週 旅人と憶良（1）
- 第3週 旅人と憶良（2）
- 第4週 旅人と憶良（3）
- 第5週 旅人と憶良（4）
- 第6週 旅人と憶良（5）
- 第7週 旅人と憶良（6）
- 第8週 旅人と憶良（7）
- 第9週 家持（1）
- 第10週 家持（2）
- 第11週 家持（3）
- 第12週 家持（4）
- 第13週 家持（5）
- 第14週 家持（6）
- 第15週 家持（7）

日本文学論Ⅲ（中古）

3613071300100

副 題	物語に見る舶来の文物			担 当 者	伊藤 守幸 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	火	時 限	2

〔授業の到達目標〕

平安時代の物語が、海外に対して開かれた視座を有していることを、具体的作品に即して理解する。

〔授業の内容〕

『竹取物語』と『うつほ物語』を中心に、そこに登場する舶来の品々や文物に着目し、王朝人の国際感覚について考察する。

〔教材〕

教科書：上坂信男訳注『竹取物語』（講談社学術文庫）講談社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前の作品講読と事後の補足的調査。3時間。

〔成績評価の方法〕

出席状況（20%）、レポート（80%）を概ねの目安とし、総合的に評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 受講生の確認と授業計画の説明。
- 第2週 物語文学史概説
- 第3週 異国を描く物語について
- 第4週 『竹取物語』と異国
- 第5週 求婚難題説話と舶来品（1）
- 第6週 求婚難題説話と舶来品（2）
- 第7週 求婚難題説話と舶来品（3）
- 第8週 求婚難題説話と舶来品（4）
- 第9週 『うつほ物語』の類聚趣味
- 第10週 蔵を開く物語—『うつほ物語』とアラビアンナイト
- 第11週 俊蔭卷の波斯国描写の特質（1）
- 第12週 俊蔭卷の波斯国描写の特質（2）
- 第13週 瑠璃に荘厳された世界—『うつほ物語』とラピスラズリ（1）
- 第14週 瑠璃に荘厳された世界—『うつほ物語』とラピスラズリ（2）
- 第15週 瑠璃に荘厳された世界—『うつほ物語』とラピスラズリ（3）

副題	英語圏の日本古典文学研究について			担当者	伊藤 守幸 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

『源氏物語』や『更級日記』の英訳本の読解を通じて、日本の古典文学を海外の読者に紹介することの意義や問題点について、具体的に考察し理解を深めてもらう。

〔授業の内容〕

海外の日本文学研究、とりわけアメリカを中心とする英語圏におけるそれは、量的にも質的にも充実度を増しているが、そのような海外の研究に対する日本国内の研究者や読書人の関心は、残念ながら決して高いとは言えない。授業では、そうした偏りを是正する意味もこめて、日本古典文学に関する英語圏の論文を紹介する。この授業を通じて、日本文学や日本文化に対する国際的理解なるものが、基本的に翻訳を前提としてしか成り立たないという現実に向け、その意味を考えてもらいたい。また、昨年刊行されたアンツェン&伊藤訳『更級日記』を用いて、『更級日記』の新旧英訳の比較を具体的に行なう。

〔教材〕

教材は、適宜コピーして配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

英語教材を多く用いるので、事前準備と事後の復習は欠かせない。4時間。

〔成績評価の方法〕

出席状況（20%）、レポート（80%）を概ねの目安とし、総合的に評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 受講生の確認と授業計画の説明
- 第2週 英語圏の日本文学研究の歴史を概観する
- 第3週 英語圏における『源氏物語』受容の歴史について
- 第4週 アーサー・ウェイリー訳『源氏物語』登場の意義
- 第5週 「世界文学」としての『源氏物語』
- 第6週 新旧の英訳『源氏物語』を比較する
- 第7週 I. モーリス訳『更級日記』の功罪
- 第8週 新旧の英訳『更級日記』の「解説」を比較する（1）
- 第9週 新旧の英訳『更級日記』の「解説」を比較する（2）
- 第10週 新旧の英訳『更級日記』の「解説」を比較する（3）
- 第11週 新旧の英訳『更級日記』の「解説」を比較する（4）
- 第12週 新旧の英訳『更級日記』の「解説」を比較する（5）
- 第13週 新旧の英訳『更級日記』の本文を比較する（1）
- 第14週 新旧の英訳『更級日記』の本文を比較する（2）
- 第15週 新旧の英訳『更級日記』の本文を比較する（3）

日本文学論V (中世)

3613071500100

副題	説話絵巻, お伽草子絵巻, 妖怪絵巻の世界			担当者	徳田 和夫 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

中世日本における様ざまな説話文学を知識とし、その特徴を文化史的に理解します。
日本のビジュアル・カルチャーの展開の把握と、文芸メディアとしての絵巻に親しみます。

〔授業の内容〕

代表的な説話絵巻, お伽草子絵巻, 妖怪絵巻を取り上げて、その文芸面とビジュアル・カルチャーの意義を説明し、あわせて比較文化の視点からも講義します。
対象が視覚的な作品であることから、映像,画像を多用します。

〔教材〕

参考書などを授業の開始時および折々に紹介し、またプリント資料を配布します。

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献を、あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

小テスト(理解度の確認)とレポートによっておこないます。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ことばと絵, 文学と絵画
- 第2週 「絵解き」について
- 第3週 中世説話文学とお伽草子絵巻
- 第4週 絵巻物の展開①
- 第5週 絵巻物の展開②
- 第6週 絵巻物の展開③
- 第7週 奈良絵本, 絵入り版本の数かず
- 第8週 説話絵巻①
- 第9週 説話絵巻②
- 第10週 説話絵巻③
- 第11週 お伽草子絵巻①
- 第12週 お伽草子絵巻②
- 第13週 お伽草子絵巻③
- 第14週 妖怪絵巻①
- 第15週 妖怪絵巻②

本学の文化交流ギャラリー, および外部の美術館・博物館の見学を必須とします。

副題	お伽草子にみる異郷・異界			担当者	恋田 知子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

物語の形成と構造、絵画化の方法、文化・信仰的背景などの点に注意し、さまざまな角度から図像イメージを読み解く力の獲得をめざします。

〔授業の内容〕

14世紀から17世紀にかけて盛んに制作された短編の物語群であるお伽草子（室町物語）を鑑賞します。『源氏物語』に代表される王朝物語が貴族の恋愛を題材としたのに対し、お伽草子では、貴公子や姫君はもちろん、武士や庶民、芸能者・宗教者、神仏や異類にいたるまで、物語の主人公となってさまざまな活躍を見せます。奇想天外な物語は絵とも結びつき、素朴な絵本から豪華な絵巻まで多種多様な展開を見せます。本講義では、各作品に描かれた「異郷」や「異界」に注目し、さまざまな角度から読み解いていきます。

〔教材〕

参考書：市古貞次編『御伽草子』（日本古典文学大系）岩波書店
大島建彦・渡浩一編『室町物語草子集』（新編日本古典文学全集）小学館
松本隆信編『御伽草子集』（新潮日本古典集成）新潮社
小松和彦編『異界と日本人—絵物語の想像力』角川書店、2003年
徳田和夫編『お伽草子百花繚乱』笠間書院、2008年
教科書…授業時にプリントを配布します。
参考文献…授業時に適宜、紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

新しい作品に入る前は、予めテキストを読んで授業に臨んでください。

〔成績評価の方法〕

出席状況・学期末レポートによって総合的に評価します。

〔備考〕

講義形式ですが、最後の10～15分を使って毎回コメントを書いてもらい、講義に反映していくので、意欲的に取り組んでください。

〔授 業 計 画〕

第1週 ガイダンス 講義概要および評価方法・室町期の文芸について

第2週 概説 お伽草子の特徴

第3週 四方四季の空間 —『浦島太郎』1—

第4週 四方四季の空間 —『浦島太郎』2—

第5週 鬼のすみか —『酒吞童子』1—

第6週 鬼のすみか —『酒吞童子』2—

第7週 天上の異郷 —『天稚彦草子』1—

第8週 天上の異郷 —『天稚彦草子』2—

第9週 異界探検 —『富士の人穴草子』1—

第10週 異界探検 —『富士の人穴草子』2—

第11週 異国をめぐる —『御曹司島渡』1—

第12週 異国をめぐる —『御曹司島渡』2—

第13週 唐と日本の境「ちくらが沖」1

第14週 唐と日本の境「ちくらが沖」2

第15週 まとめ

講義の進行状況にあわせて、取り上げる作品や順序を変更する場合があります。

初回ガイダンスには必ず参加してください。

日本文学論VII (近世)

3613071700100

副題	仮名草子の世界			担当者	恋田 知子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

江戸の文芸に親しみ、さまざまな角度から作品を読み解く力を育成します。

〔授業の内容〕

江戸初期に創られた、平仮名主体の散文化芸である仮名草子を鑑賞します。印刷技術の進展により、読者層が拡大した近世には、さまざまなジャンルの文芸が誕生します。本講義では、中世から近世の過渡期に位置づけられる仮名草子の諸作品を取り上げ、各テーマに即して読み解きます。中世からの物語草子の流れと新興の文学の特徴を明らかにし、仮名草子の諸作品から江戸の文学や文化、社会について考察します。

〔教材〕

参考書：前田金五郎・森田武編『仮名草子集』（日本古典文学大系）岩波書店
渡辺守邦・渡辺憲司編『仮名草子集』（新日本古典文学大系）岩波書店
朝倉治彦編『未刊仮名草子集研究（一）』未刊国文資料刊行会
教科書…授業時にプリントを配布します。
参考文献…授業時に適宜、紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業では作品の一部しか取り上げないので、各自興味を持った作品を読んでみるよう心がけてください。

〔成績評価の方法〕

出席状況・学期末レポートによって総合的に評価します。

〔備考〕

講義形式ですが、最後の10～15分を使って毎回コメントを書いてもらい、講義に反映していくので、意欲的に取り組んでください。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス 講義概要および評価方法について・江戸の文芸
第2週	概説 近世の文学とは
第3週	概説 仮名草子の特徴
第4週	古典へのまなざし1 — 『仁勢物語』 —
第5週	古典へのまなざし2 — 『仁勢物語』 —
第6週	女性へのまなざし1 — 『名女情比』 —
第7週	女性へのまなざし2 — 『名女情比』 —
第8週	死へのまなざし1 — 『二人比丘尼』 —
第9週	死へのまなざし2 — 『一休骸骨』 —
第10週	怪異へのまなざし1 — 『宿直草』 —
第11週	怪異へのまなざし2 — 『新伽婢子』 —
第12週	怪異へのまなざし3 — 『因果物語』『諸国百物語』 —
第13週	旅へのまなざし1 — 『東海道名所記』 —
第14週	旅へのまなざし2 — 『東海道名所記』 —
第15週	まとめ

初回ガイダンスには必ず参加してください。

副題	近代日本文学入門			担当者	木村 直恵 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

日本の近代文学の流れとさまざまな作品に触れ、それらを理解する枠組みを得ること。

〔授業の内容〕

日本の近代文学作品は、目まぐるしく移り変わる明治以後の近代日本とその時代を生きることごとの姿を活写するとともに、それ自体が大きな変化のなかにあった。近代日本とは近代文学そのものが生まれる揺籃の場であったし、近代文学は日本語の大きな変化のなかで日本語表現を開拓し、またそれによって世界を認識し思考する方法を組み立てることにもなった。この授業では十川信介『近代日本文学案内』を導きの糸として、日本近代文学の多彩な側面に触れるとともに、近代日本とは何かを理解する手掛かりとしたい。

〔教材〕

教科書：十川信介『近代日本文学案内』岩波書店

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回事前にテキストを予習すること。また授業内で触れた文献について、自習すること。

〔成績評価の方法〕

出席とレポートにより評価する。なお、講義回数数の3分の二以上の出席をもって成績評価の条件とする。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 はじめに
- 第2週 明治日本と「立身出世」の夢
- 第3週 恋愛と「立志」の関係
- 第4週 文学者の登場と文壇の形成
- 第5週 自立を模索する女性たち
- 第6週 異世界を求める心
- 第7週 「異界」と「他界」
- 第8週 民俗の世界へ
- 第9週 幻想・妄想
- 第10週 ユートピア的なもの
- 第11週 移動と交通
- 第12週 交通機関の発達と文学
- 第13週 「洋行」の体験
- 第14週 新メディアと文学
- 第15週 まとめ

☆中国文学論I

3614007100100

副題	中国古典詩を読む			担当者	和田 浩平 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5

〔授業の到達目標〕

中国文学は、その内容から大きく詩と文とに分類できます。この講義では、その中、詩をとりあげます。詩経から明・清までの代表的な詩を鑑賞できるようになることが目標です。

〔授業の内容〕

この講義では古典詩を通して中国文学全体を見通してみたいと考えています。はじめに詩経、楚辞に見える恋愛や悲憤慷慨の詩をとりあげます。ついで漢代の詩としては楽府詩、魏晋の詩では、曹植や陶淵明の文学について考えます。南北朝の詩をとりあげた後、唐詩を学習します。唐代は中国詩の黄金時代と称することができますが、この時代には李白、杜甫、白居易等多くのすぐれた詩人が輩出しました。絶句、律詩、排律等の近体詩、また伝統的な古体詩にもたくさんの佳作が残されています。これらの詩をじっくり鑑賞します。最後に宋代の代表的な詩を学び、元・明・清の詩まで読んでみたいと考えています。

〔教材〕

特にありません。必要に応じて授業時に紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

資料を読んでもらうことがあります。各自が必要に応じて30分ぐらい準備してください。

〔成績評価の方法〕

出席状況やレポートなどによって総合的に評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 詩経 1
- 第2週 詩経 2
- 第3週 楚辞 1
- 第4週 楚辞 2
- 第5週 漢代の詩 楽府詩
- 第6週 魏の詩 1 曹操
- 第7週 魏の詩 2 曹植
- 第8週 晋の詩 陶淵明 1
- 第9週 晋の詩 陶淵明 2
- 第10週 南北朝の詩 謝靈雲
- 第11週 唐代の詩 1 李白
- 第12週 唐代の詩 2 杜甫
- 第13週 唐代の詩 3 白居易
- 第14週 宋代の詩
- 第15週 元・明・清の詩

講義では、一人の詩人とその作品を理解した後に、その詩人に関する映像資料を見たいと思っています。

副題	現代都市から考える			担当者	若林 幹夫 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

現代の都市を切り口に、現代の社会と文化についての理解を深め、文化研究や社会学の視点、概念、理論の一端を理解すること。

〔授業の内容〕

都市は社会の「現代的なもの」が集約的に現れる場所である。

この講義では、主として現代日本の都市を対象として、基本的に2週間を1セットとして現代の都市をめぐる具体的なトピックを取り上げ、それらのトピックに即して現代の社会・文化と、それらを理解するための視点、概念、理論を検討する。

〔教材〕

教科書：若林 幹夫『都市論を学ぶための12冊』弘文堂，2014年

参考書：若林 幹夫『都市への／からの視線』（青弓社ライブラリー）青弓社，2003年

吉見 俊哉・若林 幹夫『東京スタディーズ』紀伊國屋書店，2005年

若林 幹夫『都市のアレゴリー』I N A X出版，1999年

特定の教科書に沿っての講義は行わない。上記は主要な参考書である。他の参考文献については、講義内で適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回分のノートの確認，webや文献による関連事項の調査，身近な事例に当てはめての授業内容の再検討などを心がけること。この授業は日常生活自体が対象となるので，日常生活の反省的把握と考察も予習・復習として重要となる。

〔成績評価の方法〕

期末試験ないしレポート（受講人数により決定する。）また，期末以外にもレポートを課す場合がある。

〔備考〕

扱っているトピックや主題について授業中に受講者に質問するので，受け身ではなく積極的に参加するつもりでの受講を期待する。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 都市と現代社会
- 第2週 ホームレスとゲーティッド・コミュニティ（1）：ホームとは何か
- 第3週 ホームレスとゲーティッド・コミュニティ（2）：共同性と公共性
- 第4週 お台場から考える（1）：副都心とは何か
- 第5週 お台場から考える（2）：余白化する都市空間
- 第6週 モール化する社会（1）：建物の中の街
- 第7週 モール化する社会（2）：消費空間の現在
- 第8週 速度空間としての都市（1）：鉄道の都市，自動車の都市
- 第9週 速度空間としての都市（2）：メディアとしての交通機関
- 第10週 モダンとポストモダン（1）：都市と近代空間
- 第11週 モダンとポストモダン（2）：消費社会とポストモダン
- 第12週 サイバー都市は存在するか（1）：メディアの中の都市的な場所
- 第13週 サイバー都市は存在するか（2）：メディアを組み込む都市
- 第14週 都市の現在（1）：現代都市の「空間」と「場所」
- 第15週 都市の現在（2）：今，共に在ることの意味

現代文化論Ⅲ（児童文化）

3616011300100

副 題	現代日本の児童文学が描いてきたもの			担 当 者	藤田 のぼる 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	水	時 限	3

〔授業の到達目標〕

児童文学のおもしろさを実感すると共に、児童文学作品を通して子どもの成長の実相や、大人として自立しようとしている自身のありかたを考察する手がかりとする。

〔授業の内容〕

大学の講義の中で「児童文学」という項目があることに意外の感を覚える人もいるでしょうが、そこには三つほどの意義を述べることができます。一つは、子ども時代本をあまり読まなかったという人はもとより、かなり読んだ人にしても、「読み残した」であろう作品はたくさんあり、そのおもしろさにふれてほしい、ということ。それから、将来母親ということも含めて大人として子どもに対する時のひとつのアイテムとして、子どもの本について知っておくことは有効だろう、ということ。そして、次の点がもっとも大切なことですが、今子ども時代と決別しようとしている大学生という時期に、児童文学にふれることで、自らの子ども時代の意味を自分の中で問い直してほしいということです。

講義でとりあげるのは、主に現代（といっても1960年代以降）の日本の児童文学作品で、物語を中心に、毎回さまざまな角度から2、3点の作品を紹介していきます。併せて、詩や絵本も随時紹介するので、相当駆け足の講義になりますが、児童文学そして自身の子ども時代再発見の契機になれば、と願っています。

〔教材〕

指定の教科書はなし。必要に応じ、プリント（短編作品など）を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

講義で紹介した作品を、可能な範囲で読むようにしてください。

〔成績評価の方法〕

基本的には、学期末に提出のレポートによって評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 児童文学の講義を始めるにあたって
- 第2週 子どものいる場所から1～学校の中で
- 第3週 子どものいる場所から2～家族の中で
- 第4週 子どものいる場所から3～社会の中で
- 第5週 ファンタジーの方法1～向こう側の世界に
- 第6週 ファンタジーの方法2～この世界のどこかに
- 第7週 ファンタジーの方法3～ハイ・ファンタジーの世界
- 第8週 ファンタジーの方法4～新しいファンタジー
- 第9週 テーマを深める1～「生」と「死」をめぐって
- 第10週 テーマを深める2～“愛”について
- 第11週 テーマを深める3～「特別」の人たち
- 第12週 子どもを捉える視点から1～子どもの成長を描く
- 第13週 子どもを捉える視点から2～子どもの発見を描く
- 第14週 子どもを捉える視点から3～子どもの冒険を描く
- 第15週 まとめ～さまざまな子ども像

授業計画は状況により変更する場合があります。

副題					担当者	徳井 淑子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	

〔授業の到達目標〕

現代ファッションの造形性と精神性を歴史的視野で学び、服飾の多様な表現性を理解する。

〔授業の内容〕

現代ファッションの造形性と精神性を歴史的視野と比較文化の視点で捉え直してみる。現代文化の産物と思われている今日のファッションは、意外に歴史のなかにルーツをもっている。新しいファッションとは、実は過去の服飾のさまざまな要素の組み合わせによって生まれると言ってもよい。一方で、今日の世界のグローバル化のなかで、私たち日本人の服飾はもはや和洋の二項対立によって捉えることはできない。本講義では、19世紀から今日にいたるヨーロッパの服飾事象、および東西の服飾文化の交流を紹介し、造形性の背景にある精神性を考察しながら現代服飾の特質を考える。

〔教材〕

参考書：横川公子『服飾を生きる』第1版，化学同人，1999年
徳井淑子『図説ヨーロッパ服飾史』（ふくろうの本）第1版，河出書房新社，2010年
京都服飾研究財団『ファッション』第1版，タツシエン，2005年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

上記の参考書を読み、多彩な服飾造形とそれを支える多様な表現性があることを理解しておく。

〔成績評価の方法〕

期末試験50% 中間レポート30% 授業時のコメントペーパー20%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 序：授業概要
- 第2週 現代モードの誕生（1）20世紀ファッションの簡素化
- 第3週 現代モードの誕生（2）シャネルの功績
- 第4週 現代モードの誕生（3）ダンディズムの精神
- 第5週 歴史の記憶（1）黒服の系譜とクロモフォビア
- 第6週 歴史の記憶（2）色と文様に対する感情の東西比較
- 第7週 歴史の記憶（3）色彩調和の比較文化
- 第8週 模倣とファッション（1）デザイナーとコピー
- 第9週 模倣とファッション（2）オリジナリティと引用
- 第10週 模倣とファッション（3）復古調と異国趣味
- 第11週 模倣とファッション（4）近代の洋装化とジャポニスム
- 第12週 模倣とファッション（5）流行とブランド
- 第13週 身体呈示の社会性（1）ジェンダー
- 第14週 身体呈示の社会性（2）からだの矯正・整形・変形
- 第15週 理解度の確認

副題	メディアの中の社会／イメージの中の社会			担当者	若林 幹夫 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

メディアとイメージという点から、人間の社会とその現代的なあり方を考える視点を獲得すること。
メディア論、イメージ論という点から文化研究と社会学の視点、方法を理解できるようにすること。

〔授業の内容〕

私たちが生きる現代の社会と文化は、さまざまなメディアの媒介作用と、それらが日々産出するイメージぬきには理解することができない。この講義では、メディア論、身体論、イメージ論、都市論、時間論、空間論等の視点から、メディアとそれが生み出すイメージの社会的なあり方と、そこでの人間の意識や感覚、関係の変容について考察し、現代の社会と文化について考える視点を提供したい。

〔教材〕

参考書：吉見俊哉・若林幹夫・水越伸『メディアとしての電話』弘文堂，1992年
若林幹夫『都市のアレゴリー』（10+1シリーズ）INAX選書，1999年
若林幹夫『都市への／からの視線』（青弓社ライブラリー）青弓社，2003年
マーシャル・マクルーハン『メディア論——人間の拡張の諸相』みすず書房，1987年
ヴォルフガング・シヴェルプシュ『鉄道旅行の歴史』法政大学出版局，1982年
若林幹夫『〈時と場〉の変容』（コムニス）NTT出版，2010年

特定の教科書は使用しない。主要な参考書としては、上記を参照。他の参考文献は、必要に応じて随時指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回分のノートの確認、関連するwebや文献の調査、授業内容の自身の生活に当てはめて考察することなどが、予習・復習となる。この講義は現代の日常的な生活を対象とするので、社会生活の日常の反省的な考察も予習・復習として重要。

〔成績評価の方法〕

学期末試験の他に必要に応じてレポートを課す場合もある。

〔備考〕

受講者との質疑応答等を交えて講義を行うので、単に「聴講」するのではなく積極的に「参加」することを期待する。

〔授 業 計 画〕

第1週	イントロダクション：現代文化、イメージ、メディア
第2週	メディアと有名性：近代的なメディアはどうやって「有名人」や「スター」を生み出したか
第3週	故郷喪失とコスモポリタン（1）：メディアは人間と環境や土地との関係をどう変えたか
第4週	故郷喪失とコスモポリタン（2）：伝統社会にとって環境はどのようなメディアだったのか
第5週	複製技術とアウラの凋落（1）：複製技術は芸術や文化に何をもたらしたか
第6週	複製技術とアウラの凋落（2）：複製技術は現実感覚や身体感覚をどう変えたか
第7週	複製技術とアウラの凋落（3）：映画『カメラをもった男』から考える
第8週	メディアとしての電話（1）：電話をめぐる二つのオペラから
第9週	メディアとしての電話（2）：電話は社会的時間と空間をどう変えたか
第10週	メディアとしての電話（3）：電話は身体感覚をどう変えたか
第11週	モバイルメディアのトポロジー（1）：携帯電話は社会に何をもたらしたのか
第12週	モバイルメディアのトポロジー（2）：常時接続は社会をどう変えつつあるか
第13週	環境に溶け込むメディア（1）：ヴァーチャルとリアルはどう違うか
第14週	環境に溶け込むメディア（2）：ユビキタスとは何か
第15週	情報化、メディア化と人間の条件

副題	＜文化＞の力学を考える			担当者	本橋 哲也 講師	
単位	2	開講期間	春学期集中	曜日		時限

〔授業の到達目標〕

カルチュラル・スタディーズの基本的な思考と方法を身近な話題と題材から学びます。

〔授業の内容〕

カルチュラル・スタディーズとは、大学の内外で日常的にみなさんが触れており、それに囚われ、創ってもある＜文化＞の力学について考える方法です。そうした考え方にこれまで馴染みのなかった皆さんにも楽しく学んでいただけるよう、さまざまな映画を鑑賞することを通じて、そのような力関係を分析し考えます。自分の日常生活や周囲の人間関係、そして世界で生起する出来事にとって、＜文化＞がいかに関与しているかについての、思考の訓練を行い、他者の存在について思いを凝らすことの大切さを実感していただきたいと思います。

〔教材〕

教科書：本橋哲也『映画で入門カルチュラル・スタディーズ』大修館書店，2006年

教科書は、授業中に朗読していただくなど、初回から最後まで毎回使用しますので、必ず教室に持ってきてください。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として映画を見る（2～3時間）。

復習として教科書の内容を再確認する（2～3時間）。

〔成績評価の方法〕

授業後のレポート提出による評価。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

＜授業予定＞

- 1) パワーポイント講義：「カルチュラル・スタディーズとは何か？」
- 2) アイデンティティ：『千と千尋の神隠し』
- 3) 子ども：『亀も空を飛ぶ』
- 4) 生殖：『ヴェラ・ドレイク』
- 5) メディア：『恋におちたシェイクスピア』
- 6) スポーツ：『ミリオンダラー・ベイビー』
- 7) 音楽：『耳に残るは君の歌声』
- 8) ディアスポラ：『エレニの旅』
- 9) 在日：『パッチギ！』
- 10) 労働：『息子のまなざし』
- 11) ホロコースト：『シンドラーのリスト』
- 12) 民族分断：『JSA』
- 13) 難民：『イン・ディス・ワールド』
- 14) 帝国：『プロスペローの本』
- 15) 先住民：『鳥の歌』

現代文化論Ⅶ（スポーツ文化論）

3616011700100

副 題	スポーツという文化			担 当 者	荒井 啓子 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	月	時 限	4

〔授業の到達目標〕

スポーツ現象の中に凝縮・刻印されている文化や社会について理解を深め、「スポーツを文化として捉える」という観点を「スポーツ文化複合」の側面から学ぶ。

〔授業の内容〕

衣・食・住・音楽・美術・演劇等々と同様に、スポーツという文化もまた、時代や国の情況によって多様な姿が映し出されてきた。スポーツは、その社会が織り成す「伝統」の、あるいは「現代」の様々な文化の糸と絡み合いながら、私たちの生活の中に根づいている。この時間では、スポーツという人間の営みとその社会的・文化的・歴史的背景（気候・風土・民族・時代・社会通念・社会制度・宗教・政治・教育・産業・メディア・ファッション・性差・健康等）との関わりを眺めながら、人間にとってあるいは現代社会においてスポーツとはどのような文化なのか、という問題を考えていきたい。同時に、スポーツの窓から見た、文化の「変容と持続」、あるいは「独自性と普遍性」についても論じていきたい。映像・小説・CM・マスメディア資料なども読み解きながら講義をすすめる。

〔教材〕

テーマに応じて授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、前回のレジュメを確認し各自のノートに目を通した上で、出席すること。

〔成績評価の方法〕

レポート（50%）、理解度の確認（30～40%）、出席状況（20～10%）によって総合的に評価する。

（上記の目安は、進度や課題内容等により多少変更する場合がある）

〔備考〕

「特別授業」を開催する場合がある。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1週 | ガイダンス：授業の目的とすすめ方 |
| 第2週 | 人はなぜスポーツをするのか（スポーツ映画を観る） |
| 第3週 | 近代オリンピックⅠ |
| 第4週 | 近代オリンピックⅡ |
| 第5週 | 女性とスポーツ（女性スポーツの黎明期から現代まで） |
| 第6週 | ジェンダーとスポーツ（「らしさ」の社会通念とスポーツ） |
| 第7週 | イスラーム女性とスポーツ（異文化の中の近代スポーツ） |
| 第8週 | メディアとスポーツⅠ（テレビが変えたスポーツ文化） |
| 第9週 | メディアとスポーツⅡ（広告・CMとスポーツ） |
| 第10週 | 近代スポーツと民族スポーツ（スポーツの普遍性と独自性） |
| 第11週 | イギリス生まれのスポーツとアメリカ生まれのスポーツ |
| 第12週 | パラリンピックとパラリンピアン |
| 第13週 | スポーツと環境問題 |
| 第14週 | 日本人とスポーツ（花見・遠足・運動会） |
| 第15週 | 日本人とスポーツ（伝統スポーツと外来スポーツ） |

副題	情報通信技術			担当者	岩城 宏明 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

情報理論の基礎を学習し、情報通信技術に関する理解を深める。また、社会科学的側面からインターネットの問題点や今後について、考察できる基礎知識を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕

20世紀に誕生したコンピュータは、ネットワークで結ばれ巨大情報メディアに成長した。この講義では、コンピュータやインターネットについて解説する。技術的な内容が中心となるが、社会に与えた影響についても触れていく。また、「情報理論」に関する内容についてもふれる。マスメディアに関する内容も含まれるが、マスメディア論ではないので注意すること。

履修にあたって特に条件は設けない。

また、講義内容の理解状況により、授業計画を変更することがある。ガイダンスには必ず出席すること。

〔教材〕

教科書：川合 慧『『情報』（東京大学教養学部テキスト）』東京大学出版会、2006年
詳細は、最初の授業時に示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習として教科書理解に30時間、課題のために30時間を授業外に必要な時間として想定している。

〔成績評価の方法〕

履修者数が40名以下の場合、試験を行わず課題提出（レポート：100%）とし、平常の成績を重視する。また、試験を行った場合は、試験（100%）の結果で評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 情報とは
- 第3週 記号化・デジタル化
- 第4週 情報伝達の仕組み
- 第5週 コンピュータの歴史
- 第6週 コンピュータの仕組み
- 第7週 インターネット
- 第8週 デジタル化の功罪
- 第9週 画像・映像データ
- 第10週 放送とインターネット
- 第11週 電子メディアと非電子メディアの比較
- 第12週 インターネットが引き起こした社会問題
- 第13週 未来のメディア
- 第14週 まとめ
- 第15週 〃

第1週の授業に必ず出席すること。履修者数により授業計画を一部変更することがある。

現代生活論I (現代食品情報)

3616041100100

副 題	現代食品情報			担 当 者	阿部 誠 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	月	時 限	2

〔授業の到達目標〕

現代の多様な食品情報を系統的に理解できるようになる。

〔授業の内容〕

現代の食生活には様々な加工食品が大きな役割を果たしている。食品成分の機能性の開発や加工技術の進歩により加工食品の種類は増加し、使用される原料も、新たな生産方法や品種の開発、海外からの輸入品の増加などにより極めて多様である。授業では、まず加工食品に関する現代のいくつかの諸問題を概説し、ついで、食品加工の原点である食品保蔵の原理と実際、および各種加工食品について解説する。最後に、学生各自で関心のある食品をとり上げて現状をさらに詳しく調査し、レポートしてもらう。

〔教材〕

プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、前回の授業での疑問点を調査し不明な個所について質問できるようにして臨むこと。

〔成績評価の方法〕

提出レポート（約90%）と授業への参加状況（約10%）で成績評価する。ただし、授業回数 of 3分の1を越えて欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔備考〕

授業内容について質問がある場合は、月曜日（13：00～15：00）、火曜日（10：30～12：00）のオフィスパワーに研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

第1週	はじめに
第2週	加工食品と問題点
第3週	食品保蔵の原理と実際 1
第4週	食品保蔵の原理と実際 2
第5週	食品保蔵の原理と実際 3
第6週	食品の品質保持と加工
第7週	々
第8週	食品の安全性の評価法
第9週	食品情報と表示
第10週	ダイエット甘味料, ダイエタリーファイバー強化食品
第11週	ビタミン強化食品, DHA強化食品, ポリフェノール強化食品
第12週	ミネラルウォーター, インスタント食品, レトルト食品
第13週	冷凍食品, 有機栽培食品
第14週	新しい機能性食品, 情報の信頼性
第15週	レポート作成指導

授業計画は変更することがある。

副題	ライフステージ別の食生活および問題点			担当者	濱谷 亮子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

出生、発育、加齢にともなう生理的な変化や栄養状態の特徴を学び、ライフステージ別の食生活の特徴や問題点を説明することができる。

〔授業の内容〕

生命の営みと健康の保持・増進のために、ヒトは食物を摂取することが不可欠である。ライフステージ別（乳幼児期、学童・思春期、成人期、高齢期、さらに妊娠期・授乳期）の生理的な変化や栄養状態の特徴を学び、ヒトの摂食行動に影響を及ぼす因子（精神的要因、社会環境等）を踏まえ、現代の食生活の問題点やライフステージ別の望ましい食生活の在り方を学習する。

〔教材〕

教科書は使用しない。適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布資料に目を通し、疑問点を質問できるように準備しておくこと

〔成績評価の方法〕

学期末試験

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 日本人の食生活の変遷 食をめぐる現状と課題
- 第2週 栄養素の働き
- 第3週 健康維持・増進のためのエネルギー・各栄養素の摂取量について（食事摂取基準，食事バランスガイド）
- 第4週 妊娠・授乳期の特性と栄養・食生活
- 第5週 乳児期の特性と栄養・食生活（乳汁栄養）
- 第6週 乳児期の特性と栄養・食生活（離乳食）
- 第7週 幼児期の特性と栄養・食生活1
- 第8週 幼児期の特性と栄養・食生活2
- 第9週 学童期・思春期の特性と栄養・食生活
- 第10週 成人期の特性と栄養・食生活1
- 第11週 成人期の特性と栄養・食生活2
- 第12週 高齢期の特性と栄養・食生活
- 第13週 傷病者に対する栄養・食事管理
- 第14週 健康づくりのための運動指針
- 第15週 まとめと解説

現代生活論Ⅳ（個人と集団）

3616041600100

副題	貧困と社会的排除			担当者	時安 邦治 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1

〔授業の到達目標〕

社会学・経済学・政治学が問題にしてきた貧困と社会的排除の諸相を把握し、解決の方向性を探る。

〔授業の内容〕

現代の日本社会の「格差」がさまざまに論じられ、人々の貧困や社会的排除、とりわけ「子どもの貧困」が重大な問題だと意識されているにもかかわらず、格差や貧困の問題は一向に解決に向かっていくようには思われない。この授業では、格差、貧困、社会的排除を捉える理論的・実践的な視点を提示しながら、社会的連帯と生活保障の可能性を考えていく。

〔教材〕

参考書：ルース・リスター『貧困とはなにか——概念・言説・ポリティクス』明石書店、2011年
阿部彩『弱者の居場所がない社会——貧困・格差と社会的包摂』講談社、2011年
岩田正美『現代の貧困——ワーキングプア／ホームレス／生活保護』筑摩書房、2007年

教科書は使用せず、適宜プリント等を使用する。参考文献は授業中に指示する。なお、配布済みのプリントを後日あらためて配布することはない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の講義のあとに、講義内容について30分程度の復習をすること。翌週の講義の開始時に簡単な復習テストを行う。

〔成績評価の方法〕

学期末のテストまたはレポート（70%）と講義翌週の復習テスト（30%）により評価する。

〔備考〕

授業について質問がある場合には、kuniharu.tokiyasu@gakushuin.ac.jpまでメールで問い合わせるか、事前連絡のうえ火曜日4限（14：40～16：10）のオフィスアワーに時安研究室（4110号室）まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 リスク社会と個人化
- 第3週 格差，貧困，社会的排除
- 第4週 貧困の把握の難しさ
- 第5週 ホームレス状態
- 第6週 女性の貧困
- 第7週 子どもの貧困
- 第8週 外国人の困窮
- 第9週 社会保障
- 第10週 生活保護の実態
- 第11週 シティズンシップの諸権利
- 第12週 シティズンシップから人権へ
- 第13週 市民社会セクター（1）
- 第14週 市民社会セクター（2）
- 第15週 まとめ

授業計画は変更することがある。

副題				担当者	山口 綾子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4

〔授業の到達目標〕

日本経済についての理解を深めることを通じて、受講生が今後の経済・社会生活に活かせるような、経済的知識・考え方を身につけることをめざします。

〔授業の内容〕

日本経済は、少子高齢化、財政赤字などさまざまな問題を抱えています。経済学の予備知識のない学生を対象に、こうした問題について、基本的なところからお話することで、日本経済の現状についての理解を深め、受講生が今後の経済・社会生活に活かせるような経済的知識・考え方を身につけるよう工夫したいと思っています。

〔教材〕

授業時に適宜プリントを配布します。
参考書は授業時に適宜指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

日ごろから新聞・テレビ、インターネット、書籍等を通じて経済関連のニュースに関心を持つこと。

授業時に配布したプリントを見直し、興味を引いた点については参考文献等でさらに理解を深める。疑問点については、極力当該授業時に質問、解決すること。なお質問は次回授業時でも受け付けます。

〔成績評価の方法〕

出席点（30%）および授業時に適宜行う理解度確認テスト（70%）で総合的に評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|---|
| 第1週 | 本コースの進め方 |
| 第2週 | 日本経済の概要（その1） 経済指標の見方・使い方 |
| 第3週 | 日本経済の概要（その2） GDPとは？ 景気循環とは？ |
| 第4週 | 戦後の日本経済の歴史（その1） 高度成長とその終焉 |
| 第5週 | 戦後の日本経済の歴史（その2） 石油危機後の不況、円高、バブル |
| 第6週 | 戦後の日本経済の歴史（その3） 産業構造の変化と労働市場の変化 |
| 第7週 | 戦後の日本経済の歴史（その4） バブルの生成と崩壊、失われた10年 / まとめ
理解度の確認 |
| 第8週 | 戦後の日本経済の歴史（その5） デフレの進行とアベノミクス |
| 第9週 | 日本の金融（その1） お金の役割 中央銀行とは？ |
| 第10週 | 日本の金融（その2） 金融政策と物価の安定 |
| 第11週 | 国際収支と円相場（その1） 日本の貿易構造 国際収支 |
| 第12週 | 国際収支と円相場（その2） 日本の対外政策 TPP |
| 第13週 | 日本の財政（その1） |
| 第14週 | 日本の財政（その2） |
| 第15週 | まとめ 理解度の確認 |
- 以上の授業計画は順番・内容など適宜変更の可能性があります。

副題				担当者	奥山 敏雄 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

日本社会の構造変動とそれにともなう人間の変化について理解することを通じて、自分が現在感じている閉塞感などの経験が日本社会のなかで刻まれたものであることを理解し、自らの経験を社会的観点から捉え返すことを目標とする。

〔授業の内容〕

日本社会が経験した世界的にも例のない急激な社会変動をめぐる、生産と消費、生活世界と自己、他者とのコミュニケーションなどについて概観し、資本制システムと自己という観点を軸に、1960年代から70年代半ばまで、70年代半ばから90年代半ばまで、90年代半ばから現在へと、大きく3つの局面に分けて、日本社会の現在がどのように生み出されてきたのか、そのなかで人間がどのように「型どられてきた」のかを考える。そしてこの観点から、日本社会を覆っている深い閉塞感について考えたい。

〔教材〕

教科書は使用しない。参考書は講義のなかで適宜情報提供する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で紹介された参考文献を読むこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況(40%)と学期末試験(60%)によって評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 社会の変化と人間の「型どり」
- 第2週 産業社会の形成とその論理
- 第3週 組織の巨大化と管理される個人
- 第4週 近代家族と私化
- 第5週 大衆社会と欲望
- 第6週 人並み化の圧力と大衆消費
- 第7週 消費の様式の変容
- 第8週 差異の生産とシミュレーション
- 第9週 個性化の意味
- 第10週 情報化社会と消費
- 第11週 虚構の時代と自己
- 第12週 グローバル化と格差社会の形成
- 第13週 ネット社会とコミュニケーション
- 第14週 自己の内閉化
- 第15週 他者の喪失

副題	展覧会カタログ研究			担当者	今橋 理子 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

展覧会および展覧会カタログの〈メディア性〉について総合的に学び、その文化的意義について批評的検証を行う。

〔授業の内容〕

本授業では〈展覧会カタログ〉研究をテーマとする。「展覧会」というイベントは、今日単に集客を目的とするだけでなく、広く学術成果を一般に還元することが可能な場としても認識され、ひとつのメディアとしても重要な役割を果たしていると言える。本授業では、まずこのような立場から「展覧会」を再認識し、絵画・工芸・写真などの美術の分野はもちろんのこと、歴史・民俗・文学さらには音楽や映画の領域にまで、近年幅広く広がっている様々な展覧会の現状を分析する。そしてその際に多く編まれる「カタログ」について単にこれを〈開催記録〉と見なすのではなく、カタログ制作の過程やその現状をフィールド調査することを重視する。授業は講義と発表を併用したゼミ形式で行い、美術館・博物館への共同調査も実施する。授業ではまず例証研究として、国内外における近年の日本近世美術に関しての展覧会カタログ全般を扱う。その後履修者各自の関心領域に合わせた、展覧会カタログに関する小テーマを設定し口頭発表また報告書を作成する。

〔教材〕

教科書：今橋映子『展覧会カタログの愉しみ』（東京大学出版会、2003年）
上記テキストの他に随時コピー類を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の出席状況、口頭発表および学期末にレポートを提出してもらう。

〔備考〕

履修者の人数制限をする。

実際的に展覧会を取材するために、見学会だけでなく履修者が個別に美術館等を訪ねてもらうことになる。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 美術展をめぐるカタログ制作の現状（1）
- 第2週 美術展をめぐるカタログ制作の現状（2）
- 第3週 美術展をめぐるカタログ制作の現状（3）
- 第4週 美術館・博物館への取材・調査（1）
- 第5週 美術館・博物館への取材・調査（2）
- 第6週 美術館・博物館への取材・調査（3）
- 第7週 口頭発表（1）
- 第8週 口頭発表（2）
- 第9週 口頭発表（3）
- 第10週 口頭発表（4）
- 第11週 口頭発表（5）
- 第12週 口頭発表（6）
- 第13週 口頭発表（7）
- 第14週 口頭発表（8）
- 第15週 あるべき美術展カタログの姿とは——全体討議

※比較文化論Ⅳ（民俗）

3617021400100

副 題	儀礼・信仰・物語・ビジュアルカルチャー			担 当 者	徳田 和夫 教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	火	時 限	2

〔授業の到達目標〕

- 1.日本の民俗文化・伝統文化の学習分析において、比較文化論の必要性を理解します。
- 2.民俗文化の意義を把握した上で、比較文化論や文化比較の方法について理解します。
- 3.日本を含む東北アジアと、ヨーロッパの民俗文化を比較対照し、その共通性と対応性を認知します。

〔授業の内容〕

日本と外国の民俗儀礼（年中行事・祭礼・コスプレ）、信仰（民間信仰・俗信・妖怪・パワースポット）、物語（民間説話・宗教説話）を比較対照します。また、図像学も導入し、物語・動物・妖怪図像、マスキュラ、ゆるキャラの分析もおこないます。

それらから、民俗文化における世界的共通性と地域的独自性を考えていきます。

〔教材〕

授業時にプリント等に拠って指示します。また、教材プリントを用意します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献を、あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況、学期末のレポートに拠って評価します。

〔備考〕

必用に応じて、美術館、博物館の見学を薦めます。その際には、見学感想文の提出を求めます。

※授業内容と無関係な私語、飲食、携帯電話等の使用、正当な理由なき中途退出を厳禁とする。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 民俗学と比較民俗学①
- 第2週 民俗学と比較民俗学②
- 第3週 年中行事1
- 第4週 年中行事2
- 第5週 年中行事3
- 第6週 祭礼1
- 第7週 祭礼2
- 第8週 信仰1（アニミズムと神仏習合）
- 第9週 信仰2（仏教とキリスト教）
- 第10週 信仰3（俗信）
- 第11週 物語1（日本とアジア1）
- 第12週 物語2（日本とアジア2）
- 第13週 物語3（日本とヨーロッパ1）
- 第14週 物語4（日本とヨーロッパ2）
- 第15週 まとめ

以上の〔授業計画〕は、必要に応じて、追加・削除、順序変更がありえます。

副題	「江戸」の発見			担当者	岩淵 令治 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

異文化である過去の文化が、その後に「伝統」として発見され、創造される側面があることを理解する。

〔授業の内容〕

「伝統的」とされる文化の中には、実は近代以降に発見され、創造されたものも少なくない。ここでは江戸の都市文化を主な題材として、各時代に発見されていく「江戸文化」と実態を比較し、「江戸像」を相対化するとともに、何がどのような契機で発見されたのか、その社会的な背景も考えてみたい。

〔教材〕

参考書：岩淵令治『江戸・大坂・京の三都物語』（週刊朝日百科日本の歴史30）朝日新聞社、2014年
杉森哲也・岩淵令治ほか『日本近世史』放送大学教育振興会、2013年
テキストはコピーを配布する。また、授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習はとくに必要ない。プリント類を再確認するなど、復習すれば、講義の内容について理解は深まるだろう。

〔成績評価の方法〕

出席状況・授業態度（30%）、期末試験（70%）で判断する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	「伝統」の発見・創造
第2週	江戸時代における「江戸」像の発信（1）他国者から見た江戸
第3週	江戸時代における「江戸」像の発信（2）江戸勤番武士の日記を読む その1
第4週	江戸時代における「江戸」像の発信（3）江戸勤番武士の日記を読む その2
第5週	江戸時代における「江戸」像の発信（4）創られる名所 1
第6週	江戸時代における「江戸」像の発信（5）創られる名所 2
第7週	江戸時代における「伝統」の伝播－雅楽と楽器師－
第8週	近代における「江戸」の発見（1）明治武士道の誕生 1
第9週	近代における「江戸」の発見（2）明治武士道の誕生 2
第10週	近代における「江戸」の発見（3）「江戸史蹟」の誕生
第11週	近代における「江戸」の発見（4）「江戸城登城風景図」の二つの表象－名所画と「歴史画」
第12週	近代における「江戸」の発見（5）大正期の消費文化と江戸の「商品化」
第13週	高度成長期における「江戸」の発見 江戸商人像をめぐって
第14週	現代における「江戸」像と実態 「清潔都市」「リサイクル都市」幻想
第15週	補足とまとめ

進捗状況によって計画の変更がありうる。

比較文化論VI (嗜好)

3617021600100

副題				担当者	中野 美季 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5

〔授業の到達目標〕

講義と体験を通じて味覚への理解を深め、味わう力、表現する力を養う。

〔授業の内容〕

今日、食や食物の嗜好への人々の関心は極めて高い反面、ベースとなる「味覚」についての基礎的知識は十分とはいえないのが現状である。本講義では味覚について段階的に理解を深めることを目的とし、適宜比較テイスティングを行い、ワークシートに詳細に記入することにより、味覚の体験的理解と表現力を養うことを目指す。

1. 識別テスト等を利用して、自分の味覚を認識する。
2. 文化としての日本の味を、外国との比較をまじえて考える。講師はイタリア食文化を専門とするため、比較対象は特にイタリアである。
3. 味の背景にある食文化を理解し、世界の中の日本、日本の中の自分を認識し、表現する。講義の進度により、シラバスに記載の内容・順序等は適宜変更される。

〔教材〕

必要に応じてプリントを配布し、参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

出身地の郷土料理、自分自身の食生活に、日常的に関心をもって向き合うこと。

〔成績評価の方法〕

レポート（30%）、出席（30%）、授業への貢献度（40%）などを加味して総合的に評価する。

〔備考〕

風味や味覚の官能検査を行うため、受講者を制限する。受講希望者は日本文化学科掲示板を確認すること。

〔授業計画〕

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | 味覚の基礎知識 |
| 第3週 | 味覚実験 五味（甘味、塩味、苦味、酸味、うま味）の識別など |
| 第4週 | 味覚実験 濃度の識別など |
| 第5週 | 味覚実験 味と五感 |
| 第6週 | 日本のだし（魚の節類） |
| 第7週 | 日本のだし（昆布） |
| 第8週 | イタリアの伝統食品 |
| 第9週 | 味覚と文化 日本、イタリア比較（調味料、食材など） |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 味覚と文化 日本酒 |
| 第12週 | 味覚と文化 ワイン |
| 第13週 | まとめ |
| 第14週 | 討議 |
| 第15週 | 発表と調理実習 |

副題	装飾文化の交流			担当者	福島 雅子 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

日本と諸外国との文化交流について歴史の中で確認し、その意義を理解する。

〔授業の内容〕

古来、人は生活の中で用いる身近なものに、さまざまな文様や技法を凝らして装飾をほどこしてきた。文様や装飾技法は、文化圏を越えて伝播し、日本は中国や西アジア、西欧諸国などとも影響関係がみとめられる。本講義では、文様や装飾美術に着目し、日本が諸外国から受けた影響と、日本から諸外国へ与えた影響について考える。

〔教材〕

授業時に、適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には、配布資料と指定した参考文献等を確認し、授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

期末試験またはレポート（70%）、出席状況と授業態度（30%）により評価する。期末試験またはレポートについては、履修者数により決定する。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス —装飾文化の交流—
- 第2週 文様（1） 龍と鳳凰
- 第3週 文様（2） 唐草文
- 第4週 文様（3） 昨鳥文の系譜
- 第5週 信仰の美術（1） 仏像の誕生
- 第6週 信仰の美術（2） 浄土教美術
- 第7週 茶の湯の美術（1） 唐物
- 第8週 茶の湯の美術（2） わび茶
- 第9週 南蛮文化と南蛮美術
- 第10週 世界を魅了した輸出品（1） JAPANとIMARI
- 第11週 世界を魅了した輸出品（2） 明治の超絶技巧
- 第12週 ジャポニスム（1）
- 第13週 ジャポニスム（2）
- 第14週 アール・ヌーボー
- 第15週 まとめ

授業計画は変更することがある。

比較文化論VIII (Japanese Culture I)

3617021800100

副 題	Japanese Film History: The Studios and the New Wave			担 当 者	J. P. チャン 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	金	時 限	2

〔授業の到達目標〕

The course will explore the history of the Japanese film industry through the studio system following World War II up to and including the Japanese New Wave. Students will view and analyze seminal movies, filmmakers, and studios during this period as well as understand the historical context that shaped the film industry.

〔授業の内容〕

The purpose of this class is to provide a survey of the Japanese Film Industry from the end of World War II until the Japanese New Wave. The post-war period marked the beginning of the Cold War internationally and the rebuilding period in Japan domestically. We will examine the film industry's development in the context of such historical events as World War II, the Allied occupation, the social unrest of the 1960s, the role of television, and the postwar economic recovery. The types of movies, its themes, and the influence of domestic and international film developments such as the dominance of Hollywood and the rise of various national "New Waves" will be explored through the viewing and analysis of the Japanese studio system and important films by prominent Japanese filmmakers.

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to watch movies, complete readings, and write responses to both. Students will be expected to spend 2-4 hours per week to prepare for the course.

〔成績評価の方法〕

Students will be evaluated on short response papers (approximately 100 words), a midterm quiz, a final, and a short term paper (700-1200 words).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--|
| 第1週 | Course introduction |
| | Film studies and history |
| 第2週 | Rashomon [羅生門] (1950) |
| 第3週 | The war period, the Film Law, and SCAP |
| 第4週 | Akira Kurosawa |
| | Jidaigeki, Gendaigeki, Shomingeki |
| 第5週 | Tokyo Story [東京物語] (1953) |
| 第6週 | Yasujiro Ozu |
| | Postwar Japan and Shochiku Studios |
| 第7週 | Ugetsu Monogatari [雨月物語] (1953) |
| 第8週 | Kenji Mizoguchi |
| 第9週 | Midterm Quiz |
| 第10週 | Night and Fog in Japan [日本の夜と霧] (1960) |
| 第11週 | The Cold War, Zengakuren, and U.S.-Japan relations |
| 第12週 | Tokyo Drifter [東京流れ者] (1966) |
| 第13週 | The Japanese New Wave |
| 第14週 | Final Review |
| | Term Paper Due |
| 第15週 | Final |

副題	Global Travels			担当者	J. P. チャン 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

The goals of the course are to understand the contemporary context of travel and migration through movies that emphasize traveling. In analyzing the movies over the course of the term, we will familiarize ourselves with the formal tools of film analysis, the ideological and theoretical assumptions of global culture and travel, and understanding film's place in creating and reflecting the concerns of such increased world movement.

〔授業の内容〕

This course will examine travel in world cinema. One of the prominent characteristics of contemporary life is the increased opportunity and/or necessity for travel. Whether for pleasure or to find work, global populations are increasingly on the move and trying to move faster and faster. This class will examine films where travel and migration play an important role in the film. In the course of the term, we will ask the following questions: how is movement represented in film? What are the formal characteristics of such movement in film? What kinds of movement are privileged? How do these representations reflect and construct our notions of movement in the era of globalization?

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to watch movies, complete readings, and write responses to both. Students will be expected to spend 2-4 hours per week to prepare for the course.

〔成績評価の方法〕

Students will be evaluated on homework, a midterm quiz, a final, and a short term paper (700-1200 words).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Course Introduction
- 第2週 Failan [パイラン] (2001)
- 第3週 Reading: Zygmunt Bauman, "Tourists and Vagabonds"
- 第4週 Continue discussion of Failan and the Bauman reading
- 第5週 The Darjeeling Limited [ダージリン急行] (2007)
- 第6週 Orientalism and mise-en-scene
- 第7週 Continue discussion of Orientalism and The Darjeeling Limited
- 第8週 Midterm
- 第9週 Watch: Run Lola Run [ラン・ローラ・ラン] (1998)
- 第10週 Reading: Harvey, "Time-space compression"
Editing
- 第11週 Kikujiro [菊次郎の夏] (1999)
- 第12週 Globalization, the Family, and Melodrama
- 第13週 The road trip movie
- 第14週 Review for Final
Term Paper Due
- 第15週 Final

日本文化演習IA・III A

3611010100100

副 題	日本芸術の諸相			担 当 者	尼ヶ崎 彬 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	水	時 限	5

〔授業の到達目標〕

近代日本の芸術文化に関する基本的知識の獲得と、その研究方法の習得。

〔授業の内容〕

近代日本芸術の各分野に関し、新しい視点で書かれた研究書を取り上げ、学生が分担してその内容を報告し、全員で討議する。この著作のリストは網羅的になるように教員側が用意する。

〔教材〕

授業中指示する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表週の予習（発表準備）は30時間。それ以外の週の予習（指定図書の通読）は4時間。復習（授業内容の確認と必要箇所の再読）は2時間。

〔成績評価の方法〕

レポート（70%）、出席（30%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	〃
第3週	学生による発表
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題	比較日本文化論 (I)			担当者	今橋 理子 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

学際的視点で、美術史（絵画史）および視覚芸術研究を行う方法論の基礎を学び、将来的な卒業論文執筆へと結び付けることを目指す。

〔授業の内容〕

近年日本美術史研究は、従来の〈技法〉〈様式〉〈流派〉研究のみならず、美術史以外の、例えば歴史、民俗、社会、文学研究など他分野の研究成果を取り入れつつ、〈作品解釈論〉の方法を広げようとしている。こうした動向は、現在の比較日本文化論研究の方向と直結しており、私たちはそれを直視しなければならない。本授業では日本文化研究の方法を、美術史から発して探っていこうとする読みであるが、その手掛かりとしてまず〈美術と文学〉を考えていく。本授業は秋学期の授業へと継続・対応する形となる。本授業では、美術と文学の双方の領域において活躍した詩画人・与謝蕪村を例に考えていく。蕪村の俳諧作品は、明治以降の俳句文芸に多大な影響を与えて、近代では長らく画家としてよりも詩人としての業績の高さに比重がおかれていた。しかし江戸時代には、むしろ画家としての評価が高く、彼に私淑し、傾倒した画家は少なくなかった。〈詩・書・画〉一体を文字通りめざした芸術家蕪村が、18世紀という社会的変革の時代を背景に、絵画という〈視覚〉の世界と、文学という〈言語〉世界の間で、どのようなイマジネーションを育んでいたのかを探っていきたい。

〔教材〕

藤田真一『蕪村』（岩波新書705, 2001年）

今橋理子『江戸絵画と文学』（東京大学出版会, 1999年）ほか使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

途中一回と学期末にそれぞれレポートを課す。

〔備考〕

出席数および年に数回授業時以外に見学会を実施するので、その参加度を重視する。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|----------------------|
| 第1週 | 概論（1）——比較日本文化論の現在 |
| 第2週 | 概論（2）——〈比較研究〉の方法と理論 |
| 第3週 | 与謝蕪村を〈読む〉——テキスト輪読（1） |
| 第4週 | 与謝蕪村を〈読む〉——テキスト輪読（2） |
| 第5週 | 与謝蕪村を〈読む〉——テキスト輪読（3） |
| 第6週 | 与謝蕪村を〈読む〉——テキスト輪読（4） |
| 第7週 | 与謝蕪村を〈読む〉——テキスト輪読（5） |
| 第8週 | 美術館での見学会（1） |
| 第9週 | 蕪村における絵画と文学——発表（1） |
| 第10週 | 蕪村における絵画と文学——発表（2） |
| 第11週 | 蕪村における絵画と文学——発表（3） |
| 第12週 | 蕪村における絵画と文学——発表（4） |
| 第13週 | 蕪村における絵画と文学——発表（5） |
| 第14週 | 美術品調査の方法と理論 |
| 第15週 | 美術館での見学会（2） |

副 題	日本の神話			担 当 者	神田 典城 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	火	時 限	5

〔授業の到達目標〕

日本の神話の意義及び仕組みが分かり、研究上の問題点が理解できるようになる。

〔授業の内容〕

古事記・日本書紀の二文献は、いずれもこの世の始原から書き起こし、歴代天皇の治世に説き及ぶ。その天皇代に至るまでの部分は、神々による世界の形成が描かれており、これを記紀神話と呼び習わしている。もちろん両書は成立の経過も書物としての性格も異なる。しかし日本書紀には説話のまとまりごとに収録された豊富な異伝があり、これに古事記の記事を合わせ伝承間の相違点を子細に検討するならば、それぞれの神話の形成の跡をたどることもある程度は可能である。そこでこの手法により、各神話の本源の姿を探究すると共に、各々の神話に込められた文化的メッセージに対する理解を深めることを目指す。なお必要に応じ、風土記も参照する。

〔教材〕

教科書：神田典城編『対照神代記紀』笠間書院

参考書については授業時に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストの内容をよく理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末のレポート(100%)による

〔備考〕

古語辞典必携

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--------|
| 第1週 | 概要説明 |
| 第2週 | 発表及び討論 |
| 第3週 | 〃 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | 〃 |

副題	近代日本の歴史と思想			担当者	木村 直恵 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5

〔授業の到達目標〕

近代日本の思想や文化に関わる資料や著作および、それについての研究論文に触れ、歴史的な流れの中で理解することをつうじて、歴史研究の方法的基礎を養うとともに、思想や文化の営みに親しむきっかけをつくる。

〔授業の内容〕

黒古一夫編『思想の最前線』、栗原幸雄編『芸術の革命と革命の芸術』のいずれかをテキストに、同書に収録された明治・大正期の資料を読みとく。また、あわせて歴史哲学に関する古典を併読したい。都内の関連ある史跡を授業の一環として見学することもある。

〔教材〕

参考書：黒古一夫『思想の最前線』社会評論社、1990年
栗原幸雄編『芸術の革命と革命の芸術』社会評論社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の購読史料を事前に予習して理解し、自分の感想やコメントを準備しておくこと。また自分の報告担当の回は、事前に報告の準備を行うこと。

〔成績評価の方法〕

出席と授業参加、課題提出物、期末レポートにより総合的に評価する。出席が全回数の7割に満たない場合は評価対象としない。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	文献講読
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

副 題	平安時代の文学（1）			担 当 者	伊藤 守幸 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	火	時 限	5

〔授業の到達目標〕

『源氏物語』の精読を通じて、文学のみならず平安文化全般にわたる多くの知見に接して、日本の古代文化に関する豊かな教養を身につけてもらうことを目指す。

〔授業の内容〕

『源氏物語』を素材として、古典作品の精密で分析的な読解を試みる。テキストとして青表紙本『源氏物語』の影印本を用いることによって、くずし字を読むことにも習熟してもらう。取り上げる巻としては、薄雲巻を予定している。

〔教材〕

教科書：『青表紙本「源氏物語」薄雲巻』新典社
中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『源氏物語』講読の準備と事後の補足的調査。4時間。

〔成績評価の方法〕

出席および演習内容・レポートによって総合的に評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1週 | 『源氏物語』についての概説 |
| 第2週 | 担当箇所の確定と発表方法に関する説明 |
| 第3週 | 担当者による発表と質疑応答 — 『源氏物語』薄雲巻の講読— |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | 〃 |

副題	日本語研究の方法			担当者	福島 直恭 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

学術的な日本語研究方法の基礎を習得する

〔授業の内容〕

時代（古典語・現代語）を問わず，日本語やその他の言語に関する著書や論文などを読む。それぞれの学生が興味・関心のある事柄に関する文献を探し，その内容について，解説，批判，今後の研究の展開の可能性などに関する報告を行う。（初回授業から数回，教員が日本語研究・言語研究について概説する。）

〔教材〕

テキストとして事前に指定する文献は特にないが，必要に応じて授業内で紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表時は10時間以上の準備が必要。発表時以外は1～2時間程度の予習（指定された研究書，学術論文などを読んでおく）が必要

〔成績評価の方法〕

発表担当時の発表内容およびプレゼンテーション（80%）の他，討論への参加の積極性（20%）などを総合的に評価する。最低でも開講時数の2／3以上の出席が必須である。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 言語研究と日本語研究の諸分野についての概要説明
- 第2週 具体的な研究方法の検討
- 第3週 以後は担当学生による発表と討論
- 第4週 〃
- 第5週 〃
- 第6週 〃
- 第7週 〃
- 第8週 〃
- 第9週 〃
- 第10週 〃
- 第11週 〃
- 第12週 〃
- 第13週 〃
- 第14週 〃
- 第15週 まとめ

副 題	現代社会研究 (1)			担 当 者	時安 邦治 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	火	時 限	3

〔授業の到達目標〕

社会学の知見を参考にして、現代社会について研究するための基礎的な知識とスキルを習得し、自らの研究課題を立案し、情報収集・調査を進められるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会の諸側面について社会学からアプローチする。授業は学生の発表とその内容についての議論を中心に進めていく。学期の前半は3年生が中心となり、現代社会研究に関する教科書的な内容の文献を講読し、現代社会を見る視点を獲得する。後半は4年生が卒業論文の構想を発表する。

論文を書くこと自体は自分1人で行う作業だとしても、研究は他者との交流、意見交換によってはじめて醸成されるものである。そのため学生には積極的な授業参加と生産的な議論が要求されている。

〔教材〕

教科書：船津衛ほか『21世紀社会とは何か——「現代社会学」入門』恒星社厚生閣，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書は事前に該当箇所を読み、質問等を用意しておくこと。発表に際しては、さまざまな角度からの質問に答えられるよう、レジメの作成を含めて十分な準備をしておくこと。また、卒業論文・ミニ卒業論文に向けて課題を適宜出すので、その都度取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

成績は学期末のレポート（40%）、発表と授業への参加態度など（60%）から総合的に評価する。特に議論への参加を重視する。

〔備考〕

授業について質問がある場合には、kuniharu.tokiyasu@gakushuin.ac.jpまでメールで問い合わせるか、事前連絡のうえ火曜日4限（14：40～16：10）のオフィスアワーに時安研究室（4110号室）まで来ること。

〔授 業 計 画〕

第1週	イントロダクション
第2週	『21世紀社会とは何か』講読（1）——第1章，第2章
第3週	『21世紀社会とは何か』講読（2）——第3章，第4章
第4週	『21世紀社会とは何か』講読（3）——第5章，第6章
第5週	『21世紀社会とは何か』講読（4）——第7章，第8章
第6週	『21世紀社会とは何か』講読（5）——第9章，第10章
第7週	『21世紀社会とは何か』講読（6）——第11章，第12章
第8週	『21世紀社会とは何か』講読（7）——第13章，第14章
第9週	『21世紀社会とは何か』講読（8）——第15章，第16章
第10週	卒業論文構想発表（1）
第11週	卒業論文構想発表（2）
第12週	卒業論文構想発表（3）
第13週	卒業論文構想発表（4）
第14週	卒業論文構想発表（5）
第15週	まとめ

授業計画は変更の可能性がある。

副題	中世文化・民俗文化〔1〕—民間説話・古典説話・芸能など—			担当者	徳田 和夫 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5

〔授業の到達目標〕

- 1.日本の伝統文化を、民俗学と比較文化論から研究する必要性を熟知する。
- 2.民俗の概念とその多様性の認知、および物語伝承の多方面からの研究を実践する。
- 3.文化を、本物・現物に接して理解する。

〔授業の内容〕

中世における女性の物語や、中世から現代にまで伝わる民間説話を絵巻作品に照らして解析し、また関連する芸能作品を鑑賞して、日本人の精神文化史を考察していきます。

文学史的な把握に加えて、特に口承文芸・民間説話学（昔話・伝説・うわさ話など）、民俗学（民間信仰・俗信・年中行事など）を導入していきます。

さらに比較説話学（外国の民間説話・宗教説話との対比）、物語絵画史（絵巻・奈良絵本・錦絵・仏教絵画など）、芸能史（古典芸能・民俗芸能・話芸）などからアプローチします。

〔教材〕

教科書：徳田和夫『図説：絵とあらずじでわかる！ 日本の昔話』（青春新書インテリジェンス）2014，青春出版社。また，プリントを配布します。

参考書：授業時に必要なものを紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献を、あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

総合評価（研究と演習発表40%、質問・発言20%、レポート40%）によっておこないます。

〔備考〕

（1）ゼミ旅行，美術館・博物館・史蹟等の見学，古典芸能の鑑賞，民俗芸能・儀礼のフィールド・ワークを企画実行します（参加を前提とする）。

（2）授業時あるいは別時間に，卒業論文の対象選定，準備についての指導と，その発表の機会を設けます。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|---------|
| 第1週 | 概説（1） |
| 第2週 | 概説（2） |
| 第3週 | 演習発表と討議 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | まとめ |

日本文化演習Ⅰ・ⅢⅠ

3611010100900

副 題	日本の染織と服飾文化の諸相（1）			担 当 者	福島 雅子 准教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	月	時 限	5

〔授業の到達目標〕

卒業論文の作成に向けて、日本服飾史・染織史研究の方法を理解することを目標とする。

〔授業の内容〕

日本服飾史・染織史に関する研究論文を取り上げ、各自担当を決めて内容を報告する。論文については、受講生の関心を聞き決定する。

〔教材〕

授業の中で指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表課題に関する資料を各自で収集し、また指定した文献を読み、発表の準備を進めること。

〔成績評価の方法〕

発表（70%）と授業への参加（30%）から総合的に評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	学生による発表と討論
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

副題	日本近世の政治・社会・文化（1）			担当者	岩淵 令治 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	5

〔授業の到達目標〕

日本近世史研究の方法に基づき、最終的に卒業論文を提出することを目的とする。

〔授業の内容〕

日本近世の政治・社会・文化に関する文献史学の研究は、近世史料と、先行研究論文の読解にもとづいている。春学期は、江戸時代の活字史料の輪読を通して意味解釈や課題を発見する方法を学ぶ。参加者は、史料の担当箇所について報告する。テキストについては、参加者の関心も聞いたうえで、決定したい。なお、学期末には4年生は卒業論文の予備的なレポートを、3年生は将来の卒業論文に向けたレポートを提出してもらう。

〔教材〕

テキストはコピーを配布する。また、授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

他の報告者の史料についても、読み・意味を予習・復習することが望ましい。

〔成績評価の方法〕

報告(40%)、レポート(30%)、出席状況(30%)により評価する。報告者ではない回でも、積極的に議論に参加することを期待する。

〔備考〕

初回の授業に出席すること。また、就職活動と重ならない限り、毎週出席すること。なお、研究に関する質問・相談は金曜日の13:30~14:30に受け付ける。

〔授 業 計 画〕

第1週 授業のガイダンス（参加者の関心の披露）

第2週 時代の概説・辞書類の説明等

第3週 卒業論文の原案報告（4年生）

第4週 ヶ

第5週 ヶ

第6週 ヶ

第7週 史料研究報告（3年生）

第8週 ヶ

第9週 ヶ

第10週 ヶ

第11週 ヶ

第12週 ヶ

第13週 夏季合宿の準備

第14週 卒業論文の進捗報告（4年生）

第15週 ヶ

参加人数によって、計画に若干の変更がありうる。テキストは、各人の関心を聞いた上で検討する。また、1, 2回、都内の博物館・資料館・史跡見学を行う。夏季の合宿については、学期中に検討する。

副 題	食品研究 1			担 当 者	阿部 誠 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	火	時 限	3

〔授業の到達目標〕

食品の研究を自ら進め、論文にまとめる能力をつける。

〔授業の内容〕

多様な日本食文化の対象である食品・食材とその利用について、文化的価値と科学的特性を研究し総合的に評価するための方策を中心に検討する。日本の伝統食品、現代の加工食品、新しい食品原料などについての関連文献を講読し、内容を検討すると共に、必要な基礎的実験技術、調査・分析手法を習得する。その後、特定の食品や食に関連する問題を研究テーマに選び、研究を進めるための実際的な方策・手法についての検討や予備的調査を中心として具体的な研究計画の策定を行っていく。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、前回の授業での疑問点を調査し不明な個所を質問できるようにして臨むこと。

〔成績評価の方法〕

発表および提出物等（約80%）、授業への参加状況（約20%）により評価する。

〔備考〕

授業内容について質問がある場合には、月曜日（13：00～15：00）、火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	資料調査，基礎実習，基礎実験など研究手法の検討と計画の策定の指導
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

授業計画は変更することがある。

副題	スポーツ文化の諸相			担当者	荒井 啓子 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5

〔授業の到達目標〕

スポーツ現象の中に凝縮・刻印されている文化や社会を、主にスポーツ人類学やスポーツ文化論の視点から理解を深め、スポーツ文化研究の内容や方法を習得していく。資料の読解・問題の発見・論理的思考の能力を養いつつ、卒業論文作成に向けて独自の研究課題を見出していく。

〔授業の内容〕

日本及び諸外国の、過去及び現在の社会における「スポーツ現象」を、社会的・文化的・歴史的側面から考察を行う。「スポーツとはどのような文化なのか」「他の文化とどのような関わりがあるのか」という問題を常に考えながら、スポーツの窓から社会や人間を眺め、同時に、社会の動きからスポーツという文化を読み解いていく。

「スポーツ」とは、近代スポーツばかりではなく、日本の伝統スポーツ・世界のエスニックスポーツ・遊び・身体技法等を含むが、そのようなスポーツ文化そのものについての研究だけでなく、その周辺領域（社会、ジェンダー、メディア、民族、環境、教育、健康、異文化等）との関わりに目を向けながら学際的に考察を進める。アプローチにあたっては、前半は、スポーツ文化論・スポーツ人類学・スポーツ史学等に関する文献を用い、分担したテーマについて発表を行う。後半は、各自が自由な発想と関心によってテーマを選び、発表・討議を行い、研究方法を含めてスポーツ文化研究についての認識をより深めて卒業論文に繋げていく。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究テーマに関する内容をより深く理解し問題点を発見していくための資料や参考文献を常に模索し読み込んでいく。その上で、独自性のある研究に発展させていくことを考える。研究発表では、その内容をレジュメとして用意し、授業時における質疑応答の準備とする。

〔成績評価の方法〕

出席状況（40％）発表（30％）、レポート（30％）によって総合的に評価する。
（上記の目安は、進度や課題内容等により多少変更する場合がある）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス：スポーツの概念
第2週	スポーツ文化研究の方法：スポーツの読み解き
第3週	〃
第4週	学生の発表ならびに討議
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

副 題	インターネットコミュニケーション			担 当 者	清水 将吾 准教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	月	時 限	4

〔授業の到達目標〕

インターネットコミュニケーションに関連した領域で、(1)自らテーマを設定し、必要な情報を収集・分析する能力、(2)自身の主張の正当性を論理的に説明できる能力を身に付ける。

〔授業の内容〕

インターネット上のコミュニケーションはソーシャルネットワークサービスやスマートフォンの普及に伴って、日常的な情報伝達手段に変化している。本授業では、この分野の諸問題について考察し、問題の調査分析を行うことを主な目的とする。春学期は教員による解説と学生による調査発表によって今後の議論に必要な基礎的な知識を習得することに重点を置く。

〔教材〕

授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

学生による調査発表の準備はすべて準備時間に割り当てる。

〔成績評価の方法〕

発表40%と授業への参加状況60%の計100%によって評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 インターネットコミュニケーション概説
- 第3週 テキストコミュニケーション
- 第4週 集合知
- 第5週 ソーシャルメディア
- 第6週 ソーシャルメディア活用事例
- 第7週 ソーシャルグラフの形成
- 第8週 情報の拡散
- 第9週 ネットワーク構造の分析（1）
- 第10週 ネットワーク構造の分析（2）
- 第11週 コンピュータを用いたソーシャルメディア分析（1）
- 第12週 コンピュータを用いたソーシャルメディア分析（2）
- 第13週 個人情報とプライバシー
- 第14週 サービスのアーキテクチャ
- 第15週 まとめ

副題	1. 食物教育と味覚教育 2. 環境教育 3. 科学教育			担当者	品川 明 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

1. 体験学習法と教えない教育について十分に認識し、それらを実践するファシリテーション能力がある。
2. 問題点やその解決方法を見出すために必要な情報収集能力がある。
3. 独創的なアクティビティを作る能力があることとそれらを改善する能力がある。
4. 体験学習法や教えないファシリテーション方法を他者に指導することができる。
5. 実践した成果を報告書としてまとめる能力がある。

〔授業の内容〕

1. 食物教育と味覚教育（食コミュニケーション）：食物とは何か？おいしさとは何か？食物の持つ価値を考え、食物の役割を探究し、人と食物の関係や繋がりを追究することを目的とする。身近な食材や伝統食品などについて、歴史的背景やその価値を文献やフィールドワークにより調査し、食材や料理の味覚やおいしさについても官能検査や成分分析により詳細に調べ、おいしさや地域の食文化の特性について議論できるとともに調査した食材、食品、料理などについて広報できる能力を養うことを目的とする。
2. 環境教育と体験学習（環境コミュニケーション）：自分を知り、コミュニケーション能力を養い、地球の自然とその保全を考えるプログラムの実践と環境教育プログラム（プロジェクト・ワイルドなど）の指導体験を通し、実際のファシリテーション能力を高めていくことを目的とする。指導者養成講座への参加、基礎演習での指導体験、各地の体験プログラムへ積極的に参加するなど多様な体験を重視する。その後、発展的・独創的な環境教育プログラムを開発・実践・評価し、実践の場での活用の可能性を探る。
3. 科学教育と体験学習（科学コミュニケーション）：小学校の理科の単元やアメリカで生まれたGEMS, MARE, FOSSなどの教材の指導体験を通し、教えない教育を実践するとともに実際のファシリテーション能力を高めることを目的とする。実際の教科書を批判的に捉え、改善提案ができる能力を養う。

〔教材〕

ゼミ選択した学生は、プロジェクト・ワイルドなどの指導者養成講習会に参加すること。講習会では環境教育一般指導者の資格を取得できる。講習会費用は無料であるがテキスト代として5000円（プロジェクト・ワイルド）の費用がかかる。講習会参加テキストと卒論テーマが密接に関連しているので、講習会にはできるだけ2年次から3年次春学期までに参加すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究テーマに対応した文献の週及調査を実施することが必須である。また、選択した分野の学会を探すことも必要である。演習の時間だけではファシリテーションの実践や味わい教育を実践する時間は取れないことから、事前の準備や振り返りの時間が4時間程度必要である。

〔成績評価の方法〕

1. ゼミではプログラム実践を通じた経験を重視する。振り返りに参加しファシリテーションの改善やプログラムの修正などを議論する。そのため、出席状況や積極的に議論展開する授業への貢献度を重視する。(40%)
2. 積極的課外授業への参加を通し、アクティビティの実践経験を重視する。教育法の比較やアンケートを実施し、論理的に自らのアクティビティを評価することができる。(40%)
3. 積極的な文献収集とその読解を通し、適切な報告書を作成することができる。(20%)

〔備考〕

学習院女子大学主催の環境教育講習会または味覚教育講習会にできるだけ参加すること。必要な時期にゼミ旅行を実施する（2泊から3泊：場所は青森を予定）。また、食コミュニケーション班の学生は、ゼミ旅行以外にフィールドワークのための現地調査を予定している。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス 食コミュニケーション、環境コミュニケーション、科学コミュニケーションとは何か？ 卒論作成指導、文献検索方法、ラーニングサイクル、振り返り方法について
第2週	文献調査法 卒業論文の仮テーマの作成など
第3週	ファシリテーション体験1（ファシリテーションとは？） 食物、環境、科学研究およびその調査1
第4週	ファシリテーション体験2（ラーニングサイクルとは？） 食物、環境、科学研究およびその調査2
第5週	ファシリテーション体験3（振り返りとは？） 食物、環境、科学研究およびその調査3
第6週	アンケート作成とその評価方法
第7週	感覚・味覚教育プログラム、環境教育プログラム、科学教育プログラムの体験
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	環境教育プログラム、食物教育・味覚教育プログラムあるいは科学教育プログラムの作成
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ グループでのテーマに対応し、協関係構築を構築する必要がある。

日本文化演習Ⅰ〇・Ⅲ〇

3611010101500

副 題	言語学・日本語教育Ⅰ			担 当 者	佐藤 琢三 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	水	時 限	4

〔授業の到達目標〕

3年生に関しては、言語研究の諸分野に広くふれ、問題の着眼の仕方や研究手法について学ぶ。4年生に関しては、卒業論文作成のための具体的な青写真を描き、実質的な調査等を開始する。

〔授業の内容〕

現代日本語を中心としつつ、他言語との対照、関連領域の諸問題も含めて幅広く研究する。より具体的には、次のような分野を扱うことになるだろう。

文法、意味、アクセント、語彙、語用論、文章・談話、会話分析、言語行動、敬語・待遇表現、方言、男女差、誤用分析、諸外国語との対照、日本語教育など

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2時間程度。ただし、発表とレポートの準備には相当の時間を必要とするであろう。

〔成績評価の方法〕

レポートにより評価する。ただし、正当な理由なき遅刻と欠席は減点の対象となる。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 導入
- 第2週 昨年の卒論の紹介と講評
- 第3週 言語変化・若者言葉
- 第4週 社会言語調査
- 第5週 日英対照研究（語彙・意味）
- 第6週 異文化コミュニケーション
- 第7週 文法
- 第8週 日英対照研究（発想と表現）
- 第9週 意味論
- 第10週 日中（または日韓）対照研究
- 第11週 通言語的視点から見た日本語
- 第12週 卒論構想発表
- 第13週 〃
- 第14週 〃
- 第15週 〃

授業計画は変更する場合がある。

副 題	アートによる地域活性化の調査、研究			担 当 者	清水 敏男 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	金	時 限	4

〔授業の到達目標〕

アートマネジメントならびに現代美術に関する調査能力を養い必要な知識を身につける。
文化や社会の一般的状況を理解できる総合力を養う。
現代美術，デザインに関する基礎的な知識を身につける

〔授業の内容〕

現在日本ではアートによる地域活性化が近年盛んになり都市のみならず地方で多くのアートプロジェクトが実施されるようになった。こうしたアートプロジェクトの調査，研究をグループで行うことにより，アートの変容，アートの現代社会に置ける役割，意味を考察する。

卒業論文：1945年以降の現在の，日本の視覚芸術（絵画，彫刻，写真），デザイン（グラフィック，プロダクト，建築）の分野を対象とし，自分自身の問題意識を明確にし，自分のテーマを選定する。対象についての調査研究，文献調査，関係者へのインタビュー，実地調査など多角的に研究する。独自の視点でテーマを扱う能力を重視する。

3年次からテーマを設定し，長期にわたって調査研究することが望ましい。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

現代美術の展覧会，アートプロジェクトを調査すること。アートプロジェクトにボランティアとして参加することを推奨する。

〔成績評価の方法〕

1) 出席日数， 2) 発表， 3) 期末レポート（発表内容を2000字で記述する）， 4) 展覧会レポート（3年生のみ，1000字×10本）

〔備考〕

現代美術のみならず，近代以前の美術も積極的に見，自分でレポートを作成するなどして準備しておくこと。日本文化基礎演習Pを事前に受講しておくことが望ましい。

また夏期の調査旅行等に参加すること。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1週 | ガイダンス
3年生共同研究テーマ討論 |
| 第2週 | 共同研究テーマ発表 |
| 第3週 | 4年生卒業論文発表1， |
| 第4週 | 4年生卒業論文発表2， |
| 第5週 | 共同研究発表1 |
| 第6週 | 共同研究発表2 |
| 第7週 | 共同研究発表3 |
| 第8週 | 共同研究発表4 |
| 第9週 | 3年生個人研究発表1 |
| 第10週 | 3年生個人研究発表2 |
| 第11週 | 3年生個人研究発表3 |
| 第12週 | 4年生卒業論文中間発表1， |
| 第13週 | 4年生卒業論文中間発表2， |
| 第14週 | 4年生卒業論文中間発表3， |
| 第15週 | 総評 |

副題	電子メディア			担当者	岩城 宏明 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

卒業研究に必要な基礎能力を身につけることを目標とします。

〔授業の内容〕

この演習を簡単に表現すると「何か作ろう。」ということになります。ただし、「何か」というのは、映像・音楽・アニメ等のコンピュータを利用して作れるもの、プログラム等のコンピュータに関連したものに限られます。また、設備等の問題から納得のいくものが作れない場合があるので、不安な学生は、事前に担当者に問い合わせてください。

テーマを決めた後、必要に応じてグループ分けを行い、基礎能力の充実に努めます。この段階では、出席を重視します。学期末には、基礎知識はもちろんのこと、基礎的な技術力が身についているか確認します。

また、決められたテーマで簡単な作品を制作します。

〔教材〕

個人またはグループごとに異なる教科書を使います。詳細は、最初の授業時に示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

個人またはグループ毎に教科書を読み、課題制作を進める。準備学習として教科書理解に30時間、課題制作のために30時間を授業外に必要な時間として想定している。

〔成績評価の方法〕

作品製作（制作）に必要な基礎知識が身についているかどうか確認します。また、出席状況も重視します。

作品の評価50%、制作に必要な技術の理解度・習得度30%、制作へ取り組む姿勢20%。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 製作作品のテーマの希望調査（グループ分け）
- 第2週 基礎学習1（全体）
- 第3週 基礎学習2（グループ別）
- 第4週 課題制作1（その1）
- 第5週 課題制作1（その2）
- 第6週 中間発表1
- 第7週 課題制作2（その1）
- 第8週 課題制作2（その2）
- 第9週 中間発表2
- 第10週 課題制作3（その1）
- 第11週 課題制作3（その2）
- 第12週 中間発表3
- 第13週 まとめ
- 第14週 まとめと解説
- 第15週 まとめと次学期の制作計画の検討

副題	日常生活におけるメディア利用			担当者	越塚 美加 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

研究を進めるにあたって基本的な文献探索法、書誌事項の書き方、レジュメの書き方、発表の仕方などの手法をメディアに関する文献を手がかりに習得する。

〔授業の内容〕

3年生はメディアの特性やその利用についての文献を輪読しながら、さまざまな情報伝達に用いられるメディアと私たちの生活との関係について歴史的に、また現在の状況を考察する。また、研究を進めるうえで必要な情報探索技能や書誌事項の扱いについても取り上げる。

4年生には卒業論文のテーマの選択に関わるテーマの文献を選んで、その内容についての発表を課す。この作業を通じて、研究調査の手法について学ぶとともに、基本的な情報収集法とその記録法等の基礎的な素養を身につける。

〔教材〕

教科書：佐藤望編著『アカデミック・スキルズ』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年

参考書：水越伸著『21世紀メディア論』（放送大学教材）放送大学教育振興会，2011年

柏倉康夫ほか『情報と社会』（放送大学教材）放送大学教育振興会，2006年

最初に教科書として挙げたものは必ず購入すること。3-4年生の授業を通じて卒業論文までこれに則っていきます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に提示した情報探索法については、各自復習して、習得に努めること。

また、日常的にメディアに関する新聞記事や雑誌記事などを意識的に読み、メディア自体あるいはそれらを取り巻く環境について自習してほしい。

〔成績評価の方法〕

平常点（含む小レポート）及び期末レポート。

平常点には、出席点が含まれる。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 情報メディア概説
- 第3週 日常生活で利用しているメディア（文献講読1）
- 第4週 日常生活で利用しているメディア（文献講読2）
- 第5週 日常生活で利用しているメディア（文献講読3）
- 第6週 日常生活で利用しているメディア（文献講読4）
- 第7週 日常生活で利用しているメディア（文献講読5）
- 第8週 情報探索法1
- 第9週 情報探索法2
- 第10週 発表の手法を学ぶ（プレゼンテーション，図表の扱い）
- 第11週 文献調査発表1
- 第12週 文献調査発表2
- 第13週 文献調査発表3
- 第14週 文献調査発表4
- 第15週 まとめ

演習形式ですので、授業には十分な準備時間をかけ積極的に臨んでください。

日本文化演習IIA・IVA

3611010200100

副題	日本芸術の諸相			担当者	尼ヶ崎 彬 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5

〔授業の到達目標〕

近代日本の芸術文化に関する研究を通じて、問題の発見、研究の手法、論理的考察、他者に伝えるためのプレゼンテーションや文章の作成などについて、必要な技能を獲得する。

〔授業の内容〕

近代日本の芸術に関し、各自の自由に設定したテーマで研究し、発表する。4年生の場合これは卒論の中間発表を兼ねる。

〔教材〕

授業中指示する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表週の予習（研究・発表準備）は60時間。復習（研究の反省と内容の再構成）は20時間。それ以外の週は予習不要。復習（他学生の発表内容・方法の点検と批判的考察）に2時間。

〔成績評価の方法〕

レポート（70%）、出席（30%）により評価する。

〔備考〕

質問がある場合、簡単なことはメールでakira.amagasaki@gakushuin.ac.jpまで問い合わせること。面談したほうがよい場合は、上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水の3限または木曜2限に研究室で行う。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	〃
第3週	学生による発表
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題	比較日本文化論 (II)			担当者	今橋 理子 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

学際的視点で、美術史（絵画史）および視覚芸術研究を行う方法論の基礎を学び、将来的な卒業論文執筆へと結び付けることを目指す。

〔授業の内容〕

本演習は春学期に開講される授業と継続・対応する形で行われるが、秋学期では〈絵画と文学〉の問題を、さらに江戸時代のみならず明治以降の近・現代にまで広げたい。〈絵画と文学〉という問題は、単純にはある一つの〈絵画〉作品に、文学がどのような影響を及ぼしたのか、あるいはその逆の場合を考察すると考えられるが、双方の関係はただそれだけではないだろう。授業では先の蕪村のように、〈絵画〉と〈文学〉という二つの異なる芸術分野で才能を開花させた人々を取り上げ、ある一人の芸術家の思考の中で、二つの表現方法がいかに類似し、またいかに異なっていたのかを、作品に則する形で考察しようとするものである。扱う芸術家は、江戸期では建部綾足、池大雅、渡辺華山などの文人を始めとして、洋風画の司馬江漢、江戸琳派の酒井抱一、浮世絵師にて戯作者の山東京伝。明治以降では夏目漱石、正岡子規、木下杢太郎、金子光晴、小出樞重、岸田劉生、岡本太郎などが挙げられる。それぞれの芸術家が生きた文化背景にも留意しながら、受講者各自は一人の作家〈画家〉を選び研究、口答発表し、その成果をレポートとしてまとめることになる。

〔教材〕

今橋理子『江戸絵画と文学—〈描写〉と〈ことば〉の江戸文化史』（東京大学出版会、1999年）ほか使用。詳細は開講時に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

途中一回と学期末にそれぞれレポートを課す。

〔備考〕

出席数および年に数回授業時間外に見学会を実施するので、その参加度を重視する。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1週 | 概説1——クロスジャンルとしての芸術研究（1） |
| 第2週 | 概説2——クロスジャンルとしての芸術研究（2） |
| 第3週 | 概説3——クロスジャンルとしての芸術研究（3） |
| 第4週 | 概説4——〈絵画と文学〉研究の地平（1） |
| 第5週 | 概説5——〈絵画と文学〉研究の地平（2） |
| 第6週 | 概説6——〈絵画と文学〉研究の地平（3） |
| 第7週 | 口答発表（1） |
| 第8週 | 口答発表（2） |
| 第9週 | 口答発表（3） |
| 第10週 | 口答発表（4） |
| 第11週 | 口答発表（5） |
| 第12週 | 口答発表（6） |
| 第13週 | 口答発表（7） |
| 第14週 | 美術館における作品調査の方法（1） |
| 第15週 | 美術館における作品調査の方法（2） |

副 題	日本の神話			担 当 者	神田 典城 教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	火	時 限	5

〔授業の到達目標〕

日本の神話の意義及び仕組みが分かり、研究上の問題点が理解できるようになる。

〔授業の内容〕

古事記・日本書紀の二文献は、いずれもこの世の始原から書き起こし、歴代天皇の治世に説き及ぶ。その天皇代に至るまでの部分は、神々による世界の形成が描かれており、これを記紀神話と呼び習わしている。もちろん両書は成立の経過も書物としての性格も異なる。しかし日本書紀には説話のまとまりごとに収録された豊富な異伝があり、これに古事記の記事を合わせ伝承間の相違点を子細に検討するならば、それぞれの神話の形成の跡をたどることもある程度は可能である。そこでこの手法により、各神話の本源の姿を探究すると共に、各々の神話に込められた文化的メッセージに対する理解を深めることを目指す。なお必要に応じ、風土記も参照する。

〔教材〕

教科書：神田典城編『対照神代記紀』笠間書院

参考書については授業時に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストの内容をよく理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末のレポート(100%)による

〔備考〕

古語辞典必携

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--------|
| 第1週 | 概要説明 |
| 第2週 | 発表及び討論 |
| 第3週 | 〃 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | 〃 |

副題	近代日本の歴史と思想			担当者	木村 直恵 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5

〔授業の到達目標〕

近代日本の思想や文化に関わる資料や著作および、それについての研究論文に触れ、歴史的な流れの中で理解することをつうじて、歴史研究の方法的基礎を養うとともに、思想や文化の営みに親しむきっかけをつくる。

〔授業の内容〕

黒古一夫編『思想の最前線』、栗原幸雄編『芸術の革命と革命の芸術』のいずれかをテキストに、同書に収録された明治・大正期の資料を読みとく。また、あわせて歴史哲学に関する古典を併読したい。都内の関連ある史跡を授業の一環として見学することもある。

〔教材〕

参考書：黒古一夫『思想の最前線』社会評論社、1990年
栗原幸雄編『芸術の革命と革命の芸術』社会評論社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の購読史料を事前に予習して理解し、自分の感想やコメントを準備しておくこと。また自分の報告担当の回は、事前に報告の準備を行うこと。

〔成績評価の方法〕

出席と授業参加、課題提出物、期末レポートにより総合的に評価する。出席が全回数の7割に満たない場合は評価対象としない。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	文献講読
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

日本文化演習II E・IVE

3611010200500

副 題	平安時代の文学（2）			担 当 者	伊藤 守幸 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	火	時 限	5

〔授業の到達目標〕

『源氏物語』の精読を通じて、文学のみならず平安文化全般にわたる多くの知見に接して、日本の古代文化に関する豊かな教養を身につけてもらうことを目指す。

〔授業の内容〕

『源氏物語』を素材として、古典作品の精密で分析的な読解を試みる。テキストとして青表紙本『源氏物語』の影印本を用いることによって、くずし字を読むことにも習熟してもらう。取り上げる巻としては、薄雲巻を予定している。

〔教材〕

教科書：『青表紙本「源氏物語」薄雲巻』新典社
中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『源氏物語』講読の準備と事後の補足的調査。4時間。

〔成績評価の方法〕

出席および演習内容・レポートによって総合的に評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1週 | 『源氏物語』についての概説 |
| 第2週 | 担当箇所の確定と発表方法に関する説明 |
| 第3週 | 担当者による発表と質疑応答 — 『源氏物語』薄雲巻の講読— |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | 〃 |

副題	言語研究の可能性			担当者	福島 直恭 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

さまざまな言語研究について理解し、その中から卒業論文のテーマを決定する

〔授業の内容〕

ひとくちに言語研究といっても、研究対象である言語をどのような視点から、どのような存在としてみるのかによって、さまざまな内容の研究がある。まず、言語研究の分野としてどのようなものがあるのかを知り、次にその中から、自分個人の研究としてどういう分野の言語研究を行っていくのかを決定する必要がある。この演習ではそのために必要な知識や技術の習得をめざす。また、秋学期のはじめに、4年次学生の卒業論文の中間発表を行い、卒業論文執筆の準備を整える。

〔教材〕

テキストとして事前に指定する文献は特にないが、必要に応じて授業内で紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表時は、準備のための時間が10時間以上必要。発表時以外は1～2時間程度の予習（あらかじめ指定された文献を読んでおく）が必要。

〔成績評価の方法〕

発表担当の際の発表内容、発表方法（80%）討論への参加の積極性（20%）。
また、最低でも開講時数の2／3以上の出席が必要。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 卒業論文執筆の注意事項
- 第2週 卒業論文中間発表1
- 第3週 卒業論文中間発表2
- 第4週 卒業論文中間発表3
- 第5週 卒業論文中間発表4
- 第6週 さまざまな言語研究1
- 第7週 さまざまな言語研究2
- 第8週 共時態に関する研究
- 第9週 過去の言語に関する研究
- 第10週 卒業論文着想発表1
- 第11週 卒業論文着想発表2
- 第12週 卒業論文着想発表3
- 第13週 卒業論文着想発表4
- 第14週 卒業論文着想発表5
- 第15週 まとめ

副題	現代社会研究（2）			担当者	時安 邦治 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

論文作成の基本的なルール、技法を学び、必要な研究能力を習得して、卒業論文（4年生）・ミニ卒業論文（3年生）を完成させる。

〔授業の内容〕

初めの数回は論文作成の方法等について学ぶ。その後、学生の個人研究発表を行う。4年生は卒業論文のテーマと方法を確定し、構想（問題意識と問題設定、結論、議論の展開を示す章立てを含む）と経過・進捗状況を報告する。質疑応答と議論を経て、他の出席学生とともに問題の理解を深め、研究方針を修正しつつ、論文の完成を目指す。3年生は学年末レポート（ミニ卒）ならびに次年度の卒業論文に向けた研究テーマを設定し、それに関係する重要な文献や先行研究について報告する。研究のテーマは広い意味での社会学、社会思想、倫理学などに関わるものであることが望ましい。

発表を聞く学生は、積極的に議論し、発表者の研究がよりよいものとなるように協力すること。

〔教材〕

授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表に際しては、さまざまな角度からの質問に答えられるよう、レジュメの作成を含めて十分な準備をしておくこと。また、卒業論文・ミニ卒業論文に向けて課題を適宜出すので、その都度取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

成績は学期末のレポート（40%）、発表と授業への参加態度など（60%）から総合的に評価する。特に議論への参加を重視する。

〔備考〕

授業について質問がある場合には、kuniharu.tokiyasu@gakushuin.ac.jpまでメールで問い合わせるか、事前連絡のうえ火曜日4限（14：40～16：10）のオフィスアワーに時安研究室（4110号室）まで来ること。

〔授業計画〕

- 第1週 インTRODクシヨN
- 第2週 論文の書き方（1）
- 第3週 論文の書き方（2）
- 第4週 卒業論文中間発表（1）
- 第5週 卒業論文中間発表（2）
- 第6週 卒業論文中間発表（3）
- 第7週 卒業論文中間発表（4）
- 第8週 卒業論文中間発表（5）
- 第9週 卒業論文中間発表（6）
- 第10週 卒業論文中間発表（7）
- 第11週 個人研究発表（1）
- 第12週 個人研究発表（2）
- 第13週 個人研究発表（3）
- 第14週 個人研究発表（4）
- 第15週 個人研究発表（5）

授業計画は変更の可能性がある。

副題	中世文化・民俗文化〔2〕—お伽草子・民間説話・芸能など—			担当者	徳田 和夫 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5

〔授業の到達目標〕

- 1.日本の伝統文化を民俗学と比較文化論から研究する必要性を熟知する。
- 2.民俗の概念とその分野の多様性の認知，および物語伝承の多方面からの研究を実践する。
- 3.文化を，本物・現物に接して理解する。

〔授業の内容〕

春学期の「日本文化演習H：中世文化・民俗文化〔1〕—民間説話・古典説話・芸能など—」を発展させて，おもに絵巻，奈良絵本テキストのお伽草子（＝14～17世紀の短編の物語草子群）作品を取りあげ，さまざまな視点から分析をおこないます。物語を通して精神文化の形成と発展を把握し，あわせて現代に生きる私たちの文化的使命を考えます。

文学史の観点に加えて，特に口承文芸・民間説話学（昔話・伝説・うわさ話など），民俗学を導入します。

さらに比較説話学（外国の民間説話・宗教説話との対比），物語絵画史（絵巻・奈良絵本・錦絵など），芸能史（古典芸能・民俗芸能）などからアプローチします。

〔教材〕

教科書：徳田和夫『妖怪の中世（仮題）』せりか書房，2014年

参考書：徳田和夫編『世界の文学29・日本1:お伽草子』（週刊朝日百科）朝日新聞社，2000年

徳田和夫『お伽草子・伊曾保物語』（新潮日本古典文学アルバム）新潮社，1991年

徳田和夫編『お伽草子事典』東京堂出版，2002年

徳田和夫『絵語りと物語り』（イメージリーディング叢書）平凡社，1990年

徳田和夫編『お伽草子 百花繚乱』笠間書院，2008年

徳田和夫監修『図説：日本の昔話』（青春新書インテリジェンス）青春出版社，2014年

教科書とは別にプリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献を，あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

総合評価（研究と演習発表40%，質問・発言20%，レポート40%）によっておこないます。

〔備考〕

（1）ゼミ旅行，美術館・博物館・史蹟等の見学，古典芸能の鑑賞，民俗芸能・儀礼のフィールド・ワークを企画実行します（参加を前提とする）。

（2）授業時あるいは別時間に，卒業論文の対象選定，準備についての指導と，その発表の機会を設けます。

〔授 業 計 画〕

第1週	概説（1）
第2週	概説（2）
第3週	演習発表と討議
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

日本文化演習ⅡⅠ・ⅣⅠ

3611010200900

副 題	日本の染織と服飾文化の諸相（2）			担 当 者	福島 雅子 准教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月	時 限	5

〔授業の到達目標〕

研究に必要な方法論の基礎を学び、資料の収集や検討方法および現存作例の分析方法、研究成果のプレゼンテーションの方法を習得する。研究成果を卒業論文の執筆へと結び付けることを目指す。

〔授業の内容〕

日本の染織と服飾文化に関して、各自がテーマを設定して研究を進め、研究成果を発表する。各自の研究成果について全員で討論を行い、研究をより深めることを目指す。

〔教材〕

授業の中で指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表課題に関する資料を各自で収集し、また指定した文献を読み、発表の準備を進めること。

〔成績評価の方法〕

発表（70%）と討論への参加（30%）から総合的に評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	学生による発表と討論
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

副題	日本近世の政治・社会・文化（2）			担当者	岩淵 令治 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	5

〔授業の到達目標〕

日本近世史研究の方法に基づき、最終的に卒業論文を提出することを目的とする。

〔授業の内容〕

日本近世の政治・社会・文化に関する文献史学の研究は、近世史料と、先行研究論文の読解にもとづいている。秋学期は、江戸時代に関する研究論文の輪読を通して意味解釈や課題の発見する方法を学ぶ。参加者は、担当論文について報告する。テキストについては、参加者の関心も聞いたうえで、決定したい。なお、3年生は将来の卒業論文に向けたレポートを提出してもらう。

〔教材〕

テキストはコピーを配布する。また、授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

他の報告者の史料についても、読み・意味を予習・復習することが望ましい。

〔成績評価の方法〕

報告(40%)、レポート(30%)、出席状況(30%)により評価する。報告者ではない回でも、積極的に議論に参加することを期待する。

〔備考〕

初回の授業に出席すること。また、就職活動と重ならない限り、毎週出席すること。なお、研究に関する質問・相談は金曜日の13:30~14:30に受け付ける。

〔授業計画〕

第1週 授業のガイダンス（各自の現状の関心を披露）

第2週 テキストの相談等

第3週 研究論文の輪読（4年生）

第4週 ヌ

第5週 研究論文の輪読（3年生）

第6週 ヌ

第7週 卒業論文最終報告（4年生）

第8週 ヌ

第9週 研究論文の輪読（3年生）

第10週 ヌ

第11週 ヌ

第12週 ヌ

第13週 ヌ

第14週 卒業論文概要報告（4年生）

第15週 ヌ

参加人数によって、計画に変更がありうる。テキストは、各人の関心を聞いた上で検討する。また、1, 2回、都内の博物館・資料館・史跡見学を行う。

副 題	食品研究 2			担 当 者	阿部 誠 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	火	時 限	3

〔授業の到達目標〕

食品の研究を自ら進め、論文にまとめる能力をつける。

〔授業の内容〕

日本の伝統食品、現代の加工食品、各種食品原料、食品製造・加工技術、各種調理品、食生活・食形態などを対象に設定した各自の研究テーマと策定した研究計画に基づき、資料調査や実地調査、実験等を通じて、検証、解析を行っていく。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、前回の授業での疑問点を調査し不明な個所について質問できるようにして臨むこと。

〔成績評価の方法〕

発表および提出物（約80%）、授業への参加状況（約20%）により評価する。

〔備考〕

授業内容について質問がある場合は、月曜日（13：00～15：00）、火曜日（10：30～12：00）のオフィスパワーに研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 テーマごとの調査・研究とその指導
- 第3週 ヌ
- 第4週 ヌ
- 第5週 ヌ
- 第6週 ヌ
- 第7週 ヌ
- 第8週 ヌ
- 第9週 ヌ
- 第10週 ヌ
- 第11週 ヌ
- 第12週 ヌ
- 第13週 ヌ
- 第14週 ヌ
- 第15週 まとめ

授業計画は変更することがある。

副題	スポーツ文化の諸相			担当者	荒井 啓子 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5

〔授業の到達目標〕

スポーツ現象の中に凝縮・刻印されている文化や社会を、主にスポーツ人類学やスポーツ文化論の視点から理解を深め、スポーツ文化研究の内容や方法を習得していく。資料の読解・問題の発見・論理的思考の能力を養いつつ、卒業論文作成に向けて独自の研究課題を見出していく。

〔授業の内容〕

日本及び諸外国の、過去及び現在の社会における「スポーツ現象」を、社会的・文化的・歴史的側面から考察を行う。「スポーツとはどのような文化なのか」「他の文化とどのような関わりがあるのか」という問題を常に考えながら、スポーツの窓から社会や人間を眺め、同時に、社会の動きからスポーツという文化を読み解いていく。

「スポーツ」とは、近代スポーツばかりではなく、日本の伝統スポーツ・世界のエスニックスポーツ・遊び・身体技法等を含むが、そのようなスポーツ文化そのものについての研究だけでなく、その周辺領域（社会、ジェンダー、メディア、民族、環境、教育、健康、異文化等）との関わりに目を向けながら学際的に考察を進める。アプローチにあたっては、前半は、スポーツ文化論・スポーツ人類学・スポーツ史学等に関する文献を用い、分担したテーマについて発表を行う。後半は、各自が自由な発想と関心によってテーマを選び、発表・討議を行い、研究方法を含めてスポーツ文化研究についての認識をより深めて卒業論文に繋げていく。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究テーマに関する内容をより深く理解し問題点を発見していくための資料や参考文献を常に模索し読み込んでいく。その上で、独自性のある研究に発展させていくことを考える。研究発表では、その内容をレジュメとして用意し、授業時における質疑応答の準備とする。

〔成績評価の方法〕

出席状況（40％）発表（30％）、レポート（30％）によって総合的に評価する。
（上記の目安は、進度や課題内容等により多少変更する場合がある）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス：スポーツの概念
第2週	スポーツ文化研究の方法：スポーツの読み解き
第3週	〃
第4週	学生の発表ならびに討議
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

日本文化演習IIM・IVM

3611010201300

副 題	インターネットコミュニケーション			担 当 者	清水 将吾 准教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月	時 限	4

〔授業の到達目標〕

インターネットコミュニケーションに関連した領域で、(1) 自らテーマを設定し、必要な情報を収集・分析する能力、(2) 自身の主張の正当性を論理的に説明できる能力を身に付ける。

〔授業の内容〕

インターネット上のコミュニケーションはソーシャルネットワークサービスやスマートフォンの普及に伴って、日常的な情報伝達手段に変化している。本授業では、この分野の諸問題について考察し、問題の調査分析を行うことを主な目的とする。秋学期は学生による調査発表によって進め、自ら問題分析を行い、他者に説明・提案する能力を高めることに重点を置く。

〔教材〕

授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表のための準備に関わる作業はすべて準備学習の時間に割り当てる。

〔成績評価の方法〕

発表40%と授業への参加状況60%の計100%によって評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	テーマの概説
第3週	学生発表
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

副題	1. 食物教育と味覚教育 2. 環境教育 3. 科学教育			担当者	品川 明 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

1. 体験学習法と教えない教育について十分に認識し、それらを実践するファシリテーション能力がある。
2. 問題点やその解決方法を見出すために必要な情報収集能力がある。
3. 独創的なアクティビティを作る能力があることとそれらを改善する能力がある。
4. 体験学習法や教えないファシリテーション方法を他者に指導することができる。
5. 実践した成果を報告書としてまとめる能力がある。

〔授業の内容〕

1. 食物教育と味覚教育（食コミュニケーション）：食物とは何か？おいしさとは何か？食物の持つ価値を考え、食物の役割を探究し、人と食物の関係や繋がりを追究することを目的とする。身近な食材や伝統食品などについて、歴史的背景やその価値を文献やフィールドワークにより調査し、食材や料理の味覚やおいしさについても官能検査や成分分析により詳細に調べ、おいしさや地域の食文化の特性について議論できるとともに調査した食材、食品、料理などについて広報できる能力を養うことを目的とする。
2. 環境教育と体験学習（環境コミュニケーション）：自分を知り、コミュニケーション能力を養い、地球の自然とその保全を考えるプログラムの実践と環境教育プログラム（プロジェクト・ワールドなど）の指導体験を通し、実際のファシリテーション能力を高めていくことを目的とする。指導者養成講座への参加、基礎演習での指導体験、各地の体験プログラムへ積極的に参加するなど多様な体験を重視する。その後、発展的・独創的な環境教育プログラムを開発・実践・評価し、実践の場での活用の可能性を探る。
3. 科学教育と体験学習（科学コミュニケーション）：小学校の理科の単元やアメリカで生まれたGEMS, MARE, FOSSなどの教材の指導体験を通し、教えない教育を実践するとともに実際のファシリテーション能力を高めることを目的とする。実際の教科書を批判的に捉え、改善提案ができる能力を養う。

〔教材〕

ゼミ選択した学生は、プロジェクト・ワールドなどの指導者養成講習会に参加すること。講習会では環境教育一般指導者の資格を取得できる。講習会費用は無料であるがテキスト代として5000円（プロジェクト・ワールド）の費用がかかる。講習会参加テキストと卒論テーマが密接に関連しているので、講習会にはできるだけ2年次から3年次春学期までに参加すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

文献調査、試作、振り返りを含め、4時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

1. ゼミではプログラム実践を通した経験を重視する。振り返りに参加しファシリテーションの改善やプログラムの修正などを議論する。そのため、出席状況や積極的に議論展開する授業への貢献度を重視する。(40%)
2. 積極的課外授業への参加を通し、アクティビティの実践経験を重視する。教育法の比較やアンケートを実施し、論理的に自らのアクティビティを評価することができる。(40%)
3. 積極的な文献収集とその読解を通し、適切な報告書を作成することができる。(20%)

〔備考〕

学習院女子大学主催の環境教育講習会または味覚教育講習会にできるだけ参加すること。必要な時期にゼミ旅行を実施する（2泊から3泊：場所は青森を予定）。また、食コミュニケーション班の学生は、ゼミ旅行以外にフィールドワークのための現地調査を予定している。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス 食コミュニケーション、環境コミュニケーション、科学コミュニケーションとは何か？ 卒論作成指導、文献検索方法、ラーニングサイクル、振り返り方法について
第2週	文献調査法 卒業論文の仮テーマの作成など
第3週	ファシリテーション体験1（ファシリテーションとは？） 食物、環境、科学研究およびその調査1
第4週	ファシリテーション体験2（ラーニングサイクルとは？） 食物、環境、科学研究およびその調査2
第5週	ファシリテーション体験3（振り返りとは？） 食物、環境、科学研究およびその調査3
第6週	アンケート作成とその評価方法
第7週	感覚・味覚教育プログラム、環境教育プログラム、科学教育プログラムの体験
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	環境教育プログラム、食物教育・味覚教育プログラムあるいは科学教育プログラムの作成
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

日本文化演習II O・IVO

3611010201500

副 題	言語学・日本語教育 I			担 当 者	佐藤 琢三 教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	水	時 限	4

〔授業の到達目標〕

3年生に関しては、具体的な問題に着眼し試験的に小規模な調査等を実施する。また、卒業論文作成をみすえて、中間論文を執筆する。4年生に関しては、卒業論文の完成を目指し、研究の総仕上げを行う。

〔授業の内容〕

現代日本語を中心としつつ、他言語との対照、関連領域の諸問題も含めて幅広く研究する。より具体的には、次のような分野を扱うことになるだろう。

文法、意味、アクセント、語彙、語用論、文章・談話、会話分析、言語行動、敬語・待遇表現、方言、男女差、誤用分析、諸外国語との対照、日本語教育など

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2時間程度。ただし、発表とレポートの準備には相当の時間を必要とするであろう。

〔成績評価の方法〕

レポートにより評価する。ただし、正当な理由なき遅刻と欠席は減点の対象となる。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 4年生による卒論発表
- 第2週 ヴ
- 第3週 ヴ
- 第4週 ヴ
- 第5週 ヴ
- 第6週 ヴ
- 第7週 ヴ
- 第8週 ヴ
- 第9週 3年生による中間論文に向けた発表
- 第10週 ヴ
- 第11週 ヴ
- 第12週 ヴ
- 第13週 ヴ
- 第14週 ヴ
- 第15週 ヴ

授業計画は変更する場合がある。

副題	アートによる地域活性化の調査、研究			担当者	清水 敏男 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4

〔授業の到達目標〕

アートマネジメントならびに現代美術に関する調査能力を養い必要な知識を身につける。
文化や社会の一般的状況を理解できる総合力を養う。
現代美術、デザインに関する基礎的な知識を身につける

〔授業の内容〕

3年生は春学期から継続している共同研究を深化すると同時に卒業論文の準備を行う。
4年生は卒業論文を完成する。
卒業論文：1945年以降の現在の、日本の視覚芸術（絵画、彫刻、写真）、デザイン（グラフィック、プロダクト、建築）の分野を対象とし、自分自身の問題意識を明確にし、自分のテーマを選定する。対象についての調査研究、文献調査、関係者へのインタビュー、実地調査など多角的に研究する。独自の視点でテーマを扱う能力を重視する。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

現代美術の展覧会、アートプロジェクトを調査すること。アートプロジェクトにボランティアとして参加することを推奨する。

〔成績評価の方法〕

1) 出席日数, 2) 発表, 3) 期末レポート（発表内容を2000字で記述する）, 4) 展覧会レポート（3年生のみ, 1000字×10本）

〔備考〕

現代美術のみならず、近代以前の美術も積極的に見、自分でレポートを作成すること。

〔授業計画〕

第1週	ガイダンス
第2週	4年生卒業論文発表1
第3週	4年生卒業論文発表2
第4週	4年生卒業論文発表3
第5週	共同研究発表1
第6週	共同研究発表2
第7週	共同研究発表3
第8週	共同研究発表4
第9週	3年生卒論発表1
第10週	3年生卒論発表2
第11週	3年生卒論発表3
第12週	3年生卒論発表4
第13週	4年生卒業論文発表
第14週	々
第15週	総評

副 題	コンピュータによる作品制作			担 当 者	岩城 宏明 教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月	時 限	4

〔授業の到達目標〕

卒業研究を念頭に置いて、最後まで作品を仕上げる能力を習得し、計画した作品を完成させる経験を積むことを目標とします。

〔授業の内容〕

この演習を簡単に表現すると「何か作ろう。」ということになります。ただし、「何か」というのは、映像・音楽・アニメ等のコンピュータを利用して作れるもの、プログラム等のコンピュータに関連したものに限られます。また、設備等の問題から納得のいくものが作れない場合があるので、不安な学生は、事前に担当者に問い合わせてください。

春学期の演習を発展させ、各自（または各グループ）で、制作（製作）目標・計画を立てます。審査後、作成に取り掛かります。

〔教材〕

個人またはグループごとに異なる教科書を使います。詳細は、最初の授業時に示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

個人またはグループ毎に計画を立案し、課題制作を進める。準備学習として計画立案に20時間、課題制作のために40時間を授業外に必要な時間として想定している。

〔成績評価の方法〕

作品製作（制作）に必要な知識・技術力の習得度50%、作品の内容および完成度50%で評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 製作作品のテーマの決定
- 第2週 製作活動1（製作計画について個人・グループごとに審査）
- 第3週 製作活動2
- 第4週 製作活動3
- 第5週 中間報告1（進行状況の確認）
- 第6週 製作活動4
- 第7週 製作活動5
- 第8週 製作活動6
- 第9週 中間報告2（完成に向けて、進行状況の確認）
- 第10週 製作活動7
- 第11週 製作活動8
- 第12週 発表準備
- 第13週 発表および演習メンバによる審査
- 第14週 〃
- 第15週 〃

副題	接触した情報が日常生活に与える影響			担当者	越塚 美加 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

春学期に勉強したことを踏まえ、議論に挙がっている事象を批判的に分析し、他者の意見を考慮しながらさらに自分の意見を提示する手法を学ぶ。また、グループワークを通じて、一つの見方に取りまとめていく手法を学ぶ。

〔授業の内容〕

3年生は、全員が関心のある情報メディア関連のテーマを決めて文献調査あるいは小規模の社会調査を行い、その結果を分析して、まとめ、報告するまでの一連の作業を行う。春学期の学習成果を活かし、文献調査等、最初から自分たちで分担して調査を進めていく。その途上で、KJ法等のグループ内でアイデアをまとめ上げていく手法等を学習する。これまでの例としては「ソーシャルメディアと大震災」「インターネット上の広告」というテーマのもと、二つのグループに分かれて文献調査および議論に基づいて現状及び将来の可能性について議論した。

4年生は、卒業論文の進捗状況について、報告を求める。

〔教材〕

参考書：橋元良明『メディアと日本人： 変わりゆく日常』（岩波新書）岩波書店、2011年

3年生が調査の対象とするメディアやその扱いについては、話し合いの結果、最終決定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

3年生のグループワークについては、授業時間内では時間が足りないので、文献調査に始まり、結果のまとめ提示法について授業時間外に各グループごとに準備すること。4年生は卒論の進捗状況だけではなく、必要な文献を読んだ結果についての報告も求める。その準備を授業時間外にきちんと行うこと。

〔成績評価の方法〕

平常点（50%）及びレポート（50%）

グループワークを含むので、出席を重視する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	調査対象の選定
第2週	先行研究の検討
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	調査の計画立案
第7週	〃
第8週	調査の実施
第9週	〃
第10週	調査結果の分析
第11週	〃
第12週	〃
第13週	学生の発表と議論
第14週	〃
第15週	まとめ

3年生は、グループによる分担作業を中心として、授業時間外の作業が多く想定されるので、きちんと準備をして臨むこと。やむを得ず欠席する場合には、事前にきちんと連絡すること。

卒業研究（春）

3611091100200

副 題	（日本文化学科）			担 当 者	今橋 理子 教授		
単 位	8	開講期間	春学期集中	曜 日		時 限	
<p>〔授業の到達目標〕 卒業研究を完成させる。</p> <p>〔授業の内容〕 各自が受講している日本文化演習（ゼミ）の担当教員から指導を受けること。</p> <p>〔教材〕</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 各自所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。</p> <p>〔成績評価の方法〕 主査，副査各1名によって，提出された卒業研究の成果および口述試験の結果が総合的に評価される。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

各自が受講している日本文化演習の担当教員によって各授業計画が実施される。

卒業研究（秋）

3611091100100

副題	(日本文化学科)			担当者	今橋 理子 教授	
単位	8	開講期間	秋学期集中	曜日		時限

〔授業の到達目標〕

卒業研究を完成させる。

〔授業の内容〕

各自が受講している日本文化演習（ゼミ）の担当教員から指導を受けること。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各自所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。

〔成績評価の方法〕

主査，副査各1名によって，提出された卒業研究成果および口述試験の結果が総合的に評価される。

〔備考〕

〔授業計画〕

各自が受講している日本文化演習の担当教員によって各授業計画が実施される。

卒業論文（春）

3611091200200

副 題	（日本文化学科）			担 当 者	今橋 理子 教授		
単 位	8	開講期間	春学期集中	曜 日		時 限	
<p>〔授業の到達目標〕 卒業論文を完成させる。</p> <p>〔授業の内容〕 各自が受講している日本文化演習（ゼミ）の担当教員から指導を受けること。</p> <p>〔教材〕</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 各自所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。</p> <p>〔成績評価の方法〕 提出された論文を2名以上の査読者によって評価する。なお、論文提出後その内容に関して面接による試問を行う。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

各自が受講している日本文化演習の担当教員によって各授業計画が実施される。

卒業論文（秋）

3611091200100

副題	(日本文化学科)			担当者	今橋 理子 教授	
単位	8	開講期間	秋学期集中	曜日		時限
<p>〔授業の到達目標〕 卒業論文を完成させる。</p> <p>〔授業の内容〕 各自が受講している日本文化演習（ゼミ）の担当教員から指導を受けること。</p> <p>〔教材〕</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 各自所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。</p> <p>〔成績評価の方法〕 提出された論文を2名以上の査読者によって評価する。なお、論文提出後その内容に関して面接による試問を行う。</p> <p>〔備考〕</p>						

〔授業計画〕

各自が受講している日本文化演習の担当教員によって各授業計画が実施される。

国際コミュニケーション学科

平成 27 年度授業科目および担当者

講 義 内 容 (シラバス)

国際コミュニケーション学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副 題	配当年次	学期	単位	担 当 者	頁
国際 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 基 礎 演 習 科 目 群	国際コミュニケーション基礎演習ⅠA	文化財とは何か	1	春	2	M. ウーゴ	187
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠB		1	-	2	-	-
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠC	Globalization and International Business (This course will be conducted in English)	1	春	2	金城 亜紀	188
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠD	中・東欧研究の可能性	1	春	2	中島 崇文	189
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠE	国際政治とグローバリゼーション	1	春	2	畠山 圭一	190
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠF	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	1	春	2	J. F. モア	191
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠG	地球環境問題と国際コミュニケーション	1	春	2	荘林幹太郎	192
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠH	マイノリティの歴史と現在	1	春	2	武井 彩佳	193
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠI	歴史社会学および東アジア地域研究	1	春	2	金野 純	194
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠJ		1	-	2	-	-
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠK	東アジアにおける人の移動と文化交流	1	春	2	羅 京洙	195
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠL	ルネサンスの女性たち—近代のヨーロッパを考える	1	春	2	根占 猷一	196
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠM	現代社会の法的分析（国際法と国内法）	1	春	2	櫻井 大三	197
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠN	アジア太平洋地域研究の方法	1	春	2	乾 尚彦	198
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠO	イギリス文化展望	1	春	2	古庄 信	199
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠP	言語・社会・国家	1	春	2	工藤 晶人	200
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠQ	国際協力	1	春	2	伊藤由紀子	201
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠR	コミュニケーションを考える	1	春	2	逢坂 巖	202
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠS		1	-	2	-	-
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠT	外国為替の基礎	1	春	2	佐久間 潮	203
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠU	体験学習と人間関係コミュニケーション	1	春	2	品川 明	204
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠV		1	-	2	-	-
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠW		1	-	2	-	-
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠX	ウェブ上の情報システム	1	春	2	江藤 正己	205
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡA	世界遺産という問題	1	秋	2	M. ウーゴ	206
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡB		1	-	2	-	-
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡC	Globalization and International Business (This course will be conducted in English)	1	秋	2	金城 亜紀	207
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡD	中・東欧研究の可能性	1	秋	2	中島 崇文	208
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡE	文明の衝突か共生か	1	秋	2	畠山 圭一	209
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡF	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	1	秋	2	J. F. モア	210
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡG	地球環境問題と国際コミュニケーション	1	秋	2	荘林幹太郎	211
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡH	マイノリティの歴史と現在	1	秋	2	武井 彩佳	212
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡI	歴史社会学および東アジア地域研究	1	秋	2	金野 純	213
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡJ		1	-	2	-	-
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡK	東アジアにおける人の移動と文化交流	1	秋	2	羅 京洙	214
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡL	ヴェネツィア共和国とコルテジャーナー—ヨーロッパ女性史	1	秋	2	根占 猷一	215

国際コミュニケーション学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副 題	配当年次	学期	単位	担 当 者	頁
国際コミュニケーション基礎演習科目群	国際コミュニケーション基礎演習ⅡM	現代社会の法的分析（国際法と国内法）	1	秋	2	櫻井 大三	216
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡN	世界の住まい	1	秋	2	乾 尚彦	217
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡO	イギリス文化展望	1	秋	2	古庄 信	218
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡP	言語・社会・国家	1	秋	2	工藤 晶人	219
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡQ	国際協力	1	秋	2	伊藤由紀子	220
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡR	コミュニケーションを考える	1	秋	2	逢坂 巖	221
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡS		1	-	-	-	-
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡT	経済記事の読み方	1	秋	2	佐久間 潮	222
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡU	体験学習と人間関係コミュニケーション	1	秋	2	品川 明	223
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡV		1	-	-	-	-
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡW		1	-	-	-	-
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡX	ウェブ上の情報システム	1	秋	2	江藤 正己	224
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢA	文化財とは何か	2	春	2	M. ウーゴ	187
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢB		2	-	-	-	-
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢC	Globalization and International Business (This course will be conducted in English)	2	春	2	金城 亜紀	188
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢD	中・東欧研究の可能性	2	春	2	中島 崇文	189
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢE	国際政治とグローバリゼーション	2	春	2	畠山 圭一	190
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢF	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	2	春	2	J. F. モア	191
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢG	地球環境問題と国際コミュニケーション	2	春	2	荘林幹太郎	192
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢH	マイノリティの歴史と現在	2	春	2	武井 彩佳	193
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢI	歴史社会学および東アジア地域研究	2	春	2	金野 純	194
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢJ		2	-	-	-	-
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢK	東アジアにおける人の移動と文化交流	2	春	2	羅 京洙	195
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢL	ルネサンスの女性たち—近代のヨーロッパを考える	2	春	2	根占 猷一	196
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢM	現代社会の法的分析（国際法と国内法）	2	春	2	櫻井 大三	197
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢN	アジア太平洋地域研究の方法	2	春	2	乾 尚彦	198
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢO	イギリス文化展望	2	春	2	古庄 信	199
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢP	言語・社会・国家	2	春	2	工藤 晶人	200
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢQ	国際協力	2	春	2	伊藤由紀子	201
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢR	コミュニケーションを考える	2	春	2	逢坂 巖	202
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢS		2	-	-	-	-
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢT	外国為替の基礎	2	春	2	佐久間 潮	203
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢU	体験学習と人間関係コミュニケーション	2	春	2	品川 明	204
国際コミュニケーション基礎演習ⅢV		2	-	-	-	-	
国際コミュニケーション基礎演習ⅢW		2	-	-	-	-	
国際コミュニケーション基礎演習ⅢX	ウェブ上の情報システム	2	春	2	江藤 正己	205	

国際コミュニケーション学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁
国際コミュニケーション基礎演習科目群	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ A	世界遺産という問題	2	秋	2	M. ウーゴ	206
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ B		2	-	2	-	-
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ C	Globalization and International Business (This course will be conducted in English)	2	秋	2	金城 亜紀	207
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ D	中・東欧研究の可能性	2	秋	2	中島 崇文	208
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ E	文明の衝突か共生か	2	秋	2	畠山 圭一	209
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ F	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	2	秋	2	J. F. モア	210
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ G	地球環境問題と国際コミュニケーション	2	秋	2	荘林幹太郎	211
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ H	マイノリティの歴史と現在	2	秋	2	武井 彩佳	212
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ I	歴史社会学および東アジア地域研究	2	秋	2	金野 純	213
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ J		2	-	2	-	-
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ K	東アジアにおける人の移動と文化交流	2	秋	2	羅 京洙	214
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ L	ヴェネツィア共和国とコルテジアーナーヨーロッパ女性史	2	秋	2	根占 猷一	215
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ M	現代社会の法的分析（国際法と国内法）	2	秋	2	櫻井 大三	216
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ N	世界の住まい	2	秋	2	乾 尚彦	217
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ O	イギリス文化展望	2	秋	2	古庄 信	218
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ P	言語・社会・国家	2	秋	2	工藤 晶人	219
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ Q	国際協力	2	秋	2	伊藤由紀子	220
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ R	コミュニケーションを考える	2	秋	2	逢坂 巖	221
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ S		2	-	2	-	-
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ T	経済記事の読み方	2	秋	2	佐久間 潮	222
国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ U	体験学習と人間関係コミュニケーション	2	秋	2	品川 明	223	
国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ V		2	-	2	-	-	
国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ W		2	-	2	-	-	
国際コミュニケーション基礎演習Ⅳ X	ウェブ上の情報システム	2	秋	2	江藤 正己	224	
国際関係基礎科目群	経営学Ⅰ	経営学の基礎を学び、キャリア形成について考える	1～	秋	2	金城 亜紀	225
	※マーケティングⅠ	消費財マーケティングの基礎理論	2～	春	2	田島 博和	226
	地域研究基礎論Ⅰ（第三世界）	中・東欧研究概論（1）	1～	春	2	中島 崇文	227
	地域研究基礎論Ⅱ（第三世界）	中・東欧研究概論（2）	1～	秋	2	中島 崇文	228
	国際関係基礎論Ⅰ	国際安全保障学の基礎	1～	春	2	畠山 圭一	229
	国際関係基礎論Ⅱ	国際政治経済の基本的枠組み	1～	秋	2	荘林幹太郎	230
	環境科学Ⅰ	環境問題を理解するための自然・社会科学の基礎	1～	春	2	荘林幹太郎	231
	環境科学Ⅱ	環境政策概論	1～	秋	2	加藤 弘二	232
	マスコミュニケーション論Ⅰ（概論）	メディアと社会	1～	春	2	蔡 星慧	233
基礎域文化科目群	言語学Ⅰ	言語における文法の構造	1～	春	2	佐藤 琢三	234
	言語学Ⅱ	言語における音声と意味	1～	秋	2	佐藤 琢三	235
	社会言語学Ⅰ	社会の中の言語	1～	春	2	福島 直恭	236

国際コミュニケーション学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副 題	配当年次	学期	単位	担 当 者	頁	
地域文化系基礎科目群	社会言語学Ⅱ	「日本語」という虚構	1～	秋	2	福島 直恭	237	
	文化人類学Ⅰ	文化人類学の基礎概念	1～	春	2	齋藤 亜子	238	
	文化人類学Ⅱ	現代社会における民族 文化人類学とフィールドワーク	1～	秋	2	齋藤 亜子	239	
	北米文化論	北米地域の地理・風土と政治・文化	1～	秋	2	畠山 圭一	240	
	ヨーロッパ文化論	近代ヨーロッパの宗教・思想・文化	1～	秋	2	根占 献一	241	
	アジア文化論	アジアにおける戦争、革命、社会変容	1～	春	2	金野 純	242	
	イスラム文化論Ⅰ	イスラムの基礎知識	1～	春	2	小野 仁美	243	
	言語地理学	スラヴの言語と文化	1～	秋	2	坂倉 千鶴	244	
	比較神話論		1～	春	2	東 由美子	245	
	比較道具論	生活を支える道具から生活文化を考察する	1～	春	2	真島 麗子	246	
	比較居住文化論	モンゴロイドアジア大陸部を中心として	1～	春	2	乾 尚彦	247	
	英語演習基礎科目群	英語演習ⅠA	Language and Culture in Our World	2	春	2	川口エレン	248
		英語演習ⅠB	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう!	2	春	2	大野 純子	249
英語演習ⅠC		News英語と映画の英語	2	春	2	渡辺 幸俊	250	
英語演習ⅠD		アイルランドの文化に触れる	2	春	2	小村 志保	251	
英語演習ⅠE		A Taste of English	2	春	2	谷口めぐみ	252	
英語演習ⅠF		Language Change	2	春	2	川口エレン	253	
英語演習ⅠG		Reading for better communication	2	春	2	清水 英之	254	
英語演習ⅠH		シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう!	2	春	2	大野 純子	255	
英語演習ⅠI		English Pronunciation Practice through Shakespeare Songs	2	春	2	清水 英之	256	
英語演習ⅠJ		Reciting English poems	2	春	2	清水 英之	257	
英語演習ⅠK		TOEIC対策	2	春	2	山口志のぶ	258	
英語演習ⅠL		TOEIC対策	2	春	2	山口志のぶ	259	
英語演習ⅡA		Language and Culture in Our World	2	秋	2	川口エレン	260	
英語演習ⅡB		シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう!	2	秋	2	大野 純子	261	
英語演習ⅡC		News英語と映画の英語	2	秋	2	渡辺 幸俊	262	
英語演習ⅡD		アイルランドの歴史に触れる	2	秋	2	小村 志保	263	
英語演習ⅡE		A Flavor of English	2	秋	2	谷口めぐみ	264	
英語演習ⅡF		Language Change	2	秋	2	川口エレン	265	
英語演習ⅡG		Reading for better communication	2	秋	2	清水 英之	266	
英語演習ⅡH		シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう!	2	秋	2	大野 純子	267	
英語演習ⅡI		English Pronunciation Practice through Shakespeare Works	2	秋	2	清水 英之	268	
英語演習ⅡJ		English Pronunciation Practice through English Popular Songs	2	秋	2	清水 英之	269	
英語演習ⅡK		TOEIC対策	2	秋	2	山口志のぶ	270	
英語演習ⅡL		TOEIC対策	2	秋	2	山口志のぶ	271	
国際関係専門科目群	国際コミュニケーション論	歴史を動かす国際報道	2～	秋	2	明石 和康	272	

国際コミュニケーション学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁
国際関係専門科目群	国際関係論Ⅰ（国際関係史）	複数の国際社会	2～	春	2	工藤 晶人	273
	国際関係論Ⅱ（日欧関係）	日欧関係にみる近世と近代	2～	秋	2	工藤 晶人	274
	国際関係論Ⅲ（日米関係）		2～	春	2	畠山 圭一	275
	※国際関係論Ⅳ（将来展望）	21世紀の国際関係	2～	秋	2	畠山 圭一	276
	国際法Ⅰ	分権社会の法	2～	春	2	櫻井 大三	277
	国際法Ⅱ	国家と国際法	2～	秋	2	櫻井 大三	278
	ボランティア論Ⅰ	ボランティアとは？国際協力NGOの活動を通し学ぶ	2～	春	2	野口 朝夫	279
	ボランティア論Ⅱ	NPOとわたしたち	2～	秋	2	伊藤由紀子	280
	国際機構論Ⅰ	国際機構の設立と構造	3～	春	2	小中さつき	281
	国際機構論Ⅱ	様々な分野における国際機構の活動	3～	秋	2	小中さつき	282
	国際開発論Ⅰ	国際開発援助	2～	春	2	伊藤由紀子	283
	国際開発論Ⅱ		2～	秋	2	眞嶋 麻子	284
	経営学Ⅱ	経営学の基礎を、「会社」を題材に、体系的かつ実践的に学習します。	2～	春	2	金城 亜紀	285
	※マーケティングⅡ	東南アジアでのマーケティング	2～	秋	2	田島 博和	286
	金融論	金融の基本となる考え方を学ぶ	2～	秋	2	佐久間 潮	287
	国際経済Ⅰ	貿易と外国為替の基礎	2～	春	2	佐久間 潮	288
	国際経済Ⅱ		2～	秋	2	渡邊 淳	289
	マスコミュニケーション論Ⅱ（理論）	メディアとコミュニケーション、メディアと文化	2～	秋	2	蔡 星慧	290
	マスコミュニケーション論Ⅲ（広告・PR）		2～	春	2	中馬 淳	291
	☆比較教育学	人の国際移動と多文化社会の教育	3～	兼中	2	杉村 美紀	292
	比較政治学Ⅰ	比較宗教と政治	2～	春	2	杉原 志啓	293
	比較政治学Ⅱ	宗教対立と政治	2～	秋	2	杉原 志啓	294
	国際政治Ⅰ（歴史と現状）	国際政治の歴史と現状	2～	春	2	畠山 圭一	295
	国際政治Ⅱ（日本の使命）	近代日本政治外交史	3～	秋	2	齋藤 洋子	296
	国際政治Ⅲ（構造変化）	国際関係の構造変化と米中関係の展望	3～	春	2	畠山 圭一	297
	国際政治Ⅳ（国際戦略）	国際戦略の理論と政策	3～	秋	2	畠山 圭一	298
ヨーロッパ政治史Ⅰ	ホロコースト研究	3～	春	2	武井 彩佳	299	
ヨーロッパ政治史Ⅱ	強制移住とジェノサイド	3～	秋	2	武井 彩佳	300	
地域文化系専門科目群	アメリカ文化論Ⅰ	米大統領とアメリカの政治・社会	2～	春	2	石澤 靖治	301
	アメリカ文化論Ⅱ		2～	秋	2	前嶋 和弘	302
	イスラム文化論Ⅱ	イスラムと社会生活	2～	秋	2	小野 仁美	303
	☆イギリス文化論Ⅰ	英国史概観（古代ローマ～近代）	2～	春	2	古庄 信	304
	☆イギリス文化論Ⅱ		2～	-	2	-	-
	フランス文化論Ⅰ	フランスの歴史と文化	2～	春	2	工藤 晶人	305
	フランス文化論Ⅱ	フランスの歴史と文化	2～	秋	2	工藤 晶人	306
	ドイツ文化論Ⅰ	「ドイツ的」とは何か	2～	春	2	武井 彩佳	307
ドイツ文化論Ⅱ	戦後ドイツ社会	2～	秋	2	武井 彩佳	308	

国際コミュニケーション学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副 題	配当年次	学期	単位	担 当 者	頁
地域文化系専門科目群	イタリア文化論Ⅰ	都市文化としてのイタリア文化とその歴史	2～	春	2	根占 猷一	309
	イタリア文化論Ⅱ	文学と絵画に描かれる18世紀のイタリア	2～	秋	2	宮坂 真紀	310
	東南アジア文化論Ⅰ（大陸部）	遺跡を通してみるアジア文化	2～	春	2	重枝 豊	311
	東南アジア文化論Ⅱ（島嶼部）	居住文化と生活文化からアジアの基層文化を考える	2～	秋	2	乾 尚彦	312
	☆アフリカ文化論		2～	-	2	-	-
	☆中南米文化論		2～	-	2	-	-
	中国文化論		2～	秋	2	金野 純	313
	朝鮮文化論	韓国の文化と社会	2～	春	2	羅 京洙	314
	☆南アジア文化論		2～	-	2	-	-
	☆ロシア文化論		2～	-	2	-	-
	東欧文化論	ドナウ流域諸国の歴史と文化	2～	秋	2	中島 崇文	315
	☆オセアニア文化論		2～	-	2	-	-
	アメリカ文学Ⅰ		2～	春	2	山口志のぶ	316
	アメリカ文学Ⅱ		2～	秋	2	山口志のぶ	317
	☆イギリス文学Ⅰ		2～	-	2	-	-
	☆イギリス文学Ⅱ		2～	-	2	-	-
	比較音楽論Ⅰ（東洋）		3～	春	2	丸山 洋司	318
	比較音楽論Ⅱ（西洋）	ヨーロッパの社会とオペラ	3～	秋	2	米田かおり	319
	☆比較宗教論Ⅰ		3～	-	2	-	-
	☆比較宗教論Ⅱ		3～	-	2	-	-
文化遺産学	文化財から文化遺産へ	2～	春	2	M. ウーゴ	320	
外国語演習専門科目群	外国語演習ⅠA	International Relations of East Asia	3	春	2	羅 京洙	321
	外国語演習ⅠB	東南アジアにおけるジェンダー、市場および国際関係（1）	3	春	2	久保田有香	322
	外国語演習ⅠC	英語で学ぶ奴隷貿易の歴史	3	春	2	工藤 晶人	323
	外国語演習ⅠD		3	春	2	渡邊 淳	324
	外国語演習ⅠE	オペラとその上演	3	春	2	大崎さやの	325
	外国語演習ⅠF	Race and Ethnicity	3	春	2	武井 彩佳	326
	外国語演習ⅠG	Women, Work and the Will to Lead (This course will be conducted in English).	3	春	2	金城 重紀	327
	外国語演習ⅠH	様々な国における女性の社会進出の実態	3	春	2	佐久間 潮	328
	外国語演習ⅠI	Experiencing Shakespeare	3	春	2	古庄 信	329
	外国語演習ⅠJ	西欧から見た東欧の人々と社会・モーツァルトの生涯	3	春	2	中島 崇文	330
	外国語演習ⅠK	金融・経済基礎	3	春	2	中島 洋子	331
	外国語演習ⅠL	Cultural Properties in Japan	3	春	2	M. ウーゴ	332
	外国語演習ⅠM	フランス語で読む国際法	3	春	2	櫻井 大三	333
	外国語演習ⅠN	外国語で読む現代日本	3	春	2	金野 純	334
	外国語演習ⅠO	英語で学ぶ環境経済	3	春	2	莊林幹太郎	335
	外国語演習ⅡA	Experiencing Shakespeare	3	秋	2	古庄 信	336

国際コミュニケーション学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁
外国語演習専門科目群	外国語演習ⅡB	東南アジアにおけるジェンダー、市場および国際関係(2)	3	秋	2	久保田有香	337
	外国語演習ⅡC	英語で学ぶ国際移民	3	秋	2	工藤 晶人	338
	外国語演習ⅡD		3	秋	2	渡邊 淳	339
	外国語演習ⅡE	イタリア、フィレンツェ中世の「悪魔」像	3	秋	2	高橋 朋子	340
	外国語演習ⅡF	Race and Ethnicity	3	秋	2	武井 彩佳	341
	外国語演習ⅡG	The Shift: The future of work is already here (this course will be conducted in English)	3	秋	2	金城 亜紀	342
	外国語演習ⅡH	アジア女性の晩婚化と避婚化	3	秋	2	佐久間 潮	343
	外国語演習ⅡI	セレブが投げかける社会問題	3	秋	2	藤原 朝子	344
	外国語演習ⅡJ	International Relations of East Asia	3	秋	2	羅 京洙	345
	外国語演習ⅡK	金融・経済基礎	3	秋	2	中島 洋子	346
	外国語演習ⅡL	World Cultural and Natural Heritage	3	秋	2	M. ウーゴ	347
	外国語演習ⅡM	フランス語で読む国際法	3	秋	2	櫻井 大三	348
	外国語演習ⅡN	外国語で読む現代日本	3	秋	2	金野 純	349
	外国語演習ⅡO	英語で学ぶ日本の農村・環境問題	3	秋	2	莊林幹太郎	350
	国際コミュニケーション専門演習科目群	国際コミュニケーション演習ⅠA	文化財の保護と活用	3	春	2	M. ウーゴ
国際コミュニケーション演習ⅠB		Intercultural Communication	3	春	2	G. R. ファリア	352
国際コミュニケーション演習ⅠC		Japanese Business and Society - Piercing the Veil	3	春	2	金城 亜紀	353
国際コミュニケーション演習ⅠD		中・東欧を中心とするヨーロッパ研究	3	春	2	中島 崇文	354
国際コミュニケーション演習ⅠE		情報戦略なき国家	3	春	2	畠山 圭一	355
国際コミュニケーション演習ⅠF		Discussing Japan	3	春	2	J. F. モア	356
国際コミュニケーション演習ⅠG		地球環境問題と国際コミュニケーション	3	春	2	莊林幹太郎	357
国際コミュニケーション演習ⅠH		現代欧米社会の人種・民族	3	春	2	武井 彩佳	358
国際コミュニケーション演習ⅠI		日本の歴史社会学	3	春	2	金野 純	359
国際コミュニケーション演習ⅠJ			3	-	-	-	-
国際コミュニケーション演習ⅠK		朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究	3	春	2	羅 京洙	360
国際コミュニケーション演習ⅠL		ヨーロッパ文化の諸問題	3	春	2	根占 猷一	361
国際コミュニケーション演習ⅠM		国際法と国内法の基本問題	3	春	2	櫻井 大三	362
国際コミュニケーション演習ⅠN		比較生活文化研究	3	春	2	乾 尚彦	363
国際コミュニケーション演習ⅠO		English and Its Culture I	3	春	2	古庄 信	364
国際コミュニケーション演習ⅠP		ヨーロッパ・アジア・アフリカの比較交流史	3	春	2	工藤 晶人	365
国際コミュニケーション演習ⅠQ		国際開発協力	3	春	2	伊藤由紀子	366
国際コミュニケーション演習ⅠR			3	-	-	-	-
国際コミュニケーション演習ⅠS			3	-	-	-	-
国際コミュニケーション演習ⅠT		グローバル化の実態	3	春	2	佐久間 潮	367
国際コミュニケーション演習ⅠU	1. 食物教育と味覚教育 2. 環境教育 3. 科学教育	3	春	2	品川 明	368	
国際コミュニケーション演習ⅠV	言語学・日本語教育Ⅰ	3	春	2	佐藤 琢三	369	
国際コミュニケーション演習ⅠW	日本語研究の方法	3	春	2	福島 直恭	370	

国際コミュニケーション学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副 題	配当年次	学期	単位	担 当 者	頁
国際コミュニケーション専門演習科目群	国際コミュニケーション演習ⅠX	情報システム	3	春	2	江藤 正己	371
	国際コミュニケーション演習ⅠA	文化財の保護と活用	3	秋	2	M. ウーゴ	372
	国際コミュニケーション演習ⅠB	Intercultural Communication	3	秋	2	G. R. フェリア	373
	国際コミュニケーション演習ⅠC	Japanese Business and Society - Piercing the Veil	3	秋	2	金城 亜紀	374
	国際コミュニケーション演習ⅠD	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究	3	秋	2	中島 崇文	375
	国際コミュニケーション演習ⅠE	日本の政治文化の特質	3	秋	2	畠山 圭一	376
	国際コミュニケーション演習ⅠF	Discussing Japan	3	秋	2	J. F. モア	377
	国際コミュニケーション演習ⅠG	地球環境問題と国際コミュニケーション	3	秋	2	荘林幹太郎	378
	国際コミュニケーション演習ⅠH	現代欧米社会の人種・民族	3	秋	2	武井 彩佳	379
	国際コミュニケーション演習ⅠI	東アジア地域研究と歴史社会学	3	秋	2	金野 純	380
	国際コミュニケーション演習ⅠJ		3	-	-	-	-
	国際コミュニケーション演習ⅠK	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究	3	秋	2	羅 京洙	381
	国際コミュニケーション演習ⅠL	ルネサンス文化の展開—思想の様態	3	秋	2	根占 献一	382
	国際コミュニケーション演習ⅠM	国際法と国内法の基本問題	3	秋	2	櫻井 大三	383
	国際コミュニケーション演習ⅠN	比較生活文化研究	3	秋	2	乾 尚彦	384
	国際コミュニケーション演習ⅠO	English and Its Culture II	3	秋	2	古庄 信	385
	国際コミュニケーション演習ⅠP	ヨーロッパ・アジア・アフリカの比較交流史	3	秋	2	工藤 晶人	386
	国際コミュニケーション演習ⅠQ	国際開発協力	3	秋	2	伊藤由紀子	387
	国際コミュニケーション演習ⅠR		3	-	-	-	-
	国際コミュニケーション演習ⅠS		3	-	-	-	-
	国際コミュニケーション演習ⅠT	グローバル化の実態（その2）	3	秋	2	佐久間 潮	388
	国際コミュニケーション演習ⅠU	1. 食物教育と味覚教育 2. 環境教育 3. 科学教育	3	秋	2	品川 明	389
	国際コミュニケーション演習ⅠV	言語学・日本語教育Ⅰ	3	秋	2	佐藤 琢三	390
	国際コミュニケーション演習ⅠW	言語研究の可能性	3	秋	2	福島 直恭	391
	国際コミュニケーション演習ⅠX	情報システム	3	秋	2	江藤 正己	392
	国際コミュニケーション演習ⅢA	文化財の保護と活用	4	春	2	M. ウーゴ	351
	国際コミュニケーション演習ⅢB	Intercultural Communication	4	春	2	G. R. フェリア	352
	国際コミュニケーション演習ⅢC		4	-	-	-	353
	国際コミュニケーション演習ⅢD	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究	4	春	2	中島 崇文	354
	国際コミュニケーション演習ⅢE	情報戦略なき国家	4	春	2	畠山 圭一	355
	国際コミュニケーション演習ⅢF	Discussing Japan	4	春	2	J. F. モア	356
	国際コミュニケーション演習ⅢG	地球環境問題と国際コミュニケーション	4	春	2	荘林幹太郎	357
国際コミュニケーション演習ⅢH	現代欧米社会の人種・民族	4	春	2	武井 彩佳	358	
国際コミュニケーション演習ⅢI	日本の歴史社会学	4	春	2	金野 純	359	
国際コミュニケーション演習ⅢJ		4	-	-	-	-	
国際コミュニケーション演習ⅢK	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究	4	春	2	羅 京洙	360	
国際コミュニケーション演習ⅢL	ヨーロッパ文化の諸問題	4	春	2	根占 献一	361	

国際コミュニケーション学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁	
国際コミュニケーション専門演習科目群	国際コミュニケーション演習ⅢM	国際法と国内法の基本問題	4	春	2	櫻井 大三	362	
	国際コミュニケーション演習ⅢN	比較生活文化研究	4	春	2	乾 尚彦	363	
	国際コミュニケーション演習ⅢO	English and Its Culture I	4	春	2	古庄 信	364	
	国際コミュニケーション演習ⅢP	ヨーロッパ・アジア・アフリカの比較交流史	4	春	2	工藤 晶人	365	
	国際コミュニケーション演習ⅢQ	国際開発協力	4	春	2	伊藤由紀子	366	
	国際コミュニケーション演習ⅢR		4	-	-	-	-	
	国際コミュニケーション演習ⅢS		4	-	-	-	-	
	国際コミュニケーション演習ⅢT	グローバル化の実態	4	春	2	佐久間 潮	367	
	国際コミュニケーション演習ⅢU	1. 食物教育と味覚教育 2. 環境教育 3. 科学教育	4	春	2	品川 明	368	
	国際コミュニケーション演習ⅢV	言語学・日本語教育 I	4	春	2	佐藤 琢三	369	
	国際コミュニケーション演習ⅢW	日本語研究の方法	4	春	2	福島 直恭	370	
	国際コミュニケーション演習ⅢX	情報システム	4	春	2	江藤 正己	371	
	国際コミュニケーション演習ⅣA	文化財の保護と活用	4		秋	2	M. ウーゴ	372
	国際コミュニケーション演習ⅣB	Intercultural Communication	4		秋	2	G. R. ファリア	373
	国際コミュニケーション演習ⅣC		4	-	-	2	-	374
	国際コミュニケーション演習ⅣD	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究	4		秋	2	中島 崇文	375
	国際コミュニケーション演習ⅣE	日本の政治文化の特質	4		秋	2	畠山 圭一	376
	国際コミュニケーション演習ⅣF	Discussing Japan	4		秋	2	J. F. モア	377
	国際コミュニケーション演習ⅣG	地球環境問題と国際コミュニケーション	4		秋	2	荘林幹太郎	378
	国際コミュニケーション演習ⅣH	現代欧米社会の人種・民族	4		秋	2	武井 彩佳	379
	国際コミュニケーション演習ⅣI	東アジア地域研究と歴史社会学	4		秋	2	金野 純	380
	国際コミュニケーション演習ⅣJ		4	-	-	2	-	-
	国際コミュニケーション演習ⅣK	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究	4		秋	2	羅 京洙	381
	国際コミュニケーション演習ⅣL	ルネサンス文化の展開—思想の様態	4		秋	2	根占 献一	382
	国際コミュニケーション演習ⅣM	国際法と国内法の基本問題	4		秋	2	櫻井 大三	383
	国際コミュニケーション演習ⅣN	比較生活文化研究	4		秋	2	乾 尚彦	384
	国際コミュニケーション演習ⅣO	English and Its Culture II	4		秋	2	古庄 信	385
	国際コミュニケーション演習ⅣP	ヨーロッパ・アジア・アフリカの比較交流史	4		秋	2	工藤 晶人	386
	国際コミュニケーション演習ⅣQ	国際開発協力	4		秋	2	伊藤由紀子	387
	国際コミュニケーション演習ⅣR		4	-	-	2	-	-
	国際コミュニケーション演習ⅣS		4	-	-	2	-	-
	国際コミュニケーション演習ⅣT	グローバル化の実態 (その2)	4		秋	2	佐久間 潮	388
国際コミュニケーション演習ⅣU	1. 食物教育と味覚教育 2. 環境教育 3. 科学教育	4		秋	2	品川 明	389	
国際コミュニケーション演習ⅣV	言語学・日本語教育 I	4		秋	2	佐藤 琢三	390	
国際コミュニケーション演習ⅣW	言語研究の可能性	4		秋	2	福島 直恭	391	
国際コミュニケーション演習ⅣX	情報システム	4		秋	2	江藤 正己	392	
卒業研究・卒業論文	卒業研究 (春)		4	春集中	8	古庄 信	393	

国際コミュニケーション学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁
卒業論文・卒業論文研究	卒業研究（秋）		4	秋・中	8	古庄 信	394
	卒業論文（春）		4	春・中	8	古庄 信	395
	卒業論文（秋）		4	秋・中	8	古庄 信	396
他学部専門 指定された 科目	日本文化政策論Ⅰ	文化政策の基本構造	1～	春	2	阿曾村智子	42
	日本文化政策論Ⅱ	日本文化政策の現状	1～	秋	2	阿曾村智子	43

副題	文化財とは何か			担当者	M. ウーゴ 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

文化財を通じて、特定の課題について調べる・考える・発表する力をつけること。

〔授業の内容〕

現在、我々が「文化財」あるいは「文化遺産」と呼ぶものはどういうものか。また、「文化財」として我々が守ろうとしているものはどういうものか。そして、それをなぜ後世に残そうとするのか。日本、海外を問わず、人類にとっての「文化財」、その概念、その保存の目的と背景を概観する。実のところ、世界中で「遺産」として考えられている対象には少なからず違いがある。有形のもの、無形のもの、文化的なもの、自然的なもの、さらに、それらを統合したもの、重点の置かれ方はさまざまに異なる。このような事情を踏まえた上で、日本国内の文化財を分析し、そして外国ではどのような「遺産」があるのかを比較することによって、それぞれに共通する特徴を理解する。また、地域によって捉え方の異なる「遺産」については、遺産の保存方法に関して、具体的な実例をもとに考察を深める。各自、日本や外国の「遺産」に関して調査し意見交換を図る。そうした成果を定期的に小論文としてまとめ、発表し、調べる力や論文の執筆力を高めてゆく。

〔教材〕

参考書：佐藤望（編）『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門』第二版，慶應義塾大学出版会，2013年
文化庁文化財部（編）『未来に伝えよう 文化財』文化庁，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献，検索した資料），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席と授業への参加の姿勢（積極性）[10%]，レポートやレジメ [50%] 発表 [40%] を総合的に評価。

〔備考〕

この授業を選択する学生は，文献やインターネットを通じた情報収集だけではなく，あらゆる文化財を訪れ，実際に鑑賞することを求める。

〔授業計画〕

- | | |
|------|----------|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | 文化財について |
| 第3週 | 日本の文化財 1 |
| 第4週 | 日本の文化財 2 |
| 第5週 | 日本の文化財 3 |
| 第6週 | 発表・討論 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 外国の文化財 1 |
| 第10週 | 外国の文化財 2 |
| 第11週 | 外国の文化財 3 |
| 第12週 | 発表・討論 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | まとめ |

副題	Globalization and International Business (This course will be conducted in English)			担当者	金城 亜紀 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

1. 国際ビジネスについて、自分で考え、意見を形成し、発表できるようになる。
2. グローバルなビジネス・政治経済の動向を内外のメディアを通して理解できるようになる。
3. 海外の大学で学べる水準の英語運用能力を取得する。

〔授業の内容〕

1. 米国の標準的な大学用の教科書を用います。
2. 学生がグループや個人で発表することを軸に演習を進めます。
3. 秋学期と合わせて通年で完結する予定です。

〔教材〕

教科書：Daniels, Radebaugh, Sullivan, *International Business - Environments and Operations*, 15th Edition, Pearson Education, 2015

必用に応じて参考資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

・ほぼ毎週の頻度で、グループで発表していただきますので、その準備学習(理解した上で分かりやすく英語で説明する)に相当の時間が必要です。

〔成績評価の方法〕

プレゼンテーション：40%

Class contribution: 30%

学期末試験：30%

〔備考〕

- ・予備知識は必要ありません。
- ・演習での活動に積極的に取り組み、楽しいゼミにしていく意欲のある方を歓迎します。
- ・オフィスアワーは木曜日の2限です。

〔授業計画〕

- 第1週 Kick-off
- 第2週 (Chapter) 1. Overview of International Business and Globalization
- 第3週 同上
- 第4週 2. Culture
- 第5週 同上
- 第6週 3. Governmental and Legal Systems
- 第7週 同上
- 第8週 4. Economic Systems and Market Methods
- 第9週 同上
- 第10週 5. Trade and Factor Mobility Theory
- 第11週 同上
- 第12週 6. Trade Protectionism
- 第13週 同上
- 第14週 7. Economic Integration and Cooperation
- 第15週 理解度の確認

・詳細は演習募集要項をご覧くださいと共に、初回の授業にいらしてください。

・より良い演習にするために、本計画を変更することがあります。

副題	中・東欧研究の可能性			担当者	中島 崇文 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5

〔授業の到達目標〕

中・東欧全般に関する理解を深め、この地域を対象とする研究はどのようなものが可能であるのかを理解すると共に、論文の執筆の方法を具体例を参照しながら習得する。

〔授業の内容〕

毎週、『アカデミック・スキルズ』を1章ずつ検討した後、中・東欧及びその周辺地域を対象とする様々なテーマによる論文を一本ずつ精読する。受講生は『アカデミック・スキルズ』の該当する章と取り上げる予定の論文を事前に読んだ上で授業に臨むことが前提となるが、授業では担当教員は内容、体裁、脚注の付け方、参考文献の記載方法等について具体例に即して説明し、また、受講生は全員が数分ずつコメントするものとする。

〔教材〕

教科書：佐藤望編著『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門—』慶應義塾大学出版会、2012年

授業で取り上げる論文（2～6万字程度）については担当教員が用意し、前の週に事前に配布する予定。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書の該当部分に目を通し、また、事前に配布された論文を熟読し、授業中に中身の濃いコメントを述べられるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕

受講態度（約20%）、授業中に行うコメントと授業終了時に提出するペーパーの内容の緻密さ（約50%）、指定された期限までに提出するレポートの出来具合（約30%）等によって総合的に評価する。受講者は毎週出席して当然との観点から、出席を点数化して加点するということは行わない。逆に1回の欠席につきおおむね5点の減点とし、加えて、欠席日に提出すべき課題が遅れても未提出の場合にはさらに5点の減点となる。このように欠席した場合の減点が大きいため、受講生は毎週欠かさず出席するよう、最大限に努力してほしい。日常的に欠席しがちな人、じっくりと長い文章を読むことを好まない人は歓迎しないし、本基礎演習は勧めない。

〔備考〕

国際コミュニケーション学科の学生で中島ゼミへの申請を検討している者や中欧国際協力研修参加予定者は、この国際コミュニケーション基礎演習Dの他、地域研究基礎論I・II、東欧文化論をできるだけ履修し、かつ、優秀な成績を修めるよう努力すること（ゼミの選考に際しては、これらの授業を履修し、かつ、それらの成績の優秀な者が優先される）。オフィスアワーは月曜日の15:00～16:00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。4号館2階の個人研究室のみならず、7号館1階の国際交流推進センター所長室にいることも少なくないで、こちらに立ち寄ってもよい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業内容の説明、自己紹介
- 第2週 論文の執筆の方法
- 第3週 中・東欧における日常のデザイン
- 第4週 中・東欧における観光業の発展
- 第5週 中・東欧における日本美術の受容（1）
- 第6週 中・東欧における日本美術の受容（2）
- 第7週 中・東欧の都市における環境政策
- 第8週 中・東欧における音楽家と音楽教育
- 第9週 中・東欧における言語と民族意識
- 第10週 中・東欧の言語と日本語の比較分析
- 第11週 中・東欧において社会主義時代に育った政治家
- 第12週 中・東欧における戦争被害者の研究
- 第13週 中・東欧の国々における歴史教育と歴史教科書
- 第14週 レポートの返却とコメント
- 第15週 総括

副 題	国際政治とグローバル化			担 当 者	畠山 圭一 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	金	時 限	3

〔授業の到達目標〕

文献購読を通じて、国際関係・異文化交流に関する課題を理解するとともに、文献調査、理論分析、調査内容報告、討論に関する基本的手法を身につける。

〔授業の内容〕

冷戦終結以来、国際社会における紛争や摩擦は国家、民族間の文化的価値観の相違に起因するものが多発するようになってきている。今後の国際関係を理解し、国際紛争や国家・民族間の摩擦を解決するには、国際社会の主体である各々の国家が、相手の固有文化とその反映としての政治的特色に対する理解を深めることが必要である。本演習では、世界的大論争を巻き起こした『文明の衝突』（サミュエル・ハンチントン）の問題提起を手がかりに、異文化、異文明の交流について考察する。また西欧と非西欧（特に日本、中国）の文明、文化の比較を通じて両者の異質性や同質性を探り、今後の国際関係における課題を考えてみたい。

〔教材〕

教科書：サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』集英社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前にテキストの該当箇所を読み、自らの課題を用意して臨むこと。思考力、分析力の養成が主眼であるため、事前、事後の思索が極めて重要な意味を持つ。予習、復習には十分な時間（標準は各2時間程度）を確保することが望ましい。

〔成績評価の方法〕

出席状況、演習参加の積極性、報告内容、レポート等によって総合的に評価(出席状況の配点は2割、レポートの配点は4割、その他4割)し、60点以上を合格とする。欠席について、無断欠席2回、連続3回の欠席、総計4回の欠席のいずれかに該当する場合には即刻、受講停止とするので、注意されたい。

〔備考〕

読書三昧の半年間となる。政治や国際関係に関する高い関心と使命感を持つ有為の学生を求める。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--------------|
| 第1週 | 導入講義 |
| 第2週 | テキスト輪読 |
| 第3週 | テキスト内容の報告と討論 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | 総括講義 |

副題	「Tell me about Japan」と言われた時の英語			担当者	J. F. モア 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

外国人に日本について説明する場合、表現に苦心する原因の1つは、風土、文化、習慣の違いが多くて、適切な言葉が見出せないことにある。この演習の目的は、日本的な物や習慣について英語で読んだり書いたりすることによって、自分のまわりの日本世界を英語で表現出来るようになることである。その際に必要になる「定義をするための英語」と「過程を描写し、やり方を説明する英語」のパターンは基本的なものである。しかも、英語の学術論文にもよく利用されているものでもあり、使いこなせるようになると後々まで便利である。

〔授業の内容〕

テキストは、時間感覚から新聞・ビジネス・ショッピングまで様々なテーマをとりあげ、日本とアメリカの社会や国民の考え方を比較し、その違いと変化を指摘しているものである。学生がプレゼンテーションでは、テキストのサマリーに自分で調べた情報をつけて発表して、クラスメートの考えを英語で聞き出そうとする。この二つの作業、英作文と英文の reading and discussionを平行した授業になる。

授業は英語で行う。

〔教材〕

教科書：Paul Stapleton, *Exploring Hidden Culture*, Kinseido, 2001

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Read the assigned chapter each week before class and prepare a two-paragraph comment, along with your questions about it, and discussion questions for the class (3 hours/week).

Presentation preparation (8 hours).

Examination preparation (7 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and class participation 30%, presentation 20%, weekly assignments 25%, final examination 25%。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Getting acquainted and presentation scheduling
第2週	Presentations and discussion ものの定義をする練習
第3週	〃
第4週	Presentations and discussion 意見を述べる練習
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	Presentations and discussion 比較をする練習
第9週	〃
第10週	〃
第11週	Presentations and discussion 過程・やり方を説明する練習
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	Final discussion

試験期間に期末試験を行う。

副 題	地球環境問題と国際コミュニケーション			担 当 者	荘林 幹太郎 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	水	時 限	4

〔授業の到達目標〕

「根拠」を特に必要としない『感想文』を書くことから、「根拠」を踏まえた大学生としての『レポート』を書くことに転換することを目標とする。これまでの経験則からは、毎回の課題に真摯に向き合った学生はそれに成功すると確信している。

〔授業の内容〕

本基礎演習では、地球温暖化をはじめとする地球環境に関わる問題を事例として、国際コミュニケーションに必要な基本的技術、とくに論理的に考え、書き、発表する技術を学ぶ。

具体的には、5週目までの毎回の演習において、講師から地球環境問題の事例について紹介し、受講生はそれをもとに2～3パラグラフの文章を書き、その詳細な添削を受けることによりパラグラフの基本的な書き方を身につける。そのうえで、6週目以降に、論点（テーマ）を設定したうえで、それを根拠によって論理的に支える文章を書く練習を行う。10週目以降にそれを数ページのレポートにまとめ発表する。

〔教材〕

教科書：ティモシー・W. クルーシアス、キャロリン・E. チャンネル『大学で学ぶ議論の技法』慶應義塾大学出版会、2004年

『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版、2006年

「大学で学ぶ議論の技法」はぜひとも長く手元に置いて欲しい。社会人になった後も必ず役に立つと思う。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2週間に1回を基本として3パラグラフ程度のレポートを課す（3時間程度の負荷のイメージ）。

〔成績評価の方法〕

ほぼ毎回出題される小メモ（2～3パラグラフ）の宿題（40%）、出席（20%）最終レポート（40%）

〔備考〕

授業内容について質問がある場合には、20070095@gakushuin.ac.jpまでメールで問い合わせること。

〔授 業 計 画〕

第1週	イントロダクション
第2週	地球環境問題を事例としたパラグラフライティングの練習
第3週	同上
第4週	〃
第5週	〃
第6週	レポートライティングについての基本的ルール：テーマの設定と根拠
第7週	事例演習
第8週	同上
第9週	〃
第10週	〃
第11週	レポート最終発表
第12週	同上
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

副題	マイノリティの歴史と現在			担当者	武井 彩佳 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

民族的・言語的・宗教的マジョリティの歴史的生成と、彼らが抱える現在の問題について学ぶ。

〔授業の内容〕

世界にはさまざまなマイノリティ（少数派）が暮らしています。民族的・言語的・宗教的にマジョリティ（多数派）と異なる彼らは、過去には社会から排除されたり、強制的に同化させられたりしました。この授業では、主にヨーロッパと北米のマイノリティを取り上げ、その歴史、現在の彼らを取り巻く社会状況、差別の構造などについて考えます。

授業では、配布したテキストを読み、特定のマイノリティについて自分で調べ、報告します。この後、報告したテーマでレポートにまとめます。さらに、参加者は新聞に目を通し、マイノリティに関連した記事を持参することが求められます。

〔教材〕

テキストを配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定されたテキスト部分を読んでくる。

〔成績評価の方法〕

出席（40点）、報告（20点）、レポート（20点）、新聞の切り抜き（20点）

〔備考〕

遅刻者は主席点が半分

〔授 業 計 画〕

第1週 「マイノリティとは何か」：報告者の決定

第2週 テキスト解説

第3週 ヌ

第4週 ヌ

第5週 報告＋解説

第6週 ヌ

第7週 ヌ

第8週 ヌ

第9週 ヌ

第10週 関連する映画鑑賞

第11週 報告＋解説

第12週 ヌ

第13週 ヌ

第14週 ヌ

第15週 ヌ

計画通りいかないこともあります。

副 題	歴史社会学および東アジア地域研究			担 当 者	金野 純 准教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	水	時 限	4

〔授業の到達目標〕

歴史社会学の研究方法の概略を理解し、地域研究の意義や方法についても基礎的な知識を得る。アウトラインの作成方法、レポートの作成方法、プレゼンテーションの作法についても学ぶ。

〔授業の内容〕

歴史と聞くとナポレオン、毛沢東、始皇帝…のような「有名人」を思い浮かべるかもしれませんが、私たちが普段何気なく生活している「社会」もまた歴史研究の対象となります。さまざまな社会現象には、かならず歴史的な背景があります。本演習では、歴史的な視点から社会について学ぶ歴史社会学の考え方を習得し、それを日本、中国、韓国などの東アジア地域研究のなかでどのように実践するのかについて学びます。

担当者（金野）がフィールドとしているのは中国をはじめとする東アジア地域ですが、歴史社会学に関心がある学生であればヨーロッパなど他の地域をテーマに報告しても構いません。

〔教材〕

授業時にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布されるコースブックを熟読し、内容をまとめておくこと。また授業では、内容に関して意見を求められることもあるので、自分なりの考えをまとめておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席を重視する。成績は、出席状況（30%）、報告内容（40%）、授業参加（10%）、レポート（20%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔備考〕

本演習は、3年次以降の専門研究をおこなうための基本的方法を学ぶ場として位置づけられる。したがって本演習担当教員のゼミナールを希望する学生は受講することが望ましい。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	歴史社会学と地域研究
第3週	歴史をどのように研究するのか？（1） —研究の作法
第4週	歴史をどのように研究するのか？（2） —日本、中国、韓国、カンボジアを事例として
第5週	報告とディスカッション
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題	東アジアにおける人の移動と文化交流			担当者	羅 京洙 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

東アジアの国際関係を、人と文化の移動と交流という観点から分析し、そこから見えてくる東アジアという地域の「実態」を把握することを試みる。

〔授業の内容〕

グローバル化が進む中、今日の東アジア地域では、近代の産物である国民国家の領土範囲に必ずしも収まらない個人や民族（エスニック・グループ）のような超国家的存在への関心がますます高まっている。「国民」という美名のもとに国家の枠内に閉じ込められて外部世界から孤立してきた様々な個人や民族は、東アジア国際関係の変容を自覚し、国境という物理的・心理的境界を越える移動と交流を繰り返している。本演習では、東アジアの人々が国家、国境、国民、民族といった既存の体制や概念を如何に揺るがし、新たな地域空間とそこで共通の地域的アイデンティティを創る担い手としてどのような役割を果たしているのかを理解する。また本演習では、国境を越える人々の移動によって文化の移動、さらには文化の交流と創造が行われるという構造とその事例についても一緒に学ぶ。なお、本演習は、大学生にとって必須のアカデミックな思考法と方法論をふまえて、(1) 担当教員による講義、(2) 関連文献の輪読、(3) 学生によるプレゼンテーションを軸に進める。

〔教材〕

教科書：佐藤望編著『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』第2版、慶應義塾大学出版会、2012年

その他の参考文献については演習時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定したテキストや参考資料をあらかじめ読んだ上で、毎回の授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

演習への出席率・貢献度（30%）、プレゼンテーション（30%）、課題・レポート（40%）で評価する。

〔備考〕

演習の内容について質問などがある場合には、金曜日のオフィス・アワー（14：00～17：00）に研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1週 | イントロダクション |
| 第2週 | アカデミックな思考と方法（1） |
| 第3週 | アカデミックな思考と方法（2） |
| 第4週 | アカデミックな思考と方法（3） |
| 第5週 | 講義：東アジアにおける人と文化の国際移動（1） |
| 第6週 | 講義：東アジアにおける人と文化の国際移動（2） |
| 第7週 | 文献講読と討論（1） |
| 第8週 | 文献講読と討論（2） |
| 第9週 | 文献講読と討論（3） |
| 第10週 | プレゼンテーションと討論（1） |
| 第11週 | プレゼンテーションと討論（2） |
| 第12週 | プレゼンテーションと討論（3） |
| 第13週 | プレゼンテーションと討論（4） |
| 第14週 | プレゼンテーションと討論（5） |
| 第15週 | 総合討論・総括 |

副 題	ルネサンスの女性たち—近代のヨーロッパを考える			担 当 者	根占 献一 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	火	時 限	3

〔授業の到達目標〕

歴史的過去を知ることで、現在の自分の立場を考えられるようになること

〔授業の内容〕

ヨーロッパの歴史も男性中心に描かれる。たとえば、ルネサンスの世界で男性の画家や彫刻家、建築家はよく知られている。ボッティチェリ、レオナルド、ミケランジェロ、ラファエロ、バッラーディオなどは著名で、その影響も大きかった。

天才たちが活躍したこの時代に女性の芸術家、文学者や詩人は全く無視してよい存在だったのだろうか。彼女たちの生きた、活動した記録はないのだろうか。その絵を見たり、文を読んだりではできないのだろうか。また彼女たちに理解のある女性の後援者はいなかったのだろうか。実はいたのである。いたのなら、どういう風に生きたのだろうか。またどのように評価されたのだろうか。

この演習では、できるだけ女性の役割と活動を知るべく関連テキスト（英文）を読みながら、ヨーロッパ文化のルネサンス的意義を考えてみたい。一年生にとっては最初の演習なので導入的な演習の側面も持つ。

〔教材〕

テキスト教材（英文テキスト）はこちらで準備する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

最低各一時間半以上。

〔成績評価の方法〕

発表（40%）、出席回数（40%）、レポート（20%）。

〔備考〕

映像資料（ビデオ・DVD・映画）も多用。

〔授 業 計 画〕

第1週	導入とともに、基本的な演習とはなにか、またその演習はどうあるべきか についても話します
第2週	ヨーロッパにおける女性—その人間観のなかで
第3週	テキストに基づく各自の発表
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	関連映像
第15週	〃

副題	現代社会の法的分析（国際法と国内法）			担当者	櫻井 大三 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5

〔授業の到達目標〕

現実の社会で問題となっている事件・事象の中から法的な問題点を抽出し、その問題の所在（背景と論点）を明らかにするとともに、その解決の在り方を展望することができるようになること。

〔授業の内容〕

本演習では、諸君が日々の新聞報道で接した事件・事象を法的な視点から眺めるとどうなるのかを自問し、その疑問に対して自ら答えを探り当てるべくさまざまな調査・検討を行い、その結果をプレゼンテーション形式で報告して頂く。

したがって、当然のことながら、受講生は、日々新聞の社会面・国際面に目を通し、世の中の動きを把握することが求められる。新聞で報じられる事件・事象には、何らかの形で法律との接点を含んでいるものが少なくない。新聞という法律問題の宝庫から適当な記事をピックアップし、「なぜこうなるのだらう」という素朴な疑問をもち、そのような疑問に対する答えを自分なりに探り当てるのが、受講生の課題である。

授業の進め方は、新聞記事を素材とした報告と、それに対する質疑応答（討論）が中心となる。取り上げる題材は、国際法または国内法に関連する記事であればどのようなものであっても構わない。

〔教材〕

教科書：佐藤望『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』第2版、慶應義塾大学出版会、2012年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

一コマ90分の授業に対して、最低限以下の予習・復習が必要となる。

1. 予習120分：指示された新聞記事を熟読し、プレレジュメ記載の複数の参考文献に当たりながら、疑問点を質問できるように準備しておくこと（報告者は、別途指示された要領により報告原稿、レジュメを準備すること）。

2. 復習120分：報告者は、討論時に提起された疑問点やコメントを踏まえて、報告原稿を加筆修正したレポートを作成すること。

〔成績評価の方法〕

(1) 毎回の出席、討論への参加（以上を平常点として50%程度）。

(2) 割り当てられた報告の実施およびレポートの提出（50%程度）。

〔備考〕

本演習への参加の前提として、受講生には、『アカデミック・スキルズ』を読了し且つその内容を十分理解していることが求められる。本書は、報告テーマの決め方、資料の探し方・分析の仕方・まとめ方、文章の書き方、プレゼンテーションの仕方について説明した、いわば本演習を实践するうえでの手引書である。

また、法律に関する基本的な知識や発想を習得するために、受講生には、「法学I・II」および「国際法I・II」を並行して履修することを強く推奨する。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 演習の受け方・心得等
- 第3週 『アカデミック・スキルズ』について
- 第4週 受講生による個別報告（1）
- 第5週 受講生による個別報告（2）
- 第6週 受講生による個別報告（3）
- 第7週 受講生による個別報告（4）
- 第8週 受講生による個別報告（5）
- 第9週 受講生による個別報告（6）
- 第10週 受講生による個別報告（7）
- 第11週 受講生による個別報告（8）
- 第12週 受講生による個別報告（9）
- 第13週 受講生による個別報告（10）
- 第14週 受講生による個別報告（11）
- 第15週 受講生による個別報告（12）

平素から新聞を読む習慣を身につけ、関心のある事件・事象に注目し、どのようなテーマについて報告をしたいのかを熟考してもらいたい。

副 題	アジア太平洋地域研究の方法			担 当 者	乾 尚彦 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	水	時 限	4

〔授業の到達目標〕

東南アジア，東アジア，オセアニアの地域研究の方法の基礎を習得する。

〔授業の内容〕

東南アジア，東アジア，オセアニアには多様な文化が見られるが，こうした地域の文化を研究する上で必要な基礎的な技術の習得を目標とする。具体的には，フィールドワークやアンケート調査の方法，当該地域に関わる書誌，データベース（HRAFなどを含む），関連図書館，研究機関，分野別の研究者を把握し，当該地域の基層文化に関わる諸学説を概観し，将来，当該地域で各種のテーマのもとに研究を進めていく上での基礎を確立する。また，毎回の報告を通して，資料を扱う上で問題となる引用の方法，著作権の扱い，発表・報告・プレゼンテーションの技術についても学んでいく。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

報告のためのレジュメ作成。他の報告者の内容に関する事前学習。

〔成績評価の方法〕

レポート，出席，発表の内容による。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス，アジアと自分との関わり
第2週	地域研究の資料操作法1 (1) KJ法とアウトラインプロセッサー (2) カードとフィールドノート
第3週	地域研究の資料操作法2 著作権と引用
第4週	資料探索1 検索とデータベース
第5週	資料探索2 アジア・太平洋の研究機関，学会，専門図書館，書店
第6週	アジアの基層論1 アジア文化の起源論
第7週	アジアの基層論2 モンゴロイドの拡散と適応
第8週	アジアの基層論3 空間区分と風土，社会，世界観
第9週	アジアの基層論4 アジア・太平洋探検史
第10週	アジア文化の諸相1
第11週	アジア文化の諸相2
第12週	アジア文化の諸相3
第13週	アジア文化の諸相4
第14週	アジア文化の諸相5
第15週	アジア文化の諸相6

副題	イギリス文化展覧			担当者	古庄 信 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

授業におけるテキスト講読、発表その他のアクティビティをとおして、英語力を養うと同時に英国に関する様々な文化を理解し、自国の文化との比較考察を目標とする。

〔授業の内容〕

私たちが外国語として学ぶ英語は、もともとは日本の面積の約3分の2という小さな島国イギリスの言葉でしかなかったが、およそ1500年の歴史を経て、今や国際語、世界の共通語となっている。ではその英国はどのような歴史を経て今日に至ったのか、そこに生きる英国人はどのような考え方をするのか、また英国人が生み出した英国文化とはどのようなものか、様々なトピックからこの問題を考察しながら、同時に同じ島国である日本とその文化、考え方との違いを観察する。またテキストをとおして、英国の歴史・地理および様々な文化に触れる。さらに発表（プレゼンテーション）をとおして「人前で話す」訓練なども行う。

〔教材〕

教科書：Yutaka Waku & Bill Benfield, *Cultural Walks in Britain*, 成美堂, 2006

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回のテキスト講読箇所は必ず予習で読んでおくこと。特に発表担当者は念入りに調べて発表に臨むこと。また発表者以外の履修者も質問に答えられるよう本文を熟読しわからない単語・発音など前もって調べておくこと。予習・復習に各1時間半は最低必要。

〔成績評価の方法〕

期末試験だけでなく通常の授業時における様々なactivities（発表やレポート）の取り組み方も評価の対象とする。

期末試験（50%）、見学授業レポート（10%）、テキスト個別発表（20%）、グループ発表（20%）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 学外見学授業（早稲田大学演劇博物館）
- 第3週 4つの国：イギリス
- 第4週 ピーターラビットの故郷：Lake District
- 第5週 シェイクスピアの故郷：Stratford-upon-Avon
- 第6週 首都の歴史：London 1
- 第7週 サクソン人の故郷：Wessex
- 第8週 大学の町：Cambridge & Oxford
- 第9週 英国人が最も愛する田舎：Cotswolds
- 第10週 シャーロック・ホームズ：London 2
- 第11週 ビートルズを生んだ町：Liverpool
- 第12週 陶器の故郷：the Midlands
- 第13週 ロビン・フッド伝説：Sherwood, Nottingham
- 第14週 ウィスキーの故郷：Scotland
- 第15週 まとめ

上述の授業計画にある第3週～14週は、テキストに基づいて個人またはグループによる発表（プレゼンテーション）を行う。

副 題	言語・社会・国家			担 当 者	工藤 晶人 准教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	金	時 限	4

〔授業の到達目標〕

フランス語圏を主な事例として、ヨーロッパ、アジア、アフリカのさまざまな地域における言語、社会、国家の関わりを学ぶ。

〔授業の内容〕

私たちの社会はことばによって支えられている。世界の歴史を考えたり、移民などの現代的現象を理解するためにも、言語と社会のかかわりを知ることは重要である。本科目では、そうした諸問題を歴史的にとらえるための基本的考え方を前半で学び、後半ではフランス語圏をはじめとする事例にもとづいた文献講読、報告とディスカッションを行う。

〔教材〕

購読文献は授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読または発表準備

〔成績評価の方法〕

出席状況、報告内容、授業参加の積極性、レポートを総合的に評価する。

〔備考〕

3年次以降に本演習担当教員のゼミナールを希望する学生は本科目を受講することが望ましい。

〔授 業 計 画〕

第1週	イントロダクション・報告の仕方・フランス語圏について
第2週	概説—ヨーロッパの言語と社会
第3週	概説—中東・北アフリカの言語と社会
第4週	概説—サハラ以南アフリカの言語と社会
第5週	文献購読・発表・ディスカッション
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題	国際協力			担当者	伊藤 由紀子 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

国際協力の現場における「外部者」の役割を考察する

〔授業の内容〕

阪神・淡路大震災で、日本各地から数多くの一般人のボランティアが個人として救援活動に従事し、「ボランティア」という言葉が一躍注目された。それと同時に、非営利組織（NPO）や非政府組織（NGO）の活動、役割も評価されはじめ、98年には非営利活動を活発にする1つの方策としてNPO法が施行された。このようにボランティアやNPO・NGOへの人々の関心は日本の国際協力という分野の発展においても貢献し、より多くの日本人が専門家、ボランティアとして世界各地で活躍し、また、徐々にではあるが、これらの活動に対する寄付文化も発展しつつある。しかしながら、戦後半世紀以上にわたって取り組まれ続けてきている世界の貧困をはじめとした問題は解決するばかりか、貧富の格差、環境問題といったように問題は深刻化し、山積み状態である。いわゆる学歴が高い専門家が従事している活動が必ずしも問題解決につながらないその原因を、国際協力の現場における「外部者」の役割を議論しながら考える。

〔教材〕

教科書：伊勢崎賢治『国際貢献のウソ』ちくまプリマー新書、2010年
プリント教材は初回授業で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回ごとに次回授業のための課題が出ます。課題には3～4時間費やすことを予定してください。

〔成績評価の方法〕

授業の出欠席 10%，課題1および2 30%，Code of Conduct 20%，「国際貢献のウソ」15%，発表またはレポート 15%，授業への参加（発言等）10%。

〔備考〕

第1回授業は欠席しないようにしてください。万が一欠席した場合、必ず「次週の授業日前」に配布資料を取りにきて、授業内容については他の受講生に確認してください。

〔授業計画〕

- 第1週 INTRODUCTION
 - 第2週 ディスカッション課題1
 - 第3週 ディスカッション課題2
 - 第4週 Code of Conduct I
 - 第5週 Code of Conduct II
 - 第6週 Code of Conduct III
 - 第7週 「国際貢献のウソ」
 - 第8週 〃
 - 第9週 〃
 - 第10週 〃
 - 第11週 〃
 - 第12週 〃
 - 第13週 〃
 - 第14週 レポートフォローアップ
 - 第15週 まとめ
- 初回授業で発表等の順番を決めます。

副 題	コミュニケーションを考える			担 当 者	逢坂 巖 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	火	時 限	3

〔授業の到達目標〕
 コミュニケーション論の基礎をつかむ。読書の仕方や議論，発表のやり方なども理解体得する。

〔授業の内容〕
 コミュニケーションとは，日常でもよく使われている言葉だが，いろいろ考えるとよくわからない。本演習では，そのコミュニケーションについて，特に基礎的な成り立ちや様々な様相に関して，教科書を全員で読みながら，議論をし，考えていく。参加者には事前に教科書の該当部分を読み，ゼミの中では内容について議論をおこなうことが求められる。

〔教材〕
 教科書：辻大介・是永論・関谷直也『コミュニケーション論をつかむ』（テキストブックス [つかむ]）初版，有斐閣，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
 教科書の各項目を事前に読んでくること。

〔成績評価の方法〕
 出席（20%）。授業での発表と議論への参加などの授業への貢献（60%），期末の発表（20%）。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 コミュニケーションとは何か
- 第3週 ことばとコミュニケーション
- 第4週 ことば以前のコミュニケーション
- 第5週 身体とコミュニケーション
- 第6週 談話・文章を理解するメカニズム
- 第7週 会話のダイナミクス
- 第8週 文字のコミュニケーション
- 第9週 映像のコミュニケーション
- 第10週 自己とコミュニケーション
- 第11週 社会関係とコミュニケーション
- 第12週 親密性とコミュニケーション
- 第13週 都市空間とコミュニケーション
- 第14週 発表
- 第15週 まとめ

副題	外国為替の基礎			担当者	佐久間 潮 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

外国為替に関する基礎知識を習得し、外国為替の変動等が経済に及ぼす影響について、自ら考えられるようになること。

〔授業の内容〕

テレビの夜のニュースでは、その日の外国為替市場における外国為替相場と東京証券取引所の株価が報じられている。なぜ、外国為替相場が貴重なニュースの時間に流されるかといえば、それが国民生活に大きな影響を与えるからである。たとえば、為替相場が変動すれば、海外旅行のためのドルを購入するのに必要な円の額が変化する。たとえば、2011年には1ドルは70円台で購入できるときもあったが、2014年末には1ドルを購入するのに約120円弱必要であった。また、為替相場が大きく変動すれば、日本国内で売られる輸入野菜、輸入ブランド商品、などの価格は変化する。もちろん円に換算した石油価格も変わり、それはガソリン代や電気代の変化をもたらす。この基礎演習では、国民生活に影響を与える外国為替相場に関する色々な問題を読書、調査、発表、ディスカッション、レクチャー、を通じて考える。

〔教材〕

教科書：『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版、2006年

参考書：国際通貨研究所『外国為替の知識』第2版、日本経済新聞社、2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各2時間

〔成績評価の方法〕

出席（30%）とテスト（70%）で総合評価

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 演習を始めるにあたって
- 第2週 国際取引と国際収支（その1）
- 第3週 国際取引と国際収支（その2）
- 第4週 外国為替相場とは
- 第5週 外国為替相場はどのように決まるか
- 第6週 直物為替と先物為替（その1）
- 第7週 直物為替と先物為替（その2）
- 第8週 外国為替市場とその参加者
- 第9週 外国為替取引の実際（その1）
- 第10週 外国為替取引の実際（その2）
- 第11週 外国為替相場の予想
- 第12週 世界の主要外国為替市場（その1）
- 第13週 世界の主要外国為替市場（その2）
- 第14週 国際通貨制度（ブレトンウッズ体制）
- 第15週 国際通貨制度（変動相場制の時代）

副題	体験学習と人間関係コミュニケーション			担当者	品川 明 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

1. 人間関係を構築するために必要なコミュニケーション能力、ファシリテーション能力、プレゼンテーション能力の基礎を習得する。
2. 他者とコミュニケーションをするときに重要な事項や問題点について認識できる。
3. 授業中に行われるファシリテーションについて、批判的な視点でフィードバックすることができる。
4. 授業中に体験し、発見したコミュニケーションの重要点とその活用について、文章で適切に表現することができる。

〔授業の内容〕

1. 体験学習と問いかけ
いろいろな体験学習法に基づいたアクティビティやコミュニケーションの活動を体験し、体験学習法の基礎を学ぶ。
2. 体験学習と人間関係コミュニケーション
学びかた・教えかたハンドブックなどを用いて、セルフ・エスティームを育てるための活動、コミュニケーション能力を高める活動、協力できる力を育てる活動などを体験する。
3. 体験学習と振り返り
上記1と2の体験から、どのようなことが認識されたのか？どのような活動が有効か？実践したい活動はどれかなどを議論した後、グループごとに人間関係コミュニケーションプログラムを実践し、ファシリテーターとして指導体験する。その後、振り返りなどから改善プログラムを提案する。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布し、参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

図書館での文献検索方法を習得し、コミュニケーションに関する雑誌記事や図書を収集し、コミュニケーションの重要性をいろいろな角度で認識する必要がある。ファシリテーションの前後には、文献による予習と復習が必須である。そのために4時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

1. 出席状況および授業への貢献度（積極的な授業参加）25%
2. 授業におけるファシリテーションとプレゼンテーション20%
3. 授業中のアクティビティやコミュニケーション活動から得た概念を文章表現する振り返りレポートと授業中のファシリテーションに対して、批判的な視点からの評価レポート25%
4. 担当課題に対する総合レポート（参考文献を必ず入れること）30%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス コミュニケーションとは！ 体験学習とは！
- 第2週 活動体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーション アイスブレイキング他
- 第3週 活動体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーション リーダーとは
- 第4週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践1
- 第5週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践2
- 第6週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践3
- 第7週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践4
- 第8週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践5
- 第9週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践6
- 第10週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践7
- 第11週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践8
- 第12週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践9
- 第13週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践10
- 第14週 プログラムの振り返りおよび改善プログラムの作成とその実践
- 第15週 まとめ

できるだけ早期に文献を検索し、問題意識を持つこと。授業計画で実施される内容は個々のコミュニケーション能力を鍛えるための実習形式のものです。

副題	ウェブ上の情報システム			担当者	江藤 正己 専任講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

現代社会における情報システムの意義や位置づけを考えられるようになる
調べたことを他人に分かり易く伝えるためのプレゼンテーション能力を身につける
資料を効率よく検索し、適切に利用できるようになる

〔授業の内容〕

私たちの身の回りには、TwitterやLINE, FacebookなどのSNSをはじめ、Wikipedia, Google, YouTube, Instagramなど多くの情報システムが存在します。スマートフォンの普及に伴い、ユーザー数が一国の人口よりも多い情報システムも珍しくなくなり、情報システムの動向が世界中に大きく影響を与えるようになってきました。現代社会を生きていく上で、情報システムを理解し活用する能力は不可欠といえます。

しかしながら、多くの人は情報システムのごく一部をただ「なんとなく」使っているにすぎません。この授業では、普段利用している情報システムの仕組みをユーザーとして知っておくべき範囲で理解するとともに、さらに一歩進んだ情報システムの活用方法について学びます。

授業では、主に次の三つの作業が求められます。(1) 情報システムの特徴や活用方法等について、小課題に沿って担当教員と相談しながら調べる。(2) 調べた内容について、パワーポイント等を用いて、他の履修者に向けて発表する。発表者以外の履修者は、発表内容に対してコメントを書き評価する。(3) 期末レポートを作成する。

〔教材〕

参考書：NHKスペシャル取材班『グーグル革命の衝撃』（新潮文庫）新潮社，2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

小課題に沿って、発表の準備（発表後は期末レポートの作成）を進めること。

〔成績評価の方法〕

平常点(30%)、小課題(30%)、発表(20%)、期末レポート(20%)

ただし、欠席回数が4回を超えた場合、あるいは発表・小課題・期末レポートのいずれか一つを完全に放棄した場合、成績評価の対象としません。

〔備考〕

この授業を履修するにあたり、求める前提知識は、「ホームページを見ることが出来る」ことのみです。コンピュータ技術に関する高度な予備知識は必要ありません。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--|
| 第1週 | ガイダンス、プレゼンテーションとは |
| 第2週 | 参考資料の調査方法（Web検索） |
| 第3週 | 参考資料の調査方法（文献検索） |
| 第4週 | 図書館及び、図書館資料の使い方 |
| 第5週 | 発表資料の作成方法（情報システムの分析：Facebook, mixi, Twitterの比較） |
| 第6週 | 発表(例 どのような人がどのようにWikipediaを書いているか?) |
| 第7週 | 発表(例 Yahoo知恵袋では、どのような人が質問・回答しているのか?) |
| 第8週 | 発表(例 Andorid携帯のAndroidとは何か?) |
| 第9週 | 発表(例 口コミサイトで得られる情報は、テレビや雑誌の情報とどのように違うか?) |
| 第10週 | 発表(例 毎日100以上のサイトを効率的にチェックするには?) |
| 第11週 | 発表(例 Amazonの優れているところはどこか?) |
| 第12週 | 発表(例 削除されたウェブサイトを見るにはどうしたら良いか?) |
| 第13週 | 発表(例 USBフラッシュメモリを使わずにデータを持ち運ぶには?) |
| 第14週 | 発表(例 ネットならではの広告にはどのようなものがあるか?) |
| 第15週 | 現代社会における情報システムの位置づけ：Googleが社会に与えた影響
発表テーマは教員が用意したものの中から、履修者が初回授業時に選択する。
上記の発表テーマは単なる例であり、履修者の人数等によって変更となる。 |

副題	世界遺産という問題			担当者	M. ウーゴ 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

世界遺産についての知識を深めつつ、調べる力を身につけること。

〔授業の内容〕

世界遺産は「文化遺産」、「自然遺産」、そして「複合遺産」に区分されるが、それぞれはどのような遺産だろうか。まず、日本にはどのような世界遺産があるのかを見てゆく。日本の世界遺産を中心に、それらがどのような基準で選択され、世界遺産リストに推薦されたのかを深く理解する。さらに、既に登録された日本の世界遺産だけではなく、推薦されたけれど登録されなかった遺産、また、これから推薦されようとしている遺産を検討し、日本国内の文化財としての価値だけではなく、その世界的な意義までを理解する。学生は小グループに分かれ、グループごとに世界遺産に関して調査し意見交換を重ねる。そうした成果を定期的にレジメや小論文としてまとめ、発表し、選んだテーマについて調べる力を高めてゆく。

〔教材〕

参考書：佐藤望（編）『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門』第二版，慶應義塾大学出版会，2013年
日本ユネスコ協会連盟（編）『世界遺産年報』講談社、エイジャ，1997年～

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献，検索した資料），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席と授業への参加の姿勢（積極性）[10%]，レポートやレジメ [50%] 発表 [40%] を総合的に評価。

〔備考〕

この授業を選択する学生は，文献やインターネットを通じた情報収集だけではなく，あらゆる自然遺産や文化財を訪れ，実際に鑑賞することを求める。

〔授業計画〕

第1週	ガイダンス	
第2週	日本の文化遺産と自然遺産	1
第3週	日本の文化遺産と自然遺産	2
第4週	日本の文化遺産と自然遺産	3
第5週	発表・討論	
第6週	〃	
第7週	〃	
第8週	日本の世界遺産暫定リスト	1
第9週	日本の世界遺産暫定リスト	2
第10週	日本の世界遺産暫定リスト	3
第11週	発表・討論	
第12週	〃	
第13週	〃	
第14週	日本の世界遺産と外国の世界遺産	
第15週	まとめ	

副題	Globalization and International Business (This course will be conducted in English)			担当者	金城 重紀 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

1. 国際ビジネスについて、自分で考え、意見を形成し、発表できるようになる。
2. グローバルなビジネス・政治経済の動向を内外のメディアを通して理解できるようになる。
3. 海外の大学で学べる水準の英語運用能力を取得する。

〔授業の内容〕

1. 米国の標準的な大学用の教科書を用います。
2. 学生がグループや個人で発表することを軸に演習を進めます。
3. 秋学期と合わせて通年で完結する予定です。

〔教材〕

教科書：Daniels, Radebaugh, Sullivan, *International Business - Environments and Operations*, 15th Edition, Pearson Education, 2015
 必用に応じて参考資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

・ほぼ毎週の頻度で、グループで発表していただきますので、その準備学習(理解した上で分かりやすく説明する)に相当の時間が必要です。

〔成績評価の方法〕

プレゼンテーション：40%
 Class contribution: 30%
 学期末試験：30%

〔備考〕

- ・予備知識は必要ありません。
- ・演習での活動に積極的に取組み、楽しいゼミにしていく意欲のある方を歓迎します。
- ・オフィスアワーは木曜日の2限です。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 (Chapter) 12. Country Evaluation and Selection
- 第2週 同上
- 第3週 14. Direct Investment and Collaborative Strategies
- 第4週 同上
- 第5週 15. The Organization of International Business
- 第6週 同上
- 第7週 16. Marketing Globally
- 第8週 同上
- 第9週 17. Global Manufacturing and Supply-chain Management
- 第10週 同上
- 第11週 20. Human Resource Management
- 第12週 同上
- 第13週 Selected Topics in International Business
- 第14週 Case Study
- 第15週 Wrap-up and review

- ・詳細は演習募集要項をご覧いただくと共に、初回の授業にいらしてください。
- ・より良い演習にするために、本計画を変更することがあります。

副題	中・東欧研究の可能性			担当者	中島 崇文 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5

〔授業の到達目標〕

中・東欧全般に関する理解を深め、この地域を対象とする研究はどのようなものが可能であるのかを理解すると共に、論文の執筆の方法を具体例を参照しながら習得する。

〔授業の内容〕

毎週、『アカデミック・スキルズ』を1章ずつ検討した後、中・東欧及びその周辺地域を対象とする様々なテーマによる論文を一本ずつ精読する。受講生は『アカデミック・スキルズ』の該当する章と取り上げる予定の論文を事前に読んだ上で授業に臨むことが前提となるが、授業では担当教員は内容、体裁、脚注の付け方、参考文献の記載方法等について具体例に即して説明し、また、受講生は全員が数分ずつコメントするものとする。

〔教材〕

教科書：佐藤望編著『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門—』慶應義塾大学出版会、2012年

授業で取り上げる論文（2～6万字程度）については担当教員が用意し、前の週に事前に配布する予定。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書の該当部分に目を通し、また、事前に配布された論文を熟読し、授業中に中身の濃いコメントを述べられるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕

受講態度（約20%）、授業中に行うコメントと授業終了時に提出するペーパーの内容の緻密さ（約50%）、指定された期限までに提出するレポートの出来具合（約30%）等によって総合的に評価する。受講者は毎週出席して当然との観点から、出席を点数化して加点するということとは行わない。逆に1回の欠席につきおおむね5点の減点とし、加えて、欠席日に提出すべき課題が遅れても未提出の場合にはさらに5点の減点となる。このように欠席した場合の減点が大きいため、受講生は毎週欠かさず出席するよう、最大限に努力してほしい。日常的に欠席しがちな人、じっくりと長い文章を読むことを好まない人は歓迎しないし、本基礎演習は勧めない。

〔備考〕

国際コミュニケーション学科の学生で中島ゼミへの申請を検討している者や中欧国際協力研修参加予定者は、この国際コミュニケーション基礎演習Dの他、地域研究基礎論I・II、東欧文化論をできるだけ履修し、かつ、優秀な成績を修めるよう努力すること（ゼミの選考に際しては、これらの授業を履修し、かつ、それらの成績の優秀な者が優先される）。オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。4号館2階の個人研究室のみならず、7号館1階の国際交流推進センター所長室にいることも少なくないで、こちらに立ち寄ってもよい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業内容の説明、自己紹介
- 第2週 論文の執筆の方法
- 第3週 中・東欧における日常のデザイン
- 第4週 中・東欧における観光業の発展
- 第5週 中・東欧における日本美術の受容（1）
- 第6週 中・東欧における日本美術の受容（2）
- 第7週 中・東欧の都市における環境政策
- 第8週 中・東欧における音楽家と音楽教育
- 第9週 中・東欧における言語と民族意識
- 第10週 中・東欧の言語と日本語の比較分析
- 第11週 中・東欧において社会主義時代に育った政治家
- 第12週 中・東欧における戦争被害者の研究
- 第13週 中・東欧の国々における歴史教育と歴史教科書
- 第14週 レポートの返却とコメント
- 第15週 総括

副題	文明の衝突か共生か			担当者	畠山 圭一 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

文献購読を通じて、国際関係・異文化交流に関する課題を理解するとともに、文献調査、理論分析、調査内容報告、討論に関する基本的手法を身につける。

〔授業の内容〕

冷戦終結以来、国際社会における紛争や摩擦は国家、民族間の文化的価値観の相違に起因するものが多発するようになってきている。今後の国際関係を理解し、国際紛争や国家・民族間の摩擦を解決するには、国際社会の主体である各々の国家が、相手の固有文化とその反映としての政治的特色に対する理解を深めることが必要である。本演習では、世界的大論争を巻き起こした『文明の衝突』（サミュエル・ハンチントン）の問題提起を手がかりに、異文化、異文明の交流について考察する。また西欧と非西欧（特に日本、中国）の文明、文化の比較を通じて両者の異質性や同質性を探り、今後の国際関係における課題を考えてみたい。

〔教材〕

教科書：サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』集英社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前にテキストの該当箇所を読み、自らの課題を用意して臨むこと。思考力、分析力の養成が主眼であるため、事前、事後の思索が極めて重要な意味を持つ。予習、復習には十分な時間（標準は各2時間程度）を確保することが望ましい。

〔成績評価の方法〕

出席状況、演習参加の積極性、報告内容、レポート等によって総合的に評価(出席状況の配点は2割、レポートの配点は4割、その他4割)し、60点以上を合格とする。欠席について、無断欠席2回、連続3回の欠席、総計4回の欠席のいずれかに該当する場合には即刻、受講停止とするので、注意されたい。

〔備考〕

読書三昧の半年間となる。政治や国際関係に関する高い関心と使命感を持つ有為の学生を求める。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|---------------|
| 第1週 | 導入講義 文明から見た世界 |
| 第2週 | テキスト輪読 |
| 第3週 | テキスト内容報告と討論 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | 総括講義 |

副題	「Tell me about Japan」と言われた時の英語			担当者	J. F. モア 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

The goals of this class are to become more comfortable speaking and writing about Japan in English, and to become more aware of the differences in the ways people communicate in Japanese and in English.

〔授業の内容〕

外国人に日本について説明する場合、表現に苦心する原因の1つは、風土、文化、習慣の違いが多くて、適切な言葉が見出せないことにある。この演習の目的は、日本的な物や習慣について英語で読んだり書いたりすることによって、自分のまわりの日本人的世界を英語で表現出来るようになることである。その際に必要になる「定義をするための英語」と「過程を描写し、やり方を説明する英語」のパターンは基本的なものである。しかも、英語の学術論文にもよく利用されているものでもあり、使いこなせるようになると後々まで便利である。

演習中で読むテキストは日本語と英語を比較し、その違いを学習者としてどう対応すべきかをテーマにしている。学生がするプレゼンテーションでは、テキストのサマリーを用意して、クラスメートの理解を確認して、意見を英語で聞き出そうとする。この二つの作業、英作文と英文の reading and discussionを平行した授業になる。授業は英語で行う。

〔教材〕

教科書：*Handouts will be given in class*

教科書は授業中に指示、配布する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation of reading and two paragraph comment for class discussion (3 hours/week).

Preparation for presentation (8 hours).

Preparation for examination (7 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and participation in class discussion 30% ; presentation 20% ; weekly written assignments 25% ; final examination 25%.

〔備考〕

〔授業計画〕

第1週	Getting acquainted and presentation scheduling
第2週	Presentations and discussion ものの定義をする練習
第3週	〃
第4週	Presentations and discussion 意見を述べる練習
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	Presentations and discussion 比較をする練習
第9週	〃
第10週	〃
第11週	Presentations and discussion 過程・やり方を説明する練習
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	Final discussion

試験期間に期末試験を行う。

副題	地球環境問題と国際コミュニケーション			担当者	莊林 幹太郎 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

「根拠」を特に必要としない『感想文』を書くことから、「根拠」を踏まえた大学生としての『レポート』を書くことに転換することを目標とする。これまでの経験則からは、毎回の課題に真摯に向き合った学生はそれに成功すると確信している。

〔授業の内容〕

本基礎演習では、地球温暖化をはじめとする地球環境に関わる問題を事例として、国際コミュニケーションに必要な基本的技術、とくに論理的に考え、書き、発表する技術を学ぶ。

具体的には、5週目までの毎回の演習において、講師から地球環境問題の事例について紹介し、受講生はそれをもとに2～3パラグラフの文章を書き、その詳細な添削を受けることによりパラグラフの基本的な書き方を身につける。そのうえで、6週目以降に、論点（テーマ）を設定したうえで、それを根拠によって論理的に支える文章を書く練習を行う。10週目以降にそれを数ページのレポートにまとめ発表する。

〔教材〕

教科書：ティモシー・W. クルーシアス、キャロリン・E. チャンネル『大学で学ぶ議論の技法』慶應義塾大学出版会、2004年

『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版、2006年

「大学で学ぶ議論の技法」はぜひとも長く手元に置いて欲しい。社会人になった後も必ず役に立つと思う。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2週間に1回を基本として3パラグラフ程度のレポートを課す（3時間程度の負荷のイメージ）。

〔成績評価の方法〕

ほぼ毎回出題される小メモ（2～3パラグラフ）の宿題（40%）、出席（20%）最終レポート（40%）

〔備考〕

授業内容について質問がある場合には、20070095@gakushuin.ac.jpまでメールで問い合わせること。

〔授 業 計 画〕

第1週	イントロダクション
第2週	地球環境問題を事例としたパラグラフライティングの練習
第3週	同上
第4週	〃
第5週	〃
第6週	レポートライティングについての基本的ルール：テーマの設定と根拠
第7週	事例演習
第8週	同上
第9週	〃
第10週	〃
第11週	レポート最終発表
第12週	同上
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

副題	マイノリティの歴史と現在			担当者	武井 彩佳 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

民族的・言語的・宗教的マジョリティの歴史的生成と、彼らが抱える現在の問題について学ぶ。

〔授業の内容〕

世界にはさまざまなマイノリティ（少数派）が暮らしています。民族的・言語的・宗教的にマジョリティ（多数派）と異なる彼らは、過去には社会から排除されたり、強制的に同化させられたりしました。この授業では、主にヨーロッパと北米のマイノリティを取り上げ、その歴史、現在の彼らを取り巻く社会状況、差別の構造などについて考えます。

授業では、配布したテキストを読み、特定のマイノリティについて自分で調べ、報告します。この後、報告したテーマでレポートにまとめます。さらに、参加者は新聞に目を通し、マイノリティに関連した記事を持参することが求められます。

〔教材〕

テキストを配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定されたテキスト部分を読んでくる。

〔成績評価の方法〕

出席（40点）、報告（20点）、レポート（20点）、新聞の切り抜き（20点）

〔備考〕

遅刻者は出席点が半分

〔授業計画〕

第1週 「マイノリティとは何か」：報告者の決定

第2週 テキスト解説

第3週 〃

第4週 〃

第5週 報告＋解説

第6週 〃

第7週 〃

第8週 〃

第9週 〃

第10週 関連する映画鑑賞

第11週 報告＋解説

第12週 〃

第13週 〃

第14週 〃

第15週 〃

計画通りいかないこともあります。

副題	歴史社会学および東アジア地域研究			担当者	金野 純 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

歴史社会学の研究方法の概略を理解し、地域研究の意義や方法についても基礎的な知識を得る。アウトラインの作成方法、レポートの作成方法、プレゼンテーションの作法についても学ぶ。

〔授業の内容〕

歴史と聞くとナポレオン、毛沢東、始皇帝…のような「有名人」を思い浮かべるかもしれませんが、私たちが普段何気なく生活している「社会」もまた歴史研究の対象となります。さまざまな社会現象には、かならず歴史的な背景があります。本演習では、歴史的な視点から社会について学ぶ歴史社会学の考え方を習得し、それを日本、中国、韓国などの東アジア地域研究のなかでどのように実践するのかについて学びます。

担当者（金野）がフィールドとしているのは中国をはじめとする東アジア地域ですが、歴史社会学に関心がある学生であればヨーロッパなど他の地域をテーマに報告しても構いません。

〔教材〕

授業時にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布されるコースブックを熟読し、内容をまとめておくこと。また授業では、内容に関して意見を求められることもあるので、自分なりの考えをまとめておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席を重視する。成績は、出席状況（30%）、報告内容（40%）、授業参加（10%）、レポート（20%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔備考〕

本演習は、3年次以降の専門研究をおこなうための基本的方法を学ぶ場として位置づけられる。したがって本演習担当教員のゼミナールを希望する学生は受講することが望ましい。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	歴史社会学と地域研究
第3週	歴史をどのように研究するのか？（1） ー研究の作法
第4週	歴史をどのように研究するのか？（2） ー日本、中国、韓国、カンボジアを事例として
第5週	報告とディスカッション
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題	東アジアにおける人の移動と文化交流			担当者	羅 京洙 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

東アジアの国際関係を、人と文化の移動と交流という観点から分析し、そこから見えてくる東アジアという地域の「実態」を把握することを試みる。

〔授業の内容〕

グローバル化が進む中、今日の東アジア地域では、近代の産物である国民国家の領土範囲に必ずしも収まらない個人や民族（エスニック・グループ）のような超国家的存在への関心が高まっています。「国民」という美名のもとに国家の枠内に閉じ込められて外部世界から孤立してきた様々な個人や民族は、東アジア国際関係の変容を自覚し、国境という物理的・心理的境界を越える移動と交流を繰り返している。本演習では、東アジアの人々が国家、国境、国民、民族といった既存の体制や概念を如何に揺るがし、新たな地域空間とそこでの共通の地域的アイデンティティを創る担い手としてどのような役割を果たしているのかを理解する。また本演習では、国境を越える人々の移動によって文化の移動、さらには文化の交流と創造が行われるという構造とその事例についても一緒に学ぶ。なお、本演習は、大学生にとって必須のアカデミックな思考法と方法論をふまえて、(1) 担当教員による講義、(2) 関連文献の輪読、(3) 学生によるプレゼンテーションを軸に進める。

〔教材〕

教科書：佐藤望編著『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年
その他の参考文献については演習時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定したテキストや参考資料をあらかじめ読んだ上で、毎回の授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

演習への出席率・貢献度（30%）、プレゼンテーション（30%）、課題・レポート（40%）で評価する。

〔備考〕

演習の内容について質問などがある場合には、金曜日のオフィス・アワー（14：00～17：00）に研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 アカデミックな思考と方法（1）
- 第3週 アカデミックな思考と方法（2）
- 第4週 講義：東アジアにおける人と文化の国際移動
- 第5週 講義：人の移動と多文化共生＜日本篇＞
- 第6週 講義：人の移動と多文化共生＜韓国篇＞
- 第7週 文献講読と討論（1）
- 第8週 文献講読と討論（2）
- 第9週 文献講読と討論（3）
- 第10週 プレゼンテーションと討論（1）
- 第11週 プレゼンテーションと討論（2）
- 第12週 プレゼンテーションと討論（3）
- 第13週 プレゼンテーションと討論（4）
- 第14週 プレゼンテーションと討論（5）
- 第15週 総合討論・総括

副題	ヴェネツィア共和国とコルテジアーナーヨーロッパ女性史			担当者	根占 献一 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

歴史を知ること、自分という存在を考えられうる視点を養うこと

〔授業の内容〕

学問や文学の世界で女性が活躍するようになったのは、ヨーロッパでも必ずしも昔からではない。ルネサンス時代に次第に男性と張り合う知的な女性が現れてきた。アドリア海の女王、ヴェネツィア共和国にはcortegiana onestaと呼ばれる「職業婦人」がいた。その一人がヴェロニカ・フランコである。

彼女に関わるテキスト―研究者の解説と彼女の手紙―を読みながら、ヨーロッパ文化や歴史への貢献を考えていきたい。テキスト（英文）は易しくないうえに、古典語のみならず、イタリア語を始めとするヨーロッパ近代の各国語が出てくる可能性があるが、多様なヨーロッパ各国語を考える機会にしてほしい。

〔教材〕

テキスト教材（英文）はこちらで準備する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

最低各1時間半以上。

〔成績評価の方法〕

発表（40%）、出席回数（40%）、レポート（20%）。

〔備考〕

映像資料多用。

〔授業計画〕

- | | |
|------|---------------------|
| 第1週 | 序―歴史の中の女性 |
| 第2週 | オリエントとヨーロッパ間のヴェネツィア |
| 第3週 | テキストに基づく各自の発表 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 映像資料 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | 結―まとめ |

副題	現代社会の法的分析（国際法と国内法）			担当者	櫻井 大三 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5

〔授業の到達目標〕

現実の社会で問題となっている事件・事象の中から法的な問題点を抽出し、その問題の所在（背景と論点）を明らかにするとともに、その解決の在り方を展望することができるようになること。

〔授業の内容〕

本演習では、諸君が日々の新聞報道で接した事件・事象を法的な視点から眺めるとどうなるのかを自問し、その疑問に対して自ら答えを探り当てるべくさまざまな調査・検討を行い、その結果をプレゼンテーション形式で報告して頂く。

したがって、当然のことながら、受講生は、日々新聞の社会面・国際面に目を通し、世の中の動きを把握することが求められる。新聞で報じられる事件・事象には、何らかの形で法律との接点を含んでいるものが少なくない。新聞という法律問題の宝庫から適当な記事をピックアップし、「なぜこうなるのだらう」という素朴な疑問をもち、そのような疑問に対する答えを自分なりに探り当てることが、受講生の課題である。

授業の進め方は、新聞記事を素材とした報告と、それに対する質疑応答（討論）が中心となる。取り上げる題材は、国際法または国内法に関連する記事であればどのようなものであっても構わない。

〔教材〕

教科書：佐藤望『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』第2版、慶應義塾大学出版会、2012年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

一コマ90分の授業に対して、最低限以下の予習・復習が必要となる。

1. 予習120分：指示された新聞記事を熟読し、プレジюме記載の複数の参考文献の当たりながら、疑問点を質問できるように準備しておくこと（報告者は、別途指示された要領により報告原稿、レジюмеを準備すること）。

2. 復習120分：報告者は、討論時に提起された疑問点やコメントを踏まえて、報告原稿を加筆修正したレポートを作成すること。

〔成績評価の方法〕

(1) 毎回の出席、討論への参加（以上を平常点として50%程度）。

(2) 割り当てられた報告の実施およびレポートの提出（50%程度）。

〔備考〕

本演習への参加の前提として、受講生には、『アカデミック・スキルズ』を読了し且つその内容を十分理解していることが求められる。本書は、報告テーマの決め方、資料の探し方・分析の仕方・まとめ方、文章の書き方、プレゼンテーションの仕方について説明した、いわば本演習を实践するうえでの手引書である。

また、法律に関する基本的な知識や発想を習得するために、受講生には、「法学I・II」および「国際法I・II」を並行して履修することを強く推奨する。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 演習の受け方・心得等
- 第3週 『アカデミック・スキルズ』について
- 第4週 受講生による個別報告（1）
- 第5週 受講生による個別報告（2）
- 第6週 受講生による個別報告（3）
- 第7週 受講生による個別報告（4）
- 第8週 受講生による個別報告（5）
- 第9週 受講生による個別報告（6）
- 第10週 受講生による個別報告（7）
- 第11週 受講生による個別報告（8）
- 第12週 受講生による個別報告（9）
- 第13週 受講生による個別報告（10）
- 第14週 受講生による個別報告（11）
- 第15週 受講生による個別報告（12）

平素から新聞を読む習慣を身につけ、関心のある事件・事象に注目し、どのようなテーマについて報告をしたいのかを熟考してもらいたい。

副題	世界の住まい			担当者	乾 尚彦 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

世界の住まい研究に必要な基礎的な技術を習得する。

〔授業の内容〕

世界各地には、様々な形式の住居とそれに関わる文化がある。そうした比較居住文化研究の基礎として、世界各地の伝統的な住文化がどのようなものかを調べる。毎回、発表者は、担当地域の文献を探し、それを読み、レジュメにまとめて報告するというのが基本である。それらを通して、文献や資料探索の方法を学び、研究史や研究機関、研究者、基礎文献を把握する。また、資料を扱う上で問題となる引用の方法、著作権の扱い、発表・プレゼンテーションの技術についても学んでいく。

〔教材〕

教科書：OLIVER, Paul (ed.) , *Encyclopedia of Vernacular Architecture of the World*, Cambridge University Press, 1997

英文の教科書は、国際コミュニケーション学科事務室に保管してあるので、各自、それを閲覧する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

報告者はレジュメの作成。その他は、内容に関する事前学習。

〔成績評価の方法〕

レポート、出席、発表の内容による。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	住文化の見方・調べ方
第2週	発表者が選択した地域の報告
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	まとめ1
第15週	まとめ2

副題	イギリス文化展望			担当者	古庄 信 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

授業におけるテキスト講読、発表その他のアクティビティをとおして、英語力を養うと同時に英国に関する様々な文化を理解し、自国の文化との比較考察を目標とする。

〔授業の内容〕

私たちが外国語として学ぶ英語は、もともとは日本の面積の約3分の2という小さな島国イギリスの言葉でしかなかったが、およそ1500年の歴史を経て、今や国際語、世界の共通語となっている。ではその英国はどのような歴史を経て今日に至ったのか、そこに生きる英国人はどのような考え方をするのか、また英国人が生み出した英国文化とはどのようなものか、様々なトピックからこの問題を考察しながら、同時に同じ島国である日本とその文化、考え方との違いを観察する。またテキストをとおして、英国の歴史・地理および様々な文化に触れる。さらに発表（プレゼンテーション）の実践をとおして「人前で話す」訓練なども行う。

〔教材〕

教科書：Yutaka Waku & Bill Benfield, *Cultural Walks in Britain*, 成美堂, 2006

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表者だけでなく出席者全員が毎回のテキスト講読箇所のわからない単語・発音などを念入りに調べておく。予習・復習に各1時間半は必要。

〔成績評価の方法〕

期末試験だけでなく通常の授業時における様々なactivities（発表やレポート）の取り組み方も評価の対象とする。

期末試験（50%）、見学授業レポート（10%）、テキスト個別発表（20%）、グループ発表（20%）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 学外見学授業（早稲田大学演劇博物館）
- 第3週 4つの国：イギリス
- 第4週 ピーターラビットの故郷：Lake District
- 第5週 シェイクスピアの故郷：Stratford-upon-Avon
- 第6週 首都の歴史：London 1
- 第7週 サクソン人の故郷：Wessex
- 第8週 大学の町：Cambridge & Oxford
- 第9週 英国人が最も愛する田舎：Cotswolds
- 第10週 シャーロック・ホームズ：London 2
- 第11週 ビートルズを生んだ町：Liverpool
- 第12週 陶器の故郷：the Midlands
- 第13週 ロビン・フッド伝説：Sherwood, Nottingham
- 第14週 ウィスキーの故郷：Scotland
- 第15週 まとめ

上述の授業計画にある第3週～14週は、テキストに基づいてグループによる発表（プレゼンテーション）を行う。

副題	言語・社会・国家			担当者	工藤 晶人 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4

〔授業の到達目標〕

フランス語圏を主な事例として、ヨーロッパ、アジア、アフリカのさまざまな地域における言語、社会、国家の関わりを学ぶ。

〔授業の内容〕

私たちの社会はことばによって支えられている。世界の歴史を考えたり、移民などの現代的現象を理解するためにも、言語と社会のかかわりを知ることは重要である。本科目では、そうした諸問題を歴史的にとらえるための基本的考え方を前半で学び、後半ではフランス語圏をはじめとする事例にもとづいた文献講読、報告とディスカッションを行う。

〔教材〕

購読文献は授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読または発表準備

〔成績評価の方法〕

出席状況、報告内容、授業参加の積極性、レポートを総合的に評価する。

〔備考〕

3年次以降に本演習担当教員のゼミナールを希望する学生は本科目を受講することが望ましい。

〔授 業 計 画〕

第1週	イントロダクション・報告の仕方・フランス語圏について
第2週	概説—ヨーロッパの言語と社会
第3週	概説—中東・北アフリカの言語と社会
第4週	概説—サハラ以南アフリカの言語と社会
第5週	文献購読・発表・ディスカッション
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題	国際協力			担当者	伊藤 由紀子 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

国際協力の現場における「外部者」の役割を考察する

〔授業の内容〕

阪神・淡路大震災で、日本各地から数多くの一般人のボランティアが個人として救援活動に従事し、「ボランティア」という言葉が一躍注目された。それと同時に、非営利組織（NPO）や非政府組織（NGO）の活動、役割も評価されはじめ、98年には非営利活動を活発にする1つの方策としてNPO法が施行された。このようにボランティアやNPO・NGOへの人々の関心は日本の国際協力という分野の発展においても貢献し、より多くの日本人が専門家、ボランティアとして世界各地で活躍し、また、徐々にではあるが、これらの活動に対する寄付文化も発展しつつある。しかしながら、戦後半世紀以上にわたって取り組まれ続けてきている世界の貧困をはじめとした問題は解決するばかりか、貧富の格差、環境問題といったように問題は深刻化し、山積み状態である。いわゆる学歴が高い専門家が従事している活動が必ずしも問題解決につながらないその原因を、国際協力の現場における「外部者」の役割を議論しながら考える。

〔教材〕

教科書：伊勢崎賢治『国際貢献のウソ』ちくまプリマー新書、2010年
プリント教材は初回授業で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回ごとに次回授業のための課題が出ます。課題には3～4時間費やすことを予定してください。

〔成績評価の方法〕

授業の出欠席 10%，課題1および2 30%，Code of Conduct 20%，「国際貢献のウソ」15%，発表またはレポート 15%，授業への参加（発言等）10%。

〔備考〕

第1回授業は欠席しないようにしてください。万が一欠席した場合、必ず「次週の授業日前」に配布資料を取りにきて、授業内容については他の受講生に確認してください。

〔授業計画〕

第1週	INTRODUCTION
第2週	ディスカッション課題1
第3週	ディスカッション課題2
第4週	Code of Conduct I
第5週	Code of Conduct II
第6週	Code of Conduct III
第7週	「国際貢献のウソ」
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	レポートフォローアップ
第15週	まとめ

初回授業で発表等の順番を決めます。

副題	コミュニケーションを考える			担当者	逢坂 巖 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

コミュニケーション論の基礎をつかむ。読書の仕方や議論、発表のやり方なども理解体得する。

〔授業の内容〕

コミュニケーションとは、日常でもよく使われている言葉だが、いろいろ考えるとよくわからない。本演習では、そのコミュニケーションについて、特にその影響力や社会での様々なあり方に関して、教科書を全員で読みながら、議論をし、考えていく。参加者には事前に教科書の該当部分を読み、ゼミの中では内容について議論をおこなうことが求められる。

〔教材〕

教科書：辻大介・是永論・関谷直也『コミュニケーション論をつかむ』（テキストブックス [つかむ]）初版，有斐閣，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書の各項目を事前に読んでくること。

〔成績評価の方法〕

出席（20%）。授業での発表と議論への参加などの授業への貢献（60%），期末の発表（20%）。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 説得
- 第3週 うわさ
- 第4週 流行と普及
- 第5週 世論
- 第6週 メディアの影響力—理論・学説を中心に
- 第7週 メディアの悪影響—検証の方法論を中心に
- 第8週 マーケティング・コミュニケーション
- 第9週 コーポレート・コミュニケーション
- 第10週 スポーツ文化とコミュニケーション
- 第11週 バーチャル空間のコミュニケーション
- 第12週 情報社会とコミュニケーション・ネットワーク
- 第13週 災害とコミュニケーション
- 第14週 発表
- 第15週 まとめ

副 題	経済記事の読み方			担 当 者	佐久間 潮 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	水	時 限	3

〔授業の到達目標〕

新聞や雑誌に掲載される経済記事の内容が大筋で分かるようになること。

〔授業の内容〕

その時々で話題になっている経済記事を読み、経済に関する基礎知識と経済的思考方を身につけるべく、学生は事前に配布された記事を読み、自分で調べ、理解したうえで、その内容について授業で発表する。この発表を基にコメント、ディスカッション、を行い、より正確な知識の習得と経済論理的思考力を養う。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各2時間

〔成績評価の方法〕

出席（30%）とテスト（70%）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 基礎演習の進め方に関するオリエンテーションと第2週以降に使用する資料の配布。
- 第2週 事前に配布された経済記事について学生が調査報告を行う。この発表を基にコメント、ディスカッション、を行う。
- 第3週 同上
- 第4週 〃
- 第5週 〃
- 第6週 〃
- 第7週 〃
- 第8週 〃
- 第9週 〃
- 第10週 〃
- 第11週 〃
- 第12週 〃
- 第13週 〃
- 第14週 〃
- 第15週 〃

副題	体験学習と人間関係コミュニケーション			担当者	品川 明 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

1. 人間関係を構築するために必要なコミュニケーション能力、ファシリテーション能力、プレゼンテーション能力の基礎を習得する。
2. 他者とコミュニケーションをするときに重要な事項や問題点について認識できる。
3. 授業中に行われるファシリテーションについて、批判的な視点でフィードバックすることができる。
4. 授業中に体験し、発見したコミュニケーションの重要点とその活用について、文章で適切に表現することができる。

〔授業の内容〕

1. 体験学習と問いかけ
いろいろな体験学習法に基づいたアクティビティやコミュニケーションの活動を体験し、体験学習法の基礎を学ぶ。
2. 体験学習と人間関係コミュニケーション
学びかた・教えかたハンドブックなどを用いて、セルフ・エスティームを育てるための活動、コミュニケーション能力を高める活動、協力できる力を育てる活動などを体験する。
3. 体験学習と振り返り
上記1と2の体験から、どのようなことが認識されたのか？どのような活動が有効か？実践したい活動はどれかなどを議論した後、グループごとに人間関係コミュニケーションプログラムを実践し、ファシリテーターとして指導体験する。その後、振り返りなどから改善プログラムを提案する。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布し、参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

図書館での文献検索方法を習得し、コミュニケーションに関する雑誌記事や図書を収集し、コミュニケーションの重要性をいろいろな角度で認識する必要がある。ファシリテーションの前後には、文献による予習と復習が必須である。そのために4時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

1. 出席状況および授業への貢献度（積極的な授業参加）25%
2. 授業におけるファシリテーションとプレゼンテーション20%
3. 授業中のアクティビティやコミュニケーション活動から得た概念を文章表現する振り返りレポートと授業中のファシリテーションに対して、批判的な視点からの評価レポート25%
4. 担当課題に対する総合レポート（参考文献を必ず入れること）30%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス コミュニケーションとは！ 体験学習とは！
- 第2週 活動体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーション アイスブレイキング他
- 第3週 活動体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーション リーダーとは
- 第4週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践1
- 第5週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践2
- 第6週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践3
- 第7週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践4
- 第8週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践5
- 第9週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践6
- 第10週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践7
- 第11週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践8
- 第12週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践9
- 第13週 指導体験 人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践10
- 第14週 プログラムの振り返りおよび改善プログラムの作成とその実践
- 第15週 まとめ

できるだけ早期に文献を検索し、問題意識を持つこと。授業計画で実施される内容は個々のコミュニケーション能力を鍛えるための実習形式のものです。

副 題	ウェブ上の情報システム			担 当 者	江藤 正己 専任講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月	時 限	4

〔授業の到達目標〕

現代社会における情報システムの意義や位置づけを考えられるようになる
調べたことを他人に分かり易く伝えるためのプレゼンテーション能力を身につける
資料を効率よく検索し、適切に利用できるようになる

〔授業の内容〕

私たちの身の回りには、TwitterやLINE, FacebookなどのSNSをはじめ、Wikipedia, Google, YouTube, Instagramなど多くの情報システムが存在します。スマートフォンの普及に伴い、ユーザー数が一国の人口よりも多い情報システムも珍しくなくなり、情報システムの動向が世界中に大きく影響を与えるようになってきました。現代社会を生きていく上で、情報システムを理解し活用する能力は不可欠といえます。

しかしながら、多くの人は情報システムのごく一部をただ「なんとなく」使っているにすぎません。この授業では、普段利用している情報システムの仕組みをユーザーとして知っておくべき範囲で理解するとともに、さらに一歩進んだ情報システムの活用方法について学びます。

授業では、主に次の三つの作業が求められます。(1) 情報システムの特徴や活用方法等について、小課題に沿って担当教員と相談しながら調べる。(2) 調べた内容について、パワーポイント等を用いて、他の履修者に向けて発表する。発表者以外の履修者は、発表内容に対してコメントを書き評価する。(3) 期末レポートを作成する。

〔教材〕

参考書：NHKスペシャル取材班『ゲール革命の衝撃』（新潮文庫）新潮社、2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

小課題に沿って、発表の準備（発表後は期末レポートの作成）を進めること。

〔成績評価の方法〕

平常点(30%)、小課題(30%)、発表(20%)、期末レポート(20%)

ただし、欠席回数が4回を超えた場合、あるいは発表・小課題・期末レポートのいずれか一つを完全に放棄した場合、成績評価の対象としません。

〔備考〕

この授業を履修するにあたり、求める前提知識は、「ホームページを見ることができる」ことのみです。コンピュータ技術に関する高度な予備知識は必要ありません。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--|
| 第1週 | ガイダンス、プレゼンテーションとは |
| 第2週 | 参考資料の調査方法（Web検索） |
| 第3週 | 参考資料の調査方法（文献検索） |
| 第4週 | 図書館及び、図書館資料の使い方 |
| 第5週 | 発表資料の作成方法（情報システムの分析：Facebook, mixi, Twitterの比較） |
| 第6週 | 発表(例) どのような人がどのようにWikipediaを書いているか？) |
| 第7週 | 発表(例) Yahoo知恵袋では、どのような人が質問・回答しているのか？) |
| 第8週 | 発表(例) Andorid携帯のAndroidとは何か？) |
| 第9週 | 発表(例) 口コミサイトで得られる情報は、テレビや雑誌の情報とどのように違うか？) |
| 第10週 | 発表(例) 毎日100以上のサイトを効率的にチェックするには？) |
| 第11週 | 発表(例) Amazonの優れているところはどこか？) |
| 第12週 | 発表(例) 削除されたウェブサイトを見るにはどうしたら良いか？) |
| 第13週 | 発表(例) USBフラッシュメモリを使わずにデータを持ち運ぶには？) |
| 第14週 | 発表(例) ネットならではの広告にはどのようなものがあるか？) |
| 第15週 | 現代社会における情報システムの位置づけ：Googleが社会に与えた影響
発表テーマは教員が用意したものの中から、履修者が初回授業時に選択する。
上記の発表テーマは単なる例であり、履修者の人数等によって変更となる。 |

副題	経営学の基礎を学び、キャリア形成について考える			担当者	金城 重紀 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

1. 経営学の全体像とポイントを理解し、基礎的な知識を体系的に取得すること。
2. 自分のキャリア形成について、一定の見解を有するようになること。
3. 自信をもって人前で意見を主張し、建設的な議論ができるようになること。

〔授業の内容〕

春学期と併せて通年で完結する授業です。(経営学IIを受講していることが望ましい)。
内容の詳細については、経営学IIを参照してください。

授業に積極的に取り組み、チームとしてお互いを高め、楽しく勉強する意欲のある方を歓迎します。

〔教材〕

教科書：上村、奥林、森田、竹林、他2名『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣、2007年
参考書：伊丹、加賀野『ゼミナール経営学入門』第3版、日本経済新聞出版社、2003年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習が大事です。各テーマ毎に教科書を熟読しノートにまとめると共に、キーワードを使いこなせるようにしてください。

〔成績評価の方法〕

学期末試験（70%）、宿題・クラスでの発表（30%）

〔備考〕

クラスでの発表：授業開始時に、あらかじめ指名した方々に日本経済新聞の記事を解説していただきます。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1週 | 社員はなぜ組織に留まろうとするのか（人的資源管理論：第10章） |
| 第2週 | 同上 |
| 第3週 | 社員はどのような報酬を求めるのか(報酬制度論：第11章) |
| 第4週 | 同上 |
| 第5週 | 社員はどのようにして育てられるのか（人材育成論：第12章） |
| 第6週 | 同上 |
| 第7週 | 会社は海外でどのようにして経営しているのか（国際経営論：第14章） |
| 第8週 | 同上 |
| 第9週 | 会社の利益はどのようにして測定するのか（会計制度論：第2章） |
| 第10週 | 同上 |
| 第11週 | 21世紀のキャリア形成（別途配布） |
| 第12週 | 同上 |
| 第13週 | 女性のキャリアについて考える（別途配布） |
| 第14週 | 同上 |
| 第15週 | 理解度の確認 |

授業をより良くするために、本計画を変更することがあります。

※マーケティングI

3622005500100

副 題	消費財マーケティングの基礎理論			担 当 者	田島 博和 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	木	時 限	3
<p>〔授業の到達目標〕 消費財を扱うメーカーや小売業者のマーケティングに関する基礎的な概念や理論を理解すること。</p> <p>〔授業の内容〕 消費財を扱うメーカーや小売業者のマーケティングに関する基礎的な概念や理論について、具体的な例を挙げながら、そしてお互いの関連を明確にしながら講義します。</p> <p>〔教材〕 一回目の授業で指示します。</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 復習：前回のノートを見返す。予習：教科書の該当箇所を読む。必要な時間：各90分以上。</p> <p>〔成績評価の方法〕 期末試験の点数と授業中の発言点の合計によって評価します。なお発言点については、一回目の授業で説明します。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

- 第1週 企業とマーケティング
- 第2週 マーケティング戦略の体系
- 第3週 マーケティング環境
- 第4週 市場細分化
- 第5週 標的市場の選択
- 第6週 製品戦略
- 第7週 価格戦略
- 第8週 販売促進戦略
- 第9週 流通戦略
- 第10週 マーケティング戦略のダイナミクス：新製品のマーケティング戦略と製品ライフサイクル
- 第11週 顧客関係性管理
- 第12週 データを活用したマーケティング（1）
- 第13週 データを活用したマーケティング（2）
- 第14週 まとめ（1）
- 第15週 まとめ（2）

副題	中・東欧研究概論 (1)			担当者	中島 崇文 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

地域研究の基本的な考え方を、中・東欧を事例として修得し、世界のその他の地域にも応用できるようになることを念頭に置いている。また、本学の協定校の比較的多い中・東欧に受講生が関心を持つようになることを期待している。

〔授業の内容〕

地域研究の基本的な考え方を概観した後、その具体例として中・東欧に関し、できるだけ多様な観点からおおむね時系列で講義する。春学期は主に20世紀初頭までの時代を扱う。

〔教材〕

教科書：柴宜弘編著『バルカンを知るための65章』（エリア・スタディーズ48）明石書店、2013年
小森宏美編著『エストニアを知るための59章』（エリア・スタディーズ111）明石書店、2014年

毎週、授業時にレジュメを配布し、これに基づいて講義する。世界史の知識が乏しい者は高校の世界史の教科書に目を通しておくことが望ましい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で用いるレジュメは原則として前の授業で配布するので、事前によく目を通しておくこと。また、教科書の該当箇所は毎週のレジュメの末尾に明記しているので、こちらも事前に読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

論述式の期末試験の点数（約50%）と毎週の授業終了時に提出していただく感想文の点数（約50%）を合計して100点満点として算出する。受講者は毎週出席して当然との観点から、出席を点数化して加点するということは行わず、逆に1回の欠席につき7点の減点とする。遅刻した際には、その理由を証明する書類が提示されない限り、出席とはみなされない。受講態度に問題がある（私語、早退、居眠りなど）と判断される場合も大幅に減点される。受講生は遅刻せずに毎週出席するよう、最大限に努力すること。

〔備考〕

基礎科目群に属する授業科目であるので、できる限り1年次、さもなければ2年次に履修するのが望ましい。また、引き続き秋学期に地域研究基礎論IIを履修することが望ましい。中欧国際協力研修参加予定者、国際コミュニケーション学科の1、2年生で中島ゼミへの申請を検討している者は、地域研究基礎論I・II、東欧文化論、国際コミュニケーション基礎演習Dをできるだけ履修し、かつ、優秀な成績を修めるよう努力すること（ゼミの選考に際しては、これらの授業を履修し、かつ、それらの成績の優秀な者が優先される）。オフィスアワーは月曜日の15:00～16:00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。4号館2階の個人研究室のみならず、7号館1階の国際交流推進センター所長室にいることも少なくないので、こちらに立ち寄ってもよい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業概要の説明、学習院女子大学と中・東欧との関わり
- 第2週 地域研究とは何か
- 第3週 中・東欧の地理的概観
- 第4週 中・東欧の8か国による11年前（2004年5月1日）のEUへの加盟
- 第5週 中・東欧の地域概念―「中欧」、「東欧」とは何か―
- 第6週 中・東欧の民族移動の時代と建国―今でも語り継がれるタタール人の脅威―
- 第7週 中・東欧の中世における国王と民話―チェコ・アニメの巨匠が描いた国王の姿―
- 第8週 中・東欧の中世に西欧から移り住んだ人々―各地に残されたドイツ人の文化遺産―
- 第9週 中・東欧の中世における宗教の対立と共存―三十年戦争とクロアチアのネクタイ発祥伝説―
- 第10週 中・東欧の近代における民族意識の覚醒（1）―オスマン帝国支配下の諸民族の動向―
- 第11週 中・東欧の近代における民族意識の覚醒（2）―ロシア帝国支配下の諸民族の動向―
- 第12週 中・東欧の近代における民族意識の覚醒（3）―ハプスブルク帝国支配下の諸民族の動向―
- 第13週 中・東欧からの近現代における西欧や北米への移住、そしてアジアに足を運んだ中・東欧の人々―ドヴォルザークやマザー・テレサ及びその他の多数の移民―
- 第14週 学外の講師による特別授業（未定）
- 第15週 総括

副題	中・東欧研究概論（2）			担当者	中島 崇文 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

地域研究の基本的な考え方を、中・東欧を事例として修得し、世界のその他の地域にも応用できるようになることを念頭に置いている。また、本学の協定校の比較的多い中・東欧地域に受講生が関心を持つようになることを期待している。

〔授業の内容〕

春学期に引き続き、20世紀から21世紀にかけての中・東欧を様々な側面から概観する。地域研究基礎論Iを履修していない者はシラバスにおける当該頁も参照すること。

〔教材〕

教科書：小森宏美編著『エストニアを知るための59章』（エリア・スタディーズ111）明石書店、2014年
 六鹿茂夫編著『ルーマニアを知るための60章』（エリア・スタディーズ66）明石書店、2010年

毎週、授業時にレジュメを配布し、これに基づいて講義する。世界史の知識が乏しい者は高校の世界史の教科書に目を通しておくことが望ましい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で用いるレジュメは原則として前の授業で配布するので、事前によく目を通しておくこと。また、教科書の該当箇所は毎週のレジュメの末尾に明記しているので、こちらも事前に読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

論述式の期末試験の点数（約50%）と毎週の授業終了時に提出していただく感想文の点数（約50%）を合計して100点満点として算出する。受講者は毎週出席して当然との観点から、出席を点数化して加点するという事は行わず、逆に1回の欠席につき7点の減点とする。遅刻した際には、その理由を証明する書類が提示されない限り、出席とはみなされない。受講態度に問題がある（私語、早退、居眠りなど）と判断される場合も大幅に減点される。受講生は遅刻せずに毎週出席するよう、最大限に努力すること。

〔備考〕

基礎科目群に属する授業科目であるので、できる限り1年次、さまなければ2年次に履修することが望ましい。また、西洋芸術論、言語地理学も可能な限り併行して履修することをお勧めする。さらに、中欧国際協力研修参加予定者、国際コミュニケーション学科の1、2年生で中島ゼミへの申請を検討している者は、地域研究基礎論I・II、東欧文化論、国際コミュニケーション基礎演習Dをできるだけ履修し、かつ、優秀な成績を修めるよう努力すること（ゼミの選考に際しては、これらの授業を履修し、かつ、それらの成績の優秀な者が優先される）。オフィスアワーは月曜日の15:00～16:00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。4号館2階の個人研究室のみならず、7号館1階の国際交流推進センター事務室にいることも少なくないので、こちらに立ち寄ってもよい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業概要の説明
- 第2週 中・東欧における二つの世界大戦と国境線の変化
- 第3週 中・東欧における社会主義体制の導入
- 第4週 中・東欧の社会主義期における政治と経済—西側世界との壁と計画経済—
- 第5週 中・東欧の社会主義期における国威発揚の政策—教育とスポーツを中心に—
- 第6週 中・東欧の社会主義期における社会と家族、破綻する経済
- 第7週 中・東欧における社会主義体制の崩壊—無血あるいは流血の革命—
- 第8週 中・東欧のポスト社会主義期における民族問題（1）ハンガリー人
- 第9週 中・東欧のポスト社会主義期における民族問題（2）ロマ（ジプシー）
- 第10週 中・東欧のポスト社会主義期における民族紛争—旧ユーゴスラヴィアの内戦と継承国家（1）—
- 第11週 中・東欧のポスト社会主義期における民族紛争—旧ユーゴスラヴィアの内戦と継承国家（2）—
- 第12週 中・東欧諸国のEUやNATOへの加盟と国境を越える人々の移動
- 第13週 中・東欧における市場経済への移行と社会問題—民営化の推進、西欧への出稼ぎと取り残された子供たち—
- 第14週 中・東欧の日本との交流—外交、文化、教育、ODA等、様々な観点から—
- 第15週 総括

副題	国際安全保障学の基礎			担当者	畠山 圭一 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

国際関係の基本構造と概念的枠組みを理解する。

〔授業の内容〕

巨大で複雑な世界—その中の様々な問題をめぐって世界中のあらゆる人々や文化の相互作用によって展開される出来事を解明していくこと。それが「国際関係論」と呼ばれる学問の役割である。今日、私たちの生活は国際社会と切り離しては考えられない。食糧や衣類や各種消耗品、エネルギーや資源、金融や情報、その他の一切が国際社会との相互依存で支えられている。国際関係に関する的確な判断なくして私たちの日常生活は成り立たず、その意味で、国際関係研究に課せられた使命は非常に重い。だが国際関係研究がそうした役割を果たすには各国の文化や国内政治、経済はもちろん国家以外の主体（国際機構、多国籍企業、個人）によって営まれる国際的諸活動に関する様々な分野の学問的知見を必要とする。国際関係の研究は一般的には「国家間の紛争と協力」に関する研究であり、中でも最重要なテーマは「戦争と平和」の問題である。このテーマを扱う分野は、一般に「国際政治学」もしくは「国際安全保障学」と呼ばれ、常に国際関係研究の主流を形成している。国際関係基礎論Iは、初学者を対象に「国際安全保障学（国際政治学）」の視点から国際関係の基礎知識や概念の基礎的枠組みを提供することを目的とする。

〔教材〕

教科書：村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将著『国際政治学をつかむ』有斐閣

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

受講生自らが2時間程度の予習及び復習を実施することを前提としている。テキストの指定箇所を熟読し、理解を深め、自らの課題を持って講義に臨んでほしい。

〔成績評価の方法〕

国際関係に関する基本用語・基礎概念・基礎理論に関する理解度について判定するため、期末試験を実施し、6割以上の者を合格とする。試験は択一もしくは選択形式。

〔備考〕

受講生が講義毎に2時間程度の予習及び復習を実施することを前提としている。国際関係基礎論は、本学、特に国際コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科の学生にとっては専門科目を受講する上での全般的基礎となる国際関係に関する基礎的な概念や用語を習得するための非常に重要な科目であり、その性格上、特に復習を励行してほしい。また、なるべく、すべての学生が、できれば1、2年時に受講することを強く勧める。なお、計4回の欠席または3回連続の欠席で受講停止とする。

〔授業計画〕

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1週 | 導入：日常生活と国際関係 |
| 第2週 | 激動する国際社会－世界はどこに向かうのか |
| 第3週 | 国際関係論の対象と方法 |
| 第4週 | 国際関係の主体と環境 |
| 第5週 | 国家システムの変遷－国際システムは時代とともに変化する |
| 第6週 | 国際関係の変遷－国際システムも時代とともに変化する |
| 第7週 | 20世紀の国際政治略史－20世紀は国際政治にとって激動の時代だった |
| 第8週 | パワー・ポリティクス |
| 第9週 | 国家と対外政策 |
| 第10週 | 外交 |
| 第11週 | 国際紛争 |
| 第12週 | 軍事力と軍備管理 |
| 第13週 | 国際機構と国際法 |
| 第14週 | 問題演習 |
| 第15週 | 総括 激動する現代の世界政治システム－世界はどこへ行くのか |

副題	国際政治経済の基本的枠組み			担当者	荘林 幹太郎 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

第2次大戦以降の国際政治経済体制の変遷について、その理論的基礎を理解するとともに、大きな流れを為替や関税をめぐる国際政治経済の枠組みを中心に把握することを目的とする。

〔授業の内容〕

国際関係研究は一般的には「国家間の紛争と協力」という文脈で捉えられ、1960年代までは「戦争と平和」の問題（国際政治もしくは国際安全保障論）が中心テーマだった。ところが1970年代以降、（主として先進国間の）国際経済活動をめぐる紛争や協力が国際関係における重要課題となり、「国際関係における政治と経済の関係の研究（国際政治経済学）」が国際関係研究の第二の柱としてクローズアップされるようになった。冷戦が終わると国際政治経済学の関心は先進国の問題から（経済依存、国際債務、海外支援、技術移転を含む）南北問題や地球環境問題やグローバル・テレコミュニケーションといった問題へと移ったが、その背景には、南北間の経済格差や地球環境問題や各種分野におけるグローバリゼーションが「地域紛争」「地域覇権国による冒険主義」「（今回の同時多発テロのような）新たな戦争」等にみられる深刻な国際安全保障上の脅威をもたらしかねないという事情も存在している。今日、国際関係の研究者は、従来、別々に論じられがちだった「国際安全保障学」と「国際政治経済学」の学問的成果を結びつけて論じることが多くなっており、実際、お互いの学問的成果のいずれを欠いても国際関係における適切な判断は不可能になっている。国際関係基礎論IIでは、国際関係論のもう一つの柱である「国際政治経済学」の視点から国際関係の基礎知識や概念の基礎的枠組みを提供する。

〔教材〕

教科書：野林健・大芝亮・納家政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門 新版』有斐閣、2005年
 参考書：岩本 武和、奥 和義、小倉 明浩、金早雪『グローバル・エコノミー 新版』（有斐閣アルマ）有斐閣、2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2回の持ち帰り中間試験はそれぞれ4時間程度の負荷を想定。毎回の授業は教科書の各章に対応していることから、その復習に2時間程度を想定。

〔成績評価の方法〕

2回の中間試験（自宅持ち帰り：合計40%）、期末試験（60%）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 導入—国際関係をめぐる政治と経済
- 第2週 国際政治経済学とは何か
- 第3週 国際政治経済学をめぐる理論と思想
- 第4週 国際政治経済秩序の形成
- 第5週 国際政治経済秩序の発展と転換
- 第6週 貿易を巡る国際政治経済
- 第7週 開発援助を巡る国際政治経済
- 第8週 科学技術を巡る国際政治経済：知的財産権を中心として
- 第9週 地球環境問題と国際政治経済（1）：京都議定書を巡る政治経済
- 第10週 地球環境問題と国際政治経済（2）：生物多様性条約を巡る政治経済
- 第11週 グローバリズムとリージョナリズム：WTOとFTA
- 第12週 地域的枠組みの展開：EU
- 第13週 地域的枠組みの展開：アジア
- 第14週 今後の展開
- 第15週 総括

副題	環境問題を理解するための自然・社会科学の基礎			担当者	莊林 幹太郎 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5

〔授業の到達目標〕

水，土，大気に係る環境問題の基礎的な事項を理解できるようになる。

〔授業の内容〕

環境やその保全に関わる複雑性を考えるとき，自然科学に加えて，経済学などの社会科学も含めた多様な分野の知見に基づく総合的な視野が必要となる。例えば，水質問題を議論する場合，どのような化学物質がどのような形態で水質汚染を引き起こすかということに関する科学的知識を踏まえた上で，汚染を減じるための最適な政策手段（規制，課税，補助金等）を経済学的な知見も援用しつつ決定しなければならない。

「環境科学I」では，水，大気，土にまつわる環境問題について自然，社会科学の両方を含む広角的な視点から捉えることによって環境問題の複雑性を概観し，その解決に向けた総合的視野の重要性をともに議論していきたい。

〔教材〕

参考書：中西準子『環境リスク学』日本評論社，2005年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の宿題に2時間程度の負荷を想定

〔成績評価の方法〕

宿題（出欠確認を兼ねる：20%），中間試験（自宅持ち帰り試験：20%），期末試験（60%）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	イントロダクション
第2週	水と環境（1）：水循環の科学的メカニズムとそれに与える経済活動の影響（水質汚濁，水資源の枯渇）
第3週	同上（2）：水質の汚染とそれを軽減するための技術的および経済的手法
第4週	同上（3）：水資源の枯渇とそれによる環境影響を軽減するための技術的および経済的手法
第5週	大気と環境（1）：地球の大気環境の変遷と温暖化のメカニズム
第6週	同上（2）：温暖化防止のための国際的枠組
第7週	同上（3）：オゾン層の破壊，酸性雨
第8週	土壌と環境（1）：土壌の成り立ちと土壌汚染
第9週	同上（2）：塩害や砂漠化の進展と対応策
第10週	農業と環境（1）：農薬，化学肥料と食料・環境
第11週	同上（2）：窒素循環のメカニズム
第12週	同上（3）：バイオマス資源の活用
第13週	リスク評価と費用便益分析（1）
第14週	同上（2）
第15週	まとめ

副 題	環境政策概論			担 当 者	加藤 弘二 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	金	時 限	2

〔授業の到達目標〕

さまざまな環境問題について、経済学の視点で考えることができるようになる。

〔授業の内容〕

環境問題を理解するために必要かつ重要な社会科学（主に経済学）の基礎的概念について講義し、いくつかの事例を用いてその応用を試みる。授業で取り上げる事例は、地球温暖化対策、農業・農村政策、自然資源管理などであり、具体的事例を通して、環境経済学の理解を深めていきたい。

〔教材〕

教科書は指定しませんが、授業中に適宜参考書を紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は課さない。授業の際に出した課題に取り組むとともに、配布資料を用いて復習を行い、授業内容の理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

授業中に行うミニテスト（40%）
 期末レポート（60%）

〔備考〕

特にありません。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 環境と経済学
- 第2週 競争市場の効率性
- 第3週 市場の失敗と環境問題
- 第4週 環境政策手法（1）
- 第5週 環境政策手法（2）
- 第6週 地球温暖化に対する取り組み（1）
- 第7週 地球温暖化に対する取り組み（2）、理解度の確認
- 第8週 自然資源の経済学
- 第9週 コモンズの悲劇と共同体
- 第10週 農業環境政策
- 第11週 自由貿易と環境（1）
- 第12週 自由貿易と環境（2）
- 第13週 貧困と環境・資源問題
- 第14週 環境評価
- 第15週 まとめと解説

副題	メディアと社会			担当者	蔡 星慧 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

本講ではメディアと社会との相互関係を理解し、学生自ら考え、議論することでメディアをめぐる環境を批判的に観る力をつけていきたい。

〔授業の内容〕

急変するメディア環境は社会を変え、社会の文化を形成していく。本講ではそういったメディアの基礎的な構造と環境変化、社会的意味合いについて考えてみる。

〔教材〕

特に指定はありません。毎回配付するレジュメと資料を配付し、その都度参考文献を提示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前配付資料を読み、調べる課題などがあります。

〔成績評価の方法〕

- ・出席20%
- ・リアクションペーパー/ミニ課題10%（毎回授業の終わりに当日授業の中心内容、感想、質問などを書く）
- ・レポート30%
- ・定期試験40%

〔備考〕

- ・授業中の議論に積極参加，誠実に臨む授業姿勢を重視する。
- ・交通上の不都合以外は遅刻厳禁
- ・授業中の私語/携帯使用/出入り（特別な都合がある時は授業前か，授業後に要説明）厳禁

〔授 業 計 画〕

- 第1週 メディアと社会
 - 第2週 マス・コミュニケーションの歴史
 - 第3週 新聞メディアの特性①－新聞の紙面，産業特性
 - 第4週 新聞メディアの特性②－伝えるべきこと，ジャーナリズムのプロフェッショナルとは
 - 第5週 放送メディアの特性①－放送の制度的特性と構造
 - 第6週 放送メディアの特性②－放送ジャーナリズムのあり方を考える
 - 第7週 職業としてのジャーナリスト
 - 第8週 出版メディアの特性①－本づくりのプロセスを見る
 - 第9週 出版メディアの特性②－雑誌の誌面を見る
 - 第10週 雑誌の文化史
 - 第11週 メディアの最新動向
 - 第12週 政治とマスメディア
 - 第13週 放送と通信の融合
 - 第14週 マクルーハン，メディアはメッセージである
 - 第15週 総合まとめ－近未来としてのメディア環境
- テーマによる時事問題など，補充資料がある場合，授業の進行に多少の変更もあります。

副 題	言語における文法の構造			担 当 者	佐藤 琢三 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	金	時 限	2

〔授業の到達目標〕

特に形態論と統語論の諸問題を取りあげ、言語学の基本概念を具体例にそくして正確に理解する。また、言語に対する興味を喚起する。

〔授業の内容〕

われわれ日常無意識のうちに使いこなしている日本語や英語を外国語として客観的にとらえた場合、それはどのような姿に映るのだろうか。この授業では、現代日本語や現代英語を諸外国語との比較の中で客観的にとらえることができるよう、トレーニングを行う。受講者が言語学に親しみをもてるように、なるべく身近な現象からアプローチしてゆきたい。

〔教材〕

なし。毎回プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2時間程度。配布プリントに基づいて講義するので予習はできないが、復習を徹底すること。

〔成績評価の方法〕

中間試験と期末試験による。評価は厳密に行う。

〔備考〕

意欲のある者であれば誰でも歓迎するが、教室内において学ぶ意思のない者、講義に集中することのできない者は目障りである。そのような者は、くれぐれも履修を遠慮してもらいたい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 導入+世界の諸言語と日本語・英語1
- 第2週 世界の諸言語と日本語・英語2
- 第3週 世界の諸言語と日本語・英語3
- 第4週 語のクラスと文法
- 第5週 形態論と語形成1
- 第6週 形態論と語形成2
- 第7週 形態論と語形成3
- 第8週 まとめ・確認
- 第9週 文の骨格
- 第10週 他動性
- 第11週 受動文1
- 第12週 受動文2
- 第13週 視点の原理
- 第14週 言語理論の展開
- 第15週 まとめ・確認

授業計画は変更する場合がある。

副題	言語における音声と意味			担当者	佐藤 琢三 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

音声学・音韻論と意味論の分野をとりあげる。音声学・音韻論に関しては、その基本概念の習得を徹底して図り、外国語学習及び外国語教授の基礎としたい。また、意味論に関しては、言語の本質が人間のものとのとらえ方にあるという考え方にに基づき、人間という種の本能とも言うべき意味づけという行為から言語現象の諸相や言語文化の基底にある発想のあり方について理解する。

〔授業の内容〕

この授業では言葉の研究の諸分野のうち、音声と意味に焦点をあてる。われわれが日ごろ何気なく発している言語音はどのような構造をしていて、どのような規則性が潜んでいるのだろうか。外国語を学んだり教えたりする際に、どのような知識をどのように活用するべきなのだろうか。また、われわれが日ごろ何気なく発している言葉の意味の本質とはいかなるものだろうか。言葉の意味の研究を通してみえてくるものは何なのだろうか。このような問題について受講者とともに考える。

〔教材〕

なし。毎回、プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2時間程度。配布プリントに基づいて講義するので予習はできないが、復習を徹底すること。

〔成績評価の方法〕

中間試験と期末試験による。評価は厳密に行う。

〔備考〕

意欲のある者であれば誰でも歓迎するが、教室内において学ぶ意思のない者、講義に集中することのできない者は目障りである。そのような者は、くれぐれも履修を遠慮してもらいたい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 導入
- 第2週 外国語と発音の諸問題（音声学導入）
- 第3週 アクセント（ピッチ=日本語とストレス=英語）
- 第4週 子音の構造1
- 第5週 子音の構造2
- 第6週 母音・音素と異音
- 第7週 音韻論の諸相
- 第8週 まとめ・確認
- 第9週 日常の言葉の意味を考える（意味論導入）
- 第10週 認知意味論1（意味とは何か）
- 第11週 認知意味論2（日英の比喩の発想と文化）
- 第12週 認知意味論3（スルの言語とナル的言語）
- 第13週 認知意味論4（全体と部分のとらえ方）
- 第14週 認知意味論5（語結合と慣用句）
- 第15週 まとめ・確認

副題	社会の中の言語			担当者	福島 直恭 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕
 言語の多様性について理解し、それを通して社会の多様性、人間の考え方、価値観の多様性を理解する。

〔授業の内容〕
 言語は、人間社会の中で生まれ、人間社会の中で使われ、そして変化していくものである。言語について考える際にも、言語だけを切り離して考えるのではなく、それが使われる社会とか、それを使う人間という要因を含めて考える必要がある。本講義では、まず、言語が人間社会の中でどのように生まれたのかという問題から話をはじめ。次に、言語が人間にとってどのような役割を果たしているのかという問題、そしてそのような役割を果たすために言語はどのような性格を持っているのかということ、どのように変化していくのかということなどを取り上げる。最後に、言語はどのように死んでいくのか、なぜ死んでしまうのかという点についても言及する。

〔教材〕
 参考書：ロレット・トッド『ピジン・クレオール入門』（21世紀の言語学）大修館書店、1986年
 デビッド・クリスタル『消滅する言語』中公新書、2004年
 受講者に購入を義務付ける教科書的な書籍はないが、授業内容に関連の深い参考図書は、授業内で紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
 必要な予習・復習時間は各1～2時間程度

〔成績評価の方法〕
 毎回、授業内容に関する簡単なレポートを提出してもらい、その採点結果で評価する。ただし、開講時数の2／3以上の出席が必須である。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	社会言語学とはなにか
第2週	言語の誕生・言語の起源
第3週	言語の誕生・ピジンとクレオール 1
第4週	言語の誕生・ピジンとクレオール 2
第5週	言語の働き・言語と国家
第6週	言語の働き・言語と民族
第7週	言語の働き・言語と社会階級
第8週	言語の働き・アイデンティティの指標としての言語 1
第9週	言語の働き・アイデンティティの指標としての言語 2
第10週	言語の働き・言語と認識、思考
第11週	言語の変化・言語変化の原動力
第12週	言語の変化・言語変化の方向と定着
第13週	言語的不平等
第14週	言語の死・危機言語の実態
第15週	言語の死・危機言語に関する対応

副題	「日本語」という虚構			担当者	福島 直恭 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

近代日本の言語政策に関する知識を習得し、それを通して現代の日本語、日本社会のあり方を理解する

〔授業の内容〕

日本語話者が「標準日本語」とか「国語」と呼んでいるものの実体はいかなるものなのかについて考えていく。そのような概念は古代から連綿と続いてきたものではなく近代の産物である。そのような概念はなぜ生まれ、社会においてどのような役割を果たしているのかという点について、近代国民国家日本の成立時期を中心に考察を進めていく。同様の手順で、日本語の特徴のひとつといえる「敬語体系」という概念の虚構性についても言及する。

〔教材〕

参考書：イ・ヨンスク『「国語」という思想－近代日本の言語認識－』岩波書店、1996年
 福島直恭『書記言語としての「日本語」の誕生－その存在を問い直す－』笠間書院、2008年
 教科書は特になし。毎回プリント配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習に必要な時間は各1～2時間程度

〔成績評価の方法〕

毎回、講義に関連する簡単なレポートを提出してもらい、その採点結果で評価する。ただし、開講時数の2／3以上の出席が必須である。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1週 | 社会言語学の導入 |
| 第2週 | 社会言語学と言語政策 |
| 第3週 | 「日本語」という存在についての疑問 |
| 第4週 | 「話しことば」と「書きことば」 |
| 第5週 | 「書きことば」と標準語 |
| 第6週 | 声の文化と文字の文化 |
| 第7週 | 「日本語」以前の日本語 |
| 第8週 | 「日本語」の成立事情 1 言文一致 |
| 第9週 | 「日本語」の成立事情 2 標準語と標準語教育 |
| 第10週 | 「日本語」の成立事情 3 植民地支配と「日本語」 |
| 第11週 | 「日本語」虚構説 |
| 第12週 | 敬語虚構論 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 海外の言語政策 |
| 第15週 | まとめ |

文化人類学I

3622009100100

副題	文化人類学の基礎概念			担当者	齋藤 亜子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4

〔授業の到達目標〕

文化人類学の基礎概念を学び、異文化を理解する。

〔授業の内容〕

文化人類学とは、人間の文化的側面を学ぶ学問です。私たちのものの見方や普段何気なく行っているふるまい方は、文化の異なる社会では奇妙に思われることがあるかも知れません。また、私たちには奇妙に思えることが他の社会では当たり前として捉えられている場合もあります。異文化について知ることは、ものの見方一つではないということを学び、また自分の文化を客観的に見つめ直すことでもあります。

グローバル化の時代といわれる現在では、人々は異なる文化圏を行き来し、また移り住んだ先で新たな文化を築いているケースが数多くあります。このように複雑化した現在の多様な文化を理解するのに文化人類学を学ぶことは有用であるといえるでしょう。

この授業では、主に文化人類学の基礎概念を学んでいきます。

〔教材〕

参考書：綾部恒雄、桑山敬巳 編『よくわかる文化人類学』第2版、ミネルヴァ書房、2010年
 山下晋司、船曳建夫 編『文化人類学キーワード』改訂版、有斐閣、2008年
 教科書は特に指定しません。講義の中で必要に応じて教材を提示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には指定した教材または配布プリントをあらかじめ読んだ上で出席すること。

〔成績評価の方法〕

小テスト 20%、リアクションペーパー 30%、期末試験 50% で評価します。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 講義概要の説明：文化人類学とは何か
- 第2週 文化人類学の歴史と理論 1
- 第3週 文化人類学の歴史と理論 2
- 第4週 言語と文化
- 第5週 家族
- 第6週 婚姻
- 第7週 ジェンダーとセクシュアリティ
- 第8週 メキシコ先住民の母系社会
- 第9週 民族とエスニシティ
- 第10週 贈与と交換
- 第11週 信仰と世界観
- 第12週 通過儀礼と分類
- 第13週 伝統的医療と妖術
- 第14週 死と葬儀
- 第15週 理解度の確認

副題	現代社会における民族 文化人類学とフィールドワーク			担当者	齋藤 亜子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4

〔授業の到達目標〕

現代社会を生きる民族の問題について学ぶ。またフィールドワークの疑似体験を通じて文化人類学の調査方法を学ぶ。

〔授業の内容〕

文化人類学Iで学んだ基礎概念は、フィールドワークによる調査によって積み上げられてきたものです。文化人類学IIでは、主にラテンアメリカの先住民の文化をみていきますが、同時にフィールドノートや写真観察法によって文化人類学の調査方法であるフィールドワークがどのようなものであるかを概観します。

〔教材〕

参考書：綾部恒雄、桑山敬巳 編『よくわかる文化人類学』第2版、ミネルヴァ書房、2010年
山下晋司、船曳建夫 編『文化人類学キーワード』改訂版、有斐閣、2008年
教材は必要に応じて講義の中で提示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

リアクションペーパーでは毎回いくつかの質問に答えてもらうので提示した参考資料や配布プリントによく目を通しておくこと。

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパー 30%、写真観察法、発表 30% フィールドノート 40% で評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 講義内容の説明：文化人類学とフィールドワーク
- 第2週 先住民とは ラテンアメリカの先住民（1）
- 第3週 ラテンアメリカの先住民（2）
- 第4週 異文化へのまなざし 人種主義、オリエンタリズム批判
- 第5週 写真観察法とフィールドノート
- 第6週 映像資料：バレーの伝統行事1
- 第7週 映像資料：バレーの伝統行事2
- 第8週 環境破壊と先住民
- 第9週 観光と文化
- 第10週 写真観察法：発表・ディスカッション1
- 第11週 写真観察法：発表・ディスカッション2
- 第12週 写真観察法：発表・ディスカッション3
- 第13週 映像資料：世界の地域間格差を生み出したものは何か1
- 第14週 映像資料：世界の地域間格差を生み出したものは何か2
- 第15週 まとめ

副題	北米地域の地理・風土と政治・文化			担当者	畠山 圭一 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

北米地域の地理、歴史、政治、社会、文化、外交等に関する基礎的知識を習得する。

〔授業の内容〕

太平洋を挟んで日本の対岸にある北米は日本と密接な関係をもった地域である。特にアメリカは日本にとって政治、経済、文化のいずれをとってもきわめて重要な国家であるばかりか、歴史的に見ても実に深い縁で結ばれた国家である。たとえば日本が国際社会で注目され始めた1890年代は、国際社会がアメリカに注目し始めた時期でもあった。また鎖国時代の日本を開国へと導いたのがアメリカの「黒船」であるとするれば、それまで孤立主義を貫いていたアメリカを国際政治の場に引きずり出したのは日本の「真珠湾攻撃」であった。ところで、この北米地域はアメリカ、カナダという二つの先進国を構成国とし、両国はともにイギリスに起源を発している。しかしながら両国の性格やたどった歩みは著しく異なっており、アメリカがイギリスの支配から離脱した共和国であるのに対してカナダはイギリス女王を君主とする立憲君主国であり、またアメリカの躍動感にあふれた歴史に対してカナダの歴史は内戦も奴隷制度も先住民との戦いも歴史的暗殺も少ない穏やかなものである。かかる性格の違った二国によって北米地域が構成されているところに、北米文化のもつ特殊性と魅力と力強さがある。本講義はこうした北米地域についての地理、歴史、政治、社会、文化等に関する基礎的知識の提供と、国際関係論（日米関係）、アメリカ文化論等の専門科目を学ぶ上での導入を目的とするものである。

〔教材〕

教科書：畠山圭一・加藤普章 編・著『世界政治叢書Ⅰ アメリカ・カナダ編』（世界政治叢書）ミネルヴァ書房、2008年

アメリカとカナダを一体として取り扱った数少ない教科書で、本授業のために編纂された。基礎的な資料もふんだんに含まれ、きわめて有用なテキストである。授業でしばしば活用し、試験準備にとっても必携のテキストであり、予習・復習に活用してもらいたい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習および復習（それぞれ2時間を標準とする）を前提に行われる講義である。テキストの指定箇所を熟読の上、理解を深めて講義に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果で評価し、6割以上を合格とする。

〔備考〕

計4回の欠席または連続3回の欠席で受講停止とする。また、授業開始後15分以上遅刻した場合は欠席とみなすので注意されたい。

〔授 業 計 画〕

第1週	導入	目的と対象
第2週	北米論	1 地理的特徴 北米の自然と資源の農業
第3週	アメリカ論	1 アメリカの地域（1）－ニューイングランド、中部大西洋地域、南部
第4週	アメリカ論	2 アメリカの地域（2）－中西部、太平洋岸西部、ハワイ、アラスカ
第5週	アメリカ論	3 アメリカの歴史－地域構造の変遷、多様性と統一
第6週	アメリカ論	4 アメリカの政治－連邦制と三権分立
第7週	アメリカ論	5 アメリカの精神文化－国民統合の思想的基盤
第8週	アメリカ論	6 アメリカの外交－孤立主義と国際主義
第9週	カナダ論	1 カナダの地域－東部沿岸諸州、プレーリー諸州、ブリティッシュコロンビア州
第10週	カナダ論	2 カナダの歴史－多元社会の形成
第11週	カナダ論	3 カナダの政治－連邦制と議院内閣制
第12週	カナダ論	4 カナダの社会文化－多文化社会とアイデンティティの模索
第13週	カナダ論	5 カナダの外交－「ミドル・パワー」外交
第14週	北米論	2 北米文明の特質
第15週	結語	北米と日本

副題	近代ヨーロッパの宗教・思想・文化			担当者	根占 献一 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1

〔授業の到達目標〕

近代のヨーロッパは近・現代の日本と深い関係があることを理解できるようになること

〔授業の内容〕

ルネサンスと宗教改革から始まるとされるヨーロッパ近代の思想と、宗教、文化の発展をたどりながら、ヨーロッパ文化を広く、世界的グローバル化のなかで考えていく。特に日本との関係は問題にしたい。

〔教材〕

教科書はないが、必要に応じて参考文献を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

最低各1時間半以上

〔成績評価の方法〕

出席（40パーセント）、普段のリアクション・ペーパー（15パーセント）、試験（45パーセント）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 序—ヨーロッパとは、近代とは。
- 第2週 ルネサンス—イタリアを中心とした文化世界
- 第3週 ルネサンスの発展
- 第4週 宗教改革—ドイツを中心に
- 第5週 宗教改革の展開
- 第6週 カトリック改革と日本
- 第7週 バロック時代
- 第8週 科学革命—天才たちの世紀
- 第9週 科学と進歩史観
- 第10週 合理思想と国家理性
- 第11週 啓蒙思想
- 第12週 啓蒙と近代日本
- 第13週 映像資料
- 第14週 〃
- 第15週 結—ヨーロッパ文化の近代的意義

副 題	アジアにおける戦争、革命、社会変容			担 当 者	金野 純 准教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	水	時 限	2

〔授業の到達目標〕

わたしたちが住む東アジアを中心に世界史を理解し、自分自身が大きな歴史的世界のなかに存在している感覚を身につける。そしてさまざまな歴史や人生をみることで、「他者」への想像力を養う。

〔授業の内容〕

日本、台湾、韓国、中国、ベトナム、カンボジアを取り上げ、アジアの戦争、革命、そして社会変容の過程を講義・映像資料などとおして学び、現在もなお続く暴力の連鎖について、歴史的な角度から考える。

〔教材〕

授業のはじめにプリントを配布する。欠席者のための再配布はおこなわない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各授業の最初のプリントに、授業に関連した参考文献が記載されているので、授業内容と合わせて関連文献を熟読し、理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクションペーパー・出席（40%）と期末試験（60%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 台湾統治（1）
- 第3週 台湾統治（2）
- 第4週 韓国統治
- 第5週 満州国の建国と＜日本＞の拡大
- 第6週 日本社会はなぜ戦争へと向かったのか
- 第7週 中国における革命、建国、そして冷戦（1）
- 第8週 中国における革命、建国、そして冷戦（2）
- 第9週 文化大革命
- 第10週 ベトナム戦争と東アジア世界の変容
- 第11週 クメール・ルージュの革命とカンボジア（1）
- 第12週 クメール・ルージュの革命とカンボジア（2）
- 第13週 20世紀後半における国家への反逆と革命
- 第14週 まとめ：東アジアの戦争・革命・社会変容と「暴力」について（1）
- 第15週 ♪

副題	イスラムの基礎知識			担当者	小野 仁美 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

世界人口のおよそ五分の一を占めるイスラム教徒が共有する、イスラムの宗教的な基礎知識を理解することを目指す。

〔授業の内容〕

イスラムの宗教としての側面、知の体系としての側面から、イスラム文化を解説する。各回のテーマについて、まず古典的知識を学び、さらに現代社会における位置づけについても触れていきたい。

〔教材〕

毎回レジュメを配布する。教科書はとくに指定しない。
参考文献は、授業時に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として、事前に指定する参考文献に目を通しておくこと。授業後には、復習として再度参考文献を読み、理解を深めてほしい。

〔成績評価の方法〕

期末試験50%、平常点（リアクション・ペーパー、質問等）50%

〔備考〕

授業後の質問を歓迎します。参考文献の相談にも応じますので、積極的に活用してください。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業のねらいと進め方
 - 第2週 世界のなかのイスラム
 - 第3週 ユダヤ教, キリスト教, イスラム教
 - 第4週 六信五行
 - 第5週 預言者ムハンマドの生涯
 - 第6週 映画で学ぶイスラム（1）
 - 第7週 聖典クルアーン
 - 第8週 映画で学ぶイスラム（2）
 - 第9週 預言者ムハンマドの言行録（ハディース）
 - 第10週 イスラム法の規範
 - 第11週 スンナ派とシーア派
 - 第12週 イスラム神秘主義
 - 第13週 イスラムと科学
 - 第14週 アラビアンナイトの世界
 - 第15週 まとめ
- 授業計画は変更することがある。

副 題	スラヴの言語と文化			担 当 者	坂倉 千鶴 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月	時 限	2

〔授業の到達目標〕

「言語地理学」および「スラヴの言語と文化」の諸相について基礎的な知識を習得するとともに、受講者が自ら選択したテーマを深めながら、班毎の共同作業を通してそれぞれの「言語と文化のハンドブック」を作成し、新入生に向けて情報として発信します。

〔授業の内容〕

今年度の授業では、まず印欧語族のひとつを形成しているスラヴ語派について、その概要を分かりやすく紹介した後、それぞれのスラヴ語について、文化も視野に取めつつ具体的に学んで行く予定です。初心者のためのスラヴの言語文化入門といった内容になります。時にはゲストスピーカーを交えながら演習形式で進めて行く予定です。

〔教材〕

参考書：黒田龍之助『羊皮紙に眠る文字たち—スラヴ言語文化入門』初版，現代書館，1998年
三谷恵子『スラヴ語入門』初版，三省堂，2011年
桑野隆『ロシア・中欧・バルカン 世界のことばと文化入門』（世界のことばと文化シリーズ）初版，成文堂，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各回の授業用プリントを毎回一週間前に配布しますので、事前に読んで疑問点を整理した上で授業に臨んでください。

詳細については、初回授業時にお知らせします。

〔成績評価の方法〕

年度末に課すレポート(55%)と出席状況（15%）、授業への取り組みの姿勢（30%）などを総合的に勘案します。

課題レポートとして、班毎に協力して「～の言語と文化のハンドブック」を作成します。

出席票とコメントシート、両方の提出をもって出席と見なします。

〔備考〕

スラヴ・東欧関係の授業を受講していることが望ましい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 言語地理学とは何か？
- 第3週 スラヴ語の話
- 第4週 班分け，班毎に図書館で文献渉猟，文献リストの作成。
- 第5週 ロシアの言語と文化
- 第6週 ウクライナの言語と文化
- 第7週 ベラルーシの言語と文化
- 第8週 ポーランドの言語と文化
- 第9週 チェコの言語と文化
- 第10週 スロヴァキアの言語と文化
- 第11週 ソルブの言語と文化
- 第12週 ブルガリアの言語と文化
- 第13週 セルビアの言語と文化
- 第14週 クロアチアの言語と文化
- 第15週 各班によるまとめのプレゼンテーション

副題					担当者	東 由美子 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	土	時限	2

〔授業の到達目標〕

神話的思考について理解を深め、現代社会を相対化する視野を養います。

〔授業の内容〕

19世紀から20世紀にかけて、文学はもとより、文化／社会人類学、心理学、言語学、宗教学などといった様々な分野においても、「神話」が研究素材として取り上げられるようになり、「神話」を分析するための画期的な手法も次々と生み出されるようになりました。一方、分析手法が多角的になるにつれ、「神話」とは何かという問題が浮上してくるようになります。つまり、分析方法の変化に応じて、どのような事物を「神話」としてとらえるのかということも、議論されるようになってきます。ギリシアの古典や『古事記』・『日本書紀』に描かれた神々の物語から、伝説や昔話、ひいては洞窟に描かれた太古の絵画、土偶、こういったものまでも「神話」の範疇に含めて考察されるようになってきているのが現状です。ですから、「神話学」とは、あらゆる「神話」研究者に共通する確固たる不変の分析対象を持たず、「神話学」独自の分析手法も持ちません。この意味において、「神話学」は、現在においてもいまだ単独で地位を築いていない学問分野です。本講義では、「神話学」的に重要だと思われる事柄を取り上げて講義を行います。

〔教材〕

参考書等については、講義の中で適宜指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：授業内で指定する文献の指定範囲を読んで不明な点を可能な限り調べてくること。

復習：授業終了後、授業中に紹介された参考文献を選択の上、読解し、理解を深めること。

必要な時間は3時間程度と予想している。

〔成績評価の方法〕

毎回の授業で出席確認のための小レポートを提出してもらいます。成績はレポートの提出回数（出席点）および授業内試験の点数を合計して判定します。

〔備考〕

成績評価の詳細について、第一回の授業で説明します。履修希望者は第一回の講義に出席してください。

〔授 業 計 画〕

第1週	イントロダクション：評価方法、講義の目的、導入講義
第2週	神話学に関連のある論文を、解説を加えながら一緒に読んでいきます。その際、講義に対する受講生の理解度、講義への質問等を考慮して、講義内容はその都度変化していくため、予め講義計画を定めることはできません。受講希望者は初回の講義に出席して、この講義の方針・内容等の説明を聞くようにしてください。
第3週	第2週と同じ。
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題	生活を支える道具から生活文化を考察する			担当者	真島 麗子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

具体的な造形物や現象を取り上げ、その歴史や地理的文脈を理解しながら考察し、道具（生活財）を通して比較分析していくことから、問題を発見し、過去の反省点を明確にしなが、新たな生活環境が提案できる価値観を育成する。

〔授業の内容〕

道具は、広い意味で私達の五体（頭・首・胸・手・足）や五感（視・聴・臭・味・触）の動きを補助する物として使われ、作り出された造形物の総称である。そして、これらは人間が作り出した最も古い文化の一つであると言える。人間の歴史は、道具の素材発見、および、その性能の拡大と製作技術の発展史でもあり、様々な道具類の使用が、私達の生活にも大きな変容をもたらしてきた。しかし、一方、この物質文化が、地球温暖化を初めとする環境破壊も引き起こしてきた。生活財の歴史や利用状況、増加に伴う問題点などを浮き彫りにすると同時に、今後の生活環境について考え、他国との比較も行う。

〔教材〕

参考書：日本生活学会編『生活学事典』第1版，TBSブリタニカ，1999年

近藤雅樹『日用品の二〇世紀』（二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容 8）第1版，ドメス出版，2003年

山口昌伴『台所の一万年-食べる営みの歴史と未来』（百の知恵双書）第1版，社団法人農山漁村文化協会，2006年

教科書は使用しない。その都度プリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回、授業開始30分ほどを、前回の授業後に学生から提出された質問や問題点に答え、共に考える時間にあてているが、その遣り取りの中で出された課題に解答できるよう準備してくること

〔成績評価の方法〕

中間レポート(40%)、最終レポート(60%)で評価する。出席状況、講義後のリアクションペーパーの内容等加味する。

〔備考〕

毎回、映像資料（パソコン画像）を利用しながら考察する。

〔授 業 計 画〕

第1週	道具から見た生活史概要・生活を支える道具から生活文化を考察する方法
第2週	道具の保有内容からの考察1 - 群馬の養蚕農家の暮らし（鍋・釜の利用）・台所道具の歴史
第3週	道具の保有内容からの考察2 - 道具の配置状況からみる竹富島（二棟造り）の住み方
第4週	道具の保有内容からの考察3 - 収納の歴史と蔵の役目・収納方法を考える
第5週	生活財の増加と暮らしの変容1 - 郊外の3LDKの暮らしの実態
第6週	生活財の増加と暮らしの変容2 - ライフコースと保有数の問題点
第7週	他国の生活財保有と暮らし1 - 韓国の都市生活・済州島等
第8週	他国の生活財保有と暮らし2 - インドネシア・バリ島の生活財
第9週	他国の生活財保有と暮らし3 - ネパールの暮らし・地球家族・30ヶ国の生活財
第10週	他国の生活財保有と暮らし4 - 台所と食の道具史-イギリス・スウェーデン等
第11週	他国の生活財保有と暮らし5 - フィリピン・バタン島・サブタン島の生活財
第12週	木の技術と容器- 刳物から桶・樽作り・その活用
第13週	石の技術とアーチの石橋 - 沖縄・熊本県 通潤橋・中国等
第14週	伝統技術の活用と地方の資料館づくり - 船造りの村と北前船の復原・新潟県佐渡市相川 佐渡金山資料館からの考察
第15週	まとめ-問題点と解説

単一の道具からだけでなく、保有する道具の種類や数量、又、無意識に置かれた道具状況から生活を考察する。伝統技術から作られた道具の活用と文化財や町並みの保存・地域の資料館づくりにも触れる。授業後のリアクションペーパーからも問題点を抽出し授業を進めていく。

副題	モンゴロイドアジア大陸部を中心として			担当者	乾 尚彦 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

世界の居住文化をみる視座を確立し、居住文化の理解のしかたを学ぶ。

〔授業の内容〕

世界には、様々な居住文化がみられる。本講義では、そのなかでも特に、モンゴロイドの住むユーラシア大陸に焦点をあて、そこに見られる居住文化の諸相を世界の居住文化と比較しながら考えていく。

身近なアジアである東アジア、東南アジア大陸部には、様々な自然、歴史、社会的条件から、多様な生活文化、住まいがつけられてきた。それらは、また、同時に、アジアの基層文化に由来する様々な共通性も示している。そうした居住文化を成立させてきた要因についても考察していく。

本講義で対象とするのは、これまでに実際にフィールドワークによって調査研究をおこなってきた地域・民族である。居住文化の実相を、調査者の視点で、多くの画像資料を用いながらなるべく具体的に示していきたい。

〔教材〕

講義中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

課題提出（講義の前日まで）

〔成績評価の方法〕

毎回のレポート、出席、最終レポートの内容による。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1週 | モンゴル族 1 |
| 第2週 | モンゴル族 2 |
| 第3週 | モンゴル族 3 |
| 第4週 | モンゴル族 4 |
| 第5週 | 韓国河回村 |
| 第6週 | 漢族 1（ヤオトン～土に暮らす住まい） |
| 第7週 | 漢族 2（四合院と円形土楼～中庭の住まい） |
| 第8週 | アジア大階段の諸民族 |
| 第9週 | タイ北部山地民 |
| 第10週 | 中国雲南省ワ族 1 |
| 第11週 | 中国雲南省ワ族 2 |
| 第12週 | 中国雲南省ワ族 3 |
| 第13週 | ベトナム |
| 第14週 | 総括 1 |
| 第15週 | 総括 2 |

副 題	Language and Culture in Our World			担 当 者	川口 エレン 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	金	時 限	1

〔授業の到達目標〕

As this course will be conducted in English, the instructor hopes that the students will be able to improve their skills in English, as well as learn more about language in general and English in particular. The purpose of this course is to explore, at an introductory level, many of the themes in the world of applied linguistics.

〔授業の内容〕

Based on the topics in the textbook, our focus will be language development, language learning, how language changes and how and why languages sometimes die. The main activities will be summary presentations by students and group activities based on the readings from the textbook.

〔教材〕

教科書：Shawn M. Clankie and Toshihiko Kobayashi, *Language and Our World*, Sanshusha (三修社), 2007

Other materials for lessons will be distributed in class as necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students must read each chapter before coming to class. They are responsible for knowing the contents of all chapters even if they are not the one(s) the students are assigned to present.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on class participation 25%, weekly presentations 25%, sectional quizzes 30%, and a term paper 20%.

〔備考〕

- ・ The classes will be conducted in English.
- ・ Students will be expected to present their research on assigned material on a weekly basis.
- ・ Attendance and class participation are crucial to passing this course.

〔授 業 計 画〕

第1週	Introductory Class Chapter-selection for presentations Chapter 1 - The Dawn of Language
第2週	Chapter 2 - Do Animals Have Language? Chapter 3 - The Rosetta Stone
第3週	Quiz 1 Chapter 4 - Chomsky and Universal Grammar Chapter 5 - Younger is Better
第4週	Chapter 6 - Misunderstandings about Bilingualism Quiz 2 Chapter 7 - Are Men and Women's Speech Really Different?
第5週	Chapter 8 - Politeness Chapter 9 - PC (Politically Correct) Speech
第6週	Quiz 3 Chapter 10 - What Makes a Good Language Learner? Chapter 11 - Individual and Societal Multilingualism
第7週	Chapter 12 - The Role of Teaching Methods in Language Learning Quiz 4 Chapter 13 - Ways of Organizing Languages
第8週	Chapter 14 - What's the Difference between a Language and a Dialect? Chapter 15 - Ryukyuan: Language or a Dialect?
第9週	Quiz 5 Chapter 16 - Official Languages: Harmful or Beneficial? Chapter 17 - The English-only Movement in the U.S.
第10週	Chapter 18 - Esperanto Quiz 6 Chapter 19 - Language Change
第11週	How to Write a Paper Chapter 20 - Prescriptivism and Descriptivism Chapter 21 - Loanwords
第12週	Quiz 7 Chapter 22 - Why Do Languages Disappear? Chapter 23 - Saving the World's Languages
第13週	Chapter 24 - Revitalizing Hawaiian and Welsh Quiz 8 Final Paper Due
第14週	Language Game
第15週	Wrap-up
This syllabus is a guide for the course. It is not fixed and the pace will be adjusted as necessary.	

副題	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう!			担当者	大野 純子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

- ・英語音素の発音を学び、ネイティブらしい発音の習得を目指します。
- ・ノーマルスピードにおける文単位の音変化を学び、リスニング力の向上を図ります。
- ・TOEIC リスニング部門 50点以上のスコアアップを目標とします。

〔授業の内容〕

- ・CBSニュースを題材に、同時音読、シャドーイング、日本語⇒英語などの通訳訓練法を実践します。
- ・シャドーイングを録音して、固まりで抜けるところなどを繰り返し練習し、表現そのものの習得を目指します。
- ・クラスメートのシャドーイングを聴き、お互いに評価しあいます。

〔教材〕

教科書：熊井信弘 Stephen Timson, *CBS News Break 2*, First Edition, 成美堂, 2015
 参考書：国井信一 橋本敬子『究極の英語学習法 K&H System』初版, アルク, 2001年
 篠田顕子 他『英語リスニング・クリニック』初版, 研究社, 2000年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指示された場所を予習してきてください。

〔成績評価の方法〕

授業参加度40%, 各unit終了後の小テスト40%, レポート20%

〔備考〕

USBメモリーを使用しますので、初回授業よりご持参ください。
 授業内容について質問がある場合は、火曜日の昼休みにサポートセンターにお越しください。

〔授業計画〕

- 第1週 Introduction
 第2週 Unit 1 UNIQLO Aims High
 第3週 同上
 第4週 Unit 2 Study Finds How TV Affects Children's Behavior
 第5週 同上
 第6週 Unit 3 Texting & Driving...It Can Wait
 第7週 同上
 第8週 Unit 4 Students Unwind inTherapy Dog Lounge Ahead of Finals
 第9週 同上
 第10週 Unit 5 BringingClean Water To the World throughCharity: Water
 第11週 同上
 第12週 Unit 6 A Wave of Asian Immigrants
 第13週 同上
 第14週 Unit 7 Facebook Envy
 第15週 同上

各unit終了後に小テストを行います。

授業計画は変更する場合があります。

英語演習IC

3624000100300

副題	News英語と映画の英語			担当者	渡辺 幸俊 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	5

〔授業の到達目標〕

ニュースのディクテーションを通して国際ニュースを理解できるようになること。
映画の英語を楽しめる耳をもてるようになること。

〔授業の内容〕

国際ニュースの頻出語彙を習得し、各ジャンル別の語彙を最新のニュースを通して養います。
そのため、各授業の前に語彙テストを課します。

また、映画についてはディズニーアニメを取り上げ、各場面についての質問に答えていく過程で、英語耳を培っていきます。

〔教材〕

テキストにはプリントを用意いたします。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

語彙テストを課しますので、そのために前週の語彙の復習を必ず行ってください。

〔成績評価の方法〕

毎回、語彙テストを課します。ニュースを聞き取る上で語彙力は欠かせません。授業の開始時に行いますので、遅刻厳禁です。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	最新英語ニュース+ディズニーアニメ
第2週	語彙テスト+最新英語ニュース+ディズニーアニメ
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題	アイルランドの文化に触れる			担当者	小村 志保 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5

〔授業の到達目標〕

一般的な英文（新聞、雑誌、論文等）が読めるようになることを目指します。読解力の向上を目指す学生に適します。

〔授業の内容〕

英語圏の国として認識されているアイルランドですが、国民が英語を日常的に使用するようになったのは、わずか150年ほど前のことです。それまでは大多数の国民が母語であるアイルランド語（ゲール語）を使用し、それに伴って独自の文化や風習も継承してきました。こうした経緯から、現在でもアイルランドで使用される英語には興味深い特徴があります。授業ではアイルランドで広く知られている神話、民話、妖精物語などを読みながら、その文化や歴史に触れる機会にしたいと思います。受講生は各自学期中に少なくとも1度英文テキストの和訳を発表してもらいます。教科書は使わず適宜プリントを配布します。

〔教材〕

プリントを適宜配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

その週に扱うテキストを各自事前に和訳して毎回の授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

出席（30%）課題発表（40%）期末テスト（30%）により判断します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 テキストの輪読と解説
- 第3週 〃
- 第4週 〃
- 第5週 〃
- 第6週 〃
- 第7週 〃
- 第8週 〃
- 第9週 〃
- 第10週 〃
- 第11週 〃
- 第12週 〃
- 第13週 〃
- 第14週 〃
- 第15週 理解度の確認

課題発表の進み具合により授業計画を変更する場合があります。

副題	A Taste of English			担当者	谷口 めぐみ 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2

〔授業の到達目標〕

本講義は受講者の教養としての英語力の向上を目指すものです。言語を分析的に学習する方法やツールとしての英語の運用能力を身につけていきましょう。

〔授業の内容〕

「英語を楽しく学びたい!」という学生の想いに応えられるような、そして、高校までの英語学習で教わってきた文法ルールも復習できてしまう、少し欲張った英語学習をこの演習では目指します。今、多くの方々の関心と呼ぶ「食」と「文学作品」の接点を見つけてテキストにしたものを用いて、身近な話題から英語を楽しく、効果的に、学習しましょう。

『英文法再入門』を用いて文法事項の復習をしっかりと行った後、200～250wordsのエッセイを分析することで読解力を高め、文法項目の実践化に挑戦しましょう。また、総合的な英語力の養成となるよう、長文読解・文法理解に加え、英作文の練習や食に関連した語句の紹介も教養として行います。さらに、紹介された文学作品も実際に輪読することを通じて、作品に関するグループディスカッションを適宜行います。

〔教材〕

教科書：Fiona Wall Minami et al., *A Taste of English: Food and Fiction*, Asahi Press, 2013
町田健、豊島克己（編）、*大学生のための英文法再入門*, 研究社, 2014

上記指定テキストの他、英作文用のプリント教材を配布し、演習を通して学習した内容のアウトプットを皆さんがより効果的にできるよう指導に取り組みます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で説明した文法事項の復習及び定着のため、当該文法事項の演習問題に取り組んだうえで、次回授業に参加すること。

文法事項の学習内容に応じたリーディング教材がテキストにあります。文法学習の進度に応じて教員が指示しますので、あらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるよう準備すること。

〔成績評価の方法〕

出席点（30%）、試験（50%）、課題提出状況・授業参加態度（20%）により総合的に評価します。

〔備考〕

授業に辞書（電子辞書・可）を携行してください。

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction 文型
第2週	品詞
第3週	Peter Rabbit and Pie
第4週	分詞構文
第5週	Mrs. Rabbit and Herb Tea <Review>
第6週	比較
第7週	O. Henry and "Witches' Loaves"
第8週	時制
第9週	The Old Man and Fish
第10週	関係詞
第11週	Breakfast and Tiffany's
第12週	受動態
第13週	Agatha Christie and Apples <Review>
第14週	助動詞 Bridget Jones and Dieting
第15週	Itの用法（強調） Harry Potter and Chocolate Frogs

上記の授業計画はあくまでも「計画」であり、進度や内容は受講者の英語理解度に応じて修正される可能性があります。秋学期開講の英語演習Ⅱ・Eにおける学習項目との重複は最小限にとどめ、また、学習内容の実践化の力点が異なるように授業の年間計画を立てているため、英語演習Ⅰ・Eと英語演習Ⅱ・Eを続けて受講することに問題はありません。

副題	Language Change			担当者	川口 エレン 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

This course will be conducted in English. The instructor hopes that the students will be able to improve their overall skills in English, as well as learn about language at a slightly deeper level.

〔授業の内容〕

We will go through the different types of changes there are and have occurred in languages in general and the changes in English in particular. We will also look at the different attitudes people have towards language change.

The sessions will be conducted in a lecture style, but the students will be expected to present their research on assigned material on a weekly basis.

〔教材〕

There will be no textbook for this course. Printed handouts will be distributed in class as necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students must take good notes and review each lesson at home to be able to keep up with the class and do well on the quizzes.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on class participation 35%, homework 20% and the seven quizzes 45% given throughout the semester.

〔備考〕

The work for this class is rigorous and is not recommended if a student's English ability is less than intermediate level.

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introductory Class
- 第2週 Language Change - The Basics
- 第3週 English in the Past
- 第4週 Borrowing Words
- 第5週 Changes in Pronunciation
- 第6週 Changes in Spelling
- 第7週 Changes in Grammar
- 第8週 Changes in Meaning
- 第9週 The Origin of Dialect
- 第10週 Relatedness between Languages
- 第11週 More Remote Relations
- 第12週 The Birth and Death of Language
- 第13週 Attitudes towards Language Change
- 第14週 World Englishes
- 第15週 Wrap-up

This syllabus is a guide to the course. It is not fixed and the pace will be adjusted as necessary, thereby adjusting the progress of the syllabus accordingly.

副 題	Reading for better communication			担 当 者	清水 英之 講師		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	水	時 限	2

〔授業の到達目標〕

この授業では英語の発音技術の習得と文法理解を到達目標にしています。

〔授業の内容〕

この授業では音読を中心とした英文の読書法を体得するために、必要な文法的事項を確認し、英語での思考が可能になるよう訓練します。テキストの内容は交流分析という心理療法を土台にしたコミュニケーション技術に関するものです。とくに夫婦間の心理的な交流に焦点が当てられています。

〔教材〕

教科書：Dan Kiley 『The Wendy Dilemma』（ウェンディ・ジレンマ）開拓社，1986年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含め教科書の予習を2時間、授業の復習を1時間することが必要です。

〔成績評価の方法〕

毎回の授業でのリアクションペーパーと定期試験の成績で評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 英語の発音とリズムについて
- 第2週 英語のイントネーションについて
- 第3週 Introduction (1)
- 第4週 Introduction (2)
- 第5週 Introduction (3)
- 第6週 One Woman Caught in the Trap (1)
- 第7週 One Woman Caught in the Trap (2)
- 第8週 One Woman Caught in the Trap (3)
- 第9週 Are You in Danger of the Wendy Trap? (1)
- 第10週 Are You in Danger of the Wendy Trap? (2)
- 第11週 Are You in Danger of the Wendy Trap? (3)
- 第12週 Loving, Not Mothering (1)
- 第13週 Loving, Not Mothering (2)
- 第14週 Loving, Not Mothering (3)
- 第15週 まとめ

副題	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう!			担当者	大野 純子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

- ・英語音素の発音を学び、ネイティブらしい発音の習得を目指します。
- ・ノーマルスピードにおける文単位の音変化を学び、リスニング力の向上を図ります。
- ・TOEIC リスニング部門 50点以上のスコアアップを目標とします。

〔授業の内容〕

- ・CBSニュースを題材に、同時音読、シャドーイング、日本語⇒英語などの通訳訓練法を実践します。
- ・シャドーイングを録音して、固まりで抜けるところなどを繰り返し練習し、表現そのものの習得を目指します。
- ・クラスメートのシャドーイングを聴き、お互いに評価しあいます。

〔教材〕

教科書：熊井信弘 Stephen Timson, *CBS News Break 2*, First Edition, 成美堂, 2015
 参考書：国井信一 橋本敬子『究極の英語学習法 K&H System』初版, アルク, 2001年
 篠田顕子 他『英語リスニング・クリニック』初版, 研究社, 2000年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指示された場所を予習してきてください。

〔成績評価の方法〕

授業参加度40%, 各unit終了後の小テスト40%, レポート20%

〔備考〕

USBメモリーを使用しますので、初回授業よりご持参ください。
 授業内容について質問がある場合は、火曜日の昼休みにサポートセンターにお越しください。

〔授業計画〕

第1週	Introduction
第2週	Unit 1 UNIQLO Aims High
第3週	同上
第4週	Unit 2 Study Finds How TV Affects Children's Behavior
第5週	同上
第6週	Unit 3 Texting & Driving...It Can Wait
第7週	同上
第8週	Unit 4 Students Unwind inTherapy Dog Lounge Ahead of Finals
第9週	同上
第10週	Unit 5 BringingClean Water To the World throughCharity: Water
第11週	同上
第12週	Unit 6 A Wave of Asian Immigrants
第13週	同上
第14週	Unit 7 Facebook Envy
第15週	同上

各unit終了後に小テストを行います。

授業計画は変更する場合があります。

英語演習Ⅰ

3624000100900

副題	English Pronunciation Practice through Shakespeare Songs			担当者	清水 英之 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

You will be able to pronounce English properly through this class.

〔授業の内容〕

この授業は英語の発音に自信を持っていただくことが目的です。英語の世界では常識の William Shakespeare の songs をテキストに使用し、英語の発音を基礎から学びます。英語での声の出し方、母音の発音の仕方、子音の発音の仕方、単語の発音方法、語句の発音方法などを科学的に学び、ひたすら訓練をすることにより自信を持って英語を発音することができるようになるでしょう。英語には正しい発音といわれるものはありません。なぜなら、英語は様々な方言で成り立っているからです。では、私たち日本人はどのような英語の発音をすればよいのでしょうか。一緒に研究しましょう。

〔教材〕

教科書：荒井良雄編著『シェイクスピア名セリフ集』初版，朝日出版社，2013年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含め教科書の予習に2時間，授業後に教科書の音読と暗記に1時間以上かけることが必要です。

〔成績評価の方法〕

必要な出席回数と毎回の授業評価コメントおよび定期試験の結果を総合的に判断し評価をします。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 英語の発声法と母音の発音
- 第2週 アクセントと子音の発音
- 第3週 リズム練習（1）Under the Greenwood Tree
- 第4週 リズム練習（2）O Mistress Mine
- 第5週 イントネーションの不思議 Under the Greenwood Tree
- 第6週 イントネーション練習（1）O Mistress Mine
- 第7週 イントネーション練習（2）Come away, death
- 第8週 It was a Lover and his Lass
- 第9週 Who is Silvia?
- 第10週 How should I your True Love Know?
- 第11週 Tomorrow is St. Valentine's Day
- 第12週 O Willo, Willo, Willo
- 第13週 Fear no more the heat o' the sun
- 第14週 When that I was and a little tiny boy
- 第15週 まとめ

原則として毎回違ったシェイクスピアの歌を読みます。

副題	Reciting English poems			担当者	清水 英之 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

You will be able to pronounce English properly through this class.

〔授業の内容〕

この授業の目的は英語の詩を朗読することです。英語の詩を人前で朗読するためには、世界に通用する英語の発音が必要となります。英語の発音に関する知識を確認しながら英語での朗読を楽しみましょう。また、英米の文学に触れることにより、日本文化の外の視点から自国の文化を眺め、皆さんの心の成長を促し楽しい人生を生きるきっかけになればと願っています。

〔教材〕

毎回プリントを使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含めテキストの予習に2時間、授業後にテキストの音読と暗記に1時間以上かけることが必要です。

〔成績評価の方法〕

必要な出席回数、毎回の授業評価コメント、定期試験の結果などを総合的に判断して評価をします。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 母音の発音確認
- 第2週 ストレスアクセントとリズム
- 第3週 子音の発音確認 Rain
- 第4週 単語の発音方法 From a Railway Carriage
- 第5週 語句の発音方法 Who has seen the wind?
- 第6週 リズムの習得 Song
- 第7週 ピッチアクセントとイントネーション To the Virgins, to make much of your time
- 第8週 イントネーションの習得 A Shropshire Lad II
- 第9週 意味を伝える音読 The Rainbow
- 第10週 英詩の朗読 The Daffodils
- 第11週 英詩の朗読 A Red, Red Rose
- 第12週 英詩の朗読 The Last Rose of Summer
- 第13週 英詩の朗読 Sonnet 18
- 第14週 英詩の朗読 Sonnet 29
- 第15週 まとめ

授業は計画的に考えられているので欠席しないように健康を維持してください。

副 題	TOEIC対策			担 当 者	山口 志のぶ 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	金	時 限	3

〔授業の到達目標〕

この授業では、英語による実践的なコミュニケーション能力を身につける手段としてTOEICテストに立ち向かえるように、問題の対処法と解答のコツを学びながらスコアアップを目指します。

〔授業の内容〕

春学期は、リスニング・パート対策に重点をおいてTOEICで用いられる5つのアクセントに聞き慣れ、口頭練習や数多くの練習問題を解くことでリスニング能力の向上を促します。テスト全体を見失わないように、偶数章の終わりで未習パートの問題についても学習します。

〔教材〕

教科書：Miles Craven, 宮崎充保著『Valuable Clues for the TOEIC® Test』初版, 成美堂, 2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習として小テストを予定しています。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60%に平常点約40%（出席状況＋授業態度＋課題＋小テスト等）を加えた総合評価とします。

〔備考〕

対象者：TOEIC700点未満の者

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Unit 1 Part 1 Photographs 1
- 第3週 Unit 2 Part 1 Photographs 2
- 第4週 Part 1 まとめ
- 第5週 Unit 3 Part 2 Question-Response 1
- 第6週 Unit 4 Part 2 Question-Response 2
- 第7週 Part 2 まとめ
- 第8週 Unit 5 Part 3 Conversations 1
- 第9週 Unit 6 Part 3 Conversations 2
- 第10週 Part 3 まとめ
- 第11週 Unit 7 Part 4 Short Talks 1
- 第12週 Unit 8 Part 4 Short Talks 2
- 第13週 Part 4 まとめ
- 第14週 〃
- 第15週 総まとめ

上記のスケジュールは受講者の英語力や人数によって変更する可能性があります。

副題	TOEIC対策			担当者	山口 志のぶ 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4

〔授業の到達目標〕

この授業では、英語による実践的なコミュニケーション能力を身につける手段としてTOEICテストに立ち向かえるように、問題の対処法と解答のコツを学びながらスコアアップを目指します。

〔授業の内容〕

春学期は、リスニング・パート対策に重点をおいてTOEICで用いられる5つのアクセントに聞き慣れ、口頭練習や数多くの練習問題を解くことでリスニング能力の向上を促します。テスト全体を見失わないように、偶数章の終わりで未習パートの問題についても学習します。

〔教材〕

教科書：Miles Craven, 宮崎充保著『Valuable Clues for the TOEIC® Test』初版, 成美堂, 2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習として小テストを予定しています。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60%に平常点約40%（出席状況＋授業態度＋課題＋小テスト等）を加えた総合評価とします。

〔備考〕

対象者：TOEIC700点未満の者

〔授業計画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Unit 1 Part 1 Photographs 1
- 第3週 Unit 2 Part 1 Photographs 2
- 第4週 Part 1 まとめ
- 第5週 Unit 3 Part 2 Question-Response 1
- 第6週 Unit 4 Part 2 Question-Response 2
- 第7週 Part 2 まとめ
- 第8週 Unit 5 Part 3 Conversations 1
- 第9週 Unit 6 Part 3 Conversations 2
- 第10週 Part 3 まとめ
- 第11週 Unit 7 Part 4 Short Talks 1
- 第12週 Unit 8 Part 4 Short Talks 2
- 第13週 Part 4 まとめ
- 第14週 〃
- 第15週 総まとめ

上記のスケジュールは受講者の英語力や人数によって変更する可能性があります。

副 題	Language and Culture in Our World			担 当 者	川口 エレン 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	金	時 限	1

〔授業の到達目標〕

As this course will be conducted in English, the instructor hopes that the students will be able to improve their skills in English, as well as learn more about language in general and English in particular. The purpose of this course is to explore, at an introductory level, many of the themes in the world of applied linguistics.

〔授業の内容〕

Based on the topics in the textbook, our focus will be language development, language learning, how language changes and how and why languages sometimes die. The main activities will be summary presentations by students and group activities based on the readings from the textbook.

〔教材〕

教科書：Shawn M. Clankie and Toshihiko Kobayashi, *Language and Our World*, Sanshusha (三修社), 2007

Other materials for lessons will be distributed in class as necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students must read each chapter before coming to class. They are responsible for knowing the contents of all chapters even if they are not the one(s) the students are assigned to present.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on class participation 25%, weekly presentations 25%, sectional quizzes 30%, and a term paper 20%.

〔備考〕

- ・ The classes will be conducted in English.
- ・ Students will be expected to present their research on assigned material on a weekly basis.
- ・ Attendance and class participation are crucial to passing this course.

〔授 業 計 画〕

第1週	Introductory Class Chapter-selection for presentations Chapter 1 - The Dawn of Language
第2週	Chapter 2 - Do Animals Have Language? Chapter 3 - The Rosetta Stone
第3週	Quiz 1 Chapter 4 - Chomsky and Universal Grammar Chapter 5 - Younger is Better
第4週	Chapter 6 - Misunderstandings about Bilingualism Quiz 2 Chapter 7 - Are Men and Women's Speech Really Different?
第5週	Chapter 8 - Politeness Chapter 9 - PC (Politically Correct) Speech
第6週	Quiz 3 Chapter 10 - What Makes a Good Language Learner? Chapter 11 - Individual and Societal Multilingualism
第7週	Chapter 12 - The Role of Teaching Methods in Language Learning Quiz 4 Chapter 13 - Ways of Organizing Languages
第8週	Chapter 14 - What's the Difference between a Language and a Dialect? Chapter 15 - Ryukyuan: Language or a Dialect?
第9週	Quiz 5 Chapter 16 - Official Languages: Harmful or Beneficial? Chapter 17 - The English-only Movement in the U.S.
第10週	Chapter 18 - Esperanto Quiz 6 Chapter 19 - Language Change
第11週	How to Write a Paper Chapter 20 - Prescriptivism and Descriptivism Chapter 21 - Loanwords
第12週	Quiz 7 Chapter 22 - Why Do Languages Disappear? Chapter 23 - Saving the World's Languages
第13週	Chapter 24 - Revitalizing Hawaiian and Welsh Quiz 8 Final Paper Due
第14週	Language Game
第15週	Wrap-up
This syllabus is a guide for the course. It is not fixed and the pace will be adjusted as necessary.	

副題	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう!			担当者	大野 純子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

- ・英語音素の発音を学び、ネイティブらしい発音の習得を目指します。
- ・ノーマルスピードにおける文単位音変化を学び、リスニング力の向上を図ります。
- ・TOEIC リスニング部門 50点以上のスコアアップを目標とします。

〔授業の内容〕

- ・CBSニュースを題材に同時音読、シャドイング、日本語⇒英語などの通訳訓練法を実践します。
- ・シャドイングを録音して、固まりで抜けるところなどを繰り返し練習し、表現そのものの習得を目指します。
- ・クラスメートのシャドイングを聴き、お互いに評価しあいます。

〔教材〕

教科書：熊井信弘 Stephen Timson, *CBS News Break 2*, First Edition, 成美堂, 2015
 参考書：国井信一 橋本敬子『究極の英語学習法 K&H System』初版, アルク, 2001年
 篠田顕子 他『英語リスニング・クリニック』初版, 研究社, 2000年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指示された場所を予習してください。

〔成績評価の方法〕

授業参加度40%, 各unit終了後の小テスト40%, レポート20%

〔備考〕

USBメモリーを使用しますので、初回授業よりご持参ください。

授業内容について質問がある場合は、火曜日の昼休みにサポートセンターにお越しください。

〔授業計画〕

- 第1週 Introduction
 第2週 Unit 8 Smart Networking Tips
 第3週 同上
 第4週 Unit 9 Bringing Manufacturing Back to the U.S. via the Robot
 第5週 同上
 第6週 Unit 10 Manners 101
 第7週 同上
 第8週 Unit 11 Baby Boomers Moving Back To Cities
 第9週 同上
 第10週 Unit 12 Law Students Struggle to Find Work
 第11週 同上
 第12週 Unit 13 Carbon Dioxide Making Oceans More Acidic
 第13週 同上
 第14週 Unit 14 "Technovation" Aims to Get More Women in the Tech Workforce
 第15週 同上

各unit終了後に小テストを行います。

授業計画は変更する場合があります。

英語演習IIC

3624000200300

副題	News英語と映画の英語			担当者	渡辺 幸俊 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

ニュースのディクテーションを通して国際ニュースを理解できるようになること。
映画の英語を楽しめる耳をもてるようになること。

〔授業の内容〕

国際ニュースの頻出語彙を習得し、各ジャンル別の語彙を最新のニュースを通して養います。
そのため、各授業の前に語彙テストを課します。

また、映画については宮崎駿監督作品の英語版を取り上げ、各場面についての質問に答えていく過程で、英語耳を培っていきます。

〔教材〕

テキストにはプリントを用意いたします。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

語彙テストを課しますので、そのために前週の語彙の復習を必ず行ってください。

〔成績評価の方法〕

毎回、語彙テストを課します。ニュースを聞き取る上で語彙力は欠かせません。授業の開始時に行いますので、遅刻厳禁です。

〔備考〕

〔授業計画〕

第1週	最新英語ニュース+宮崎駿アニメ・英語版
第2週	語彙テスト+最新英語ニュース+宮崎駿アニメ・英語版
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題	アイルランドの歴史に触れる			担当者	小村 志保 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5

〔授業の到達目標〕

一般的な英文（新聞、雑誌、論文等）が読めるようになることを目指します。読解力の向上を目指す学生に適します。

〔授業の内容〕

一般的な世界史の学習においてアイルランドの歴史が取り上げられることはほとんどありません。長く英国の支配下にあったため英国の一部として誤って認識されることも多いのですが、実際にはアイルランドの歴史は英国からの独立を目指してきた歴史とすることができます。今日まで約500年に及ぶ独立運動では、暴力に頼るのか非暴力で運動を進めるのか、が常に問題になってきましたが、このことは今日の世界情勢を考える際にも参考になるものです。授業では主に独立運動にかかわった人々の言説を参考に、民族、言語、宗教が複雑に絡んだアイルランドの歴史に触れる機会にしたいと思います。受講生は各自学期中に少なくとも1度英文テキストの和訳を發表してもらいます。教科書は使わず適宜プリントを配布します。

〔教材〕

プリントを適宜配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

その週に扱うテキストを各自事前に和訳して毎回の授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

出席（30%）課題発表（40%）期末テスト（30%）により判断します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 テキストの輪読と解説
- 第3週 ッ
- 第4週 ッ
- 第5週 ッ
- 第6週 ッ
- 第7週 ッ
- 第8週 ッ
- 第9週 ッ
- 第10週 ッ
- 第11週 ッ
- 第12週 ッ
- 第13週 ッ
- 第14週 ッ
- 第15週 理解度の確認

課題発表の進み具合により授業計画を変更する場合があります。

副題	A Flavor of English			担当者	谷口 めぐみ 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2

〔授業の到達目標〕

本講義は受講者の教養としての英語力の向上を目指すものです。言語を分析的に学習する方法やツールとしての英語の運用能力を身につけていきましょう。

〔授業の内容〕

「英語を楽しく学びたい!」という学生の想いに応えられるような、そして、高校までの英語学習で教わってきた文法ルールも復習できてしまう、少し欲張った英語学習をこの演習では目指します。「英語を楽しく学ぶ」方法の1つとして、映画を題材としたテキストを用いて、映画に登場する食文化や食べ物をはじめとする身近な話題から英語を楽しく、効果的に、学習しましょう。

『英文法再入門』を用いて文法事項の復習をしっかりと行った後、それぞれの映画について述べた200～250wordsのエッセイを分析することで読解力を高め、文法項目の実践化に取り組みます。また、総合的な英語力の養成となるよう、長文読解・文法理解に加え、英作文の練習を行い、映画批評に挑戦します。

〔教材〕

教科書：Fiona Wall Minami et als., *A Flavor of English: Cinema and Cuisine*, Asahi Press, 2014

町田健、豊島克己 (編), *大学生のための英文法再入門*, 研究社, 2014

参考書：Eric Bray, *Movie Time!*, Nan'un-Do, 2012

上記指定テキストの他、英作文用のプリント教材を配布し、演習を通して学習した内容のアウトプットを皆さんがより効果的にできるよう指導に取り組みます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で説明した文法事項の復習及び定着のため、当該文法事項の演習問題を取り組んだうえで、次回授業に参加すること。

文法事項の学習内容に応じたリーディング教材がテキストにあります。文法学習の進度に応じて教員が指示しますので、あらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備すること。

〔成績評価の方法〕

出席点（30%）、試験（50%）、課題提出状況・授業参加態度（20%）により総合的に評価します。

〔備考〕

授業に辞書（電子辞書・可）を携行してください。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction / 動詞の基礎
- 第2週 西の魔女が死んだ
- 第3週 時制
- 第4週 Kramer v. Kramer
- 第5週 疑問詞
- 第6週 Charlie and the Chocolate Factory (1)
- 第7週 Charlie and the Chocolate Factory (2)
- 第8週 動名詞 Super Size Me
不定詞 Dear Frankie
- 第9週 接続詞
No Reservations
- 第10週 仮定法
- 第11週 Notting Hill (1)
- 第12週 Notting Hill (2)
- 第13週 Writing a Movie Review (1)
- 第14週 Writing a Movie Review (2)
- 第15週 <Review>

上記の授業計画はあくまでも「計画」であり、進度や内容は受講者の英語理解度に応じて修正される可能性があります。春学期開講の英語演習I・Eにおける学習項目との重複は最小限にとどめ、また、学習内容の実践化の力点が異なるように授業の年間計画を立てているため、英語演習I・Eと英語演習II・Eを続けて受講することに問題はありません。

副題	Language Change			担当者	川口 エレン 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

This course will be conducted in English. The instructor hopes that the students will be able to improve their overall skills in English, as well as learn about language at a slightly deeper level.

〔授業の内容〕

We will go through the different types of changes there are and have occurred in languages in general and the changes in English in particular. We will also look at the different attitudes people have towards language change.

The sessions will be conducted in a lecture style, but the students will be expected to present their research on assigned material on a weekly basis.

〔教材〕

There will be no textbook for this course. Printed handouts will be distributed in class as necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students must take good notes and review each lesson at home to be able to keep up with the class and do well on the quizzes.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on class participation 35%, homework 20% and the seven quizzes 45% given throughout the semester.

〔備考〕

The work for this class is rigorous and is not recommended if a student's English ability is less than intermediate level.

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introductory Class
- 第2週 Language Change - The Basics
- 第3週 English in the Past
- 第4週 Borrowing Words
- 第5週 Changes in Pronunciation
- 第6週 Changes in Spelling
- 第7週 Changes in Grammar
- 第8週 Changes in Meaning
- 第9週 The Origin of Dialect
- 第10週 Relatedness between Languages
- 第11週 More Remote Relations
- 第12週 The Birth and Death of Language
- 第13週 Attitudes towards Language Change
- 第14週 World Englishes
- 第15週 Wrap-up

This syllabus is a guide to the course. It is not fixed and the pace will be adjusted as necessary, thereby adjusting the progress of the syllabus accordingly.

副 題	Reading for better communication			担 当 者	清水 英之 講師		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	水	時 限	2

〔授業の到達目標〕

この授業では英語の発音技術の習得と文法理解を到達目標にしています。

〔授業の内容〕

この授業では音読を中心とした英文の読書法を体得するために、必要な文法的事項を確認し、英語での思考が可能になるよう訓練します。テキストの内容は交流分析という心理療法を土台にしたコミュニケーション技術に関するものです。とくに夫婦間の心理的な交流に焦点が当てられています。

〔教材〕

教科書：Dan Kiley 『The Wendy Dilemma』（ウェンディ・ジレンマ）開拓社，1986年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含め教科書の予習を2時間，授業の復習を1時間以上することが必要です。

〔成績評価の方法〕

毎回の授業でのリアクションペーパーと定期試験の成績で評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 英語の発音とリズムについて
- 第2週 英語のイントネーションについて
- 第3週 Loving, Not Mothering
- 第4週 The Adult Love Script (1)
- 第5週 The Adult Love Script (2)
- 第6週 Give-and-Take (1)
- 第7週 Give-and-Take (2)
- 第8週 Give-and-Take (3)
- 第9週 Tolerance and Empathy
- 第10週 Dependability
- 第11週 Personal Development
- 第12週 Sharing (1)
- 第13週 Sharing (2)
- 第14週 Realism, Intimacy, The X factor
- 第15週 まとめ

副題	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう!			担当者	大野 純子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

- ・英語音素の発音を学び、ネイティブらしい発音の習得を目指します。
- ・ノーマルスピードにおける文単位音変化を学び、リスニング力の向上を図ります。
- ・TOEIC リスニング部門 50点以上のスコアアップを目標とします。

〔授業の内容〕

- ・CBSニュースを題材に同時音読、シャドイング、日本語⇒英語などの通訳訓練法を実践します。
- ・シャドイングを録音して、固まりで抜けるところなどを繰り返し練習し、表現そのものの習得を目指します。
- ・クラスメートのシャドイングを聴き、お互いに評価しあいます。

〔教材〕

教科書：熊井信弘 Stephen Timson, *CBS News Break 2*, First Edition, 成美堂, 2015
 参考書：国井信一 橋本敬子『究極の英語学習法 K&H System』初版, アルク, 2001年
 篠田顕子 他『英語リスニング・クリニック』初版, 研究社, 2000年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指示された場所を予習してください。

〔成績評価の方法〕

授業参加度40%, 各unit終了後の小テスト40%, レポート20%

〔備考〕

USBメモリーを使用しますので、初回授業よりご持参ください。
 授業内容について質問がある場合は、火曜日の昼休みにサポートセンターにお越しください。

〔授業計画〕

第1週	Introduction
第2週	Unit 8 Smart Networking Tips
第3週	同上
第4週	Unit 9 Bringing Manufacturing Back to the U.S. via the Robot
第5週	同上
第6週	Unit 10 Manners 101
第7週	同上
第8週	Unit 11 Baby Boomers Moving Back To Cities
第9週	同上
第10週	Unit 12 Law Students Struggle to Find Work
第11週	同上
第12週	Unit 13 Carbon Dioxide Making Oceans More Acidic
第13週	同上
第14週	Unit 14 "Technovation" Aims to Get More Women in the Tech Workforce
第15週	同上

各unit終了後に小テストを行います。

授業計画は変更する場合があります。

副 題	English Pronunciation Practice through Shakespeare Works			担 当 者	清水 英之 講師		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	水	時 限	3

〔授業の到達目標〕

You will be able to pronounce English properly through this class.

〔授業の内容〕

この授業は英語の発音に自信を持っていただくことが目的です。英語の世界では常識の William Shakespeare の作品をテキストに使用し、英語の発音を基礎から学びます。英語での声の出し方、母音の発音の仕方、子音の発音の仕方、単語の発音方法、語句の発音方法などを科学的に学び、ひたすら訓練をすることにより自信を持って英語を発音することができるようになるでしょう。英語には正しい発音といわれるものはありません。なぜなら、英語は様々な方言で成り立っているからです。では、私たち日本人はどのような英語の発音をすればよいのでしょうか。一緒に研究しましょう。

〔教材〕

教科書：荒井良雄編著『シェイクスピア名セリフ集』初版、朝日出版社、2013年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含め教科書の予習に2時間、授業後に教科書の音読と暗記に1時間以上かけることが必要です。

〔成績評価の方法〕

必要な出席回数と毎回の授業評価コメントおよび定期試験の結果を総合的に判断し評価をします。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 英語の発声法と母音の発音
 - 第2週 アクセントと子音の発音
 - 第3週 リズム練習（1）Lovers
 - 第4週 リズム練習（2）Nothing
 - 第5週 イントネーションの不思議 Universe
 - 第6週 イントネーション練習（1）What is a Man?
 - 第7週 イントネーション練習（2）Mercy
 - 第8週 To be or not to be
 - 第9週 Schoolboys
 - 第10週 Infants
 - 第11週 Sonnet 18
 - 第12週 Sonnet 29
 - 第13週 Sonnet 30
 - 第14週 Sonnet 105
 - 第15週 まとめ
- 原則として毎回違ったシェイクスピアのセリフを読みます。

副題	English Pronunciation Practice through English Popular Songs			担当者	清水 英之 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

You will be able to pronounce English properly through this class.

〔授業の内容〕

この授業の目的は英米のポピュラーソングズを用いて英語の発音を学ぶことです。英語の歌を歌うためには、世界に通用する英語の発音が必要となります。英語の発音に関する知識を確認しながら英語の歌を楽しみましょう。また、英米の流行歌に触れることにより、アメリカ人やイギリス人の心を感じ、彼らの愛や孤独について考えましょう。

〔教材〕

教材はプリントを使用します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含めテキストの予習に2時間、授業後にテキストの音読と暗記に1時間以上かけることが必要です。

〔成績評価の方法〕

必要な出席回数、毎回の授業評価コメント、定期試験の結果などを総合的に判断して評価をします。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 英語の発声法と母音の発音
- 第2週 英語の子音の発音
- 第3週 英語のリズムについて Mary had a little lamb
- 第4週 英語のイントネーションについて Twinkle, twinkle, little star
- 第5週 I'm a Rock
- 第6週 You're Beautiful
- 第7週 Let it Be
- 第8週 Honesty
- 第9週 I Still Haven't Found What I'm Looking for
- 第10週 Imagine
- 第11週 Greatest Love of All
- 第12週 A Candle in the Wind
- 第13週 Last Christmas
- 第14週 Chiquitita
- 第15週 まとめ

授業は計画的に考えられているので欠席しないように健康を維持してください。また、授業以外の学習として習った英語の歌をカラオケなどで練習してください。

副 題	TOEIC対策			担 当 者	山口 志のぶ 講師		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	金	時 限	3

〔授業の到達目標〕

この授業では、英語による実践的なコミュニケーション能力を身につける手段としてTOEICテストに立ち向かえるように、問題の対処法と解答のコツを学びながらスコアアップを目指します。

〔授業の内容〕

秋学期は、リーディング・パート対策に重点をおいて文法問題や長文読解の練習問題を数多くこなします。テスト全体を見失わないように、偶数章の終わりで未習パートの問題についても学習します。随時、速読力向上や語彙力増強に役立つ資料を配布して解説します。

〔教材〕

教科書：Miles Craven, 宮崎充保『Valuable Clues for the TOEIC® Test』初版, 成美堂, 2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習として小テストを予定しています。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60%に平常点約40%（出席状況＋授業態度＋課題＋小テスト等）を加えた総合評価とします。

〔備考〕

対象者：TOEIC700点未満の者

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Listening Test: Part 1 - 4 復習
- 第3週 Unit 9 Part 5 Incomplete Sentences 1
- 第4週 ♪
- 第5週 Unit 10 Part 5 Incomplete Sentences 2
- 第6週 ♪
- 第7週 Unit 11 Part 6 Text Completion 1
- 第8週 ♪
- 第9週 Unit 12 Part 6 Text Completion 2
- 第10週 ♪
- 第11週 Unit 13 Part 7 Reading Comprehension 1
- 第12週 ♪
- 第13週 Unit 14 Part 7 Reading Comprehension 2
- 第14週 ♪
- 第15週 まとめ

上記のスケジュールは受講者の英語力や人数によって変更する可能性があります。

副題	TOEIC対策			担当者	山口 志のぶ 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4

〔授業の到達目標〕

この授業では、英語による実践的なコミュニケーション能力を身につける手段としてTOEICテストに立ち向かえるように、問題の対処法と解答のコツを学びながらスコアアップを目指します。

〔授業の内容〕

秋学期は、リーディング・パート対策に重点をおいて文法問題や長文読解の練習問題を数多くこなします。テスト全体を見失わないように、偶数章の終わりで未習パートの問題についても学習します。随時、速読力向上や語彙力増強に役立つ資料を配布して解説します。

〔教材〕

教科書：Miles Craven, 宮崎充保『Valuable Clues for the TOEIC® Test』初版, 成美堂, 2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習として小テストを予定しています。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60%に平常点約40%（出席状況＋授業態度＋課題＋小テスト等）を加えた総合評価とします。

〔備考〕

対象者：TOEIC700点未満の者

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Listening Test: Part 1 - 4 復習
- 第3週 Unit 9 Part 5 Incomplete Sentences 1
- 第4週 ♪
- 第5週 Unit 10 Part 5 Incomplete Sentences 2
- 第6週 ♪
- 第7週 Unit 11 Part 6 Text Completion 1
- 第8週 ♪
- 第9週 Unit 12 Part 6 Text Completion 2
- 第10週 ♪
- 第11週 Unit 13 Part 7 Reading Comprehension 1
- 第12週 ♪
- 第13週 Unit 14 Part 7 Reading Comprehension 2
- 第14週 ♪
- 第15週 まとめ

上記のスケジュールは受講者の英語力や人数によって変更する可能性があります。

副題	歴史を動かす国際報道			担当者	明石 和康 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5

〔授業の到達目標〕

国際関係がダイナミックに展開している現在、日々変化する世界の動きを伝える国際報道の重要性は日に日に高まっている。歴史が大きく動く際の国際報道の役割を理解するとともに、報道の持つ国際的なコミュニケーション能力の実態を学ぶことで、学生自身が世界の動きを大きな歴史の一コマとしてとらえる力を養い、自らのコミュニケーション能力も磨く意志を持つように社会認識を深める。

〔授業の内容〕

国際報道の担い手とは何かを最初に提示し、続いて教員の通信社記者としての経験を基に、主に米国や欧州、中南米における報道の実態、歴史的な出来事が起きた際の国際報道の役割、さらには現在の報道について事例に当たりながらその意味合いや内容を批判的に学ぶ。具体的な事例としては、米国での客観報道の歴史、国際通信社の変遷と業務、ベルリンの壁崩壊時(1989年)や米同時多発テロ(2001年)の際の報道などを取り上げる。毎回、質疑と意見提示の時間を設け、積極的な参加を学生に求める。

〔教材〕

参考書：明石和康『ヨーロッパがわかる一起源から統合への道のり』岩波書店、2013年
明石和康『大統領でたどるアメリカの歴史』岩波書店、2012年
その他、随時指示する。

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、指定した参考文献をあらかじめ読んだ上で出席すること。また、復習とレポート作成にしっかり時間をかけること。1コマの授業について、予習・復習の時間は合わせて少なくとも4時間とし、計60時間の教室外学習の時間を取るように。

〔成績評価の方法〕

適宜レポートを提出させる。数回のレポート(1回につき2000字程度)の総合点が50%、理解度の確認が20%、授業中の質疑応答、意見提示が30%。なお、出席を重視する。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 授業の説明, スケジュール
- 第2週 国際報道の担い手とは
- 第3週 アメリカにおける報道 1
- 第4週 アメリカにおける報道 2
- 第5週 アメリカにおける報道の歴史
- 第6週 理解度の確認
- 第7週 欧州における報道
- 第8週 歴史の変わり目とは何か
- 第9週 中南米における報道
- 第10週 理解度の確認
- 第11週 通信社の歴史と役割
- 第12週 現在の国際報道 1
- 第13週 現在の国際報道 2
- 第14週 理解度の確認
- 第15週 まとめ

理解度の確認の時期は多少前後する可能性がある。進行状況にもよるが、少なくとも3回はレポートを提出してもらおう。授業内容を変更する場合もある。授業中には適宜、教員から学生に質問し、学生からの質問や意見も求める。

国際関係論I (国際関係史)

3622000900100

国際コミュニケーション
ケージョニ学科

副題	複数の国際社会			担当者	工藤 晶人 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパを軸とする国際関係史とアジア・アフリカ諸地域の歴史的展開を比較し、複眼的な世界史のとらえ方を学ぶ。

〔授業の内容〕

現代世界が前提としている国際関係の仕組みが、いかなる政治的・地理的・文化的条件の中から形成されてきたのかを概観する。秋学期の国際関係論II（日欧関係）とあわせて受講することで、より理解が深まるはずである。

〔教材〕

参考文献を授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読

〔成績評価の方法〕

学期末試験、出席状況、授業中に提出するコメントペーパーを総合的に評価する。

〔備考〕

授業内容についての質問等は、オフィスアワーに研究室で受け付ける。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 近代以前の世界1—ヨーロッパ
- 第3週 近代以前の世界2—イスラーム世界
- 第4週 近代以前の世界3—東アジアと東南アジア
- 第5週 近代以前の世界4—アフリカ
- 第6週 近世の世界とヨーロッパの勢力拡張1
- 第7週 近世の世界とヨーロッパの勢力拡張2
- 第8週 近世の世界とヨーロッパの勢力拡張3
- 第9週 近世の世界とヨーロッパの勢力拡張4
- 第10週 「長い19世紀」の国際関係1
- 第11週 「長い19世紀」の国際関係2
- 第12週 「長い19世紀」の国際関係3
- 第13週 「長い19世紀」の国際関係4
- 第14週 20世紀の国際関係
- 第15週 まとめ

授業の進行は前後することがあります。

国際関係論II（日欧関係）

3622000600100

副 題	日欧関係にみる近世と近代			担 当 者	工藤 晶人 准教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	木	時 限	2

〔授業の到達目標〕

16世紀から20世紀初頭にいたる日欧交流の歴史について理解を深める。

〔授業の内容〕

この講義では、16世紀に日欧の交流が始まってから「鎖国」と「開国」を経て日本が列強への道を歩み出す20世紀初頭にいたるまでの関係史をたどる。政治的・文化的な構造変化と、日欧交流にかかわった人々の伝記を交えて学ぶことによって、摩擦と協調の諸側面を考察する。春学期の国際関係論Iとあわせて受講することでより理解が深まるはずである。

〔教材〕

参考文献を授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読

〔成績評価の方法〕

学期末試験、授業中に提出するコメントペーパーを総合的に評価する。

〔備考〕

授業内容についての質問等は、オフィスアワーに研究室で受け付ける。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ユーラシアの近世と近代
- 第2週 〃
- 第3週 日欧交流のはじまりから「鎖国」へ
- 第4週 〃
- 第5週 江戸時代の海外交流
- 第6週 〃
- 第7週 東アジアの伝統的国際秩序
- 第8週 〃
- 第9週 主権国家体制とヨーロッパ
- 第10週 〃
- 第11週 開国と不平等条約改正
- 第12週 〃
- 第13週 列強への道と日清・日露戦争
- 第14週 〃
- 第15週 まとめ

授業の進行は前後することがあります。

副題				担当者	畠山 圭一 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

日米関係史と日米文化比較を通して、日本および米国の政治・社会・文化についての知見を獲得する。国際社会における日米関係の意義についての見識を深める。

〔授業の内容〕

日米両国の政治・社会・文化等の特質と日米関係の歴史を検討し、今日の国際社会における日米関係の役割と意義を考察する。講義の柱は二つ。ひとつは日米両国がともに国際社会において注目され始めた1890年代後半以降の日米関係史を同時代の世界史全体の流れで検討し、その歴史が示唆している教訓や日米関係が果たしてきた歴史的役割と意義を考察する。二つは日米各々の宗教・精神文化、歴史・伝統、政治・経済・経営、社会等の特徴を比較し、日米両国の特質とその異質性及び同質性を探る。この成果をもとに国際社会の現状と将来について検討し、日米関係が果たすべき国際的役割を考察する。

〔教材〕

教科書：細谷千博・本間長世編『日米関係史[新版]—摩擦と協調の140年』有斐閣

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

講義1時間あたり受講生が2時間程度の予習を行っていることを前提に講義を行うので事前にテキストの該当箇所を読んで授業に臨んでほしい。

〔成績評価の方法〕

定期試験(60)とレポート(40)の点数を合算して60点以上を合格とする。なお、3回連続の欠席、計4回の欠席で受講停止とする。また受講態度の悪い場合も欠席扱いとする。無断退出は認めない。事情があって退出する際は必ず一言断るように。

〔備考〕

予習内容、授業内容について質問があれば授業中でも遠慮せずにしてほしい。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|---|
| 第1週 | 導入 |
| 第2週 | 世界の中の日米関係【1】戦後激動期の日米関係（1950年代から70年代までの日米関係） |
| 第3週 | 世界の中の日米関係【2】日米摩擦が語るもの（1980年代の日米関係） |
| 第4週 | 世界の中の日米関係【3】岐路にさしかかった日本（1990年代の日米関係） |
| 第5週 | 世界の中の日米関係【4】21世紀初頭の日米関係（2000年代の日米関係） |
| 第6週 | 世界の中の日米関係【5】転換期の日米関係（2010年代の日米関係） |
| 第7週 | 日米戦争とは何だったのか【1】日米対決への過程 |
| 第8週 | 日米戦争とは何だったのか【2】戦前における日・米の外交思想 |
| 第9週 | アメリカとは如何なる国か【1】アメリカ精神の原点— 建国神話とキリスト教 |
| 第10週 | アメリカとは如何なる国か【2】アメリカ社会における法の観念 |
| 第11週 | アメリカとは如何なる国か【3】孤立主義と民兵思想—外交・国防の理念 |
| 第12週 | アメリカとは如何なる国か【4】保護主義と自由貿易主義—国際経済政策の理念 |
| 第13週 | 日本とは如何なる国か【1】日本型意志決定システムの特質 |
| 第14週 | 日本とは如何なる国か【2】日本人の政治的伝統 |
| 第15週 | 総括 日米新秩序の課題 |

※国際関係論Ⅳ（将来展望）

3622000800100

副 題	21世紀の国際関係			担 当 者	島山 圭一 教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	火	時 限	3

〔授業の到達目標〕

近代的価値観，特に20世紀の価値観が国際関係に及ぼした影響とそこから人類が学んだ教訓を探り，その知見をもとに，21世紀の国際社会における潮流変化の意味を理解し，国際社会の将来を展望する力を養う。

〔授業の内容〕

21世紀を迎えた今日，国際社会の環境は急速に変化しつつある。それは単に冷戦が終わったということではなく，大戦争や冷戦あるいは大恐慌の背景にあった（時には主因であった），観念や価値観がその説得力・影響力を大きく失ったことや新たな技術が発達したことと深く関係している。今日，政治，経済，社会，国際関係等の思想潮流やシステムも大きく変わろうとしている。本講義では，20世紀から21世紀への時代潮流の変化を見つめながら，21世紀の国際関係の姿を展望し，21世紀に人類が直面するであろう国際関係の課題と日本の対外政策のあり方を検討する。

〔教材〕

教科書：添谷芳秀編『21世紀国際政治の展望』慶應義塾大学出版会

本講義は何よりも予習・復習が重要であり，国際政治における20世紀の教訓と21世紀の課題についての深い議論が展開されている本書は，本講義の議論を深め，授業の到達目標を達成するために必携のテキストである。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

講義1時間あたり受講生が2時間程度の予習を行っていることを前提に講義を行うので事前にテキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

定期試験（6割）とレポート（4割）の点数を合算して評価し，6割以上を合格とする。定期試験・レポートともに，受講者の内容理解と思索の深さを基準に評価する。

〔備考〕

予習内容，授業内容について質問があれば授業中でも遠慮せずにしてほしい。なお3回連続欠席，計5回の欠席で受講停止とする。また受講態度の悪い場合も欠席扱いとする。無断退出は認めないので，やむをえない事情で退出する際は必ず一言断るようにしてほしい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 導入—検討課題と分析方法
- 第2週 国際関係に関する文明史または人類史的視点
- 第3週 20世紀はどんな時代だったのか【1】社会改革の実験
- 第4週 20世紀はどんな時代だったのか【2】ナショナリズムの昂揚
- 第5週 20世紀はどんな時代だったのか【3】経済学の発達
- 第6週 20世紀はどんな時代だったのか【4】科学技術の進歩
- 第7週 20世紀から21世紀へ【1】宗教の復権？
- 第8週 20世紀から21世紀へ【2】情報化社会の波
- 第9週 20世紀から21世紀へ【3】ボーダーレス＝新たな帝国の出現？
- 第10週 20世紀から21世紀へ【4】覇権安定論とその限界
- 第11週 21世紀の国際関係【1】民主主義の将来
- 第12週 21世紀の国際関係【2】経済自由主義の将来
- 第13週 21世紀の国際関係【3】新しい国際システム
- 第14週 21世紀の国際関係【4】戦争の未来
- 第15週 総括—21世紀を希望の世紀とするために

副題	分権社会の法			担当者	櫻井 大三 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

国際法が分権社会の法であることを具体例を用いて説明することができるようになること。

〔授業の内容〕

「国際法I」では、国際法の中でもその基本的な骨格をなす主要論点（総論）についての理解を深めることに講義の主眼が置かれる。講義では、近年わが国が直面している国際法上の諸問題などの具体的な事例を取り上げることに留意し、分かりやすい解説を心掛けたい。毎回の講義では、その日の学習内容を示したレジュメを配布することを予定している。

講義では、まず導入として、国際法の意義と基本的性格について考察する。国際法とは何か、その起源と歴史の変遷、その存在理由、国際法の存立基盤である国際社会の構造および性格とそれを反映した国際法の特徴、国際法の法的性質などが主要な検討課題となる。

そのうえで、国際法の形成について考察する。国際法は分権社会の法である以上、その形成態様はおのずと国内社会におけるそれとは異なる。これは通常、国際法の法源論という形で議論される。

以上を踏まえたうえで、国際法と国内法とがどのような協働関係を築いているのかを理論的・実際的な見地から考察することとしたい。

〔教材〕

- (1) 教科書は開講時に指示する。
- (2) 『条約集』（指定条約集については、開講時に指示する。）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

一コマ90分の授業に対して、最低限以下の予習・復習が必要となる。

1. 予習90分：教科書の該当箇所を熟読し、そこに登場する条約等の条文を予め読み込むとともに、具体的な事例を判例集等で確認すること。
2. 復習60分：講義レジュメを読み返し、不明な用語、事例等を教科書等で確認すること。

〔成績評価の方法〕

- (1) 授業中に実施する小テストないしレポート（10%程度）
- (2) 学期末試験（90%程度）

〔備考〕

国際法も法学の一分野である以上、その習得にあたり法学の基礎知識はきわめて重要（というか、不可欠）である。したがって、受講生には、担当者による「法学I」および「法学II」を履修済みであるか、少なくとも「法学I」を並行して履修することが強く推奨される。

併せて、新聞の国際面で報道される事件・事象にも平素から目配りしておくことが求められる（時事問題に関心をもち、日本や諸外国、国際社会がどのように動いているのかに注意を払って欲しい）。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 法学体系全体における国際法の位置づけ
- 第3週 国際法の基本・歴史
- 第4週 国際社会の組織構造 (1)
- 第5週 国際社会の組織構造 (2)
- 第6週 国際法の意義・特徴
- 第7週 国際法の法的性質
- 第8週 国際法の成立形式（法源・総論）
- 第9週 慣習国際法
- 第10週 条約国際法（条約法・総論）
- 第11週 法の一般原則
- 第12週 条約の締結手続
- 第13週 条約の適用範囲
- 第14週 条約の無効・終了
- 第15週 総括

法学はもとより、外交や国際関係に興味をもつ者（国際政治や地域研究の社会的側面に興味をもつ者）が意欲的に本講義を受講してくれることを希望する。受講生の要望に応じて、外交実務家（外交官等）による特別授業の実施も検討したい。

副題	国家と国際法			担当者	櫻井 大三 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

国家に関する国際法規則の内容を理解し、それら関連規則の国際紛争事例への適用態様とその法的帰結を説明することができるようになること。

〔授業の内容〕

「国際法II」では、「国際法I」で習得した総論的理解を前提とした上で、国家に関する国際法の規則を明らかにすることに主眼が置かれる。

講義の前半では、国家承認および政府承認の諸問題が検討される。国際法は、国家の成立や変動・消滅についてどのような規律の枠組みを有しているのか、また、政府の非合法的な変更が行われた場合には、国際法上はどのような対応がありうるのか、ここでの問題意識である。

講義の後半では、国家管轄権というキーワードを軸に、国家の領域主権が及ぶ場所的範囲の構造と性質を解明する。国家管轄権とは、国家がその国内法を一定の人、財産または事実に対して適用し執行する国際法上の権能をいい、国家主権の具体的な発現形態を示すものである。今日の国際社会において生ずる国際紛争は、各国がその政策、国内法令または執行措置などの国家管轄権を、相互に受忍可能な国際法上の条件と限界を越えて実施することに起因しており、国際紛争の争点を把握するためにも、国家管轄権の基本構造とその特質の理解は不可欠である。

以上、いずれの論点の検討に際しても、近年わが国が直面している国際法上の諸問題にできる限り言及するように努めることとし、国際法が単なる道徳や礼讓ではなく、実定法規範として機能している実態を明らかにすることに努めたい。

〔教材〕

- (1) 開講時に指示する。
- (2) 『条約集』（指定条約集については、開講時に指示する。）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

一コマ90分の授業に対して、最低限以下の予習・復習が必要となる。

1. 予習90分：教科書の該当箇所を熟読し、そこに登場する条約等の条文を予め読み込むとともに、具体的な事例を判例集等で確認すること。
2. 復習60分：講義レジュメを読み返し、不明な用語、事例等を教科書等で確認すること。

〔成績評価の方法〕

- (1) 授業中に実施する小テストないしレポート（10%程度）
- (2) 学期末試験（90%程度）

〔備考〕

国際法は、一般に、総論的な理解（「国際法I」）を前提とした上で、各論での議論（「国際法II」）が展開される。両者を一貫して学習し、はじめて国際法という学問の基本的な発想が理解できる。その意味で、受講生には「国際法I」を予め履修しておくことが強く推奨される。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|------------------|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | 国際法I（総論）の重要論点の確認 |
| 第3週 | 国家承認（1） |
| 第4週 | 国家承認（2） |
| 第5週 | 国家承認（3） |
| 第6週 | 政府承認（1） |
| 第7週 | 政府承認（2） |
| 第8週 | 政府承認（3） |
| 第9週 | 国家領域（1） |
| 第10週 | 国家領域（2） |
| 第11週 | 国家領域（3） |
| 第12週 | 国家領域（4） |
| 第13週 | 国家管轄権（1） |
| 第14週 | 国家管轄権（2） |
| 第15週 | 国家管轄権（3） |

法学はもとより、外交や国際関係に興味をもつ者（国際政治や地域研究の社会的側面に興味をもつ者）が意欲的に本講義を受講してくれることを希望する。受講生の要望に応じて、外交実務家（外交官等）による特別授業の実施も検討したい。

副題	ボランテアとは？国際協力NGOの活動を通し学ぶ			担当者	野口 朝夫 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5

〔授業の到達目標〕

「ボランテア」とは、皆に既になじみの言葉だと思う。私も参加したことがあるという学生も、機会があれば参加してみたいという学生も多いだろう。しかし、「ボランテア」って何？と正面から聞かれると、はて、どう答えればいいのか。

どのようにしたら参加できるの？ 資格があるの？ 意味があるの？ など、実際のことは判りにくい。さらに、そもそも、なんでボランテアなんて必要なのか、国や自治体などが担えばいいではないか、という議論もあるかも知れない。

この授業の目的は、そのような疑問の答えを探り、「ボランテア」の意味を考え、1人1人が「ボランテア」を身近で普通なこととして、自ら実践できるようになることにある。そのため、講義を通し、皆が主体的に「考え」ることが期待される。

〔授業の内容〕

「ボランテア」概念の歴史的な変遷、活動内容、役割、成果などを、主に国際協力NGOが担う分野から総合的に学ぶことで、「ボランテア」・NGO活動の意味を考える。さらに各自、参加したいボランテア活動を考え、プロジェクト実施のためのアクションプランを作成する。

〔教材〕

教材は使用しない。進行に合わせ適時、資料を配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前半の授業では、前回の授業の振り返りをおこなっておくこと。

後半では、アクションプラン作成のため、各自が資料収集や分析、計画立案などを授業前に準備すること。

〔成績評価の方法〕

出席率 50% 調査研究の熱心さ・アクションプランの評価 30% レポート 20%の割合で評価をおこなう。ただし、アクションプラン、レポートは全て提出が前提となる。

〔備考〕

ボランテアをおこなうためのアクションプランを作成することから、受講者は、具体的に何らかのボランテアをしたいという思いを持っていることが前提となる。また、秋学期の「ボランテア演習1」を選択希望の学生は、本授業を選択することが望まれる。

〔授業計画〕

- | | |
|------|--|
| 第1週 | 授業の目的 スケジュールについて
ボランテアって何か ボランテアをすることの意味は？ |
| 第2週 | ボランテア概念の変遷、展開を知る |
| 第3週 | 市民セクターを考える NPO・NGOの世界 |
| 第4週 | 日本のNGOの歴史と現在 |
| 第5週 | 国際協力の担い手としてのNGO ビジョン ミッションとボランテア |
| 第6週 | NGO・NPOの組織運営を知る |
| 第7週 | 何のために、何が出来るか、何をしたいか 「私」のボランテア活動 |
| 第8週 | NPO・NGOを調べる 参加したいボランテア活動のテーマを探す |
| 第9週 | ボランテアの具体的内容を考える。アクションプランの作成
ボランテア団体を立ち上げ、行動計画を練る |
| 第10週 | アクションプランの作成 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | アクションプランの発表 |
| 第15週 | 授業をふり返る 「私にとってのボランテア」とは。レポート作成
授業計画は、大体の流れを示すもので、詳細は変更になることがある。
授業中のおしゃべりは厳禁。教室の途中の出退席も禁止。 |

ボランティア論II

3622002400100

副 題	NPOとわたしたち			担 当 者	伊藤 由紀子 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	火	時 限	2

〔授業の到達目標〕

NPOと市民社会の関わりあい方を理解する

〔授業の内容〕

今日、社会の多様な分野で積極的な市民参加が行われており、NPO（非営利組織）やNGO（非政府組織）などの非営利・非政府の新しい社会セクター（市民セクター）が注目されている。こうした市民組織の存在が今後のよりよい社会づくりに向けて不可欠であるとの認識は一般化しつつある。しかし、組織数やその役割が増大しながらも、欧米の組織と比較すると、組織・資金力ともに貧弱であり、こうした市民組織の強化、およびこれらの組織を支える市民社会の育成が必要である。本講義では、NPOが存在する意義や背景を検証しながら、その活動の役割や現状と課題について理解を促すことが目標である。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

随時指定します。学期中に1～2回、学外で開催されるイベントに参加します。

〔成績評価の方法〕

授業内で書く小ペーパーおよび学外活動レポート（複数回実施・出欠席確認をかねる）50%、学期末試験50%

〔備考〕

交通機関による遅延も含め、時間を区切って遅刻者の入室は許可していませんので、気をつけてください。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 ボランティアの源流と歴史
- 第3週 人から組織社会
- 第4週 なぜNPOなのか（1）
- 第5週 なぜNPOなのか（2）
- 第6週 NPO法人の現状（1）
- 第7週 NPO法人の現状（2）
- 第8週 NPOと市民社会
- 第9週 NPOと企業
- 第10週 社会企業家
- 第11週 世界のNPO
- 第12週 日本のNPOの課題と展望
- 第13週 〃
- 第14週 まとめ
- 第15週 理解度の確認

副題	国際機構の設立と構造			担当者	小中 さつき 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

国際機構の構造や活動を学ぶことで、国際社会が抱える問題や国際社会の仕組みを知ること、また日本が国際機構を通じて国際社会に対してどのような貢献ができるかを考える力をつけることを目標とする。

〔授業の内容〕

いまや、人権、平和、環境、経済、文化、どの分野においても国際機構の存在を無視することはできない。国際連合をはじめ、国際原子力機関（IAEA）、国連児童基金（UNICEF）、国際通貨基金（IMF）、国際労働機関（ILO）、世界保健機関（WHO）などの国連専門機関、EUをはじめとする地域的な国際機構を毎日のようにニュース等で目にする。授業では、主に国際連合の組織構造や実際の活動を通して、国際機構が国際社会で果たしている役割、また果たすべき任務を学び、考える。

国際機構に関わる時事問題に関しても随時取り上げ、問題を掘り下げていく。

〔教材〕

参考書：横田洋三『新国際機構論』国際書院，2005年

佐藤哲夫『国際組織法』有斐閣，2005年

最上敏樹『国際機構論』第2版，東京大学出版会，2006年

教科書や参考書については最初の授業で説明する。基本的にはレジュメや資料を毎回配布する予定なので、参考書は必ずしも購入する必要はないが、勉強を深めたい人には有用な文献である。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布したレジュメや資料、また参考書を使って1時間ほど授業の内容をしっかりと復習することが重要である。その他に、必ず毎日新聞に目を通し、国際関係関連の記事をしっかりと読むこと。

〔成績評価の方法〕

期末試験（80%）と授業内での小テストおよびレポート（20%）で評価する。

出席数や授業態度・意欲は評価を受けるための前提条件である。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 国際機構，国際機構法とは何か
- 第2週 国際社会の組織化（1）国際連盟設立まで
- 第3週 国際連盟の構造と任務
- 第4週 国際社会の組織化（2）国際連合の設立から現在まで
- 第5週 国際連合の目的と任務
- 第6週 国際連合の法主体性
- 第7週 国際連合の意思決定
- 第8週 国際連合の決議の法的効果
- 第9週 国際連合による国際の平和と安全の維持（1）総論
- 第10週 国際連合による国際の平和と安全の維持（2）集団的安全保障（安全保障理事会）
- 第11週 国際連合による国際の平和と安全の維持（3）平和維持活動
- 第12週 日本と国際連合の関係
- 第13週 地域的国際機構
- 第14週 NGO（非政府間組織）
- 第15週 まとめ

授業内容については、学生の皆さんの関心のある問題も取り入れていきたい。授業初回でアンケートを取る予定なので、扱ってほしいテーマについて考えておいて欲しい。

副 題	様々な分野における国際機構の活動			担 当 者	小中 さつき 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	木	時 限	3

〔授業の到達目標〕

国際機構の構造や活動を理解した上で、国際社会が抱える問題や国際社会の仕組みを学ぶ。また日本が国際機構を通じて国際社会に対してどのような貢献ができるかを考える力をつけることを目標とする。各分野における国際機構の特徴を捉え、国際機構論Iよりも機構論についてさらに理解を深める。

〔授業の内容〕

いまや、人権、平和、環境、経済、文化、どの分野においても国際機構の存在を無視することはできない。様々な国際問題に各国が個別に対応するのではなく、組織として対応することにより、国際社会は問題の解決を促し問題発生の予防を行おうとする。しかしながら国際機構の一員になるということは、国家は一定の義務を引き受けることとなり、また意思決定についても一定の制約を受けることになる。それでもなお国際社会が国際機構を求める社会的必要性とは何なのか。分野ごとに抱える問題点をしっかり理解し、その上でどのような国際機構が設立されているのか、その内容、有用性、そして限界を様々な国際機構を取り上げながら学んでいく。

〔教材〕

参考書：横田洋三『新国際機構論』国際書院，2005年

佐藤哲夫『国際組織法』有斐閣，2005年

最上敏樹『国際機構論』第2版，東京大学出版会，2006年

教科書や参考書については最初の授業で説明する。基本的にはレジュメや資料を毎回配布する予定なので、参考書は必ずしも購入する必要はないが、勉強を深めたい人には有用な文献である。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布したレジュメや資料、また参考書を使って1時間ほど授業の内容をしっかりと復習することが重要である。その他に、必ず毎日新聞に目を通し、国際関係関連の記事をしっかりと読むこと。

〔成績評価の方法〕

期末試験（80%）と授業内での小テストおよびレポート（20%）で評価する。

出席数や授業態度・意欲は評価を受けるための前提条件である。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス（国際機構，国際機構法とは何か）
- 第2週 安全保障と国際機構（国際連合と地域的機構）
- 第3週 軍縮と国際機構
- 第4週 貿易と国際機構
- 第5週 開発援助と国際機構
- 第6週 人権保障と国際機構（1）
- 第7週 人権保障と国際機構（2）
- 第8週 国際人道法と国際機構
- 第9週 環境保護と国際機構
- 第10週 教育・文化と国際機構
- 第11週 開発援助と国際機構
- 第12週 海上交通の安全と国際機構
- 第13週 地域的機構（ヨーロッパ）
- 第14週 地域的機構（アジア，アフリカ）
- 第15週 まとめ

授業内容については、学生の皆さんの関心のある問題も取り入れていきたい。授業初回でアンケートを取る予定なので、扱ってほしいテーマについて考えておいて欲しい。

副題	国際開発援助			担当者	伊藤 由紀子 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

開発途上国の開発に関わる課題と展望を理解する

〔授業の内容〕

今日、「豊かな」先進国と「貧しい」開発途上国の2つ世界が存在する。戦後、賠償、復興、開発などさまざまな戦略と目的で国際開発援助活動が行われてきたが、世界の貧富の差は縮まるばかりか拡大している。経済開発中心から、人間開発、参加型開発というように開発理論は変遷し、昨今では良い統治、アカウンタビリティ、参加、持続、エンパワメント、社会資本などのキーワードを中心に議論が進められている。本講義では、国家にとっての開発とはどういうことを意味することかを理解しながら、これからの展望を考察する。また、問題の多様性と社会組織のパターン、ダイナミズム、変化のあり方に関する認識を提示する。開発途上国の直面する諸問題を認識しながら、社会開発の側面を考察し、どのような解決方法が可能かさぐる。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

随時指定します。1回の授業あたり3－4時間、文献を読んだり、レポートを書くための時間を予定してください。

〔成績評価の方法〕

授業後の小ペーパー（複数回・出欠席確認を含む）50%、学期末試験50%

〔備考〕

交通機関による遅延も含め、時間を区切って遅刻者の入室は許可していませんので、気を付けてください。

〔授業計画〕

- | | |
|------|--------------------|
| 第1週 | イントロダクション 開発 vs 発展 |
| 第2週 | 開発途上国（1） |
| 第3週 | 貧困 |
| 第4週 | 開発理論の流れ（1） |
| 第5週 | 開発理論の流れ（2） |
| 第6週 | 開発途上国と教育 |
| 第7週 | 開発途上国と保健 |
| 第8週 | 開発援助の様々な担い手 |
| 第9週 | 国際協力の意義（1） |
| 第10週 | 国際協力の意義（2） |
| 第11週 | 日本から学ぶこと |
| 第12週 | 課題と展望 |
| 第13週 | 映像紹介 |
| 第14週 | まとめ |
| 第15週 | 理解度の確認 |

副題				担当者	眞嶋 麻子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	1

〔授業の到達目標〕

国際開発の可能性と課題について、自ら考察できるようになること。

〔授業の内容〕

グローバル化のすすむ国際社会では、飢餓、貧困、武器貿易、紛争、環境破壊といった深刻な問題も増幅している。本講義では、こうした問題に対応するために作られてきた国際社会の仕組みについて、開発に焦点を当ててその問題点と可能性を考えることを目的とする。講義の前半では、今日に至るまでの国際開発の歴史をたどる。後半では、一方で国家の役割が再検討され、他方で民間企業などの新たな国際開発主体が着目されている今日の動向について批判的に検討する。それらをもとに、「国際開発」に対するどのようなオルタナティブが提起されているのかについても考えたい。

〔教材〕

教科書は特に使用せず、講義時にプリントを配布する。
参考文献については、講義の進捗に合わせて適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予備知識は特に必要としない。講義時に紹介する参考文献および新聞などのメディアを使って、国際開発にかんする情報を集めておくこと。

〔成績評価の方法〕

期末試験50%、授業内課題および小レポート50%（レポートは学期中に二度課す予定）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 国際開発の歴史（1）冷戦期の開発援助
- 第3週 国際開発の歴史（2）ポスト冷戦期の開発と「テロとの戦い」
- 第4週 国際開発の歴史（3）構造調整政策と「グッド・ガバナンス」
- 第5週 国際開発の歴史（4）ミレニアム開発目標と貧困削減
- 第6週 国際開発の歴史（5）新興国の台頭と開発援助の新潮流？
- 第7週 日本の開発援助
- 第8週 非国家主体と国際開発（1）民間企業と開発
- 第9週 非国家主体と国際開発（2）人権と開発
- 第10週 非国家主体と国際開発（3）人権と開発
- 第11週 非国家主体と国際開発（4）市民社会と開発
- 第12週 非国家主体と国際開発（5）市民社会に関わる国際開発の事例
- 第13週 国際開発へのオルタナティブ（1）周辺諸国からの問題提起
- 第14週 国際開発へのオルタナティブ（2）非国家主体に対するアプローチ
- 第15週 まとめと理解度の確認

受講者の人数や理解度に応じて、計画が変更されることがある。

副題	経営学の基礎を、「会社」を題材に、体系的かつ実践的に学習します。			担当者	金城 重紀 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

1. 経営学の全体像とポイントを理解し、基礎的な知識を体系的に取得すること。
2. 日本経済新聞を理解しながら読むことができ、自分の意見を持てるようになること。
3. 自信をもって人前で自分の意見を表明し、建設的な議論ができるようになること。

〔授業の内容〕

- ・ 私たちの意思と努力で、組織の長所は伸び、短所も強みに変えられます。経営学は、そのためのツールです。経営学を学ぶことは充実した楽しい人生を送るためにも有益です。
- ・ 「会社」を題材に、「戦略」、「組織」、「人材」を軸に、(通年で)合計15の質問と約150のキーワードに分解して経営学を学びます。現実の企業や経済の動きの理解を深められるように、鮮度の良いトピックスを提供し、グローバルな視点も取り入れます。
- ・ 本授業は、ディスカッションや発表の機会も多く、ダイナミックに展開します。それは、経営学は実践の学問であり、「自分の頭で考え」、「他者と議論し」、「具体的な行動」につなげることが大切だからです。
- ・ 受講するにあたり、経営学に関する事前の知識は不要です。明るく、元気な方を歓迎します。
- ・ 秋学期と合わせて通年で完結する予定です。

〔教材〕

教科書：上村、奥林、森田、竹林、他2名『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣、2007年
参考書：伊丹、加賀野『ゼミナール経営学入門』第3版、日本経済新聞出版社、2003年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

- ・ 復習を重視し、授業の各テーマが終了する毎に、必ず、教科書を熟読すると共にキーワードを中心に自分でまとめてください。
- ・ 総仕上げとなる期末試験では、キーワードの正確な理解とその応用力を問います。

〔成績評価の方法〕

学期末試験(70%)、宿題・クラスでの発表(30%)

〔備考〕

1. クラスでの発表：授業開始時に、あらかじめ指名した方々に、日本経済新聞の記事を解説してもらいます。
2. オフィスアワーは木曜日の2限です。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--|
| 第1週 | なぜ、学習院女子大学で経営学を学ぶのか？（経営学入門：教科書—以下同じ—第1章） |
| 第2週 | リーダーシップとは何か？（事前配布資料） |
| 第3週 | 会社になぜ理念が必要なのか？（経営戦略論：第4章） |
| 第4週 | 同上 |
| 第5週 | 会社はどのようにしてモノを売するのか？（マーケティング：第13章） |
| 第6週 | 同上 |
| 第7週 | 会社はどのような仕組みで動いているのか？（組織形態：第5章） |
| 第8週 | 同上 |
| 第9週 | 会社は他の会社とどのように協力しているのか？（企業間関係論：第6章） |
| 第10週 | 同上 |
| 第11週 | 社員は仕事をどのように分担しているのか？（組織構造論：第8章） |
| 第12週 | 同上 |
| 第13週 | 社員はなぜ働くのか？（勤労観：第9章） |
| 第14週 | 同上 |
| 第15週 | 理解度の確認 |

- ・ 授業をより良くするために、本計画を変更することがあります。

※マーケティングII

3622005600100

副 題	東南アジアでのマーケティング			担 当 者	田島 博和 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	木	時 限	3

〔授業の到達目標〕

東南アジアの多様性を踏まえたマーケティングを理解すること。

〔授業の内容〕

東南アジア，特にASEANに加盟する10カ国を対象にして，地理・政治・経済・民族・宗教などに関する多様性を紹介した後に，それを踏まえて各地域でのマーケティングについて講義します。春学期に開講する「マーケティングI」の応用編であると同時に，東南アジアに対する理解の出発点となる授業にしていきたいと思っています。

〔教材〕

一回目の授業で指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習：前回のノートを見返す。予習：未定。必要な時間：各90分以上。

〔成績評価の方法〕

期末試験の点数と授業中の発言点の合計によって評価します。なお発言点については，一回目の授業で説明します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 東南アジアの概況
- 第2週 マーケティング戦略の体系
- 第3週 各国のマーケティング環境（1）政治制度・法律
- 第4週 各国のマーケティング環境（2）経済
- 第5週 各国のマーケティング環境（3）民族・宗教・文化
- 第6週 マーケティング環境に基づく市場細分化
- 第7週 各国でのマーケティング（1）タイ
- 第8週 各国でのマーケティング（2）ベトナム
- 第9週 各国でのマーケティング（3）マレーシア・シンガポール
- 第10週 各国でのマーケティング（4）ミャンマー・ラオス・カンボジア
- 第11週 各国でのマーケティング（5）フィリピン
- 第12週 各国でのマーケティング（6）インドネシア
- 第13週 各国でのマーケティング（7）ブルネイ
- 第14週 まとめ（1）
- 第15週 まとめ（2）

副題	金融の基本となる考え方を学ぶ			担当者	佐久間 潮 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	1

〔授業の到達目標〕

金融および銀行の基礎知識を習得すること。

〔授業の内容〕

私たちの日常生活は、お金なしには考えられない。しかし、経済主体（家計、企業、政府）のすべてが必要なお金を十分持っているわけではなく、お金が不足している主体もあれば、余っている主体もある。経済活動が円滑に営まれ、経済発展を遂げるためには、お金が余っている主体から不足している主体へ、お金を融通することが不可欠である。このことを金融という。

金融情勢は経済の一般的状況や中央銀行の金融政策から大きな影響を受ける。この講義では、（１）お金の果たしている役割、（２）銀行の果たしている役割、（３）中央銀行と金融政策の果たしている役割、を中心に、アメリカのニューヨーク連邦準備銀行が出している平易な解説書を使って学んでいく。

〔教材〕

教科書：The Federal Reserve Bank of New York, *The Story of Money*, The Federal Reserve Bank of New York
The Federal Reserve Bank of New York, *The Story of Banks*, The Federal Reserve Bank of New York
The Federal Reserve Bank of New York, *The Story of Monetary Policy*, The Federal Reserve Bank of New York

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各 2 時間

〔成績評価の方法〕

期末テスト

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 序論
- 第2週 お金の果たす役割り（その1）
- 第3週 お金の果たす役割り（その2）
- 第4週 お金の果たす役割り（その3）
- 第5週 お金の果たす役割り（その4）
- 第6週 銀行の果たす役割り（その1）
- 第7週 銀行の果たす役割り（その2）
- 第8週 銀行の果たす役割り（その3）
- 第9週 銀行の果たす役割り（その4）
- 第10週 銀行の果たす役割り（その5）
- 第11週 中央銀行と金融政策の役割（その1）
- 第12週 中央銀行と金融政策の役割（その2）
- 第13週 中央銀行と金融政策の役割（その3）
- 第14週 中央銀行と金融政策の役割（その4）
- 第15週 中央銀行と金融政策の役割（その5）

副 題	貿易と外国為替の基礎			担 当 者	佐久間 潮 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	木	時 限	1

〔授業の到達目標〕

貿易の実態及び基礎理論を学習し、貿易に大きな影響を与える外国為替の基礎知識を身につける。

〔授業の内容〕

現在、私達の身の回りには、世界のいろいろな国から輸入された衣料、食品、電気製品、自動車、燃料、化学製品、などさまざまな商品があふれている。また、日本で生産された各種商品も世界各地に輸出されている。では、なぜ貿易が行なわれるのか。あらゆる商品を世界でもっとも安く生産できる国があったとしたら、その国だけが商品を輸出し、それ以外の国々は、すべて輸入するだけになってしまうのか。ある国の通貨とその貿易相手国の通貨が異なる場合（異なるのが普通だが）、どちらの通貨で輸入代金が支払われるのか。ある国の輸入業者が外国通貨で輸入代金を支払わなければならなくなったとき、その輸入業者は自国の通貨をいくらで外国通貨と交換できるのか。世界の国々の通貨が異なることからどのような問題が生じてくるのか。また、その問題はどのようにして解決することができるのか。この授業では、こうした問題について考えていく。テキストはニューヨーク連邦準備銀行が発行している平易な資料を使う。

〔教材〕

教科書：The Federal Reserve Bank of New York, *The Story of Foreign Trade and Exchange*, The Federal Reserve Bank of New York

参考書：佐久間潮『国際金融・外為市場（実務と理論の基礎）』初版，財経詳報社，2002年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各2時間

〔成績評価の方法〕

期末テスト

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 世界の貿易の現状（その1）
- 第2週 世界の貿易の現状（その2）
- 第3週 世界貿易はなぜ行なわれるか——アダム・スミスの考え方（その1）
- 第4週 世界貿易はなぜ行なわれるか——アダム・スミスの考え方（その2）
- 第5週 世界貿易はなぜ行なわれるか——リカードの考え方（その1）
- 第6週 世界貿易はなぜ行なわれるか——リカードの考え方（その2）
- 第7週 地域経済統合について（その1）
- 第8週 地域経済統合について（その2）
- 第9週 外国為替取引とは
- 第10週 外国為替取引の実際（スポット取引）
- 第11週 外国為替取引の実際（フォワード取引——その1）
- 第12週 外国為替取引の実際（フォワード取引——その2）
- 第13週 外国為替相場はどのようにして決まるか
- 第14週 外国為替市場の実態（その1）
- 第15週 外国為替市場の実態（その2）

副 題				担 当 者	渡 邊 淳 講 師		
単 位	2	開 講 期 間	秋 学 期	曜 日	火	時 限	2
<p>〔授業の到達目標〕 昨今の金融危機の歴史と教訓を通じ、銀行等の金融の担い手の役割について学習する。</p> <p>〔授業の内容〕 サブプライム問題が惹起したいわゆるリーマンショックやラ米債務問題などの金融危機を振り返りながら、身近な視点からバブル、住宅ローンや銀行の機能などをに対する理解を深めつつ、国際金融と資金の流れについて学習する。またレポート作成とその発表を通じ、プレゼンのスキルアップを図る。</p> <p>〔教材〕 プリントを配布する。</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 授業は質疑応答形式にて進行するので事前配布資料の予習と前回授業の復習は不可欠。</p> <p>〔成績評価の方法〕 出席点（約15%）、レポートと授業中の発表と態度（約35%）、1回のテスト（約50%）等の結果を総合し、評価する。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

第1週	本コースの勧め方、内容の説明 お金と金について
第2週	銀行の役割について
第3週	ローンとインターバンク市場について
第4週	住宅ローンと銀行審査について
第5週	サブプライム問題について（1）
第6週	サブプライム問題について（2）「証券化」
第7週	リーマンショックについて
第8週	レポート提出と発表、プレゼンの留意点について
第9週	ラ米債務問題について（1）
第10週	ラ米債務問題について（2）
第11週	ラ米債務問題について（3）ブレイティボンド
第12週	アジア通貨危機について
第13週	アジア通貨危機について（2）
第14週	国際資本市場とContagionについて
第15週	金融危機のレビューとその教訓 理解度の確認

マスコミュニケーション論II (理論)

3625000600100

国際コミュニケーション学科

副 題	メディアとコミュニケーション、メディアと文化			担 当 者	蔡 星慧 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月	時 限	3

〔授業の到達目標〕

本講では前期の授業と連続し、コミュニケーション理論、メディアと社会、メディアと文化など、もっと深くメディアと私たちの相互環境を考える機会になる内容にしていきたい。

〔授業の内容〕

現代情報社会においてメディアは情報収集における重要なツールである。本講では現代メディア社会における情報収集の判断と解釈、デジタル社会における送り手と受け手のフィードバック、ポスト市民社会における世論形成を含めて、メディアのあり方について批判的に考えてみる。

〔教材〕

特に指定はありません。毎回配付するレジュメと資料を配付し、その都度参考文献を提示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前配付資料を読み、調べる課題などがあります。

〔成績評価の方法〕

- ・ 出席20%
- ・ リアクションペーパー/ミニ課題10%（毎回授業の終わりに当日授業の中心内容、感想、質問などを書く）
- ・ レポート30%
- ・ 定期試験40%

〔備考〕

- ・ 授業中の議論に積極参加，誠実に臨む授業姿勢を重視する。
- ・ 交通上の不都合以外は遅刻厳禁
- ・ 授業中の私語/携帯使用/出入り（特別な都合がある時は授業前か，授業後に要説明）厳禁

〔授 業 計 画〕

- 第1週 コミュニケーションとは
- 第2週 コミュニケーションを考えるための基礎
- 第3週 メディアとコミュニケーション
- 第4週 文化とコミュニケーション
- 第5週 マス・コミュニケーションの基礎概念
- 第6週 マス・コミュニケーション効果研究理論①－初期理論
- 第7週 マス・コミュニケーション効果研究理論②－後期理論
- 第8週 カルチュラルスタディーズからみる事例
- 第9週 メディアと流行
- 第10週 クールジャパン，日本の文化コミュニケーションを知る
- 第11週 市民社会と世論形成
- 第12週 メディアとジェンダー
- 第13週 メディアの最新動向
- 第14週 メディア社会とコミュニケーション力
- 第15週 総合まとめ

テーマによる時事問題など，補充資料がある場合，授業の進行に多少の変更もあります。

副題					担当者	中馬 淳 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	土	時限	2

〔授業の到達目標〕

広告やPRに関心を持ち、その意味するところを理解すること。

〔授業の内容〕

この授業では、広告やPRについて、基本的な考え方や役割を実例を交えて解説します。

両者はアプローチこそ違えども、「人を説得する」というメカニズムは同じです。人がソーシャルに引き付けられたり、お気に入りの店ができるのは、どうしてなのでしょう。あるいは、「この企業に就職したい」という気持ちはどこから生まれてくるのでしょうか。

特に近年では、デジタルメディアやソーシャルメディアの台頭で、マスメディアを使った広告やPRが主流だった時代とは少し違った様相を見せ始めています。そうした状況を交えながら、「人を動かす」コミュニケーションのメカニズムについて考えていきたいと思います。

今年度は受講者とディスカッションやフィードバックペーパーの作成など、能動的な参加を求めていますので、よろしくお願いします。

〔教材〕

教科書は特に使用しません。参考書は適宜ご案内します。

〔準備学習 (予習・復習) の内容又はそれに必要な時間〕

予習はとりたてて必要としない。

復習はそれぞれ振り返りをしてもらえればよいが、期間中に何度かフィードバックペーパーの作成をお願いすることがある (2~3時間程度を想定)。

〔成績評価の方法〕

期末試験 (約70%)、フィードバックペーパーの提出と質 (約30%)

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン~広告とPRの現在
- 第2週 コンセプト・ターゲットの設定
- 第3週 広告表現の考え方
- 第4週 メディアプランニング
- 第5週 デジタルメディアと広告
- 第6週 統合コミュニケーション
- 第7週 戦略PRとパブリシティ
- 第8週 ブランドとは何か
- 第9週 コーポレート・コミュニケーション：企業のイメージをどう高めていくか
- 第10週 クライシス・コミュニケーション：企業の危機にどう対処するか
- 第11週 ソーシャル・コミュニケーション：企業は社会とどう向き合っていくか
- 第12週 広告やPRにまつわる仕事
- 第13週 まとめ
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

進行状況により、上記計画は一部変更することがあります。

副 題	人の国際移動と多文化社会の教育			担 当 者	杉村 美紀 講師	
単 位	2	開講期間	春学期集中	曜 日	時 限	

〔授業の到達目標〕

国際化に伴い活発化する人の国際移動に焦点をあて、その過程で生じている日本及び諸外国の多文化社会における諸問題を把握するとともに、そこでの教育政策の特徴を検討することを通じ、「何をどう比較するか」という比較研究の視点を習得します。

〔授業の内容〕

本講義は大きく3部構成となっています。第1部では、比較教育研究の枠組みと問題背景としての国際化及びそれに伴う人の移動と社会の多様化の問題について整理します。第2部は、人の国際移動に伴い、多様化する社会とそこでの共生問題に、教育政策がどのように対応しているかを諸外国の事例を対象に比較検討します。さらに第3部では、国際化への対応が様々な局面で求められている日本の教育は、どのような方向性をとるべきかを、日本社会における多様化の問題と、そこでの具体的な開発教育の実践をとりあげて検討します。また授業では、講義のほか、授業参加者によるワークショップを通じて多文化を考えるうえで重要な視点を、主体的な学びを通じて考え、グループで討論する機会も設けます。

〔教材〕

教科書：田中治彦・杉村美紀（編）『多文化共生社会におけるESD・市民教育』初版，上智大学出版，2014年

参考書：マークブレイ他（杉村、大和、前田、阿古共訳）『比較教育研究—何をどう比較するか—』上智大学出版，2011年
馬越徹『比較教育学—越境のレッスン—』東信堂，2007年

教科書として、田中治彦・杉村美紀編『多文化社会におけるESD・市民教育』（上智大学出版，2014年）を使用します。また教科書以外に補足の資料等を授業時に配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業は教科書で取り上げられているトピックと関連づけながら進める予定です。集中講義のため、初日を除き、次の日のトピックを事前に提示し、該当する章を読んでくることを課題とします。

〔成績評価の方法〕

出席（20%）、授業の際に適宜実施するリアクションペーパー（40%）ならびに期末試験（40%）によります。

〔備考〕

- 8月4日（火） 1時限～5時限
- 8月7日（金） 1時限～4時限
- 8月8日（土） 1時限～2時限
- 8月10日（月） 1時限～4時限

〔授 業 計 画〕

授業では、教員側からの講義だけではなく、学生の皆さんに主体的に参加し意見を発表していただける機会を出来るだけ多く設けたいと思っています。積極的に参加していただけることを強く希望します。

- 第1回 国際教育学と比較教育学
- 第2回 人の国際移動と社会の多様化，多文化化
- 第3回 多文化主義と多文化教育
- 第4回 異文化を考える（ワークショップ）
- 第5回 多文化社会の事例（1）言語問題と教育（その1）
- 第6回 多文化社会の事例（2）言語問題と教育（その2）
- 第7回 多文化社会の事例（3）宗教問題と教育（その1）
- 第8回 多文化社会の事例（4）宗教問題と教育（その2）
- 第9回 多文化社会の事例（5）少数民族と教育
- 第10回 多文化社会の事例（6）国民統合と教育
- 第11回 多文化社会の事例（7）経済発展と教育
- 第12回 多文化共生を考える（ワークショップ）
- 第13回 日本における多文化教育（1）
- 第14回 日本における多文化教育（2）
- 第15回 多文化社会における教育の役割と課題

比較政治学I

3625001300100

副題	比較宗教と政治			担当者	杉原 志啓 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

世界の主要宗教の教義と宗教史の学習。

〔授業の内容〕

比較政治学1では、本年度全体のテーマを探究していく基礎として、世界における主要宗教の教義と歴史を詳しくレクチャーしていく予定である。具体的には、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教、仏教、儒教、そして日本の神道の教義、またそれぞれの宗教史となる。また、そもその前提として比較政治学の基礎理論も説明していく。なお、本講座は、秋学期における近現代の宗教に起因する世界の政治的な対立の問題をみていく前提として企図している。可能な限り、比較政治学Ⅱとの連続聴講を望みたい。

〔教材〕

参考書：杉原志啓編・坂本多加雄著『歴史を語る作法』都市出版，2004年
授業中比較政治学と宗教史の基本的テキストを多数紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業関連のプリントの閲読。

〔成績評価の方法〕

授業期間内の1回の小テストと学期末レポート1回。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 比較政治学の基礎理論（1）
- 第3週 比較政治学の基礎理論（2）
- 第4週 キリスト教（1）
- 第5週 キリスト教（2）
- 第6週 ユダヤ教
- 第7週 イスラム教
- 第8週 仏教
- 第9週 儒教
- 第10週 神道
- 第11週 キリスト教文明史
- 第12週 アメリカにおけるキリスト教
- 第13週 世界の宗教対立の歴史（1）
- 第14週 世界の宗教対立の歴史（2）
- 第15週 宗教と政治

小テストと期末レポートは、実施日の前の週に告知する。授業期間出席はとらないが、この2回は必ず出席すること。

副題	宗教対立と政治			担当者	杉原 志啓 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

宗教と政治の関連に関する基礎知識の習得。

〔授業の内容〕

秋学期の本講座では、比較政治学1における世界の主要宗教の基礎的な教義を簡単に復習しつつ、世界各地の歴史的な宗教対立と政治の問題を概観していくが、とくに日本における政教分離と政治の問題を詳しくレクチャーしていく予定である。

〔教材〕

参考書：杉原志啓編・坂本多加雄著『歴史を語る作法』都市出版，2004年
授業中比較政治学と宗教史の基本的テキストを多数紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中の配布プリントの閲読。

〔成績評価の方法〕

授業期間内の1回の小テストと学期末レポート1回。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 アジアとキリスト教
- 第3週 アジアへのキリスト教文明の到来
- 第4週 日本へのキリスト教文明の到来と対立
- 第5週 日本における儒教
- 第6週 日本における儒教と政治
- 第7週 日本における政教分離
- 第8週 近代日本の宗教と政治（1）
- 第9週 近代日本の宗教と政治（2）
- 第10週 日本人の宗教観
- 第11週 日本人の宗教への無関心
- 第12週 宗教国家アメリカ
- 第13週 無宗教国家中国
- 第14週 宗教と政治的対立
- 第15週 日本の文明史的特異性

小テストと期末レポート，実施日の前の週に告知する。授業期間出席はとらないが，この2回は必ず出席すること。

副題	国際政治の歴史と現状			担当者	畠山 圭一 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

20世紀の国際政治の歴史と基礎理論および今日の課題を理解する。

〔授業の内容〕

21世紀の国際政治を展望するための前提として、20世紀が人類に残した様々な国際政治上の教訓を探るのが本講義の目的である。20世紀という時代はそれまでのあらゆる価値観が挑戦を受け、政治、経済、社会について考えるほとんどすべての理論と制度が実験され、その可能性が極限まで試された時代だった。しかも、その影響が全世界規模であらゆる社会階層にまで波及し、世界戦争、革命、大恐慌が価値観、秩序、生活環境の激変をもたらした時代でもあった。本講義では、20世紀の世界、人類に大きな影響を与えてきた社会思想、政治思想、国際政治理論とその具体的な展開の歴史を取り上げ、20世紀の国際政治並びに20世紀という時代の特殊性について考察を行う。

〔教材〕

教科書：ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A・ウェルチ『国際紛争(原書第9版)理論と歴史』有斐閣、2013年
国際政治の歴史と理論に関するオーソドックスな必携テキスト。授業内でしばしば使用する。

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

講義1時間あたり受講生が2時間程度の予習を行っていることを前提に講義を行うので事前にテキストの該当箇所を読んで授業に臨んでほしい。

〔成績評価の方法〕

定期試験(6割)とレポート(4割)の点数を合算して評価し、6割以上を合格とする。基礎知識の習得状況をもっとも重視するが、国際政治の各事象に関する分析・解釈の深さも加味しながら評価する。

〔備考〕

予習内容、授業内容について質問があれば授業中でも遠慮せずにしてほしい。なお3回連続欠席、計4回の欠席で受講停止とする。また受講態度の悪い場合も欠席扱いとする。授業開始後15分以降の遅刻は欠席とみなす。無断退出は認めないので、やむをえない事情で退出する際は必ず一言断るようにしてほしい。

〔授 業 計 画〕

第1週	導入・国際政治の常識(リアリズムとリベラリズム、国際政治と倫理・モラル)
第2週	歴史 1. 20世紀における大規模紛争の起源(国際システム、多様な紛争要因)
第3週	歴史 2. 勢力均衡と第1次世界大戦(勢力均衡、第1次世界大戦の起源)
第4週	歴史 3. 集団安全保障の失敗と第2次世界大戦(集団安全保障、第2次世界大戦の起源)
第5週	歴史 4. 冷戦の起源(抑止と封じ込め、冷戦に関する3つの解釈、ルーズベルトの政策、スターリンの政策)
第6週	歴史 5. 冷戦の進展(冷戦の軌跡、3つの分析レベル、米ソの戦略目的、封じ込め)
第7週	歴史 6. 冷戦の終結(緊張緩和の過程、冷戦終結)
第8週	歴史 7. 冷戦の教訓—核兵器の役割(物理学と政治、恐怖の均衡、核抑止の問題、キューバ危機)
第9週	中間的まとめ
第10週	現状 1. 国家主権と介入
第11週	現状 2. 国際法と国際機構
第12週	現状 3. 地域紛争
第13週	現状 4. 相互依存とパワー
第14週	現状 5. 新世界秩序—国民国家と国際紛争の将来
第15週	総括

副題	近代日本政治外交史			担当者	齋藤 洋子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

近代日本の主要な外交政策について学び、現代の日本が抱える外交問題を歴史的な背景を踏まえて理解できるようになる。

〔授業の内容〕

本講義では、幕末から第二次世界大戦後にいたる日本の外交政策を概観し、近代日本が直面した問題、選択した政策を客観的に考察する。当該期は国際社会における日本の地位が激変した時代であり、政府要路者は難しい判断が迫られた。国内世論、国際社会の動向などを踏まえつつ、近代日本のリーダーたちは、どのような判断を下し政策を決定していったのか、その過程を再考する。

また、現在日本が直面している外交問題についても、授業との関連の中で適宜解説、分析していく。

〔教材〕

参考書：井上寿一『日本外交史講義』岩波書店，2003年
 佐道明広,小宮一夫,服部龍二 編『人物で読む近代日本外交史：大久保利通から広田弘毅まで』吉川弘文館，2009年
 佐道明広,小宮一夫,服部龍二 編『人物で読む現代日本外交史：近衛文麿から小泉純一郎まで』吉川弘文館，2008年
 I.ニッシュュ 著；宮本盛太郎 監訳『日本の外交政策：1869-1942 霞が関から三宅坂へ』ミネルヴァ書房，1994年
 関静雄『近代日本外交思想史入門』ミネルヴァ書房，1999年
 その他授業中適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：毎週、次週の授業に関するプリントを配布するので、必ずそれを事前に読み授業に臨んでください。

復習：授業中紹介した参考文献などを読み理解を深めて下さい。

〔成績評価の方法〕

平常点50%、試験50%

〔備考〕

近代史の基本的な流れは理解しているものとして授業を進めます。高校で日本史を選択しなかった場合などは、解説書や参考書で大まかな流れを掴んでおいて下さい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス／徳川幕府政権下の対外政策
- 第2週 明治新政府の対外政策（1）
- 第3週 明治新政府の対外政策（2）
- 第4週 条約改正交渉（1）
- 第5週 条約改正交渉（2）
- 第6週 初期議会と日清戦争
- 第7週 日英同盟の成立と日露戦争
- 第8週 日韓併合と日本の大陸政策
- 第9週 第一次世界大戦と日本
- 第10週 ワシントン体制と協調外交
- 第11週 満州国樹立と国際連盟脱退
- 第12週 アジア新秩序と日米交渉
- 第13週 占領下の日本
- 第14週 講和条約と日米安保条約
- 第15週 まとめと解説

副題	国際関係の構造変化と米中関係の展望			担当者	畠山 圭一 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

米中関係の基本構造と冷戦後の国際構造の変遷を理解し、日本の外交課題を考える知見を獲得する。

〔授業の内容〕

今日の国際構造は、冷戦時代における米・ソという二つの超大国による安定的な「二極」構造とも、ポスト冷戦時代における超大国アメリカと欧・日・露・中などの複数の強国による不透明ながらも協調的だった「一超多強」構造とも異なっている。それは、「グローバル化の進展」「非国家主体の興隆」「主要国における大国意識の高まり」「文明間競争の予兆」などが複合的に作用し、大国間の激しい覇権競争と、国際テロリズムや大量破壊兵器拡散による既存秩序への様々な挑戦が展開する、流動的で、かつ競争・対立的なものとなっている。こうした動乱の時代を経て、やがて新たな国際秩序が生まれ、再び人類は国際的な安定と繁栄を享受することとなる。だが、そうした安定期に至るまでの過渡期は逆に破滅的な結果をもたらすこともある。20世紀の例を見ても人類は2度にわたる世界大戦を体験している。それゆえ、国際構造の変化の動態を分析し、国際構造の変化がもたらす影響を探ることは、わが国の外交・安全保障政策や国際貢献を考える上からも、国際社会の平和と安定と秩序を形成する上からも極めて重要な前提作業である。本授業では、冷戦終結以降の国際構造の変化とその影響について特に米中関係を中心に考察するとともに、我が国の国際政治上の課題を明らかにする。

〔教材〕

教科書：畠山圭一編著『中国とアメリカと国際安全保障』晃洋書房

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前にテキストの該当箇所を読み、自らの課題を用意して臨むこと。ディスカッションを通して、思考力、分析力の養成が主眼であるため、事前、事後の思索が極めて重要な意味を持つ。予習、復習には十分な時間(標準は各2時間程度)を確保することが望ましい。

〔成績評価の方法〕

試験（6割）とレポート（4割）の点数を合算して6割以上を合格とする。評価に関しては授業内での発言等も考慮する。3回の連続欠席、計4回の欠席で受講停止とする。無断退出は認めない。

〔備考〕

この授業は国際政治の応用編である。ディスカッションの機会を多く設けたいと考えているので、教科書を活用して、予習・復習を充分に行って授業に臨んでいただきたい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 導入—分析の課題と視点
- 第2週 21世紀初頭の国際秩序と変化する米中関係
- 第3週 アメリカの国際秩序観と戦略思想
- 第4週 中国の国際秩序観と戦略思想
- 第5週 文明の衝突としての米中関係
- 第6週 アメリカの対外戦略
- 第7週 アメリカの安全保障戦略
- 第8週 アメリカの経済戦略
- 第9週 中国の対外戦略
- 第10週 中国の安全保障戦略
- 第11週 中国の経済戦略
- 第12週 米中関係の変化が及ぼす中国社会への影響
- 第13週 米中関係の変化が及ぼすアメリカ社会への影響
- 第14週 米中関係の将来
- 第15週 結論—米中関係と日本・問われる日本の戦略

副題	国際戦略の理論と政策			担当者	畠山 圭一 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

代表的な戦略理論に関する理解を深める。

〔授業の内容〕

将来、わが国のみならず、世界・人類が直面し、あるいは発生しようとしている事態に対して、外交・安全保障、国際政治の見地から客観的な判断を下せる人材を育成することを目的に、国際社会の将来動向を予測し、必要とされる対応策を検討する。具体的には、いつの時代にあっても国際秩序を大きく規定する大国同士の関係について、歴史を振り返りながら検討する。その際、大国の行動を促した根本要因、大国間の勢力関係や国際構造、各国の戦略形成などについて検討し、そこからうかがえるいくつかの法則性を明らかにし、理論的な見通しを立てたいと考えている。国際政治や外交・安全保障に関心を抱く学生はもとより、将来、国際交流、国際協力、海外勤務を目指す学生にとって大いに参考になるものと考えている。

本講義では、戦略理論を用いながら、21世紀の国際社会を展望し、最終的には、日本が取りうる対外政策・安全保障政策上の選択肢を検討する。国家戦略とは、ある国家目標の達成のために自らの能力と資源をいかに効果的に用いるかをめぐる理論・技術であり、日本が国際貢献を果たし、あるいは国家・国民の安全と繁栄を確実にするための基本指針となるものである。しかしながら、戦略の策定はさまざまな偏見や誤解や希望的観測など反映されやすく、かつ断片的・不正確な情報・知識に基づくものともなりやすい。そのため、戦略策定に当たっては、人類が長い歴史を通じて見出してきた経験則に基づく客観性を伴った英知の集積である戦略理論や戦略思想を学ぶことが絶対的に必要となる。また主要国の指導者たちがどのような発想を持って国際政治を展開しているかを理解する上でも有用である。そうした戦略論の基礎理論や代表的思想を紹介・解説しながら、21世紀の日本の国家戦略について考えていきたい。

〔教材〕

参考書：ジョン・ベイリス『戦略論 現代世界の軍事と戦争』勁草書房
 ジョン・ミアシャイマー『大国政治の悲劇』五月書房
 ゴードン・A・クレイグ/アレキサンダー・L・ジョージ『軍事力と現代外交』有斐閣

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ディスカッションを中心に進めるので、予習による事前準備(2～3時間が基準)が重要となる。参考文献の指定箇所を熟読の上、自らの課題を明らかとして講義に臨んでほしい。

〔成績評価の方法〕

試験（6割）とレポート（4割）の点数を合算して6割以上を合格とする。評価に関しては出席状況も考慮する。3回の連続欠席、計4回の欠席で受講停止とする。無断退出は認めない。

〔備考〕

この授業は国際政治の応用編である。ディスカッションの機会を多く設けたいと考えているので、参考書を活用して、予習・復習を充分に行って授業に臨んでいただきたい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 導入 歴史の教訓と戦略知識
- 第2週 理論（1） 戦略とは何か
- 第3週 理論（2） 戦争の原因と平和の条件
- 第4週 理論（3） 外交戦略(均衡・宥和・バンドワゴン)
- 第5週 理論（4） 軍事戦略(抑止・強制・決戦・持久・間接)
- 第6週 理論（5） ランドパワー，シーパワー，エアパワー
- 第7週 理論（6） 戦略と価値観・地理・歴史
- 第8週 環境（1） 倫理・法・政治と武器使用
- 第9週 環境（2） 経済力と軍事力
- 第10週 環境（3） 技術と戦争
- 第11週 環境（4） テロリズムと大量破壊兵器拡散問題
- 第12週 事例（1） 覇権・国益のための戦略
- 第13週 事例（2） 対抗・抵抗のための戦略
- 第14週 事例（3） 順応・恭順のための戦略
- 第15週 展望 将来展望と日本の選択

副題	ホロコースト研究			担当者	武井 彩佳 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

ホロコーストとは何だったのか、その背景と展開、さらにこれが現代世界に今でも与え続けている影響について理解する。

〔授業の内容〕

ホロコーストとその残した負の遺産について、毎回異なるテーマで講義する。前半ではホロコーストの展開とその性格を、後半ではホロコースト後の世界について学ぶ。

〔教材〕

参考書：ヴォルフガング・ベンツ『ナチス第三帝国を知るための101の質問』現代書館、2007年

ダン・ストーン『ホロコースト・スタディーズ』白水社、2012年

芝健介『ホロコースト：ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』（中公新書）中央公論社、2008年

詳細な参考文献リストは初回の授業で配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参考文献を読む

〔成績評価の方法〕

出席：試験（もしくはレポート）＝50：50

〔備考〕

遅刻者は出席点が半分。

〔授業計画〕

- 第1週 導入：ホロコーストとは何か
 - 第2週 ホロコーストの展開（1）：移住
 - 第3週 ホロコーストの展開（2）：財産の略奪
 - 第4週 ホロコーストの展開（3）：虐殺
 - 第5週 コラボ(対独協力者)
 - 第6週 ユダヤ人を助けた人々
 - 第7週 ホロコーストと女性
 - 第8週 関連する映画鑑賞
 - 第9週 ホロコースト生存者（1）
 - 第10週 ホロコースト生存者（2）
 - 第11週 イスラエルとホロコースト
 - 第12週 ドイツ・ユダヤ人社会の再建
 - 第13週 ホロコーストの記憶と表象（1）：証言
 - 第14週 ホロコーストの記憶と表象（2）：記念碑
 - 第15週 予備日
- 計画通りにいかないこともあります。

副 題	強制移住とジェノサイド			担 当 者	武井 彩佳 准教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	水	時 限	2

〔授業の到達目標〕

20世紀を、強制的な人の移動と、それに伴い発生したジェノサイドという観点から理解する。

〔授業の内容〕

20世紀は世界的な規模で国境線の移動があり、人の強制的な移動がなされた時代である。これは民族的に均質な国家を樹立するという試みと表裏一体の関係にある。20世紀のヨーロッパと、ヨーロッパの勢力が及んだ地域（中東・アフリカ）を中心として、住民交換、強制移動、ジェノサイドの事例を学び、連綿と続く暴力の歴史について考える。

〔教材〕

参考書：ノーマン・ネイマーク『スターリンのジェノサイド』みすず書房，2012年
 石田勇治・竹内進一編『ジェノサイドと現代世界』勉誠出版，2010年
 ノーマン・ナイマーク『民族浄化のヨーロッパ史：憎しみの連鎖の20世紀』刀水書房，2014年
 授業でプリントを配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参考文献を読む

〔成績評価の方法〕

出席：試験（もしくはレポート）＝50：50

〔備考〕

遅刻者は出席点半分

〔授 業 計 画〕

- 第1週 導入
 - 第2週 概念の説明：強制移住，民族浄化，ジェノサイド，ホロコースト
 - 第3週 最初のジェノサイド？ヘレロとナマ族の抹殺
 - 第4週 トルコとギリシアの住民交換
 - 第5週 アルメニア・ジェノサイド
 - 第6週 スターリンの強制移住（1）
 - 第7週 スターリンの強制移住（2）
 - 第8週 特別授業
 - 第9週 ナチズム（1）「民族ドイツ人」の移住
 - 第10週 ナチズム（2）スラブ人に対するジェノサイド
 - 第11週 二次大戦後の移動（1）被追放民
 - 第12週 二次大戦後の移動（2）東欧の国境線移動
 - 第13週 現代のジェノサイド（1）
 - 第14週 現代のジェノサイド（2）
 - 第15週 予備日
- 計画通りにいかないこともあります。

副題	米大統領とアメリカの政治・社会			担当者	石澤 靖治 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

米大統領の変遷を軸としてアメリカ政治の制度や思想について基礎的な知識を養いつつ、アメリカ国民がアメリカの国内状況と対外関係の変化をどうとらえ、大統領に対する国民の要望と期待が時代ごとにどのように変わっていったのかを理解できるようにする。同時にアメリカの保守とリベラルという思想によるアメリカ政治・社会の問題を分析できるようにする。

〔授業の内容〕

最初に米大統領選の制度としくみを説明する。具体的には大統領になる条件や選挙人制度など。次に米大統領選挙と米大統領の歴史をたどる。時期的には主としてF. ルーズベルトの1930年ごろから現在のオバマまで。その中でアメリカ社会全体にかかわる思想として、政府と個人との関係から、保守とリベラルというものを中心に説明する。

〔教材〕

参考書：Neustadt, Richard, *Presidential Power*, Free Press, 1990
 久保文明他『アメリカ政治』（有斐閣アルマ）有斐閣，2007年
 阿部齊『現代アメリカ政治』第2版，東京大学出版会，1992年
 有賀夏紀『アメリカの20世紀（上・下）』中央公論新社，2002年
 宇佐美滋『アメリカ大統領』講談社，1988年
 参考文献は一例。米大統領と米社会について書かれたものは上記以外に無数にある。授業中にも随時紹介するが、各自積極的に他の文献にもあたること

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習に各一時間半

〔成績評価の方法〕

期末試験：50%，理解度の確認：30%，授業中のコメントあるいは簡単な課題（2回前後）提出：20%

〔備考〕

人数制限：約80名

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業の説明，スケジュール
- 第2週 アメリカ大統領と大統領への道
- 第3週 南北戦争以降大恐慌以前まで
- 第4週 繁栄と大恐慌の時代：F・ルーズベルトのニューディールの意義
- 第5週 冷戦・赤狩りと大統領：トルーマン，アイゼンハワー
- 第6週 公民権運動とベトナム戦争1—ケネディ，ジョンソン，ニクソン
- 第7週 公民権運動とベトナム戦争2—ケネディ，ジョンソン，ニクソン
- 第8週 公民権運動とベトナム戦争3—ケネディ，ジョンソン，ニクソン
- 第9週 理解度の確認
- 第10週 大統領の失墜：ニクソン，フォード，カーター
- 第11週 保守主義と冷戦の終了：レーガン，ブッシュSr.
- 第12週 ポピュリズムと大統領：クリントン
- 第13週 2つの大統領像：ブッシュJr.，オバマ
- 第14週 オバマ大統領と2014大統領選
- 第15週 まとめ

理解度の確認も含めて進行が多少前後することがある。授業中に学生に対して、何度か質問を行う。

副題				担当者	前嶋 和弘 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5

〔授業の到達目標〕

アメリカの政治・社会・文化についての包括的な理解を目指す

〔授業の内容〕

この授業ではアメリカの政治・社会・文化についての包括的な理解を目指す。アメリカという国家の枠組（人種、民族、宗教、地理的な多様性、理念、文化）のほか、アメリカ政治の中心アクター（連邦議会、大統領）、および「+αのアクター」（政党、利益団体、世論、メディア）の役割を分析する。アメリカを理解するとともに、日本との比較の視点も失わず、「アメリカを研究することで日本を知る」ことも目指している。「アメリカ文化論I」を受講していることは望ましいが、はじめて受講する学生にも理解できるように、できる限り判りやすく進めたい。

〔教材〕

- 参考書：久保、砂田、松岡、森脇著『アメリカ政治』有斐閣、2010年
 吉野孝、前嶋和弘編『オバマ政権はアメリカをどのように変えたのか』東信堂、2010年
 前嶋和弘『アメリカ政治とメディア』北樹出版、2011年
 久保文明『ティーパーティーの研究：アメリカ保守主義の変容』N T T出版、2012年
 吉野孝、前嶋和弘編『オバマ政権と過渡期のアメリカ社会』東信堂、2012年
 吉野孝、前嶋和弘編『「オバマ後」のアメリカ政治』東信堂、2014年
 吉野孝、前嶋和弘編『2008年アメリカ大統領選挙』東信堂、2009年
 滝田賢治編『アメリカがつくる国際秩序』ミネルヴァ書房、2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ブックレポートも課すため、本の選択のために、授業後は常に自分の興味がある内容を独自に調べておく。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクションペーパーや、授業での貢献度を重視する。試験を課す。

〔備考〕

「講義」というよりも準演習的な内容であり、学生の積極的な参加が大前提として求められている。毎回のリアクションペーパーなどを通じ、教員と学生、学生相互が双方向で意見を交わす。理解を深めるため、ニュース映像などを頻繁に使う。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシオン：なぜ、アメリカの政治・社会・文化を学ぶのか
 - 第2週 “アメリカ人”になるということ（実験国家のアイデンティティ：人種、民族、宗教、地理的な多様性）
 - 第3週 「アメリカは日本の兄？味方？それとも敵？」（日本人にとってのアメリカ）
 - 第4週 「自由」「平等」「個人主義」は共存できるか？（アメリカの理念と文化）
 - 第5週 「特定の文化と別の文化が出会うところには、何が生まれるのか」（人種・エスニシティと文化）
 - 第6週 「自分と異なる肌の人を憎むことは犯罪か」（ブルーリズムとヘイトクライム）
 - 第7週 「なぜ、アメリカは民主主義のモデルとなったのか」（建国の理想）
 - 第8週 「“私の議員”には親しみを感じるのに、なぜ、“ワシントン嫌い”が多いのか」（連邦議会）
 - 第9週 「大統領の権力はなぜ過大評価されるのか」（大統領）
 - 第10週 「なぜ、アメリカの有力政党は2つだけなのか」（政党）
 - 第11週 「なぜアメリカの選挙は“派手に見える”のか」（選挙）
 - 第12週 「異なる人種、民族、宗教、ジェンダーでは、政治的な見方がどのように違うのか？」（世論）
 - 第13週 「テレビはキングメーカーにふさわしいか」（メディアと政治、社会、文化）
 - 第14週 「民主主義の大国は『帝国』になりえるか」（外交）
 - 第15週 まとめ
- 学生の理解度や参加度を重視するため、授業計画は必ずしも当該週と一致しないことがある。

副題	イスラムと社会生活			担当者	小野 仁美 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

社会生活なかのイスラムをとおして、イスラム文化の多彩な魅力を知り、イスラム文化への理解を深めることを目指す。

〔授業の内容〕

授業は講義形式で進めるが、映像資料や現物資料を活用して、イスラム教徒の社会生活を多角的に見ていく。世界のイスラム教徒がどのような歴史をもち、どのような価値観を有しているのか。イスラムの基本的教義を解説しつつ、様々な地域において展開される多様なムスリム社会を紹介したい。

〔教材〕

毎回レジュメを配布する。教科書はとくに指定しない。

参考文献は、授業時に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として、事前に指定する参考文献に目を通しておくこと。授業後には、復習として再度参考文献を読み、理解を深めてほしい。

〔成績評価の方法〕

期末レポート50%、平常点（リアクション・ペーパー、質問等）50%

〔備考〕

授業後の質問を歓迎します。参考文献の相談にも応じますので、積極的に活用してください。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業のねらいと進め方
- 第2週 ハラル・ビジネスと日本
- 第3週 イスラムと日常生活
- 第4週 イスラムの結婚観
- 第5週 映像でみる現代ムスリム社会（1）
- 第6週 パレスチナ問題を考える
- 第7週 映像でみる現代ムスリム社会（2）
- 第8週 アラブ革命とイスラム主義
- 第9週 イスラムとジェンダー
- 第10週 アニメで学ぶイスラム文化（1）
- 第11週 現代イランとイスラム文化
- 第12週 イスラムと美術
- 第13週 アニメで学ぶイスラム文化（2）
- 第14週 イスラムと建築
- 第15週 まとめと復習

授業計画は変更することがある。

☆イギリス文化論

3626000100100

副題	英国史概観（古代ローマ～近代）			担当者	古庄 信 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

古代から近代に至る英国の歴史を概観しつつ、英国という国家形成のプロセスを社会的および言語的視点から考察する。これらの概念がおよそ理解され、試験において与えられた質問に適切に答えられるよう毎回の授業内容をまとめておくこと。

〔授業の内容〕

ヨーロッパの西のはずれに位置するイギリスは今から約500年前までは日本同様、小さな島国にすぎず、耐えず大陸の列強の国々の脅威にさらされてきたが、同時に独自の文化を築いてきた。そしてイギリスの母国語は、いまや「ひとつの国の言葉English」から「世界中のEnglishes」へと広まり、世界の共通語の地位を占めるまでに至った。この授業ではその小さな国が大きな力を得るに至った過程を概観しつつ、イギリスの文化とは何かを考えるきっかけとしたい。

〔教材〕

参考書：出口保夫他『21世紀イギリス文化を知る事典』東京書籍、2009年
木下卓他『イギリス文化55のキーワード』ミネルヴァ書房、2009年
指 昭博『イギリスの歴史』河出書房新社、2002年

毎回の授業でプリントを配布する。テキストは特に使用しないので、履修希望者は上記の参考文献を必読の上、授業に臨んでいただきたい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

上記の参考書などを読み、毎回の講義内容について予め予習しておくことが望ましい。

〔成績評価の方法〕

授業終了時に記入するワークシート(30%)、学期末試験(70%)をもって評価する。ワークシートの評価については欠席・遅刻・授業態度等も含まれる。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンスとイギリスの地理的理解ほか国家の名称について
- 第2週 古代ローマ時代：ブリテンの歴史登場
- 第3週 古代ローマ時代の遺産
- 第4週 アングロ・サクソン～ヴァイキング侵入
- 第5週 ノルマン人征服
- 第6週 中世1：十字軍遠征～百年戦争
- 第7週 中世2：カンタベリー物語にみる貴族・聖職者・庶民の生活
- 第8週 中世3：バラ戦争～王位継承をめぐる、そして市民階級の台頭
- 第9週 近代1：ヘンリー8世とイギリスの宗教革命
- 第10週 近代2：エリザベス女王の時代
- 第11週 近代3：シェイクスピアと演劇文化1
- 第12週 近代4：シェイクスピアと演劇文化2
- 第13週 近代5：シェイクスピアの遺産～新大陸へ
- 第14週 近代～現代1：大英帝国の繁栄と衰退
- 第15週 まとめ

およそ上記の計画に沿って授業を行うが、実際の授業時間数に従って、若干の変更や入れ替えが出る場合もある。

フランス文化論I

3626001100100

副題	フランスの歴史と文化			担当者	工藤 晶人 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

中世から近世にかけてのフランス史について理解を深める。

〔授業の内容〕

この講義では、中世から近世にいたるフランスの歴史を通観する。ヨーロッパのなかでのさまざまな文化圏との関わり、海外（カリブ海域とアフリカ）との関係を重視して、異文化交渉のなかから形成されてきたフランスの多様性について考える。

〔教材〕

参考文献を授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読

〔成績評価の方法〕

学期中の中間レポート（40%）、学期末レポート（40%）、コメントシート（20%）

〔備考〕

授業内容についての質問は、オフィスアワーに研究室で受け付ける。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
 - 第2週 フランスとフランス語圏の地理 1
 - 第3週 フランスとフランス語圏の地理 2
 - 第4週 中世ヨーロッパとフランス 1
 - 第5週 中世ヨーロッパとフランス 2
 - 第6週 中世ヨーロッパとフランス 3
 - 第7週 近世フランスの国家と社会 1
 - 第8週 近世フランスの国家と社会 2
 - 第9週 近世フランスの国家と社会 3
 - 第10週 カリブ海とフランス 1
 - 第11週 カリブ海とフランス 2
 - 第12週 西アフリカとフランス 1
 - 第13週 西アフリカとフランス 2
 - 第14週 フランスと環大西洋世界
 - 第15週 まとめ
- 進行は前後することがある。

フランス文化論II

3626001200100

副 題	フランスの歴史と文化			担 当 者	工藤 晶人 准教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	火	時 限	3

〔授業の到達目標〕

近世から近代にかけてのフランス海外関係史について理解を深める。

〔授業の内容〕

この講義では、18世紀末から20世紀初頭にかけてのフランス海外関係史を通観する。環大西洋地域、地中海、東南アジア、サハラ以南アフリカとの関係を概観し、フランスとフランス語圏の多様性について考える。

〔教材〕

参考文献を授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読

〔成績評価の方法〕

学期中の中間レポート（40%）、学期末レポート（40%）、コメントシート（20%）

〔備考〕

授業内容についての質問は、オフィスアワーに研究室で受け付ける。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨN
 - 第2週 大西洋革命の時代1
 - 第3週 大西洋革命の時代2
 - 第4週 大西洋革命の時代3
 - 第5週 地中海とフランス1
 - 第6週 地中海とフランス2
 - 第7週 地中海とフランス3
 - 第8週 東南アジアとフランス1
 - 第9週 東南アジアとフランス2
 - 第10週 サハラ以南アフリカとフランス1
 - 第11週 サハラ以南アフリカとフランス2
 - 第12週 共和国と帝国1
 - 第13週 共和国と帝国2
 - 第14週 共和国と帝国3
 - 第15週 まとめ
- 進行は前後することがある。

副題	「ドイツ的」とは何か			担当者	武井 彩佳 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2

〔授業の到達目標〕

歴史や宗教を通してドイツ文化の根底にあるものを理解する。「ドイツ的」なものとは何か。

〔授業の内容〕

ドイツというと一般的なイメージとして、「堅実」「合理的」「深い精神性」といった言葉が並ぶ一方で、「暗い」「排他的」「独裁」といった否定的な言葉も浮かびます。ドイツ人は「ドイツ」というものをどのように捉えてきたのでしょうか。また、ドイツ文化の特徴だとみなされてきたものはどのように生まれてきたのでしょうか。

第二次世界大戦以前のドイツを対象に、ドイツ文化の背景にあるものについて考えます。同時に料理などのより一般的な文化も見てみましょう。視覚資料を多く使います。

〔教材〕

参考書：若尾祐司・井上茂子『近代ドイツの歴史』ミネルヴァ、2005年

若尾祐司・井上茂子『ドイツ文化史入門—16世紀から現代まで』昭和堂、2011年
授業でプリントを配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参考文献を読む。

〔成績評価の方法〕

出席：試験＝50：50

〔備考〕

遅刻者は出席点半分

〔授業計画〕

- 第1週 導入：「ドイツ」という概念
 - 第2週 ドイツの森
 - 第3週 中世の都市の発展
 - 第4週 中世の人々の暮らし
 - 第5週 食文化（1）
 - 第6週 食文化（2）：関連するビデオ鑑賞
 - 第7週 食文化（3）
 - 第8週 宗教
 - 第9週 ドイツ外のドイツ（1）
 - 第10週 ドイツ外のドイツ（2）
 - 第11週 特別講義
 - 第12週 ヴァイマル文化
 - 第13週 ジェンダー（1）
 - 第14週 ジェンダー（2）
 - 第15週 理解の確認
- 計画通りいかないこともあります。

ドイツ文化論II

3626002200100

副 題	戦後ドイツ社会			担 当 者	武井 彩佳 准教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月	時 限	2

〔授業の到達目標〕

戦後ドイツの政治や社会を、「ナチズムの克服」「想起文化」「環境」などの側面から理解する。

〔授業の内容〕

二つの世界大戦を引き起こし、そして敗北したドイツ。しかし戦後ドイツは急速な経済復興を果たし、信頼される民主主義国家として再生した。

この授業では、戦後ドイツがたどった軌跡を追い、特にナチズムの過去の克服や、移民・外国人の受け入れをめぐる議論、そしてドイツが世界をリードする環境問題への取り組みなどの点から、多面的に学ぶ。

〔教材〕

参考書：ノルベルト・フライ／佐藤健生『過ぎ去らぬ過去との取り組み 日本とドイツ』岩波書店、2011年

矢野久『労働移民の社会史 戦後ドイツの経験』現代書館、2010年

石田勇治『過去の克服：ヒトラー後のドイツ』復刻版、白水社、2014年

授業でプリントを配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参考文献を読む。

〔成績評価の方法〕

出席：試験＝50：50

〔備考〕

遅刻者は出席点半分。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 敗戦・占領——戦後の出発点
 - 第2週 過去の克服（1）
 - 第3週 過去の克服（2）
 - 第4週 1968年
 - 第5週 想起の文化（1）
 - 第6週 想起の文化（2）
 - 第7週 ドイツの外国人・マイノリティ（1）
 - 第8週 ドイツの外国人・マイノリティ（2）
 - 第9週 ドイツの外国人・マイノリティ（3）
 - 第10週 環境への取り組み（1）
 - 第11週 環境への取り組み（2）
 - 第12週 環境への取り組み（3）
 - 第13週 ドイツの軍隊
 - 第14週 理解度の確認
 - 第15週 予備日
- 計画通りいかないこともあります。

イタリア文化論I

3626003100100

国際コミュニケーション
ケーション学科

副題	都市文化としてのイタリア文化とその歴史			担当者	根占 献一 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパ文化としてとしてのイタリア文化、またイタリア文化独自の特徴をその都市文明に求め、この理解を深めること

〔授業の内容〕

古代と近代バロック文化の中心となったローマやナポリ、共和制の伝統を長く伝えたヴェネツィア、中世ビザンティン文化の香りを残すラヴェンナ、ルネサンス都市として知られる花の都フィレンツェなど、イタリアはたくさんの都市があり、その文明が栄えた。いくつかの都市を紹介してイタリア文化の特徴を明らかにしてゆこう。

〔教材〕

参考書は適宜紹介し、場合によっては資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

最低各1時間半。

〔成績評価の方法〕

試験（50パーセント）、授業態度〔出席回数など〕（35パーセント）、リアクションペーパーなど(15%)

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 序：イタリア都市の特徴
 - 第2週 永遠の都ローマ（1）
 - 第3週 同上（2）
 - 第4週 同上（3）
 - 第5週 ラヴェンナ—古代から中世へ
 - 第6週 アッシジー—キリスト教の発展
 - 第7週 ヴェネツィア共和国—今昔（1）
 - 第8週 同上（2）
 - 第9週 ピサとフィレンツェ
 - 第10週 フィレンツェとシエナ
 - 第11週 フィレンツェとトスカーナ諸都市（1）
 - 第12週 同上（2）
 - 第13週 近代国家イタリアの誕生（1）
 - 第14週 同上（2）
 - 第15週 結—イタリア都市と私たち
- 専門家を招いて「特別授業（講義）」を行う予定。

副題	文学と絵画に描かれる18世紀のイタリア			担当者	宮坂 真紀 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2

〔授業の到達目標〕

18世紀のイタリアにおける文化的諸相の歴史的意義や特色について文学テキストや絵画を通して考察する。

〔授業の内容〕

この講義ではジュゼッペ・パリーニ（1729-1799）の長編詩『一日』を読みながら、そこに描かれる18世紀の北イタリアの貴族社会とそれを取り巻く様々な文化現象を取り上げ、その歴史的意義や特色を考察します。

『一日』は18世紀のイタリア文学を代表するテキストのひとつですが、とくに「チチスベオ」（貴婦人に奉仕する付き添いの騎士）の行動がつぶさに描写されているという点において、文化史研究の観点からも重要な作品といえます。

講義では同様のテーマを描いたP.ロンギやG.D.ティエポロなど同時代の風俗画家たちの作品も紹介しながら、チチスベオを中心とする世界が同時代の人々の目にどのように映っていたのか、背景にある啓蒙主義との関連からも読み解いていきたいと思ひます。

なお、テキストを読む際は翻訳（日本語）を用意しますので、イタリア語が読めなくても履修可能です。

〔教材〕

授業中に講義内容に関連する資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各授業は前回までの講義内容を踏まえた上で進行しますので、配布プリントやノートをもとに前回の授業内容を整理して授業に臨んでください。

〔成績評価の方法〕

成績は、学期末試験（80%）と授業への取り組み（20%）に基づいて評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ジュゼッペ・パリーニの生涯と思想
第2週	『一日』の概要：18世紀のイタリア貴族の一日
第3週	18世紀における「チチスベオ」の存在と社会的意義 1
第4週	18世紀における「チチスベオ」の存在と社会的意義 2
第5週	18世紀における「チチスベオ」の存在と社会的意義 3
第6週	『一日』に描かれる「モーダ（流行）」 1
第7週	『一日』に描かれる「モーダ（流行）」 2
第8週	『一日』に描かれる「モーダ（流行）」 3
第9週	騎士道文学のパロディとしての『一日』 1
第10週	騎士道文学のパロディとしての『一日』 2
第11週	騎士道文学のパロディとしての『一日』 3
第12週	『一日』に描かれる18世紀イタリアの社会思想 1
第13週	『一日』に描かれる18世紀イタリアの社会思想 2
第14週	『一日』に描かれる18世紀イタリアの社会思想 3
第15週	講義のまとめと理解度の確認

各回の講義計画はあくまで予定です。授業の進捗状況に応じて一部、変更する場合があります。

副題	遺跡を通してみるアジア文化			担当者	重枝 豊 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

日本と距離的には近い東南アジアだが、それらの国々の基層文化はさまざまな違いをもっている。それらを理解することによって、日本文化について再考できる視野をもてるようになること。

〔授業の内容〕

東南アジア大陸部の文化を建築を通して解説する。講義主体はベトナムとカンボジア、タイであるが、東南アジア、広域アジア圏を常に念頭に置きながら、東南アジア大陸部の文化摂取、醸造、展開のプロセスを探る。覚える各国史ではなく、現場で考える立場の地域史をグローバルにとらえることを講義の目的とする。

〔教材〕

参考書：千原大五郎『東南アジアのヒンドゥー・仏教建築』第3版，鹿島出版会，1987年
日本建築学会編『東洋建築史図集』第1版，彰国社，1995年
桃木至朗『歴史世界としての東南アジア』（世界史リブレット12）第1版，山川出版社，1996年
毎回資料を配付する。教科書はとくに定めないが、毎回提示する図書を各自が事前に読んでいるものとして、授業を進めるので注意すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習を1時間，復習を2時間。

〔成績評価の方法〕

記述式の試験の実施と，出席，1～2回程度のレポート提出することがある。その場合は期末試験80点，出席・レポート20点の総合評価として成績を付ける。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンスとアジアの基層文化について	講義の進め方について
第2週	カンボジアの歴史と文化遺産1	プレ・アンコール期の建築について
第3週	カンボジアの歴史と文化遺産2	アンコール期の建築（アンコール・ワット以前）
第4週	カンボジアの歴史と文化遺産3	アンコール・ワットとバイヨン寺院
第5週	カンボジアの歴史と文化遺産4	東北タイのクメール寺院
第6週	ベトナムの歴史と文化遺産1	チャンパー国の聖地ミーソン遺跡
第7週	ベトナムの歴史と文化遺産2	チャンパー国のさまざまな建築
第8週	ベトナムの歴史と文化遺産3	北部仏教寺院の成立と特徴について
第9週	インドネシアの歴史と文化遺産1	中部ジャワの初期遺構
第10週	インドネシアの歴史と文化遺産2	ブランバナンとボロブドール
第11週	インドネシアの歴史と文化遺産3	ソロ遺跡群と東部ジャワ遺跡
第12週	ミャンマーの歴史と文化遺産	パガン遺跡について
第13週	ラオスの歴史と文化遺産	ワット・プー遺跡とカトゥー族の民家
第14週	タイの歴史と文化遺産	アユタヤとスコタイの文化について
第15週	フエでの文化財修復とミーソン・サイトミュージアムの建設	

毎回推薦図書を提示するので、予備知識をもって受講することが望ましい。講義は毎回パワーポイントを用いて行なう。

副題	居住文化と生活文化からアジアの基層文化を考える			担当者	乾 尚彦 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

東南アジア島嶼部の文化の特質，その基層文化を把握する。

〔授業の内容〕

東南アジア島嶼部には，多くの民族が住み，様々な自然，歴史，社会的条件から，多様な生活文化，住まいの諸相がみられる。こうした多様性と同時に共通性も指摘できる。それは，日本を含めたアジアの基層文化とも関連している。

本講義では，東南アジア島嶼部に生活する民族（オーストロネシア系の諸民族）の文化をいくつか具体的にとりあげ，それを成立させてきた要因について考えていきたい。対象とするのは，これまで実際にフィールドワークによって調査研究をおこなってきた地域・民族である。生活文化の実相を，調査者の視点で多くの画像資料を用いながら具体的に示していきたい。

〔教材〕

授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

課題提出（講義前日まで）

〔成績評価の方法〕

毎回のレポート，出席，最終レポートの内容による。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ヤミ族（台湾） 1
- 第2週 ヤミ族（台湾） 2
- 第3週 ヤミ族（台湾） 3
- 第4週 パイワン族（台湾） 1
- 第5週 パイワン族（台湾） 2
- 第6週 ニアス族（インドネシア） 1
- 第7週 ニアス族（インドネシア） 2
- 第8週 ボントック族（フィリピン） 1
- 第9週 ボントック族（フィリピン） 2
- 第10週 ボントック族（フィリピン） 3
- 第11週 ボントック族（フィリピン） 4
- 第12週 イフガオ族（フィリピン）
- 第13週 バタック族（インドネシア）
- 第14週 総括 1
- 第15週 総括 2

副題					担当者	金野 純 准教授	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

現代中国を多面的に理解することで、メディアで流される単純化された〈中国イメージ〉を相対化する。

〔授業の内容〕

最近、世界の政治経済で中国の存在感が高まっている。その中国を多面的に理解するために、日中関係、政治経済、民族、宗教、家族についてテーマ毎に学習する

〔教材〕

授業のはじめにプリントを配布する。欠席者のための再配布はおこなわない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で配布するプリントに、参考文献が記載されているので、授業内容とともに参考文献を各自熟読し、内容に対する理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクションペーパー（40%）と期末試験（60%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 日中関係の歴史と現在（1）
- 第3週 日中関係の歴史と現在（2）
- 第4週 現代中国の政治構造
- 第5週 現代中国の政治史
- 第6週 現代中国の経済発展（1）
- 第7週 現代中国の経済発展（2）
- 第8週 現代中国の格差問題（1）
- 第9週 現代中国の格差問題（2）
- 第10週 現代中国の民族問題（1）
- 第11週 現代中国の民族問題（2）
- 第12週 現代中国社会と宗教結社（1）
- 第13週 現代中国社会と宗教結社（2）
- 第14週 現代中国の家族と女性
- 第15週 まとめ

朝鮮文化論

3626004500100

副 題	韓国の文化と社会			担 当 者	羅 京 洙 准教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	月	時 限	4

〔授業の到達目標〕

本授業は、東アジアの諸文化を踏まえつつ、朝鮮半島（特に韓国）の文化と社会について様々な角度から総体的に理解することを目標とする。

〔授業の内容〕

これまでの朝鮮文化論をクリティカルにとらえつつ、比較文化論という観点から朝鮮文化への理解を深める。具体的には、朝鮮半島独自の文化的な伝統と現代に触れると共に、歴史的にも文化的にも近い関係にある日本と朝鮮半島の文化交流についても解説をおこなう。また、受講生との積極的な質疑応答と討論を軸として授業を進めたい。受講生は、朝鮮半島の文化と社会に関する情報・知識に接する機会を多くし、問題意識をもって授業に臨むことが求められる。なお、関連の視聴覚教材やコンピュータも必要に応じて豊富に使用する。

〔教材〕

特定の教科書は用いないが、毎回の指定文献を授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

受講生は、毎回の指定文献や参考資料を必読の上、授業に参加すること。

〔成績評価の方法〕

レポート（40%）と期末試験（30%）を重視するが、授業への出席率・貢献度（30%）も加味する。

〔備考〕

授業内容について質問などがある場合は、金曜日のオフィス・アワー（14:00～17:00）に研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 東アジアの中の 코리아文化
- 第3週 朝鮮半島の歴史と現在
- 第4週 恨（ハン）という情緒
- 第5週 朝鮮半島の歌文化：アリランからK-POPまで
- 第6週 日韓文化交流：＜韓流篇＞
- 第7週 日韓文化交流：＜日流篇＞
- 第8週 若者文化
- 第9週 教育と学歴
- 第10週 コリアン・ディアスポラ（在外コリアン）とその文化
- 第11週 在日コリアンと多文化共生
- 第12週 韓国の政治文化と大統領
- 第13週 北朝鮮の文化と社会
- 第14週 歴史認識問題と日韓・日朝関係
- 第15週 総合討論・総括

副題	ドナウ流域諸国の歴史と文化			担当者	中島 崇文 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

東欧、特に南東欧の文化の諸側面に関する幅広い知識を身につける。

〔授業の内容〕

ドイツ、オーストリア、スロヴァキア、ハンガリー、旧ユーゴスラヴィア諸国、アルバニア、ブルガリア、ルーマニアといったドナウ川流域を中心とする国々の歴史と文化について、多様な側面から講義する。地域研究基礎論I・IIと相互補完的な講義科目である。

〔教材〕

教科書：柴宜弘編著『バルカンを知るための65章』（エリア・スタディーズ48）明石書店、2013年
六鹿茂夫編著『ルーマニアを知るための60章』（エリア・スタディーズ66）明石書店、2010年

毎週、授業開始時にレジュメを配布し、これに基づいて講義する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で用いるレジュメは原則として前の授業で配布するので、事前によく目を通しておくこと。また、教科書の該当箇所は毎週のレジュメの末尾に明記しているので、こちらも事前に読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

論述式の期末試験の点数（約50%）と毎週の授業終了時に提出していただく感想文の点数（約50%）を合計して100点満点として算出する。受講者は毎週出席して当然との観点から、出席を点数化して加点するという事は行わず、逆に1回の欠席につき7点の減点とする。遅刻した際には、その理由を証明する書類が提示されない限り、出席とはみなされない。受講態度に問題がある（私語、早退、居眠りなど）と判断される場合も大幅に減点される。受講生は遅刻せずに毎週出席するよう、最大限に努力すること。

〔備考〕

できる限り2年次、さもなくば3年次に履修するのが望ましい。また、関連科目である地域研究基礎論I・IIを履修済み、もしくは履修中であることが望ましい。また、西洋芸術論、言語地理学も可能な限り併行して履修することをお勧めする。さらに、中欧国際協力研修参加予定者、国際コミュニケーション学科の学生で中島ゼミへの申請を検討している者は、地域研究基礎論I・II、東欧文化論、国際コミュニケーション基礎演習Dをできるだけ履修し、かつ、優秀な成績を修めるよう努力すること（ゼミの選考に際しては、これらの授業を履修し、かつ、それらの成績の優秀な者が優先される）。オフィスアワーは月曜日の15:00～16:00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。4号館2階の個人研究室のみならず、7号館1階の国際交流推進センター所長室にいることも少なくないので、こちらに立ち寄ってもよい。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--|
| 第1週 | 授業概要の説明 |
| 第2週 | 東欧におけるドナウ川の概観とイメージ |
| 第3週 | 東欧におけるドナウ川の実態、運河建設と流域諸国間の協力 |
| 第4週 | 東欧の窓口としてのウィーン |
| 第5週 | 東欧におけるギリシア的要素とローマ概念の変遷 |
| 第6週 | 東欧における東方正教会（1）—起源と発展— |
| 第7週 | 東欧における東方正教会（2）—モルドヴァの修道院のフレスコ画の事例— |
| 第8週 | 東欧における巡礼—メジュゴリエ、ニクラ、マリヤ・ビストリツァ、オフリド、カルヴァリア・ゼブジドフスカなどの聖地— |
| 第9週 | 東欧における吸血鬼や魔女への信仰 |
| 第10週 | 映画で描かれた東欧の現代社会（1） |
| 第11週 | 映画で描かれた東欧の現代社会（2） |
| 第12週 | 東欧の食文化 |
| 第13週 | 東欧における四季折々の風習 |
| 第14週 | 日本の東欧支援と東欧における対日感情 |
| 第15週 | 総括 |

副題				担当者	山口 志のぶ 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4

〔授業の到達目標〕

アメリカの歴史を概観し、それぞれの時代を代表する作家とその作品を研究することによって、アメリカ文学の特色を理解することを目標にします。

〔授業の内容〕

春学期は南北戦争以後から19世紀末までの歴史を概観しながら、その社会背景や文化の中から生まれた代表的文学作品を取り上げて解説します。理解を深めるために映像資料を大いに活用する予定です。

〔教材〕

参考書：寺門泰彦、渡辺信二、武田千枝子、佐藤千春、矢作三蔵、水谷八也『アメリカ文学案内』第1版、朝日出版社、2008年

上岡伸雄『Geography in U.S. History』第7版、2008年

教科書は使用せず、適宜プリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

特になし。毎回、授業内で出席確認を兼ねたコメントペーパーを書いて提出していただきます。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60%と平常点約40%をもとに総合的に評価します。

〔備考〕

第1回目の授業には必ず出席してください。

〔授 業 計 画〕

第1週	イントロダクション
第2週	「金メッキ時代」(1) — 地方色の文学
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	「金メッキ時代」(2) — リアリズムの抬頭と文学
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

上記の内容は一応の目安であり、受講者の理解度を考慮しながら授業を進めていきます。

副題				担当者	山口 志のぶ 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4

〔授業の到達目標〕

アメリカの歴史を概観し、それぞれの時代を代表する作家とその作品を研究することによって、アメリカ文学の特色を理解することを目標にします。

〔授業の内容〕

秋学期は19世紀末から1920年代までの歴史を概観しながら、その社会背景や文化の中から生まれた代表的文学作品を取り上げて解説します。理解を深めるために映像資料を大いに活用する予定です。

〔教材〕

参考書：寺門泰彦、渡辺信二、武田千枝子、佐藤千春、矢作三蔵、水谷八也『アメリカ文学案内』第1版、朝日出版社、2008年

上岡伸雄『Geography in U.S. History』第7版、2008年

教科書は使用せず、適宜プリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

特になし。毎回、授業内で出席確認を兼ねたコメントペーパーを書いて提出していただきます。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60%と平常点約40%をもとに総合的に評価します。

〔備考〕

第1回目の授業には必ず出席してください。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 ヶ
- 第3週 革新の時代 - 自然主義文学
- 第4週 ヶ
- 第5週 ヶ
- 第6週 ヶ
- 第7週 ヶ
- 第8週 ヶ
- 第9週 ヶ
- 第10週 ヶ
- 第11週 繁栄と狂乱の時代 - モダニズム文学
- 第12週 ヶ
- 第13週 ヶ
- 第14週 ヶ
- 第15週 まとめ

上記の内容は一応の目安であり、受講者の理解度を考慮しながら授業を進めていきます。

比較音楽論I (東洋)

3626011100100

副題				担当者	丸山 洋司 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

音楽からみた「西洋」と「東洋」の交渉あるいは比較といったテーマについて、各自様々な角度から考えることができるようになる。

〔授業の内容〕

本講義では「東洋」の音楽文化を中心にとりあげ、映像資料などを用いて解説する。「西洋」の楽器や音楽理論との比較、さらには「西洋」の音楽文化との接触による変化といったテーマについても考察する。

〔教材〕

参考書：柘植元一、塚田健一『はじめての世界音楽』初版、音楽之友社、1999年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業後、関心を持ったテーマについて、授業中に提示した参考書や映像資料などを参照して各自理解を深める。

〔成績評価の方法〕

ときどき授業の冒頭で課す小レポートの記載内容(20%)と学期末試験の得点(80%)の合計によって評価する。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 声の芸術の東西
- 第3週 東洋の楽器1 (体鳴楽器)
- 第4週 東洋の楽器2 (膜鳴楽器)
- 第5週 東洋の楽器3 (弦鳴楽器)
- 第6週 東洋の楽器4 (気鳴楽器)
- 第7週 東洋における西洋楽器の受容1
- 第8週 東洋における西洋楽器の受容2
- 第9週 「和楽器」の外來と固有
- 第10週 音組織の東西1
- 第11週 音組織の東西2
- 第12週 リズムの東西1
- 第13週 宗教と音楽1
- 第14週 宗教と音楽2
- 第15週 「東洋」と「西洋」の音楽教育

副題	ヨーロッパの社会とオペラ			担当者	米田 かおり 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパの音楽活動のなかで非常に重要なジャンルとして今なお愛好されている「オペラ」が、社会のなかでどのような役割を果たしたかを理解するとともに、授業内で使用する映像資料なども通してオペラそのものの楽しさを体験する。

〔授業の内容〕

「オペラ」は「敷居が高い」「堅苦しい」と概して考えられるかもしれないが、ヨーロッパの音楽の歴史をながめてみたとき、オペラほどあらゆる階層の人々に愛好されたジャンルはない。歌手の歌唱力や華やかな舞台、「恋愛物」のストーリーなど、オペラには聴衆を魅了する要素があふれている。音楽家もオペラに魅せられ、モーツァルトをはじめ、多くの音楽家がオペラでの成功を最大の目標に掲げていた。同時にオペラは当時の社会と密接に関わり、時代や地域ごとに異なる様相を映し出したジャンルである。この授業では、ヨーロッパの社会とオペラの関わりを歴史的に考察しながら、作品や作曲家ばかりではなく、歌手や聴衆、劇場、台本などについても理解を深める。

〔教材〕

授業ごとにプリントを配布し、適宜参考文献を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

今回の授業内容（オペラ作品や作曲家など）を告知するので、授業内で執筆する小レポートに反映できるよう、自身の専門や関心との関連について、事前にまとめておくこと。
また限られた時間内でオペラ作品全体を鑑賞することは難しいため、図書館などの視聴覚資料を用いて積極的に鑑賞する。

〔成績評価の方法〕

学期末レポート（50%）および出席点（25%）、授業内小レポート（25%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ヨーロッパの音楽と社会—オペラから見えるもの
第2週	オペラのなかの「日本」—ジャコモ・プッチーニ（1858-1924）《蝶々夫人》を例に
第3週	イタリアの宮廷文化とオペラの誕生
第4週	公開オペラの登場—ヴェネツィア共和国とオペラ
第5週	カストラート（去勢歌手）への熱狂—ナポリ王国とオペラ
第6週	17～18世紀フランスとオペラ—ルイ14世時代におけるフランス語オペラの確立
第7週	18世紀におけるイタリア・オペラへの熱狂—イギリス、ロシアを例に
第8週	モーツァルト（1756-1791）とウィーン（1）王侯貴族の社交生活とオペラ
第9週	モーツァルトとウィーン（2）ドイツ語歌芝居《魔笛》の背景にあるもの
第10週	19世紀ドイツ・ナショナリズムとオペラ—リヒャルト・ヴァーグナー（1813-1883）の楽劇
第11週	19世紀イタリアにおけるオペラ（1）「ベル・カントの時代」ロッシーニ、ペッリーニ、ドニゼッティの活躍
第12週	19世紀イタリアにおけるオペラ（2）ジュゼッペ・ヴェルディ（1813-1901）
第13週	19世紀フランスにおけるオペラ—パリ・オペラ座から見えるもの
第14週	19世紀ロシアにおけるオペラ—国民楽派とロシア語オペラ
第15週	20世紀のオペラ—イギリスの作曲家ベンジャミン・ブリテン（1913-1976）を例に

副 題	文化財から文化遺産へ			担 当 者	M. ウーゴ 准教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	火	時 限	4

〔授業の到達目標〕

文化遺産の保護や活用の意味を理解すること。

〔授業の内容〕

文化遺産は、移動可能な絵画から、広い土地に根づく遺跡までが含まれる。歴史的に重要なもの、芸術的に重要なもの、民俗学的に貴重なもの、さまざまである。芸術は、絵画と彫刻と建築からなるとされているが、本授業では建築を中心に西洋や日本で古代から現在まで、どのように芸術作品や歴史資料を扱ってきたのかを考える。芸術作品を鑑賞しながらも、複数の建物や都市空間からなる歴史地区を対象にし、地域や時代によって大きく異なるその保護方法について理解を深める。どのような「文化遺産」が保護対象になってきたかを時代追って考察し、「文化遺産」を通史的に理解することを目的とする。

〔教材〕

参考書：伊藤延男・濱島正士・他『歴史的建造物の保存』（新建築学大系50）彰国社，1999年
 ユッカ・ヨキレット（著）、益田兼房（監修）『建築遺産の保存-その歴史と現在』（立命館大学歴史都市防災研究センター叢書）アルヒーフ，2005年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献等）、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況と授業時の積極性 [10%]，中間試験 [30%]，期末試験 [60%]

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 古代と中世にける文化財の保護
- 第3週 近世以降の文化財修復事業
- 第4週 19世紀：近代国家形成と歴史
- 第5週 明治維新後の文化財保護
- 第6週 文化財の調査
- 第7週 博物館の設立
- 第8週 文化財の保護行政 1
- 第9週 文化財の保護行政 2
- 第10週 文化財の保護行政 3
- 第11週 戦前の文化財保護
- 第12週 戦中・戦後の文化財保護
- 第13週 現在の文化遺産の保護 1
- 第14週 現在の文化遺産の保護 2
- 第15週 現在の文化遺産の保護 3

副題	International Relations of East Asia			担当者	羅 京洙 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

東アジア国際関係に関する諸問題を外国語（主に英語及び韓国語）で論じるための語学力を身につけることを目指す。

〔授業の内容〕

異文化への理解を深めるため、言語能力の習得は欠かせないことである。とりわけ英語力は、言うまでもなく、最も必要とされる国際コミュニケーションの手段である。東アジア国際関係の諸問題、例えば地域統合や安全保障、朝鮮半島問題（北朝鮮を含む）、日韓関係、歴史認識問題、人の移動、文化交流などに関する英語・韓国語の資料（新聞・雑誌・論文・図書・映像など）を豊富に使用し、英語・韓国語文化圏の人々（研究者）は、東アジアという地域をいかに認識・表現しているのかを一緒に考える。また、本演習では、関連文献の講読を中心としつつも、語学学習における読む・書く・聞く・話すという四機能をバランスよく演習していく。

〔教材〕

特定の教科書は用いないが、毎回の指定文献や資料などを授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

受講生は、毎回の指定文献や参考資料を必読の上、演習に参加すること。

〔成績評価の方法〕

演習への出席率・貢献度（30%）、課題・レポート（30%）、期末試験（40%）によって評価する。

〔備考〕

演習の内容について質問などがある場合には、金曜日のオフィス・アワー（14：00～17：00）に研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 講義：東アジア国際関係論に関する英語表現（1）
- 第3週 講義：東アジア国際関係論に関する韓国語表現（2）
- 第4週 リーディング（読解）演習（1）
- 第5週 リーディング（読解）演習（2）
- 第6週 リーディング（読解）演習（3）
- 第7週 リスニング（聴解）演習（1）
- 第8週 リスニング（聴解）演習（2）
- 第9週 リスニング（聴解）演習（3）
- 第10週 プレゼンテーション演習（1）
- 第11週 プレゼンテーション演習（2）
- 第12週 プレゼンテーション演習（3）
- 第13週 ライティング（作文）演習（1）
- 第14週 ライティング（作文）演習（2）
- 第15週 まとめ

副 題	東南アジアにおけるジェンダー、市場および国際関係 (1)			担 当 者	久保田 有香 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	水	時 限	3

〔授業の到達目標〕

東南アジア（ASEAN諸国）について、英語文献を題材に、ジェンダー、市場及び国際関係という三つの視点から、理解を深めること。また、英語でものごとを理解し、議論することの楽しさを知ること。

〔授業の内容〕

本演習は、ASEAN諸国について、ジェンダー、市場及び国際関係の視点から理解を含めることを第一の目的とします。アセアン諸国の現在を取り上げている英文記事等を対象に議論を深め、みなさんと東南アジアとの距離を少しでも近くし、日ASEAN関係の重要性を自分たちの問題として理解していただきたいと考えています。具体的なテーマとしては、東南アジア諸国における女性の社会進出状況、背景としての投資環境状況、また各国におけるジェンダー関係の事例等を考えています。

また、本授業を通じて、英語でものごとを理解し、議論することの楽しさについても触れていただきたく、授業形式は、指定された文献（記事等）についての講読にとどまらず、ディベートを積極的に取り入れ、参加型を目指しています。

〔教材〕

各回毎に指定、または配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：配布された記事については簡単な和訳を準備すること（一時間程度）、ディベート前には、各自のリサーチが必要（内容による）

〔成績評価の方法〕

- (1) 毎回の出席、授業への取り組み（以上を平常点として60%程度）
- (2) 期末試験（40%程度）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス テキストの配布
- 第2週 テキストを見ながら受講の心得の確認、ASEANについてのイントロダクション
- 第3週 講読
- 第4週 講読記事に関するディベート
- 第5週 講読、次回のテキストの配布
- 第6週 講読記事に関するディベート
- 第7週 講読、次回のテキストの配布
- 第8週 講読記事に関するディベート
- 第9週 講読、次回のテキストの配布
- 第10週 講読記事に関するディベート
- 第11週 講読、次回のテキストの配布
- 第12週 講読記事に関するディベート
- 第13週 講読、次回のテキストの配布
- 第14週 講読記事に関するディベート
- 第15週 総括

副題	英語で学ぶ奴隷貿易の歴史			担当者	工藤 晶人 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1

〔授業の到達目標〕

大西洋奴隷貿易の歴史について、映画と文献講読を通じて理解を深める。

〔授業の内容〕

数百年に渡ってヨーロッパ、アフリカ、アメリカを結びつけた奴隷貿易は、現代の世界にも影響を与えつづけている。この演習では、奴隷貿易を題材とした映画鑑賞と文献講読を通じてその歴史を学ぶ。

〔教材〕

プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読

〔成績評価の方法〕

出席状況、授業中に課される課題、参加姿勢を総合的に評価する。

〔備考〕

授業内容についての質問等は、オフィスアワーに研究室で受け付ける。

〔授業計画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
 - 第2週 テキストの購読とディスカッション
 - 第3週 ヌ
 - 第4週 ヌ
 - 第5週 映画を題材としたディスカッション
 - 第6週 テキストの購読とディスカッション
 - 第7週 ヌ
 - 第8週 ヌ
 - 第9週 ヌ
 - 第10週 映画を題材としたディスカッション
 - 第11週 テキストの購読とディスカッション
 - 第12週 ヌ
 - 第13週 ヌ
 - 第14週 ヌ
 - 第15週 映画を題材としたディスカッション
- 参加人数により授業計画を変更する。

副題				担当者	渡邊 淳 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

英語の語彙と表現を習得し、プレゼン力の向上を図る。

〔授業の内容〕

英語の新聞、雑誌の記事や本の抜粋を教材として取り上げ、英語の語彙、表現を習得しながら、外国と日本でのものの考え方の類似点や相違点などを認識しつつ、「自分」の意見を考える。また、勉強した事柄に関し学生同士で議論し、グループとして互いに意見を取り纏め、グループごとにプレゼンする練習を行う。テーマとしては「学校と実社会の違い」「グループでうまく協働作業するヒント」「うまくプレゼンするための留意点」など授業で取り上げる予定。

〔教材〕

用意した教材を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布した語彙集と記事などを予習／復習すること。

先週取り上げたテーマについて自分の意見を整理し、クラスのグループで議論する準備が望ましい。

〔成績評価の方法〕

出席点（約15%）、レポートと授業態度等（約25%）および2回のテスト（約60%）の総合点

〔備考〕

受講資格：既に外国語（英語）演習IIDを受講したものを除く。

〔授 業 計 画〕

第1週	年間予定の説明、 外資系企業がよく使用するSMART方式のObjectives設定と人事評価手法を学び、春学期のこのコースの目標を考える
第2週	英字新聞等の時事問題に関する記事を読む。
第3週	先週の取り上げた記事に関連するテーマについてグループ分けしたクラスがそれぞれグループごとに意見をまとめ、クラスの前で発表する。又、プレゼンする上での改善点を話し合いながらグループごとに相手を評価していく。
第4週	英語の本から「グループでうまく協働作業するためのヒント」に関する抜粋を読む。
第5週	先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し、グループでの意見の集約し、プレゼンする練習を行う。
第6週	理解度を確認する為のQuiz 英語の本から「失敗からの教訓」に関する抜粋を読む。
第7週	先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し、グループでの意見の集約し、プレゼンする練習を行う。
第8週	英語の本から「神童達の追跡調査」に関する抜粋を読む。
第9週	先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し、グループで意見を集約し、プレゼンする練習を行う。
第10週	英語の本から「プレゼンの秘訣」に関する抜粋を読む。
第11週	先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し、グループで意見を集約し、プレゼンする練習を行う。
第12週	宿題に出されていたレポートの提出とテーマに関するプレゼン
第13週	英語の本から「成功した人の共通点」に関する抜粋を読む。
第14週	先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し、グループで意見を集約し、プレゼンする練習を行う。
第15週	期初のObjectivesを自己評価する。 理解度の確認する為のテスト。

副題	オペラとその上演			担当者	大崎 さやの 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

古典文化や、その歴史の中での変遷を学ぶことを通して、現代の人間社会と文化についても考えられる視点を養うこと

〔授業の内容〕

オペラは16世紀末にイタリアで生まれた総合芸術です。現代に至るまで、数々のオペラ作品が作られ、また現在でも上演され続けています。本演習では、オペラ劇場とオペラの観客に関するテキストを読みながら、オペラそのものや、その外的な社会状況に関する知識を深めつつ、オペラ上演の諸問題について考えていきたいと思えます。テキストは比較的平易な文体で書かれており、オペラ劇場や上演にまつわるさまざまな逸話も含まれた、大変興味深い内容のものです。この授業をきっかけに、学生のみなさんのオペラへの知識と関心が深まることを期待します。なお、テキストには英語以外の言語も出てきますが、各言語への興味を深めるよい機会となるでしょう。

〔教材〕

テキスト教材（英語）は、こちらで準備します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、配布したテキストをあらかじめ読んだうえで出席すること

〔成績評価の方法〕

出席（50%）、発表（25%）、レポート（25%）。

〔備考〕

ビデオによる作品鑑賞を随時行います。

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
西洋演劇史について簡単な紹介
- 第2週 オペラ史の簡単なまとめ
- 第3週 テキストに基づく各自の発表（1）
- 第4週 テキストに基づく各自の発表（2）
- 第5週 作品鑑賞（1）
- 第6週 テキストに基づく各自の発表（3）
- 第7週 テキストに基づく各自の発表（4）
- 第8週 作品鑑賞（2）
- 第9週 テキストに基づく各自の発表（5）
- 第10週 テキストに基づく各自の発表（6）
- 第11週 作品鑑賞（3）
- 第12週 テキストに基づく各自の発表（7）
- 第13週 テキストに基づく各自の発表（8）
- 第14週 作品鑑賞（4）
- 第15週 まとめ

副 題	Race and Ethnicity			担 当 者	武井 彩佳 准教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	水	時 限	3

〔授業の到達目標〕

アメリカの人種／エスニシティの歴史的・社会的・政治的生成について理解する。

〔授業の内容〕

この授業では、英語圏の大学1年生レベルのテキストを読みながら、おもにアメリカの人種問題、エスニシティについて勉強しますリーディングだけでなく、同時にリスニングも取り入れた、総合的な学習を目指します。

〔教材〕

テキストはプリントで配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを予習して読んでくる。

〔成績評価の方法〕

出席（50点）、課題の提出（40点）、授業態度（10点）

〔備考〕

遅刻者は出席点が半分。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 文献講読＋リスニング
 - 第2週 〃
 - 第3週 〃
 - 第4週 〃
 - 第5週 〃
 - 第6週 〃
 - 第7週 関連する映画鑑賞
 - 第8週 文献講読＋リスニング
 - 第9週 〃
 - 第10週 〃
 - 第11週 〃
 - 第12週 〃
 - 第13週 〃
 - 第14週 〃
 - 第15週 まとめ
- 計画通りに進まないこともあります。

副題	Women, Work and the Will to Lead (This course will be conducted in English).			担当者	金城 重紀 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

・Facebookの経営幹部が書いたベストセラーを原書で読むことを通して、英語力の向上はもとより、豊かな人生を送るために女性がどのようにキャリアを形成したらよいかを一緒に考えます。

〔授業の内容〕

- ・毎回次のように演習を展開します。
- 1. あらかじめ指名した担当者が20分程度で該当章の要約をパワーポイントを用いて行う。
- 2. 宿題に沿って英語で各テーマ毎にディスカッションする。
- 3. 教員が適切にコメント・指導することにより、議論の質を高め、思考を深める。

〔教材〕

教科書：Sheryl Sandberg, *Lean In*, WH Allen, 2013

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

- ・毎回、演習の事前準備のために4問程度の宿題を課します。各設問を授業開始前に解答し、それを参考に積極的にディスカッションに貢献してください。
- ・期末試験では、「各人がどのようなキャリアを考えるか」に関する問題を出しますので、復習はそれを意識して行ってください。

〔成績評価の方法〕

宿題(30%), ディスカッションへの貢献(35%), 期末試験(35%)。
 なお、欠席は2回目から原則として毎回5%相当分減点する。

〔備考〕

- ・英語の運用能力を向上されたい方、将来どのような働き方をすべきかを考えたい方には最適な外国語演習です。
- ・演習の活動に積極的に取り組み、チームでお互いを高め、楽しく勉強していく意欲のある方を歓迎します。
- ・オフィスアワーは木曜日の2限です。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Kick-off and Introduction: Internalizing the Revolution
- 第2週 (Chapter) 1. The Leadership Ambition Gap: What Would You Do if You Weren't Afraid?
- 第3週 2. Sit at the Table
- 第4週 3. Success and Likeability
- 第5週 4. It's a Jungle Gym, Not a Ladder
- 第6週 5. Are You my Mentor?
- 第7週 6. Seek and Speak Your Truth
- 第8週 7. Don't Leave Before You Leave
- 第9週 8. Make Your Partner a Real Partner
- 第10週 9. The Myth of Doing it All
- 第11週 10. Let's Start Talking About It
- 第12週 11. Working Together Toward Equality
- 第13週 12. Let's Keep Talking
- 第14週 So What and What's Next for You
- 第15週 Wrap-up and Comments

本計画は演習を一層良くするために変わる場合があります。

外国語演習IH

3628000100800

副 題	様々な国における女性の社会進出の実態			担 当 者	佐久間 潮 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	木	時 限	2

〔授業の到達目標〕

様々な国における女性の社会進出の実態を調べ、それを基に日本における女性の社会進出問題を自ら考える力を養うこと。

〔授業の内容〕

英語経済雑誌の記事等を教材にして、外国における女性の社会進出問題と日本のそれとを比較しつつ考える。

〔教材〕

授業の中で適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各2時間

〔成績評価の方法〕

出席（30%）とテスト（70%）で総合評価。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週 授業で配布する資料を輪読し、解説し、考える。

第2週 ヴ

第3週 ヴ

第4週 ヴ

第5週 ヴ

第6週 ヴ

第7週 ヴ

第8週 ヴ

第9週 ヴ

第10週 ヴ

第11週 ヴ

第12週 ヴ

第13週 ヴ

第14週 ヴ

第15週 ヴ

副題	Experiencing Shakespeare				担当者	古庄 信 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	

〔授業の到達目標〕

シェイクスピアの作品を原語で講読，現代英語との比較をとおして英語の言語的性格や特徴を理解する。またセリフの朗読訓練および発表をとおしてプレゼンテーション能力の向上を目指す。

〔授業の内容〕

シェイクスピアの喜劇『ヴェニスの商人』の原作(The Merchant of Venice)を講読する。受講生一人ひとりの講読箇所を指定し，調べた内容の発表を行う。また講読箇所の個別またはグループによる朗読発表を行う。また5月に来日する英国劇団ITCLの本学公演を観劇して，レビューを英語で書く練習をする。またこの作品の舞台版や映画版の鑑賞をとおして，それらの脚本化された作品と原作の比較を行う。公演には履修生全員が公演スタッフとして参加することを単位取得の条件のひとつとする。

〔教材〕

参考書：河合祥一郎『シェイクスピア・ハンドブック』三省堂，2010年
 L・ダントン=ダウンナー、アラン・ライディング『シェイクスピアヴィジュアル事典』新樹社，2004年
 テキストは担当者が用意したものを購入してもらう。(授業初回時に教室にて配布予定)

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

予習においては原文講読に欠かせないOEDを念入りに引いて問題となる語について調べておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業での発表(20%)，ITCL公演スタッフ参加(30%)，観劇レビューのレポート(10%)，試験(40%)の割合で評価する。*「ヴェニスの商人」公演スタッフ参加および観劇(5月23日)は必修。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 原作講読1: Act 1
- 第3週 原作講読2: Act 1 および朗読発表
- 第4週 原作講読3: Act 2
- 第5週 原作講読4: Act 2 および朗読発表
- 第6週 原作講読5: Act 2
- 第7週 原作講読6: Act 3
- 第8週 原作講読7: Act 3 および朗読発表
- 第9週 原作講読8: Act 3
- 第10週 原作講読9: Act 4
- 第11週 原作講読10: Act 4 および朗読発表
- 第12週 原作講読11: Act 4
- 第13週 原作講読12: Act 5
- 第14週 原作講読13: Act 5 および朗読発表
- 第15週 原作講読14: Review および朗読発表

英国劇団ITCLの公演(5月23日)の準備・当日のスタッフ業務によって授業スケジュールに若干変更が出る場合もある。

副題	西欧から見た東欧の人々と社会・モーツァルトの生涯			担当者	中島 崇文 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

中・東欧における社会や文化・芸術に関する理解を深めると共に、英文の読解力の更なる向上を達成する。

〔授業の内容〕

社会主義体制が崩壊する直前の1988年にウィーンからイスタンブルまで、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリアを通して自転車で旅をしたイギリス人女性のジャーナリストが現地での印象を記したテキストを精読し、当時の西側にはまだ闇に包まれていた「もう一つのヨーロッパ」の現状を考察する。但し、時間は限られており、1冊全部は読む時間はないため、今学期は第11章（シギショアラ市とビエルタン村を訪問する部分）のみを読む。また、6月から7月にかけてはオーストリア出身の音楽家モーツァルトの生涯に関する文献の一部（最初の「ザルツブルクにおける幼少時代」及び「成功の途上で」の章）を精読する。授業では一文ずつ丁寧に訳し、構文等を確認すると共に、内容の把握にも努める。2冊目のテキストに関しては、一つの文章が10行以上にわたる長文のものも少なくないので、ある程度の忍耐を要するものとなっている。こちらの方は原文は独語であり、これを英訳したものを読むことになるが、テキストには独語も記載されているので、独語履修者は原文と比較することも可能である。

〔教材〕

教科書：Georgina Harding, *In Another Europe: A Journey to Romania*, London, Hodder&Stoughton, 1990, 157p
 Johannes Jansen, *Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)*, Köln, London, Los Angeles, Madrid, Paris, Tokyo, Taschen, 2005, 96p
 テキストは担当教員が用意する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週、教科書の中で読むであろう箇所を事前に熟読し、訳しておくこと。履修者は大学ノート等を1冊、各自で用意し、訳文を予習の段階で一通り作成しておき、授業時に一文ずつ添削するという方法を取るのが良いと思われる。

〔成績評価の方法〕

中間試験（約25%）及び期末試験（約25%）の合計点数に毎週授業開始時に実施される小テストの合計点（約50%）を加味して100点満点として算出する。なお、予習していないと判断される場合には減点することがある。受講生は遅刻せず毎週出席するよう、最大限に努力すること。テキストにはやや難しい箇所もあるので、履修者は毎週、予習と復習に十分な時間をかけて取り組むことが求められる。

〔備考〕

中島ゼミの3年生はできるだけ履修すること。地域研究基礎論I・II, 東欧文化論, 国際コミュニケーション基礎演習Dといった関連科目を出来るだけ数多く履修済み、ないしは履修中であることが望ましい。オフィスアワーは月曜日の15:00-16:00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。4号館2階の個人研究室のみならず、7号館1階の国際交流推進センター所長室にいることも少なくないので、こちらに立ち寄ってもよい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業概要の説明
- 第2週 社会主義時代のハンガリーとルーマニア
- 第3週 中世ドイツ都市シギショアラ
- 第4週 ハーメルンの笛吹き男伝説と山上教会
- 第5週 西ドイツへ移住するドイツ系住民
- 第6週 ビエルタン村でドイツ人の家庭に宿泊して
- 第7週 理解度の確認
- 第8週 アマデウスの誕生
- 第9週 父レオポルトによる英才教育
- 第10週 ミュンヘン, パッサウ, リンツ, ウィーンへの演奏旅行
- 第11週 ウルム, シュトゥットガルト, マンハイム, ハイデルベルクなどでの演奏
- 第12週 ヴェルサイユ宮殿で収めた成功
- 第13週 ロンドンで得られたもの
- 第14週 理解度の確認
- 第15週 復習・総括

副題	金融・経済基礎			担当者	中島 洋子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	土	時限	2

〔授業の到達目標〕

時事問題を取り上げながら、金融の基礎知識を身につけ、同時に英語での表現力を高めること。

〔授業の内容〕

Nikkei Asian Review, Economist等の英字新聞や英文経済誌の時事問題を読み、金融・経済の基礎を学ぶ。

以下の授業計画に示す内容は目安であり、タイムリーな金融経済事象を採り上げるので、その時々でテーマは異なる。

〔教材〕

Nikkei Asian Review, Economist誌等。

※テキストは、授業時に配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布するテキストの予習が必要。

〔成績評価の方法〕

出席状況、授業態度、試験などを総合的に評価する。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 日本経済の課題
- 第2週 日本の金融機関の種類と特徴
- 第3週 三大銀行業務：預金
- 第4週 三大銀行業務：貸出
- 第5週 三大銀行業務：為替
- 第6週 中央銀行の果たす役割
- 第7週 金利水準と物価
- 第8週 日本の量的金融緩和の行方
- 第9週 日本国債と財政事情
- 第10週 為替相場動向
- 第11週 郵政民営化
- 第12週 サブプライムローンとリーマンショック
- 第13週 海外の金融事情（1）
- 第14週 海外の金融事情（2）
- 第15週 まとめ

副題	Cultural Properties in Japan			担当者	M. ウーゴ 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5

〔授業の到達目標〕

To become able to explain about Japanese Cultural Properties in English.

〔授業の内容〕

本演習では、日本国内の文化財に関する資料を英語で読み、その理解を深めることを目的とする。さらに、調べた文化財を英語の小論文にまとめ、その特徴を英語で発表し、全員でコメントするかたちで演習を進めることにする。日本の文化に初めて触れる人にどのように、何を説明する必要があるのかを考えることで、日本の文化財の特徴や外国の文化財との違いを明確にし、文化財を国際コミュニケーションの手段として利用し、自国の文化についてより深く理解することができるだろう。日本の文化財を海外に英語で紹介するとともに、世界で一般的に使われている英語に慣れ親しみ、身につけることが目標である。

〔教材〕

参考書：Cultural Properties Department, Agency for Cultural Affairs (ed.), *Cultural Properties for Future Generations*, Agency for Cultural Affairs, Japan, 2013

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献、検索した資料）、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席と授業への参加の姿勢（積極性）[20%]、試験、レポートや発表 [80%] を総合的に評価。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 有形文化財
- 第3週 無形文化財
- 第4週 民俗文化財
- 第5週 記念物
- 第6週 文化的景観
- 第7週 伝統的建造物群
- 第8週 発表と討論
- 第9週 〃
- 第10週 〃
- 第11週 〃
- 第12週 〃
- 第13週 〃
- 第14週 〃
- 第15週 まとめ

副 題	フランス語で読む国際法			担 当 者	櫻井 大三 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	火	時 限	3

〔授業の到達目標〕

国際法の基本的な事柄について書かれたフランス語文献の意味内容を把握し、正確な日本語訳を作成することができるようになること。

〔授業の内容〕

本演習は、国際法の基本的な事柄をフランス語文献の解析を通じて学習することを目的としている。その意図するところは、外国語（フランス語）で書かれた学術書の主張内容を的確に理解し、アカデミックな議論の展開に慣れることにある。教材には、フランス語圏の大学で初めて国際法を学ぶ大学生（法学部生に限らない）に広く読まれている入門書、もしくは、国連機関を紹介したブックレットを用いる予定である。

国際法や外交の世界では、フランス語の地位は今なおきわめて重要である。たとえば国際司法裁判所では、フランス語を判決正文として用いるものがある。また、スイス・ジュネーブには数多くの国際機関の本部が置かれているが、同地では英語に精通していることの強みよりも、フランス語に不案内であることの弱点が痛感されることであろう。

外交や国際公務員に関心のある諸君には、この機会にぜひともフランス語に親しんで頂ければ幸いである。

〔教材〕

使用するフランス語文献は、国際法や国連機関について述べたものであるが、文献の内容把握を容易ならしめるために、同一内容を扱った英語文献を並行して用いることがある。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習180分：所定の範囲のテキストについて、そこに出てくる不知の単語・熟語の意味を辞書で調べるとともに、読解に必要な基礎文法や基本構文の知識を文法書で確認しながら訳文を作成すること。

復習90分：予習ノートを読み返し、読解上のポイントに留意しながら、訳読（日本語訳の作成）を完成すること。

〔成績評価の方法〕

（１）毎回の出席、予習ノートの提出、授業中に指示された箇所の訳読および板書訳、質疑応答（以上を平常点として50%程度）

（２）期末試験（50%程度）

〔備考〕

独学でも構わないが、フランス語の初級基礎文法を一通り終えており、且つ、辞書の力を借りることによって中級レベルの文章読解を行うことができる（その意欲がある）ことが、本演習を受講するうえでのひとつの目安となる。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 受講の心得の確認
- 第3週 テキストの訳読（1）
- 第4週 テキストの訳読（2）
- 第5週 テキストの訳読（3）
- 第6週 テキストの訳読（4）
- 第7週 テキストの訳読（5）
- 第8週 テキストの訳読（6）
- 第9週 テキストの訳読（7）
- 第10週 テキストの訳読（8）
- 第11週 テキストの訳読（9）
- 第12週 テキストの訳読（10）
- 第13週 テキストの訳読（11）
- 第14週 テキストの訳読（12）
- 第15週 総括

受講生のレベルに十分配慮することとしたい。そのため、上記の案内とは異なる場合がありうることを予めご承知おき頂きたい。

副題	外国語で読む現代日本			担当者	金野 純 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

日本に関する、英語もしくは中国語の記事等の文章を理解できるようにする。外国語で日本について説明できるような語彙力を身に着ける（英語か中国語かは参加者が選択する）。

〔授業の内容〕

海外に出て、自分の「日本」に対する無知に気づかされた経験を持つひとは少なくないだろう。「国際コミュニケーション」において、自らの国について知ることは必須である。

本演習では、参加者が自己の語学能力に応じて、英語もしくは中国語を選択し、担当教員が指定する文章を翻訳して内容を報告し、みなでディスカッションする。こうした作業を通して、外国語を通して現代日本について改めて考え、同時に、外国人記者や研究者らが「日本」をどのようにみているかについても、考えてみたい。

〔教材〕

授業時に文献のコピーを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に指定された記事を翻訳し、内容を理解したうえで授業に参加すること。ディスカッションでは、各自の意見を求められることもあるので、自分の考えをまとめておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席を重視する。成績は、出席状況（30%）、授業参加（30%）、期末試験（40%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔備考〕

参加者の人数により、授業計画を若干変更する可能性がある。また中国語圏の留学生は、必ず英語を選択すること。

〔授業計画〕

- 第1週 導入
- 第2週 文献講読とディスカッション
- 第3週 ♪
- 第4週 ♪
- 第5週 ♪
- 第6週 ♪
- 第7週 ♪
- 第8週 ♪
- 第9週 ♪
- 第10週 ♪
- 第11週 ♪
- 第12週 ♪
- 第13週 ♪
- 第14週 まとめ、予備日
- 第15週 ♪

副題	英語で学ぶ環境経済			担当者	莊林 幹太郎 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1

〔授業の到達目標〕

経済に係る基礎的な英文について、センテンスを正確に翻訳するとともに、パラグラフ単位での意味を把握することができるようになる。

〔授業の内容〕

本演習では、地球環境問題への経済学の適用を題材として、英語で「サブスタンス」を学ぶことを目的とする。経済学関連の入門書、あるいは一般向けの啓蒙書をテキストとして、環境経済学の基礎を学ぶ。概ね毎回出題される宿題を解くことによって、英語を丁寧に読む習慣を身につけてほしい。

〔教材〕

毎回プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回の資料の翻訳に3時間程度の負荷を想定

〔成績評価の方法〕

出席（25%）、中間試験（25%）、期末試験またはレポート（50%）

〔備考〕

授業内容について質問がある場合は、20070095@gakushuin.ac.jpまでメールで問い合わせること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 地球温暖化とその原因①
- 第3週 地球温暖化とその原因②
- 第4週 市場の効率性
- 第5週 市場の失敗としての外部性①
- 第6週 市場の失敗としての外部性②
- 第7週 外部性としての地球温暖化①
- 第8週 外部性としての地球温暖化②
- 第9週 外部性の是正政策①
- 第10週 外部性の是正政策②
- 第11週 貿易と環境
- 第12週 リカードの比較優位
- 第13週 環境外部性と貿易
- 第14週 WTO交渉と環境
- 第15週 総活

副 題	Experiencing Shakespeare			担 当 者	古 庄 信 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	水	時 限	2

〔授業の到達目標〕

シェイクスピアの作品を原語で鑑賞し、現代英語との比較をとおして英語の言語的性格や特徴を理解する。またセリフの朗読訓練および発表をとおして英語独自のリズムやイントネーションを身につけながら、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

〔授業の内容〕

シェイクスピアの作品を原語で鑑賞する。さらに1～2回に一度の割合で、テキスト講読箇所の個別またはグループによる朗読及び内容に関する発表を行う。

〔教材〕

教科書：荒井良雄他, *Globe Shakespeare Quotations*, 朝日出版社, 2012

参考書：G. L. ブルック (三輪・佐藤他共訳) 『シェイクスピアの英語』初版, 松柏社, 1998年
L・ダントン=ダウンナー、アラン・ライディング 『シェイクスピアヴィジュアル事典』
新樹社, 2004年

河合祥一郎 『シェイクスピア・ハンドブック』三省堂, 2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の発表箇所については、発表者だけでなく履修者全員が念入りな予習をして臨むこと。

〔成績評価の方法〕

授業での発表(20%), 試験(70%), 出席(10%)の割合で評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 原作講読1: All the World's a Stage (As You Like It)
- 第3週 原作講読2: Lovers (Romeo and Juliet)および朗読発表
- 第4週 原作講読3: Justice vs. Mercy (The Merchant of Venice)および朗読発表
- 第5週 原作講読4: Nothing (Macbeth)および朗読発表
- 第6週 原作講読5: Prologue (Henry V)および朗読発表
- 第7週 原作講読6: Speak the Speech (Hamlet)および朗読発表
- 第8週 原作講読7: What is a Man? (Hamlet)および朗読発表
- 第9週 原作講読8: To be or not to be (Hamlet)および朗読発表
- 第10週 原作講読9: Sonnet No. 18および朗読発表
- 第11週 原作講読10: Sonnet No. 30および朗読発表
- 第12週 原作講読11: Sonnet No. 105および朗読発表
- 第13週 原作講読12: Enlightenment- Brutus' Speech (Julius Caesar)および朗読発表
- 第14週 原作講読13: Enlightenment- Antony's Speech (Julius Caesar)および朗読発表
- 第15週 原作講読14: Enlightenment-Sparrow Speech (Hamlet)および朗読発表

副題	東南アジアにおけるジェンダー、市場および国際関係(2)			担当者	久保田 有香 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

東南アジア（ASEAN諸国）について、英語文献を題材に、ジェンダー、市場及び国際関係という三つの視点から、理解を深めること。また、英語でものごとを理解し、議論することの楽しさを知ること。

〔授業の内容〕

本演習は、ASEAN諸国について、ジェンダー、市場及び国際関係の視点から理解を含めることを第一の目的とします。アセアン諸国の現在を取り上げている英文記事等を対象に議論を深め、みなさんと東南アジアとの距離を少しでも近くし、日ASEAN関係の重要性を自分たちの問題として理解していただきたいと考えています。具体的なテーマとしては、東南アジア諸国における女性の社会進出状況、背景としての投資環境状況、また各国におけるジェンダー関係の事例等を考えています。

また、本授業を通じて、英語でものごとを理解し、議論することの楽しさについても触れていただきたく、授業形式は、指定された文献（記事等）についての講読にとどまらず、ディベートを積極的に取り入れ、参加型を目指しています。

〔教材〕

各回毎に指定、または配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：配布された記事については簡単な和訳を準備すること（一時間程度）、ディベート前には、各自のリサーチが必要（内容による）

〔成績評価の方法〕

- (1) 毎回の出席、授業への取り組み（以上を平常点として60%程度）
- (2) 期末試験（40%程度）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス テキストの配布
- 第2週 テキストを見ながら受講の心得の確認, ASEANについてのイントロダクション
- 第3週 講読
- 第4週 講読記事に関するディベート
- 第5週 講読, 次回のテキストの配布
- 第6週 講読記事に関するディベート
- 第7週 講読, 次回のテキストの配布
- 第8週 講読記事に関するディベート
- 第9週 講読, 次回のテキストの配布
- 第10週 講読記事に関するディベート
- 第11週 講読, 次回のテキストの配布
- 第12週 講読記事に関するディベート
- 第13週 講読, 次回のテキストの配布
- 第14週 講読記事に関するディベート
- 第15週 総括

副 題	英語で学ぶ国際移民			担 当 者	工藤 晶人 准教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	木	時 限	1

〔授業の到達目標〕

人の国際移動について、映画鑑賞と文献講読を通じて理解を深める。

〔授業の内容〕

人の国際移動はさまざまな異文化の出会いにつながる。この演習では、国際移動にかかわる映画鑑賞と文献講読を通じて、現代世界の特質について考えてみたい。

〔教材〕

プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読

〔成績評価の方法〕

出席状況、授業中に課される課題、参加姿勢を総合的に評価する。

〔備考〕

授業内容についての質問等は、オフィスアワーに研究室で受け付ける。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
 - 第2週 テキストの購読とディスカッション
 - 第3週 ッ
 - 第4週 ッ
 - 第5週 映画を題材としたディスカッション
 - 第6週 テキストの購読とディスカッション
 - 第7週 ッ
 - 第8週 ッ
 - 第9週 ッ
 - 第10週 映画を題材としたディスカッション
 - 第11週 テキストの購読とディスカッション
 - 第12週 ッ
 - 第13週 ッ
 - 第14週 ッ
 - 第15週 映画を題材としたディスカッション
- 参加人数により授業計画を変更する。

副題		担当者	渡邊 淳 講師				
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	1

〔授業の到達目標〕

英語の語彙と表現を習得し、プレゼン力の向上を図る。

〔授業の内容〕

英語の新聞、雑誌の記事や本の抜粋を教材として取り上げ、英語の語彙、表現を習得しながら、外国と日本での物の考え方の類似点や相違点などを認識しつつ、「自分」の意見を考える。また、勉強した事柄に関し学生同士で議論し、グループとして互いに意見を取り纏め、グループごとにプレゼンする練習を行う。「ものがどうして売れるのか」「ものがどうして流行るのか」などのテーマを授業で取り上げる予定。

〔教材〕

用意した教材を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前配布の語彙集と記事の抜粋を予習する。

記事の内容に関する各自の意見を整理し、クラスでのグループディスカッションにて発表する復習する。

〔成績評価の方法〕

出席点（約15%）、レポートと授業態度等（約25%）および2回のテスト（約60%）の総合点

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	学期の予定の説明、秋学期の各自の目標について考える。「20代を有効に使う」アドバイスの本からの抜粋を読む。
第2週	先週の取り上げた記事に関連するテーマについてグループ分けしたクラスがそれぞれグループごとに意見をまとめ、クラスの前で発表する。又、プレゼンする上での改善点を話し合いながらグループごとに相手を評価していく。
第3週	英字新聞の時事問題の記事を読む。
第4週	先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し、グループでの意見の集約し、プレゼンする練習を行う。
第5週	消費者の心理に関する行動経済学の本の抜粋を読む。
第6週	先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し、グループで意見を集約し、プレゼンする練習を行う。
第7週	理解度の確認
第8週	「なぜものが流行るのか」に関する本の抜粋を読む。先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し、グループで意見を集約し、プレゼンする練習を行う。
第9週	経済の時事問題に関する新聞記事の抜粋を読む
第10週	先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し、グループで意見を集約し、プレゼンする練習を行う。
第11週	宿題に出されていたレポートの提出とテーマに関するプレゼン
第12週	行動経済学に関する本からの抜粋を読む。
第13週	先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し、グループで意見を集約し、プレゼンする練習を行う。
第14週	英字新聞等からの時事問題の抜粋を読む。
第15週	期初設定の目標に対する各自の自己評価をレビュー。理解度の確認

副題	イタリア、フィレンツェ中世の「悪魔」像			担当者	高橋 朋子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

西洋美術史研究のなかであまり学問として論じられることのなかったDevils (悪魔) について論じられたテキストを読みます。この講読を通じて、現在アニメやコミックスなどで流通している「悪魔」のイメージは、西洋中世のキリスト教文化の中からいかに誕生し、展開したかを理解します。そしてこの演習を通して英語で美術理論を読むこと、読解力を身につけることを目標とします。

〔授業の内容〕

講読するテキストはLorenzo Lorenziがフィレンツェ大学に提出した博士論文の一部が出版されたもので、イタリア語から英語に翻訳されたものを読みます。フィレンツェといえばルネサンスと考えるのが一般的ですが、その前に豊かな中世文化がこの街では爛熟していました。そして中世のフィレンツェ文化の頂点の一つが、サン・ジョヴァンニ洗礼堂内の装飾です。この論考ではこの洗礼堂に描かれた「悪魔」が考察の対象ですが、西洋中世における「悪魔」がいかに変貌し、フィレンツェの「悪魔」像へと変遷を遂げたかを、美術史的視点に加えて社会的視点にも立って広い観点から論じている内容です。

〔教材〕

教材はコピーを配布しますからテキストを購入する必要はありません。以下に一応テキストをあげておきます。

Lorenzo Lorenzi, Devils in Art, Florence from the middle ages to the Renaissance, 1997, Florence.

〔準備学習 (予習・復習) の内容又はそれに必要な時間〕

事前に西洋美術史、特に中世からルネサンスにかけてを勉強しておくこと。

〔成績評価の方法〕

講読の授業ですから、分担部分の訳と理解力が評価の基本です。また学期最後には本年度講読した内容に関するレポートを提出してもらいます。それらに出席状況を加味して評価します

〔備考〕

毎回、一人5～6行（1パラグラフくらい）を分担します。演習の参加人数によって異なりますが、2回に1度（あるいは3回に1度）程度で自分の分担が回ると考えてください。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 演習で用いるテキストの紹介。講読分担等、今後の授業の方針確認
- 第2週 Devils in Art 購読
- 第3週 /
- 第4週 /
- 第5週 /
- 第6週 /
- 第7週 /
- 第8週 /
- 第9週 /
- 第10週 /
- 第11週 /
- 第12週 /
- 第13週 /
- 第14週 /
- 第15週 /

この授業では英語のテキストを読むだけでなく、そこで語られている作品や内容を理解することも目的としています。ですから、講読者ではできる限り自分の分担箇所で見つかる作品を見つけてコピー、あるいはパワーポイント、あるいは本を持ち込むなどで作品を提示することを求めます。また教師のほうでも、さらに詳しい関連作品に言及し、作品を提示し、美術史の理解がさらに深まることを目指します。

副 題	Race and Ethnicity			担 当 者	武井 彩佳 准教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	水	時 限	3

〔授業の到達目標〕

アメリカの人種／エスニシティの歴史的・社会的・政治的生成について理解する。

〔授業の内容〕

この授業では、英語圏の大学1年生レベルのテキストを読みながら、おもにアメリカの人種問題、エスニシティについて勉強しますリーディングだけでなく、同時にリスニングも取り入れた、総合的な学習を目指します。

〔教材〕

テキストはプリントで配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを予習して読んでくる。

〔成績評価の方法〕

出席（50点）、課題の提出（40点）、授業態度（10点）

〔備考〕

遅刻者は出席点が半分。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 文献講読＋リスニング
- 第2週 〃
- 第3週 〃
- 第4週 〃
- 第5週 〃
- 第6週 〃
- 第7週 関連する映画鑑賞
- 第8週 文献講読＋リスニング
- 第9週 〃
- 第10週 〃
- 第11週 〃
- 第12週 〃
- 第13週 〃
- 第14週 〃
- 第15週 まとめ

計画通りに進まないこともあります。

副題	The Shift: The future of work is already here (this course will be conducted in English)			担当者	金城 亜紀 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

ロンドンビジネススクールの女性教授が著者であるベストセラーを原書で講読することを通して、英語力の向上はもとより、21世紀におけるキャリア形成について考察します。

〔授業の内容〕

毎回以下の手順で演習を展開します。

1. 事前に指名した発表者が20分程度で該当箇所の要約を行う。
2. 宿題に沿って、各テーマごとに英語でディスカッションする。
3. 教員が適切にコメント・ファシリテーションすることにより、議論の質を高め、思考を深める。

〔教材〕

教科書：Lynda Gratton, *The Shift-The future of work is already here*, HarperCollins Publishers, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回、事前学習のために、英語で回答する質問を4問程度出題します。この宿題を済ませているという前提で演習（ディスカッションを含む）を進めます。

〔成績評価の方法〕

宿題（30%）、ディスカッションへの貢献（35%）、期末試験（35%）。
欠席は、2回目から原則として毎回5%相当分減点する。

〔備考〕

英語の運用能力を向上されたい方、キャリア形成のグローバルな流れについての知識を深めて活かされたい方に最適の演習です。チームとしてお互いを高め合い、楽しく勉強していく意欲のある、積極的な方を歓迎します。オフィスアワーは木曜の2限です。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Kick-off and Introduction: Predicting the future of work
- 第2週 (Chapter) 1. The five forces
- 第3週 2. Fragmentation: a three-minute world
- 第4週 3. Isolation: the genesis of loneliness
- 第5週 4. Exclusion: the new poor
- 第6週 Feedback session
- 第7週 5. Co-creation: the multiplication of impact and energy
- 第8週 6. Social engagement: the rise of empathy and balance
- 第9週 7. Micro-entrepreneurship: crafting creative lives
- 第10週 8. The first shift: from shallow generalist to social master
- 第11週 9. The second shift: from isolated competitor to innovative connector
- 第12週 10. The third shift: from voracious consumer to impassioned producer
- 第13週 11. Notes to children, CEOs and governments
- 第14週 So what?
- 第15週 Wrap-up and review

本計画は、演習を一層よくするために変更することがあります。

副題	アジア女性の晩婚化と避婚化			担当者	佐久間 潮 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

少子高齢化が進む日本において、社会における女性の果たす役割はどのようなものであることが望ましいか、自ら考えられるようになること。

〔授業の内容〕

英語経済雑誌の記事などを読み、アジアで起きている女性の晩婚化、避婚化問題を考え、それを基に日本の少子高齢化社会における女性の役割を考える。

〔教材〕

授業の中で適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各2時間

〔成績評価の方法〕

出席（30％）とテスト（70％）で総合評価。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週 授業で配布する資料を輪読し、解説し、考える。

第2週 〃

第3週 〃

第4週 〃

第5週 〃

第6週 〃

第7週 〃

第8週 〃

第9週 〃

第10週 〃

第11週 〃

第12週 〃

第13週 〃

第14週 〃

第15週 〃

副 題	セレブが投げかける社会問題			担 当 者	藤原 朝子 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	木	時 限	3

〔授業の到達目標〕

- (1) 英語・日本語の資料を読み、目的に沿って簡潔にまとめる能力の習得
- (2) ストーリーのあるプレゼンテーションをする能力の習得

〔授業の内容〕

本講義では、学生の皆さんと年齢の近いセレブリティー（とされる人々）が提起した（場合によっては意図せず）問題を、英語／日本語、文章／画像／映像を駆使して多角的に検討します。内容的には、学生の皆さんが親しみやすいものになると思いますが、授業のテンポは速いので、居眠りしている時間はありません。多くの資料に目を通して（場合によっては翻訳し）、簡潔にまとめ、グループでプレゼンテーション（前半は日本語、後半は英語を予定）を作成していきます。

〔教材〕

時事ニュース。授業内で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

課題（宿題）提出の週と、プレゼンテーション準備の週が交互にやってきます。いずれも怠ると授業が理解できず、グループワークも成り立ちません。

〔成績評価の方法〕

隔週の課題提出（40%）。プレゼンテーション（40%）。グループワークへの貢献（20%）。期末試験は行いません。

〔備考〕

初回の授業で受講生のレベルを調べるとともに、必要であれば一定の人数に絞ります。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 「リアーナとドメスティックバイオレンス」
- 第3週 「ジャスティン・ビーバーと靖国神社」①
- 第4週 「ジャスティン・ビーバーと靖国神社」②
- 第5週 「J・ハフとブラックフェース」①
- 第6週 「J・ハフとブラックフェース」②
- 第7週 「エマ・ワトソンとフェミニズム」①
- 第8週 「エマ・ワトソンとフェミニズム」②
- 第9週 「マックルモアと同性婚」①
- 第10週 「マックルモアと同性婚」②
- 第11週 「テイラー・スウィフトと音楽無料配信」①
- 第12週 「テイラー・スウィフトと音楽無料配信」②
- 第13週 「ナタリー・ポートマンとユダヤ人差別発言」①
- 第14週 「ナタリー・ポートマンとユダヤ人差別発言」②
- 第15週 まとめ

*上記のトピックは例として示したものです。最新のニュースにより内容は変更されます。

副題	International Relations of East Asia			担当者	羅 京洙 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

東アジア国際関係に関する諸問題を外国語（主に英語及び韓国語）で論じるための語学力を身につけることを目指す。

〔授業の内容〕

異文化への理解を深めるため、言語能力の習得は欠かせないことである。とりわけ英語力は、言うまでもなく、最も必要とされる国際コミュニケーションの手段である。東アジア国際関係の諸問題、例えば地域統合や安全保障、朝鮮半島問題（北朝鮮を含む）、日韓関係、歴史認識問題、人の移動、文化交流などに関する英語・韓国語の資料（新聞・雑誌・論文・図書・映像など）を豊富に使用し、英語・韓国語文化圏の人々（研究者）は、東アジアという地域をいかに認識・表現しているのかを一緒に考える。また、本演習では、関連文献の講読を中心としつつも、語学学習における読む・書く・聞く・話すという四機能をバランスよく演習していく。

〔教材〕

特定の教科書は用いないが、毎回の指定文献や資料などを授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

受講生は、毎回の指定文献や参考資料を必読の上、演習に参加すること。

〔成績評価の方法〕

演習への出席率・貢献度（30%）、課題・レポート（30%）、期末試験（40%）によって評価する。

〔備考〕

演習の内容について質問などがある場合には、金曜日のオフィス・アワー（14：00～17：00）に研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 講義：東アジア国際関係論に関する英語表現（1）
- 第3週 講義：東アジア国際関係論に関する韓国語表現（2）
- 第4週 リーディング（読解）演習（1）
- 第5週 リーディング（読解）演習（2）
- 第6週 リーディング（読解）演習（3）
- 第7週 リスニング（聴解）演習（1）
- 第8週 リスニング（聴解）演習（2）
- 第9週 リスニング（聴解）演習（3）
- 第10週 プレゼンテーション演習（1）
- 第11週 プレゼンテーション演習（2）
- 第12週 プレゼンテーション演習（3）
- 第13週 ライティング（作文）演習（1）
- 第14週 ライティング（作文）演習（2）
- 第15週 まとめ

副 題	金融・経済基礎			担 当 者	中島 洋子 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	土	時 限	2

〔授業の到達目標〕

時事問題を取り上げ、金融、経済をより身近なものとして感じられるように理解を深め、同時に英語の表現力を高めること。また特に女性社会進出に焦点を当てたい（春学期の授業内容とは重複しない。）。

〔授業の内容〕

Nikkei Asian Review, Economist等の英字新聞や英文経済誌の時事問題を読み、金融・経済の基礎を学ぶ。

以下の授業計画に示す内容は目安であり、タイムリーな金融経済事象を採り上げるので、その時々でテーマは異なる。

〔教材〕

Nikkei Asian Review, Economist誌等。

※テキストは、授業時に配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布するテキストの予習は必要。

〔成績評価の方法〕

出席状況、授業態度、試験などを総合的に評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 世界経済の現状
- 第2週 日本経済の現状ーアベノミクスの課題
- 第3週 日本の金融政策の概要
- 第4週 日本銀行の役割
- 第5週 金利と物価
- 第6週 日本国債と政府債務残高
- 第7週 消費税
- 第8週 為替相場動向
- 第9週 高齢化社会と女性の社会進出
- 第10週 ワークライフバランス
- 第11週 女性が働くための環境作り
- 第12週 世界における女性の活躍
- 第13週 日本の成長戦略とは
- 第14週 世界経済の展望
- 第15週 まとめ

副題	World Cultural and Natural Heritage			担当者	M. ウーゴ 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

To learn about World Heritage in English.

〔授業の内容〕

本演習では、世界遺産に関する資料を英語で読み、その理解を深めることを目的とする。演習生は興味のある世界遺産について調べ、調べた内容を英語で紹介し、全員でコメントするかたちで演習を進めることにする。日本の世界遺産のみならず、海外の世界遺産の魅力を理解すると同時に、その特徴を英語で紹介することによって、世界文化遺産や自然遺産、さらに文化財一般にまつわる専門用語に慣れ親しみ、身につけることが目標である。

〔教材〕

参考書：Unesco World Heritage Centre (ed.), *World Heritage*, Pressgroup Holding Europe SA, Valencia(Spain), 1996年～

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献，検索した資料），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席と授業への参加の姿勢（積極性）[10%]，レポートや試験 [50%]，発表 [40%] を総合的に評価。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	cultural properties
第3週	world heritage
第4週	発表・討論
第5週	〃
第6週	world heritage: success stories 1
第7週	world heritage: success stories 2
第8週	world heritage: challenges and issues
第9週	発表・討論
第10週	〃
第11週	world heritage: international cooperation 1
第12週	world heritage: international cooperation 2
第13週	world heritage: international cooperation 3
第14週	発表・討論
第15週	まとめ

副題	フランス語で読む国際法			担当者	櫻井 大三 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

国際法の基本的な事柄について書かれたフランス語文献の意味内容を把握し、正確な日本語訳を作成することができるようになること。

〔授業の内容〕

本演習は、国際法の基本的な事柄をフランス語文献の解析を通じて学習することを目的としている。その意図するところは、外国語（フランス語）で書かれた学術書の主張内容を的確に理解し、アカデミックな議論の展開に慣れることにある。教材には、フランス語圏の大学で初めて国際法を学ぶ大学生（法学部生に限らない）に広く読まれている入門書、もしくは、国連機関を紹介したブックレットを用いる予定である。

国際法や外交の世界では、フランス語の地位は今なおきわめて重要である。たとえば国際司法裁判所では、フランス語を判決正文として用いるものがある。また、スイス・ジュネーブには数多くの国際機関の本部が置かれているが、同地では英語に精通していることの強みよりも、フランス語に不案内であることの弱点が痛感されることであろう。

外交や国際公務員に関心のある諸君には、この機会にぜひともフランス語に親しんで頂ければ幸いである。

〔教材〕

使用するフランス語文献は、国際法や国連機関について述べたものであるが、文献の内容把握を容易ならしめるために、同一内容を扱った英語文献を並行して用いることがある。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習180分：所定の範囲のテキストについて、そこに出てくる不知の単語・熟語の意味を辞書で調べるとともに、読解に必要な基礎文法や基本構文の知識を文法書で確認しながら訳文を作成すること。

復習90分：予習ノートを読み返し、読解上のポイントに留意しながら、訳読（日本語訳の作成）を完成すること。

〔成績評価の方法〕

- (1) 毎回の出席、予習ノートの提出、授業中に指示された箇所の訳読および板書訳、質疑応答（以上を平常点として50%程度）
- (2) 期末試験（50%程度）

〔備考〕

独学でも構わないが、フランス語の初級基礎文法を一通り終えており、且つ、辞書の力を借りることによって中級レベルの文章読解を行うことができる（その意欲がある）ことが、本演習を受講するうえでのひとつの目安となる。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 受講の心得の確認
- 第3週 テキストの訳読 (1)
- 第4週 テキストの訳読 (2)
- 第5週 テキストの訳読 (3)
- 第6週 テキストの訳読 (4)
- 第7週 テキストの訳読 (5)
- 第8週 テキストの訳読 (6)
- 第9週 テキストの訳読 (7)
- 第10週 テキストの訳読 (8)
- 第11週 テキストの訳読 (9)
- 第12週 テキストの訳読 (10)
- 第13週 テキストの訳読 (11)
- 第14週 テキストの訳読 (12)
- 第15週 総括

受講生のレベルに十分配慮することとしたい。そのため、上記の案内とは異なる場合がありうることを予めご承知おき頂きたい。

副題	外国語で読む現代日本			担当者	金野 純 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

日本に関する、英語もしくは中国語の記事等の文章を理解できるようにする。外国語で日本について説明できるような語彙力を身に着ける（英語か中国語かは参加者が選択する）。

〔授業の内容〕

海外に出て、自分の「日本」に対する無知に気づかされた経験を持つひとは少なくないだろう。「国際コミュニケーション」において、自らの国について知ることは必須である。

本演習では、参加者が自己の語学能力に応じて、英語もしくは中国語を選択し、担当教員が指定する文章を翻訳して内容を報告し、みなでディスカッションする。こうした作業を通して、外国語を通して現代日本について改めて考え、同時に、外国人記者や研究者らが「日本」をどのようにみているかについても、考えてみたい。

〔教材〕

授業時に文献のコピーを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に指定された記事を翻訳し、内容を理解したうえで授業に参加すること。ディスカッションでは、各自の意見を求められることもあるので、自分の考えをまとめておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席を重視する。成績は、出席状況（30%）、授業参加（30%）、期末試験（40%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔備考〕

参加者の人数により、授業計画を若干変更する可能性がある。また中国語圏の留学生は、必ず英語を選択すること。

〔授業計画〕

- 第1週 導入
- 第2週 文献講読とディスカッション
- 第3週 ♪
- 第4週 ♪
- 第5週 ♪
- 第6週 ♪
- 第7週 ♪
- 第8週 ♪
- 第9週 ♪
- 第10週 ♪
- 第11週 ♪
- 第12週 ♪
- 第13週 ♪
- 第14週 まとめ、予備日
- 第15週 ♪

外国語演習II O

3628000201500

副 題	英語で学ぶ日本の農村・環境問題			担 当 者	莊林 幹太郎 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	木	時 限	1

〔授業の到達目標〕

英語のみの授業により、総合的かつ複層的な内容（この授業の場合、我が国の農村・環境問題）を理解できる。

〔授業の内容〕

本演習では、TPPなどで最も政治的にセンシティブな事項となっている我が国の農村問題について、その歴史的意味合いや、農産物貿易問題との関係性、農業政策の影響など総合的かつ複層的な視点で議論する。授業は英語のみで行われ、受講生に対する講義中の質問などを通して、受講生も英語のみで対応する。

〔教材〕

毎回プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回の資料の翻訳に毎週3時間程度の負荷を想定

〔成績評価の方法〕

出席（25%）、中間試験（25%）、期末試験またはレポート（50%）

〔備考〕

授業内容について質問がある場合は、20070095@gakushuin.ac.jpまでメールで問い合わせること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 農村とは？
- 第3週 我が国の農業農村を巡る状況
- 第4週 同上
- 第5週 農業農村が環境に与える影響
- 第6週 同上
- 第7週 ♪
- 第8週 農業環境問題を議論するための経済学の基礎
- 第9週 同上
- 第10週 ♪
- 第11週 農業農村と環境を調和させるための政策
- 第12週 同上
- 第13週 ♪
- 第14週 総括
- 第15週 ♪

副題	文化財の保護と活用			担当者	M. ウーゴ 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

社会における自然遺産や文化遺産の役割を考え、調べる力、文章作成の力を磨く。

〔授業の内容〕

「文化財」や「遺産」という用語が指す内容は常に変化している。例えば、文化財に指定される対象は、宗教建築から民家へ、単独の記念物から景観へ、高尚な芸術から民俗芸能へと広がっていった。すなわち、時代、地域、文化的背景の違いによって、文化財を取り巻く価値観も、「文化財」や「遺産」に関する国際協力のあり方も多様に存在する。本演習では、文化財に関する国内外のさまざまな事例を通じて、世界の現状を知るとともに国際協力に関する理解を深めることを目的とする。演習では次の四段階の調査が求められる。

- 1) 日本における文化財制度調査。文化庁、地方自治体、専門的組織の役割と成果。
 - 2) 世界遺産の役割。ユネスコ、国際専門機関を対象に国際協力に関する実践の評価と分析。
 - 3) 日本国内と国際機関の比較。特に、文化遺産・自然遺産・無形遺産の区分と選択過程、推薦と保護活動、国際協力企画の具体的な事例。
 - 4) 文化の多様性と「遺産」保護政策の関連を考える。最終的には「遺産」を通じて国際社会の可能性と問題点について展望する。
- 各自の研究テーマについて定期的にプレゼンテーションを行う。

〔教材〕

参考書：三輪嘉六（編）『文化財学の構想』勉誠出版、2003年
演習中に指示する。英語文献も含む。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献、検索した資料）、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席と授業への参加の姿勢（積極性）[10%]、レポート [40%] や発表 [50%] を総合的に評価。

〔備考〕

この授業を選択する学生は、日本語の文献はもちろんのこと、英語文献も活用すること。

〔授業計画〕

- | | |
|------|----------------|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | 日本の文化財制度 1 |
| 第3週 | 日本の文化財制度 2 |
| 第4週 | 日本の文化財制度 3 |
| 第5週 | まとめ |
| 第6週 | 社会における文化財の役割 1 |
| 第7週 | 社会における文化財の役割 2 |
| 第8週 | 文化財と世界遺産 1 |
| 第9週 | 文化財と世界遺産 2 |
| 第10週 | まとめ |
| 第11週 | 国内外の比較 1 |
| 第12週 | 国内外の比較 2 |
| 第13週 | 国内外の比較 3 |
| 第14週 | 国内外の比較 4 |
| 第15週 | まとめ |

副題	Intercultural Communication			担当者	G. R. ファリア 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

This course is intended to help students become competent in communication with others of diverse cultural backgrounds by helping them expand their range of verbal and nonverbal communication skills, become able to communicate effectively in unfamiliar settings, recognize the influence their own culture has had on the way in which they view themselves, and expand their knowledge of the ways of other cultures.

〔授業の内容〕

We will cover the first half of the text this semester. Each week students will form groups to present the content of the textbook to the class, and all students will also be given a handout of study guide questions on the chapter to prepare for discussion in class. Other supplementary readings will be suggested to give students a wider understanding of each topic, and topics for research papers will also be suggested. The course will be conducted entirely in English: readings, discussion, reports, presentations will all be done in English. Students will thus be continuously developing their English skills at the same time they are expanding their understanding of and skills in intercultural communication.

〔教材〕

教科書：Everett M. Rogers and Thomas M. Steinfatt, *Intercultural Communication*, Waveland Press, 1999

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2-3 hours each week to study the textbook and study guide questions, and another 2 hours to prepare for their presentation of the textbook when it is their turn.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), presentations (30%), and reports (40%).

〔備考〕

Students should have completed one of the following courses：国際コミュニケーション基礎演習I B, II B, III B, or IV B. It is also desirable to take a 2nd foreign language（第2外国語） for two years（基礎 I, II；応用 I, II） and to have a TOEIC score of over 650.

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Why study intercultural communication?
- 第3週 A history of intercultural contact
- 第4週 The roots of intercultural communication
- 第5週 Key concepts in intercultural communication
- 第6週 Key concepts in the study of culture
- 第7週 Cultural differences
- 第8週 Communication
- 第9週 Intrapersonal and interpersonal communication
- 第10週 Verbal communication
- 第11週 Cultural factors in interpersonal communication
- 第12週 Presentation of term reports
- 第13週 ♪
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

副題	Japanese Business and Society - Piercing the Veil			担当者	金城 重紀 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

1. Understand contemporary Japan and its challenges in a historical context.
2. Understand what Japanese business executives are really thinking and why.
3. Apply the analysis and solutions to the challenges of Japanese society to other platforms.

〔授業の内容〕

The "Japanization" of economic, societal, and political challenges is happening across the world. This course effectively offers a preview of the challenges that are likely to happen shortly in other parts of the globe and explores strategies to cope with them. Doing so, we will analyze Japanese business from historical, societal and economic perspectives.

〔教材〕

Given the uniqueness of the course, I will provide materials including case studies and relevant academic papers.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Homework will be assigned in almost every class to help you actively contribute.

〔成績評価の方法〕

- Class contribution: 40%
- Student presentation: 30%
- Final exam or paper: 30%

〔備考〕

- ・ This is an excellent seminar for foreign as well as Japanese students.
- ・ Non-business majors are more than welcome.
- ・ Office hour: Thursday between 10 : 40-12 : 10.
- ・ For further information, please see 演習募集要項 and attend first day of class.

〔授業計画〕

- 第1週 Kick-off: Rajan, The True Lessons of the Recession
 - 第2週 Case: Yataro Iwasaki: Founding Mitsubishi (A) (B)
 - 第3週 Case: Honda (A) (B)
 - 第4週 Case: The Miracle Years
 - 第5週 Vogel: Japan as Number 1
 - 第6週 Noguchi: The 1940 System
 - 第7週 Case: Beyond the Bubble
 - 第8週 Case: Deficits, Demography, and Deflation
 - 第9週 Matsutani: Shrinking Population Economics
 - 第10週 Genda: A Nagging Sense of Job Insecurity
 - 第11週 Morishima: Japan at a Deadlock
 - 第12週 Student presentation 1
 - 第13週 Student presentation 2
 - 第14週 Student presentation 3
 - 第15週 Wrap-up and comments
- This plan is subject to change.

副 題	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究			担 当 者	中島 崇文 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	金	時 限	4

〔授業の到達目標〕

中・東欧を中心とするヨーロッパの歴史や文化に関する幅広い専門的な知識を身につけると共に、各自が関心を持つテーマの研究を段階を追って進める。

〔授業の内容〕

授業は卒業論文に関わる発表と文献講読を織り交ぜたものとなる。春学期には3年生による卒業論文の構想発表が行われる。個々の発表の後は出席者全員が発表内容に関して一言ずつコメントする。履修生は担当教員のみならず、他の履修生の助言も考慮に入れて各自の研究を進めることになる。残りの時間には、日本における中・東欧を対象とする最新の研究動向を取めた研究入門書も少しずつ読んでいくものとする。同書は日本の中・東欧史研究者11名が執筆しており、一つ一つの章は比較的短くて読みやすいが、幅広いテーマをカバーしており、中身の濃いものとなっている。

〔教材〕

教科書：高橋秀寿、西成彦編著『東欧の20世紀』人文書院，2006年
上記の教科書については担当教員が用意する予定。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書の該当する箇所は熟読し、授業中に中身の濃いコメントを述べられるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕

受講態度（約30%）、授業中に行う発表や指定された課題に取り組む姿勢（約70%）等によって総合的に評価する。演習の授業は大学の諸連絡の場でもあるので、就職活動と重ならない限り、毎週出席すること。

〔備考〕

オフィスアワーは月曜日の15:00～16:00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。4号館2階の個人研究室のみならず、7号館1階の国際交流推進センター所長室にいることも少なくないので、こちらに立ち寄ってもよい。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|----------------------|
| 第1週 | 授業概要の説明，自己紹介 |
| 第2週 | 卒業論文の執筆について，文献講読 |
| 第3週 | 卒業論文構想発表（3年生1名），文献講読 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | 総括 |

副題	情報戦略なき国家			担当者	畠山 圭一 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

国際関係、国際政治、国際コミュニケーションおよび異文化理解に関する広い視野と深い洞察力を養う。

〔授業の内容〕

「高度情報化時代の国際戦略」をメイン・テーマに外交戦略の課題を考察する。高度情報化時代の今日、私たちはさまざまなデータを瞬時にして獲得できるようになったが、データが多ければ多いほど、情報処理・分析は、困難になる。また入手データが質の高い情報を提供するとは限らない。すなわち、高度情報化に伴うデータ量の増大は、かえってコミュニケーションや相互理解を妨げかねず、情報の質を低下させる危険性の方が大きいのである。かかる時代、国際コミュニケーションに最も必要な課題は、今まで以上に相手のもつ固有の歴史、文化、伝統や政治・経済・社会に関する思想・制度を深く理解し、「相手の偏見や誤解を解消し、自らの意思を適切に相手に受容させる」発信能力と「状況を正しく把握し、相手の意思を深く洞察する」受信能力の向上を図ることである。そこで、本演習では「IT革命」の国際情報戦略上の影響を探り、更に諸国、諸民族の歴史、文化、伝統を比較し、国際文化交流の担い手に必要な、国際コミュニケーションおよび異文化理解に関する広い視野と深い洞察力を養う。

〔教材〕

追って指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前にテキストの該当箇所を読み、自らの課題を用意して臨むこと。思考力、分析力の養成が主眼であるため、事前、事後の思索が極めて重要な意味を持つ。予習、復習には十分な時間（標準は各2時間程度）を確保することが望ましい。

〔成績評価の方法〕

出席状況（2割）、演習参加の積極性、報告内容、レポート等（あわせて8割）によって総合的に判断し、60点以上を合格とする。

〔備考〕

学外講師（研究者、官僚、国際機関幹部、ジャーナリスト等）による特別講義や学外の各種セミナーへの出席等の企画も考えている。また春合宿、夏合宿も予定している。国際政治、外交に関する強い目的意識と関心をもって望んでほしい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 導入講義
- 第3週 テキスト輪読と討論
- 第4週 報告と討論
- 第5週 〃
- 第6週 〃
- 第7週 〃
- 第8週 〃
- 第9週 〃
- 第10週 〃
- 第11週 〃
- 第12週 〃
- 第13週 〃
- 第14週 〃
- 第15週 総括

副題	Discussing Japan			担当者	J. F. モア 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

This is the spring term of a 2-year seminar concerned with the presenting of information about Japan in English. The purpose of the course is to read presentations related to Japan in English, and to write about and discuss Japan-related topics in English.

〔授業の内容〕

Third-year students will prepare summaries of reading assignments. We will discuss the texts' content, think about the intended audience, the writer's views and stance towards the material, the writer's background, etc. Students will improve their skills in reporting, summarizing and documenting information, and work toward the selection of their graduation-thesis topics. In July they will hand in a book report.

Fourth-year students will pursue their research for the graduation thesis in addition to reading the assignments and participating in discussion.

〔教材〕

教科書：Tessa Morris-Suzuki, *Re-inventing Japan*, M. E. Sharpe, 1998

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation of readings for each week's discussion (4 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and participation in class, 30% ; written assignments, 40% ; for 3d-year students, final examination, 30% and for 4th-year students, individual research progress 30%.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Getting acquainted
第2週	Reading and Discussion
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	Reading and Discussion Book Report for F I students.
第15週	Reading and Discussion

副題	地球環境問題と国際コミュニケーション			担当者	荘林 幹太郎 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

地球環境問題の複雑性、相互関連性ならびに同問題に対する対策を検討する場合の総合的な視野の必要性についての理解を深めるとともにその過程を通じて、異分野間、異文化間のコミュニケーションの重要性を把握する。

〔授業の内容〕

本演習I, IIIにおいては、いくつかの地球環境問題について掘り下げた議論を行うこととする。基礎的な文献輪読、(場合によっては)東京近傍における現地調査、実際に問題解決に当たっている当事者からのヒアリング、クラスでのグループディスカッション等の多様な方法により議論を深めていくこととしたい。

本年は、環境政策についての国際的な制度比較を行うことにより、社会、経済、文化、自然がそれぞれの環境政策にどのような影響を与えているかを議論するとともに、政策の相互理解の取組みを分析することを想定している。

〔教材〕

教科書：追って指示する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回2～3時間程度の負荷で、次回で使用する資料のレジュメ作成あるいは小レポートを課す。

〔成績評価の方法〕

出席状況および授業中の議論（20%）、小レポート（2～3回：30%）、期末レポート（50%）

〔備考〕

国際コミュニケーション演習Gの受講を将来希望する学生は、基礎演習G地球環境論I,IIのセット、環境科学I、あるいは環境経済学のいずれかを受講することが望ましい。

〔授業計画〕

- | | |
|------|-----------------|
| 第1週 | イントロダクション |
| 第2週 | 地球温暖化防止政策：日本 |
| 第3週 | 地球温暖化防止政策：EU |
| 第4週 | 地球温暖化防止政策：米国 |
| 第5週 | 水政策：日本 |
| 第6週 | 水政策：EU |
| 第7週 | 水政策：米国 |
| 第8週 | 水政策：豪州 |
| 第9週 | バイオマス政策：日本 |
| 第10週 | バイオマス政策：EU |
| 第11週 | バイオマス政策：米国 |
| 第12週 | 景観・生物多様性保全政策：日本 |
| 第13週 | 景観・生物多様性保全政策：EU |
| 第14週 | 景観・生物多様性保全政策：米国 |
| 第15週 | 総合討論 |

副題	現代欧米社会の人種・民族			担当者	武井 彩佳 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

現代の欧米社会で民族的・人種的マイノリティと多数派社会の間に存在する様々な問題の原因について知り、これからの展望について考える。

〔授業の内容〕

現代欧米社会におけるマジョリティ／マイノリティ関係を、人種・民族・移民・階級等をキーワードにして考える。現出している様々な問題が、いかなる歴史背景から生まれたものであるか理解する。3年生は指定されたテキストの箇所をレジュメにまとめ発表し、4年生は卒業論文の構想を学期内に最低1度は報告する。

〔教材〕

テキストは配布するか、初回の授業で教科書を一齐購入する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定されたテキスト部分を読んでくる。

〔成績評価の方法〕

出席と報告等、総合的に評価

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|------------------|
| 第1週 | 導入：自己紹介，報告者の決定など |
| 第2週 | 文献講読 |
| 第3週 | 〃 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 課外授業 |
| 第9週 | 文献講読＋4年生卒論構想発表 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | 予備日 |

副題	日本の歴史社会学			担当者	金野 純 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5

〔授業の到達目標〕

近現代日本の社会変動を、東アジア全体の動きも視野に入れながら考察し、現在の日本社会の歴史的土壌を理解する。

〔授業の内容〕

演習では、日本および東アジアに関連した歴史社会学的研究を講読する。参加者は、各自が担当する文献の内容について発表し、皆でディスカッションする。学生は報告に加えて司会も担当する。最終的には、各自が構想した研究計画を発表する。

リーディングアサインメントについては、事前にガイダンスをおこない指定する。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参加者は事前に指定される文献を熟読し、報告者はアウトラインを作成する必要がある。他に進行役の学生も、事前に文献を読み、適切な問題提起等を準備しておく必要がある。

〔成績評価の方法〕

出席を重視する。成績は、出席状況（30%）、報告内容（40%）、授業参加（10%）、レポート（20%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔備考〕

参加者の数や関心事によって授業計画が若干変更される可能性がある。

〔授業計画〕

第1週	自己紹介・オリエンテーション
第2週	文献講読・発表・ディスカッション
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	研究計画発表
第15週	まとめ

副題	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究			担当者	羅 京洙 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5

〔授業の到達目標〕

東アジアの地域統合に関する議論が盛んに行われている現在、南北 코리아 がいかにして「地域の一員」として関わっていくのか、大きな関心が寄せられている。本演習は、東アジアの中の朝鮮半島を、「地域性」という新しい観点から捉えなおすことを目標とする。

〔授業の内容〕

東アジア地域研究にまつわる理論・ディシプリンの紹介や、朝鮮半島をとりまく様々な問題群を検討の対象とし、東アジアの中の朝鮮半島を総合的に理解する。さらに本演習では、朝鮮半島を含む東アジアの国・地域に内在する類似性と相違性を、比較の観点から複眼的かつ客観的にとらえる高度な能力を身につける。とりわけ、担当教員の専門分野である東アジアにおける人々（特にコリアン）と文化のトランスナショナルな移動現象について一緒に学ぶ。グローバル化が進む中、東アジアでは、人々の国境を越えるトランスナショナルな移動と交流が活発に行われている。その人々の移動の際には、文化の移動も伴われ、互いの持つ文化への理解が強く求められている。

〔教材〕

特定の教科書は用いないが、指定文献については演習時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定文献や参考資料をあらかじめ読んだ上で、毎回の演習に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

演習への出席率・貢献度（30%）、研究報告（30%）、課題・レポート（40%）で評価する。

〔備考〕

本演習は、受講生の積極的な研究発表と討論を両軸に進める。主な活動として、（1）関連文献の輪読とディスカッション、（2）学生によるプレゼンテーション、（3）レポートや卒論の執筆活動などを行う。また、第一線の東アジア・朝鮮半島専門家との交流や、（学生主体・自由参加の形で）韓国へのフィールドワークの機会を設けることも計画している。なお、演習の内容について質問などがある場合は、金曜日のオフィス・アワー（14：00～17：00）に研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-----------------|
| 第1週 | イントロダクション |
| 第2週 | 文献講読と討論（1） |
| 第3週 | 文献講読と討論（2） |
| 第4週 | 文献講読と討論（3） |
| 第5週 | 文献講読と討論（4） |
| 第6週 | プレゼンテーションと討論（1） |
| 第7週 | プレゼンテーションと討論（2） |
| 第8週 | プレゼンテーションと討論（3） |
| 第9週 | プレゼンテーションと討論（4） |
| 第10週 | プレゼンテーションと討論（5） |
| 第11週 | プレゼンテーションと討論（6） |
| 第12週 | プレゼンテーションと討論（7） |
| 第13週 | プレゼンテーションと討論（8） |
| 第14週 | プレゼンテーションと討論（9） |
| 第15週 | 総合討論・総括 |

副題	ヨーロッパ文化の諸問題			担当者	根占 献一 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパにおける思想・文化の背景にキリスト教や古代のギリシャ・ローマ文明が深くかかわっていることを知る

〔授業の内容〕

ルネサンスを軸にヨーロッパ的教養の諸相を考え、私たちとの関係も考える場にしたいたい。
この演習を希望する者の意見や関心を聞いたうえで使用テキストなどを決め、受講生には適宜、関心テーマ、修論に向けた発表報告を期待したい。

〔教材〕

読んでいくテキストは外国語（英語）文献の場合もありうる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各一時間半以上

〔成績評価の方法〕

演習参加への熱意（40%）とレポート（60%）で判断

〔備考〕

適宜、受講生にも関心テーマの発表を行なってもらう形式を取り入れる。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ヨーロッパ文化の諸相—古典古代とルネサンス・近代の関係
- 第2週 ヨーロッパ的「教養」とはなにか—バイデアとフマニタス
- 第3週 ヨーロッパ文化の他地域への影響—宗教・芸術等を含む
- 第4週 以下、先の各週と関わるテキストの精読
- 第5週 同上
- 第6週 ♪
- 第7週 ♪
- 第8週 ♪
- 第9週 ♪
- 第10週 ♪
- 第11週 ♪
- 第12週 ♪
- 第13週 ♪
- 第14週 ♪
- 第15週 総括

副題	国際法と国内法の基本問題			担当者	櫻井 大三 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4

〔授業の到達目標〕

国際社会または国内社会において現実が生じている問題を国際法・国内法の観点から検討し、卒業論文の作成に必要な調査、分析、報告を行うこと。他の受講生との議論を通じて、研究の知見や作法を共有すること。

〔授業の内容〕

本演習は、現代社会において生起するさまざまな問題を国際法および国内法双方の観点から読み解くことを第一の目的としている。分かりやすく言うと、諸君が国際法や国内法の諸問題に幅広く接する中で、素朴に感じた疑問を出発点とし（自ら問いを立てる）、その疑問を自ら解き明かすために調査を行い（自ら問いの検証・論証にあたる）、その調査結果を一定の形にまとめる（問いに対する結論を導く）のが、本演習の目的である。

受講生は、国際法や国内法に関する文献（外国語を含む）・資料（法律や条約の条文、国連など国際機構の決議、ICJなどの司法機関が下す判決等）を幅広く読み込むだけでなく、日々、新聞の社会面・国際面に目を通し、世の中の動きを把握することが求められる。したがって、『六法』や『条約集』といった法令集が必携となるし、法律の用語辞典も不可欠である。また、新聞をとっていない者は、図書館等で毎日閲覧することが求められる。法律の勉強というのは、基本的には文献考証（文献解析というべきか）のスタイルをとるから、本演習での勉強を通じて、諸君は膨大な分量の文書・文章に接することとなるであろう。その中から、自身が抱いた疑問に対する答えを自ら発掘し、それを卒業論文という形で文章化（作品化）することが、本演習の最終目標となる。

〔教材〕

参考書：佐藤望 [他] 『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』第2版、慶應義塾大学出版会、2012年
鹿島茂『勝つための論文の書き方』（文春新書）文藝春秋、2003年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

1. 予習120分：プレジデント記載の複数の参考文献に当たりながら、疑問点を質問できるように準備しておくこと（報告者は、別途指示された要領により報告原稿、レジメを準備すること）。
2. 復習120分：報告者は、討論時に提起された疑問点やコメントを踏まえて、報告原稿を加筆修正すること。当該報告原稿が卒論の柱を構成するものとなるよう推敲を重ねること。

〔成績評価の方法〕

以下の諸点を総合的に評価する。

- (1) 演習への参加態度（毎回の出席、所定の報告、討論への参加、課外活動への参加等）
- (2) レポート等の提出物（提出の有無、期日の遵守、内容の実質的な完成度等）
- (3) その他、ゼミの募集要項に記した条件を満たし且つ遵守していること。

〔備考〕

本演習への参加の前提として、受講生には以下の諸点が求められる。

- (1) 『アカデミック・スキルズ』および『勝つための論文の書き方』を読了し且つその内容を十分理解していること。
- (2) ゼミ開講時までに、別に指示する課題図書を読了していること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 使用教材の概要説明、演習の受け方・心得等
- 第3週 受講生による個別報告（1）
- 第4週 受講生による個別報告（2）
- 第5週 受講生による個別報告（3）
- 第6週 受講生による個別報告（4）
- 第7週 受講生による個別報告（5）
- 第8週 受講生による個別報告（6）
- 第9週 受講生による個別報告（7）
- 第10週 受講生による個別報告（8）
- 第11週 受講生による個別報告（9）
- 第12週 受講生による個別報告（10）
- 第13週 受講生による個別報告（11）
- 第14週 受講生による個別報告（12）
- 第15週 受講生による個別報告（13）

副題	比較生活文化研究			担当者	乾 尚彦 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5

〔授業の到達目標〕

人間が地球に住むためにつくりだした具体的な環境，文化を対象にする。これらを比較することで，その特質や異文化に対する理解を深めるのが目的である。

〔授業の内容〕

まず，世界各地の都市，建築，生活文化を比較研究することを主題にした研究論文を読んでいく。毎回，発表者は，自分の関心に応じた論文を検索し，更にその内容に関連した文献をさがし，文化や対象地域についての基礎的な事項を整理しながら，論文の構成や研究手法，結論について報告する。全員で，その内容について，検討，討論をおこなう。これらを通して，比較文化研究に必要な基礎的な事項，基礎文献，資料探索法について習熟を深めるとともに，研究論文とはどうあるべきか，どのような要素を必要とするかについて把握していく。次に，フィールドワークの実例を通して，その技術や方法論について学んでいく。

また，毎回，世界各地の建築，世界遺産を数例とりあげ，建築についての認識を深めていく。

〔教材〕

演習中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

建築ガイドシートの作成または報告内容のレジュメ作成。

〔成績評価の方法〕

レポート，出席，発表の内容による。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|---------------------------------|
| 第1週 | 建築文化の資料探索法 |
| 第2週 | 建築文化に関する研究論文1 |
| 第3週 | 建築文化に関する研究論文2 |
| 第4週 | 建築文化に関する研究論文3 |
| 第5週 | 建築文化に関する研究論文4 |
| 第6週 | フィールドワーク論 今和次郎の悉皆調査 |
| 第7週 | フィールドワーク論 路上観察学会の視力・妹尾河童の表現力 |
| 第8週 | フィールドワーク論 参与観察とは |
| 第9週 | フィールドワーク論 民家の見方調べ方・デザインサーヴェイの方法 |
| 第10週 | フィールドワーク論 映像人類学の方法 |
| 第11週 | フィールドワーク論 旅行記か論文か |
| 第12週 | フィールドワーク論 分類とは何か |
| 第13週 | フィールドワーク論 文化の記述方法 |
| 第14週 | まとめ1 |
| 第15週 | まとめ2 |

副 題	English and Its Culture I			担 当 者	古 庄 信 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	月	時 限	5

〔授業の到達目標〕

3年次（演習Ⅰ）では2年次までに培った英語力をさらに伸ばしつつシェイクスピアをとおして演劇文化および英国文化の理解を深める。また特に英語史関連の文献講読をとおして、4年次における卒論作成へのステップとする。4年次は前半期において、参考文献の入手、データ分析など本格的な卒論作成にむけての準備を行う。

〔授業の内容〕

英語という言語は、16-7世紀（シェイクスピアの時代）までは、たかだかブリテン島というちっぽけな島国の中で使われるゲルマン語の一端裔にすぎなかった。それが21世紀を迎えたこの時代、今や全世界の共通語として用いられるほどの興隆をみせるまでになった。このように地球全域でコミュニケーションの道具として使われる英語という言語の特色とは何か？その秘密に触れ、問題点を英語学的観点から究明しつつ、各自のテーマを発見し、これを4年次の卒業論文・卒業研究へと展開していくのがこの演習のねらいである。具体的には、英語史の流れを概観しつつ、英語の地名や政治・文化・宗教・生活習慣その他英国のあらゆるものと言葉の結びつきについて考察したい。このため「イギリス」に関連するものを文字情報だけでなく、映像情報をふんだんに駆使して受講者に提供する。したがって受講希望者は基本的に「イギリスが好き」であることが条件となる。また、5月に来日する英国劇団の本学公演の上演スタッフとしての参加も必修とする。

〔教材〕

各受講生の希望するテーマに沿った教材プリントを使用する。他にドキュメンタリー番組のビデオなど視聴覚教材も用いる。参考書については大学図書館にあるものを随時指定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教材プリントの発表箇所は発表者だけでなく履修者全員が念入りに調べておくこと。予習・復習に最低各1時間半以上かけること。

〔成績評価の方法〕

定期試験（70%）の他、ゼミ関連授業および活動の出席状況や予習・発表状況等（30%）を参考とする。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業ガイダンス・資料プリント類配布
- 第2週 テキスト講読／受講者発表
- 第3週 〃
- 第4週 〃
- 第5週 〃
- 第6週 〃
- 第7週 〃
- 第8週 〃
- 第9週 〃
- 第10週 〃
- 第11週 〃
- 第12週 〃
- 第13週 〃
- 第14週 〃
- 第15週 テキスト講読：受講者発表およびまとめ

2015年5月23日に予定されている英国劇団の本学上演に関しては、上記に述べた目的のため、必ず全員参加すること。また春・秋に予定されている関連授業も必修とする。

副題	ヨーロッパ・アジア・アフリカの比較交流史			担当者	工藤 晶人 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

私たちは、ヨーロッパ、アジア、アフリカといった地域のまとまりで世界をとらえ、それぞれの地域の文化について単純なイメージを抱きがちです。このゼミでは、そうしたイメージの裏側にある多様さを発見するために、さまざまな地域を比較しながら交流の歴史を学んでいきます。担当教員が専門とする地域はフランスとマグリブですが、そのほかの地域（ヨーロッパ、中東、アフリカ）についても広く関心を持つ学生を歓迎します。

〔授業の内容〕

ヨーロッパと中東・アフリカ地域の歴史、言語、文化、宗教に関する文献購読とディスカッションを行う。並行して卒業論文作成にむけて各自の研究計画を発表する。

〔教材〕

購読する文献については授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読または発表準備

〔成績評価の方法〕

出席状況、報告とレポートの内容、授業参加の積極性を総合的に評価する。

〔備考〕

授業内容についての質問等は、オフィスアワーに研究室で受け付ける。

〔授業計画〕

第1週	オリエンテーションと自己紹介
第2週	文献購読・発表・ディスカッション
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題	国際開発協力			担当者	伊藤 由紀子 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

国際協力のあるべき姿を客観的に述べられるようにする

〔授業の内容〕

【国際コミュニケーション演習 IQ】

「豊かな」先進国と、「貧しい」と言われる開発途上国がある中、地球規模の活動が盛んに行われ、まさに国内外を問わず、地球の全生態系を含めた相互依存の重要性が説かれている。そのような状況の中、ボランティア・国際援助活動の重要性は拡大し続けている。ボランティア、援助活動などは自分が持つ能力、労力、技術、知識を他者に提出することでとどまるのであろうか。または、反対にそのような活動から当事者が得るものの方が多いのではないだろうか。あるいは、どれだけ私たち先進国の人間は、貧困、人権、環境問題、ジェンダーなどについて知り、理解しているのだろうか。「現場から見た視点」を中心に、参加した活動の紹介を通して、事例を挙げながら、ボランティアや国際協力のあり方、展望、参加の仕方について考察する。

【国際コミュニケーション演習 III Q】

国際コミュニケーション演習IとIIでは国際援助・協力・ボランティア活動に主体的に携わり考察してきた。参加した活動とそれを元に行った研究から提起された国際援助・協力・ボランティア活動に関わる諸問題を取り上げる。問題が発生する背景がどのようなものか、そしてその問題解決につながる方策を考察・分析しながら卒業論文を作成する。

〔教材〕

授業中に指示、配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回ごとに次回授業のための課題が出ます。課題には3～4時間費やすことを予定してください。

〔成績評価の方法〕

授業の出欠席 10%，レポート 40%，発表 40%，授業への参加（発言等）10%。

〔備考〕

第1回授業は欠席しないようにしてください。万が一欠席した場合、必ず「次週の授業日前」に配布資料を取りにきて、授業内容については他の受講生に確認してください。

〔授業計画〕

- 第1週 INTRODUCTION
- 第2週 テキスト輪読，発表，ディスカッション
- 第3週 〃
- 第4週 〃
- 第5週 〃
- 第6週 〃
- 第7週 〃
- 第8週 〃
- 第9週 〃
- 第10週 〃
- 第11週 〃
- 第12週 〃
- 第13週 〃
- 第14週 〃
- 第15週 まとめ

初回授業で発表等の順番を決めます。

副題	グローバル化の実態			担当者	佐久間 潮 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

各種資料および参考文献からグローバル化の実態を把握し、かつ実際にグローバル化に伴って文化摩擦の生じている地域に出向き、その実態を調査し、自らその解決方法を考え出すこと。

〔授業の内容〕

グローバル化とは、簡単に言えば、財、サービス、資金、人、情報、が世界中を活発に往来するようになることである。私達のまわりを少し見回しただけでも、私達がグローバル化した社会に生活していることは、すぐに分かるであろう。

人々はヨーロッパの有名ブランド品を使ったり、アジアの諸国で生産された電気製品やドイツで生産された自動車を購入したりするだけでなく、アメリカの映画を鑑賞し、連休には海外旅行を楽しんだりする。また、日本で働くために外国から来ている人々もたくさんいる。さらに、日本の預金金利が低いので外国の銀行に預金する人もいる。テレビでは衛星放送を通じてアメリカのCNNやイギリスのBBCのニュースだけでなく、外国の様々な番組を視聴することができる。また、インターネットを通じてさまざまな情報が世界を駆け巡る。

このようなグローバル化は私達の生活にどのような影響を及ぼしているのだろうか。また、将来どのような展開が待っているのだろうか。この問題について考えるために、テキストを輪読するだけでなく、さまざまな資料を使った調査、発表、さらにはディスカッションを行なう。

〔教材〕

輪読する資料を授業時に適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

4時間

〔成績評価の方法〕

出席状況（10%）、発表（50%）、レポート（40%）で総合評価

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 世界の財貿易の現状（1）
- 第2週 世界の財貿易の現状（2）
- 第3週 世界の財貿易の現状（3）
- 第4週 世界の財貿易の現状（4）
- 第5週 世界のサービス貿易の現状（1）
- 第6週 世界のサービス貿易の現状（2）
- 第7週 世界の資金移動の現状（1）
- 第8週 世界の資金移動の現状（2）
- 第9週 国境を越えた人々の移動（1）
- 第10週 国境を越えた人々の移動（2）
- 第11週 人々の国際移動と文化摩擦（1）
- 第12週 人々の国際移動と文化摩擦（2）
- 第13週 人々の国際移動と文化摩擦（3）
- 第14週 人々の国際移動と文化摩擦（4）
- 第15週 人々の国際移動と文化摩擦（5）

副題	1. 食物教育と味覚教育 2. 環境教育 3. 科学教育			担当者	品川 明 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

1. 体験学習法と教えない教育について十分に認識し、それらを実践するファシリテーション能力がある。
2. 問題点やその解決方法を見出すために必要な情報収集能力がある。
3. 独創的なアクティビティを作る能力があることとそれらを改善する能力がある。
4. 体験学習法や教えないファシリテーション方法を他者に指導することができる。
5. 実践した成果を報告書としてまとめる能力がある。

〔授業の内容〕

1. 食物教育と味覚教育（食コミュニケーション）：食物とは何か？おいしさとは何か？食物の持つ価値を考え、食物の役割を探究し、人と食物の関係や繋がりを追究することを目的とする。身近な食材や伝統食品などについて、歴史的背景やその価値を文献やフィールドワークにより調査し、食材や料理の味覚やおいしさについても官能検査や成分分析により詳細に調べ、おいしさや地域の食文化の特性について議論できるとともに調査した食材、食品、料理などについて広報できる能力を養うことを目的とする。
2. 環境教育と体験学習（環境コミュニケーション）：自分を知り、コミュニケーション能力を養い、地球の自然とその保全を考えるプログラムの実践と環境教育プログラム（プロジェクト・ワイルドなど）の指導体験を通し、実際のファシリテーション能力を高めていくことを目的とする。指導者養成講座への参加、基礎演習での指導体験、各地の体験プログラムへ積極的に参加するなど多様な体験を重視する。その後、発展的・独創的な環境教育プログラムを開発・実践・評価し、実践の場での活用の可能性を探る。
3. 科学教育と体験学習（科学コミュニケーション）：小学校の理科の単元やアメリカで生まれたGEMS、MARE、FOSSなどの教材の指導体験を通し、教えない教育を実践するとともに実際のファシリテーション能力を高めることを目的とする。実際の教科書を批判的に捉え、改善提案ができる能力を養う。

〔教材〕

ゼミ選択した学生は、プロジェクト・ワイルドなどの指導者養成講習会に参加すること。講習会では環境教育一般指導者の資格を取得できる。講習会費用は無料であるがテキスト代として5000円（プロジェクト・ワイルド）の費用がかかる。講習会参加テキストと卒論テーマが密接に関連しているので、講習会にはできるだけ2年次から3年次春学期までに参加すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究テーマに対応した文献の遡及調査を実施することが必須である。また、選択した分野の学会を探することも必要である。演習の時間だけではファシリテーションの実践や味わい教育を実践する時間は取れないことから、事前の準備や振り返りの時間が4時間程度必要である。

〔成績評価の方法〕

1. ゼミではプログラム実践を通じた経験を重視する。振り返りに参加しファシリテーションの改善やプログラムの修正などを議論する。そのため、出席状況や積極的に議論展開する授業への貢献度を重視する。(40%)
2. 積極的課外授業への参加を通し、アクティビティの実践経験を重視する。教育法の比較やアンケートを実施し、論理的に自らのアクティビティを評価することができる。(40%)
3. 積極的な文献収集とその読解を通し、適切な報告書を作成することができる。(20%)

〔備考〕

学習院女子大学主催の環境教育講習会または味覚教育講習会にできるだけ参加すること。必要な時期にゼミ旅行を実施する（2泊から3泊；場所は青森を予定）。また、食コミュニケーション班の学生は、ゼミ旅行以外にフィールドワークのための現地調査を予定している。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス 食コミュニケーション、環境コミュニケーション、科学コミュニケーションとは何か？ 卒論作成指導、文献検索方法、ラーニングサイクル、振り返り方法について
第2週	文献調査法 卒業論文の仮テーマの作成など
第3週	ファシリテーション体験1（ファシリテーションとは？） 食物、環境、科学研究およびその調査1
第4週	ファシリテーション体験2（ラーニングサイクルとは？） 食物、環境、科学研究およびその調査2
第5週	ファシリテーション体験3（振り返りとは？） 食物、環境、科学研究およびその調査3
第6週	アンケート作成とその評価方法
第7週	感覚・味覚教育プログラム、環境教育プログラム、科学教育プログラムの体験
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	環境教育プログラム、食物教育・味覚教育プログラムあるいは科学教育プログラムの作成
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ グループでのテーマに対応し、協調関係を構築する必要がある。

副題	言語学・日本語教育Ⅰ			担当者	佐藤 琢三 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

3年生に関しては、言語研究の諸分野に広くふれ、問題の着眼の仕方や研究手法について学ぶ。4年生に関しては、卒業論文作成のための具体的な青写真を描き、実質的な調査等を開始する。

〔授業の内容〕

現代日本語を中心としつつ、他言語との対照、関連領域の諸問題も含めて幅広く研究する。より具体的には、次のような分野を扱うことになるだろう。

文法、意味、アクセント、語彙、語用論、文章・談話、会話分析、言語行動、敬語・待遇表現、方言、男女差、誤用分析、諸外国語との対照、日本語教育など

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2時間程度。ただし、発表とレポートの準備には相当の時間を必要とするであろう。

〔成績評価の方法〕

レポートにより評価する。ただし、正当な理由なき遅刻と欠席は減点の対象となる。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 導入
- 第2週 昨年の卒論の紹介と講評
- 第3週 言語変化・若者言葉
- 第4週 社会言語調査
- 第5週 日英対照研究（語彙・意味）
- 第6週 異文化コミュニケーション
- 第7週 文法
- 第8週 日英対照研究（発想と表現）
- 第9週 意味論
- 第10週 日中（または日韓）対照研究
- 第11週 通言語的視点から見た日本語
- 第12週 卒論構想発表
- 第13週 ヶ
- 第14週 ヶ
- 第15週 ヶ

授業計画は変更する場合がある。

副 題	日本語研究の方法			担 当 者	福島 直恭 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	火	時 限	3

〔授業の到達目標〕

学術的な日本語研究方法の基礎を習得する

〔授業の内容〕

時代（古典語・現代語）を問わず、日本語やその他の言語に関する著書や論文などを読む。それぞれの学生が興味・関心のある事柄に関する文献を探し、その内容について、解説、批判、今後の研究の展開の可能性などにかんする報告を行う。（初回授業から数回、教員が日本語研究・言語研究について概説する。）

〔教材〕

テキストとして事前に指定する文献は特にないが、必要に応じて授業内で紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表時は10時間以上の準備が必要。発表時以外は1～2時間程度の予習（指定された研究書、学術論文などを読んでおく）が必要

〔成績評価の方法〕

発表担当時の発表内容およびプレゼンテーション（80%）の他、討論への参加の積極性（20%）などを総合的に評価する。最低でも開講時数の2／3以上の出席が必須である。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1週 | 言語研究と日本語研究の諸分野についての概要説明 |
| 第2週 | 具体的な研究方法の検討 |
| 第3週 | 以後は担当学生による発表と討論 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | まとめ |

副題	情報システム			担当者	江藤 正己 専任講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

3年生

- ・ 学術研究に必要な基礎的事項やコンピュータの基礎的知識を身につける
- ・ 情報システムの可能性を理解する

4年生

- ・ 卒業論文・研究に関連する文献を整理し、自己の研究の学術的意義を明確に主張できる
- ・ 卒業論文・研究における調査の具体的な枠組みを設計する

〔授業の内容〕

私たちの身の回りには、TwitterやLINE、FacebookなどのSNSをはじめ、Wikipedia、Google、YouTube、Instagramなど多くの情報システムが存在します。スマートフォンの普及に伴い、ユーザー数が一国の人口よりも多い情報システムも珍しくなくなり、情報システムの動向が世界中に大きく影響を与えるようになってきました。本演習では、人間の知的活動に関わる文系的な側面から、広い意味での「情報システム」を研究します。

3年生(春学期)は、パワーポイントを使ったプレゼンテーション、情報検索・収集、文献要約、情報システムの調査、エクセルを使ったテキスト分析などをおこないます。4年生は、年間を通じて、卒業論文・研究の進捗状況について報告をおこないます。

〔教材〕

参考書：酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』共立出版、2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

必要に応じて個別面談等をおこないながら、卒業論文・研究（またはそれに準ずる内容）を進めること。

〔成績評価の方法〕

平常点(50%)、課題(50%)

ただし、授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔備考〕

本演習の卒業論文・研究では、「システムをつくる」ことを選択した場合でも、「システムをつくらない」場合とほぼ同じ量（枚数）の論文作成が課されます。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 パワーポイントを利用したビブリオバトル（1）
- 第3週 パワーポイントを利用したビブリオバトル（2）
- 第4週 パワーポイントを利用したビブリオバトル（3）
- 第5週 文献要約（1）
- 第6週 文献要約（2）
- 第7週 文献要約（3）
- 第8週 情報システム調査（1）
- 第9週 情報システム調査（2）
- 第10週 情報システム調査（3）
- 第11週 エクセルを使ったテキスト分析（1）
- 第12週 エクセルを使ったテキスト分析（2）
- 第13週 エクセルを使ったテキスト分析（3）
- 第14週 エクセルを使ったテキスト分析（4）
- 第15週 まとめ

副題	文化財の保護と活用			担当者	M. ウーゴ 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

社会における自然遺産や文化遺産の役割を考え、調べる力、文章作成の力を磨く。

〔授業の内容〕

「文化財」や「遺産」という用語が指す内容は常に変化している。例えば、文化財に指定される対象は、宗教建築から民家へ、単独の記念物から景観へ、高尚な芸術から民俗芸能へと広がっていった。すなわち、時代、地域、文化的背景の違いによって、文化財を取り巻く価値観も、「文化財」や「遺産」に関する国際協力のあり方も多様に存在する。本演習では、文化財に関する国内外のさまざまな事例を通じて、世界の現状を知るとともに国際協力に関する理解を深めることを目的とする。演習では次の四段階の調査が求められる。

- 1) 日本における文化財制度調査。文化庁、地方自治体、専門的組織の役割と成果。
 - 2) 世界遺産の役割。ユネスコ、国際専門機関を対象に国際協力に関する実践の評価と分析。
 - 3) 日本国内と国際機関の比較。特に、文化遺産・自然遺産・無形遺産の区分と選択過程、推薦と保護活動、国際協力企画の具体的な事例。
 - 4) 文化の多様性と「遺産」保護政策の関連を考える。最終的には「遺産」を通じて国際社会の可能性と問題点について展望する。
- 各自の研究テーマについて定期的にプレゼンテーションを行う。

〔教材〕

参考書：三輪嘉六（編）『文化財学の構想』勉強出版、2003年
演習中に指示する。英語文献も含む。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献、検索した資料）、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席と授業への参加の姿勢（積極性）[10%]、レポート [40%] や発表 [50%] を総合的に評価。

〔備考〕

この授業を選択する学生は、日本語の文献はもちろんのこと、英語文献も活用すること。

〔授業計画〕

- | | |
|------|----------------|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | 日本の文化財制度 1 |
| 第3週 | 日本の文化財制度 2 |
| 第4週 | 日本の文化財制度 3 |
| 第5週 | まとめ |
| 第6週 | 社会における文化財の役割 1 |
| 第7週 | 社会における文化財の役割 2 |
| 第8週 | 文化財と世界遺産 1 |
| 第9週 | 文化財と世界遺産 2 |
| 第10週 | まとめ |
| 第11週 | 国内外の比較 1 |
| 第12週 | 国内外の比較 2 |
| 第13週 | 国内外の比較 3 |
| 第14週 | 国内外の比較 4 |
| 第15週 | まとめ |

副題	Intercultural Communication			担当者	G. R. ファリア 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

This course is intended to help students become competent in communication with others of diverse cultural backgrounds by helping them expand their range of verbal and nonverbal communication skills, become able to communicate effectively in unfamiliar settings, recognize the influence their own culture has had on the way in which they view themselves, and expand their knowledge of the ways of other cultures.

〔授業の内容〕

This course is a continuation of Intercultural Communication I. We will take up where we left off at the end of the first term and continue with the second half of the text. We will continue to conduct the classes in the same way as the first semester, but the content will be increasingly complex. The course will be conducted entirely in English: readings, discussion, reports, term paper, presentations will all be done in English. Students will thus be continuously developing their English skills at the same time they are expanding their understanding of and skills in intercultural communication.

〔教材〕

教科書：Everett M. Rogers and Thomas M. Steinfatt, *Intercultural Communication*, Waveland Press, 1999

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2-3 hours each week to study the textbook and study guide questions, and another 2 hours to prepare for their presentation of the textbook when it is their turn.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), reports (20%), presentations (20%), and a term paper (30%).

〔備考〕

Students should have completed one of the the following courses：国際コミュニケーション基礎演習I B, II B, III B, or IV B. It is also desirable to take a 2nd foreign language（第2外国語）for two years（基礎 I, II；応用 I, II）and have a TOEIC score of over 650.

〔授業計画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Nonverbal communication
- 第3週 Types of nonverbal communication
- 第4週 Assimilation and acculturation
- 第5週 Ethnic groups in the United States
- 第6週 The role of the media
- 第7週 Culture shock
- 第8週 Becoming more intercultural
- 第9週 Toward multiculturalism
- 第10週 The global village
- 第11週 Development programs in third world countries
- 第12週 Presentations of term papers
- 第13週 ♪
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

副題	Japanese Business and Society - Piercing the Veil			担当者	金城 亜紀 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

- 1.Understand contemporary Japan and its challenges in a historical context.
- 2.Understand what Japanese business executives are really thinking and why.
- 3.Apply the analysis and solutions to the challenges of Japanese society to other platforms.

〔授業の内容〕

The "Japanization" of economic, societal, and political challenges is happening across the world. This course effectively offers a preview of the challenges that are likely to happen shortly in other parts of the globe and explores strategies to cope with them. Doing so, we will analyze Japanese business from historical, societal and economic perspectives.

〔教材〕

Given the uniqueness of the course, I will provide materials including case studies and relevant academic papers.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Homework will be assigned in almost every class to help you actively contribute.

〔成績評価の方法〕

- Class contribution: 40%
- Student presentaion: 30%
- Final exam: 30%

〔備考〕

- ・ This is an excellent seminar for foreign as well as Japanese students.
- ・ Non-business majors are more than welcome.
- ・ Office hour: Thursday between 10 : 40-12 : 10.
- ・ For further information, please see 演習募集要項 and attend first day of class.

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Kick-off
 - 第2週 Case: Creation of the Takkyubin
 - 第3週 Case: Tampin Kanri/7 Eleven
 - 第4週 Case: Rakuten
 - 第5週 Case: Englishnization at Rakuten
 - 第6週 Case: Ina Foods
 - 第7週 Thesis Development 1
 - 第8週 Thesis Development 2
 - 第9週 Thesis Development 3
 - 第10週 Thesis Development 4
 - 第11週 Thesis Development 5
 - 第12週 Student presentation 1
 - 第13週 Student presentation 2
 - 第14週 Student presentation 3
 - 第15週 Wrap-up and review
- This plan is subject to change.

副題	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究			担当者	中島 崇文 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4

〔授業の到達目標〕

秋学期に引き続き、中・東欧を中心とするヨーロッパの歴史や文化に関する幅広い専門的な知識を身につけると共に、各自が関心を持つテーマの研究を段階を追って進める。

〔授業の内容〕

授業は卒業論文に関わる発表と文献講読を織り交ぜたものとなる。秋学期には4年生による卒業論文の最終発表が行われる。個々の発表の後は出席者全員が発表内容に関して一言ずつコメントする。履修生は担当教員のみならず、他の履修生の助言も考慮に入れて各自の研究を進めることになる。残りの時間には、日本における中・東欧を対象とする最新の研究動向を収めた研究入門書を春学期に引き続き、少しずつ読んでいくものとする。

〔教材〕

教科書：高橋秀寿、西成彦編著『東欧の20世紀』人文書院、2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書の該当箇所は事前に熟読し、授業中に中身の濃いコメントを述べられるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕

受講態度（約30%）、授業中に行う発表や指定された課題に取り組む姿勢（約70%）等によって総合的に評価する。演習の授業は大学の諸連絡の場でもあるので、就職活動と重ならない限り、毎週出席すること。

〔備考〕

オフィスアワーは月曜日の15:00～16:00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。4号館2階の個人研究室のみならず、7号館1階の国際交流推進センター所長室にいることも少なくないので、こちらに立ち寄ってもよい。

〔授 業 計 画〕

第1週	卒業論文最終発表（4年生1名）、文献講読
第2週	〃
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	総括

副題	日本の政治文化の特質			担当者	畠山 圭一 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

国際関係、国際政治、国際コミュニケーションおよび異文化理解に関する広い視野と深い洞察力を養う。

〔授業の内容〕

春学期に引き続き、「高度情報化時代の国際戦略」をメイン・テーマに外交戦略の課題を考察するが、秋学期では、相手の偏見や誤解を解消し、自らの思想や意図を相手に適切に伝えるには、いったい、どのような情報発信が必要かという点に注目して演習を進めたい。意思伝達にとって重要なことは、伝えようとする物事の本質を深く知り、さらにそれを相手に理解できるように説明することである。本演習では「日本の政治文化の特質」や「日本の国家理念」等についての検討を加え、対日誤解を解き、日本の思想や意図を的確に伝えるためにはどのような説明が必要であるかを検討する。また、年度の最後に「日本の国際戦略」を総合テーマに各グループからの研究報告も行ってもらおう。

〔教材〕

追って指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前にテキストの該当箇所を読み、自らの課題を用意して臨むこと。思考力、分析力の養成が主眼であるため、事前、事後の思索が極めて重要な意味を持つ。予習、復習には十分な時間（標準は各2時間程度）を確保することが望ましい。

〔成績評価の方法〕

出席状況（2割）、演習参加の積極性、報告内容、レポート等（あわせて8割）によって総合的に判断し、60点以上を合格とする。

〔備考〕

月に1回程度、学外講師（研究者、官僚、国際機関幹部、ジャーナリスト等）による特別授業や学外の各種セミナーへの出席等の企画も考えている。秋合宿または冬合宿も予定している。国際政治、外交に関する強い目的意識と関心をもって望んでほしい。

〔授業計画〕

- | | |
|------|-----------|
| 第1週 | 導入講義 |
| 第2週 | テキスト輪読と討論 |
| 第3週 | 報告と討論 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | 総括講義 |

副題	Discussing Japan			担当者	J. F. モア 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

This is the autumn term of a 2-year seminar on the presenting of information about Japan in English. Third-year students will begin and pursue research projects on topics in their areas of interest.

Fourth-year students should complete their graduation theses.

〔授業の内容〕

Third-year students will report the progress of their research to the class. Their research may concern Japan exclusively, or be a comparison with other countries or cultures. While other languages may of course be used for research, the language of classroom discussion and written reports will be English.

Fourth year students will report on the progress of their research as well as joining the class discussion.

〔教材〕

Same as IF - IIIF no need to purchase again.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation of presentations and reports each week (4 hours).

〔成績評価の方法〕

Evaluations will be based on students' attendance and contributions to classroom discussions 30%, and on timely progress in their reports on their research projects 70%.

〔備考〕

〔授業計画〕

第1週	Presentation of research interests and book reports
第2週	Reports and discussion
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	Presentation of research plans
第15週	〃

副題	地球環境問題と国際コミュニケーション			担当者	荘林 幹太郎 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

地球環境問題の複雑性、相互関連性ならびに同問題に対する対策を検討する場合の総合的な視野の必要性についての理解を深めるとともにその過程を通じて、異分野間、異文化間のコミュニケーションの重要性を把握する。

〔授業の内容〕

本演習I, IIIにおいては、いくつかの地球環境問題について掘り下げた議論を行うこととする。基礎的な文献輪読、(場合によっては)東京近傍における現地調査、実際に問題解決に当たっている当事者からのヒアリング、クラスでのグループディスカッション等の多様な方法により議論を深めていくこととしたい。

本年は、環境政策についての国際的な制度比較を行うことにより、社会、経済、文化、自然がそれぞれの環境政策にどのような影響を与えているかを議論するとともに、政策の相互理解の取組みを分析することを想定している。

〔教材〕

教科書：追って指示する

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

毎回2～3時間程度の負荷で、次回で使用する資料のレジメ作成あるいは小レポートを課す。

〔成績評価の方法〕

出席状況および授業中の議論(20%)、小レポート(2～3回:30%)、期末レポート(50%)

〔備考〕

国際コミュニケーション演習Gの受講を将来希望する学生は、基礎演習G地球環境論I,IIのセット、環境科学I、あるいは環境経済学のいずれかを受講することが望ましい。

〔授業計画〕

- | | |
|------|-----------------|
| 第1週 | イントロダクション |
| 第2週 | 地球温暖化防止政策：日本 |
| 第3週 | 地球温暖化防止政策：EU |
| 第4週 | 地球温暖化防止政策：米国 |
| 第5週 | 水政策：日本 |
| 第6週 | 水政策：EU |
| 第7週 | 水政策：米国 |
| 第8週 | 水政策：豪州 |
| 第9週 | バイオマス政策：日本 |
| 第10週 | バイオマス政策：EU |
| 第11週 | バイオマス政策：米国 |
| 第12週 | 景観・生物多様性保全政策：日本 |
| 第13週 | 景観・生物多様性保全政策：EU |
| 第14週 | 景観・生物多様性保全政策：米国 |
| 第15週 | 総合討論 |

副題	現代欧米社会の人種・民族			担当者	武井 彩佳 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

現代の欧米社会で民族的・人種的マイノリティと多数派社会の間に存在する様々な問題の原因について知り、これからの展望について考える。

〔授業の内容〕

現代欧米社会におけるマジョリティ／マイノリティ関係を、人種・民族・移民・階級等をキーワードにして考える。現出している様々な問題が、いかなる歴史背景から生まれたものであるか理解する。3年生は指定されたテキストの個所をレジメにまとめ発表し、4年生は個別に卒業論文の添削指導を行う。

〔教材〕

テキストは配布するか、初回の授業で教科書を一斉購入する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定されたテキスト部分を読んでくる。

〔成績評価の方法〕

出席と報告等、総合的に評価

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 文献講読
- 第2週 〃
- 第3週 〃
- 第4週 〃
- 第5週 〃
- 第6週 文献講読 + 4年生卒論添削
- 第7週 〃
- 第8週 課外授業 + 4年生卒論添削
- 第9週 文献講読 + 4年生卒論添削
- 第10週 〃
- 第11週 〃
- 第12週 〃
- 第13週 〃
- 第14週 文献講読
- 第15週 予備日

副題	東アジア地域研究と歴史社会学			担当者	金野 純 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5

〔授業の到達目標〕

春学期は「日本」が中心的テーマだが、秋学期では中国、韓国などの東アジア地域の状況を理解することを目標とする。

〔授業の内容〕

演習では、学生各自の研究テーマを考慮しつつ数冊の研究書を選び、皆で講読する。参加者は、各自が担当する文献の内容について発表し、皆でディスカッションする。学生は報告に加えて司会も担当する。最終的には、各自が構想した研究計画を発表する。

リーディングアサインメントについては、事前にガイダンスをおこない指定する。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参加者は事前に指定される文献を熟読し、報告者はアウトラインを作成する必要がある。他に進行役の学生も、事前に文献を読み、適切な問題提起等を準備しておく必要がある。

〔成績評価の方法〕

出席を重視する。成績は、出席状況（30%）、報告内容（40%）、授業参加（10%）、レポート（20%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔備考〕

参加者の数や関心事によって授業計画が若干変更される可能性がある。

〔授業計画〕

第1週	ガイダンス
第2週	文献講読・発表・ディスカッション
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	研究計画発表
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

副題	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究			担当者	羅 京洙 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5

〔授業の到達目標〕

東アジアの地域統合に関する議論が盛んに行われている現在、南北 코리아 がいかにして「地域の一員」として関わっていくのか、大きな関心が寄せられている。本演習は、東アジアの中の朝鮮半島を、「地域性」という新しい観点から捉えなおすことを目標とする。

〔授業の内容〕

東アジア地域研究にまつわる理論・ディシプリンの紹介や、朝鮮半島をとりまく様々な問題群を検討の対象とし、東アジアの中の朝鮮半島を総合的に理解する。さらに本演習では、朝鮮半島を含む東アジアの国・地域に内在する類似性と相違性を、比較の観点から複眼的かつ客観的にとらえる高度な能力を身につける。とりわけ、担当教員の専門分野である東アジアにおける人々（特にコリアン）と文化のトランスナショナルな移動現象について一緒に学ぶ。グローバル化が進む中、東アジアでは、人々の国境を越えるトランスナショナルな移動と交流が活発に行われている。その人々の移動の際には、文化の移動も伴われ、互いの持つ文化への理解が強く求められている。

〔教材〕

特定の教科書は用いないが、指定文献については演習時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定文献や参考資料をあらかじめ読んだ上で、毎回の演習に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

演習への出席率・貢献度（30%）、研究報告（30%）、課題・レポート（40%）で評価する。

〔備考〕

本演習は、受講生の積極的な研究発表と討論を両軸に進める。主な活動として、（1）関連文献の輪読とディスカッション、（2）学生によるプレゼンテーション、（3）レポートや卒論の執筆活動などを行う。また、第一線の東アジア・朝鮮半島専門家との交流や、（学生主体・自由参加の形で）韓国へのフィールドワークの機会を設けることも計画している。なお、演習の内容について質問などがある場合は、金曜日のオフィス・アワー（14：00～17：00）に研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-----------------|
| 第1週 | イントロダクション |
| 第2週 | 文献講読と討論（1） |
| 第3週 | 文献講読と討論（2） |
| 第4週 | 文献講読と討論（3） |
| 第5週 | 文献講読と討論（4） |
| 第6週 | プレゼンテーションと討論（1） |
| 第7週 | プレゼンテーションと討論（2） |
| 第8週 | プレゼンテーションと討論（3） |
| 第9週 | プレゼンテーションと討論（4） |
| 第10週 | プレゼンテーションと討論（5） |
| 第11週 | プレゼンテーションと討論（6） |
| 第12週 | プレゼンテーションと討論（7） |
| 第13週 | プレゼンテーションと討論（8） |
| 第14週 | プレゼンテーションと討論（9） |
| 第15週 | 総合討論・総括 |

副 題	ルネサンス文化の展開—思想の様態			担 当 者	根占 献一 教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月	時 限	4
<p>〔授業の到達目標〕 ルネサンス思想の多様性を知り、これを現代に生かすことを学ぶ</p> <p>〔授業の内容〕 春学期の内容を深めることを目指す。ルネサンス時代を視座におき、ヨーロッパ文化理解を深めるために、関連テキストの精読に努めたい。 4年生は卒論に向けた各自のテーマを絞っていくために口頭発表などを行うこととする。</p> <p>〔教材〕 外国語テキスト（こちらで準備する）。</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 各一時間半前後</p> <p>〔成績評価の方法〕 春学期に同じ。</p> <p>〔備考〕 春学期に同じで、ビデオなど視覚教材を多用する。</p>							

〔授 業 計 画〕

第1週	春学期の確認
第2週	テキスト購読と発表（ビデオなど）
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	本演習の総括

副題	国際法と国内法の基本問題			担当者	櫻井 大三 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4

〔授業の到達目標〕

国際社会または国内社会において現実に生じている問題を国際法・国内法の観点から検討し、卒業論文の作成に必要な調査、分析、報告を行うこと。他の受講生との議論を通じて、研究の知見や作法を共有すること。

〔授業の内容〕

本演習は、現代社会において生起するさまざまな問題を国際法および国内法双方の観点から読み解くことを第一の目的としている。分かりやすく言うと、諸君が国際法や国内法の諸問題に幅広く接する中で、素朴に感じた疑問を出発点とし（自ら問いを立てる）、その疑問を自ら解き明かすために調査を行い（自ら問いの検証・論証にあたる）、その調査結果を一定の形にまとめる（問いに対する結論を導く）のが、本演習の目的である。

受講生は、国際法や国内法に関する文献（外国語を含む）・資料（法律や条約の条文、国連など国際機構の決議、ICJなどの司法機関が下す判決等）を幅広く読み込むだけでなく、日々、新聞の社会面・国際面に目を通し、世の中の動きを把握することが求められる。したがって、『六法』や『条約集』といった法令集が必携となるし、法律の用語辞典も不可欠である。また、新聞をとっていない者は、図書館等で毎日閲覧することが求められる。法律の勉強というのは、基本的には文献考証（文献解析というべきか）のスタイルをとるから、本演習での勉強を通じて、諸君は膨大な分量の文書・文章に接することとなるであろう。その中から、自身が抱いた疑問に対する答えを自ら発掘し、それを卒業論文という形で文章化（作品化）することが、本演習の最終目標となる。

〔教材〕

参考書：佐藤望 [他] 『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』第2版、慶應義塾大学出版会、2012年
鹿島茂 『勝つための論文の書き方』（文春新書）文藝春秋、2003年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

1. 予習120分：プレレジメ記載の複数の参考文献に当たりながら、疑問点を質問できるように準備しておくこと（報告者は、別途指示された要領により報告原稿、レジメを準備すること）。
2. 復習120分：報告者は、討論時に提起された疑問点やコメントを踏まえて、報告原稿を加筆修正すること。当該報告原稿が卒論の柱を構成するものとなるよう推敲を重ねること。

〔成績評価の方法〕

以下の諸点を総合的に評価する。

- (1) 演習への参加態度（毎回の出席、所定の報告、討論への参加、課外活動への参加等）
- (2) レポート等の提出物（提出の有無、期日の遵守、内容の実質的な完成度等）
- (3) その他、ゼミの募集要項に記した条件を満たし且つ遵守していること。

〔備考〕

本演習への参加の前提として、受講生には以下の諸点が求められる。

- (1) 『アカデミック・スキルズ』および『勝つための論文の書き方』を読了し且つその内容を十分理解していること。
- (2) ゼミ開講時まで、別に指示する課題図書を読了していること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 使用教材の概要説明、演習の受け方・心得等
- 第3週 受講生による個別報告（1）
- 第4週 受講生による個別報告（2）
- 第5週 受講生による個別報告（3）
- 第6週 受講生による個別報告（4）
- 第7週 受講生による個別報告（5）
- 第8週 受講生による個別報告（6）
- 第9週 受講生による個別報告（7）
- 第10週 受講生による個別報告（8）
- 第11週 受講生による個別報告（9）
- 第12週 受講生による個別報告（10）
- 第13週 受講生による個別報告（11）
- 第14週 受講生による個別報告（12）
- 第15週 受講生による個別報告（13）

副 題	比較生活文化研究			担 当 者	乾 尚彦 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	水	時 限	5

〔授業の到達目標〕

文化をフィールドワークによって調べるための基礎を習得する。

〔授業の内容〕

春学期に続いて、フィールドワークの具体的な事例を個別にとりあげ、実際の技術について学んでいく。その上で、実際のフィールドワークを実施（演習の時間外に数日かけて行う）、文化を記録する方法について考える。また、翌年度の卒業論文への導入として、4000字程度の小論文を作製し、論文の書き方について学ぶ。

春学期同様、毎回、世界各地の建築、世界遺産を数例とりあげ、建築についての認識を深めていく。

〔教材〕

演習中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

建築ガイドシートの作成または報告のためのレジュメ作成。

〔成績評価の方法〕

レポート、出席、発表の内容による。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1週 | フィールドワークの方法論 |
| 第2週 | フィールドワークの準備と計画1 |
| 第3週 | フィールドワークの準備と計画2 |
| 第4週 | 論文の書き方 |
| 第5週 | 先行研究の把握1 |
| 第6週 | 先行研究の把握2 |
| 第7週 | 先行研究の把握3 |
| 第8週 | 小論文を書く1 |
| 第9週 | 小論文を書く2 |
| 第10週 | 小論文を書く3 |
| 第11週 | 小論文を書く4 |
| 第12週 | 小論文を書く5 |
| 第13週 | 小論文を書く6 |
| 第14週 | 論文発表会1（パワーポイント、キーノートなどによる） |
| 第15週 | 論文発表会2（パワーポイント、キーノートなどによる） |

副題	English and Its Culture II			担当者	古庄 信 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5

〔授業の到達目標〕

3年生はゼミにおける最後の学びの時間として、卒論作成に必要となる論文・参考文献の読み方を訓練する。また4年生は、卒論作成にむけて綿密な計画を立て、個別指導により卒論完成を目指す。

〔授業の内容〕

春学期に続いて英国文化と英語史の流れを、テキストをとおして概観しつつ、歴史の各節目における英国および英語の特徴・問題点を把握することを秋学期の主な目標とする。また英語という言葉に代表される英国の諸文化と言葉の結びつきについても考察したい。ルネサンス以降、英語は、新世界の発見・植民地化にともない飛躍的な発展を見ることになる。そして二つの大きな世界戦争（特に第二次世界大戦）をとおして世界の共通語としての地位を獲得するに至っていく。そのプロセスにおける英語という言葉の特色とは何か？その秘密に触れ、問題点を英語学的観点から究明しつつ、各自のテーマを発見し、これを4年次の卒業論文・卒業研究へと展開していくのがこの演習のねらいである。具体的には、Shakespeareや聖書の現代英語における影響、また近代における「様々な英語」の発達史を、テキストをとおして概観する。さらに卒業論文・卒業研究に必要となるであろうその他の研究論文・参考資料等にもあたり、その読み方等も訓練する。

〔教材〕

教材としては、テキストのほかにCD・映画のビデオなど視聴覚教材もふんだんに用いる。参考書については大学図書館、個人研究室にあるものを随時指定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業における発表箇所は発表者だけでなく履修者全員が念入りに調べておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席(10%)、レポート(10%)、プレゼンテーション(10%)、関連する授業（外国語演習、英語学概論、イギリス文化論など）及び学期末試験(70%)

〔備考〕

4年生は別に設ける時間帯において卒論指導を行う。毎週指定された卒論指導を受けなかった場合、また指導に従わない場合には卒論の評価を行わないので十分に注意すること。

〔授 業 計 画〕

第1週	英国と英語文化について／テキスト講読および発表
第2週	〃
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

副題	ヨーロッパ・アジア・アフリカの比較交流史			担当者	工藤 晶人 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

私たちは、ヨーロッパ、アジア、アフリカといった地域のまとまりで世界をとらえ、それぞれの地域の文化について単純なイメージを抱きがちです。このゼミでは、そうしたイメージの裏側にある多様さを発見するために、さまざまな地域を比較しながら交流の歴史を学んでいきます。担当教員が専門とする地域はフランスとマグリブですが、そのほかの地域（ヨーロッパ、中東、アフリカ）についても広く関心を持つ学生を歓迎します。

〔授業の内容〕

ヨーロッパと中東・アフリカ地域の歴史、言語、文化、宗教に関する文献購読とディスカッションを行う。並行して卒業論文作成にむけて各自の研究計画を発表する。

〔教材〕

購読する文献については授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読または発表準備

〔成績評価の方法〕

出席状況、報告とレポートの内容、授業参加の積極性を総合的に評価する。

〔備考〕

授業内容についての質問等は、オフィスアワーに研究室で受け付ける。

〔授業計画〕

第1週	オリエンテーションと自己紹介
第2週	文献講読・発表・ディスカッション
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題	国際開発協力			担当者	伊藤 由紀子 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

自分の問題意識に基づき卒業論文執筆の準備、発表をする

〔授業の内容〕

【国際コミュニケーション演習 II Q】

国際コミュニケーション演習Iでは国際援助・協力活動に実際に参加した。その現場体験をふまえ、それらの活動が意味することを考察する。また、現場で認識された問題などの解決法をさぐるためのグループディスカッションなどを行う。前半は、参加した活動内容を基盤に、研究テーマを選択し、個別のテーマに関連する分野の文献を広範に読み、レポートする。後半は、研究テーマを発表する。

【国際コミュニケーション演習 IV Q】

国際コミュニケーション演習I, II, IIIでは国際援助・協力・ボランティア活動に主体的に携わり考察してきた。参加した活動とそれを元に行った研究から提起された国際援助・協力・ボランティア活動に関わる諸問題を取り上げる。問題が発生する背景がどのようなものか、そしてその問題解決につながる方策を考察・分析しながら卒業論文を完成させる。

〔教材〕

演習時に指定。プリント使用。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回ごとに次回授業のための課題が出ます。課題には3～4時間費やすことを予定してください。

〔成績評価の方法〕

授業の出欠席 10%，レポート 40%，発表 40%，授業への参加（発言等）10%。

〔備考〕

第1回授業は欠席しないようにしてください。万が一欠席した場合、必ず「次週の授業日前」に配布資料を取りにきて、授業内容については他の受講生に確認してください。

〔授業計画〕

第1週	INTRODUCTION
第2週	テーマ発表，ディスカッション
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

初回授業で発表等の順番を決めます。

副題	グローバル化の実態（その2）			担当者	佐久間 潮 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

各種資料および参考文献からグローバル化の実態を把握し、かつ実際にグローバル化に伴って文化摩擦の生じている地域に向き、その実態を調査し、自らその解決方法を考え出すこと。

〔授業の内容〕

グローバル化とは、簡単に言えば、財、サービス、資金、人、情報、が世界中を活発に往き来するようになることである。私達のまわりを少し見回しただけでも、私達がグローバル化した社会に生活していることは、すぐに分かるであろう。

人々はヨーロッパの有名ブランド品を使ったり、アジアの諸国で生産された電気製品やドイツで生産された自動車を購入したりするだけでなく、アメリカの映画を鑑賞し、連休には海外旅行を楽しんだりする。また、日本で働くために外国から来ている人々もたくさんいる。さらに、日本の預金金利が低いので外国の銀行に預金する人もいる。テレビでは衛星放送を通じてアメリカのCNNやイギリスのBBCのニュースだけでなく、外国の様々な番組を視聴することができる。また、インターネットを通じてさまざまな情報が世界を駆け巡る。

このようなグローバル化は私達の生活にどのような影響を及ぼしているのだろうか。また、将来どのような展開が待っているのだろうか。この問題について考えるために、テキストを輪読するだけでなく、さまざまな資料を使った調査、発表、さらにはディスカッションとレクチャーを行なう。

この授業は、演習Ⅰ・Ⅲで学習したことをさらに掘り下げるものである。

〔教材〕

輪読する資料を授業時に適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

4時間

〔成績評価の方法〕

出席状況（10%）、発表（50%）、レポート（40%）で総合評価

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 世界の財貿易の現状（1）
- 第2週 世界の財貿易の現状（2）
- 第3週 世界の財貿易の現状（3）
- 第4週 世界の財貿易の現状（4）
- 第5週 世界のサービス貿易の現状（1）
- 第6週 世界のサービス貿易の現状（2）
- 第7週 世界の資金移動の現状（1）
- 第8週 世界の資金移動の現状（2）
- 第9週 国境を越えた人々の移動（1）
- 第10週 国境を越えた人々の移動（2）
- 第11週 人々の国際移動と文化摩擦（1）
- 第12週 人々の国際移動と文化摩擦（2）
- 第13週 人々の国際移動と文化摩擦（3）
- 第14週 人々の国際移動と文化摩擦（4）
- 第15週 人々の国際移動と文化摩擦（5）

副題	1. 食物教育と味覚教育 2. 環境教育 3. 科学教育			担当者	品川 明 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

1. 体験学習法と教えない教育について十分に認識し、それらを実践するファシリテーション能力がある。
2. 問題点やその解決方法を見出すために必要な情報収集能力がある。
3. 独創的なアクティビティを作る能力があることとそれらを改善する能力がある。
4. 体験学習法や教えないファシリテーション方法を他者に指導することができる。
5. 実践した成果を報告書としてまとめる能力がある。

〔授業の内容〕

1. 食物教育と味覚教育（食コミュニケーション）：食物とは何か？おいしさとは何か？食物の持つ価値を考え、食物の役割を探究し、人と食物の関係や繋がりを追究することを目的とする。身近な食材や伝統食品などについて、歴史的背景やその価値を文献やフィールドワークにより調査し、食材や料理の味覚やおいしさについても官能検査や成分分析により詳細に調べ、おいしさや地域の食文化の特性について議論できるとともに調査した食材、食品、料理などについて広報できる能力を養うことを目的とする。
2. 環境教育と体験学習（環境コミュニケーション）：自分を知り、コミュニケーション能力を養い、地球の自然とその保全を考えるプログラムの実践と環境教育プログラム（プロジェクト・ワイルドなど）の指導体験を通し、実際のファシリテーション能力を高めていくことを目的とする。指導者養成講座への参加、基礎演習での指導体験、各地の体験プログラムへ積極的に参加するなど多様な体験を重視する。その後、発展的・独創的な環境教育プログラムを開発・実践・評価し、実践の場での活用の可能性を探る。
3. 科学教育と体験学習（科学コミュニケーション）：小学校の理科の単元やアメリカで生まれたGEMS, MARE, FOSSなどの教材の指導体験を通し、教えない教育を実践するとともに実際のファシリテーション能力を高めることを目的とする。実際の教科書を批判的に捉え、改善提案ができる能力を養う。

〔教材〕

ゼミ選択した学生は、プロジェクト・ワイルドなどの指導者養成講習会に参加すること。講習会では環境教育一般指導者の資格を取得できる。講習会費用は無料であるがテキスト代として5000円（プロジェクト・ワイルド）の費用がかかる。講習会参加テキストと卒論テーマが密接に関連しているので、講習会にはできるだけ2年次から3年次春学期までに参加すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

文献調査、試作、振り返りを含め、4時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

1. ゼミではプログラム実践を通した経験を重視する。振り返りに参加しファシリテーションの改善やプログラムの修正などを議論する。そのため、出席状況や積極的に議論展開する授業への貢献度を重視する。(40%)
2. 積極的課外授業への参加を通し、アクティビティの実践経験を重視する。教育法の比較やアンケートを実施し、論理的に自らのアクティビティを評価することができる。(40%)
3. 積極的な文献収集とその読解を通し、適切な報告書を作成することができる。(20%)

〔備考〕

学習院女子大学主催の環境教育講習会または味覚教育講習会にできるだけ参加すること。必要な時期にゼミ旅行を実施する（2泊から3泊：場所は青森を予定）。また、食コミュニケーション班の学生は、ゼミ旅行以外にフィールドワークのための現地調査を予定している。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス 食コミュニケーション、環境コミュニケーション、科学コミュニケーションとは何か？ 卒論作成指導、文献検索方法、ラーニングサイクル、振り返り方法について
第2週	文献調査法 卒業論文の仮テーマの作成など
第3週	ファシリテーション体験1（ファシリテーションとは？） 食物、環境、科学研究およびその調査1
第4週	ファシリテーション体験2（ラーニングサイクルとは？） 食物、環境、科学研究およびその調査2
第5週	ファシリテーション体験3（振り返りとは？） 食物、環境、科学研究およびその調査3
第6週	アンケート作成とその評価方法
第7週	感覚・味覚教育プログラム、環境教育プログラム、科学教育プログラムの体験
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	環境教育プログラム、食物教育・味覚教育プログラムあるいは科学教育プログラムの作成
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

副題	言語学・日本語教育 I			担当者	佐藤 琢三 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

3年生に関しては、具体的な問題に着眼し試験的に小規模な調査等を実施する。また、卒業論文作成をみすえて、中間論文を執筆する。4年生に関しては、卒業論文の完成を目指し、研究の総仕上げを行う。

〔授業の内容〕

現代日本語を中心としつつ、他言語との対照、関連領域の諸問題も含めて幅広く研究する。より具体的には、次のような分野を扱うことになるだろう。

文法、意味、アクセント、語彙、語用論、文章・談話、会話分析、言語行動、敬語・待遇表現、方言、男女差、誤用分析、諸外国語との対照、日本語教育など

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2時間程度。ただし、発表とレポートの準備には相当の時間を必要とするであろう。

〔成績評価の方法〕

レポートにより評価する。ただし、正当な理由なき遅刻と欠席は減点の対象となる。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 4年生による卒論発表
- 第2週 〃
- 第3週 〃
- 第4週 〃
- 第5週 〃
- 第6週 〃
- 第7週 〃
- 第8週 〃
- 第9週 3年生による中間論文に向けた発表
- 第10週 〃
- 第11週 〃
- 第12週 〃
- 第13週 〃
- 第14週 〃
- 第15週 〃

授業計画は変更する場合がある。

副題	言語研究の可能性			担当者	福島 直恭 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

さまざまな言語研究について理解し、その中から卒業論文のテーマを決定する

〔授業の内容〕

ひとくちに言語研究といっても、研究対象である言語をどのような視点から、どのような存在としてみるのかによって、さまざまな内容の研究がある。まず、言語研究の分野としてどのようなものがあるのかを知り、次にその中から、自分個人の研究としてどういう分野の言語研究を行っていくのかを決定する必要がある。この演習ではそのために必要な知識や技術の習得をめざす。また、秋学期のはじめに、4年次学生の卒業論文の中間発表を行い、卒業論文執筆の準備を整える。

〔教材〕

テキストとして事前に指定する文献は特にないが、必要に応じて授業内で紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表時は、準備のための時間が10時間以上必要。発表時以外は1～2時間程度の予習（あらかじめ指定された文献を読んでおく）が必要。

〔成績評価の方法〕

発表担当の際の発表内容、発表方法（80%）討論への参加の積極性（20%）。
また、最低でも開講時数の2／3以上の出席が必要。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 卒業論文執筆の注意事項
- 第2週 卒業論文中間発表1
- 第3週 卒業論文中間発表2
- 第4週 卒業論文中間発表3
- 第5週 卒業論文中間発表4
- 第6週 さまざまな言語研究1
- 第7週 さまざまな言語研究2
- 第8週 共時態に関する研究
- 第9週 過去の言語に関する研究
- 第10週 卒業論文着想発表1
- 第11週 卒業論文着想発表2
- 第12週 卒業論文着想発表3
- 第13週 卒業論文着想発表4
- 第14週 卒業論文着想発表5
- 第15週 まとめ

副 題	情報システム			担 当 者	江藤 正己 専任講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	水	時 限	4

〔授業の到達目標〕

3年生

- ・ 情報システムの特長や問題点を深く理解する
- ・ 4年次に卒業論文・研究として取り組む「リサーチクエッション」を見つける

4年生

- ・ 卒業論文・研究に関する調査の結果を整理・考察し、成果を文章の形でまとめる

〔授業の内容〕

私たちの身の回りには、TwitterやLINE, FacebookなどのSNSをはじめ、Wikipedia, Google, YouTube, Instagramなど多くの情報システムが存在します。スマートフォンの普及に伴い、ユーザー数が一国の人口よりも多い情報システムも珍しくなくなり、情報システムの動向が世界中に大きく影響を与えるようになってきました。本演習では、人間の知的活動に関わる文系的な側面から、広い意味での「情報システム」を研究します。

3年生(秋学期)は、情報システムをつくる過程を一通り体験します。具体的には、グループ単位で、小規模な簡易情報システムをソフトウェアやウェブサービス等を用いて構築します。その後、アンケート調査やインタビュー調査等によって評価をおこない、つくったシステムの問題点や情報システムの意義について考えます。4年生は、年間を通じて、卒業論文・研究の進捗状況について報告をおこないます。

〔教材〕

参考書：酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』共立出版、2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

必要に応じて個別面談等をおこないながら、卒業論文・研究（またはそれに準ずる内容）を進めること。

〔成績評価の方法〕

平常点(50%), 課題(50%)

ただし、授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔備考〕

本演習の卒業論文・研究では、「システムをつくる」ことを選択した場合でも、「システムをつくらない」場合とほぼ同じ量（枚数）の論文作成が課されます。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 情報システムの設計（1）
- 第3週 情報システムの設計（2）
- 第4週 情報システムの設計（3）
- 第5週 情報システムの構築（1）
- 第6週 情報システムの構築（2）
- 第7週 情報システムの中間評価
- 第8週 情報システムの構築（3）
- 第9週 情報システムの構築（4）
- 第10週 情報システムの構築（5）
- 第11週 情報システムの最終評価（1）
- 第12週 情報システムの最終評価（2）
- 第13週 期末発表
- 第14週 〃
- 第15週 まとめ

卒業研究（春）

3621091100200

副 題				担 当 者	古 庄 信 教 授	
単 位	8	開 講 期 間	春学期集中	曜 日		時 限

〔授業の到達目標〕

所属する各ゼミ担当者の指導に従い、各自のテーマに沿った卒業研究を作成すること。

〔授業の内容〕

所属する各ゼミ担当者により内容は異なる。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

所属する各ゼミにより、準備学習またはそれに必要な時間は異なる。シラバス、ガイダンスおよび毎回の指導に従って行うこと。

〔成績評価の方法〕

所属する各ゼミ担当者により成績評価の方法は異なるので、シラバスおよびガイダンスにおいて確認すること。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

所属する各ゼミにより異なる。各ゼミのシラバスを参照のこと。

卒業研究（秋）

3621091100100

副 題				担 当 者	古 庄 信 教 授	
単 位	8	開 講 期 間	秋学期集中	曜 日		時 限
<p>〔授業の到達目標〕 所属する各ゼミ担当者の指導に従い、各自のテーマに沿った卒業研究を作成すること。</p> <p>〔授業の内容〕 所属する各ゼミ担当者により内容は異なる。</p> <p>〔教材〕</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 所属する各ゼミにより、準備学習またはそれに必要な時間は異なる。シラバス、ガイダンスおよび毎回の指導に従って行うこと。</p> <p>〔成績評価の方法〕 所属する各ゼミ担当者により成績評価の方法は異なるので、シラバスおよびガイダンスにおいて確認すること。</p> <p>〔備考〕</p>						

〔授 業 計 画〕

所属する各ゼミにより異なる。各ゼミのシラバスを参照のこと。

卒業論文（春）

3621091200200

副 題				担 当 者	古 庄 信 教授	
単 位	8	開 講 期 間	春学期集中	曜 日		時 限
<p>〔授業の到達目標〕 所属する各ゼミ担当者の指導に従い、各自のテーマに沿った卒業論文を作成すること。</p> <p>〔授業の内容〕 所属する各ゼミ担当者により内容は異なる。</p> <p>〔教材〕</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 所属する各ゼミにより、準備学習またはそれに必要な時間は異なる。シラバス、ガイダンスおよび毎回の指導に従って行うこと。</p> <p>〔成績評価の方法〕 所属する各ゼミ担当者により成績評価の方法は異なるので、シラバスおよびガイダンスにおいて確認すること。</p> <p>〔備考〕</p>						

〔授 業 計 画〕

<p>所属する各ゼミにより異なる。各ゼミのシラバスを参照のこと。</p>

卒業論文（秋）

3621091200100

副 題				担 当 者	古 庄 信 教 授	
単 位	8	開 講 期 間	秋学期集中	曜 日		時 限
<p>〔授業の到達目標〕 所属する各ゼミ担当者の指導に従い、各自のテーマに沿った卒業論文を作成すること。</p> <p>〔授業の内容〕 所属する各ゼミ担当者により内容は異なる。</p> <p>〔教材〕</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 所属する各ゼミにより、準備学習またはそれに必要な時間は異なる。シラバス、ガイダンスおよび毎回の指導に従って行うこと。</p> <p>〔成績評価の方法〕 所属する各ゼミ担当者により成績評価の方法は異なるので、シラバスおよびガイダンスにおいて確認すること。</p> <p>〔備考〕</p>						

〔授 業 計 画〕

所属する各ゼミにより異なる。各ゼミのシラバスを参照のこと。

英語コミュニケーション学科

平成 27 年度授業科目および担当者

講 義 内 容 (シラバス)

英語コミュニケーション学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁	
英語コミュニケーション基礎演習科目群	英語コミュニケーション基礎演習ⅠA	アメリカ文化論（移民）	1	春	2	岩崎 光洋	405	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅠB	Cross-cultural Communication	1	春	2	G. R. ファリア	406	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅠC	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	1	春	2	J. F. モア	407	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅠD	「国際共通語」としての英語	1	春	2	高橋 礼子	408	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅠE	ビジネス英語	1	春	2	C. ウィン	409	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅠF	英語学習法	1	春	2	萱 忠義	410	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡA	アメリカ文化論（移民）	1	秋	2	岩崎 光洋	411	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡB	Cross-cultural Communication	1	秋	2	G. R. ファリア	412	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡC	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	1	秋	2	J. F. モア	413	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡD	「国際共通語」としての英語	1	秋	2	高橋 礼子	414	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡE	ビジネス英語	1	秋	2	C. ウィン	415	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡF	英語学習法	1	秋	2	萱 忠義	416	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢA	アメリカ文化論（移民）	2	春	2	岩崎 光洋	405	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢB	Cross-cultural Communication	2	春	2	G. R. ファリア	406	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢC	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	2	春	2	J. F. モア	407	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢD	「国際共通語」としての英語	2	春	2	高橋 礼子	408	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢE	ビジネス英語	2	春	2	C. ウィン	409	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢF	英語学習法	2	春	2	萱 忠義	410	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣA	アメリカ文化論（移民）	2	秋	2	岩崎 光洋	411	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣB	Cross-cultural Communication	2	秋	2	G. R. ファリア	412	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣC	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	2	秋	2	J. F. モア	413	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣD	「国際共通語」としての英語	2	秋	2	高橋 礼子	414	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣE	ビジネス英語	2	秋	2	C. ウィン	415	
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣF	英語学習法	2	秋	2	萱 忠義	416	
	海外研修A	Studying at the University of Lethbridge	2	集中	18	萱 忠義	417	
	海外研修B	Studying at the University of Lethbridge	2	集中	18	萱 忠義	418	
	英語演習基礎科目群	TOEIC Basics A	TOEIC対策（700点未満対象）	1	春	2	C. ウィン	419
		TOEIC Basics B	TOEIC対策（700点未満対象）	1	春	2	C. ウィン	420
TOEIC Basics C		TOEIC対策（700点未満対象）	1	春	2	ウィルキンソンヤエコ	421	
TOEIC Skills A		TOEIC対策（750点未満対象）	1	秋	2	C. ウィン	422	
TOEIC Skills B		TOEIC対策（750点未満対象）	1	秋	2	C. ウィン	423	
TOEIC Skills C		TOEIC対策（750点未満対象）	1	秋	2	ウィルキンソンヤエコ	424	
Paragraph Writing A		Grammar-based Writing	1	春	2	萱 忠義	425	
Paragraph Writing B			1	春	2	J. F. モア	426	
Paragraph Writing C		パラグラフの書き方	1	春	2	高橋 礼子	427	
Writing Practice A		Grammar-based Writing	1	春	2	萱 忠義	428	
Writing Practice B		1	春	2	J. F. モア	429		

英語コミュニケーション学科

英語コミュニケーション学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副 題	配当年次	学期	単位	担 当 者	頁
英語コミュニケーション基礎科目群	Writing Practice C	パラグラフを書く	1	春	2	高橋 礼子	430
	Essay Writing A	Grammar-based Writing	1	秋	2	萱 忠義	431
	Essay Writing B		1	秋	2	J. F. モア	432
	Essay Writing C	エッセイの書き方	1	秋	2	高橋 礼子	433
	Writing Skills A	Grammar-based Writing	1	秋	2	萱 忠義	434
	Writing Skills B		1	秋	2	J. F. モア	435
	Writing Skills C	エッセイを書く	1	秋	2	高橋 礼子	436
	Academic Writing A		2	春	2	J. F. モア	437
	Academic Writing B	Supporting Your Ideas with Sources	2	秋	2	J. F. モア	438
	Presentations A		2	春	2	J. テスター	439
	Presentations B		2	秋	2	J. テスター	440
	Listening Practice A	TOEIC・時事英語のリスニング	2	春	2	C. ウィン	441
	Listening Practice B	TOEIC・時事英語のリスニング	2	秋	2	C. ウィン	442
	Listening Skills A	TOEIC・時事英語のリスニング	2	春	2	C. ウィン	443
	Listening Skills B	TOEIC・時事英語のリスニング	2	秋	2	C. ウィン	444
	Discussing Global Issues A		2	春	2	G. デイオリオ	445
	Discussing Global Issues B		2	秋	2	G. デイオリオ	446
	Discussing Business Issues A		2	春	2	T. スコット	447
	Discussing Business Issues B		2	秋	2	T. スコット	448
	英語演習専門科目群	Debate A	Effective Arguments	3	春	2	C. トロイ
Debate B		Effective Arguments	3	秋	2	C. トロイ	450
Business Presentations A			3	春	2	伊藤 直美	451
Business Presentations B			3	秋	2	伊藤 直美	452
Business Writing A			3	春	2	T. スコット	453
Business Writing B			3	秋	2	T. スコット	454
Discussing Current Issues A			3	春	2	C. L. イヤリー	455
Discussing Current Issues B			3	秋	2	C. L. イヤリー	456
Newspaper English A			3	春	2	J. テスター	457
Newspaper English B			3	秋	2	J. テスター	458
In-Depth News Listening A		ニュースとビジネス英語のリスニング	3	春	2	C. ウィン	459
In-Depth News Listening B		ニュースとビジネス英語のリスニング	3	秋	2	C. ウィン	460
英語コミュニケーション演習科目群	国際コミュニケーション特殊演習Ⅰ	Japanese Society as Seen by a Westerner	3	春	2	G. R. ファリア	461
	国際コミュニケーション特殊演習Ⅱ	Japanese Culture as Seen by Japanese	3	秋	2	G. R. ファリア	462
	※映像文化特殊演習Ⅰ	聖書と映画	3	春	2	岩崎 光洋	463
	映像文化特殊演習Ⅱ	アカデミー賞作品とアメリカ文化	3	秋	2	岩崎 光洋	464
	日本文化発信英語特殊演習Ⅰ	Outside the Mainstream	3	春	2	J. F. モア	465
	日本文化発信英語特殊演習Ⅱ	Outside the Mainstream	3	秋	2	J. F. モア	466

英語コミュニケーション学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副 題	配当年次	学期	単位	担 当 者	頁
英語コミュニケーション専門演習科目群	ビジネスコミュニケーション特殊演習Ⅰ	Discussing Business Topics	3	春	2	C. ウィン	467
	ビジネスコミュニケーション特殊演習Ⅱ	Discussing Business Topics	3	秋	2	C. ウィン	468
	第二言語習得特殊演習Ⅰ	第二言語の学習	3	春	2	萱 忠義	469
	第二言語習得特殊演習Ⅱ	第二言語の教授法	3	秋	2	萱 忠義	470
	World Englishes 特殊演習Ⅰ	世界の多様な英語	3	春	2	高橋 礼子	471
	World Englishes 特殊演習Ⅱ	世界の多様な英語	3	秋	2	高橋 礼子	472
	英語コミュニケーション演習ⅠA	卒業論文作成 Ⅰ	3	春	2	岩崎 光洋	473
	英語コミュニケーション演習ⅠB	Intercultural Communication	3	春	2	G. R. ファリア	474
	英語コミュニケーション演習ⅠC	Discussing Japan	3	春	2	J. F. モア	475
	英語コミュニケーション演習ⅠD	「国際共通語」としての英語と世界の英語	3	春	2	高橋 礼子	476
	英語コミュニケーション演習ⅠE	ビジネス英語	3	春	2	C. ウィン	477
	英語コミュニケーション演習ⅠF	応用言語学：英語学習法・教授法	3	春	2	萱 忠義	478
	英語コミュニケーション演習ⅡA	卒業論文 Ⅰ	3	秋	2	岩崎 光洋	479
	英語コミュニケーション演習ⅡB	Intercultural Communication	3	秋	2	G. R. ファリア	480
	英語コミュニケーション演習ⅡC	Discussing Japan	3	秋	2	J. F. モア	481
	英語コミュニケーション演習ⅡD	「国際共通語」としての英語と世界の英語	3	秋	2	高橋 礼子	482
	英語コミュニケーション演習ⅡE	ビジネス英語	3	秋	2	C. ウィン	483
	英語コミュニケーション演習ⅡF	応用言語学：英語学習法・教授法	3	秋	2	萱 忠義	484
	英語コミュニケーション演習ⅢA	卒業論文作成 Ⅰ	4	春	2	岩崎 光洋	473
	英語コミュニケーション演習ⅢB	Intercultural Communication	4	春	2	G. R. ファリア	474
	英語コミュニケーション演習ⅢC	Discussing Japan	4	春	2	J. F. モア	475
	英語コミュニケーション演習ⅢD	「国際共通語」としての英語と世界の英語	4	春	2	高橋 礼子	476
	英語コミュニケーション演習ⅢE	ビジネス英語	4	春	2	C. ウィン	477
	英語コミュニケーション演習ⅢF	応用言語学：英語学習法・教授法	4	春	2	萱 忠義	478
	英語コミュニケーション演習ⅣA	卒業論文 Ⅰ	4	秋	2	岩崎 光洋	479
	英語コミュニケーション演習ⅣB	Intercultural Communication	4	秋	2	G. R. ファリア	480
	英語コミュニケーション演習ⅣC	Discussing Japan	4	秋	2	J. F. モア	481
	英語コミュニケーション演習ⅣD	「国際共通語」としての英語と世界の英語	4	秋	2	高橋 礼子	482
	英語コミュニケーション演習ⅣE	ビジネス英語	4	秋	2	C. ウィン	483
	英語コミュニケーション演習ⅣF	応用言語学：英語学習法・教授法	4	秋	2	萱 忠義	484
卒業論文研究	卒業研究（春）	（英語コミュニケーション学科）	4	春集中	8	J. F. モア	485
	卒業研究（秋）	（英語コミュニケーション学科）	4	秋集中	8	J. F. モア	486
	卒業論文（春）	（英語コミュニケーション学科）	4	春集中	8	J. F. モア	487
	卒業論文（秋）	（英語コミュニケーション学科）	4	秋集中	8	J. F. モア	488
学科・国際関係基礎科目群	経営学Ⅰ	経営学の基礎を学び、キャリア形成について考える	1～	秋	2	金城 亜紀	225
	※マーケティングⅠ	消費財マーケティングの基礎理論	2～	春	2	田島 博和	226
	地域研究基礎論Ⅰ（第三世界）	中・東欧研究概論（Ⅰ）	1～	春	2	中島 崇文	227

英語コミュニケーション学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副 題	配当年次	学期	単位	担 当 者	頁
国際関係基礎科目群	地域研究基礎論Ⅱ（第三世界）	中・東欧研究概論（2）	1～	秋	2	中島 崇文	228
	国際関係基礎論Ⅰ	国際安全保障学の基礎	1～	春	2	畠山 圭一	229
	国際関係基礎論Ⅱ	国際政治経済の基本的枠組み	1～	秋	2	荘林幹太郎	230
	環境科学Ⅰ	環境問題を理解するための自然・社会科学の基礎	1～	春	2	荘林幹太郎	231
	環境科学Ⅱ	環境政策概論	1～	秋	2	加藤 弘二	232
	マスコミュニケーション論Ⅰ（概論）	メディアと社会	1～	春	2	蔡 星慧	233
地域文化系基礎科目群	言語学Ⅰ	言語における文法の構造	1～	春	2	佐藤 琢三	234
	言語学Ⅱ	言語における音声と意味	1～	秋	2	佐藤 琢三	235
	社会言語学Ⅰ	社会の中の言語	1～	春	2	福島 直恭	236
	社会言語学Ⅱ	「日本語」という虚構	1～	秋	2	福島 直恭	237
	文化人類学Ⅰ	文化人類学の基礎概念	1～	春	2	齋藤 亜子	238
	文化人類学Ⅱ	現代社会における民族 文化人類学とフィールドワーク	1～	秋	2	齋藤 亜子	239
	北米文化論	北米地域の地理・風土と政治・文化	1～	秋	2	畠山 圭一	240
	ヨーロッパ文化論	近代ヨーロッパの宗教・思想・文化	1～	秋	2	根占 献一	241
	アジア文化論	アジアにおける戦争、革命、社会変容	1～	春	2	金野 純	242
	イスラム文化論Ⅰ	イスラムの基礎知識	1～	春	2	小野 仁美	243
	言語地理学	スラヴの言語と文化	1～	秋	2	坂倉 千鶴	244
	比較神話論		1～	春	2	東 由美子	245
	比較道具論	生活を支える道具から生活文化を考察する	1～	春	2	真島 麗子	246
	比較居住文化論	モンゴロイドアジア大陸部を中心として	1～	春	2	乾 尚彦	247
国際関係専門科目群	国際コミュニケーション論	歴史を動かす国際報道	2～	秋	2	明石 和康	272
	国際関係論Ⅰ（国際関係史）	複数の国際社会	2～	春	2	工藤 晶人	273
	国際関係論Ⅱ（日欧関係）	日欧関係にみる近世と近代	2～	秋	2	工藤 晶人	274
	国際関係論Ⅲ（日米関係）		2～	春	2	畠山 圭一	275
	※国際関係論Ⅳ（将来展望）	21世紀の国際関係	2～	秋	2	畠山 圭一	276
	国際法Ⅰ	分権社会の法	2～	春	2	櫻井 大三	277
	国際法Ⅱ	国家と国際法	2～	秋	2	櫻井 大三	278
	ボランティア論Ⅰ	ボランティアとは？国際協力NGOの活動を通し学ぶ	2～	春	2	野口 朝夫	279
	ボランティア論Ⅱ	NPOとわたしたち	2～	秋	2	伊藤由紀子	280
	国際機構論Ⅰ	国際機構の設立と構造	3～	春	2	小中さつき	281
	国際機構論Ⅱ	様々な分野における国際機構の活動	3～	秋	2	小中さつき	282
	国際開発論Ⅰ	国際開発援助	2～	春	2	伊藤由紀子	283
	国際開発論Ⅱ		2～	秋	2	眞嶋 麻子	284
	経営学Ⅱ	経営学の基礎を、「会社」を題材に、体系的かつ実践的に学習します。	2～	春	2	金城 重紀	285
	※マーケティングⅡ	東南アジアでのマーケティング	2～	秋	2	田島 博和	286
	金融論	金融の基本となる考え方を学ぶ	2～	秋	2	佐久間 潮	287
国際経済Ⅰ	貿易と外国為替の基礎	2～	春	2	佐久間 潮	288	

英語コミュニケーション学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁
国際関係コミュニケーション専門科目群	国際経済Ⅱ		2～	秋	2	渡邊 淳	289
	マスコミュニケーション論Ⅱ（理論）	メディアとコミュニケーション、メディアと文化	2～	秋	2	蔡 星慧	290
	マスコミュニケーション論Ⅲ（広告・PR）		2～	春	2	中馬 淳	291
	☆比較教育学	人の国際移動と多文化社会の教育	3～	秋	2	杉村 美紀	292
	比較政治学Ⅰ	比較宗教と政治	2～	春	2	杉原 志啓	293
	比較政治学Ⅱ	宗教対立と政治	2～	秋	2	杉原 志啓	294
	国際政治Ⅰ（歴史と現状）	国際政治の歴史と現状	2～	春	2	畠山 圭一	295
	国際政治Ⅱ（日本の使命）	近代日本政治外交史	3～	秋	2	齋藤 洋子	296
	国際政治Ⅲ（構造変化）	国際関係の構造変化と米中関係の展望	3～	春	2	畠山 圭一	297
	国際政治Ⅳ（国際戦略）	国際戦略の理論と政策	3～	秋	2	畠山 圭一	298
	ヨーロッパ政治史Ⅰ	ホロコースト研究	3～	春	2	武井 彩佳	299
	ヨーロッパ政治史Ⅱ	強制移住とジェノサイド	3～	秋	2	武井 彩佳	300
	国際コミュニケーションシステム・地域文化系専門科目群	アメリカ文化論Ⅰ	米大統領とアメリカの政治・社会	2～	春	2	石澤 靖治
アメリカ文化論Ⅱ			2～	秋	2	前嶋 和弘	302
イスラム文化論Ⅱ		イスラムと社会生活	2～	秋	2	小野 仁美	303
☆イギリス文化論Ⅰ		英国史概観（古代ローマ～近代）	2～	春	2	古庄 信	304
☆イギリス文化論Ⅱ			2～	-	2	-	-
フランス文化論Ⅰ		フランスの歴史と文化	2～	春	2	工藤 晶人	305
フランス文化論Ⅱ		フランスの歴史と文化	2～	秋	2	工藤 晶人	306
ドイツ文化論Ⅰ		「ドイツ的」とは何か	2～	春	2	武井 彩佳	307
ドイツ文化論Ⅱ		戦後ドイツ社会	2～	秋	2	武井 彩佳	308
イタリア文化論Ⅰ		都市文化としてのイタリア文化とその歴史	2～	春	2	根占 献一	309
イタリア文化論Ⅱ		文学と絵画に描かれる18世紀のイタリア	2～	秋	2	宮坂 真紀	310
東南アジア文化論Ⅰ（大陸部）		遺跡を通してみるアジア文化	2～	春	2	重枝 豊	311
東南アジア文化論Ⅱ（島嶼部）		居住文化と生活文化からアジアの基層文化を考える	2～	秋	2	乾 尚彦	312
☆アフリカ文化論			2～	-	2	-	-
☆中南米文化論			2～	-	2	-	-
中国文化論			2～	秋	2	金野 純	313
朝鮮文化論		韓国の文化と社会	2～	春	2	羅 京洙	314
☆南アジア文化論			2～	-	2	-	-
☆ロシア文化論			2～	-	2	-	-
東欧文化論		ドナウ流域諸国の歴史と文化	2～	秋	2	中島 崇文	315
☆オセアニア文化論			2～	-	2	-	-
アメリカ文学Ⅰ			2～	春	2	山口志のぶ	316
アメリカ文学Ⅱ			2～	秋	2	山口志のぶ	317
☆イギリス文学Ⅰ		2～	-	2	-	-	
☆イギリス文学Ⅱ		2～	-	2	-	-	

英語コミュニケーション学科 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁
国際コミュニケーション学科・ 地域文化系専門科目群	比較音楽論Ⅰ（東洋）		3～	春	2	丸山 洋司	318
	比較音楽論Ⅱ（西洋）	ヨーロッパの社会とオペラ	3～	秋	2	米田かおり	319
	☆比較宗教論Ⅰ		3～	-	2	-	-
	☆比較宗教論Ⅱ		3～	-	2	-	-
	文化遺産学	文化財から文化遺産へ	2～	春	2	M. ウーゴ	320

以下は、平成23～25年度入学者を対象とする科目群である。

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁
他学科指定された 専門科目	日本文化政策論Ⅰ	文化政策の基本構造	1～	春	2	阿曾村智子	42
	日本文化政策論Ⅱ	日本文化政策の現状	1～	秋	2	阿曾村智子	43
	比較文化論Ⅷ（工芸）		3～	-	2	-	-

副題	アメリカ文化論 (移民)			担当者	岩崎 光洋 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

アメリカ文化の多様性を移民の歴史・文化から理解する。

〔授業の内容〕

移民の国、人種のルツボ、などといわれるアメリカ。そのアメリカを形成する多くの異なった民族がどのような推移で、一つのアメリカという国家を形成しながらも、その一方で自己の独自性というアイデンティティを保持してきたのかを考えてみたい。アメリカの歴史を理解した上での講義・演習となるので、知識のない人はしっかり学習した上で授業に参加していただきたい。書籍からはなかなか理解できない時代背景などをより鮮明に理解していただけるよう、映像作品（映画・ニュース映画、ドキュメント・フィルムなど）をできるだけ多用しながら、議論と考察を加えてみたい。本年度は黒人、ユダヤ、アジア、ヒスパニックを中心に取り上げることとする。歴史的・社会的背景などについても十分に加味しながら授業を進めることにする。

〔教材〕

参考書：野村達朗『「民族」で読むアメリカ』（講談社現代新書）講談社
松尾式戎之『民族から読み解く「アメリカ」』（講談社選書メチエ）講談社
プリント使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布プリントの熟読（3時間）

〔成績評価の方法〕

授業内での発表20% レポート30% 試験50%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--|
| 第1週 | イギリスからの移民。映画 Scarlet Letterを参考に、イギリスからプリマス周辺に移民して来た人たちの生活・風習・宗教観などを見て、アメリカの原点を考える。 |
| 第2週 | 黒人移民の歴史 1 奴隷解放までの歴史 映画 AMISTAD |
| 第3週 | 黒人移民の歴史 2 公民権運動 「キング牧師、マルコムX、ケネディー大統領の暗殺」映画 MALCOLM X |
| 第4週 | 黒人移民の歴史 3 映画 The Color Purple |
| 第5週 | 黒人移民の歴史 4 黒人のアメリカ社会における現状 映画 Jungle Fever |
| 第6週 | ユダヤ系アメリカ人 1 第二次大戦以前 映画 Gentleman's Agreement |
| 第7週 | ユダヤ系アメリカ人 2 第二次大戦以降 映画 Schindler's List |
| 第8週 | ユダヤ系アメリカ人 3 アメリカの政治・経済等への影響力 |
| 第9週 | 日系アメリカ人 映画 Snow Falling on Cedars |
| 第10週 | 中国系アメリカ人 映画 JOY LUCK CLUB |
| 第11週 | ヒスパニック 映画 SCARFACE |
| 第12週 | 移民と人種差別に関する現代アメリカ諸問題 1 |
| 第13週 | 移民と人種差別に関する現代アメリカ諸問題 2 |
| 第14週 | まとめ |
| 第15週 | 〃 |

副 題	Cross-cultural Communication			担 当 者	G. R. ファリア 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	月	時 限	3

〔授業の到達目標〕

In this course, we will be developing our competence in cross-cultural communication, which is communication between people of different cultural and ethnic backgrounds. We will strive to recognize and accept beliefs and values that are different from our own, develop understanding of the value systems of others, become aware of our own prejudices and stereotyped thinking as well as those of others. We will strive to learn about other cultures, develop an open-minded attitude toward cultural differences, become familiar with nonverbal behavior and cultural practices, values, and customs.

〔授業の内容〕

The textbook, *Cultures in Contrast*, will guide us with readings, vocabulary, discussion questions focusing on various cultures, but especially contemporary American culture. Following the interests of the students, students will form groups and choose from the themes in the text (listed below) to study and lead the class in discussion each week. After we have studied a particular theme, students will write an essay or report on that theme. As well as developing your competence in cross-cultural communication, you will also be developing your ability in reading, writing, listening to, and speaking English, as the entire class will be conducted in English.

〔教材〕

教科書：Myra Shulman, *Cultures in Contrast*, 2nd Edition, University of Michigan Press, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2 hours each week to study the textbook in preparation for class discussions as well as 2 hours to prepare weekly reports or essays.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance (10%), participation in class (20%), group presentations (20%), reports and essays (50%).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Social adjustment: culture shock
- 第3週 Academic motivation: miscommunication
- 第4週 Group learning: unethical behavior
- 第5週 Campus living: roommate relations
- 第6週 Time management: punctuality
- 第7週 Difficult decisions: interpersonal conflict
- 第8週 Gender issues: sexual orientation
- 第9週 Peer pressure: binge drinking
- 第10週 Religious beliefs: discrimination
- 第11週 Student-teacher interactions: sexual harassment
- 第12週 Academic integrity: plagiarism
- 第13週 Personal relationships: racism and prejudice
- 第14週 Discussion
- 第15週 ♪

副題	「Tell me about Japan」と言われた時の英語			担当者	J. F. モア 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

外国人に日本について説明する場合、表現に苦心する原因の1つは、風土、文化、習慣の違いが多くて、適切な言葉が見出せないことにある。この演習の目的は、日本的な物や習慣について英語で読んだり書いたりすることによって、自分のまわりの日本の世界を英語で表現出来るようになることである。その際に必要になる「定義をするための英語」と「過程を描写し、やり方を説明する英語」のパターンは基本的なものである。しかも、英語の学術論文にもよく利用されているものでもあり、使いこなせるようになると後々まで便利である。

〔授業の内容〕

テキストは、時間感覚から新聞・ビジネス・ショッピングまで様々なテーマをとりあげ、日本とアメリカの社会や国民の考え方を比較し、その違いと変化を指摘しているものである。学生がプレゼンテーションでは、テキストのサマリーに自分で調べた情報をつけて発表して、クラスメートの考えを英語で聞き出そうとする。この二つの作業、英作文と英文の reading and discussionを平行した授業になる。

授業は英語で行う。

〔教材〕

教科書：Paul Stapleton, *Exploring Hidden Culture*, Kinseido, 2001

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Read the assigned chapter each week before class and prepare a two-paragraph comment, along with your questions about it, and discussion questions for the class (3 hours/week).

Presentation preparation (8 hours).

Examination preparation (7 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and class participation 30%, presentation 20%, weekly assignments 25%, final examination 25%。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Getting acquainted and presentation scheduling
第2週	Presentations and discussion ものの定義をする練習
第3週	〃
第4週	Presentations and discussion 意見を述べる練習
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	Presentations and discussion 比較をする練習
第9週	〃
第10週	〃
第11週	Presentations and discussion 過程・やり方を説明する練習
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	Final discussion

試験期間に期末試験を行う。

副 題	「国際共通語」としての英語			担 当 者	高橋 礼子 専任講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	月	時 限	3

〔授業の到達目標〕

英語が世界的に広がった背景、英語使用の現状、英語が果たす役割、英語の多様性について学び、英語を取り巻く状況を多面的にとらえることができるようになる。英語で意見を交換し、自分の意見を発表できるようになる。

〔授業の内容〕

まずはじめに、今日の英語の世界的な広がりや英語使用の現状、英語が果たす役割について様々な観点から見ていく。World Englishesにも触れ、世界の様々な英語も紹介する。「English as a Lingua Franca」とは何かについても考える。演習を通して、皆さんにとって英語、英語学習とは何なのか、未来における英語の役割と英語教育についても一緒に考えていく。

〔教材〕

教科書：『English Outlook: A Content-based Approach to English Learning』南雲堂、2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定した教科書の範囲にはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

- (1) 出席、授業への積極的な参加 (30%)
- (2) プレゼンテーション (30%)
- (3) 課題 (40%)

〔備考〕

オフィスアワー：木曜日、12：10～13：30

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1週 | 英語の世界的な広がり |
| 第2週 | English as a Lingua Francaとは？ |
| 第3週 | 英語の多様性 |
| 第4週 | 英語の広がりとは歴史的背景 |
| 第5週 | 世界における英語使用の現状 |
| 第6週 | World Englishes |
| 第7週 | アジアの英語 |
| 第8週 | 日本の英語（1） |
| 第9週 | 日本の英語（2） |
| 第10週 | ヨーロッパ／アフリカの英語 |
| 第11週 | 公用語論 |
| 第12週 | 英語の役割 |
| 第13週 | 未来における英語教育 |
| 第14週 | プレゼンテーション（1） |
| 第15週 | プレゼンテーション（2） |
- 進捗状況により、内容を変更する可能性があります。

副題	ビジネス英話			担当者	C. ウィン 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to learn basic business communication in English.

〔授業の内容〕

この授業は初級～準中級向けのビジネス英会話です。会社案内、アポイントメントの取り方、電話対応、商品やサービスの説明、苦情の取り扱い方などのビジネスにおける様々な場面を取り上げ、適切な英語表現を学び、ビジネスの基本的な英語コミュニケーションスキルを育成します。ロールプレーやプレゼンテーションを通じて必要性和実感が湧くよう授業を進めます。ボキャブラリー練習を行い、ビジネス英語の語彙の取得だけでなく、実践的な使い方や言い回しを身につけます。ビジネス英会話のリスニング練習も行い、英語の聴解力を高めます。この授業を通して英語を話す自信をつけ、実際の社会で使えるよう期待します。英語のビジネスコミュニケーション能力向上はTOEICテストのスコアアップにもつながります。この授業を終了後にはTOEICテストを受験、あるいは再受験していただきたい。

〔教材〕

教科書：Roger Barnard & Jeff Cady, *Business Venture 2 Pre-Intermediate New Edition*, (ISBN: 978-0-19-457818-9) Oxford University Press, 2009
 Roger Barnard & Jeff Cady, *Business Venture 2 Pre-Intermediate Workbook New Edition*, (ISBN: 978-0-19-457810-3) Oxford University Press, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

Attendance 20%, Participation 10%, Homework 40%, Presentation 10%, Test 20%

〔備考〕

受講対象者：
 TOEIC受験未経験者あるいはTOEIC 650点未満の者。

〔授業計画〕

- 第1週 Socializing
- 第2週 Telephoning
- 第3週 Making Appointments
- 第4週 Presenting Information
- 第5週 Products and Services
- 第6週 Discussing Decisions
- 第7週 Dealing with Complaints
- 第8週 Checking Progress
- 第9週 Describing the Future
- 第10週 Regulations and Advice
- 第11週 Meetings
- 第12週 Presentations
- 第13週 ♪
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

副題	英語学習法			担当者	萱 忠義 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

- (1) 言語とは何かを知る。
- (2) 言語学の基礎を理解する。
- (3) さまざまな英語教授法を概観する。
- (4) 効率的・効果的な教授法を考察する。

〔授業の内容〕

この基礎演習では、まず「言語とは何か？」を考えることから始めます。そして、言語の本質を理解した上で、「英語を効率的に勉強するにはどうしたらいいのか？」を考察していく予定です。基礎演習の前半部分では言語学的要素を、後半部分では応用言語学的・英語教育学の要素を主に扱います。この基礎演習を通して広範な言語習得研究を概観できるようなクラスを展開していく予定です。この分野に関して興味がある人は歓迎します。なお、入門コースであるので予備知識は必要としませんが、教科書の理解及びクラス内活動では英語力が必須となります。

〔教材〕

教科書：Shawn M. Clankie & Toshihiko Kobayashi, *Language and Our World*, 三修社, 2007

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上、授業に参加すること（準備学習は、1回の授業に2時間程度）。

〔成績評価の方法〕

出席及びクラスへの参加度20%、クイズ20%、試験60%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 言語学の基礎知識：言語の始まり
- 第3週 言語学の基礎知識：言語の変遷
- 第4週 言語学の基礎知識：動物に言語はあるのか
- 第5週 言語学の基礎知識：公用語とは何か
- 第6週 言語学の基礎知識：方言とは何か
- 第7週 言語学の基礎知識：言語の危機と消滅
- 第8週 理解度の確認
- 第9週 応用言語学：若いほど言語は習得しやすいのか？
- 第10週 応用言語学：優れた言語の学習者とは？
- 第11週 応用言語学：語学習得における教授法の役割
- 第12週 応用言語学：バイリンガル教育について
- 第13週 応用言語学：早期英語教育について
- 第14週 理解度の確認
- 第15週 総復習・まとめ

副題	アメリカ文化論（移民）			担当者	岩崎 光洋 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

アメリカ文化の多様性を移民の歴史・文化から理解する。

〔授業の内容〕

移民の国、人種のルツボ、などといわれるアメリカ。そのアメリカを形成する多くの異なった民族がどのような推移で、一つのアメリカという国家を形成しながらも、その一方で自己の独自性というアイデンティティを保持してきたのかを考えてみたい。アメリカの歴史を理解した上での講義・演習となるので、知識のない人はしっかり学習した上で授業に参加していただきたい。書籍からはなかなか理解できない時代背景などをより鮮明に理解していただけるよう、映像作品（映画・ニュース映画、ドキュメント・フィルムなど）をできるだけ多用しながら、議論と考察を加えてみたい。本年度は黒人、ユダヤ、アジア、ヒスパニックを中心に取り上げることとする。歴史的・社会的背景などについても十分に加味しながら授業を進めることにする。

〔教材〕

参考書：野村達朗『「民族」で読むアメリカ』（講談社現代新書）講談社
松尾式戎之『民族から読み解く「アメリカ」』（講談社選書メチエ）講談社
プリント使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

3時間

〔成績評価の方法〕

授業内での発表20% レポート30% 試験50%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--|
| 第1週 | イギリスからの移民。映画 Scarlet Letterを参考に、イギリスからプリマス周辺に移民して来た人たちの生活・風習・宗教観などを見て、アメリカの原点を考える。 |
| 第2週 | 黒人移民の歴史 1 奴隷解放までの歴史 映画 AMISTAD |
| 第3週 | 黒人移民の歴史 2 公民権運動 「キング牧師、マルコムX、ケネディー大統領の暗殺」映画 MALCOLM X |
| 第4週 | 黒人移民の歴史 3 映画 The Color Purple |
| 第5週 | 黒人移民の歴史 4 黒人のアメリカ社会における現状 映画 Jungle Fever |
| 第6週 | ユダヤ系アメリカ人 1 第二次大戦以前 映画 Gentleman's Agreement |
| 第7週 | ユダヤ系アメリカ人 2 第二次大戦以降 映画 Schindler's List |
| 第8週 | ユダヤ系アメリカ人 3 アメリカの政治・経済等への影響力 |
| 第9週 | 日系アメリカ人 映画 Snow Falling on Cedars |
| 第10週 | 中国系アメリカ人 映画 JOY LUCK CLUB |
| 第11週 | ヒスパニック 映画 SCARFACE |
| 第12週 | 移民と人種差別に関する現代アメリカ諸問題 1 |
| 第13週 | 移民と人種差別に関する現代アメリカ諸問題 2 |
| 第14週 | まとめ |
| 第15週 | 〃 |

副題	Cross-cultural Communication			担当者	G. R. ファリア 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

In this course, we will be developing our competence in cross-cultural communication, which is communication between people of different cultural and ethnic backgrounds. We will strive to recognize and accept beliefs and values that are different from our own, develop understanding of the value systems of others, become aware of our own prejudices and stereotyped thinking as well as those of others. We will strive to learn about other cultures, develop an open-minded attitude toward cultural differences, become familiar with nonverbal behavior and cultural practices, values, and customs.

〔授業の内容〕

The textbook, *Cultures in Contrast*, will guide us with readings, vocabulary, discussion questions focusing on various cultures, but especially contemporary American culture. Following the interests of the students, students will form groups and choose from themes in the text (listed below) to study and lead the class in discussion each week. After we have studied a particular theme, students will write an essay or report on that theme. As well as developing your competence in cross-cultural communication, you will also be developing your ability in reading, writing, listening to, and speaking English, as the entire class will be conducted in English.

〔教材〕

教科書：Myra Shulman, *Cultures in Contrast*, 2nd Edition, University of Michigan Press, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2 hours each week to study the textbook in preparation for class discussions as well as 2 hours to prepare weekly reports or essays.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance (10%), participation in class (20%), group presentations (20%), reports and essays (50%).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Social adjustment: culture shock
- 第3週 Academic motivation: miscommunication
- 第4週 Group learning: unethical behavior
- 第5週 Campus living: roommate relations
- 第6週 Time management: punctuality
- 第7週 Difficult decisions: interpersonal conflict
- 第8週 Gender issues: sexual orientation
- 第9週 Peer pressure: binge drinking
- 第10週 Religious beliefs: discrimination
- 第11週 Student-teacher interactions: sexual harassment
- 第12週 Academic integrity: plagiarism
- 第13週 Personal relationships: racism and prejudice
- 第14週 Discussion
- 第15週 ♪

副題	「Tell me about Japan」と言われた時の英語			担当者	J. F. モア 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

The goals of this class are to become more comfortable speaking and writing about Japan in English, and to become more aware of the differences in the ways people communicate in Japanese and in English.

〔授業の内容〕

外国人に日本について説明する場合、表現に苦心する原因の1つは、風土、文化、習慣の違いが多くて、適切な言葉が見出せないことにある。この演習の目的は、日本的な物や習慣について英語で読んだり書いたりすることによって、自分のまわりの日本世界を英語で表現出来るようになることである。その際に必要になる「定義をするための英語」と「過程を描写し、やり方を説明する英語」のパターンは基本的なものである。しかも、英語の学術論文にもよく利用されているものでもあり、使いこなせるようになると後々まで便利である。

演習中で読むテキストは日本語と英語を比較し、その違いを学習者としてどう対応すべきかをテーマにしている。学生がするプレゼンテーションでは、テキストのサマリーを用意して、クラスメートの理解を確認して、意見を英語で聞き出そうとする。この二つの作業、英作文と英文の reading and discussionを平行した授業になる。授業は英語で行う。

〔教材〕

教科書：*Handouts will be given in class*

教科書は授業中に指示、配布する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation of reading and two paragraph comment for class discussion (3 hours/week).

Preparation for presentation (8 hours).

Preparation for examination (7 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and participation in class discussion 30% ; presentation 20% ; weekly written assignments 25% ; final examination 25%.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Getting acquainted and presentation scheduling
第2週	Presentations and discussion ものの定義をする練習
第3週	〃
第4週	Presentations and discussion 意見を述べる練習
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	Presentations and discussion 比較をする練習
第9週	〃
第10週	〃
第11週	Presentations and discussion 過程・やり方を説明する練習
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	Final discussion

試験期間に期末試験を行う。

副題	「国際共通語」としての英語			担当者	高橋 礼子 専任講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

英語が世界的に広がった背景、英語使用の現状、英語が果たす役割、英語の多様性について学び、英語を取り巻く状況を多面的にとらえることができるようになる。英語で意見を交換し、自分の意見を発表できるようになる。

〔授業の内容〕

まずはじめに、今日の英語の世界的な広がりや英語使用の現状、英語が果たす役割について様々な観点から見ていく。World Englishesにも触れ、世界の様々な英語も紹介する。「English as a Lingua Franca」とは何かについても考える。演習を通して、皆さんにとって英語、英語学習とは何なのか、未来における英語の役割と英語教育についても一緒に考えていく。

〔教材〕

教科書：『English Outlook: A Content-based Approach to English Learning』南雲堂、2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定した教科書の範囲にはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

- (1) 出席、授業への積極的な参加 (30%)
- (2) プレゼンテーション (30%)
- (3) 課題 (40%)

〔備考〕

オフィスアワー：木曜日、12：10～13：30

〔授 業 計 画〕

第1週	英語の世界的な広がり
第2週	English as a Lingua Francaとは？
第3週	英語の多様性
第4週	英語の広がりとは歴史的背景
第5週	世界における英語使用の現状
第6週	World Englishes
第7週	アジアの英語
第8週	日本の英語（1）
第9週	日本の英語（2）
第10週	ヨーロッパ／アフリカの英語
第11週	公用語論
第12週	英語の役割
第13週	未来における英語教育
第14週	プレゼンテーション（1）
第15週	プレゼンテーション（2）

進捗状況に応じて、内容を変更する可能性があります。

副題	ビジネス英話			担当者	C. ウィン 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to learn basic business communication in English.

〔授業の内容〕

この授業は初級～準中級向けのビジネス英会話です。会社案内、アポイントメントの取り方、電話対応、商品やサービスの説明、苦情の取り扱い方などのビジネスにおける様々な場面を取り上げ、適切な英語表現を学び、ビジネスの基本的な英語コミュニケーションスキルを育成します。ロールプレーやプレゼンテーションを通じて必要性和実感が湧くよう授業を進めます。ポキャブラリー練習を行い、ビジネス英語の語彙の取得だけでなく、実践的な使い方や言い回しを身につけます。ビジネス英会話のリスニング練習も行い、英語の聴解力を高めます。この授業を通して英語を話す自信をつけ、実際の社会で使えるよう期待します。英語のビジネスコミュニケーション能力向上はTOEICテストのスコアアップにもつながります。この授業を終了後にはTOEICテストを受験、あるいは再受験していただきたい。

〔教材〕

教科書：Roger Barnard & Jeff Cady, *Business Venture 2 Pre-Intermediate New Edition*, (ISBN: 978-0-19-457818-9) Oxford University Press, 2009
 Roger Barnard & Jeff Cady, *Business Venture 2 Pre-Intermediate Workbook New Edition*, (ISBN: 978-0-19-457810-3) Oxford University Press, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

Attendance 20%, Participation 10%, Homework 40%, Presentation 10%, Test 20%

〔備考〕

受講対象者：
 TOEIC受験未経験者あるいはTOEIC 650点未満の者。

〔授業計画〕

- 第1週 Socializing
- 第2週 Telephoning
- 第3週 Making Appointments
- 第4週 Presenting Information
- 第5週 Products and Services
- 第6週 Discussing Decisions
- 第7週 Dealing with Complaints
- 第8週 Checking Progress
- 第9週 Describing the Future
- 第10週 Regulations and Advice
- 第11週 Meetings
- 第12週 Presentations
- 第13週 ♪
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

副題	英語学習法			担当者	萱 忠義 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

- (1) 言語とは何かを知る。
- (2) 言語学の基礎を理解する。
- (3) さまざまな英語教授法を概観する。
- (4) 効率的・効果的な教授法を考察する。

〔授業の内容〕

この基礎演習では、まず「言語とは何か？」を考えることから始めます。そして、言語の本質を理解した上で、「英語を効率的に勉強するにはどうしたらいいのか？」を考察していく予定です。基礎演習の前半部分では言語学的要素を、後半部分では応用言語学的・英語教育学の要素を主に扱います。この基礎演習を通して広範な言語習得研究を概観できるようなクラスを展開していく予定です。この分野に関して興味がある人は歓迎します。なお、入門コースであるので予備知識は必要としませんが、教科書の理解及びクラス内活動では英語力が必須となります。

〔教材〕

教科書：Shawn M. Clankie & Toshihiko Kobayashi, *Language and Our World*, 三修社, 2007

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上、授業に参加すること（準備学習は、1回の授業につき、予習に2時間、復習に1時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席及びクラスへの参加度20%、クイズ20%、試験60%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 言語学の基礎知識：言語の始まり
- 第3週 言語学の基礎知識：言語の変遷
- 第4週 言語学の基礎知識：動物に言語はあるのか
- 第5週 言語学の基礎知識：公用語とは何か
- 第6週 言語学の基礎知識：方言とは何か
- 第7週 言語学の基礎知識：言語の危機と消滅
- 第8週 理解度の確認
- 第9週 応用言語学：若いほど言語は習得しやすいのか？
- 第10週 応用言語学：優れた言語の学習者とは？
- 第11週 応用言語学：語学習得における教授法の役割
- 第12週 応用言語学：バイリンガル教育について
- 第13週 応用言語学：早期英語教育について
- 第14週 理解度の確認
- 第15週 総復習・まとめ

海外研修 A

3630030300100

副 題	Studying at the University of Lethbridge			担 当 者	萱 忠義 准教授	
単 位	18	開 講 期 間	春学期集中	曜 日		時 限

〔授業の到達目標〕

研修目的を理解し、効果的な留学の事前準備の充実を図る。留学した後は、Lethbridge大学及び学習院女子大学のルールを理解し、英語学習と異文化交流に努める。

〔授業の内容〕

2月初旬よりカナダのLethbridge大学で海外授業研修を行う。Lethbridge大学の提供する授業を選択し、半年間の英語学習及び文化交流に努める。授業内容の詳細は個人により異なるため、Lethbridge大学での指導に従い学習を進めていく。

〔教材〕

Lethbridge大学指定のテキスト・教材

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Lethbridge大学の授業担当者の指示に従う。

〔成績評価の方法〕

Lethbridge大学の授業担当者の評価、及び最終レポートの評価等を総合的に再評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

2月の研修出発に向けて、事前に、面談、ガイダンス、指導等を行なうので、必ず出席すること。連絡等は全て学科事務室の副手を通して行なう。質問等がある場合には副手に申し出ること。

海外研修B

3630030300200

副 題	Studying at the University of Lethbridge			担 当 者	萱 忠義 准教授	
単 位	18	開 講 期 間	秋学期集中	曜 日		時 限

〔授業の到達目標〕

研修目的を理解し、効果的な留学の事前準備の充実を図る。留学した後は、Lethbridge大学及び学習院女子大学のルールを理解し、英語学習と異文化交流に努める。

〔授業の内容〕

8月初旬よりカナダのLethbridge大学で海外授業研修を行う。Lethbridge大学の提供する授業を選択し、半年間の英語学習及び文化交流に努める。授業内容の詳細は個人により異なるため、Lethbridge大学での指導に従い学習を進めていく。

〔教材〕

Lethbridge大学指定のテキスト・教材

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Lethbridge大学の授業担当者の指示に従う。

〔成績評価の方法〕

Lethbridge大学の授業担当者の評価、及び最終レポートの評価等を総合的に再評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

8月の研修出発に向けて、事前に、面談、ガイダンス、指導等を行なうので、必ず出席すること。連絡等は全て学科事務室の副手を通して行なう。質問等がある場合には副手に申し出ること。

副題	TOEIC対策（700点未満対象）			担当者	C. ウィン 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build listening, vocabulary, grammar and reading skills for taking the TOEIC test.

〔授業の内容〕

ListeningとReadingを交互に行い、それぞれの分野について解釈していきます。TOEICの内容を理解し、より高いスコアを獲得するため、TOEICテストで必要とされるスキルの向上を目指します。英語の語彙を増やし、文法を把握し、聴解を磨き、読解を上達させます。自分の弱みを発見し、分析し、スキルアップを図ります。TOEIC模擬テストを通じ、自分の能力を確認します。当コースの受講者は、授業以外に相当な量の課題が出されるので、自学習が必要となります。

〔教材〕

教科書：中村 紳一郎『TOEIC(R)テスト新・最強トリプル模試1[改訂新版] [CD3枚付き]』
(ISBN: 978-4-7890-1388-8) ジャパンタイムズ, 2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席 30%, 宿題 40%, 暗唱 10%, テスト 20%

〔備考〕

対象者：TOEIC 700点未満の者。

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction, 模擬試験
第2週	模擬試験
第3週	Listening & Reading Comprehension
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	模擬試験
第9週	〃
第10週	Listening & Reading Comprehension
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	模擬試験
第15週	〃

副 題	TOEIC対策 (700点未満対象)			担 当 者	C. ウィン 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	水	時 限	4

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build listening, vocabulary, grammar and reading skills for taking the TOEIC test.

〔授業の内容〕

ListeningとReadingを交互に行い、それぞれの分野について解釈していきます。TOEICの内容を理解し、より高いスコアを獲得するため、TOEICテストで必要とされるスキルの向上を目指します。英語の語彙を増やし、文法を把握し、聴解を磨き、読解を上達させます。自分の弱みを発見し、分析し、スキルアップを図ります。TOEIC模擬テストを通じ、自分の能力を確認します。当コースの受講者は、授業以外に相当な量の課題が出されるので、自学習が必要となります。

〔教材〕

教科書：中村 紳一郎『TOEIC(R)テスト新・最強トリプル模試1[改訂新版] [CD3枚付き]』
(ISBN: 978-4-7890-1388-8) ジャパンタイムズ, 2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席 30%, 宿題 40%, 暗唱 10%, テスト 20%

〔備考〕

対象者：TOEIC 700点未満の者。

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction, 模擬試験
第2週	模擬試験
第3週	Listening & Reading Comprehension
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	模擬試験
第9週	〃
第10週	Listening & Reading Comprehension
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	模擬試験
第15週	〃

副題	TOEIC対策（700点未満対象）			担当者	ウイルキンソン ヤエコ 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	土	時限	2

〔授業の到達目標〕

Listening, Reading, Grammarの3つの基礎力をアップし、TOEICテストのスピードに対応できる力を養い、より高いTOEICスコアの獲得を目指します。

〔授業の内容〕

語彙力を含む基礎力を伸ばし、TOEICテストで必要とされるスキルを学びます。また、模擬テストを通し、自分の弱みを確認し、復習する事で、弱点を克服します。課題を含め、自己学習が求められます。

〔教材〕

教科書：中村紳一郎『TOEICテスト 新・最強トリプル模試1』（ISBN978-4-7890-1388-8）改定新版，ジャパンタイムズ，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

学期初めに配布する授業計画表に記載されている通りにホームワークを提出すること

〔成績評価の方法〕

成績は、以下の割合にて評価する。

出席 20%

授業態度 10%

宿題 20%

単語帳 10%

テスト 20%

ロールプレイ，暗唱 20%

〔備考〕

対象者：TOEIC700点未満の者

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction 模擬試験
第2週	模擬試験
第3週	Listening & Reading Comprehension
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	模擬試験
第8週	〃
第9週	Listening & Reading Comprehension
第10週	〃
第11週	〃
第12週	模擬試験
第13週	〃
第14週	Listening & Reading Comprehension まとめ
第15週	理解度の確認

授業計画は、変更することがある。

TOEIC Skills A

3634030200100

副 題	TOEIC対策 (750点未満対象)			担 当 者	C. ウィン 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	水	時 限	3

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build listening, vocabulary, grammar and reading skills for taking the TOEIC test.

〔授業の内容〕

ListeningとReadingを交互に行い、それぞれの分野について解釈していきます。TOEICの内容を理解し、より高いスコアを獲得するため、TOEICテストで必要とされるスキルの向上を目指します。英語の語彙を増やし、文法を把握し、聴解を磨き、読解を上達させます。自分の弱みを発見し、分析し、スキルアップを図ります。TOEIC模擬テストを通じ、自分の能力を確認します。当コースの受講者は、授業以外に相当な量の課題が出されるので、自学習が必要となります。

〔教材〕

教科書：中村 紳一郎『TOEIC(R)テスト新・最強トリプル模試2[改訂新版] [CD3枚付き]』
(ISBN: 978-4-7890-1389-5) ジャパンタイムズ, 2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席, 宿題, 授業中の姿勢

〔備考〕

対象者：TOEIC 750点未満の者。

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction, 模擬試験
第2週	模擬試験
第3週	Listening & Reading Comprehension
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	模擬試験
第8週	〃
第9週	Listening & Reading Comprehension
第10週	〃
第11週	〃
第12週	模擬試験
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題	TOEIC対策（750点未満対象）			担当者	C. ウィン 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build listening, vocabulary, grammar and reading skills for taking the TOEIC test.

〔授業の内容〕

ListeningとReadingを交互に行い、それぞれの分野について解釈していきます。TOEICの内容を理解し、より高いスコアを獲得するため、TOEICテストで必要とされるスキルの向上を目指します。英語の語彙を増やし、文法を把握し、聴解を磨き、読解を上達させます。自分の弱みを発見し、分析し、スキルアップを図ります。TOEIC模擬テストを通じ、自分の能力を確認します。当コースの受講者は、授業以外に相当な量の課題が出されるので、自学習が必要となります。

〔教材〕

教科書：中村 紳一郎『TOEIC(R)テスト新・最強トリプル模試2[改訂新版] [CD3枚付き]』(ISBN: 978-4-7890-1389-5) ジャパンタイムズ, 2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席, 宿題, 授業中の姿勢

〔備考〕

対象者：TOEIC 750点未満の者。

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction, 模擬試験
第2週	模擬試験
第3週	Listening & Reading Comprehension
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	模擬試験
第8週	〃
第9週	Listening & Reading Comprehension
第10週	〃
第11週	〃
第12週	模擬試験
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副 題	TOEIC対策 (750点未満対象)			担 当 者	ウイルキンソン ヤエコ 講師		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	土	時 限	2

〔授業の到達目標〕

Listening, Reading, Grammarの3つの基礎力をアップし、TOEICテストのスピードに対応できる力を養い、より高いTOEICスコアの獲得を目指します。

〔授業の内容〕

語彙力を含む基礎力を伸ばし、TOEICテストで必要とされるスキルを学びます。また、模擬テストを通し、自分の弱みを確認し、復習する事で、弱点を克服します。課題を含め、自己学習が求められます。

〔教材〕

教科書：中村紳一郎『TOEICテスト 新・最強トリプル模試2』（ISBN978-4-7890-1389-5）改定新版，ジャパンタイムズ，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

学期初めに配布する授業計画表に記載された通りにホームワークを提出すること

〔成績評価の方法〕

成績は、以下の割合にて評価する。

出席 20%

授業態度 10%

宿題 20%

単語帳 10%

テスト 20%

ロールプレイ，暗唱 20%

〔備考〕

対象者：TOEIC750点未満の者

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction 模擬試験
第2週	模擬試験
第3週	Listening & Reading Comprehension
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	模擬試験
第8週	〃
第9週	Listening & Reading Comprehension
第10週	〃
第11週	〃
第12週	模擬試験
第13週	〃
第14週	Listening & Reading Comprehension まとめ
第15週	理解度の確認

授業計画は、変更することがある。

Paragraph Writing A

3634030300100

副題	Grammar-based Writing			担当者	萱 忠義 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

- 1) To brush up grammar knowledge and to increase vocabulary
- 2) To learn the concept of the paragraph with reference to its unity and coherence, and structure
- 3) To practice in editing one's own and others' compositions

〔授業の内容〕

The lessons will be conducted both in English and in Japanese. Students are supposed to be proactive in order to express their thoughts and opinions in class, and the instructor will act as a facilitator for the classroom activities and discussions.

〔教材〕

教科書：Matthew A. Taylor & David E. Kluge, *Basic Steps to Academic Writing*, Cengage Learning, 2012

参考書：綿貫 陽 / マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法（例文暗記CD付き）』旺文社，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習に2時間，復習に1時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席およびクラスへの参加度20%，クイズ及び課題40%，試験（期末）40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週 ガイダンス

第2週 Unit 1: What Are the CUBING and POWER System? (1)

第3週 Unit 1: What Are the CUBING and POWER System? (2)

第4週 Unit 2: What Is Writing? (1)

第5週 Unit 2: What Is Writing? (2)

第6週 Unit 3: About the Paragraph (1)

第7週 ヶ

第8週 レポートの書き方・フォーマット

第9週 Unit 4: Descriptive Paragraph [Describe It] (1)

第10週 Unit 4: Descriptive Paragraph [Describe It] (2)

第11週 Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph [Compare It] (1)

第12週 Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph [Compare It] (2)

第13週 Unit 6: Process Paragraph [Narrate It] (1)

第14週 Unit 6: Process Paragraph [Narrate It] (2)

第15週 総復習・まとめ

Paragraph Writing B

3634030300200

副題					担当者	J. F. モア 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	

〔授業の到達目標〕

In this course students will be introduced to, and practice, the basics of writing in English.

〔授業の内容〕

We will begin at the paragraph level, reviewing topic and supporting sentences, and practice writing different types of paragraphs, such as those that tell how to do something, describe something, or present an opinion. Then we will progress to short essays containing an introductory paragraph with thesis statement, supporting paragraphs and concluding paragraph.

〔教材〕

教科書：Dorothy E. Zemach, and Lisa A. Rumisek, *Writing Essays*, Macmillan Languagehouse, 2003

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Review of previous lesson and preparation of writing assignments (3 and 2/3 hours/week).

Review for final examination (5 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and class participation 30%, weekly writing assignments 45%, final examination 25%.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 How do we write a composition?
- 第2週 Deciding what to write about and gathering ideas
- 第3週 What is a paragraph?
- 第4週 Improving your paragraphs
- 第5週 Descriptive paragraphs
- 第6週 Process paragraphs
- 第7週 Opinion paragraphs
- 第8週 Comparison paragraphs/Contrast paragraphs
- 第9週 Comparison/contrast paragraphs
- 第10週 What are the parts of an essay?
- 第11週 Making an outline of your essay
- 第12週 Focus on the Introduction
- 第13週 Focus on the Conclusion
- 第14週 Make sure the essay holds together solidly
- 第15週 Hints for essay exams

Paragraph Writing C

3634030300300

英語コミュニケーション
英
学
科

副 題	パラグラフの書き方			担 当 者	高橋 礼子 専任講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	月	時 限	2

〔授業の到達目標〕

このコースでは、パラグラフの構造と書き方を学び、パラグラフが書けるようになる。

〔授業の内容〕

まずはじめに、パラグラフとは何か、パラグラフの構成要素 (topic sentence, supporting sentence (s), concluding sentence), 又その書き方を学ぶ。次に、様々なパラグラフの展開方法 (描写, 過程, 意見文等) を学ぶ。最終的には、エッセイとは何か、又、エッセイの構成要素について理解を深めることが目標である。

〔教材〕

教科書：『Success with College Writing』Macmillan Languagehouse, 2011年

〔準備学習 (予習・復習) の内容又はそれに必要な時間〕

指定した教科書の範囲にはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

- (1) 授業への出席, 積極的な参加 (30%)
- (2) 学期中課題 (30%)
- (3) 学期末課題 (40%)

〔備考〕

オフィスアワー：木曜日, 12:10~13:30

〔授 業 計 画〕

- 第1週 The definition of a paragraph
 - 第2週 The structure of a paragraph
 - 第3週 Identifying and writing topic sentences
 - 第4週 Paragraph support and development
 - 第5週 Writing concluding sentences
 - 第6週 Descriptive paragraphs
 - 第7週 Process paragraphs
 - 第8週 Opinion paragraphs
 - 第9週 Comparison & Contrast paragraphs
 - 第10週 Problem & Solution paragraphs
 - 第11週 The definition of an essay
 - 第12週 The structure of an essay
 - 第13週 Outlining an essay
 - 第14週 Introductions and conclusions
 - 第15週 Unity and coherence
- 進捗状況に応じて、内容を変更する可能性があります。

Writing Practice A

3634030400100

副題	Grammar-based Writing			担当者	萱 忠義 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

This is a companion course to Paragraph Writing A conducted by the same instructor.

- 1) To brush up grammar knowledge and to increase vocabulary
- 2) To learn the concept of the paragraph with reference to its unity and coherence, and structure
- 3) To practice in editing one's own and others' compositions

〔授業の内容〕

The lessons will be conducted both in English and in Japanese. Students are supposed to be proactive in order to express their thoughts and opinions in class, and the instructor will act as a facilitator for the classroom activities and discussions.

〔教材〕

教科書：Matthew A. Taylor & David E. Kluge, *Basic Steps to Academic Writing*, Cengage Learning, 2012

参考書：綿貫 陽 / マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法（例文暗記CD付き）』旺文社，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習に2時間，復習に1時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席およびクラスへの参加度20%，クイズ及び課題40%，試験（期末）40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Unit 1: What Are the CUBING and POWER System? (1)
- 第3週 Unit 1: What Are the CUBING and POWER System? (2)
- 第4週 Unit 2: What Is Writing? (1)
- 第5週 Unit 2: What Is Writing? (2)
- 第6週 Unit 3: About the Paragraph (1)
- 第7週 〃
- 第8週 レポートの書き方・フォーマット
- 第9週 Unit 4: Descriptive Paragraph [Describe It] (1)
- 第10週 Unit 4: Descriptive Paragraph [Describe It] (2)
- 第11週 Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph [Compare It] (1)
- 第12週 Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph [Compare It] (2)
- 第13週 Unit 6: Process Paragraph [Narrate It] (1)
- 第14週 Unit 6: Process Paragraph [Narrate It] (2)
- 第15週 総復習・まとめ

Writing Practice B

3634030400200

副題					担当者	J. F. モア 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	

〔授業の到達目標〕

In this course students will be introduced to, and practice, the basics of writing in English. It is taught in conjunction with Paragraph Writing B.

〔授業の内容〕

We will begin at the paragraph level, reviewing topic and supporting sentences, and practice writing different types of paragraphs, such as those that tell how to do something, describe something, or present an opinion. Then we will progress to short essays containing an introductory paragraph with thesis statement, supporting paragraphs and concluding paragraph.

〔教材〕

教科書 : Dorothy E. Zemach, and Lisa A. Rumisek, *Writing Essays*, Macmillan Languagehouse, 2003
 (Same as for Paragraph Writing B - buy only 1 copy !)

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Review previous lesson and prepare writing assignment (3 and 2/3 hours/week).
 Review to prepare for final examination (5 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and class participation 30%, weekly writing assignments 45%, final examination 25%.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 How do we write a composition?
- 第2週 Deciding what to write about and gathering ideas
- 第3週 What is a paragraph?
- 第4週 Improving your paragraphs
- 第5週 Descriptive paragraphs
- 第6週 Process paragraphs
- 第7週 Opinion paragraphs
- 第8週 Comparison paragraphs/Contrast paragraphs
- 第9週 Comparison/contrast paragraphs
- 第10週 What are the parts of an essay?
- 第11週 Making an outline of your essay
- 第12週 Focus on the Introduction
- 第13週 Focus on the Conclusion
- 第14週 Make sure the essay holds together solidly
- 第15週 Hints for essay exams

Writing Practice C

3634030400300

副題	パラグラフを書く			担当者	高橋 礼子 専任講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

Paragraph Writing Cで学んだパラグラフの書き方を確認し、練習を通して英語でまとまりのある文章が書けるようになる。

〔授業の内容〕

まずはじめに、リーディングやディスカッション（ペア又はグループ）、フリーライティングを通して自分の考えをまとめ、トピックに関連する語彙や表現、文の構造を学び、パラグラフを書く練習をする。クラスの中で書いた物を交換して互いにコメントをしたり、そのコメントを基に書き直したりして、より良いライティングを目指す。授業では、様々な分野のトピックを取り上げる。最終的には、複数のパラグラフをまとめてエッセイにする手法を学ぶ。

〔教材〕

教科書：*Success with College Writing*, Macmillan LanguageHouse, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定した教科書の範囲にはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

- (1) 授業への出席, 積極的な参加 (30%)
- (2) 学期中課題 (30%)
- (3) 学期末課題 (40%)

〔備考〕

オフィスアワー：木曜日, 12:10~13:30

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction
第2週	Process writing
第3週	Choosing and narrowing a topic
第4週	Gathering ideas
第5週	Peer editing
第6週	Describing people, places, and processes
第7週	Transitions
第8週	Modal auxiliaries, Causal adverbs
第9週	Comparative and contrastive structures, Similarities and differences, Advantages and disadvantages
第10週	Conditional structures
第11週	How to format an essay, Writing thesis statements
第12週	Writing
第13週	Writing an outline
第14週	Essays for examinations
第15週	Editing an essay for unity & coherence

進捗状況に応じて、内容を変更する可能性があります。

Essay Writing A

3634030500100

英語コミュニケーション
英
学
科

副題	Grammar-based Writing			担当者	萱 忠義 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

- 1) To be able to write an essay of multiple paragraphs on topics related to personal life and interests
- 2) To understand the fundamentals of academic writing and research papers
- 3) To learn how to type a composition based on a writing format or style
- 4) To practice in editing one's own and others' compositions

〔授業の内容〕

The lessons will be conducted both in English and in Japanese. Students are supposed to be proactive in order to express their thoughts and opinions in class, and the instructor will act as a facilitator for the classroom activities and discussions.

〔教材〕

教科書：Matthew A. Taylor & David E. Kluge, *Basic Steps to Academic Writing*, Cengage Learning, 2012

参考書：綿貫 陽 / マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法（例文暗記CD付き）』旺文社，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習に2時間，復習に1時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席およびクラスへの参加度20%，クイズ及び課題40%，試験（期末）40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Unit 7: Narrative Paragraph [Narrate It] (1)
- 第3週 Unit 7: Narrative Paragraph [Narrate It] (2)
- 第4週 Unit 8: Summary Paragraph [Summarize It] (1)
- 第5週 Unit 8: Summary Paragraph [Summarize It] (2)
- 第6週 Unit 9: Analysis Paragraph [Explain It] (1)
- 第7週 ヌ
- 第8週 レポートの書き方・フォーマット
- 第9週 Unit 10: Cause and Effect Paragraph [Explain It] (1)
- 第10週 Unit 10: Cause and Effect Paragraph [Explain It] (2)
- 第11週 Unit 11: Persuasive Paragraph [Argue It] (1)
- 第12週 Unit 11: Persuasive Paragraph [Argue It] (2)
- 第13週 Unit 12: Problem-Solution Paragraph [Argue It] (1)
- 第14週 Unit 12: Problem-Solution Paragraph [Argue It] (2)
- 第15週 総復習・まとめ

Essay Writing B

3634030500200

副題				担当者	J. F. モア 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>This course will give students opportunity to refine their ability to write short essays in English.</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>We will continue to work on paragraph coherence and development, discuss the development of the Introduction further, and write essays using different patterns of organization.</p> <p>〔教材〕</p> <p>教科書：Nancy Herzfeld-Pipkin. Thomson Heinle, <i>Destinations 2</i>, Boston, 2006</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>Review of previous class content and preparation of writing assignments (3 and 2/3 hours/week).</p> <p>Review in preparation for final examination (5 hours).</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>Attendance and class participation 30%, weekly writing assignments 45%, final examination 25%.</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授業計画〕

- 第1週 Paragraph Review
- 第2週 Narrative Essay
- 第3週 ♪
- 第4週 Process Essay
- 第5週 ♪
- 第6週 Cause Essay
- 第7週 ♪
- 第8週 Effect Essay
- 第9週 Opinion Essay
- 第10週 ♪
- 第11週 Comparison/Contrast Essay: block organization
- 第12週 ♪
- 第13週 Comparison/Contrast Essay: point-to-point organization
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

Essay Writing C

3634030500300

副題	エッセイの書き方			担当者	高橋 礼子 専任講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2

〔授業の到達目標〕

このコースでは、すでに学んだパラグラフとエッセイの書き方を復習し、英語でエッセイが書けるようになる。

〔授業の内容〕

まずは、エッセイの構成要素であるintroductory paragraph (thesis statementを含む)、supporting paragraph, concluding paragraphの書き方を学ぶ。次に英語の論理展開を理解して、一貫性のあるエッセイの書き方や、目的に応じたエッセイのパターン（原因・結果、意見文、対象、比較等）を学ぶ。

〔教材〕

教科書：Nancy Herzfeld-Pipkin, *Destinations 2: Writing for Academic Success*, Thomson Heinle, 2006

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された教科書の範囲にはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

- (1) 出席、授業への積極的な参加 (30%)
- (2) 学期中課題 (30%)
- (3) 学期末課題 (40%)

〔備考〕

オフィスアワー：木曜日、12：10～13：30

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Review of paragraphs, The definition of an essay
- 第2週 Introductory paragraph, Thesis statement
- 第3週 Supporting paragraph(s), Concluding paragraph
- 第4週 Narrative essay 1
- 第5週 Narrative essay 2
- 第6週 Process essay 1
- 第7週 Process essay 2
- 第8週 Cause essay
- 第9週 Effect essay
- 第10週 Opinion essay 1
- 第11週 Opinion essay 2
- 第12週 Comparison & contrast essay 1
- 第13週 Comparison & contrast essay 2
- 第14週 Writing
- 第15週 ♪

進捗状況に応じて、内容を変更する可能性があります。

Writing Skills A

3634030600100

副 題	Grammar-based Writing			担 当 者	萱 忠義 准教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月	時 限	4

〔授業の到達目標〕

This is a companion course to Essay Writing A conducted by the same instructor.

- 1) To be able to write an essay of multiple paragraphs on topics related to personal life and interests
- 2) To understand the fundamentals of academic writing and research papers
- 3) To learn how to type a composition based on a writing format or style
- 4) To practice in editing one's own and others' compositions

〔授業の内容〕

The lessons will be conducted both in English and in Japanese. Students are supposed to be proactive in order to express their thoughts and opinions in class, and the instructor will act as a facilitator for the classroom activities and discussions.

〔教材〕

教科書：Matthew A. Taylor & David E. Kluge, *Basic Steps to Academic Writing*, Cengage Learning, 2012

参考書：綿貫 陽 / マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法（例文暗記CD付き）』旺文社, 2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上、授業に参加すること（準備学習の時間は、1回の授業につき、予習に2時間、復習に1時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席およびクラスへの参加度20%、クイズ及び課題40%、試験（期末）40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Unit 7: Narrative Paragraph [Narrate It] (1)
- 第3週 Unit 7: Narrative Paragraph [Narrate It] (2)
- 第4週 Unit 8: Summary Paragraph [Summarize It] (1)
- 第5週 Unit 8: Summary Paragraph [Summarize It] (2)
- 第6週 Unit 9: Analysis Paragraph [Explain It] (1)
- 第7週 ♪
- 第8週 レポートの書き方・フォーマット
- 第9週 Unit 10: Cause and Effect Paragraph [Explain It] (1)
- 第10週 Unit 10: Cause and Effect Paragraph [Explain It] (2)
- 第11週 Unit 11: Persuasive Paragraph [Argue It] (1)
- 第12週 Unit 11: Persuasive Paragraph [Argue It] (2)
- 第13週 Unit 12: Problem-Solution Paragraph [Argue It] (1)
- 第14週 Unit 12: Problem-Solution Paragraph [Argue It] (2)
- 第15週 総復習・まとめ

Writing Skills B

3634030600200

副題				担当者	J. F. モア 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1

〔授業の到達目標〕

This course, which is taught in conjunction with Essay Writing B, will give students opportunity to refine their ability to write short essays in English.

〔授業の内容〕

We will continue to work on paragraph coherence and development, discuss the development of the Introduction further, and write essays using different patterns of organization.

〔教材〕

Same as for Essay Writing B. Buy only one copy.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Review of previous lesson and preparation of writing assignments (3 and 2/3 hours/week).

Review of semester content in preparation for final examination (5 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and class participation 30%, weekly writing assignments 45%, final examination 25%.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Paragraph Review
- 第2週 Narrative Essay
- 第3週 ♪
- 第4週 Process Essay
- 第5週 ♪
- 第6週 Cause Essay
- 第7週 ♪
- 第8週 Effect Essay
- 第9週 Opinion Essay
- 第10週 ♪
- 第11週 Comparison/Contrast Essay: block organization
- 第12週 ♪
- 第13週 Comparison/Contrast Essay: point-to-point organization
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

Writing Skills C

3634030600300

副 題	エッセイを書く			担 当 者	高橋 礼子 専任講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	木	時 限	2

〔授業の到達目標〕

このコースでは、様々なエッセイの展開方法を学び、英語でエッセイが書けるようになる。

〔授業の内容〕

リーディングやペア又はグループ・ディスカッションを通して自分の考えをまとめ、語彙力・表現力を強化し、文の構造を学びながら、エッセイを書く練習をする。授業では、様々な分野のトピック（心理学、歴史、環境、文化、ビジネス）を取り上げる。

〔教材〕

教科書：Nancy Herzfeld-Pipkin, *Destinations 2: Writing for Academic Success*, Thomson Heinle, 2006

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された教科書の範囲にはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

- (1) 授業への出席，積極的な参加 (30%)
- (2) 学期中課題 (30%)
- (3) 学期末課題 (40%)

〔備考〕

オフィスアワー：木曜日，12：10～13：30

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Unit 1: How we learn and how we think
- 第3週 ♪
- 第4週 Unit 2: The African-American experience
- 第5週 ♪
- 第6週 Unit 3: Live long, live well
- 第7週 ♪
- 第8週 Unit 4: Our Earth, our resources, our environment
- 第9週 ♪
- 第10週 Unit 5: Different people, different ways
- 第11週 ♪
- 第12週 Unit 6: The changing face of business
- 第13週 ♪
- 第14週 Writing
- 第15週 ♪

進捗状況に応じて、内容を変更する可能性があります。

副題					担当者	J. F. モア 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	

〔授業の到達目標〕

This class is intended to make your writing more persuasive through the inclusion and synthesis of supporting information from various sources with appropriate citation.

〔授業の内容〕

In this class you will continue to improve your ability to write essays. You will practice the skills of paraphrase and summary in English, and learn to give in-text citations. You will become able to write research papers that include information from authoritative sources.

〔教材〕

教科書：Alice Oshima and Ann Hogue, *Writing Academic English*, 4th Edition, Pearson Longman, 2006

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Review of previous class content and preparation of writing assignments (3 hours/week).
Preparation of final research paper (15 hours).

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on: Attendance and class participation, 30% ; essay assignments (5) 45%, and a final research paper 25%.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Paragraph Review
- 第2週 Unity and Coherence
- 第3週 Supporting Details
- 第4週 Chronological Order
- 第5週 Paraphrase and Summary
- 第6週 ♪
- 第7週 Cause-Effect Essays
- 第8週 Outlining
- 第9週 ♪
- 第10週 Revising
- 第11週 Comparison
- 第12週 ♪
- 第13週 Argumentative Essays
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

There will be a final research paper instead of a final examination.

Academic Writing B

3634030700200

副 題	Supporting Your Ideas with Sources			担 当 者	J. F. モア 教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	水	時 限	2

〔授業の到達目標〕

The goals of the class are to improve your ability to synthesize material from several sources and use it to support your arguments in research papers, and to raise the level of sophistication of your writing.

〔授業の内容〕

Before this course begins, students will have had experience in using sources to support their ideas in well-structured academic essays. By reading, thinking about and discussing the articles in the text, you will enrich your vocabulary and gain familiarity with the topics discussed. You will also practice paraphrase, summary and documenting your sources.

〔教材〕

教科書：Peter S. Gardner, *New Directions*, Cambridge Academic Writing, 2005

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation of readings and essay assignments (3 hours/week).

Preparation of final research paper (15 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and class participation 30%, Chapter essays (4) 50%, Final paper 20%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction Review of Essay Structure
第2週	Ch. 1 Main idea and supporting details
第3週	Cultural differences
第4週	Reports on Ch. 1 readings
第5週	Ch. 2 Purpose and Audience
第6週	Education
第7週	Reports on Ch. 2 readings
第8週	Ch. 3 Documenting sources
第9週	Mass Media and Technology
第10週	Reports on Ch. 3 readings
第11週	Ch. 4 Synthesizing information
第12週	Gender Roles
第13週	Reports on Ch. 4 readings
第14週	Ch. 5 Work
第15週	Reports on Ch. 5 reading
There will be a final research paper rather than an examination.	

Presentations A

3634030800100

副題					担当者	J. テスター 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2

〔授業の到達目標〕

Students will learn to deliver effective and succinct presentations on a variety of topics.

〔授業の内容〕

Students will study and practice the various elements that make up an effective presentation through individual assignments, working with study partners and group work. They will learn how to structure a talk, prepare visual aids and give a full presentation. Students will also learn how to handle questions.

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to review what has been said during class / to prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

Attendance 10%
 Completion of homework 20%
 Classroom presentations 20%
 Final presentation 20%
 Participation 30%

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 Essential English communication skills.
- 第2週 Presentation overview.
- 第3週 Correct posture and eye contact.
- 第4週 The use of gesture to emphasize.
- 第5週 How to use word stress.
- 第6週 Creating effective visual aids.
- 第7週 Explaining visual aids.
- 第8週 Describing trends.
- 第9週 Presentation Introduction.
- 第10週 Presentation main body.
- 第11週 Using transitions.
- 第12週 Presentation conclusion.
- 第13週 Handling questions.
- 第14週 Giving a full presentation.
- 第15週 Presentations for assessment.

Presentations B

3634030800200

副 題					担 当 者	J. テスター 講師	
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月	時 限	2

〔授業の到達目標〕

Students will learn to deliver effective and succinct presentations on a variety of topics.

〔授業の内容〕

Students will study and practice the various elements that make up an effective presentation through individual assignments, working with study partners and group work. They will learn how to structure a talk, prepare visual aids and give a full presentation. Students will also learn how to handle questions.

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to review what has been said during class / to prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

Attendance 10%
 Completion of homework 20%
 Classroom presentations 20%
 Final presentation 20%
 Participation 30%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Essential English communication skills.
- 第2週 Presentation overview.
- 第3週 Correct posture and eye contact.
- 第4週 The use of gesture to emphasize.
- 第5週 How to use word stress.
- 第6週 Creating effective visual aids.
- 第7週 Explaining visual aids.
- 第8週 Describing trends.
- 第9週 Presentation Introduction.
- 第10週 Presentation main body.
- 第11週 Using transitions.
- 第12週 Presentation conclusion.
- 第13週 Handling questions.
- 第14週 Giving a full presentation.
- 第15週 Presentations for assessment.

Listening Practice A

3634030900100

副題	TOEIC・時事英語のリスニング			担当者	C. ウィン 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	1

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to improve listening comprehension skills in English.

〔授業の内容〕

TOEICリスニングとビジネス英語の聞き取り練習を通して、この授業の目的は受講生の英語の聴解力を伸ばすことです。この授業ではTOEICリスニングPART 4（説明部分問題）の訓練と分析を行い、スコアアップを狙います。更に様々なビジネス英語の場面（記者会見、ビジネス討論等）や英語のニュース番組の聴解練習を取り入れ、リスニングスキルを向上させます。この授業はListening Skills Aとのペア授業です。

〔教材〕

教科書：中村 紳一郎『TOEIC(R)テスト新・最強トリプル模試1[改訂新版]』（ISBN: 978-4-7890-1388-8）ジャパントイムズ，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席 30%，課題 40%，発表 10%，テスト 20%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 デイックテーション，内容要約，感想発表，解説
- 第2週 ♪
- 第3週 ♪
- 第4週 ♪
- 第5週 ♪
- 第6週 ♪
- 第7週 ♪
- 第8週 ♪
- 第9週 ♪
- 第10週 ♪
- 第11週 ♪
- 第12週 ♪
- 第13週 ♪
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

Listening Practice B

3634030900200

副 題	TOEIC・時事英語のリスニング			担 当 者	C. ウィン 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	火	時 限	1

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to improve listening comprehension skills in English.

〔授業の内容〕

TOEICリスニングとビジネス英語の聞き取り練習を通して、この授業の目的は受講生の英語の聴解力を伸ばすことです。この授業ではTOEICリスニングPART 4（説明部分問題）の訓練と分析を行い、スコアアップを狙います。更に様々なビジネス英語の場面（記者会見、ビジネス討論等）や英語のニュース番組の聴解練習を取り入れ、リスニングスキルを向上させます。この授業はListening Skills Aとのペア授業です。

〔教材〕

教科書：中村 紳一郎『TOEIC(R)テスト新・最強トリプル模試1[改訂新版]』（ISBN: 978-4-7890-1388-8）ジャパントイムズ，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席 30%，課題 40%，発表 10%，テスト 20%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ディクテーション，内容要約，感想発表，解説
- 第2週 ♪
- 第3週 ♪
- 第4週 ♪
- 第5週 ♪
- 第6週 ♪
- 第7週 ♪
- 第8週 ♪
- 第9週 ♪
- 第10週 ♪
- 第11週 ♪
- 第12週 ♪
- 第13週 ♪
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

Listening Skills A

3634031000100

副題	TOEIC・時事英語のリスニング			担当者	C. ウィン 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to improve listening comprehension skills in English.

〔授業の内容〕

TOEICリスニングとビジネス英語の聞き取り練習を通して、この授業の目的は受講生の英語の聴解力を伸ばすことです。この授業ではTOEICリスニングPART 4（説明部分問題）の訓練と分析を行い、スコアアップを狙います。更に様々なビジネス英語の場面（記者会見、ビジネス討論等）や英語のニュース番組の聴解練習を取り入れ、リスニングスキルを向上させます。この授業はListening Skills Aとのペア授業です。

〔教材〕

教科書：中村 紳一郎『TOEIC(R)テスト新・最強トリプル模試1[改訂新版]』（ISBN: 978-4-7890-1388-8）ジャパントイムズ，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席 30%，課題 40%，発表 10%，テスト 20%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ディクテーション，内容要約，感想発表，解説
第2週	〃
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

Listening Skills B

3634031000200

副 題	TOEIC・時事英語のリスニング			担 当 者	C. ウィン 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	金	時 限	2

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to improve listening comprehension skills in English.

〔授業の内容〕

TOEICリスニングとビジネス英語の聞き取り練習を通して、この授業の目的は受講生の英語の聴解力を伸ばすことです。この授業ではTOEICリスニングPART 4（説明部分問題）の訓練と分析を行い、スコアアップを狙います。更に様々なビジネス英語の場面（記者会見、ビジネス討論等）や英語のニュース番組の聴解練習を取り入れ、リスニングスキルを向上させます。この授業はListening Skills Aとのペア授業です。

〔教材〕

教科書：中村 紳一郎『TOEIC(R)テスト新・最強トリプル模試1[改訂新版]』（ISBN: 978-4-7890-1388-8）ジャパントイムズ，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席 30%，課題 40%，発表 10%，テスト 20%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ディクテーション，内容要約，感想発表，解説
第2週	〃
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副 題					担 当 者	G. デイオリオ 講師	
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	木	時 限	2

〔授業の到達目標〕

To develop and improve the ability to find and explain information on a variety of issues, understand news reports, and develop a deeper understanding of those issues through discussions and to improve academic discussion skills.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn to better understand the news, place new information in context, and develop a deeper understanding of current events and important issues facing the world through short weekly research tasks and in-class discussions with each other. In the process, students will develop academic discussion skills and improve their ability to support and explain their ideas and opinions on important issues.

〔教材〕

教科書： *Reading the News*, (Pete Sharma) 1st Edition, Heinle Cengage, 2007

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

1-2 hours per week, depending on the topics chosen by students.

Weeks 1-7: Textbook-based reading and questions.

Weeks 8-15: Research into questions decided by the class, to be discussed in the following class.

〔成績評価の方法〕

1. Attendance and participation in discussions (i.e., being on-time to class, contributing to discussions, responding to partners in discussions, asking questions in discussions, working with partners to use English as much as possible) : 50%
2. Preparation for discussions/homework: 30%
3. Opinion essay and brief presentation of essay: 20%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Course introduction. Discussion of media and deciding what issues are important to the class.
- 第2週 Reading and discussing news and features.
- 第3週 Reading and discussing opinion pieces and editorials.
- 第4週 Reading and discussing business articles.
- 第5週 Reading and discussing lifestyle articles.
- 第6週 Reading and discussing arts and entertainment articles.
- 第7週 Reading and discussing technology, science, and health articles. Selection of issues for student-led discussions.
- 第8週 Group discussions of research. Deciding next week's questions, refining the topic.
- 第9週 ∕
- 第10週 ∕
- 第11週 ∕
- 第12週 ∕
- 第13週 Group discussions of research. Deciding next week's questions, refining the topic. Finalization of essay topic based on class discussions.
- 第14週 Group discussions of essay drafts and notes.
- 第15週 Presentation, discussion, and submission of essays. Course close.

Discussing Global Issues B

3634031100200

副 題					担 当 者	G. デイオリオ 講師	
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	木	時 限	2

〔授業の到達目標〕

To develop and improve the ability to find and explain information on a variety of issues, understand news reports, and develop a deeper understanding of those issues through discussions and to improve academic discussion skills.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn to better understand the news, place new information in context, and develop a deeper understanding of current events and important issues facing the world through short weekly research tasks and in-class discussions with each other. In the process, students will develop academic discussion skills and improve their ability to support and explain their ideas and opinions on important issues.

〔教材〕

教科書：『Reading the News』（Pete Sharma）1st版，Heinle Cengage，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

1-2 hours per week, depending on the topics chosen by students.

Weeks 1-7: Textbook-based reading and questions.

Weeks 8-15: Research into questions decided by the class, to be discussed in the following class.

〔成績評価の方法〕

1. Attendance and participation in discussions (i.e., being on-time to class, contributing to discussions, responding to partners in discussions, asking questions in discussions, working with partners to use English as much as possible) : 50%
2. Preparation for discussions/homework: 30%
3. Opinion essay and brief presentation of essay: 20%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Course introduction. Discussion of media and deciding what issues are important to the class.
第2週	Reading and discussing news and features.
第3週	Reading and discussing opinion pieces and editorials.
第4週	Reading and discussing business articles.
第5週	Reading and discussing lifestyle articles.
第6週	Reading and discussing arts and entertainment articles.
第7週	Reading and discussing technology, science, and health articles. Selection of issues for student-led discussions.
第8週	Group discussions of research. Deciding next week's questions, refining the topic.
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	Group discussions of research. Deciding next week's questions, refining the topic. Finalization of essay topic based on class discussions.
第14週	Group discussions of essay drafts and notes.
第15週	Presentation, discussion, and submission of essays. Course close.

Discussing Business Issues A

3634031200100

副題					担当者	T. スコット 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

The goal of this subject is to develop practical business communication skills. Through the course, you should be able to build vocabulary and fluency to communicate effectively in business situations.

〔授業の内容〕

This course focuses on the use of practical English in a business environment. The course has been designed to prepare you for using English in the business world. You will be able to communicate and correspond in English with confidence.

〔教材〕

教科書：David Cotton, David Falvey, Simon Kent, *Market Leader Pre-Intermediate Third Edition*, latest Edition, Pearson Longman, 2012

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

All of the students need to have the homework completed and be prepared to speak on the topic of the week. In addition, be prepared to ask any questions that you may still have on any given topic.

〔成績評価の方法〕

Attendance, Participation, Homework, and Final Exam

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Careers
- 第2週 Companies
- 第3週 Selling
- 第4週 Great ideas
- 第5週 Stress
- 第6週 Entertaining
- 第7週 Review
- 第8週 New Business
- 第9週 Marketing
- 第10週 Planning
- 第11週 Review
- 第12週 Managing People
- 第13週 Conflict
- 第14週 Products
- 第15週 Review

Discussing Business Issues B

3634031200200

副題				担当者	T. スコット 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

The goal of this subject is to develop practical business communication skills. Through the course, you should be able to build vocabulary and fluency to communicate effectively in business situations.

〔授業の内容〕

This course focuses on the use of practical English in a business environment. The course has been designed to prepare you for using English in the business world. You will be able to communicate and correspond in English with confidence.

〔教材〕

教科書：David Cotton, David Falvey, Simon Kent, *Market Leader Pre-Intermediate Third Edition*, latest Edition, Pearson Longman, 2012

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

All of the students must bring the homework and be prepared to speak on the topic of the week. In addition, you should be prepared to ask any questions that you still may have on any given topic.

〔成績評価の方法〕

Attendance, Participation, Homework, and Final Exam

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Careers
- 第2週 Companies
- 第3週 Selling
- 第4週 Great ideas
- 第5週 Stress
- 第6週 Entertaining
- 第7週 Review
- 第8週 New Business
- 第9週 Marketing
- 第10週 Planning
- 第11週 Review
- 第12週 Managing People
- 第13週 Conflict
- 第14週 Products
- 第15週 Review

副題	Effective Arguments			担当者	C. トロイ 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to prepare students to be better at persuading people by learning strategies and techniques to influence people's opinions and actions more effectively.

〔授業の内容〕

This course is designed to teach valuable debating techniques and strategies. Students will learn how to argue in social, professional, and political debates. New techniques and debate tactics will be covered in each class that will help students understand an argument better and become more persuasive when arguing an issue. Debate strategies will be introduced each lesson, and students will be required to research debate topics before class and prepare for and have debates in class.

〔教材〕

教科書：Jay Heinrichs, *Thank You For Arguing*, Second Edition, Three Rivers Press, 2007
 Thank You For Arguing: What Aristotle, Lincoln, and Homer Simpson Can Teach Us About the Art of Persuasion ISBN 978-0-307-34144-0

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to read one unit from the book for each class. They will also be required to do research for debates which will be collected and graded.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on quizzes/tests, preparation;debate performance, and attendance;participation. Preparation will be graded based on research notes for the debate topics.

Quizzes 30%, Attendance 5%, Preparation 15%, Debate Participation 20%, Final Exams 30%.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction, understanding the importance of persuasion in everyday life. Setting your goals: deciding what you want to achieve from an argument by setting goals. Debate topic and groups assigned.
第2週	Controlling the tense: When to use the past, present, and future tenses more effectively. Debate preparation time given. Groups will be chosen to debate in lesson 3 and they will be given sides (For vs. Against).
第3週	Softening them up: The importance of character, logic, and emotion in debate and sympathizing with your audience. DEBATE 1: Groups chosen in lesson 2 will debate.
第4週	Getting them to like you: The importance of acting the way your audience expects you to act. Debate topic and groups assigned. QUIZ 1: Units 1-3 of the text.
第5週	Making them listen: The three most important traits of persuasive leadership. Groups will be chosen to debate in lesson 6 and they will be given sides (For vs. Against).
第6週	Show leadership: Persuading your audience by showing that you are someone who knows how to solve the problem being debated. DEBATE 2
第7週	Winning their trust: Being more trustworthy by appearing indifferent and reluctant to accept your own side. Debate topic and groups assigned. QUIZ 2: Unites 4-6 of the text
第8週	Controlling the mood: The importance of influencing your audience's emotions rather than displaying your own and the value of story-telling. Groups will be chosen to debate in lesson 9 and they will be given sides (For vs. Against).
第9週	Turning the volume down: Using the passive tense to avoid assigning blame and the different types humor and their use. DEBATE 3
第10週	Gaining the high ground: Considering what is in your audience's best interest and convincing them that you are fighting for what's best for them. How to persuade the unpersuadable by agreeing with them. Debate topic and groups assigned. QUIZ 3: Units 7-9
第11週	Persuading on your terms: How to argue when the facts are against you. Groups will be chosen to debate in lesson 12 and they will be given sides (For vs. Against).
第12週	Control the Argument: Using logic to get your audience to agree or to make a conclusion that supports your side. DEBATE 4.
第13週	Review of course materials. QUIZ 4.
第14週	Final Debates: Two debates will be held on this day. Each student will participate in one of them.
第15週	Written Final Review. Units covered in the quizzes and the debate schedule may change, but students will be told in advance.

Debate B

3634040100200

副題	Effective Arguments			担当者	C. トロイ 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to prepare students to be better at persuading people by learning strategies and techniques to influence people's opinions and actions more effectively.

〔授業の内容〕

This course is designed to teach valuable debating techniques and strategies. Students will learn how to argue in social, professional, and political debates. New techniques and debate tactics will be covered in each class that will help students understand an argument better and become more persuasive when arguing an issue. Debate strategies will be introduced each lesson, and students will be required to research debate topics before class and prepare for and have debates in class.

〔教材〕

教科書：Jay Heinrichs, *Thank You For Arguing*, Second Edition, Three Rivers Press, 2007
 Thank You For Arguing: What Aristotle, Lincoln, and Homer Simpson Can Teach Us About the Art of Persuasion ISBN 978-0-307-34144-0

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to read one unit from the book for each class. They will also be required to do research for debates which will be collected and graded.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on quizzes/tests, preparation;debate performance, and attendance;participation. Preparation will be graded based on research notes for the debate topics.

Quizzes 30%, Attendance 5%, Preparation 15%, Debate Participation 20%, Final Exams 30%.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction, understanding the importance of persuasion in everyday life. Setting your goals: deciding what you want to achieve from an argument by setting goals. Debate topic and groups assigned.
第2週	Controlling the tense: When to use the past, present, and future tenses more effectively. Debate preparation time given. Groups will be chosen to debate in lesson 3 and they will be given sides (For vs. Against).
第3週	Softening them up: The importance of character, logic, and emotion in debate and sympathizing with your audience. DEBATE 1: Groups chosen in lesson 2 will debate. Getting them to like you: The importance of acting the way your audience expects you to act. Debate topic and groups assigned. QUIZ 1: Units 1-3 of the text.
第4週	Making them listen: The three most important traits of persuasive leadership. Groups will be chosen to debate in lesson 6 and they will be given sides (For vs. Against).
第5週	Show leadership: Persuading your audience by showing that you are someone who knows how to solve the problem being debated. DEBATE 2
第6週	Winning their trust: Being more trustworthy by appearing indifferent and reluctant to accept your own side. Debate topic and groups assigned. QUIZ 2: Unites 4-6 of the text
第7週	Controlling the mood: The importance of influencing your audience's emotions rather than displaying your own and the value of story-telling. Groups will be chosen to debate in lesson 9 and they will be given sides (For vs. Against).
第8週	Turning the volume down: Using the passive tense to avoid assigning blame and the different types humor and their use. DEBATE 3
第9週	Gaining the high ground: Considering what is in your audience's best interest and convincing them that you are fighting for what's best for them. How to persuade the unpersuadable by agreeing with them. Debate topic and groups assigned. QUIZ 3: Units 7-9
第10週	Persuading on your terms: How to argue when the facts are against you. Groups will be chosen to debate in lesson 12 and they will be given sides (For vs. Against).
第11週	Control the Argument: Using logic to get your audience to agree or to make a conclusion that supports your side. DEBATE 4.
第12週	Review of course materials. QUIZ 4.
第13週	Final Debates: Two debates will be held on this day. Each student will participate in one of them.
第14週	Written Final Review.
第15週	Units covered in the quizzes and the debate schedule may change, but students will be told in advance.

副題				担当者	伊藤 直美 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

プレゼンテーションは難しい…とっていませんか？大丈夫です。「誰に」「何のために」「何を話すのか」という核がしっかりしていれば、そんなに怖くありません。英語で「分かりやすく伝える」プレゼンテーションを目標とした talkative and active クラスです。

〔授業の内容〕

プレゼンテーションに必要な要素 (structure, phrases, body language, etc) を学び = インプット, その上で実際に実践 = アウトプットしていきます。見て聞いて実践して, フィードバックを活かし, ステップアップを図りましょう。テーマは casual な身の回りのことから, 最終的には少々チャレンジングで formal な内容を目指します。discussion を交え, 多くを語る内容です。

〔教材〕

教科書: Mark D. Stafford, *Successful PRESENTATIONS An Interactive Guide*, Cengage Learning

〔準備学習 (予習・復習) の内容又はそれに必要な時間〕

ターゲット (audience, contents, aim) に応じたプレゼンテーションに向け, リサーチを行なう。適切な用語・フレーズを用いたスピーチ, visual aids を準備・練習すること。

〔成績評価の方法〕

プレゼンテーションの成果, テスト・ワークシート及び出席状況・授業への参加態度などの平常点を含め, 総合的に評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Unit 1: Self Introduction Posture - Introduction
第2週	Unit 2: Hometown Eye Contact - Overview: TOKYO!
第3週	Unit 3: Family Gestures - Details
第4週	Unit 4: Interests Stage Position - Conclusion
第5週	Review skills Attend - Talk (perform): Fast food, fashion
第6週	Unit 5: Education Projection - Introductory Phrases
第7週	Unit 6: Culture Shock Enunciation - Signpost Expressions: Fast food, fast fashion w/visual aids
第8週	Unit 7: Stereotypes Intonation - Facts & Opinions
第9週	Unit 8: Population Phrasing - Supporting Evidence
第10週	Review skills Attend - Discussion (perform): Promote a plan to...
第11週	Unit 9: Events Anticipating Questions - Informing
第12週	Unit 10: Places Understanding Questions - Describing
第13週	Unit 11: Processes Checking Understanding - Explaining
第14週	Unit 12: Opinions Staying in Control - Persuading
第15週	Final Presentations 各週の内容は授業の進度などにより前後する場合があります。

副題				担当者	伊藤 直美 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

プレゼンテーションは難しい…とっていませんか？大丈夫です。
「誰に」「何のために」「何を話すのか」という核がしっかりしていれば、
そんなに怖くありません。英語で「分かりやすく伝える」プレゼンテーションを目標とした
talkative and activeクラスです。

〔授業の内容〕

プレゼンテーションに必要な要素 (structure, phrases, body language, etc) を学び
= インプット, その上で実際に実践 = アウトプットしていきます。
見て聞いて実践して, フィードバックを活かし, ステップアップを図りましょう。
テーマはcasualな身の回りのことから, 最終的には少々チャレンジングでformalな内容を
目指します。discussionを交え, 多くを語る内容です。

〔教材〕

教科書: Mark D. Stafford, *Successful PRESENTATIONS An Interactive Guide*, Cengage Learning

〔準備学習 (予習・復習) の内容又はそれに必要な時間〕

ターゲット (audience, contents, aim) に応じたプレゼンテーションに向け,
リサーチを行なう。適切な用語・フレーズを用いたスピーチ, visual aidsを
準備・練習すること。

〔成績評価の方法〕

プレゼンテーションの成果, テスト・ワークシート及び出席状況・授業への
参加態度などの平常点を含め, 総合的に評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Unit 1: Self Introduction Posture - Introduction
第2週	Unit 2: Hometown Eye Contact - Overview: TOKYO!
第3週	Unit 3: Family Gestures - Details
第4週	Unit 4: Interests Stage Position - Conclusion
第5週	Review skills Attend - Talk (perform): Fast food, fashion
第6週	Unit 5: Education Projection - Introductory Phrases
第7週	Unit 6: Culture Shock Enunciation - Signpost Expressions: Fast food, fast fashion w/visual aids
第8週	Unit 7: Stereotypes Intonation - Facts & Opinions
第9週	Unit 8: Population Phrasing - Supporting Evidence
第10週	Review skills Attend - Discussion (perform): Promote a plan to...
第11週	Unit 9: Events Anticipating Questions - Informing
第12週	Unit 10: Places Understanding Questions - Describing
第13週	Unit 11: Processes Checking Understanding - Explaining
第14週	Unit 12: Opinions Staying in Control - Persuading
第15週	Final Presentations 各週の内容は授業の進度などにより前後する場合があります。

副題					担当者	T. スコット 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4

〔授業の到達目標〕

The goal of this subject is to develop practical business writing skills. Through the course, you should be able to build vocabulary and fluency to communicate effectively in business situations.

〔授業の内容〕

The aim of this course is to provide ample opportunities for the students to build upon their written correspondence skills for working in business situations. There will be writing assignments followed by student critiques. A variety of subjects will be covered, for example, requests, replies, notices and apologies. This course will provide a supportive environment for the students to develop useful skills for their future.

〔教材〕

教科書：*Company to Company*, (Andrew Littlejohn) 4th Edition, Cambridge University Press, 2005

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

All of the students must bring the completed homework and be prepared to do the activity of the day. In addition, please ask any questions you may still have on any given topic.

〔成績評価の方法〕

Assessment will be based on: Attendance
Homework
Written work
Final exam

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Making enquiries
- 第3週 Continued from week 2
- 第4週 Business prospects
- 第5週 Continued from week 4
- 第6週 Contacting customers
- 第7週 Continued from week 6
- 第8週 When things go wrong
- 第9週 Continued from week 8
- 第10週 Getting things done
- 第11週 Continued from week 10
- 第12週 Maintaining contact
- 第13週 Continued from week 12
- 第14週 Customer service
- 第15週 Continued from week 14

Business Writing B

3634040300200

副題				担当者	T. スコット 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4

〔授業の到達目標〕

The goal of this subject is to develop practical business writing skills. Through the course, you should be able to build vocabulary and fluency to communicate effectively in business situations.

〔授業の内容〕

The aim of this course is to provide ample opportunities for the students to build upon their written correspondence skills for working in business situations. There will be writing assignments followed by student critiques. A variety of subjects will be covered, for example, requests, replies, notices and apologies. This course will provide a supportive environment for the students to develop useful skills for their future.

〔教材〕

教科書：*Company to Company*, (Andrew Littlejohn) 4th Edition, Cambridge University Press, 2005

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

All of the students must bring the completed homework and be prepared to do the activity of the day. In addition, please ask any questions you may still have on any given topic.

〔成績評価の方法〕

- Assessment will be based on: Attendance
- Homework
- Written work
- Final exam

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Making enquiries
- 第3週 Continued from week 2
- 第4週 Business prospects
- 第5週 Continued from week 4
- 第6週 Contacting customers
- 第7週 Continued from week 6
- 第8週 When things go wrong
- 第9週 Continued from week 8
- 第10週 Getting things done
- 第11週 Continued from week 10
- 第12週 Maintaining contact
- 第13週 Continued from week 12
- 第14週 Customer service
- 第15週 Continued from week 14

Discussing Current Issues A

3634050100100

副題					担当者	C. L. イヤリー 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	

〔授業の到達目標〕

To give students an opportunity to practice discussing current events in English. By doing this, students will increase their knowledge of local and world affairs, and also increase their English fluency and vocabulary.

〔授業の内容〕

Using articles from publications like Japan Times, Japan News, and Japan Today, classes will focus on a different theme every two weeks. Example topics are: the environment, fashion trends, social media, arts, and food and cuisine.

〔教材〕

On the first day of the course, the instructor will provide a book of recent articles and discussion questions on current events and trends, and the book will be updated at the mid-point of the course.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Before each class students should read articles and note any challenging vocabulary. Students should also come to class prepared to share their opinions and participate in class conversation.

〔成績評価の方法〕

There will be occasional vocabulary quizzes to ensure that students retain new words and phrases.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Section I - Topic #1
- 第2週 Review, vocabulary quiz
- 第3週 Topic #2
- 第4週 Review, vocabulary quiz
- 第5週 Topic #3
- 第6週 Review, vocabulary quiz
- 第7週 Section II - Topic #4
- 第8週 Review, vocabulary quiz
- 第9週 Topic #5
- 第10週 Review, vocabulary quiz
- 第11週 Topic #6
- 第12週 Review, vocabulary quiz
- 第13週 Topic #7
- 第14週 Review
- 第15週 Final Discussion and Quiz

Discussing Current Issues B

3634050100200

副題					担当者	C. L. イヤリー 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	

〔授業の到達目標〕

To give students an opportunity to practice discussing current events in English. By doing this, students will increase their knowledge of local and world affairs, and also increase their English fluency and vocabulary.

〔授業の内容〕

Using articles from publications like Japan Times, Japan News, and Japan Today, classes will focus on a different theme every two weeks. Example topics are: the environment, fashion trends, social media, arts, and food and cuisine.

〔教材〕

On the first day of the course, the instructor will provide a book of recent articles and discussion questions on current events and trends, and the book will be updated at the mid-point of the course.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Before each class students should read articles and note any challenging vocabulary. Students should also come to class prepared to share their opinions and participate in class conversation.

〔成績評価の方法〕

There will be occasional vocabulary quizzes to ensure that students retain new words and phrases.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Section I - Topic #1
- 第2週 Review, vocabulary quiz
- 第3週 Topic #2
- 第4週 Review, vocabulary quiz
- 第5週 Topic #3
- 第6週 Review, vocabulary quiz
- 第7週 Section II - Topic #4
- 第8週 Review, vocabulary quiz
- 第9週 Topic #5
- 第10週 Review, vocabulary quiz
- 第11週 Topic #6
- 第12週 Review, vocabulary quiz
- 第13週 Topic #7
- 第14週 Review
- 第15週 Final Discussion and Quiz

Newspaper English A

3634050200100

副題					担当者	J. テスター 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

The course will improve students' English skills through reading, analyzing and discussing newspaper articles.

〔授業の内容〕

Students will read and analyze newspaper articles on a wide range of topics. They will summarize and discuss them in pairs and groups. They will also write reactions and participate in debates from different points of view.

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to review what has been said during class / to prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

- Attendance 10%
- Completion of homework 10%
- Assignments 30%
- Participation 30%
- Final test 20%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 English communication skills.
- 第2週 Vocabulary building strategies.
- 第3週 Discussion skills.
- 第4週 Summarizing articles.
- 第5週 Reacting to articles.
- 第6週 Group discussion.
- 第7週 Pair debates.
- 第8週 Reporting current events.
- 第9週 Discussing domestic news
- 第10週 Talking about current world news stories.
- 第11週 Discussing economic news.
- 第12週 Debating environmental issues.
- 第13週 Discussing business news.
- 第14週 Scientific reporting.
- 第15週 Final assessments

Newspaper English B

3634050200200

副 題				担 当 者	J. テスター 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	木	時 限	2

〔授業の到達目標〕

The course will improve students' English skills through reading, analyzing and discussing newspaper articles.

〔授業の内容〕

Students will read and analyze newspaper articles on a wide range of topics. They will summarize and discuss them in pairs and groups. They will also write reactions and participate in debates from different points of view.

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to review what has been said during class / to prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

Attendance 10%
 Completion of homework 10%
 Assignments 30%
 Participation 30%
 Final test 20%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 English communication skills.
- 第2週 Vocabulary building strategies.
- 第3週 Discussion skills.
- 第4週 Summarizing articles.
- 第5週 Reacting to articles.
- 第6週 Group discussion.
- 第7週 Pair debates.
- 第8週 Reporting current events.
- 第9週 Discussing domestic news
- 第10週 Talking about current world news stories.
- 第11週 Discussing economic news.
- 第12週 Debating environmental issues.
- 第13週 Discussing business news.
- 第14週 Scientific reporting.
- 第15週 Final assessments

In-Depth News Listening A

3634050300100

副題	ニュースとビジネス英語のリスニング			担当者	C. ウィン 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	1

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is improve in-depth listening comprehension skills in English.

〔授業の内容〕

オンラインニュース、ドキュメンタリーや英語演説を教材として使い、時事英語や高度な英語の聞き取り練習を通して聴解力を向上させます。ディクテーション、発音練習、暗唱を行い、リスニングとスピーキングスキルを磨きます。ニュース放送やリスニング練習後、口頭や筆記で内容要約や感想発表を通して、理解度を深めます。更に様々な熟語、ビジネス語彙や専門用語を学習し、プロフェッショナル英語力を身に付けます。

〔教材〕

授業中にプリントを配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席 30%、課題 40%、発表 10%、テスト 20%

〔備考〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔授 業 計 画〕

第1週	ディクテーション、内容要約、感想発表、解説
第2週	〃
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

In-Depth News Listening B

3634050300200

副題	ニュースとビジネス英語のリスニング			担当者	C. ウィン 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	1

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is improve in-depth listening comprehension skills in English.

〔授業の内容〕

オンラインニュース、ドキュメンタリーや英語演説を教材として使い、時事英語や高度な英語の聞き取り練習を通して聴解力を向上させます。ディクテーション、発音練習、暗唱を行い、リスニングとスピーキングスキルを磨きます。ニュース放送やリスニング練習後、口頭や筆記で内容要約や感想発表を通して、理解度を深めます。更に様々な熟語、ビジネス語彙や専門用語を学習し、プロフェッショナル英語力を身に付けます。

〔教材〕

授業中にプリントを配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席 30%、課題 40%、発表 10%、テスト 20%

〔備考〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ディクテーション、内容要約、感想発表、解説
- 第2週 ♪
- 第3週 ♪
- 第4週 ♪
- 第5週 ♪
- 第6週 ♪
- 第7週 ♪
- 第8週 ♪
- 第9週 ♪
- 第10週 ♪
- 第11週 ♪
- 第12週 ♪
- 第13週 ♪
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

副題	Japanese Society as Seen by a Westerner			担当者	G. R. ファリア 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to apply students' understanding of intercultural communication to the text and to their own experiences, to discuss in class, and then to write research papers or essays on these topics in English.

〔授業の内容〕

In this seminar we will use as our text a book written by an American who lived and worked in Japan for many years as a journalist, editor, and consultant and has written many books about Japanese culture. Using his background in business and journalism as well as his own experiences, he looks at Japanese culture in very thoughtful and insightful ways in order to make it comprehensible to Western readers. As we read and discuss different topics which the writer brings up, it should be interesting to see what students agree or disagree with and what new insights they can get into their own culture. Each week we will read about 20 pages of the text and prepare to discuss various related topics in class. Students will be actively involved in presenting and discussing the text and topics. Students will write their thoughts and impressions about what they read in a journal each week and will also write a mid-term and a final report on a topic related to our study. Of course, the entire seminar will be taught and conducted only in English.

〔教材〕

教科書：Boye Lafayette De Mente, *Japan Unmasked: The Character and Culture of the Japanese*, Tuttle Publishing, 2005

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2-3 hours each week studying the textbook in preparation for class discussions and another 2 hours in preparation for their group presentation of the text.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), presentations (30%), and term reports (40%).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Preface and Chapter 1
- 第3週 Chapters 2-4
- 第4週 Chapters 5-9
- 第5週 Chapters 10-13
- 第6週 Chapters 14-17
- 第7週 Chapters 18-21
- 第8週 Oral presentations of midterm reports
- 第9週 Chapters 22-24
- 第10週 Chapters 25-28
- 第11週 Chapters 29-31
- 第12週 Chapters 32-35
- 第13週 Chapters 36-38
- 第14週 Oral presentations of term reports
- 第15週 ♪

副 題	Japanese Culture as Seen by Japanese			担 当 者	G. R. ファリア 教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月	時 限	2

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to apply students' understanding of intercultural communication to the text and to their own experiences, to discuss in class, and then to write research papers or essays on these topics in English.

〔授業の内容〕

In this seminar we will use as our text a book of essays on various aspects of Japanese culture written by Japanese. As we read and discuss the different topics which the writers take up, it should be interesting to see what students agree or disagree with and what new insights they can get into their own culture. Each week we will read about 20 pages of the text and prepare to discuss various related topics in class. Students will be actively involved in presenting and discussing the text and topics. Students will write their thoughts and impressions about what they read in a journal each week and will also write a mid-term and a final report on a topic related to our study. Of course, the entire seminar will be taught and conducted only in English.

〔教材〕

教科書 : Roger J. Davies and Osamu Ikeno, *The Japanese Mind: Understanding Contemporary Japanese Culture*, Tuttle Publishing, 2002

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2-3 hours each week studying the textbook in preparation for class discussions and another 2 hours in preparation for their group presentation of the text.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), presentations (30%), and term reports (40%).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Chapters 1-3
- 第3週 Chapters 4-6
- 第4週 Chapters 7-8
- 第5週 Chapters 9-10
- 第6週 Chapters 11-13
- 第7週 Chapters 14-15
- 第8週 Oral presentations of midterm reports
- 第9週 Chapters 16-17
- 第10週 Chapters 18-20
- 第11週 Chapters 21-22
- 第12週 Chapters 23-24
- 第13週 Chapters 25-26
- 第14週 Chapters 27-28
- 第15週 Oral presentations of term reports

※映像文化特殊演習I

3631070100100

副題	聖書と映画			担当者	岩崎 光洋 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

英米をはじめとするヨーロッパ文化の根底をなすキリスト教、聖書についての認識と歴史を習得する。

〔授業の内容〕

英米で制作された代表的な聖書、キリストに関する映画作品を見ながら、聖書、キリスト等に関する基礎知識を確認しながら、各作品の映像表現の変遷とその時代性を読み取る。基礎知識として新約聖書は事前に必ず読んでおくこと。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

3時間

〔成績評価の方法〕

プレゼン 30パーセント 試験 70パーセント

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 The Ten Commandments 「十戒」
- 第2週 ヌ
- 第3週 The Bible 「天地創造」
- 第4週 ヌ
- 第5週 King of Kings
- 第6週 ヌ
- 第7週 The Greatest Story Ever Told 「偉大な生涯の物語」
- 第8週 ヌ
- 第9週 Jesus 「ジーザス」
- 第10週 ヌ
- 第11週 The Last Temptation of Christ 「最後の誘惑」
- 第12週 ヌ
- 第13週 The Passion 「パッション」
- 第14週 ヌ
- 第15週 まとめ

映像文化特殊演習II

3631070200100

副 題	アカデミー賞作品とアメリカ文化			担 当 者	岩崎 光洋 教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	金	時 限	3

〔授業の到達目標〕

アカデミー作品賞と時代的背景を理解し、映像文化の意義について考える。

〔授業の内容〕

アカデミー作品賞受賞作品を教材として、作品評、作品のテーマ、作品の普遍性等についてディスカッション形式で授業を行なう。また、アカデミー賞の選考法、問題点等についても言及する。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

3時間

〔成績評価の方法〕

プレゼン 30パーセント 試験 70パーセント

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Chariot of Fire
- 第2週 ♪
- 第3週 Braveheart
- 第4週 ♪
- 第5週 Gandhi
- 第6週 ♪
- 第7週 CRASH
- 第8週 ♪
- 第9週 American Beauty
- 第10週 ♪
- 第11週 Out of Africa
- 第12週 ♪
- 第13週 Beautiful Mind
- 第14週 ♪
- 第15週 Million Dollar Baby

日本文化発信英語特殊演習I

3631080100100

副題	Outside the Mainstream			担当者	J. F. モア 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

This course has two goals: to stimulate students to learn more about Japan, and to provide them with the opportunity to discuss Japan in English.

〔授業の内容〕

Students will read excerpts from a text as well as producing their own essays on topics related to the text. We will examine the vocabulary and style of the text as well as discussing its content.

〔教材〕

教科書：David Suzuki and Keibo Oiwa, *The Other Japan*, Fulcrum Publishing, 1999

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation for classes (2 hours/week).

Preparation of papers (10 hours x 3).

〔成績評価の方法〕

Evaluations: weekly attendance, preparation and classroom participation 30%, 2 short research papers 20% each, final paper 30%.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Reading and Discussion
- 第3週 ♪
- 第4週 ♪
- 第5週 Reading and Discussion (first paper due)
- 第6週 Reading and Discussion
- 第7週 ♪
- 第8週 ♪
- 第9週 ♪
- 第10週 Reading and Discussion (second paper due)
- 第11週 Reading and Discussion
- 第12週 ♪
- 第13週 ♪
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

日本文化発信英語特殊演習II

3631080200100

副 題	Outside the Mainstream			担 当 者	J. F. モア 教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	火	時 限	2

〔授業の到達目標〕

This course has two goals: to stimulate students to learn more about Japan, and to provide them with the opportunity to discuss Japan in English.

〔授業の内容〕

Students will read excerpts from a text as well as producing their own essays on topics related to the text. We will examine the vocabulary and style of the text as well as discussing its content.

〔教材〕

教科書：David Suzuki and Keibo Oiwa, *The Other Japan*, Fulcrum Publishing, 1999

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation for classes (2 hours/week).

Preparation of papers (10 hours x 3).

〔成績評価の方法〕

Evaluations: weekly attendance, preparation and classroom participation 30%, 2 short research papers 20% each, final paper 30%.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Reading and Discussion
- 第3週 ♪
- 第4週 ♪
- 第5週 Reading and Discussion (first paper due)
- 第6週 Reading and Discussion
- 第7週 ♪
- 第8週 ♪
- 第9週 ♪
- 第10週 Reading and Discussion (second paper due)
- 第11週 Reading and Discussion
- 第12週 ♪
- 第13週 ♪
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

ビジネスコミュニケーション特殊演習I

3631010300100

副題	Discussing Business Topics			担当者	C. ウィン 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build English communication skills in dealing with various business related topics.

〔授業の内容〕

Students will examine and discuss various business related topics. Current news topics and business case studies will be used as material for analysis and discussion. Students will look at ways to organize opinions and present arguments. Students will work on improving their business discussion skills in English.

〔教材〕

No set text. Handouts will be given during class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

Attendance 30%, Homework 40%, Discussions & Presentations 30%

〔備考〕

英語コミュニケーション学科

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Discussions and Presentations
- 第2週 ♪
- 第3週 ♪
- 第4週 ♪
- 第5週 ♪
- 第6週 ♪
- 第7週 ♪
- 第8週 ♪
- 第9週 ♪
- 第10週 ♪
- 第11週 ♪
- 第12週 ♪
- 第13週 ♪
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

ビジネスコミュニケーション特殊演習II

3631010400100

副題	Discussing Business Topics			担当者	C. ウィン 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build English communication skills in dealing with various business related topics.

〔授業の内容〕

Students will examine and discuss various business related topics. Current news topics and business case studies will be used as material for analysis and discussion. Students will look at ways to organize opinions and present arguments. Students will work on improving their business discussion skills in English.

〔教材〕

No set text. Handouts will be given during class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

Attendance 30%, Homework 40%, Discussions & Presentations 30%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Discussions and Presentations
- 第2週 ♪
- 第3週 ♪
- 第4週 ♪
- 第5週 ♪
- 第6週 ♪
- 第7週 ♪
- 第8週 ♪
- 第9週 ♪
- 第10週 ♪
- 第11週 ♪
- 第12週 ♪
- 第13週 ♪
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

第二言語習得特殊演習I

3631010500100

副題	第二言語の学習			担当者	萱 忠義 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5

〔授業の到達目標〕

- (1) ことばの学習がどのように行われるのかを学ぶ。
- (2) ことばはどのように教えられるべきかを学ぶ。
- (3) 第二言語習得関連の文献を英語で読み、専門用語を理解する。

〔授業の内容〕

前期と後期を通して、第二言語習得を概観していく。前半部分では第二言語習得論はどのように行われるかを扱い、後半部分ではその教授法に焦点を当て講義を展開する。主な使用言語は英語で、学生の発表を中心とする（必要に応じて、日本語も使用する）。

〔教材〕

教科書：Shawn M. Clankie & 小林敏彦『言語と私たちの生活—Language and Our Lives』三修社、2013年
教科書以外の付加教材は、こちらで用意する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上、授業に参加すること（準備学習の時間は、1回の授業につき、予習に2時間、復習に1時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席及びクラスへの参加度20%、発表20%、クイズ20%、課題またはテスト40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 The Importance of Making Mistakes (1)
- 第3週 The Importance of Making Mistakes (2)
- 第4週 Active language learning (1)
- 第5週 Active language learning (2)
- 第6週 Learning to think in English (1)
- 第7週 Learning to think in English (2)
- 第8週 Vocabulary (1)
- 第9週 Vocabulary (2)
- 第10週 The Benefits of Studying Abroad (1)
- 第11週 The Benefits of Studying Abroad (2)
- 第12週 Paralanguage (1)
- 第13週 Paralanguage (2)
- 第14週 理解度の確認
- 第15週 総復習・まとめ

第二言語習得特殊演習II

3631010600100

副 題	第二言語の教授法			担 当 者	萱 忠義 准教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	月	時 限	5

〔授業の到達目標〕

- (1) ことばの学習がどのように行われるのかを学ぶ。
- (2) ことばはどのように教えられるべきかを学ぶ。
- (3) 第二言語習得関連の文献を英語で読み、専門用語を理解する。

〔授業の内容〕

前期と後期を通して、第二言語習得を概観していく。前半部分では第二言語習得論はどのように行われるかを扱い、後半部分ではその教授法に焦点を当て講義を展開する。主な使用言語は英語で、学生の発表を中心とする（必要に応じて、日本語も使用する）。

〔教材〕

教科書：Shawn M. Clankie & 小林敏彦『言語と私たちの生活—Language and Our Lives』三修社、2013年
教科書以外の付加教材は、こちらで用意する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上、授業に参加すること（準備学習の時間は、1回の授業につき、予習に2時間、復習に1時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席及びクラスへの参加度20%、発表20%、クイズ20%、課題またはテスト40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Listening (1)
- 第3週 Listening (2)
- 第4週 Reading (1)
- 第5週 Reading (2)
- 第6週 Teacher-Centered Classrooms and Grammar-Translation (1)
- 第7週 Teacher-Centered Classrooms and Grammar-Translation (2)
- 第8週 Speaking (1)
- 第9週 Speaking (2)
- 第10週 Writing (1)
- 第11週 Writing (2)
- 第12週 Learner-Centered Classrooms and Communicative Language Teaching (1)
- 第13週 Learner-Centered Classrooms and Communicative Language Teaching (2)
- 第14週 理解度の確認
- 第15週 総復習・まとめ

World Englishes 特殊演習I

3631010700100

副題	世界の多様な英語			担当者	高橋 礼子 専任講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

- (1) 英語の広がりや、世界における英語使用の現状について理解を深める。
- (2) 世界の多様な英語に触れ、英語の多様性について理解を深める。

〔授業の内容〕

まずは、英語使用の現状に注目し、英語がなぜ世界中に広がったのかを考察します。次に、映像等を通して世界の様々な英語に触れ、異なる文化・社会の中で使われる多様な英語の特徴と役割を認識し、英語の多様性について理解を深めていきます。

〔教材〕

初回の授業で説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、指定された文献を読んだ上で出席すること。

〔成績評価の方法〕

- (1) 授業への出席、積極的な参加 (30%)
- (2) グループ・プレゼンテーション (20%)
- (3) プレゼンテーション (20%)
- (4) 課題 (30%)

〔備考〕

オフィスアワー：木曜日、12：10～13：30

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 The spread of English
- 第3週 'Standard English' and 'non-standard Englishes'
- 第4週 'Native speaker' and 'non-native speaker'
- 第5週 English in Japan
- 第6週 English in Asia (1)
- 第7週 English in Asia (2)
- 第8週 グループ・プレゼンテーション (1)
- 第9週 グループ・プレゼンテーション (2)
- 第10週 Linguistic imperialism and critical awareness
- 第11週 The ownership of English
- 第12週 The future of English
- 第13週 プレゼンテーション (1)
- 第14週 プレゼンテーション (2)
- 第15週 まとめ

進捗状況に応じて、内容を変更する可能性があります。

World Englishes 特殊演習II

3631010800100

副 題	世界の多様な英語			担 当 者	高橋 礼子 専任講師		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	火	時 限	2

〔授業の到達目標〕

- (1) 英語の広がりや、世界における英語使用の現状について理解を深める。
- (2) 世界の多様な英語に触れ、英語の多様性について理解を深める。

〔授業の内容〕

まずは、英語使用の現状に注目し、英語がなぜ世界中に広がったのかを考察します。次に、映像等を通して世界の様々な英語に触れ、異なる文化・社会の中で使われる多様な英語の特徴と役割を認識し、英語の多様性について理解を深めていきます。

〔教材〕

初回の授業で説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、指定された文献を読んだ上で出席すること。

〔成績評価の方法〕

- (1) 授業への出席，積極的な参加 (30%)
- (2) グループ・プレゼンテーション (20%)
- (3) プレゼンテーション (20%)
- (4) 課題 (30%)

〔備考〕

オフィスアワー：木曜日，12：10～13：30

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 World Englishes (1)
- 第3週 World Englishes (2)
- 第4週 Intelligibility
- 第5週 Creativity
- 第6週 English in Japan (1)
- 第7週 English in Japan (2)
- 第8週 グループ・プレゼンテーション (1)
- 第9週 グループ・プレゼンテーション (2)
- 第10週 English as a Lingua Franca
- 第11週 International intelligibility
- 第12週 The future of English
- 第13週 プレゼンテーション (1)
- 第14週 プレゼンテーション (2)
- 第15週 まとめ

進捗状況に応じて、内容を変更する可能性があります。

副題	卒業論文作成 I			担当者	岩崎 光洋 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

論文とレポートの違いを理解する

〔授業の内容〕

卒業論文作成のための基礎知識の習得（テーマの現代性と意義，資料の検索法等について）

4年生は卒論提出までに2回の発表が必要。3年生は7月末までに卒論のテーマを決定すること。

〔教材〕

プリント使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

3時間

〔成績評価の方法〕

出席 30%，小論 30%，発表 40%

〔備考〕

政治・経済・文化に関する国内外のトピックをテーマに小論作成のトレーニングを実施します。提出の際の論文は英文とする。

〔授業計画〕

第1週	卒論とは
第2週	テーマ I テーマの選択法
第3週	テーマ II テーマの現代性・意義
第4週	テーマ III テーマの資料分析法
第5週	論文の形式 I 序論とは？
第6週	論文の形式 II 本論の構成
第7週	論文の形式 III 引用の処理法
第8週	論文の形式 IV 結論の導き方
第9週	小論発表 I (各自15分の発表後全員でディスカッション)
第10週	小論発表 II (各自15分の発表後全員でディスカッション)
第11週	小論発表 III (各自15分の発表後全員でディスカッション)
第12週	小論発表 IV (各自15分の発表後全員でディスカッション)
第13週	小論発表 V (各自15分の発表後全員でディスカッション)
第14週	小論発表 VI (各自15分の発表後全員でディスカッション)
第15週	小論発表 VII (各自15分の発表後全員でディスカッション)

副題	Intercultural Communication			担当者	G. R. ファリア 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

This course is intended to help students become competent in communication with others of diverse cultural backgrounds by helping them expand their range of verbal and nonverbal communication skills, become able to communicate effectively in unfamiliar settings, recognize the influence their own culture has had on the way in which they view themselves, and expand their knowledge of the ways of other cultures.

〔授業の内容〕

We will cover the first half of the text this semester. Each week students will form groups to present the content of the textbook to the class, and all students will also be given a handout of study guide questions on the chapter to prepare for discussion in class. Other supplementary readings will be suggested to give students a wider understanding of each topic, and topics for research papers will also be suggested. The course will be conducted entirely in English: readings, discussion, reports, presentations will all be done in English. Students will thus be continuously developing their English skills at the same time they are expanding their understanding of and skills in intercultural communication.

〔教材〕

教科書：Everett M. Rogers and Thomas M. Steinfatt, *Intercultural Communication*, Waveland Press, 1999

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2-3 hours each week to study the textbook and study guide questions, and another 2 hours to prepare for their presentation of the textbook when it is their turn.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), presentations (30%), and reports (40%).

〔備考〕

Students should have completed one of the following courses：英語コミュニケーション基礎演習I B, II B, III B, or IV B. It is also desirable to take a 2nd foreign language（第2外国語） for two years（基礎 I, II；応用 I, II） and to have a TOEIC score of over 650.

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Why study intercultural communication?
- 第3週 A history of intercultural contact
- 第4週 The roots of intercultural communication
- 第5週 Key concepts in intercultural communication
- 第6週 Key concepts in the study of culture
- 第7週 Cultural differences
- 第8週 Communication
- 第9週 Intrapersonal and interpersonal communication
- 第10週 Verbal communication
- 第11週 Cultural factors in interpersonal communication
- 第12週 Presentation of term reports
- 第13週 ♪
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

副題	Discussing Japan			担当者	J. F. モア 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

This is the spring term of a 2-year seminar concerned with the presenting of information about Japan in English. The purpose of the course is to read presentations related to Japan in English, and to write about and discuss Japan-related topics in English.

〔授業の内容〕

Third-year students will prepare summaries of reading assignments. We will discuss the texts' content, think about the intended audience, the writer's views and stance towards the material, the writer's background, etc. Students will improve their skills in reporting, summarizing and documenting information, and work toward the selection of their graduation-thesis topics. In July they will hand in a book report.

Fourth-year students will pursue their research for the graduation thesis in addition to reading the assignments and participating in discussion.

〔教材〕

教科書：Tessa Morris-Suzuki, *Re-inventing Japan*, M. E. Sharpe, 1998

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation of readings for each week's discussion (4 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and participation in class, 30% ; written assignments, 40% ; for 3d-year students, final examination, 30% and for 4th-year students, individual research progress 30%.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Getting acquainted
第2週	Reading and Discussion
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	Reading and Discussion Book Report for F I students.
第15週	Reading and Discussion

副題	「国際共通語」としての英語と世界の英語			担当者	高橋 礼子 専任講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

- (1) 世界における英語使用の現状について理解を深める。
- (2) 世界の多様な英語について理解を深める。
- (3) 「国際共通語」として英語を使う際に必要となる力について（自分なりの）考えをまとめる。
- (4) 論文の書き方を学ぶ。

〔授業の内容〕

ゼミの共通研究テーマは、「『国際共通語』としての英語と世界の英語」です。世界における英語使用の現状と英語が広まった背景に注目し、異なる文化・社会の中で使われる多様な英語の特徴と役割、国際的に通用する（しやすい）英語の特徴や、「国際共通語」として英語を使う際に必要となる力について議論します。

同時に、英語の文献を理解し、論理的に意見を述べることができる力を伸ばします。授業はディスカッションを中心に進め、プレゼンテーションも必須です。

3年時には、色々な文献を読んだり、映像を見たりして興味の幅を広げ、同時にリサーチ・スキルと論理的な思考能力を伸ばしていきます。4年時には各自が研究テーマを見つけ、そのテーマについて詳しく調べ、その結果を論文にまとめます。

〔教材〕

初回の授業で説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、指定された文献を読んだ上で出席すること。

〔成績評価の方法〕

- (1) 授業への出席と積極的な参加 (30%)
- (2) 発表 (30%)
- (3) 課題 (40%)

〔備考〕

オフィスアワー：木曜日、12：10～13：30

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 World Englishes (1), 文献の検索方法
- 第3週 World Englishes (2), 参考文献のまとめ方
- 第4週 English as a Lingua Franca (1)
- 第5週 English as a Lingua Franca (2)
- 第6週 中間発表 (1)
- 第7週 中間発表 (2)
- 第8週 Reading and Discussion (1)
- 第9週 Reading and Discussion (2)
- 第10週 Reading and Discussion (3)
- 第11週 Reading and Discussion (4)
- 第12週 卒業研究話し合い
- 第13週 期末発表 (1)
- 第14週 期末発表 (2)
- 第15週 まとめ

進捗状況により、内容を変更する可能性があります。

副題	ビジネス英語			担当者	C. ウィン 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to gain confidence in using business English.

〔授業の内容〕

この授業の目標はビジネス英語の環境に慣れ、実用的な英語のコミュニケーションスキルを向上させます。時事英語、様々なビジネストピックやシナリオを取り上げ、英語の学習に加え、ビジネスの知識や視野を広げます。ケーススタディーディスカッション、ビジネスミーティングのロールプレー、プレゼンテーションなどを行い、ビジネス英語の実践力を身につけます。会話力だけではなく、ビジネス英語の文書力も習得します。電子通信の時代に欠かせないビジネスEメールライティングの形式、表現、書き方を学び、練習を行います。高度な英語力を身につけるには、努力と継続的な勉強が必要です。

〔教材〕

教科書：David Cotton, David Falvey, and Simon Kent, *Market Leader Intermediate Business English Course Book with DVD-ROM*, (978-1-4082-3695-6) 3rd Edition, Longman (Pearson Education Limited), 2010

John Rogers, *Market Leader Intermediate Business English Practice File with CD*, (ISBN 978-1-4082-3696-3) 3rd Edition, Longman (Pearson Education Limited), 2010

受講対象者：TOEIC 650点以上の者

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席 30%、課題 40%、発表 10%、テスト 20%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ディスカッションやロールプレー
第2週	〃
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副 題	応用言語学：英語学習法・教授法			担 当 者	萱 忠義 准教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	火	時 限	4

〔授業の到達目標〕

- (1) 応用言語学の基礎を理解する。
- (2) 多様な英語教授法を概観する。
- (3) 効率的・効果的な教授法を研究する。
- (4) 応用言語学の知識を基礎として、自分の英語力向上に努める。
- (5) 卒業論文に向けて学術的な文章を書く準備をする。

〔授業の内容〕

英語をマスターするには、膨大な時間と労力を必要とします。しかし、なぜ英語学習は難しいのでしょうか？この演習では、「英語を効率的に勉強するにはどうしたらいいの？」「英語を教えるにはどうしたら効果的なのか？」などの疑問を解消すべく、第二言語習得研究（外国語の学習・教育に関する研究）において科学的に解明されている事柄を検証していきます。また、今までの研究結果に基づいて、効果的な言語学習方法及び教授法を考察し、自分自身の英語力向上にも努めます。

3年次より卒業論文に向けて準備をし、各々のテーマに沿った研究も行っていきます。

〔教材〕

教科書：Muriel Saville-Troike, *Introducing Second Language Acquisition*, 2nd Edition, Cambridge University Press, 2012

参考書：村野井仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店、2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上、授業に参加すること（準備学習の時間は、1回の授業につき、予習に2時間、復習に1時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席及びクラスへの参加度30%、発表30%、試験またはレポート40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|---|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | Chapter01: Introducing second language acquisition (1) |
| 第3週 | Chapter01: Introducing second language acquisition (2) |
| 第4週 | Chapter02: Foundations of second language acquisition (1) |
| 第5週 | Chapter02: Foundations of second language acquisition (2) |
| 第6週 | Chapter03: The linguistics of second language acquisition (1) |
| 第7週 | Chapter03: The linguistics of second language acquisition (2) |
| 第8週 | 卒業論文中間発表 (1) |
| 第9週 | 卒業論文中間発表 (2) |
| 第10週 | 学術論文の探し方・APA論文形式について |
| 第11週 | Chapter04: The psychology of second language acquisition (1) |
| 第12週 | Chapter04: The psychology of second language acquisition (2) |
| 第13週 | 理解度の確認 |
| 第14週 | 卒業論文発表 (1) |
| 第15週 | 卒業論文発表 (2) |

副題	卒業論文 I			担当者	岩崎 光洋 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4
<p>〔授業の到達目標〕 卒業論文とはいかなるものかを理解する</p> <p>〔授業の内容〕 卒業論文作成のための基礎知識（論理的な思考と明瞭な論述の習得のための実践的トレーニング）</p> <p>〔教材〕 プリント使用</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 3時間</p> <p>〔成績評価の方法〕 出席 30%，小論 30%，発表 40%</p> <p>〔備考〕 4年生の卒論発表を中心に，論理的思考と論述法を習得する。 3年生は4年生の卒論について，論理的な評価法を習得する。</p>							

〔授業計画〕

第1週	卒論のテーマとその意義について		
第2週	4年生の発表・評価		
第3週	〃		
第4週	〃		
第5週	論文の形式	I	
第6週	論文の形式	II	
第7週	論文の形式	III	
第8週	論文の形式	IV	
第9週	小論発表	I	
第10週	小論発表	II	
第11週	小論発表	III	
第12週	卒論発表	I	4年生2名による卒論の発表と3年生による評価
第13週	卒論発表	II	4年生2名による卒論の発表と3年生による評価
第14週	卒論発表	III	4年生2名による卒論の発表と3年生による評価
第15週	卒論発表	IV	4年生2名による卒論の発表と3年生による評価

副題	Intercultural Communication			担当者	G. R. ファリア 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

This course is intended to help students become competent in communication with others of diverse cultural backgrounds by helping them expand their range of verbal and nonverbal communication skills, become able to communicate effectively in unfamiliar settings, recognize the influence their own culture has had on the way in which they view themselves, and expand their knowledge of the ways of other cultures.

〔授業の内容〕

This course is a continuation of Intercultural Communication I. We will take up where we left off at the end of the first term and continue with the second half of the text. We will continue to conduct the classes in the same way as the first semester, but the content will be increasingly complex. The course will be conducted entirely in English; readings, discussion, reports, term paper, presentations will all be done in English. Students will thus be continuously developing their English skills at the same time they are expanding their understanding of and skills in intercultural communication.

〔教材〕

教科書：Everett M. Rogers and Thomas M. Steinfatt, *Intercultural Communication*, Waveland Press, 1999

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2-3 hours each week to study the textbook and study guide questions, and another 2 hours to prepare for their presentation of the textbook when it is their turn.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), reports (20%), presentations (20%), and a term paper (30%).

〔備考〕

Students should have completed one of the the following courses：英語コミュニケーション基礎演習I B, II B, III B, or IV B. It is also desirable to take a 2nd foreign language（第2外国語）for two years（基礎 I, II；応用 I, II）and have a TOEIC score of over 650.

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|---|
| 第1週 | Introduction |
| 第2週 | Nonverbal communication |
| 第3週 | Types of nonverbal communication |
| 第4週 | Assimilation and acculturation |
| 第5週 | Ethnic groups in the United States |
| 第6週 | The role of the media |
| 第7週 | Culture shock |
| 第8週 | Becoming more intercultural |
| 第9週 | Toward multiculturalism |
| 第10週 | The global village |
| 第11週 | Development programs in third world countries |
| 第12週 | Presentations of term papers |
| 第13週 | ◇ |
| 第14週 | ◇ |
| 第15週 | ◇ |

副題	Discussing Japan			担当者	J. F. モア 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

This is the autumn term of a 2-year seminar on the presenting of information about Japan in English. Third-year students will begin and pursue research projects on topics in their areas of interest.

Fourth-year students should complete their graduation theses in addition to participating in the class discussions.

〔授業の内容〕

Third-year students will report the progress of their research to the class. Their research may concern Japan exclusively, or be a comparison with other countries or cultures. While other languages may of course be used for research, the language of classroom discussion and written reports will be English.

Fourth year students will report on the progress of their research as well as joining the class discussion.

〔教材〕

Same as IC - IIC no need to purchase again.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation of presentations and reports each week (4 hours).

〔成績評価の方法〕

Evaluations will be based on students' attendance and contributions to classroom discussions 30%, and on timely progress in their reports on their research projects 70%.

〔備考〕

〔授業計画〕

- | | |
|------|---|
| 第1週 | Presentation of research interests and book reports |
| 第2週 | Reports and discussion |
| 第3週 | 〃 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | Presentation of research plans |
| 第15週 | 〃 |

副 題	「国際共通語」としての英語と世界の英語			担 当 者	高橋 礼子 専任講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	火	時 限	3

〔授業の到達目標〕

- (1) 世界における英語使用の現状と、世界的な英語の広がりに関して議論されている事柄について理解を深める。
- (2) 世界の多様な英語について理解を深める。
- (3) 国際的に通用する（しやすい）英語の特徴と、「国際共通語」として英語を使う際に必要となる力について（自分なりの）考えをまとめる。
- (4) 論文の書き方を学ぶ。4年生は卒業論文を完成させる。

〔授業の内容〕

ゼミの共通研究テーマは、「『国際共通語』としての英語と世界の英語」です。世界における英語使用の現状と、世界的な英語の広がりに関して議論されている事柄について理解を深め、多角的に考察します。最終的には、「国際共通語」として英語を用いたコミュニケーションにおいて、必要なことは何なのか、議論を深めます。春学期に引き続き、English as a Lingua FrancaとWorld Englishesに関する文献を中心に文献を読みます。

3年生は、卒業研究テーマに関する文献を読み進める準備を始めます。4年生は、中間発表や個人指導も行いながら卒業論文の執筆を進めます。

〔教材〕

初回の授業で説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、指定された文献を読んだ上で出席すること。

〔成績評価の方法〕

- (1) 授業への出席と積極的な参加 (30%)
- (2) 発表 (30%)
- (3) 課題 (40%)

〔備考〕

オフィスアワー：木曜日、12：10～13：30

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 World Englishes (1), 卒業論文指導
- 第3週 World Englishes (2), 卒業論文指導
- 第4週 English as a Lingua Franca (1), 卒業論文指導
- 第5週 English as a Lingua Franca (2), 卒業論文指導
- 第6週 中間発表 (1)
- 第7週 中間発表 (2)
- 第8週 卒業研究話し合い (1)
- 第9週 卒業研究話し合い (2)
- 第10週 Reading and Discussion (1)
- 第11週 Reading and Discussion (2)
- 第12週 Reading and Discussion (3)
- 第13週 最終発表 (1)
- 第14週 最終発表 (2)
- 第15週 まとめ

進捗状況により、内容を変更する可能性があります。

副題	ビジネス英語			担当者	C. ウィン 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to gain confidence in using business English.

〔授業の内容〕

この授業の目標はビジネス英語の環境に慣れ、実用的な英語のコミュニケーションスキルを向上させます。時事英語、様々なビジネストピックやシナリオを取り上げ、英語の学習に加え、ビジネスの知識や視野を広げます。ケーススタディーディスカッション、ビジネスミーティングのロールプレー、プレゼンテーションなどを行い、ビジネス英語の実践力を身につけます。会話力だけでなく、ビジネス英語の文書力も習得します。電子通信の時代に欠かせないビジネスEメールライティングの形式、表現、書き方を学び、練習を行います。高度な英語力を身につけるには、努力と継続的な勉強が必要です。

〔教材〕

教科書：David Cotton, David Falvey, and Simon Kent, *Market Leader Intermediate Business English Course Book with DVD-ROM*, (978-1-4082-3695-6) 3rd Edition, Longman (Pearson Education Limited), 2010

John Rogers, *Market Leader Intermediate Business English Practice File with CD*, (ISBN 978-1-4082-3696-3) 3rd Edition, Longman (Pearson Education Limited), 2010

受講対象者：TOEIC 650点以上の者

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席 30%、課題 40%、発表 10%、テスト 20%

〔備考〕

〔授業計画〕

第1週	ディスカッションやロールプレー
第2週	〃
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題	応用言語学：英語学習法・教授法			担当者	萱 忠義 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

- (1) 応用言語学の基礎を理解する。
- (2) 多様な英語教授法を概観する。
- (3) 効率的・効果的な教授法を研究する。
- (4) 応用言語学の知識を基礎として、自分の英語力向上に努める。
- (5) 卒業論文に向けて学術的な文章を書く準備をする。

〔授業の内容〕

英語をマスターするには、膨大な時間と労力を必要とします。しかし、なぜ英語学習は難しいのでしょうか？この演習では、「英語を効率的に勉強するにはどうしたらいいの？」「英語を教えるにはどうしたら効果的なのか？」などの疑問を解消すべく、第二言語習得研究（外国語の学習・教育に関する研究）において科学的に解明されている事柄を検証していきます。また、今までの研究結果に基づいて、効果的な言語学習方法及び教授法を考察し、自分自身の英語力向上にも努めます。

3年次より卒業論文に向けて準備をし、各々のテーマに沿った研究も行っていきます。

〔教材〕

教科書：Muriel Saville-Troike, *Introducing Second Language Acquisition*, 2nd Edition, Cambridge University Press, 2012

参考書：村野井仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店、2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上、授業に参加すること（準備学習の時間は、1回の授業につき、予習に2時間、復習に1時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席及びクラスへの参加度30%、発表30%、試験またはレポート40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔備考〕

〔授業計画〕

- | | |
|------|---|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | Chapter05: Social contexts of second language acquisition (1) |
| 第3週 | Chapter05: Social contexts of second language acquisition (2) |
| 第4週 | Chapter06: Acquiring knowledge for L2 use (1) |
| 第5週 | Chapter06: Acquiring knowledge for L2 use (2) |
| 第6週 | 学術論文の探し方・APA論文形式について・論文の書き方 (1) |
| 第7週 | 学術論文の探し方・APA論文形式について・論文の書き方 (2) |
| 第8週 | 卒業論文中間発表 (1) |
| 第9週 | 卒業論文中間発表 (2) |
| 第10週 | 卒業論文中間発表 (3) |
| 第11週 | Chapter07: L2 learning and teaching (1) |
| 第12週 | Chapter07: L2 learning and teaching (2) |
| 第13週 | 理解度の確認 |
| 第14週 | 卒業論文発表 (1) |
| 第15週 | 卒業論文発表 (2) |

卒業研究（春）

3631091100200

副題	(英語コミュニケーション学科)			担当者	J. F. モア 教授	
単位	8	開講期間	春学期集中	曜日		時限

〔授業の到達目標〕

問題を見だしそれに対する情報収集力を身に付け、解決方法を考える力を養う。

〔授業の内容〕

受講している英語コミュニケーション学科演習の担当教員の本で決めたテーマについて、研究の成果を卒業研究論文としてまとめる。

〔教材〕

論文指導の課程で逐次指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究，論文作成，担当教員との面談（240時間以上）。

〔成績評価の方法〕

論文作成課程及び論文査読。

〔備考〕

〔授業計画〕

論文作成課程及び提出までのスケジュールについては各ゼミにおいて指示する。

卒業研究（秋）

3631091100100

副 題	(英語コミュニケーション学科)			担 当 者	J. F. モア 教授	
単 位	8	開 講 期 間	秋学期集中	曜 日	時 限	

〔授業の到達目標〕

問題を見だしそれに対する情報収集力を身に付け、解決方法を考える力を養う。

〔授業の内容〕

受講している英語コミュニケーション学科演習の担当教員の本で決めたテーマについて、研究の成果を卒業研究論文としてまとめる。

〔教材〕

論文指導の課程で逐次指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究，論文作成，担当教員との面談（240 時間以上）。

〔成績評価の方法〕

論文作成課程及び論文査読。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

論文作成課程及び提出までのスケジュールについては各ゼミにおいて指示する。

卒業論文（春）

3631091200200

副 題	(英語コミュニケーション学科)			担 当 者	J. F. モア 教授	
単 位	8	開講期間	春学期集中	曜 日	時 限	

〔授業の到達目標〕

問題を見だしそれに対する情報収集力を身に付け、解決方法を考える力を養う。

〔授業の内容〕

受講している英語コミュニケーション学科演習の担当教員の本で決めたテーマについて、研究の成果を卒業論文としてまとめる。

〔教材〕

論文指導の課程で逐次指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究，論文作成，担当教員との面談（240時間以上）。

〔成績評価の方法〕

論文作成課程及び論文査読。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

論文作成課程及び提出までのスケジュールについては各ゼミにおいて指示する。

卒業論文（秋）

3631091200100

副 題	(英語コミュニケーション学科)			担 当 者	J. F. モア 教授	
単 位	8	開講期間	秋学期集中	曜 日	時 限	

〔授業の到達目標〕

問題を見だしそれに対する情報収集力を身に付け、解決方法を考える力を養う。

〔授業の内容〕

受講している英語コミュニケーション学科演習の担当教員の本で決めたテーマについて、研究の成果を卒業論文としてまとめる。

〔教材〕

論文指導の課程で逐次指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究，論文作成，担当教員との面談（240時間以上）。

〔成績評価の方法〕

論文作成課程及び論文査読。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

論文作成課程及び提出までのスケジュールについては各ゼミにおいて指示する。

共通科目（外国語科目 1 群・2 群を除く）

平成 27 年度授業科目および担当者

講 義 内 容（シラバス）

共通科目（外国語を除く） 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁
			全学科				
特別総合科目群	特別総合科目Ⅰ（外交官）	外交・国際交流の第一線から	2～	春	2	阿曾村智子	496
	特別総合科目Ⅱ（特派員）	真の国際交流を求めて	1～	春	2	今成 勝彦	497
	特別総合科目Ⅲ（国際企業）	世界に羽ばたく組織と人材の最前線	2～	春	2	金城 亜紀	498
	特別総合科目Ⅳ（東アジア共同体論-学際的アプローチ）		1～	秋	2	金野 純	499
	特別総合科目Ⅴ（環境問題）	地球・自然・人と生き物たち	1～	春	2	品川 明	500
	特別総合科目Ⅵ（職業選択）	キャリア・デザイン（主体的な人生を送るために）	1～	春	2	木村 進	501
	特別総合科目Ⅶ（現代時事分析1）	現役記者によるニュース分析	2～	春	2	石澤 靖治	502
	特別総合科目Ⅷ（現代時事分析2）	海外特派員経験者が現場報告	2～	秋	2	石澤 靖治	503
	特別総合科目Ⅸ（フードコンシャスネス論1）	食の真の価値を考える～食教育の新しい視座	1～	春	2	品川 明	504
	特別総合科目Ⅹ（フードコンシャスネス論2）	フードコンシャスネスと食を自覚する授業	2～	秋	2	品川 明	505
	特別総合科目Ⅺ（オリンピックの探究）	「オリンピック・リテラシー」の成熟に向けて	1～	秋	2	荒井 啓子	506
国際文化交流論科目群	国際文化交流論Ⅰ（日本の国際文化交流）	自分探しの異文化交流 ー自分を知り、日本を知るー	1～	春	2	伊部 正信	507
	国際文化交流論Ⅱ（国際開発協力）	国際開発協力の現場と異文化理解	1～	秋	2	藤谷 浩至	508
	国際文化交流論Ⅲ（日本文化交流史）	中・東欧において日本文化交流を実践するために	1～	春	2	中島 崇文	509
	国際文化交流論Ⅳ（戦争と平和）		1～	春	2	奥村 快也	510
	国際文化交流論Ⅴ（国際ビジネス）		2～	秋	2	金城 亜紀	511
	国際文化交流論Ⅵ（技術交流）		1～	春	2	伊藤由紀子	512
	国際文化交流論Ⅶ（報道と文化交流）		1～	-	2	-	-
	国際文化交流論Ⅷ（環境教育）	国際文化交流のための環境教育等の実践	1～	秋	2	品川 明	513
	国際文化交流論Ⅸ	Japan-U.S. relations and Japan-East Asia relations	1～	秋	2	石澤 靖治	514
共通基礎科目群	法学Ⅰ	法学入門（導入と刑事法の基礎）	1～	春	2	櫻井 大三	515
	法学Ⅱ	法学入門（民事法の基礎）	1～	秋	2	櫻井 大三	516
	日本国憲法		1～	春	2	福井 康佐	517
	教育学	社会変動と教育	1～	春	2	張 瓊華	518
	哲学	哲学的に考える。	1～	秋	2	杉山晃太郎	519
	心理学		1～	春	2	角尾 美奈	520
	基礎政治学	グローバリゼーションと国民国家	1～	秋	2	杉原 志啓	521
	基礎経済学	新聞の経済記事の読み方	1～	秋	2	佐久間 潮	522
	基礎社会学	現代社会論入門	1～	春	2	時安 邦治	523
	基礎統計学	初めて学ぶ統計学	1～	秋	2	竹内 俊子	524
	日本近代史概論	近代日本における制度・政策、経済、社会	1～	秋	2	森田 貴子	525
	西洋近代史概論	寛容と迫害のヨーロッパ史	1～	秋	2	高津 美和	526
	西洋思想史概論	近代の社会哲学	1～	秋	2	時安 邦治	527
	日本芸術論	美術をめぐる理念とその展開	1～	春	2	石田 佳也	528
	西洋芸術論	中欧文化 チェコ、ポーランド、ハンガリーの歴史と芸術を中心に	1～	秋	2	遠藤 望	529
	英語学概論	英語史と言語研究の概観	1～	秋	2	古庄 信	530

共通科目
外国語を除く

共通科目（外国語を除く） 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次		学期	単位	担当者	頁
			1	2				
共通基礎	学習院史Ⅰ		1～		春	2	藤田 英昭	531
	学習院史Ⅱ		1～		—	2	—	
人間・環境系科目群	人間関係論Ⅰ（家族）		1～		春	2	石黒 史郎	532
	人間関係論Ⅱ（母体の健康と育児）		1～		春	2	安藤 朗子	533
	人間関係論Ⅲ（幼児教育）	医学的視点からみた子どもの発達と教育	1～		秋	2	澤口 聡子	534
	人間関係論Ⅳ（カウンセリング論）		1～		秋	2	角尾 美奈	535
	人間関係論Ⅴ（地域社会）		1～		秋	2	高久 聡司	536
	人間関係論Ⅵ（組織社会）	集団と組織の社会学	1～		春	2	時安 邦治	537
	人間関係論Ⅶ（女性）		1～		秋	2	中村優美子	538
	社会環境論Ⅰ（環境法）	国際環境問題解決のための法制度	1～		秋	2	小中さつき	539
	社会環境論Ⅱ（環境経済学）	ミクロ経済学とその環境問題への応用	1～		春	2	荘林幹太郎	540
	社会環境論Ⅲ（食糧の安全性）	食の本質と食品の安全性	1～		春	2	品川 明	541
	社会環境論Ⅳ（エネルギーと社会問題）		1～		—	2	—	—
	自然環境論Ⅰ（エコロジー）	気づきから人間の責任ある行動へ 体験学習による生態学	1～		春	2	品川 明	542
	自然環境論Ⅱ（自然環境の保全）	北海道のゆったりした自然の中で自分の中の自然を育てる	1～	繰中		2	山本 幹彦	543
	自然環境論Ⅲ（生物資源利用）	植物資源の利用	1～		春	2	阿部 誠	544
	自然環境論Ⅳ（環境汚染）	東日本大震災の復興と持続可能な町づくり	1～	繰中		2	品川・平井	545
	生活環境論Ⅰ（人間と食）	食の基礎と母乳の科学	1～		秋	2	品川 明	546
	生活環境論Ⅱ（ウエルネス論）	身体・健康・環境～well-beingについて考える	1～		秋	2	荒井 啓子	547
	生活環境論Ⅲ（健康と栄養）	食物と健康	1～		春	2	阿部 誠	548
	生活環境論Ⅳ（社会福祉論）	女性と社会福祉	1～		秋	2	田中恵美子	549
	生活環境論Ⅴ（生活者と環境）	私たちにとって有意義な生活とは何か	1～		春	2	内田 直子	550
	地球環境論Ⅰ	地球環境問題への総合的アプローチ	1～		春	2	荘林幹太郎	551
	地球環境論Ⅱ	事例分析を通じた複雑性の理解に向けて	1～		秋	2	荘林幹太郎	552
	情報技術科目群	情報処理ⅠA（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	1～		春	2	清水 将吾
情報処理ⅠB（コンピュータ入門）		コンピュータ入門	1～		春	2	清水 将吾	554
情報処理ⅠC（コンピュータ入門）		コンピュータ入門	1～		春	2	岩城 宏明	555
情報処理ⅠD（コンピュータ入門）		コンピュータ入門	1～		春	2	岩城 宏明	556
情報処理ⅠE（コンピュータ入門）		コンピュータ入門	1～		春	2	清水 将吾	557
情報処理ⅠF（コンピュータ入門）		コンピュータ入門	1～		春	2	加園 克己	558
情報処理ⅠG（コンピュータ入門）		コンピュータ入門	1～		春	2	岩城 宏明	559
情報処理ⅠH（コンピュータ入門）		コンピュータ入門	1～		春	2	加園 克己	560
情報処理ⅠI（コンピュータ入門）		コンピュータ入門	1～		春	2	市川 収	561
情報処理ⅠJ（コンピュータ入門）		コンピュータ入門	1～		春	2	市川 収	562
情報処理ⅡA（コンピュータ基礎）		コンピュータ基礎	1～		秋	2	清水 将吾	563
情報処理ⅡB（コンピュータ基礎）		コンピュータ基礎	1～		秋	2	清水 将吾	564

共通科目
（外国語を除く）

共通科目（外国語を除く） 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次		学期	単位	担当者	頁
			1～	2～				
情報技術科目群	情報処理ⅡC（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	1～		秋	2	岩城 宏明	565
	情報処理ⅡD（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	1～		秋	2	岩城 宏明	566
	情報処理ⅡE（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	1～		秋	2	清水 将吾	567
	情報処理ⅡF（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	1～		秋	2	加園 克己	568
	情報処理ⅡG（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	1～		秋	2	岩城 宏明	569
	情報処理ⅡH（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	1～		秋	2	加園 克己	570
	情報処理ⅡI（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	1～		秋	2	市川 収	571
	情報処理ⅡJ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	1～		秋	2	市川 収	572
	情報処理Ⅲ（コンピュータ応用）	画像処理	1～	春		2	岩城 宏明	573
	情報処理Ⅳ（コンピュータ応用）	プログラム作成	1～		秋	2	岩城 宏明	574
	文献情報		1～	-	-	2	-	-
社会調査法		1～		秋	2	本柳 亨	575	
日本語表現法科目群	日本語表現法ⅠA	「書きことば」による文章表現	1～	春		2	阿部美菜子	576
	日本語表現法ⅠB	「書きことば」による文章表現	1～	春		2	阿部美菜子	577
	日本語表現法ⅠC	「書きことば」による文章表現	1～	春		2	奥泉 香	578
	日本語表現法ⅠD	「書き言葉による文章表現」	1～	春		2	村上 佳恵	579
	日本語表現法ⅠE	「書き言葉による文章表現」	1～	春		2	村上 佳恵	580
	日本語表現法ⅠF		1～	春		2	木村 直恵	581
	日本語表現法ⅠG	アカデミックライティング	1～	春		2	福島 直恭	582
	日本語表現法ⅠH	「書きことば」による文章表現	1～		秋	2	阿部美菜子	583
	日本語表現法ⅠI	「書きことば」による文章表現	1～		秋	2	阿部美菜子	584
	日本語表現法ⅠJ	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	1～		秋	2	奥泉 香	585
	日本語表現法ⅠK	「書き言葉による文章表現」	1～		秋	2	村上 佳恵	586
	日本語表現法ⅠL	「書きことば」による文章表現	1～		秋	2	加藤 陽子	587
	日本語表現法ⅠM		1～		秋	2	木村 直恵	588
	日本語表現法ⅠN	アカデミックライティング	1～		秋	2	福島 直恭	589
	日本語表現法ⅡA	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	1～	春		2	阿部美菜子	590
	日本語表現法ⅡB	「書きことば」による文章表現	1～	春		2	奥泉 香	591
	日本語表現法ⅡC	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	1～	春		2	村上 佳恵	592
	日本語表現法ⅡD	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	1～		秋	2	阿部美菜子	593
日本語表現法ⅡE	「書きことば」による文章表現	1～		秋	2	奥泉 香	594	
日本語表現法ⅡF	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	1～		秋	2	村上 佳恵	595	
科学スポーツ・健康科目群	スポーツ・健康科学演習ⅠA	ダンスと文化（日本の踊りと世界のダンス）	1～	春		2	荒井 啓子	596
	スポーツ・健康科学演習ⅠB	和の身体技法	1～	春		2	森田 ゆい	597
	スポーツ・健康科学演習ⅠC	レクリエーションとニュースポーツ	1～	春		2	針ヶ谷雅子	598
	スポーツ・健康科学演習ⅠD	世界の身体技法	1～	春		2	瀬戸 邦弘	599

共通科目
外国語を除く

共通科目（外国語を除く） 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次	学期	単位	担当者	頁
			全学科				
健康科学演習科目群	スポーツ・健康科学演習 I E	スポーツ技術とゲーム（テニス）	1～	春	2	吉成 啓子	600
	スポーツ・健康科学演習 II A	東洋の養生法（太極拳と呼吸法）	1～	秋	2	荒井 啓子	601
	スポーツ・健康科学演習 II B	スポーツ技術とゲーム（バドミントン）	1～	秋	2	吉成 啓子	602
	スポーツ・健康科学演習 II C	からだところをほぐすワーク	1～	秋	2	針ヶ谷雅子	603
	スポーツ・健康科学演習 II D	フラダンスとハワイの身体文化	1～	秋	2	針ヶ谷雅子	604
	スポーツ・健康科学演習 II E	生涯スポーツとしてのバレーボール	1～	秋	2	吉成 啓子	605
伝統文化演習科目群	伝統文化演習 I A（書道）		1～	春	2	香川 明美	606
	伝統文化演習 I B（書道）		1～	春	2	齊藤 登	607
	伝統文化演習 II A（書道）		1～	秋	2	香川 明美	608
	伝統文化演習 II B（書道）		1～	秋	2	齊藤 登	609
	伝統文化演習 III A（華道）		1～	春	2	池坊・飯塚	610
	伝統文化演習 III B（華道）		1～	春	2	池坊・飯塚	611
	伝統文化演習 IV A（華道）		1～	秋	2	池坊・飯塚	612
	伝統文化演習 IV B（華道）		1～	秋	2	池坊・飯塚	613
	伝統文化演習 V A（茶道）		1～	春	2	岩田 明子	614
	伝統文化演習 V B（茶道）		1～	春	2	岩田 明子	615
	伝統文化演習 V C（茶道）	国際人としての茶の湯	1～	春	2	中澤 宗寿	616
	伝統文化演習 V D（茶道）	国際人としての茶の湯	1～	春	2	中澤 宗寿	617
	伝統文化演習 VI A（茶道）		1～	秋	2	岩田 明子	618
	伝統文化演習 VI B（茶道）		1～	秋	2	岩田 明子	619
	伝統文化演習 VI C（茶道）	国際人としての茶の湯	1～	秋	2	中澤 宗寿	620
	伝統文化演習 VI D（茶道）	国際人としての茶の湯	1～	秋	2	中澤 宗寿	621
	伝統文化演習 VII A（香道）		1～	春	2	三條西公彦	622
	伝統文化演習 VII B（香道）		1～	春	2	三條西公彦	623
	伝統文化演習 VII C（香道）		1～	春	2	三條西公彦	624
	伝統文化演習 VII D（香道）		1～	春	2	三條西公彦	625
	伝統文化演習 VIII A（香道）		1～	秋	2	三條西公彦	626
	伝統文化演習 VIII B（香道）		1～	秋	2	三條西公彦	627
	伝統文化演習 VIII C（香道）		1～	秋	2	三條西公彦	628
	伝統文化演習 VIII D（香道）		1～	秋	2	三條西公彦	629
	伝統文化演習 IX A（有職故実）	十二単の着装実習を軸として	1～	春	2	仙石 久	630
	伝統文化演習 IX B（有職故実）	十二単の着装実習を軸として	1～	春	2	仙石 久	631
	伝統文化演習 IX C（有職故実）	十二単の着装実習を軸として	1～	春	2	鮫嶋 康順	632
	伝統文化演習 X A（有職故実）	十二単の着装実習を軸として	1～	秋	2	仙石 久	633
	伝統文化演習 X B（有職故実）	十二単の着装実習を軸として	1～	秋	2	仙石 久	634
	伝統文化演習 X C（有職故実）	十二単の着装実習を軸として	1～	秋	2	鮫嶋 康順	635

共通科目
（外国語を除く）

共通科目（外国語を除く） 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次		学期	単位	担当者	頁
			全学科					
国際文化交流演習科目群	国際文化交流演習Ⅰ（国際儀礼）	現代の国際儀礼（プロトコール）	1～		秋	2	阿曾村智子	636
	国際文化交流演習ⅡA（演劇）	イギリス現代劇を翻訳し、上演台本を作る	1～		秋	2	小田島則子	637
	国際文化交流演習ⅡB（演劇）	演劇祭運営実習	1～		秋	2	尼ヶ崎 彬	638
	国際文化交流演習Ⅲ（音楽）	日本の大衆音楽	1～		春	2	杉原 志啓	639
	国際文化交流演習Ⅳ（映画）		1～		秋	2	土田 環	640
	国際文化交流演習ⅤA（美術）	日本美術に親しむ	1～		秋	2	上野 友愛	641
	国際文化交流演習ⅤB（美術）	美術館における国際文化交流	1～	春集中		2	丹羽 晴美	642
	国際文化交流演習Ⅵ（シンクタンク）		2～		秋	2	這禽 恵子	643
	国際文化交流演習ⅦA（海外語学研修）	Lethbridge ELS/LECTURE/INTERNSHIP	1～	春集中		2	岩崎 光洋	644
	国際文化交流演習ⅦB（海外語学研修）	Deakin ELS/LECTURE/INTERNSHIP	1～		秋集中	2	岩崎 光洋	645
	国際文化交流演習ⅦC（海外語学研修）	English Programme at ISLI, Reading University	1～	春集中		2	古庄 信	646
	国際文化交流演習Ⅷ（情報メディア）	ニュース翻訳	2～		秋	2	藤原 朝子	647
	国際文化交流演習ⅧA（海外ボランティア）	Volunteer Activities	1～	春集中		2	岩崎 光洋	648
	国際文化交流演習ⅧB（海外ボランティア）	Volunteer Activities	1～		秋集中	2	岩崎 光洋	649
	国際文化交流演習Ⅸ（アートマネジメント）		1～	-	-	2	-	-
	国際文化交流演習ⅩⅠ（ワシントン・セミナー1）	国際協力と文化交流	2～	春集中		2	櫻井・ウーゴ	650
	国際文化交流演習ⅩⅡ（ワシントン・セミナー2）	現地で学ぶアメリカの政治と歴史	2～	春集中		2	畠山 圭一	651
国際文化交流演習ⅩⅢ（開発途上国研修1）		1～		秋	2	伊藤由紀子	652	
国際文化交流演習ⅩⅣ（開発途上国研修2）		1～		秋集中	2	伊藤由紀子	653	
科生活文化演習	生活文化演習Ⅰ（染色）		1～		春	2	佐久間敏子	654
	生活文化演習Ⅱ（刺繍）		1～		秋	2	佐久間敏子	655
	生活文化演習Ⅲ（食品製造）	食品製造	1～		春	2	阿部 誠	656
	生活文化演習Ⅳ（食品加工）	食品加工	1～		秋	2	阿部 誠	657
	生活文化演習Ⅴ（空間造形）	製図の基礎と住空間の設計	1～		春	2	渡邊 保弘	658
	生活文化演習Ⅵ（空間造形）	空間の立体表現と住宅設計	1～		秋	2	渡邊 保弘	659
社会演習	ボランティア演習	国際協力NGOでボランティアを体験する	1～		秋	2	野口 朝夫	660
	社会儀礼演習	社会人として必要なマナー知識や作法を学ぶ	2～		春	2	明石 伸子	661

共通科目
外国語を除く

副題	外交・国際交流の第一線から			担当者	阿曾村 智子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

(1) 外交官の仕事について、その法律上の立場から実際の日常業務まで具体的な事例を通じて総合的に理解することにより、世界や日本の平和と繁栄のために外交官が果たす役割について理解を深める。(2) 将来、国際交流・国際協力の活動に携わるにあたって現場で役に立つ基本的な知識やものの見方を身につける。(3) 一市民として日本の外交政策に対して自分なりの意見を持てるようになる。

〔授業の内容〕

外交の機能は、情報収集、政策形成、交渉、広報、国際協力活動の支援、在留自国民の保護など、広範囲にわたっている。近年においては、二国間のみならず国際機関や国際会議などを通じた多国間外交の舞台も拡大している。独立行政法人や民間団体(NGO)の活動もますます重要な役割を果たすようになってきた。本講義では、こうした広義の意味での「外交官」の諸側面を考察の対象としている。内外の大使経験者をはじめ国際舞台の第一線で外交・国際交流および国際協力に携わる様々な関係者を招き、体験談を通じて外交や国際関係の実態を浮き彫りにしたい。

〔教材〕

教科書：外務省儀典官室『国際儀礼に関する12章—プロトコール早わかり』財団法人世界の動き社、2004年
 参考書：ハロルド・ニコルソン著/斎藤真&深谷満雄訳『外交』(UP選書)東大出版会、1968年
 矢田部厚彦『職業としての外交官』(文春新書)文芸春秋、2001年
 大日方和雄『領事の仕事 国際人のサポーター』有信堂、2005年
 緒方貞子序&西崎真理子他著『国際協力を仕事として—開発・人道援助に飛び立つ女性たち—』第4版、彌生書房、2000年
 金子将史・北野充編著『パブリック・ディプロマシー』PHP研究所、2007年
 友田二郎『国際儀礼とエチケット(新装普及版)』学生社、2001年
 上記の他にも内外の外交官の回想録等を授業中に適宜紹介する。

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に提示する指定図書にあらかじめ目をとおり、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。ゲスト講師の場合には、講演内容概要とコメントおよび質問を文章にまとめて提出すること。

〔成績評価の方法〕

期末の筆記試験(50%)および学期中数回提出のリアクション・ペーパーの内容(まとめて50%)を基に総合的に判断する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	序論：外交官とは？
第2週	外交に関する基礎知識(1) 在外公館の役割
第3週	外交と文化：国際文化交流と日本文化の紹介
第4週	外交官の仕事：領事務務
第5週	外交官の仕事：情報の収集と分析
第6週	第3回～第5回のまとめ
第7週	外交に関する基礎知識(2) 「外交官」に関する基本文献
第8週	大使の仕事：二国間関係の場合
第9週	大使夫人の仕事：接遇と文化交流
第10週	(独立行政法人)国際交流基金の仕事
第11週	国際文化協力活動に携わるNGOの活動
第12週	第7回～第10回のまとめ
第13週	外交に関する基礎知識(3) プロトコールとマナー
第14週	21世紀の日本の外交戦略
第15週	総括

講義テーマの順はゲスト・スピーカーの日程調整の都合により、上記の授業計画と多少異なる場合もある。具体的なゲスト・スピーカーの日程等については学期初めの講義で発表する。

副題	真の国際交流を求めて			担当者	今成 勝彦 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

国際交流を学ぶ上で、基本となるものとは何かを自分で考え、実行できるだけの素養を身につけるきっかけとしたい。特に、学習院らしい教養として日本の伝統文化の基礎を重視する。海外の相手から交流するにあたって魅力を感じさせるだけの素地が何かを考える。

〔授業の内容〕

国際交流の基礎となる国際理解力を高めるために、現在の世界が直面する課題を中心に取り上げる。外の世界だけでなく、日本の素晴らしさなどにも目を向ける。これらの内外の各分野で活躍する著名なジャーナリストや学者、専門家をゲストスピーカーに招き、生の声を聞き、真の国際交流とは何かを考える。

米国ではオバマ大統領が2期目の後半を迎え、昨年秋、中間選挙で国民の審判を受けた。医療保険制度の充実、外交ではイスラム国の台頭などの世界情勢が焦点となる。中国でも習近平体制がますます大胆な施策を打ち出し、日中関係が一段とギクシャクするなど、新たな世界情勢が生まれてきた。国内でも安倍政権が経済の立て直しに続いて様々なタカ派路線を強める。こうした内外の最新情勢がどんな意味合いをもつか、じっくりと考える。

国際交流というともすると、外国事情の吸収に集中しがちだ。しかし、交流する相手は日本を知りたがっているのだ。交流はギブ・アンド・テークの関係でなければ成り立たない。その意味で、我々の方からギブできるものに目を向ける。

具体的には日本文化で誇れるものとして、日本映画や漫画文化などを取り上げる。皇室も考えたい。外の世界の知識だけでなく、自国の文化をしっかりと説明できる素養を持つことが、真の国際人には不可欠な要件である。胸を張って自国を語れることが国際交流への第一歩となる。普段は会えない一流のゲストスピーカーから話を聞くのが、この講座の醍醐味であり、大いに活用してほしい。

〔教材〕

推薦図書は授業で紹介するが、特定の教科書は使わない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は原則的に必要がありません。復習は、各回のゲストスピーカーが提起した課題を自分の目でもう一度調べて資料などで確かめるなど、自分なりの「まとめ」を作っておく。期末に提出する課題レポートの準備になる。（時間、各回約1時間程度）

〔成績評価の方法〕

期末のレポート提出で評価する。講座で扱ったテーマをどれだけ深く理解できたか、そこからどれだけ問題意識を育てられたかなどがポイント。具体的な書き方などは最終授業で説明する。引用資料、文章の表現力などもあわせて評価するので、オリジナルティのある文章に期待する。レポート80点、受講態度など20点。

〔備考〕

貴重な時間を割いて講義に来ていただくゲストスピーカーに失礼なので、授業中の私語は厳禁する。途中での退席は絶対に認めない。学習院女子大生の評価を低めるような授業態度にならないように注意すること。違反者には厳しく臨み、登録取り消しもあり得る。誇りをもって受講してほしい。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1週 | ガイダンス（この時点までにゲストスピーカー予定の確定版を発表する） |
| 第2週 | ゲストスピーカー（未定） |
| 第3週 | 今成「国際情報をつかむ」 |
| 第4週 | 日米関係スペシャリストに聞く（未定） |
| 第5週 | ゲストスピーカー（未定） |
| 第6週 | 潘阿憲専修大教授（未定）、中国人からみた日中の受け止め方の違い |
| 第7週 | ゲストスピーカー（未定） |
| 第8週 | ゲストスピーカー神田皇室ジャーナリスト「皇室報道」（予定） |
| 第9週 | ゲストスピーカー清水前帝京平成大教授「漫画の歴史」（未定） |
| 第10週 | ゲストスピーカー作詩家ではなく「歌謡曲と作詩」（未定） |
| 第11週 | ゲストスピーカー岡田共同通信論説委員「中国との付き合い方」（予定） |
| 第12週 | ゲストスピーカー政治評論家（未定） |
| 第13週 | 今成「原爆と平和を考える」 |
| 第14週 | 予備 残るトピックスを取り上げる |
| 第15週 | まとめ |

ゲストスピーカーは予定であり、最終決定でない方々も多いので、必ずしもこの予定表どおりでないことを承知しておいてください。変更は随時、講座でお知らせする。

特別総合科目Ⅲ（国際企業）

3731001300100

副 題	世界に羽ばたく組織と人材の最前線			担 当 者	金城 亜紀 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	木	時 限	1

〔授業の到達目標〕

1. グローバル化が組織にどのような変化をもたらしているかを理解する。
2. 21世紀に活躍できる人材について自分なりの考えを確立し、論理的に主張できるようになる。

〔授業の内容〕

今日、あらゆる組織はグローバル化の渦中にいます。本授業では、「国際企業」の「企業」を「組織」と読み替え、グローバル化した組織と人材について考えます。

理解を深めるために、対象分野は企業に加え、国際的な活動が顕著なNPO、NGO、研究開発等を含めます。理論と実践の架け橋として、現場感覚に富んだ第一線の実務家をテーマに応じてお招きします。

本授業は、ディスカッションを重視し、受講生に積極的な発言を求めます。予備知識は必要ありませんが、好奇心とガッツのある方、チームとしてお互いを高め合うことを重んじる方を歓迎します。

〔教材〕

必用に応じて指示・配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

「（1）理論と知識の整理、（2）実務家の講義、（3）ディスカッションと小括」をワンセットとして授業を展開します。各セット毎に、（1）と（2）に関して自分の考えをまとめるレポートを課し、（3）の準備とします。

〔成績評価の方法〕

レポート（5本程度）：75%

クラスでの発表・発言：25%

〔備考〕

- ・オフィスアワーは木曜日の2限です。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Kick-off
- 第2週 拡大する国際協力
- 第3週 実務家講義（1）
- 第4週 ディスカッションと小括（1）
- 第5週 グローバルな問題の解決に向けて
- 第6週 実務家講義（2）
- 第7週 ディスカッションと小括（2）
- 第8週 国境を超える企業活動
- 第9週 実務家講義（3）
- 第10週 ディスカッションと小括（3）
- 第11週 グローバル化した投資活動
- 第12週 実務家講義（4）
- 第13週 ディスカッションと小括（4）
- 第14週 「グローバル人材」とは何か
- 第15週 理解度の確認と総括

実務家講師の詳細は開講時にお知らせします。より良い授業にするために、また、実務家講師の都合により、本計画を修正することがあります。

副題				担当者	金野 純 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

本授業では、日本だけではなく、中国・韓国など東アジア各国から講師を招き、多様な専門分野から東アジアが共有する課題について分析する。したがって本授業の最終的な到達目標は、東アジアの政治や歴史、さらには環境問題などについて、各専門分野の分析を通して、東アジアが共有する課題を具体的に知り、同時に共同性の構築がもたらすベネフィットについても議論することで、より多角的な視野から東アジアを分析する目を養うことである。

〔授業の内容〕

本授業は東アジアの現在について、（１）経済、環境、文化などの（国境を越えた）広域的課題と（２）政治、社会、歴史認識などの（国境内もしくはナショナリズムに関わる）狭域的課題の２つの側面から分析する。こうした学際的授業を実施するため、本学の教員に加えて国内外の代表的な研究者・専門家を招聘して授業をおこなう。現時点で予定されている使用言語は、日本語、英語、中国語、韓国語であるが、外国語の授業の際には通訳をつける。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業に際しては、あらかじめ各回の内容について、文献等で予習しておくこと。また受講した後、授業内容についてノートおよび参考文献等を参照しつつまとめておく必要がある。

〔成績評価の方法〕

成績評価は、（１）出席状況と授業への参加態度（３０％）、（２）各回の授業に関連した課題の成績（７０％）を総合的に評価する。

〔備考〕

本授業は、ワンアジア財団の寄付を受けて開講される授業である。
本授業の成績優秀者には、財団から奨学金が支給されることがある。

〔授業計画〕

第1週	イントロダクション	講師：金野純（学習院女子大学）
第2週	総論：アジア共同体の構想と展開	講師：鄭俊坤（ワンアジア財団 首席研究員）
第3週	歴史：戦時期における日中交流史	講師：李嘉冬（東華大学 講師）
第4週	歴史：中国・韓国の歴史認識	講師：朴尚洙（高麗大学 副教授）
第5週	歴史：東アジア経済史	講師：李培徳（華中師範大学近代史研究所 教授）
第6週	市民社会：日本社会のシティズンシップ	講師：時安邦治（学習院女子大学 教授）
第7週	市民社会：日本における外国人への法的支援—現状と課題	講師：皆川涼子（弁護士）
第8週	市民社会：中国社会のシティズンシップ	講師：阿古智子（東京大学 准教授）
第9週	国際社会：日中韓の文化交流とアジア共同体	講師：崔学松（静岡県立大学 専任講師）
第10週	国際社会：東アジアの国際移動	講師：羅京洙（学習院女子大学 准教授）
第11週	国際社会：東アジア国際政治社会史	講師：金野純（学習院女子大学 准教授）
第12週	環境：農業・環境問題からみる東アジア	講師：莊林幹太郎（学習院女子大学 教授）
第13週	環境：災害を通してみる東アジア	講師：宋浣範（高麗大学 教授）
第14週	まとめ：アジア共同体のビジョン	講師：佐藤洋治（ワンアジア財団 理事長）
第15週	まとめ：授業全体のまとめ	講師：金野純（学習院女子大学 准教授）

授業は、歴史、市民社会、国際社会、環境を大きな軸となっており、まとめにおいて、授業全体を総体的に捉えられるように計画されている。

特別総合科目V（環境問題）

3731001500100

副題	地球・自然・人と生き物たち			担当者	品川 明 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

1. 各講師の授業テーマを十分に理解できるとともに自らの意見を持つこと。
2. 環境に対する自らの責任を認識できる
3. 自らが環境保全のために積極的行動できること

〔授業の内容〕

地球にはすばらしい自然があり、多様な生き物たちが一生懸命生きている。そのすばらしい生き物の世界を一線の研究者によるオムニバス方式の講義で堪能してください。昆虫からヒトの生き様に触れた時、神秘と感動の生き物の世界とヒトの責任の大きさ、そして地球の美しさ、寛容さに魅せられることでしょう！

〔教材〕

毎回プリントを配布する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

それぞれの授業終了後、テーマに対応した文献を調査することが望ましい。そのための時間として、3時間を要する。

〔成績評価の方法〕

1. 出席状況と授業への参加姿勢、積極的発言などの授業貢献度を重視する。(40%)
 2. 毎回講義の内容について、気づいたこと、発見したこと、疑問に思ったこと、感想を授業中に提出する。このレポートは講義への参加状況の把握と成績評価の基礎となり、厳密に評価する。(60%)
- 「評価基準」授業中の受講態度を重視する。小レポートの記述内容から講義の理解度を評価し、到達目標をクリアしている場合のみ合格点を与える。

〔備考〕

8名の講師による地球と生き物たちの共演です。地球や動物についてできるだけトピック性の高いテーマを設定するため、講義内容を変更することがある。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス	ガイアシンフォニー 第2番の上映会 (佐藤初女さん)	品川 明
第2週	生物の進化と絶滅	富田京一 (肉食爬虫類研究所)	
第3週	島嶼の生態系 - 西表島の両生爬虫類を中心に -	富田京一 (肉食爬虫類研究所)	
第4週	南極が壊れる	藤原幸一 (Nature's Planet 代表, ネイチャーフォト・ジャーナリスト)	
第5週	森が壊れている～地球温暖化による森林環境の激変	藤原幸一 (Nature's Planet 代表, ネイチャーフォト・ジャーナリスト)	
第6週	農を取り巻く環境	萩原さとみ (ファームイン・サギヤマ)	
第7週	今こそ伝えたい農の力	萩原さとみ (ファームイン・サギヤマ)	
第8週	糞と日本人	浅利 定栄 (糞屋本店)	
第9週	ガイアシンフォニー 第5番上映会	品川 明	
第10週	西表島の人と自然～自然の恵みを頂く伝統の知恵	石垣金星 (紅露工房 用務員 西表民謡愛好会会長他)	
第11週	いのちを産む	大野明子 (明日香医院院長)	
第12週	ガイアの知性 (地球交響曲の作成秘話)	龍村 仁 (映画監督)	
第13週	海の生き物たち～日本の食文化を飾る魚介類	品川 明	
第14週	貝から考える生き物の仕組みと人の役割	品川 明	
第15週	まとめ	品川 明	

副題	キャリア・デザイン（主体的な人生を送るために）			担当者	木村 進 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

自分でキャリア（人生の道筋）をデザインする知識・能力をつける。

〔授業の内容〕

人は働くことを通して社会参加を果し、なりたい自分に近づこうとします。キャリアとは、その人が進んでいく人生の道筋のことで、生涯（ライフ・キャリア）の中に職業期間（ジョブ・キャリア）があります。進んでいく道筋の節目、節目で次に進むべき道（キャリア）を描いて（デザインして）いきます。そのためには、自分の特性（パーソナリティ）を理解し、雇用、職業、企業といった社会や職域環境を知り、卒業後の活躍の場（ワーク・ステージ）のイメージづくりをしていきます。また、外部講師の講義も受けながら「将来の活躍の場」を考えしていきます。

〔教材〕

教科書：木村 進『自分で切り開くキャリアデザイン』中央経済社

参考書：大久保幸夫『仕事のための12の基礎力』日経BP社

大沢真知子『ワークライフバランス社会へ』岩波書店

金井壽宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』（PHP新書）PHP研究所

教科書は始めの2週間で一通り読んでいただき、感想を提出してもらいます。

参考書は、その都度、紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回授業終了時に、次回の授業内容をお知らせしますので、予習をして授業に臨んでください。

〔成績評価の方法〕

試験はしませんが、授業への参加度や提出課題により評価します。

授業ではワークシートや自己理解のための諸検査を実施しますので、出席していないと成果が出ません。

〔備考〕

楽しく勉強していきましょう。

〔授 業 計 画〕

第1週	「ガイダンス／キャリアの概念」
第2週	「なぜ今、キャリア・デザインなのか」
第3週	「雇用環境の変化（終身雇用制の崩壊とグローバルマーケットの進展）」
第4週	「大学期を確認する」
第5週	「自分らしい人生」
第6週	「自分のパーソナリティ（個人特性）と自己理解」
第7週	「集団の中の自分」
第8週	「他人から見た自分」
第9週	「キャリアと能力開発」
第10週	「社会で求められる能力とは」
第11週	「社会人として必要な基礎的能力（1）」
第12週	「社会人として必要な基礎的能力（2）」
第13週	「コミュニケーション能力とモチベーション」
第14週	「社会人として必要な基礎的能力（3）」
第15週	「リーダーシップ・ストレス耐性」
第16週	「ビジネス・マナー」
第17週	「外部講師」
第18週	「女性とジョブ・キャリア」
第19週	「外部講師」
第20週	「職業研究」
第21週	「しごと選び」
第22週	「将来へのキャリア・デザイン」
第23週	「中、長期のキャリア・デザイン」
第24週	「総括講義／ライフ・キャリアを考える」
第25週	「夢の目標化」
第26週	「ワークシヨップ」
第27週	「他の人たちの人生観」

第1回目の授業は必ず出席してください。
 受講者の調整をいたしますので、第1回目から受講生が確定いたします（200名）。
 授業計画は専門家の招聘講義、調整のため、若干、スケジュールの変更する可能性があります。

特別総合科目VII（現代時事分析1）

3731002000100

副 題	現役記者によるニュース分析			担 当 者	石澤 靖治 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	火	時 限	3

〔授業の到達目標〕

ジャーナリズムと時事問題分析への理解を深めつつ、新聞の役割とニュースを読み込む視点を得ることを目標とする。

〔授業の内容〕

毎日新聞社で活躍する現役の論説委員、編集委員、元海外特派員らが、日々複雑に絡み合う国内外のニュースを、取材現場で得た裏話を絡めて新聞記事やニュース写真をふんだんに使い、解説、ともに分析する。ともすると膨大なニュースに流されがちだが、ニュースの見方、視点を考えることで、ニュースの本質に迫る新聞と記者の役割を実感してもらい、ニュースの価値を自ら判断するメディアリテラシーを学ぶ。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業当日配られる新聞を、授業前と授業後に最低各1時間半程度しっかり読むこと。

〔成績評価の方法〕

レポート提出（4回前後）：90%、授業中のコメント提出：10%

〔備考〕

人数制限：約100人（希望者が多い場合は、レポート提出で選考）

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Orientation：授業概要の説明と、新聞記者の仕事概説
- 第2週 メディア・文化論1
- 第3週 メディア・文化論2
- 第4週 メディア・文化論3
- 第5週 メディア・文化論4
- 第6週 政治事情分析1
- 第7週 政治事情分析2
- 第8週 政治事情分析3
- 第9週 経済事情分析1
- 第10週 経済事情分析2
- 第11週 経済事情分析3
- 第12週 社会事情分析1
- 第13週 社会事情分析2
- 第14週 社会事情分析3
- 第15週 まとめ

特別総合科目VIII（現代時事分析2）

3731002100100

共通科目
（外国語を除く）

副題	海外特派員経験者が現場報告			担当者	石澤 靖治 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

ジャーナリズムと時事問題分析への理解を深めつつ、新聞の役割と国際ニュースを読み込む視点を得ることを目標とする。

〔授業の内容〕

毎日新聞社で活躍する海外特派員経験者らが、日々複雑に絡み合う海外のニュースを、取材現場で得た裏話を絡めて新聞記事や記者が撮影した写真をふんだんに使い、解説、ともに分析する。ともすると膨大なニュースに流されがちだが、ニュースの見方、視点を考えることで、ニュースの本質に迫る新聞と記者の役割を実感してもらい、国際ニュースの価値を自ら判断するメディアリテラシーを学ぶ。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日配布される新聞を授業前・授業後に最低各1時間半熟読すること。

〔成績評価の方法〕

授業をまとめたレポート（4回前後）：90%、授業中の発言・コメント：10%

〔備考〕

人数制限：約100人（希望者が多い場合は、レポート提出で選考）

〔授業計画〕

- 第1週 Orientation：授業概要の説明と新聞記者の仕事概説
- 第2週 米国事情1
- 第3週 米国事情2
- 第4週 欧州事情1
- 第5週 欧州事情2
- 第6週 中国事情1
- 第7週 中国事情2
- 第8週 朝鮮半島事情1
- 第9週 朝鮮半島事情2
- 第10週 中東事情1
- 第11週 中東事情2
- 第12週 アフリカ事情1
- 第13週 アフリカ事情2
- 第14週 ロシア事情1
- 第15週 ロシア事情2

副 題	食の真の価値を考える～食教育の新しい視座			担 当 者	品川 明 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	金	時 限	2

〔授業の到達目標〕

1. フードコンシャスネスの意義や理念を理解できる。
2. 食と自然との繋がりを理解し、食の価値を表現することができる。
3. 日本伝統文化と日本の食の繋がりを理解し、食の価値を表現することができる。
4. フードコンシャスネス教育の本質を理解し、表現することができる。

〔授業の内容〕

これまでの食に関する教育は、栄養学、衛生学、食品学、生物学、化学などの視点からのアプローチが多く、それぞれの教科においては断片的で縦断的な知識の習得に重きを置いたものと判断される。また、平成17年に制定された食育基本法も、食生活の改善、生活習慣病の予防の観点から、栄養学、食品衛生学などを背景とした議論が多く、アプローチの視点は教育現場や家庭でも従来の教育手法によるものが多い。

本授業では、食べるもの、食べること、食べたかという日常の行為をきちんと意識し、食に対する自覚的かつ積極的な姿勢を育むことを目的とする。また、食を自覚的に感じる能力や食を積極的に意識する能力を身につける必要がある。

そのために、フードコンシャスネスの意義を議論する。次に、食と自然環境の繋がりを、日本文化と食との関わり、フードコンシャスネスの教育的価値などを多くの食の専門家を招き実践を通して、自覚的に理解できるように授業展開する。

〔教材〕

特に指定しない。レジュメ、ワークシート、リアクションペーパーを授業毎に配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業の後に振り返りを実施し、授業で見出した概念や疑問点を整理する。疑問点は文献などを活用し、自分自身の意見をまとめる必要がある。そのために、3時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

1. 出席状況 20% 4回以上の欠席、早退や遅刻も厳格に対応する。
2. 発言や質問などの授業貢献度を重視する 20%
3. リアクションペーパーやアンケートの内容を重視する。30%
4. 授業中の発表とそのレポートの内容や提出状況を重視する。30%

〔備考〕

外部講師は実務の都合により日程変更する可能性があります。

〔授 業 計 画〕

第1週	フードコンシャスネスの意義 1～食とは
第2週	フードコンシャスネスの意義 2： もの・こと・かたの意味 アンケート グループ討議と発表
第3週	フードコンシャスネスの食 1： 食と農～自然環境と土との関わり：岸ユキ氏
第4週	フードコンシャスネスと日本文化 1： 茶道と食～陰陽：中澤 宗寿（学習院女子大学伝統文化演習担当講師）
第5週	フードコンシャスネスと食 2： 食と漁業～魚食を考える：上田 勝彦（水産庁）
第6週	フードコンシャスネスと日本文化 2： 糰と食：浅利 定栄（糰屋本店）
第7週	フードコンシャスネスと食 3： ワインの味わい方：信國 武洋
第8週	フードコンシャスネスと日本文化 3： 日本文化と和食：佐竹 力総（美濃吉）
第9週	フードコンシャスネスと日本文化 4： 神事と食：鎌田 紀彦（大宮八幡宮）
第10週	フードコンシャスネスと教育 1： 日本の食教育の現状と課題：楠野恭巳（フードコンシャスネス研究所）
第11週	フードコンシャスネスと教育 2 日本の食育の実際：宮島則子（元荒川区汐入小学校主任栄養士）
第12週	フードコンシャスネスと教育 3
第13週	自分の五感力～自分の能力を確認する フードコンシャスネスと教育 4
第14週	自分の味覚力～味を感じる理由 フードコンシャスネスの意義 4～食を表現する
第15週	まとめ フードコンシャスネスの理念 食と生き物と自然の繋がりを

副題	フードコンシャスネスと食を自覚する授業			担当者	品川 明 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

1. 食および食教育の本質とフードコンシャスネスの理念の理解する
2. 感覚・味覚教育の現状と課題を理解する
3. 自覚的に概念を形成する過程を理解する
4. 正解を求めない教育のあり方を理解する。多様な考えを尊重する姿勢を理解する。

〔授業の内容〕

食を教える教育から食を意識する教育が重要であり、そのためには食を感じる教育が必要である。食を感じる教育とは、五官を使って、五感を感じるとともに心に残る感動（心感や六感）があつてはじめて食を感じたことになる。感覚や味覚力向上には心に残る体験（経験）とその記憶が重要だ。食を捉えるとき、単に食材として、購入や調理の際は形や色や鮮度を意識することも大切である。しかし、これは食のごく一部の側面でしかない。また、食事の時、ただ空腹を満たすためのものであったり、テレビをみながらの通過儀礼的なものであったりもする。食事に対し、漫然と接することなく、素材や味付けなど様々な周辺情報にも関心を持ちながら食べることが重要である。食に関心を持ち、心に焼き付けながら食事することは素晴らしいことである。

食は本来その多くが生き物や生き物から生産されたものである。多くの生き物を頂いたとき、その生き物は多くの年月をかけ、広大な土地や海で育ち、膨大な労力の果てに食卓にあることを忘れてはいけない。そして、多くの命が我々の命として引き継がれて行くのだ。食卓にあるとき、当たり前のこととして、漫然と食事をする事無く、この食卓に糧（いのち）があることを有り難い事実として捉え、感謝の気持ちとその生き物への想いを持って頂きたい。それらによって、食の記憶が蓄積され、経験となり、感覚、味覚、風味や食味の向上につながる。

このような観点から、食から耕す未来と文化の理念を実現するため、感覚と味覚について教育的配慮ができる学生を養成することを目的としている。この講義は、実際の食物を使用した感覚や味覚の講座以外に子ども達がどのように自覚的な気づきに達するかの指導方法や指導者としての心得などのセッションもある。

〔教材〕

特に指定しない。ワークシートとリアクションペーパーを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

我が家の味のルーツや各地の雑煮について、調査し発表する。また、最終的に残したい日本の味についてレポート発表する。それらを調査し、まとめるために4時間以上の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

1. 出席状況および授業への貢献度 40% 4回以上の欠席、早退や遅刻についても厳格に対応する。
2. 授業中のアクティビティやコミュニケーション活動から得られた概念を文章表現する振り返りを重視する。30%
3. 企画提案および発表 30%

〔備考〕

2年生以上の履修科目である。演習形式の授業を実施するため、事前に人数制限（36名）する。フードコンシャスネス論1履修者を優先する。

〔授 業 計 画〕

第1週	フードコンシャスネスと味わい1 フードコンシャスネスの教育的意義：我が家の味と伝統食（雑煮） リンゴの試食
第2週	フードコンシャスネスと教育1 フードコンシャスネスの理念と特徴
第3週	フードコンシャスネスと味わい2 基本味とその生理的意義：楠野恭巳（フードコンシャスネス研究所）
第4週	フードコンシャスネスと味わい3 うま味の意義と味噌汁の試食
第5週	フードコンシャスネスと食の叡智1 日本蕎麦と日本文化：成田 重行
第6週	フードコンシャスネスと味わい4 醤油の味比べ
第7週	フードコンシャスネスと味わい5 地域の雑煮（グループ討議と発表）
第8週	フードコンシャスネスと味わい6 茶道と和菓子：中澤 宗寿（学習院女子大学伝統文化演習担当講師）
第9週	フードコンシャスネスと食の叡智2 だしのおいしさ
第10週	フードコンシャスネスと食の叡智3 糀の世界と人とのかわり：浅利 妙峰（糀屋本店）
第11週	フードコンシャスネスと味わい7 味噌の味比べ
第12週	フードコンシャスネスと味わい8 日本の三珍
第13週	フードコンシャスネスと食の叡智4 米と飯～研ぎ方から炊き方まで：吉村 常弘（御飯）
第14週	フードコンシャスネスと自分 グループ討議と発表（残したい日本の味）リンゴの試食
第15週	まとめ（雑煮の食べ比べとフードコンシャスネスの役割）

特別総合科目XI (オリンピックの探究)

3731002500100

副 題	「オリンピック・リテラシー」の成熟に向けて			担 当 者	荒井 啓子 教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月	時 限	4

〔授業の到達目標〕

- <各講師の講義テーマをから、以下の点を理解し深く考えるようにする。>
- ・近代オリンピックの理念とともに、オリンピックの歴史的背景を理解する。
 - ・オリンピックに向けられた現代的諸問題とともに「文化」や「社会」のありようを考える。
 - ・「国際交流とは何か」「国際協力とは何か」「世界の中の日本文化とは何か」を考える。
 - ・2020TOKYOに向けて、同時に2020TOKYOのその後に目を向けて (For & Beyond2020), それぞれの課題を考える。
 - ・スポーツ文化の表象力について考える。

〔授業の内容〕

- ・オリンピックに深く関わる第一線の研究者、ジャーナリスト、あるいはオリンピック・パラリンピアンが毎回ゲストスピーカーとして講義を行い、それぞれの専門的な立場や視点から、オリンピックの諸相を掘り下げ説き起こす。
- ・近代オリンピックの根本精神 (オリンピズム) は、「文化・教育・スポーツを一体とした生き方の創造である」とオリンピック憲章に記されている。これは、オリンピック・パラリンピック競技大会が、単なるスポーツの祭典ではなく、世界中の異なる文化の異なる環境の人々がスポーツを通じて集い、互いの文化を知り、個々の生き方を理解し尊重することを目指していると言えよう。しかし、そこには、政治・経済・人種・メディア・ジェンダー等と関わる厳しい「現実」が内在してきた。そこで、本講義では、総合芸術と称され領域を超えてあらゆる「知」が注がれてきたオリンピックの歴史を辿るとともに、その光と影を浮き彫りにしつつ、現代社会におけるオリンピックとは何か、という問題に接近する。

〔教材〕

〔準備学習 (予習・復習) の内容又はそれに必要な時間〕

〔成績評価の方法〕

レポート (70%) と出席状況 (30%) によって総合的に評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス<オリンピック概観>
- 第2週 オリンピック起源論
- 第3週 クーベルタンとオリンピック教育
- 第4週 日本におけるオリンピックと嘉納治五郎
- 第5週 オリンピックと学習院
- 第6週 オリンピック招致：1940年東京大会
- 第7週 1964東京大会と都市東京
- 第8週 2020東京大会と都市デザイン
- 第9週 オリンピックとジェンダー
- 第10週 オリンピックとスポーツ倫理～ドーピングをめぐる
- 第11週 アジェンダ2020とオリンピックレガシー
- 第12週 現代社会とオリンピック休戦 (Olympic truce)
- 第13週 オリンピックと芸術～アート・マネジメントの視点から
- 第14週 異文化理解と近代オリンピックの相克
- 第15週 戦後70年とオリンピックと報道

各講師の都合により、テーマや日程の変更がある。

招聘する講師の詳細については、ガイダンスにおいて紹介する。

副題	自分探しの異文化交流 ー自分を知り、日本を知るー			担当者	伊部 正信 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

本講義は国際文化交流論の入門基礎講座として、日本人の対外意識や民族、国家意識とは何かを考え、異文化摂取の歴史を振り返り、日本の異文化交流の特質や現状を体系的に学ぶことを目標とする。

〔授業の内容〕

異文化体験は自己を相対化させ、日本文化とは何かを認識する契機になると共に、自分とは一体何なのかという個人のアイデンティティを確立させる糸口ともなる。文化交流の主役は個人である。しかし、交流を推進するのは政府や民間団体であることが多い。本講義では、政府、民間団体そして個人など、さまざまな視点から国際文化交流の役割と意義を考察する。異文化摂取が日本の社会や文化の形成に果たした歴史を振り返り、日本人の対外意識の特性を分析すると共に、日本文化、異文化間コミュニケーションなどにも言及する。また、日本の文化交流の現場や実情を知るため、各種の事例研究を行い、国際交流の現状と課題も検討する。本講義を通して、受講者は自分こそが文化交流の主体であり、媒体ともなり得ることを自覚し、国や政府主導の交流だけではなく、民間の発意による交流を活性化させてこそ、「人類の福祉と世界平和に寄与する」という文化交流の究極的な目的が達成できることを学んでほしい。さらに、文化交流は自分を知り、日本を知る、まさに自分探しの旅となること、そして、自分を変え、日本を変革する触媒ともなることを理解していただきたい。

〔教材〕

講義の進展に従い、その都度指定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の講義内容は、翌週の授業の冒頭で学生にその要約を発表させるので、学生は翌週の授業日までにノートを参照しながら講義内容を再確認し、発表できるよう準備しなければならない。学生に発表させるのは、この講義を講師と学生の「交流」型授業にすると共に、学生のプレゼンテーション能力を涵養する狙いからである。

〔成績評価の方法〕

授業の出席、参画姿勢、発言などとレポート、試験で評価する。

〔備考〕

本講義は講師から学生への一方的な直流の講義ではなく、国際文化「交流」論であるので、学生の参画を促す講師と学生の双方向の「交流」型講義にしたい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 国際交流って何? ——自己紹介とQ&A——
- 第2週 文化交流の役割と意義
- 第3週 日本人の対外意識——異文化接触の特質——
- 第4週 日本的「ウチ」、西欧的「私」
- 第5週 「民族意識」と「国家意識」
- 第6週 文化交流の歴史 I ——中国文化から西欧文化へ——
- 第7週 文化交流の歴史 II ——受信型から発信型へ——
- 第8週 異文化間コミュニケーション I
- 第9週 異文化間コミュニケーション II
- 第10週 最近の文化交流
- 第11週 文化交流の現場から——事例研究 I
- 第12週 文化交流の現場から——事例研究 II
- 第13週 文化交流の現場から——事例研究 III
- 第14週 総括——変革の触媒としての文化交流——
- 第15週 理解度の確認

副 題	国際開発協力の現場と異文化理解			担 当 者	藤谷 浩至 講師	
単 位	2	開講期間	春学期集中	曜 日	時 限	

〔授業の到達目標〕

1. 開発途上国の抱える課題と人々の生活や社会について理解すること, 2. その課題解決のための国際社会の取組である国際開発協力についての基本的な知識を習得すること, 3. そうした国際開発協力活動の現実を学ぶことを通じて異文化社会との接し方について考察し, 知見を得ること

〔授業の内容〕

2011年3月の東日本大震災に際して国際社会から日本に提供された支援に表れているように, 国家をはじめとする様々な主体が様々に関わりあって国際社会は成り立っており, その関わりの一つの形態として国際開発協力があります。本講義では, 開発途上国・地域が抱える経済・社会の現状と主な課題について取り上げ, 課題ごとに紹介すると同時に, 国際社会が開発途上国・地域に対して行っている様々な協力活動・援助の概要についての理解を深めます。日本による協力活動については, 日本の政府開発援助 (ODA) とその実施機関である国際協力機構 (JICA) の事業を中心に紹介します。大規模災害時における国際緊急援助についても, その一活動として取り上げます。

また, 最近の国際開発協力を巡る潮流についても紹介します。これらを通じて, 国際開発協力の意義と課題への認識を深め, 異文化理解に役立てます。

〔教材〕

参考書: 服部 正也『ルワンダ中央銀行総裁日記 (増補版)』(中公新書) 中央公論新社, 2009年

大塚 啓二郎『なぜ貧しい国はなくなるのか』日本経済新聞出版社, 2014年

教科書はありません。上記の参考文献は, 昨年度, 課題レポートの対象としたものです。その他の参考文献は講義の中で紹介します。

〔準備学習 (予習・復習) の内容又はそれに必要な時間〕

(講義開始まで) ①外務省HPまたはJICA HP等を通じて, 自分が関心のある国 (開発途上国) に対して, どのような援助・協力事業が行われているのか調べて, 国際協力事業の一般的なイメージをつかんでおくこと (約10時間), ②1992年に閣議決定された「政府開発援助 (ODA) 大綱」, 2003年に改定された改定版「ODA大綱」, 現在政府で検討されている新たな「開発援助大綱 (案)」にそれぞれ目を通しておくこと (約20時間)

(講義終了後) 講義で紹介した課題図書を元にレポートを作成する (約30時間)

〔成績評価の方法〕

毎回の授業後のリアクションペーパーの内容, 出席率, 課題レポートの内容を総合的に (30:30:40の割合で) 評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

8月5日 (水), 6日 (木), 7日 (金), 10日 (月) の4日間 (1時限または2時限から4時限の間) に実施予定。

・主な講義内容 (予定。変更の可能性はあります) : 国際開発協力の仕組み, 歴史 (冷戦終結まで, 冷戦後から21世紀にかけて), 開発の主な課題について (貧困, 農業・農村開発, 水と衛生, 環境, 保健医療, ジェンダー配慮等), 国際緊急援助, 国際開発協力とボランティア事業, 企業・NGOとの連携, 平和構築・復興支援, 人間の安全保障, まとめ

副題	中・東欧において日本文化交流を実践するために			担当者	中島 崇文 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

国際交流には様々な形態があるが、中でも文化を通じて行うものは双方に自然に受け入れられることが多く、近年、その重要性は広く認識されるようになってきており、本学においても開学以来重視されているものである。日本文化に接することで、たとえ日本から地理的に遠く離れていても人々が極めて親日的になるケースは少なくないが、中・東欧地域はその典型的な例である。本授業では現地で日本文化を中心とする交流を実践する方法を考察する。

〔授業の内容〕

日本と中・東欧の交流の歴史を踏まえたうえで、日本文化交流の実施が可能な機関について学ぶこととする。また、日本の身近な文化（書道、華道、折紙、アニメ、歌、踊り等）をどのように発信し、現地の人々に共有してもらえるかを考える。その手段として中・東欧の複数の言語の基本的な表現を習得し、これらの言語で日本文化を説明できるようにする。

〔教材〕

教科書：柴宜弘、石田信一編著『クロアチアを知るための60章』（エリア・スタディーズ121）
明石書店、2013年
その他、毎週の授業時に各種資料は配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書はおおむね毎週5章ずつ読むので事前に熟読し、授業中に感想を述べられるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業に取り組む姿勢（発表（約25%）、議論（約25%）、レポート（約50%））を総合して評価する。毎週、履修者全員が出席することを原則とする。

〔備考〕

原則として事前に中欧国際協力研修への参加の内定が得られている者以外には履修を認めないので注意すること。同研修については2号館の掲示板に4月初旬までに掲示しているので確認してほしい。オフィスアワーは月曜日の15:00～16:00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。4号館2階の個人研究室のみならず、7号館1階の国際交流推進センター所長室にいることも少なくないので、こちらに立ち寄ってもよい。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1週 | 授業内容の説明，自己紹介 |
| 第2週 | 中・東欧の概要 |
| 第3週 | 中・東欧と日本との交流の歴史 |
| 第4週 | 中・東欧における日本語教育機関 |
| 第5週 | 中・東欧における日本文化に関心を持つその他の様々な機関 |
| 第6週 | 日本文化交流を行う手段としての中・東欧の諸言語の学習（クロアチア語） |
| 第7週 | 日本文化交流を行う手段としての中・東欧の諸言語の学習（マケドニア語） |
| 第8週 | 日本文化交流を行う手段としての中・東欧の諸言語の学習（セルビア語） |
| 第9週 | 日本文化交流を行う手段としての中・東欧の諸言語の学習（ルーマニア語） |
| 第10週 | 中・東欧において日本文化交流を行うためのワークショップ |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | 総括 |

副題				担当者	奥村 快也 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

安全保障（戦争と平和）に関する基礎的な知識・教養を身につける事を主な目標とする。

〔授業の内容〕

安全保障（戦争と平和）に関する哲学・古典・歴史（日本の戦争通史，ヨーロッパの戦争通史）等を通じて，戦争の原因と結果について考える。

さらに日本の近・現代史を通じて，日本が何故，太平洋戦争でアメリカと戦うことになったかを考え，戦争は不可避だったのか否かについても検討する。

また，戦後日米関係の形成について，占領下での政策，サンフランシスコ講和条約，日米安全保障条約の成立過程を通じて理解させ，今日の日本を取り巻く安全保障環境，日本の安全保障政策，国防政策，防衛力，国際貢献及び危機管理等の現状を知り，今後の日本の安全保障について考察して貰う。

〔教材〕

教科書等は使用せず，各講義ごとにレジメを配布し，講義を行なう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

特に予習については求めない。講義内容によっては議論してもらうことがあるので，その時に指示する。

〔成績評価の方法〕

期末試験（含むりポート）を実施する。この際授業の出席状況も重視する。

評価点配分は期末試験（含むりポート）80パーセント，出席率20パーセントとする。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 戦争と平和 概論
 - 第2週 日本の歴史（古代ー明治）から戦争と平和について考える
 - 第3週 ヨーロッパ（含む中東）の歴史から戦争と平和について考える（1）
 - 第4週 ヨーロッパ（含む中東）の歴史から戦争と平和について考える（2）
 - 第5週 古典から戦争と平和について考える
 - 第6週 日本の近代史から戦争と平和について考える
 - 第7週 日米戦争への道（何故日本はアメリカと戦争をしたのか？）
 - 第8週 太平洋の主要な作戦（日本は何故作戦に失敗したのか？）
 - 第9週 日本の戦後処理と日米安全保障条約
 - 第10週 日本を取り巻く安全保障環境
 - 第11週 日本の安全保障政策
 - 第12週 国際連合と日本の国際貢献
 - 第13週 危機管理と災害派遣
 - 第14週 まとめと解説
 - 第15週 理解度の確認
- 第10週以降の講義は努めて国内外の現況に応じ，アップデートして実施する。

副題					担当者	金城 重紀 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	1	

〔授業の到達目標〕

After completing this course, you will be able to:

1. Acquire in-depth understanding of contemporary Japan and its challenges.
2. Apply the analytical framework to your country.
3. Generate solutions to challenges that your society will face.

〔授業の内容〕

The ultimate objective of this course is to help you identify, analyze and solve problems that you and your country is facing, or will face in the near future. This course leverages the Japanese business starting from the Meiji Restoration to today as a series of high caliber case studies. That is because Japan during this time has faced almost every possible problems and opportunities that modern society can encounter in a very condensed way. Furthermore, we will explore the future path for Japan and how to overcome the challenges that she faces. This is not an ordinary business course but rather an intellectually dynamic exercise.

〔教材〕

I will provide a reading packet (or equivalent) at the beginning of the course.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

This is not a lecture style course (provided that ICT infrastructure works). Students are expected to actively contribute in class discussions. Homework will be given to help prepare for class.

〔成績評価の方法〕

Class contribution:30(%)
Presentation:30
Final exam:40

〔備考〕

Diversity is encouraged and rewarded. Particularly, students who are not majoring in business and those from foreign countries (i.e., ex-Canada) are more than welcome.

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Kick-off
- 第2週 Yataro Iwasaki and founding of Mitsubishi
- 第3週 Honda's "success" in the US
- 第4週 The miracle years
- 第5週 Once upon a time: Japan as number 1
- 第6週 Student presentation (1)
- 第7週 Beyond the bubble
- 第8週 The 1940 system
- 第9週 Deficits, demography and deflation
- 第10週 Hedge fund's bet against Japanese Government Bonds
- 第11週 Shrinking population economics
- 第12週 A nagging sense of insecurity
- 第13週 Student presentation (2)
- 第14週 The creation of the Takkyubin parcel service
- 第15週 Englishnization at Rakuten

This syllabus and course schedule is subject to change.

副 題					担 当 者	伊藤 由紀子 教授	
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	火	時 限	3

〔授業の到達目標〕

実践的な国際協力活動の実践をする

〔授業の内容〕

9月に実施されるラオス国際協力研修への参加を前提とし、国際協力活動のありかたを考える。

経済的には世界のトップレベルに位置する国々でも、その「幸福度」指標は必ずしも経済的豊かさと比例しない。「幸福度」に焦点を当てながら、開発途上国の発展と外部者の関わりあい方について考える。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各授業で指定された文献等のレポートの課題が必要です。およそ3～4時間予定してください。

〔成績評価の方法〕

出欠席20%，レポート60%，実習活動20%

〔備考〕

本科目履修希望者は、「履修制限」がありますので、第1回目授業に必ず出席し、内容を確認してください。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 ワークシヨップ
- 第3週 発表
- 第4週 外部講師講義
- 第5週 ワークシヨップ
- 第6週 発表
- 第7週 外部講師講義
- 第8週 ワークシヨップ
- 第9週 発表
- 第10週 外部講師講義
- 第11週 ワークシヨップ
- 第12週 発表
- 第13週 〃
- 第14週 〃
- 第15週 まとめ

副題	国際文化交流のための環境教育等の実践			担当者	品川 明 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5

〔授業の到達目標〕

1. 国際文化交流のため、地域（ベトナムなど）の風土、生活文化、教育を探究理解し、日本との違いを明確にする。
2. 環境教育、水教育、食教育の視点から、体験学習法に基づく教育手法を十分に理解し、実践することができる。
3. 環境教育、水教育、食教育の視点から、体験学習を実践するためのアクティビティを創作することができる。

〔授業の内容〕

1. ベトナムと日本の風土、生活文化、自然環境に関する講義を行う。
2. 環境教育、水教育、食教育の観点から、プロジェクトワイルド、プロジェクトウエット、GEMS、MARE、フードコンシャスネスのアクティビティを習得し、実践で実施するワークショップを行う。
3. 環境教育、水教育、食教育の観点から、体験教育で使用するアクティビティを創作するワークショップを行う。
4. 応用として、習得したアクティビティを子ども等に向けて実践する。

〔教材〕

環境教育、水教育、食教育に関する教材を使用する。授業中に配布または指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

日本とベトナムについて、風土や生活文化を調べ、相違点や同意点を発表する。ベトナムに日本の文化を伝えるためのテキストを全員で作成する。そのために必要な予習復習時間は概ね毎回3時間程度である。

〔成績評価の方法〕

1. 出席状況と積極的な発言など授業貢献度を重視する。(40%)
2. 環境教育、水教育、食教育の独創的なアクティビティを作成する。(20%)
3. 指導者としての実践能力を評価する。(20%)
4. 最終レポートを評価する。(20%)

〔備考〕

国際交流研修（ベトナム）履修者はこの授業を履修すること。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	日本とベトナムの風土
第3週	日本とベトナムの文化1 食
第4週	日本とベトナムの文化2 教育
第5週	日本とベトナムの文化3 環境
第6週	プロジェクトワイルドの実践（環境教育指導者研修）
第7週	プロジェクトウエットの実践（水環境教育指導者研修）
第8週	フードコンシャスネスの実践（味わい教育指導者研修）
第9週	GEMSの実践（科学教育指導者研修）
第10週	MAREの実践（海洋教育指導者研修）
第11週	フードコンシャスネス教育研修
第12週	環境教育、水環境教育、フードコンシャスネス教育等に関するアクティビティの作成
第13週	環境教育、水環境教育、フードコンシャスネス教育等に関するアクティビティの実践
第14週	々
第15週	まとめ

副 題	Japan-U.S. relations and Japan-East Asia relations			担 当 者	石澤 靖治 教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	水	時 限	1

〔授業の到達目標〕

The goal of the course is first, to understand what Japan is, second, to understand Japan's overall foreign policy, and foreign policy with the U.S. and East Asian countries.

〔授業の内容〕

This course is mainly designed for foreign students with an interest in Japan and Japanese relations with the U.S. and East Asian countries in English. The contents are introductory for the students first learning this subject. GWC students interested in the fields are welcomed but must be prepared with certain English ability.

The course will be conducted by a lecture style, sometimes using video or other news materials.

〔教材〕

教科書：Makoto Iokibe 『The Diplomatic History of Postwar Japan』 Routledge, 2011年
Masayuki Tadokoro 『Japan as a 'Normal Country' ?』 University of Toronto Press, 2011年

参考書：Ezra Vogel, *Japan as Number one.*, Harvard University Press, 1979
Karen van Wolfren, *The enigma of Japanese power.*, Alfred A. Knopf, 1989
Edwin O Reischauer, *The Japanese*, The Belknap Press of Harvard University Press, 1977
Ruth Benedict, *The chrysanthemum and sword.*, Mariner Books, 1946
Chie Nakane, *Japanese Society.*, University of California Press, 1972
Chalmers Johnson, *The MITI and the Japanese miracle.*, Stanford University Press, 1982

and others
Articles from New York Times and Washington Post

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

1~5 hours

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be bases on the grades of mid-term exam (35%) and final exam (65%)

〔備考〕

Class plan and schedule will be revised. The final ones will be announced at the first class.
The schedule should be flexible.
Enrollment: up to 20 students.

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction: What is Japan? --Many "whys" on Japan and the Japanese
第2週	Culture, Structure, and Mentality: Views on Japan and the Japanese --Nihonjin-ron, Nihon-ron
第3週	Overall Japan-U.S. history after WWII: From a good boy to a bad boy?
第4週	Japan Inc.: Social and Economic System --a bad boy has been trying to change
第5週	Decision Making and Public Opinion --gaiatsu and the Japanese media
第6週	Japan's dilemma and America's dilemma 1: Japan-U.S. security treaty, "peace" constitution
第7週	Japan's dilemma and America's dilemma 2: Gulf war, PKO, redefinition of the treaty, collective defense
第8週	Japan-China-Korea relations: China--History, Nanjin, Yasukuni, Senkaku
第9週	Japan-China-Korea relations: Korea--History, Takeshima, Comfort women
第10週	Japan-Okinawa, Taiwan relations: Critical Areas for the Japan-U.S. security
第11週	The New Japan-U.S. relations under "rebalancing"+review Rebalancing, US as a pacific nation, Values,
第12週	review
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題	法学入門（導入と刑事法の基礎）			担当者	櫻井 大三 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

法学の基本的な知識を習得すること。そして、教科書が扱う設例の中から刑事法上の論点を抽出し、法的根拠（刑法や刑事訴訟法の関連条文）を踏まえ、その当否についての判断が下せるようになること。

〔授業の内容〕

本講義は、法律の世界の基本的な仕組みを学習するための「法学入門」として位置づけられる。これまで法（学）ないし法律（学）に接したことがない初学者を対象に、具体例を交えた分かりやすい講義にしたい。

初学者にとって、法律（学）はとくどく難解でとっつきにくいという印象が抱かれがちである。他方で、我々の日常生活は、そのほぼすべてがなんらかの形で法による規律を受けているのも事実であり、その意味では、法（律）がきわめて身近な存在でもあることも疑いを容れない。講義では、日常生活の中で法律が果たしている役割に気付いて頂きたいという思惑から、「HとJ」という、どこにでもいるごく普通の2人の大学生」が遭遇する自動車事故を素材として描かれた下記の教材をテキストに、法学の基礎（法学全体の導入に相当する部分）および刑事法の基礎（刑法や刑事訴訟法のさわりの部分）を概説する予定である。

〔教材〕

教科書：松井茂記[他]『はじめての法律学 HとJの物語』（有斐閣アルマ）第4版、有斐閣、2014年
『六法』が必携となる（指定『六法』については、開講時に指示する）。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習90分：（十分理解できなくても）教科書の該当箇所を熟読（再々読）することが、何よりも重要である。

復習90分：授業中に書き込んだレジュメを入念に読み返すとともに、授業で言及した法令の条文を『六法』で再確認すること。

〔成績評価の方法〕

- （1）授業中に実施する小テストないしレポート（20%程度）
- （2）学期末試験（80%程度）

〔備考〕

本講義では、難解な専門用語もできるだけ噛み砕いて説明することに留意するが、それでも、事前に教科書を読んでこななかったり、『六法』を準備せず授業に臨むようでは、教師がどんなに分かり易い説明を試みても、受講生の理解はおぼつかない（教科書・六法とも必携！）。この意味で、受講生には十分な予習・復習が求められる。また、専門用語も使いようによっては大変便利なものであるから、「難しい」と忌避する前に是非慣れて頂きたい（習うより慣れよ！）。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-------------|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | 法律学習の心得 |
| 第3週 | 法学の基礎（1） |
| 第4週 | 法学の基礎（2） |
| 第5週 | 法学の基礎（3） |
| 第6週 | 法学の基礎（4） |
| 第7週 | 刑法の基礎（1） |
| 第8週 | 刑法の基礎（2） |
| 第9週 | 刑法の基礎（3） |
| 第10週 | 刑法の基礎（4） |
| 第11週 | 刑事訴訟法の基礎（1） |
| 第12週 | 刑事訴訟法の基礎（2） |
| 第13週 | 刑事訴訟法の基礎（3） |
| 第14週 | 刑事訴訟法の基礎（4） |
| 第15週 | 総括 |

いずれかの機会に、法律実務家を招聘し特別授業を実施することを予定している（昨年度は、現職の弁護士の方にお話ししていただいた）。

副題	法学入門 (民事法の基礎)			担当者	櫻井 大三 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

法学の基本的な知識を習得すること。そして、教科書が扱う設例の中から民事法上の論点を抽出し、法的根拠（民法等の関連条文）を踏まえたうえで、その当否についての判断が下せるようになること。

〔授業の内容〕

春学期の「法学I」に引き続き、これまで法ないし法律（学）に接したことのない初学者を対象とした法学入門の講義を行う。

講義では、日常生活の中で法律が果たしている役割に気付いて頂きたいという思惑から、「HとJ」という、どこにでもいるごく普通の2人の大学生」が遭遇する自動車事故を素材として描かれた下記の教材をテキストに、民事法（民法の主要法領域すなわち不法行為法、契約法および家族法）の基礎（さわりの部分）を概説する予定である。

〔教材〕

教科書：松井茂記[他]『はじめての法律学 HとJの物語』（有斐閣アルマ）第4版，有斐閣，2014年

『六法』が必携となる（指定『六法』については、開講時に指示する）。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習90分：（十分理解できなくても）教科書の該当箇所を熟読（再々読）することが、何よりも重要である。

復習90分：授業中に書き込んだレジユメを入念に読み返すとともに、授業で言及した法令の条文を『六法』で再確認すること。

〔成績評価の方法〕

- (1) 授業中に実施する小テストないしレポート（20%程度）
- (2) 学期末試験（80%程度）

〔備考〕

受講生には、担当者の「法学I」を履修済みであることを求めたい。法律学は、一般に体系重視の学問であることから、春学期の総論的理解（「法学I」）があって、はじめて秋学期での各論的テーマの展開（「法学II」）が可能となる。

「法学I」に接する機会がなかった者が本講義を受講しようとする場合、少なくとも「法学I」で扱った「法学の基礎」の部分の独習して頂く必要がある。その他、学習上の注意事項については、「法学I」のシラバス「備考」欄を必ず熟読しておくこと。

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 「法学の基礎」の復習
- 第3週 不法行為法の基礎 (1)
- 第4週 不法行為法の基礎 (2)
- 第5週 不法行為法の基礎 (3)
- 第6週 不法行為法の基礎 (4)
- 第7週 契約法の基礎 (1)
- 第8週 契約法の基礎 (2)
- 第9週 契約法の基礎 (3)
- 第10週 契約法の基礎 (4)
- 第11週 契約法の基礎 (5)
- 第12週 家族法の基礎 (1)
- 第13週 家族法の基礎 (2)
- 第14週 家族法の基礎 (3)
- 第15週 総括

いずれかの機会に、法律実務家を招聘し、特別授業を実施することを予定している（昨年度は、法律実務に精通した企業人をお招きし、主として遺産相続に係る民法実務についてお話しして頂いた）。

副題				担当者	福井 康佐 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

憲法の基礎概念の習得と法学的思考力の養成

〔授業の内容〕

この授業は、日本国憲法の基本的概念を習得することを目標とします。憲法は、中学高校と学習した受講生も多いと思いますが、本来的には奥の深い学問です。日常生活の多くに、憲法の理念が関係しています。この授業では、難しい言葉よりも生きた人権の問題を、みなさんと一緒に考えて行きたいと思います。テキストは、あえて、わかりやすいものを選びましたので、まずは、憲法の世界に入門してみてください。

〔教材〕

教科書：初宿正典他『いちばんやさしい憲法入門』（有斐閣アルマ）第4補訂版，有斐閣，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを事前に読んでおいてください。

〔成績評価の方法〕

期末試験の成績による。平常点，出席点は評価対象としない。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨN
- 第2週 人権の性質・人権分類
- 第3週 人権の享有主体～外国人の人権・マイノリティーの人権
- 第4週 平等権～差別はなぜ生じるか。
- 第5週 信教の自由
- 第6週 思想良心の自由
- 第7週 表現の自由その1～表現の自由の重要性
- 第8週 表現の自由その2～様々な表現の自由に対する規制
- 第9週 学問の自由と教科書検定
- 第10週 死刑制度
- 第11週 裁判員制度
- 第12週 生存権
- 第13週 平和主義
- 第14週 天皇
- 第15週 まとめ

私語は厳禁です。私語をする人は退場を命じます。

教育学

3735010300100

副題	社会変動と教育			担当者	張 瓊華 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

教育と社会とのかかわり、教育と不平等の問題、グローバル社会における教育の在り方などを理解する。

〔授業の内容〕

この授業は、ダイナミックに変化しつつある現代社会における教育を考察する。社会学的に教育を見ていく手がかりになる重要な概念や理論を理解すること、そうした概念や理論をグローバル化、多文化化社会における教育現象やデータ解釈にあてはめてみることで、データや理論から現実の問題を読み解いていくやり方を身につけることを目指すとともに、国際化社会、多民族・多文化社会の問題を理解するための発想や視点を伝えていく。

〔教材〕

教科書は指定しない。参考書は授業中に示す。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

できれば、事前に柴野昌山ほか編『教育社会学』（有斐閣ブック）を読むこと。

〔成績評価の方法〕

理解度、出席率、受講態度によって総合的に評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	イントロダクション：授業内容、進め方などについて説明する。
第2週	文化の伝達装置としての学校（1）：学校で伝達されている文化とは何か？
第3週	文化の伝達装置としての学校（2）：政治的意味と経済的効用
第4週	文化の伝達装置としての学校（3）：差別的な社会の再生産 教育と不平等の問題、理論・概念
第5週	文化の伝達装置としての学校（4）：教育と不平等の問題、データに基づく討論と発表
第6週	文化の伝達装置としての学校（5）：教育の市場化による不平等の問題
第7週	多文化社会における教育（1）：国際化、グローバル化の進展と日本における国際理解・異文化理解教育
第8週	多文化社会における教育（2）：日本における国際理解・異文化理解教育の実態と生徒の意識
第9週	多文化社会における教育（3）：新たな国民統合の理念としての多文化主義とそれをめぐる論争
第10週	多文化社会における教育（4）：欧米諸国における多文化主義・多文化教育
第11週	多文化社会における教育（5）：中国における多文化・二言語教育
第12週	社会変動と教育（1）：社会変動と教育に関する諸説明理論、日本における教育の拡大
第13週	社会変動と教育（2）：政治変動と教育 労働者階級への処遇に焦点を当てる
第14週	社会変動と教育（3）：経済変動と教育、貧困と教育
第15週	理解度の確認

教育にかかわる様々な問題を取り上げる。国際化社会、多民族・多文化社会に関心を持つ学生は大歓迎です。

副題	哲学的に考える。			担当者	杉山 晃太郎 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	1

〔授業の到達目標〕

古代以来のヨーロッパの哲学者や思想家の考え方を学ぶことにより、現代社会で取り上げられている複雑で多様な問題の原点を理解して、哲学的な観点から問題を見つめることができるようになることを目標とします。

〔授業の内容〕

私たちが「哲学」という言葉で呼んでいる学問は、今から2500年ほど前に古代ギリシアに始まり、その後ヨーロッパを中心に様々な形に変化し、またヨーロッパ以外の文明からの影響も受けつつ、人々の考え方や生き方に深く影響を与えてきました。そして、今日、現代社会が抱えている科学技術、生命倫理、地球環境に関連する問題を考える上でも、「哲学的に考える」ことが必要とされています。この講義では、哲学の歴史の中で取り上げられてきた様々な考え方を取り上げて、考えてみたいと思います。

具体的には、日本語の「哲学」とその原語の「フィロソフィア」という言葉の由来から始めて、古代から哲学において論じられてきた基本的な問題を取り上げます。その際、単に個々の問題を紹介するのではなく、身近な例を取り上げて、どのような状況の中からその問題が生じたのか、そして、それが現在の私たち自身や私たちの生活にどのようにかかわっているのか、講義していきます。

〔教材〕

参考書：ヨースタイン・ゴルデル（池田理代子訳）『ソフィーの世界 - 哲学者からの不思議な手紙 -』NHK出版、1995年

竹内洋一郎（ほか）『身近な哲学』（図解雑学）ナツメ社、2004年

* 教科書は使用しません。授業内容、参考書等に関するプリントを毎回配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は不要。授業後に、毎回の授業で配布するプリントを復習する。特に、プリント中に「☆」印で示す問いに対して、授業内容を踏まえて自分なりの考えをまとめてみる。その際、シラバス記載の参考書、あるいは、その回のプリントに記載した参考文献に当たり、理解に努める。また、プリントに記載した参考文献のうち、少なくとも1冊の文献を、図書館等を利用して読んでみる。

〔成績評価の方法〕

学期末試験で評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1週 | ガイダンス - 授業の進め方、「哲学」という言葉 |
| 第2週 | 「わたし」と「世界」のこと |
| 第3週 | 科学と哲学 |
| 第4週 | とらえどころのないもの |
| 第5週 | アトムの話 |
| 第6週 | 感覚と経験 |
| 第7週 | 三角形を見た人はいない!? |
| 第8週 | これはなんですか? |
| 第9週 | 今日の「わたし」は、昨日の「わたし」とは違う!? |
| 第10週 | ものが存在するということ |
| 第11週 | あなたは、わたしのことを全然わかっていない! |
| 第12週 | 自然と人間 |
| 第13週 | どっちが得か、考えよう! |
| 第14週 | 神さまは存在する! |
| 第15週 | 知を愛する人 |

副題					担当者	角尾 美奈 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

心理学はこころの働きと行動を対象とし、そこに潜む法則性を明らかにしようとする学問である。この授業では、日常生活での体験や身近な現象を心理学的な枠組みでとらえ直すことで、自分や他者、社会生活についての理解を深めることを目指す。

〔授業の内容〕

こころの仕組みや働き、他者との関係を維持あるいは崩壊させる要因、集団状況において生じる現象などについて、基礎的な知識を修得する。基本的に講義形式の授業だが、授業内容に関連した心理テストも実施する予定である。

〔教材〕

教科書は指定しない。毎回の授業で資料を配布し、適宜参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、学習した内容を理解し知識を定着させた上で出席すること。

〔成績評価の方法〕

期末試験（100％）により評価する。ただし、学期中数回提出のリアクション・ペーパーの内容を評価に加味することがある。

〔備考〕

履修希望者数が多い場合は第1週のオリエンテーションにおいて履修制限を行うことがある。履修を希望する場合は必ず第1週の授業に出席すること。

〔授業計画〕

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 知覚
- 第3週 記憶
- 第4週 学習
- 第5週 パーソナリティ（1）
- 第6週 パーソナリティ（2）—心理テストによる自己分析
- 第7週 パーソナリティ（3）—心理テストによる自己分析
- 第8週 パーソナリティ（4）—心理テストによる自己分析
- 第9週 対人関係（1）
- 第10週 対人関係（2）
- 第11週 対人関係（3）
- 第12週 社会的影響（1）
- 第13週 社会的影響（2）
- 第14週 社会的影響（3）
- 第15週 まとめ

授業計画は、履修者の状況や授業の進捗状況により一部変更することがある。

副題	グローバリゼーションと国民国家			担当者	杉原 志啓 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

政治と政治学の基礎理論の習得。つまり国家、権力、権威、立憲政治、民主主義、全体主義、政治制度、官僚制、政党政治、圧力団体、マスコミ権力、さらに近年問題視されるテレポリテイクスやポピュリズム等々の概念を学問的に習得。

〔授業の内容〕

本年度は、政治学の基礎知識を習得しつつ、ポダレス・エコノミーやグローバリゼーションの進展のもとで変質しつつある国民国家の機能と役割を詳しく検討していく。すなわち、排他的領土支配を基礎とする国家（主権）の国境概念を破壊しようとする世界的な地域動向をふまえ、これからの国家というものと政治の態様を詳しくレクチャーしていく予定である。

〔教材〕

参考書：杉原志啓編・坂本多加雄著『坂本多加雄選集 1・2』藤原書店、2005年
授業中政治学の基本的テキストを多数紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中の配布プリントの閲読。

〔成績評価の方法〕

授業期間内の1回の小テストと学期末レポート1回。

〔備考〕

授業中の配布プリントの閲読

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 政治と政治学
- 第3週 政治哲学と政治思想
- 第4週 国家とは何か
- 第5週 近代国民国家の成立
- 第6週 日本における国民国家の成立過程（1）
- 第7週 日本における国民国家の成立過程（2）
- 第8週 日本における政教分離
- 第9週 立憲主義と帝国憲法
- 第10週 日本国憲法と象徴天皇制度
- 第11週 国民国家の機能と役割
- 第12週 グローバリゼーションと国民国家
- 第13週 日本の戦後平和主義と政治
- 第14週 国民国家の変質
- 第15週 国家相対化論の胎動

小テストと期末レポートは、実施日の前の週に告知する。授業期間出席はとらないが、この2回は必ず出席すること。

副 題	新聞の経済記事の読み方			担 当 者	佐久間 潮 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	木	時 限	1

〔授業の到達目標〕

経済に関する基礎知識を習得し、新聞の経済記事を理解できるようにすること。

〔授業の内容〕

日本経済に関しては1990年代初めから「景気が悪い」、「リストラされた」、「希望する職に就けない」、等々、長期間、良い話がほとんどなかった。かつて中南米諸国の1980年代のことを意味していた「失われた10年」という言葉は1990年代以降の日本の経済を特徴付ける言葉としても使われるようになった。世界の経済環境が大きく変わりつつある中、日本経済は今後どのような方向をたどるのであるか。

この授業は、このような問題を自ら考えるために必要な基本的経済知識と考え方を身につけることを目的としている。具体的には、内外の新聞や雑誌を教材にし、それらを読みつつ、国内総生産、経済成長、消費、投資、輸出と輸入、財政政策、金融政策、失業、賃金、インフレ、需要と供給、などの基本概念を学び、経済の理論にのっとった考え方ができるようになることが目的である。

〔教材〕

授業の中で適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各2時間

〔成績評価の方法〕

期末テスト

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 経済の考え方
- 第2週 国民総生産（GDP）とは（その1）
- 第3週 国民総生産（GDP）とは（その2）
- 第4週 国民総生産（GDP）とは（その3）
- 第5週 経済成長と生産性
- 第6週 失業とインフレ（その1）
- 第7週 失業とインフレ（その2）
- 第8週 財政政策
- 第9週 金融政策
- 第10週 需要と供給と均衡
- 第11週 消費と効用
- 第12週 コストと生産
- 第13週 価格と生産
- 第14週 賃金の決定
- 第15週 国際貿易と直接投資

副題	現代社会論入門			担当者	時安 邦治 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

社会学の基本的な理論や概念を学ぶとともに、さまざまなデータや先行研究を参照して、現代社会の諸問題について理解し、自分の見解を述べられるようになる。

〔授業の内容〕

社会学は近代社会の自己理解として成立したと言ってよい。そして、社会学は常に具体的な問題と向き合うことを通じて発展してきた。この授業では、さまざまなトピックを立てて、社会学の視点から現代社会の諸側面について考えていく。同時に、社会的に考えるために必要な理論や概念について解説する。他の開講科目との内容の重複を考慮し、他の科目では扱わないような内容を中心とする。

〔教材〕

参考書：宮島喬『社会学原論』（岩波テキストブックス）岩波書店、2012年

教科書は使用せず、適宜プリント等を使用する。参考文献は授業中に指示する。なお、配布済みのプリントを後日あらためて配布することはない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の講義のあとに、参考文献を読むなどし、講義内容について復習をすること。翌週の講義の開始時に簡単な復習テストを行う。

〔成績評価の方法〕

学期末のテストまたはレポート（70%）と講義翌週の復習テスト（30%）により評価する。

〔備考〕

授業について質問がある場合には、kuniharu.tokiyasu@gakushuin.ac.jpまでメールで問い合わせるか、事前連絡のうえ火曜日4限（14：40～16：10）のオフィスアワーに時安研究室（4110号室）まで来ること。

〔授業計画〕

- 第1週 社会学の成立
- 第2週 相互行為とコミュニケーション
- 第3週 規範と逸脱
- 第4週 合理化
- 第5週 社会変動
- 第6週 権力と支配
- 第7週 国家
- 第8週 グローバリゼーションと移民
- 第9週 社会階層と格差
- 第10週 ジェンダーと労働
- 第11週 教育と学校
- 第12週 科学技術とリスク
- 第13週 メディアと公共圏
- 第14週 親密性
- 第15週 若者

授業計画は変更することがある。

副 題	初めて学ぶ統計学			担 当 者	竹内 俊子 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	木	時 限	2

〔授業の到達目標〕

分析したい事柄に適するデータを各自が集め、講義で習得した方法でEXCELを使って分析し、結論を導けるようになることが目標です。

〔授業の内容〕

さまざまな現象を科学的に分析するためには、適切なデータを集め、集められたデータを整理し、その意味するところを正しく理解し、そして結論を導くことが必要です。そのために統計学があります。本講義は、統計学を学んだことがない人のための統計学入門です。

〔教材〕

参考書：田中勝人『統計学』第2版，新世社，2010年

森棟公夫『統計学入門』第2版，新世社，2000年

東京大学教養学部統計学教室『統計学入門』初版，東京大学出版会，1991年

適宜プリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に配布したプリントの内容を理解し、練習問題および課題をすべてやり、次の授業に臨んで下さい。

〔成績評価の方法〕

授業中に行なう小テスト（30%）と課題（40%），及び最終レポート（30%）により評価します。

ただし、課題または最終レポートが未提出の場合には単位を認定致しません。

〔備考〕

講義にあわせてExcelによる実習を行ないますので、Excelの基本的な操作が出来ることを前提として講義をすすめます。

また、履修希望者がパソコンの台数を超えた場合には、人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1回目の授業に出席して下さい。出席していない学生は履修を認められないことがありますので注意して下さい。

〔授 業 計 画〕

第1週	講義概要		
第2週	統計データをどう解釈したらよいだろうか	その1	サイズと単位
第3週	統計データをどう解釈したらよいだろうか	その2	構成比と特化係数
第4週	統計データをどう解釈したらよいだろうか	その3	指数・寄与率・標準化
第5週	統計データをどう整理したらよいだろうか	その1	分布表・分布図
第6週	統計データをどう整理したらよいだろうか	その2	平均・分散
第7週	統計データをどう整理したらよいだろうか	その3	ローレンツ曲線・ジニ係数
第8週	統計データをどう集めたらよいだろうか		インターネットで情報収集
第9週	現象をどう分析したらよいだろうか	その1	分割表
第10週	現象をどう分析したらよいだろうか	その2	相関表・相関係数
第11週	現象をどう分析したらよいだろうか	その3	回帰分析1 回帰式の当てはめと妥当性
第12週	現象をどう分析したらよいだろうか 評価	その4	回帰分析2 回帰モデルの作り方とその
第13週	現象をどう分析したらよいだろうか	その5	回帰分析3 定性的な独立変数
第14週	レポート指導		
第15週	まとめ		

副題	近代日本における制度・政策、経済、社会			担当者	森田 貴子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

本講義では、明治初年から第二次世界大戦までの日本について、法律・経済・社会・教育・都市などの多角的な視点から、日本の近代を歴史的事実に基づき把握することをめざします。

〔授業の内容〕

明治になり、日本は封建的な制度を撤廃し、近代的な制度を急激に形成しました。多様な法律・規則が制定・改廃され、多くの社会的な変動と改革がなされました。

本講義では、明治初年から第二次世界大戦までの日本について、法律・経済・社会・教育・都市などの多角的な視点から、日本の近代を歴史的事実に基づき把握することをめざします。

〔教材〕

教場で、適宜、参考文献を指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、指定した参考文献をあらかじめ読んだ上で出席してください。

〔成績評価の方法〕

毎回提出するミニレポート（50%）と、学期末の試験1回（持込み不可）（50%）によります。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週 この授業について。日本近代史について。歴史学の方法について。

第2週 教育制度——小学校の設置

第3週 廃藩置県と秩禄処分——大名から華族へ、士族の困窮

第4週 司法制度——裁判所の設置

第5週 土地制度——地租改正の実施

第6週 貨幣制度——貨幣の統一

第7週 首都東京の形成——銀座煉瓦街の建設

第8週 金融制度——松方デフレと日本銀行の設立

第9週 条約改正——欧化政策と鹿鳴館

第10週 憲法の制定

第11週 帝国図書館の設立

第12週 政商の出現——三菱の設立

第13週 都市機能の拡充——上水道・電気・ガスの普及

第14週 第一次世界大戦・第二次世界大戦へ

第15週 理解度の確認

毎回の講義後、その回の授業内容について、5～6行のミニレポートを提出してもらいます。ミニレポートは、講義時間内に書きます。

副 題	寛容と迫害のヨーロッパ史			担 当 者	高津 美和 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月	時 限	2

〔授業の到達目標〕

現代の日本を生きる私たちは、誰からも強制されることなく、自由に考え行動することができる。しかし、こうした「思想の自由」は、はじめからすべての人に与えられていたわけではない。授業を通じて、現在私たちが当たり前のものと見なしがちな「思想の自由」が、ヨーロッパでは、寛容と迫害の間を揺れ動く近代史を経てはじめて達成されたことを理解する。

〔授業の内容〕

ルネサンスの人文主義者、16世紀の宗教改革者、そして17～18世紀の啓蒙主義者たちの生涯と思想を紹介しながら、「思想の自由」獲得に向けた苦難の歴史を辿る。

〔教材〕

プリントを配布する。参考文献については、授業中に適宜指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：各回のテーマについて下調べし、リアクション・ペーパーで疑問点を質問できるように準備する。

復習：授業中に配布したプリントを見返し、紹介した参考文献に目を通す。

〔成績評価の方法〕

出席、リアクション・ペーパーなどの平常点（40%）および学期末試験（60%）を総合して評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 ルネサンスにおける「世界と人間の発見」
- 第3週 人文主義者の聖書研究と教会批判
- 第4週 エラスムスとキリスト教人文主義
- 第5週 ルターの「95カ条の論題」と宗教改革の開始
- 第6週 カルヴァンの「神権政治」とセルヴェトゥスの処刑
- 第7週 宗教改革急進派と寛容主義者たち
- 第8週 トマス・モアとヘンリー8世
- 第9週 トレント公会議と対抗宗教改革
- 第10週 異端審問と魔女狩り
- 第11週 イエズス会の布教活動
- 第12週 モンテーニュ『エッセー』における寛容思想
- 第13週 ヴォルテールの『寛容論』
- 第14週 フランス革命における自由
- 第15週 理解度の確認

副題	近代の社会哲学			担当者	時安 邦治 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

17世紀から19世紀を中心として、西欧近代の代表的な思想家・哲学者の社会思想について学び、それぞれの思想の概要や特徴、後世への影響、西欧近代の社会思想の全体的な流れなどを説明できるようになる。

〔授業の内容〕

西欧近代には、理性能力にもとづいて人間は社会秩序や国家の理想的状態を認識できるばかりか、その方向に社会を変革ないし構築できるという考えが出てくる。神の秩序としての世界から人間による秩序の世界への移行とも言えよう。この授業では、西欧近代の社会思想をおおよそ時代順に、理性、自由、平等などの論点をめぐる思想家・哲学者の思想の骨子を解説する。

〔教材〕

教科書は使用せず、適宜プリント等を使用する。参考文献は授業中に指示する。なお、配布済みのプリントを後日あらためて配布することはしない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の講義のあとに、参考文献を読むなどし、講義内容について復習をすること。翌週の講義の開始時に簡単な復習テストを行う。

〔成績評価の方法〕

学期末のテストまたはレポート（70%）と講義翌週の復習テスト（30%）により評価する。

〔備考〕

授業について質問がある場合には、kuniharu.tokiyasu@gakushuin.ac.jpまでメールで問い合わせるか、事前連絡のうえ火曜日4限（14：40～16：10）のオフィスアワーに時安研究室（4110号室）まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 近代とはどういう時代か
- 第2週 ホブズの世界契約説
- 第3週 ロックの市民政府論
- 第4週 ルソーにおける自由と社会契約
- 第5週 カントの道徳哲学
- 第6週 カントにおける啓蒙と永遠平和
- 第7週 スミスにおける道徳と経済
- 第8週 ヘーゲルの弁証法と歴史
- 第9週 ヘーゲルの国家論
- 第10週 マルクスの唯物史観
- 第11週 マルクス主義の思想
- 第12週 ベンサム功利主義
- 第13週 J. S.ミルの自由論
- 第14週 合理化の行方
- 第15週 まとめ

授業計画は変更することがある。

副 題	美術をめぐる理念とその展開			担 当 者	石田 佳也 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	木	時 限	4

〔授業の到達目標〕

日本の芸術史を概観し、とくに日本美術の創作活動において重要な役割を果たした各時代の美的理念の歴史を理解する。

〔授業の内容〕

日本文化を形成する絵画・工芸や文学・芸能などの諸芸術は、時代に応じて独自の美的理念を追求してきた。この講義では、日本の芸術史における基礎事項を確認しながら、とくに特定の美術作品を選び、その制作背景や、文学や芸能との影響関係を考察する。

〔教材〕

参考文献に関しては授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回到配布したレジユメの内容を、15分程度の時間で再確認する。可能であれば、授業中に指定した参考文献を参照し(1時間以上)、また授業中に推薦する授業に関連した展覧会を鑑賞する(1時間以上)。

〔成績評価の方法〕

出席状況(40%)と期末のレポート(60%)によって評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	授業内容のガイダンス
第2週	日本芸術論の基礎事項 その歴史と展開
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	日本美術の諸様相 絵画・工芸と文学・芸能との影響関係を中心に考察する
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	総括

毎回、スクリーンに関連する画像を相当数映写する。
講義で取り上げる項目の順番は、適宜変更する場合もある。

副題	中欧文化史 チェコ、ポーランド、ハンガリーの歴史と芸術を中心に			担当者	遠藤 望 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

かつては「東欧」と位置付けられ、いまだなじみの薄いチェコ、ポーランド、ハンガリー中欧3国において、19世紀末から20世紀初頭の独立期に開化した独特の文化・芸術を、中世期の繁栄とその後の異民族支配という歴史的背景をふまえて理解する。

〔授業の内容〕

近年経済成長地域としても、また新たな観光地としても注目を集める「中欧」地域。その中からチェコ、ポーランド、ハンガリーの文化・芸術をとりあげます。この三国は、1989年の劇的な革命によって、民主主義国家への復帰を達成してから、着実にユーロ諸国の一員となり私たちにその姿を見せてきました。第二次大戦以降の世界においては「東欧」と位置付けられ、ベールに包まれていたこの地域には、かつて、まさに西洋と東洋が交錯するセントラル・ヨーロッパとして独特の文化が開花していました。本講義では、この3つの国の歴史・文化をまず振り返り、加えて19世紀後半から20世紀初頭にかけて開花した独特な文化を考察します。取り上げるのは、美術、建築、ファッション、写真、音楽から人形劇、アニメなど広範囲に及ぶ予定です。この地域に視点を置くことによって、これまで学生が受け取ってきたであろう西ヨーロッパ中心的な世界史観の変化を期待します。

〔教材〕

参考書：ジャポニスム学会編『ジャポニスム入門』第3版、思文閣出版、2000年
 薩摩秀登『チェコとスロヴァキアを知るための56章』明石書店、2003年
 渡辺克義『ポーランドを知るための60章』明石書店、2001年
 羽場久滉子『ハンガリーを知るための47章』明石書店、2000年
 毎回プリントを配布。その他の参考書は、授業内で指示していきます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回配布するプリントに記載された「予習項目」（3-4項目）にしたがって、次の講義の準備を行う。
 予習項目に記入した事項を授業中にとりあげるのので、各自事前に調べたことを確認し、授業後にまとめておく。

〔成績評価の方法〕

出席状況（30%）および筆記試験（70%）

〔備考〕

講義形式の授業のほかに、内容の関連する展覧会見学などの課題を実施します。

〔授 業 計 画〕

第1週	中欧、セントラル・ヨーロッパとは 講義で扱う地域と都市、時代
第2週	中欧の歴史：中世黄金期のチェコ、ポーランド、ハンガリー
第3週	中欧の歴史：神聖ローマ帝国とハプスブルク家
第4週	中欧文化史：チェコの19世紀
第5週	中欧文化史：チェコ 独立期の芸術 アール・ヌーヴォーからアール・デコへ
第6週	中欧文化史：チェコ チェコの人形劇とアニメーション
第7週	展覧会見学 授業内容に関連する企画展を指定し見学
第8週	中欧文化史：ポーランドの19世紀
第9週	中欧文化史：ポーランドのモダニズムと日本
第10週	中欧文化史：ハンガリーの19世紀 2重帝国時代のブダペシュト
第11週	中欧文化史：ハンガリー 世紀末の建築と応用美術
第12週	中欧文化史：ハンガリー 20世紀の写真家たち
第13週	中欧文化史：中欧の音楽とダンス
第14週	まとめ
第15週	理解度の確認

出席を重視します。授業は、講義が中心となりますが、スライド、DVDなどを視覚的なものを多用します。
 授業計画は変更することがあります。

副 題	英語史と言語研究の概観			担 当 者	古 庄 信 教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	金	時 限	2

〔授業の到達目標〕

英語学という視点から英語を観察し、英語という言語の性質・特徴を語学の授業とは異なる視点から捉えることを目標とする。また英語を言語学的に研究することの意義を見出す。

〔授業の内容〕

この科目は教職課程・外国語（英語）に必要な科目のひとつとして開設されたものであるが、教職課程を履修しない学生にとっても「英語学」(English linguistics)とは何か、英語とはそもそもどのような言語であるのか、など英語という言語を歴史的、共時的に観察することで、これまでとは異なる視点から英語を学ぶという点で意義のある科目となろう。

一般的に「英語学」という学問を定義する場合、英語学の学問の出発点となった「歴史言語学」、すなわち英語という言語の由来から発達、変遷をととして今日国際語としての地位を築くに至った過程を様々な文献等をととして歴史的に観察する分野と、「構造言語学」「生成文法」「認知言語学」「談話分析」など理論的な立場から英語を分析する分野などに大別されよう。この時間では担当者の専門である「歴史統語論」(historical syntax)の立場から前者の部分を中心として講義していくが、後者の理論的考え方についても触れ、文字通り「英語学」について広く見識を深める授業としたい。

〔教材〕

教科書：八木克正『新英語学概論』英宝社、2007年

英語史については、英語の発達についてより理解を深めるため、テキストの他に、映像資料や音声資料なども用いる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業箇所についてテキストを熟読しておくこと。また授業時に配布されるワークシートは必ず授業中に正確に記述できたか確認し、内容を十分に理解しておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業に取り組む姿勢、出席点(30%)、定期試験(70%)を目安に評価する。5分以上の遅刻、および授業中の私語・居眠り・スマホ使用などは全体の評価において大きな減点対象とする。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--|
| 第1週 | ガイダンスおよび「英語学の概要」 |
| 第2週 | 英語の外面史（言語の系統樹における英語の位置～英語はどこから来たか） |
| 第3週 | 古英語(Old English) その1（アングロサクソン人の侵入） |
| 第4週 | 古英語(Old English) その2（デン人侵入～ノルマン人征服） |
| 第5週 | 中英語(Middle English) その1（中英語は古英語からなぜ、どのように変化したか） |
| 第6週 | 中英語(Middle English) その2（代表作家Chaucerにみる中英語の特徴） |
| 第7週 | 中英語(Middle English) その3（The Canterbury Tales鑑賞） |
| 第8週 | 初期近代英語(Early Modern English) その1（中英語から初期近代英語への変化） |
| 第9週 | 初期近代英語(Early Modern English) その2（初期近代英語の代表Shakespeare） |
| 第10週 | 初期近代英語(Early Modern English) その3（英語学的立場からのShakespeare作品鑑賞） |
| 第11週 | 初期近代英語から現代英語へ（英語圏の広がり） |
| 第12週 | 統語論・意味論・形態論などの英語学各分野について |
| 第13週 | 構造言語学、生成文法とは何か（ヒトはどのように言語を身につけるのか） |
| 第14週 | 認知言語学、談話分析とは何か（言語は脳でどのように処理されるのか） |
| 第15週 | 日本の英語教育はどこへ向かうのか、向かうべきか（最近の研究成果）・まとめ |

副題					担当者	藤田 英昭 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	土	時限	2

〔授業の到達目標〕

学習院女子大学の母体となった学習院の歴史や女子教育のあゆみを学びながら、学習院女子大学がどのような歴史的背景のもとで開校・成立していったのか理解する。近現代日本において、学習院に何が求められていたのか考えていきたい。

〔授業の内容〕

華族の教育機関として開設された学習院のあゆみを、近現代日本の政治・社会・経済・文化状況などを視野に入れながらみていく。特に学習院の運営や女子教育に大きな影響を与えた谷干城や大鳥圭介・下田歌子・西村茂樹・乃木希典といった人物に焦点を当て、彼らが学習院や華族に何を求めていたのか解説していく。また、女子教育に関わった教員についても具体的に取り上げていきたい。

〔教材〕

授業中にプリントを配布し、適宜参考文献を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の際に1～2時間程度の準備学習の指示をする。

〔成績評価の方法〕

平常の出席状況(30%)・レポート(70%)によって評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 はじめに－学習院のあゆみ
- 第2週 京都学習院から華族学校へ
- 第3週 学習院の開院と歴代院長
- 第4週 歴代院長と学習院教育（1）－谷干城の華族教育－
- 第5週 歴代院長と学習院教育（2）－三浦梧楼の教育改革－
- 第6週 華族女学校の開校と明治女子教育（1）
- 第7週 華族女学校の開校と明治女子教育（2）
- 第8週 華族女学校の校長と教育方針（1）－西村茂樹の女子教育観－
- 第9週 華族女学校の校長と教育方針（2）－細川潤次郎の女子教育観－
- 第10週 外国人教師が見た華族女学校生徒
- 第11週 学習院女子教育の展開
- 第12週 女子学習院と乃木希典
- 第13週 学習院に通った徳川家の人々
- 第14週 戦中・戦後の女子学習院
- 第15週 まとめ

授業の進み具合などにより、授業計画が変更することもあり得る。

副 題				担 当 者	石黒 史郎 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	月	時 限	4

〔授業の到達目標〕

現代の家族を、感情や思い込みによってではなく、思考や論理によってとらえること。そのための方法や材料を学ぶこと。

〔授業の内容〕

現代の社会において、家族は、個々の人にとって、きわめて身近なものとしてとらえられており、さまざまな文脈で家族が語られるばあいにも（たとえば「家族の教育力の低下」や「家族介護の問題」など）、どうしても身近な経験をもとにして語られやすい。現代の私たちは、多くのばあい家族に囲まれた関係の中で幼少期をすごすので、じぶんたちの経験してきた家族を自然なものと感じがちである。

しかし、じっさいには家族のありかたは、ここ5、60年にかぎっても大きく変化してきている。この授業では、家族が現在のようなありかたに至ったいきさつなどをふまえながら、現在の家族をめぐるさまざまなことがらを、それらを自明視しない視点からとりあげていく。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に指定した文献の入手、統計資料や論文の検索、およびそれらに基づいたコメントの執筆を求めることがある。

〔成績評価の方法〕

成績評価は試験70%、コメントペーパー30%による。

〔備考〕

授業中に発言を求めることがあるので、そのつもりで参加すること。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1週 | ガイダンス（評価方法など）と主旨説明 |
| 第2週 | 現代社会における学びの場、しごと場、家庭の分離 |
| 第3週 | 家族と住居：職住分離とすまいの変化 |
| 第4週 | 家事の発生と、その歴史的变化 |
| 第5週 | 性別役割分業と専業主婦 |
| 第6週 | 家族と労働および収入の問題 |
| 第7週 | 現代社会の「ふつう」を支える家族 |
| 第8週 | 出産・育児の変化 |
| 第9週 | 学校生活の長期化とこどもの育てかた |
| 第10週 | 若者の自立困難と親子関係 |
| 第11週 | 恋愛・結婚の歴史的变化と現在の結婚難 |
| 第12週 | 家族形成とセクシュアリティ |
| 第13週 | 高齢化とケア役割 |
| 第14週 | 個人化の中の埋葬 |
| 第15週 | まとめと理解度の確認 |

副題					担当者	安藤 朗子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	

〔授業の到達目標〕

子どもの健やかな成長・発達には、親自身の心と身体の健康、そして健全な親子関係が重要であることを理解する。また、親となること、次世代を育成したり支援したりする立場となることなど、自分自身の将来を考える機会とする。

〔授業の内容〕

まず親子を取り巻く社会の状況を概観した後で、親自身の心と身体の健康について学ぶとともに、出生前から始まる母子の関係性や子どもの発育・発達、親子（養育者と子ども）関係に生じる可能性がある問題とその問題に対する支援などについて学ぶ。

〔教材〕

教科書は指定しない。毎回資料を配布し、適宜参考文献等を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、指定した参考文献をあらかじめ読んだ上で出席し、授業の後に各回ごとに資料を読んで復習を行うこと。

〔成績評価の方法〕

学期末試験（80%）と授業時に提出してもらうミニ・レポート（20%）で評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 母子を取り巻く社会の現状（母子保健や社会福祉関連領域を中心に）
- 第2週 母親の心身の健康（1）一妊娠期から産後を中心に
- 第3週 母親の心身の健康（2）
- 第4週 母子相互作用と子どもの成長・発達（1）
- 第5週 母子相互作用と子どもの成長・発達（2）
- 第6週 子どもの発達（1）
- 第7週 子どもの発達（2）
- 第8週 妊娠中の栄養、乳幼児期の栄養や食に関する問題
- 第9週 子どもの発達に関する諸問題（1）
- 第10週 子どもの発達に関する諸問題（2）
- 第11週 親子（養育者と子ども）関係に関する諸問題（虐待等）（1）
- 第12週 親子（養育者と子ども）関係に関する諸問題（虐待等）（2）
- 第13週 子どもの発達や育児に対する支援（1）
- 第14週 子どもの発達や育児に対する支援（2）
- 第15週 まとめ

副 題	医学的視点からみた子どもの発達と教育			担 当 者	澤口 聡子 講師		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	木	時 限	1

〔授業の到達目標〕

医学的・科学的な視点と側面からみた子どもの発達と発育を理解し、その基盤の上で保育・幼児教育のありかたを考えられるようになることを到達目標とする

〔授業の内容〕

医学（小児科学・新生児学）と関連科学（子ども学・赤ちゃん学）によって、子どもの発達と発育のしくみの驚くべき事実がわかってきた時代の背景がある。それらを踏まえて、保育・幼児教育の上で、どのような新しい配慮が必要かについて、特に他者とともに生きること及び人との関わりのさまざまな局面と展開や、人と関わる能力がどのように発達していくか、人と関わる能力はどのように評価することができるのか、人と関わることに障害をもつ子どもたちにどう対処していくのか、育児の不安と悩み等について、1回毎に完結する内容で講義をすすめる。

〔教材〕

毎回、異なる参考書を用いたプリントを配布する。
毎回のテーマに関連する動画教材（DVD含む）を用いる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業終了後、授業の内容について自分の考えることをまとめてください。

〔成績評価の方法〕

講義最終回に筆記試験を行う。5者択一問題及び記述問題。毎回のリフレクションシートの提出と出席遅刻欠席を加味する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	現代社会と育児
第2週	子どもの発達（赤ちゃんの不思議）
第3週	発達するということ
第4週	赤ちゃんの視点（赤ちゃんはこの世界をどう見ているのか）
第5週	人との関わり（保育・幼児教育を職業にする人との関わり）
第6週	人との関わりの中で育つ（遊びを通して学ぶ）
第7週	人との関わり（母親の役割）
第8週	人との関わり（母親の役割と子供の自立）
第9週	人との関わり（父親の役割）
第10週	人との関わり（やさしさが育つとき）
第11週	人との関わり（友達の役割）
第12週	人との関わりでの評価
第13週	共感的な役割がはぐくむもの（発達障害のこどもたち）
第14週	ひごろの悩みと育児の不安
第15週	総括・まとめ

第1限の授業ですが、できるだけ遅刻しないように。原則的には、最初に配布プリントで講義し、その内容に関連した動画教材を見ていただき、指定した内容についてリフレクションシートを毎回出していただきます。

副題					担当者	角尾 美奈 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	

〔授業の到達目標〕

カウンセリングの理論やカウンセラーとしての基本的な在り方を学ぶことで、人間を理解しようとする態度を養うことを目的とする。そのためには、自分自身について理解を深めることや、様々な心理的問題について知ることが必要であり、自分についての振り返りや心理的諸問題についての知識を修得することも目指す。

〔授業の内容〕

ライフサイクルごとに生じやすい心理的問題、それらに対する様々な心理療法的アプローチやカウンセリングの理論などについて、概論的な知識を修得する。基本的に講義形式の授業だが、授業内容に関連した心理テストも実施する予定である。

〔教材〕

教科書は指定しない。毎回の授業で資料を配布し、適宜参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、学習した内容を理解し知識を定着させた上で出席すること。

〔成績評価の方法〕

期末試験（100％）により評価する。ただし、学期中数回提出のリアクション・ペーパーの内容を評価に加味することがある。

〔備考〕

履修希望者数が多い場合は第1週のオリエンテーションにおいて履修制限を行うことがある。履修を希望する場合は必ず第1週の授業に出席すること。

〔授業計画〕

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 ライフサイクルと心理的問題（1）
- 第3週 ライフサイクルと心理的問題（2）
- 第4週 ライフサイクルと心理的問題（3）
- 第5週 ライフサイクルと心理的問題（4）
- 第6週 ライフサイクルと心理的問題（5）
- 第7週 ライフサイクルと心理的問題（6）
- 第8週 ライフサイクルと心理的問題（7）
- 第9週 ライフサイクルと心理的問題（8）
- 第10週 ライフサイクルと心理的問題（9）
- 第11週 心理テストによる自己理解（1）
- 第12週 心理テストによる自己理解（2）
- 第13週 カウンセリング（1）
- 第14週 カウンセリング（2）
- 第15週 カウンセリング（3）

授業計画は、履修者の状況や授業の進捗状況により一部変更することがある。

副題				担当者	高久 聡司 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

それまで気にとめることのなかった地域社会にひそむ諸問題を理解できるようになることが本講義の目的である。同時に、講義内で取りあげるトピックに限定せずに、自分にとって身近なトピックを捉え直せるようになってもらいたい。そのための「モノの見方」(社会的視点)を身につけ、自分の言葉で表現できるようになってもらいたい。

〔授業の内容〕

「地域社会」という言葉は、たとえば震災や災害、過疎化、商業化=都市化による地域の衰退、空洞化、人びとのつながりの弱体化など、「社会問題」が浮上した時に意識されることが多い。このような問題を彼岸の事柄と捉えている限りにおいて、私たちは、気にとめることもなく「地域社会」で生活している。本講義では、「地域社会」をめぐって生じているさまざまな問題を提示し、どのような「地域社会」が望ましいのか、そのためには何が必要かを受講生に考えてもらうための手がかりを提供する。

〔教材〕

教科書：森岡清志編『地域の社会学』有斐閣、2008年

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、教科書(指定範囲)をあらかじめ読んだ上で出席すること。

〔成績評価の方法〕

毎回の授業で行うコメントカード(30%)と学期末レポート(70%)の合計で評価する。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 イン트로(講義の進め方、注意事項、講義予定など)
- 第2週 地域社会へのアプローチ:「地域」のイメージとその意味について
- 第3週 地域社会とは何か:地域社会という概念をめぐって
- 第4週 地域社会と制度:地域文化をめぐって
- 第5週 地域社会とネットワーク:地縁と選択縁
- 第6週 地域社会と歴史:文化・歴史的環境をめぐって
- 第7週 地域社会の再生:まちづくりと地域社活性化
- 第8週 地域社会と子育て:都市化による変容
- 第9週 地域社会と学校:子育てと教育
- 第10週 地域社会におけるNPO:地域コミュニティとNPOの協働の具体的事例を学ぶ①
- 第11週 地域社会におけるNPO:地域コミュニティとNPOの協働の具体的事例を学ぶ②
- 第12週 地域社会と政治:映像から学ぶ①
- 第13週 地域社会と政治:映像から学ぶ②
- 第14週 地域社会と情報化:SNSの普及とその活用
- 第15週 まとめ

尚、受講者のコメントなどを参考に講義内容(難易度)を調整することがある。

人間関係論VI（組織社会）

3735051600100

副題	集団と組織の社会学			担当者	時安 邦治 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1

〔授業の到達目標〕

社会学における集団論・組織論に関する基本概念や学説を学び、また各種の統計資料などを参照することで、集団・組織の現代的特徴について理解する。

〔授業の内容〕

近代化、産業化といった社会変動をふまえ、集団や組織をめぐる社会学の基本的な事項（基本概念、学説等）について解説する。また各種の統計資料などを紹介し、集団や組織の現代的な特徴について考える。この講義は、社会的行為と社会関係、集団と組織、社会システムと法・経済などを主要なテーマとする。

〔教材〕

教科書は使用せず、適宜プリント等を使用する。参考文献は授業中に指示する。なお、配布済みのプリントを後日あらためて配布することはしない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の講義のあとに、参考文献を読むなどし、講義内容について復習をすること。翌週の講義の開始時に簡単な復習テストを行う。

〔成績評価の方法〕

学期末のテストまたはレポート（70%）と講義翌週の復習テスト（30%）により評価する。

〔備考〕

授業について質問がある場合には、kuniharu.tokiyasu@gakushuin.ac.jpまでメールで問い合わせるか、事前連絡のうえ火曜日4限（14：40～16：10）のオフィスアワーに時安研究室（4110号室）まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 近代化、産業化、合理化
- 第3週 社会的行為と社会関係（1）——社会的行為と社会関係
- 第4週 社会的行為と社会関係（2）——社会関係資本
- 第5週 社会的行為と社会関係（3）——排除と包摂
- 第6週 社会集団と組織（1）——集団の諸類型
- 第7週 社会集団と組織（2）——官僚制
- 第8週 社会集団と組織（3）——テーラー主義とフォード式生産システム
- 第9週 社会集団と組織（4）——日本の雇用システム
- 第10週 社会集団と組織（5）——マクドナルド化
- 第11週 社会集団と組織（6）——市民社会セクター
- 第12週 社会システム（1）——社会システム論
- 第13週 社会システム（2）——規範と法
- 第14週 社会システム（3）——交換、貨幣、労働
- 第15週 まとめ

授業計画は変更することがある。

人間関係論Ⅶ（女性）

3735051700100

副題					担当者	中村 優実子 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

日本近現代小説を読むことを通し、〈愛〉・〈性〉をめぐる問題について知見を広げ、自分なりの考察を行う。

〔授業の内容〕

男女平等化への取り組みがなされている状況下で、現代女性の生き方は多様化し、それに伴い、恋愛や結婚の在り方も変容してきている。だが、どのように形をかえようとも、〈愛〉と〈性〉の問題は重要なテーマとして、私たちの前に横たわっているといえるだろう。

授業では、近現代小説において恋愛と性の問題がどのように描かれてきたのかを、フェミニズムやジェンダー（歴史・社会・文化的性差）の視点によって見つめてみる。これらの作品を学ぶことを通して、私たちが知らず知らずに内面化しているジェンダーを意識化することができ、さらに現代女性の〈愛〉と〈性〉の問題を問い直す契機になればと考えている。

〔教材〕

教科書：岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』東京堂出版、2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に指定した教科書の章を必ず読んだ上で、授業にのぞむこと。

〔成績評価の方法〕

1. リアクションペーパーの内容と出席状況（40%）
2. 学期末レポート（60%）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 樋口一葉「十三夜」を読む
- 第3週 田村俊子「生血」を読む
- 第4週 有島武郎の生涯と「或る女」
- 第5週 「或る女」を読む
- 第6週 谷崎潤一郎の生涯と「春琴抄」
- 第7週 「春琴抄」を読む
- 第8週 三島由紀夫の生涯と「仮面の告白」
- 第9週 「仮面の告白」を読む
- 第10週 村上春樹「ノルウェイの森」を読む（1）
- 第11週 村上春樹「ノルウェイの森」を読む（2）
- 第12週 山田詠美「ベッドタイムアイズ」を読む
- 第13週 江國香織「きらきらひかる」を読む（1）
- 第14週 江國香織「きらきらひかる」を読む（2）
- 第15週 金原ひとみ「蛇にピアス」を読む

副題	国際環境問題解決のための法制度			担当者	小中 さつき 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

現在世界でいかなる環境問題が生じているかを知る。さらに問題解決に立ちはだかる障害を理解し、そのうえで自分なりの解決方法を提示できることを目標とする。

〔授業の内容〕

現在、温暖化、越境大気汚染、絶滅危惧種の増加、海面上昇、砂漠化といった言葉を日常的に見聞きする。果たしてこうした地球環境問題が実際にどのような状況にあるのか、その原因、被害の程度を理解し、そのうえで国際社会がこれらの問題に対し、どのように対応してきたのかまた対応しようとしているのかを学ぶ。

まずは国際環境法の特徴や基本原則を理解し、その後具体的な事例を取り上げながら、個別に問題を検討していく。

講義形式の授業であるが、受講生とともに授業を作っていくと考えている。そのため、受講生数に応じてディスカッションや意見を発表する機会を設ける。

〔教材〕

参考書：西井正弘 臼杵知史編『テキスト国際環境法』有信堂，2011年
地球環境法研究会『地球環境条約集』第4版，中央法規出版，2003年
教材については最初の授業で説明を行うので、そのうえで各自準備されたい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

1時間程度の復習をすること。授業で扱った事例や環境問題について配布した資料を再確認し、環境破壊を引き起こす原因と結果をしっかりと理解すること。

その他に、関心のある問題については自分でさらに掘り下げ、また新聞には必ず毎日目を通し環境関連の記事をしっかりと読むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末確認テスト（80%）と授業内での小テスト，レポート，発言等（20%）を総合して評価する。

〔備考〕

新聞等の媒体を通して、環境に関する時事問題に関心を持つことを心掛けて欲しい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 国際環境問題とは何か
- 第3週 国際法と国際環境法
- 第4週 国際環境法の形成と発展（1）
- 第5週 国際環境法の形成と発展（2）
- 第6週 国際環境法の定立形式
- 第7週 国際環境法の基本原則（1）
- 第8週 国際環境法の基本原則（2）
- 第9週 事後救済制度と事前防止制度
- 第10週 国際環境条約の履行確保
- 第11週 オゾン層保護と気候変動の防止と予防
- 第12週 人権と環境
- 第13週 武力紛争と環境
- 第14週 企業活動と環境
- 第15週 確認とまとめ

できるだけ具体的な問題を通して自分の頭で考えることを重視したい。したがって、授業計画に基づき進めていく予定であるが、国際環境問題に関する国際社会や国際機構による新たな取り組みが見られた際には、多少授業内容を変更する場合もある。

副 題	ミクロ経済学とその環境問題への応用			担 当 者	荘林 幹太郎 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	火	時 限	2

〔授業の到達目標〕

余剰分析を中心としたミクロ経済学の基礎を演習問題を自ら解くことも活用して完全に理解するとともに、外部性、公共財に伴う市場の失敗概念を実際の環境問題に応用できるようになる。

〔授業の内容〕

市場は資源を効率的に配分するメカニズムとされている。一方で、市場は環境問題を引き起こすこともある。また、環境を改善するために市場的な手法が有効な場合もある。

本講義では、これらを分析するためにミクロ経済学の基礎とその環境問題への応用を学ぶ。

また、ミクロ経済学は公共政策や開発協力分野においても有力な分析ツールであることから、環境問題に関心のある学生に加えて、それらの分野に関心のある学生（公務員や海外援助機関を志望する学生）もぜひ受講して欲しい。

〔教材〕

教科書：N.グレゴリー マンキュー『マンキュー経済学〈1〉ミクロ編』第2版，東洋経済新報社，2005年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の宿題に3時間程度の負荷を想定

〔成績評価の方法〕

宿題（出欠確認を兼ねる：20%），中間試験（自宅持ち帰り試験：20%），期末試験（60%）

〔備考〕

授業内容について質問がある場合、オフィスアワー（別途設定する）に研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 ミクロ経済学の基礎（1）：効用とその最大化
- 第3週 ミクロ経済学の基礎（2）：需要
- 第4週 ミクロ経済学の基礎（3）：供給
- 第5週 ミクロ経済学の基礎（4）：均衡価格の形成
- 第6週 ミクロ経済学の基礎（5）：市場による割り当ての効率性
- 第7週 ミクロ経済学による環境問題の分析（1）：外部性による市場の失敗
- 第8週 ミクロ経済学による環境問題の分析（2）：公共財
- 第9週 ミクロ経済学による環境問題の分析（3）：環境政策としての課税
- 第10週 ミクロ経済学による環境問題の分析（4）：規制の経済分析
- 第11週 ミクロ経済学による環境問題の分析（5）：排出権取引
- 第12週 ミクロ経済学による環境問題の分析（6）：貿易と環境
- 第13週 ミクロ経済学による環境問題の分析（7）：外部性の価値計測
- 第14週 まとめ（1）
- 第15週 まとめ（2）

副題	食の本質と食品の安全性			担当者	品川 明 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5

〔授業の到達目標〕

1. 食品の安全を考える上で必要な科学的知識の習得すること
2. 安全な食品を選択するために、必要な知見を自らが認識できる能力がある
3. 食品による健康被害を未然に防ぐために、必要な知見を自ら認識できる能力がある

〔授業の内容〕

高齢化社会の到来とともに、生命・健康への関心が高くなっている。特に、食を通して健康を保持しようとする場合、食品の含有成分や安全性に対する知識が必要である。本授業では、食品腐敗—その原因と防止法、食品添加物や食品に含まれる残留農薬や残留抗生物質の危険性、キノコなどの植物性自然毒、フグや貝類などの動物性自然毒および微生物の関与する毒成分について解説し、食中毒事件などの具体的な事例を紹介しながら食品の安全性についての認識を深める。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

食の現状や問題点を自分自身の問題と捉え、今後の食品の安全性について授業前と授業後に調査する必要がある。そのために、毎回3時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

1. 出席状況（30%）
2. リアクションペーパーを重視する（30%）
3. 小テストを実施する（40%）

「評価基準」小テストでは、食品の安全性に関する科学的知識の理解度を評価し、到達目標をクリアーしている場合のみ合格点を与える。

〔備考〕

毎回リアクションペーパーの提出による出席を取る。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 生活者の意識と食品の安全性に関する世論動向
- 第3週 豊かさの限界 食糧自給率について
- 第4週 食糧ロス
- 第5週 微生物による食品の品質低下
- 第6週 微生物に起因する食品の変質防止法
- 第7週 食中毒1 食中毒の分類と発生状況
- 第8週 食中毒2 微生物性食中毒とその予防法
- 第9週 食中毒3 微生物性食中毒とその予防法
- 第10週 食中毒4 植物性と動物性食中毒
- 第11週 有害物質による食品汚染 農薬および有害金属等
- 第12週 食品添加物 農薬・食品添加物の使用目的および使用基準
- 第13週 食品表示について
- 第14週 輸入食品の安全性
- 第15週 まとめ

副 題	気づきから人間の責任ある行動へ 体験学習による生態学			担 当 者	品川 明 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	金	時 限	5

〔授業の到達目標〕

1. エコシステム教育の視点を十分に理解し、自然の中で環境と生き物の関わりを認識できる。
2. 生き物の生息環境とその形態について、その理由を理解し説明できる。
3. 人と生き物の関わりを十分に理解し、人としての責任を把握することができる。

〔授業の内容〕

生物と環境との関係を主題とする。今世紀になって特に重要な課題となった自然環境や生活環境の汚染と破壊、人口と食糧の問題などを考察できるように生態学や生物学の基本を体験学習を通じて学ぶ。生物の特徴とその生態、自然環境のしくみを学び、人類が自然の一員であることを確認する。

体験学習のプログラムとしてプロジェクト・ワイルドや海のプログラムなどの体験に基づく学習法を学び、気づきから人間の責任ある行動へと導く講義を展開する。

なお、本講義以外に1泊2日の課外授業（三浦半島）を行う。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布し、参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

アクティビティの改善点や意義などを把握するための復習が必要である。そのために、3時間程度の学習を必要とする。

〔成績評価の方法〕

1. 出席状況と積極的な発言など授業貢献度を重視する。(30%)
2. 授業のアクティビティに関するレポート (20%)
3. 三浦半島で実施する課外活動への参加と活動レポート (20%)
4. 授業時間内に授業内で実施したエコロジーに関する主題について、記述式の確認試験を行う (30%)

「評価基準」積極的な質問や発言を評価する。授業中のレポートでは、アクティビティを体験したときの気づきと概念把握を評価する。課外活動では、参加状況とレポートの内容を評価する。

〔備考〕

自然環境やエコロジーとはどのようなことかいっしょに悩んでみましょう。
課外実習を行うため、受講人数（30名程度）を制限する予定である。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 生態学の基礎と体験学習法
- 第3週 生物と環境
- 第4週 体験学習 プロジェクト・ワイルド
- 第5週 〃
- 第6週 体験学習 プロジェクト・ウェット
- 第7週 〃
- 第8週 体験学習 GEMS
- 第9週 〃
- 第10週 体験学習 MARE
- 第11週 〃
- 第12週 体験学習 感覚教育
- 第13週 体験学習 味覚教育
- 第14週 体験学習 嗅覚教育
- 第15週 まとめ

副題	北海道のゆったりした自然の中で自分の中の自然を育てる			担当者	山本 幹彦 講師	
単位	2	開講期間	春学期集中	曜日		時限

〔授業の到達目標〕

人や自然との関わりを通して自分自身との関係性を育て、自然と共存する意味を理解する。

〔授業の内容〕

北海道の大自然の中であなた自身の環境とのかかわりを取り直す4日間の集中授業です。自然を単に頭だけで理解するのではなく、あなたの心と身体を自然の中に放り込み、体験を中心にエコロジーや環境保護を学びます。

全体のテーマは『関わり』です。食糧自給率を知っていても、自然の大切さを知っていても、体験の中から自分の言葉で理解していないことには何も変わらない。実習では食の生産現場である農家を訪ねたり、加工品であるパン屋のおやじさんから話を聞いたりしながら、現場とあなたをつなぎます。また、道民の森という北海道のゆったりした森の中での直接体験を通して、あなたの五感で自然からのメッセージを受け取ることによってあなた自身の思考回路のスイッチをオンにしてみます。あなたの五感で北海道の自然をどのように認識し、あなた自身の自然環境観を新たに築いてくれるでしょう。

ポイントは受身では得るものはないということです。あなた自身の主体的な関わりによって、この4日間は素晴らしい学びの場となるでしょう。皆さんの関わりでどのような学びの場が創造できるのか、私も楽しみにしています。

〔教材〕

事前レポートの提出があります。その時に参考となる書籍は連絡します。実習中は講義用のプリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

実習に参加するまでに、参考図書を最低でも一冊読み、実習に参加する上での自分自身の課題やテーマを決めるレポートを提出してもらいます。

〔成績評価の方法〕

事前と事後のレポートや実習中の主体的な関わりなどによって総合的に評価します。

〔備考〕

天候によってプログラムは変更される場合があります。

〔授 業 計 画〕

実習中は、北海道で無農薬でお米作りをしている農家や、限りなく安全なパンを焼いているパン屋さんを訪ね、ディスカッションを行います。何を学ぶかはあなた次第です。単に聞くだけではなく、質問や問いかけによってどしどし関わってみてください。道民の森では、ゆったりした自然の中で五感の再教育をしながらスライドショーという表現に取り組んでもらいます。可能な方はマイパソコンを持参してください。終了後、レポートを提出してもらいます。日程は8月30日～9月2日までの3泊4日 費用は約60,000円を予定しています。（往復航空券、集合場所から道民の森までの往復のバス代、期間中の宿泊・食事代、保険を含みます。）

副 題	植物資源の利用			担 当 者	阿部 誠 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	木	時 限	2

〔授業の到達目標〕

植物の特性を知り，自然環境や人間の生活などにおける重要度を理解できるようになる。

〔授業の内容〕

自然環境としての植物との調和を念頭に置きつつ，生活と直接関連する部分に重点を置いて，生物資源としての植物の利用の現状と新しい可能性について考える。まず生物資源としての植物の特性と地球環境の関連について述べた後，植物の特異性とその利用についていくつかの具体的テーマをとり上げて解説する。理解を深めるため部分的に簡単な実験を取り入れる。テーマの中からひとつを選択して，現状の調査と将来の予測をレポートしてもらう。

〔教材〕

プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，前回の授業での疑問点を調査し不明な個所について質問できるようにして臨むこと。

〔成績評価の方法〕

提出レポート（約90%）および授業への参加状況（約10%）で成績を評価する。ただし，授業回数の3分の1を越えて欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔備考〕

授業の一部で実験・実習を行う予定です。

授業内容について質問がある場合は，月曜日（13：00～15：00），火曜日（10：30～12：00）のオフィスパワーに研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 はじめに
 - 第2週 食糧資源としての穀物の可能性と限界
 - 第3週 〃
 - 第4週 食用作物の成立と改良
 - 第5週 〃
 - 第6週 新しい食用作物とその利用
 - 第7週 デンプンの利用
 - 第8週 植物の有用成分の利用に関する実習
 - 第9週 〃
 - 第10週 〃
 - 第11週 セルロースの利用
 - 第12週 植物油脂，植物タンパク質の利用
 - 第13週 植物工場による栽培
 - 第14週 環境問題と植物資源利用
 - 第15週 レポート作成指導
- 授業計画は変更することがある。

自然環境論Ⅳ（環境汚染）

3736011400100

副題	東日本大震災の復興と持続可能な町づくり			担当者	品川 明 平井 和也	教授 講師
単位	2	開講期間	春学期集中	曜日	時限	

〔授業の到達目標〕

1. 東日本大震災で被害をうけた宮城県南三陸町の世界環境と海洋生物資源の理解
2. 地域の復興と持続可能な町づくりのための提案
3. 持続可能な教育のためのアクティビティの提案と実践

〔授業の内容〕

東日本大震災で甚大な被害をうけた宮城県南三陸町の復興と持続可能な町づくりのための提案と実践するための講義や実習を行う。まず、事前授業にて、南三陸町の持つ海洋生物資源の有効利用を推進するため、フードコンシャスネスの観点から特産物（ワカメ、鮭、海鞘など）に関する理解を深める。その後、特産物を利用した食教育や環境保全プログラムを開発する。次に、事前授業の成果を活かすために、南三陸町にてフィールドワーク、地域復興現場の見学、グループ討議、実習を織り交ぜながら、南三陸町の生活・環境・産業・社会問題などの理解を深める。最終的に、南三陸町の復興と海洋資源の持続可能な教育と活用を実現できるモデルプランを作成し、海と環境と地域産業が調和した地域づくりを提案する。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じて資料を配布し、参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

集中講義の前に、事前授業を春学期に6回程度実施する。授業の目的は南三陸の水産資源を活用した味わい深い御飯の開発にある。

そのために、食調査や調理実習を実施する。実際の授業以外に調査のために必要な時間は毎回1時間程度である。また、環境教育センター主催の環境教育指導者講座および味わい教育インストラクター養成講座には積極的に参加すること。

〔成績評価の方法〕

1. 事前授業への出席と課題作成（40%）
2. 現地での授業参加状況（30%）
3. レポート作成（30%）

〔備考〕

宮城県南三陸町での宿泊と集中講義

定員：25名

日程：9月4日～7日、費用は約50,000円を予定（交通費、宿泊、保険）

その他、春学期に実施される大学で実施される環境教育講習会や味わい教育インストラクター講習会に参加すること

〔授業計画〕

○事前授業：環境教育センター主催の環境教育指導者養成講座および味わい教育インストラクター養成講習会に参加すること、ガイダンスにて、開催日程を提示する。

○南三陸町の研修

1日目：南三陸町内視察（震災地の現況を観て、知る）、海洋生物資源の講義

2日目：南三陸町のフィールドワーク（地域復興現場の見学：アクティビティへの応用）

南三陸町の海洋資源の生物学的理解（サケ・ホタテ・ホヤなど）、味わい教室の実践（味覚教育プログラム）

3日目：地域振興のワークショップ（環境保全、味わい教育に関するプログラム）

南三陸町の水産物を利用した地域振興プログラムを考えるワークショップ、南三陸町探索プログラム

4日目：討議：発表と意見交換

副 題	食の基礎と母乳の科学			担 当 者	品川 明 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	水	時 限	2

〔授業の到達目標〕

1. 食品を理解する上で必要な栄養素に関する基礎知識を認識している。
2. 食生活に関するさまざまな問題を取り上げ、それらの解決方法について考え得る能力がある。
3. 母乳成分の特質や母乳栄養と社会の関わりなどについて問題点を認識できる。

〔授業の内容〕

現代の食生活に関するさまざまな問題を取り上げ、食生活の現状を認識するとともにその解決方法について議論する。食物と人、食物と環境、食物の条件などについて理解を深める。さらに、具体的な食物として人間をはじめとするほ乳類が食する母乳について、母乳成分の特質を詳細に講述し、母乳栄養と社会の問題点について議論する。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

食に関する基礎学習および母乳に関する事前の調査と授業後の復習が必要である。そのために、3時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

1. 出席状況と積極的な発言など授業貢献度を重視する。(30%)
2. リアクションペーパーを重視する(20%)
3. 小テストを実施する。(25%)

「評価基準」授業中の積極的な質問や発言を評価する。小テストでは、食品の栄養素に関する基礎知識や母乳成分の特質についての理解度を評価し、到達目標をクリアしている場合のみ合格点を与える。

4. 学期末試験(25%)

〔備考〕

数回実施されるリアクションペーパーの提出を重要視する

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	食生活のさまざまな問題
第3週	食品成分の基礎1
第4週	食品成分の基礎2
第5週	食品成分の基礎3
第6週	食生活の現状
第7週	子ども達の食生態
第8週	食物教育1
第9週	食物教育2
第10週	母乳の科学1
第11週	母乳の科学2
第12週	母乳の科学3
第13週	高齢化社会の食
第14週	食生活と日本社会(ダイバート)
第15週	まとめ

副題	身体・健康・環境～well-beingについて考える			担当者	荒井 啓子 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

現代社会における身体・健康・環境についての様々な話題から、個の尊重としてのwell-beingとは何かを考える。また、健康に向けたライフスタイルを自らデザインするための知識や方法を模索する。

〔授業の内容〕

ウエルネス (wellness) とは, illness と対照的な言葉であるが, 単に「病気でない」という状態を示すものではない。それは, health のもつ意味をより幅広い視座から捉え直し, 各人が現在おかれている様々な状況に応じて心地よく生活していくための方法を模索する積極的かつ総合的な健康に対する考え方とされている。著しい社会変化の中で, 「余暇社会」と言われて久しく, 自由裁量時間をどのように過ごしていくかということに関心が寄せられ続けている。また, 科学技術の進歩に伴う便利な生活は, 他方, 身体を動かさない日常によって「運動不足病」(hypokinetic disease) を引き起こしている。このような状況の中で, 時間や健康を自分でデザインし, 身体(こころとからだ)を健やかにして快適な生活をおくることは現代社会に暮らす私たちにとって重要な課題と考えられる。

そこで, この時間では, 「身体」「健康」「環境」に関するトピックを社会的・文化的視点から採り上げ, 自分に合った心地好いライフスタイルの創造を志向しながら, 生活文化としての健康について考えていきたい。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には, 前回のレジュメを確認し各自のノートに目を通して上で, 出席すること。

〔成績評価の方法〕

レポート(50%), 理解度の確認(30~40%), 出席状況(20~10%)によって総合的に評価する。

(上記の目安は, 進度や課題内容等により多少変更する場合がある)

〔備考〕

「特別講義」を開催する場合がある。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 ウエルネス (wellness) の考え方
- 第3週 健康とは何か～あなたは今健康ですか?
- 第4週 『体に悪いことしてますか』～健康スポーツ・ブームを考える
- 第5週 現代社会と運動不足病
- 第6週 ストレスコントロールとリラクゼーション
- 第7週 肥満対策とスポーツ
- 第8週 理解度の確認(予定)
- 第9週 現代のボディ・イメージと瘦身神話
- 第10週 日本人の養生観
- 第11週 個の尊重としてのwell-being
- 第12週 たばこの歴史と文化と健康～世界の禁煙CMから
- 第13週 オリンピックと環境問題
- 第14週 余暇社会とスポーツ～人生100年時代の健康観
- 第15週 まとめ

副 題	食物と健康			担 当 者	阿部 誠 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	月	時 限	2
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>食品成分に関する基本的知識を備える。</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>現代における生活をより豊かで健康的にするうえで食の重要性はきわめて高い。我々の食生活に関わる食品はきわめて多様であり、食品選択のためには食品成分に関する基本的知識が必要である。食品成分の栄養的価値や性質について、具体的食品や健康問題などの事例と関連づけてできるだけ具体的に解説し、正しい食品選択への方策を考えていく。</p> <p>〔教材〕</p> <p>プリントを配付する。</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>毎回の授業には、前回の授業での疑問点を調査し不明な個所を質問できるようにして臨むこと。</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>学期末試験（100％）による。ただし、授業回数の3分の1を超えて欠席したものは受験資格を認めない。</p> <p>〔備考〕</p> <p>授業内容について質問がある場合は、月曜日（13：00～15：00）、火曜日（10：30～12：00）のオフィスパワーに研究室まで来ること。</p>							

〔授 業 計 画〕

- 第1週 食物摂取の必要性
- 第2週 食物中の栄養素とその分布
- 第3週 食物のエネルギーと炭水化物
- 第4週 〃
- 第5週 脂質の性質と役割
- 第6週 〃
- 第7週 タンパク質の機能と栄養
- 第8週 〃
- 第9週 食生活と成人病
- 第10週 〃
- 第11週 〃
- 第12週 食生活とガン
- 第13週 〃
- 第14週 〃
- 第15週 まとめ

授業計画は変更することがある。

副題	女性と社会福祉			担当者	田中 恵美子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

1. 社会福祉の意味、成り立ちについて説明できる。
2. 女性のライフステージにおける特徴と社会制度の関係について論ずることができる。
3. 現代日本社会における課題と女性の立場について考察することができる。

〔授業の内容〕

この講義では社会福祉の意味世界について説明し、女性の立場で社会福祉とどうかかわるのかについて考察していく。特に現代日本社会における様々な福祉問題への理解と、それらにおける女性の立ち位置について、各自が自らの意見を持ち、議論ができるようにする。

前半で社会福祉の定義、ライフサイクルと社会福祉制度の関係、社会福祉制度の成り立ち及び戦後日本の歴史について学んだあと、現代社会における社会問題と女性の関係について論じ、最後にまとめとして理解度を図り、その解説と振り返りを行う。

* 授業で配布する資料の予備は保管しません。必ず出席者からコピーをもらってください。

* 当日欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付けます。

* 携帯電話やパソコンの使用は禁止します。ただし事前に説明を受け、講義取得に必要と判断された場合、許可します。

〔教材〕

参考図書は必要に応じて授業中または資料で情報提供します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業は前回の授業内容の振り返りからスタートするので、復習を十分行って出席すること。また授業計画に乗せられているキーワードについて、授業中に指名されても自分なりの意見が述べられるよう、あらかじめ必要と思われるような基本的な情報（制度の内容や社会問題として認識されていること）について、新聞等最新の情報媒体から取得しておくこと。

〔成績評価の方法〕

まとめと理解度の確認 70%，コメントシート30%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 社会福祉とは何か－定義 我々の生活世界との違い
- 第2週 ライフサイクルと制度－女性のライフステージ
- 第3週 社会福祉制度の成り立ち－イギリスを中心に
- 第4週 戦後日本の社会福祉制度－戦後70年を振り返る
- 第5週 就労－雇用格差と女性 男女雇用機会均等法
- 第6週 結婚・出産－ライフワークバランス 海外と日本
- 第7週 出生前診断－現代的課題
- 第8週 子どもの貧困－子どもの貧困防止法
- 第9週 子どもの失踪・虐待－児童虐待防止法
- 第10週 疾病と女性－難病対策法
- 第11週 障害者の自立生活運動と女性－障害者権利条約
- 第12週 老後をどう生きるのか－おひとりさまの老後 年金・所得
- 第13週 家族の老いを支える－「介護」の形：介護保険制度の問題
- 第14週 まとめと理解度の確認
- 第15週 解説と振り返り

第14週に、まとめとその理解度を問い、評価に用いる。第15週は第14週のまとめと理解度についての解説と全体の振り返りを行う。第14週に参加しても、無断で第15週の授業に欠席した場合は、第14週に参加しなかったことになるので、注意してほしい。

副 題	私たちにとって有意義な生活とは何か			担 当 者	内田 直子 講師		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	月	時 限	2

〔授業の到達目標〕

日々生活をしている人間、すなわち「生活者」の立場から、主に都市生活を中心とした現在の生活実態の問題点をみつけ、その解決への提案ができるようにする。

〔授業の内容〕

人間と環境の関係は、ヒト全体をとりまくマクロな環境から、個人をとりまくミクロな環境と、様々な視点から考えられる。本講義では、家庭生活での消費や家計を中心とした生活経済上の諸問題、福祉の発展における生活空間の利便性やその弊害、住まいや地域を取り巻く景観や人間同士が集まって醸し出す美観などの広義のランドスケープ、そしてIT社会や企業メセナなどに関する生活情報・ヒューマンインターフェース・文化などを取り上げる予定である。これらの多角的な視点から生活者と環境との関係を捉え、我々にとって有意義な生活とは何かを検討したい。

〔教材〕

テキストはありませんが、適宜参考文献などは紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業には、課題に挙げている生活環境について、現代の生活者がどのような状況にあるのか、毎日の新聞（一般紙）記事、テレビのニュース・報道番組等を活用しながら、問題意識を持って受講すること。授業後もこれらの生活情報の比較・選択・活用に努めること。

〔成績評価の方法〕

出席点(10%)と学期末レポート(90%)により評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス / 生活者および環境とは何か
第2週	消費や家計の経済視点からみた生活環境
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	福祉の発展に伴う空間の変化からみた生活環境
第7週	〃
第8週	〃
第9週	広義のランドスケープからみた生活環境
第10週	〃
第11週	〃
第12週	情報・技術・文化からみた生活環境
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ

副題	地球環境問題への総合的アプローチ			担当者	荘林 幹太郎 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

地球の構造や物質循環等に関する科学的知識、環境と経済活動の関連を分析するための経済学的知識、国家間の利害を調整するための国際関係論などの、地球環境問題を理解するための多様な分野の基礎を把握することが可能となる。

〔授業の内容〕

ある国における社会経済活動が環境に与える影響はその国の国境の内側にとどまらない。例えばその国から排出される温暖化ガスは地球全体の温暖化を招き、海洋汚染は近隣国にも大きな被害をもたらす。また、国際化の進展に伴う貿易の増加は、輸入国、輸出国の環境に変化をもたらすかもしれない。あるいは、ある国の現在世代の行為が他の国の将来世代に影響を与える。

本講義では、このような地球規模での環境問題について、広角的な視点から、問題の所在、因果関係、問題解決のための政策手法について概観する。

〔教材〕

参考書：京都大学地球環境学研究会『地球環境学のすすめ』（京大人気講義シリーズ）丸善、2005年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の宿題に2時間程度の負荷を想定

〔成績評価の方法〕

宿題（出席確認を兼ねる：20%）、中間試験（20%）、期末試験（60%）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 いくつかの基礎的概念の整理（地球の成り立ちと地球システム）
- 第3週 いくつかの基礎的概念の整理（持続性と環境倫理、不確実性と予防原則、エコロジカルフットプリント等）
- 第4週 地球温暖化（1）：何故二酸化炭素が増加すると地球は温暖化するのか？
- 第5週 地球温暖化（2）：二酸化炭素の急増（地球の成り立ちと炭素の循環）
- 第6週 地球温暖化（3）：温暖化の影響
- 第7週 地球温暖化（4）：温暖化ガスを削減するための政策手法—環境税、排出権取引、研究・開発、自発的な取り組み
- 第8週 地球温暖化（5）：国際的な対策の枠組み—京都議定書とIPCC
- 第9週 生物多様性の減少（1）：何故生物多様性は重要か？
- 第10週 生物多様性の減少（2）：生物多様性の急激な減少
- 第11週 生物多様性の減少（3）：生物多様性条約
- 第12週 貿易と環境（1）：自由貿易は環境にプラスかマイナスか？
- 第13週 貿易と環境（2）：WTO農業交渉と環境—自由貿易と環境保全を両立させるための政策は可能か？
- 第14週 総括
- 第15週 ∷

副 題	事例分析を通じた複雑性の理解に向けて			担 当 者	莊林 幹太郎 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	水	時 限	2

〔授業の到達目標〕

現在の主要な地球環境問題である地球温暖化、水資源・土壌資源の劣化、生物多様性の減少、自由貿易の拡大とその環境への影響について、その科学的なメカニズムを踏まえたうえで、対応策について社会科学の手法も含めて包括的に議論する。本科目の履修を通じて、地球環境についての複雑な問題を事例とした総合的な思考力の醸成を目標とする。

〔授業の内容〕

ある国における社会経済活動が環境に与える影響はその国の国境の内側にとどまらない。例えばその国から排出される温暖化ガスは地球全体の温暖化を招き、海洋汚染は近隣国にも大きな被害をもたらす。また、国際化の進展に伴う貿易の増加は、輸入国、輸出国の環境に変化をもたらすかもしれない。あるいは、ある国の現在世代の行為が他の国の将来世代に影響を与える。「地球環境論II」では、このような地球規模での環境問題について、事例分析を通じて、その複雑性および問題の把握・解決のための総合的な視点の重要性を示す。

〔教材〕

EU, OECD, 世銀等における国際的な政策議論についてのレポートを参考資料とする予定。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の授業を踏まえた宿題に2～3時間程度の負荷を想定

〔成績評価の方法〕

宿題（出席確認を兼ねる：50%）、期末試験（50%）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	イントロダクション
第2週	地球温暖化①：温室効果ガスと温暖化のメカニズム
第3週	地球温暖化②：温暖化適応策の必要性和概要
第4週	地球温暖化③：温暖化緩和のための政策手法（排出権取引・環境税）
第5週	水資源・土壌資源①：コモンズとしての淡水資源の現状（水循環のマクロ概観）
第6週	水資源・土壌資源②：世界的規模の土壌劣化の概況
第7週	水資源・土壌資源③：水・土壌資源保全のための総合的な対策：コモンズの悲劇を避けるために
第8週	生物多様性①：生物多様性の現状と危機
第9週	生物多様性②：国際的な取り組み
第10週	生物多様性③：わが国の取り組み
第11週	貿易と環境①：貿易理論と環境の整合と不整合
第12週	貿易と環境②：貿易と環境の関係性を示す実例
第13週	貿易と環境③：WTOと貿易
第14週	総括：地球環境問題の総合性
第15週	総括：全体討論

副題	コンピュータ入門			担当者	清水 将吾 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

- (1) タッチタイピングが行える。
- (2) Webや図書館を用いた情報検索やレポート、プレゼンテーション資料の作成が行える。
- (3) コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し、適切な利用ができる。

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は、現代社会において不可欠である。この講義では、コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし、学内のネットワーク環境に慣れ、学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する。受講にあたって、パソコンの使用経験の有無は問わない。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、タッチタイピングの実習10%、ワープロソフト/プレゼンテーションソフトの実習50%、第10週から第14週の内容に関する期末試験30%、OPACの使い方に関する試験10%により評価する。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Windowsの操作
- 第3週 タイピングと日本語入力
- 第4週 メールを使い方と利用上の注意
- 第5週 Webによる情報検索と利用上の注意
- 第6週 OPACによる蔵書検索
- 第7週 ワープロソフトの利用 (1)
- 第8週 ワープロソフトの利用 (2)
- 第9週 プレゼンテーションソフトの利用
- 第10週 ハードウェアの基礎
- 第11週 ソフトウェアの基礎
- 第12週 ネットワークの基礎
- 第13週 ネットワーク利用に関するルールやマナー
- 第14週 ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
- 第15週 まとめ

副 題	コンピュータ入門			担 当 者	清水 将吾 准教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	火	時 限	4

〔授業の到達目標〕

- (1) タッチタイピングが行える。
- (2) Webや図書館を用いた情報検索やレポート、プレゼンテーション資料の作成が行える。
- (3) コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し、適切な利用ができる。

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は、現代社会において不可欠である。この講義では、コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし、学内のネットワーク環境に慣れ、学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する。受講にあたって、パソコンの使用経験の有無は問わない。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、タッチタイピングの実習10%、ワープロソフト/プレゼンテーションソフトの実習50%、第10週から第14週の内容に関する期末試験30%、OPACの使い方に関する試験10%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Windowsの操作
- 第3週 タイピングと日本語入力
- 第4週 メール使い方と利用上の注意
- 第5週 Webによる情報検索と利用上の注意
- 第6週 OPACによる蔵書検索
- 第7週 ワープロソフトの利用 (1)
- 第8週 ワープロソフトの利用 (2)
- 第9週 プレゼンテーションソフトの利用
- 第10週 ハードウェアの基礎
- 第11週 ソフトウェアの基礎
- 第12週 ネットワークの基礎
- 第13週 ネットワーク利用に関するルールやマナー
- 第14週 ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
- 第15週 まとめ

副題	コンピュータ入門				担当者	岩城 宏明 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	

〔授業の到達目標〕

- (1) タッチタイピングが行える。
- (2) Webや図書館を用いた情報検索やレポート、プレゼンテーション資料の作成が行える。
- (3) コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し、適切な利用ができる。

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は、現代社会において不可欠である。この講義では、コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし、学内のネットワーク環境に慣れ、学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する。受講にあたって、パソコンの使用経験の有無は問わない。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、タッチタイピングの実習10%、ワープロソフト/プレゼンテーションソフトの実習50%、第10週から第14週の内容に関する期末試験30%、OPACの使い方に関する試験10%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Windowsの操作
- 第3週 タイピングと日本語入力
- 第4週 メールを使い方と利用上の注意
- 第5週 Webによる情報検索と利用上の注意
- 第6週 OPACによる蔵書検索
- 第7週 ワープロソフトの利用 (1)
- 第8週 ワープロソフトの利用 (2)
- 第9週 プレゼンテーションソフトの利用
- 第10週 ハードウェアの基礎
- 第11週 ソフトウェアの基礎
- 第12週 ネットワークの基礎
- 第13週 ネットワーク利用に関するルールやマナー
- 第14週 ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
- 第15週 まとめ

副 題	コンピュータ入門			担 当 者	岩城 宏明 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	水	時 限	2

〔授業の到達目標〕

- (1) タッチタイピングが行える。
- (2) Webや図書館を用いた情報検索やレポート、プレゼンテーション資料の作成が行える。
- (3) コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し、適切な利用ができる。

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は、現代社会において不可欠である。この講義では、コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし、学内のネットワーク環境に慣れ、学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する。受講にあたって、パソコンの使用経験の有無は問わない。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、タッチタイピングの実習10%、ワープロソフト/プレゼンテーションソフトの実習50%、第10週から第14週の内容に関する期末試験30%、OPACの使い方に関する試験10%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Windowsの操作
- 第3週 タイピングと日本語入力
- 第4週 メール使い方と利用上の注意
- 第5週 Webによる情報検索と利用上の注意
- 第6週 OPACによる蔵書検索
- 第7週 ワープロソフトの利用 (1)
- 第8週 ワープロソフトの利用 (2)
- 第9週 プレゼンテーションソフトの利用
- 第10週 ハードウェアの基礎
- 第11週 ソフトウェアの基礎
- 第12週 ネットワークの基礎
- 第13週 ネットワーク利用に関するルールやマナー
- 第14週 ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
- 第15週 まとめ

副題	コンピュータ入門			担当者	清水 将吾 准教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

- (1) タッチタイピングが行える。
- (2) Webや図書館を用いた情報検索やレポート、プレゼンテーション資料の作成が行える。
- (3) コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し、適切な利用ができる。

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は、現代社会において不可欠である。この講義では、コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし、学内のネットワーク環境に慣れ、学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する。受講にあたって、パソコンの使用経験の有無は問わない。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、タッチタイピングの実習10%、ワープロソフト/プレゼンテーションソフトの実習50%、第10週から第14週の内容に関する期末試験30%、OPACの使い方に関する試験10%により評価する。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Windowsの操作
- 第3週 タイピングと日本語入力
- 第4週 メールを使い方と利用上の注意
- 第5週 Webによる情報検索と利用上の注意
- 第6週 OPACによる蔵書検索
- 第7週 ワープロソフトの利用 (1)
- 第8週 ワープロソフトの利用 (2)
- 第9週 プレゼンテーションソフトの利用
- 第10週 ハードウェアの基礎
- 第11週 ソフトウェアの基礎
- 第12週 ネットワークの基礎
- 第13週 ネットワーク利用に関するルールやマナー
- 第14週 ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
- 第15週 まとめ

副 題	コンピュータ入門			担 当 者	加園 克己 講師		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	月	時 限	4

〔授業の到達目標〕

- (1) タッチタイピングが行える。
- (2) Webや図書館を用いた情報検索やレポート、プレゼンテーション資料の作成が行える。
- (3) コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し、適切な利用ができる。

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は、現代社会において不可欠である。この講義では、コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし、学内のネットワーク環境に慣れ、学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する。受講にあたって、パソコンの使用経験の有無は問わない。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、タッチタイピングの実習10%、ワープロソフト/プレゼンテーションソフトの実習50%、第10週から第14週の内容に関する期末試験30%、OPACの使い方に関する試験10%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Windowsの操作
- 第3週 タイピングと日本語入力
- 第4週 メール使い方と利用上の注意
- 第5週 Webによる情報検索と利用上の注意
- 第6週 OPACによる蔵書検索
- 第7週 ワープロソフトの利用 (1)
- 第8週 ワープロソフトの利用 (2)
- 第9週 プレゼンテーションソフトの利用
- 第10週 ハードウェアの基礎
- 第11週 ソフトウェアの基礎
- 第12週 ネットワークの基礎
- 第13週 ネットワーク利用に関するルールやマナー
- 第14週 ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
- 第15週 まとめ

副題	コンピュータ入門			担当者	岩城 宏明 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

- (1) タッチタイピングが行える。
- (2) Webや図書館を用いた情報検索やレポート、プレゼンテーション資料の作成が行える。
- (3) コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し、適切な利用ができる。

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は、現代社会において不可欠である。この講義では、コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし、学内のネットワーク環境に慣れ、学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する。受講にあたって、パソコンの使用経験の有無は問わない。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、タッチタイピングの実習10%、ワープロソフト/プレゼンテーションソフトの実習50%、第10週から第14週の内容に関する期末試験30%、OPACの使い方に関する試験10%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Windowsの操作
- 第3週 タイピングと日本語入力
- 第4週 メールを使い方と利用上の注意
- 第5週 Webによる情報検索と利用上の注意
- 第6週 OPACによる蔵書検索
- 第7週 ワープロソフトの利用 (1)
- 第8週 ワープロソフトの利用 (2)
- 第9週 プレゼンテーションソフトの利用
- 第10週 ハードウェアの基礎
- 第11週 ソフトウェアの基礎
- 第12週 ネットワークの基礎
- 第13週 ネットワーク利用に関するルールやマナー
- 第14週 ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
- 第15週 まとめ

副 題	コンピュータ入門			担 当 者	加園 克己 講師		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	月	時 限	5

〔授業の到達目標〕

- (1) タッチタイピングが行える。
- (2) Webや図書館を用いた情報検索やレポート、プレゼンテーション資料の作成が行える。
- (3) コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し、適切な利用ができる。

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は、現代社会において不可欠である。この講義では、コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし、学内のネットワーク環境に慣れ、学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する。受講にあたって、パソコンの使用経験の有無は問わない。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、タッチタイピングの実習10%、ワープロソフト/プレゼンテーションソフトの実習50%、第10週から第14週の内容に関する期末試験30%、OPACの使い方に関する試験10%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Windowsの操作
- 第3週 タイピングと日本語入力
- 第4週 メール使い方と利用上の注意
- 第5週 Webによる情報検索と利用上の注意
- 第6週 OPACによる蔵書検索
- 第7週 ワープロソフトの利用 (1)
- 第8週 ワープロソフトの利用 (2)
- 第9週 プレゼンテーションソフトの利用
- 第10週 ハードウェアの基礎
- 第11週 ソフトウェアの基礎
- 第12週 ネットワークの基礎
- 第13週 ネットワーク利用に関するルールやマナー
- 第14週 ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
- 第15週 まとめ

副題	コンピュータ入門			担当者	市川 収 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

- (1) タッチタイピングが行える。
- (2) Webや図書館を用いた情報検索やレポート、プレゼンテーション資料の作成が行える。
- (3) コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し、適切な利用ができる。

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は、現代社会において不可欠である。この講義では、コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし、学内のネットワーク環境に慣れ、学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する。受講にあたって、パソコンの使用経験の有無は問わない。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、タッチタイピングの実習10%、ワープロソフト/プレゼンテーションソフトの実習50%、第10週から第14週の内容に関する期末試験30%、OPACの使い方に関する試験10%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Windowsの操作
- 第3週 タイピングと日本語入力
- 第4週 メールを使い方と利用上の注意
- 第5週 Webによる情報検索と利用上の注意
- 第6週 OPACによる蔵書検索
- 第7週 ワープロソフトの利用 (1)
- 第8週 ワープロソフトの利用 (2)
- 第9週 プレゼンテーションソフトの利用
- 第10週 ハードウェアの基礎
- 第11週 ソフトウェアの基礎
- 第12週 ネットワークの基礎
- 第13週 ネットワーク利用に関するルールやマナー
- 第14週 ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
- 第15週 まとめ

副 題	コンピュータ入門			担 当 者	市川 収 講師		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	木	時 限	4

〔授業の到達目標〕

- (1) タッチタイピングが行える。
- (2) Webや図書館を用いた情報検索やレポート、プレゼンテーション資料の作成が行える。
- (3) コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し、適切な利用ができる。

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は、現代社会において不可欠である。この講義では、コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし、学内のネットワーク環境に慣れ、学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する。受講にあたって、パソコンの使用経験の有無は問わない。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、タッチタイピングの実習10%、ワープロソフト/プレゼンテーションソフトの実習50%、第10週から第14週の内容に関する期末試験30%、OPACの使い方に関する試験10%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Windowsの操作
- 第3週 タイピングと日本語入力
- 第4週 メール使い方と利用上の注意
- 第5週 Webによる情報検索と利用上の注意
- 第6週 OPACによる蔵書検索
- 第7週 ワープロソフトの利用 (1)
- 第8週 ワープロソフトの利用 (2)
- 第9週 プレゼンテーションソフトの利用
- 第10週 ハードウェアの基礎
- 第11週 ソフトウェアの基礎
- 第12週 ネットワークの基礎
- 第13週 ネットワーク利用に関するルールやマナー
- 第14週 ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
- 第15週 まとめ

副 題	コンピュータ基礎			担 当 者	清水 将吾 准教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	火	時 限	3

〔授業の到達目標〕

- (1) 表計算ソフトを使って、簡単なデータ処理やグラフ作成が行える。
- (2) ワードプロソフトを使って、図表を含む文書が作成できる。
- (3) プレゼンテーション資料、およびWebによる情報発信が行える。

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは、情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し、発信する能力のことである。この授業では、コンピュータを用いた表計算、画像処理の基礎を学び、文書、プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする。受講の条件は、情報処理 I を履修したか、同レベル以上の能力があることとする。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習 (予習・復習) の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、各課題の達成度100%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 文書作成 (1) : ページのレイアウト
- 第3週 文書作成 (2) : 図や画像の挿入
- 第4週 文書作成 (3) : 差し込み印刷
- 第5週 表計算 (1) : 表計算ソフトの環境の管理, データの作成
- 第6週 表計算 (2) : 書式設定
- 第7週 表計算 (3) : ワークシートの管理, ウィンドウの表示
- 第8週 表計算 (4) : 数式, 関数の適用
- 第9週 表計算 (5) : グラフ作成
- 第10週 表計算 (6) : データの抽出, 並べ替え
- 第11週 表計算 (7) : 総合演習
- 第12週 画像処理の基礎
- 第13週 プレゼンテーション資料の作成
- 第14週 Webによる情報発信
- 第15週 総合演習

副 題	コンピュータ基礎			担 当 者	清水 将吾 准教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	火	時 限	4

〔授業の到達目標〕

- (1) 表計算ソフトを使って、簡単なデータ処理やグラフ作成が行える。
- (2) ワードプロソフトを使って、図表を含む文書が作成できる。
- (3) プレゼンテーション資料、およびWebによる情報発信が行える。

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは、情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し、発信する能力のことである。この授業では、コンピュータを用いた表計算、画像処理の基礎を学び、文書、プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする。受講の条件は、情報処理 I を履修したか、同レベル以上の能力があることとする。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、各課題の達成度100%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 文書作成 (1) : ページのレイアウト
- 第3週 文書作成 (2) : 図や画像の挿入
- 第4週 文書作成 (3) : 差し込み印刷
- 第5週 表計算 (1) : 表計算ソフトの環境の管理, データの作成
- 第6週 表計算 (2) : 書式設定
- 第7週 表計算 (3) : ワークシートの管理, ウィンドウの表示
- 第8週 表計算 (4) : 数式, 関数の適用
- 第9週 表計算 (5) : グラフ作成
- 第10週 表計算 (6) : データの抽出, 並べ替え
- 第11週 表計算 (7) : 総合演習
- 第12週 画像処理の基礎
- 第13週 プレゼンテーション資料の作成
- 第14週 Webによる情報発信
- 第15週 総合演習

副題	コンピュータ基礎			担当者	岩城 宏明 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

- (1) 表計算ソフトを使って、簡単なデータ処理やグラフ作成が行える。
- (2) ワードプロソフトを使って、図表を含む文書が作成できる。
- (3) プレゼンテーション資料、およびWebによる情報発信が行える。

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは、情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し、発信する能力のことである。この授業では、コンピュータを用いた表計算、画像処理の基礎を学び、文書、プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする。受講の条件は、情報処理 I を履修したか、同レベル以上の能力があることとする。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習 (予習・復習) の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、各課題の達成度100%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 文書作成 (1) : ページのレイアウト
- 第3週 文書作成 (2) : 図や画像の挿入
- 第4週 文書作成 (3) : 差し込み印刷
- 第5週 表計算 (1) : 表計算ソフトの環境の管理, データの作成
- 第6週 表計算 (2) : 書式設定
- 第7週 表計算 (3) : ワークシートの管理, ウィンドウの表示
- 第8週 表計算 (4) : 数式, 関数の適用
- 第9週 表計算 (5) : グラフ作成
- 第10週 表計算 (6) : データの抽出, 並べ替え
- 第11週 表計算 (7) : 総合演習
- 第12週 画像処理の基礎
- 第13週 プレゼンテーション資料の作成
- 第14週 Webによる情報発信
- 第15週 総合演習

副 題	コンピュータ基礎			担 当 者	岩城 宏明 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	水	時 限	2

〔授業の到達目標〕

- (1) 表計算ソフトを使って、簡単なデータ処理やグラフ作成が行える。
- (2) ワードプロソフトを使って、図表を含む文書が作成できる。
- (3) プレゼンテーション資料、およびWebによる情報発信が行える。

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは、情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し、発信する能力のことである。この授業では、コンピュータを用いた表計算、画像処理の基礎を学び、文書、プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする。受講の条件は、情報処理Ⅰを履修したか、同レベル以上の能力があることとする。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、各課題の達成度100%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 文書作成（1）：ページのレイアウト
- 第3週 文書作成（2）：図や画像の挿入
- 第4週 文書作成（3）：差し込み印刷
- 第5週 表計算（1）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
- 第6週 表計算（2）：書式設定
- 第7週 表計算（3）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
- 第8週 表計算（4）：数式，関数の適用
- 第9週 表計算（5）：グラフ作成
- 第10週 表計算（6）：データの抽出，並べ替え
- 第11週 表計算（7）：総合演習
- 第12週 画像処理の基礎
- 第13週 プレゼンテーション資料の作成
- 第14週 Webによる情報発信
- 第15週 総合演習

副題	コンピュータ基礎			担当者	清水 将吾 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4

〔授業の到達目標〕

- (1) 表計算ソフトを使って、簡単なデータ処理やグラフ作成が行える。
- (2) ワードプロソフトを使って、図表を含む文書が作成できる。
- (3) プレゼンテーション資料、およびWebによる情報発信が行える。

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは、情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し、発信する能力のことである。この授業では、コンピュータを用いた表計算、画像処理の基礎を学び、文書、プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする。受講の条件は、情報処理 I を履修したか、同レベル以上の能力があることとする。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習 (予習・復習) の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、各課題の達成度100%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 文書作成 (1) : ページのレイアウト
- 第3週 文書作成 (2) : 図や画像の挿入
- 第4週 文書作成 (3) : 差し込み印刷
- 第5週 表計算 (1) : 表計算ソフトの環境の管理, データの作成
- 第6週 表計算 (2) : 書式設定
- 第7週 表計算 (3) : ワークシートの管理, ウィンドウの表示
- 第8週 表計算 (4) : 数式, 関数の適用
- 第9週 表計算 (5) : グラフ作成
- 第10週 表計算 (6) : データの抽出, 並べ替え
- 第11週 表計算 (7) : 総合演習
- 第12週 画像処理の基礎
- 第13週 プレゼンテーション資料の作成
- 第14週 Webによる情報発信
- 第15週 総合演習

副 題	コンピュータ基礎			担 当 者	加園 克己 講師		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	水	時 限	5

〔授業の到達目標〕

- (1) 表計算ソフトを使って、簡単なデータ処理やグラフ作成が行える。
- (2) ワードソフトを使って、図表を含む文書が作成できる。
- (3) プレゼンテーション資料、およびWebによる情報発信が行える。

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは、情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し、発信する能力のことである。この授業では、コンピュータを用いた表計算、画像処理の基礎を学び、文書、プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする。受講の条件は、情報処理 I を履修したか、同レベル以上の能力があることとする。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、各課題の達成度100%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 文書作成 (1) : ページのレイアウト
- 第3週 文書作成 (2) : 図や画像の挿入
- 第4週 文書作成 (3) : 差し込み印刷
- 第5週 表計算 (1) : 表計算ソフトの環境の管理, データの作成
- 第6週 表計算 (2) : 書式設定
- 第7週 表計算 (3) : ワークシートの管理, ウィンドウの表示
- 第8週 表計算 (4) : 数式, 関数の適用
- 第9週 表計算 (5) : グラフ作成
- 第10週 表計算 (6) : データの抽出, 並べ替え
- 第11週 表計算 (7) : 総合演習
- 第12週 画像処理の基礎
- 第13週 プレゼンテーション資料の作成
- 第14週 Webによる情報発信
- 第15週 総合演習

副題	コンピュータ基礎			担当者	岩城 宏明 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

- (1) 表計算ソフトを使って、簡単なデータ処理やグラフ作成が行える。
- (2) ワードプロソフトを使って、図表を含む文書が作成できる。
- (3) プレゼンテーション資料、およびWebによる情報発信が行える。

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは、情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し、発信する能力のことである。この授業では、コンピュータを用いた表計算、画像処理の基礎を学び、文書、プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする。受講の条件は、情報処理 I を履修したか、同レベル以上の能力があることとする。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習 (予習・復習) の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、各課題の達成度100%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 文書作成 (1) : ページのレイアウト
- 第3週 文書作成 (2) : 図や画像の挿入
- 第4週 文書作成 (3) : 差し込み印刷
- 第5週 表計算 (1) : 表計算ソフトの環境の管理, データの作成
- 第6週 表計算 (2) : 書式設定
- 第7週 表計算 (3) : ワークシートの管理, ウィンドウの表示
- 第8週 表計算 (4) : 数式, 関数の適用
- 第9週 表計算 (5) : グラフ作成
- 第10週 表計算 (6) : データの抽出, 並べ替え
- 第11週 表計算 (7) : 総合演習
- 第12週 画像処理の基礎
- 第13週 プレゼンテーション資料の作成
- 第14週 Webによる情報発信
- 第15週 総合演習

副 題	コンピュータ基礎			担 当 者	加園 克己 講師		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	水	時 限	4

〔授業の到達目標〕

- (1) 表計算ソフトを使って、簡単なデータ処理やグラフ作成が行える。
- (2) ワードソフトを使って、図表を含む文書が作成できる。
- (3) プレゼンテーション資料、およびWebによる情報発信が行える。

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは、情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し、発信する能力のことである。この授業では、コンピュータを用いた表計算、画像処理の基礎を学び、文書、プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする。受講の条件は、情報処理Ⅰを履修したか、同レベル以上の能力があることとする。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、各課題の達成度100%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 文書作成（1）：ページのレイアウト
- 第3週 文書作成（2）：図や画像の挿入
- 第4週 文書作成（3）：差し込み印刷
- 第5週 表計算（1）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
- 第6週 表計算（2）：書式設定
- 第7週 表計算（3）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
- 第8週 表計算（4）：数式，関数の適用
- 第9週 表計算（5）：グラフ作成
- 第10週 表計算（6）：データの抽出，並べ替え
- 第11週 表計算（7）：総合演習
- 第12週 画像処理の基礎
- 第13週 プレゼンテーション資料の作成
- 第14週 Webによる情報発信
- 第15週 総合演習

副 題	コンピュータ基礎			担 当 者	市川 収 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	木	時 限	3

〔授業の到達目標〕

- (1) 表計算ソフトを使って、簡単なデータ処理やグラフ作成が行える。
- (2) ワードプロソフトを使って、図表を含む文書が作成できる。
- (3) プレゼンテーション資料、およびWebによる情報発信が行える。

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは、情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し、発信する能力のことである。この授業では、コンピュータを用いた表計算、画像処理の基礎を学び、文書、プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする。受講の条件は、情報処理 I を履修したか、同レベル以上の能力があることとする。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習 (予習・復習) の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、各課題の達成度100%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 文書作成 (1) : ページのレイアウト
- 第3週 文書作成 (2) : 図や画像の挿入
- 第4週 文書作成 (3) : 差し込み印刷
- 第5週 表計算 (1) : 表計算ソフトの環境の管理, データの作成
- 第6週 表計算 (2) : 書式設定
- 第7週 表計算 (3) : ワークシートの管理, ウィンドウの表示
- 第8週 表計算 (4) : 数式, 関数の適用
- 第9週 表計算 (5) : グラフ作成
- 第10週 表計算 (6) : データの抽出, 並べ替え
- 第11週 表計算 (7) : 総合演習
- 第12週 画像処理の基礎
- 第13週 プレゼンテーション資料の作成
- 第14週 Webによる情報発信
- 第15週 総合演習

副 題	コンピュータ基礎			担 当 者	市川 収 講師		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	木	時 限	4

〔授業の到達目標〕

- (1) 表計算ソフトを使って、簡単なデータ処理やグラフ作成が行える。
- (2) ワードソフトを使って、図表を含む文書が作成できる。
- (3) プレゼンテーション資料、およびWebによる情報発信が行える。

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは、情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し、発信する能力のことである。この授業では、コンピュータを用いた表計算、画像処理の基礎を学び、文書、プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする。受講の条件は、情報処理 I を履修したか、同レベル以上の能力があることとする。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し、各課題の達成度100%により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 文書作成 (1) : ページのレイアウト
- 第3週 文書作成 (2) : 図や画像の挿入
- 第4週 文書作成 (3) : 差し込み印刷
- 第5週 表計算 (1) : 表計算ソフトの環境の管理, データの作成
- 第6週 表計算 (2) : 書式設定
- 第7週 表計算 (3) : ワークシートの管理, ウィンドウの表示
- 第8週 表計算 (4) : 数式, 関数の適用
- 第9週 表計算 (5) : グラフ作成
- 第10週 表計算 (6) : データの抽出, 並べ替え
- 第11週 表計算 (7) : 総合演習
- 第12週 画像処理の基礎
- 第13週 プレゼンテーション資料の作成
- 第14週 Webによる情報発信
- 第15週 総合演習

副題	画像処理			担当者	岩城 宏明 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3

〔授業の到達目標〕

画像処理に必要な技術を理解し、様々な画像処理の手法を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕

パソコンでは、画像・音声・映像等のデータを簡単に取り扱うことができる。この授業では、画像処理に関する内容を中心に講義を進め、コンピュータの活用技法を身につけることを目的とする。また、同時にコンピュータのハードウェアについても理解を深める。受講の条件は、情報処理Ⅰ・Ⅱを履修したか、同レベル以上の能力があることとする。主に使用するソフトウェアは、PhotoShopとする。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるのでクラス定員を設ける。

〔教材〕

教科書は、最初の授業で指示する。授業中にプリント等を配布する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習として教科書理解に30時間、課題制作のために30時間を授業外に必要な時間として想定している。

〔成績評価の方法〕

課題として提出された作品の完成度（70%）、作品の制作過程を説明したレポート（30%）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス（講義概要・履修上注意・実習室利用上の注意等）
 - 第2週 画像データ（データの種類・形式、入出力機器の取り扱い）
 - 第3週 ワープロソフトへの画像取り込み
 - 第4週 画像データの編集1（編集ソフトPhotoShop の利用法）
 - 第5週 画像データの編集2（編集ソフトの利用法）
 - 第6週 画像データの編集3（編集ソフトの利用法）
 - 第7週 作品コンテスト
 - 第8週 ホームページ作成1
 - 第9週 ホームページ作成2
 - 第10週 動画1（アニメーションGIF 形式とJavaScript)
 - 第11週 動画2（WMV形式等－ビデオ映像の編集）
 - 第12週 プレゼンテーション用のソフトウェアについて1
 - 第13週 プレゼンテーション用のソフトウェアについて2
 - 第14週 まとめ
 - 第15週 〃
- ただし、理解度によって、変更する場合がある。

副 題	プログラム作成			担 当 者	岩城 宏明 教授		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	金	時 限	3

〔授業の到達目標〕

プログラム作成に必要な基礎知識を理解することを目標とする。

〔授業の内容〕

コンピュータが動作するには、ソフトウェア（プログラムやデータ）が必要である。この授業では、ソフトウェアの開発能力を養うことを目的とする。またプログラム作成に必要なハードウェア・ソフトウェアに関する事項についても学習する。使用言語はJavaScriptを予定している。受講の条件は、情報処理Ⅰ・Ⅱを履修したか、同レベル以上の能力があることとする。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるのでクラス定員を48名とする。

〔教材〕

最初の授業で教科書を指示する。また授業中にプリント等を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習として教科書理解に20時間、課題制作のために40時間を授業外に必要な時間として想定している。

〔成績評価の方法〕

中間レポート30％・最終課題70％

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス（講義概要・履修上注意・実習室利用上の注意等）
- 第2週 コンピュータに関する基本事項（動作の仕組みやOSについて）
- 第3週 プログラミング言語の解説1（for文・if文・配列）
- 第4週 プログラミング言語の解説2（予約オブジェクト・メソッド・プロパティ等）
- 第5週 プログラミング言語の解説3（文字列オブジェクト・Mathオブジェクト等）
- 第6週 プログラミング言語の解説4（イベント処理等）
- 第7週 プログラミング言語の解説5（予約オブジェクト2等）
- 第8週 演習問題
- 第9週 プログラムとアルゴリズム
- 第10週 プログラムの構造化・いろいろなデータ構造
- 第11週 データ処理とファイル管理
- 第12週 プログラムコンテスト課題提示と説明
- 第13週 プログラムコンテスト準備
- 第14週 プログラムコンテスト
- 第15週 〃

ただし、履修者の理解状況によって、変更する場合がある。

副題					担当者	本柳 亨 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

本講義の到達目標は、目にうつる身近なことから問いを立て、考え、解くための「社会学的想像力」を養うことである。

〔授業の内容〕

社会学の考察は、「理論的な思考作業」と「実証的な思考作業」の二つの思考作業を軸としている。本講義では、「実証的な思考作業」が中心となる社会調査の意義と目的、方法と手順の基礎的事項を解説する。解説の際は、恋愛、結婚、家族、ソーシャル・ネットワーキング・サービス、ファッションなど、身近な問題を題材として取り上げる。本講義では、社会調査の基礎的事項を理解してもらうことに加えて、「社会について考えること」の楽しさを体感してもらう。なお、教室の広さとパソコン台数に制限があるので、クラス定員を設ける。

〔教材〕

教科書は使用しない。授業中にプリントを配布し、必要に応じて参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業の後は合計60時間以上の教室外学習を行うこと。この授業では、参考資料として、学術書のみならず、映画や小説も紹介する。関心をもった作品に対して積極的にアプローチし、それを自分の言葉で表現し、家族や友人と対話をする。これも「教室外学習」に含まれる。

〔成績評価の方法〕

授業のコメントカード（20%）と学期末レポート（80%）を合わせて総合的に評価する。

〔備考〕

本講義は、統計学の知識が全くなくても受講できる。

〔授 業 計 画〕

第1週	社会調査の基礎
第2週	社会調査のデザイン（一）
第3週	社会調査のデザイン（二）
第4週	理論的な思考作業
第5週	先行研究の調べ方
第6週	調査対象の選出方法
第7週	質問紙調査法の種類と方法
第8週	調査票の作成
第9週	エディティングとコーディング
第10週	データの基礎的集計
第11週	データの分析（一）
第12週	データの分析（二）
第13週	社会調査の企画と設計
第14週	社会調査の今日的課題
第15週	まとめ

授業計画は予定であり、変更することがある。

副題	「書きことば」による文章表現			担当者	阿部 美菜子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は、大別して2種類の状況に分類することができる。1つ目は、よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で、2つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした、文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では、話し手と聞き手が場面や状況を共有しているので、話し手は聞き手の既有知識をよく把握している。したがって、伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は、大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような、状況への依存度の低い—逆に言えば言語表現への依存度の高い—言語使用は、母語の獲得過程より後に、それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということが言える。「日本語表現法I」では、このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として、特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

適宜、資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布された資料に目を通し、授業内容の理解を深めた上で、課題に取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況（20%）、授業参加度（30%）、提出物（50%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--|
| 第1週 | 授業の概要－「話しことば」と「書きことば」の違い |
| 第2週 | コミュニケーションの状況に応じた文章化（1）－文体や言葉を選択する |
| 第3週 | コミュニケーションの状況に応じた文章化（2）－曖昧な表現を正す |
| 第4週 | 不特定多数の読み手に向けた報告文の文体的特徴を把握する |
| 第5週 | 学術論文の文体的特徴を把握する |
| 第6週 | 学術論文を読み、要点をとらえる |
| 第7週 | 論証文を書く（1）－ データを提示して重要部分を言語化して説明する |
| 第8週 | 論証文を書く（2）－ データの説明と解釈を書き分ける |
| 第9週 | 論証文を書く（3）－ 一文の構造を意識して書き直す |
| 第10週 | 論証文を書く（4）－ 文相互の関係を検討して書き直す |
| 第11週 | 論証文を書く（5）－ 段落相互の関係を検討して書き直す |
| 第12週 | 論証文を書く（6）－ 学術論文に必要な技術（全体の構成、先行研究への言及、引用、テクニカルタームなど）を習得する |
| 第13週 | これまでの学習内容をふまえて論証文を書く |
| 第14週 | 「書きことば」で話す－口頭発表の技術 |
| 第15週 | まとめ |

上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により、一部変更することがある。

副題	「書きことば」による文章表現			担当者	阿部 美菜子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は、大別して2種類の状況に分類することができる。1つ目は、よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で、2つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした、文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では、話し手と聞き手が場面や状況を共有しているので、話し手は聞き手の既有知識をよく把握している。したがって、伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は、大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような、状況への依存度の低い—逆に言えば言語表現への依存度の高い—言語使用は、母語の獲得過程より後に、それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということが言える。「日本語表現法I」では、このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として、特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

適宜、資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布された資料に目を通し、授業内容の理解を深めた上で、課題に取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況（20%）、授業参加度（30%）、提出物（50%）により評価する。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 授業の概要－「話しことば」と「書きことば」の違い
- 第2週 コミュニケーションの状況に応じた文章化（1）－文体や言葉を選択する
- 第3週 コミュニケーションの状況に応じた文章化（2）－曖昧な表現を正す
- 第4週 不特定多数の読み手に向けた報告文の文体的特徴を把握する
- 第5週 学術論文の文体的特徴を把握する
- 第6週 学術論文を読み、要点をとらえる
- 第7週 論証文を書く（1）－ データを提示して重要部分を言語化して説明する
- 第8週 論証文を書く（2）－ データの説明と解釈を書き分ける
- 第9週 論証文を書く（3）－ 一文の構造を意識して書き直す
- 第10週 論証文を書く（4）－ 文相互の関係を検討して書き直す
- 第11週 論証文を書く（5）－ 段落相互の関係を検討して書き直す
- 第12週 論証文を書く（6）－ 学術論文に必要な技術（全体の構成、先行研究への言及、引用、テクニカルタームなど）を習得する
- 第13週 これまでの学習内容をふまえて論証文を書く
- 第14週 「書きことば」で話す－口頭発表の技術
- 第15週 まとめ

上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により、一部変更することがある。

副 題	「書きことば」による文章表現			担 当 者	奥泉 香 講師		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	金	時 限	4

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は、大別して2種類の状況に分類することができる。1つ目は、よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で、2つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした、文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では、話し手と聞き手が場面、状況を共有しているため、話し手は聞き手の既有知識を把握している。したがって、伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた部分で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は、大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような、状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は、母語の獲得過程より後に、それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指す場合が多い。「日本語表現法ID」では、このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として、特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

自作の教材を適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業の事前課題や授業時に書いた文章の修正、補完に各週1～2時間程度の準備が必要である。

〔成績評価の方法〕

各回の提出物と課題毎の提出物で、総合的に判断する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--|
| 第1週 | 聴覚情報を整理して書く |
| 第2週 | 機器の取り扱い方を、コミュニケーション状況に応じて、相手にわかりやすく文章化する |
| 第3週 | 視覚的テキストから得た情報を、コミュニケーション状況に応じて、相手にわかりやすく文章化する－1－ |
| 第4週 | 視覚的テキストから得た情報を、コミュニケーション状況に応じて、相手にわかりやすく文章化する－2－ |
| 第5週 | 不特定多数の読み手を想定して書かれた報告文を読み、その文体的特徴を把握する |
| 第6週 | 学術論文を読み、その文体的特徴や文献等の記述方法を把握する |
| 第7週 | 論証文を書く－1－資料から必要な部分を引用し、問いを生成する |
| 第8週 | 論証文を書く－2－データの説明と解釈を書き分ける |
| 第9週 | 論証文を書く－3－一文の構造を意識して書き直す |
| 第10週 | 論証文を書く－4－文相互の関係を検討して書き直す |
| 第11週 | 論証文を書く－5－段落相互の関係を検討して書き直す |
| 第12週 | 論証文を書く－6－全体構造を検討して書き直す |
| 第13週 | 論証文を書く－7－；1～6までの学習内容をふまえて論証文を書く |
| 第14週 | 論証文を書く－8－；1～6までの学習内容をふまえて論証文を書く |
| 第15週 | ピアワークによる批評と修正
書く・修正する過程で各人が気づきを得る授業デザインを目指す。 |

副題	「書き言葉による文章表現」			担当者	村上 佳恵 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	1

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は、大別して2種類の状況に分類することができる。1つ目は、よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で、2つ目はよく知らない相手とか不特定多数を相手とした、文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では、話し手と聞き手が場面、状況を共有しているし、話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているので、伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は、大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような、状況への依存度の低い—逆に言えば言語表現への依存度の高い—言語使用は、母語の獲得過程より後に、それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり、一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すといえる。「日本語表現法1D」では、このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として、特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

特定の教科書は用いず、適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

情報収集と課題に1～2時間程度の準備学習が必要。

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。出席（20%）、各回の提出物（30%）、レポート（50%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業の概要 「話しことば」と「書きことば」の違い
- 第2週 パラグラフ・ライティング
- 第3週 説明文を書く
- 第4週 レポートの基本的な構成
- 第5週 論文の分析
- 第6週 論証するとはどういうことか
- 第7週 情報の集め方／テーマを探す
- 第8週 論証文を書く（1）アウトラインの作成
- 第9週 論証文を書く（2）引用と要約
- 第10週 論証文を書く（3）主張と根拠
- 第11週 論証文を書く（4）予想される反論と反駁
- 第12週 論証文を書く（6）序論とむずび／行動提示の文
- 第13週 論証文を書く（7）図表の説明
- 第14週 ピアワークによる批判と修正
- 第15週 まとめ

副題	「書き言葉による文章表現」			担当者	村上 佳恵 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は、大別して2種類の状況に分類することができる。1つ目は、よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で、2つ目はよく知らない相手とか不特定多数を相手とした、文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では、話し手と聞き手が場面、状況を共有しているし、話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているので、伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は、大学生の段階ですでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような、状況への依存度の低い—逆に言えば言語表現への依存度の高い—言語使用は、母語の獲得過程より後に、それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり、一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すといえる。「日本語表現法1E」では、このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として、特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

特定の教科書は用いず、適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

情報収集と課題に1～2時間程度の準備学習が必要。

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。出席（20%）、各回の提出物（30%）、レポート（50%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業の概要 「話しことば」と「書きことば」の違い
- 第2週 パラグラフ・ライティング
- 第3週 説明文を書く
- 第4週 レポートの基本的な構成
- 第5週 論文の分析
- 第6週 論証するとはどういうことか
- 第7週 情報の集め方／テーマを探す
- 第8週 論証文を書く（1）アウトラインの作成
- 第9週 論証文を書く（2）引用と要約
- 第10週 論証文を書く（3）主張と根拠
- 第11週 論証文を書く（4）予想される反論と反駁
- 第12週 論証文を書く（6）序論とむずび／行動提示の文
- 第13週 論証文を書く（7）図表の説明
- 第14週 ピアワークによる批判と修正
- 第15週 まとめ

副題		担当者	木村 直恵 准教授				
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。正確な文章表現の特徴について理解し、実践することができる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は、大別して2種類の状況に分類することができる。1つ目は、よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で、2つ目はよく知らない相手とか不特定多数を相手とした、文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では、話し手と聞き手が場面、状況を共有しているし、話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているため、伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は、大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような、状況への依存度の低い—逆に言えば言語表現への依存度の高い—言語使用は、母語の獲得過程より後に、それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり、一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すといえる。「日本語表現法」では、このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として、特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

特定の教科書は用いず、適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回授業の復習を行い授業内容をきちんと身につけるとともに、宿題として課された課題を仕上げる。 (毎回5時間程度)

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。出席（20%）、各回の提出物（80%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業の概要 「話しことば」と「書きことば」の違い
 第2週 コミュニケーションの状況に応じた文章化（1）—文体や言葉を選択する
 第3週 コミュニケーションの状況に応じた文章化（2）—曖昧な表現を直す
 第4週 コミュニケーションの状況に応じた文章化（3）—不特定多数の読み手に向けた報告文の文体的特徴
 第5週 学術論文の文体的特徴を把握する
 第6週 学術論文を読み、要点をとらえる
 第7週 論証文を書く（1）— データを提示して重要部分を言語化して説明する
 第8週 論証文を書く（2）— データの説明と解釈を書き分ける
 第9週 論証文を書く（3）— 一文の構造を意識して書き直す
 第10週 論証文を書く（4）— 文相互の関係を検討して書き直す
 第11週 論証文を書く（5）— 段落相互の関係を検討して書き直す
 第12週 論証文を書く（6）— 学術論文に必要な技術（全体の構成、先行研究への言及、引用、テクニカルタームなど）を習得する
 第13週 これまでの学習内容をふまえて論証文を書く
 第14週 「書きことば」で話す—口頭発表の技術
 第15週 まとめ
 上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により、一部変更することがある。

副 題	アカデミックライティング			担 当 者	福島 直恭 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	火	時 限	1

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる

〔授業の内容〕

現代社会では、同じく口頭表現とは言っても、コミュニケーションの状況に応じて、大別すると2種類のかなり異なった言語使用が必要とされる。1つ目は、1人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で、2つ目はよく知らない相手や不特定多数に対する、特に書くことによって表現する言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場合は、人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり、そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は、大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での、特に論理的、説明的な言語使用は技術は、これからの社会生活において重要であるにもかかわらず、多くの学生にとって経験も少なく、訓練も不十分であると思われる。「日本語表現法I」では、特にレポートや論文を執筆するということを念頭に置いて、的確でわかりやすく論理的な表現力の習得を目標として授業を展開していく。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業ないでは課題作文が書ききれないので、1～2時間程度の授業後の学習時間が必要

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。さらに毎回のレポート提出（80%）、および議論への参加の積極性（20%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 言語および言語使用に関する基礎的説明
- 第2週 口頭言語と書記言語に関する基礎的説明
- 第3週 書記言語の性格、特徴
- 第4週 説明的に文章を書く①
- 第5週 説明的に文章を書く②
- 第6週 学術論文を読む①
- 第7週 学術論文を読む②
- 第8週 レポートを書く技術①
- 第9週 レポートを書く技術②
- 第10週 レポートを書く技術③
- 第11週 データの取り扱い①
- 第12週 データの取り扱い②
- 第13週 先行研究の取り扱い
- 第14週 「わかりやすさ」とはどういうことか
- 第15週 まとめ

副題	「書きことば」による文章表現			担当者	阿部 美菜子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は、大別して2種類の状況に分類することができる。1つ目は、よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で、2つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした、文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では、話し手と聞き手が場面や状況を共有しているので、話し手は聞き手の既有知識をよく把握している。したがって、伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は、大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような、状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は、母語の獲得過程より後に、それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということが言える。「日本語表現法I」では、このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として、特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

適宜、資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布された資料に目を通し、授業内容の理解を深めた上で、課題に取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況（20%）、授業参加度（30%）、提出物（50%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業の概要－「話しことば」と「書きことば」の違い
- 第2週 コミュニケーションの状況に応じた文章化（1）－文体や言葉を選択する
- 第3週 コミュニケーションの状況に応じた文章化（2）－曖昧な表現を直す
- 第4週 不特定多数の読み手に向けた報告文の文体的特徴を把握する
- 第5週 学術論文の文体的特徴を把握する
- 第6週 学術論文を読み、要点をとらえる
- 第7週 論証文を書く（1）－ データを提示して重要部分を言語化して説明する
- 第8週 論証文を書く（2）－ データの説明と解釈を書き分ける
- 第9週 論証文を書く（3）－ 一文の構造を意識して書き直す
- 第10週 論証文を書く（4）－ 文相互の関係を検討して書き直す
- 第11週 論証文を書く（5）－ 段落相互の関係を検討して書き直す
- 第12週 論証文を書く（6）－ 学術論文に必要な技術（全体の構成、先行研究への言及、引用、テクニカルタームなど）を習得する
- 第13週 これまでの学習内容をふまえて論証文を書く
- 第14週 「書きことば」で話す－口頭発表の技術
- 第15週 まとめ

上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により、一部変更することがある。

副題	「書きことば」による文章表現			担当者	阿部 美菜子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は、大別して2種類の状況に分類することができる。1つ目は、よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で、2つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした、文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では、話し手と聞き手が場面や状況を共有しているので、話し手は聞き手の既有知識をよく把握している。したがって、伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は、大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような、状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は、母語の獲得過程より後に、それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということが言える。「日本語表現法Ⅰ」では、このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として、特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

適宜、資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布された資料に目を通し、授業内容の理解を深めた上で、課題に取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況（20%）、授業参加度（30%）、提出物（50%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業の概要－「話しことば」と「書きことば」の違い
- 第2週 コミュニケーションの状況に応じた文章化（1）－文体や言葉を選択する
- 第3週 コミュニケーションの状況に応じた文章化（2）－曖昧な表現を正す
- 第4週 不特定多数の読み手に向けた報告文の文体的特徴を把握する
- 第5週 学術論文の文体的特徴を把握する
- 第6週 学術論文を読み、要点をとらえる
- 第7週 論証文を書く（1）－ データを提示して重要部分を言語化して説明する
- 第8週 論証文を書く（2）－ データの説明と解釈を書き分ける
- 第9週 論証文を書く（3）－ 一文の構造を意識して書き直す
- 第10週 論証文を書く（4）－ 文相互の関係を検討して書き直す
- 第11週 論証文を書く（5）－ 段落相互の関係を検討して書き直す
- 第12週 論証文を書く（6）－ 学術論文に必要な技術（全体の構成、先行研究への言及、引用、テクニカルタームなど）を習得する
- 第13週 これまでの学習内容をふまえて論証文を書く
- 第14週 「書きことば」で話す－口頭発表の技術
- 第15週 まとめ

上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により、一部変更することがある。

副題	コミュニケーション状況に応じた口頭表現			担当者	奥泉 香 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	5

〔授業の到達目標〕

研究発表等において、わかりやすく論理的な説明ができるようになる。また議論の場において、論理的で説得力のある話し方ができるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会では同じ口頭表現でも、コミュニケーションの状況に応じて、大別すると2種類の異なった言語使用が必要とされる。1つ目は、1人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面で、2つ目はよく知らない相手に対する比較的フォーマルな発話場面である。前者のようなコミュニケーションの場は、人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語を介した社会に普遍的に存在するものであり、そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は、大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での、特に説明的あるいは討論的な発話における的確な言語使用技術は、これからの社会生活において重要であるにもかかわらず、多くの学生にとって経験も少なく、訓練も不十分であると思われる。したがって「日本語表現法IIC」では、コミュニケーション状況に応じた、的確でわかりやすく論理的な口頭表現力の習得を目指す。

〔教材〕

自作教材を適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業の事前準備や授業時に発表した原稿の修正に、各週1時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

テーマ毎のプレゼンテーションと、小レポートで総合的に評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--|
| 第1週 | スピーチとマルチモダルコミュニケーション |
| 第2週 | スピーチ原稿の構成と書き方-1- |
| 第3週 | スピーチ原稿の構成と書き方-2- |
| 第4週 | コミュニケーション状況における説明-1-少数の相手に対する説明とそのポイント |
| 第5週 | コミュニケーション状況における説明-2-多数の相手に対する説明とそのポイント |
| 第6週 | コミュニケーション状況における説明-3-学術的な発表 |
| 第7週 | コミュニケーション状況における説明-4-学術的な発表 |
| 第8週 | リフレクションとまとめ |
| 第9週 | ディベート的手法を取り入れた口頭表現-1-論の立て方 |
| 第10週 | ディベート的手法を取り入れた口頭表現-2-メモをとりながらの質問 |
| 第11週 | ディベート的手法を取り入れた口頭表現-3-メモを活かした反駁 |
| 第12週 | ディベート的手法を取り入れた口頭表現-4-ディベートの体験 |
| 第13週 | ディベート的手法を取り入れた口頭表現-5-ディベートの体験 |
| 第14週 | ディベート的手法を取り入れた口頭表現-6-ディベートの体験 |
| 第15週 | リフレクションとまとめ |
- 身体を通じた学び・気づきを促す授業デザインを目指す。

副 題	「書き言葉による文章表現」			担 当 者	村上 佳恵 講師		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	金	時 限	1

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は、大別して2種類の状況に分類することができる。1つ目は、よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で、2つ目はよく知らない相手とか不特定多数を相手とした、文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では、話し手と聞き手が場面、状況を共有しているし、話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているので、伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は、大学生の段階ですでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような、状況への依存度の低い—逆に言えば言語表現への依存度の高い—言語使用は、母語の獲得過程より後に、それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり、一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すといえる。「日本語表現法1K」では、このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として、特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

特定の教科書は用いず、適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

情報収集と課題に1～2時間程度の準備学習が必要。

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。出席（20%）、各回の提出物（30%）、レポート(50%)により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業の概要 「話しことば」と「書きことば」の違い
- 第2週 パラグラフ・ライティング
- 第3週 説明文を書く
- 第4週 レポートの基本的な構成
- 第5週 論文の分析
- 第6週 論証するとはどういうことか
- 第7週 情報の集め方／テーマを探す
- 第8週 論証文を書く（1）アウトラインの作成
- 第9週 論証文を書く（2）引用と要約
- 第10週 論証文を書く（3）主張と根拠
- 第11週 論証文を書く（4）予想される反論と反駁
- 第12週 論証文を書く（6）序論とむずび／行動提示の文
- 第13週 論証文を書く（7）図表の説明
- 第14週 ピアワークによる批判と修正
- 第15週 まとめ

副題	「書きことば」による文章表現			担当者	加藤 陽子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文が書けるようになる

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は、大別して2種類の状況に分類することができる。1つ目は、よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で、2つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした、文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では、話し手と聞き手が場面、状況を共有しており、話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているため、伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は、大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような、状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は、母語の獲得過程より後に、それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり、一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すといえる。本授業では、このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として、特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指した活動をおこなう。

〔教材〕

特に定めず、授業の中で適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後に、主に復習を目的とした課題を課す。それをこなしたうえで次の授業に臨むこと。また、課題についてクラス内でおこなうフィードバックも、復習として有効に活用すること。

〔成績評価の方法〕

出席率（25%）、授業への参加度（10%）、課題（65%）によって評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	シラバスの説明、ニーズ調査、「話しことば」と「書きことば」の違いとそれぞれのバラエティを知る
第2週	コミュニケーションの状況に応じて、様々な情報を相手にわかりやすく文章化する
第3週	問題のある文章・優れた文章を分析する、課題のフィードバック
第4週	学術論文・レポートの作成手順を理解する、課題のフィードバック
第5週	学術論文を読み、その具体的特徴を把握する（構成・展開・論拠・引用・資料説明、書式など）
第6週	論証文の構成を知る、課題のフィードバック
第7週	論証文の表現を知る、課題のフィードバック
第8週	論証文を書く1－序論を書く（1）背景説明、課題のフィードバック
第9週	論証文を書く2－序論を書く（2）問題提起と観点提示、課題のフィードバック
第10週	論証文を書く3－本論を書く（1）データの提示と重要部分の言語化、課題のフィードバック
第11週	論証文を書く4－本論を書く（2）データの説明と解釈の書き分け、課題のフィードバック
第12週	論証文を書く5－本論を書く（3）結論の書き方、課題のフィードバック
第13週	論証文を書く6－結びを書く（本論の要約、評価、課題と展望）、課題のフィードバック
第14週	論証文を書く7－引用文献、注、課題のフィードバック
第15週	まとめ
履修学生の状況により、授業計画を変更することがある	

副題		担当者	木村 直恵 准教授				
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。正確な文章表現の特徴について理解し、実践することができる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は、大別して2種類の状況に分類することができる。1つ目は、よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で、2つ目はよく知らない相手とか不特定多数を相手とした、文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では、話し手と聞き手が場面、状況を共有しているし、話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているので、伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は、大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような、状況への依存度の低い—逆に言えば言語表現への依存度の高い—言語使用は、母語の獲得過程より後に、それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり、一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すといえる。「日本語表現法」では、このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として、特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

特定の教科書は用いず、適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回授業の復習を行い授業内容をきちんと身につけるとともに、宿題として課された課題を仕上げる。 (毎回5時間程度)

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。出席（20%）、各回の提出物（80%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	授業の概要 「話しことば」と「書きことば」の違い
第2週	コミュニケーションの状況に応じた文章化（1）—文体や言葉を選択する
第3週	コミュニケーションの状況に応じた文章化（2）—曖昧な表現を正す
第4週	コミュニケーションの状況に応じた文章化（3）—不特定多数の読み手に向けた報告文の文体的特徴
第5週	学術論文の文体的特徴を把握する
第6週	学術論文を読み、要点をとらえる
第7週	論証文を書く（1）— データを提示して重要部分を言語化して説明する
第8週	論証文を書く（2）— データの説明と解釈を書き分ける
第9週	論証文を書く（3）— 一文の構造を意識して書き直す
第10週	論証文を書く（4）— 文相互の関係を検討して書き直す
第11週	論証文を書く（5）— 段落相互の関係を検討して書き直す
第12週	論証文を書く（6）— 学術論文に必要な技術（全体の構成、先行研究への言及、引用、テクニカルタームなど）を習得する
第13週	これまでの学習内容をふまえて論証文を書く
第14週	「書きことば」で話す—口頭発表の技術
第15週	まとめ

上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により、一部変更することがある。

副題	アカデミックライティング			担当者	福島 直恭 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	1

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる

〔授業の内容〕

現代社会では、同じく口頭表現とは言っても、コミュニケーションの状況に応じて、大別すると2種類はかなり異なった言語使用が必要とされる。1つ目は、1人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で、2つ目はよく知らない相手や不特定多数に対する、特に書くことによって表現する言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は、人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり、そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は、大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での、特に論理的、説明的な言語使用は技術は、これからの社会生活において重要であるにもかかわらず、多くの学生にとって経験も少なく、訓練も不十分であると思われる。「日本語表現法I」では、特にレポートや論文を執筆するということを念頭に置いて、的確でわかりやすく論理的な表現力の習得を目標として授業を展開していく。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時間内では課題作文が書ききれないので、1～2時間程度の授業後の学習が必要

〔成績評価の方法〕

開講時数の2／3以上の出席が必須。さらに毎回のレポート提出（80%）、および議論への参加の積極性（20%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 言語および言語使用に関する基礎的説明
- 第2週 口頭言語と書記言語に関する基礎的説明
- 第3週 書記言語の性格、特徴
- 第4週 説明的に文章を書く①
- 第5週 説明的に文章を書く②
- 第6週 学術論文を読む①
- 第7週 学術論文を読む②
- 第8週 レポートを書く技術①
- 第9週 レポートを書く技術②
- 第10週 レポートを書く技術③
- 第11週 データの取り扱い①
- 第12週 データの取り扱い②
- 第13週 先行研究の取り扱い
- 第14週 「わかりやすさ」とはどういうことか
- 第15週 まとめ

副 題	コミュニケーション状況に応じた口頭表現			担 当 者	阿部 美菜子 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	水	時 限	3

〔授業の到達目標〕

研究発表等において、わかりやすく論理的な説明ができるようになる。
議論の場において、論理的で説得力のある話し方ができるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会では、同じ口頭表現と言っても、コミュニケーションの状況に応じて、大別すると2種類の異なった言語使用が必要とされる。1つ目は、1人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で、2つ目は、よく知らない相手に対する比較的フォーマルな発話場面における言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は、人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり、そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は、大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での、特に説明的あるいは討論的な発話における的確な言語使用技術は、これからの社会生活において重要であるにもかかわらず、多くの学生にとって経験も少なく、訓練も不十分であると思われる。そこで、「日本語表現法II」では、コミュニケーション状況に応じた、的確でわかりやすく論理的な口頭表現力の習得を目標として授業を展開していく。特に、研究発表などの場におけるよりわかりやすい説明技術や、議論の場における論理的で説得力のある言語使用の訓練が中心となる。

〔教材〕

適宜、資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布された資料に目を通し、授業内容の理解を深めた上で、準備（プレゼンテーション・ディベート）を行うこと。

〔成績評価の方法〕

出席（20%）、プレゼンテーションと授業参加度（60%）、提出物（20%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 コミュニケーション状況の違いについて
- 第2週 プレゼンテーション原稿および資料の構成と書き方（1）
- 第3週 プレゼンテーション原稿および資料の構成と書き方（2）
- 第4週 コミュニケーション状況における説明（1）— ひとりの相手に対する説明
- 第5週 コミュニケーション状況における説明（2）— 少数の相手に対する説明
- 第6週 コミュニケーション状況における説明（3）— 多数の相手に対する説明
- 第7週 コミュニケーション状況における説明（4）— 学術的な発表（1回目）
- 第8週 コミュニケーション状況における説明（5）— 学術的な発表（2回目）
- 第9週 第4週から第8週までの比較検討とまとめ
- 第10週 デイバートの手法を取り入れた口頭表現（1）— 論の立て方
- 第11週 デイバートの手法を取り入れた口頭表現（2）— メモをとりながらの展開
- 第12週 デイバートの手法を取り入れた口頭表現（3）— メモを活かした反駁
- 第13週 デイバートの手法を取り入れた口頭表現（4）— デイバートの体験1
- 第14週 デイバートの手法を取り入れた口頭表現（5）— デイバートの体験2
- 第15週 まとめ

上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により、一部変更することがある。

副題	「書きことば」による文章表現			担当者	奥泉 香 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	5

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は、大別して2種類の状況に分類することができる。1つ目は、よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で、2つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした、文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では、話し手と聞き手が場面、状況を共有しているため、話し手は聞き手の既有知識を把握している。したがって、伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた部分で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は、大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような、状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は、母語の獲得過程より後に、それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指す場合が多い。「日本語表現法I D」では、このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として、特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

自作の教材を適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業の事前課題や授業時に書いた文章の修正、補完に各週1～2時間程度の準備が必要である。

〔成績評価の方法〕

各回の提出物と課題毎の提出物で、総合的に判断する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 聴覚情報を整理して書く
- 第2週 機器の取り扱い方を、コミュニケーション状況に応じて、相手にわかりやすく文章化する
- 第3週 視覚的テキストから得た情報を、コミュニケーション状況に応じて、相手にわかりやすく文章化する－1－
- 第4週 視覚的テキストから得た情報を、コミュニケーション状況に応じて、相手にわかりやすく文章化する－2－
- 第5週 不特定多数の読み手を想定して書かれた報告文を読み、その文体的特徴を把握する
- 第6週 学術論文を読み、その文体的特徴や文献等の記述方法を把握する
- 第7週 論証文を書く－1－資料から必要な部分を引用し、問いを生成する
- 第8週 論証文を書く－2－データの説明と解釈を書き分ける
- 第9週 論証文を書く－3－一文の構造を意識して書き直す
- 第10週 論証文を書く－4－文相互の関係を検討して書き直す
- 第11週 論証文を書く－5－段落相互の関係を検討して書き直す
- 第12週 論証文を書く－6－全体構造を検討して書き直す
- 第13週 論証文を書く－7－；1～6までの学習内容をふまえて論証文を書く
- 第14週 論証文を書く－8－；1～6までの学習内容をふまえて論証文を書く
- 第15週 ピアワークによる批評と修正
書く・修正する過程で各人が気づきを得る授業デザインを目指す。

副 題	コミュニケーション状況に応じた口頭表現			担 当 者	村上 佳恵 講師		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	金	時 限	3

〔授業の到達目標〕

研究発表等において、わかりやすく論理的な説明ができるようになる。
議論の場において、論理的で説得力のある話し方ができるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会では、同じく口頭表現とは言っても、コミュニケーションの状況に応じて、大別すると2種類のかかなり異なった言語使用が必要とされる。1つ目は、1人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で、2つ目はよく知らない相手に対する比較的フォーマルな発話場面における言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は、人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり、そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は、大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での、特に説明的あるいは討論的な発話における的確な言語使用技術は、これからの社会生活において重要であるにもかかわらず、多くの学生にとって経験も少なく、訓練も不十分であると思われる。「日本語表現法2C」では、コミュニケーションの状況に応じた、的確でわかりやすく論理的な口頭表現力の習得を目標として授業を展開していく。特に、研究発表などの場におけるよりわかりやすい説明技術や、議論の場における論理的で説得力のある言語使用の訓練が中心となる。

〔教材〕

特定の教科書は用いず、適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

情報収集と課題に1-2時間の準備学習が必要。

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。出席（20%）、発表（50%）、議論への参加度（30%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 言語および言語使用に関する基礎的説明
- 第2週 プレゼンテーションの方法と原稿作りの基本（1）
- 第3週 プレゼンテーションの方法と原稿作りの基本（2）
- 第4週 プレゼンテーション実習と討論（1）
- 第5週 プレゼンテーション実習と討論（2）
- 第6週 プレゼンテーション実習と討論（3）
- 第7週 プレゼンテーション実習と討論（4）
- 第8週 プレゼンテーション実習と討論（5）
- 第9週 プレゼンテーション実習と討論（6）
- 第10週 ディベートの実習（1）
- 第11週 ディベートの実習（2）
- 第12週 ディベートの実習（3）
- 第13週 ディベートの実習（4）
- 第14週 ディベートの実習（5）
- 第15週 まとめ

上記の予定は、履修生の人数と進捗状況により一部変更する可能性がある。

副題	コミュニケーション状況に応じた口頭表現			担当者	阿部 美菜子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

研究発表等において、わかりやすく論理的な説明ができるようになる。
議論の場において、論理的で説得力のある話し方ができるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会では、同じ口頭表現と言っても、コミュニケーションの状況に応じて、大別すると2種類の異なった言語使用が必要とされる。1つ目は、1人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で、2つ目は、よく知らない相手に対する比較的フォーマルな発話場面における言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は、人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり、そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は、大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での、特に説明的あるいは討論的な発話における的確な言語使用技術は、これからの社会生活において重要であるにもかかわらず、多くの学生にとって経験も少なく、訓練も不十分であると思われる。そこで、「日本語表現法II」では、コミュニケーション状況に応じた、的確でわかりやすく論理的な口頭表現力の習得を目標として授業を展開していく。特に、研究発表などの場におけるよりわかりやすい説明技術や、議論の場における論理的で説得力のある言語使用の訓練が中心となる。

〔教材〕

適宜、資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布された資料に目を通し、授業内容の理解を深めた上で、準備（プレゼンテーション・ディベート）を行うこと。

〔成績評価の方法〕

出席（20%）、プレゼンテーションと授業参加度（60%）、提出物（20%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 コミュニケーション状況の違いについて
- 第2週 プレゼンテーション原稿および資料の構成と書き方（1）
- 第3週 プレゼンテーション原稿および資料の構成と書き方（2）
- 第4週 コミュニケーション状況における説明（1）— ひとりの相手に対する説明
- 第5週 コミュニケーション状況における説明（2）— 少数の相手に対する説明
- 第6週 コミュニケーション状況における説明（3）— 多数の相手に対する説明
- 第7週 コミュニケーション状況における説明（4）— 学術的な発表（1回目）
- 第8週 コミュニケーション状況における説明（5）— 学術的な発表（2回目）
- 第9週 第4週から第8週までの比較検討とまとめ
- 第10週 デイバートの手法を取り入れた口頭表現（1）— 論の立て方
- 第11週 デイバートの手法を取り入れた口頭表現（2）— メモをとりながらの展開
- 第12週 デイバートの手法を取り入れた口頭表現（3）— メモを活かした反駁
- 第13週 デイバートの手法を取り入れた口頭表現（4）— デイバートの体験1
- 第14週 デイバートの手法を取り入れた口頭表現（5）— デイバートの体験2
- 第15週 まとめ

上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により、一部変更することがある。

副 題	「書きことば」による文章表現			担 当 者	奥泉 香 講師		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	金	時 限	4

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は、大別して2種類の状況に分類することができる。1つ目は、よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で、2つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした、文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では、話し手と聞き手が場面、状況を共有しているため、話し手は聞き手の既有知識を把握している。したがって、伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた部分で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は、大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような、状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は、母語の獲得過程より後に、それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指す場合が多い。「日本語表現法ID」では、このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として、特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

自作の教材を適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業の事前課題や授業時に書いた文章の修正、補完に各週1～2時間程度の準備が必要である。

〔成績評価の方法〕

各回の提出物と課題毎の提出物で、総合的に判断する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	聴覚情報を整理して書く
第2週	機器の取り扱い方を、コミュニケーション状況に応じて、相手にわかりやすく文章化する
第3週	視覚的テキストから得た情報を、コミュニケーション状況に応じて、相手にわかりやすく文章化する－1－
第4週	視覚的テキストから得た情報を、コミュニケーション状況に応じて、相手にわかりやすく文章化する－2－
第5週	不特定多数の読み手を想定して書かれた報告文を読み、その文体的特徴を把握する
第6週	学術論文を読み、その文体的特徴や文献等の記述方法を把握する
第7週	論証文を書く－1－資料から必要な部分を引用し、問いを生成する
第8週	論証文を書く－2－データの説明と解釈を書き分ける
第9週	論証文を書く－3－一文の構造を意識して書き直す
第10週	論証文を書く－4－文相互の関係を検討して書き直す
第11週	論証文を書く－5－段落相互の関係を検討して書き直す
第12週	論証文を書く－6－全体構造を検討して書き直す
第13週	論証文を書く－7－；1～6までの学習内容をふまえて論証文を書く
第14週	論証文を書く－8－；1～6までの学習内容をふまえて論証文を書く
第15週	ピアワークによる批評と修正 書く・修正する過程で各人が気づきを得る授業デザインを目指す。

副題	コミュニケーション状況に応じた口頭表現			担当者	村上 佳恵 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

研究発表等において、わかりやすく論理的な説明ができるようになる。
議論の場において、論理的で説得力のある話し方ができるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会では、同じく口頭表現とは言っても、コミュニケーションの状況に応じて、大別すると2種類のかかなり異なった言語使用が必要とされる。1つ目は、1人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で、2つ目はよく知らない相手に対する比較的フォーマルな発話場面における言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は、人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり、そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は、大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での、特に説明的あるいは討論的な発話における的確な言語使用技術は、これからの社会生活において重要であるにもかかわらず、多くの学生にとって経験も少なく、訓練も不十分であると思われる。「日本語表現法2F」では、コミュニケーションの状況に応じた、的確でわかりやすく論理的な口頭表現力の習得を目標として授業を展開していく。特に、研究発表などの場におけるよりわかりやすい説明技術や、議論の場における論理的で説得力のある言語使用の訓練が中心となる。

〔教材〕

特定の教科書は用いず、適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

情報収集と課題に1-2時間の準備学習が必要。

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。出席（20%）、発表（50%）、議論への参加度（30%）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 言語および言語使用に関する基礎的説明
- 第2週 プレゼンテーションの方法と原稿作りの基本（1）
- 第3週 プレゼンテーションの方法と原稿作りの基本（2）
- 第4週 プレゼンテーション実習と討論（1）
- 第5週 プレゼンテーション実習と討論（2）
- 第6週 プレゼンテーション実習と討論（3）
- 第7週 プレゼンテーション実習と討論（4）
- 第8週 プレゼンテーション実習と討論（5）
- 第9週 プレゼンテーション実習と討論（6）
- 第10週 デイバートの実習（1）
- 第11週 デイバートの実習（2）
- 第12週 デイバートの実習（3）
- 第13週 デイバートの実習（4）
- 第14週 デイバートの実習（5）
- 第15週 まとめ

上記の予定は、履修生の人数と進捗状況により一部変更する可能性がある。

副 題	ダンスと文化（日本の踊りと世界のダンス）			担 当 者	荒井 啓子 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	木	時 限	3

〔授業の到達目標〕

様々な地域の様々な時代の様々なダンスの体験を通して、多様な身体の使い方や踊り方を習得しその背景にある多様な文化を学ぶ。同時に姿勢を整え、軽やかな動きを身につける。

〔授業の内容〕

Danceという言葉は、desire of lifeという意味をもっている。それは、私たちが生きていることとダンスが、深く関わっていることを示唆している。この時間では、様々な国の、様々な形態の、様々な歴史をもつダンスの体験を通して、「ダンスとはどのような文化なのか」あるいは「他の文化とどのような関係があるのだろうか」という問題を考えてほしい。パーティダンスやボールルームダンス（ソーシャルダンス）は「国際共通語」でもあり、海外における人々とのコミュニケーションの役割を果たすことができる。また、バロックダンスや諸外国及び日本の舞踊を体験することによって、各地に受け継がれてきた伝統的な生活文化や社会的背景を知ることができる。音楽に合わせて身体を動かす楽しさを体験しながら、各自が「ダンスによる比較文化論」を展開してほしい。

〔教材〕

テーマに応じて授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回習得した身体技法を理論とともに復習した上で、毎回の授業に出席する。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%）、動きの発表と理解度の確認（30%）、レポート（20%）によって総合的に評価する。

（上記の目安は、進度や課題内容により多少変更する場合がある）

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群はすべて「実技・講義一体型授業」であり、必要に応じて講義のみの時間も設けるが、実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進める。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス：授業の目的とすすめ方
第2週	ダンスとコミュニケーション（現代のパーティダンス）
第3週	ダンスとコミュニケーション（アメリカン・カントリーダンス）
第4週	ボールルームダンスの系譜と技法（ラテン）
第5週	〃
第6週	〃
第7週	動きの発表と理解度の確認
第8週	ボールルームダンスの系譜と技法（モダン）
第9週	〃
第10週	ダンスの歴史を辿る（フランス宮廷舞踊を体験する）
第11週	世界の民族舞踊
第12週	日本の民踊（各地の文化と踊り）
第13週	〃
第14週	〃
第15週	まとめ+動きの発表と理解度の確認

副題	和の身体技法			担当者	森田 ゆい 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4

〔授業の到達目標〕

日本の踊りをはじめとする「和の身体技法」を体験することによって、日本に特有な身体文化や身体運動文化を理解し、和服を着た場合の所作や立居振る舞いとともにその文化的背景を学びます。その過程の中で、和服（浴衣）を自分で着る技能を習得し、国際交流の場において日本舞踊を披露できる能力を培うことを目指します。

〔授業の内容〕

本授業では、主に日本舞踊と地歌舞を題材として「和の身体技法」を学びます。また日本舞踊の「踊り」と地歌舞の「舞」の違いについて理解を深めるための講義を行い、その上で、体験を通してそれぞれの「身体づかい」の違いを習得していきます。

踊る曲目は日本舞踊の「菊づくし」と地歌舞の「高砂」です。「菊づくし」のまとめでは、数人ずつがステージに上がり踊りを披露します。

本授業を通して、各自が和服を着こなし、踊ることとともに和の身のこなしを身に着けることを期待します。

〔教材〕

授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自宅で練習できるように音楽をCDでお渡しできます。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50点）、平常点（5点）、踊りの実技と着付けのテスト（20点）、レポート（25点）によって総合的に評価します。

（上記の目安は、進捗や課題内容により多少変更する場合があります）

〔備考〕

各自で浴衣、帯、足袋を用意してください。

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり、必要に応じて講義のみの時間も設けますが、実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス・授業の目的と進め方
- 第2週 浴衣の着方、基本的な立居振舞を通した日本の身体文化や身体運動文化の基礎的理解
- 第3週 日本舞踊「菊づくし」
- 第4週 ♪
- 第5週 ♪
- 第6週 ♪
- 第7週 「菊づくし」まとめ・理解度の確認
- 第8週 「日本舞踊」と「地歌舞」概論
- 第9週 地歌舞「高砂」
- 第10週 ♪
- 第11週 ♪
- 第12週 ♪
- 第13週 ♪
- 第14週 「高砂」まとめ
- 第15週 総括

副 題	レクリエーションとニュースポーツ			担 当 者	針ヶ谷 雅子 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	月	時 限	2

〔授業の到達目標〕

授業で体験した活動の中から、自分の好みやライフスタイルに合ったものを見つけ、楽しさや充実感とともに運動不足を解消し、こことからだを健康にするすぐれた余暇活動を生涯続けられるきっかけにしたいと思います。

〔授業の内容〕

現代社会においては、余暇（レジャー）をいかに充実させるかが、生活を豊かにするための重要なポイントとなります。「レクリエーション」とは、余暇を利用して楽しみや気晴らしを目的に自発的に行われる活動のことです。この授業では、様々なレクリエーションを体験します。グループで協力しながら課題を解決するようなゲーム、伝承遊びや世界の遊び、年齢・技能・体力を問わず気軽に参加できるように開発された「ニュースポーツ」を取り入れ、屋外での活動も、季節に応じて実施します。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介します。（プリント配布、ビデオによる映像教材等）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業内での運動がしっかりできるよう、睡眠・食事などに気を配り、万全の体調でのぞめるよう整えること。また、授業で取り上げた種目について、インターネットやテキストなどを利用し、知識を補うこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%）、平常点（30%）、レポート（20%）によって総合的に評価します。（上記の目安は、進度や課題内容により多少変更する場合があります）

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり、必要に応じて講義のみの時間も設けますが、実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス「レジャー・レクリエーションとは」「ニュースポーツとは」、授業の目的と進め方
第2週	体力診断テスト・アイスブレイキング
第3週	長縄跳び（1）いろいろなバリエーションを楽しむ・仲間と一緒に跳ぶ
第4週	長縄跳び（2）ダブルダッチに挑戦する
第5週	ユニバーサル・ホッケー
第6週	ネイチャーゲーム・フィールドゲーム（屋外）
第7週	ダンスを楽しむ（1）フラダンス
第8週	ダンスを楽しむ（2）パーティーダンス・フォークダンス
第9週	KUBB（スウェーデン発祥のゲーム）
第10週	伝承遊び（ゴム段跳びなど）
第11週	ウォークラリー
第12週	ボールジャグリング（1）
第13週	ボールジャグリング（2）
第14週	その他のニュースポーツ（インディアカなど）
第15週	まとめ「現代社会とレジャー・レクリエーション」

受講者数により実習種目に変更があります。
天候などにより、スケジュールが変更になることがあります。

副題	世界の身体技法			担当者	瀬戸 邦弘 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4

〔授業の到達目標〕

さまざまな地域のさまざまな身体技法を体験することによって、世界中に存在する独自のスポーツ・身体文化や遊戯を理解し、同時に固有の文化としての「からだの使い方」を学ぶ。

〔授業の内容〕

世界にはさまざまな「身体技法」がある。「身体技法」とはごく簡単に言えば「それぞれの社会によって異なる伝統的な身体の使い方」と説明することができる。したがって、そのあり方は、それぞれの時代や地域における生活様式や価値観等によって特徴づけられている。「立つ、座る、歩く、走る」などの原初的な生活動作はもとより遊び(ゲーム)を含む広義のスポーツはもっともよく保存された「身体技法」といえるだろう。この時間では世界に広がるスポーツ・身体文化とそれらを支える身体技法についての知見を深めることになる。

〔教材〕

参考書：寒川恒夫他『教養としてのスポーツ人類学』大修館書店、平成16(2004)年
テーマ、必要に応じて授業時に紹介する。

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

講義で受けた内容、紹介された参考図書・資料をよく読んで復習する事。

〔成績評価の方法〕

出席状況(50%)、動きの発表と理解度の確認(30%)、レポート(20%)によって総合評価する。
(上記の目安は、速度や課題内容等により多少変更することがある)

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型」であり、必要に応じて講義のみの時間も設けるが、実践の中で解説を練りこみ理論的背景を講じながら授業を展開する。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス：授業の目的と進め方	
第2週	日本のスポーツ・身体文化①	伝統的なスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第3週	日本のスポーツ・身体文化②	伝統的なスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第4週	日本のスポーツ・身体文化③	伝統的なスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第5週	アジアのスポーツ・身体文化①	東アジアのスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第6週	アジアのスポーツ・身体文化②	東南アジアのスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第7週	北米のスポーツ・身体文化①	WEIOと先住民スポーツ・身体文化と遊戯の世界
第8週	北米のスポーツ・身体文化②	WEIOと先住民スポーツ・身体文化と遊戯の世界
第9週	ヨーロッパのスポーツ・身体文化①	イギリス、フランスのスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第10週	ヨーロッパのスポーツ・身体文化②	イギリス、フランスのスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第11週	ヨーロッパのスポーツ・身体文化③	イギリス、フランスのスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第12週	島嶼部のスポーツ・身体文化①	太平洋地域を中心としたスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第13週	島嶼部のスポーツ・身体文化②	太平洋地域を中心としたスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第14週	動きの発表と理解度の確認	
第15週	まとめ	
前の週の内容をよく復習して参加する事		

副題	スポーツ技術とゲーム (テニス)			担当者	吉成 啓子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

テニスの実践を通して、文化としてのスポーツについての理解を深め、同時に、判断力・社会性・協調性などを養い、生涯にわたってスポーツや身体活動を生活の中に取り入れていくことができるようにする。

〔授業の内容〕

どのようなスポーツでもその技術を習得することが、楽しむための第一歩です。そしてその楽しいスポーツ経験が生涯スポーツにつながっていきます。この時間では、テニスの技能をその理論的背景とともに習得します。経験別・レベル別の指導を取り入れるなどして、ひとりひとりのより一層の身体運動能力の改善を目指します。また生涯スポーツの観点から体育・スポーツ活動を理解するための講義や体力トレーニングも並行して行います。

前半は初心者を対象とした基礎技術を中心に個々のレベルアップをはかり、ミニゲームなどを通してルールやマナーの理解を深めます。後半にかけてゲームに関連する応用技術を習得した上でリーグ戦およびトーナメント戦を行う予定です。

〔教材〕

授業中にプリントなどを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

日頃から健康管理に気をつけ、授業にはできるだけ体調の良い状態で参加してください。

〔成績評価の方法〕

出席状況(50%)、スキルテスト(15%)、参加意欲・態度(15%)、ペーパーテストまたはレポート(20%)など総合的に評価します。

〔備考〕

天候によりスケジュールが変更になる可能性があります。

雨天でも体育館を使用してショートテニスなどを行いますので、必ず運動できる服装および体育館シューズを持参してください。

※スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり、必要に応じて講義のみの時間も設けますが、実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授業計画〕

第1週	ガイダンス：授業の目的と進め方。グループ編成など。
第2週	体力トレーニング／ラケットティング，グラウンド・ストローク
第3週	体力トレーニング／グラウンド・ストロークの応用（トップスピン・アンダースピン），ボレー
第4週	自己の体力を知る：新体力テストの理解と実践
第5週	体力トレーニング／サービスの基礎（フラットサーブ）＆サービスレシーブ／ミニゲーム
第6週	体力トレーニング／サービスの応用（スライス・スピン）＆サービスレシーブ／シングルスゲームの理解と実践
第7週	体力トレーニング／スマッシュ，ロビングの基礎
第8週	体力トレーニング／実技テスト（基礎技術）／ルールとマナーの理解
第9週	体力トレーニング／ダブルスマッチの基礎戦術（雁行陣でのポジショニング）
第10週	体力トレーニング／ダブルスマッチの基礎戦術（平行陣でのポジショニング）
第11週	体力トレーニング／ダブルスゲームの理解と実践 体力テストの結果報告と自己体力評価
第12週	体力トレーニング／タイブレイクシステムの理解と実践
第13週	体力トレーニング／班対抗戦（1）
第14週	体力トレーニング／班対抗戦（2）
第15週	体力トレーニング／班対抗戦（3）

副題	東洋の養生法（太極拳と呼吸法）			担当者	荒井 啓子 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

東洋（東アジア文化圏）の養生思想を学ぶとともに、主に中国の「簡化太極拳」(24式)を体験・習得し、現代社会における自分の健康観や身体観を再検討し、生活文化としてあるいは健康文化としてスポーツを生活の中に組み入れることができる能力を養う。

〔授業の内容〕

エアロビクスのような「数値」で自分の運動強度を推測できる運動は、いわば科学的で近代的な健康法である。これに対して、中国では、人間の身体の部分的な数値を尺度とするのではなく、長い間の「経験」に基づいて、部分と全体、心と体などを総合的に捉えて健康を考えてきた。この考え方は、一見混沌として捉えようがないように見えるが、情報化・人工化された現代社会の中で、人間を総合的かつ全体的にながめながら「自然な身体」を模索する一つの方法とも言える。

この時間では、東洋（東アジア文化圏）の養生思想を学ぶとともに、主に中国の「簡化太極拳」(24式)を体験・習得し、現代社会における自分の健康観や身体観を再検討していく。太極拳はゆっくりとした動きと呼吸法が特徴的であり、しなやかな動きを身に付けることによって平衡感覚や柔軟性を培うことができる。また、呼吸法はリラクゼーションとしても有効である。身体の「自然な」動きとはどのようなものなのかということを探りながら、緩やかな「からだほぐし」や「からだづくり」を目指す。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回習得した身体技法を理論とともに復習した上で、毎回の授業に出席すること。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%）、動き発表と理解度の確認（30%）、レポート（20%）によって総合的に評価する。

（上記の目安は、進度や課題内容により多少変更する場合がある）

〔備考〕

特別授業を開催する場合がある。

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり、必要に応じて講義のみの時間も設けるが、実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進める。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス：「東洋の養生思想」、授業の目的とすすめ方
- 第2週 日常生活のための動きのチェック
- 第3週 甩手（スワイショウ）、呼吸法、練功十八法（1）
- 第4週 甩手（スワイショウ）、呼吸法、練功十八法（2）
- 第5週 10式太極拳+呼吸法（1組）
- 第6週 10式太極拳+呼吸法（1組～2組）
- 第7週 10式太極拳+呼吸法（1組～3組）
- 第8週 10式太極拳+呼吸法（1組～4組+十字手+収勢）
- 第9週 10式太極拳+呼吸法（まとめ）
- 第10週 動きの発表と理解度の確認
- 第11週 簡化太極拳二十四式+呼吸法（1）
- 第12週 簡化太極拳二十四式+呼吸法（2）
- 第13週 グループワーク
- 第14週 表演会
- 第15週 まとめ：「健康文化としての東洋の養生論」

副 題	スポーツ技術とゲーム (バドミントン)			担 当 者	吉成 啓子 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	火	時 限	3

〔授業の到達目標〕

バドミントンの実践を通して、文化としてのスポーツを学び、同時に判断力・社会性・協調性などを養い、生涯にわたってスポーツや身体活動を生活の中に取り入れていくことができるようにする。

〔授業の内容〕

どのようなスポーツでもその技術を習得することが、楽しむための第一歩です。そしてその楽しいスポーツ経験が生涯スポーツにつながっていきます。この時間では、バドミントンの技能をその理論的背景とともに習得します。経験別・レベル別の指導を取り入れるなどして、ひとり一人のより一層の身体運動能力の改善を目指します。また、生涯スポーツの観点から体育・スポーツ活動を理解するための講義や体力トレーニングも並行して行います。

前半は初心者を対象とした基礎技術を中心に個々のレベルアップをはかり、ミニゲームなどを通してルールやマナーの理解を深めます。後半にかけてゲームに関連する応用技術を習得した上でリーグ戦およびトーナメント戦を行う予定です。

〔教材〕

授業中にプリントなどを配布します。

〔準備学習 (予習・復習) の内容又はそれに必要な時間〕

日頃から健康管理に気をつけ、授業にはできるだけ体調のよい状態で参加してください。

〔成績評価の方法〕

出席状況(50%), スキルテスト(15%), 参加意欲・態度(15%), ペーパーテストまたはレポート(20%)など総合的に評価します。

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり、必要に応じて講義のみの時間も設けますが、実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス：授業の目的と進め方，グループ編成
第2週	自己の体力を知る：新体力テストの理解と実践
第3週	基礎技術の習得（1）：ハイクリアー，ロングハイサービス／ハーフシングルスゲーム（1）
第4週	基礎技術の習得（2）：ドリブンクリアー，ドライブ／ハーフシングルス（2）
第5週	基礎技術の習得（3）：スマッシュ／ルールとマナー／シングルスゲーム（1）
第6週	基礎技術の習得（4）：ドロップ&カット／シングルスゲーム（2）
第7週	基礎技術の習得（5）：ヘアピン／ショートサービス／ハーフコートダブルス
第8週	スキルテスト（基礎技術）
第9週	応用技術の習得（1）：サイド・バイサイドにおけるコンビネーションプレー／ダブルスゲーム（1）
第10週	応用技術の習得（2）：トップ&バックにおけるコンビネーションプレー／ダブルスゲーム（2） 体力テストの結果報告と自己体力評価
第11週	班対抗戦（1）
第12週	班対抗戦（2）
第13週	班対抗戦（3）
第14週	シングルスゲーム・オールトーナメント戦
第15週	ダブルスゲーム・オールトーナメント戦

副題	からだところをほぐすワーク			担当者	針ヶ谷 雅子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2

〔授業の到達目標〕

現代社会では、「運動不足」や「ストレス」は深刻な問題であり、「肥満」や「姿勢の悪さ」は特に女性にとって大きな悩みのひとつになっています。この授業では、こうした問題を少しでも解消するきっかけとなるようなワークを体験し、最終的にはそれぞれのライフスタイルに合うものを生活のなかに取り入れていくことを目指しています。

〔授業の内容〕

「からだ」と「ところ」は深く関係しており、「からだ」がほぐれると「ところ」も軽くなり、「ところ」がはずむと「からだ」ものびのびとします。背中を曲げてうつむいた姿勢では生き生きとした気持ちにはなりません。こうした「ところ」と「からだ」の関係を実感しながら、時には筋肉を動かし心拍数をあげて運動し、また時にはゆったりと自然のリズムに身をゆだね、「からだ」と「ところ」をほぐしていきましょう。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介します。(プリント配布, ビデオによる映像教材等)

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

授業内での運動がしっかりできるよう、睡眠・食事などに気を配り、万全の体調でのぞめるよう整えること。また、授業で取り上げた種目について、インターネットやテキストなどを利用し、知識を補うこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況(50%), 平常点(30%), レポート(20%)によって総合的に評価します。
(上記の目安は、進捗や課題内容により多少変更する場合があります)

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり、必要に応じて講義のみの時間も設けますが、実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス・授業の目的と進め方・概論「健康とは」
 - 第2週 <ところ>アイスブレイキングゲーム・コミュニケーションゲーム
 - 第3週 <からだ>ストレッチと呼吸法
 - 第4週 <からだ>有酸素運動「エアロビクスダンス」
 - 第5週 <ところ>身近な自然を感じるアクティビティ「ネイチャーゲーム」
 - 第6週 <からだ>有酸素運動「ウォーキング」
 - 第7週 <からだ>いろいろな縄跳び(1)
 - 第8週 <からだ>いろいろな縄跳び(2)
 - 第9週 <ところ>ヨガ入門(1)
 - 第10週 <ところ>ヨガ入門(2)
 - 第11週 <からだ>やさしい筋力トレーニング「チューブ運動」
 - 第12週 <からだ>良い姿勢とは「バレエレッスン」
 - 第13週 <からだ>良い姿勢とは「社交ダンス入門」
 - 第14週 <ところ>マッサージとリラクゼーション
 - 第15週 まとめ 「からだところを解放する」
- 天候などにより、アクティビティが変更になることがあります

副題	フラダンスとハワイの身体文化			担当者	針ヶ谷 雅子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

「フラ」は、単なるダンスではなく、文字を持たなかったハワイの人々が、踊りによってコミュニケーションし、歴史を語り継いだ「文化」です。手の細かい動きひとつひとつがすべて意味を持っています。

また、一見優雅に見えるフラですが、全身の筋肉を使って裸足で踊るため、運動量は意外に多く、ダイエットや健康維持のために続ける愛好者も増えています。やさしいハワイの調べに合わせ、ハワイの美しい植物や楽器の柄のスカートを身につけるだけでも、ストレスから解放されるでしょう。

この授業では、ハワイの文化を身体（からだ）で味わい、筋肉を動かし、こころとからだの健康維持につなげていくことを目指しています。

〔授業の内容〕

「愛情」や「自然の美しさ」を歌ったフラの音楽に合わせて踊っていきます。また、資料や画像を見ながらハワイの歴史や文化を学びます。

〔教材〕

必要に応じて、授業時に紹介します。（プリント配布、ビデオによる映像教材等）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業内での運動がしっかりできるよう、睡眠・食事などに気を配り、万全の体調でのぞめるよう整えること。また、授業で取り上げた種目について、インターネットやテキストなどを利用し、知識を補うこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%）、平常点（30%）、レポート（20%）によって総合的に評価します。（上記の目安は、進度や課題内容により、多少変更する場合があります）

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり、必要に応じて講義のみの時間も設けますが、実践の中で解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス（授業の目的と進め方）概論「フラダンスとは」
- 第2週 アイスブレイキング からだほぐし
- 第3週 フラダンス入門 実際にフラダンスを体験してみる（1）
- 第4週 フラダンス入門 実際にフラダンスを体験してみる（2）
- 第5週 ハワイの文化（1）「ハワイの歴史」
- 第6週 フラダンス初級 動きのバリエーションを増やす（1）
- 第7週 フラダンス初級 動きのバリエーションを増やす（2）
- 第8週 フラダンス初級 動きのバリエーションを増やす（3）
- 第9週 ハワイの文化（2）「ハワイの生活とフラ」
- 第10週 フラダンス中級 ハワイの文化を身体で表現しながら、こころを込めて踊る（1）
- 第11週 フラダンス中級 ハワイの文化を身体で表現しながら、こころを込めて踊る（2）
- 第12週 フラダンス中級 ハワイの文化を身体で表現しながら、こころを込めて踊る（3）
- 第13週 フラダンス中級 ハワイの文化を身体で表現しながら、こころを込めて踊る（4）
- 第14週 発表会 小グループで作品発表する
- 第15週 まとめ

上記の計画は、天候や進度に応じて変更する場合があります。

副題	生涯スポーツとしてのバレーボール			担当者	吉成 啓子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

バレーボールの実践を通して、文化としてのスポーツについての理解を深め、同時に、判断力・社会性・協調性などを養い、生涯にわたってスポーツや身体活動を生活の中に取り入れていくことができるようにする。

〔授業の内容〕

どのようなスポーツでも、その技術を修得することが楽しむための第一歩です。そしてその楽しいスポーツ経験が、生涯スポーツにつながっていきます。この時間では、バレーボールの技能をその理論的背景とともに習得します。集団種目の特性である個人が集団に対してどのように働きかけるかを理解し、実践します。また生涯スポーツの観点から体育・スポーツ活動を理解するための講義や体力トレーニングも並行して行います。

〔教材〕

授業時にプリントなどを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

日頃から健康管理に気をつけ、授業にはできるだけ体調のよい状態で参加してください。

〔成績評価の方法〕

出席状況(50%)、スキルテスト(15%)、参加意欲・態度(15%)、ペーパーテストまたはレポート(20%)など総合的に評価します。

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり、必要に応じて講義のみの時間も設けますが、実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス：授業の目的と進め方
第2週	自己の体力を知る：新体力テストの理解と実践
第3週	グループ編成（1） ：基礎技術の習得（いろいろなパス練習：対人パス・円陣パスなど）／第1回リーグ戦（1）
第4週	基礎技術の習得（いろいろなパス練習：ランニングパス・3人組トス練習）／第1回リーグ戦（2）
第5週	基礎技術の習得（各種サーブ・アタック練習）／第1回リーグ戦（3）
第6週	基礎技術を使った応用練習（アタックレシーブ練習）／第2回リーグ戦（1）
第7週	基礎技術を使った応用練習（2段トス練習）／第2回リーグ戦（2）
第8週	基礎技術を使った応用練習（サーブレシーブ練習）／第2回リーグ戦（3）
第9週	グループ編成（2） ：コンビネーションプレーの習得（3人レシーブ・サーブレシーブ）／第3回リーグ戦（1）
第10週	コンビネーションプレーの習得（シートレシーブ・コンビサービスレシーブ）／第3回リーグ戦（2） 体力テストの結果報告と自己体力評価
第11週	コンビネーションプレーの習得（4vs4ミニゲーム）／第3回リーグ戦（3）
第12週	チーム別練習（各チームで練習メニュー作成）／第4回リーグ戦（1）
第13週	チーム別練習（各チームで練習メニュー作成）／第4回リーグ戦（2）
第14週	チーム別練習（各チームで練習メニュー作成）／第4回リーグ戦（3）
第15週	ゲームを楽しもう！（誕生日月選手権）

授業の前半は、バレーボールに必要な体力トレーニングおよび個人・チーム技能練習。後半はゲームを行います。
授業計画は変更する場合があります。

副題				担当者	香川 明美 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

古来、文字を持たなかった日本人は、平安時代に独自のかな文字を作り出した。日本人はどの様に文字を変遷させていったのか、その過程を学ぶ。

実習では、仮名を基礎から学び、短歌をちらし書きで書くことを目指す。

〔授業の内容〕

日本の文字の変遷を歴史をたどりながら学ぶ。

仮名の古筆の名品を教科書を使って鑑賞する。

実習では、平仮名、変体仮名の単体、連綿を学び、短歌を書く。

〔教材〕

教科書：大東文化大学書道研究所編『書道テキスト第9巻かな』二玄社

実習には随時プリント手本を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で扱うテキストの箇所を指示するので、次回までに目を通し、内容を把握しておくこと。

実習の課題を家でも練習し、清書に臨めるように準備すること。

〔成績評価の方法〕

課題の提出作品の評価で50% 講義内容の筆記テストで50%

但し、出席、受講、実習態度を重視。欠席、遅刻の回数によって減点対象とする。

〔備考〕

実習を円滑に行なう為受講者は30名とする。

実習用具は各自で用意し、第1週より持参すること。

用具は、かな用半紙、小筆、石製の硯、固形の墨（墨汁不可）、下敷き、ぶんちん

2回目の受講者は、実習に関しては基礎からさらに進み、色紙、短冊等の作品を作成する。

〔授業計画〕

- 第1週 講義；半年間の概要。道具の説明。実習；かなの基礎 1
- 第2週 講義；かな文字ができる前の文字の変遷 1 実習；かなの基礎 2
- 第3週 講義；かな文字ができる前の文字の変遷 2 実習；かなの基礎 3
- 第4週 講義；かな文字ができる前の文字の変遷 3 実習；かなの基礎 4
- 第5週 講義；平安期の書 1 実習；変体かなの基礎 1
- 第6週 講義；平安期の書 2 実習；変体かなの基礎 2
- 第7週 講義；平安期の書 3 実習；変体かなの基礎 3
- 第8週 講義；かな文字の興隆と発達 実習；変体かなの基礎 4
- 第9週 講義；古筆とは 実習；連綿の学習 1
- 第10週 講義；古筆の名品鑑賞 1 実習；連綿の学習 2
- 第11週 講義；古筆の名品鑑賞 2 実習；短歌を書く 1
- 第12週 講義；古筆の名品鑑賞 3 実習；短歌を書く 2
- 第13週 講義；古筆の名品鑑賞 4 実習；短歌を書く 3
- 第14週 講義；平安以降の書 実習；短歌を書く 4
- 第15週 講義；理解度の確認 実習；実用書

副題					担当者	齊藤 登 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2

〔授業の到達目標〕

楷書のもつ構築美を古典を通して理解してもらう。

〔授業の内容〕

大陸（中国）より渡来した文字は永い年月を履み、我大和民族の英知により定着し、音・意共に日本的に生まれ変わった。春学期は、我国に影響を与えた中国＝南北朝時代、特に北魏時代の作品により、隋を経て唐代の名品に触れ、如何にして我国に入り日本的書に変貌を遂げたかを実書を通して学んでいく。

〔教材〕

教科書：柳 碧蘇『書の古典攻略ハンドブック』（株）可成屋

書を学ぶ上で避けて通れない古典を網羅し、初心者向きに優しく解説してあります。また参考実書も載せてあります。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

実技故え、時間配分は各々違いが出ます。従って各自にて考えるようにしてください。

〔成績評価の方法〕

毎回の如き作品を提出して頂きます。それにて評価をつけます。

〔備考〕

実習を円滑に行うため、受講者は50名とする。

実習用具は各自で用意すること。

〔授 業 計 画〕

第1週	半年の授業内容説明，用具用材の解説。
第2週	唐・九成宮醴泉銘を用いて，点・画・線の練習。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第3週	唐・九成宮醴泉銘を用いて，構成，特に横細，縦太の練習。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第4週	唐・孔子廟堂碑－楷書の優雅さを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第5週	唐・孟法師碑－楷書の厳格さと正確さを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第6週	唐・雁塔聖教序－楷書に行書の流れを加味する。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第7週	唐・九成，孔子，孟法，雁塔の中より各自自由選別研究。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第8週	二回連続とする。
第9週	北魏の雄渾な書に接する。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第10週	北魏の代表作の一つ高貞碑を用いて点，画を学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第11週	北魏の代表作の一つ張猛龍碑を用いて，鋭い筆使いを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第12週	北魏の代表作の一つ鄭義下碑を用いて，豊かさを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第13週	北魏の代表作の一つ龍門各種を用いて，楷書のバリエーションを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第14週	夏期休暇中の半折作品の書き方説明。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第15週	総括。

副題					担当者	香川 明美 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	

〔授業の到達目標〕

古来、文字を持たなかった日本人は、平安時代に独自のかな文字を作り出した。日本人はどの様に文字を変遷させていったのか、その過程を学ぶ。

実習では、仮名を基礎から学び、短歌をちらし書きで書くことを目指す。

〔授業の内容〕

日本の文字の変遷を歴史をたどりながら学ぶ。

仮名の古筆の名品を教科書を使って鑑賞する。

実習では、平仮名、変体仮名の単体、連綿を学び、短歌を書く。

〔教材〕

教科書：大東文化大学書道研究所編『書道テキスト第9巻かな』二玄社

実習には随時プリント手本を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で扱うテキストの箇所を指示するので、次回までに目を通し、内容を把握しておくこと。

実習の課題を家でも練習し、清書に臨めるように準備すること。

〔成績評価の方法〕

課題の提出作品の評価で50% 講義内容の筆記テストで50%

但し、出席、受講、実習態度を重視。欠席、遅刻の回数によって減点対象とする。

〔備考〕

実習を円滑に行なう為に受講者は30名とする。

実習用具は各自で用意し、第1週より持参すること。

用具は、かな用半紙、小筆、石製の硯、固形の墨（墨汁不可）、下敷き、ぶんちん

2回目の受講者は、実習に関しては基礎からさらに進み、色紙、短冊等の作品を作成する。

〔授業計画〕

- 第1週 講義；半年間の概要。道具の説明。実習；かなの基礎 1
- 第2週 講義；かな文字ができる前の文字の変遷 1 実習；かなの基礎 2
- 第3週 講義；かな文字ができる前の文字の変遷 2 実習；かなの基礎 3
- 第4週 講義；かな文字ができる前の文字の変遷 3 実習；かなの基礎 4
- 第5週 講義；平安期の書 1 実習；変体かなの基礎 1
- 第6週 講義；平安期の書 2 実習；変体かなの基礎 2
- 第7週 講義；平安期の書 3 実習；変体かなの基礎 3
- 第8週 講義；かな文字の興隆と発達 実習；変体かなの基礎 4
- 第9週 講義；古筆とは 実習；連綿の学習 1
- 第10週 講義；古筆の名品鑑賞 1 実習；連綿の学習 2
- 第11週 講義；古筆の名品鑑賞 2 実習；短歌を書く 1
- 第12週 講義；古筆の名品鑑賞 3 実習；短歌を書く 2
- 第13週 講義；古筆の名品鑑賞 4 実習；短歌を書く 3
- 第14週 講義；平安以降の書 実習；短歌を書く 4
- 第15週 講義；理解度の確認 実習；実用書

副題				担当者	齊藤 登 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2

〔授業の到達目標〕

行書の流麗美を理解し、その後和様・仮名美への流れを学ぶ

〔授業の内容〕

大和朝廷成立以後より奈良朝を経て、平安初期にかけて多大な影響を与えた東晋・王羲之の書、日本の漢字黄金期の代表的作品を中心に学ぶ。更には平安中期以後の我国独特の文化が熟成され、豪華絢爛たる「仮名美」を生むに至ったこれら文化の歴史を追い乍ら、実書をもって修得していきたい。

〔教材〕

教科書：柳 碧蘇『書の古典攻略ハンドブック』（株）可成屋

書を学ぶ上で避けて通れない古典を網羅し、初心者向きに優しく解説してあります。また参考実書も載せてあります。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

実技故え、時間配分は各々違いが出ます。従って各自にて考えるよう。

〔成績評価の方法〕

毎回の如き作品を提出して頂きます。それにて評価をつけます。

〔備考〕

実習を円滑に行うため、受講者は50名とする。

実習用具は各自で用意すること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 行書の成立、繁榮、名品（和・漢）の説明。
- 第2週 東晋・王羲之作、蘭亭叙を用いて行書の入門とする。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
- 第3週 東晋・王羲之作，集字聖教序を用いて行書の展開を図る。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
- 第4週 東晋・王羲之作，蘭亭叙，集字聖教序の自由研究。各自選ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
- 第5週 東晋・王羲之作，喪乱帖を用いて，行書より草書にかけての筆使いを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
- 第6週 難度故之2週間同じことを行う。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
- 第7週 平安期・空海書の風信帖を学び乍ら，中国との違いを探る。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
- 第8週 平安期・嵯峨天皇書と伝えられる李嶠詩を用いて鋭い筆使いを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
- 第9週 唐太宗，温泉銘を用い大胆な筆使いを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
- 第10週 同上。
- 第11週 顔真卿の書風を学ぶ。空海との関連を説明。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
- 第12週 同上。
- 第13週 平安初期，三筆の違い，共通点を各自学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
- 第14週 伝・藤原行成筆，白楽天詩巻を用い和様体を学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
- 第15週 総括。

伝統文化演習ⅢA（華道）

3752100300100

副題					担当者	池坊 由紀 客員教授 飯塚 洋子 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

花をいけることは命を見つめ命を生かし、人を大切に想う気持ちを育みます。草木の営みに触れ和の美意識を学習する中で、個々の思いをかたちに想像力と表現力を高めていきます。

〔授業の内容〕

華道の理念を確立したのは、室町時代後半に活躍した池坊専応でした。専応はただ美しい花だけを鑑賞するのではなく、固い蕾に明日への希望を、朽ちた草花や枯れた枝にはその命の終焉に共感し、懸命に生きる草木に思いを寄せています。こうした先人の心と技、季の美感、豊かなこころの文化「華道」を未来に向けて継承していきます。

〔教材〕

- ・図録いけばなの流れ（華道史年表）
- ・学校華道
- ・授業内容に付随する資料の配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自宅で行う実習レポート

〔成績評価の方法〕

出席及び実技に付随して自宅で行う実習レポートの提出（写真添付）65%
 期末レポート 25%
 理解度の確認（試作）10%

〔備考〕

実技（試作以外）の場合は、先にデモンストレーションをします。実習を円滑に行うため、受講者を30名以下とします。受講者は実習費（花材・剣山代・16,000円 26年度実績）納入のこと。授業時には花鋏を貸与します。

〔授 業 計 画〕

第1週	講義	伝統文化華道 実技内容について
第2週	実技	いけばなの基本構成 <自由花>
第3週	実技	贈る花 母の日に 実技
第4週	「講義」	華道の根本理念
第5週	講義	いけばなの魅力 問合いの美 実技
第6週	講義	花と色彩 実技<自由花>
第7週	講義	花と季 実技<自由花>
第8週	講義	華道史 和の美意識
第9週	講義	草木の生成 実技<生花>
第10週	講義	草木の出生美 実技<生花>
第11週	講義	行事といけばな 七夕 実技<自由花>
第12週	実技	創作の楽しさ 花・優・遊
第13週	講義	日々花としつらい 実技<自由花>
第14週	実技	試作（春学期の成果をいかした作品制作）
第15週	講義	生活文化と華道

伝統文化演習ⅢB（華道）

3752100300200

副題					担当者	池坊 由紀 客員教授 飯塚 洋子 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

花をいけることは命を見つめ命を生かし、人を大切に想う気持ちを育みます。草木の営みに触れ和の美意識を学習する中で、個々の思いをかたちに想像力と表現力を高めていきます。

〔授業の内容〕

華道の理念を確立したのは、室町時代後半に活躍した池坊専応でした。専応はただ美しい花だけを鑑賞するのではなく、固い蕾に明日への希望を、朽ちた草花や枯れた枝にはその命の終焉に共感し、懸命に生きる草木に思いを寄せています。こうした先人の心と技、季の美感、豊かなこころの文化「華道」を未来に向けて継承していきます。

〔教材〕

- ・ 図録いけばなの流れ（華道史年表）
- ・ 学校華道
- ・ 授業内容に付随する資料の配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自宅で行う実習レポート

〔成績評価の方法〕

出席及び実技に付随して自宅で行う実習レポートの提出（写真添付）65%
 期末レポート 25%
 理解度の確認（試作）10%

〔備考〕

実技（試作以外）の場合は、先にデモンストレーションをします。実習を円滑に行うため、受講者を30名以下とします。受講者は実習費（花材・剣山代・16,000円 26年度実績）納入のこと。授業時には花鉈を貸与します。

〔授 業 計 画〕

第1週	講義	伝統文化華道	実技内容について
第2週	実技	いけばなの基本構成	<自由花>
第3週	実技	贈る花 母の日に	実技
第4週	「講義」	華道の根本理念	
第5週	講義	いけばなの魅力 問合いの美	実技
第6週	講義	花と色彩	実技<自由花>
第7週	講義	花と季	実技<自由花>
第8週	講義	華道史 和の美意識	
第9週	講義	草木の生成	実技<生花>
第10週	講義	草木の出生美	実技<生花>
第11週	講義	行事といけばな 七夕	実技<自由花>
第12週	実技	創作の楽しさ	花・優・遊
第13週	講義	日々花としつらい	実技<自由花>
第14週	実技	試作（春学期の成果をいかした作品制作）	
第15週	講義	生活文化と華道	

伝統文化演習ⅣA（華道）

3752100400100

副題				担当者	池坊 由紀 客員教授 飯塚 洋子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

花をいけることは命を見つめ命を生かし、人を大切に想う気持ちを育みます。草木の営みに触れ和の美意識を学習する中で、個々の思いをかたちに想像力と表現力を高めていきます。

〔授業の内容〕

華道の理念を確立したのは、室町時代後半に活躍した池坊専応でした。専応はただ美しい花だけを鑑賞するのではなく、固い蕾に明日への希望を、朽ちた草花や枯れた枝にはその命の終焉に共感し、懸命に生きる草木に思いを寄せています。こうした先人の心と技、季の美感、豊かなこころの文化「華道」を未来に向けて継承していきます。

〔教材〕

- ・図録いけばなの流れ（華道史年表）
- ・学校華道
- ・授業内容に付随する資料の配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自宅で行う実習レポート

〔成績評価の方法〕

出席及び実技に付随して自宅で行う実習レポートの提出（写真添付）65%
 期末レポート 25%
 理解度の確認（試作）10%

〔備考〕

実技（試作以外）の場合は、先にデモンストレーションをします。実習を円滑に行うため、受講者を30名以下とします。受講者は実習費（花材・剣山代・16,000円 26年度実績）納入のこと。授業時には花鉈を貸与します。

〔授 業 計 画〕

第1週	講義	伝統文化華道 実技内容について
第2週	講義	はじめる前に知っておきたい花の事 実技<自由花>
第3週	実技	いけばなの基本構成 実技<自由花>
第4週	講義	いけばなの魅力 余白の美 実技<自由花>
第5週	講義	花と色彩 実技<自由花>
第6週	講義	華道史 和の美意識
第7週	講義	草木の出生美 実技<生花>
第8週	講義	花守り人の技 実技<生花>
第9週	講義	四季と花 実技<自由花>
第10週	講義	生活文化と花
第11週	講義	祭事と花 Xmascarol 実技<自由花>
第12週	講義	創作の楽しさ 花・優・遊 実技
第13週	講義	行事と花 お正月のしつらい 実技
第14週	実技	試作（秋学期の成果をいかした作品制作）
第15週		花展見学

伝統文化演習ⅣB（華道）

3752100400200

副題					担当者	池坊 由紀 客員教授 飯塚 洋子 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

花をいけることは命を見つめ命を生かし、人を大切に想う気持ちを育みます。草木の営みに触れ和の美意識を学習する中で、個々の思いをかたちに想像力と表現力を高めていきます。

〔授業の内容〕

華道の理念を確立したのは、室町時代後半に活躍した池坊専応でした。専応はただ美しい花だけを鑑賞するのではなく、固い蕾に明日への希望を、朽ちた草花や枯れた枝にはその命の終焉に共感し、懸命に生きる草木に思いを寄せています。こうした先人の心と技、季の美感、豊かなこころの文化「華道」を未来に向けて継承していきます。

〔教材〕

- ・ 図録いけばなの流れ（華道史年表）
- ・ 学校華道
- ・ 授業内容に付随する資料の配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自宅で行う実習レポート

〔成績評価の方法〕

出席及び実技に付随して自宅で行う実習レポートの提出（写真添付）65%
 期末レポート 25%
 理解度の確認（試作）10%

〔備考〕

実技（試作以外）の場合は、先にデモンストレーションをします。実習を円滑に行うため、受講者を30名以下とします。受講者は実習費（花材・剣山代・16,000円 26年度実績）納入のこと。授業時には花鋏を貸与します。

〔授 業 計 画〕

第1週	講義	伝統文化華道 実技内容について
第2週	講義	はじめる前に知っておきたい花の事 実技<自由花>
第3週	実技	いけばなの基本構成 実技<自由花>
第4週	講義	いけばなの魅力 余白の美 実技<自由花>
第5週	講義	花と色彩 実技<自由花>
第6週	講義	華道史 和の美意識
第7週	講義	草木の出生美 実技<生花>
第8週	講義	花守り人の技 実技<生花>
第9週	講義	四季と花 実技<自由花>
第10週	講義	生活文化と花
第11週	講義	祭事と花 Xmascarol 実技<自由花>
第12週	講義	創作の楽しさ 花・優・遊 実技
第13週	講義	行事と花 お正月のしつらい 実技
第14週	実技	試作（秋学期の成果をいかした作品制作）
第15週		花展見学

副題				担当者	岩田 明子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

茶道はおもてなしの心でもある。お茶をいただき合うという主客の交流を通して、人とのかわり目の大切さ、自然や美に対する心をも養う。本授業(実技と講義)を学ぶ中で、譲り合いや思いやる心、感謝し、仕えあう心を選び、人や自然に対しての感性を磨き、受講生ひとりひとりが文化とは何かの本質を、自らの体験を通じて考える契機となることを期待する。講義や実習を通して思いやりの心や感謝する心を意識し、自らを振り返り、その心を日常生活の中に生かしていく。そして、伝統文化に対する理解を基盤として、異文化を尊重できる態度や資質を育む。

〔授業の内容〕

日本に特有な総合芸術文化の茶道は、四百年以上前に千利休によって大成されたものである。千玄室氏は、茶道は宗教性、哲学性、道徳性、芸術性、修道性、社交性の要素を内包し、相互に関連しつつ総合性を形成していると述べている。本授業では、茶道文化がもつ総合性を「道(心)・学(茶道学)・実(実を通しての働き)」の立場から探究していく。

実技は、三グループに分かれ指導。準備や片付けも含めメンバー間で協力しながら学び支え合う。また、実技の際には毎回、床の禅語や花、菓子の銘などの説明を行う。

〔教材〕

参考書：監修：千宗室、千玄室 編集著作者：学校茶道教本編集委員会 『裏千家茶道』第4版、制作発行：今日庵、2011年
 毎回、講義資料は配布。

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

- ・講義や実技を通じて、おもてなしの心や感謝する心を意識し、普段の日常生活の中にどう結びつけるか考察する。またそこから発展して興味のあることを調べ、レポートの提出をする。(20時間)
- ・実技は、基本所作、点前の反復練習を行った上で出席すること。(30時間)
- ・実際に家族や友人に茶をもてなし、準備から片付けまでの体験や主客の交流を通しておもてなしの心について学ぶ。(10時間)

〔成績評価の方法〕

出席点(30点・%) レポート(45点・%) 課題(15点・%) 授業態度・意欲(10点・%)

〔備考〕

実習を円滑に行うために、受講者を27名以下とする。受講者は、実習費(3,000円)帛紗挟みセット・茶筥(4000円 平成26年度実績)が必要です。実技では白靴下着用、時計やアクセサリは身につけないこと。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 【講義・実技】 茶道概要 茶の湯とは、ビデオ鑑賞「お茶で豊かな心を」、道を学ぶ心構え、服装、懐中物・帛紗の扱いの説明。茶室に移動して3グループに分かれグループごとに自己紹介、履物の脱ぎ方・揃え方、坐り方、真行草の挨拶の仕方、歩き方、ふすまの開け方・閉め方
- 第2週 【実技】 割稽古(1) 帛紗のつけ方、捌き方、棗・茶杓の清め方、抹茶の点て方、運びの仕方、菓子・薄茶のいただき方
- 第3週 【実技】 割稽古(2) 茶碗に茶巾・茶筥・茶杓を仕組む、茶巾を畳み、茶碗を清める、茶筥通しの仕方、点前の準備と後片付け
- 第4週 【講義】 茶道の意義 (和敬清寂、利休七則、茶事について)、ビデオ鑑賞「茶の湯 茶事編」
- 第5週 【実技】 盆略点前(1)
- 第6週 【実技】 盆略点前(2)
- 第7週 【講義】 茶の歴史 茶の伝来と発展、茶道の成立、世界の茶
- 第8週 【講義】 道具、銘、茶花について
- 第9週 【実技】 風炉 薄茶点前割稽古 柄杓の扱い
- 第10週 【実技】 風炉 薄茶点前(平点前)(1)
- 第11週 【実技】 風炉 薄茶点前(平点前)(2)
- 第12週 【講義】 点前の意義、茶人の逸話、利休百首
- 第13週 【実技】 風炉 薄茶点前(平点前)(3)
- 第14週 【実技】 風炉 薄茶点前(平点前)(4) 濃茶のいただき方 レポート提出
- 第15週 【講義】 茶室、露地について

副題				担当者	岩田 明子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

茶道はおもてなしの心でもある。お茶をいただき合うという主客の交流を通して、人とのかわり目の大切さ、自然や美に対する心をも養う。本授業(実技と講義)を学ぶ中で、譲り合いや思いやる心、感謝し、仕えあう心を学び、人や自然に対しての感性を磨き、受講生ひとりひとりが文化とは何かの本質を、自らの体験を通じて考える契機となることを期待する。講義や実習を通して思いやりの心や感謝する心を意識し、自らを振り返り、その心を日常生活の中に生かしていく。そして、伝統文化に対する理解を基盤として、異文化を尊重できる態度や資質を育む。

〔授業の内容〕

日本に特有な総合芸術文化の茶道は、四百年以上前に千利休によって大成されたものである。千玄室氏は、茶道は宗教性、哲学性、道徳性、芸術性、修道性、社交性の要素を内包し、相互に関連しつつ総合性を形成していると述べている。本授業では、茶道文化がもつ総合性を「道(心)・学(茶道学)・実(実を通しての働き)」の立場から探究していく。

実技は、三グループに分かれ指導。準備や片付けも含めメンバー間で協力しながら学び支え合う。また、実技の際には毎回、床の禅語や花、菓子の銘などの説明を行う。

〔教材〕

参考書：監修：千宗室，千玄室 編集著作者：学校茶道教本編集委員会 『裏千家茶道』第4版，制作発行：今日庵，2011年
毎回，講義資料は配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

- ・講義や実技を通じて、おもいやりの心や感謝する心を意識し、普段の日常生活の中にどう結びつけるか考察する。またそこから発展して興味のあることを調べ、レポートの提出をする。(20時間)

- ・実技は、基本所作、点前の反復練習を行った上で出席すること。(30時間)

- ・実際に家族や友人に茶をもてなし、準備から片付けまでの体験や主客の交流を通しておもてなしの心について学ぶ。(10時間)

〔成績評価の方法〕

出席点(30点・%) レポート(45点・%) 課題(15点・%) 授業態度・意欲(10点・%)

〔備考〕

実習を円滑に行うために、受講者を27名以下とする。受講者は、実習費（3,000円）帛紗挟みセット・茶筌(4000円 平成26年度実績)が必要です。実技では白靴下着用、時計やアクセサリは身につけないこと。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 【講義・実技】茶道概要 茶の湯とは、ビデオ鑑賞「お茶で豊かな心を」、道を学ぶ心構え、服装、懐中物・帛紗の扱いの説明。茶室に移動して3グループに分かれグループごとに自己紹介、履物の脱ぎ方・揃え方、坐り方、真行草の挨拶の仕方、歩き方、ふすまの開け方・閉め方
- 第2週 【実技】割稽古(1) 帛紗のつけ方、捌き方、棗・茶杓の清め方、抹茶の点て方、運びの仕方、菓子・薄茶のいただき方
- 第3週 【実技】割稽古(2) 茶碗に茶巾・茶筌・茶杓を仕組む、茶巾を畳み、茶碗を清める、茶筌通しの仕方、点前の準備と後片付け
- 第4週 【講義】茶道の意義(和敬清寂、利休七則、茶事について)、ビデオ鑑賞「茶の湯 茶事編」
- 第5週 【実技】盆略点前(1)
- 第6週 【実技】盆略点前(2)
- 第7週 【講義】茶の歴史 茶の伝来と発展、茶道の成立、世界の茶
- 第8週 【講義】道具、銘、茶花について
- 第9週 【実技】風炉 薄茶点前割稽古 柄杓の扱い
- 第10週 【実技】風炉 薄茶点前(平点前)(1)
- 第11週 【実技】風炉 薄茶点前(平点前)(2)
- 第12週 【講義】点前の意義、茶人の逸話、利休百首
- 第13週 【実技】風炉 薄茶点前(平点前)(3)
- 第14週 【実技】風炉 薄茶点前(平点前)(4) 濃茶のいただき方 レポート提出
- 第15週 【講義】茶室、露地について

副題	国際人としての茶の湯			担当者	中澤 宗寿 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

茶の湯の世界に身を置いて、常に自分で考えて判断していくことを体得し、そして常に相手を思いながらこころの受け渡しが自然にこなせるようになることを目指します。それと同時に、国際社会で活躍する日本人とは何か？を意識できることを目標としていきます。

〔授業の内容〕

講義・実習の両面から授業を進めてまいります。日本の美意識、哲学的思考、自然の摂理、歴史観など、茶の湯の本質を見つめていくことで、日本人としてのブレない柱を築いていきます。また、主客の交わりや連客の動きから、常に相手を重んじることを考え、日本人としての柔軟な思考力も身につけていきます。習い事としての茶道ではなく、このスピードが速く多様化していく時代に、国際社会の日本人としての基盤を作っていく茶道になります。

〔教材〕

参考書：而妙齋家元『表千家茶の湯入門 上：風炉編』主婦の友社
 而妙齋家元『表千家茶の湯入門 下：炉編』主婦の友社
 点前の自習・復習用としておすすめします。授業では使用しません。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

特に予習・復習をする必要はないが、日本人としての、また日本を伝える素養は、日常生活に茶の湯の発想をいかすことからだんだんと身につけていくことなので、授業そのものを自身の生活や考えに取り入れるように試みてください。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%）、レポート（40%）、自主的な試み（10%）

〔備考〕

実習を円滑に行うために、受講者を25名以下とする。受講者は、実習費（3,000円）帛紗挟みセット(5,500円 平成26年度実績)が必要です。実技では白靴下着用、アクセサリは身につけないこと。

〔授 業 計 画〕

第1週	講義・国際人としての茶の湯 実技・薄茶
第2週	講義・茶室という空間 実技・床の間拝見
第3週	講義・主客 実技・主客の交わり
第4週	講義・主客 実技・連客の動き
第5週	講義（実技）・薄茶席（模範点前）で客をする
第6週	講義・茶について 実技・茶椀の扱い
第7週	講義・身体の動き 実技・動きの意識
第8週	講義・薄茶点前 実技・帛紗の扱いの確認
第9週	講義・薄茶点前 実技・点前道具の扱いの確認
第10週	講義（実技）・薄茶席（模範点前）で今までの復習
第11週	講義・客人への対応 実技・薄茶を中心に
第12週	講義・客をイメージしてのしつらえ 実技・水屋仕事
第13週	講義・濃茶 実技・濃茶を頂く1
第14週	講義・茶事の流れ 実技・濃茶を頂く2
第15週	講義（実技）薄茶席（来賓を招いて）

授業計画は、あくまでも進行計画であり、帛紗の扱い方、道具の清め方など茶の基本となることも触れていきます。また、熱意のある要望には、出来る限りお応え致します。
 春学期は、風炉のしつらえで進めてまいります。

伝統文化演習VD（茶道）

3752100500400

共通科目
外国語を除く

副題	国際人としての茶の湯			担当者	中澤 宗寿 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

茶の湯の世界に身を置いて、常に自分で考えて判断していくことを体得し、そして常に相手を思いながらこころの受け渡しが自然にこなせるようになることを目指します。それと同時に、国際社会で活躍する日本人とは何か？を意識できることを目標としていきます。

〔授業の内容〕

講義・実習の両面から授業を進めてまいります。日本の美意識、哲学的思考、自然の摂理、歴史観など、茶の湯の本質を見つめていくことで、日本人としてのブレない柱を築いていきます。また、主客の交わりや連客の動きから、常に相手を重んじることを考え、日本人としての柔軟な思考力も身につけていきます。習い事としての茶道ではなく、このスピードが速く多様化していく時代に、国際社会の日本人としての基盤を作っていく茶道になります。

〔教材〕

参考書：而妙斎家元『表千家茶の湯入門 上：風炉編』主婦の友社
 而妙斎家元『表千家茶の湯入門 下：炉編』主婦の友社
 点前の自習・復習用としておすすめします。授業では使用しません。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

特に予習・復習をする必要はないが、日本人としての、また日本を伝える素養は、日常生活に茶の湯の発想をいかすことからだんだんと身につけていくことなので、授業そのものを自身の生活や考えに取り入れるように試みてください。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%）、レポート（40%）、自主的な試み（10%）

〔備考〕

実習を円滑に行うために、受講者を25名以下とする。受講者は、実習費（3,000円）帛紗挟みセット(5,500円 平成26年度実績)が必要です。実技では白靴下着用、アクセサリは身につけないこと。

〔授業計画〕

第1週	講義・国際人としての茶の湯 実技・薄茶
第2週	講義・茶室という空間 実技・床の間拝見
第3週	講義・主客 実技・主客の交わり
第4週	講義・主客 実技・連客の動き
第5週	講義（実技）・薄茶席（模範点前）で客をする
第6週	講義・茶について 実技・茶碗の扱い
第7週	講義・身体の動き 実技・動きの意識
第8週	講義・薄茶点前 実技・帛紗の扱いの確認
第9週	講義・薄茶点前 実技・点前道具の扱いの確認
第10週	講義（実技）・薄茶席（模範点前）で今までの復習
第11週	講義・客人への対応 実技・薄茶を中心に
第12週	講義・客をイメージしてのしつらえ 実技・水屋仕事
第13週	講義・濃茶 実技・濃茶を頂く1
第14週	講義・茶事の流れ 実技・濃茶を頂く2
第15週	講義（実技）薄茶席（来賓を招いて） 授業計画は、あくまでも進行計画であり、帛紗の扱い方、道具の清め方など茶の基本となることも触れていきます。また、熱意のある要望には、出来る限りお応え致します。 春学期は、風炉のしつらえで進めてまいります。

副題				担当者	岩田 明子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

茶道はおもてなしの心でもある。お茶をいただき合うという主客の交流を通して、人とのかわり目の大切さ、自然や美に対する心をも養う。本授業(実技と講義)を学ぶ中で、譲り合いや思いやる心、感謝し、仕えあう心を選び、人や自然に対しての感性を磨き、受講生ひとりひとりが文化とは何かの本質を、自らの体験を通じて考える契機となることを期待する。講義や実習を通して思いやりの心や感謝する心を意識し、自らを振り返り、その心を日常生活の中に生かしていく。そして、伝統文化に対する理解を基盤として、異文化を尊重できる態度や資質を育む。

〔授業の内容〕

日本に特有な総合芸術文化の茶道は、四百年以上前に千利休によって大成されたものである。千玄室氏は、茶道は宗教性、哲学性、道徳性、芸術性、修道性、社交性の要素を内包し、相互に関連しつつ総合性を形成していると述べている。本授業では、茶道文化がもつ総合性を「道(心)・学(茶道学)・実(実を通しての働き)」の立場から探究していく。

実技は、三グループに分かれ指導。準備や片付けも含めメンバー間で協力しながら学び支え合う。また、実技の際には毎回、床の禅語や花、菓子の銘などの説明を行う。

〔教材〕

参考書：監修：千宗室、千玄室 編集著作者：学校茶道教本編集委員会 『裏千家茶道』第4版、制作発行：今日庵、2011年
 毎回、講義資料は配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

- ・講義や実技を通じて、おもいやりの心や感謝する心を意識し、普段の日常生活の中にどう結びつけるか考察する。またそこから発展して興味のあることを調べ、レポートの提出をする。(20時間)
- ・実技は、基本所作、点前の反復練習を行った上で出席すること。(30時間)
- ・実際に家族や友人に茶をもてなし、準備から片付けまでの体験や主客の交流を通しておもてなしの心について学ぶ。(10時間)

〔成績評価の方法〕

出席点(30点・%) レポート(45点・%) 課題(15点・%) 授業態度・意欲(10点・%)

〔備考〕

実習を円滑に行うために、受講者を27名以下とする。受講者は、実習費（3,000円）帛紗挟みセット・茶筌(4000円 平成26年度実績)が必要です。実技では白靴下着用、時計やアクセサリは身につけないこと。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 【講義・実技】 茶道概要 茶の湯とは、ビデオ鑑賞「お茶で豊かな心を」、道を学ぶ心構え、服装、懐中物・帛紗の扱いの説明。茶室に移動して3グループに分かれグループごとに自己紹介、履物の脱ぎ方・揃え方、坐り方、真行草の挨拶の仕方、歩き方、ふすまの開け方・閉め方
- 第2週 【実技】 割稽古（1） 帛紗のつけ方、捌き方、棗・茶杓の清め方、抹茶の点て方、運びの仕方、菓子・薄茶のいただき方
- 第3週 【実技】 割稽古（2） 茶碗に茶巾・茶筌・茶杓を仕組む、茶巾を畳み、茶碗を清める、茶筌通しの仕方、点前の準備と後片付け
- 第4週 【講義】 茶道の意義（和敬清寂、利休七則、茶事について）、ビデオ鑑賞「茶の湯 茶事編」
- 第5週 【実技】 盆略点前（1）
- 第6週 【実技】 盆略点前（2）
- 第7週 【講義】 茶の歴史 茶の伝来と発展、茶道の成立、世界の茶
- 第8週 【講義】 道具、銘、茶花について
- 第9週 【実技】 風炉 薄茶点前割稽古 柄杓の扱い
- 第10週 【実技】 風炉 薄茶点前(平点前)（1）
- 第11週 【実技】 風炉 薄茶点前(平点前)（2）
- 第12週 【講義】 点前の意義・茶人の逸話・利休百首
- 第13週 【実技】 風炉 薄茶点前(平点前)（3）
- 第14週 【実技】 風炉 薄茶点前(平点前)（4） 濃茶のいただき方 レポート提出
- 第15週 【講義】 茶室、露地について

副題				担当者	岩田 明子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

茶道はおもてなしの心でもある。お茶をいただき合うという主客の交流を通して、人とのかわり目の大切さ、自然や美に対する心をも養う。本授業(実技と講義)を学ぶ中で、譲り合いや思いやる心、感謝し、仕えあう心を学び、人や自然に対しての感性を磨き、受講生ひとりひとりが文化とは何かの本質を、自らの体験を通じて考える契機となることを期待する。講義や実習を通して思いやりの心や感謝する心を意識し、自らを振り返り、その心を日常生活の中に生かしていく。そして、伝統文化に対する理解を基盤として、異文化を尊重できる態度や資質を育む。

〔授業の内容〕

日本に特有な総合芸術文化の茶道は、四百年以上前に千利休によって大成されたものである。千玄室氏は、茶道は宗教性、哲学性、道徳性、芸術性、修道性、社交性の要素を内包し、相互に関連しつつ総合性を形成していると述べている。本授業では、茶道文化がもつ総合性を「道(心)・学(茶道学)・実(実を通しての働き)」の立場から探究していく。

実技は、三グループに分かれ指導。準備や片付けも含めメンバー間で協力しながら学び支え合う。また、実技の際には毎回、床の禅語や花、菓子の銘などの説明を行う。

〔教材〕

参考書：監修：千宗室，千玄室 編集著作者：学校茶道教本編集委員会 『裏千家茶道』第4版，制作発行：今日庵，2011年
毎回，講義資料は配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

・講義や実技を通じて、おもいやりの心や感謝する心を意識し、普段の日常生活の中にどう結びつけるか考察する。またそこから発展して興味のあることを調べ、レポートの提出をする。(20時間)

・実技は、基本所作、点前の反復練習を行った上で出席すること。(30時間)

・実際に家族や友人に茶をもてなし、準備から片付けまでの体験や主客の交流を通しておもてなしの心について学ぶ。(10時間)

〔成績評価の方法〕

出席点(30点・%) レポート(45点・%) 課題(15点・%) 授業態度・意欲(10点・%)

〔備考〕

実習を円滑に行うために、受講者を27名以下とする。受講者は、実習費（3,000円）帛紗挟みセット・茶筥(4000円 平成26年度実績)が必要です。実技では白靴下着用、時計やアクセサリは身につけないこと。

〔授 業 計 画〕

第1週	【講義・実技】茶道概要 茶の湯とは、ビデオ鑑賞「お茶で豊かな心を」、道を学ぶ心構え、服装、懐中物・帛紗の扱いの説明。茶室に移動して3グループに分かれグループごとに自己紹介、履物の脱ぎ方・揃え方、坐り方、真行草の挨拶の仕方、歩き方、ふすまの開け方・閉め方
第2週	【実技】割稽古(1) 帛紗のつけ方、捌き方、棗・茶杓の清め方、抹茶の点て方、運びの仕方、菓子・薄茶のいただき方
第3週	【実技】割稽古(2) 茶碗に茶巾・茶筥・茶杓を仕組む、茶巾を畳み、茶碗を清める、茶筥通しの仕方、点前の準備と後片付け
第4週	【講義】茶道の意義(和敬清寂、利休七則、茶事について)、ビデオ鑑賞「茶の湯 茶事編」
第5週	【実技】盆略点前(1)
第6週	【実技】盆略点前(2)
第7週	【講義】茶の歴史 茶の伝来と発展、茶道の成立、世界の茶
第8週	【講義】道具、銘、茶花について
第9週	【実技】風炉 薄茶点前割稽古 柄杓の扱い
第10週	【実技】風炉 薄茶点前(平点前)(1)
第11週	【実技】風炉 薄茶点前(平点前)(2)
第12週	【講義】点前の意義、茶人の逸話、利休百首
第13週	【実技】風炉 薄茶点前(平点前)(3)
第14週	【実技】風炉 薄茶点前(平点前)(4) 濃茶のいただき方 レポート提出
第15週	【講義】茶室、露地について

伝統文化演習VIC（茶道）

3752100600300

副題	国際人としての茶の湯			担当者	中澤 宗寿 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

茶の湯の世界に身を置いて、常に自分で考えて判断していくことを体得し、そして常に相手を思いながらこころの受け渡しが自然にこなせるようになることを目指します。それと同時に、国際社会で活躍する日本人とは何か？を意識できることを目標としていきます。

〔授業の内容〕

講義・実習の両面から授業を進めてまいります。日本の美意識、哲学的思考、自然の摂理、歴史観など、茶の湯の本質を見つめていくことで、日本人としてのブレない柱を築いていきます。また、主客の交わりや連客の動きから、常に相手を重んじることを考え、日本人としての柔軟な思考力も身につけていきます。習い事としての茶道ではなく、このスピードが速く多様化していく時代に、国際社会の日本人としての基盤を作っていく茶道になります。

〔教材〕

参考書：而妙齋家元『表千家茶の湯入門 上：風炉編』主婦の友社
 而妙齋家元『表千家茶の湯入門 下：炉編』主婦の友社
 点前の自習・復習用としておすすめします。授業では使用しません。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

特に予習・復習をする必要はないが、日本人としての、また日本を伝える素養は、日常生活に茶の湯の発想をいかすことからだんだんと身につけていくことなので、授業そのものを自身の生活や考えに取り入れるように試みてください。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%）、レポート（40%）、自主的な試み（10%）

〔備考〕

実習を円滑に行うために、受講者を25名以下とする。受講者は、実習費（3,000円）帛紗挟みセット（5,500円 平成26年度実績）が必要です。実技では白靴下着用、アクセサリは身につけないこと。

〔授 業 計 画〕

第1週	講義・国際人としての茶の湯 実技・薄茶
第2週	講義・茶室という空間 実技・床の間拝見
第3週	講義・主客 実技・主客の交わり
第4週	講義・主客 実技・連客の動き
第5週	講義（実技）・薄茶席（模範点前）で客をする
第6週	講義・茶について 実技・茶椀の扱い
第7週	講義・身体の動き 実技・動きの意識
第8週	講義・薄茶点前 実技・帛紗の扱いの確認
第9週	講義・薄茶点前 実技・点前道具の扱いの確認
第10週	講義（実技）・薄茶席（模範点前）で今までの復習
第11週	講義・客人への対応 実技・薄茶を中心に
第12週	講義・客をイメージしてのしつらえ 実技・水屋仕事
第13週	講義・濃茶 実技・濃茶を頂く1
第14週	講義・茶事の流れ 実技・濃茶を頂く2
第15週	講義（実技）薄茶席（来賓を招いて）

授業計画は、あくまでも進行計画であり、帛紗の扱い方、道具の清め方など茶の基本となることも触れていきます。また、熱意のある要望には、出来る限りお応え致します。
 秋学期は、炉のしつらえで進めてまいります。

伝統文化演習VID（茶道）

3752100600400

共通科目
（外国語を除く）

副題	国際人としての茶の湯			担当者	中澤 宗寿 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3

〔授業の到達目標〕

茶の湯の世界に身を置いて、常に自分で考えて判断していくことを体得し、そして常に相手を思いながらこころの受け渡しが自然にこなせるようになることを目指します。それと同時に、国際社会で活躍する日本人とは何か？を意識できることを目標としていきます。

〔授業の内容〕

講義・実習の両面から授業を進めてまいります。日本の美意識、哲学的思考、自然の摂理、歴史観など、茶の湯の本質を見つめていくことで、日本人としてのブレない柱を築いていきます。また、主客の交わりや連客の動きから、常に相手を重んじることを考え、日本人としての柔軟な思考力も身につけていきます。習い事としての茶道ではなく、このスピードが速く多様化していく時代に、国際社会の日本人としての基盤を作っていく茶道になります。

〔教材〕

参考書：而妙斎家元『表千家茶の湯入門 上：風炉編』主婦の友社
 而妙斎家元『表千家茶の湯入門 下：炉編』主婦の友社
 点前の自習・復習用としておすすめします。授業では使用しません。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

特に予習・復習をする必要はないが、日本人としての、また日本を伝える素養は、日常生活に茶の湯の発想をいかすことからだんだんと身につけていくことなので、授業そのものを自身の生活や考えに取り入れるように試みてください。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%）、レポート（40%）、自主的な試み（10%）

〔備考〕

実習を円滑に行うために、受講者を25名以下とする。受講者は、実習費（3,000円）帛紗挟みセット(5,500円 平成26年度実績)が必要です。実技では白靴下着用、アクセサリは身につけないこと。

〔授業計画〕

第1週	講義・国際人としての茶の湯 実技・薄茶
第2週	講義・茶室という空間 実技・床の間拝見
第3週	講義・主客 実技・主客の交わり
第4週	講義・主客 実技・連客の動き
第5週	講義（実技）・薄茶席（模範点前）で客をする
第6週	講義・茶について 実技・茶碗の扱い
第7週	講義・身体の動き 実技・動きの意識
第8週	講義・薄茶点前 実技・帛紗の扱いの確認
第9週	講義・薄茶点前 実技・点前道具の扱いの確認
第10週	講義（実技）・薄茶席（模範点前）で今までの復習
第11週	講義・客人への対応 実技・薄茶を中心に
第12週	講義・客をイメージしてのしつらえ 実技・水屋仕事
第13週	講義・濃茶 実技・濃茶を頂く1
第14週	講義・茶事の流れ 実技・濃茶を頂く2
第15週	講義（実技）薄茶席（来賓を招いて） 授業計画は、あくまでも進行計画であり、帛紗の扱い方、道具の清め方など茶の基本となることも触れていきます。また、熱意のある要望には、出来る限りお応え致します。 秋学期は、炉のしつらえで進めてまいります。

副題					担当者	三條西 公彦 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

香及び香道についての基本知識を、講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り、基本作法を取得する。

〔授業の内容〕

香りは古今東西、人類と密接な関係がありました。そして我国独自の形として発達した香道は、文学や自然風俗に主題をとり、幾つかの香りを組み合わせた「組香」を鑑賞する事を主とする日本の芸道のひとつです。

六世紀香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来、日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。それは香を焚く目的の変遷と言いかえてもいいでしょう。すなわち当初宗教的に用いられていたものが、貴族の楽しみやたしなみとして実用的なものになり、香道が成立した頃には遊芸にまで高められたのです。

講義では、世界に類をみない香りの文化が創造された歴史と意義に触れ、香道の持つ日本文化の神髄を探究していきます。又香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質、香木にまつわる歴史にも触れていきます。

和室を使用して実習を行い、実際に香を聞き「組香」を鑑賞し、香によって表現されたその主題を十分に理解できるようにします。和室を使用するので、正座が苦にならない人が望ましい。

〔教材〕

参考書：畑正高『香三才』東京書籍、2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社、1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社、2002年
授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習 不要
復習 体験した組香の証歌について調べると、よりその組香の世界観について理解が深まると思われれます。

〔成績評価の方法〕

出席及び毎回の授業で色々な「香」を聞き、その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度(5%)

〔備考〕

和室での実習を円滑に行う為、受講者30名以下とする。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 香について、道について(講義)
- 第2週 世界の香(講義)
- 第3週 香の歴史1と香木について1(講義)
- 第4週 香の歴史2と香木について2(講義)
- 第5週 香の歴史3と香木について3(講義)
- 第6週 香席について(講義)
- 第7週 季節の組香1(実習)
- 第8週 季節の組香2(実習)
- 第9週 季節の組香3(実習)
- 第10週 香炉造り(実習)
- 第11週 香をたく(実習)
- 第12週 季節の組香4(実習)
- 第13週 組香概論(講義)
- 第14週 名香と銘香(講義)
- 第15週 季節の組香5(実習)

副題				担当者	三條西 公彦 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

香及び香道についての基本知識を、講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り、基本作法を取得する。

〔授業の内容〕

香りは古今東西、人類と密接な関係がありました。そして我国独自の形として発達した香道は、文学や自然風俗に主題をとり、幾つかの香りを組み合わせた「組香」を鑑賞する事を主とする日本の芸道のひとつです。

六世紀香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来、日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。それは香を焚く目的の変遷と言いかえてもいいでしょう。すなわち当初宗教的に用いられていたものが、貴族の楽しみやたしなみとして実用的なものになり、香道が成立した頃には遊芸にまで高められたのです。

講義では、世界に類をみない香りの文化が創造された歴史と意義に触れ、香道の持つ日本文化の神髄を探究していきます。又香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質、香木にまつわる歴史にも触れていきます。

和室を使用して実習を行い、実際に香を聞き「組香」を鑑賞し、香によって表現されたその主題を十分に理解できるようにします。和室を使用するので、正座が苦にならない人が望ましい。

〔教材〕

参考書：畑正高『香三才』東京書籍、2004年
 『香道入門（淡交ムック）』淡交社、1993年
 尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社、2002年
 授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習 不要
 復習 体験した組香の証歌について調べると、よりその組香の世界観について理解が深まると思われまます。

〔成績評価の方法〕

出席及び毎回の授業で色々な「香」を聞き、その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度(5%)

〔備考〕

和室での実習を円滑に行う為、受講者30名以下とする。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 香について、道について(講義)
- 第2週 世界の香(講義)
- 第3週 香の歴史1と香木について1(講義)
- 第4週 香の歴史2と香木について2(講義)
- 第5週 香の歴史3と香木について3(講義)
- 第6週 香席について(講義)
- 第7週 季節の組香1(実習)
- 第8週 季節の組香2(実習)
- 第9週 季節の組香3(実習)
- 第10週 香炉造り(実習)
- 第11週 香をたく(実習)
- 第12週 季節の組香4(実習)
- 第13週 組香概論(講義)
- 第14週 名香と銘香(講義)
- 第15週 季節の組香5(実習)

副題					担当者	三條西 公彦 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5

〔授業の到達目標〕

香及び香道についての基本知識を、講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り、基本作法を取得する。

〔授業の内容〕

香りは古今東西、人類と密接な関係がありました。そして我国独自の形として発達した香道は、文学や自然風俗に主題をとり、幾つかの香りを組み合わせた「組香」を鑑賞する事を主とする日本の芸道のひとつです。

六世紀香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来、日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。それは香を焚く目的の変遷と言いかえてもいいでしょう。すなわち当初宗教的に用いられていたものが、貴族の楽しみやたしなみとして実用的なものになり、香道が成立した頃には遊芸にまで高められたのです。

講義では、世界に類をみない香りの文化が創造された歴史と意義に触れ、香道の持つ日本文化の神髄を探究していきます。又香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質、香木にまつわる歴史にも触れていきます。

和室を使用して実習を行い、実際に香を聞き「組香」を鑑賞し、香によって表現されたその主題を十分に理解できるようにします。和室を使用するので、正座が苦にならない人が望ましい。

〔教材〕

参考書：畑正高『香三才』東京書籍、2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社、1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社、2002年
授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習 不要
復習 体験した組香の証歌について調べると、よりその組香の世界観について理解が深まると思われれます。

〔成績評価の方法〕

出席及び毎回の授業で色々な「香」を聞き、その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度(5%)

〔備考〕

和室での実習を円滑に行う為、受講者30名以下とする。

〔授業計画〕

- 第1週 香について、道について(講義)
- 第2週 世界の香(講義)
- 第3週 香の歴史1と香木について1(講義)
- 第4週 香の歴史2と香木について2(講義)
- 第5週 香の歴史3と香木について3(講義)
- 第6週 香席について(講義)
- 第7週 季節の組香1(実習)
- 第8週 季節の組香2(実習)
- 第9週 季節の組香3(実習)
- 第10週 香炉作り(実習)
- 第11週 香をたく(実習)
- 第12週 季節の組香4(実習)
- 第13週 組香概論(講義)
- 第14週 名香と銘香(講義)
- 第15週 季節の組香5(実習)

副題					担当者	三條西 公彦 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

香及び香道についての基本知識を、講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り、基本作法を取得する。

〔授業の内容〕

香りは古今東西、人類と密接な関係がありました。そして我国独自の形として発達した香道は、文学や自然風俗に主題をとり、幾つかの香りを組み合わせた「組香」を鑑賞する事を主とする日本の芸道のひとつです。

六世紀香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来、日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。それは香を焚く目的の変遷と言いかえてもいいでしょう。すなわち当初宗教的に用いられていたものが、貴族の楽しみやたしなみとして実用的なものになり、香道が成立した頃には遊芸にまで高められたのです。

講義では、世界に類をみない香りの文化が創造された歴史と意義に触れ、香道の持つ日本文化の神髄を探究していきます。又香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質、香木にまつわる歴史にも触れていきます。

和室を使用して実習を行い、実際に香を聞き「組香」を鑑賞し、香によって表現されたその主題を十分に理解できるようにします。和室を使用するので、正座が苦にならない人が望ましい。

〔教材〕

参考書：畑正高『香三才』東京書籍、2004年
 『香道入門 (淡交ムック)』淡交社、1993年
 尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社、2002年
 授業中にプリントを配布する。

〔準備学習 (予習・復習) の内容又はそれに必要な時間〕

予習 不要
 復習 体験した組香の証歌について調べると、よりその組香の世界観について理解が深まると思われまます。

〔成績評価の方法〕

出席及び毎回の授業で色々な「香」を聞き、その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度(5%)

〔備考〕

和室での実習を円滑に行う為、受講者30名以下とする。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 香について、道について(講義)
- 第2週 世界の香(講義)
- 第3週 香の歴史1と香木について1(講義)
- 第4週 香の歴史2と香木について2(講義)
- 第5週 香の歴史3と香木について3(講義)
- 第6週 香席について(講義)
- 第7週 季節の組香1 (実習)
- 第8週 季節の組香2 (実習)
- 第9週 季節の組香3 (実習)
- 第10週 香炉造り (実習)
- 第11週 香をたく (実習)
- 第12週 季節の組香4 (実習)
- 第13週 組香概論(講義)
- 第14週 名香と銘香(講義)
- 第15週 季節の組香5 (実習)

副題					担当者	三條西 公彦 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

香及び香道についての基本知識を、講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り、基本作法を取得する。

〔授業の内容〕

古今東西、香は人類(特に権力者達)と密接な関係を持ってきました。日本では他国に見られない特異な発達をしてきました。

六世紀に香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来、日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。香は遊芸として親しまれます。それは源氏物語(梅枝)で知られる薫物合に始まり、室町時代に香道という形に昇華していきます。遊芸として行うものも薫物合から香合、たきつぎ香、そして組香へと変遷していきます。それらのバックボーンには常に我国の豊かな四季や自然風俗、更にそれを取込んだ文学がありました。

香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質について説明します。

実習は実際に香を聞き、香を以て表現された組香の文学的主題を十分に理解できるようにします。和室を使用するので、正座を苦にしない人が望ましい。

〔教材〕

参考書：畑正高『香三才』東京書籍、2004年
 『香道入門(淡交ムック)』淡交社、1993年
 尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社、2002年
 授業中にプリントを配布する。

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

予習 不要

復習 体験した組香の証歌について調べると、よりその組香の世界観について理解が深まると思われます。

〔成績評価の方法〕

出席及び毎回の授業で色々な「香」を聞き、その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度(5%)

〔備考〕

和室での実習を円滑に行う為、受講者30名以下とする。

共通科目
外国語を除く

〔授 業 計 画〕

- 第1週 香について、道について(講義)
- 第2週 世界の香(講義)
- 第3週 香の歴史1と香木について1(講義)
- 第4週 香の歴史2と香木について2(講義)
- 第5週 香の歴史3と香木について3(講義)
- 第6週 香席について(講義)
- 第7週 季節の組香1(実習)
- 第8週 季節の組香2(実習)
- 第9週 季節の組香3(実習)
- 第10週 香炉造り(実習)
- 第11週 香をたく(実習)
- 第12週 季節の組香4(実習)
- 第13週 組香概論(講義)
- 第14週 香の道具(講義)
- 第15週 季節の組香5(実習)

副題					担当者	三條西 公彦 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4

〔授業の到達目標〕

香及び香道についての基本知識を、講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り、基本作法を取得する。

〔授業の内容〕

古今東西、香は人類(特に権力者達)と密接な関係を持ってきました。日本では他国に見られない特異な発達をしてきました。

六世紀に香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来、日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。香は遊芸として親しまれます。それは源氏物語(梅枝)で知られる薫物合に始まり、室町時代に香道という形に昇華していきます。遊芸として行うものも薫物合から香合、たきつき香、そして組香へと変遷していきます。それらのバックボーンには常に我国の豊かな四季や自然風俗、更にそれを取込んだ文学がありました。

香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質について説明します。

実習は実際に香を聞き、香を以て表現された組香の文学的主題を十分に理解できるようにします。和室を使用するので、正座を苦にしない人が望ましい。

〔教材〕

参考書：畑正高『香三才』東京書籍、2004年
『香道入門(淡交ムック)』淡交社、1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社、2002年
授業中にプリントを配布する。

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

予習 不要
復習 体験した組香の証歌について調べると、よりその組香の世界観について理解が深まると思われます。

〔成績評価の方法〕

出席及び毎回の授業で色々な「香」を聞き、その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度(5%)

〔備考〕

和室での実習を円滑に行う為、受講者30名以下とする。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 香について、道について(講義)
- 第2週 世界の香(講義)
- 第3週 香の歴史1と香木について1(講義)
- 第4週 香の歴史2と香木について2(講義)
- 第5週 香の歴史3と香木について3(講義)
- 第6週 香席について(講義)
- 第7週 季節の組香1(実習)
- 第8週 季節の組香2(実習)
- 第9週 季節の組香3(実習)
- 第10週 香炉作り(実習)
- 第11週 香をたく(実習)
- 第12週 季節の組香4(実習)
- 第13週 組香概論(講義)
- 第14週 香の道具(講義)
- 第15週 季節の組香5(実習)

副題					担当者	三條西 公彦 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5

〔授業の到達目標〕

香及び香道についての基本知識を、講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り、基本作法を取得する。

〔授業の内容〕

古今東西、香は人類(特に権力者達)と密接な関係を持ってきました。日本では他国に見られない特異な発達をしてきました。

六世紀に香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来、日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。香は遊芸として親しまれます。それは源氏物語(梅枝)で知られる薫物合に始まり、室町時代に香道という形に昇華していきます。遊芸として行うものも薫物合から香合、たきつき香、そして組香へと変遷していきます。それらのバックボーンには常に我国の豊かな四季や自然風俗、更にそれを取込んだ文学がありました。

香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質について説明します。

実習は実際に香を聞き、香を以て表現された組香の文学的主題を十分に理解できるようにします。和室を使用するので、正座を苦にしない人が望ましい。

〔教材〕

参考書：畑正高『香三才』東京書籍、2004年
 『香道入門(淡交ムック)』淡交社、1993年
 尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社、2002年
 授業中にプリントを配布する。

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

予習 不要

復習 体験した組香の証歌について調べると、よりその組香の世界観について理解が深まると思われまます。

〔成績評価の方法〕

出席及び毎回の授業で色々な「香」を聞き、その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度(5%)

〔備考〕

和室での実習を円滑に行う為、受講者30名以下とする。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 香について、道について(講義)
- 第2週 世界の香(講義)
- 第3週 香の歴史1と香木について1(講義)
- 第4週 香の歴史2と香木について2(講義)
- 第5週 香の歴史3と香木について3(講義)
- 第6週 香席について(講義)
- 第7週 季節の組香1(実習)
- 第8週 季節の組香2(実習)
- 第9週 季節の組香3(実習)
- 第10週 香炉造り(実習)
- 第11週 香をたく(実習)
- 第12週 季節の組香4(実習)
- 第13週 組香概論(講義)
- 第14週 香の道具(講義)
- 第15週 季節の組香5(実習)

副題				担当者	三條西 公彦 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

香及び香道についての基本知識を、講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り、基本作法を取得する。

〔授業の内容〕

古今東西、香は人類(特に権力者達)と密接な関係を持ってきました。日本では他国に見られない特異な発達をしてきました。

六世紀に香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来、日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。香は遊芸として親しまれます。それは源氏物語(梅枝)で知られる薫物合に始まり、室町時代に香道という形に昇華していきます。遊芸として行うものも薫物合から香合、たきつき香、そして組香へと変遷していきます。それらのバックボーンには常に我国の豊かな四季や自然風俗、更にそれを取込んだ文学がありました。

香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質について説明します。

実習は実際に香を聞き、香を以て表現された組香の文学的主題を十分に理解できるようにします。和室を使用するので、正座を苦にしない人が望ましい。

〔教材〕

参考書：畑正高『香三才』東京書籍、2004年
『香道入門(淡交ムック)』淡交社、1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社、2002年
授業中にプリントを配布する。

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

予習 不要

復習 体験した組香の証歌について調べると、よりその組香の世界観について理解が深まると思われます。

〔成績評価の方法〕

出席及び毎回の授業で色々な「香」を聞き、その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度(5%)

〔備考〕

和室での実習を円滑に行う為、受講者30名以下とする。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 香について、道について(講義)
- 第2週 世界の香(講義)
- 第3週 香の歴史1と香木について1(講義)
- 第4週 香の歴史2と香木について2(講義)
- 第5週 香の歴史3と香木について3(講義)
- 第6週 香席について(講義)
- 第7週 季節の組香1(実習)
- 第8週 季節の組香2(実習)
- 第9週 季節の組香3(実習)
- 第10週 香炉作り(実習)
- 第11週 香をたく(実習)
- 第12週 季節の組香4(実習)
- 第13週 組香概論(講義)
- 第14週 香の道具(講義)
- 第15週 季節の組香5(実習)

副 題	十二単の着装実習を軸として			担 当 者	仙石 久 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	水	時 限	1

〔授業の到達目標〕

- (1) 十二単の着装の手順を理解し、仲間と協力して実際に着装できるようになること。
- (2) 装束類の扱いを通じて、他者を思いやる態度を高め、それを行為に表現すること。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは、古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは、公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ、伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として、国際社会に生きる女性の基礎教養としての、日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では、宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の演習を通じて、古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は、「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。その着装は着物（一般的な和服）の着付けとは異なる面も多いので、受講に当たって着物の着付け方を知っている必要はありません。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように、受講生を小人数の班に分けて、段階を踏んで実技を指導しながら、衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第3版，オクターブ，2000年
初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

- 予習：授業各回に指示する教科書の該当範囲を次回までに理解しておくこと。
- 復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。

〔成績評価の方法〕

【1】平常の出席状況（60%），【2】実技試験（25%），【3】レポート（15%）の総合評価。
下記「備考」欄の理由から、とくに出席点を重視します。また、レポートは課題を指定することによって筆記試験を兼ねます。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動を含む）は、くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。
演習では、1班5名で協力しつつ、毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると、その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進捗が遅れ、他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。
実技試験では写真撮影も許可しますので、「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも、全回の出席が必須です。

〔授 業 計 画〕

第1週	講義：有職故実・宮廷装束概論 および 唐衣裳装束（十二単）模範着装実演 演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第2週	講義：十二単 1 ……長袴（ながばかま）の概念と扱い方 演習：十二単 1 ……長袴の着付け
第3週	講義：十二単 2 ……単（ひとえ）の概念と扱い方 演習：十二単 2 ……長袴・単の着付け
第4週	講義：十二単 3 ……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事 1） 演習：十二単 3 ……長袴・単・五衣の着付け
第5週	講義：十二単 4 ……帯・紐の結び方の確認 演習：十二単 4 ……長袴・単・五衣の着付けの発展
第6週	講義：十二単 5 ……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事 2） 演習：十二単 5 ……下具 [=長袴・単・五衣・打衣]の着付け
第7週	講義：十二単 6 ……表着（うわぎ）の概念と扱い方 演習：十二単 6 ……下具と表着の着付け
第8週	講義：十二単 7 ……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方 演習：十二単 7 ……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第9週	講義：十二単 8 ……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方 演習：十二単 8 ……十二単皆具の着付け
第10週	講義：十二単 9 ……各手技の確認，補足講義（年中行事 3） 演習：十二単 9 ……十二単皆具の着付けの発展
第11週	講義：十二単10 ……着装の仕上げにあたってのチェックポイント 演習：十二単10 ……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週	講義：有職故実 1 演習：十二単11（確認 1） ……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認 その 1
第13週	講義：有職故実 2 演習：十二単12（確認 2） ……同上 その 2
第14週	講義：有職故実 3 演習：十二単13（確認 3） ……同上 その 3
第15週	講義：十二単とその他の宮廷装束 ……十二単皆具・小掛装束・直衣装束など各種宮廷装束の着装実演と総括 初回・最終回の授業で模範着装をお見せしますが、その「御方（＝モデル）」も受講生有志にお願います。

副題	十二単の着装実習を軸として			担当者	仙石 久 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

- (1) 十二単の着装の手順を理解し、仲間と協力して実際に着装できるようになること。
- (2) 装束類の扱いを通じて、他者を思いやる態度を高め、それを行為に表現すること。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは、古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは、公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ、伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として、国際社会に生きる女性の基礎教養としての、日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では、宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の演習を通じて、古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は、「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。その着装は着物（一般的な和服）の着付けとは異なる面も多いので、受講に当たって着物の着付け方を知っている必要はありません。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように、受講生を小人数の班に分けて、段階を踏んで実技を指導しながら、衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第3版，オクターブ，2000年
初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

- 予習：授業各回に指示する教科書の該当範囲を次回までに理解しておくこと。
- 復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。

〔成績評価の方法〕

【1】平常の出席状況（60%），【2】実技試験（25%），【3】レポート（15%）の総合評価。下記〔備考〕欄の理由から、とくに出席点を重視します。また、レポートは課題を指定することによって筆記試験を兼ねます。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動を含む）は、くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。演習では、1班5名で協力しつつ、毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると、その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進捗が遅れ、他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。実技試験では写真撮影も許可しますので、「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも、全回の出席が必須です。

〔授 業 計 画〕

第1週	講義：有職故実・宮廷装束概論 および 唐衣裳装束（十二単）模範着装実演 演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第2週	講義：十二単 1 ……長袴（ながばかま）の概念と扱い方 演習：十二単 1 ……長袴の着付け
第3週	講義：十二単 2 ……単（ひとえ）の概念と扱い方 演習：十二単 2 ……長袴・単の着付け
第4週	講義：十二単 3 ……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方、補足講義（年中行事 1） 演習：十二単 3 ……長袴・単・五衣の着付け
第5週	講義：十二単 4 ……帯・紐の結び方の確認 演習：十二単 4 ……長袴・単・五衣の着付けの発展
第6週	講義：十二単 5 ……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方、補足講義（年中行事 2） 演習：十二単 5 ……下具〔＝長袴・単・五衣・打衣〕の着付け
第7週	講義：十二単 6 ……表着（うわぎ）の概念と扱い方 演習：十二単 6 ……下具と表着の着付け
第8週	講義：十二単 7 ……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方 演習：十二単 7 ……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第9週	講義：十二単 8 ……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方 演習：十二単 8 ……十二単皆具の着付け
第10週	講義：十二単 9 ……各手技の確認、補足講義（年中行事 3） 演習：十二単 9 ……十二単皆具の着付けの発展
第11週	講義：十二単10 ……着装の仕上げにあたってのチェックポイント 演習：十二単10 ……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週	講義：有職故実 1 演習：十二単11（確認 1） ……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認 その 1
第13週	講義：有職故実 2 演習：十二単12（確認 2） ……同上 その 2
第14週	講義：有職故実 3 演習：十二単13（確認 3） ……同上 その 3
第15週	講義：十二単とその他の宮廷装束 ……十二単皆具・小掛装束・直衣装束など各種宮廷装束の着装実演と総括 初回・最終回の授業で模範着装をお見せしますが、その「御方（＝モデル）」も受講生有志にお願ひします。

副題	十二単の着装実習を軸として			担当者	鮫嶋 康順 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

- (1) 十二単の着装の手順を理解し、仲間と協力して実際に着装できるようになること。
- (2) 装束類の扱いを通じて、他者を思いやる態度を高め、それを行為に表現すること。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは、古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは、公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ、伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として、国際社会に生きる女性の基礎教養としての、日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では、宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の演習を通じて、古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は、「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。その着装は着物（一般的な和服）の着付けとは異なる面も多いので、受講に当たって着物の着付け方を知っている必要はありません。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように、受講生を小人数の班に分けて、段階を踏んで実技を指導しながら、衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第3版，オクターブ，2000年
初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

- 予習：授業各回に指示する教科書の該当範囲を次回までに理解しておくこと。
- 復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。

〔成績評価の方法〕

【1】平常の出席状況（60%），【2】実技試験（25%），【3】レポート（15%）の総合評価。
下記「備考」欄の理由から、とくに出席点を重視します。また、レポートは課題を指定することによって筆記試験を兼ねます。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動を含む）は、くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。
演習では、1班5名で協力しつつ、毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると、その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進捗が遅れ、他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。
実技試験では写真撮影も許可しますので、「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも、全回の出席が必須です。

〔授業計画〕

第1週	講義：有職故実・宮廷装束概論 および 唐衣裳装束（十二単）模範着装実演 演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第2週	講義：十二単 1 ……長袴（ながばかま）の概念と扱い方 演習：十二単 1 ……長袴の着付け
第3週	講義：十二単 2 ……単（ひとえ）の概念と扱い方 演習：十二単 2 ……長袴・単の着付け
第4週	講義：十二単 3 ……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事 1） 演習：十二単 3 ……長袴・単・五衣の着付け
第5週	講義：十二単 4 ……帯・紐の結び方の確認 演習：十二単 4 ……長袴・単・五衣の着付けの発展
第6週	講義：十二単 5 ……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事 2） 演習：十二単 5 ……下具 [=長袴・単・五衣・打衣] の着付け
第7週	講義：十二単 6 ……表着（うわぎ）の概念と扱い方 演習：十二単 6 ……下具と表着の着付け
第8週	講義：十二単 7 ……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方 演習：十二単 7 ……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第9週	講義：十二単 8 ……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方 演習：十二単 8 ……十二単皆具の着付け
第10週	講義：十二単 9 ……各手技の確認，補足講義（年中行事 3） 演習：十二単 9 ……十二単皆具の着付けの発展
第11週	講義：十二単10 ……着装の仕上げにあたってのチェックポイント 演習：十二単10 ……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週	講義：有職故実 1 演習：十二単11（確認 1） ……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認 その 1
第13週	講義：有職故実 2 演習：十二単12（確認 2） ……同上 その 2
第14週	講義：有職故実 3 演習：十二単13（確認 3） ……同上 その 3
第15週	講義：十二単とその他の宮廷装束 ……十二単皆具・小掛装束・直衣装束など各種宮廷装束の着装実演と総括 初回・最終回の授業で各種装束をお見せしますが、その「御方（＝モデル）」も受講生有志にお願ひします。

副題	十二単の着装実習を軸として			担当者	仙石 久 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	1

〔授業の到達目標〕

- (1) 十二単の着装の手順を理解し、仲間と協力して実際に着装できるようになること。
- (2) 装束類の扱いを通じて、他者を思いやる態度を高め、それを行為に表現すること。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは、古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは、公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ、伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として、国際社会に生きる女性の基礎教養としての、日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では、宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の演習を通じて、古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は、「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。その着装は着物（一般的な和服）の着付けとは異なる面も多いので、受講に当たって着物の着付け方を知っている必要はありません。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように、受講生を小人数の班に分けて、段階を踏んで実技を指導しながら、衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第3版，オクターブ，2000年
初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

- 予習：授業各回に指示する教科書の該当範囲を次回までに理解しておくこと。
- 復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。

〔成績評価の方法〕

【1】平常の出席状況（60%），【2】実技試験（25%），【3】レポート（15%）の総合評価。下記〔備考〕欄の理由から、とくに出席点を重視します。また、レポートは課題を指定することによって筆記試験を兼ねます。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動を含む）は、くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。演習では、1班5名で協力しつつ、毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると、その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進捗が遅れ、他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。実技試験では写真撮影も許可しますので、「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも、全回の出席が必須です。

〔授業計画〕

第1週	講義：有職故実・宮廷装束概論 および 唐衣裳装束（十二単）模範着装実演 演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第2週	講義：十二単 1 ……長袴（ながばかま）の概念と扱い方 演習：十二単 1 ……長袴の着付け
第3週	講義：十二単 2 ……単（ひとえ）の概念と扱い方 演習：十二単 2 ……長袴・単の着付け
第4週	講義：十二単 3 ……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方、補足講義（年中行事 1） 演習：十二単 3 ……長袴・単・五衣の着付け
第5週	講義：十二単 4 ……帯・紐の結び方の確認 演習：十二単 4 ……長袴・単・五衣の着付けの発展
第6週	講義：十二単 5 ……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方、補足講義（年中行事 2） 演習：十二単 5 ……下具〔＝長袴・単・五衣・打衣〕の着付け
第7週	講義：十二単 6 ……表着（うわぎ）の概念と扱い方 演習：十二単 6 ……下具と表着の着付け
第8週	講義：十二単 7 ……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方 演習：十二単 7 ……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第9週	講義：十二単 8 ……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方 演習：十二単 8 ……十二単皆具の着付け
第10週	講義：十二単 9 ……各手技の確認、補足講義（年中行事 3） 演習：十二単 9 ……十二単皆具の着付けの発展
第11週	講義：十二単10 ……着装の仕上げにあたってのチェックポイント 演習：十二単10 ……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週	講義：有職故実 1 演習：十二単11（確認 1） ……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認 その 1
第13週	講義：有職故実 2 演習：十二単12（確認 2） ……同上 その 2
第14週	講義：有職故実 3 演習：十二単13（確認 3） ……同上 その 3
第15週	講義：十二単とその他の宮廷装束 ……十二単皆具・小掛装束・直衣装束など各種宮廷装束の着装実演と総括 初回・最終回の授業で模範着装をお見せしますが、その「御方（＝モデル）」も受講生有志にお願ひします。

副題	十二単の着装実習を軸として			担当者	仙石 久 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

- (1) 十二単の着装の手順を理解し、仲間と協力して実際に着装できるようになること。
- (2) 装束類の扱いを通じて、他者を思いやる態度を高め、それを行為に表現すること。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは、古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは、公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ、伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として、国際社会に生きる女性の基礎教養としての、日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では、宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の演習を通じて、古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は、「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。その着装は着物（一般的な和服）の着付けとは異なる面も多いので、受講に当たって着物の着付け方を知っている必要はありません。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように、受講生を小人数の班に分けて、段階を踏んで実技を指導しながら、衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第3版，オクターブ，2000年
初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

- 予習：授業各回に指示する教科書の該当範囲を次回までに理解しておくこと。
- 復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。

〔成績評価の方法〕

【1】平常の出席状況（60%），【2】実技試験（25%），【3】レポート（15%）の総合評価。
下記〔備考〕欄の理由から、とくに出席点を重視します。また、レポートは課題を指定することによって筆記試験を兼ねます。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動を含む）は、くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。
演習では、1班5名で協力しつつ、毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると、その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進捗が遅れ、他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。
実技試験では写真撮影も許可しますので、「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも、全回の出席が必須です。

〔授業計画〕

第1週	講義：有職故実・宮廷装束概論 および 唐衣裳装束（十二単）模範着装実演 演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第2週	講義：十二単 1 ……長袴（ながばかま）の概念と扱い方 演習：十二単 1 ……長袴の着付け
第3週	講義：十二単 2 ……単（ひとえ）の概念と扱い方 演習：十二単 2 ……長袴・単の着付け
第4週	講義：十二単 3 ……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事 1） 演習：十二単 3 ……長袴・単・五衣の着付け
第5週	講義：十二単 4 ……帯・紐の結び方の確認 演習：十二単 4 ……長袴・単・五衣の着付けの発展
第6週	講義：十二単 5 ……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事 2） 演習：十二単 5 ……下具〔＝長袴・単・五衣・打衣〕の着付け
第7週	講義：十二単 6 ……表着（うわぎ）の概念と扱い方 演習：十二単 6 ……下具と表着の着付け
第8週	講義：十二単 7 ……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方 演習：十二単 7 ……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第9週	講義：十二単 8 ……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方 演習：十二単 8 ……十二単皆具の着付け
第10週	講義：十二単 9 ……各手技の確認，補足講義（年中行事 3） 演習：十二単 9 ……十二単皆具の着付けの発展
第11週	講義：十二単10 ……着装の仕上げにあたってのチェックポイント 演習：十二単10 ……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週	講義：有職故実 1 演習：十二単11（確認 1） ……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認 その 1
第13週	講義：有職故実 2 演習：十二単12（確認 2） ……同上 その 2
第14週	講義：有職故実 3 演習：十二単13（確認 3） ……同上 その 3
第15週	講義：十二単とその他の宮廷装束 ……十二単皆具・小掛装束・直衣装束など各種宮廷装束の着装実演と総括 初回・最終回の授業で模範着装をお見せしますが、その「御方（＝モデル）」も受講生有志にお願ひします。

副題	十二単の着装実習を軸として			担当者	鮫嶋 康順 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

- (1) 十二単の着装の手順を理解し、仲間と協力して実際に着装できるようになること。
- (2) 装束類の扱いを通じて、他者を思いやる態度を高め、それを行為に表現すること。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは、古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは、公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ、伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として、国際社会に生きる女性の基礎教養としての、日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では、宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の演習を通じて、古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は、「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。その着装は着物（一般的な和服）の着付けとは異なる面も多いので、受講に当たって着物の着付け方を知っている必要はありません。初心者の段階から十二単の着付けが経験できるように、受講生を小人数の班に分けて、段階を踏んで実技を指導しながら、衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第3版、オクターブ、2000年
初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

- 予習：授業各回に指示する教科書の該当範囲を次回までに理解しておくこと。
- 復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。

〔成績評価の方法〕

【1】平常の出席状況（60%）、【2】実技試験（25%）、【3】レポート（15%）の総合評価。下記〔備考〕欄の理由から、とくに出席点を重視します。また、レポートは課題を指定することによって筆記試験を兼ねます。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動を含む）は、くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。演習では、1班5名で協力しつつ、毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると、その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進捗が遅れ、他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。実技試験では写真撮影も許可しますので、「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも、全回の出席が必須です。

〔授業計画〕

第1週	講義：有職故実・宮廷装束概論 および 唐衣裳装束（十二単）模範着装実演 演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第2週	講義：十二単 1 ……長袴（ながばかま）の概念と扱い方 演習：十二単 1 ……長袴の着付け
第3週	講義：十二単 2 ……単（ひとえ）の概念と扱い方 演習：十二単 2 ……長袴・単の着付け
第4週	講義：十二単 3 ……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方、補足講義（年中行事 1） 演習：十二単 3 ……長袴・単・五衣の着付け
第5週	講義：十二単 4 ……帯・紐の結び方の確認 演習：十二単 4 ……長袴・単・五衣の着付けの発展
第6週	講義：十二単 5 ……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方、補足講義（年中行事 2） 演習：十二単 5 ……下具〔＝長袴・単・五衣・打衣〕の着付け
第7週	講義：十二単 6 ……表着（うわぎ）の概念と扱い方 演習：十二単 6 ……下具と表着の着付け
第8週	講義：十二単 7 ……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方 演習：十二単 7 ……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第9週	講義：十二単 8 ……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方 演習：十二単 8 ……十二単皆具の着付け
第10週	講義：十二単 9 ……各手技の確認、補足講義（年中行事 3） 演習：十二単 9 ……十二単皆具の着付けの発展
第11週	講義：十二単10 ……着装の仕上げにあたってのチェックポイント 演習：十二単10 ……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週	講義：有職故実 1 演習：十二単11（確認 1） ……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認 その 1
第13週	講義：有職故実 2 演習：十二単12（確認 2） ……同上 その 2
第14週	講義：有職故実 3 演習：十二単13（確認 3） ……同上 その 3
第15週	講義：十二単とその他の宮廷装束 ……十二単皆具・小掛装束・直衣装束など各種宮廷装束の着装実演と総括 初回・最終回の授業で各種装束をお見せしますが、その「御方（＝モデル）」も受講生有志にお願ひします。

副題	現代の国際儀礼 (プロトコール)			担当者	阿曾村 智子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

(1) 国際儀礼の成り立ちについて史的考察を行い、その本来の意義を理解する。(2) 外交関係において今日でも重要な位置を占める公式儀礼の次第について基本的な知識を身に付ける。(3) 国際交流・国際協力やグローバルなビジネス活動においてすぐに役立つ現代の国際マナーについて実例を考察し、自らも適切に実践できるようになる。

〔授業の内容〕

国際儀礼の歴史とその展開、基本原則、外交・国際交流およびビジネスでの実際について、なるべく具体的な例(内外の失敗談を含めて)を取り上げつつ、現代プロトコールについて論じる。学期中3回程度、ゲスト講師を招いて現代の国際儀礼や接遇について現場のお話を伺う予定である。ゲストの都合によっては、シラバスにある講義内容の順が一部変更になることもある。

〔教材〕

教科書：阿曾村智子『国際交流のための現代プロトコール』東信堂、2001年

参考書：外務省儀典官室『国際儀礼に関する12章』財団法人世界の動き社、2000年

友田二郎『国際儀礼とエチケット』新装普及版、学生社、2004年

Jean Serres, *Practical Handbook of Protocol (Edition in English)*, Editions de la Bievre, 2010

Pauline Innis, Mary Jane McCaffree & Richard M.Sand, Esquire, *Protocol- The Complete Handbook of Diplomatic, Official and Social Usage*, Durban House Publishing, 1997

個別テーマの文献については講義中に指示する。

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に提示する指定図書にあらかじめ目をとおり、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。ゲスト講師の場合には、講演内容概要とコメントおよび質問を文章にまとめて提出すること。

〔成績評価の方法〕

学期末試験(50%)および日頃の主体的な出席態度(数回提出のリアクション・ペーパーの内容、全部で50%)を総合して評価を行う。

〔備考〕

例年テーブルマナーの実践および本格的なフランス料理店のオーナー・シェフとの交流の機会として学期終了後に有志の昼食会を企画している。

〔授業計画〕

- 第1週 序論：プロトコールの考え方
- 第2週 プロトコールの歴史と原則
- 第3週 プロトコールの基本(1) 名称、呼称および敬称
- 第4週 プロトコールの基本(2) 序列と席次 その1：国旗の扱い
- 第5週 プロトコールの基本(3) 序列と席次 その2：テーブル・プラン
- 第6週 国公賓の接遇と公式行事
- 第7週 設宴(食事会、パーティ等)の企画と実際
- 第8週 外交と食事：献立とテーブルマナー
- 第9週 行事と服装、ドレスコード
- 第10週 招待状とお礼状(1)
- 第11週 招待状とお礼状(2)
- 第12週 国際ビジネスとプロトコール
- 第13週 文化多様性時代の世界のマナーとプロトコール(1)
- 第14週 文化多様性時代の世界のマナーとプロトコール(2)
- 第15週 総括

副題	イギリス現代劇を翻訳し、上演台本を作る			担当者	小田島 則子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

イギリスの現代劇を日本語に置き換えていく過程で、イギリスの文化的・社会的背景を含めた作者の意図を理解していきます。また、英語と日本語双方の言葉の働きの面白さに触れ、自身の言語能力の向上に繋げていきます。

〔授業の内容〕

2007年にイギリスの女性戯曲作家ポリー・ステナムが19歳で書き、鮮烈なデビューを飾った作品『That Face』（1幕8場）を扱います。テキストを正確に読み解いて上演にふさわしい日本語台本を作ることを最終目的としますが、それには以下の項目に重点を置いて授業を進めたいと思います。

1. 英文の意味を読み取り作者の意図を理解する。
 2. 文化的背景や社会的背景を読み取る。
 3. キャラクターを設定する。
 4. 設定したキャラクターに合う言葉遣いを模索する。
 5. 朗読劇の形式で発表しながら、耳で聞いて伝わる日本語になっているかどうか検討する。
- なお、授業は受講者の人数によってはグループでの発表形式で行います。

〔教材〕

教科書：Polly Stehnam, *That Face*, revised Edition, Faber and Faber Ltd., 2008

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業計画の中に記載した通り、毎回次の授業で扱う箇所を下読みし、さらに前の週に読んだ箇所を復習して理解を深め、レポートが課されている場合は、必要な資料を当たってレポートを作成した上で授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

全授業の2/3以上出席した学生を成績評価の対象とします。成績は授業での発表と参加の姿勢（20%）、レポート（20%）、試験（40%）により評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	準備学習：これまで見たことのある英米の舞台、または読んだことのある英米の戯曲を振り返っておくこと。 授業内容：ガイダンス。近年日本で上演されたイギリスの戯曲の原作を用いて、戯曲を読む練習をする。
第2週	scene 1 を 5 ページ読み、発話から登場人物の背景をさぐる。
第3週	1. 前回の授業で読んだ箇所を上演用の台詞にしていく。 2. scene1 を最後まで読み、この場面の状況と登場人物を理解する。
第4週	自分の翻訳を発表する。scene 1 の舞台上演DVDを見て、自分の解釈と比べる。
第5週	scene 2 の出だしを 6 ページ読み、ト書きや発話から状況を把握し、さらに登場人物の性格や関係を理解する。
第6週	scene 2 の次の 6 ページ読み、ト書きや発話から状況を把握し、さらに登場人物の性格や関係を理解する。
第7週	scene 2 を最後まで読み、この戯曲全体の状況をまとめ、発表する。
第8週	scene 2, 3 のDVDを見て、演出で付け加えられている効果を確認しながら、読み取った内容を発表する。
第9週	scene 4 を読み、人物像について新たな発見などがあれば発表する。
第10週	scene 5 を読み、人物像について新たな発見などがあれば発表する。
第11週	scene 6 を読み、人物像について新たな発見などがあれば発表する。
第12週	scene 4, 5, 6 のDVDを見て、演出で付け加えられている効果を確認しながら、戯曲の理解を深める。
第13週	scene 7 を読み、登場人物 2 人の関係と、この戯曲すべての登場人物の関係を考える。
第14週	scene 8 を読む。
第15週	授業のまとめ。

履修者の人数によってはグループによる発表の場を設けたいと思いますので、その場合は授業計画が一部変更になります。

副 題	演劇祭運営実習			担 当 者	尼ヶ崎 彬 教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	火	時 限	5

〔授業の到達目標〕

舞台芸術におけるアートマネジメントがいかなるものであるかを現場体験によって知る。

〔授業の内容〕

11月に本学で行われる演劇祭にインターンとして参加し、実際に演劇祭の制作・運営を手伝い、現場でのさまざまな作業や問題解決の方法を実習する。実習生に責任ある仕事はまかされないで、末端の仕事を手伝うことになるが、それでも芸術に人生を預けた人々との出会い、全員で何かをやり遂げたという達成感など、アートマネジメントという仕事の多様な側面を体験することができる。参加劇団の公演は全て無料で見るができる。

授業時間は一応火曜4限に設定されているが、授業の性格上これにとらわれることなく、必要に応じてスタッフワークをしてもらうことになる。なお演劇祭は今のところ11月に予定されている。受講者はこれに参加してもらい、それを授業と振り替える。一回の実習の拘束時間は長い。従って冬の土日にも所用の多い人には薦められない。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習(アートマネジメント・及び演劇祭に関する書籍およびビデオ学習)は通算40時間程度。復習(実習経験を踏まえたオペレーションの反省、および提案事項を考える)は通算20時間程度。

〔成績評価の方法〕

活動への参加（出席）の程度（80%）とレポート（20%）による

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	アートマネジメントと演劇祭運営
第3週	劇場機構とその操作（招聘講師）
第4週	カンパニー（劇団）マネジメントのノウハウ（招聘講師）
第5週	演劇祭「Pafe.GWC (Performing Arts Festival.GWC)」制作実習（以下10週分の実習を演劇祭期間中に行う）
第6週	「Pafe」制作実習
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	「Pafe」事後評価

演劇祭の実習で経験できるのはスタッフワークのごく一部であり、全体像を知るためには授業外での学習が重要になる。また前提として演劇や舞踊の知識がある程度必要となる。pafeの公演はなるべく全て観られるようにするが、他にも自分でさまざまな演劇や舞踊公演を見ることが望ましい。

国際文化交流演習Ⅲ（音楽）

3738100300100

副題	日本の大衆音楽			担当者	杉原 志啓 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

日本における大衆音楽とその文化の特質を学ぶ。また、20世紀において日本の音楽文化のみならず、世界の大衆音楽形式に絶大な影響を与えてきたアメリカの音楽ジャンルの学術的な定義と特質を習得。

〔授業の内容〕

ポピュラー音楽は、20世紀後半から重要な国際的文化実践のひとつとなっている。わが国ではしかし、この分野の音楽はアカデミックな領域に適切な題材として扱われない傾向がある。本講義では、この二つの世界を真面目に結びつけていく。本年度のテーマは、今日Jポップ一色に帰結している日本の大衆音楽の歴史的特質をクロニクルにたどっていく予定である。なお、例年どおり毎回講義内容にかかわる日本および英米の貴重な音源や映像を多数駆使していく。

〔教材〕

参考書：西村幸裕・杉原志啓『イチローと村上春樹は、いつビートルズを聴いたのか』PHP研究所、2009年

授業中大衆音楽史の基本的テキストを多数紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中の配布プリントの閲読。

〔成績評価の方法〕

授業期間内の1回の小テストと学期末レポート1回。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス
第2週	日本のソフト・パワー
第3週	20世紀前半の米大衆音楽（1）ハード編 SPレコード、ラジオ等
第4週	20世紀前半の米大衆音楽（2）ソフト編 ブルース、カントリー、ジャズ等
第5週	20世紀後半の米大衆音楽（1）ハード編 LP、シングル、テレビ、MTV、CD、iPod、iTunes等
第6週	20世紀後半の米大衆音楽（2）ソフト編 モダン・ジャズ、R&B、ロック、ヒップ・ホップ等
第7週	日本における大衆音楽市場とその文化
第8週	日本の大衆音楽の進展（1）戦前の音楽教育と流行り歌
第9週	日本の大衆音楽の進展（2）流行歌から歌謡曲
第10週	大衆音楽の変容（1）歌謡曲のアメリカ化
第11週	大衆音楽の変容（2）歌謡曲の消滅とアメリカ文化の身体化
第12週	大衆音楽と市場の劇的変容ーデジタル化とマルチメディア化
第13週	音楽のノンパッケージ（配信）化
第14週	大衆音楽にみる日本文化の伝統
第15週	大衆音楽産業の今後の展望

小テストと期末レポートは、実施日の前の週に告知する。授業期間出席はとらないが、この2回は必ず出席のこと。

副題					担当者	土田 環 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5

〔授業の到達目標〕

日本およびヨーロッパを中心に、映画祭や映像を主とする文化企画を事例としてとりあげ、映画の持つ文化的・社会的な役割を学ぶ。映画というジャンルにとどまらず、個人や社会の記憶の在り方、アート・マネジメントの実践、国際文化交流の現在などについて、受講者が各自の関心と重ね合わせながら考える機会になるようにしていきたい。

〔授業の内容〕

【講義】

映画作品について、歴史的・社会的・美学的な視点から検討する。ただし、映画史をあまりく学ぶのではなく、私たちの生きる社会のなかで、映画ないしは映像がどのような位置を占めるのか、テーマごとに考えていきたい。また、映画産業のなかで働く女性を5名程度お招きしてお話をうかがう予定。

【実習】（※備考欄も参照のこと）

本年は、二年に一度の山形国際ドキュメンタリー映画祭が開催される。1989年に山形市の市制100周年事業として故・小川紳介監督を中心に創設された山形国際ドキュメンタリー映画祭は、行政、映画関係者、市民が一体となって隔年開催され、世界百数十の国や地域から応募作品を集める、上映作品の質・量ともにアジア最大のドキュメンタリー映画祭へと成長してきた。

本講義を受講する学生のうち、希望者は、2013年10月8日～15日に開催される映画祭にボランティアとして参加する（全日程のなかの3泊程度。具体的な仕事の内容としては、会場、デイリー・ニュース編集、海外ゲストアテンドなどを予定している）。文化事業に携わるだけでなく、映画関係者、全国から参加する他大学の学生らと交流する貴重な機会でもある。学生の積極的な参加を期待する。

〔教材〕

参考書：山形国際ドキュメンタリー映画祭東京事務局＝編『ドキュメンタリー映画は語る—作家インタビューの軌跡』未来社、2007年

他の参考文献は必要に応じてコピーして配布する。参考書を必ず購入する必要はないが、映画作品や書籍を通じて、あらかじめ映像に対する関心を持って各自実習に参加してほしい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で紹介される映画をなるべく多く観ること。

〔成績評価の方法〕

授業・実習への参加度、試験／レポートにより評価する。山形国際ドキュメンタリー映画祭への合宿参加者に関しては、評価時に加点する。

〔備考〕

実習参加者のうち、山形国際ドキュメンタリー映画祭会期中の合宿形式によるボランティア参加を希望するものは、交通費・宿泊費の計3万5千円～4万円程度が自己負担となるので、その旨を事前に了承の上、参加のこと（映画祭のパス、昼食券は支給される）。一昨年度は、10数名が参加し、同じ宿泊施設を使用した。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 イン트로ダクション—映画と向き合うために
- 第2週 実習：山形国際ドキュメンタリー映画祭
- 第3週 文化事業としての映画祭（1）総論および海外の映画祭
- 第4週 文化事業としての映画祭（2）日本の映画祭 *ゲスト
- 第5週 日本製映画のつくり方（1）「日本映画」という幻影
- 第6週 日本製映画のつくり方（2）製作委員会方式とは何か
- 第7週 日本製映画のつくり方（3）制作現場で求められていることは何か *ゲスト
- 第8週 日本製映画のつくり方（4）日本映画の映し出す「地方」と映画館
- 第9週 映画と国際競争力（1）「架け橋」となるために必要なことは何か *ゲスト
- 第10週 映画と国際競争力（2）日本映画の国際展開とセールス・エージェントの役割
- 第11週 映画と国際競争力（3）フォーマット・セールスの現状と課題
- 第12週 映画と国際競争力（4）「模倣」と「盗作」とのはざまに—インターテキストュアリティとは何か
- 第13週 映画と社会（1）映画とこども—通過儀礼とは何か
- 第14週 映画と社会（2）映画と法—著作権をどのようにとらえるべきか *ゲスト
- 第15週 映画と社会（3）映画は「文化財」なのか「商品」なのか—モノづくりからの思考 *ゲスト

春学期のあいだに参加者に対する説明会（2回）を行うので、掲示および共通科目サポートセンターからの連絡に注意すること（なお、本年の合宿期間は、大学の和祭の実施日と重なる可能性がある）。また、単位や授業と関係なく映画祭へのボランティア登録を希望する学生の参加も受け付けるが、必ず説明会に参加すること。

副題	日本美術に親しむ			担当者	上野 友愛 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3

〔授業の到達目標〕

日本美術に親しみ、その個性と魅力を自ら考える力を育成します。

〔授業の内容〕

国際的に関心の高い日本文化から、この授業では美術分野に特化して講義します。

日本美術の歴史は、洗練された大陸の美術を学ぶことに始まりますが、平安時代には早くも日本人の美意識が認められ、独自の成長を遂げました。この授業では、日本絵画史の基礎事項を確認しながら、知られざる日本美術の個性と魅力、そして日本人の想像力の豊かさについて多角的に学びます。

〔教材〕

参考文献は、授業時に適宜紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で紹介する参考文献等を読み、復習した上で、次週の授業に出席すること。

〔成績評価の方法〕

平常点（出席状況、授業態度、コメントペーパー）40%、期末のレポート60%の割合で評価します。

〔備考〕

1. 初回授業には必ず出席すること。
2. 授業の最後に、毎回コメントペーパーを書いてもらいます。
3. 学外の美術館見学および実習を2回行う予定です。土曜もしくは日曜日を実施します。見学は、展覧会の開催状況によって、授業計画の順番とは異なる時期に行う場合があります（詳細は授業内でお知らせします）。見学に関わる費用は自費とします。

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 絵巻の魅力（1）：時間と空間を描くメディア
- 第3週 絵巻の魅力（2）：鳥獣人物戯画
- 第4週 お伽草子絵（1）：美術と庶民の出会い
- 第5週 お伽草子絵（2）：お伽草子と下剋上
- 第6週 お伽草子絵（3）：お伽草子と場
- 第7週 お伽草子絵（4）：見えない世界を描く
- 第8週 見学授業（土日いずれかに実施）
- 第9週 日本絵画の景観表象（1）：山水屏風・古地図
- 第10週 日本絵画の景観表象（2）：垂迹曼荼羅・掛幅社寺縁起絵
- 第11週 日本絵画の景観表象（3）：参詣曼荼羅
- 第12週 日本絵画の景観表象（4）：参詣曼荼羅
- 第13週 日本絵画の景観表象（5）：洛中洛外図・名所図
- 第14週 見学授業（土日いずれかに実施）
- 第15週 まとめ

授業計画は、進捗に合わせて内容を一部変更したり、順序を変更する場合があります。

国際文化交流演習VB（美術）

3738100500200

副 題	美術館における国際文化交流			担 当 者	丹羽 晴美 講師	
単 位	2	開 講 期 間	春学期集中	曜 日	時 限	

〔授業の到達目標〕

美術表現を用いた国際交流事業において、具体的なアプローチを展覧会、広報、教育普及事業などの視点から考察することを目標とする。

〔授業の内容〕

この授業では現代美術、写真・映像というメディアによる文化交流がどのように行われてきたのかを、展覧会、作品表現を通して考察します。また進行中もしくは過去の展覧会企画の分析や、これからの国際文化交流プログラムの展望、公的資金を運用する責務などについて、グループディスカッションを通して探ります。

〔教材〕

授業中に指示。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

集中講義中の2日間（最終日を除く）、30分～1時間程度の予習（翌日の準備・登録人数、進行状況によって可変）が必要。

〔成績評価の方法〕

出席、受講態度（ディスカッション時等）、発表内容

〔備考〕

夏期集中講座（8月上旬～9月初旬3日間程度予定）

〔授 業 計 画〕

夏期集中講座

（登録人数・進行状況によって、内容に変更あり）

実施計画）

1日目：国際文化交流／公的資金運用の実例

ディスカッションプログラム

2日目：公立美術館における国際文化交流について（東京都写真美術館の実例など）

ディスカッションプログラム

3日目：国際文化交流の責務と可能性

ディスカッションプログラム

多様な国際文化交流のあり方について

副題				担当者	這禽 恵子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

シンクタンクの概要や政策形成過程に果たす役割を理解するとともに、日本が抱えている様々な現状や課題を理解する。

〔授業の内容〕

新しい知的な産業分野であり、政策形成過程に重要な役割を果たすことが期待されるシンクタンクの概要を分かり易く解説する。政策形成過程の特徴や課題を概観するとともに、事例研究によりシンクタンクの調査研究分野や手法などを解説する。また、日本の代表的なシンクタンクを訪問し見学する。

〔教材〕

授業ごとにレジュメを配布。参考書・文献は随時紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事例研究ではテーマによって事前学習が必要な場合がある。

〔成績評価の方法〕

出席・レポート及びシンクタンク見学参加

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	シンクタンクとは何か
第2週	政策課題と日本の政策形成過程の特徴
第3週	シンクタンクの活動分野，研究活動と専門性
第4週	シンクタンクの現状
第5週	日本のシンクタンクの歴史
第6週	シンクタンクの実務（事例研究）
第7週	地方のシンクタンク
第8週	シンクタンクの実務（事例研究）
第9週	シンクタンクにおける情報化
第10週	シンクタンクの実務（事例研究）
第11週	々
第12週	々
第13週	世界のシンクタンク
第14週	政策形成過程におけるシンクタンクの役割
第15週	日本のシンクタンクの将来像

シンクタンクの実務では具体的な研究事例や研究課題を取り上げ、研究方法や研究内容等を解説する。

国際文化交流演習VII A (海外語学研修)

3738100700100

副 題	UNBC ELS/LECTURE/INTERNSHIP			担 当 者	岩崎 光洋 教授	
単 位	2	開 講 期 間	春学期集中	曜 日	時 限	

〔授業の到達目標〕

4週間のホームステイ生活を中心に、コミュニケーション力とカナダ文化・歴史等に関する理解を深める

〔授業の内容〕

8月初旬よりカナダのレスブリジ大学における海外語学研修。授業内容は中・上級の日常英会話の習得とカナダ文化への理解を深めるための講義が中心となる。習得した英語を実践する場として、ホームステイ先の家族、通学路のモール等で積極的に活用し、英語力のスキルアップと自信を養っていただきたい。

〔教材〕

レスブリジ大学指定のテキスト・教材等は現地にて支給されます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

3時間×15

〔成績評価の方法〕

レスブリジ大学のELS担当教員の評価 50%、出席 20%、帰国後のレポート 30%等を総合的に再評価する

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

8月の研修出発前に、3回の面談、ガイダンス、指導等を行ないますので、必ず出席すること。UNBCスタッフによる語学力チェック面談を後日案内します。これも必ず受けて下さい。連絡等は全て学科事務室の副手を通して行ないます。質問等がある場合には副手に申し出ること。

国際文化交流演習VII B (海外語学研修)

3738100700200

共通科目
(外国語を除く)

副 題	Deakin ELS/LECTURE/INTERNSHIP			担 当 者	岩崎 光洋 教授	
単 位	2	開 講 期 間	秋学期集中	曜 日		時 限

〔授業の到達目標〕

4 週間のホームステイ生活を中心に、コミュニケーション力とオーストラリア文化・歴史等に関する理解を深める

〔授業の内容〕

2 月中旬よりメルボルンのDEAKIN Universityの語学センターで中・上級会話、TOEICの授業を45時間受講する。授業内では他の国からきている多く留学生とのコミュニケーション練習等も含まれている。積極的な自己アピールとコミュニケーション・スキルの実践の場として活用に努めて欲しい。

〔教材〕

DEAKIN University指定のテキスト・教材等は現地にて支給されます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

3 時間×15

〔成績評価の方法〕

Deakin Uniの授業担当者による評価50%、出席率 20% 帰国後のレポート30%等を総合的に再評価する

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

2月の研修出発前に、3回の面談、ガイダンス、指導等を行ないますので、必ず出席すること。ディーキン大学スタッフによるガイダンスも予定されているのでこれも必ず受けて下さい。連絡等は全て学科事務室の副手を通して行ないます。質問等がある場合には副手に申し出ること。

副 題	English Programme at ISLI, Reading University			担 当 者	古 庄 信 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期集中	曜 日		時 限	

〔授業の到達目標〕

英国バークシャー州にあるレディング大学(University of Reading)の語学教育センター-ISLI)における3週間の英語研修プログラムをとおして、「英語を使って学ぶ・調べる・生活する」などの訓練を行い、英語を使うことについての自信を強める。またホームステイにおけるホストファミリーとのコミュニケーションなど、異文化体験をとおして、英国人と英国文化について理解を深める。

〔授業の内容〕

8月中旬～9月初旬にかけてReading大学語学研修機関ISLIにおいて実施される英国人教師による語学研修に参加する。授業内容は、主に英国の地理・歴史・その他さまざまな文化を英語で学びつつ、同時にディスカッションをとおして日本との文化比較考察を行う。最後に履修者各自が決めたテーマについて英語でプレゼンテーションを行う。

〔授業のねらい〕 3週間の英語による授業で、まず英語を聴く・話す・読む・書くことを習慣化する。そのため授業だけでなくホームステイにおけるホストファミリーとの会話、週末を利用しての英国内旅行などをとおして、ほぼ24時間英語漬けの状態を3週間体験し、英語を使うことを当たり前のこととして意識せずに行えるようにすること。これらの作業をとおして外国から母国を観察し、日本の文化・生活習慣について認識を新たにす。またプレゼンテーションをとおして人前で自分の意図を英語で明確に伝えるテクニック、そのためにどのような準備・訓練をすべきか、なども身につける。

〔教材〕

ISLIが用意するプリント・テキストなど

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎日の授業内容に対して十分な予習・復習を行うこと。

〔成績評価の方法〕

ISLIの担当教師の評価：50%、出席：20%、帰国後のレポート：30%を総合して評価する。ISLIの最終授業において授与される修了証書(certificate)が必要となる。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

春学期の初めに参加募集を行う。参加希望者は随時、担当者また国際交流推進センターなどで説明を聞くこと。研修出発前に出発～現地での生活～帰国に関する数回のガイダンスを行うので、必ず出席すること。また参加希望者は5月までに実施されるTOEIC(またはTOEFL)を受験し、6月の参加申込締切までにそのスコアを提出することを義務づける。(スコアの上/下限はなし。1年生の場合、入学前のクラス分けTOEICテストのスコアも可)ガイダンスやその他の連絡は各学科事務室をとおして行うので、掲示板・学科からのメールなどに注意すること。

副題	ニュース翻訳			担当者	藤原 朝子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

- (1) ニュース翻訳の基本的ルールの習得
- (2) 情報メディアを使ったファクトチェックの基本的手法の習得

〔授業の内容〕

本講義では、英文ニュースの翻訳を通じて情報メディアの使い方を学びます。正確な翻訳ができるかどうかは、ニュースの背景を十分に理解しているかどうかにより左右されます。一定の英語力は必要ですが、ニュースの内容についてリサーチする好奇心と根気も同じくらい重要です。では、何をどこでどのように調べればいいのか。本講義では、こうした調べるプロセスに重点を置きながら、翻訳を作成する能力を養います。

〔教材〕

時事ニュース。授業内で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業は、隔週の課題（宿題）の解説になるので、授業の前日までに課題を必ず提出すること。

〔成績評価の方法〕

隔週の課題提出（90%）。授業への参加態度（10%）。期末試験は行いません。

課題（翻訳）の評価は、翻訳の上手・下手よりも授業で述べた注意点が反映されていることを重視します。

〔備考〕

機械翻訳を使用したものは、課題提出として認めません。

初回の授業で受講生のレベルを調べるとともに、必要であれば一定の人数に絞ります。

〔授業計画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 「飛行機のリクライニング防止器は是か否か」
- 第3週 「エボラ出血熱パニック」①
- 第4週 「エボラ出血熱パニック」②
- 第5週 「MTVが十代の妊娠減少に貢献」①
- 第6週 「MTVが十代の妊娠減少に貢献」②
- 第7週 「ミシェル・オバマと米黒人差別の歴史」①
- 第8週 「ミシェル・オバマと米黒人差別の歴史」②
- 第9週 「安倍・習会談を見る世界の目」①
- 第10週 「安倍・習会談を見る世界の目」②
- 第11週 「エアバッグリコール問題の波紋」①
- 第12週 「エアバッグリコール問題の波紋」②
- 第13週 「テイラー・スウィフト人気にあやかるファッションブランド」
- 第14週 「国際養子の落とし穴」①
- 第15週 「国際養子の落とし穴」②+まとめ

*上記は平成26年度のテーマを例として示したものです。本年度も類似したテーマを扱っていきませんが内容は変わります。

副 題	Volunteer Activities			担 当 者	岩崎 光洋 教授	
単 位	2	開 講 期 間	春学期集中	曜 日	時 限	

〔授業の到達目標〕

教室を離れ、ボランティアの現場での英語を理解し、積極的に指示に従い行動する力を養う

〔授業の内容〕

オーストリア語学研修と同時に、現地大学スタッフ等の協力の下、環境・文化・教育などに関連するボランティア活動を行う。授業とは違う環境で、様々な体験学習をしてもらうのが目的である。もちろん事前指導が現地で行われる。日本では経験できない体験を機に、新たな視点、考え、認識が生まれる可能性を秘めた実習になるよう心がけたい。現地小学校、植林、海岸清掃等、海外でのボランティア活動を通じて、ボランティアとは一体何なのかを考える第一歩になれば良いと思います。

〔教材〕

ボランティアの内容・準備等については、現地にて事前のレクチャーが有るので、その指示に従うこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

3時間×15

〔成績評価の方法〕

レポート

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

事前のガイダンス指導に必ず出席の事。ガイダンス実施日程は後日発表する。

副 題	Volunteer Activities			担 当 者	岩崎 光洋 教授	
単 位	2	開 講 期 間	秋学期集中	曜 日		時 限

〔授業の到達目標〕

教室を離れ、ボランティアの現場でその意味とその指示を正確に理解し、正確なコミュニケーションを図る

〔授業の内容〕

カナダ語学研修と同時に、現地大学スタッフ等の協力の下、環境・文化・教育などに関連するボランティア活動を行う。授業とは違う環境で、様々な体験学習をしてもらうのが目的である。もちろん事前に綿密な指導が現地で行われる。日本では経験できない体験を機に、新たな視点、考え、認識が生まれる可能性を秘めた実習になるよう心がけたい。現地小学校・養護老人ホーム、植林、清掃等、海外でのボランティア活動を通じて、ボランティアとは一体何なのかを考える第一歩になれば良いと思います。

〔教材〕

ボランティアの内容・準備等については、現地にて事前のレクチャーが有るので、その指示に従うこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

3時間×15

〔成績評価の方法〕

レポート

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

事前のガイダンス指導が重要となります。必ず出席する事。ガイダンス日程については、後日発表する。

国際文化交流演習XI (ワシントン・セミナー1)

3738101100100

副題	国際協力と文化交流			担当者	櫻井 大三 教授 M. ウーゴ 准教授	
単位	2	開講期間	春学期集中	曜日	時限	

〔授業の到達目標〕

国際協力、国際文化交流の活動内容、アメリカの政治・文化の実態について基礎知識の獲得し、理解を深める。

〔授業の内容〕

米国の首都、ワシントンDCは、世界の政治的中心であるとともに、多くの国際機関や国際文化機関が点在する国際協力、国際文化交流の一大拠点である。本演習のXIおよびXIIは、将来、国際協力や国際文化交流事業にかかわりたいと考えている学生や、米国の政治・経済・文化等に興味・関心を抱く学生のために、各種の歴史施設・文化施設・行政機関・国際機関・文化交流団体等を訪問し、あるいは各種施設機関で活躍する幹部職員と接し、アメリカの政治・経済・社会・文化の実態や、国際協力や文化交流の活動内容にじかに触れることを目的としている。

本演習は、国際機関研修・文化交流研修・アメリカ文化研修の3部で構成され、XIでは、国際機関研修・文化交流研修（XIIではアメリカ文化研修）を行う。

国際機関研修では、国際機関・国際NGO・研究機関の幹部による講義を受講するとともに、それらの機関で働く人々と懇談し、日本のあるべき国際協力について考える。

文化交流機関研修では、アメリカにおける文化施設や国際文化交流機関の活動や運営について学び、日本の文化振興や文化交流促進のための課題を考える。

〔教材〕

追って、指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習180分：別途指示する要領に従い、与えられた課題について事前に調査・検討を行い、報告原稿を準備すること。

復習90分：討論時に提起された疑問点やコメントを踏まえて、報告レジュメおよびプレゼンテーション資料を加筆修正すること。現地訪問時の質問事項を整理しておくこと。

〔成績評価の方法〕

課題レポートと出席、参加状況によって総合的に判断する。

〔備考〕

2年生以上を対象とする。なお、希望者多数の場合、人数制限を行うことがある。

また、国際文化交流演習XI・国際文化交流演習XIIの両方を同時に履修することを原則とする。

〔授業計画〕

6月中旬～7月下旬の時期に、毎週土曜日の午後の時間帯を用いて3～4回程度の事前研修を実施する予定である。事前研修では、割り当てられたテーマについてのグループ報告と討論が中心となる。本研修へ参加する者は、事前研修への参加が必須となる（標記の時期・時間帯に事前研修に参加することができるよう、各自予定を調整しておくこと。もとより、事前研修での報告には相応の準備が求められる）。

国際文化交流演習XII（ワシントン・セミナー2）

3738101200100

副題	現地ですぶアメリカの政治と歴史			担当者	畠山 圭一 教授	
単位	2	開講期間	春学期集中	曜日		時限

〔授業の到達目標〕

国際協力、国際文化交流の活動内容、アメリカの政治・文化の実態について基礎知識の獲得し、理解を深める。

〔授業の内容〕

米国の首都、ワシントンDCは、世界の政治的中心であるとともに、多くの国際機関や国際文化機関が点在する国際協力、国際文化交流の一大拠点である。本演習のXIおよびXIIは、米国の政治・経済・文化等に興味・関心を抱く学生や、将来、国際協力や国際文化交流事業にかかわりたいと考えている学生のために、各種の歴史施設・文化施設・行政機関・国際機関・文化交流団体等を訪問し、あるいは各種施設機関で活躍する幹部職員と接し、アメリカの政治・経済・社会・文化の実態や、国際協力や文化交流の活動内容にじかに触れることを目的としている。

本演習は、国際機関研修・文化交流研修・アメリカ文化研修の3部で構成され、XIIではアメリカ文化研修（XIでは国際機関研修・文化交流研修）を行う。

アメリカ文化研修では、アメリカ政治およびアメリカ史に関する集中講義が行われるほか、アメリカの政治・文化・歴史にじかに触れることを目的に、連邦議会および議員事務所、州政府庁舎、行政機関、報道機関、シンクタンクなどを訪問し、議員や幹部職員等と懇談するほか、史跡（初期のイギリス入植地、植民地時代の歴史保存地域、建国初期の歴代大統領邸宅、南北戦争の激戦地等々）を探訪する。

〔教材〕

追って、指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前研修中はもちろんのこと、研修中は事前に資料を読み、自らの課題を用意して臨むこと。また、講師はすべて実務者であり、講義内容も実践的であるから、事後の内容整理と思索が極めて重要な意味を持つ。研修期間中は宿舎にての予習、復習に十分な時間（標準は各2時間程度）を確保することが求められる。

〔成績評価の方法〕

課題レポート等（4割）と参加状況（6割）によって総合的に判断する。60点以上を合格とする。

〔備考〕

2年生以上を対象とする。なお、希望者多数の場合、人数制限を行うことがある。また、国際文化交流演習XI・国際文化交流演習XIIの両方を同時に履修することを原則とする。

共通科目
（外国語を除く）

〔授 業 計 画〕

前期に5～6回程度、事前研修を実施する。内容、期日については後ほど掲示する。

国際文化交流演習XIII（開発途上国研修1）

3738101300100

副題				担当者	伊藤 由紀子 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3

〔授業の到達目標〕

開発途上国の教育，国際協力活動の現場を知る・理解する

〔授業の内容〕

国際文化交流実習XIIIは，国際文化交流実習XIV（2016年2月上旬に実施されるバングラデシュ，または別の国での10日間程度の研修）を履修・参加する学生を対象にした授業です。バングラデシュ，または別の国における国際協力の現状とその課題を学びます。研修実施国を訪問する前の学習により得たその国のイメージと，現地での実体験を比較しながら，開発途上国での様々な社会現象や国際協力・交流をより主体的に考察することを目指します。

平成27年度は，「開発途上国の教育」および「国際協力活動」に焦点を当てて，講義（外務省，JICA，NGO等）と演習を織り交ぜながら，授業を進めてゆきます。詳細は，夏休み前後に開催される国際文化交流実習XIIIおよびXIVのためのガイダンスで確認してください。

〔教材〕

60 Million Girls (Save the Children)をはじめとしたものは，授業内で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業内で指定される文献等に関わるレポート，受講した授業の感想等の予習・復習が必要です。およそ3～4時間を予定しましょう。

〔成績評価の方法〕

出欠席20%，レポート60%，研修にむけての準備姿勢20%

〔備考〕

本科目は，国際文化交流実習XIVを履修し，バングラデシュ（または別の国で行われる）国際協力研修に参加する学生を対象としています（国際協力研修については国際文化交流実習XIVを参照してください）ので，履修にあたっては注意してください（＝国際協力研修に参加する学生のみ履修が認められ，単位が取得できます）。

ガイダンスを実施しますので履修希望者は必ず出席し，履修を決めてください。

ガイダンスに参加した方のみ履修が認められます。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 ワークシヨップ
- 第3週 60 Million Girls (1)
- 第4週 60 Million Girls (2)
- 第5週 「教育」に関わる発表 (1)
- 第6週 教育についての講義・ワークシヨップ
- 第7週 国際協力機構 (JICA) 講義
- 第8週 「教育」に関わる発表 (2)
- 第9週 NGOに関わる講義 (1)
- 第10週 NGOについての発表
- 第11週 NGOに関わる講義 (2)
- 第12週 NGOについての発表
- 第13週 研修実施国に関わる講義
- 第14週 リスク管理
- 第15週 まとめ

副題				担当者	伊藤 由紀子 教授	
単位	2	開講期間	秋学期集中	曜日		時限

〔授業の到達目標〕

開発途上国を訪問し、国際協力の現場を知る

〔授業の内容〕

グローバル化、NGO、ボランティア、国際援助・協力・交流という言葉は、その実体よりもイメージだけが先行していることが多い。つまり、多くの人は、テレビ・新聞などのマスメディアを通して、こうした国際化の時流や現象、国際協力の組織や活動に関する漠然としたイメージと興味を持つ。しかしながら、その明確な意義、成果、そして自分との関連付け（参加）について考える際に、それを判断すべき、主体的かつ有効な術を有していないことが多い。

こうした問題の解決の1つとして、講義による机上の学習と、自らの主体的な実体験を合わせたもの（＝より自分の身近な事象、活動として位置づける）が、本実習である。本実習に参加することにより、より鮮明な問題認識とその問題解決法を模索することへと繋がるはずである。

本実習では、開発途上国を訪問し、人々と交流しながら、政府・NGO等の援助事業の実態に触れる機会を提供する。研修実施国への渡航前の事前学習として、当該国に関する知識（歴史・政治・社会等、言語、国際援助、NGO等）を学ぶ。事前学習による当該国のイメージと、現地での実体験を比較しながら、実習参加者一人一人に、開発途上国での様々な社会現象や国際協力・交流をより主体的に考察・体験してもらうことが、本実習の最大の目的である。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

国際文化交流演習XIII（開発途上国研修1）と並行して、現地での活動のための準備が必要になります。

〔成績評価の方法〕

研修実施国への渡航前・現地・渡航後でのそれぞれの活動・課題への取り組みを総合的に評価

〔備考〕

本科目は、国際文化交流実習XIIIを履修する学生を対象としていますので、履修にあたっては注意してください（＝国際文化交流実習XIIIを履修する学生のみ履修が認められ、単位が取得できます）。ガイダンスを実施しますので、必ず参加して下さい。

〔授業計画〕

2月上旬に実施

生活文化演習I (染色)

3753100100100

副 題				担 当 者	佐久間 敏子 講師		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	水	時 限	3

〔授業の到達目標〕

日本の伝統工芸として現代に継承されている染色について、その歴史や技法を知り、作品制作することでより理解を深めることができる。

〔授業の内容〕

染色の基礎的知識についての講義。より理解を深めるため沖縄の伝統工芸「紅型」によるテーブルセンターの制作を指導する。

〔教材〕

授業時にプリント配布。紅型図録。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布プリントに目を通し、各自制作進度の確認をしておく。

〔成績評価の方法〕

提出作品（50％）理解度の確認（40％）作品鑑賞レポート（10％）により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 染色についての歴史・種類
- 第2週 紅型についての歴史・種類
- 第3週 紅型の用具・用布について
- 第4週 紅型の型紙について（型置）
- 第5週 豆汁・染液について（地入れ）
- 第6週 色差しの方法について（色差し）
- 第7週 〃
- 第8週 くまどりについて（色差し）
- 第9週 〃
- 第10週 仕上げの方法について（色差し）
- 第11週 仕上げの方法について（水元）
- 第12週 現代の染色について（水元）
- 第13週 現代の染色について（仕上げ）
- 第14週 作品の講評
- 第15週 まとめと解説

生活文化演習II（刺繍）

3753100200100

副題				担当者	佐久間 敏子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3

〔授業の到達目標〕

仏教伝来と共に伝えられたという日本刺繍について、その歴史や技法を知り、実技を通してより理解を深めることができる。

〔授業の内容〕

日本刺繍の基礎的知識についての講義。絹布・絹糸を使い、伝統模様の梅や桜の花の刺繍方法を指導する。

〔教材〕

授業時にプリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布プリントに目を通し、各自制作進度の確認をしておく。

〔成績評価の方法〕

提出作品（50％）理解度の確認（40％）作品鑑賞レポート（10％）により評価する。

〔備考〕

共通科目
（外国語を除く）

〔授 業 計 画〕

- 第1週 刺繍についての歴史・種類
- 第2週 用具について（台張りの準備）
- 第3週 台張りについて（台張りをする）
- 第4週 針の種類・扱い方（木綿糸での練習）
- 第5週 糸の種類・扱い方（糸縫いの練習）
- 第6週 面の表現について（梅の花びらの縫り糸の繡切り）
- 第7週 〃
- 第8週 厚みの表現について（梅の花びらの肉入れ）
- 第9週 平糸の扱い方について（梅の花びらの平糸の繡切り）
- 第10週 〃
- 第11週 平糸の扱い方について（桜の花びらの平糸の繡切り）
- 第12週 線の表現について（唐草のまつい繡）
- 第13週 点の表現について（花びらの中央に相良繡）
- 第14週 仕上げについて
- 第15週 まとめと解説

生活文化演習Ⅲ（食品製造）

3753100300100

副 題	食品製造			担 当 者	阿部 誠 教授		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	水	時 限	2

〔授業の到達目標〕

食品の製造の実際と原理を理解できるようになる。

〔授業の内容〕

生活文化の中核を構成する食文化への理解を深めるために、どのようにして製造されるのかを中心に食品について学ぶ。食品の製造法やその原理について講義するとともに、食品製造の体験や製造原理に関わる実験・実習を行って理解を深める。

〔教材〕

プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、前回の授業での疑問点を調査し不明な個所について質問できるようにして臨むこと。

〔成績評価の方法〕

レポートの評価（約50%）と授業への参加状況の評価（約50%）を合わせて成績評価する。ただし、授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔備考〕

履修人数に制限があります。共通科目の事前調整を受けて下さい。

共通科目
（外国語を除く）

〔授 業 計 画〕

- 第1週 はじめに（授業の進め方）
- 第2週 小麦の特性と利用
- 第3週 小麦種子と小麦粉の性質 1
- 第4週 小麦種子と小麦粉の性質 2
- 第5週 小麦粉の吸水とドウの形成 1
- 第6週 小麦粉の吸水とドウの形成 2
- 第7週 グルテンの性質 1
- 第8週 グルテンの性質 2
- 第9週 パン製造 1
- 第10週 パン製造 2
- 第11週 大豆の特性と利用 1
- 第12週 大豆の特性と利用 2
- 第13週 豆乳の調製と凝固
- 第14週 豆腐の製造
- 第15週 まとめ

授業計画は変更することがある。

生活文化演習Ⅳ（食品加工）

3753100400100

副題	食品加工			担当者	阿部 誠 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

食品加工の原理と実際を理解できるようになる。

〔授業の内容〕

食品の保存性を高め、消化性、栄養的価値を向上させ、嗜好性を付与するなど、我々の食生活を豊かにしてきた加工技術と加工食品について、原理と実際を理解し食文化的な意義を考えていく。発酵食品を中心に食品加工について講義し、食品加工の実際を体験すると共に関連した実験・実習を行って理解を深める。

〔教材〕

プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、前回の授業での疑問点を調査し不明な個所を質問できるようにして臨むこと。

〔成績評価の方法〕

レポートの評価（約50%）と授業への参加状況の評価（約50%）を合わせて成績評価する。ただし、授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔備考〕

履修人数に制限があります。共通科目の事前調整を受けて下さい。

共通科目
（外国語を除く）

〔授業計画〕

- 第1週 はじめに（授業の進め方）
- 第2週 食品加工と微生物 1
- 第3週 食品加工と微生物 2
- 第4週 食品加工と微生物 3
- 第5週 アルコール発酵の条件
- 第6週 アルコール発酵と酒
- 第7週 麹の利用 1
- 第8週 麹の利用 2
- 第9週 麹の利用 3
- 第10週 発酵食品 1
- 第11週 発酵食品 2
- 第12週 乳の性質と加工 1
- 第13週 乳の性質と加工 2
- 第14週 乳の性質と加工 3
- 第15週 まとめ

授業計画は変更することがある。

副題	製図の基礎と住空間の設計			担当者	渡邊 保弘 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4

〔授業の到達目標〕

住いへの理解は、自らが設計を行うことが一つの有力な方法である。このためには、住まいの空間を的確に表現する技術を身につけることが必須となる。本演習は建築図面の基本的な表現技術を体得し、個々の住まいのあるべき形（家庭に於ける社会性を含む）を考え、その形を図面化する事を目標とする。

〔授業の内容〕

本演習では、その目標に対し下記の課題を行ない、その他建築および建築家を調べレポートを提出する。

1. 製図について：製図道具の扱い方、線の引き方の基本から始め、基本となる住宅設計図面（平面図、立面図、断面図、配置図、詳細図）の読み取り方と描き方、プレゼンテーションの技術を図面のトレースを通して学び、住宅の空間構成を理解する。

2. 設計1：メゾネット形式住宅のインテリアを独自に立案する（平面図）。

3. 設計2：ル・コルビジェの代表作の一つとして名高い集合住宅ユニテ・ダビタシオン（マルセイユ）を学び、その二層になった空間が使用出来るメゾネット形式住宅の改装計画を立案する（平面図）。

〔教材〕

基本的な講義および演習資料を実習中に配布し、補完的なものについてはその都度指示をする。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

実習中に配布する演習資料の熟読、デザイン実習や改装計画作成実習の試作検討等が授業外での予習・復習として求められる。それぞれ週2～4時間程度。

〔成績評価の方法〕

提出された設計課題およびレポートの評価、設計プロセス（いかに試行錯誤したか、デザインポリシーが明確かを演習時に個々のエスキース、スケッチより確認する）、出席を含めた総合評価。

〔備考〕

現代の住宅では失われつつある日本の伝統的住居についても学習したい。

〔授業計画〕

第1週	建築、建築家、基本的設計技術／講義
第2週	基本図のトレースで学ぶ住宅設計／実技
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	メゾネット形式集合住宅のデザイン／講義、実技
第7週	メゾネット形式集合住宅のデザイン／実技
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	ユニテ・ダビタシオンと改装計画／講義、実技
第12週	ユニテ・ダビタシオンと改装計画／実技
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

演習室の蔵書の閲覧や住宅展示場の訪問などで、多くの建物に接し知見を広めて実習に取り組んでもらいたい。

生活文化演習VI（空間造形）

3753100600100

共通科目
（外国語を除く）

副題	空間の立体表現と住宅設計			担当者	渡邊 保弘 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4

〔授業の到達目標〕

住いへの理解は、自らが設計を行うことが一つの有力な方法である。このためには、住まいの空間を的確に表現する技術を身につけることが必須となる。本演習は生活文化実習V（空間造形）で習得した諸事項を基礎として、住空間についての理解を深めるとともに、現代の都市および郊外に於ける住まいの差を考察しながら、個々が思考する住居空間の実作をめざす。

〔授業の内容〕

秋学期を通じて一戸建ての住宅の設計（主に平面計画）を行ないながら、空間表現に不可欠な立体表現の方法（透視図法・パース）や色彩計画（カラーコーディネイト）の基礎を学び、最終的にはそれらの表現を取り入れた住宅設計を課題として提出する。

〔教材〕

実習中に配布あるいは指示をする。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

実習中に配布する演習資料の熟読、設計演習の試作検討が授業外の予習・復習として求められる。それぞれ週2～4時間程度。

〔成績評価の方法〕

提出された課題およびレポートの評価、設計プロセス（いかに試行錯誤したか、デザインポリシーが明確か）、出席を含めた総合評価。

〔備考〕

現代の住宅では失われつつある日本の伝統的住居について、その歴史的変遷や伝統的な設計システムについての講義を行う。生活文化実習V（空間造形）に続けて履修することが望ましい。

〔授 業 計 画〕

第1週	住宅設計（秋学期を通じて徐々に考えていく）／講義	
第2週	〃／実技	
第3週	〃	
第4週	〃／実技,	併せて色彩設計（カラーコーディネイト）／講義
第5週	〃／実技,	〃／実技
第6週	〃	
第7週	〃	
第8週	〃	
第9週	〃	
第10週	〃	
第11週	〃	
第12週	〃／実技,	併せて透視図法（パース）／講義
第13週	〃／実技,	〃／実技
第14週	〃	
第15週	〃	

実習室の蔵書の閲覧や住宅展示場の訪問などで、多くの建物に接し知見を広めて実習に取り組んでもらいたい。

ボランティア演習

3754100100100

副題	国際協力NGOでボランティアを体験する			担当者	野口 朝夫 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	土	時限	2

〔授業の到達目標〕

このたびの東日本大震災に際し、NGO、NPOが現地で様々な活動を展開した。このような災害、戦争などの緊急支援活動などを通じ、さらに近年の環境問題などで話題になるNGO (Non-Governmental Organizations) = 非政府組織だが、日本では社会のセクターとして認知されてまだ日が浅く、その幅広い活動や考え方は、充分には知られていない。そこで、長くラオスで識字教育分野の協力支援を続けている「特定非営利活動法人ラオスのこども」の活動を、実際にボランティアとして体験することで、NGOとは何か、何を目的としているのか、どのような活動をしているのかなどを学ぶ。

〔授業の内容〕

NGOの活動分野やさまざまな考えなどを講義で学んだ上で、「ラオスのこども」東京事務所などでの業務補助体験、イベント参加などを体験し、さらに自らがボランティアとして担う学内でのイベントプログラムを企画立案し実施する。

この授業は、教室での講義と学外での活動により構成される。学外での授業は、一回に約2コマ分の時間をかけるものとする。詳細なスケジュールは第1回の授業時に説明をおこなう。履修を希望している学生は必ず出席すること。欠席の場合は履修できない。

〔教材〕

教材は用いない

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ボランティアの活動記録を毎回つけ、活動の意味を考察すること
学内イベントの準備は、担当に応じ、授業時間外に各自積極的におこなう

〔成績評価の方法〕

・出席率 70% 学期末レポート 10% 授業への参加姿勢 20% の割合で評価をおこなう。

〔備考〕

受講者は、授業への積極的参加が求められる。そのため、ボランティア活動に関心が深いことを前提とする。実習は日曜日など、曜日と時間を変えておこなわれることがある。また、春学期の「ボランティア論1」とともに、本授業を選択することが望ましい。

〔授業計画〕

第1週	ボランティアって何か ボランティアの意味を考える 講義
第2週	さまざまなNGO活動を知る 講義
第3週	学外でのボランティア体験と学内イベントの企画および準備以降、毎週定期的に実習をおこなうとは限らない
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	学内イベントを企画し、実施する
第15週	活動をふり返る 講義

授業計画は、変更になることがある。学内での講義以外は、大田区西馬込にある特定非営利活動法人ラオスのこども事務所やイベント会場など、学外にて実務体験をおこなう。その際の交通費などの経費は自己負担となる。

副題	社会人として必要なマナー知識や作法を学ぶ			担当者	明石 伸子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4

〔授業の到達目標〕

この授業は、マナーの基礎知識を総合的に学習することで、日本人として社会人として自信がもてるようになることを目標としています。また、実習を通じて美しい所作ができるようにするとともに、好感度を高めてより美しく輝く女性を育てます。

〔授業の内容〕

礼儀や作法を身につけることは社会人として必要なだけでなく、より魅力的な女性になるための大切な要素です。さらにオリンピック&パラリンピックの開催が決まり、外国人と接する機会が増えるのでプロトコルの基本についてはぜひ知っておいて欲しいものです。具体的には社会人として大切なビジネスマナー、食事のいただき方、人つき合いに不可欠な冠婚葬祭のしきたり、日本人として知っておいて欲しい年中行事などをトータルで学習します。また、相手を大切にすることを上手に伝えるための所作や立ち居振る舞いのポイントについても確認します。

マナーは一見堅苦しいもののように思われるかもしれませんが、むしろ知っていると便利だったり、自分自身をより美しく輝かせてくれるものです。また、よりよい人間関係を築くために必要なコミュニケーションスキルの要素もあります。社会に出る前に、トータルなマナーの知識を確認するのがこの授業の内容です。

〔教材〕

教科書：特定非営利活動法人日本マナー・プロトコル協会『改訂版「さすが！」といわせる大人のマナー講座』第1版12刷以降の版、株式会社P H P研究所、2014年
指定のテキストで学習します。「改訂版」の最新版を購入してください。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業範囲の内容について事前にテキストを確認してください。

〔成績評価の方法〕

出席と授業態度（50%）、2回の小テスト（20%）、期末テスト（30%）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | | |
|------|-----------------|---------------------------------|
| 第1週 | オリエンテーション | ～礼儀や作法、プロトコルとは何か、お辞儀の練習～ |
| 第2週 | 好感度を高めるポイント | ～第一印象の重要性、印象を決定する要素について～ |
| 第3週 | 自己の印象を高める | ～自己紹介の仕方、笑顔、歩き方、姿勢、話し方を確認する～ |
| 第4週 | 言葉遣いと話し方の確認 | ～正しい敬語や丁寧な話し方～ |
| 第5週 | 外国の習慣について知る | ～プロトコルの5原則、席次、国旗、握手、異文化を知る～ |
| 第6週 | 和食の作法 | ～DVD視聴後知識の確認、正しい箸使い、忌み箸などの確認～ |
| 第7週 | 洋食のテーブルマナー | ～DVD視聴後知識の確認、カトラリーの使い方などの確認～ |
| 第8週 | 手紙の書き方とビジネス文書 | ～手紙の形式、正式な手紙を書いてみる～ |
| 第9週 | ビジネスマナー | ～社会人意識、訪問やお付き合いの仕方、名刺交換、来客対応など～ |
| 第10週 | 通過儀礼とは何か | ～帯祝いから長寿の祝いまでの知識の確認～ |
| 第11週 | 結婚のしきたりとパーティの種類 | ～知識の確認、祝儀袋とふくさの使い方など～ |
| 第12週 | 葬儀のしきたりと贈答のしきたり | ～知識の確認、不祝儀袋、焼香の仕方など～ |
| 第13週 | 日本の年中行事 | ～四季折々の日本に伝わる祭礼の種類、神社の参拝の仕方など～ |
| 第14週 | 授業の総括 | ～理解度の確認とまとめ～ |
| 第15週 | 〃 | |

共通科目（外国語）

平成 27 年度授業科目および担当者

講 義 内 容（シラバス）

共通科目（外国語） 平成27年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次			学期	単位	担当者	頁
			日文	配	英				
外国語科目 1群	BASIC LISTENING A	ヒアリング養成 ステップNO.1	-	-	1	春	2	岩崎 光洋	670
	BASIC LISTENING B		-	-	1	春	2	伊藤 直美	671
	BASIC LISTENING C		-	-	1	春	2	C. ウィン	672
	BASIC LISTENING D		-	1	-	春	2	M.ボルコシュコ	673
	BASIC LISTENING E		-	1	-	春	2	伊藤由紀子	674
	BASIC LISTENING F		-	1	-	春	2	伊藤由紀子	675
	BASIC LISTENING G		-	1	-	春	2	岡本 広毅	676
	BASIC LISTENING H	TOEIC listening 部門強化	-	1	-	春	2	古庄 信	677
	BASIC LISTENING I		-	1	-	春	2	坂本 裕子	678
	BASIC LISTENING J	英語リスニング能力の向上	-	1	-	春	2	成田 奈央	679
	BASIC LISTENING K	英語リスニング能力の向上	-	1	-	春	2	成田 奈央	680
	BASIC LISTENING L		1	-	-	春	2	水谷 利美	681
	BASIC LISTENING M		1	-	-	春	2	渡辺 幸俊	682
	BASIC LISTENING N		1	-	-	春	2	渡辺 幸俊	683
	BASIC LISTENING O		1	-	-	春	2	W. トング	684
	BASIC LISTENING P		1	-	-	春	2	大石美恵子	685
	BASIC LISTENING Q		1	-	-	春	2	大石美恵子	686
	NEWS LISTENING A	ヒアリング養成 ステップNO.2	-	-	1	秋	2	岩崎 光洋	687
	NEWS LISTENING B		-	-	1	秋	2	伊藤 直美	688
	NEWS LISTENING C		-	-	1	秋	2	C. ウィン	689
	NEWS LISTENING D		-	1	-	秋	2	M.ボルコシュコ	690
	NEWS LISTENING E	英語リスニング能力の向上	-	1	-	秋	2	伊藤由紀子	691
	NEWS LISTENING F	英語リスニング能力の向上	-	1	-	秋	2	伊藤由紀子	692
	NEWS LISTENING G		-	1	-	秋	2	岡本 広毅	693
	NEWS LISTENING H	Listening practice with BBC news	-	1	-	秋	2	古庄 信	694
	NEWS LISTENING I		-	1	-	秋	2	坂本 裕子	695
	NEWS LISTENING J	英語リスニング能力の向上	-	1	-	秋	2	成田 奈央	696
	NEWS LISTENING K	英語リスニング能力の向上	-	1	-	秋	2	成田 奈央	697
	NEWS LISTENING L		1	-	-	秋	2	水谷 利美	698
	NEWS LISTENING M		1	-	-	秋	2	渡辺 幸俊	699
	NEWS LISTENING N		1	-	-	秋	2	渡辺 幸俊	700
	NEWS LISTENING O		1	-	-	秋	2	W. トング	701
	NEWS LISTENING P		1	-	-	秋	2	大石美恵子	702
NEWS LISTENING Q		1	-	-	秋	2	大石美恵子	703	
BASIC READING A		-	-	1	春	2	R. S. ジョーンズ	704	
BASIC READING B		-	-	1	春	2	K. フォード	705	

（共通科目）
外国語

共通科目（外国語） 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次			学期	単位	担当者	頁
			日文	国語	英コミ				
外国語科目 1 群	BASIC READING C		-	-	1	春	2	伊藤 直美	706
	BASIC READING D		-	1	-	春	2	A. パラスキ	707
	BASIC READING E	Reading and Improving your Vocabulary	-	1	-	春	2	R. ジョーンズ	708
	BASIC READING F		-	1	-	春	2	横江百合子	709
	BASIC READING G		-	1	-	春	2	P. アブス	710
	BASIC READING H		-	1	-	春	2	小倉 雅明	711
	BASIC READING I		-	1	-	春	2	C. L. イヤリー	712
	BASIC READING J		1	-	-	春	2	G. デイオリオ	713
	BASIC READING K		1	-	-	春	2	坂本 裕子	714
	BASIC READING L		1	-	-	春	2	橋本ナターシャ	715
	BASIC READING M		1	-	-	春	2	T. スコット	716
	BASIC READING N	「段落」から " paragraph " へ	1	-	-	春	2	式町真紀子	717
	READING & WRITING A		-	-	1	秋	2	R. S. ジョーンズ	718
	READING & WRITING B		-	-	1	秋	2	K. フォード	719
	READING & WRITING C		-	-	1	秋	2	伊藤 直美	720
	READING & WRITING D		-	1	-	秋	2	A. パラスキ	721
	READING & WRITING E	Reading for Enjoyment and Improvement of Vocabulary	-	1	-	秋	2	R. ジョーンズ	722
	READING & WRITING F		-	1	-	秋	2	横江百合子	723
	READING & WRITING G		-	1	-	秋	2	P. アブス	724
	READING & WRITING H		-	1	-	秋	2	小倉 雅明	725
	READING & WRITING I		-	1	-	秋	2	C. L. イヤリー	726
	READING & WRITING J		1	-	-	秋	2	G. デイオリオ	727
	READING & WRITING K		1	-	-	秋	2	坂本 裕子	728
	READING & WRITING L		1	-	-	秋	2	橋本ナターシャ	729
	READING & WRITING M		1	-	-	秋	2	T. スコット	730
	READING & WRITING N	「段落」から " paragraph " へ	1	-	-	秋	2	式町真紀子	731
	SPEAKING PRACTICE A		-	-	1	春	2	J. テスター	732
	SPEAKING PRACTICE B		-	-	1	春	2	小倉 雅明	733
	SPEAKING PRACTICE C		-	-	1	春	2	岡本 広毅	734
	SPEAKING PRACTICE D		-	2	-	春	2	A. パラスキ	735
SPEAKING PRACTICE E		-	2	-	春	2	吉富 昇	736	
SPEAKING PRACTICE F		-	2	-	春	2	K. フォード	737	
SPEAKING PRACTICE G		-	2	-	春	2	R. S. ジョーンズ	738	
SPEAKING PRACTICE H		-	2	-	春	2	P. アブス	739	
SPEAKING PRACTICE I		-	2	-	春	2	谷口めぐみ	740	
SPEAKING PRACTICE J		-	2	-	春	2	山科美智子	741	

共通科目（外国語） 平成27年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次			学期	単位	担当者	頁	
			日文	配	英					
外国語科目 1群	SPEAKING PRACTICE K		-	2	-	春	2	橋本ナターシャ	742	
	SPEAKING PRACTICE L		-	2	-	春	2	横江百合子	743	
	SPEAKING PRACTICE M	Let's Have Fun Speaking English Together!	2	-	-	春	2	R. ジョーンズ	744	
	SPEAKING PRACTICE N		2	-	-	春	2	W. トング	745	
	SPEAKING PRACTICE O		2	-	-	春	2	式町眞紀子	746	
	SPEAKING PRACTICE P		2	-	-	春	2	吉富 昇	747	
	SPEAKING PRACTICE Q		2	-	-	春	2	中山 千尋	748	
	SPEAKING PRACTICE R		2	-	-	春	2	矢田 陽子	749	
	SPEAKING PRACTICE S		2	-	-	春	2	M. ゲッセル	750	
	SPEAKING SKILLS A		-	-	1		秋	2	J. テスター	751
	SPEAKING SKILLS B		-	-	1		秋	2	小倉 雅明	752
	SPEAKING SKILLS C		-	-	1		秋	2	岡本 広毅	753
	SPEAKING SKILLS D		-	2	-		秋	2	A. パラスキ	754
	SPEAKING SKILLS E		-	2	-		秋	2	吉富 昇	755
	SPEAKING SKILLS F		-	2	-		秋	2	K. フォード	756
	SPEAKING SKILLS G		-	2	-		秋	2	R. S. ジョーンズ	757
	SPEAKING SKILLS H		-	2	-		秋	2	P. アプス	758
	SPEAKING SKILLS I		-	2	-		秋	2	谷口めぐみ	759
	SPEAKING SKILLS J		-	2	-		秋	2	山科美智子	760
	SPEAKING SKILLS K		-	2	-		秋	2	橋本ナターシャ	761
	SPEAKING SKILLS L		-	2	-		秋	2	横江百合子	762
	SPEAKING SKILLS M	Let's Enjoy Speaking More and More English Together!	2	-	-		秋	2	R. ジョーンズ	763
	SPEAKING SKILLS N		2	-	-		秋	2	W. トング	764
	SPEAKING SKILLS O		2	-	-		秋	2	式町眞紀子	765
	SPEAKING SKILLS P		2	-	-		秋	2	吉富 昇	766
	SPEAKING SKILLS Q		2	-	-		秋	2	中山 千尋	767
	SPEAKING SKILLS R		2	-	-		秋	2	矢田 陽子	768
	SPEAKING SKILLS S		2	-	-		秋	2	M. ゲッセル	769
	INTENSIVE READING & WRITING A		-	-	2		春	2	G. R. ファリア	770
	INTENSIVE READING & WRITING B		-	-	2		秋	2	G. R. ファリア	771
	INTENSIVE READING & WRITING C		-	2	-		春	2	山科美智子	772
	INTENSIVE READING & WRITING D		-	2	-		秋	2	山科美智子	773
	INTENSIVE READING & WRITING E		-	2	-		春	2	W. トング	774
INTENSIVE READING & WRITING F		-	2	-		秋	2	W. トング	775	
INTENSIVE READING & WRITING G		-	2	-		春	2	吉富 昇	776	
INTENSIVE READING & WRITING H		-	2	-		秋	2	吉富 昇	777	

（共通科目）
外国語

共通科目（外国語） 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次			学期	単位	担当者	頁	
			日文	国語	英コミ					
外国語科目 1 群	INTENSIVE READING & WRITING I		—	2	—	春	2	鈴木 美穂	778	
	INTENSIVE READING & WRITING J		—	2	—	秋	2	鈴木 美穂	779	
	INTENSIVE READING & WRITING K		2	—	—	春	2	水谷 利美	780	
	INTENSIVE READING & WRITING L		2	—	—	秋	2	水谷 利美	781	
	INTENSIVE READING & WRITING M		2	—	—	春	2	M.ボルコシュコ	782	
	INTENSIVE READING & WRITING N		2	—	—	秋	2	M.ボルコシュコ	783	
	INTENSIVE READING & WRITING O		2	—	—	春	2	M. ゲッセル	784	
	INTENSIVE READING & WRITING P	Skills for Success 2 Reading and Writing	2	—	—	秋	2	M. ゲッセル	785	
	INTENSIVE READING & WRITING Q		2	—	—	春	2	水谷 利美	786	
	INTENSIVE READING & WRITING R		2	—	—	秋	2	水谷 利美	787	
外国語科目 2 群	フランス語 基礎 I A			1	—	春	2	井上 美穂	788	
	フランス語 基礎 I B			1	—	春	2	井上 美穂	789	
	フランス語 基礎 II A			1	—	秋	2	井上 美穂	790	
	フランス語 基礎 II B			1	—	秋	2	井上 美穂	791	
	フランス語 応用 I			2	—	春	2	井上・篠原	792	
	フランス語 応用 II			2	—	秋	2	井上・篠原	793	
	ドイツ語 基礎 I A			1	—	春	2	柿沼・小出	794	
	ドイツ語 基礎 I B			1	—	春	2	小出・平井	795	
	ドイツ語 基礎 II A			1	—	秋	2	柿沼・小出	796	
	ドイツ語 基礎 II B			1	—	秋	2	小出・平井	797	
	ドイツ語 応用 I			2	—	春	2	柿沼・平井	798	
	ドイツ語 応用 II			2	—	秋	2	柿沼・平井	799	
	イタリア語 基礎 I A	覚えた表現を使ってみよう			1	—	春	2	岡田・カルーディス	800
	イタリア語 基礎 I B				1	—	春	2	カルーディス・菅野	801
	イタリア語 基礎 II A	積極的にイタリア語で表現してみよう			1	—	秋	2	岡田・カルーディス	802
	イタリア語 基礎 II B				1	—	秋	2	カルーディス・菅野	803
	イタリア語 応用 I	イタリア語基礎学力の向上			2	—	春	2	岡田・菅野	804
	イタリア語 応用 II	イタリア語基礎学力の向上			2	—	秋	2	岡田・菅野	805
	スペイン語 基礎 I	さあ、スペイン語を始めよう！			1	—	春	2	木下 雅夫	806
	スペイン語 基礎 II	スペイン語を続けよう！			1	—	秋	2	木下 雅夫	807
	スペイン語 応用 I	スペイン語でコミュニケーションしましょう！			2	—	春	2	木下 雅夫	808
	スペイン語 応用 II	スペイン語でコミュニケーションしましょう！			2	—	秋	2	木下 雅夫	809
	中国語 基礎 I A				1	—	春	2	朴・松本	810
	中国語 基礎 I B				1	—	春	2	金野 純	811
中国語 基礎 I C				1	—	春	2	朴・松本	812	
中国語 基礎 II A				1	—	秋	2	朴・松本	813	

共通科目（外国語） 平成 27 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	配当年次			学期	単位	担当者	頁
			日文	英	米				
外国語科目 2群	中国語 基礎ⅡB		1～			秋	2	金野 純	814
	中国語 基礎ⅡC		1～			秋	2	朴 ・ 松本	815
	中国語 応用Ⅰ	基礎中国語からさらなる一歩	2～			春	2	斉 霞	816
	中国語 応用Ⅱ	リスニング中国語	2～			秋	2	斉 霞	817
	韓国語 基礎ⅠA	楽しく学ぶ韓国語会話	1～			春	2	羅 ・ 申	818
	韓国語 基礎ⅠB	楽しく学ぶ韓国語会話	1～			春	2	羅 ・ 申	819
	韓国語 基礎ⅡA	楽しく学ぶ韓国語会話	1～			秋	2	羅 ・ 申	820
	韓国語 基礎ⅡB	楽しく学ぶ韓国語会話	1～			秋	2	羅 ・ 申	821
	韓国語 応用Ⅰ	実践的な韓国語学習	2～			春	2	羅 ・ 李	822
	韓国語 応用Ⅱ	実践的な韓国語学習	2～			秋	2	羅 ・ 李	823
	日本語ⅠA	聴解力と会話力を高める	1～			春	2	篠崎 佳子	824
	日本語ⅠB	漢字・聴解	1～			春	2	滝本いずみ	825
	日本語ⅠC	漢字・聴解	1～			春	2	滝本いずみ	826
	日本語ⅡA	聴解力と会話力を高める	1～			秋	2	篠崎 佳子	827
	日本語ⅡB	漢字・聴解	1～			秋	2	滝本いずみ	828
	日本語ⅡC	漢字・聴解	1～			秋	2	滝本いずみ	829
	日本語ⅢA	日本語の読解・文法を学ぶ。日本を深く理解する	1～			春	2	野口 直子	830
	日本語ⅢB	文法・読解	1～			春	2	新井恵美子	831
	日本語ⅢC	文法・読解	1～			春	2	及川千代香	832
	日本語ⅣA	日本語を通して日本を深く理解する	1～			秋	2	野口 直子	833
	日本語ⅣB	文法・読解	1～			秋	2	新井恵美子	834
	日本語ⅣC	文法・読解	1～			秋	2	及川千代香	835
	日本語ⅤA	大学で学ぶために必要な日本語 1	1～			春	2	松本 祥子	836
	日本語ⅤB	発信するための日本語へ	1～			春	2	野口 直子	837
	日本語ⅤC	書く力・話す力を高める	1～			春	2	加藤 陽子	838
	日本語ⅥA	大学で学ぶために必要な日本語 2	1～			秋	2	松本 祥子	839
	日本語ⅥB	発信するための日本語へ	1～			秋	2	野口 直子	840
	日本語ⅥC	書く力・話す力を高める	1～			秋	2	加藤 陽子	841

（共通科目）
外国語

BASIC LISTENING A

3715030100100

副題	ヒアリング力養成 ステップNO.1			担当者	岩崎 光洋 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

ナチュラルスピードの英語を「聞く」「話す」能力の育成・習得

〔授業の内容〕

時事英語，アメリカの映画・テレビ等の作品から，様々なスチュエーションのもとで話される会話の英語を聞き取り，よりナチュラルなスピードとリズムで「話す」ことができるよう，トレーニングします。毎回小テストと，スピーキングの試験を随時実施します。

〔教材〕

教科書：渡辺・岩崎『CBS News Flash On DVD』第5版，成美堂，2008年
渡辺・岩崎『Roman Holiday』第1版，南雲堂，2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各2時間

〔成績評価の方法〕

小テストの成績 70% スピーキング・テスト 30%

〔備考〕

録音の都合上，遅刻は厳禁とします。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Weather Report
- 第2週 The War of the Roses
- 第3週 No Strings Attached
- 第4週 To Catch Thief
- 第5週 The West Wing
- 第6週 Baby Boom
- 第7週 When Harry Met Sally
- 第8週 Wall Street
- 第9週 27 Dresses
- 第10週 Post Grad
- 第11週 You've Got Mail
- 第12週 Brothers and Sisters
- 第13週 Days of Wine and Roses
- 第14週 Eli
- 第15週 Criminal Minds

録音の都合上，遅刻は厳禁とします。

副題					担当者	伊藤 直美 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

聞き取れれば言える。「今の分かった！」から始まるリスニングとコミュニケーション力の向上を目指します。
一字一句を聞きとる作業よりも内容把握、また相手がいる場合には会話につながるようリズム感のある英語を大切に授業です。

〔授業の内容〕

interactive (対話) また non-interactive (映画・ニュース) な題材をもとに
毎回 warm up-listening and dictation-check-other activities を行う
アクティビティーを取り入れた、参加型クラスです。
また、トピックに応じた presentation にもチャレンジします。

〔教材〕

教科書：Tom Kenny, *Listening Advantage 4*, CENGAGE Learning

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ただ聞くばかりでなく、トピックについての会話・スピーチ・映像について
"What do you think?" 意見が求められます。テキストに目を通し、
トピックについて考えてくること。苦手な「音」を意識して予習・復習すること。

〔成績評価の方法〕

テスト・ワークシート及び出席状況・授業への参加態度などの平常点を含め、
総合的に評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction & Guidance
第2週	Unit01: Learning a language (In order to) Unit01: Learning a language (I think)
第3週	Unit02: Education for life (I guess) Unit02: Education for life (What do you mean?)
第4週	Unit03: Attitudes toward work (I just want to) Unit03: Attitudes toward work (It sounds like)
第5週	Unit04: Hobbies (I'd love to) Unit04: Hobbies (What's the word?)
第6週	Review and check Unit05: Reading (Please be sure to)
第7週	Unit06: Consumerism (Sorry to interrupt) Unit06: Consumerism (It's difficult to)
第8週	Unit07: Ideal partner (Hopefully) Unit07: Ideal partner (So you mean)
第9週	Unit08: Co-workers (There's no need to) Unit08: Co-workers (Definitely)
第10週	Unit09: Historic figures (I was wondering if) Unit09: Historic figures (-or something)
第11週	Unit10: Globalization (on the other hand) Unit10: Globalization (let me finish)
第12週	Unit11: Earth's resources (one of my concern is) Unit11: Earth's resources (right, right, right)
第13週	Unit12: Discovery (especially) Unit12: Discovery (Changing the word)
第14週	Presentation
第15週	Review and check

各週のunitは授業の進度、時のニュースにより変動することがあります。

BASIC LISTENING C

3715030100300

副題					担当者	C. ウィン 教授	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	2 1
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>The goal of this course is to build vocabulary and develop listening skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>Through this course, students will build their listening comprehension skills for understanding social conversations, basic business dialogues, broadcasts and announcements. Students will practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.</p> <p>〔教材〕</p> <p>教科書：Tom Kenny, <i>Listening Advantage</i>, (ISBN: 978-1424002443) Heinle Cengage, 2010</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>Attendance 20%, Participation 10%, Homework 40%, Test 30%</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授業計画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Language Learning
- 第3週 Education
- 第4週 Work Attitudes
- 第5週 Hobbies
- 第6週 Reading
- 第7週 Consumerism
- 第8週 Comprehension Exercises
- 第9週 Life Partner
- 第10週 Co-workers
- 第11週 Historic Figures
- 第12週 Globalization
- 第13週 Earth Resources
- 第14週 Discovery
- 第15週 Comprehension Exercises

BASIC LISTENING D

3715030100400

副題					担当者	M. ポルコシュコ 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水土	時限	1/2

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their listening comprehension skills for understanding social conversations, basic business dialogues, broadcasts and announcements. Students will practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.

〔教材〕

教科書：Tammy LeRoi Gilbert & Bruce Rogers, *Listening Power 3*, Pearson Longman, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Please review what the teacher asks prior to the next lesson.

〔成績評価の方法〕

Evaluation for the course will be based primarily on attendance and participation. Some homework and quizzes will be given during the term.

〔備考〕

（共通科目）
外国語

〔授業計画〕

- 第1週 Introductions
- 第2週 Understanding Reduced Forms
- 第3週 Understanding Intonations
- 第4週 Understanding Idioms
- 第5週 Listening for Main Ideas
- 第6週 Making Inferences
- 第7週 Facts and Opinions
- 第8週 Review
- 第9週 Patterns of Organization
- 第10週 Organizing Notes
- 第11週 Omitting Unnecessary Words
- 第12週 Using Abbreviations
- 第13週 Determining Important Information
- 第14週 Note-Taking Practice
- 第15週 Review

BASIC LISTENING E

3715030100500

副題					担当者	伊藤 由紀子 教授	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	1 2

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their listening comprehension skills for understanding social conversations, basic business dialogues, broadcasts and announcements. Students will practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.

〔教材〕

教科書：深山晶子 村尾純子他『Insights 2015』金星堂，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に終了できなかった部分のディクテーションおよびその内容把握が復習，宿題です。
3～4時間を予定しましょう。

〔成績評価の方法〕

単語テスト25%，発表20%，モニタリング15%，ノート評価10%，学期末試験10%，出欠席15%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 High Tech Sushi -Go-Round
- 第2週 Facebook "Likes" and Twitter Followers Can Be Sold
- 第3週 Argentine Ants Invade Kobe
- 第4週 Let Me Do It!
- 第5週 The Foam Magician
- 第6週 Japanese Cars Mexicanized
- 第7週 Ever-Evolving Karaoke
- 第8週 Caffeine Kids All Around
- 第9週 Kyary Pamyu Pamyu's Success Abroad
- 第10週 Shinkansens Are GO!
- 第11週 Young Workers Wanted
- 第12週 Nothing Wasted
- 第13週 Call for Communicative Teachers
- 第14週 Indian Youths Finding Jobs
- 第15週 Never Stop Walking!

BASIC LISTENING F

3715030100600

副題					担当者	伊藤 由紀子 教授	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their listening comprehension skills for understanding social conversations, basic business dialogues, broadcasts and announcements. Students will practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.

〔教材〕

教科書：深山晶子 村尾純子他『Insights 2015』金星堂，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に終了できなかった部分のディクテーションおよびその内容把握が復習，宿題です。
3～4時間を予定しましょう。

〔成績評価の方法〕

単語テスト25%，発表20%，モニタリング15%，ノート評価10%，学期末試験10%，出欠席15%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 High Tech Sushi -Go-Round
- 第2週 Facebook "Likes" and Twitter Followers Can Be Sold
- 第3週 Argentine Ants Invade Kobe
- 第4週 Let Me Do It!
- 第5週 The Foam Magician
- 第6週 Japanese Cars Mexicanized
- 第7週 Ever-Evolving Karaoke
- 第8週 Caffeine Kids All Around
- 第9週 Kyary Pamyu Pamyu's Success Abroad
- 第10週 Shinkansens Are GO!
- 第11週 Young Workers Wanted
- 第12週 Nothing Wasted
- 第13週 Call for Communicative Teachers
- 第14週 Indian Youths Finding Jobs
- 第15週 Never Stop Walking!

BASIC LISTENING G

3715030100700

副 題					担 当 者	岡本 広毅 講師	
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	水 土	時 限	1 2

〔授業の到達目標〕

様々なトピックのリスニングに慣れ、自分の考えや思考を育む英語能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕

テキストはリスニング&スピーキングで構成されています。各ユニットのテーマに沿って学習し、英語のリスニングに慣れるだけでなく、自分の考えや思考を育む英語能力の向上を目指します。随時、その他の教材を用いながら英語という言語の豊かさ・多様性にも触れていきます。

〔教材〕

教科書：Margaret Brooks, *Q: Skills for Success--Listening and Speaking 2*, Oxford University Press, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

語彙やイディオム、表現などの復習。各授業+1時間。

〔成績評価の方法〕

出席状況（30%）、課題提出状況・授業参加態度（30%）、試験(40%) など総合的に評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	オリエンテーション
第2週	Unit1: Trends
第3週	〃
第4週	Unit2: Color
第5週	〃
第6週	Unit3: Courtesy
第7週	〃
第8週	中間復習, ミニテスト
第9週	Unit4: Games
第10週	〃
第11週	Unit5: Family Ties
第12週	〃
第13週	リスニング・ストラテジー
第14週	復習：文法・発音・イントネーション
第15週	理解度の確認

生徒の学習速度や状況に応じてそれぞれ変更する可能性がある。

副題	TOEIC listening 部門強化			担当者	古庄 信 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

毎回の授業におけるリスニング練習をとおして、履修者全員がTOEICにおけるスコア・アップを目指す。またTOEIC用テキストをとおして英語圏の文化を理解する。

〔授業の内容〕

テキストや副教材をとおして、「英語を聴く」ための基礎～応用練習を行う。Listening skill (聴く力) をアップするためには、ただ「聴く」だけでは不十分である。「聞こえたとおりに」すぐ復唱する(shadowing)練習と「聞こえてもスペルが頭に浮かばない単語」を減らしていく練習、さらに「聞こえない音を文法的に補う練習(grammaral listening)をバランスよく行うことでリスニング力を向上していく。

〔教材〕

教科書：Kayoko Shiomi & Tony Cripps, *Tune up for for the TOEIC TEST*, 成美堂, 2009

テキストはTOEICのリスニング4部門(Part 1～Part 4)における強化を図るよう編纂されている。また受講生が単なるTOEIC練習で終わることなく、日常生活から文化、環境、社会問題と幅広い分野でのトピックが題材として取り入れられている。

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

授業で使用する該当ページの予習・復習を必ず実行すること。予習・復習には各1時間半以上を取ること。

〔成績評価の方法〕

主として毎回の授業終了時に提出してもらおうワークシートの成績で評価する(50%)が、課題のノート提出(30%)や授業参加度等(20%)も評価の対象とする。また学期中にTOEICを受験し、相当のスコアを獲得したものにはさらにボーナス点を加算する。

〔備考〕

テキストは第2回の授業までに必ず購入しておくこと。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンスとTOEIC模試による実力把握
- 第2週 Unit 1
- 第3週 Unit 2
- 第4週 Unit 3
- 第5週 Unit 4
- 第6週 Unit 5
- 第7週 Unit 6
- 第8週 Unit 7
- 第9週 Unit 8
- 第10週 Unit 9
- 第11週 Unit 10
- 第12週 Unit 11
- 第13週 Unit 12
- 第14週 Unit 13
- 第15週 Unit 14

1週2回の授業のうち1回目はテキストに沿ったTOEIC本番と同じ試験形式で、2回目は問題文のディクテーションを行うことで、問題文に使用される英語に慣れる訓練を行う。

副題					担当者	坂本 裕子 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	1 1
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>日常会話から必要な情報を聞き出し、短い会話ができるように目指します。</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>リスニング能力を養成するため、キャンパス内での学生の会話を聞き取ります。音声から情報を聞き取り、内容を把握し、発声練習を行います。毎回、口頭練習を行った後、発表をしてもらいます。</p> <p>〔教材〕</p> <p>教科書：西蔭浩子 他, <i>Campus English</i>, 朝日出版社, 2013</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>予習として単語調べを行い、全体に目を通す。 復習では必ず聞き直し、口頭発表するために暗唱できるよう練習してください。</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>小テスト・試験・発表・出席状況を基に評価します。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Unit 1
- 第3週 Unit 2
- 第4週 Unit 3
- 第5週 Unit 4
- 第6週 Unit 5
- 第7週 Unit 6
- 第8週 Review 1
- 第9週 Unit 7
- 第10週 Unit 8
- 第11週 Unit 9
- 第12週 Unit 10
- 第13週 Unit 11
- 第14週 Unit 12
- 第15週 Review 2

副題	英語リスニング能力の向上			担当者	成田 奈央 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	3 2

〔授業の到達目標〕

語彙を増やし、様々なシチュエーションで話される英語を理解するリスニング力を高めること。社交的会話、基本的なビジネス会話、テレビ・ラジオの放送、アナウンスを理解する力を育むこと。

〔授業の内容〕

この授業では、リスニング力を身に付けることを主眼に学んでいきます。日常生活にまつわる、興味深いトピックに関し、実際の会話にすぐ活かせる英語表現が紹介されている教材を用いながら、ナチュラルスピードで話される英語に慣れていきましょう。毎回TOEICのリスニング問題も、ミニテスト形式で取り入れていきます。

また、リスニング力だけでなく、スピーキング力の向上にも取り組みます。教材をお手本に、同じ発音、リズム、スピードで話すことが出来る様、練習を重ねていきたいと考えています。そしてその中で会話表現の習得を目指します。

〔教材〕

教科書：Jack C. Richards with Grant Trew, *Tactics for Listening Developing*, 3rd Edition, Oxford, 2010
Kayoko Shiomi, Tony Cripps, *Tune up for the TOEIC Test Listening*, Seibido, 2010

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習では、テキストの中で分からない英単語があれば、それらの意味を予め調べておいて下さい。

復習では、授業で使用した音声教材をUSBメモリーに保存し、その音声教材を用いて、授業で行ったエクササイズやディクテーション、スピーキング練習などに繰り返し取り組んで下さい。

リスニング力を高めるために、とりわけ復習に力を入れて頂きたいと考えます。

〔成績評価の方法〕

出席状況（20%）、授業態度（10%）、発表（15%）、課題（15%）、テスト（40%）により総合的に評価します。

〔備考〕

授業では、初回から毎回USBメモリーを使用しますので、必ず持参して下さい。

〔授 業 計 画〕

第1週	Unit 1 The Weekend Unit 2 City Transportation
第2週	Unit 3 Neighbors Unit 4 Celebrations
第3週	Unit 5 Restaurants Unit 6 Gifts
第4週	Unit 7 Air Travel Unit 8 Mishaps
第5週	Review (Units 1-8)
第6週	Unit 9 Jobs Unit 10 Keeping Fit
第7週	Unit 11 Invitations Unit 12 Campus Life
第8週	Unit 13 Hobbies and Pastimes Unit 14 Shopping Problems
第9週	Unit 15 Hotel Services Unit 16 Movies
第10週	Review (Units 9-16)
第11週	Unit 17 Fears Unit 18 Phone Messages
第12週	Unit 19 Touring a City Unit 20 Airports
第13週	Unit 21 Hotels Unit 22 Traffic
第14週	Unit 23 Roommates Unit 24 Travel
第15週	Review (Units 17-24)

副 題	英語リスニング能力の向上			担 当 者	成田 奈央 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	月 木	時 限	2 3

〔授業の到達目標〕

語彙を増やし、様々なシチュエーションで話される英語を理解するリスニング力を高めること。社交的会話、基本的なビジネス会話、テレビ・ラジオの放送、アナウンスを理解する力を育むこと。

〔授業の内容〕

この授業では、リスニング力を身に付けることを主眼に学んでいきます。日常生活にまつわる、興味深いトピックに関し、実際の会話にすぐ活かせる英語表現が紹介されている教材を使いながら、ナチュラルスピードで話される英語に慣れていきましょう。毎回TOEICのリスニング問題も、ミニテスト形式で取り入れていきます。

また、リスニング力だけでなく、スピーキング力の向上にも取り組みます。教材をお手本に、同じ発音、リズム、スピードで話すことが出来る様、練習を重ねていきたいと考えています。そしてその中で会話表現の習得を目指します。

〔教材〕

教科書：Jack C. Richards with Grant Trew, *Tactics for Listening Developing*, 3rd Edition, Oxford, 2010

Kayoko Shiomi, Tony Cripps, *Tune up for the TOEIC Test Listening*, Seibido, 2010

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習では、テキストの中で分からない英単語があれば、それらの意味を予め調べておいて下さい。

復習では、授業で使用した音声教材をUSBメモリーに保存し、その音声教材を用いて、授業で行ったエクササイズやディクテーション、スピーキング練習などに繰り返し取り組んで下さい。

リスニング力を高めるために、とりわけ復習に力を入れて頂きたいと考えます。

〔成績評価の方法〕

出席状況（20%）、授業態度（10%）、発表（15%）、課題（15%）、テスト（40%）により総合的に評価します。

〔備考〕

授業では、初回から毎回USBメモリーを使用しますので、必ず持参して下さい。

〔授 業 計 画〕

第1週	Unit 1 The Weekend Unit 2 City Transportation
第2週	Unit 3 Neighbors Unit 4 Celebrations
第3週	Unit 5 Restaurants Unit 6 Gifts
第4週	Unit 7 Air Travel Unit 8 Mishaps
第5週	Review (Units 1-8)
第6週	Unit 9 Jobs Unit 10 Keeping Fit
第7週	Unit 11 Invitations Unit 12 Campus Life
第8週	Unit 13 Hobbies and Pastimes Unit 14 Shopping Problems
第9週	Unit 15 Hotel Services Unit 16 Movies
第10週	Review (Units 9-16)
第11週	Unit 17 Fears Unit 18 Phone Messages
第12週	Unit 19 Touring a City Unit 20 Airports
第13週	Unit 21 Hotels Unit 22 Traffic
第14週	Unit 23 Roommates Unit 24 Travel
第15週	Review (Units 17-24)

副題					担当者	水谷 利美 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	1 1

〔授業の到達目標〕

様々な場面で話される英語を理解できるよう、語彙力を強化し、リスニング・スキルを向上させることを目標とします。

〔授業の内容〕

リスニングのコツや発音・会話のストラテジーなども押さえながら、会話、ブロードキャスト、アナウンスなど様々なタイプのリスニング練習を行います。テキストにあるタスクのほか、ディクテーション、シャドーイングによる発話練習、ペアになっての対話練習なども加えます。

〔教材〕

教科書：Tom Kenny, Tamami Wada, *Listening Advantage 4*, 1st Edition, Cengage Learning, 2010

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習としてはテキスト記載のWarm-upやBefore You Listenの問題を行う。復習としては、テキストのSelf-Study unitsの問題を行う他、配布するscriptを読んで、内容を確認し、疑問点があれば質問できるようにする。

〔成績評価の方法〕

出席点（30%）とテストの点数（60%）に課題提出状況・授業参加態度（10%）を加味して総合的に評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Unit 1 Learning a Language
- 第3週 Unit 2 Education for Life
- 第4週 Unit 3 Attitudes Toward Work
- 第5週 Unit 4 Hobbies
- 第6週 Unit 5 Reading
- 第7週 Unit 6 Consumerism
- 第8週 理解度の確認
- 第9週 Unit 7 Ideal Partner
- 第10週 Unit 8 Co-workers
- 第11週 Unit 9 Historic Figures
- 第12週 Unit 10 Globalization
- 第13週 Unit 11 Earth's Resources
- 第14週 Unit 12 Discovery
- 第15週 理解度の確認

上記の計画は学生の力量などにより変更の可能性もあります。

副 題					担 当 者	渡辺 幸俊 講師	
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	水金	時 限	1 1

〔授業の到達目標〕

政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い、ToEIC Testなどに際して自信をもって臨めるよう、十分な応用力を培います。

〔授業の内容〕

日々、世界に最新のニュースを配信している THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて、その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため、毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の第11週目以降には、それまでに学習したニュースの中から1つを選択し、暗記した上で、実際のニュース画面を見ながら、それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように発表してもらいます。

〔教材〕

毎回、最新ニュースを扱うプリントを用意します。新たなニュース、最新ニュースを教材に取り上げます。そのため、第1週の天気予報を除く以後の各回の内容には、その時点での最新ニュースとなります。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の語彙テストのために、復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕

試験は行いません。評価は出席と各回の語彙テスト、さらにニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表によります。

〔備考〕

テキストはプリントを使います。

〔授 業 計 画〕

第1週	FNN & NHK 天気予報
第2週	前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース+語彙確認+ディクテーション+シャドーイング
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	前週の語彙テスト／暗誦発表／REUTERS英語ニュース+語彙確認+ディクテーション+シャドーイング
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。毎回のニュース・ファイル持ち帰り用のUSB（4G以上推奨）をご用意ください。

副題				担当者	渡辺 幸俊 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水金	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い、ToEIC Testなどに際して自信をもって臨めるよう、十分な応用力を培います。

〔授業の内容〕

日々、世界に最新のニュースを配信している THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて、その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため、毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の第11週目以降には、それまでに学習したニュースの中から1つを選択し、暗記した上で、実際のニュース画面を見ながら、それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように発表してもらいます。

〔教材〕

毎回、最新ニュースを扱うプリントを用意します。新たなニュース、最新ニュースを教材に取り上げます。そのため、第1週の天気予報を除く以後の各回の内容には、その時点での最新ニュースとなります。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の語彙テストのために、復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕

試験は行いません。評価は出席と各回の語彙テスト、さらにニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表によります。

〔備考〕

テキストはプリントを使います。

〔授業計画〕

第1週	FNN & NHK 天気予報
第2週	前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドローイング
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	前週の語彙テスト／暗誦発表／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドローイング
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。毎回のニュース・ファイル持ち帰り用のUSB（4G以上推奨）をご用意ください。

BASIC LISTENING O

3715030101500

副題					担当者	W. トング 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	3 1

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their listening comprehension skills for understanding social conversations, basic business dialogues, broadcasts and announcements. Students will practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.

〔教材〕

教科書：Margaret Brooks, *Skills for Success - Listening and Speaking 2*, Oxford, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

There will be homework assigned at the end of most classes. On average, the homework will probably take 1 to 2 hours to complete.

〔成績評価の方法〕

- Attendance 25%
- Tests/quizzes 25%
- Homework 25%
- Class participation 25%

To receive credit for the course, it is necessary to attend at least two-thirds of the classes, in keeping with university policy.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Skills for Success, supplementary audio-visual materials, speaking and listening practice
第2週	〃
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副題					担当者	大石 美恵子 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

様々なシチュエーションの英語を聞くことによってリスニングの基礎を身につけます。

〔授業の内容〕

テキストを用いたリスニングの基礎学習の他に、生の英語ニュースを毎回聞いてディクテーションしていきます。

〔教材〕

教科書：『Tactics for Listening Developing』3rd版, OXFORD, 2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

試験40%，出席30%，提出物及び小テスト30%の総合点で評価する。

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Units 1,2 & News
- 第3週 Units 3,4 & News
- 第4週 Units 5,6 & News
- 第5週 Units 7,8 & News
- 第6週 Units 9,10 & News
- 第7週 Unit 11,12 & News
- 第8週 前半の理解度の確認 & News
- 第9週 Units 13,14 & News
- 第10週 Units 15,16 & News
- 第11週 Units 17,18 & News
- 第12週 Units 19,20 & News
- 第13週 Units 21,22 & News
- 第14週 Units 23,24 & News
- 第15週 まとめと解説及び理解度の確認

BASIC LISTENING Q

3715030101700

副 題				担 当 者	大石 美恵子 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	月 木	時 限	1 2
<p>〔授業の到達目標〕 様々なシチュエーションの英語を聞くことによってリスニングの基礎を身につけます。</p> <p>〔授業の内容〕 テキストを用いてリスニングの他に、生の英語のニュースを毎回聞いてディクテーションしていきます。</p> <p>〔教材〕 教科書：『Tactics for Listening Developing』3rd版, OXFORD, 2010年</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 テキストにはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。</p> <p>〔成績評価の方法〕 試験40%, 出席30%, 提出物及び小テスト30%の総合点で評価します。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Units 1,2 & News
- 第3週 Units 3,4 & News
- 第4週 Units 5,6 & News
- 第5週 Units 7,8 & News
- 第6週 Units 9,10 & News
- 第7週 Units 11,12 & News
- 第8週 前半の理解度の確認 & News
- 第9週 Units 13,14 & News
- 第10週 Units 15,16 & News
- 第11週 Units 17,18 & News
- 第12週 Units 19,20 & News
- 第13週 Units 21,22 & News
- 第14週 Units 23,24 & News
- 第15週 まとめと解説及び理解度の確認

副題	ヒアリング力養成 ステップNO.2			担当者	岩崎 光洋 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月 木	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

ナチュラルスピードの英語を「聞く」「話す」能力の育成・習得

〔授業の内容〕

アメリカの新旧の映画作品を教材にし、ヒアリング力の養成を目的にします。授業では毎回小テストを行う。学生諸君は、復習に十二分に時間をかけ、録音した音声と同じ音、同じスピード、同じリズムで話すことができるまで、徹底的に練習すること。その練習の成果をチェックするため、随時スピーキング・テストを行う。映画の英語はナチュラルで、我々日本人がもつとも不得意な感情豊かな音声表現・表情・身振り手振りなどを習得するのに大変役に立つはず。映像を参考に、生き生きとした英語をしっかりと自分のものにするように心掛け、努力してください。

〔教材〕

教科書：渡辺・岩崎『CBS News Flash On DVD』第5版，成美堂，2008年

渡辺・岩崎『Roman Holiday』（ローマの休日）第1版，南雲堂，2009年

教科書は自宅学習用の課題として、定期的に提出，チェックを行います。授業ではプリントを使用します

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各2時間

〔成績評価の方法〕

小テストの成績 70% スピーキング・テスト 30%

〔備考〕

遅刻は録音の都合上，授業の運営の大きな妨げとなるので厳禁とします

〔授 業 計 画〕

- 第1週 In Her Shoes
- 第2週 Steel Magnolia
- 第3週 The Birds
- 第4週 TO CATCH A THIEF
- 第5週 Good Will Hunting
- 第6週 Two Weeks Notice
- 第7週 Days if Wine and Roses
- 第8週 Brothers and Sisters
- 第9週 Wall Street - Money Never Sleeps
- 第10週 Something Gotta Give
- 第11週 Doubt
- 第12週 Nine To Five
- 第13週 YOU'VE GOT MAIL
- 第14週 The Devil Wears Prada
- 第15週 POST GRAD

副題					担当者	伊藤 直美 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月 木	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

「世界を知る」テキストで世界をめくりながら、聞く話す=春学期の「分かった！」から秋学期は「ちゃんと通じた！」へとステップアップさせると共に、時のnews, 時の人のspeechでリスニング力・コミュニケーション力のさらなる向上を目指します。

〔授業の内容〕

各国の紹介を観ながらテキストのdialogueをしっかりと聞き取る一方、時のニュースにも注目していきます。
warm-up-listening and dictation-check & other activitiesを続け
弱点は強化し、自分の得意な面はさらに伸びるよう、聞いて「理解する」を繰り返します。
また意見交換を行う、春学期とは違うテーマでpresentationも行うなど、グループワークも増えていきます。

〔教材〕

教科書：CENGAGE Learning, *GLOBE TROTTERS*

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ただ聞くばかりでなく、トピックについての会話・スピーチ・映像について
”What do you think?”意見が求められます。テキストに目を通し、
トピックについて考えてくること。苦手な「音」を意識して予習・復習すること。

〔成績評価の方法〕

テスト・ワークシート及び出席状況・授業への参加態度などの平常点を含め、総合的に評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction Unit01: Spain-At the airport
第2週	Current News Unit02: China-From the airport
第3週	TED
第4週	Unit03: Peru-At the hotel Report
第5週	Unit05: New York-Getting directions Current News
第6週	Unit07: India-Shopping Current News
第7週	Malala Yousafzai Interview - Cookie Monster
第8週	Unit08: New Zealand-One day excursions Review and Check
第9週	Unit09: Africa-running into problems Nelson Mandela
第10週	Unit10: Cambodia-Bargaining Report
第11週	Solve Mystery!
第12週	Unit11: Egypt-Home visit Unit12: Italy-At a restaurant
第13週	Presentation
第14週	Unit13: Mars-Saying good-bye Current news
第15週	Review and Check
各内容・unitは授業の進度、時のニュースにより変わることがあります。	

NEWS LISTENING C

3715030200300

副題					担当者	C. ウィン 教授	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build vocabulary and develop listening skills for understanding English news broadcasts.

〔授業の内容〕

Through this course, students will deepen their news listening comprehension skills. Students will be exposed to a wide genre of news topics and contents. Activities such as dictations, oral summaries, and written summaries will reinforce their understanding of listening selections. Online news listening activities will also be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Akira Morita 『BBC World Profile on DVD』 (ISBN: 978-4523177401) Nanundo, 2013年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

Attendance 20%, Participation 10%, Homework 40%, Tests 30%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Laughter
- 第2週 Hats
- 第3週 Sphinx's Nose
- 第4週 Terracotta Warriors
- 第5週 Silver and Platinum
- 第6週 Athens
- 第7週 Skydiving
- 第8週 Comprehension Exercises
- 第9週 Food and Society
- 第10週 Shinjuku Station
- 第11週 Bali's Temples
- 第12週 Car Recycling
- 第13週 Hi-Tech Farming
- 第14週 Honolulu
- 第15週 Comprehension Exercises

NEWS LISTENING D

3715030200400

副題				担当者	M. ポルコシュコ 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水 土	時限	1 2
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>To build vocabulary and develop listening skills for understanding English news broadcasts.</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>Through this course, students will deepen their news listening comprehension skills. Students will be exposed to a wide genre of news topics and contents. Activities such as dictations, oral summaries, and written summaries will reinforce their understanding of listening selections. Online news listening activities will also be incorporated into the course.</p> <p>〔教材〕</p> <p>教科書：Nobuhiro Kumai & Stephen Timson, <i>CBS NewsBreak 2</i>, Seibido, 2015</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>Please review what the teacher asks prior to the next lesson.</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>Evaluation for the course will be based primarily on attendance and participation. Some homework and quizzes will be given during the term.</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introductions
- 第2週 Uniqlo: Business
- 第3週 How TV Affects Behavior: Health / Lifestyle
- 第4週 Texting while Driving: Society / Trend
- 第5週 Clean Water to the World: Health
- 第6週 Asian Immigrants: Society / Trend
- 第7週 Facebook: Social Media
- 第8週 Review
- 第9週 Networking Tips: Networking / Job Search
- 第10週 Manufacturing via the Robot: Business / Technology
- 第11週 Baby Boomers: Lifestyle / Trend
- 第12週 Law Students Finding Work: Education / Career
- 第13週 Carbon Dioxide in the Oceans: Environment
- 第14週 Getting Women in Technology: Gender / Career
- 第15週 Review

副題	英語リスニング能力の向上			担当者	伊藤 由紀子 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月 木	時限	1 2

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding English news broadcasts.

〔授業の内容〕

Through this course, students will deepen their news listening comprehension skills. Students will be exposed to a wide genre of news topics and contents. Activities such as dictations, oral summaries, and written summaries will reinforce their understanding of listening selections. Online news listening activities will also be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：山根繁 Kathleen Yamane 『ABC World News 17』初版，金星堂，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に終了しなかった部分は復習・宿題です。3～4時間を予定しましょう。

〔成績評価の方法〕

単語テスト25%，発表20%，モニタリング15%，ノート評価10%，学期末試験10%，出欠席15%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|---|
| 第1週 | イントロダクション
Separated at Birth: Amazing Reunion |
| 第2週 | Breadwinning Moms: Modern Family |
| 第3週 | "Neighborhood Watch" in Space |
| 第4週 | American Dream: WhatsApp Founders Strike it Rich |
| 第5週 | Top Dog: The Winner |
| 第6週 | America Strong: Dance-a-thon |
| 第7週 | Attention Shoppers: Changing the Labels |
| 第8週 | Born in the USA? Baby Boom |
| 第9週 | Ban Bossy |
| 第10週 | Terror on the Tracks |
| 第11週 | Rite of Passage: Big Changes in the SATs |
| 第12週 | Sleepless in America: "Short Sleepers" |
| 第13週 | Farmer's Market: City Girl Dates Country Boy |
| 第14週 | Crimes against Humanity: North Korea Horrors Revealed |
| 第15週 | America Strong: The Climb |

NEWS LISTENING F

3715030200600

副 題	英語リスニング能力の向上			担 当 者	伊藤 由紀子 教授		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月 木	時 限	2 1
〔授業の到達目標〕 To build vocabulary and develop listening skills for understanding English news broadcasts.							
〔授業の内容〕 Through this course, students will deepen their news listening comprehension skills. Students will be exposed to a wide genre of news topics and contents. Activities such as dictations, oral summaries, and written summaries will reinforce their understanding of listening selections. Online news listening activities will also be incorporated into the course.							
〔教材〕 教科書：山根繁 Kathleen Yamane『ABC World News 17』初版，金星堂，2015年							
〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 授業中に終了しなかった部分は復習・宿題です。3～4時間を予定しましょう。							
〔成績評価の方法〕 単語テスト25%，発表20%，モニタリング15%，ノート評価10%，学期末試験10%，出欠席15%							
〔備考〕							

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|---|
| 第1週 | イントロダクション
Separated at Birth: Amazing Reunion |
| 第2週 | Breadwinning Moms: Modern Family |
| 第3週 | "Neighborhood Watch" in Space |
| 第4週 | American Dream: WhatsApp Founders Strike it Rich |
| 第5週 | Top Dog: The Winner |
| 第6週 | America Strong: Dance-a-thon |
| 第7週 | Attention Shoppers: Changing the Labels |
| 第8週 | Born in the USA? Baby Boom |
| 第9週 | Ban Bossy |
| 第10週 | Terror on the Tracks |
| 第11週 | Rite of Passage: Big Changes in the SATs |
| 第12週 | Sleepless in America: "Short Sleepers" |
| 第13週 | Farmer's Market: City Girl Dates Country Boy |
| 第14週 | Crimes against Humanity: North Korea Horrors Revealed |
| 第15週 | America Strong: The Climb |

副題					担当者	岡本 広毅 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水土	時限	1/2

〔授業の到達目標〕

様々なトピックのリスニングに慣れ、自分の考えや思考を育む英語能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕

各ユニットのテーマに沿って学習し、英語のリスニングに慣れるだけでなく、自分の考えや思考を育む英語能力の向上を目指します。随時、その他の教材を用いながら英語という言語の豊かさ・多様性にも触れていきます。

〔教材〕

教科書：Margaret Brooks, *Q: Skills for Success--Listening and Speaking 2*, Oxford University Press, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

語彙やイディオム、表現などの復習。各授業+1時間。

〔成績評価の方法〕

出席状況（30%）、課題提出状況・授業参加態度（30%）、試験(40%) など総合的に評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Unit6: Self-reliance
- 第2週 ♪
- 第3週 Unit7: Use and Re-use
- 第4週 ♪
- 第5週 Unit8: Stories
- 第6週 ♪
- 第7週 中間復習, ミニテスト
- 第8週 Unit9: Numbers
- 第9週 ♪
- 第10週 Unit10: Global Health
- 第11週 ♪
- 第12週 DVD (Human Comedy)
- 第13週 リスニング・ストラテジー
- 第14週 復習：文法・発音・イントネーション
- 第15週 理解度の確認

生徒の学習速度や状況に応じてそれぞれ変更する可能性がある。

副 題	Listening practice with BBC news			担 当 者	古 庄 信 教 授		
単 位	2	開 講 期 間	秋 学 期	曜 日	火 金	時 限	2 1

〔授業の到達目標〕

ニュース英語の教材を用いて、様々な社会問題の内容をより正確に聞き取ることが出来るよう目指す。またニュース英語をとおして世界の様々な状況を把握する。

〔授業の内容〕

BBCのニュース番組を用いて世界の情勢や様々な出来事を「英語で理解する」ことが出来るよう訓練する。

〔教材〕

教科書：D. Cheetham他, *Seeing the World through the News I*, First Edition, 金星堂, 2014
BBCニュース番組をとおしてイギリス国内外の出来事を英語で理解し、観察し、どのように考えるべきかをわかりやすく編纂した教材。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習には十分な時間を取ること。特に復習では1回目に聞き取れなかった単語をvocabulary noteに入れて何度も練習すること。

〔成績評価の方法〕

毎回行うディクテーションの出来(70%)、語彙力アップのためのVocabulary Note作成(20%)、出席状況・授業態度(10%)により総合的評価を行う。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週 Unit 1 & Review
第2週 Unit 2 & Review
第3週 Unit 3 & Review
第4週 Unit 4 & Review
第5週 Unit 5 & Review
第6週 Unit 6 & Review
第7週 Unit 7 & Review
第8週 Unit 8 & Review
第9週 Unit 9 & Review
第10週 Unit 10 & Review
第11週 Unit 11 & Review
第12週 Unit 12 & Review
第13週 Unit 13 & Review
第14週 Unit 14 & Review
第15週 Unit 15 & Review

週2回の授業のうち、1回目はテキストに沿った聞き取り、2回目は聞き取りの幅を広げたレビュー（復習）という反復の形で進めていく。

副題					担当者	坂本 裕子 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月 木	時限	1 1
<p>〔授業の到達目標〕 内容を理解するためのキーワードを聞き出し、まとまった英文を発表できるよう目指します。</p> <p>〔授業の内容〕 Basic Listeningで養ったリスニング・ディクテーションの能力を更に向上させるため、CNNニュースを聞きながら練習を行います。毎回、授業で発話練習を行った後、口頭発表をしてもらいます。</p> <p>〔教材〕 教科書：小笠原 真司 他, <i>Power up Your English with CNN News</i>, 朝日出版社, 2015</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 予習は単語調べと内容読解を確実に行います。 復習はニュースの聞き直しと、口頭発表のために暗唱できるよう練習します。</p> <p>〔成績評価の方法〕 学期末テスト・小テスト・口頭発表を基準にし、授業時の意欲的な参加を加味して評価します。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Unit 1
- 第3週 Unit 2
- 第4週 Unit 3
- 第5週 Unit 4
- 第6週 Unit 5
- 第7週 Unit 6
- 第8週 Unit 7
- 第9週 Unit 8
- 第10週 Unit 9
- 第11週 Unit 10
- 第12週 Unit 11
- 第13週 Unit 12
- 第14週 Unit 13
- 第15週 Review

副 題	英語リスニング能力の向上			担 当 者	成田 奈央 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月 木	時 限	3 2

〔授業の到達目標〕

語彙を増やし、ニュースを理解するリスニング力を高めること。

〔授業の内容〕

世界の国々や文化、自然科学を取り上げたDVD教材と、最新のニュースを用いながら、春学期のBasic Listeningで身に付けた、リスニング力の更なる向上を図ります。TOEICのリスニング問題に関しても、春学期よりも難易度の高いものを、本テスト形式で取り入れ、実践的に、スコアアップを目指します。

また、春学期に引き続き、スピーキング力をより一層高めていくことにも重点を置きたいと考えています。

〔教材〕

教科書：Rebecca Klevberg Moller, *World in Focus*, Heinle Cengage Learning, 2013
プリント（ニュース・TOEIC）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習では、テキストの中で分からない英単語があれば、それらの意味を予め調べておいて下さい。

復習では、授業で使用した音声教材をUSBメモリーに保存し、その音声教材を用いて、授業で行ったエクササイズやディクテーション、スピーキング練習などに繰り返し取り組んで下さい。

リスニング力を高めるために、とりわけ復習に力を入れて頂きたいと考えます。

〔成績評価の方法〕

出席状況（20%）、授業態度（10%）、発表（10%）、課題（15%）、小テスト（5%）、テスト（40%）により総合的に評価します。

〔備考〕

授業では、初回から毎回USBメモリーを使用しますので、必ず持参して下さい。

〔授 業 計 画〕

第1週	Unit 1 A Taste of Mexico Unit 2 Lightning
第2週	Unit 2 Lightning Unit 3 Penguins in Trouble
第3週	News
第4週	Unit 4 Parasomnia Unit 5 Maasai Teacher
第5週	Unit 5 Maasai Teacher Unit 6 Living in Venice
第6週	News
第7週	Unit 7 Tornado Chase Unit 8 Treasures in Old San Juan
第8週	Unit 8 Treasures in Old San Juan Unit 9 Bee Therapy
第9週	News
第10週	Unit 10 Inca Mummy Unit 11 Global Warming
第11週	Unit 11 Global Warming Unit 12 More Water for India
第12週	News
第13週	Unit 13 Tsunami: Killer Wave Unit 14 Mecca
第14週	Unit 14 Mecca Unit 15 Butler School
第15週	News

副題	英語リスニング能力の向上			担当者	成田 奈央 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月 木	時限	2 3

〔授業の到達目標〕

語彙を増やし、ニュースを理解するリスニング力を高めること。

〔授業の内容〕

世界の国々や文化、自然科学を取り上げたDVD教材と、最新のニュースを用いながら、春学期のBasic Listeningで身に付けた、リスニング力の更なる向上を図ります。TOEICのリスニング問題に関しても、春学期よりも難易度の高いものを、本テスト形式で取り入れ、実践的に、スコアアップを目指します。

また、春学期に引き続き、スピーキング力をより一層高めていくことにも重点を置きたいと考えています。

〔教材〕

教科書：Rebecca Klevberg Moller, *World in Focus*, Heinle Cengage Learning, 2013
プリント（ニュース・TOEIC）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習では、テキストの中で分からない英単語があれば、それらの意味を予め調べておいて下さい。

復習では、授業で使用した音声教材をUSBメモリーに保存し、その音声教材を用いて、授業で行ったエクササイズやディクテーション、スピーキング練習などに繰り返し取り組んで下さい。

リスニング力を高めるために、とりわけ復習に力を入れて頂きたいと考えます。

〔成績評価の方法〕

出席状況（20%）、授業態度（10%）、発表（10%）、課題（15%）、小テスト（5%）、テスト（40%）により総合的に評価します。

〔備考〕

授業では、初回から毎回USBメモリーを使用しますので、必ず持参して下さい。

〔授 業 計 画〕

第1週	Unit 1 A Taste of Mexico Unit 2 Lightning
第2週	Unit 2 Lightning Unit 3 Penguins in Trouble
第3週	News
第4週	Unit 4 Parasomnia Unit 5 Maasai Teacher
第5週	Unit 5 Maasai Teacher Unit 6 Living in Venice
第6週	News
第7週	Unit 7 Tornado Chase Unit 8 Treasures in Old San Juan
第8週	Unit 8 Treasures in Old San Juan Unit 9 Bee Therapy
第9週	News
第10週	Unit 10 Inca Mummy Unit 11 Global Warming
第11週	Unit 11 Global Warming Unit 12 More Water for India
第12週	News
第13週	Unit 13 Tsunami: Killer Wave Unit 14 Mecca
第14週	Unit 14 Mecca Unit 15 Butler School
第15週	News

副題				担当者	水谷 利美 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金	時限	1 1

〔授業の到達目標〕

語彙力を強化しつつ、リスニング・スキルを向上させる訓練をしながら、英語ニュースを聞いて理解できるようにすることが第一の目標です。シャドーイングにより音声面の強化を図り、さらに自分の意見を述べることに挑戦して、英語での発信力をつける事も目標とします。

〔授業の内容〕

アメリカで実際に放送されている“CBS Evening News”で取り上げられた様々なジャンルのニュースに接して、語彙問題演習や聞き取り練習を行うと共に、シャドーイング、ペアによる会話練習も行います。2 unitsごとに単語テストを行います。テキスト以外に最新のニュース (Reuter他)も取り上げ、ディクテーション演習を行います。

〔教材〕

教科書：熊井信弘, Stephen Timson 『CBS News Break 2』初版, 成美堂, 2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習としては、ニュース視聴前のタスク（テキスト記載）を行う。単語プリント配布後はその単語を覚え、Quick Response の練習をする。各ユニット1回目終了後はサイト・トランスレーションやシャドーイングの練習をする。

〔成績評価の方法〕

出席点（30%）、単語テストおよび学期中2回行うテスト（60%）、課題提出状況・授業参加態度（10%）により総合的に評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Unit 1 UNIQLO Aims High
- 第3週 Unit 2 Study Finds How TV Affects Children's Behaviour
- 第4週 Unit 3 Texting & Driving ... It Can Wait
- 第5週 Unit 4 Students Unwind in Therapy Dog Lounge Ahead of Finals
- 第6週 Unit 5 Bringing Clean Water to the World through Charity: Water
- 第7週 Unit 6 A Wave of Asian Immigrants
- 第8週 理解度の確認
- 第9週 Unit 7 Facebook Envy
- 第10週 Unit 8 Smart Networking Tips
- 第11週 Unit 9 Bringing Manufacturing Back to the U.S. via the Robot
- 第12週 Unit 10 Manners 101
- 第13週 Unit 11 Baby Boomers Moving Back to Cities
- 第14週 Unit 12 Law Students Struggle to Find Work
- 第15週 理解度の確認

以上はテキストによる授業の実施予定ですが、これに加えて適宜、最新のニュースを扱います。但し、予定はクラスの力量・進捗状況などにより変更の可能性があります。

副題					担当者	渡辺 幸俊 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水金	時限	1 1
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>英語の国際ニュースを理解できるようになること。</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>毎回、授業の開始時に前週に学んだ最新ニュースの語彙を定着させるための試験を行います。その後、新しいニュースに取り組みます。この時、語彙を予め理解して頂くために、ビデオ編集で作上げた画面を通して語彙を学習します。その語彙を頭に入れた上で、ディクテーションに取り組みます。最後にシャドーイングを通して、発音を確認し、英文を自分のものにしていきます。</p> <p>12週目以降にはそれまでに学習したニュースの中から1本を選び、暗記し、画面に合わせて自分がキャスターになったつもりで、聞いている者に分かるように英文を暗誦します。</p> <p>〔教材〕</p> <p>テキストはプリントを用意いたします。</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>毎週の語彙テストのために、復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>語彙テストと暗誦テストにより評価しますので、期末テストは行いません。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授業計画〕

第1週	最新英語ニュース+語彙確認+ディクテーション+シャドーイング
第2週	前週学習したニュースの語彙テスト+最新英語ニュース+語彙確認+ディクテーション+シャドーイング
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	前週学習したニュースの語彙テスト+最新英語ニュース+語彙確認+ディクテーション+シャドーイング+暗誦発表
第13週	〃
第14週	〃
第15週	前週学習したニュースの語彙テスト+最新英語ニュース+語彙確認+ディクテーション+シャドーイング

副題					担当者	渡辺 幸俊 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水金	時限	2 2
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>英語の国際ニュースを理解できるようになること。</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>毎回、授業の開始時に前週に学んだ最新ニュースの語彙を定着させるための試験を行います。その後、新しいニュースに取り組みます。この時、語彙を予め理解して頂くために、ビデオ編集で作った画面を通して語彙を学習します。その語彙を頭に入れた上で、ディクテーションに取り組みます。最後にシャドーイングを通して、発音を確認し、英文を自分のものにしていきます。</p> <p>12週目以降にはそれまでに学習したニュースの中から1本を選び、暗記し、画面に合わせて自分がキャスターになったつもりで、聞いている者に分かるように英文を暗誦します。</p> <p>〔教材〕</p> <p>テキストはプリントを用意いたします。</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>毎週の語彙テストのために、復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>語彙テストと暗誦テストにより評価しますので、期末テストは行いません。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

第1週	最新英語ニュース+語彙確認+ディクテーション+シャドーイング
第2週	前週学習したニュースの語彙テスト+最新英語ニュース+語彙確認+ディクテーション+シャドーイング
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	前週学習したニュースの語彙テスト+最新英語ニュース+語彙確認+ディクテーション+シャドーイング+暗誦発表
第13週	〃
第14週	〃
第15週	前週学習したニュースの語彙テスト+最新英語ニュース+語彙確認+ディクテーション+シャドーイング

NEWS LISTENING O

3715030201500

副題					担当者	W. トング 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月 木	時限	3 1

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding English news broadcasts.

〔授業の内容〕

Through this course, students will deepen their news listening comprehension skills. Students will be exposed to a wide range of news topics and content. Activities such as dictations, oral summaries, and written summaries will reinforce their understanding of listening selections. Online news listening activities will also be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Carmella Lieske, *Globe Trotters*, Cengage, 2013

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

There will be homework assigned at the end of most classes. On average, the homework will probably take 1 to 2 hours minutes to complete.

〔成績評価の方法〕

Attendance 25%

Tests/quizzes 25%

Homework 25%

Class participation 25%

To receive credit for the course, it is necessary to attend at least two-thirds of the classes, in keeping with university policy.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Globe Trotters, supplementary audio-visual materials, speaking and listening practice
第2週	〃
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

副 題				担 当 者	大石 美恵子 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月 木	時 限	2 1
<p>〔授業の到達目標〕 春学期で培ったリスニング力を基に、更なるリスニング力アップを目指します。</p> <p>〔授業の内容〕 授業は、様々な国の映像を英語で紹介しているテキストGlobe Trotters を中心に進めていきます。さらに春学期同様、英語ニュースのディクテーションも続けます。</p> <p>〔教材〕 教科書：『Globe Trotters』1st版, Cengage, 2013年</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 テキストにはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。</p> <p>〔成績評価の方法〕 試験40%，出席30%，提出物及び小テスト30%の総合点で評価します。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Unit 1 & News
- 第3週 Unit 2 & News
- 第4週 Unit 3 & News
- 第5週 Unit 4 & News
- 第6週 Unit 5 & News
- 第7週 Unit 6 & News
- 第8週 Unit 7 & News
- 第9週 Unit 8 & News
- 第10週 Unit 9 & News
- 第11週 Unit 10 & News
- 第12週 Unit 11 & News
- 第13週 Unit 12 & News
- 第14週 Unit 13 & News
- 第15週 授業のまとめ及び理解度の確認

副題				担当者	大石 美恵子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月木	時限	1/2
<p>〔授業の到達目標〕 春学期に培ったリスニング力を基に、更なるリスニング力アップを目指します。</p> <p>〔授業の内容〕 授業は、様々な国の映像を英語で紹介しているテキストGlobe Trotters を中心に進めていきます。さらに春学期同様、英語ニュースのディクテーションも続けます。</p> <p>〔教材〕 教科書：『Globe Trotters』1st版, Cengage, 2013年</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 テキストにはあらかじめ目を通し、疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。</p> <p>〔成績評価の方法〕 試験40%，出席30%，提出物及び小テスト30%の総合点で評価します。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授業計画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Unit 1 & News
- 第3週 Unit 2 & News
- 第4週 Unit 3 & News
- 第5週 Unit 4 & News
- 第6週 Unit 5 & News
- 第7週 Unit 6 & News
- 第8週 Unit 7 & News
- 第9週 Unit 8 & News
- 第10週 Unit 9 & News
- 第11週 Unit 10 & News
- 第12週 Unit 11 & News
- 第13週 Unit 12 & News
- 第14週 Unit 13 & News
- 第15週 授業のまとめ及び理解度の確認

BASIC READING A

3714030100100

副題					担当者	R. S. ジョーンズ 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水土	時限	1 2

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organisation.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Amanda French, *Essential Reading 4*, MacMillan, 2008
 Ian Munby & Dorothy E. Zemach, *Read to Write Compositions*, BTB Press

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Pre-reading of articles, looking up unfamiliar words, keeping vocabulary notebooks up to date.

〔成績評価の方法〕

Attendance 10%, Participation 20%, Projects 40%, Reading comprehension tests 30%.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Course Introduction
- 第2週 Language
- 第3週 〃
- 第4週 Local Culture
- 第5週 〃
- 第6週 Food
- 第7週 〃
- 第8週 Film
- 第9週 〃
- 第10週 Fashion
- 第11週 〃
- 第12週 Controversy
- 第13週 〃
- 第14週 Writing practice
- 第15週 Review

BASIC READING B

3714030100200

副題					担当者	K. フォード 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水土	時限	1 1

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organization.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated.

〔教材〕

教科書：Patricia Ackert and Linda Lee, *Cause and Effect 3*, Heinle

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Class preparation is mainly reading required texts, graded reader books, or preparing research reports.

〔成績評価の方法〕

Evaluation is based on attendance (30%) , class participation (30%) , presentations (10%) , homework preparation (10%) , and tests (20%) .

〔備考〕

（共通科目）
外国語

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction to the course
- 第2週 Cause and Effect 3: Unit 1, Lessons 1 and 2
- 第3週 Cause and Effect 3: Unit 1, Lessons 3 and 4
- 第4週 Cause and Effect 3: Unit 1, Lesson 5 and Review
- 第5週 Social Issues Readings and Graded Reader Book Report
- 第6週 Cause and Effect 3: Unit 2, Lessons 1 and 2
- 第7週 Cause and Effect 3: Unit 2, Lessons 3 and 4
- 第8週 Cause and Effect 3: Unit 2, Lesson 5 and Review
- 第9週 Social Issues Readings and Graded Reader Book Report
- 第10週 Cause and Effect 3: Unit 3, Lessons 1 and 2
- 第11週 Cause and Effect 3: Unit 3, Lessons 3 and 4
- 第12週 Cause and Effect 3: Unit 3, Lesson 5 and Review
- 第13週 Social Issues Readings
- 第14週 Graded Reader Book Report and Presentations
- 第15週 Final Review

副題					担当者	伊藤 直美 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	1 1

〔授業の到達目標〕

取り上げた題材のひたすら文面・文字を追う…のではなく
 全体の流れまた中核をつかみ、感想・意見を述べるができるよう
 reading fluencyとreading skillsの向上を目指します。

〔授業の内容〕

身近な題材や皆が一度は聞いたことのある物語から最近のニューストップックスまで
 様々な内容を「読み」、時には「見て」いきます。毎回
 warm-up-reading-check-discussion & other activitiesを行う
 アクティブクラスです。また、テーマに応じたpresentationにもチャレンジします。

〔教材〕

教科書：Chris Gough, *Essential Reading 1*, Macmillan
 教科書 *Essential Reading 1*は1年を通して使用する予定です。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

“What do you think?” 毎回トピックに応じた意見が求められます。
 自分の意見をバックアップできるようテキストに目を通し、
 トピックについて考えてくること。
 また、疑問点を質問できるよう準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

テスト・ワークシート及び出席状況・授業への参加態度などの平常点を含め、
 総合的に評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction & Guidance Unit01: A Japanese in Chicago
第2週	6 Things No One Ever Tells You About Living Abroad (1-3) Unit01: An American in Tokyo
第3週	6 Things No One Ever Tells You About Living Abroad (4-6) Unit02: Shanghai is sinking
第4週	News: Flooding Unit02: Life in big cities
第5週	Big City vs. Small Town Discussion
第6週	Unit03: Unusual hotels The Experience of Travelling and Learning
第7週	Unit03: The best hotel Plan your trip to ...
第8週	Current news Review -- Check
第9週	Unit04: Zhang Ziyi Zhang Ziyi BBC
第10週	Unit05: Just can't stop Shopaholic
第11週	Unit05: Gamers are growing older English Presentations
第12週	Presentation
第13週	〃
第14週	Unit06: Shopping around the world Unit06: Untitled article
第15週	Taiwan Night Markets Summary -- Check
各週取り上げるunit・内容は授業の進度、時のニュースなどにより変わることがあります。	

副題				担当者	A. パラスキ 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月木	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

This course is designed to assess and develop student's reading and vocabulary skills in English

〔授業の内容〕

There will be a focus on using vocabulary from the reading text, both in the contexts provided in the text and in new contexts provided by the instructor and, later, by the student. Students will create class vocabulary lists of words extracted from the text and use them in various writing exercises to be assessed by the instructor. By providing a context-based usage of vocabulary, one of the major aims will be for students to acquire a native sense of usage. Students are required to keep a vocabulary journal with examples of acceptable and unacceptable usage.

〔教材〕

教科書： *Inside Reading 3*, (Oxford) 2nd Edition, 2012

Supplementary materials will be provided during the term.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to spend an amount of time outside of class studying and mastering language patterns for presentation that equals or exceeds the amount of time spent in class.

〔成績評価の方法〕

Evaluation is based on attendance(20%), reading assignments(20%), vocabulary assignments(20%), class participation(20%) and tests(20%).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Reading assignment 1; assessment and discussion.
- 第2週 Vocabulary assignment 1; class discussion.
- 第3週 Reading assignment 2; assessment and discussion.
- 第4週 Vocabulary assignment 2; class discussion.
- 第5週 Reading assignment 3; assessment and discussion.
- 第6週 Vocabulary assignment 3; class discussion.
- 第7週 Reading assignment 4; assessment and discussion.
- 第8週 Vocabulary assignment 4; class discussion.
- 第9週 Reading assignment 5; assessment and discussion.
- 第10週 Vocabulary assignment 5; class discussion.
- 第11週 Reading assignment 6; assessment and discussion.
- 第12週 Vocabulary assignment 6; class discussion.
- 第13週 Reading assignment 7; assessment and discussion.
- 第14週 Vocabulary assignment 7; class discussion.
- 第15週 Review

副 題	Reading and Improving your Vocabulary			担 当 者	R. ジョーンズ 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	火 金	時 限	2 2

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organisation. The goal of this subject is for the students to improve their vocabulary by reading a variety of things. In addition, students will have the opportunity to speak about things they have read. This is a fun and dynamic class and if the students study hard, they will learn many things and improve their English ability.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through class activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, where appropriate and possible, practical reading materials from sources such as newspapers, journals, and other media may be incorporated into the course. The main purpose of this course is to help the students find enjoyment in reading English, and to increase vocabulary levels. Students will read short paragraphs and longer stories. In addition, before and after most readings, there will be lots of chances to speak English. Students should also be prepared to do quite a bit of reading at home.

〔教材〕

教科書：Chris Gough, *Essential Reading 1 (ISBN 978-4-773-6189-2)*, Macmillan, Latest

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students need to bring the textbook to all lessons. They need to be sure to complete all homework assignments and review past lessons.

〔成績評価の方法〕

- Attendance = 10 points
- Punctuality = 10 points
- Effort and participation = 20 points
- Class and homework exercises = 100 x 40% = 40 points
- Final evaluations = 100 x 20% = 20 points
- Total = 100 points.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction to the course, the textbook, grading system. Introducing the teacher and course expectations.
第2週	Student introduction activities. Reading from the textbook: Takeshi in Chicago.
第3週	Exercises from lesson 1 of the textbook. Reading: Julie a computer programmer in Tokyo. Essential vocabulary skill practice and exercises.
第4週	Unit 2 of the textbook, Big City Life. Essential reading and vocabulary skills. Reading: Life in the big cities.
第5週	Unit 3 of the textbook: A hotel with a difference. Vocabulary work and essential reading skill practice. Reading: The Best Hotel in the World.
第6週	Unit 4: Making movies. Comprehension and vocabulary work. Reading: China's first international movie star. Essential vocabulary work and exercises.
第7週	Unit 5: Addictions - reading, comprehension and vocabulary work. Reading: Japanese gamers are growing older. Comprehension questions and essential English skills practice.
第8週	Unit 6: We love shopping. Reading, vocabulary and comprehension exercises.
第9週	Textbook reading: unit 6. Love and Romance - speed dating reading. Reading skills practice, comprehension questions and vocabulary building exercises.
第10週	A tale of two cities. Reading practice. Essential reading skills comprehension and vocabulary building.
第11週	Reading about plastic surgery - unit 9 of the textbook. Reading practice - Korean Beauties. Reading skills exercises and vocabulary building.
第12週	International sport - reading exercises and vocabulary building from unit 10 of the textbook.
第13週	Reading topic - pop music. Reading about a virtual pop group, Gorillaz. Comprehension exercises and vocabulary building.
第14週	Unit 12 of the textbook with activities focussed around leading a healthy life through food choices, exercise and reducing stress. Vocabulary building exercises and comprehension work.
第15週	Summary of the course. Overview of the studies undertaken in the first semester and final evaluations.

The course will follow the content of the textbook from week to week. Let's have fun reading together. Remember: the more effort you put into something, the more you can get out of it! Come to all the lessons and be on time!

副題				担当者	横江 百合子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	1 2

〔授業の到達目標〕

This course aims

- 1) to develop basic reading comprehension skills, and
- 2) to provide students with the opportunities to read English on a regular basis.

〔授業の内容〕

In addition to in-class activities (which are based on the textbook), students are required to read a number of articles/passages in and outside class.

In-class activities include skimming, scanning, searching for main ideas, writing a summary, and giving a short presentation on the relevant topics.

Take-home reading assignments will be given each class to enrich students' reading experience.

〔教材〕

教科書：Jackie McAvoy, *Essential Reading 2*, Macmillan, 2008

Supplementary handouts may be offered when necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Please come prepared to participate in classroom discussion.

This may require students to read extensively for at least two hours per week.

〔成績評価の方法〕

- 1) Attendance 30%
- 2) Book reports and presentations 30%
- 3) Participation 10%
- 4) Tests and quizzes 30%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Essential Reading 2: 1. Culture Shock
第2週	◇
第3週	Essential Reading 2: 2. Gum
第4週	◇
第5週	Essential Reading 2: 3. Technology
第6週	◇
第7週	Midterm review
第8週	Essential Reading 2: 4. Urban life
第9週	◇
第10週	Essential Reading 2: 5. Bodies
第11週	◇
第12週	Essential Reading 2: 6. Piracy
第13週	◇
第14週	Presentations
第15週	Presentations / Final review

副題					担当者	P. アプス 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

The Goal of the course is help the students develop better reading skills.

〔授業の内容〕

The course is divided into two sections, an intensive and extensive reading program. In the intensive section of the course we will study the skills and approaches that help a reader understand a text. Secondly the students will be expected to read extensively. To achieve this aim the students will read and write book reports on the graded readers supplied in the class and in the library.

〔教材〕

教科書：Chris Gough, *Essential reading- book two*, (Macmillan Press)

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

For every class will be expected to read extensively and by the end of the semester they will be expected to have read 800 pages. Each student will keep a vocabulary book and each week they will have to increase the number of words by 10 so at the end of the semester the students will have to increase by 150 words. Every three weeks there will be a vocabulary test on what words they have added to their books. Finally the students will be doing homework from the textbook.

〔成績評価の方法〕

The students will be graded on four criteria:

- 1) Attendance (15%)
- 2) Book reports and reading progress (Minimum of 600 pages) (40%)
- 3) A test on the skills of reading at the end of the semester (30%)
- 4) Attitude in class that is willingness to co-operate with tasks in the classroom. (15%)

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction to reading, the course and what is expected throughout the semester.
第2週	Introduction to reading, explanation of intensive and extensive reading
第3週	Essential Reading chapter One - Culture Shock
第4週	Essential Reading chapter One -
第5週	Essential Reading Test
第6週	Essential Reading Chapter Two -
第7週	Essential Reading Chapter Two
第8週	Essential Reading Chapter Test Two
第9週	Essential Reading Chapter Three
第10週	〃
第11週	Essential Reading Chapter Test Three
第12週	Essential Reading Chapter Four
第13週	Essential Reading Chapter Four -
第14週	Essential Reading Chapter Test Four
第15週	Checking of book report pages read
Will follow the chapters of the book.	
Every week there will be speed reading and reading skill exercises.	

副題					担当者	小倉 雅明 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

基本的な英文を正確に読み取れるように文法・語彙・背景知識など様々な力を高めます。

〔授業の内容〕

確実な英文読解力の基礎を築くための訓練・学習を行います。色々な文章に触れながら正確に読むことを通して読むスピードも少しずつ早くなるようにしていきます。

〔教材〕

教科書：Miles Craven, *Reading Keys I*, New Edition, Macmillan, 2009
必要に応じてその都度指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストの内容は全て熟読した上で授業に臨んで下さい。その前提で授業は進行します。
予習・復習など授業外での学習時間は60時間必要です。

〔成績評価の方法〕

出席：20%，課題・宿題：30%，授業態度：10%，期末課題：40%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス+Unit1-The beautiful game
 - 第2週 Unit2-Sports for everyone
 - 第3週 Unit3-Work around the world
 - 第4週 Unit4-Unusual occupations
 - 第5週 Unit5-Life on death row
 - 第6週 Unit6-Crazy criminals
 - 第7週 Unit7-Childhood memories
 - 第8週 Unit8-Growing up in another culture
 - 第9週 Unit9-The secret of success
 - 第10週 Unit10-Is money the answer?
 - 第11週 Unit11-The car is king
 - 第12週 Unit12-Incredible journeys
 - 第13週 Unit13-We do things differently
 - 第14週 Unit14-The language puzzle, Unit15 No place like home (前半)
 - 第15週 Unit15 No place like home(後半), Unit 16-Fighting the future
- 辞書を必ず持参してください（紙でも電子辞書でも可）。

BASIC READING I

3714030100900

副題					担当者	C. L. イヤリー 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	2 1
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>To strengthen students' English reading and discussion skills, and also to expand their vocabulary.</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>The course will focus on a text for reading exercises, as well as short additional articles from newspapers and Websites.</p> <p>〔教材〕</p> <p>教科書：Patricia Ackert, Linda Lee, <i>Thoughts and Notions 2</i>, 2nd Edition, Thomson Heinle, 2005</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>Students should read ahead before each class and review vocabulary after each class ends.</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>There will be occasional quizzes, as well as a mid-term and final examination.</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授業計画〕

- 第1週 Unit 1: Inventions and Inventors
Lesson 1
- 第2週 Lesson 2-3
- 第3週 Lesson 3-5
- 第4週 Unit 2: Sports
Lesson 1
- 第5週 Lesson 2-3
- 第6週 Lesson 4-5
- 第7週 Unit 3: Food
Lesson 1
- 第8週 Lesson 2-3
- 第9週 Lesson 4-5
- 第10週 Unit 4: Mysteries
Lesson 1
- 第11週 Lesson 2-3
- 第12週 Lesson 4-5
- 第13週 Unit 5: Food
Lesson 1
- 第14週 Lesson 2-4
- 第15週 Comprehension Exercises

副題					担当者	G. デイオリオ 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月木	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organization.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書 : *Essential Reading 1*, (Scott Miles, Amanda French, Chris Gough, Jackie McAvoy) Macmillan, 2007

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

1 hour per week - reading and preparing notes to talk about readings in class.

〔成績評価の方法〕

Attendance: 10%
Participation: 20%
Homework (preparing weekly summaries): 40%
Vocabulary quizzes: 10%
Test: 20%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Course introduction.
- 第2週 Text unit 1. Supplementary story.
- 第3週 Text unit 2. Supplementary story.
- 第4週 Text unit 3. Supplementary story.
- 第5週 Text unit 4. Supplementary story.
- 第6週 Text unit 5. Supplementary story.
- 第7週 Text unit 6. Supplementary story.
- 第8週 Text unit 7. Supplementary story.
- 第9週 Text unit 8. Supplementary story.
- 第10週 Text unit 9. Supplementary story.
- 第11週 Text unit 10. Supplementary story.
- 第12週 Text unit 11. Supplementary story.
- 第13週 Text unit 12. Supplementary story.
- 第14週 Comprehension work.
- 第15週 Course wrap-up and close.

副題					担当者	坂本 裕子 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	2 2
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>基本的な英文法を確認しながら、まとまった英文を読解できるよう目指します。</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>様々なトピックの英文を読みながら、英文読解を効率的に行う手順や方法を身につけるための練習を行います。</p> <p>各ユニット毎に英文エッセイを書いてもらいます。</p> <p>〔教材〕</p> <p>教科書：上村 淳子 他, <i>Knowledge Expander</i>, 朝日出版社, 2015</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>予習としては単語調べと内容読解。</p> <p>復習として内容を確認した後、各ユニット毎に出される英文エッセイを提出します。</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>学期末のテストと課題提出を基準にし、出席状況や授業への意欲的な参加を加味して評価します。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Unit 1
- 第3週 Unit 2
- 第4週 Unit 3
- 第5週 Unit 4
- 第6週 Unit 5
- 第7週 Unit 6
- 第8週 Unit 7
- 第9週 Unit 8
- 第10週 Unit 9
- 第11週 Unit 10
- 第12週 Unit 11
- 第13週 Unit 12
- 第14週 Unit 13
- 第15週 Review

BASIC READING L

3714030101200

副題					担当者	橋本 ナターシャ 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月木	時限	1 2	

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organization.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Craven, M., *Reading Keys 1*, New Edition, Macmillan, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are required to come to class prepared, having read the assigned materials at home. There will be a great deal of pair work and small group discussion in class and each student should be fully prepared to participate. If there is anything unclear about the materials (especially regarding units in the textbook), students are expected to ask questions in class.

〔成績評価の方法〕

Mid-term exam - 30%, final exam - 30%, in-class activities (pair work, quizzes) & homework - 40%.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction & orientation; Sports Unit 1
- 第2週 Sports Unit 2
- 第3週 People at work Unit 3
- 第4週 People at work Unit 4
- 第5週 Crime and punishment Unit 5
- 第6週 Crime and punishment Unit 6
- 第7週 Growing up Unit 7
- 第8週 Growing up Unit 8
- 第9週 Success, fame, and money Unit 9
- 第10週 Success, fame, and money Unit 10
- 第11週 Going places Unit 11
- 第12週 Going places Unit 12
- 第13週 Culture connections Unit 13
- 第14週 Culture connections Unit 14; Final-exam
- 第15週 TBA

BASIC READING M

3714030101300

副題					担当者	T. スコット 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水 土	時限	5 1

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding text organization.

〔授業の内容〕

This course is one in which the students will learn skills as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Patricia Ackert, Linda Lee 『Facts and Figures』 4th版, Heinle Cengage Learning

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

All of the students must bring the completed homework and be prepared to do the activity of the day. In addition, please ask any questions you may still have on any given topic.

〔成績評価の方法〕

There will be tests (60%), attendance (30%) and participation (10%).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction, Unit 1 Lesson 1 - Lesson 2
- 第2週 Unit 1 Lesson 3 - Lesson 5
- 第3週 Unit 1 Word Study / Extension Activities
- 第4週 Unit 2 Lesson 1 - Lesson 4
- 第5週 Unit 2 Lesson 5 Word Study / Extension Activities
- 第6週 Unit 3 Lesson 1 - Lesson 4
- 第7週 Unit 3 Lesson 5 Word Study / Extension Activities
- 第8週 Unit 4 Lesson 1 - Lesson 4
- 第9週 Unit 4 Lesson 5 Word Study / Extension Activities
- 第10週 Unit 5 Lesson 1 - Lesson 4
- 第11週 Unit 5 Lesson 5 Word Study / Extension Activities
- 第12週 Unit 6 Lesson 1 - Lesson 4
- 第13週 Unit 6 Lesson 5 Word Study / Extension Activities
- 第14週 Unit 7 Lesson 1 - Lesson 4
- 第15週 Unit 7 Lesson 5 Word Study / Extension Activities

副題	「段落」から "paragraph" へ			担当者	式町 眞紀子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水土	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

和文における段落の概念を取り払い、英文の基本概念である paragraph の仕組みを習得します。

〔授業の内容〕

スポーツ、ビジネス、文化交流など多岐に渡るトピックに沿った英文をもとに、文法事項や類義語・反義語など語彙項目で補いながら表現の多様性をはかり、paragraph の仕組み確認します。音読も必ず行い、意味のまとまりで英文を捉えるスキルも磨きます。春学期は基本的に1ユニットを2週で扱い、理解度や達成度を見ながら進度を加減します。

〔教材〕

教科書：Craven, Miles., *Reading Keys 1 New Edition*, Macmillan, 2009

毎回の授業には、電子または紙の英和辞典を必ず持参すること。ただし、スマートフォンの辞書アプリは学習用には適さないので、教室内での使用を認めません。英英辞書および参考書については、授業で説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に不明な単語が無いように調べておくこと。授業は、不明な点を明らかにし、知っているということを掘り下げて考える、発展・応用の機会です。授業後は見直し、定着を目指しましょう。1ユニットの予復習で、授業時間相当分を充てるように。

〔成績評価の方法〕

出席状況30%、授業参加態度30%、試験30%、課題 10% 以上を基準に総合的に判断します。

〔備考〕

板書を多用しますので、授業用のノートを用意すること。

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction & Orientation
第2週	Unit1: The beautiful game
第3週	Unit1
第4週	Unit2: Sports for everyone
第5週	Unit2
第6週	Unit3: Work around the world
第7週	Unit3
第8週	Review - midterm
第9週	Unit4: Unusual occupations
第10週	Unit4
第11週	Unit5: Life on death row
第12週	Unit5
第13週	Unit6: Crazy criminals
第14週	Unit6
第15週	Review - termend

READING & WRITING A

3714030200100

副題				担当者	R. S. ジョーンズ 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水土	時限	1 2

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organisation in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕

教科書：Amanda French, *Essential Reading 4*, Macmillan, 2008
 Ian Munby & Dorothy E. Zemach, *Read to Write Compositions*, BTB Press

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Pre-reading, looking up unfamiliar words, keeping vocabulary notebook up to date, research, writing summaries of articles.

〔成績評価の方法〕

- Attendance 10%
- Participation 20 %
- Writing assignments 20%
- Projects 20%
- Reading comprehension tests 30%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Skills for success
- 第3週 Skills for success
- 第4週 The paranormal
- 第5週 ♪
- 第6週 Body and spirit
- 第7週 ♪
- 第8週 Nature
- 第9週 ♪
- 第10週 Technology
- 第11週 ♪
- 第12週 21st century love
- 第13週 ♪
- 第14週 Writing (Final selection)
- 第15週 Review

副 題					担 当 者	K. フォード 講師	
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	水 土	時 限	1 1

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕

教科書：Patricia Ackert and Linda Lee, *Cause and Effect 3*, Heinle

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Class preparation is mainly reading required texts, graded reader books, or doing research for reports.

〔成績評価の方法〕

Evaluation is based on attendance (30%) , class participation (30%) , presentations (10%) , homework preparation (10%) , and tests (20%) .

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction to the course
- 第2週 Cause and Effect 3: Unit 4, Lessons 1 and 2
- 第3週 Cause and Effect 3: Unit 4, Lessons 3 and 4
- 第4週 Cause and Effect 3: Unit 4, Lessons 5 and Review
- 第5週 Social Issues Readings and Graded Reader Book Report
- 第6週 Presentations of Great Lives Reading Research
- 第7週 Cause and Effect 3: Unit 5, Lessons 1 and 2
- 第8週 Cause and Effect 3: Unit 5, Lessons 3 and 4
- 第9週 Social Issues Readings
- 第10週 Graded Reader Written Book Report and Oral Report
- 第11週 Cause and Effect 3: Unit 5, Lesson 5 and Review
- 第12週 Social Issues Readings
- 第13週 Readings About Defining and Measuring Development and Sustainable Development Projects
- 第14週 Graded Reader Written Book Report and Oral Report
- 第15週 Presentations of Developing Countries Reading Research and Final Review

副 題					担 当 者	伊藤 直美 講師	
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月 木	時 限	1 1

〔授業の到達目標〕

春学期に続きreading fluencyとreading skillsの向上と感想・意見を述べるにとどまらず、内容をまとめる・意見を書くなどを目指します。

〔授業の内容〕

春学期と同じテキストを使いながら、warm-up-reading-check-discussion & other activitiesを続け様々な題材を読むと同時に意見交換・書くという作業が増えていきます。また、ひとつの物語をクラス全体でretellする、謎解きに挑戦、春学期とは違うテーマでpresentationも行うなど、グループワークも多く行います。

〔教材〕

教科書：Chris Gough, *Essential Reading 1*, Macmillan
教科書 *Essential Reading 1* は1年を通して使用する予定です。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

”What do you think?” 毎回トピックに応じた意見が求められます。自分の意見をバックアップできるようテキストに目を通し、トピックについて考えてくること。また、疑問点を質問できるよう準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

テスト・ワークシート及び出席状況・授業への参加態度などの平常点を含め、総合的に評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction & Guidance Unit07: Speed dating
第2週	Runaway Bride Unit07: The day after the fire
第3週	Retell the story
第4週	Unit08: London's China Town China Town in other countries
第5週	Tsukiji cooking Unit09: Face transplants
第6週	IPS! Unit09: Korean beauties
第7週	World Beauty McDonald's House
第8週	Current news topics Summary -- Check
第9週	Unit10: Asian Soccer Players Adapt to new culture
第10週	Solve Mystery!
第11週	Unit11: Pop stars overnight Unit12: Junk food
第12週	School lunch Unit12: A Japanes diet
第13週	Presentation
第14週	Review Current news topics
第15週	Summary -- Check
各週取り	上げるunit・内容は授業の進度、時のニュースなどにより変わることがあります。

READING & WRITING D

3714030200400

副題					担当者	A. パラスキ 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月木	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

This course is designed to assess and develop student's reading and vocabulary skills in English

〔授業の内容〕

There will be a focus on using vocabulary from the reading text, both in the contexts provided in the text and in new contexts provided by the instructor and, later, by the student. Students will create class vocabulary lists of words extracted from the text and use them in various writing exercises to be assessed by the instructor. By providing a context-based usage of vocabulary, one of the major aims will be for students to acquire a native sense of usage. Students are required to keep a vocabulary journal with examples of acceptable and unacceptable usage.

〔教材〕

教科書 : *Inside Reading 3*, (Oxford) 2nd Edition, 2012

Supplementary materials will be provided during the term.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to spend an amount of time outside of class studying and mastering language patterns for presentation that equals or exceeds the amount of time spent in class.

〔成績評価の方法〕

Evaluation is based on attendance(20%), reading assignments(20%), writing assignments(20%), class participation(20%) and tests(20%).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Reading assignment 1; assessment and discussion.
- 第2週 Vocabulary assignment 1; class discussion.
- 第3週 Reading assignment 2; assessment and discussion.
- 第4週 Vocabulary assignment 2; class discussion.
- 第5週 Reading assignment 3; assessment and discussion.
- 第6週 Vocabulary assignment 3; class discussion.
- 第7週 Reading assignment 4; assessment and discussion.
- 第8週 Vocabulary assignment 4; class discussion.
- 第9週 Reading assignment 5; assessment and discussion.
- 第10週 Vocabulary assignment 5; class discussion.
- 第11週 Reading assignment 6; assessment and discussion.
- 第12週 Vocabulary assignment 6; class discussion.
- 第13週 Reading assignment 7; assessment and discussion.
- 第14週 Vocabulary assignment 7; class discussion.
- 第15週 Review

(外
通
国
語)
科
目

副題	Reading for Enjoyment and Improvement of Vocabulary			担当者	R. ジョーンズ 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English. The focus of this semester's class is reading. In addition the students will occasionally write about topics that have been discussed and things that have been read in class. The main aim is to have fun while studying and for the students to improve their English skills, particularly vocabulary.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organisation in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Though writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing. This is a continuation of the class from the spring term, but new students are most welcome. The main point in this course is for students to discover the joy of reading English and how it can help them build up useful English vocabulary. In addition, before and after most readings, the students will have a chance to speak about the various reading topics. Students will also get an opportunity to write about what they have read and to develop their opinions by writing.

〔教材〕

教科書 : Jackie McAvoy, *Essential Reading 2* (ISBN: 978-4-7773-6190, Macmillan, Latest In the second semester, Insights for Today and Facts & Figures will be used.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are to bring the textbook to all lessons. Students must ensure that they have completed all homework assignments. Students need to review the previous lessons and prepare for the coming lessons.

〔成績評価の方法〕

- Attendance = 10 points
- Punctuality = 10 points
- Effort and participation = 20 points
- Writing reports = 100 x 20% = 20 points
- Homework and class exercises = 100 x 20% = 20 points
- Final assessments = 100 x 20% = 20 points
- Total = 100 points

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Welcome back to the class. Various reading and writing exercises and course expectations for the fall semester.
第2週	Reading taken from unit 1 - Culture shock. Comprehension exercises and vocabulary work. Reading - Doing things differently.
第3週	Unit 2 of the text. How chewing can improve grades! Reading about the perils of chewing gum. Vocabulary work and comprehension exercises. Writing practice based on the themes.
第4週	Technology - reading taken from the textbook. Comprehension and vocabulary building with more writing practice.
第5週	Chapter 4 - Reading and discussion about urban life. Reading about living in the city. Writing practice and various other exercises.
第6週	Readings taken from chapter 5 of the text. The case for plastic surgery. Comprehension exercises, vocabulary building and writing practice.
第7週	Topic theme is piracy and fake goods. Reading - Big labels small prices. Reading exercise; Copycats.
第8週	Consumerism. Reading: Doing Without. Discussion, comprehension and vocabulary exercises. Writing practice.
第9週	Theme: Fashion. Readings from the textbook, vocabulary building and comprehension work. Reading about people talking about their hair from 5 different countries.
第10週	Reading theme is about the internet and virtual reality. Reading about and discussion of podcasts, blogging and programming.
第11週	The reading theme is about tattoos. Reading texts taken from unit 10 of the textbook. Discussion and reading about Metrosexual.
第12週	Reading topic revolves around sport. Comprehension exercises, vocabulary building and writing assignments.
第13週	The reading topic explores unusual reading sports and activities. Vocabulary building and comprehension questions.
第14週	Readings from unit 12 of the textbook examining student's reading skills and preferences. Vocabulary building and final writing assignments.
第15週	Summation of the course of studies and final evaluations. Collection of final writing reports.

The textbook units will be covered each week. Always try hard and you can improve your English. Please do not be late to the lessons. Try hard to come to all the lessons and do all the homework. Be punctual.

副題					担当者	横江 百合子 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金	時限	1 2

〔授業の到達目標〕

This course aims

- 1) to develop basic reading comprehension skills, and
- 2) to provide students with the opportunities to read English on a regular basis.

〔授業の内容〕

In addition to in-class activities (which are based on the textbook), students are required to read a number of articles and passages in and outside class.

In-class activities include skimming, scanning, searching for main ideas, writing a summary, and giving a short presentation on the relevant topics.

Take-home reading assignments will be given each class to enrich students' reading experience.

〔教材〕

教科書：Jackie McAvoy, *Essential Reading 2*, Macmillan, 2008

Supplementary handouts may be offered when necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Please come prepared to participate in classroom discussion.

This may require students to read extensively for at least two hours per week.

〔成績評価の方法〕

- 1) Attendance 30%
- 2) Book reports and presentations 30%
- 3) Participation 10%
- 4) Tests and quizzes 30%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Essential Reading 2: 7. Accessories of Life
- 第2週 ♪
- 第3週 Essential Reading 2: 8. Fashion
- 第4週 ♪
- 第5週 Essential Reading 2: 9. Cybernauts
- 第6週 ♪
- 第7週 Midterm review
- 第8週 Essential Reading 2: 10. Skincare
- 第9週 ♪
- 第10週 Essential Reading 2: 11. Sports
- 第11週 ♪
- 第12週 Essential Reading 2: 12. Covers
- 第13週 ♪
- 第14週 Presentations
- 第15週 Presentations / Final review

副題					担当者	P. アプス 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月 木	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

The aim of this subject is to get the students to read both extensively and intensively.

〔授業の内容〕

This semester the course will focus on speed reading as well as extensive reading. There will be more writing in this course than in the first semester.

〔教材〕

教科書：Chris Mcgough, *Essential Reading Book Two*, (Macmillan Press)

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

For every class will be expected to read extensively and by the end of the semester they will be expected to have read 800 pages. Each student will keep a vocabulary book and each week they will have to increase the number of words by 10 so at the end of the semester the students will have to increase by 150 words. Every three weeks there will be a vocabulary test on what words they have added to their books. Finally the students will be doing homework from the textbook.

〔成績評価の方法〕

The students will be graded on four criteria

- 1) Attendance (30%)
- 2) Book reports and reading progress (Minimum of 800 pages) (40%)
- 3) A test on the skills of reading at the end of the semester (15%)
- 4) Attitude in class that is willingness to co-operate with tasks in the classroom. (15%)

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Review of the first semester
- 第2週 Essential Reading Chapter Five
- 第3週 ♪
- 第4週 Essential Reading Chapter Six
- 第5週 Essential Reading Chapter Seven
- 第6週 ♪
- 第7週 Essential Reading Chapter Eight
- 第8週 ♪
- 第9週 Essential Reading Chapter Nine
- 第10週 Essential Reading Chapter Nine 1
- 第11週 Essential Reading Chapter Ten 1
- 第12週 ♪
- 第13週 Essential Reading Chapter Eleven
- 第14週 ♪
- 第15週 Check reading reports and vocabulary books

副題					担当者	小倉 雅明 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

読解力を磨きながら、それを土台として伝えたいことを的確に表現できるようにライティング力のレベルアップを目標とします。

〔授業の内容〕

読解を通じながら語彙力を強化し、学んだ語彙をうまくライティングで活用できるように学習をします。様々な話題に対して自分の意見を持ち、それを表現しようとする事で各々が必要な英語を学ぶようにします。

〔教材〕

教科書：Patricia Ackert, Linda Lee, *Thoughts and Notions*, 2nd Edition, Cengage, 2005

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストの内容は全て熟読した上で授業に臨んでください。その前提で授業は進行します。予習・復習など授業外での必要学習時間の目安は60時間です。

〔成績評価の方法〕

出席：20%，課題・宿題：30%，授業態度：10%，期末課題：40%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス, Unit1-Lesson1
- 第2週 Unit1-Lesson2, Lesson3
- 第3週 Unit1-Lesson4, Lesson5
- 第4週 Unit2-Lesson1, Lesson2
- 第5週 Unit2-Lesson3, Lesson4
- 第6週 Unit2-Lesson5, 課題（1）
- 第7週 Unit3-Lesson1, Lesson2
- 第8週 Unit3-Lesson3, Lesson4
- 第9週 Unit3-Lesson5, 課題（2）
- 第10週 Unit4-Lesson1, Lesson2
- 第11週 Unit4-Lesson3, Lesson4
- 第12週 Unit4-Lesson5, 課題（3）
- 第13週 Unit5-Lesson1, Lesson2
- 第14週 Unit5-Lesson3, Lesson4
- 第15週 総まとめ

辞書を必ず持参してください（紙でも電子辞書でも可）。

READING & WRITING I

3714030200900

副題					担当者	C. L. イヤリー 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

To strengthen students[RUMR_L00007] English reading and writing skills, and also to expand their vocabulary.

〔授業の内容〕

The course will focus on a text for reading exercises, as well as short additional articles from newspapers and Websites.

〔教材〕

教科書：Miles Craven, *Reading Keys I*, MacMillan, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students should read ahead before each class and review vocabulary after each class ends.

〔成績評価の方法〕

There will be occasional quizzes, as well as a mid-term and final examination.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Theme 1: Sports
Unit 1
- 第2週 Unit 2
- 第3週 Theme 2: People at work
Unit 3
- 第4週 Unit 4
- 第5週 Theme 3: Crime and punishment
Unit 5
- 第6週 Unit 6
- 第7週 Theme 4
Unit 7
- 第8週 Unit 8
- 第9週 Theme 5
Unit 9
- 第10週 Unit10
- 第11週 Theme 6
- 第12週 Theme 7
- 第13週 Theme 8
- 第14週 Review
- 第15週 Comprehension Exercises

副題					担当者	G. デイオリオ 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月木	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕

教科書：*Essential Reading 2*, (Scott Miles, Amanda French, Chris Gough, Jackie McAvoy) Macmillan, 2007

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

1-2 hours per week - reading and writing summaries and reactions to the reading, plus essay writing.

〔成績評価の方法〕

- Attendance: 10%
- Participation: 20%
- Homework (weekly written summaries): 40%
- Essay: 30%

〔備考〕

(共通科目)
外国語

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Course introduction.
- 第2週 Text unit 1. Supplementary story.
- 第3週 Text unit 2. Supplementary story. Essay planning.
- 第4週 Text unit 3. Supplementary story. Essay planning.
- 第5週 Text unit 4. Supplementary story. Essay outlining.
- 第6週 Text unit 5. Supplementary story. Outline review.
- 第7週 Text unit 6. Supplementary story. Essay introductions.
- 第8週 Text unit 7. Supplementary story. Essay body.
- 第9週 Text unit 8. Supplementary story. Essay body.
- 第10週 Text unit 9. Supplementary story. Essay conclusion.
- 第11週 Text unit 10. Supplementary story. Essay draft.
- 第12週 Text unit 11. Supplementary story. Essay draft.
- 第13週 Text unit 12. Supplementary story.
- 第14週 Class discussion. Supplementary story. Essay submission.
- 第15週 Course wrap-up and close.

副題					担当者	坂本 裕子 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月 木	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

長文英語を読解し、内容理解を深めることができるよう目指します。

〔授業の内容〕

様々なトピックの英文を読みながら、専門的な単語を習得し、複雑な英文構造を読解できるよう練習します。

英字新聞の内容をまとめるレポートを提出してもらいます。

〔教材〕

教科書：高橋 優身, *English through the News Media, 2015 edition*, 朝日出版社, 2015

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として各ユニットの英単語調べと内容読解。

復習として内容の確認をします。できるだけ日常から英字新聞に目を通すようにしましょう。

〔成績評価の方法〕

学期末のテストと課題提出を基準にし、出席状況や授業への意欲的な参加を加味して評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Unit 1
- 第3週 Unit 2
- 第4週 Unit 3
- 第5週 Unit 4
- 第6週 Unit 5
- 第7週 Review 1
- 第8週 Unit 6
- 第9週 Unit 7
- 第10週 Unit 8
- 第11週 Unit 9
- 第12週 Unit 10
- 第13週 Unit 11
- 第14週 Unit 12
- 第15週 Review 2

副題					担当者	橋本 ナターシャ 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月木	時限	1/2

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕

教科書：Ackert, P., amp] Lee, L. 『Thoughts & Notions 2』2nd版, 2005年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are required to come to class prepared, having read the assigned materials at home. There will be a great deal of pair work (such as peer-editing) and small group discussion in class and each student should be fully prepared to participate. If there is anything unclear about the materials (especially regarding units in the textbook), students are expected to ask questions in class.

〔成績評価の方法〕

Class participation (e.g., quizzes, pair work) & homework - 50%, writing tasks - 50%.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Unit 1, Part 1
- 第2週 Unit 1, Pt.2
- 第3週 Unit 1, Pt.3
- 第4週 Unit 2, Pt.1
- 第5週 Unit 2, Pt.2
- 第6週 Unit 2, Pt.3
- 第7週 Unit 3, Pt.1
- 第8週 Unit 3, Pt.2
- 第9週 Unit 3, Pt.3
- 第10週 Unit 4, Pt.1
- 第11週 Unit 4, Pt.2
- 第12週 Unit 4, Pt.3
- 第13週 Unit 5, Pt.1
- 第14週 Unit 5, Pt.2
- 第15週 Unit 5, Pt.3

READING & WRITING M

3714030201300

副題					担当者	T. スコット 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水土	時限	5 1

〔授業の到達目標〕

The goal of this term is for the students to continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕

教科書：Patrica Ackert, Linda Lee 『Thoughts and Notions』 2nd版, Heinle Cengage Learning

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

All of the students must bring the completed homework and be prepared to do the activity of the day. In addition, please ask any questions you may still have on any given topic.

〔成績評価の方法〕

There will be tests (60%), attendance (30%) and participation (10%).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Unit 1 Lessons 1 - 4
- 第2週 Unit 1 Lesson 5 / Word Study / Writing
- 第3週 Unit 1 Extension Activities
- 第4週 Unit 2 Lessons 1 - 4
- 第5週 Unit 2 Lesson 5 / Word Study / Writing
- 第6週 Unit 2 Extension Activities
- 第7週 Unit 3 Lessons 1 - 4
- 第8週 Unit 3 Lesson 5 / Word Study / Writing
- 第9週 Unit 3 Extension Activities
- 第10週 Unit 4 Lessons 1 - 4
- 第11週 Unit 4 Lesson 5 / Word Study / Writing
- 第12週 Unit 4 Extension Activities
- 第13週 Unit 5 Lessons 1 - 4
- 第14週 Unit 5 Lesson 5 / Word Study / Writing
- 第15週 Unit 5 Extension Activities

副題	「段落」から "paragraph" へ			担当者	式町 眞紀子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水土	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

和文における段落の概念を取り払い、英文の基本概念である paragraph の仕組みを習得します。

〔授業の内容〕

春学期に引き続き、スポーツ、ビジネス、文化交流など多岐に渡るトピックに沿った英文をもとに、文法事項や類義語・反義語など語彙項目で補いながら表現の多様性をはかり、paragraph の仕組み確認します。音読も必ず行い、意味のまとまりで英文を捉えるスキルも磨きます。秋学期では、スピードアップを図り、英語を読みながら英語で考えることを目指します。

〔教材〕

教科書：Craven, Miles., *Reading Keys 1 New Edition*, Macmillan, 2009

毎回の授業には、電子または紙の英和辞典を必ず持参すること。ただし、スマートフォンの辞書アプリは学習用には適さないもので、教室内での使用を認めません。英英辞書および参考書については、授業で説明します。

秋学期には、皆さんの学習領域に関連したテキスト以外の英文を適宜追加します。（プリント）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に不明な単語が無いように調べておくこと。授業は、不明な点を明らかにし、知っているということを掘り下げて考える、発展・応用の機会です。授業後は見直し、定着を目指しましょう。1ユニットの予復習で、授業時間相当分を充てるように。

〔成績評価の方法〕

出席状況30%、授業参加態度30%、試験30%、課題 10% 以上を基準に総合的に判断します。

〔備考〕

板書を多用しますので、授業用のノートを1冊用意すること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Follow-up and orientation, Unit7: Childhood memories
- 第2週 Unit7
- 第3週 Unit8: Growing up in another culture
- 第4週 Unit8
- 第5週 Unit9: The secret of success
- 第6週 Unit9
- 第7週 Review - midterm
- 第8週 Unit10: Is money the answer?
- 第9週 Unit11: The car is king
- 第10週 Unit12: Incredible journeys
- 第11週 Unit13: We do things differently
- 第12週 Unit14: The language puzzle
- 第13週 Unit15: No place like home
- 第14週 Unit16: Fighting the future
- 第15週 Review - termend

SPEAKING PRACTICE A

3717030100100

副題					担当者	J. テスター 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	1 1
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>This course will improve practical English communication skills.</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>Students build confidence to handle a variety of situations in English through conversation practice, vocabulary building, role-play and discussion.</p> <p>〔教材〕</p> <p>教科書：David Paul, <i>Communication Strategies 3</i>, Cengage, 2008</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>Review what the teacher said after each lesson / Come prepared to participate in the class.</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>Attendance 10% Participation 30% Vocabulary project 10% Completion of Homework 20% Quizzes and tests 30%</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授業計画〕

- 第1週 Introducing yourself. Conversation skills.
- 第2週 Compensation strategies. Asking for clarification.
- 第3週 Vocabulary learning strategies.
- 第4週 Discussing routines.
- 第5週 Discussing hobbies and pastimes.
- 第6週 Asking for and giving opinions.
- 第7週 Agreeing and disagreeing.
- 第8週 Giving advice.
- 第9週 Making and responding to suggestions.
- 第10週 Participating in discussions.
- 第11週 Active listening and showing interest.
- 第12週 Discussing current topics.
- 第13週 Reporting on the past.
- 第14週 Talking about experiences.
- 第15週 Speaking assessment.

副題					担当者	小倉 雅明 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	1/2

〔授業の到達目標〕

必要な場面に応じて必要な表現を用いることができるようにスピーキング力の土台を築くための学習及びトレーニングを行います。

〔授業の内容〕

テキストを用いながら実際に英語を使う際に必要になるであろう知識や表現を中心に学びます。様々な状況・場面・話題に応じた言葉のやりとりを学ぶことで実際の運用につなげていきます。実際に「使う」場面を想定した練習の機会を多く設ける予定です。

〔教材〕

教科書：David Paul, Tracy Ddavis, Susanne Rizzo, Jun Lie, Kathryn Harper, *Communication Strategies 2*, Cengage, 2009

必要に応じてその都度指示をします。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストの内容は全て熟読した上で授業に臨んでください。その前提で授業は進行します。予習・復習など授業外での学習は60時間必要です。

〔成績評価の方法〕

出席：20%，課題・宿題：30%，授業態度：10%，期末課題：40%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週 ガイダンス + Attitudes

第2週 Money

第3週 Health

第4週 Education

第5週 Crime

第6週 The Environment

第7週 Aliens

第8週 History

第9週 Women in Society

第10週 The Developing World

第11週 Violence

第12週 Politics

第13週 Happiness

第14週 Globalization

第15週 総まとめ

辞書を必ず持参してください（紙でも電子辞書でも可）。

SPEAKING PRACTICE C

3717030100300

副題					担当者	岡本 広毅 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水 土	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

The aim of this course is to improve your practical English skills.

〔授業の内容〕

This course focuses on the use of practical English on a variety of topics. We will learn practical English grammar and enrich your vocabulary. Students will have many opportunities to speak to their classmates and do some communicative exercises. The important thing is to speak up with confidence.

〔教材〕

教科書：Joan M. Saslow、 Allen Ascher, *Top Notch 2*, Pearson Education, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Vocabulary check and some reading for an hour per one class.

〔成績評価の方法〕

attendance 30%, participation in class activities and presentation 40%, Exam 30%.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Unit1 Greetings and Small Talks (get reacquainted with someone)
- 第2週 Unit1 Greetings and Small Talks (Greet a visitor to your country)
- 第3週 Unit2 Movies and Entertainment (Apologize for being late)
- 第4週 Unit2 Movies and Entertainment (Discuss preferences for movie genre)
- 第5週 Unit3 Staying in Hotels (Check into hotel)
- 第6週 Unit3 Staying in Hotels (Leave and take a telephone message)
- 第7週 Mid Term Review; Mini Test
- 第8週 Unit4 Cars and Driving (Describe a car accident)
- 第9週 Unit4 Cars and Driving (Report a problem with a car)
- 第10週 Unit5 Personal Care and Appearance (Ask for something in a store)
- 第11週 Unit5 Personal Care and Appearance (Request salon services)
- 第12週 Presentation
- 第13週 /
- 第14週 Grammar/ Reading / Conversation strategies
- 第15週 Final Review and Exam

Schedule might be changed to take into account student levels and interests.

SPEAKING PRACTICE D

3717030100400

副題					担当者	A. パラスキ 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月木	時限	1/2

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build fluency and expand the ability to converse in English.

〔授業の内容〕

Rather than focus on the grammar or specific vocabulary, this course revolves around the practice and understanding of different interpersonal skills involved in conversation.

〔教材〕

教科書： *Conversation Strategies*, (Pro LinguaAssociates) revised Edition, 2005

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to study vocabulary and practice language patterns for presentation outside of class time. The amount of time spent outside class should be expected to equal or exceed the amount of time spent in class.

〔成績評価の方法〕

Student grades are based on attendance(20%), class participation(20%), improvement(20%), short quizzes(20%) and student presentations(20%).

〔備考〕

（共通科目）
外国語

〔授業計画〕

- 第1週 Rejoinders and follow-ups
- 第2週 Confirmations and Clarifications.
- 第3週 Keeping or Killing a Conversation.
- 第4週 Requests and Responses.
- 第5週 Soliciting Details.
- 第6週 Comparisons.
- 第7週 Distinguishing Nuance and Finding the Right Word.
- 第8週 Starting and Stopping a Conversation.
- 第9週 Beginning and Ending a Phone Call; Phone Conversations.
- 第10週 Expressing Opinions.
- 第11週 Discussion Connectors.
- 第12週 Summarizing.
- 第13週 Conducting a Formal Meeting.
- 第14週 Review.
- 第15週 Evaluation presentation.

SPEAKING PRACTICE E

3717030100500

副題				担当者	吉富 昇 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	1 3
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>〔授業の内容〕 授業開始時にシラバスを配付します。</p> <p>〔教材〕 教科書：Top Notch 1</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授業計画〕

SPEAKING PRACTICE F

3717030100600

副題					担当者	K. フォード 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水土	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.

〔教材〕

教科書：Day, R., Shaules, J., Yamanaka, J. 『Impact Issues 3』 Pearson ELT

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation will involve preparing to take part in conversations, discussions and speeches by studying necessary language and vocabulary.

〔成績評価の方法〕

Students are graded on attendance (30%) , class participation (30%) , presentations (10%) , homework preparation (10%) and speaking tests (20%) .

〔備考〕

（共通科目）
外国語

〔授業計画〕

第1週	Introductions Conversation Topic, and Impact Issues Unit 1
第2週	Family Conversation Topic, and Impact Issues Unit 2
第3週	School Experiences Conversation Topic, and Impact Issues Unit 3
第4週	Healthy Living and Lifestyle Conversation Topic, and Impact Issues Unit 4
第5週	Hobbies and Entertainment Conversation Topic, and Impact Issues Unit 5
第6週	Me, My Life Poster Presentations
第7週	Impact Issues Units 6 and 7
第8週	Fluency Topics, and Impact Issues Unit 8
第9週	Impact Issues Unit 9, and Best and Worst Travel Experiences Conversation Topic
第10週	Impact Issues Unit 10; Choose an International City for group research and presentation
第11週	Discussing and Organising details of five-day guide of chosen city
第12週	Group Preparation of Poster and Speech Practice
第13週	A Guide to an International City of Culture Poster Presentations
第14週	◇
第15週	Fluency Topics, Review and Course Evaluation

SPEAKING PRACTICE G

3717030100700

副題				担当者	R. S. ジョーンズ 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水 土	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversation skills in a variety of situations. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.

〔教材〕

教科書：Jun Liu, Tracy Davis, Susanne Rizzo, *Communication Strategies 3*, Cengage, 2008

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Pre-reading of articles, looking up unfamiliar expressions, keeping vocabulary notebooks up to date, preparing for role-plays and discussions.

〔成績評価の方法〕

- Attendance 10%
- Participation 20%
- Oral assessments 20%
- Vocabulary tests 30%
- Projects 20%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Course Introduction
- 第2週 Dress Code
- 第3週 ♪
- 第4週 Video Games
- 第5週 ♪
- 第6週 Advertising
- 第7週 ♪
- 第8週 International Competitions
- 第9週 ♪
- 第10週 Mobile Phones
- 第11週 ♪
- 第12週 Manners and Etiquette
- 第13週 ♪
- 第14週 Volunteering
- 第15週 ♪

SPEAKING PRACTICE H

3717030100800

副題					担当者	P. アプス 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月木	時限	1 1

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to get the students to speak in real situations.

〔授業の内容〕

The second semester the students will do a number of projects that will improve their communication ability. There students will make a small movie as well as participating poster presentation. The students will also participate in class discussions that are of interest to the young adult.

〔教材〕

教科書：Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka 『『Impact Issues 3』 (Impact Issues) 新版,』 (Pearson Longman, 2009年)

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Every class students will have to prepare for the next class there will a lot of presentations and homework. Students will be expected to check vocabulary for the next class.

〔成績評価の方法〕

- 20% Attendance
- 10% Participation and effort
- 20% Homework
- 30% presentations
- 20% interview

〔備考〕

In this course I hope the students will try their hardest to communicate in class with each other and myself. The simple point is that English is easy if you try.

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introductions
 - 第2週 Cosmetic Surgery
 - 第3週 Rules Rules Rules
 - 第4週 1st presentation practice and needs analysis organisation of a poster presentatio
 - 第5週 Housework
 - 第6週 Body Art
 - 第7週 review of past chapters
 - 第8週 Career Choice
 - 第9週 Career - continued - students to examine what they want to do in the future
 - 第10週 Career Poster Presentation
 - 第11週 A Woman's Place and cultural problems
 - 第12週 The Next Project will be an essay of cultural problems you can have if you lived in another country.
The students will study the movie "East is East"
 - 第13週 The movie "East is East" and discussion
 - 第14週 Student interviews on the movie and submission of essay.
 - 第15週 Review of the semester course and the submission of the final essay.
- There is no fixed schedule for this year because it will depend on level of the students.

SPEAKING PRACTICE I

3717030100900

副題					担当者	谷口 めぐみ 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	1 2

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to practice and improve practical English conversation skills.

〔授業の内容〕

Students will build confidence and expand their ability to speak in English through conversation practice, vocabulary building, role-play and discussion. This course will also guide students towards the way to effective speaking. By learning a few basic principles and practicing several essential skills, students will be ready to deal with a variety of conversational situations.

〔教材〕

教科書：Joan Saslow / Allen Ascher, *Top Notch with ActiveBook 2*, Pearson / Longman, 2011
 Kate Elwood, *The Way to Effective Speaking*, Nan'un-Do, 2006

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are required to review the key expressions introduced during class and complete/submit any homework given during class.

〔成績評価の方法〕

Student grades are based on attendance (20%), class participation (10%), completion of homework (20%), short quizzes (20%) and student presentations (30%).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Greetings and Small Talk
第2週	Movies and Entertainment
第3週	Eye Contact Gestures
第4週	Staying in Hotels
第5週	Cars and Driving
第6週	Voice Usage Organizing Information
第7週	Personal Care and Appearance
第8週	Eating Well
第9週	Supporting Ideas Generating Enthusiasm
第10週	About Personality
第11週	The Arts
第12週	Ending with a Bang Speaking Impromptu
第13週	Living with Computers
第14週	Using Visual Aids
第15週	<Review> Bringing it all together

The schedule provided is due to change according to the actual time length necessary for the students participating in the course.

SPEAKING PRACTICE J

3717030101000

副題					担当者	山科 美智子 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	1 1

〔授業の到達目標〕

The aim of this course is to improve your practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

This course focuses on building up your vocabulary and expressing your ideas in a variety of conversational situations. Students will have a lot of opportunities to practice role-plays and discuss many kinds of topics. Presentation skills will be also incorporated.

This course is very interactive and communicative, so it is important to participate in the speaking practices actively.

〔教材〕

教科書：Joan Saslow, Allen Ascher 『Top Notch2』 Second版, Pearson Education, 2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparations and reviews are required for each class, around 2h to 3h.

〔成績評価の方法〕

attendance 20%, participation in class activities and assignment 20%, presentation 30%, Exam 30%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週 Guidance, Unit1 Greetings and Small Talk

第2週 Unit1 Greetings and Small Talk

第3週 Unit2 Movies and Entertainment

第4週 ♪

第5週 Unit3 Staying in Hotels

第6週 ♪

第7週 Unit4 Cars and Driving

第8週 ♪

第9週 Unit5 Personal Care and Appearance

第10週 ♪

第11週 Presentation Strategies

第12週 Presentation

第13週 Listening /Pronunciation

第14週 Grammar/Connecting ideas

第15週 Comprehensive Review

Schedule might be changed to take into consideration students' levels and interests.

SPEAKING PRACTICE K

3717030101100

副題					担当者	橋本 ナターシャ	講師
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.

〔教材〕

教科書：Saslow, J. M., & Ascher, A., *Top Notch 2*, 2nd Edition, 2011

Additional materials will be provided by the instructor.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are required to come to class prepared, having read the assigned materials at home. There will be a great deal of pair work and small group discussion in class and each student should be fully prepared to participate. If there is anything unclear about the materials, students are expected to ask questions in class.

〔成績評価の方法〕

Assessment will be based on in-class participation, quizzes, role-plays/simulations, homework, and attendance (details TBA).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Unit 1, Pt.1
- 第2週 Unit 1, Pt.2
- 第3週 Unit 1, Pt.3
- 第4週 Unit 2, Pt.1
- 第5週 Unit 2, Pt.2
- 第6週 Unit 2, Pt.3
- 第7週 Unit 3, Pt.1
- 第8週 Unit 3, Pt.2
- 第9週 Unit 3, Pt.3
- 第10週 Unit 4, Pt.1
- 第11週 Unit 4, Pt.2
- 第12週 Unit 4, Pt.3
- 第13週 Unit 5, Pt.1
- 第14週 Unit 5, Pt.2
- 第15週 Unit 5, Pt.3

SPEAKING PRACTICE L

3717030101200

副題					担当者	横江 百合子 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

This course aims to help students acquire

- 1) accurate pronunciation of the English sounds which are often challenging for the native speakers of Japanese, and
- 2) rhythm, fluency, the correct use of diplomatic languages, and other basic speaking skills.

〔授業の内容〕

Students will learn how to present their opinions, engage in discussion, speak in public, etc., through a variety of topics.

The course also provides some pronunciation tips based on the phonetics/phonology of English.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 1*, Cengage, 2008

Supplementary handouts may be offered when necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Please come prepared to participate actively in the discussion.

Please take some time outside class to summarise your thoughts/opinions on the assigned issue.

Try using the expressions/vocabulary introduced in class as much as you can.

〔成績評価の方法〕

- 1) Attendance 30%
- 2) Discussion/Presentation 30%
- 3) Active participation 20%
- 4) Tests and quizzes 20%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Communication Strategies 1: 1. Friends
- 第2週 Communication Strategies 1: 2. Free time
- 第3週 Communication Strategies 1: 3. The past
- 第4週 Communication Strategies 1: 4. The family
- 第5週 Communication Strategies 1: 5. Work
- 第6週 Communication Strategies 1: 6. City life
- 第7週 Communication Strategies 1: 7. Beliefs
- 第8週 Communication Strategies 1: 8. The future
- 第9週 Communication Strategies 1: 9. Transportation
- 第10週 Communication Strategies 1: 10. Vices
- 第11週 Communication Strategies 1: 11. Marriage
- 第12週 Communication Strategies 1: 12. Animals
- 第13週 Communication Strategies 1: 13. Computers
- 第14週 Final discussion 1
- 第15週 Final discussion 2

SPEAKING PRACTICE M

3717030101300

副題	Let's Have Fun Speaking English Together!			担当者	R. ジョーンズ 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	1 1

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations. To allow the students many opportunities to speak English in class. This is a fun and exiting class and if the students study hard, they will gradually improve their English speaking skills.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussion, where possible and appropriate, will be incorporated to allow the students to improve their general conversational skills. This is a fun and dynamic English conversation class is for those students who are serious about improving their English speaking skills. In the class, we will talk about a variety of interesting topics. The level of this class is about intermediate, but all students who are prepared to try hard are most welcome. In the typical class, handouts will be used and students will talk mostly in pairs. This will give the students the maximum amount of time to practice speaking English. Remember: practice makes perfect! . There will be plenty of fun in the class, but students need to study hard if they want to improve their English abilities.

〔教材〕

教科書：『Top Notch 2』(Joan Saslow and Allan Ascher) 2nd版, Person Longman, 2011年

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

Students need to bring the textbook to all the lessons and to make sure they have completed all homework assignments. If a student misses a class they must find out what they missed.

〔成績評価の方法〕

Attendance = 10 points
 Punctuality = 10 points
 Effort and participation = 20 points
 Class and homework exercises = 100 x 40% = 40 points
 Final evaluations = 100 x 20% = 20 points
 Total = 100 points.

〔備考〕

Please try hard to come to all the lessons and do all the homework. If you do your best, you can get a good final grade for this class. It is up to you. You will need to bring the textbook to all the lessons.

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction to the course, the textbook, grading system. Introducing the teacher and course expectations.
第2週	Student introduction activities. Getting reacquainted with someone. Conversational models and speaking practice.
第3週	Greeting a visitor to your country. Conversation practice and vocabulary building. Idioms and other expressions. Discussion of gestures and customs. Model conversation study, practice and extensions.
第4週	Conversations about movies and entertainment. Vocabulary building and idiom work. Functional English practice; Apologizing for being late. Discussing preferences for movie genres, and making recommendations. Group work on debating the effects violence has on viewers of the mass media.
第5週	Functional English related to staying in hotels. Checking into a hotel. Leaving and taking a message, and requesting housekeeping services.
第6週	Conversation practice related to cars and driving. Describing a car accident. Reporting a problem with a car. Renting a car. Discussion revolving around good and bad driving techniques.
第7週	Conversation and discussion theme based around Personal Care and Appearance. Functional English revolves around shopping in a store and requesting information.
第8週	The conversation themes revolve around healthy eating. Model conversation dialog work, vocabulary building and discussions.
第9週	Discussion and conversations around personality. Getting to know someone's likes and dislikes. How to cheer someone up! Discussion and conversations around birth order.
第10週	Functional English revolving around discussion of the arts. Making recommendations for a good museum. Talking about and describing objects.
第11週	Talking about artistic talents. Vocabulary building and model dialog practice.
第12週	Discussion and conversations about favourite artists. More idiom practice, model dialog building and vocabulary work.
第13週	Conversation themes based around computers and the modern age. Troubleshooting problems with technology. Making recommendations when buying computers and other technological things in a store.
第14週	Discussion and conversation practice based around ethics and values. Making ethical choices. Returning someone else's property and expressing personal values.
第15週	Summation of the course of study and final evaluations.

SPEAKING PRACTICE N

3717030101400

副題					担当者	W. トング 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月木	時限	1 3

〔授業の到達目標〕

To enjoy speaking and to listen to others

〔授業の内容〕

The primary intent of this course is to develop verbal communication skills.

More specifically, we will work on improving fluency, increasing vocabulary, and conveying our thoughts and views as we intend them to be understood. Clear communication will be emphasized over grammatical perfection (although we will practice using correct grammar and syntax).

Class activities will lean toward conversation and discussion. Grammar and pronunciation will be practiced through speaking drills. There will be some acting, in the form of role-plays and dramatic performance. There will also be some discussion based problem-solving of moral/ethical dilemmas.

Mistakes are welcome in this class. Keep making mistakes, and keep learning from them.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 1*, Cengage, 2008

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

There will be homework assigned at the end of most classes. The amount of time it will take to complete may vary, depending on the activity anticipated for the next class. However, on average homework assignments will probably take 20-30 minutes.

〔成績評価の方法〕

Attendance 25%

Tests/quizzes 25%

Homework 25%

Class participation 25%

To receive credit for the course, it is necessary to attend at least two-thirds of the classes, in keeping with university policy.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週 Communication Strategies and Additional Discussions

第2週 ♪

第3週 ♪

第4週 ♪

第5週 ♪

第6週 ♪

第7週 ♪

第8週 ♪

第9週 ♪

第10週 ♪

第11週 ♪

第12週 ♪

第13週 ♪

第14週 ♪

第15週 ♪

SPEAKING PRACTICE O

3717030101500

副題					担当者	式町 眞紀子 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水 土	時限	1 2

〔授業の到達目標〕

To improve and developing students' communicational abilities

〔授業の内容〕

This course will focus on developing "oral" and "aural" communication. However, attention will be given to reading and writing as well. Listening, speaking, reading and writing will be combined throughout the course. The course will follow the text, and homeworks will be given based on the text.

Remember that classroom activities are conducted with the view of maximizing interaction among students.

〔教材〕

教科書：Paul, David., *Communication Strategies 1*, Cengage, 2008

Colledge level English-Japanese dictionaries

Longman Dictionary of American English.

Scholastic Dictionary of Idioms.

Oxford Phrasal Verbs Dictionary: For Learners of English.

Roget's International Thesaurus.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Read the text well and prepare the scripts upon your situation for each activity. (60 mins or around)

〔成績評価の方法〕

attendance 30%, exams 30%, class participation 30% and homework 10%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction and orientation,
Unit 1 of text
- 第2週 Communication exercise and act out
- 第3週 Unit 2
- 第4週 Communication exercise and act out
- 第5週 Unit 3
- 第6週 Communication exercise and act out
- 第7週 Unit 4
- 第8週 Communication exercise and act out
- 第9週 Unit 5
- 第10週 Communication exercise and act out
- 第11週 Unit 6
- 第12週 Communication exercise and act out
- 第13週 Unit 7
- 第14週 Communication exercise and act out
- 第15週 Review

SPEAKING PRACTICE P

3717030101600

副題					担当者	吉富 昇 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水土	時限	1/2

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.

〔教材〕

教科書 : Saslow, J. M. & Ascher, A., *Top Notch 1*, (Student Book + Active Book (ROM))
Second Edition, Pearson-Longman, 2011

Extra materials will be provided during the semester.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Textbook Reading: 120 minutes. Making Dialogues: 60 minutes. Class Review: 60 minutes

〔成績評価の方法〕

Attendance 20%
Class Participation 25%
Oral Assessments 25%
Exams 30%

〔備考〕

(外) 共通科目
語目

〔授 業 計 画〕

第1週	Course Introduction Small Talks 1, 2 Text Unit1 Getting Acquainted
第2週	Small Talks 3, 4 Text Unit 2 Going Out
第3週	Small Talks 5, 6 Handouts for Unit 2
第4週	Small Talks 7, 8 Text Unit3 The Extended Family
第5週	Small Talks 9, 10 Handouts for Unit 3
第6週	Small Talks 11, 12 Handouts for Unit 3
第7週	Small Talks 13, 14 Text Unit4 Food and Restaurants
第8週	Small Talks 15, 16 Handouts for Unit 4
第9週	Small Talks 17, 18 Text Unit 5 Technology and You
第10週	Small Talks 19, 20 Text Unit 6 Staying in Shape
第11週	Small Talks 21, 22 Text Unit 7 On Vacation
第12週	Small Talks 23, 24 Text Unit 8 Shopping for Clothes
第13週	Small Talks 25, 26 Text Unit 9 Taking Transportation
第14週	Small Talks 27, 28 Text Unit 10 Shopping Smart
第15週	Review / Exam Coverage

SPEAKING PRACTICE Q

3717030101700

副題					担当者	中山 千尋 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	1 1

〔授業の到達目標〕

This course will develop students' ability to use spoken English in interaction on a wide range of topics and increase confidence when communicating in English.

〔授業の内容〕

The emphasis of this course will be on developing speaking and discussion skills through various topics. Students will be able to develop a wide range of vocabulary & natural expressions and become more confident with their speaking skills.

The course will introduce activities focused around opinion discussion, information exchanges, debates, and presentations. This course will also develop language comprehension, critical thinking, self-expression and motivation.

Tourism project. In this project, the students will make presentations on a tourism topic.

〔教材〕

教科書：Joan Saslow, Allen Ascher, *Top Notch 1*, 2nd Edition, Pearson Longman, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Read the textbook before class and make vocabulary list. Review of the material covered in class and preparation for the presentation.

〔成績評価の方法〕

Attendance and participation: 50%

Homework and other assignments: 30%

Presentations: 20%

〔備考〕

Students are expected to use English as much as possible in class to everyone. Most of the work will be done in pairs and groups.

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction - Personal Introductions
- 第2週 Making Plans, Giving Directions
- 第3週 Family and Culture
- 第4週 Discussing Food and Health
- 第5週 Describing Products
- 第6週 Review and Practice
- 第7週 Habits and Routines
- 第8週 Travel
- 第9週 Shopping and Fashion
- 第10週 Booking Travel Services
- 第11週 Recommendation and Negotiation
- 第12週 How to Do a Presentation
- 第13週 Presentations
- 第14週 ♪
- 第15週 Course Wrap-up

The schedule is intended as a basic outline, but some changes may be made as deemed necessary.

副題					担当者	矢田 陽子 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	1 2

〔授業の到達目標〕

In this class, students will use the text, Impact Issues 2, as a basis for more in-depth discussions utilizing skills acquired previous English speaking experiences in the first year. This class will be a student-centered course to get used to express own opinion in English. In other words, the teacher is not the focal point of the classroom. Students will rely upon each other and themselves to improve their English communicative abilities. Students will also learn how to give a presentation in English in front of all classmates. Last and most importantly, this is a speaking class designed to maximize the use of spoken English in a supportive environment.

〔授業の内容〕

この授業では、英語でのディスカッションやプレゼンテーション能力を高めていきます。テキストは毎回テーマが設定されており、毎回、自分の意見を英語で表現することに取り組みます。従来型の教員が学生に教えるという形ではなく、英語での学生同士のロール・プレイ、コミュニケーションが軸になります。間違った表現を使うことを恐れることなく、口に出して表現することに慣れていきましょう。

〔教材〕

教科書：Impact Issues 2, New Edition, Pearson Longman, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習に関しては毎回学んだコミュニケーション・フレーズはノートに取り繰り返し使えるように各自復習すること。

〔成績評価の方法〕

中間プレゼンテーション25%、授業中の取り組み・自主性（25%）、期末プレゼンテーション50%

〔備考〕

辞書は電子辞書でかまいませんが、必ず授業に携帯すること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Unit 1 First Impression
- 第3週 Unit2 Traffic Jam
- 第4週 Unit3 Who needs the local languages?
- 第5週 Unit4 Getting Ahead
- 第6週 Unit 5 Forever Single
- 第7週 Test presentation（成績25%分）
- 第8週 Unit 6 What are friends for ?
- 第9週 Unit 7 What's for dinner?
- 第10週 Unit 8 Cyber Bullying
- 第11週 Unit 9 Taking care of Father
- 第12週 Unit 10 Why do go School?
- 第13週 Unit 11 International relationships
- 第14週 Unit 12 Too little, too late
- 第15週 Unit 13 Ben and Mike

SPEAKING PRACTICE S

3717030101900

副 題					担 当 者	M. ゲッセル 講師	
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	水 土	時 限	1 2

〔授業の到達目標〕

To Improve students' speaking, pronunciation, and presentation skills.

〔授業の内容〕

Class participation and homeworks will be weighted heavily. Only the assigned text will be used, however, some additional material will be added. Students must do the homework before each class, as preparation for the in class work.

〔教材〕

教科書：David Paul 『Communication Strategies 1』 Cengage Learning, 2008年
None

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students must do the homework to prepare for each lesson before each class.

〔成績評価の方法〕

Class participation and homework 50%
Final Exam 50%

〔備考〕

One or more units may be skipped in order to make extra time for the other units and in-class projects.

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Unit 1 "Friends"
 - 第2週 Unit 2 "Free Time"
 - 第3週 Unit 3 "The Past"
 - 第4週 Unit 4 "The Family"
 - 第5週 Unit 5 "Work"
 - 第6週 Unit 6 "City Life"
 - 第7週 Unit 7 "Beliefs"
 - 第8週 Unit 8 "The Future"
 - 第9週 Unit 9 "Transportation"
 - 第10週 Unit 10 "Vices"
 - 第11週 Unit 11 "Marriage"
 - 第12週 Unit 12 "Animals"
 - 第13週 Unit 13 "Computers"
 - 第14週 Unit 14 "The Generation Gap" OR Unit 15 "Travel"
 - 第15週 Course Review / Wrap-up
- The syllabus is subject to some changes.

SPEAKING SKILLS A

3717030200100

副題					担当者	J. テスター 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月木	時限	1 1

〔授業の到達目標〕

This course continues to build on and improve the skills developed in Speaking Practice.

〔授業の内容〕

The overall aim is to help students communicate actively in English. They will learn practical communication skills to interact on a wide variety of topics through vocabulary building and fluency in English.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 3*, Cengage, 2008

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to revise what has been said during class / Prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

- Attendance 10%
- Participation 30%
- Vocabulary project 10%
- Completion of homework 20%
- Quizzes and tests 30%

〔備考〕

(共通科目)
外国語

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Discussing future plans.
- 第2週 Using numbers.
- 第3週 Discussing trends.
- 第4週 Stating preferences.
- 第5週 Making comparisons.
- 第6週 Using conditionals to describe future possibility.
- 第7週 Discussing work and jobs.
- 第8週 Discussing money.
- 第9週 Discussing family issues.
- 第10週 Discussing Japanese culture.
- 第11週 Discussing travel experiences.
- 第12週 Talking about environmental issues.
- 第13週 Talking about relationships.
- 第14週 Talking about health issues.
- 第15週 Speaking assessment.

副題				担当者	小倉 雅明 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金	時限	1 2
<p>〔授業の到達目標〕 春学期に引き続きスピーキング力の養成を目指します。</p> <p>〔授業の内容〕 春学期で学んだ基礎を元にしてより一層のスピーキング力の向上を目指します。 テキストを元にして文化的背景なども幅広く学ぶことで様々な話題に対応する力を身につけるよう練習を行います。</p> <p>〔教材〕 教科書：David Paul, Tracy Ddavis, Susanne Rizzo, Jun Liu, Kathryn Harper, <i>Communication Strategies3</i>, Cengage, 2008 必要に応じてその都度指示します。</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 テキストの内容は全て熟読した上で授業に臨んでください。その前提で授業は進行します。 予習・復習など授業外での必要学習時間の目安は60時間です。</p> <p>〔成績評価の方法〕 出席：20%， 課題・宿題：30%， 授業態度：10%， 期末課題：40%</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

第1週	ガイダンス+Unit1-Dress Code
第2週	Unit2-Video Games
第3週	Unit3-Advertising
第4週	Unit4-International Competitions
第5週	Unit5-Mobile Phones
第6週	Unit6-Manners and Etiquette
第7週	Unit7-Volunteering
第8週	Unit8-Health and Nature
第9週	Unit9-Extreme Sports
第10週	Unit10-Free Education
第11週	Unit11-Multiple Intelligences
第12週	Unit12-Gender Roles
第13週	Unit13-Dating
第14週	Unit14-Parenting
第15週	Unit15-Natural Disasters

辞書を必ず持参してください（紙でも電子辞書でも可）。

SPEAKING SKILLS C

3717030200300

副題					担当者	岡本 広毅 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水土	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

The aim of this course is to improve your practical English skills.

〔授業の内容〕

This course focuses on the use of practical English on a variety of topics. We will learn practical English grammar and enrich your vocabulary. Students will have many opportunities to speak to their classmates and do some communicative exercises. The important thing is to speak up with confidence.

〔教材〕

教科書：Joan M. Saslow、 Allen Ascher, *Top Notch 2*, Pearson Education, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Vocabulary check and some reading for an hour per one class.

〔成績評価の方法〕

attendance 30%, participation in class activities and presentation 40%, Exam 30%.

〔備考〕

（共通科目）
外国語

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Unit6 Eating Well (Talk about food passions)
- 第2週 Unit6 Eating Well (Make an excuse to decline food)
- 第3週 Unit7 About Personality (Get to know someone's likes and dislikes)
- 第4週 Unit7 About Personality (Cheer someone up)
- 第5週 Unit8 The Arts (Recommend a museum)
- 第6週 Unit8 The Arts (Ask about and describe art objects)
- 第7週 Mid Term Review; Mini Test
- 第8週 Unit9 Living with Computers (Troubleshoot computer problems)
- 第9週 Unit9 Living with Computers (Recommend a better deal)
- 第10週 Unit10 Ethics and Values (Discuss ethical choices)
- 第11週 Unit10 Shopping Smart (Discuss showing appreciation for service)
- 第12週 Presentation
- 第13週 〃
- 第14週 Grammar/ Reading / Conversation strategies
- 第15週 Final Review and Exam

Schedule might be changed to take into account student levels and interests.

SPEAKING SKILLS D

3717030200400

副題					担当者	A. パラスキ 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月木	時限	1 2

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to focus conversation skills in to a more sophisticated and informed use in discussions.

〔授業の内容〕

In the first semester, basic communication skills are practiced and enhanced. In the second semester, these skills are focused in discussions, which means the conscious focus on one topic at a time.

〔教材〕

教科書：*Discussion Strategies*, (Pro LinguaAssociates) 2nd Edition, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to spent an amount of time outside of class studying and mastering language patterns for presentation that equals or exceeds the amount of time spent in class.

〔成績評価の方法〕

Student grades are based on attendance(20%), class participation(20%), improvement(20%), short quizzes(20%) and student presentations (20%).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Rejoinder and follow-ups
- 第2週 Comprehension Checks and Clarifications.
- 第3週 Answering with Details.
- 第4週 Discussion Presentation 1.
- 第5週 Paragraph Clarifications.
- 第6週 Interrupting Someone and Words That Describe.
- 第7週 Reported Speech.
- 第8週 Volunteering an Answer.
- 第9週 Discussion Presentation 2.
- 第10週 Clarifying by Summarizing.
- 第11週 Telling Other People's Opinions and Experiences.
- 第12週 Helping the Leader Explain.
- 第13週 Discussion Presentation 3.
- 第14週 Final Group Discussion Project Preparation.
- 第15週 Final Group Discussion Project Presentation.

SPEAKING SKILLS E

3717030200500

副 題				担 当 者	吉富 昇 講師		
単 位	2	開 講 期 間	秋学期	曜 日	火 金	時 限	1 3
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>〔授業の内容〕 授業開始時にシラバスを配付します。</p> <p>〔教材〕 教科書：Top Notch 2</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>〔備考〕</p>							

（外
通
国
語）
科
目

〔授 業 計 画〕

SPEAKING SKILLS F

3717030200600

副題					担当者	K. フォード 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水 土	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕

教科書：Day, R., Shaules, J., Yamanaka, J. 『Impact Issues 3』 Pearson ELT

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation will involve preparing to take part in conversations, discussions and speeches by studying necessary language and vocabulary.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance (30%) , class participation (30%) , presentations (10%) , homework preparation (10%) and speaking tests (20%) .

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction to Social Issues Project, and Impact Issues Unit 11
第2週	Discussing Various Example Social Issues, and Impact Issues Unit 12
第3週	Discussing Various Example Social Issues, and Impact Issues Unit 13
第4週	Choosing a Social Issue topic for research and presentation, and Impact Issues Unit 14
第5週	Class Survey of Social Issues, and Impact Issues Unit 15
第6週	Collation of Class Survey, and Impact Issues Unit 16
第7週	Sharing Research of Social Issues, and Impact Issues Unit 17
第8週	Preparation of Handout and Notecards, and Impact Issues Unit 18
第9週	Practice Speech with Handout, and Impact Issues Unit 19
第10週	Social Issue Poster Presentations
第11週	〃
第12週	Example of Internet Reading Report and Discussion Assignment, and Impact Issues Unit 20
第13週	Internet Reading Report; Discussion Assignments
第14週	〃
第15週	Fluency Topics, Review and Course Evaluation

SPEAKING SKILLS G

3717030200700

副題				担当者	R. S. ジョーンズ 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水土	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕

教科書：Jun Liu, Tracy Davis, Susanne Rizzo, *Communication Strategies 3*, Cengage, 2008

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Pre-reading of articles, looking up unfamiliar expressions, keeping vocabulary notebooks up to date, writing role-plays.

〔成績評価の方法〕

Attendance 10%
 Participation 20%
 Oral assessments 20%
 Vocabulary tests 30%
 Projects 20%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週 Health and Nature
 第2週 ♪
 第3週 Extreme Sports
 第4週 ♪
 第5週 Free Education
 第6週 ♪
 第7週 Multiple Intelligences
 第8週 ♪
 第9週 Gender Roles
 第10週 ♪
 第11週 Dating
 第12週 ♪
 第13週 Parenting
 第14週 ♪
 第15週 Review

副題					担当者	P. アプス 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月 木	時限	1 1

〔授業の到達目標〕

The aim of this subject is to get the students to speak!

〔授業の内容〕

The second semester the students will do a number of projects that will improve their communication ability. There students will make a small movie project as well as participating in a foreigner interview project. The students will also participate in class discussions that are of interest to the young adult.

〔教材〕

教科書：Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka 『『Impact Issues 3』 (Impact Issues) New』 (Pearson Longman, 2009年)

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Every class students will have to prepare for the next class there will a lot of presentations and homework. Students will be expected to check vocabulary for the next class. the students also in this semester will have to prepare to interview foreign students on the campus.

〔成績評価の方法〕

- 20% - There will be an interview test at the end of each term
- 20% - Attendance and class participation will be evaluated.
- 20% - Evaluation of the video project.
- 20% - Evaluation of foreigner interview project.
- 20% - Social issues presentation

〔備考〕

In this course I hope the students will try their hardest to communicate in class with each other and myself. The simple point is that English is easy if you try.

〔授 業 計 画〕

第1週	review of first semester
第2週	Impact Issues I don't Care Tokyo History project. In this project the students will make five minute presentations on a place in Tokyo.
第3週	Impact Issues Plagiarism - Also Tokyo History Project - The students will revise the way to start projects and the five paragraph essay
第4週	Impact Issues Earning Money - History Project - Revision of non verbal message in a presentation.
第5週	Impact Issues Earning Money Tokyo History Project - editing of the project
第6週	Viewing of the history project.
第7週	Conversation Materials - Peter Gaikokujin interview project In this project the student will interview a number of foreigners who live in Japan.
第8週	Gaikokujin interview project The students will study what are appropriate questions to ask and what are not.
第9週	Conversation Materials - Peter Gaikokujin interview project - the students will talk about how to interview foreigners and what types of questions to ask to promote conversation.
第10週	Conversation Materials - Peter Gaikokujin interview project - The students will do a power point presentation on their findings.
第11週	Impact Issues - Adult Children Social Problem project - The students will look at a problem in society and give a presentation on it.
第12週	Impact Issues - Naomi's Dilemma Social Problem project - The students will produce a questionnaire and ask other students what they think.
第13週	Social Problem project cont.
第14週	Final powerpoint presentation
第15週	Review of the semester work and interview. There is no fixed schedule for this year because it will depend on level of the students.

副題					担当者	谷口 めぐみ 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月木	時限	1/2

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.

〔授業の内容〕

In the first semester, students practiced the essentials skills necessary to speak effectively. Through this course, students will develop their English communication skills into a more sophisticated and academic use in discussions and presentations.

〔教材〕

教科書：Noboru Matsuoka et als., *Presentations to Go*, Cengage Learning, 2014

参考書：JACET Materials Development Group, *Power Presentation*, Sanshusha, 2004

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are recommended to support their ideas or opinions when presenting them to their classmates. In order to actively participate in course projects, students are required to critically think, research and organize information related to the topic in question.

〔成績評価の方法〕

Student grades are based on attendance (20%), class participation (10%), completion of homework (30%), and presentations (40%).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction: What is a Presentation?
Visual Aspects (1)
- 第2週 Visual Aspects (2)
Organizational Aspects
- 第3週 Project 1
- 第4週 ♪
- 第5週 Gathering Information and Summarizing Information
- 第6週 Project 2
- 第7週 ♪
- 第8週 Presentation: Project 2
- 第9週 Group Project 1
- 第10週 ♪
- 第11週 Group Project 1
Presentation: Group Project 1
- 第12週 Group Project 2
- 第13週 ♪
- 第14週 ♪
- 第15週 ♪

The schedule provided is due to change according to the actual time length necessary for the students participating in the course.

SPEAKING SKILLS J

3717030201000

副題					担当者	山科 美智子 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金	時限	1 1

〔授業の到達目標〕

The aim of this course is to improve your practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

This course focuses on enriching your vocabulary and skills of expressing your ideas and opinions in a variety of situations.

Students will have a lot of opportunities to discuss many kinds of topics. Presentation skills will be also incorporated.

This is a very interactive course, so it is important to participate in the communicative exercises actively.

〔教材〕

教科書：Joan Saslow, Allen Ascher 『Top Notch2』 Second版, Pearson education, 2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparations and reviews are required for each class, around 2h to 3h.

〔成績評価の方法〕

attendance 20%, participation in class activities and assignment 20%, presentation 30%, exam 30%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Unit6 Eating Well
- 第2週 ♪
- 第3週 Unit7 About Personality
- 第4週 ♪
- 第5週 Unit8 The Arts
- 第6週 ♪
- 第7週 Unit9 Living with Computers
- 第8週 ♪
- 第9週 Unit10 Ethics and Values
- 第10週 ♪
- 第11週 Presentation Strategies
- 第12週 Presentation
- 第13週 Grammar/Connecting ideas
- 第14週 Listening/Pronunciation
- 第15週 Comprehensive Review

Schedule might be changed to take into consideration student levels and interests.

SPEAKING SKILLS K

3717030201100

副題					担当者	橋本 ナターシャ 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月 木	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕

教科書 : Saslow, J. M., & Ascher, A., *Top Notch 2*, 2nd Edition, Pearson Longman, 2011
Additional materials will be provided by the instructor.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are expected to come to class prepared, having read and reviewed the assigned materials at home. There will be a great deal of pair work and small group discussion in class and each student should be fully prepared to participate. If there is anything unclear about the materials, students are expected to ask questions in class.

〔成績評価の方法〕

Assessment will be based on in-class participation, quizzes, role-plays/simulations, homework, and attendance (details will be discussed in the first class meeting).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Unit 6 Eating Well Pt.1
- 第2週 Unit 6 Eating Well Pt.2
- 第3週 Unit 6 Eating Well Pt.3
- 第4週 Unit 7 About Personality Pt.1
- 第5週 Unit 7 About Personality Pt.2
- 第6週 Unit 7 About Personality Pt.3
- 第7週 Unit 8 The Arts Pt.1
- 第8週 Unit 8 The Arts Pt.2
- 第9週 Unit 8 The Arts Pt.3
- 第10週 Unit 9 Living with Computers Pt.1
- 第11週 Unit 9 Living with Computers Pt.2
- 第12週 Unit 9 Living with Computers Pt.3
- 第13週 Unit 10 Ethics and Values Pt.1
- 第14週 Unit 10 Ethics and Values Pt.2
- 第15週 Unit 10 Ethics and Values Pt.3

SPEAKING SKILLS L

3717030201200

副題					担当者	横江 百合子 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

This course aims to help students acquire
 1) accurate pronunciation of the English sounds which are often challenging for the native speakers of Japanese, and
 2) rhythm, fluency, the correct use of diplomatic languages, and other basic speaking skills.

〔授業の内容〕

Students will learn how to present their opinions, engage in discussion, speak in public, etc., through a variety of topics.
 The course also provides some pronunciation tips based on the phonetics/phonology of English.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 2*, Cengage, 2008
 Supplementary handouts may be offered when necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Please come prepared to participate actively in the discussion.
 Please take some time outside class to summarise your thoughts/opinions on the assigned issue.
 Try using the expressions/vocabulary introduced in class as much as you can.

〔成績評価の方法〕

- 1) Attendance 30%
- 2) Discussion/Presentation 30%
- 3) Active participation 20%
- 4) Tests and quizzes 20%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Communication Strategies 2: 1. Attitude
- 第2週 Communication Strategies 2: 2. Money
- 第3週 Communication Strategies 2: 3. Health
- 第4週 Communication Strategies 2: 4. Education
- 第5週 Communication Strategies 2: 5. Crime
- 第6週 Communication Strategies 2: 6. The environment
- 第7週 Communication Strategies 2: 7. Aliens
- 第8週 Communication Strategies 2: 8. History
- 第9週 Communication Strategies 2: 9. Women in society
- 第10週 Communication Strategies 2: 10. The developing world
- 第11週 Communication Strategies 2: 11. Violence
- 第12週 Communication Strategies 2: 12. Politics
- 第13週 Communication Strategies 2: 13. Economics
- 第14週 Final discussion 1
- 第15週 Final discussion 2

副題	Let's Enjoy Speaking More and More English Together!			担当者	R. ジョーンズ 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金	時限	1 1

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics. The main goal of this class is to give the students the maximum time to practice speaking English. The theme of the class is English for travelling, living or studying in an English speaking country. The class will help diligent students build their vocabulary and particularly their command over idioms.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions in English. This is a fun and dynamic English conversation class for those students who are serious about improving their English speaking skills. In the class, we will talk about a variety of interesting topics. The level of this class is about intermediate, but all students who are prepared to try hard are most welcome. In the typical class the students will talk mostly do activities in pairs. This will give the students the maximum amount of time to practice speaking English. Remember: practice makes perfect! There will be plenty of fun in the class, but students need to study hard if they want to improve their English abilities.

〔教材〕

教科書：『Top Notch 3』(Joan Saslow and Allan Ascher) 2nd版, Pearson Longman, 2011年

The textbook will be used in every class.

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to bring the textbook to all lessons. Be sure to do all the homework. If absent, check what you missed from the classes.

〔成績評価の方法〕

Attendance = 10 points
Punctuality = 10 points
Effort and participation = 20 points
Class and homework exercises = 100 x 40% = 40 points
Final evaluations = 100 x 20% = 20 points
Total = 100 points.

〔備考〕

Please try hard to come to all the lessons on time. If you do your best in the lessons you should get a good grade, if you work hard, you'll definitely get the best grade. It's up to you! If you miss a class find out what you missed. If your friend misses a class, help them to find out what they need to do for the next lesson. The best policy is to come to all the lessons.

〔授業計画〕

第1週	Welcome back to the course of studies. Explanation of the grading system and course expectations. Conversations based around the student's summer break experiences.
第2週	Conversation strategies around making small talk. Describing a busy schedule and developing cultural awareness.
第3週	Discussion and debates around health issues. How to call in sick and making medical or dental appointments.
第4週	More conversation built around health issues. How to talk about medical treatments and medications.
第5週	Conversation strategies based on getting things done. Getting someone to do something. Requesting express services and evaluating the quality of a service.
第6週	Functional English based around making recommendations. Recommending a book. Offering to lend items and describing your reading habits.
第7週	More model dialog study and discussing the quality of reading material.
第8週	Conversation themes revolve around natural disasters. Conveying a message and reporting news. Describing natural disasters and preparing for emergencies.
第9週	Conversations and discussions about life plans. Explaining a change to life and work plans.
第10週	Discussing skills, abilities and qualifications. Vocabulary and idiom building.
第11週	Conversation theme revolves around holidays and traditions. Wishing someone a good holiday. Asking about local customs and exchanging information about holidays. Explaining and comparing wedding traditions.
第12週	Communication goals build around the discussion themes of inventions and discoveries. Describing technology. Functional English concerning taking responsibility for mistakes.
第13週	Conversation practice concerned with describing inventions and how they solve problems, and the impact of inventions and discoveries.
第14週	Communication goal to discuss and debate controversial issues. How to bring up a controversial subject. Discussing difficult issues politely. Understanding some main global issues and the pros and cons of solutions.
第15週	Final summarisations of the course of study and preparation for final evaluations. Good luck with your studies. Come to all the lessons and try your best. I want you to be happy in the classes, challenge and learn many new things. Please come to all the lessons. If you miss a class, find out what you missed. If your friend misses a class, help them find out what they missed.

SPEAKING SKILLS N

3717030201400

副題					担当者	W. トング 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月 木	時限	1 3

〔授業の到達目標〕

To enjoy speaking and to listen to others

〔授業の内容〕

This will be a continuation of the previous semester. As we continue to work on improving fluency, increasing vocabulary, and conveying our thoughts and views, there will be more focus on presentation skills.

As in Speaking Practice, clear communication will be emphasized over grammatical perfection, although we will continue developing grammatical and syntactical skills.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies I*, Cengage, 2008

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

There will be homework assigned at the end of most classes. The amount of time it will take to complete may vary, depending on the activity anticipated for the next class. However, on average homework assignments will probably take 20-30 minutes.

〔成績評価の方法〕

Attendance 25%

Tests/quizzes 25%

Homework 25%

Class participation 25%

To receive credit for the course, it is necessary to attend at least two-thirds of the classes, in keeping with university policy.

〔備考〕

〔授業計画〕

第1週 Communication Strategies and Presentation Skills

第2週 ♪

第3週 ♪

第4週 ♪

第5週 Debate and Finding Common Ground

第6週 ♪

第7週 ♪

第8週 ♪

第9週 Six Thinking Hats, a tool for discussion

第10週 ♪

第11週 ♪

第12週 Group Presentations

第13週 ♪

第14週 Storytelling

第15週 ♪

Our schedule is flexible and will be adjusted to suit the needs and interests of the class.

SPEAKING SKILLS O

3717030201500

副題					担当者	式町 真紀子 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水土	時限	1 2

〔授業の到達目標〕

To further improve and developing students' communicational abilities

〔授業の内容〕

This course will focus on developing "oral" and "aural" communication. However, attention will be given to reading and writing as well. Listening, speaking, reading and writing will be combined throughout the course. In addition to the text below, reading scripts and worksheets will be provided by the instructor.

Again, remember that classroom activities are conducted with the view of maximizing interaction among students.

〔教材〕

教科書：Paul, David., *Communication Strategies 1*, Cengage, 2008

Colledge level English-Japanese dictionaries

Longman Dictionary of American English.

Scholastic Dictionary of Idioms.

Oxford Phrasal Verbs Dictionary: For Learners of English.

Roget's International Thesaurus.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Read the text well and prepare the scripts upon your situation for each activity. (60 mins or around)

〔成績評価の方法〕

attendance 30%, exams 30%, class participation 30% and homework 10%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction and orientation,
Unit 8 of text
- 第2週 Communication exercise and act out
- 第3週 Unit 9 of text
- 第4週 Communication exercise and act out
- 第5週 Unit 10 of text
- 第6週 Communication exercise and act out
- 第7週 Unit 11 of text
- 第8週 Communication exercise and act out
- 第9週 Unit 12 of text
- 第10週 Communication exercise and act out
- 第11週 Unit 13 of text
- 第12週 Communication exercise and act out
- 第13週 Unit 14 of text
- 第14週 Communication exercise and act out
- 第15週 Review

SPEAKING SKILLS P

3717030201600

副題					担当者	吉富 昇 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水 土	時限	1 2

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕

教科書 : Saslow, J. M. & Ascher, A., *Top Notch 2*, (Student Book + Active Book (ROM))
Second Edition, Pearson-Longman, 2011

Extra materials will be provided during the semester.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Textbook Reading: 120 minutes. Making Dialogues: 60 minutes. Class Review: 60 minutes

〔成績評価の方法〕

Attendance 20%
Class Participation 25%
Oral Assessments 25%
Exams 30%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Course Introduction Text Unit 1 Greeting
第2週	Small Talks 1 & 2 Text Unit 2 Movies and Entertainment
第3週	Small Talks 3 & 4 Text Unit 3 Staying in Hotels
第4週	Small Talks 5 & 6 Text Unit 4 Cars and Driving
第5週	Small Talks 7 & 8 Text Unit 5 Personal Care and Appearance
第6週	Small Talks 9 & 10 Text Unit 6 Eating Well
第7週	Small Talks 11 & 12 Text Unit 6 Giving a Presentation
第8週	Small Talks 13 & 14 Text Unit 7 About Personality
第9週	Small Talks 15 & 16 Text Unit 8 The Arts
第10週	Small Talks 17 & 18 Text Unit 8 Giving a Speech
第11週	Small Talks 19 & 20 Text Unit 9 Living with Computers
第12週	Small Talks 21 & 22 Text Unit 9 Giving a Speech
第13週	Small Talks 23 & 24 Text Unit 10 Ethics and Values
第14週	Oral Exam
第15週	Review / Exam Coverage

SPEAKING SKILLS Q

3717030201700

副題					担当者	中山 千尋 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月木	時限	1 1

〔授業の到達目標〕

This course will develop students' ability to use spoken English in interaction on a wide range of topics and increase confidence when communicating in English.

〔授業の内容〕

The emphasis of this course will be on developing speaking and discussion skills through various topics. Students will be able to develop a wide range of vocabulary & natural expressions and become more confident with their speaking skills.

The course will introduce activities focused around opinion discussion, information exchanges, debates, and presentations. This course will also develop language comprehension, critical thinking, self-expression and motivation.

Tourism project. In this project, the students will make presentations on a tourism topic.

〔教材〕

教科書：Joan Saslow, Allen Ascher, *Top Notch 2*, 2nd Edition, Pearson Longman, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Read textbook and make vocabulary list. Review of the material covered in class and preparation for the presentation.

〔成績評価の方法〕

Attendance and participation: 50%
Homework and other assignments: 30%
Presentations: 20%

〔備考〕

Students are expected to use English as much as possible in class to everyone. Most of the work will be done in pairs and groups.

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Course Introduction - Greeting, Discussing Customs
- 第2週 Recommendations - Entertainment
- 第3週 Making Requests - Hotel Services
- 第4週 Reporting Problems
- 第5週 Discussing Appearances
- 第6週 Describing Local Dishes
- 第7週 Describing Art Objects
- 第8週 Personality and Origin
- 第9週 Social Impact of the Internet
- 第10週 Expressing Personal Values
- 第11週 Review and Practice
- 第12週 Preparing for the Presentation- Tourism Project
- 第13週 Presentations
- 第14週 ♪
- 第15週 Course Wrap-up

The schedule is intended as a basic outline, but some changes may be made as deemed necessary.

副題				担当者	矢田 陽子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月木	時限	1 2

〔授業の到達目標〕

In this class, students will use the text, Impact Issues 2, as a basis for more in-depth discussions utilizing skills acquired previously; English speaking experiences in the first year. This class will be a student-centered course to get used to express own opinion in English. In other words, the teacher is not the focal point of the classroom. Students will rely upon each other and themselves to improve their English communicative abilities. Students will also learn how to give a presentation in English in front of all classmates. Last and most importantly, this is a speaking class designed to maximize the use of spoken English in a supportive environment.

〔授業の内容〕

この授業では、英語でのディスカッションやプレゼンテーション能力を高めていきます。テキストは毎回テーマが設定されており、毎回、自分の意見を英語で表現することに取り組みます。従来型の教員が学生に教えるという形ではなく、英語での学生同士のロール・プレイ、コミュニケーションが軸になります。間違った表現を使うことを恐れることなく、口に出して表現することに慣れていきましょう。後期でのこのコースでは、前期に続いて同じテキストを使用していきます。後期においては、より深く英語口語表現のスキルを充実させていくために15週のうち後半は、教員が用意するプリントに沿ってグローバルな観点から様々な問題を考え、自己の意見を英語にしていきます。

〔教材〕

教科書：『Impact Issues 2』New版, Peason Longman, 2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習に関しては毎回学んだコミュニケーション・フレーズはノートに取り繰り返して使えるように各自復習すること。

〔成績評価の方法〕

中間プレゼンテーション25%、授業中の取り組み・自主性（25%）、期末プレゼンテーション50%

〔備考〕

前期課程と同様に授業には必ず辞書を携帯すること

〔授 業 計 画〕

第1週	Unit 14 Government Control もし政府が国民の家族計画についての政策を決定しそれが法的拘束力を持つようになったとしたらどうなるのか。政府によるコントロールについて架空の例を考えながら自分の意見を表現していきます。
第2週	Unit15 Living together 同姓と既成概念について。20代の若いカップルが結婚より以前にまず同棲を計画していますが、親世代の考え方は異なり結婚前の同棲に反対です。この課では、結婚や同棲など、現代の男女のあり方について英語で考えていきます。
第3週	Unit16 Discrimination この課では女性二人の会話を通して、外見・審美における差別や先入観について考えていきます。
第4週	Unit 17 Who will help them 戦争、自然災害、貧困など様々な理由で避難民となった人々について考えるセクションです。先進国は発展途上国から流出する避難民をどのように援助していくべきなのか、国連、各国政府はどのように対応していくべきなのかについて考えていきます。
第5週	Unit 18 Finding the right one 恋愛と結婚の違い、結婚の価値、理想的な結婚について、など人間にとっての「愛」と「結婚」について考えていきます。
第6週	中間プレゼンテーション
第7週	Unit19 Dress for Success 教員の服装についてクレームをつける一組の親と校長の会話をまず聴き、「教員」には一定の服装のルールを守るべきかどうか、社会的立場によって服装の暗黙の規定を守るべきなのかどうかについて考えていきます。
第8週	Unit 20 A mothers story テキスト最終課にあたるこの20課では、死刑制度について考えます。18歳の息子を殺害された母親の死刑擁護の意見を聞き、死刑制度は必要なのか否か考えていきます。
第9週	プリント課題の取り組み（時事、社会問題について）
第10週	プリント課題の取り組み
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

SPEAKING SKILLS S

3717030201900

副題					担当者	M. ゲッセル 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水土	時限	1/2
<p>〔授業の到達目標〕 To further improve students' speaking, pronunciation, and presentation skills.</p> <p>〔授業の内容〕 Most course work will be based on the text. The text contains 15 units. We will try to cover one unit per week, but this may change somewhat. Some additional material and in-class projects will be given as well.</p> <p>〔教材〕 教科書：David Paul 『Communication Strategies 2』 2010年 Only the one text will be used. Other, additional material and several in-class projects will be also be given.</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 Students will be responsible for preparing for each lesson beforehand. This will facilitate better in-class work.</p> <p>〔成績評価の方法〕 Homework and class participation 50% Final Exam 50%</p> <p>〔備考〕 None</p>							

（外
国
語）
共
通
科
目

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Unit 1 "Attitudes"
- 第2週 Unit 2 "Money"
- 第3週 Unit 3 "Health"
- 第4週 Unit 4 "Education"
- 第5週 Unit 5 "Crime"
- 第6週 Unit 6 "The Environment"
- 第7週 Unit 7 "Aliens"
- 第8週 Unit 8 "History"
- 第9週 Unit 9 "Women In Society"
- 第10週 Unit 10 "The Developing World"
- 第11週 Unit 11 "Violence"
- 第12週 Unit 12 "Politics"
- 第13週 Unit 13 "Economics"
- 第14週 Unit 14 "Happiness" OR Unit 15 "Globalization"
- 第15週 Course wrap-up and Final Exam

A couple of the 15 units will probably be cut, in order to make more time for the remaining units and the additional in-class projects.

副題					担当者	G. R. フェリア 教授	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to develop students' ability in reading and summarizing articles in English, expressing opinions about them orally and in writing, increasing vocabulary, giving presentations, and asking and answering questions in English.

〔授業の内容〕

This course will focus on reading articles on current topics and will be conducted entirely in English. Each week students will choose an article from an English newspaper or magazine or from the Internet, then write a report on the topic, including vocabulary, to be turned in. Students will give a presentation on one of their topics periodically to the class. The reports and presentations may be on any topics the student chooses, but they must be done in English. After a student's presentation, other students will ask questions and we will have discussion of the topic. This course will help you improve your ability in reading, writing, speaking and listening to English, as well as increase your knowledge and understanding of various topics and develop your presentation skills.

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2 hours in preparation of weekly reports and another 1-2 hours in preparation for presentations.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance (10%), participation in class (20%), weekly reports (30%), presentations (30%), and a final report (10%).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Introduction
第2週	Presentations and discussion
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

INTENSIVE READING & WRITING B

3713030100200

副題					担当者	G. R. フェリア 教授	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to develop students' ability in reading and summarizing articles in English, expressing opinions about them orally and in writing, increasing vocabulary, giving presentations, and asking and answering questions in English.

〔授業の内容〕

This course will focus on reading articles on current topics and will be conducted entirely in English. Each week students will choose an article from an English newspaper or magazine or from the Internet, then write a report on the topic, including vocabulary, to be turned in. Students will give a presentation on one of their topics periodically to the class. The reports and presentations may be on any topics the student chooses, but they must be done in English. After a student's presentation, other students will ask questions and we will have discussion of the topic. This course will help you improve your ability in reading, writing, speaking and listening to English, as well as increase your knowledge and understanding of various topics and develop your presentation skills.

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2 hours in preparation of weekly reports and another 1-2 hours in preparation for presentations.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance (10%), participation in class (20%), weekly reports (30%), presentations (30%), and a final report (10%).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction
- 第2週 Presentations and discussion
- 第3週 ∕
- 第4週 ∕
- 第5週 ∕
- 第6週 ∕
- 第7週 ∕
- 第8週 ∕
- 第9週 ∕
- 第10週 ∕
- 第11週 ∕
- 第12週 ∕
- 第13週 ∕
- 第14週 ∕
- 第15週 ∕

(共通科目)

INTENSIVE READING & WRITING C

3713030100300

副題					担当者	山科 美智子 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

The aim of this course is to strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

This course focuses on improving your reading comprehension skills, using reading materials from texts, newspapers, and media sources. Students will develop their skills in expressing their opinions on topics in the text as well as current events.

Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments. Presentation skills will be also incorporated.

〔教材〕

教科書：Andrew K.English, Laura Monahon English 『NorthStar 4』 Fourth版, Pearson, 2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparations and reviews are required for each class, around 2h to 3h.

〔成績評価の方法〕

attendance 20%, homework, writing assignments 30% presentation 20% exam 30%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Unit 1 Genius: Nature or Nurture?
- 第2週 Unit 1 Genius: Nature or nurture?
- 第3週 Unit 2 Facing Life's Obstacles
- 第4週 ♪
- 第5週 Unit 3 Making Medical Decisions
- 第6週 ♪
- 第7週 Unit 4 Instinct or Intellect?
- 第8週 ♪
- 第9週 Unit 5 Too much of a Good Thing?
- 第10週 ♪
- 第11週 Presentation, Essay writing assignment
- 第12週 Unit 6 Making a Difference
- 第13週 ♪
- 第14週 Unit 7 The Empty Classroom
- 第15週 ♪

Schedule might be changed to take into consideration student levels and interests.

INTENSIVE READING & WRITING D

3713030100400

副題					担当者	山科 美智子 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

The aim of this course is to strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

This course focuses on improving your reading comprehension skills, using reading materials from texts, newspapers, and media sources. Students will develop their skills in expressing their opinions on topics in the text as well as current events.

Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments. Presentation skills will be also incorporated.

〔教材〕

教科書：Andrew K.English, Laura Monahon English 『NorthStar 4』 Fourth版, Pearson, 2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparations and reviews are required for each class, around 2h to 3h.

〔成績評価の方法〕

attendance 20%, homework, writing assignments 30% presentation 20% exam 30%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Unit 1 Genius: Nature or Nurture?
- 第2週 Unit 1 Genius: Nature or nurture?
- 第3週 Unit 2 Facing Life's Obstacles
- 第4週 ♪
- 第5週 Unit 3 Making Medical Decisions
- 第6週 ♪
- 第7週 Unit 4 Instinct or Intellect?
- 第8週 ♪
- 第9週 Unit 5 Too much of a Good Thing?
- 第10週 ♪
- 第11週 Presentation, Essay writing assignment
- 第12週 Unit 6 Making a Difference
- 第13週 ♪
- 第14週 Unit 7 The Empty Classroom
- 第15週 ♪

Schedule might be changed to take into consideration student levels and interests.

INTENSIVE READING & WRITING E

3713030100500

副題					担当者	W. トング 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 木	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Margot F.Gramer, Colin S.Ward, *Skills for Success - Reading and Writing 3*, Oxford, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

There will be homework assigned at the end of most classes. On average, the homework will probably take 20-30 minutes to complete, and two more hours are necessary for preparation.

〔成績評価の方法〕

Attendance 25%
Tests/quizzes 25%
Homework 25%
Class participation 25%

To receive credit for the course, it is necessary to attend at least two-thirds of the classes, in keeping with university policy.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Skills for Success, supplementary articles, writing compositions
第2週	〃
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

The schedule and supplementary articles will be modified to fit the needs and interests of our class. Some of the topics that we'll cover through the supplementary material include strategies for building vocabulary, reading comprehension techniques, Multiple Intelligence, Social Proof and the Bystander Effect, Interview Skills, Conflict in Literature/Storytelling, Literary Themes.

副題					担当者	W. トング 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月 木	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Margot F.Gramer, Colin S.Ward, *Skills for Success - Reading and Writing 3*, Oxford, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

There will be homework assigned at the end of most classes. On average, the homework will probably take 20-30 minutes to complete, and two more hours are required for general preparation to class.

〔成績評価の方法〕

Attendance 25%
Tests/quizzes 25%
Homework 25%
Class participation 25%

To receive credit for the course, it is necessary to attend at least two-thirds of the classes, in keeping with university policy.

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Skills for Success, supplementary articles, writing compositions
第2週	〃
第3週	〃
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

The schedule and supplementary articles will be modified to fit the needs and interests of our class. Some of the topics that we'll cover through the supplementary material include strategies for building vocabulary, reading comprehension techniques, Multiple Intelligence, Social Proof and the Bystander Effect, Interview Skills, Conflict in Literature/Storytelling, Literary Themes.

副題					担当者	吉富 昇 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水土	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Joe McVeigh, Jennifer Bixby, *Q: Skills for Success 2 Reading and Writing*, Oxford University Press, 2011

Extra materials will be provided during the semester.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Textbook Reading: 90 minutes. Journal: 120 minutes. Class Review: 30 minutes.

〔成績評価の方法〕

Attendance(25%), Homework Assignments(25%), Class Participation(25%) and Exams (25%).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Course Introduction / Quick Writes 1 & 2 Text Unit 1 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 1 for Homework Assignment
第2週	Quick Writes 3 & 4 Text Units 2 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 2 for Homework Assignment
第3週	Quick Writes 5 & 6 Text Units 3 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 3 for Homework Assignment
第4週	Quick Writes 7 & 8 Text Units 4 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 4 for Homework Assignment
第5週	Quick Writes 9 & 10 Text Units 5 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 5 for Homework Assignment
第6週	Quick Writes 11, 12 Text Units 6 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 6 for Homework Assignment
第7週	Quick Writes 13, 14 Text Units 7 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 7 for Homework Assignment
第8週	Quick Writes 15, 16 Text Units 8 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 8 for Homework Assignment
第9週	Quick Writes 17, 18 Text Units 9 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 9 for Homework Assignment
第10週	Quick Writes 19, 20 Text Units 10 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 10 for Homework Assignment
第11週	Quick Writes 21, 22 Writing Project 1a
第12週	Quick Writes 23, 24 Writing Project 1b
第13週	Quick Writes 25, 26 Writing Project 1c
第14週	Quick Writes 27, 28 Writing Project 1d
第15週	Review

INTENSIVE READING & WRITING H

3713030100800

副題					担当者	吉富 昇 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水土	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Joe McVeigh, Jennifer Bixby, *Q: Skills for Success 2 Reading and Writing*, Oxford University Press, 2011

Extra materials will be provided during the semester.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Textbook Reading: 90 minutes. Journal: 120 minutes. Class Review: 30 minutes.

〔成績評価の方法〕

Attendance(25%), Homework Assignments(25%), Class Participation(25%) and Exams (25%).

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Course Introduction / Quick Writes 1 & 2 Text Unit 1 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 1 for Homework Assignment
第2週	Quick Writes 3 & 4 Text Units 2 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 2 for Homework Assignment
第3週	Quick Writes 5 & 6 Text Units 3 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 3 for Homework Assignment
第4週	Quick Writes 7 & 8 Text Units 4 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 4 for Homework Assignment
第5週	Quick Writes 9 & 10 Text Units 5 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 5 for Homework Assignment
第6週	Quick Writes 11, 12 Text Units 6 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 6 for Homework Assignment
第7週	Quick Writes 13, 14 Text Units 7 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 7 for Homework Assignment
第8週	Quick Writes 15, 16 Text Units 8 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 8 for Homework Assignment
第9週	Quick Writes 17, 18 Text Units 9 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 9 for Homework Assignment
第10週	Quick Writes 19, 20 Text Units 10 Reading Assignment: Assessment and Discussion Journal 10 for Homework Assignment
第11週	Quick Writes 21 & 22 Writing Project 1a
第12週	Quick Writes 23 & 24 Writing Project 1b
第13週	Quick Writes 25 & 26 Writing Project 1c
第14週	Quick Writes 27 & 28 Writing Project 1d
第15週	Review

副題					担当者	鈴木 美穂 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水 土	時限	1 1
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>1年次に培った英語力をもとに、リーディング力とライティング力をさらに向上させることを目指します。</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>テキストの他、ウェブサイトの記事などさまざまなタイプの文章を読み、正確に英文の概要を掴む訓練を行います。語彙、文法の解説も適宜行います。同時に、英文の内容を要約したり、その英文に対する自分の意見をまとめたりすることにより、ライティング力の向上を図ります。</p> <p>〔教材〕</p> <p>教科書：Joe McVeigh, Jennifer Bixby, <i>Q:Skills for Success-Reading and Writing 2</i>, Oxford University Press, 2011</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>授業の前にはテキストに目を通し、不明な単語の意味を調べてくること。ライティングについては授業中に課題を示すので、次の週に各自で完成させた課題を提出してもらいます。</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席（20%）、テスト（50%）、課題提出および授業への参加態度（30%）により、総合的に判断します。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授業計画〕

- 第1週 Introduction, Unit 1
- 第2週 Unit 1 / Unit 2
- 第3週 Unit 2
- 第4週 Unit 3
- 第5週 Unit 3 / Unit 4
- 第6週 Unit 4
- 第7週 Unit 5
- 第8週 Unit 5 / Unit 6
- 第9週 Unit 6
- 第10週 Unit 7
- 第11週 Unit 7 / Unit 8
- 第12週 Unit 8
- 第13週 Unit 9
- 第14週 Unit 9 / Unit 10
- 第15週 Unit 10

以上の予定は受講者のレベルによって変更することがあります。

副題					担当者	鈴木 美穂 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水 土	時限	1 1
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>1年次に培った英語力をもとに、リーディング力とライティング力をさらに向上させることを目指します。</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>テキストの他、ウェブサイトの記事などさまざまなタイプの文章を読み、正確に英文の概要を掴む訓練を行います。語彙、文法の解説も適宜行います。同時に、英文の内容を要約したり、その英文に対する自分の意見をまとめたりすることにより、ライティング力の向上を図ります。</p> <p>〔教材〕</p> <p>教科書：Joe McVeigh, Jennifer Bixby, <i>Q:Skills for Success-Reading and Writing 2</i>, Oxford University Press, 2011</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>授業の前にはテキストに目を通し、不明な単語の意味を調べてくること。ライティングについては授業中に課題を示すので、次の週に各自で完成させた課題を提出してもらいます。</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席（20%）、テスト（50%）、課題提出および授業への参加態度（30%）により、総合的に判断します。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction, Unit 1
- 第2週 Unit 1 / Unit 2
- 第3週 Unit 2
- 第4週 Unit 3
- 第5週 Unit 3 / Unit 4
- 第6週 Unit 4
- 第7週 Unit 5
- 第8週 Unit 5 / Unit 6
- 第9週 Unit 6
- 第10週 Unit 7
- 第11週 Unit 7 / Unit 8
- 第12週 Unit 8
- 第13週 Unit 9
- 第14週 Unit 9 / Unit 10
- 第15週 Unit 10

以上の予定は受講者のレベルによって変更することがあります。

副題					担当者	水谷 利美 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	2 2
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>1年次に養った力をもとにさらなる語彙力強化と読解力向上を目指すと共に、Writing の基本的ルールを押さえ、英語での自己表現力をつけることを目標とします。</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>原則として和訳をせずにテキストを読み、exercises を通して内容理解に努めます。基本となるVocabulary Skills, Reading Skills, Writing Skillsを習得していきながら、文法にも留意して、ユニットごとに課題のwritingを行い、その際に設定された具体的な目標をクリアできるように、訓練を積んでいきます。</p> <p>〔教材〕</p> <p>教科書：Joe McVeigh, Jennifer Bixby, <i>Q:Skills for Success Reading and Writing 2</i>, Oxford University Press, 2011</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>テキストの指定された箇所の読解と課題のwriting を行う。</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席(20%)、テスト(60%)、課題提出・授業参加態度 (20%)により、総合的に評価します。</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction / Unit 1
- 第2週 Unit 1 / Unit 2
- 第3週 Unit 2
- 第4週 Unit 3
- 第5週 Unit 3 / Unit 4
- 第6週 Unit 4
- 第7週 Unit 5
- 第8週 Unit 5 / Unit 6
- 第9週 Unit 6
- 第10週 Unit 7
- 第11週 Unit 7 / Unit 8
- 第12週 Unit 8
- 第13週 Unit 9
- 第14週 Unit 9 / Unit 10
- 第15週 Unit 10

以上の予定は、受講者の力量や授業進度などにより変更の可能性があります。

副題					担当者	水谷 利美 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

1年次に養った力をもとにさらなる語彙力強化と読解力向上を目指すと共に、Writing の基本的ルールを押さえ、英語での自己表現力をつけることを目標とします。

〔授業の内容〕

原則として和訳をせずにテキストを読み、exercises を通して内容理解に努めます。基本となるVocabulary Skills, Reading Skills, Writing Skillsを習得していきながら、文法にも留意して、ユニットごとに課題のwritingを行い、その際に設定された具体的な目標をクリアできるように、訓練を積んでいきます。

〔教材〕

教科書：Joe McVeigh, Jennifer Bixby, *Q:Skills for Success Reading and Writing 2*, Oxford University Press, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストの指定された箇所の読解と課題のwritingを行う。

〔成績評価の方法〕

出席(20%)、テスト(60%)、課題提出・授業参加態度 (20%)により、総合的に評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction / Unit 1
- 第2週 Unit 1 / Unit 2
- 第3週 Unit 2
- 第4週 Unit 3
- 第5週 Unit 3 / Unit 4
- 第6週 Unit 4
- 第7週 Unit 5
- 第8週 Unit 5 / Unit 6
- 第9週 Unit 6
- 第10週 Unit 7
- 第11週 Unit 7 / Unit 8
- 第12週 Unit 8
- 第13週 Unit 9
- 第14週 Unit 9 / Unit 10
- 第15週 Unit 10

以上の予定は、受講者の力量や授業進度などにより変更の可能性があります。

INTENSIVE READING & WRITING M

3713030101300

副題					担当者	M. ポルコシュコ 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水土	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Linda Lee, *Select Readings Elementary*, 2nd Edition, Oxford, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Please review what the teacher asks prior to the next lesson.

〔成績評価の方法〕

Evaluation for the course will be based primarily on attendance and participation. Some homework and quizzes will be given during the term.

〔備考〕

〔授業計画〕

- 第1週 Introductions
- 第2週 Sports: Scanning
- 第3週 Eating Habits: Previewing
- 第4週 Dream Homes: Scanning
- 第5週 Greeting People: Previewing
- 第6週 Living Without Oil: Cause and Effect
- 第7週 Across the Desert: Contextual Clues
- 第8週 Review
- 第9週 Bicycles in Denmark: Main Ideas and Details
- 第10週 Cooking: Order of Events
- 第11週 Traveling: Inferences
- 第12週 Traditions: Previewing
- 第13週 Airplane Emergencies: Order of Events
- 第14週 Entering University: Taking Notes
- 第15週 Review

INTENSIVE READING & WRITING N

3713030101400

副題					担当者	M. ポルコシュコ 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水土	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

参考書：Linda Lee, *Select Readings Elementary*, 2nd Edition, Oxford, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Please review what the teacher asks prior to the next lesson.

〔成績評価の方法〕

Evaluation for the course will be based primarily on attendance and participation. Some homework and quizzes will be given during the term.

〔備考〕

共通科目
外国語

〔授業計画〕

- 第1週 Introductions
- 第2週 Sports: Scanning
- 第3週 Eating Habits: Previewing
- 第4週 Dream Homes: Scanning
- 第5週 Greeting People: Previewing
- 第6週 Living Without Oil: Cause and Effect
- 第7週 Across the Desert: Contextual Clues
- 第8週 Review
- 第9週 Bicycles in Denmark: Main Ideas and Details
- 第10週 Cooking: Order of Events
- 第11週 Traveling: Inferences
- 第12週 Traditions: Previewing
- 第13週 Airplane Emergencies: Order of Events
- 第14週 Entering University: Taking Notes
- 第15週 Review

INTENSIVE READING & WRITING O

3713030101500

副題					担当者	M. ゲッセル 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水土	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

To improve students' reading, pronunciation, and writing skills.

〔授業の内容〕

Each unit is divided into two readings. One unit will be covered each week. Homework will be given from the texts. All homeworks will help the students prepare for the exam. There will be no quizzes, but the final exam will be cumulative. Homeworks and class attendance will be weighed heavily in students' final grades.

〔教材〕

教科書：Sarah Lynn 『Skills For Success 1 Reading and Writing』 Oxford, 2011年
None

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Class participation is weighted heavily. Students must prepare for class, by doing the readings before each class.

〔成績評価の方法〕

Class participation and homeworks 50%
Final exam 50%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Unit 1 "How Did You Get Your Name?"
- 第2週 Unit 2 "What Is A Good Job?"
- 第3週 Speech preparation
- 第4週 Speech Day
- 第5週 Unit 3 "Why Do People Immigrate To Other Countries?"
- 第6週 Unit 4 "What Are The Benefits Of Positive Thinking?"
- 第7週 Unit 5 "Why Is Vacation Important?"
- 第8週 Unit 6 "What Makes You Laugh?"
- 第9週 Unit 7 "How Does Music Make You Feel?"
- 第10週 Speech preparation
- 第11週 Speech Day
- 第12週 Unit 8 "Is It Ever OK To Lie?"
- 第13週 Unit 9 "How Are Adults And Children Different?"
- 第14週 Unit 10 "What Are You Afraid Of?"
- 第15週 Review

The syllabus is subject to some change based on speed.

INTENSIVE READING & WRITING P

3713030101600

副題	Skills for Success 2 Reading and Writing			担当者	M. ゲッセル 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水土	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

To further improve students' reading speed, comprehension, and writing skills.

〔授業の内容〕

The main text will provide most of the material, but some additional material may be added. Homeworks and class participation will be weighted heavily in students' final grades. There will be a final exam.

〔教材〕

教科書：Joe McVeigh & Jennifer Bixby 『Skills For Success 2 Reading And Writing』 2011年

There are 10 units in the text. They are divided into two readings. We will cover one unit each week.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Class participation is weighted heavily. Students must prepare for class by doing the readings before each class.

〔成績評価の方法〕

Homework and class participation 50%

Final exam 50%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	Unit 1 "Why Does Something Become Popular?"
第2週	Unit 2 "How Do Colors Affect The Way We Feel?"
第3週	Unit 3 "What Does It Mean To Be Polite?"
第4週	Preparation for group project
第5週	Presentation of group project
第6週	Unit 4 "What Makes A Competition Unfair?"
第7週	Unit 5 "What Makes A Family Business Successful?"
第8週	Preparation for group project
第9週	Presentation of group project
第10週	Unit 6 "Do You Prefer To Get Help From A Person Or A Machine?"
第11週	Unit 7 "Is It Better To Save What You Have Or Buy New Things?"
第12週	Unit 8 "What Makes A Good Story?"
第13週	Unit 9 "Does Everyone Need Math?"
第14週	Unit 10 "How Can We Prevent Diseases?"
第15週	Review / Final Review

The syllabus is subject to change based on speed.

副題					担当者	水谷 利美 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	3 3

〔授業の到達目標〕

1年次に養った力をもとに、さらなる語彙力強化と読解力向上を目指すと共に、Writingの基本的ルールを押さえ、英語での自己表現力をつけることを目標とします。

〔授業の内容〕

原則として和訳をせずにテキストを読み、様々なタスクを通して内容理解に努めます。文法にも留意しながら、基本となるVocabulary Skills, Reading Skills, Writing Skillsを習得していきます。ユニットごとに課題のwritingを行い、その際に設定された具体的な目標をクリアできるように訓練を積みます。2ユニットごとに単語テストを課します。

〔教材〕

教科書：Joe McVeigh, Jennifer Bixby, *Q:Skills for Success Reading and Writing 2*, Oxford University Press, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストの指定された箇所を読み、記載されたタスクを行って、疑問点があれば、授業内で質問できるようにしておく。

〔成績評価の方法〕

出席(20%)、テスト(60%)、課題提出・授業参加態度 (20%)により、総合的に評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction / Unit 1
- 第2週 Unit 1 / Unit 2
- 第3週 Unit 2
- 第4週 Unit 3
- 第5週 Unit 3 / Unit 4
- 第6週 Unit 4
- 第7週 Unit 5
- 第8週 Unit 5 / Unit 6
- 第9週 Unit 6
- 第10週 Unit 7
- 第11週 Unit 7 / Unit 8
- 第12週 Unit 8
- 第13週 Unit 9
- 第14週 Unit 9 / Unit 10
- 第15週 Unit 10

以上の予定は、受講者の力量や授業進度などにより変更の可能性があります。

副題					担当者	水谷 利美 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金	時限	3 3

〔授業の到達目標〕

1年次に養った力をもとに、さらなる語彙力強化と読解力向上を目指すと共に、Writingの基本的ルールを押さえ、英語での自己表現力をつけることを目標とします。

〔授業の内容〕

原則として和訳をせずにテキストを読み、様々なタスクを通して内容理解に努めます。文法にも留意しながら、基本となるVocabulary Skills, Reading Skills, Writing Skillsを習得していきます。ユニットごとに課題のwritingを行い、その際に設定された具体的な目標をクリアできるよう訓練を積みます。2ユニットごとに単語テストを課します。

〔教材〕

教科書：Joe McVeigh, Jennifer Bixby, *Q:Skills for Success Reading and Writing 2*, Oxford University Press, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストの指定された箇所を読み、記載されたタスクを行って、疑問点があれば、授業内で質問できるようにしておく。

〔成績評価の方法〕

出席(20%)、テスト(60%)、課題提出・授業参加態度 (20%)により、総合的に評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 Introduction / Unit 1
- 第2週 Unit 1 / Unit 2
- 第3週 Unit 2
- 第4週 Unit 3
- 第5週 Unit 3 / Unit 4
- 第6週 Unit 4
- 第7週 Unit 5
- 第8週 Unit 5 / Unit 6
- 第9週 Unit 6
- 第10週 Unit 7
- 第11週 Unit 7 / Unit 8
- 第12週 Unit 8
- 第13週 Unit 9
- 第14週 Unit 9 / Unit 10
- 第15週 Unit 10

以上の予定は、受講者の力量や授業進度などにより変更の可能性があります。

副題				担当者	井上 美穂 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水金	時限	1 1

〔授業の到達目標〕

自己紹介や物を簡単に描写するなどの基本的なことを、フランス語で言えるようになることを目指します。さらに、フランス語圏でおきている出来事を知ることが、授業の目標に含まれます。

〔授業の内容〕

授業冒頭で、フランスのニュースをネット動画で見ます。それに教員が解説を加え、フランス語圏に関する学習を行います。次に、教科書を使って、会話の練習を行います。隣同士でペアを組み、絵を見ながらフランス語で2人で会話練習を行います。

〔教材〕

教科書：井上美穂 北村亜矢子『絵を見て話そうフランス語』白水社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は必要ありません。履修者のみなさんに行っていただきたいのは復習です。授業中も隣同士で同じ会話を繰り返しますが、それだけでは時間が足りません。授業後も、何回も同じ会話を繰り返して、暗記の状態になるまで学習してください。

〔成績評価の方法〕

必ず75%の出席率を守って下さい。75%未満の出席率の方は、単位は取得できません。75%の出席率がある方が、学期に2回行われるテストを受験できます。そのテストの点数によって、成績の評価を決定します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 カフェで注文する・名詞の性
- 第2週 数詞0～10・主語代名詞
- 第3週 tu/vousの違い・-er動詞
- 第4週 不定冠詞・洋服の買い物
- 第5週 否定形・名詞の複数形
- 第6週 定冠詞・好き嫌いを言う
- 第7週 形容詞の一致・動詞avoir
- 第8週 否定のde・所有についてたずねる
- 第9週 動詞être・容姿を描写する
- 第10週 数詞11～69・所有形容詞
- 第11週 国籍を言う・数詞70～99
- 第12週 形容詞の位置・形容詞男性第2形
- 第13週 物を描写する・質問の作り方
- 第14週 部分冠詞・食べ物や飲み物をすすめる
- 第15週 序数詞・縮約

副題				担当者	井上 美穂 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水金	時限	3 2

〔授業の到達目標〕

自己紹介や物を簡単に描写するなどの基本的なことを、フランス語で言えるようになることを目指します。さらに、フランス語圏でおきている出来事を知ることも、授業の目標に含まれます。

〔授業の内容〕

授業冒頭で、フランスのニュースをネット動画で見ます。それに教員が解説を加え、フランス語圏に関する学習を行います。次に、ネット上の教材を使って、会話の練習を行います。隣同士でペアを組み、絵を見ながらフランス語で2人で会話練習を行います。

〔教材〕

教材は、大学のサーバーに載っているので、購入の必要はありません。教員からの紙の教材配布はありませんので、ご自分でネット上のページをプリントアウトするなどの必要が生じます。教材は、次のアドレスで見ることができます。

<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~19952079/cliq/etop.html>

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は必要ありません。履修者のみなさんに行っていただきたいのは復習です。授業中も隣同士で同じ会話を繰り返しますが、それだけでは時間が足りません。授業後も、何回も同じ会話を繰り返して、暗記の状態になるまで学習してください。

〔成績評価の方法〕

必ず75%の出席率を守って下さい。75%未満の出席率の方は、単位は取得できません。75%の出席率がある方が、学期に2回行われるテストを受験できます。そのテストの点数によって、成績の評価を決定します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 アルファベ・アクセント記号など
- 第2週 名詞の性・定冠詞
- 第3週 不定冠詞・部分冠詞
- 第4週 動詞être・数1～10
- 第5週 tu/vousの違い・-er動詞
- 第6週 動詞aller・aの縮約
- 第7週 否定文・動詞avoir
- 第8週 親族を表す語彙・否定のde
- 第9週 名詞の複数形・形容詞の一致
- 第10週 形容詞の位置・男性第二形を持つ形容詞
- 第11週 女性名詞の作り方・所有形容詞
- 第12週 近接未来・近接過去
- 第13週 -ir動詞・指示形容詞
- 第14週 直接目的補語を表す人称代名詞・質問の作り方
- 第15週 deと定冠詞の縮約・非人称のil

副題				担当者	井上 美穂 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水金	時限	1 1

〔授業の到達目標〕

春学期よりも多少高度な内容をフランス語で言えるようになることを目指します。さらに、フランス語圏でおきている出来事を知ること、授業の目標に含まれます。

〔授業の内容〕

授業冒頭で、フランスのニュースをネット動画で見ます。それに教員が解説を加え、フランス語圏に関する学習を行います。次に、教科書を使って、会話の練習を行います。隣同士でペアを組み、絵を見ながらフランス語で2人で会話練習を行います。

〔教材〕

教科書：井上美穂 北村亜矢子『絵を見て話そうフランス語』白水社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は必要ありません。履修者のみなさんに行っていただきたいのは復習です。授業中も隣同士で同じ会話を繰り返しますが、それだけでは時間が足りません。授業後も、何回も同じ会話を繰り返して、暗記の状態になるまで学習してください。

〔成績評価の方法〕

必ず75%の出席率を守って下さい。75%未満の出席率の方は、単位は取得できません。75%の出席率がある方が、学期に2回行われるテストを受験できます。そのテストの点数によって、成績の評価を決定します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 位置を示す・主語on
- 第2週 時刻を言う・予定を言う
- 第3週 命令法・指示形容詞
- 第4週 指示を出す・近接未来
- 第5週 強勢形・旅行の手配
- 第6週 アルファベ・代名動詞
- 第7週 身支度・非人称のil
- 第8週 天候の表現
- 第9週 必要なことを言う（1）・形容詞の比較級
- 第10週 最上級・必要なことを言う（2）
- 第11週 複合過去（1）・観光旅行について語る
- 第12週 複合過去（2）・過去の行動を語る
- 第13週 半過去・複合過去との組み合わせ
- 第14週 過去の行動と状態を語る・中性代名詞en
- 第15週 人称代名詞間接目的補語・物をわたす

副題				担当者	井上 美穂 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水金	時限	3 2

〔授業の到達目標〕

春学期よりは多少高度な内容を、フランス語で言えるようになることを目指します。さらに、フランス語圏でおきている出来事を知ること、授業の目標に含まれます。

〔授業の内容〕

授業冒頭で、フランスのニュースをネット動画で見ます。それに教員が解説を加え、フランス語圏に関する学習を行います。次に、ネット上の教材を使って、会話の練習を行います。隣同士でペアを組み、絵を見ながらフランス語で2人で会話練習を行います。

〔教材〕

教材は、大学のサーバーに載っているもので、購入の必要はありません。教員からの紙の教材配布はありませんので、ご自分でネット上のページをプリントアウトするなどの必要が生じます。教材は、次のアドレスで見ることができます。

<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~19952079/cliq/leuqel.html>

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は必要ありません。履修者のみなさんに行っていただきたいのは復習です。授業中も隣同士で同じ会話を繰り返しますが、それだけでは時間が足りません。授業後も、何回も同じ会話を繰り返して、暗記の状態になるまで学習してください。

〔成績評価の方法〕

必ず75%の出席率を守って下さい。75%未満の出席率の方は、単位は取得できません。75%の出席率がある方が、学期に2回行われるテストを受験できます。そのテストの点数によって、成績の評価を決定します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 人称代名詞の強勢形・疑問詞leuqel
- 第2週 形容詞と副詞の比較級・bonとbienの比較級
- 第3週 形容詞と副詞の最上級・bonとbienの最上級
- 第4週 数11～69・中性代名詞 y
- 第5週 中性代名詞en・中性代名詞le
- 第6週 代名動詞・主語on
- 第7週 oui/non/siの違い・数70～100
- 第8週 命令法・序数詞
- 第9週 avoirを使う複合過去・êtreを使う複合過去
- 第10週 半過去・半過去と複合過去の使い分け
- 第11週 感嘆文・受動態
- 第12週 数100～1000・関係代名詞qui/que
- 第13週 関係代名詞dont/où・条件法（もし…）
- 第14週 条件法（語気の緩和）・人称代名詞間接目的補語
- 第15週 接続法・未来形

副題					担当者	篠原 学 講師 井上 美穂 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火 水	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

フランス語基礎で学習したことをもとに、さらに学習を進め、4技能（読む・書く・聞く・話す）の上達を目指します。そして、多少複雑な内容を、フランス語で理解したり表現できるようになることが、この授業の目標です。

〔授業の内容〕

授業は週2コマで、2人の教員が担当します。篠原は、書き言葉としてのフランス語の学習を担当し、読む・書く・文法の練習を行います。井上は、話し言葉の学習を担当し、聞く・話すの練習を行います。

〔教材〕

井上の授業では、フランス語基礎で途中まで学習してある教材の続きを行います。この教材は、授業の都度、井上が配布します。篠原の使う教材は、初回の授業で説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

井上の授業では予習は必要ありません。語学は繰り返して覚えることが重要ですので、授業で学習した会話が暗記できるまで復習を行って下さい。篠原の授業の準備学習については、初回の授業で説明します。

〔成績評価の方法〕

篠原は、授業中に提示する課題と提出物を、50点満点で評価します。井上は、毎回の授業で提出する聞き取り問題の評価を、50点満点で採点します。2人の教員の50点満点評価を足し合わせ、100点満点での最終評価とします。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 êtreを助動詞に使う複合過去形・半過去形
- 第2週 複合過去形と半過去形の使い分け
- 第3週 ネット上の会話教材へ移行。アルファベ・アクセント記号など
- 第4週 名詞の性と定冠詞・不定冠詞
- 第5週 部分冠詞・動詞être
- 第6週 数1～10・tu/vousの違い
- 第7週 -er動詞・動詞aller
- 第8週 àの縮約・否定文
- 第9週 動詞avoir・親族を表す語彙
- 第10週 否定のde・名詞の複数形
- 第11週 形容詞の一致・形容詞の位置
- 第12週 男性第二形を持つ形容詞・女性名詞の作り方
- 第13週 所有形容詞・近接未来
- 第14週 近接過去・ir動詞
- 第15週 指示形容詞・直接目的補語を表す人称代名詞

フランス語基礎での学習の続きから始めて、その教材を終了させる。その後は、また冠詞等の基礎的な内容に立ち戻って、学習を続ける。

副題					担当者	篠原 学 講師 井上 美穂 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火水	時限	2 2

〔授業の到達目標〕

フランス語応用の春学期で学習したことをもとに、さらに学習を進め、4技能（読む・書く・聞く・話す）の上達を目指します。そして、多少高度な内容を、フランス語で理解したり表現できるようになることが、この授業の目標です。

〔授業の内容〕

授業は週2コマで、2人の教員が担当します。篠原は、書き言葉としてのフランス語の学習を担当し、読む・書く・文法の練習を行います。井上は、話し言葉の学習を担当し、聞く・話すの練習を行います。

〔教材〕

井上の授業では、web教材を用います。この教材は、すでに大学のサーバーに載せてありますので、購入の必要はありません。篠原の使う教材は、初回の授業で説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

井上の授業では予習は必要ありません。語学は繰り返して覚えることが重要ですので、授業で学習した会話が暗記できるまで復習を行って下さい。篠原の授業の準備学習については、初回の授業で説明します。

〔成績評価の方法〕

篠原は、授業中に提示する課題と提出物を、50点満点で評価します。井上は、毎回の授業で提出する聞き取り問題の評価を、50点満点で採点します。2人の教員の50点満点評価を足し合わせ、100点満点での最終評価とします。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	deと定冠詞の縮約・非人称のil
第2週	人称代名詞の強勢形・疑問詞lequel
第3週	形容詞と副詞の比較級・bonとbienの比較級
第4週	形容詞と副詞の最上級・bonとbienの最上級
第5週	数11～69・中性代名詞y
第6週	中性代名詞en・中性代名詞le
第7週	代名動詞・主語on
第8週	oui/non/siの使い分け・数70～100
第9週	命令法・序数詞
第10週	avoirを使う複合過去・etreを使う複合過去
第11週	半過去・半過去と複合過去の使い分け
第12週	感嘆文・受動態
第13週	数100～1000・関係代名詞qui/que
第14週	関係代名詞dont/où・条件法（もし...）
第15週	条件法（語気の緩和）・人称代名詞間接目的補語

春学期からの続きとして、徐々に高度な内容へと進み、最終的には条件法や接続法についても学習する。

ドイツ語 基礎IA

3722011100100

副題					担当者	柿沼 義孝 講師 小出 昌弘 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月金	時限	3 4

〔授業の到達目標〕

ドイツ語技能検定試験（独検）5級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕

ドイツ語はEUの中でもっとも多くの人話している言語です。皆さんのドイツに対するイメージはどんなでしょうか。音楽の国、ロマンティック街道、ライン川の流れとそこにそびえる城。ソーセージ、ワイン、そしてビール。数え上げればきりがありません。このドイツ語の時間では自己紹介から始まって、買い物やレストランでの注文の仕方など、簡単な日常会話を勉強しながら、ドイツやオーストリアのいろいろな文化を体験していきます。またドイツ語検定試験にも挑戦してみませんか。

ドイツ語未履修者を対象として、ドイツ語を使いこなすための文法の基礎と、初歩の会話を学びます。

柿沼の授業では、ミュンヘンでドイツ語を勉強し始めたフィンランドの大学生の日常生活を通じて、あいさつ・自己紹介から始め、スーパーでの買い物、天気やジャガイモ料理などドイツの生活に関する話を含めて、日常生活で使う語彙や会話表現を学びます。それをフォローする形で小出の授業では作文練習を中心に、基本表現や文法の習得を目指します。

〔教材〕

教科書：池内 宣夫『発信するドイツ語』三修社

Schritte International 1, Hueber

柿沼使用教科書：Schritte International 1

小出使用教科書：「発信するドイツ語」

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回の授業で扱った内容をよく復習して、次の授業で使えるように表現方法や仕掛けをしっかり身に付けること。

〔成績評価の方法〕

学期末試験他の成績（70％）に平常点（30％）を加味して行う。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|----------------|
| 第1週 | つづりと発音の関係 |
| 第2週 | 〃 |
| 第3週 | 動詞の現在人称変化 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 名詞の性・格と冠詞の変化 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 不規則動詞と名詞の複数形 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 人称代名詞 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 所有冠詞・否定冠詞・指示冠詞 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 前置詞 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | まとめ |

副題					担当者	平井 敏雄 講師 小出 昌弘 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	4 3

〔授業の到達目標〕

ドイツ語技能検定試験（独検）5級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕

大学を卒業する人にとって2つ以上の外国語を学ぶことは、世界の常識です。2つめの外国語としてドイツ語にチャレンジしてください。ドイツ語未履修者を対象として、ドイツ語を使いこなすための文法の基礎と、初歩の会話を学びます。小出の授業では、作文の練習を中心に基本文法の習得を目指し、平井の授業では、日常のさまざまな場面に応じた会話の練習を通して、語彙・発話力の充実をはかってゆきます。

〔教材〕

教科書：池内宣夫『ドイツ語表現への誘い（新訂版）』初版，郁文堂，2013年
佐藤修子他『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社
小出使用教科書：「ドイツ語表現への誘い」（新訂版）
平井使用教科書：「スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語」

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回の授業で扱う部分の内容にあらかじめ目を通し，わからない単語は辞書で確認し，練習問題の解答を考えてきて下さい。

〔成績評価の方法〕

学期末試験他の成績（70％）に平常点（30％）を加味して行う。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 つづりと発音
- 第2週 ヶ
- 第3週 動詞の現在人称変化
- 第4週 ヶ
- 第5週 不規則動詞
- 第6週 ヶ
- 第7週 名詞の性・名詞の格
- 第8週 ヶ
- 第9週 前置詞
- 第10週 ヶ
- 第11週 話法の助動詞
- 第12週 ヶ
- 第13週 分離動詞
- 第14週 ヶ
- 第15週 まとめ

ドイツ語 基礎IIA

3722011200100

副題					担当者	柿沼 義孝 講師 小出 昌弘 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月金	時限	3 4

〔授業の到達目標〕

ドイツ語技能検定試験（独検）4級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕

ドイツ語はEUの中でもっとも多くの人々が話している言語です。皆さんのドイツに対するイメージはどんなでしょうか。音楽の国、ロマンティック街道、ライン川の流れとそこにそびえる城。ソーセージ、ワイン、そしてビール。数え上げればきりがありません。このドイツ語の時間では自己紹介から始まって、買い物やレストランでの注文の仕方など、簡単な日常会話を勉強しながら、ドイツやオーストリアのいろいろな文化を体験していきます。またドイツ語検定試験にも挑戦してみませんか。

ドイツ語基礎IAを修得した者を対象として、ドイツ語を使いこなすための文法の基礎と、日常的なさまざまな場面に応じた初級会話を学びます。IAで使用したテキストの続きを学び、応用への橋渡しとします。

柿沼の授業では、引き続き、ミュンヘンでドイツ語を勉強し始めたフィンランドの大学生の日常生活を通じて、スーパーでの買い物、天気やジャガイモ料理などドイツの生活に関する話を含めて、日常生活で使う語彙や会話表現を学びます。それをフォローする形で、小出の授業では、引き続き作文練習を中心に様々な表現や基本文法の一層の確実な把握を目指します。

〔教材〕

教科書：池内 宣夫『発信するドイツ語』三修社

Schritte International 1, Hueber

柿沼使用教科書：Schritte International 1

小出使用教科書：「発信するドイツ語」

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回の授業の復習をしっかりと行って、次回の授業のために表現方法や仕掛けを身に付けておくこと。

〔成績評価の方法〕

学期末試験他の成績（70％）に平常点（30％）を加味して行う。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 春学期の復習 1
- 第2週 春学期の復習 2
- 第3週 分離動詞と非分離動詞
- 第4週 再帰代名詞と再帰動詞
- 第5週 形容詞の格変化と比較変化
- 第6週 話法の助動詞と未来の助動詞
- 第7週 副文と命令形
- 第8週 過去形
- 第9週 現在完了形
- 第10週 zu 不定詞
- 第11週 受動文
- 第12週 関係代名詞
- 第13週 接続法
- 第14週 まとめと復習・解説
- 第15週 まとめと今後の展望

副題					担当者	平井 敏雄 講師 小出 昌弘 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金	時限	4 3

〔授業の到達目標〕

ドイツ語技能検定試験（独検）4級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕

ドイツ語基礎Iを修得した者を対象として、ドイツ語を使いこなすための文法の基礎と、日常的なさまざまな場面に応じた初級会話を学びます。IBで使用したテキストの続きを学び、中級への橋渡しとします。小出の授業では、作文の練習を中心に基本文法の習得を目指し、平井の授業では、日常のさまざまな場面に応じた会話の練習を通して、語彙・発話力の充実をはかってゆきます。

〔教材〕

教科書：池内宣夫『ドイツ語表現への誘い（新訂版）』初版、郁文堂、2013年
佐藤修子他『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社
小出使用教科書：「ドイツ語表現への誘い」（新訂版）
平井使用教科書：「スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語」

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回の授業で扱う部分の内容にあらかじめ目を通し、わからない単語は辞書で確認し、練習問題の解答を考えてきて下さい。

〔成績評価の方法〕

学期末試験他の成績（70％）に平常点（30％）を加味して行う。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|----------|
| 第1週 | 春学期の復習 |
| 第2週 | 〃 |
| 第3週 | 過去形・完了形 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 再帰表現・受動態 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 形容詞の格変化 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 関係代名詞 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 接続法 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 接続法 |
| 第15週 | 〃 |

ドイツ語 応用I

3722021100101

副題					担当者	柿沼 義孝 講師 平井 敏雄 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月火	時限	4 3

〔授業の到達目標〕

ドイツ語技能検定試験（独検）3級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕

ドイツ語基礎を履修した人を対象として、文を読み、書き、聞き、話す練習をします。またドイツのさまざまな面をアクチュアルな問題も含めて紹介していきます。柿沼の授業では、インターネットやDVDなどのさまざまな映像メディアを通して、現代のドイツの若者がどんな日常を送っているのか、若者言葉は？携帯は？など日本の若者と比較しつつ、グローバルな時代のドイツの生活を体験します。平井の授業では、基礎に引き続いて文法事項の学習をしながら、ある程度まとまった内容をもったテキストをドイツ語で読み解く練習および、独作文の練習をしてゆきます。

〔教材〕

教科書：清野智昭他『ドイツ語の時間 読解編』朝日出版社

- (1) 柿沼使用テキスト：授業時配付プリント及びテキスト（授業時に指示）
- (2) 平井使用テキスト：清野智昭他「ドイツ語の時間 読解編」（朝日出版社）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

あらかじめ、次回の授業で扱うテキスト部分を読み、練習問題の解答を準備してきてください。

〔成績評価の方法〕

授業への積極的参加の度合いを平常点（30%）とし期末試験の成績（70%）に加味します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-------|
| 第1週 | 基礎の復習 |
| 第2週 | 〃 |
| 第3週 | 講読・練習 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | まとめ |

副題					担当者	柿沼 義孝 講師 平井 敏雄 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月火	時限	4 3

〔授業の到達目標〕

ドイツ語技能検定試験（独検）3級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕

ドイツ語応用Iと基本的には同じですが、内容的には少し高度なものを扱います。ドイツについてのアクチュアルな情報について紹介する点も同じです。柿沼の授業では、ドイツ語基礎を履修した人を対象として、文を読み、書き、聞き、話す練習をします。またドイツのさまざまな面をアクチュアルな問題も含めて紹介していきます。インターネットやDVDなどのさまざまな映像メディアを通して、現代のドイツの若者がどんな日常を送っているのか、若者言葉は？携帯は？など日本の若者と比較しつつ、グローバルな時代のドイツの生活を体験します。平井の授業では、応用Iに引き続き文法事項の学習をしながら、ある程度まとまった内容をもったテキストをドイツ語で読み解く練習および、独作文の練習をしてゆきます。

〔教材〕

教科書：清野智昭他『ドイツ語の時間 読解編』朝日出版社

- (1) 柿沼使用テキスト：授業時配付プリント及びテキスト（授業時に指示）
- (2) 平井使用テキスト：清野智昭他「ドイツ語の時間 読解編」（朝日出版）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

あらかじめ、次回の授業で扱うテキスト部分を読み、練習問題の解答を準備してきてください。

〔成績評価の方法〕

授業への積極的参加の度合いを平常点（30%）とし期末試験の成績（70%）に加味します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--------|
| 第1週 | 応用Iの復習 |
| 第2週 | 〃 |
| 第3週 | 講読・練習 |
| 第4週 | 〃 |
| 第5週 | 〃 |
| 第6週 | 〃 |
| 第7週 | 〃 |
| 第8週 | 〃 |
| 第9週 | 〃 |
| 第10週 | 〃 |
| 第11週 | 〃 |
| 第12週 | 〃 |
| 第13週 | 〃 |
| 第14週 | 〃 |
| 第15週 | まとめ |

副題	覚えた表現を使ってみよう			担当者	岡田 由美子 講師 C. カルーデイス 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木金	時限	2 4

〔授業の到達目標〕

実用的なフレーズを活かしながら、基本的な日常コミュニケーションをとることを目指します。イタリア語を楽しく学び、理解し、そして日常会話ができるようになりたいと望む学生を対象にしています。間違えることを気にせず、積極的に授業に参加しましょう。

〔授業の内容〕

日本人の若者にとってイタリアは、料理、サッカー、ファッション、芸術などを通じてとても身近です。この科目は、魅力的で人気のあるイタリアの文化を理解しながら、イタリア語を楽しく学び、日常会話ができるようになりたいと望む学生を対象としています。発音の仕方に始まり、旅行などですぐ使える実用的な会話と表現を、実際にクラスメートと会話しながら着実に学びます。ペアおよびグループワーク、スキット作りなど、学生が楽しみながら参加できる練習をたくさん行います。イタリア語での映画を見たり、イタリア語の歌を聞いたりもします。

〔教材〕

教科書：菅野ヴェロニカ『Ho capito!』（オ・カピート）白水社，2011年
岡田由美子『Facciamo esercizi!』（練習しましょう！イタリア語問題集）白水社，2004年
カルーデイス担当の会話の教材は、毎回プリントを配布します。辞書は必要を感じたら購入してください。お勧め順にあげておきます。
『ブリーモ伊和辞典 和伊付き』白水社、『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』小学館、『伊和中辞典』小学館

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習を中心に各自行ってください。特に発音は、復習しながら発音することでどんどん上達いたします。イタリア人になれるくらいに、付属のCDを何回も聞いて発音しましょう。

〔成績評価の方法〕

岡田担当の文法は、各課ごとに理解度の確認を行います。学期末テストはありません。各課ごとの理解度の確認を総合評価し、通常授業での課題提出および授業への出席等を加味して、成績とします。カルーデイス担当の会話は、毎回の授業の参加姿勢を評価して成績とします。

〔備考〕

理解度の確認は、授業計画で示されています。最初の授業で日時をお知らせいたします。岡田の授業で学期末に、授業と並行してイタリア語の映画を1本観ます。授業で習った会話をみつけましょう。

〔授 業 計 画〕

第1週	1. Pronti...? Via! アルファベット・名詞
第2週	1. Pronti...? Via! 形容詞・冠詞
第3週	1. Pronti...? Via! 主語人称代名詞・動詞
第4週	理解度の確認1 ; 2. Piacer! essere
第5週	2. Piacer! essere・再帰動詞chiamarsi
第6週	2. Piacer! 再帰動詞chiamarsi
第7週	理解度の確認2 ; 3. La famiglia avere・所有形容詞
第8週	3. La famiglia 数詞1～30
第9週	3. La famiglia 前置詞と定冠詞の結合
第10週	3. La famiglia まとめ
第11週	理解度の確認3 ; 4. La posta 不規則動詞uscire
第12週	4. La posta 不規則動詞andare venire
第13週	4. La posta 不規則動詞 まとめ
第14週	4. La posta 指示代名詞・指示形容詞
第15週	理解度の確認4 ; まとめ

『Ho capito!』の文法に合わせて『Facciamo esercizi!』を進めていきますので、必ず毎回教科書を2冊用意してきましょう。

イタリア語 基礎IB

3723011100200

副題				担当者	菅野 ヴェロニカ 講師 C. カルーデイス 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火金	時限	1 5

〔授業の到達目標〕

実用的なフレーズを活かしながら、基本的な日常コミュニケーションをとることを目指します。

イタリア語を楽しく学び、理解し、そして日常会話が出来ようになりたいと望む学生を対象としています。間違えることを気にせず、積極的な気持ちで授業に参加してください。

〔授業の内容〕

日本人の若者にとってイタリアは、料理、サッカー、ファッション、芸術などを通じてとても身近です。この科目は、魅力的で人気のあるイタリアの文化を理解しながら、イタリア語を楽しく学び、日常会話が出来ようになりたいと望む学生を対象としています。アルファベットの発音から旅行などですぐに使える実用的な会話と表現を、実際にクラスメートと会話しながら着実に学びます。ペア・グループワーク、スキット作りなど、学生が楽しみながら参加できる練習をたくさん行います。授業中映画を見たり、音楽を聴いたりします。

〔教材〕

教科書：菅野ヴェロニカ, *Ho Capito オカピト!*, 2nd Edition, 白水社, 2015

参考書：Yumiko Okada, *Facciamo esercizi!*

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習としては、教科書の2ページぐらいの語彙を前もって調べておきます。クラスで習った分をしっかりと復習や暗記をすることです。

週1時間ていどがちょうどいいです。

〔成績評価の方法〕

菅野ヴェロニカの授業は、1～2課ごとで習った表現その他の小テストと出席、宿題、授業での積極的な参加及び活動を評価します。期末試験はありません。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週 授業について

第2週 第1課

第3週 ヶ

第4週 第2課

第5週 ヶ

第6週 第3課

第7週 ヶ

第8週 映画

第9週 第4課

第10週 ヶ

第11週 第5課

第12週 ヶ

第13週 第6課

第14週 ヶ

第15週 映画

映画やイタリアの世界遺産の映像をたくさん見ます。

副 題	積極的にイタリア語で表現してみよう			担 当 者	岡田 由美子 講師 C. カルーデイス 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	木 金	時 限	2 4

〔授業の到達目標〕

基礎Iで習得した能力をアップしながら、日常的なことについてのコミュニケーションをとることを目指す。

〔授業の内容〕

基礎Iをさらに発展させた形で会話と文法を学んでいきます。昨年度の基礎Iで単位を取得した学生も履修可能です。会話はカルーデイスが担当します。文法は岡田が担当します。秋学期終了後には、ぜひイタリア語検定5級もしくは4級にチャレンジしてみましょう。

〔教材〕

教科書：菅野ヴェロニカ『Ho capito!』（オ・カピート）白水社、2011年
岡田由美子『Facciamo esercizi!』（練習しましょう！イタリア語問題集）白水社、2004年
カルーデイス担当の会話は、毎回プリントを配布します。辞書：『フリーモ伊和辞典 和伊付き』白水社、『プログレッシブ伊和・和伊辞典』小学館、『伊和中辞典』小学館

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

春学期同様に、復習を中心に、発音をしながら根気よくフレーズを覚えましょう。覚えれば覚えるほど、ふとした日本語がイタリア語になって浮かんできますよ。頑張りましょう。

〔成績評価の方法〕

岡田担当の文法は、各課ごとに理解度の確認を行います。学期末テストはありません。各課ごとの理解度の確認を総合評価し、通常授業での課題提出および授業への出席等を加味して、成績とします。カルーデイス担当の会話は、毎回の授業の参加姿勢を評価して成績とします。

〔備考〕

理解度の確認は、授業計画で示されています。最初の授業で日時をお知らせいたします。岡田の授業で学期末に、授業と並行してイタリア語の映画を観ます。習った会話をどれだけ探せるかチャレンジしましょう。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 5. Al telefono 疑問詞
- 第2週 5. Al telefono 不規則動詞stare
- 第3週 5. Al telefono 時間・月の言い方
- 第4週 理解度の確認 1 ; 6. Permesso? 不規則動詞sapere
- 第5週 6. Permesso? 不規則動詞potere
- 第6週 6. Permesso? 不規則動詞volere
- 第7週 6. Permesso? 不規則動詞dovere, まとめ
- 第8週 理解度の確認 2 ; 7. Non mi sento bene 再帰動詞
- 第9週 7. Non mi sento bene 直接・間接目的語代名詞
- 第10週 7. Non mi sento bene 曜日の言い方
- 第11週 7. Non mi sento bene まとめ
- 第12週 理解度の確認 3 ; 8. Mi piace uscire piacere
- 第13週 8. Mi piace uscire 目的語代名詞の複合形
- 第14週 8. Mi piace uscire まとめ
- 第15週 理解度の確認 4

『Ho capito!』の文法事項に合わせて『Facciamo esercizi!』を進めていきますので、必ず毎回教科書を2冊用意しましょう。

イタリア語 基礎IIB

3723011200201

副題	積極的にイタリア語で表現してみよう			担当者	菅野 ヴェロニカ 講師 C. カルーデイス 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金	時限	1 5

〔授業の到達目標〕

基礎Iで習得した能力をアップしながら、日常的なことについてのコミュニケーションをとることを目指す。

〔授業の内容〕

基礎をさらに発展させた形で会話と文法を学んでいきます。イタリア人と簡単なコミュニケーションができるようになることを目指します。ゲームやロールプレイなどに、体も動かしながら積極的に参加しましょう。テキスト付属のCDも活用します。予習と、特に復習は欠かさないようにしましょう。昨年度の基礎Iで単位を取得した学生も履修可能です。会話はカルーデイスが担当します。文法は菅野が担当します。秋学期終了後には、ぜひイタリア語検定5級にチャレンジしてみましょう。

〔教材〕

教科書：白水社『『Ho capito! (オ・カピート)』』白水社、2015年

岡田由美子『教科書：岡田由美子『Facciamo esercizi! (練習しましょう！イタリア語問題集)』、2004年』白水社、2004年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習と復習で週1時間勉強が必要です。

〔成績評価の方法〕

菅野担当の文法は、各課ごとにまとめのテキストを行います。学期末テストはありません。各課ごとのテストを総合評価し、通常授業での課題提出および授業への出席等を加味して、成績とします。カルーデイス担当の会話は、毎回の授業の参加姿勢を評価して成績とします。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	第7課
第2週	〃
第3週	第8課
第4週	〃
第5週	第9課
第6週	〃
第7週	映画
第8週	第10課
第9週	〃
第10週	第11課
第11週	〃
第12週	第12課
第13週	〃
第14週	第8課
第15週	映画

イタリア語 応用

3723021100100

副題	イタリア語基礎学力の向上			担当者	菅野 ヴェロニカ 講師 岡田 由美子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火木	時限	2 4

〔授業の到達目標〕

基礎で養った会話の力を、聞き取りに力を入れることで、磨きましょう。そして、イタリアと日本の文化の違いを考えることで、イタリアとイタリア人の明るい生き方について学びましょう。

〔授業の内容〕

岡田の授業では『Ho capito!』と『Facciamo esercizi!』を使います。初級で習った文法をさらに発展させ、会話に欠かせない聞き取りの力を向上させましょう。目標はイタリア語検定4級です。

菅野の授業では配布プリントを使用します。基礎からの発展学習として翻訳・通訳に関して学習し、イタリア関係の仕事について学びます。特に文化の違いを踏まえて、上下関係のないイタリアは何を重視するか、慣用句を学びながら楽しく考えます。

〔教材〕

教科書：菅野ヴェロニカ『Ho capito!』（オ・カピート）白水社、2011年

岡田由美子『Facciamo esercizi!』（練習しましょう！イタリア語問題集）白水社、2004年

岡田の補助教材・菅野の教材は、毎回プリントを配布します。

辞書：『ブリーモ伊和辞典 和伊付き』白水社、『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』小学館、『伊和中辞典』小学館

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習はもちろんです、やはり応用でも復習には力を入れましょう。学んだ慣用句をしっかりと身に付けると、イタリア人もびっくりするはずです。

〔成績評価の方法〕

岡田・菅野の授業とも、各課ごとの理解度の確認、課題提出、授業中の積極的な参加姿勢、で評価します。

〔備考〕

学期末にイタリア語の映画を観ます。文化の違いや習った会話を、映画を通して感じてください。

〔授 業 計 画〕

第1週	岡田：基礎イタリア語の総復習 菅野：翻訳
第2週	岡田：Lezione 9 Ho conosciuto Veronica. 菅野：よい翻訳をするには
第3週	岡田：Lezione 9 Ho conosciuto Veronica. 菅野：翻訳をするときに気をつけること
第4週	岡田：Lezione 9 Ho conosciuto Veronica. 菅野：直訳と意識
第5週	岡田：理解度の確認1 Lezione 10 Mi è piaciuto subito. 菅野：イタリア語の色々な言い回しの日本語的な言い方1
第6週	岡田：Lezione 10 Mi è piaciuto subito. 菅野：イタリア語の色々な言い回しの日本語的な言い方2
第7週	岡田：Lezione 10 Mi è piaciuto subito. まとめ 菅野：日本語の色々な言い回しのイタリア語的な言い方1
第8週	岡田：理解度の確認2 Lezione 11 Il lavoro. 菅野：日本語の色々な言い回しのイタリア語的な言い方2
第9週	岡田：Lezione 11 Il lavoro. 菅野：通訳
第10週	岡田：Lezione 11 Il lavoro. 菅野：通訳のマナー
第11週	岡田：理解度の確認3 Lezione 12 Al grande magazzino. 菅野：通訳をするときに心がけること
第12週	岡田：Lezione 12 Al grande magazzino. 菅野：イタリア人が触れたがらない話題と文化の違い
第13週	岡田：Lezione 12 Al grande magazzino. 菅野：仕事上の付き合い・セクハラなど1
第14週	岡田：Lezione 12 Al grande magazzino. まとめ 菅野：仕事上の付き合い・セクハラなど2
第15週	岡田：理解度の確認4 菅野：まとめ

『Ho capito!』の文法事項に合わせて『Facciamo esercizi!』を進めていきます。必ず毎回教科書を2冊用意しましょう。
授業には予習はもちろんです、特に復習に力を入れて学習しましょう。

イタリア語 応用II

3723021200100

副題	イタリア語基礎学力の向上			担当者	岡田 由美子 講師 菅野 ヴェロニカ 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火木	時限	2 4

〔授業の到達目標〕

実用的なフレーズを活かしながら、基本的な日常のコミュニケーションをとることを目指します。春学期で習った表現力をさらに伸ばしましょう。秋学期終了後にはぜひイタリア語検定の4級もしくは3級にチャレンジするのもいいかもしれません。

イタリア語を楽しく学び、理解し、そして日常会話ができるようになりたい学生を対象にしています。間違えることを気にせず、積極的に授業に参加しましょう。

〔授業の内容〕

日本人の若者にとってイタリアは、料理、サッカー、ファッション、芸術を通じてとても身近です。この科目は、魅力的で人気のあるイタリアの文化を理解しながら、イタリア語を楽しく学び、日常会話ができるようになりたいと望む学生を対象としています。

岡田の授業では『Ho capito!』と『Facciamo esercizi!』を使用し、基礎イタリア語で習った文法をさらに

発展させ、会話に必要な聞き取る力も養っていきます。

菅野の授業では、ペアもしくはグループワーク、スキット作りなど、楽しみながら参加して練習をしましょう。また、どちらのクラスもイタリア語での映画を見たり、イタリア語の歌を聞いたりします。

〔教材〕

教科書：菅野ヴェロニカ『Ho capito!』（オ・カピート）白水社、2011年

岡田由美子『Facciamo esercizi!』（練習しましょう！イタリア語問題集）白水社、2004年

岡田の補助教材・菅野の教材は毎回用意いたします。

辞書：『ブリーモ伊和辞典 和伊付き』白水社、『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』小学館、『伊和中辞典』小学館

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

春学期同様、予習も必要ですが、復習に力を入れましょう。習った慣用句や表現をしっかりと覚えて、聞いた日本語が自然にイタリア語になって口から出るくらい、覚えてしましましょう。

〔成績評価の方法〕

理解度の確認、授業への参加姿勢、出席で総合評価します。

〔備考〕

学期末にイタリア語の映画を観ます。イタリアの魅力をますます感じましょう。

〔授 業 計 画〕

第1週	岡田：春学期の総復習、夏休みの出来事 菅野：春学期の復習
第2週	岡田：Lezione 13 Lo sport. 菅野：ビジネス
第3週	岡田：Lezione 13 Lo sport. 菅野：履歴書の書き方
第4週	岡田：Lezione 13 Lo sport. 菅野：履歴書に添える手紙の書き方
第5週	岡田：Lezione 13 Lo sport. まとめ 菅野：まとめ
第6週	岡田：理解度の確認1 Lezione 14 Devi studiare! 菅野：企業の名称と呼び方
第7週	岡田：Lezione 14 Devi studiare! 菅野：職場での人の呼び方
第8週	岡田：lezione 14 Devi studiare! 菅野：まとめ
第9週	岡田：Lezione 14 Devi studiare! 菅野：社長、上司、同僚に出すメール
第10週	岡田：理解度の確認2 Lezione 15 Dante Alighieri 菅野：他の会社に出すメール
第11週	岡田：Lezione 15 Dante Alighieri 菅野：まとめ
第12週	岡田：Lezione 15 Dante Alighieri 菅野：上下関係と男女の社内役割
第13週	岡田：Lezione 15 Dante Alighieri 菅野：仕事上の付き合い、セクハラ、等
第14週	岡田：Lezione 15 Dante Alighieri 菅野：グリーティングカード、お礼の手紙、感謝の手紙
第15週	岡田：理解度の確認3 総まとめ 菅野：まとめ

岡田の授業は目標としてイタリア語検定4級を目指しています。『Ho capito!』の文法事項に合わせて『Facciamo esercizi!』を進めていきますので、教科書を毎回必ず2冊用意しましょう。菅野の授業はより具体的なイタリア語を使う場面での実践を目指しています。積極的に参加しましょう。

副 題	さあ、スペイン語を始めよう！			担 当 者	木下 雅夫 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	月 木	時 限	2 1

〔授業の到達目標〕

春学期の目標は、直説法現在形の基本的用法を身につけることです。

〔授業の内容〕

スペイン語は世界の4億人が使う言葉です。この授業では、教科書『改訂版・多国籍スペイン語入門』を用いて、スペイン語の「読み」「書き」「話す」ことを学びます。教科書は、スペイン語圏でよく使われる会話表現を軸に、文法と聴解を含む演習問題で構成されています。教科書ではスペイン語圏で使われる表現を幅広く取り上げているので、これらを通じてスペイン語圏の文化・社会への理解を深めることができます。また補助プリントも配布するので、教科書各単元の重要表現を覚えたら、もう一歩深めた表現を学びましょう。授業に積極的に参加し、自宅では教科書添付のCDを用いて音読練習を繰り返して下さい。単語の意味と活用を覚えましょう。語学習得の早さには個人差がありますが、こつこつ続けることが大事です。少しでもやっけて諦めてしまうのではなく、秋学期も続けて学ぶつもりで選択して下さい。

〔教材〕

教科書：小池和良『改訂版・多国籍スペイン語入門』初版，同学社，2010年

参考書：高垣敏博『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』初版，小学館，2003年

寺崎英樹他『デイリーコンサイス西和・和西辞典』初版，三省堂，2010年

<辞書について>『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』と『デイリーコンサイス西和・和西辞典』は、携帯型の辞書でも語彙数がある程度豊富なことが特長で、日本語訳・西語訳の両方に使えて便利です。辞書は上記のもの以外のものでも構いませんが、白水社『パスポート』などの初級専用辞書や旅行用ポケット版辞書は避けて下さい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として、各単元の新出単語を調べ、本文訳を提出して貰います。各単元を終えたら、確認テストを行いますので、基本表現を中心に復習して下さい。

〔成績評価の方法〕

中間テスト・期末テストおよび平常点を総合的に評価します。平常点は、課題提出、確認テストなどにより算出します。

〔備考〕

しっかり音読しよう！

〔授 業 計 画〕

- 第1週 スペイン語をどう学ぶか？，文字の読み方。
- 第2週 基数，曜日，主格人称代名詞。
- 第3週 名詞の性・数，形容詞，冠詞，動詞serの直説法現在。
- 第4週 動詞estarの直説法現在，所有形容詞(前置形),serとestarの違い。
- 第5週 動詞hayとestarの違い，前置詞，前置詞と冠詞の組み合わせ。
- 第6週 直説法現在(規則形)，疑問文，否定文，否定疑問文。
- 第7週 理解度の確認（1）
- 第8週 所有形容詞(後置形)，指示形容詞，指示代名詞，中性指示代名詞。
- 第9週 直説法現在(1人称のみが不規則),haberとconocerの違い，天候の表現。
- 第10週 語幹母音変化動詞とその用法，関係詞。
- 第11週 直説法現在(1人称単数が不規則で語幹母音の変化する動詞の用法)とその用法。
- 第12週 目的格人称代名詞。
- 第13週 gustar型動詞。
- 第14週 点過去規則活用。
- 第15週 理解度の確認（2）

授業計画は、受講者の習熟状況に応じて変更します。

副題	スペイン語を続けよう！			担当者	木下 雅夫 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月 木	時限	2 1

〔授業の到達目標〕

秋学期の目標は、直説法現在形に加えて、過去形・未来形・過去未来形を習得することです。

〔授業の内容〕

スペイン語は世界4億人が使う言葉です。この授業では、教科書『改訂版・多国籍スペイン語入門』を用いて、スペイン語の「読み」「書き」「話す」ことを学びます。教科書は、スペイン語圏でよく使われる会話表現を軸に、文法と聴解を含む演習問題で構成されています。教科書ではスペイン語圏で使われる表現を幅広く取り上げているので、これらを通じてスペイン語圏の文化・社会への理解を深めることができます。また補助プリントも配布します。教科書の各単元の重要表現を覚え、さらに一歩深めた表現を学びましょう。授業に積極的に参加し、自宅では教科書添付のCDを用いて音読を繰り返してください。単語の意味と活用を覚えましょう。語学習得の早さには個人差がありますが、諦めずに反復練習を続けよう。

〔教材〕

教科書：小池和良『改訂版・多国籍スペイン語入門』初版，同学社，2010年
 参考書：高垣敏博『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』初版，小学館，2003年
 寺崎英樹他『デイリーコンサイス西和・和西辞典』第2版，三省堂，2010年
 <辞書について>『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』と『デイリーコンサイス西和・和西辞典』は、携帯型の辞書でも語彙数がある程度豊富であるという特長を持っています。辞書は上記のもの以外のものでも構いませんが、白水社『パスポート』などの初級専用辞書や旅行用ポケット版辞書は避けて下さい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として、各単元の新出単語を調べ、本文訳を提出して貰います。各単元が終わったら確認テストをするので、基本表現を中心に復習してください。

〔成績評価の方法〕

中間テスト・期末テストおよび平常点を総合的に評価します。平常点は、課題提出、授業中に行う確認テストなどにより算出します。

〔備考〕

声を出して読もう！

〔授 業 計 画〕

- 第1週 点過去(完了過去)不規則活用動詞とその用法
- 第2週 線過去(不完了過去), 線過去と点過去の違い
- 第3週 再帰動詞とその用法
- 第4週 現在分詞とその用法
- 第5週 使役・放任の動詞とその用法
- 第6週 未来形とその用法
- 第7週 理解度の確認(1)
- 第8週 過去未来形とその用法
- 第9週 過去分詞と現在完了形
- 第10週 過去完了形とその用法
- 第11週 接続法現在形とその用法(1)
- 第12週 接続法現在形とその用法(2)
- 第13週 命令形とその用法
- 第14週 接続法過去形とその用法
- 第15週 理解度の確認(2)

授業計画は、受講者の習熟状況に応じて変更します。

副 題	スペイン語でコミュニケーションしましょう！			担 当 者	木下 雅夫 講師		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	月 木	時 限	1 2

〔授業の到達目標〕

春学期の目標は、基礎で学んだ文法を生かして、会話、作文などの表現力を磨くことです。

〔授業の内容〕

春学期の授業は、基礎1・2で習得したスペイン語を基礎として、スペイン語での「読み」「書き」「聞く」「話す」力を伸ばして行きます。基礎クラスの終了から1年以上空いた人でも安心して参加できます。演習教材『アンバルースペイン語講座』を用いて、単語力と表現力の習得を図ります。また適宜、スペイン語圏の民話の翻訳やDELE(スペイン政府公認の検定試験)の問題などにもチャレンジしていきます。

〔教材〕

教科書：モヤノ＝ロペス、高松他『アンバルースペイン語講座』第2版、弘学社、2010年
スペイン語辞書が必要であるので、必ず持参すること。

教科書『アンバルースペイン語講座』は、初級の内容を復習しながら、スペイン語の実践的表現力向上に役立つように構成されています。基礎事項の再確認もしていきましょう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『アンバル』で用いられるスペイン語表現の文法は、基礎クラスで理解しているものとして授業を進めます。各単元の文法内容に疑問があれば、別添「学生ノート」で予習をしてください。

〔成績評価の方法〕

期末試験と平常点を総合的に判断して評価します。平常点は、単元毎の確認テスト、課題の消化、授業参加の積極性で評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 自己紹介と相手の属性を訪ねる表現演習
- 第2週 自分の家族を紹介する表現演習
- 第3週 人の特徴を描写する表現演習
- 第4週 人の状態を訪ね、自分の状態を描写する表現演習-1
- 第5週 人の状態を訪ね、自分の状態を描写する表現演習-2
- 第6週 時間に関する表現演習
- 第7週 日時に関する表現演習
- 第8週 所在に関する表現演習-1
- 第9週 所在に関する表現演習-2
- 第10週 大学生活に関する表現演習
- 第11週 余暇活動に関する表現演習
- 第12週 休暇に関する表現演習
- 第13週 今やっていることに関する表現演習-1
- 第14週 今やっていることに関する表現演習-2
- 第15週 理解度の確認

受講者には、DELEやスペイン語技能検定(6月と10月に実施)の受験を勧めます。また授業では教科書の単元毎に確認テストを行います。

副 題	スペイン語でコミュニケーションしましょう！			担 当 者	木下 雅夫 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月 木	時 限	1 2

〔授業の到達目標〕

秋学期の目標は、春学期に続いて基礎の学習内容をもとに、スペイン語表現力に磨きをかけると同時に、語彙力と読解力を向上させることです。

〔授業の内容〕

秋学期の授業は、応用1に続いて、教科書『アンバル—スペイン語講座』を用いて、スペイン語での「読み」「書き」「聞く」「話す」力を伸ばす演習を行います。応用1の終了から1年以上空いた人でも安心して参加できます。また、DELE(スペイン政府公認の検定試験)問題やスペイン語圏の民話を用いて演習を行います。

〔教材〕

教科書：モヤノ＝ロペス，高松他『アンバル—スペイン語講座』第2版，弘学社，2010年
スペイン語辞書が必要であるので，必ず持参すること。

教科書『アンバル—スペイン語講座』は，初級の内容を復習しながら，スペイン語の実践的表現力向上に役立つように構成されています。基礎事項の再確認もしていきましょう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『アンバル』で用いられる表現の文法事項は理解しているものとして授業を進めます。各単元の表現で用いられる文法に疑問点について，付属の「学生ノート」を用いて予習してください。

〔成績評価の方法〕

期末試験と平常点を総合的に判断して評価します。平常点は，単元毎の確認テスト，課題の消化，授業参加の積極性で評価します。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 意志，これからやろうとすることを述べる表現演習
- 第2週 天候に関する表現演習
- 第3週 希望を述べる表現演習
- 第4週 許可に関する表現演習
- 第5週 交通手段に関する表現演習
- 第6週 生活習慣に関する表現演習
- 第7週 自分の嗜好に関する表現演習
- 第8週 痛みに関する表現演習
- 第9週 完了した動作に関する表現演習
- 第10週 経験の有無に関する表現演習
- 第11週 完了が意識される過去に関する表現演習-1
- 第12週 完了が意識される過去に関する表現演習-2
- 第13週 不完了が意識される過去に関する表現演習
- 第14週 未来の事柄に関する表現演習
- 第15週 理解度の確認

受講者には，DELEやスペイン語技能検定(6月と10月に実施)の受験を勧めます。また授業では教科書の単元毎に確認テストを行います。

副題					担当者	松本 秀士 講師 朴 敬玉 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月金	時限	4 3

〔授業の到達目標〕

現在、日中両国間で、社会経済面での緊密な交流が加速している。本講義では、13億を超える中国人と華僑が使用する中国語を学び、国際交流への理解を深めることを第一目標とする。

〔授業の内容〕

現在、日中両国間で、社会経済面での緊密な交流が加速している。本講義では、13億を超える中国人と華僑が使用する中国語を学び、国際交流への理解を深めることを目的とする。語学の4技能は、聞く、話す、読む、書くことである。特に実践の場では、相手の話す内容を理解して、返事をするのが求められる。したがって本講義では、読み書きに加え、聞く力と話す力をバランス良く伸ばすことを第一目標とする。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・富田昇『中国語初級テキスト 飛天』白帝社、2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

〔予習〕 新出単語・本文・例文に振られたピンインに従って、音読練習をするとともに、意味を調べる。

〔復習〕 音読・置き換え練習等をしながら、新出単語・文型を定着させる。

〔成績評価の方法〕

出席状況（最低3分の2以上、3分の1以上の欠席は不可）10%と、平常点（小テストや授業態度）20%、期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 発音（声調、母音子音・鼻母音、そり舌母音）
- 第2週 発音（音節、数字と挨拶、発音の復習テスト、課堂用語）
- 第3週 自己紹介（人称代名詞、指示代名詞1、動詞“是”、“的”、姓・氏名）
- 第4週 家族紹介（動詞“有”、“ma”疑問文、副詞“不・也・都”、年齢の聞き方）
- 第5週 復習
- 第6週 存在・位置（1）（指示代名詞・場所、動詞“在”、名詞の場所化“～上”・“～里”）
- 第7週 存在・位置（2）（反復疑問文、量詞、“二”と“liang”、“几”と“多少”）
- 第8週 復習
- 第9週 日常の挨拶（形容詞述語文、形容詞＋名詞、“有点er”＋形容詞、“又～又”）
- 第10週 比較（指示代名詞2、選択疑問文、比較の表現）
- 第11週 復習
- 第12週 時の表現（名詞述語文、動詞述語文、連動文1、“bian～bian”）
- 第13週 動作の描写（進行の副詞“在”、程度補語、持続の助詞“着”、動詞フレーズ＋名詞）
- 第14週 復習
- 第15週 まとめ

副題					担当者	金野 純	准教授
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火水	時限	4 3

〔授業の到達目標〕

中国語の基礎的知識を習得する。最終的に中国語検定3級から4級の水準に達することを目標とする。

〔授業の内容〕

現在、日中両国間で、社会経済面での緊密な交流が加速している。本講義では、13億を超える中国人と華僑が使用する中国語を学び、国際交流への理解を深めることを目的とする。語学の4技能は、聞く、話す、読む、書くことである。特に実践の場では、相手の話す内容を理解して、返事をする事が求められる。したがって本講義では、読み書きに加え、聞く力と話す力をバランス良く伸ばすことを第一目標とする。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・富田昇『中国語初級テキスト 飛天』白帝社、2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを事前に読み、新出単語を暗記しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況（最低3分の2以上、3分の1以上の欠席は不可）10%と、平常点（小テストや授業態度）20%、期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 発音（声調，母音子音・鼻母音，そり舌母音）
- 第2週 発音（音節，数字と挨拶，発音の復習テスト，課堂用語）
- 第3週 自己紹介（人称代名詞，指示代名詞1，動詞“是”，“的”，姓・氏名）
- 第4週 家族紹介（動詞“有”，“ma”疑問文，副詞“不・也・都”，年齢の聞き方）
- 第5週 復習
- 第6週 存在・位置（1）（指示代名詞・場所，動詞“在”，名詞の場所化“～上”・“～里”）
- 第7週 存在・位置（2）（反復疑問文，量詞，“二”と“liang”，“几”と“多少”）
- 第8週 復習
- 第9週 日常の挨拶（形容詞述語文，形容詞＋名詞，“有点er”＋形容詞，“又～又”）
- 第10週 比較（指示代名詞2，選択疑問文，比較の表現）
- 第11週 復習
- 第12週 時の表現（名詞述語文，動詞述語文，連動文1，“bian～bian”）
- 第13週 動作の描写（進行の副詞“在”，程度補語，持続の助詞“着”，動詞フレーズ＋名詞）
- 第14週 復習
- 第15週 まとめ

副題					担当者	松本 秀士 講師 朴 敬玉 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	月 金	時限	3 4

〔授業の到達目標〕

中国語の基礎的知識の習得を目指す。最終的に中国語検定4級の水準に達することを目標とする。

〔授業の内容〕

日中二つの社会が今後ますます緊密の度を深めることは、地理的な関係を考えても疑いない。本講義では、中国人と華僑が使用する中国語を学ぶと共に、それを通して異なる考え方・文化を理解する手掛かりを得ることを目的とする。語学の4技能は、聞く、話す、読む、書くことである。特に実践の場では、相手の話す内容を理解し、それにいかに応答するかが鍵となる。本講義では、読み書きに加え、聞く力と話す力をバランス良く伸ばすことを目指したい。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・富田昇『中国語初級テキスト 飛天』白帝社、2011年

語学の勉強は、単に言葉を学ぶことにとどまるものではない。語学は、その言葉を使う人々・文化を理解する手掛かりであり、また学習者の視野を広げる契機にもなる。継続して中国語の学習を考えている方は、是非中日辞典（小学館・講談社程度のもの）を座右に用意しておくとうまいだろう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

〔予習〕 新出単語・本文・例文に振られたピンインに従って、音読練習をするとともに、意味を調べる。

〔復習〕 音読・置き換え練習等しながら、新出単語・文型を定着させる。

〔成績評価の方法〕

出席状況（最低3分の2以上、3分の1以上の欠席は不可）10%と、平常点（小テストや授業態度）20%、期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔備考〕

特に出席の中身（主体的な授業参加）を重視したい。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--|
| 第1週 | 発音（声調、母音子音・鼻母音、そり舌母音） |
| 第2週 | 発音（音節、数字と挨拶、発音の復習テスト、課堂用語） |
| 第3週 | 自己紹介（人称代名詞、指示代名詞1、動詞“是”、“的”、姓・氏名） |
| 第4週 | 家族紹介（動詞“有”、“ma”疑問文、副詞“不・也・都”、年齢の聞き方） |
| 第5週 | 復習 |
| 第6週 | 存在・位置（1）（指示代名詞・場所、動詞“在”、名詞の場所化“～上”・“～里”） |
| 第7週 | 存在・位置（2）（反復疑問文、量詞、“二”と“liang”、“几”と“多少”） |
| 第8週 | 復習 |
| 第9週 | 日常の挨拶（形容詞述語文、形容詞+名詞、“有点er”+形容詞、“又～又”） |
| 第10週 | 比較（指示代名詞2、選択疑問文、比較の表現） |
| 第11週 | 復習 |
| 第12週 | 時の表現（名詞述語文、動詞述語文、連動文1、“bian～bian”） |
| 第13週 | 動作の描写（進行の副詞“在”、程度補語、持続の助詞“着”、動詞フレーズ+名詞） |
| 第14週 | 復習 |
| 第15週 | まとめ |

副題					担当者	松本 秀士 講師 朴 敬玉 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月 金	時限	4 3

〔授業の到達目標〕

現在、日中両国間で、社会経済面での緊密な交流が加速している。本講義では、13億を超える中国人と華僑が使用する中国語を学び、国際交流への理解を深めることを第一目標とする。そして、最終的に中国語検定試験で4級から3級程度のレベルに到達したい。

〔授業の内容〕

語学の4技能は、聞く、話す、読む、書くことである。特に実践の場では、相手の話す内容を理解して、返事をするのが求められる。したがって本講義では、読み書きに加え、聞く力と話す力をバランス良く伸ばすために、教科書の各課に沿って練習しながら、初級レベルの中国語の語彙・文法をマスターする。春学期に続いて、総合的なコミュニケーション能力の獲得を目指す。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・富田昇『中国語初級テキスト 飛天』白帝社、2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

〔予習〕 新出単語・本文・例文に振られたピンインに従って、音読練習をするとともに、意味を調べる。

〔復習〕 音読・置き換え練習等をしてしながら、新出単語・文型を定着させる。

〔成績評価の方法〕

出席状況（最低3分の2以上、3分の1以上の欠席は不可となる）10%と、平常点（小テストや授業態度）20%、期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 発音・文法基礎事項の総確認
- 第2週 希望・願望・可能（“打算”と“想”，ふたつの“会”，“能”，“可以”）
- 第3週 時の経過（ふたつの“了”，時量，二重目的語，“ne”疑問文）
- 第4週 復習
- 第5週 経験（経験をあらわす“guo”，“是～的”の文，前置詞“在”，連動文2）
- 第6週 動作の限定・前置詞（前置詞，動詞の重ね型，“sui然～但是”，“ba”）
- 第7週 復習
- 第8週 動作の結果と可能性（結果補語，可能補語，“越～越”）
- 第9週 使役・受け身の表現（指示代名詞，使役文，受け身文，形容詞＋動詞）
- 第10週 復習
- 第11週 動作の方向性（方向補語，処置文，存現文，“一”＋動詞，“因wei～所以”）
- 第12週 “要”，“来”，“一点er”，お金の単位
- 第13週 復習
- 第14週 まとめ
- 第15週 映画鑑賞

副題				担当者	金野 純 准教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火水	時限	4 3

〔授業の到達目標〕

最終的には中国語検定試験で3級から4級程度のレベルに達することを目標とする。

〔授業の内容〕

初級レベルの中国語の語彙・文法をマスターした上で、春学期に学んだ内容を応用できるように練習し、簡単なコミュニケーション能力の獲得を目指す。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・富田昇『中国語初級テキスト 飛天』白帝社，2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前にテキストを読み、新出単語を記憶しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況（最低3分の2以上，3分の1以上の欠席は不可となる）10%と，平常点（小テストや授業態度）20%，期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 発音・文法基礎事項の総確認
- 第2週 希望・願望・可能（“打算”と“想”，ふたつの“会”，“能”，“可以”）
- 第3週 時の経過（ふたつの“了”，時量，二重目的語，“ne”疑問文）
- 第4週 復習
- 第5週 経験（経験をあらわす“guo”，“是～的”の文，前置詞“在”，連動文2）
- 第6週 動作の限定・前置詞（前置詞，動詞の重ね型，“sui然～但是”，“ba”）
- 第7週 復習
- 第8週 動作の結果と可能性（結果補語，可能補語，“越～越”）
- 第9週 使役・受け身の表現（指示代名詞，使役文，受け身文，形容詞+動詞）
- 第10週 復習
- 第11週 動作の方向性（方向補語，処置文，存現文，“一”+動詞，“因wei～所以”）
- 第12週 レストランにて（“一点er”，お金の単位）
- 第13週 復習
- 第14週 まとめ
- 第15週 映画鑑賞と概略的な内容理解の練習

副題					担当者	松本 秀士 講師 朴 敬玉 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月 金	時限	3 4

〔授業の到達目標〕

最終的には中国語検定試験で4級から3級程度のレベルに達することを目標とする。

〔授業の内容〕

日中二つの社会が今後ますます緊密の度を深めることは、地理的な関係を考えても疑いない。本講義では、中国人と華僑が使用する中国語を学ぶと共に、それを通して異なる考え方・文化を理解する手掛かりを得ることを目的とする。初級レベルの中国語の語彙・文法をマスターした上で、春学期に学んだ内容を応用できるように練習し、簡単なコミュニケーション能力の獲得を目指す。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・富田昇『中国語初級テキスト 飛天』白帝社、2011年

語学の勉強は、単に言葉を学ぶことにとどまるものではない。語学は、その言葉を使う人々・文化を理解する手掛かりであり、また学習者の視野を広げる契機にもなる。継続して中国語の学習を考えている方は、是非中日辞典（小学館・講談社程度のもの）を座右に用意しておくといえよう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

〔予習〕 新出単語・本文・例文に振られたピンインに従って、音読練習をするとともに、意味を調べる。

〔復習〕 音読・置き換え練習等をしながら、新出単語・文型を定着させる。

〔成績評価の方法〕

出席状況（最低3分の2以上、3分の1以上の欠席は不可となる）10%と、平常点（小テストや授業態度）20%、期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔備考〕

特に出席の中身（主体的な授業参加）を重視したい。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1週 | 発音・文法基礎事項の総確認 |
| 第2週 | 希望・願望・可能（“打算”と“想”，ふたつの“会”，“能”，“可以”） |
| 第3週 | 時の経過（ふたつの“了”，時量，二重目的語，“ne”疑問文） |
| 第4週 | 復習 |
| 第5週 | 経験（経験をあらわす“guo”，“是～的”の文，前置詞“在”，連動文2） |
| 第6週 | 動作の限定・前置詞（前置詞，動詞の重ね型，“sui然～但是”，“ba”） |
| 第7週 | 復習 |
| 第8週 | 動作の結果と可能性（結果補語，可能補語，“越～越”） |
| 第9週 | 使役・受け身の表現（指示代名詞，使役文，受け身文，形容詞＋動詞） |
| 第10週 | 復習 |
| 第11週 | 動作の方向性（方向補語，処置文，存現文，“一”＋動詞，“因wei～所以”） |
| 第12週 | “要”，“来”，“一点er”，お金の単位 |
| 第13週 | 復習 |
| 第14週 | まとめ |
| 第15週 | 映画鑑賞 |

副題	基礎中国語からさらなる一步			担当者	斉霞 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水金	時限	3 2

〔授業の到達目標〕

続けて発音の向上をはかります。基本的な文法事項を更に習熟し、簡単な日常会話ができ、ある程度聞き取れ、中級への橋渡しになること。

〔授業の内容〕

中国語基礎で中国語の発音と基本的な文法を習得した学生を対象とする授業です。発音を重視しますので、音読練習をたくさん行う予定です。さらに一年に習った内容を踏まえて、主に基礎文型の中の「各種の補語」「把構文」「複文」部分を習得できるよう重点的に勉強します。使用教科書は『実用中国語十課2』です。

〔教材〕

教科書：劉愛莉等『実用中国語十課2』白帝社、2008年
辞書が必須なので各自ご用意ください（斉霞）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎日三十分添付CDで聞いたり、単語を暗唱したり、声を出して読む練習をしたりしてください。そのうち中国語のリズム感がつかめるようになります。

〔成績評価の方法〕

単語テストを含めた小テストや授業中の発表および期末試験を総合して評価する。出席必須、遅刻三回で欠席一回、欠席回数に応じて最終評価が減点される。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	第一課	単語, 本文, 会話, 応用文型, 文法, 練習問題
第2週	第二課	単語テスト, 会話暗唱 単語, 本文, 会話, 応用文型, 文法, 練習問題
第3週	第三課	単語テスト, 会話暗唱 単語, 本文, 会話, 応用文型, 文法, 練習問題
第4週	復習テスト	
第5週	第四課	単語, 本文, 会話, 応用文型, 文法, 練習問題
第6週	第五課	単語テスト, 会話暗唱 単語, 本文, 会話, 応用文型, 文法, 練習問題
第7週	復習テスト	文章読解
第8週	第六課	単語, 本文, 会話, 応用文型, 文法, 練習問題
第9週	第七課	単語テスト, 会話暗唱 単語, 本文, 会話, 応用文型, 文法, 練習問題
第10週	復習テスト	
第11週	第八課	単語, 本文, 会話, 応用文型, 文法, 練習問題
第12週	第九課	単語テスト, 会話暗唱 単語, 本文, 会話, 応用文型, 文法, 練習問題
第13週	第十課	単語テスト, 会話暗唱 単語, 本文, 会話, 応用文型, 文法, 練習問題
第14週	復習テスト	文章読解
第15週	インタネット	で中国語 理解度の確認
平常点	として各課の単語テストと会話の暗唱を課すので、事前に予習が必要です。	

副題	リスニング中国語			担当者	斉霞 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水金	時限	3 2

〔授業の到達目標〕

聞く、話す力をさらに伸ばし、中検三級レベルを目指します

〔授業の内容〕

この授業は中国語の発音と基礎文法を習得し、さらに聞く力を高めようとする学生を対象とする。

使用する教科書は中検三級から二級までのリスニング問題に相当するレベルのものである。その教科書は中国人の日常生活から社会や中国事情まで幅広い話題を取り上げており、リスニングの力を上げると同時に現在の中国への理解を深めることもできる。

進め方としては毎回授業の前に学生は各自にまえもって音声CDで予習し、授業では聴き取りの練習を行う。そして読む練習のあと、取り上げた話題について質問をし、応用会話をする。こういった練習を通じて確実にリスニングの力を高めることを目指す。辞書を必ず用意してください。

〔教材〕

教科書：斉霞『耳が喜ぶ中国語』三修社、2010年

中日辞典が必須。電子辞書にはほとんど小学館の中日辞典を搭載しているので、一番のオススメです。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

一日三十分程度予習をしてください。単語の暗唱をして、または配布の本文内容のピンインプリントを声を出して読んでください。熟読しておけば、先生の質問を聞いてわかるようになります。

〔成績評価の方法〕

小テストと期末試験の結果にもとづき総合的に評価する

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	STEP 1	1 自己紹介	2 中国人の名前
第2週	STEP 1	3 私の休日	4 手製の贈り物
第3週	STEP 1	5 私の父親	6 私の生活
第4週	STEP 1	8 中日の漢字の意味の違い	
第5週	STEP 1	9 物価指数が最も高い都市—東京	
第6週	STEP 1	11北京交通マルチカード	13「80後」世代の消費志向
第7週	STEP 1	14若者のボランティア活動	15規則正しい社会
第8週	STEP 1	18結婚相手募集広告	20縁起の良い言葉
第9週	STEP 1	22理想的な地下鉄車内環境	23お年玉
第10週	STEP 1	26「蟻族」	29大学生のロマンスに誰がお金を払うのか
第11週	STEP 1	31「立春に春餅を食べる」	34お茶やタバコで客をもてなす
第12週	STEP 1	37ブログとミニブログ	38簡易録音スタジオ
第13週	STEP 1	39外国人の目から見た北京	40呼称
第14週	STEP 1	45私の学生時代の友達	46「女子大生の日」
第15週	STEP 1	47上海のおやつ	49あるキャリアウーマンの一日

毎回単語の小テストを行います。隣同士相談可です。一回短文ひとつ進める予定ですが、進み具合により変更も可能です。後半に本文の書き取り練習を取り入れることもあります。

学期の中間ぐらいに中国語検定四級と三級の過去問を一回ずつやって、説明をします。中国語検定にも挑戦してみてください。

副 題	楽しく学ぶ韓国語会話			担 当 者	羅 京 准 申 洙 洙 教授 英 秀 講師		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	火 金	時 限	3 3

〔授業の到達目標〕

初めて韓国語及びハングル文字に接する学生を対象に基礎的な事項を習得することを目標とする。ハングルの原理を理解し、正確な発音を身につけるようにする。

〔授業の内容〕

日本語との比較ということを念頭において、次の2点を具体的な授業内容としたい。週の2回の授業は別々の内容を行う。1日目は韓国語の文字・発音に慣れる練習を行う。慣用的な表現を実際に発音することで、ハングルの特性を学習する。本授業では文法はそれほど意識せず、積極的に発音して感性を掴んでもらう学習を行う。2日目は、韓国語の基本的な文法と文章構造を学習する。また本授業では、PCを使用してフレーズの学習や文字入力の実習も行う。なお、各時間最低限の慣用的なフレーズや単語を学習するため、是非覚えてもらいたい。また、言語は常に文化的背景を持つものであるため、そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館，1992年
テキストについては、初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストをあらかじめ読んだ上で、毎回の授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

出席・授業態度（30%）、課題（15%）、小テスト（15%）、期末試験（40%）で評価する。

〔備考〕

授業内容について質問などがある場合には、金曜日のオフィス・アワー（14：00～17：00）に研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

第1週	(1) 発音としくみ, (2) ハングルの歴史的背景 ※ (1)は1日目, (2)は2日目 (以下同様)
第2週	(1) あいさつの表現, (2) 文字の構成 (母音・子音)
第3週	(1) 程度の表現, (2) 末音・連音現象
第4週	(1) 状態の表現, (2) 子音同化・濃音化現象
第5週	(1) 目的の表現, (2) 末音と子音の同化
第6週	(1) 言い回しの表現, (2) 復習 (文字と発音)
第7週	韓国の文化 (1)
第8週	(1) 個人に関わる表現, (2) 平叙文と尊敬表現
第9週	(1) 数に関わる表現, (2) 疑問形・否定文
第10週	(1) 道具・身体・食事の表現, (2) 用言の一般形と末音変則形
第11週	(1) 交通・地理の表現, (2) 用言の冠形詞形
第12週	(1) 天候・自然の表現, (2) 用言の時制と母音調和
第13週	(1) 学問・思考の表現, (2) 用言の禁止表現と勧誘形
第14週	(1) 芸術・社会・趣味の表現, (2) 復習 (用言の活用)
第15週	韓国の文化 (2)

副題	楽しく学ぶ韓国語会話			担当者	羅京洙 申英秀	准教授 講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木金	時限	3 4

〔授業の到達目標〕

初めて韓国語及びハングル文字に接する学生を対象に基礎的な事項を習得することを目標とする。ハングルの原理を理解し、正確な発音を身につけるようにする。

〔授業の内容〕

日本語との比較ということを念頭において、次の2点を具体的な授業内容としたい。週の2回の授業は別々の内容を行う。1日目は韓国語の文字・発音に慣れる練習を行う。慣用的な表現を実際に発音することで、ハングルの特性を学習する。本授業では文法はそれほど意識せず、積極的に発音して感性を掴んでもらう学習を行う。2日目は、韓国語の基本的な文法と文章構造を学習する。また本授業では、PCを使用してフレーズの学習や文字入力の実習も行う。なお、各時間最低限の慣用的なフレーズや単語を学習するため、是非覚えてもらいたい。また、言語は常に文化的背景を持つものであるため、そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館、1992年
テキストについては、初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストをあらかじめ読んだ上で、毎回の授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

出席・授業態度（30%）、課題（15%）、小テスト（15%）、期末試験（40%）で評価する。

〔備考〕

授業内容について質問などがある場合には、金曜日のオフィス・アワー（14：00～17：00）に研究室まで来ること。

（共通科目）
（外国語）

〔授業計画〕

- 第1週 (1) 発音としくみ, (2) ハングルの歴史的背景 ※ (1) は1日目, (2) は2日目 (以下同様)
- 第2週 (1) あいさつの表現, (2) 文字の構成 (母音・子音)
- 第3週 (1) 程度の表現, (2) 末音・連音現象
- 第4週 (1) 状態の表現, (2) 子音同化・濃音化現象
- 第5週 (1) 目的の表現, (2) 末音と子音の同化
- 第6週 (1) 言い回しの表現, (2) 復習 (文字と発音)
- 第7週 韓国の文化 (1)
- 第8週 (1) 個人に関わる表現, (2) 平叙文と尊敬表現
- 第9週 (1) 数に関わる表現, (2) 疑問形・否定文
- 第10週 (1) 道具・身体・食事の表現, (2) 用言の一般形と末音変則形
- 第11週 (1) 交通・地理の表現, (2) 用言の冠形詞形
- 第12週 (1) 天候・自然の表現, (2) 用言の時制と母音調和
- 第13週 (1) 学問・思考の表現, (2) 用言の禁止表現と勧誘形
- 第14週 (1) 芸術・社会・趣味の表現, (2) 復習 (用言の活用)
- 第15週 韓国の文化 (2)

副題	楽しく学ぶ韓国語会話			担当者	羅 京 准教授 申 英 秀 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火金 時限	3 3

〔授業の到達目標〕

韓国語基礎Iを終了した者を対象とし、韓国語の会話と簡単な文章構造を組み立てて使用する能力を養うことを目標とする。

〔授業の内容〕

前期と同様に週二日の授業は個別に展開するが、両者が融合される内容を目指す。第1日目に、簡単な日常会話を行える能力を養うことを目標とする。実際の会話の場に直面すると、理解しているはずの文章が使用できないケースが多い。したがって、韓国語会話の慣用表現に多く接して、そこから発展させる能力を身につける。併せて発音上の問題も習得する。第2日目には、文章読解能力を高める学習を行う。実際に、朝鮮半島で通用している文章は、ハンゲルのみの文章が多い。そこで、文章構造を正しく理解して読解する能力が求められる。用言の活用語尾や不規則変化など、文法上の問題をテキストを中心に学習する。なお、前期と同様にPCの入力を通じて韓国語の構造を理解する機会も設ける。また、言語は常に文化的背景を持つものであるため、そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館，1992年
テキストについては、初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストをあらかじめ読んだ上で、毎回の授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

出席・授業態度（30%）、課題（15%）、小テスト（15%）、期末試験（40%）で評価する。

〔備考〕

授業内容について質問などがある場合には、金曜日のオフィス・アワー（14：00～17：00）に研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 (1) あいさつの表現, (2) 用言の補助語幹
- 第2週 (1) 程度の表現, (2) 用言の補助語幹
- 第3週 (1) 状態の表現, (2) 副詞的表現
- 第4週 (1) 目的の表現, (2) 副詞的表現
- 第5週 韓国の文化 (3)
- 第6週 (1) 言い回しの表現, (2) 副詞的表現
- 第7週 (1) 個人に関わる表現, (2) 用言の活用語尾変化
- 第8週 (1) 数に関わる表現, (2) 用言の活用語尾変化
- 第9週 (1) 道具・身体・食事, (2) 接続語尾
- 第10週 韓国の文化 (4)
- 第11週 (1) 交通・地理の表現, (2) 接続語尾
- 第12週 (1) 天候・自然の表現, (2) 一般慣用表現
- 第13週 (1) 学問・思考の表現, (2) 一般慣用表現
- 第14週 (1) 芸術・社会・趣味の表現, (2) まとめ
- 第15週 韓国の文化 (5)

副題	楽しく学ぶ韓国語会話			担当者	羅京洙 申英秀	准教授 講師
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木金	時限 3 4

〔授業の到達目標〕

韓国語基礎 I を終了した者を対象とし、韓国語の会話と簡単な文章構造を組み立てて使用する能力を養うことを目標とする。

〔授業の内容〕

前期と同様に週二日の授業は個別に展開するが、両者が融合される内容を目指す。第 1 日目に、簡単な日常会話を行える能力を養うことを目標とする。実際の会話の場に直面すると、理解しているはずの文章が使用できないケースが多い。したがって、韓国語会話の慣用表現に多く接して、そこから発展させる能力を身につける。併せて発音上の問題も習得する。第 2 日目には、文章読解能力を高める学習を行う。実際に、朝鮮半島で通用している文章は、ハンゲルのみの文章が多い。そこで、文章構造を正しく理解して読解する能力が求められる。用言の活用語尾や不規則変化など、文法上の問題をテキストを中心に学習する。なお、前期と同様に PC の入力を通じて韓国語の構造を理解する機会も設ける。また、言語は常に文化的背景を持つものであるため、そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。また、言語は常に文化的背景を持つものであるため、そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館，1992年
テキストについては、初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストをあらかじめ読んだ上で、毎回の授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

出席・授業態度（30%）、課題（15%）、小テスト（15%）、期末試験（40%）で評価する。

〔備考〕

授業内容について質問などがある場合には、金曜日のオフィス・アワー（14：00～17：00）に研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 (1) あいさつの表現, (2) 用言の補助語幹
- 第2週 (1) 程度の表現, (2) 用言の補助語幹
- 第3週 (1) 状態の表現, (2) 副詞的表現
- 第4週 (1) 目的の表現, (2) 副詞的表現
- 第5週 韓国の文化 (3)
- 第6週 (1) 言い回しの表現, (2) 副詞的表現
- 第7週 (1) 個人に関わる表現, (2) 用言の活用語尾変化
- 第8週 (1) 数に関わる表現, (2) 用言の活用語尾変化
- 第9週 (1) 道具・身体・食事, (2) 接続語尾
- 第10週 韓国の文化 (4)
- 第11週 (1) 交通・地理の表現, (2) 接続語尾
- 第12週 (1) 天候・自然の表現, (2) 一般慣用表現
- 第13週 (1) 学問・思考の表現, (2) 一般慣用表現
- 第14週 (1) 芸術・社会・趣味の表現, (2) まとめ
- 第15週 韓国の文化 (5)

副 題	実践的な韓国語学習			担 当 者	羅 京 准 李 洙 ソラ 教授 講 師		
単 位	2	開 講 期 間	春学期	曜 日	水 金	時 限	3 4

〔授業の到達目標〕

韓国語基礎を終了した者を対象に、更に一層の韓国語能力の向上や実践的な会話力の習得を目標とする。

〔授業の内容〕

将来的な能力向上を念頭において、週の二日を次の2点に分け、具体的な授業内容としたい。第1日目には、耳で聞くという学習方法を取り入れ、実際に行われている会話をフレーズ的に理解する学習を行う。具体的には、映画やドラマ、ナレーションなどで実際に使われているフレーズ、K-POPで使用されているフレーズをどうやって聞き取るか、どのように活用するかを検証し、実際に使えるようになる学習を行う。第2日目には、基礎に引き続き、基本的な文章構造を中心に学習する。なお、言語は常に文化的背景を持つものであるため、そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館，1992年
テキストについては、初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

韓国語能力を向上させるためには、あらゆる疑問をその場で解決することが必要である。そのために、毎回の授業時にはテキストの予習・復習をきちんと行い、積極的に教員に質問を行って欲しい。

〔成績評価の方法〕

出席・授業態度（30%）、課題（15%）、小テスト（15%）、期末試験（40%）で評価する。

〔備考〕

授業内容について質問などがある場合には、金曜日のオフィス・アワー（14：00～17：00）に研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

第1週	(1) あいさつ, (2) 文章構成 ※ (1) は1日目, (2) は2日目 (以下同様)
第2週	(1) あいさつの表現, (2) 文章構成
第3週	(1) 程度の表現, (2) 文章構成
第4週	(1) 状態の表現, (2) 文章構成
第5週	韓国の文化 (1)
第6週	(1) 目的の表現, (2) 基礎復習
第7週	(1) 言い回しの表現, (2) 復習
第8週	(1) 個人に関わる表現, (2) 基本文型
第9週	韓国の文化 (2)
第10週	(1) 数に関わる表現, (2) 基本文型
第11週	(1) 道具・身体・食事の表現, (2) 基本文型
第12週	(1) 交通・地理の表現, (2) 基本文型
第13週	(1) 天候・自然の表現, (2) 基本文型
第14週	(1) 学問・思考の表現, (2) 基本文型
第15週	(1) 芸術・社会・趣味の表現, (2) 復習 (用言の活用)

副題	実践的な韓国語学習			担当者	羅李	京洙	准教授
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水金	時限	3 4

〔授業の到達目標〕

韓国語応用Iを終了した者を対象とし、更に一層の韓国語能力の向上を目標とする。慣用的表現を習得し、実際の言語活動に活かせるようにする。

〔授業の内容〕

前期と同様に週二日の授業は個別に展開する。第1日目に、日常会話をスムーズに行える能力を養うことを目標とする。実際の会話の場に直面すると、理解しているはずの文章が使用できないケースが多い。したがって、韓国語会話の慣用表現に多く接して、そこから発展させる能力を身につける。併せて発音上の問題も習得する。第2日目には、文章読解能力を高める学習を行う。実際に、朝鮮半島で通用している文章は、ハングルのみ文章が多い。そこで、文章構造を正しく理解して読解する能力が求められる。用言の活用語尾や不規則変化など文法上の問題を中心に学習する。また、前期に引き続き、映画やドラマ、ナレーションなどで実際に使われているフレーズをどうやって聞き取るか、どのように活用するかを検証し、実際に使えるようになる学習を行う。さらに、言語は常に文化的背景を持つものであるため、そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館、1992年
テキストについては、初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

韓国語能力を向上させるためには、あらゆる疑問をその場で解決することが必要である。そのために、毎回の授業時にはテキストの予習・復習をきちんと行い、積極的に教員に質問を行って欲しい。

〔成績評価の方法〕

出席・授業態度（30%）、課題（15%）、小テスト（15%）、期末試験（40%）で評価する。

〔備考〕

授業内容について質問などがある場合には、金曜日のオフィス・アワー（14：00～17：00）に研究室まで来ること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 (1) あいさつの表現, (2) 用言の補助語幹
- 第2週 (1) 程度の表現, (2) 用言の補助語幹
- 第3週 (1) 状態の表現, (2) 副詞的表現
- 第4週 (1) 目的の表現, (2) 副詞的表現
- 第5週 韓国の文化 (3)
- 第6週 (1) 言い回しの表現, (2) 副詞的表現
- 第7週 (1) 個人に関わる表現, (2) 用言の活用語尾変化
- 第8週 (1) 数に関わる表現, (2) 用言の活用語尾変化
- 第9週 (1) 道具・身体・食事の表現, (2) まとめ (基本文型)
- 第10週 韓国の文化 (4)
- 第11週 (1) 交通・地理の表現, (2) 文章構成
- 第12週 (1) 天候・自然の表現, (2) 文章構成
- 第13週 (1) 学問・思考の表現, (2) 文章構成
- 第14週 (1) 芸術・社会・趣味の表現, (2) 文章構成
- 第15週 韓国の文化 (5)

副 題	聴解力と会話力を高める			担 当 者	篠崎 佳子 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	火 火	時 限	2 3

〔授業の到達目標〕

この授業は、聴解力と会話力を高めることを目標とする。

〔授業の内容〕

「聴解」では、テレビのニュースや情報番組、ドラマや音楽などを視聴覚教材として用いて、いろいろな日本語の表現についての理解を深めながら、聞き取り練習をおこなう。また、希望があれば、日本語能力試験のための聴解練習も取り入れる。

「会話」では、いろいろな場面における表現の違いについての理解を深めながら、口頭練習をおこなう。また、さまざまな日本事情を話題として取り上げ、スピーチやディスカッションなどをおこなう。

日本語授業アシスタントとして、日本人学生にも授業に参加してもらい、日本の社会・文化等について生の情報を得る。

具体的な内容および教材については、学期の初めに学生と相談の上、決定する。

〔教材〕

毎回、授業時にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、前回の授業の復習と事前に配付された教材の予習をした上で、出席すること。

〔成績評価の方法〕

出席率（30%）、授業への参加度（20%）、提出物（20%）、試験（30%）によって評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業内容の説明とオリエンテーション
- 第2週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、会話練習
- 第3週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、ディスカッション1
- 第4週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、会話練習
- 第5週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、スピーチ1
- 第6週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、会話練習
- 第7週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、ディスカッション2
- 第8週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、会話練習
- 第9週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、スピーチ2
- 第10週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、会話練習
- 第11週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、ディスカッション3
- 第12週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、会話練習
- 第13週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、スピーチ3
- 第14週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、ディスカッション4
- 第15週 まとめ

上記の計画は、授業の進捗状況により、一部変更することがある。

副題	漢字・聴解			担当者	滝本 いずみ 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火 火	時限	4 5

〔授業の到達目標〕

漢字、聴解ともに個々のレベルに合った到達目標を設定する。
漢字：漢字を中心とした語彙の増強をはかり、学習した漢字、語彙を使えるようにする。
聴解：自然な日本語を聞く力を培う。
聞き取れたことから内容を推測して、人に伝えることができるようになることを目指す。

〔授業の内容〕

漢字：各自のペースで毎回到達度テストを行う。
また、漢字の仕組みが学べる教材、日本文化や社会に関係した教材、読解クラスで使用した教材などを使い、応用力を培う。
聴解：各自のレベルに応じた聴解練習を行う
* 促音、長音、音の変化などの基礎的な聴解練習
* 様々な場面における日本語の聴解練習
* 映像などの生教材で聞き取れたことから内容を推測して理解し、日本人ゲストに伝える。
* 日本人ゲストの話聞き取って内容をまとめる。
なお、毎回のテーマは、読解・会話クラスとできるだけリンクし、語彙や表現の学習につなげる。

〔教材〕

教科書：佐藤 尚子『留学生のための漢字の教科書中級700』国書刊行会、2008年
聴解：教科書は使用せず、適宜ハンドアウトを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週テストを行うため、漢字、語彙の予習復習が必須です。

〔成績評価の方法〕

毎回のテスト、提出物での評価（計60%）、学期末テスト（40%）により評価する。

〔備考〕

オフィスアワー：火曜日水曜日の14：00～14：30

〔授 業 計 画〕

第1週	オリエンテーション、漢字プレイズメントテスト
第2週	漢字1 各自のレベルに応じた学習とテスト 現代文化1 ファッション
第3週	漢字2 現代文化2 日本の若者
第4週	漢字3 異文化コミュニケーション1 日本と自国の共通点
第5週	漢字4 異文化コミュニケーション2 日本と自国の相違点
第6週	漢字5 異文化コミュニケーション3 意見を聞く
第7週	漢字6 教育1 教育、習い事、教育制度
第8週	漢字7 教育2 教育についての意見を聞く
第9週	漢字8 社会1 日本の地理
第10週	漢字9 社会2 生教材
第11週	漢字10 伝統文化1 日本の伝統文化
第12週	漢字11 伝統文化2 日本の伝統行事
第13週	漢字12 生活・ライフスタイル1 結婚、結婚制度
第14週	漢字13 生活・ライフスタイル2 結婚、国際結婚についての意見を聞く
第15週	まとめ

* 授業計画は変更することがあります。
* 毎回日本人ゲスト（学生ボランティア）に来ていただき、聞きとれたことを伝えたり、ゲストの日本語を聞き取る練習を行う予定です。

副題	漢字・聴解			担当者	滝本 いずみ 講師
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水 水
					時限
					4 5

〔授業の到達目標〕

漢字、聴解ともに個々のレベルに合った到達目標を設定する。

漢字：漢字を中心とした語彙の増強をはかり、学習した漢字、語彙を使えるようにする。

聴解：自然な日本語を聞く力を培う。

聞き取れたことから内容を推測して、人に伝えることができるようになることを目指す。

〔授業の内容〕

漢字：各自のペースで毎回到達度テストを行う。

また、漢字の仕組みが学べる教材、日本文化や社会に関係した教材、

読解クラスで使用した教材などを使い、応用力を培う。

聴解：各自のレベルに応じた聴解練習を行う

* 促音、長音、音の変化などの基礎的な聴解練習

* 様々な場面における日本語の聴解練習

* 映像などの生教材で聞き取れたことから内容を推測して理解し、日本人ゲストに伝える

* 日本人ゲストの話聞き取って内容をまとめる

なお、毎回のテーマは、読解・会話クラスとできるだけリンクし、語彙や表現の学習につなげる。

〔教材〕

教科書：佐藤 尚子『留学生のための漢字の教科書中級700』国書刊行会、2008年

聴解：教科書は使用せず、適宜ハンドアウトを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週テストを行うため、漢字、語彙の予習復習が必須です。

〔成績評価の方法〕

毎回のテスト、提出物での評価（計60%）および 学期末テスト（40%）により評価する。

〔備考〕

オフィスアワー：火曜日水曜日14:00~14:30

〔授 業 計 画〕

第1週 漢字1 各自のレベルに合わせた学習とテスト
オリエンテーション

第2週 漢字2
現代文化1 ファッション

第3週 漢字3
現代文化2 日本の若者

第4週 漢字4
異文化コミュニケーション1 日本と自国の共通点

第5週 漢字5
異文化コミュニケーション2 日本と自国の相違点

第6週 漢字6
異文化コミュニケーション3 意見を聞く

第7週 漢字7
教育1 習い事

第8週 漢字8
教育2 教育についての意見を聞く

第9週 漢字9
伝統文化1 伝統文化

第10週 漢字10
伝統文化2 伝統行事

第11週 漢字11
生活・ライフスタイル1 結婚式

第12週 漢字12
生活・ライフスタイル2 国際結婚について

第13週 漢字13
生活・ライフスタイル 日本での生活

第14週 漢字14
日本の文化について

第15週 まとめ及び解説

* 授業計画は変更することがあります。

* 毎回日本人ゲスト（学生ボランティア）に来ていただき、聞いたことを伝えたり、ゲストの日本語を聞き取る練習を行う予定です。

副題	聴解力と会話力を高める			担当者	篠崎 佳子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火 火	時限	2 3

〔授業の到達目標〕

この授業は、聴解力と会話力を高めることを目標とする。

〔授業の内容〕

「聴解」では、テレビのニュースや情報番組、ドラマや音楽などを視聴覚教材として用いて、いろいろな日本語の表現についての理解を深めながら、聞き取り練習をおこなう。また、希望があれば、日本語能力試験のための聴解練習も取り入れる。

「会話」では、いろいろな場面における表現の違いについての理解を深めながら、口頭練習をおこなう。また、さまざまな日本事情を話題として取り上げ、スピーチやディスカッションなどをおこなう。

日本語授業アシスタントとして、日本人学生にも授業に参加してもらい、日本の社会・文化等について生の情報を得る。

具体的な内容および教材については、学期の初めに学生と相談の上、決定する。

〔教材〕

毎回、授業時にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、前回の授業の復習と事前に配付された教材の予習をした上で、出席すること。

〔成績評価の方法〕

出席率（30%）、授業への参加度（20%）、提出物（20%）、試験（30%）によって評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業内容の説明とオリエンテーション
- 第2週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、会話練習
- 第3週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、ディスカッション1
- 第4週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、会話練習
- 第5週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、スピーチ1
- 第6週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、会話練習
- 第7週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、ディスカッション2
- 第8週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、会話練習
- 第9週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、スピーチ2
- 第10週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、会話練習
- 第11週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、ディスカッション3
- 第12週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、会話練習
- 第13週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、スピーチ3
- 第14週 聴解練習（日本語能力試験、最新ニュースなど）、ディスカッション4
- 第15週 まとめ

上記の計画は、授業の進捗状況により、一部変更することがある。

副題	漢字・聴解			担当者	滝本 いずみ 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火 火	時限	4 5

〔授業の到達目標〕

漢字、聴解ともに個々のレベルに合った到達目標を設定する。

漢字：漢字を中心とした語彙の増強をはかり、学習した漢字、語彙を使えるようにする。

聴解：自然な日本語を聞く力を培う。

聞き取れたことから内容を推測して、人に伝えることができるようになることを目指す。

〔授業の内容〕

漢字：各自のペースで毎回到達度テストを行う。

また、漢字の仕組みが学べる教材、日本文化や社会に関係した教材、

読解クラスで使用した教材などを使い、応用力を培う。

聴解：各自のレベルに応じた聴解練習を行う

* 促音、長音、音の変化などの基礎的な聴解練習

* 様々な場面における日本語の聴解練習

* 映像などの生教材で聞き取れたことから内容を推測して理解し、日本人ゲストに伝える

* 日本人ゲストの話を聞き取って内容をまとめる

なお、毎回のテーマは、読解・会話クラスとできるだけリンクし、語彙や表現の学習につなげる。

〔教材〕

教科書：佐藤 尚子『留学生のための漢字の教科書中級700』国書刊行会、2008年

聴解：教科書は使用せず、適宜ハンドアウトを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週テストを行うため、漢字、語彙の予習復習が必須です。

〔成績評価の方法〕

毎回のテスト、提出物での評価（計60%）および 学期末テスト（40%）により評価する。

〔備考〕

オフィスアワー：火曜日水曜日14:00-14:30

〔授 業 計 画〕

第1週	漢字 1	各自のレベルに合わせた学習、テスト
	数字、	自己 1 自己紹介
第2週	漢字 2	
	助数詞、	自己 2 趣味について
第3週	漢字 3	
	時刻・日付、	自己 3 好きな食べ物
第4週	漢字 4	
	拗音・促音・撥音、	旅行 1 おすすめの観光地
第5週	漢字 5	
	清音・濁音、	旅行 2 経験を開く—楽しかった旅行について—
第6週	漢字 6	
	電話—実際に電話をする—	
第7週	漢字 7	
	食 1	日本の食文化 1
第8週	漢字 8	
	食 2	日本の食文化 2
第9週	まとめ 1	
第10週	漢字 9	
	留学生の国の印象、	国民性、文化などについて
第11週	漢字 10	
	日本の迷信	
第12週	漢字 11	
	日本の季節の行事	
第13週	漢字 12	
	意見を聞く 1	身近な問題について
第14週	漢字 13	
	意見を聞く 2	社会問題について
第15週	まとめ 2	

* 授業計画は変更することがあります。

* 毎回日本人ゲスト（学生ボランティア）に来ていただき、聞いたことを伝えたり、ゲストの日本語を聞き取る練習を行う予定です。

副題	漢字・聴解			担当者	滝本 いずみ 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水 水	時限	4 5

〔授業の到達目標〕

漢字、聴解ともに個々のレベルに合った到達目標を設定する。

漢字：漢字を中心とした語彙の増強をはかり、学習した漢字、語彙を使えるようにする。

聴解：自然な日本語を聞く力を培う。

聞き取れたことから内容を推測して、人に伝えることができるようになることを目指す。

〔授業の内容〕

漢字：各自のペースで毎回到達度テストを行う。

また、漢字の仕組みが学べる教材、日本文化や社会に関係した教材、

読解クラスで使用した教材などを使い、応用力を培う。

聴解：各自のレベルに応じた聴解練習を行う

* 促音、長音、音の変化などの基礎的な聴解練習

* 様々な場面における日本語の聴解練習

* 映像などの生教材で聞き取れたことから内容を推測して理解し、日本人ゲストに伝える

* 日本人ゲストの話聞き取って内容をまとめる

なお、毎回のテーマは、読解・会話クラスとできるだけリンクし、語彙や表現の学習につなげる。

〔教材〕

教科書：佐藤 尚子『留学生のための漢字の教科書中級700』国書刊行会、2008年

聴解：教科書は使用せず、適宜ハンドアウトを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週テストを行うため、漢字、語彙の予習復習が必須です。

〔成績評価の方法〕

毎回のテスト、提出物での評価（計60%）および 学期末テスト（40%）により評価する。

〔備考〕

オフィスアワー：火曜日水曜日14：00～14：30

〔授 業 計 画〕

第1週 オリエンテーション、漢字のプレイズメントテスト、指示のことは

漢字 1 各自のレベルに合った学習とテスト

数字 1、 自己について 1 自己紹介

第3週 漢字 2

数字 2 自己について 2 趣味など

第4週 漢字 3

日付 自己について 3 好きな食べ物

第5週 漢字 4

拗音・促音・撥音、時刻 旅行 1

第6週 漢字 5

清音・濁音、助数詞、 旅行 2

第7週 漢字 6

清音・濁音、日本の食文化 1

第8週 漢字 7

拗音、撥音、日本の食文化 2

第9週 漢字 8

日本の今 1 ポップカルチャー

第10週 漢字 9

日本の今 2 社会問題

第11週 漢字 10

日本の伝統文化 1 行事など

第12週 漢字 11

日本の伝統文化 2 考え方

第13週 漢字 12

ニュースに慣れる 1

第14週 漢字 13

ニュースに慣れる 2

第15週

まとめ及び解説

* 授業計画は変更することがあります。

* 毎回日本人ゲスト（学生ボランティア）に来ていただき、聞いたことを伝えたり、

ゲストの日本語を聞き取る練習を行う予定です。

副題	日本語の読解・文法を学ぶ。日本を深く理解する			担当者	野口 直子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金 金	時限	3 4

〔授業の到達目標〕

日本語の読み物の読解を通して、日本語だけでなく日本への理解を深めることを目指す。上級の文法力を養成し、高度な日本語の運用力を身につける。

〔授業の内容〕

この授業では、いろいろなスタイルやトピックの文章を読み、日本人の考え方、文化への理解を深める。新聞などの記事から日本の社会の今を知るとともに、伝統的な文化の記事から、文化だけでなく、日本人の考え方、生き方が学べるようにする。またアカデミックな文章が読めるように読解のストラテジーを学んでいく。高度な文章を読むために必要な上級の文法についても随時学んでいく。

〔教材〕

特に教科書は指定せず、随時プリント、新聞記事を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教材には前もって、目を通し、わからない語彙は必ずその意味を調べておくこと。授業では、教材を読んだことを前提に内容理解、質問などを行う。疑問点は積極的に授業で聞くこと。授業後に出される宿題で必ずその日に学習したことを確認しておくこと。

〔成績評価の方法〕

小テスト 30%、宿題・提出物 20%、試験 50%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	オリエンテーション 自己紹介	
第2週	説明文を読む1 文法 1 受身の文	
第3週	説明文を読む2 文法 2 受身と授受表現	
第4週	小説を読む1 文法 3 配慮表現	
第5週	小説を読む2 文法 4 使役文	
第6週	エッセーを読む1 文法 5 使役文と使役受身の表現	
第7週	エッセーを読む2 文法 テンスとアスペクト1	
第8週	意見文を読む1 文法 テンスとアスペクト2	
第9週	意見文を読む2 文法 自動詞・他動詞	
第10週	情報を読み取る1 文法 モダリティ 1	
第11週	読解のストラテジー1 文法 モダリティ 2	トップダウンの読み方
第12週	読解のストラテジー2 文法 モダリティ 3	ボトムアップの読み方
第13週	読解のストラテジー3 文法 条件文	予測をする
第14週	読解のストラテジー4 文法 助詞について	文章を整理して理解する
第15週	まとめ 授業計画は変更することがある。	

副題	文法・読解			担当者	新井 恵美子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2 3

〔授業の到達目標〕

正確に理解、運用できる語彙、表現を増やししながら、日本語の文章を読むスキルを習得し、情報やメッセージを的確に読み取れるようになる。そして、日本人の考え方、日本文化への関心・理解を深める。

〔授業の内容〕

基本文法の復習やいろいろな機能表現の学習をしながら、文の構造を確認する。また、文の連続、文章の展開の理解を助ける接続詞や指示語などの用法を学習し運用練習をする。さらに、情報、書き手のメッセージについてクラスメートと意見交換する。エッセイ、コラム、ニュース、文学作品などから、意見文、説明文、報告文、会話文、小説、詩など、いろいろなタイプおよび内容の文章をテキストとして扱う。

〔教材〕

教科書は使用せず、適宜、文法練習問題・読解用テキストのプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として、文法説明、例文、読解テキストにはあらかじめ目を通し、辞書を使って内容を自分なりに解釈し、設問がある場合は答えを書き留め、疑問点は質問できるようにしておく。復習として、すべてのテキストを読み直し、例文作成、設問に答える、意見や感想を書くなど毎回出される宿題をしながら、重要語彙・表現を覚えていく。

〔成績評価の方法〕

出席・授業参加度(30%)、宿題・提出物(10%)、小テスト(10%)、期末試験(50%)により評価する。

〔備考〕

この内容は、2・3限通しの授業で実施する。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス、自己紹介ほか
- 第2週 初級文法復習1・スキニング練習
- 第3週 初級文法復習2・スキミング練習
- 第4週 文法練習1・読解練習1
- 第5週 文法練習2・読解練習2
- 第6週 文法練習3・読解練習3
- 第7週 文法練習4・読解練習4
- 第8週 文法練習5・読解練習5
- 第9週 文法練習6・読解練習6
- 第10週 文法練習7・読解練習7
- 第11週 文法練習8・読解練習8
- 第12週 文法練習9・読解練習9
- 第13週 文法練習10・読解練習10
- 第14週 文法練習11・読解練習11
- 第15週 理解度の確認

授業計画は変更することがある。

副 題	文法・読解			担 当 者	及川 千代香 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	火 火	時 限	2 3
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>中級の文型・表現，語彙を学習し，読解練習を通して定着を目指す。 中級レベルの日本語の文章を読んで，正しく理解できるようになる。</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>前半は，テキストを通して中級の文型・表現，語彙を学び，さまざまな話題の文章を読む。 文型については短文作成練習を，読解については日本語の文章を正しく読む技術を身につける練習を行う。 後半は，N3レベルの日本語の理解力と運用力を養う。</p> <p>〔教材〕</p> <p>教科書：平井悦子、三輪さち子『中級へ行こう』スリーエーネットワーク，2004年 その他，授業時に適宜，文法のハンドアウトおよび読み教材を配布する。</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>この授業では毎回語彙小テスト，まとめりに語彙，文法復習テストを実施するため，少なくとも1時間程度の準備学習をすること。</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席・授業への参加度 30%，宿題・提出物 10%，小テスト 10%，期末試験 50%</p> <p>〔備考〕</p>							

〔授 業 計 画〕

- 第1週 オリエンテーション，自己紹介，復習
 第2週 『中級へ行こう』7課
 第3週 『中級へ行こう』7課&8課
 第4週 『中級へ行こう』8課
 第5週 『中級へ行こう』9課
 第6週 『中級へ行こう』9課&10課
 第7週 『中級へ行こう』10課
 第8週 文法，読解練習1
 第9週 文法，読解練習2
 第10週 文法，読解練習3
 第11週 文法，読解練習4
 第12週 文法，読解練習5
 第13週 文法，読解練習6
 第14週 文法，読解練習7
 第15週 まとめ

状況により授業計画は変更することがある。

副題	日本語を通して日本を深く理解する			担当者	野口 直子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3 4

〔授業の到達目標〕

日本語の読み物の読解を通して、日本語だけでなく日本への理解を深めることを目指す。上級の文法力を養成し、高度な日本語の運用力を身につける。

〔授業の内容〕

この授業では、いろいろなスタイルやトピックの文章を読み、日本人の考え方、文化への理解を深める。新聞などの記事から日本の社会の今を知るとともに、伝統的な文化の記事から、文化だけでなく、日本人の考え方、生き方が学べるようにする。またアカデミックな文章が読めるように読解のストラテジーを学んでいく。高度な文章を読むために必要な上級の文法についても随時学んでいく。

〔教材〕

教科書は使用せず、適宜プリントを配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教材には前もって、目を通し、わからない語彙は必ずその意味を調べておくこと。授業では、教材を読んだことを前提に内容理解、質問などを行う。疑問点は積極的に授業で聞くこと。授業後に出される宿題で必ずその日に学習したことを確認しておくこと。

〔成績評価の方法〕

小テスト 30%、宿題・提出物 20%、試験 50%。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	オリエンテーション 自己紹介
第2週	読解：異文化コミュニケーションについて1 文法：慣用句 と 副詞 1
第3週	読解：異文化コミュニケーションについて2 文法：慣用句 と 副詞 2
第4週	発表
第5週	読解：若者について1 文法：慣用句 と 副詞 3
第6週	読解：若者について2 文法：慣用句 と 副詞 4
第7週	読解：女性の生き方1 文法：オノマトペ 1
第8週	読解：女性の生き方2 文法：オノマトペ 2
第9週	読解：伝記 文法：オノマトペ 3
第10週	発表
第11週	読解：日本社会 ―信頼社会と安心社会― 文法：接続詞
第12週	読解：日本社会 ―仕事― 文法：接続詞
第13週	読解：豊かさとは何か1 文法：敬語
第14週	読解：豊かさとは何か2 文法：敬語
第15週	まとめ 授業計画は変更することがある。

副題	文法・読解			担当者	新井 恵美子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金 金	時限	2 3

〔授業の到達目標〕

正確に理解、運用できる語彙、表現を増やしながら、日本語の文章を読むスキルを習得し、情報やメッセージを的確に読み取れるようになる。そして、日本人の考え方、日本文化への関心・理解を深める。

〔授業の内容〕

基本文法の復習やいろいろな機能表現の学習をしながら、文の構造を確認する。また、文の連続、文章の展開の理解を助ける接続詞や指示語などの用法を学習し運用練習をする。さらに、情報、書き手のメッセージについてクラスメートと意見交換する。エッセイ、コラム、ニュース、文学作品などから、意見文、説明文、報告文、会話文、小説、詩など、いろいろなタイプおよび内容の文章をテキストとして扱う。

〔教材〕

教科書は使用せず、適宜、文法練習問題・読解用テキストのプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として、文法説明、例文、読解テキストにはあらかじめ目を通し、辞書を使って内容を自分なりに解釈し、設問がある場合は答えを書き留め、疑問点は質問できるようにしておく。復習として、すべてのテキストを読み直し、例文作成、設問に答える、意見や感想を書くなど毎回出される宿題をしながら、重要語彙・表現を覚えていく。

〔成績評価の方法〕

出席・授業参加度(30%)、宿題・提出物(10%)、小テスト(10%)、期末試験(50%)により評価する。

〔備考〕

この内容は、2・3限通しの授業で実施する。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス、自己紹介ほか
- 第2週 初級文法復習1・スキニング練習
- 第3週 初級文法復習2・スキミング練習
- 第4週 文法練習1・読解練習1
- 第5週 文法練習2・読解練習2
- 第6週 文法練習3・読解練習3
- 第7週 文法練習4・読解練習4
- 第8週 文法練習5・読解練習5
- 第9週 文法練習6・読解練習6
- 第10週 文法練習7・読解練習7
- 第11週 文法練習8・読解練習8
- 第12週 文法練習9・読解練習9
- 第13週 文法練習10・読解練習10
- 第14週 文法練習11・読解練習11
- 第15週 理解度の確認

授業計画は変更することがある。

副題	文法・読解			担当者	及川 千代香 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火 火	時限	2 3

〔授業の到達目標〕

中級の文型・表現，語彙を学習し，読解練習を通して定着を目指す。
中級レベルの日本語の文章を読んで，正しく理解できるようになる。

〔授業の内容〕

テキストを通して中級の文型・表現，語彙を学び，さまざまな話題の文章を読む。文型については短文作成練習を，読解については日本語の文章を正しく読む技術を身につける練習を行い，日本語の理解力と運用力を高める。

〔教材〕

教科書：平井悦子、三輪さち子『中級へ行こう』スリーエーネットワーク，2004年
その他，授業時に適宜，文法のハンドアウトおよび読み教材を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

この授業では毎回語彙小テスト，まとめりに語彙，文法復習テストを実施するため，少なくとも1時間程度の準備学習をすること。

〔成績評価の方法〕

出席・授業への参加度 30%，宿題・提出物 10%，小テスト 10%，期末試験 50%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 オリエンテーション，自己紹介，復習1
- 第2週 復習2
- 第3週 『中級へ行こう』1課
- 第4週 『中級へ行こう』1課&2課
- 第5週 『中級へ行こう』2課
- 第6週 『中級へ行こう』3課
- 第7週 〃
- 第8週 『中級へ行こう』1課-3課まとめ&読解練習
- 第9週 『中級へ行こう』4課
- 第10週 『中級へ行こう』4課&5課
- 第11週 『中級へ行こう』5課
- 第12週 『中級へ行こう』5課&6課
- 第13週 『中級へ行こう』6課
- 第14週 『中級へ行こう』4課-6課まとめ&読解練習
- 第15週 総まとめ

状況により授業計画は変更することがある。

副 題	大学で学ぶために必要な日本語 1			担 当 者	松本 祥子 講師		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	木 木	時 限	1 2

〔授業の到達目標〕

4年間を通して日本の大学で学ぶためには、日本語の基礎力の徹底が求められる。文法的な基礎はもちろん、読解力、聴解力、書く力、話す力、発表の力の全面にわたって日本語能力の向上を図る。

〔授業の内容〕

文法：1級レベルの構文を理解するだけでなく、これを正確に使いこなせるように練習する。

語彙：文法・表記等で正確な文を書けるよう練習する。

聴解：テレビの報道番組を用い、内容を正確に把握できるよう練習する。

作文：新聞記事等で時事問題について学び、これをまとめたり意見文を作成したりする。

話す力：敬語・待遇表現の練習をする。

〔教材〕

教科書はない。毎回、必要なプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に指示をする。

〔成績評価の方法〕

定期試験（70%）及び平常授業における提出物（30%）

〔備考〕

クラスのメンバーにより、授業内容が変更されることがある。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 自己紹介・導入
- 第2週 語彙の意味・用法 1
- 第3週 新聞記事の読解と作文練習 1
- 第4週 語彙の意味・用法 2
- 第5週 新聞記事の読解と作文練習 2
- 第6週 語彙の意味・用法 3
- 第7週 新聞記事の読解と作文練習 3
- 第8週 まとめ・確認
- 第9週 一級の表現文型を使いこなす 1
- 第10週 テレビの報道番組を聞き取る 1
- 第11週 一級の表現文型を使いこなす 2
- 第12週 テレビの報道番組を聞き取る 2
- 第13週 一級の表現文型を使いこなす 3
- 第14週 テレビの報道番組を聞き取る 3
- 第15週 まとめ・確認

副題	発信するための日本語へ			担当者	野口 直子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水 水	時限	4 5

〔授業の到達目標〕

作文、会話を通して、発信するための日本語能力の習得を目指す。

〔授業の内容〕

トピックとして、自分の身近なできごとのみならず、日本および自国の社会、文化についての洞察を深められるような素材を新聞、インターネットなどからとりあげる。それらの情報を基に、説明する。意見を述べるなどの技術、能力の習得を行う。

日本人学生の協力を得て日本人学生との会話の時間を設け、日本の社会、文化について生の情報を得たり、ディスカッションを行う。クラス内でのインターアクションを重視するので、学生の積極的な参加を望む。

〔教材〕

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教材には前もって、目を通し、わからない語彙は必ずその意味を調べておくこと。授業では、教材を読んだことを前提に内容理解、質問などを行う。疑問点は積極的に授業で聞くこと。授業後に出される宿題で必ずその日に学習したことを確認しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席・授業への参加20%、宿題・提出30%、クラス内でのテスト50%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	オリエンテーション ニーズ調査, レディネス調査
第2週	作文の技術 (1) 自己紹介の文章の書き方 自己紹介をする
第3週	作文の技術 (2) 説明文 友だちについて
第4週	作文の技術 (3) 説明文 私の国について
第5週	作文の技術 (4) 説明文 私の国の有名人
第6週	作文の技術 (5) 感想文 私の好きな小説/映画/劇
第7週	作文の技術 (6) 感想文 私の好きな場所/国
第8週	作文の技術 (7) 感想文 趣味について・料理について
第9週	作文の技術 (8) メールの書き方 依頼する
第10週	作文の技術 (9) メールの書き方 お知らせをする
第11週	作文の技術 (10) 意見文 異文化について
第12週	作文の技術 (11) 意見文 教育について
第13週	作文の技術 (12) 意見文 伝統文化について
第14週	作文の技術 (13) 意見文 現代社会について
第15週	まとめ 日本人学生にボランティアとして会話の相手に入ってもらう授業を実施予定。 授業計画は変更することがある。

副題	書く力・話す力を高める			担当者	加藤 陽子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金 金	時限	2 3

〔授業の到達目標〕

日本と自国の社会や文化に関する話題について、まとまった文章を書き、発表できるようになる。また、それらの話題について、質疑応答ができるようになる。

〔授業の内容〕

日本と自国の社会・文化に関する話題について、小スピーチの原稿を書き、発表する。また発表内容について、質疑応答の練習をおこなう。また、自然な発音、アクセントの練習や、色々な場面での会話練習やインタビュー、ディスカッションをおこなう。

具体的な内容および教材については、学期の初めに学生と相談の上、決定する。

〔教材〕

毎回プリントを配布する予定。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には、前の授業内容の復習となる課題をおこなった上で出席すること。

〔成績評価の方法〕

出席率（20%）、授業への参加度(15%)、課題（30%）、試験（35%）によって評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週 授業についての説明とオリエンテーション、作文（表記のしかた、自己紹介文）、機能別会話

第2週 作文（1）、メールを書く、機能別会話

第3週 作文（1）、メールを書く、発音・アクセント練習、機能別会話

第4週 作文（1）、発音・アクセント練習、機能別会話、スピーチ

第5週 作文（2）、発音・アクセント練習、機能別会話

第6週 作文（2）、発音・アクセント練習、機能別会話、インタビュー

第7週 作文（2）、発音・アクセント練習、機能別会話、スピーチ

第8週 作文（3）、発音・アクセント練習、機能別会話

第9週 作文（3）、発音・アクセント練習、機能別会話、インタビュー

第10週 作文（3）、機能別会話、スピーチとディスカッション

第11週 作文（4）、機能別会話

第12週 作文（4）、機能別会話、インタビュー

第13週 作文（4）、機能別会話

第14週 手紙の書き方、スピーチとディスカッション

第15週 まとめと解説

学生の状況によって、授業計画を一部変更することがある。

副題	大学で学ぶために必要な日本語 2			担当者	松本 祥子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木 木	時限	1 2

〔授業の到達目標〕

4年間を通して日本の大学で学ぶためには、日本語の基礎力の徹底が求められる。文法的な基礎はもちろん、読解力、聴解力、書く力、話す力、発表の力の全面にわたって日本語能力の向上を図る。

〔授業の内容〕

文法：1級レベルの構文を理解するだけでなく、これを正確に使いこなせるように練習する。

語彙：文法・表記等で正確な文を書けるよう練習する。

聴解：テレビの報道番組を用い、内容を正確に把握できるよう練習する。

作文：新聞記事等で時事問題について学び、これをまとめたり意見文を作成したりする。

話す力：敬語・待遇表現の練習をする。

〔教材〕

教科書はない。毎回、必要なプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に指示をする。

〔成績評価の方法〕

定期試験（70%）及び平常授業における提出物（30%）

〔備考〕

クラスのメンバーにより、授業内容が変更されることがある。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 自己紹介・導入
- 第2週 語彙の意味・用法 1
- 第3週 新聞記事の読解と作文練習 1
- 第4週 語彙の意味・用法 2
- 第5週 新聞記事の読解と作文練習 2
- 第6週 語彙の意味・用法 3
- 第7週 新聞記事の読解と作文練習 3
- 第8週 まとめ・確認
- 第9週 一級の表現文型を使いこなす 1
- 第10週 テレビの報道番組を聞き取る 1
- 第11週 一級の表現文型を使いこなす 2
- 第12週 テレビの報道番組を聞き取る 2
- 第13週 一級の表現文型を使いこなす 3
- 第14週 テレビの報道番組を聞き取る 3
- 第15週 まとめ・確認

副題	発信するための日本語へ			担当者	野口 直子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水 水	時限	4 5

〔授業の到達目標〕

作文、会話を通して、発信するための日本語能力の習得を目指す。

〔授業の内容〕

トピックとして、自分の身近なできごとのみならず、日本および自国の社会、文化についての洞察を深められるような素材を新聞、インターネットなどからとりあげる。その情報を基に、説明や、意見を述べる技術、能力の習得を行う。

日本人学生の協力を得て日本人学生との会話の時間を設け、日本の社会、文化について生の情報を得たり、ディスカッションを行う。クラス内でのインターアクションを重視するので、学生の積極的な参加を望む。

〔教材〕

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教材には前もって、目を通し、わからない語彙は必ずその意味を調べておくこと。授業では、教材を読んだことを前提に内容理解、質問などを行う。疑問点は積極的に授業で聞くこと。授業後に出される宿題で必ずその日に学習したことを確認しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席・授業への参加20%、宿題・提出30%、クラス内でのテスト50%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	オリエンテーション ニーズ調査、レディネス調査
第2週	小論文の書き方（1）原稿用紙の使い方 会話：旅行について1
第3週	小論文の書き方（2）表記のしかた 会話：旅行について2
第4週	小論文の書き方（3）文体について ディスカッション：旅行について
第5週	小論文の書き方（4）話し言葉から書き言葉へ 会話：食について
第6週	小論文の書き方（5）正しい構造の文1 会話：健康について
第7週	小論文の書き方（6）正しい構造の文2 ディスカッション：食と健康について
第8週	小論文の書き方（7）文のつながり 会話：日本の社会について1
第9週	小論文の書き方（8）小論文に使われる表現 会話：日本の社会について2
第10週	小論文の書き方（9）段落 ディスカッション：日本の社会について
第11週	小論文の書き方（10）小論文のはじめとおわり ディスカッション：自国の文化と日本の文化
第12週	メールの書き方 ディスカッション：現代文化と伝統文化
第13週	敬語を使用した文章 依頼の場面での会話
第14週	敬語を使用した文章 許可を求める場面の会話
第15週	まとめ 日本人学生にボランティアとして入ってもらい会話、ディスカッションを実施予定。 授業計画は変更することがある。

副題	書く力・話す力を高める			担当者	加藤 陽子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2 3

〔授業の到達目標〕

日本と自国の社会や文化に関する話題、また、専門分野の一般的な話題について、まとまった文章を書き、発表できるようになる。また、それらの話題について、質疑応答ができるようになる。

〔授業の内容〕

日本と自国の社会・文化に関する話題について、また、専門分野の一般的な話題について、小スピーチの原稿を書き、発表する。また発表内容について、質疑応答とインタビューの練習をおこなう。加えて、会話の技術を向上させるさまざまな練習をする。さらに、表現する力をつけるために、語彙力を高める。

具体的な内容および教材については、学期の初めに学生と相談の上、決定する。

〔教材〕

毎回プリントを配布する予定。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回課される課題に取り組み、授業の復習をしたうえで次の授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

出席率（20%）、授業への参加度（15%）、課題（30%）、試験（35%）によって評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 授業についての説明とオリエンテーション、作文（表記のしかた）、メールの書き方
- 第2週 作文（自己紹介文）、会話技術（発音、アクセント、イントネーション）、機能別会話
- 第3週 作文（国の紹介）、会話技術（発音、アクセント、イントネーション）、機能別会話
- 第4週 作文（日本社会について1）、機能別会話
- 第5週 ヶ
- 第6週 作文（日本社会について1）、機能別会話、スピーチ
- 第7週 作文（専門について1）、会話技術（質問）、インタビュー
- 第8週 ヶ
- 第9週 作文（専門について1）、会話技術（質問）、スピーチ
- 第10週 作文（日本社会について2）、会話技術（あいづち、フィラー）、インタビュー
- 第11週 ヶ
- 第12週 作文（日本社会について2）、スピーチ
- 第13週 作文（意見）、機能別会話
- 第14週 ヶ
- 第15週 まとめ

学生の状況によって、授業計画を一部変更することがある。

司書課程

平成 27 年度授業科目および担当者

講 義 内 容 (シラバス)

平成24年度以降入学者用

司書課程 平成27年度授業科目および担当者

相当する省令科目	単位	科目群	本学開講科目	単位	履修年次	履修単位	学期	担当者	頁	
生涯学習概論	2	司書課程必修科目群	生涯学習概論	2	第2セメスター～	13科目 26単位	秋	塚原 正彦	846	
図書館概論	2		図書館概論	2	第2セメスター～		春	越塚 美加	847	
図書館制度・経営論	2		図書館制度・経営論	2	第2セメスター～		秋	西野 一夫	848	
図書館情報技術論	2		図書館情報技術論A	2	第4セメスター～		春	江藤 正己	849	
			図書館情報技術論B				秋	江藤 正己	850	
図書館サービス概論	2		図書館サービス概論	2	第2セメスター～		秋	越塚 美加	851	
情報サービス論	2		情報サービス論	2	第2セメスター～		春	江藤 正己	852	
児童サービス論	2		児童サービス論A	2	第2セメスター～		春	山口 雅子	853	
			児童サービス論B				秋	山口 雅子	854	
情報サービス演習	2		情報検索演習A	2	第4セメスター～		春	江藤 正己	855	
			情報検索演習B				秋	江藤 正己	856	
			レファレンスサービス演習A	2	第2セメスター～		春	越塚 美加	857	
			レファレンスサービス演習B				秋	越塚 美加	858	
図書館情報資源概論	2		図書館情報資源概論	2	第2セメスター～		春	越塚 美加	859	
情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	第2セメスター～	秋	木村麻衣子	860			
情報資源組織演習	2	情報資源組織演習Ⅰ	2	第3セメスター～	秋	木村麻衣子	861			
		情報資源組織演習Ⅱ	2	第3セメスター～	春	木村麻衣子	862			
図書館基礎特論	1	必修科目群 司書課程選択	図書館基礎特論	2	第5セメスター～	4単位以上	2科目	秋	江藤 正己	863
図書・図書館史	1		図書・図書館史	2	第2セメスター～	秋	白戸満喜子	864		
図書館サービス特論	1		図書館サービス特論	2	第5セメスター～	春	越塚 美加	865		
計15科目30単位以上（本学の科目）										

省令科目とは図書館法施行規則で規定された科目のこと。本学の選択必修科目群では省令上1単位が配当されている科目を1科目2単位として開講しているが、省令上、2科目以上を修得する必要があるため本学開講科目2科目4単位以上を選択必修としている。

副題	楽習社会の未来デザイン			担当者	塚原 正彦 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

文明のまなごしからいま私たちの社会で起きている学びの革命を検証し、生涯学習をデザインし、マネジメントすることができる想像力と創造力を持ち、専門能力を使いこなすことができる資質とは何かを明らかにする。身近な地域や生活にまなごしをあて、未来風土記、物語ミュージアムを創造する演習を組み入れながら、未来の学芸員、司書そして楽習デザイナーに求められる生活、文化資源の発見の方法、学びのコンテンツをデザインをするためのスキルの習得を目指す。

〔授業の内容〕

情報文明が進展し、新しい富の未来が到来し、生涯学習社会は新たな段階に突入しつつある。イギリスをはじめ先進各国では、文化施設やライブラリーが、狭義の保存、管理、研究施設から人々のまなごしをテーマにした楽習サービス機関に生まれ変わり、地域の持つ文化遺産を活用したまなごしのプログラムやそれを未来に継承するための人づくりが実践されはじめた。そのような動きは、企業活動、生活文化、そして遊びにまで波及している。

図書館、公民館、ミュージアム、青少年教育施設などの最先端の取り組みに加え、学ぶ人が主役となり、思いついたアイデアを次々に結びつけ、物語をつくり知を創造するコンテンツ産業、ツーリズム、幸福産業なども視野にいれ、生涯学習社会の可能性と私たち一人ひとりの生きるチカラとは何かについて考える。

〔教材〕

参考書：塚原正彦『ミュージアム国富論』日本地域社会研究所，2000年

塚原正彦『ふるさと遺産』日本地域社会研究所，2006年

教科書としては、著者が編著した「地域資源学の基礎」（日本地域資源研究所）を活用する。活用する方法については、授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

「地域資源学芸員」を養成するために、桜川市で開発した電子学習システムで、学習内容を復習してもらう。（合計30時間）

演習形式で授業をすすめるため、施設調査や地域資源調査の発注課題に取り組むことになる。（合計30時間）

〔成績評価の方法〕

400字の「未来デザインシート」（15%）、グレートブックスの課題（25%）、地域資源調査の成果物（40%）、教科書とリンクした電子学習システムの参加（20%）

〔備考〕

- ・授業中の学習以外に、楽習デザインを磨きあげるためのグレートブックスを読んで書評を書く。
- ・電子学習システムを活用して授業で得た知識を発展させる学習に取り組む。
- ・地域資源調査の現地研修を実施する予定で、ワークシートを作成する課題に取り組む。（浅草もしくは常総市を予定している）

〔授業計画〕

第1週	生涯学習の理念と国づくりと地域（楽習都市の未来デザイン）
第2週	歴史に学ぶ本とコレクションのチカラ（学術都市アレキサンドリアとミュージアムとライブラリーの誕生）
第3週	生涯学習が地域を変え、未来をつくる（暮らしをデザインする文化起業家）
第4週	まなごと交流が創造する未来産業（W.ディズニーの挑戦と楽習社会）
第5週	生活に組み込まれた学びとデザイン（玩具からみた家庭のチカラ）
第6週	人に優しいヒューマンライブラリー（冠岳区の図書館革命に学ぶ）
第7週	デジタルコミュニケーションが学びを変える（世界一大きな本とふるさとミュージアム）
第8週	楽習デザインの事例研究：ふるさとの本をつくるプロジェクト（プータン王国の世界一大きな本）
第9週	楽習デザインの事例研究：ふるさとの記憶を記録する（デジタルアーカイブの取り組み）
第10週	楽習デザインの事例研究：ミュージアム国富論とイギリスの知の産業革命
第11週	楽習デザインの事例研究：私設公民館の学習デザイン（愛媛県伊予市双海町の学びのデザイン）
第12週	地域資源の発見と活用の基本スキルを習得する（歩く、見る、聞く）
第13週	現地実習：地域資源調査と地域資源の物語化の実践してみる
第14週	地域社会のための学びのライブラリーをデザインする
第15週	楽習社会の未来デザインを共有し評価する

未来デザイン研究と自然に美をみだし、ひろい心を持ち、ありのままに生きている名も知れぬ人々がうみだしている人間味あふれる物語を相互作用させながら、筆者が開発したミュージアム・メソッド（事例研究→フィールド調査→プレゼンテーション創作→展示→相互評価）を活用して、授業をすすめる。受講者には、一人ひとりの身近な生活にまなごしを向け、未来への宝物を収集し、自分の目で見て、考え、思いを世界に発信する演習に参加する。

副 題				担 当 者	越塚 美加 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	金	時 限	2

〔授業の到達目標〕

図書館の基本的な機能を理解する。また、館種ごとの違いについて認識しながら、図書館員の役割について理解する。

〔授業の内容〕

図書館の基本的な機能や社会での位置づけおよび市民生活で果たすべき役割について、法的な基盤やこれまでに策定されてきた各種政策、答申、報告書の内容と深く結び付いていることを踏まえ、理解することを目的とする。

上述の狙いに基づいて、図書館の歴史や現状を、館種別に検討すると同時に、図書館職員の役割や資格に対する考え方、設置母体との関係、さまざまな図書館の利用者の特徴、類縁機関やそのほかの機関との関わりについて取り上げる。

〔教材〕

参考書：高山正也、岸田和明編『図書館概論』（現代図書館情報学シリーズ1）樹村房，2011年
日本図書館協会『図書館年鑑2014』2014年版，日本図書館協会，2014年

授業は配布資料を中心に進めるので、欠席した翌週までにサポートセンターで配布資料の有無を確認し、必要に応じて受領しておくこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時にできるだけ具体的な事例を示すので、復習のために文献リスト中の文献を読んだり、ウェブページを確認することが求められる。

〔成績評価の方法〕

平常点4割，期末試験6割

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 日本の図書館の現状と動向：統計資料をもとに
- 第2週 日本の図書館の現状と動向：政策との関わり
- 第3週 日本の図書館の現状と動向：図書館活動の事例
- 第4週 図書館の構成要素と機能
- 第5週 図書館の自由に関する現状と課題
- 第6週 各種公共図書館宣言に見られる公共図書館像
- 第7週 図書館の歴史
- 第8週 公共図書館の成立と展開1
- 第9週 公共図書館の成立と展開2
- 第10週 館種別図書館の特徴と利用者1
- 第11週 館種別図書館の特徴と利用者2
- 第12週 図書館員の役割と資格
- 第13週 図書館と連携・協力を進める諸機関
- 第14週 図書館の課題と展望1
- 第15週 図書館の課題と展望2

副 題	21世紀の公共資源としての図書館の経営			担 当 者	西野 一夫 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	月	時 限	2

〔授業の到達目標〕

図書館法第2条，第3条の基づく図書館の機能と奉仕活動を図書館の経営現場に照らして，実践的に検証し，社会的機能としての図書館の役割について，理解を深める。

〔授業の内容〕

公立図書館を取り巻く法制度を行政法との関係を含めて学習します。
 地域を支える図書館のあり方を実証的に学習し，経営的な視点から評価を行います。
 公立図書館をめぐる経営環境の変化を，資金面，人材面から分析し，将来的展望を探ります。
 図書館の総合的評価と，サービス計画立案については実践的に学習します。
 21世紀の公立図書館に必要な人材の在り方について，学習を深めます。

〔教材〕

参考書：永田治樹『図書館経営論』（JLA図書館情報学テキストシリーズⅡ）初版，日本図書館協会，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で配布するプリントの学習。

〔成績評価の方法〕

出席状況，質問票，レポートによる総合採点法です。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

第1週	21世紀の図書館像
第2週	図書館法概説 設置者，専門的職員の配置，無料原則を中心に
第3週	公の施設の規制緩和と労働環境財務環境の変化 指定管理制度とPFIを中心に
第4週	国立国会図書館の現在を考える 国会図書館の議会サービスと図書館サービスの現状を考える
第5週	図書館の組織と運営管理
第6週	市町村図書館の機能とサービスを社会的機能から考える 公共図書館に自己点検評価（1） 行政評価の手法
第7週	公共図書館の自己点検評価（2） サービスの点検評価の方法
第8週	公共図書館の自己点検評価（3） アクションプランの立案
第9週	図書館員の倫理綱領・図書館の自由 図書館経営から見た図書館自由
第10週	図書館の施設設備を考える 利用者から見た学びの環境としての施設設備
第11週	日常的業務の指針と非日常的事態への対応（1） 業務マニュアルの作り方
第12週	日常的業務の指針と非日常的事態への対応（2） 犯罪や災害とどう向き合うか
第13週	図書館と法 行政法，個人情報保護法と図書館を考える
第14週	21世紀の図書館と社会教育施設 社会教育法の構造と図書館法のこれからについて考える
第15週	まとめ 授業は教科書と毎回お配りするプリントにそって進めます。 出席票を活用して，質問や感想を記入してもらいます。 質問などは次の授業の講義内容にできるだけ反映します。

副題				担当者	江藤 正己 専任講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

社会における情報技術の役割や位置づけを知る
 コンピュータネットワークやホームページに関する基礎的な知識を身につける
 検索システムの仕組みを理解し、その動作の基礎的な部分を擬似的に再現できるようになる
 図書館業務に関する情報技術を類別し、それらの内容を説明できるようになる

〔授業の内容〕

第4セメスター以降に在籍する学生を対象とする(科目等履修生は、第2学年第2学期以降)。
 まず、身のまわりにどのような情報システムが存在するか、現代社会において情報技術がどのような意味を持っているのかを見直すことから始める。その後、「ホームページを閲覧する」「ウェブ上で検索をおこなう」など、多くの人が日常的におこなう行動の裏側で、どのような情報技術や仕組みが働いているのかを説明する。特に、核となる箇所については、PCを用いた演習の形式をとる。その他、図書館業務に特化した情報システムや技術的トピックについても適宜とりあげて解説する。

〔教材〕

参考書：森大二郎『検索エンジンはなぜ見つけるのか』日経BP社、2011年
 松村真宏、三浦麻子『人文・社会科学のためのテキストマイニング』改訂新版、誠信書房、2014年

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に授業用サイトに目を通しておくこと。
 授業で用いたソフトウェアの使い方について復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常点(30%)、演習課題(40%)、レポート(20%)、小テスト(10%)
 ただし、欠席回数が4回を超えた場合、成績評価の対象としない。

〔備考〕

履修者の人数制限をおこなうことがある。初回授業には出席すること(出席できない場合は、必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと)。
 小テストは、最終授業日に実施予定。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 身のまわりの情報システム
- 第2週 情報技術と社会
- 第3週 コンピュータシステムの管理と情報セキュリティ
- 第4週 コンピュータネットワーク (1)
- 第5週 コンピュータネットワーク (2)
- 第6週 ホームページによる情報の発信 (1)
- 第7週 ホームページによる情報の発信 (2)
- 第8週 検索システム(データベース・検索エンジン)の仕組み (1)
- 第9週 検索システム(データベース・検索エンジン)の仕組み (2)
- 第10週 検索システム(データベース・検索エンジン)の仕組み (3)
- 第11週 図書館における情報技術の活用の現状と最新動向
- 第12週 図書館業務システム
- 第13週 電子資料の管理技術
- 第14週 デジタルアーカイブ
- 第15週 理解度の確認、まとめ

副題				担当者	江藤 正己 専任講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	1

〔授業の到達目標〕

社会における情報技術の役割や位置づけを知る
 コンピュータネットワークやホームページに関する基礎的な知識を身につける
 検索システムの仕組みを理解し、その動作の基礎的な部分を擬似的に再現できるようになる
 図書館業務に関する情報技術を類別し、それらの内容を説明できるようになる

〔授業の内容〕

第4セメスター以降に在籍する学生を対象とする(科目等履修生は、第2学年第2学期以降)。
 まず、身のまわりにどのような情報システムが存在するか、現代社会において情報技術がどのような意味を持っているのかを見直すことから始める。その後、「ホームページを閲覧する」「ウェブ上で検索をおこなう」など、多くの人が日常的におこなう行動の裏側で、どのような情報技術や仕組みが働いているのかを説明する。特に、核となる箇所については、PCを用いた演習の形式をとる。その他、図書館業務に特化した情報システムや技術的トピックについても適宜とりあげて解説する。

〔教材〕

参考書：森大二郎『検索エンジンはなぜ見つけるのか』日経BP社、2011年
 松村真宏、三浦麻子『人文・社会科学のためのテキストマイニング』改訂新版、誠信書房、2014年

〔準備学習(予習・復習)の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に授業用サイトに目を通しておくこと。
 授業で用いたソフトウェアの使い方について復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常点(30%)、演習課題(40%)、レポート(20%)、小テスト(10%)
 ただし、欠席回数が4回を超えた場合、成績評価の対象としない。

〔備考〕

履修者の人数制限をおこなうことがある。初回授業には出席すること(出席できない場合は、必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと)。
 小テストは、最終授業日に実施予定。

〔授業計画〕

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1週 | 身のまわりの情報システム |
| 第2週 | 情報技術と社会 |
| 第3週 | コンピュータシステムの管理と情報セキュリティ |
| 第4週 | コンピュータネットワーク (1) |
| 第5週 | コンピュータネットワーク (2) |
| 第6週 | ホームページによる情報の発信 (1) |
| 第7週 | ホームページによる情報の発信 (2) |
| 第8週 | 検索システム(データベース・検索エンジン)の仕組み (1) |
| 第9週 | 検索システム(データベース・検索エンジン)の仕組み (2) |
| 第10週 | 検索システム(データベース・検索エンジン)の仕組み (3) |
| 第11週 | 図書館における情報技術の活用の現状と最新動向 |
| 第12週 | 図書館業務システム |
| 第13週 | 電子資料の管理技術 |
| 第14週 | デジタルアーカイブ |
| 第15週 | 理解度の確認、まとめ |

副題				担当者	越塚 美加 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	1

〔授業の到達目標〕

図書館で提供する基本的なサービスについて理解し、コミュニティの中の図書館の役割について明確な考えを持つ。

〔授業の内容〕

図書館は、その館種によってサービス対象やサービス内容、扱う資料の種類が大きく異なっている。この授業では、公立図書館におけるサービスを中心にその基本構成及び最新の状況について議論する。公立図書館に限らず、図書館界は社会状況を反映して大きく変動している時期にあたっており、この授業を受講した後も自ら知識を最新のものに保つ必要がある。

利用者によりよいサービスを提供するために、資料を、収集、組織化、保存、管理し、利用者の要求にできる限りこたえようとする点は館種を問わず共通しており、この「サービスの精神」は、図書館員の資質として重要なものの一つである。

本科目では、図書館サービスの意義と利用者に対する多様なサービスについて理解を深め、基本的な知識を習得することを目的とする。また、館種による利用者像、近年見られるさまざまな分野に焦点を当てた新しい情報提供サービス、国際的にも注目されている著作権問題、図書館間ネットワークの動向や新しいサービスを展開していく上で不可欠な他機関との協力の可能性について議論する。

〔教材〕

参考書：宮部頼子編『図書館サービス概論』（現代図書館情報学シリーズ）樹村房、2012年
日本図書館協会『図書館年鑑(購入不要)』最新版、日本図書館協会
本講義では、基本的に教科書に基づいて進めていく。必要に応じてプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時間内に示すさまざまな図書館サービスについて、文献を読んだり、ウェブページを確認したり、また実際に図書館訪問をすることによって確認することによって復習することを求める。

〔成績評価の方法〕

平常点（4割）（授業中に数回ビデオを見てそれに関する考察等のレポートを求める）及び期末レポート（6割）による。

〔備考〕

欠席した場合は次週までに必ず配布資料の有無をサポートセンターで確認し、必要に応じて資料を受け取ること。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 図書館でサービスを提供するということ
- 第2週 図書館法といわゆる「望ましい基準」
- 第3週 利用者のためのサービス：さまざまな館種と利用者
- 第4週 テクニカルサービスとパブリックサービス
- 第5週 貸出サービスの現在
- 第6週 情報提供サービス
- 第7週 図書館の文化活動、図書館の広報
- 第8週 利用者別に見たサービスの種類と留意点：障害者サービスと高齢者サービス
- 第9週 利用者別に見たサービスの種類と留意点：児童サービスと多文化サービス
- 第10週 国内外の図書館間ネットワーク
- 第11週 課題解決型サービス1
- 第12週 課題解決型サービス2
- 第13週 著作権法と図書館サービス1
- 第14週 著作権法と図書館サービス2
- 第15週 現代の図書館と図書館員

副 題					担 当 者	江藤 正己 専任講師	
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	月	時 限	2

〔授業の到達目標〕

図書館における情報サービスの意義と種類について理解する
 レファレンスサービスや情報検索サービスの基礎的事項を身につける
 インターネット普及後の新たな利用者支援の枠組みを知る
 どのような情報源が存在するのか把握する

〔授業の内容〕

「レファレンスサービス演習」や「情報検索演習」の科目に対する導入的意味を持たせながら、図書館の情報サービスについて、講義を主体に進めていく。まず、多くの履修者にとって最も身近であろう発信型情報サービスからはじめる。次に、インターネット普及後の新たな図書館の利用者支援の形を説明する。その後、情報サービスの中心的な役割であるレファレンスサービスや情報検索サービスを取りあげ、最後に各種の情報源について解説する。

〔教材〕

教科書：田村俊作『情報サービス論』（新現代図書館学講座）新訂版，東京書籍，2010年
 参考書：井上真琴『図書館に訊け!』（ちくま新書）筑摩書房，2004年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に教科書に目を通しておくこと。
 授業でとりあげた図書館の情報サービスについて、実際にみでみること。

〔成績評価の方法〕

複数回のレポート（授業内実施も含む）(60%)，期末試験(40%)

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 社会の情報化と図書館サービス
- 第2週 発信型情報サービス
- 第3週 社会における検索の位置づけ
- 第4週 新しい技術を使ったサービス
- 第5週 資料の電子化に応じたサービス
- 第6週 情報リテラシー教育
- 第7週 個別支援型サービス
- 第8週 レファレンスサービスの発展と情報サービスへの展開
- 第9週 レファレンス質問
- 第10週 レファレンス事例の活用
- 第11週 情報探索・利用環境の整備
- 第12週 情報サービスの管理と運営
- 第13週 情報源の整備(特質と利用法，及び組織化)
- 第14週 各種情報源の解説と評価
- 第15週 まとめ

副題				担当者	山口 雅子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

図書館活動における児童サービスの意義を理解し、実際に児童資料を手に取り、演習を行うことによって、具体的な仕事のイメージをつかむ。

〔授業の内容〕

児童に対する図書館活動は、成人を対象としたものとは、別の専門性も必要とする。ここでは、まず、日本の児童図書館の歴史を、日本及び欧米の児童文学の発達と対照しつつ辿り、児童図書館の存在の意味と、児童サービスの意義を確認する。その上で、乳幼児からヤングアダルトまでという、幅広い利用者を対象とした資料や、年齢層別の選書、サービスの在り方について解説。また、保健所や学校など関連施設との連携、協力によるサービスについても言及する。読書を助けるための様々なサービス（主として、絵本の読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリング）については、その基本を学ぶと共に、なぜそれが必要なのかについても考える。

〔教材〕

授業中に追って指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

演習の準備、レポート作成のために、必ず一度は公共図書館の児童室を訪問すること。
演習に臨むには、相応の準備が必要であることを心得ておくこと。

〔成績評価の方法〕

演習(50%)とレポート(50%)によって評価する。(学期末試験は行わない。)

〔備考〕

受講希望者数によって人数制限をすることがある。

司
書
課
程

〔授 業 計 画〕

第1週	序・子供の頃の図書館体験や読書体験を思い出してみる、他
第2週	日本と欧米の児童文学史及び児童図書館の発達について
第3週	ク
第4週	子供と読書 ・ 児童サービスの意義
第5週	子供の成長と児童資料（ブックスタートからヤングアダルトまで）
第6週	児童図書館員の仕事と役割
第7週	選書
第8週	蔵書構成と選書 ・ レファレンス
第9週	児童サービスの技術と実際（絵本の読み聞かせ）
第10週	児童サービスの技術と実際（ブックトーク、紹介文、その他）
第11週	児童サービスの技術と実際（ストーリーテリング）
第12週	資料の紹介及び評価／絵本・幼年文学（学生による絵本の読み聞かせとブックトークを含む）
第13週	資料の紹介及び評価／昔話・小学初級・中級向け創作（学生によるブックトークを含む）
第14週	資料の紹介および評価／小学上級・ヤングアダルト向け創作及びノンフィクション全般（学生によるブックトークを含む）
第15週	まとめと解説

授業内に、絵本の読み聞かせ、ブックトークの演習を課すので、積極的に参加してほしい。

副題					担当者	山口 雅子 講師	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2

〔授業の到達目標〕

図書館活動における児童サービスの意義を理解し、実際に児童資料を手に取り、演習を行うことによって、具体的な仕事のイメージをつかむ。

〔授業の内容〕

児童に対する図書館活動は、成人を対象としたものとは、別の専門性も必要とする。ここでは、まず、日本の児童図書館の歴史を、日本及び欧米の児童文学の発達と対照しつつ辿り、児童図書館の存在の意味と、児童サービスの意義を確認する。その上で、乳幼児からヤングアダルトまでという、幅広い利用者を対象とした資料や、年齢層別の選書、サービスの在り方について解説。また、保健所や学校など関連施設との連携、協力によるサービスについても言及する。読書を助けるための様々なサービス（主として、絵本の読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリング）については、その基本を学ぶと共に、なぜそれが必要なのかについても考える。

〔教材〕

授業中に追って指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

演習の準備、レポート作成のために、必ず一度は公共図書館の児童室を訪問すること。演習に臨むには、相応の準備が必要であることを心得ておくこと。

〔成績評価の方法〕

演習(50%)とレポート(50%)によって評価する。(学期末試験は行わない。)

〔備考〕

受講希望者数によって人数制限をすることがある。

〔授 業 計 画〕

第1週	序・子供の頃の図書館体験や読書体験を思い出してみる、他
第2週	日本と欧米の児童文学史及び児童図書館の発達について
第3週	ク
第4週	子供と読書 ・ 児童サービスの意義
第5週	子供の成長と児童資料（ブックスタートからヤングアダルトまで）
第6週	児童図書館員の仕事と役割
第7週	選書
第8週	蔵書構成と選書 ・ レファレンス
第9週	児童サービスの技術と実際（絵本の読み聞かせ）
第10週	児童サービスの技術と実際（ブックトーク、紹介文、その他）
第11週	児童サービスの技術と実際（ストーリーテリング）
第12週	資料の紹介及び評価／絵本・幼年文学（学生による絵本の読み聞かせとブックトークを含む）
第13週	資料の紹介及び評価／昔話・小学初級・中級向け創作（学生によるブックトークを含む）
第14週	資料の紹介および評価／小学上級・ヤングアダルト向け創作及びノンフィクション全般（学生によるブックトークを含む）
第15週	まとめと解説

授業内に、絵本の読み聞かせ、ブックトークの演習を課すので、積極的に参加してほしい。

副題					担当者	江藤 正己 専任講師	
単位	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	1

〔授業の到達目標〕

演習課題を数多く解くことにより、情報検索に関する実践的な能力を身につける
 個別システムの操作方法を習熟する
 今後開発される新しい検索システムにも対応できるようになる
 図書館がおこなっている発信型の情報サービスについて知る

〔授業の内容〕

第4セメスター以降に在籍する学生を対象とする(科目等履修生は、第2学年第2学期以降)。
 まず、身近な検索システムであるサーチエンジンを使って情報検索の考え方を説明する。その後、情報検索システムの理論に関する解説をまじえながら、図書や雑誌を対象とした検索方法や各種データベースの使い方をみていく。
 各授業は、基本的に、前半がシステムの概要や検索技術の説明、後半が検索課題を用いた演習となる。なお、授業時間中に終わらなかった課題は宿題になる。

〔教材〕

参考書：藤田節子『キーワード検索がわかる』（ちくま新書）筑摩書房，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に授業用サイトに目を通しておくこと。
 返却された課題を復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常点(30%)，課題(60%)，小テスト(10%)
 ただし、欠席回数が4回を超えた場合、成績評価の対象としない。

〔備考〕

履修人数制限をおこなうことがあるため初回授業に出席すること（出席できない場合は、必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと）。
 小テストは、最終授業日に実施予定。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 情報検索の基礎
- 第2週 サーチエンジン
- 第3週 大学図書館のOPAC
- 第4週 NDL-OPAC
- 第5週 件名を使った検索
- 第6週 検索サービスの評価
- 第7週 雑誌記事(電子ジャーナルを含む)
- 第8週 シソーラスを使った検索
- 第9週 書誌ユーティリティー
- 第10週 一般雑誌記事・新聞記事
- 第11週 各種情報源の特徴と選択方法
- 第12週 検索技術の最新動向
- 第13週 その他の検索
- 第14週 パスファインダー
- 第15週 理解度の確認、まとめ

副題					担当者	江藤 正己 専任講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	

〔授業の到達目標〕

演習課題を数多く解くことにより、情報検索に関する実践的な能力を身につける
 個別システムの操作方法を習熟する
 今後開発される新しい検索システムにも対応できるようになる
 図書館がおこなっている発信型の情報サービスについて知る

〔授業の内容〕

第4 Semester以降に在籍する学生を対象とする(科目等履修生は、第2学年第2学期以降)。
 まず、身近な検索システムであるサーチエンジンを使って情報検索の考え方を説明する。その後、情報検索システムの理論に関する解説をまじえながら、図書や雑誌を対象とした検索方法や各種データベースの使い方をみていく。
 各授業は、基本的に、前半がシステムの概要や検索技術の説明、後半が検索課題を用いた演習となる。なお、授業時間中に終わらなかった課題は宿題になる。

〔教材〕

参考書：藤田節子『キーワード検索がわかる』（ちくま新書）筑摩書房，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に授業用サイトに目を通しておくこと。
 返却された課題を復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常点(30%)，課題(60%)，小テスト(10%)
 ただし、欠席回数が4回を超えた場合、成績評価の対象としない。

〔備考〕

履修人数制限をおこなうことがあるため初回授業に出席すること（出席できない場合は、必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと）。
 小テストは、最終授業日に実施予定。

〔授業計画〕

- 第1週 情報検索の基礎
- 第2週 サーチエンジン
- 第3週 大学図書館のOPAC
- 第4週 NDL-OPAC
- 第5週 件名を使った検索
- 第6週 検索サービスの評価
- 第7週 雑誌記事(電子ジャーナルを含む)
- 第8週 シソーラスを使った検索
- 第9週 書誌ユーティリティ
- 第10週 一般雑誌記事・新聞記事
- 第11週 各種情報源の特徴と選択方法
- 第12週 検索技術の最新動向
- 第13週 その他の検索
- 第14週 パスファインダー
- 第15週 理解度の確認、まとめ

副題					担当者	越塚 美加 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	1	

〔授業の到達目標〕

基本的なレファレンスツールについて理解し、具体的な演習を通じて適切に活用できるようにする。

〔授業の内容〕

* 「レファレンスサービス演習B」と同じ内容

最初にレファレンスサービスの概要を簡単に解説し、情報サービスに用いる資料の多様性が増す中、各資料の特性を踏まえ、課題に応じて適切に活用する必要があることについて理解を深める。その後、テーマ別にどのような資料を使い、調査できるかを演習を通じて修得する。演習の評価は提出されたレポートをできる限り詳細に取り上げながら解説を加えていく。この解説を通じて、課された課題に対する正答やその他、利用可能な情報源についての知識だけでなく、利用者にとってどのように回答を提示することが望ましいかについての理解を深めていく。

〔教材〕

教科書：田村俊作『新訂情報サービス論』（新現代図書館学講座）新訂版，東京書籍，2010年
参考書：長澤雅男；石黒祐子『レファレンスブック：選びかた・使いかた』新訂版，日本図書館協会，2015年

教科書に基づいて授業を行うので、必携のこと。（江藤先生ご担当「情報サービス論」と兼用）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に説明した分野について、課題を授業時間外に行い、それをレポートして提出することを求める。提出翌週の授業で答え合わせをするが、自分が割り当てられた課題以外については、きちんと復習すること。

〔成績評価の方法〕

課題（8回 56点）、試験（44点）。

〔備考〕

欠席した週の配布資料をサポートセンターで受け取り、期日通り課題を提出すること。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1週 | 情報サービスとは |
| 第2週 | レファレンス情報資源の種類 |
| 第3週 | レファレンスコレクションの構築 |
| 第4週 | レファレンスプロセス：レファレンスインタビューの重要性 |
| 第5週 | 書誌事項に関する決まり、実際の読み方、書き方 |
| 第6週 | 図書の探し方 |
| 第7週 | 雑誌に関する情報源 |
| 第8週 | 新聞に関する情報源 |
| 第9週 | 百科事典、言葉の情報源 |
| 第10週 | 人物・団体に関する情報源 |
| 第11週 | 地名に関する情報源 |
| 第12週 | 歴史・日時に関する情報源 |
| 第13週 | 図書・叢書に関する情報源および翻訳書誌 |
| 第14週 | 統計の情報源および白書 |
| 第15週 | まとめ |

副題					担当者	越塚 美加 教授	
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2

〔授業の到達目標〕

基本的なレファレンスツールについて理解し、具体的な演習を通じて適切に活用できるようにする。

〔授業の内容〕

* 「レファレンスサービス演習A」と同じ内容

最初にレファレンスサービスの概要を簡単に解説し、情報サービスに用いる資料の多様性が増す中、各資料の特性を踏まえ、課題に応じて適切に活用する必要があることについて理解を深める。その後、テーマ別にどのような資料を使い、調査できるかを演習を通じて修得する。演習の評価は提出されたレポートをできる限り詳細に取り上げながら解説を加えていく。この解説を通じて、課された課題に対する正答やその他、利用可能な情報源についての知識だけでなく、利用者にとってどのように回答を提示することが望ましいかについての理解を深めていく。

〔教材〕

教科書：田村俊作『新訂情報サービス論』（新現代図書館学講座）新訂版，東京書籍，2010年
参考書：長澤雅男；石黒祐子『レファレンスブックス：選びかた・使いかた』新訂版，日本図書館協会，2015年

教科書に基づいて授業を行うので、必携のこと。（江藤先生ご担当「情報サービス論」と兼用）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に説明した分野について、課題を授業時間外に行い、それをレポートして提出することを求める。提出翌週の授業で答え合わせをするが、自分が割り当てられた課題以外については、きちんと復習すること。

〔成績評価の方法〕

課題（8回 56点），試験（44点）。

〔備考〕

欠席した週の配布資料をサポートセンターで受け取り，期日通り課題を提出すること。

〔授業計画〕

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1週 | 情報サービスとは |
| 第2週 | レファレンス情報資源の種類 |
| 第3週 | レファレンスコレクションの構築 |
| 第4週 | レファレンスプロセス：レファレンスインタビューの重要性 |
| 第5週 | 書誌事項に関する決まり，実際の読み方，書き方 |
| 第6週 | 図書館の探し方 |
| 第7週 | 雑誌に関する情報源 |
| 第8週 | 新聞に関する情報源 |
| 第9週 | 百科事典，言葉の情報源 |
| 第10週 | 人物・団体に関する情報源 |
| 第11週 | 地名に関する情報源 |
| 第12週 | 歴史・日時に関する情報源 |
| 第13週 | 図書・叢書に関する情報源および翻訳書誌 |
| 第14週 | 統計の情報源および白書 |
| 第15週 | まとめ |

副題				担当者	越塚 美加 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	1

〔授業の到達目標〕

図書館で扱う情報資源の多様性や個々の特徴、それらを図書館でどのように収集・提供するかについて理解する。

〔授業の内容〕

図書館では、さまざまな形態の資料を図書館資料として扱っており、近年、その多様化はますます進んでいる。特に、電子メディア及びネットワークは図書館資料の枠組みを大きく変えることになった。これは、資料の多様性の問題だけではなく、図書館員の知識や技能の範囲の拡大、経済性、法的な枠組みの変化といった問題と密接に結びついている。

本科目では、図書館で扱われる多様なメディアの特性を、それらの出版・流通経路、図書館における蔵書構築及び評価方法、媒体の劣化や経済性を視野に入れた保存法等について広く理解することを目的とする。また、それらのメディアを扱うための図書館員の技能についても考えていく。

〔教材〕

参考書：平野英俊ほか『図書館情報資源概論』（現代図書館情報学シリーズ）樹村房，2012年
教科書は特に用いないが、授業の大筋は参考書としてあげた文献に基づくので、予習や復習に役立ててほしい。授業中にプリントを配布する他、参考書を適宜挙げていく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

利用したことがないメディアについて、あるいはそれらの利用法について授業中に言及することが多いので、授業時間外に実際に確認して復習し、それらの特徴の習得に努めること。

〔成績評価の方法〕

平常点（3割）（授業中にビデオを見た場合にレポートを求めたり、あるトピックについての意見を授業時間内にレポートとして求めたりする）及び期末レポート（7割）

〔備考〕

欠席した場合は、次週までにサポートセンターで配布資料の有無を確認して受け取っておくこと。

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|------------------------|
| 第1週 | 図書館資料の多様性 |
| 第2週 | 図書館資料の出版と流通 |
| 第3週 | 図書館における知的自由 |
| 第4週 | 図書資料 |
| 第5週 | 図書資料2 |
| 第6週 | 逐次刊行物1 |
| 第7週 | 逐次刊行物2 |
| 第8週 | 電子媒体資料1 |
| 第9週 | 電子媒体資料2 |
| 第10週 | 行政資料と郷土資料 |
| 第11週 | 障害者のための図書館資料と再生装置 |
| 第12週 | メディアの劣化と保存（マイクロ資料・光媒体） |
| 第13週 | コレクション構築の仕組みと手法 |
| 第14週 | コレクションの評価 |
| 第15週 | 図書館資料をめぐる社会的な動き |

副 題				担 当 者	木村 麻衣子 講師		
単 位	2	開講期間	秋学期	曜 日	火	時 限	1

〔授業の到達目標〕

図書館が、図書館資料をどのように組織してきたかという歴史を踏まえ、目録作成及び内容に着目した分類や件名標目の付与の必要性、書誌ユーティリティ形成の必要性を理解する。また、図書館資料はメディアの発展に伴ってその形を変えてきたこと、国際協力が古くからおこなわれてきた分野であること、現在の電子資料の多様化、一般化に伴い、目録世界がまさに変化しつつあることを理解する。

〔授業の内容〕

目録作成の歴史、書誌コントロールや典拠コントロールの実際、利用者にとっての目録について、講義する。また、内容からの検索を可能にするための方策として、分類や件名を用いた主題目録の基礎を概説する。さらに、新たな方向性としてのメタデータの考え方について、国際的な動きを踏まえ議論する。

〔教材〕

参考書：田窪直規編『情報資源組織論』（現代図書館情報学シリーズ）樹村房，2011年
 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』第4版，丸善，2013年
 教科書は特に指定しない。プリントを配布する。欠席した場合は、翌週までにサポートセンターにて受領し、授業に持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

1. 図書館でOPACを使って資料を探してみること。
2. OPACの書誌画面にどのような情報が含まれているか気をつけて見てみること。

〔成績評価の方法〕

平常点（50%）、小テスト2回（50%）による。
 ただし、原則として、欠席回数が5回以上となった場合、成績評価の対象としない。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 情報資源の組織化とは
- 第2週 図書館における資料組織
- 第3週 図書館目録の機能と歴史1
- 第4週 図書館目録の機能と歴史2
- 第5週 典拠コントロール
- 第6週 資料組織における国際的な協力体制
- 第7週 記述目録法まとめ
- 第8週 情報資源への主題からのアプローチ
- 第9週 図書館における分類記号の必要性
- 第10週 図書館資料の検索におけるキーワードの役割
- 第11週 シソーラスの構成概念
- 第12週 FRBRの基本概念
- 第13週 メタデータという考え方
- 第14週 新時代の目録
- 第15週 理解度の確認、まとめ

副題				担当者	木村 麻衣子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2

〔授業の到達目標〕

図書館における目録規則を理解し、『日本目録規則1987年版改訂3版』にもとづく目録作成を実際に行えることを目標とする。カード目録のほか、MARC 21書誌フォーマットも理解し、記述できるようにする。

〔授業の内容〕

情報資源組織演習のうち、主として目録作成演習を扱う。『日本目録規則1987年版改訂3版』に基づいたさまざまな資料に対する目録作成演習を行う。

〔教材〕

教科書：和中幹雄，山中秀夫，横谷弘美『情報資源組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズIII）日本図書館協会，2014年

参考書：日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則1987年版改訂3版』日本図書館協会，2006年

教科書は必ず準備すること。昨年度まで使用していたものとは異なるので注意すること。

参考書に挙げた『日本目録規則1987年版改訂3版』は授業中、適宜参照するためサポートセンターで貸与するが、十分な数を準備できていないので、二人で一冊を使用するようにしてほしい。

授業を休んだ場合は、次週までにサポートセンターで配布資料の有無を確認し、必要に応じて受け取ること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に教科書に目をとおしておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席（30%），課題の達成度（35%），小テスト（35%）による。

ただし、原則として、欠席回数が5回以上となった場合、成績評価の対象としない。

〔備考〕

グループ分けをして演習を行うことがあるので、やむをえない事情（電車の遅延など）がある場合を除き遅刻は認めない。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 目録とは何か
- 第2週 『日本目録規則1987年版改訂3版』の解説1
- 第3週 『日本目録規則1987年版改訂3版』の解説2
- 第4週 エリアごとの記述1
- 第5週 書誌階層
- 第6週 エリアごとの記述2
- 第7週 タイトルと責任表示エリア詳説
- 第8週 各種資料の記述1
- 第9週 各種資料の記述2
- 第10週 標目と典拠コントロール
- 第11週 カード目録の作成
- 第12週 JAPAN/MARC MARC21フォーマットの解説
- 第13週 JAPAN/MARC MARC21フォーマットでの書誌レコード作成
- 第14週 英米目録規則第2版(AACR2)とRDA
- 第15週 理解度の確認、まとめ

副 題					担 当 者	木村 麻衣子 講師	
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	火	時 限	2

〔授業の到達目標〕

「情報資源組織論」で学んだ主題分析に基づく情報資源組織化の理論と技術への理解を深める。分類法や索引法について、演習を通して深く学び、情報資源組織業務について実践的な能力を身につける。電子資料とネットワーク情報源が増大した現代における主題目録法の役割や効果について、自分なりの意見を述べられるようになる。

〔授業の内容〕

主題目録法（分類法と索引法）による情報資源の組織化を演習形式で扱う。まず、図書等の紙媒体資料に対して分類と件名を付与する演習をそれぞれ行う。分類付与の演習では日本十進分類法を、件名付与の演習では基本件名標目表を用いる。その後、分類記号を使って請求記号を付与する方法についても学び、一つの資料に対して分類・件名・請求記号を付与する総合的な情報資源組織化の演習を行う。

〔教材〕

教科書：和中幹雄，山中秀夫，横谷弘美『情報資源組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズIII）日本図書館協会，2014年
 教科書は必ず準備すること。昨年度まで使用していた教科書とは異なるので注意すること。日本十進分類法や基本件名標目表は大学に備え付けのものを貸与する。
 授業を休んだ場合は、次週までにサポートセンターで配布資料の有無を確認し、必要に応じて受け取ること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に教科書に目をとっておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席（30%），課題の達成度（35%），小テスト2回（35%）による。
 ただし、原則として、欠席回数が5回以上となった場合、成績評価の対象としない。

〔備考〕

グループ分けをして演習を行うことがあるので、やむをえない事情（電車の遅延など）がある場合を除き遅刻は認めない。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 図書館情報資源における主題目録法の役割
- 第2週 さまざまな分類法
- 第3週 日本十進分類法の概要
- 第4週 補助表（区分）
- 第5週 日本十進分類法を用いた分類の演習（1）
- 第6週 日本十進分類法を用いた分類の演習（2）
- 第7週 日本十進分類法を用いた分類の演習（3）
- 第8週 分類法のまとめ
- 第9週 索引法（主要な統制語彙）
- 第10週 基本件名標目表の概要
- 第11週 基本件名標目表を用いた件名作業の演習（1）
- 第12週 基本件名標目表を用いた件名作業の演習（2）
- 第13週 請求記号の付与
- 第14週 情報資源組織化の総合演習
- 第15週 理解度の確認，まとめ

副題				担当者	江藤 正己 専任講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	1

〔授業の到達目標〕

「図書館情報技術論」の科目で学んだ図書館に関わる情報技術の理解をさらに深める
 Webやデータベースに関する技術を組み合わせた情報発信ができる
 今後の情報技術の発展における図書館の位置づけを予測できる

〔授業の内容〕

第5 Semester以降に在籍する学生を対象とする(科目等履修生は、第3学年第1学期以降)。
 Webやデータベースを中心とした情報技術について、PCを用いた演習の形式でおこなう授業である。主としてWeb上で配布・公開されている素材(テンプレートやプログラム・ソフトウェア、API等)を用いて、図書館ホームページやそのコンテンツ(新着雑誌記事速報など動的に変化するものも含む)の構築をおこなう。国立国会図書館が運営するデータベース等の図書館関連のAPIだけでなく、Twitterなど一般的な情報システムが提供しているAPIも扱い、広い観点から図書館に関わる情報技術を解説する。

〔教材〕

参考書：牧野雄二，川嶋斉『新着雑誌記事速報から始めてみよう：RSS・APIを活用した図書館サービス』（JLA図書館実践シリーズ）日本図書館協会，2012年
 松村真宏，三浦麻子『人文・社会科学のためのテキストマイニング』改訂新版，誠信書房，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に授業用サイトに目を通しておくこと。
 授業で用いたソフトウェアについて復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常点(30%)，演習課題(50%)，レポート(20%)
 ただし，欠席回数が4回を超えた場合，成績評価の対象としない。

〔備考〕

プログラミングに関する知識は不要であるが「図書館情報技術論」の科目内容を理解している(≒単位を修得済みである)ことを前提に授業を展開する。
 履修者の人数制限をおこなうことがある。初回授業には出席すること(出席できない場合は、必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと)。

司
書
課
程

〔授 業 計 画〕

- 第1週 情報技術を活用した図書館サービス
- 第2週 Web技術に関する基礎事項の確認(1)
- 第3週 Web技術に関する基礎事項の確認(2)
- 第4週 マッシュアップ技術を用いた情報システム
- 第5週 新着雑誌記事速報の作成(1)
- 第6週 新着雑誌記事速報の作成(2)
- 第7週 特定トピックナビゲーションシステムの作成(1)
- 第8週 特定トピックナビゲーションシステムの作成(2)
- 第9週 オープンデータと図書館
- 第10週 国立国会図書館サーチAPIの活用(1)
- 第11週 国立国会図書館サーチAPIの活用(2)
- 第12週 Twitter APIの活用(1)
- 第13週 Twitter APIの活用(2)
- 第14週 Twitter APIの活用(3)
- 第15週 まとめ

副題	書物と図書館の成り立ち			担当者	白戸 満喜子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

漢籍(中国の古書)・和古書・洋古書に関する基礎用語を理解し、古書と図書館に関する知識を習得することが到達目標である。

〔授業の内容〕

図書館において保存・公開される書物と図書館という施設に関して、中国・日本・西洋のそれぞれにおいてどのような歴史をたどったかについて講義する。特に日本の書物の成り立ちについては形態・生産・流通・制度に関する歴史的発展を概説し、和古書の取り扱い方と修復についても講義する。

〔教材〕

教科書：梶笥節夫『書庫渉獵』おうふう
 参考書：廣庭基介 長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』世界思想社
 藤井隆『日本古典書誌学総説』和泉書院
 陳國慶『漢籍版本入門』研文出版
 折田洋晴『インキュナブラの世界』日本図書館協会
 高野彰『洋書の話』丸善
 ジョン・カーター『西洋書誌学入門』国書出版社
 モーリーン・サワ『本と図書館の歴史』西村書店

教科書『書庫渉獵』は授業時に随時参考とするが購入は必須としない。

授業で扱う和古書・漢籍に関する書誌学用語については『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店）を参考にするとよい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

あらかじめ日本史・世界史の基礎知識を確認しておくこと。（参考：『歴史手帳』吉川弘文館）

復習は各内容に合わせて教科書もしくは参考書を一読すること。

〔成績評価の方法〕

出席20% 学年末試験80%

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 書誌学とは何か
- 第2週 漢籍と目録学
- 第3週 中国の図書館史
- 第4週 和古書の装訂
- 第5週 和古書の書型
- 第6週 版本の部分名称
- 第7週 洋古書の構成と部分名称
- 第8週 洋古書の書型と東洋の本との異同
- 第9週 紙以前の書写材料と製紙技術
- 第10週 印刷技術の伝播
- 第11週 活版印刷の登場と書物の大量生産
- 第12週 西洋の図書館史
- 第13週 日本の印刷・出版史
- 第14週 日本の図書館史
- 第15週 古書の取り扱い方と保存・修復

授業計画は進行順であり、実施週とは一致しない場合もある。

副題				担当者	越塚 美加 教授		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1

〔授業の到達目標〕

図書館を利用者が自分で自由に使えるようにするために図書館側が考慮すべき大きな要素としての最近の図書館利用者に対する理解を深める。また、自学自習による長期滞在型の利用が増加してきたことに伴い、図書館の物理的な構造や探索を助けるための各種ツールが必要なことを理解し、図書館利用上の快適さを実現するために配慮すべき点は利用者がおかれたさまざまな状況に応じて多様であることを理解する。

〔授業の内容〕

図書館の長時間滞在者が増加する傾向が各地で報告されているが、現在の公共図書館利用者の特性について文献に報告された内容をもとに議論する。また、読書を促進するうえでも、利用者自身が生涯学習の一部として調査研究を行う場合であっても、図書館の快適さは重要な要素となる。この中には、全体的な雰囲気、閲覧室や書架等の利用スペースの配置や雰囲気、照明、家具の色や形状、配置、音（騒音等）、サイン計画等も含まれるが、利用者だけでなく、そこで働く人々にとっての快適さも重要となる。図書館の中にはさまざまな機能を持つ部屋や利用者の身体的条件が多様であることから、多くの視点が必要となる。現在までの図書館建築に関する議論を踏まえ、具体的な図書館において、特にサイン計画の適切さに関連する調査を授業時間外に行い、その結果を元にグループごとに図書館の快適さについての分析及び考察を行う。この検討を通じて、図書館員としての仕事に必要な不可欠なグループワークのごく初歩的な進め方も併せて習得する。

〔教材〕

教科書は特に指定せず、雑誌論文を中心に検討を加える。取り上げる文献は授業時にコピーを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

グループワークについては、授業時間外での単独調査をもとにして進める。結果の分析時間等、グループでの準備学習が必要とされるので、十分時間をかけて行うこと。

〔成績評価の方法〕

平常点（出席3割、グループ討議への貢献等3割、合計6割）、期末レポート（4割）による。いずれが欠けても合格に達したとみなさないで、注意すること。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 図書館利用者の特性とそれに応じた図書館の快適さを模索する必要性
- 第2週 図書館利用者とは
- 第3週 近年の日本の公共図書館における利用者層の変化1
- 第4週 近年の日本の公共図書館における利用者層の変化2
- 第5週 エンベッディッド・ライブラリアンの議論に見られる利用者の変化
- 第6週 図書館の立地と利用者
- 第7週 図書館の快適さとは
- 第8週 浦安市立図書館のサインと利用しやすさに関する調査の検討1
- 第9週 浦安市立図書館のサインと利用しやすさに関する調査の検討2
- 第10週 調査結果について、グループでの検討
- 第11週 〃
- 第12週 〃
- 第13週 〃
- 第14週 調査結果の発表及び議論
- 第15週 まとめ

グループワークのための調査は授業時間外に行う必要があり、また後半はグループワークが中心になるので、積極的な貢献を求める。

学芸員課程

平成 27 年度授業科目および担当者

講 義 内 容 (シラバス)

学芸員課程 平成27年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

博物館法施行規則による科目	科目群	本学の対応授業科目	単位	履修年次	履修単位	学期	担当者	頁
博物館概論	学芸員課程必修科目	博物館概論	2	1	10 科目 19 単位	春	清水 敏男	870
博物館展示論		博物館展示論	2	1		秋集中	窪田 研二	871
博物館経営論		博物館経営論	2	2~3		春	田中 裕二	872
博物館資料論		博物館資料論	2	2~3		秋	松田 睦彦	873
博物館教育論		博物館教育論	2	2~3		春集中	黒沢 伸	874
博物館資料保存論		博物館資料保存論	2	2~4		秋	大川 美香	875
博物館情報・メディア論		博物館情報・メディア論	2	2~4		秋	安田 篤生	876
生涯学習概論		生涯学習概論	2	2~4		秋	塚原 正彦	846
博物館実習		博物館実習 I A	1	4		春集中	清水 敏男	877
		博物館実習 I B	1	4		春集中	児島やよい	878
	博物館実習 II A	2	4	秋集中	清水 敏男	879		
	博物館実習 II B	2	4	秋集中	児島やよい	880		

副 題	博物館学の基礎			担 当 者	清水 敏男 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	土	時 限	2

〔授業の到達目標〕

博物館に関する基礎的な知識を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」博物館概論ではまず博物館とは何かを理念、成立史の基本から学び、博物館の存在意義を理解する。さらに、我が国のみならず諸外国における法令、制度、組織を学び、実務を実行するうえでの基礎的知識を身につける。また学芸員について、理念、職責、実務について理論的かつ具体的に学び、専門職員としての知識を体得し自覚をもつことを目的とする。

「科目概要」西欧における博物館の歴史を説くことで博物館の概念成立の事情ならびに理念を学び、ついで日本における成立の歴史を学ぶことで理念、成立の経緯を学ぶ。我が国の博物館法ならびに関連法令、諸外国の法令を学び、定義、種類、分類、制度、組織、博物館に関わる組織等について理解する。学芸員ならびに博物館の諸職員の業務について定義から現実の業務にいたるまでその基礎的知識を身につける

〔教材〕

教科書：米屋優ほか『現代美術館学』昭和堂，2003年
 松宮秀治『ミュージアムの思想』白水社，2003年
 ジャック・サロワ『フランスの美術館・博物館』白水社，2003年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書（参考書）を熟読すること。博物館、展示会の調査を行いレポートをまとめること。

〔成績評価の方法〕

出席日数、博物館調査レポート（1000字×10本）、期末レポート（2000字）

〔備考〕

学芸員課程正規履修者となるためには、本授業ならびに「博物館展示論」の単位を履修1年目に修得しなくてはならない。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 西欧における博物館の歴史と理念1(中世末からルネッサンス，絶対王制)
- 第2週 西欧における博物館の歴史と理念2(啓蒙主義，近代)
- 第3週 日本の博物館の歴史と理念1（幕末から明治）
- 第4週 日本の博物館の歴史と理念2（大正から昭和，平成）
- 第5週 博物館法を読む1（博物館の目的，社会教育法等関連法令，博物館の定義）
- 第6週 博物館法を読む2（博物館の定義と事業：収集，保管，利用，教育等）
- 第7週 博物館法を読む3（学芸員の定義，制度，職務，学芸員以外のスタッフ）
- 第8週 博物館法を読む4（国立博物館，公立美術館と関連法令）
- 第9週 博物館法を読む5（私立博物館と民法等関連法令，NPO法人）
- 第10週 博物館法を読む6（登録博物館，相当施設，類似施設）
- 第11週 博物館の収支・税金，マネジメント，知的所有権管理，契約
- 第12週 展示，広報，出版，教育普及事業
- 第13週 企画展示会の製作の実際（企画から実施まで）
- 第14週 我が国ならびに諸外国の博物館の現状
- 第15週 まとめ（博物館学史，学芸員の責務，国際組織と国際協力）

副題				担当者	窪田 研二 講師	
単位	2	開講期間	秋学期集中	曜日		時限
<p>〔授業の到達目標〕</p> <p>展覧会が作られる流れや仕組みを学び、その中における展示の役割や重要性を認識する。</p> <p>〔授業の内容〕</p> <p>博物館展示の意義、博物館展示の実際および展示の解説活動を10回～12回の講義によって解説し、展覧会を企画する際に作成する展示企画を演習としておこない、最後の授業において各自が発表をおこなう。</p> <p>〔教材〕</p> <p>教科書：木下史青『博物館へ行こう』岩波ジュニア新書、2007年</p> <p>現在東京国立博物館のデザイン室長である著者が博物館における展示デザインについての仕事内容や、世界の博物館を例に挙げながら、展覧会が出来ていく過程を紹介している。</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕</p> <p>発表準備のための調査等に必要時間：6時間程度</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席率および発表内容を重視。</p> <p>〔備考〕</p>						

〔授業計画〕

- 第1回 コミュニケーションとしての展示
- 第2回 調査研究の成果の提示
- 第3回 展示と展示論の歴史、展示の政治性と社会性
- 第4回 展示の諸形態
- 第5回 展示の製作（企画、デザイン）
- 第6回 展示の製作（技術、施行等）
- 第7回 関係者との協力（他館、所蔵者、専門業者等）
- 第8回 展示の評価と改善・更新
- 第9回 解説文・解説パネル
- 第10回 人による解説
- 第11回 機器による解説
- 第12回 展示解説書（展示図録、パンフレット等）
- 第13回 展示計画の作成（前半）
- 第14回 展示計画の作成（後半）
- 第15回 展示計画の発表

前半は博物館・美術館における展示の歴史および諸形態を学び、展示におけるさまざまな役割や留意点を学習する。
 後半はグループワークを実施し、展覧会の企画から展示企画の立案までをおこない、最終発表会を授業内でおこなう。

副題				担当者	田中 裕二 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	土	時限	1

〔授業の到達目標〕

指定管理者制度の導入や公益法人改革など行政改革の過程で、公立博物館を取り巻く環境は厳しさを増している。潤沢な補助金に支えられていた時代から、自主的・自律的な経営判断を求められる時代となった。そこで、経営的視点からみた博物館の組織や機能を学び、学芸員として幅広い視野を持ち博物館の運営に携わることができる実践力を養う。

〔授業の内容〕

講義担当者が勤務する公立博物館の事例を中心に、日本の博物館を取り巻く社会的環境の変化、特に指定管理者制度下の博物館が抱える諸課題を検証する。人材、組織、予算や事業内容など、現場の実務に対応した内容で講義を進める。講義形式を基本とするが、出来る限り出席者が意見を述べる機会を設け、活発な議論の場としたい。また、講義の進捗状況や履修生の人数などを考慮した上で、博物館のバックヤードや施設見学を組み込む予定。

〔教材〕

教科書：佐々木亨・亀井 修『博物館経営論』放送大学教育振興会、2013年
その他の参考書については適宜授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

講義内容について指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。授業開始前までに興味のある博物館・美術館を最低1館ピックアップし、その運営主体や設立経緯を調べ、常設展または特別展を見学しておくことが望ましい。

〔成績評価の方法〕

出席点（20%）、発言（20%）、課題に基づくレポートの提出（60%）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- | | |
|------|--|
| 第1週 | 公立博物館を取り巻く環境1：なぜミュージアム・マネジメントが必要とされているのか |
| 第2週 | 公立博物館を取り巻く環境2：指定管理者制度の導入と課題 |
| 第3週 | 博物館の使命、事業計画の策定と評価 |
| 第4週 | 博物館の人材、組織、予算 |
| 第5週 | 博物館の施設、設備、危機管理 |
| 第6週 | 博物館経営の手法：広報、マーケティング、利用者調査 |
| 第7週 | 博物館における連携1：他館、大学、行政、他機関との連携 |
| 第8週 | 博物館における連携2：地域社会との連携や活性化、ボランティアや支援組織 |
| 第9週 | ミュージアムショップとレストランの経営 |
| 第10週 | 展覧会マネジメント1：展覧会の仕組み |
| 第11週 | 展覧会マネジメント2：展覧会の集客や関連事業 |
| 第12週 | ファンドレイジング1：外部資金の導入 |
| 第13週 | 海外の博物館経営：イギリスとアメリカの博物館事例紹介 |
| 第14週 | トップマネジメント：館長の役割 |
| 第15週 | 博物館経営の展望と課題：授業の総括 |

副題	人文系博物館資料を中心に			担当者	松田 陸彦 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2

〔授業の到達目標〕

博物館資料の収集、整理、保管等に関する理論や方法の習得や、博物館の調査研究活動についての理解を通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養う。

〔授業の内容〕

人文系博物館における資料、とくに歴史・民俗資料の調査・収集・保存・修復・整理・公開といった一連の流れについて、おもに担当者の経験にもとづいて講義を進める。美術資料とは異なる、歴史・民俗資料特有の課題についても、学生の皆さんとともに考えたい。

〔教材〕

参考書：大堀哲／水嶋英治『博物館学Ⅰ（博物館概論／博物館資料論）』（博物館学教科書）学文社、2012年
 国立歴史民俗博物館『被災地の博物館に聞く―東日本大震災と歴史・文化資料』吉川弘文館、2012年

教科書は講義では使用しない。したがって、事前に購入する必要はないが、適宜参考にしてほしい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

本授業では博物館資料論に関する知識のみならず、学芸員として必要とされる「ものをとおして考える力」の獲得を重視する。したがって、準備学習では授業内容についての予習・復習によって自らの疑問を明確化してほしい。準備学習の具体的内容については適宜指示する。

〔成績評価の方法〕

通常の受講態度・出席（50%）、レポート（50%）

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 博物館資料とは何か
- 第3週 資料の価値
- 第4週 国立歴史民俗博物館の展示
- 第5週 資料の収集と保存
- 第6週 資料調査の方法（1）
- 第7週 資料調査の方法（2）
- 第8週 資料調査の方法（3）
- 第9週 資料の取扱い
- 第10週 複製資料の価値と製作
- 第11週 写真による記録保存
- 第12週 映像の活用
- 第13週 資料の教育普及活動への活用
- 第14週 展示見学
- 第15週 まとめ

学外授業として、講師が勤務する国立歴史民俗博物館での展示およびバックヤード見学を行なう。

副題		担当者	黒沢 伸 講師		
単位	2	開講期間	春学期集中	曜日	時限

〔授業の到達目標〕

博物館における教育活動の歴史を踏まえ、また、現状を把握・課題を整理した上で、教育活動の目的や意義、基盤となる理論を明確なものとして理解する。

また、プログラムの実践に必要なテーマの設定やプレゼンテーション、コミュニケーションのメソッドについて理解し、課題制作を通じてそのスキルを高める。

〔授業の内容〕

ミュージアムにおける教育活動の成り立ちや変遷～現在に至る多様な展開を、具体的な事例を通して知り、通底する理念について考察、教育的機能からみたミュージアムのあり方、可能性について考える。

概論により知見を整理した上で、個々のプログラムの持つ目的やターゲット、アプローチの違い、それぞれのメソッドについて考えながら具体的なプログラムを制作し、その発表とフィードバックの中で、博物館と教育機能についての理解を深める。

〔教材〕

教科書：小笠原喜康、並木美砂子、矢島國雄『博物館教育論 新しい博物館教育を描き出す』初版、株式会社 ギョウセイ、2012年

教科書以外の参考文献は授業中に紹介、配布する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

- ・教科書については、事前に一とお目をとおしておくこと
- ・授業初日までに、任意の博物館・美術館（1カ所で良い）に実際に出向いて教育プログラム等を視察、または参加し、その報告（レポート、A4用紙1、形式自由）を作成しておくこと

〔成績評価の方法〕

出席（20）、課題作成・提出（40）、発表内容・方法（40）

〔備考〕

コンピューターを使ったプレゼンテーションを行なうので、パワーポイント等、基本的なソフトウェアの利用は必須

授業実施日は9月14（月）、15（火）、16（水）を予定

〔授業計画〕

- 第1回＜概論1＞
○博物館の利用と学び
・博物館の利用実態と利用者の博物館体験
・博物館における学びの特性
- 第2回＜課題1＞
・教育プログラムの作成のためのガイダンス
- 第3回＜課題2＞
・テーマ、目的、ターゲット設定
- 第4回＜概論2-1＞
○博物館教育の実際
・博物館教育活動の手法（館内、館外）
- 第5回＜発表1＞講評
- 第6回＜概論3＞
○博物館教育の意義と理念
・博物館教育の変遷と現状
・コミュニケーションとしての博物館教育
・生涯学習、人材養成、地域と博物館、博物館リテラシー
・博物館教育の方針と評価
- 第7回＜概論2-2＞
・博物館と学校教育、学習指導要領について
- 第8回＜課題3＞
・教育プログラムの作成と考察
- 第9回 〃 〃
- 第10回＜発表2＞講評
- 第11回＜概論2-3＞
・博物館教育活動の企画と実施
- 第12回＜課題3＞
・プレゼンテーションツールの制作
- 第13回 〃 〃
- 第14回＜発表3＞講評
- 第15回＜総括＞
○「学び」の意義について

副題					担当者	大川 美香 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	

〔授業の到達目標〕

美術館・博物館における最適な資料保存・展示・収蔵のための知識を習得することを通じて、資料の状態把握・修復から資料周辺の環境や資料の活用に至るまでの基礎的能力を養う。

〔授業の内容〕

美術館・博物館における保存に関する具体的な取り組みや美術品を中心とする資料の調査・修復の実施例により、科学的な視点で博物館における資料保存に必要な知識を学ぶ機会を提供する。

〔教材〕

教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。参考文献についてもプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

初めに配布する参考文献リストからそれぞれの回に関連する文献を選び、読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

学期末に提出する1回のレポート(50%)および出席状況(50%)により評価する。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 博物館における資料保存（ガイダンス）
 - 第2週 資料の構造
 - 第3週 資料の状態
 - 第4週 資料の科学的調査の方法
 - 第5週 資料の科学的調査の事例
 - 第6週 資料の調査（実習）
 - 第7週 資料の修復1
 - 第8週 資料の修復2
 - 第9週 資料の保存と環境
 - 第10週 資料の生物被害とIPM
 - 第11週 資料の保存対策
 - 第12週 資料と災害
 - 第13週 資料の取り扱いと輸送・梱包
 - 第14週 資料の取り扱い（実習）
 - 第15週 博物館の取り組み事例とこれから（資料活用等）
- 授業計画は変更することがある。

副題					担当者	安田 篤生 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	

〔授業の到達目標〕

博物館における情報の意義とその活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館活動における情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。

〔授業の内容〕

メディアはわれわれの日常生活の隅々にまで浸透し、デジタル情報に依存したライフスタイルが出来上がっている。今日の博物館活動においても、収集・展示・教育普及・調査研究などあらゆる面においてメディアの理解と活用・応用が求められ、そうしたメディアによる情報の管理・発信が必要になっている。主だったメディアの歴史と基本知識を振り返りつつ、メディアの時代における博物館活動を考えていきたい。

〔教材〕

教科書は使用しないが、参考文献は授業中に必要に応じて紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ノートは授業中にとるだけではなく読み返すことで、さらに必要があれば自分で調べて補完することで内容が自分のものになります。また、当然ながら、学芸員課程のほかの科目とつながっている科目なので、自分の中でそれらをリンクさせて、課程全体の内容を身につけるようにしてください。

〔成績評価の方法〕

期末試験ならびに出席状況により評価する。期末試験は自筆ノートの持込可。

〔備考〕

〔授 業 計 画〕

- 第1週 はじめに－メディアとは
- 第2週 メディア史の中から－紙と情報
- 第3週 メディア史の中から－レンズが開示する世界
- 第4週 メディア史の中から－印刷という文化
- 第5週 メディア史の中から－複製技術の時代における知覚と経験
- 第6週 メディア史の中から－視聴覚メディアの世紀
- 第7週 メディア史の中から－情報の電磁的記録化
- 第8週 デジタル時代の博物館とは
- 第9週 博物館資料のドキュメンテーションとデータベース
- 第10週 博物館の情報公開・発信・管理
- 第11週 博物館展示と情報・メディア
- 第12週 教育普及活動と情報・メディア
- 第13週 博物館活動と著作権
- 第14週 美術館とメディアアートに見る現代
- 第15週 まとめ－メディアとしての博物館

副題	博物館の実際と業務を学ぶ			担当者	清水 敏男 教授	
単位	1	開講期間	春学期集中	曜日		時限

〔授業の到達目標〕

学芸員課程で学んできたことを実務実習を通じて総合的に理解し体験，体得することを目標とする。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」博物館実習では，学内実習，館園実習を通じて博物館の現場を体験することにより，学芸員課程で学んだことを自らの体験とし，実践的実務的な素養を身につけることを目的とする。さまざまな博物館活動の実際を学び，博物館における学芸員の業務を間近で体験することで職務の実態と重要性を学ぶことが重要である。

「授業概要」春学期集中では学内実習を実施する。学内実習では歴史系，芸術系，自然科学系などさまざまな博物館を見学し多様な博物館活動の実際を理解すると同時に，学内展示施設において展覧会，教育普及事業等を企画・実施することで博物館活動を体験する。その課程において資料の調査，保管，取り扱いなどの実務を学ぶ。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

博物館美術館を調査しレポートをまとめること。アートプロジェクト等にボランティア等で参加することが推奨される。

〔成績評価の方法〕

出席日数，博物館調査レポート（1000字×10本）

〔備考〕

春学期集中講義として実施する。実施時期は初回授業で告知する。

学内実習を30時間以上実施する。

取得単位は1単位である。

〔授業計画〕

- 第1回学内実習博物館実習ガイダンス（実習の心得，館園実習事前指導等）
- 第2回学内実習博物館見学実習（歴史系博物館）
- 第3回学内実習博物館見学実習（芸術系博物館）
- 第4回学内実習展覧会企画（調査，企画会議，企画立案）
- 第5回学内実習博物館見学実習（自然科学系博物館）
- 第6回学内実習展覧会企画（作品調査・研究，作品調書の取り方，温湿度計等機材の扱い方）
- 第7回学内実習博物館見学実習（新宿区内博物館調査）
- 第8回学内実習展覧会企画（展示計画，導線計画，展示キャプション等計画・作成）
- 第9回学内実習展覧会企画（作品の取り扱い実習：額装，軸層，箱等）
- 第10回学内実習展覧会企画（教育普及事業計画）

副 題	博物館の実際と業務を学ぶ			担 当 者	児島 やよい 講師	
単 位	1	開 講 期 間	春学期集中	曜 日	時 限	

〔授業の到達目標〕

学芸員課程で学んできたことを実務実習を通じて総合的に理解し体験，体得することを目標とする。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」博物館実習では，学内実習，館園実習を通じて博物館の現場を体験することにより，学芸員課程で学んだことを自らの体験とし，実践的実務的な素養を身につけることを目的とする。さまざまな博物館活動の実際を学び，博物館における学芸員の業務を間近で体験することで職務の実態と重要性を学ぶことが重要である。

「授業概要」春学期集中では学内実習を実施する。学内実習では歴史系，芸術系，自然科学系などさまざまな博物館を見学し多様な博物館活動の実際を理解すると同時に，学内展示施設において展覧会，教育普及事業等を企画・実施することで博物館活動を体験する。その課程において資料の調査，保管，取り扱いなどの実務を学ぶ。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

博物館美術館を調査しレポートをまとめること。
アートプロジェクト等にボランティア等で参加することが推奨される。

〔成績評価の方法〕

出席日数，博物館調査レポート（1000字×10本）

〔備考〕

春学期集中講義として実施する。実施時期は初回授業で告知する。
学内実習を30時間以上実施する。
取得単位は1単位である。

〔授 業 計 画〕

- 第1回学内実習博物館実習ガイダンス（実習の心得，館園実習事前指導等）
- 第2回学内実習博物館見学実習（歴史系博物館）
- 第3回学内実習博物館見学実習（芸術系博物館）
- 第4回学内実習展覧会企画（調査，企画会議，企画立案）
- 第5回学内実習博物館見学実習（自然科学系博物館）
- 第6回学内実習展覧会企画（作品調査・研究，作品調書の取り方，温湿度計等機材の扱い方）
- 第7回学内実習博物館見学実習（新宿区内博物館調査）
- 第8回学内実習展覧会企画（展示計画，導線計画，展示キャプション等計画・作成）
- 第9回学内実習展覧会企画（作品の取り扱い実習：額装，軸層，箱等）
- 第10回学内実習展覧会企画（教育普及事業計画）

副題	博物館の実際と業務を学ぶ			担当者	清水 敏男 教授	
単位	2	開講期間	秋学期集中	曜日	時限	

〔授業の到達目標〕

学内実習における展覧会等の企画実施，学外の館園実習における学芸業務の実際を体験することで実務に関するより深い理解を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」博物館実習では，学内実習，館園実習を通じて博物館の現場を体験することにより，学芸員課程で学んだことを自らの体験とし，実践的実務的な素養を身につけることを目的とする。さまざまな博物館活動の実際を学び，博物館における学芸員の業務を間近で体験することで職務の実態と重要性を学ぶことが重要である。

「授業概要」学内実習では，学内展示施設において展覧会，教育普及事業等を企画・実施することで博物館活動を体験する。その課程において資料の調査，保管，取り扱いなどの実務を学ぶ。館園実習においては現場の学芸員の指導のもとに博物館業務の実際を学ぶ。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

博物館美術館を調査しレポートをまとめること。アートプロジェクト等にボランティア等で参加することが推奨される。

〔成績評価の方法〕

出席日数，博物館調査レポート（1000字×10本），学外の館園実習の評価

〔備考〕

秋学期集中講義として実施する。実施時期については初回授業で告知する。

学内実習は合計30時間以上を予定。

館園実習は1回あたり8時間，合計6回を予定するが，詳細は館園の指示に従う。

学内実習は1単位，学外館園実習は1単位である。

学外の館園実習は，学習院大学史料館他の博物館で行う。

〔授業計画〕

- 第1回学内実習展覧会企画（第1回学内展示会企画作業）
- 第2回学内実習展覧会企画（作品収集，作品調書，展示準備）
- 第3回学内実習展覧会企画（教育普及事業準備，展示準備）
- 第4回学内実習展覧会企画（展示作業）
- 第5回学内実習展覧会企画（教育普及事業実施）
- 第6回学内実習展覧会企画（展示撤収）
- 第7回学内実習展覧会企画（第2回学内展示会企画作業）
- 第8回学内実習展覧会企画(作品収集，作品調書，展示準備)
- 第9回学内実習展覧会企画（教育普及事業準備，展示準備）
- 第10回学内実習展覧会企画（展示作業）
- 第11回学内実習展覧会企画（教育普及事業実施）
- 第12回学内実習展覧会企画（展示撤収）
- 第13回学内実習，館園実習に関する総括
- 第1回館園実習（館園のシラバスに準拠）
- 第2回館園実習（館園のシラバスに準拠）
- 第3回館園実習（館園のシラバスに準拠）
- 第4回館園実習（館園のシラバスに準拠）
- 第5回館園実習（館園のシラバスに準拠）
- 第6回館園実習（館園のシラバスに準拠）

副 題	博物館の実際と業務を学ぶ			担 当 者	児島 やよい 講師	
単 位	2	開講期間	秋学期集中	曜 日	時 限	

〔授業の到達目標〕

学内実習における展覧会等の企画実施，学外の館園実習における学芸業務の実際を体験することで実務に関するより深い理解を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」博物館実習では，学内実習，館園実習を通じて博物館の現場を体験することにより，学芸員課程で学んだことを自らの体験とし，実践的実務的な素養を身につけることを目的とする。さまざまな博物館活動の実際を学び，博物館における学芸員の業務を間近で体験することで職務の実態と重要性を学ぶことが重要である。

「授業概要」学内実習では，学内展示施設において展覧会，教育普及事業等を企画・実施することで博物館活動を体験する。その課程において資料の調査，保管，取り扱いなどの実務を学ぶ。館園実習においては現場の学芸員の指導のもとに博物館業務の実際を学ぶ。

〔教材〕

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

博物館美術館を調査しレポートをまとめること。

アートプロジェクト等にボランティア等で参加することが推奨される。

〔成績評価の方法〕

出席日数，博物館調査レポート（1000字×10本），学外の館園実習の評価

〔備考〕

秋学期集中講義として実施する。実施時期については初回授業で告知する。

学内実習は合計30時間以上を予定。

館園実習は1回あたり8時間，合計6回を予定するが，詳細は館園の指示に従う。

学内実習は1単位，学外館園実習は1単位である。

学外の館園実習は，学習院大学史料館他の博物館で行う。

〔授 業 計 画〕

- 第1回学内実習展覧会企画（第1回学内展示会企画作業）
- 第2回学内実習展覧会企画（作品収集，作品調書，展示準備）
- 第3回学内実習展覧会企画（教育普及事業準備，展示準備）
- 第4回学内実習展覧会企画（展示作業）
- 第5回学内実習展覧会企画（教育普及事業実施）
- 第6回学内実習展覧会企画（展示撤収）
- 第7回学内実習展覧会企画（第2回学内展示会企画作業）
- 第8回学内実習展覧会企画（作品収集，作品調書，展示準備）
- 第9回学内実習展覧会企画（教育普及事業準備，展示準備）
- 第10回学内実習展覧会企画（展示作業）
- 第11回学内実習展覧会企画（教育普及事業実施）
- 第12回学内実習展覧会企画（展示撤収）
- 第13回学内実習，館園実習に関する総括
- 第1回館園実習（館園のシラバスに準拠）
- 第2回館園実習（館園のシラバスに準拠）
- 第3回館園実習（館園のシラバスに準拠）
- 第4回館園実習（館園のシラバスに準拠）
- 第5回館園実習（館園のシラバスに準拠）
- 第6回館園実習（館園のシラバスに準拠）

日本語教員養成講座

平成 27 年度授業科目および担当者

講 義 内 容 (シラバス)

日本語教員養成講座 平成 27 年度授業科目および担当者

科目群	授業科目	副題	単位	履修年次	学期	担当者	頁
講座 日本語 専門 科目 日本語 教員 養成	応用日本語学Ⅰ	現代日本語学の基礎と応用 1	2	1～	春	佐藤 琢三	884
	応用日本語学Ⅱ	現代日本語学の基礎と応用 2	2	1～	秋	佐藤 琢三	885
	日本語教授法Ⅰ	外国人に日本語を教えるために	2	2～	春	野口 直子	886
	日本語教授法Ⅱ	外国人に日本語を教えるために	2	2～	秋	野口 直子	887
日本語 教員 養成 講座 科目	日本語学Ⅰ	現代日本語の諸相	2	1～	春	福島 直恭	46
	日本語学Ⅱ	日本語の歴史	2	1～	秋	福島 直恭	47
	言語学Ⅰ	言語における文法の構造	2	1～	春	佐藤 琢三	234
	言語学Ⅱ	言語における音声と意味	2	1～	秋	佐藤 琢三	235
	社会言語学Ⅰ	社会の中の言語	2	1～	春	福島 直恭	236
	社会言語学Ⅱ	「日本語」という虚構	2	1～	秋	福島 直恭	237
	言語地理学	スラヴの言語と文化	2	1～	秋	坂倉 千鶴	244

副 題	現代日本語学の基礎と応用 1			担 当 者	佐藤 琢三 教授		
単 位	2	開講期間	春学期	曜 日	水	時 限	1

〔授業の到達目標〕

非日本語母語話者を対象とした日本語教育の観点から、現代日本語文法の基礎概念を理解させ、非母語話者の視点から日本語をとらえるとそれがどのような見え方をするかについて考える。

〔授業の内容〕

外国人に日本語を教授するために、われわれが日本語について学ばなければいけないことは非常に多い。そもそも、日本人が日本語を見るとき視点と、外国人が日本語を見るとき視点はどう異なるのだろうか。また、外国人が日本語を使用できるようになるために必要な言語分析の観点とはどのようなものなのか。このような視点から現代日本語の諸相を概説する。音声・音韻、文字・表記、語彙・意味、文法、文章・談話、社会言語学、対照言語学などの諸側面にふれるが、特に体系立った学習が必要と思われるのは、音声・音韻と文法である。この授業では文法論に関する話題が大きな比重を占めることになるだろう。

〔教材〕

教科書：荻野綱男『現代日本語学入門』明治書院、2007年
教科書は必ず購入すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2時間程度。配布プリントに基づいて講義するので予習はできないが、復習を徹底すること。

〔成績評価の方法〕

試験による。授業で学んだことの90%以上を習得していなければ、決して単位を与えることはできない。

〔備考〕

- ・この授業は、日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は、国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。
- ・言語学を未履修の者は、これと同時に履修するようにしてほしい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 導入
- 第2週 日本語学習者の発想と応用日本語学
- 第3週 現代日本語の基礎と応用1（活用）
- 第4週 現代日本語の基礎と応用2（活用）
- 第5週 現代日本語の基礎と応用3（品詞）
- 第6週 現代日本語の基礎と応用4（品詞）
- 第7週 現代日本語の基礎と応用5（文の構造）
- 第8週 まとめ・確認
- 第9週 現代日本語の基礎と応用6（文の構造）
- 第10週 現代日本語の基礎と応用7（複文）
- 第11週 現代日本語の基礎と応用8（自動詞・他動詞）
- 第12週 現代日本語の基礎と応用9（ヴォイスと格）
- 第13週 現代日本語の基礎と応用10（ヴォイスと格）
- 第14週 現代日本語の基礎と応用11（授与動詞）
- 第15週 まとめ・確認

副題	現代日本語学の基礎と応用 2			担当者	佐藤 琢三 教授		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	1

〔授業の到達目標〕

非日本語母語話者を対象とした日本語教育の観点から、現代日本語文法の基礎概念を理解させ、非母語話者の視点から日本語をとらえるとそれがどのような見え方をするかについて考える。

〔授業の内容〕

春学期の応用日本語学 I における現代日本語の文構造の知識を前提として、各文法カテゴリーを概観し、文を超えたレベルの文法現象、他言語との関係などについても概説する。また、日本語教育能力試験の問題を紹介し、これの演習も行う。

〔教材〕

教科書：荻野綱男『現代日本語学入門』明治書院、2007年
教科書は必ず購入しておくこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2 時間程度。配布プリントに基づいて講義するので予習はできないが、復習を徹底すること。

〔成績評価の方法〕

試験による。授業で学んだことの90%以上を習得していなければ、決して単位を与えることはできない。

〔備考〕

- ・この授業は、日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は、国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。
- ・応用日本語学 I で学んだ事項を前提として講義する。応用日本語学 I の単位を修得していない者は、今年度の履修を控えることが望ましい。
- ・言語学を未履修の者は、これと同時に履修するようにしてほしい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 導入
- 第2週 テンス・アスペクト 1
- 第3週 テンス・アスペクト 2
- 第4週 格とヴォイス 1
- 第5週 格とヴォイス 2
- 第6週 ムードとモダリティ
- 第7週 文章・談話
- 第8週 まとめ・確認
- 第9週 英語・中国語・韓国語との対照
- 第10週 言語の本質論と言語理論
- 第11週 類義関係の語彙・文法
- 第12週 総合問題演習 1
- 第13週 総合問題演習 2
- 第14週 総合問題演習 3
- 第15週 まとめ・確認

副題	外国人に日本語を教えるために			担当者	野口 直子 講師		
単位	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	1

〔授業の到達目標〕

日本語を外国語として客観的に見る目を養い、日本語学習者に理論的に教えられるようになることを目標とする。

〔授業の内容〕

日常使っている日本語を外国人に教えるために必要な知識、価値観、考え方などを学ぶ。この学期は総論として、自己の言語について、自分の持つ学習観、教授観についての気づきを促す。また異文化コミュニケーションを学ぶことによって、文化の違う人に日本語を教えることの難しさ、方法について学ぶ。「日本語を教える」ことが具体的にどういうことかを考えることにより、自分自身の日本語についての考察も深まることになる。

〔教材〕

教科書は使用せず、プリントを適宜配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された教材がある場合は、あらかじめ読んだ上で出席すること。授業後は、配布された教材をよく読んで、その日の授業の確認をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

提出物20%、授業への参加度30%、試験50%

〔備考〕

この授業は、日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は、国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 日本語を教えるとは
- 第3週 自己の日本語（1）教師の資質 言語観
- 第4週 自己の日本語（2）学習観と教育観
- 第5週 コミュニケーション論
- 第6週 コミュニケーションとは何か
- 第7週 異文化コミュニケーション（1）
- 第8週 異文化コミュニケーション（2）
- 第9週 日本語の基礎
- 第10週 音声と表記
- 第11週 日本語教育と国語教育
- 第12週 日本語教授法の歴史と理論（1）
- 第13週 日本語教授法の歴史と理論（2）
- 第14週 日本語の初級・中級・上級とは
- 第15週 日本語教授法（1）名詞・形容詞文
- 第16週 日本語教授法（2）名詞・形容詞文
- 第17週 日本語教授法（2）動詞文（1）
- 第18週 日本語教授法（3）動詞文（2）
- 第19週 まとめ

この授業は、日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は、国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。

副題	外国人に日本語を教えるために			担当者	野口 直子 講師		
単位	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	1

〔授業の到達目標〕

日本語を外国語として客観的に見る目を養い、日本語学習者に理論的に教えられるようになることを目標とする。

〔授業の内容〕

日常使っている日本語を外国人に教えるために必要な知識、価値観、考え方などを学ぶ。この学期は各論として、日本語をどのように教えるか、具体的に考えていく。日本語の間違いを指摘することはできるが、なぜ間違いかを説明することは、ふだん無意識に使っている言語だけに難しい。外国人の目をもって日本語を見ることにより、「説明できる日本語」となる。日本語の意味の違い、使われる場面の違い、話し手の心情を表す日本語の微妙なニュアンスなどを身近な例をとりながら、学んでいく。当たり前に使っている日本語を見直していくことで自分自身の日本語についての考察も深まることになる。

〔教材〕

プリントを適宜配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された教材がある場合は、あらかじめ読んだ上で出席すること。授業後は、配布された教材をよく読んで、その日の授業の確認をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

提出物20%、授業への参加度30%、期末試験50%

〔備考〕

この授業は、日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は、国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。

〔授 業 計 画〕

- 第1週 日本語教授法（4）可能形
- 第2週 日本語教授法（5）受身形
- 第3週 日本語教授法（6）使役形・使役受身形
- 第4週 日本語教授法（7）自動詞・他動詞
- 第5週 日本語享受法（8）条件
- 第6週 日本語教授法（9）テンス・アスペクト
- 第7週 日本語教授法（10）授受表現
- 第8週 中間試験
- 第9週 日本語教授法（11）待遇表現
- 第10週 日本語教授法（12）敬語
- 第11週 読むことを教える1
- 第12週 読むことを教える2
- 第13週 読むことを教える3
- 第14週 読むことを教える4
- 第15週 まとめ

この授業は、日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は、国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。